(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2024-148378
(P2024-148378A)
(43)公開日　令和6年10月18日(2024.10.18)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
Ａ６３Ｆ　7/02 (2006.01)		Ａ６３Ｆ	7/02	３２０	２Ｃ０８８
		Ａ６３Ｆ	7/02	３０４Ｄ	２Ｃ３３３

審査請求　未請求　請求項の数　1　ＯＬ　（全2234頁）

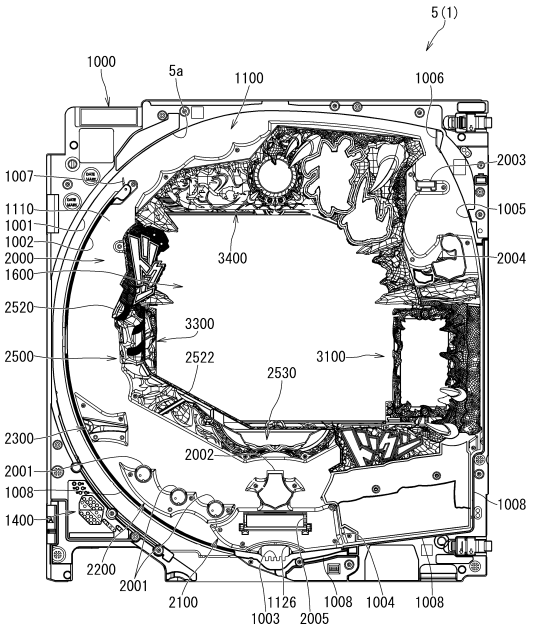
(21)出願番号　特願2023-61473(P2023-61473)
(22)出願日　令和5年4月5日(2023.4.5)

(71)出願人　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　坂根　渉
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

Ｆターム（参考）　2C088　EB78
2C333　AA11 CA49 CA53 CA76 CA77 FA05 FA19

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】遊技興趣を維持することのできる遊技機を提供する。
【解決手段】このパチンコ機１では、遊技領域５ａに打ち込まれた遊技球を受け入れ可能な始動口を有する。始動口に遊技球が入球されると、当りについての判断処理が行われる。そしてこの後、この判断処理の結果に応じた変動表示が開始されて、該変動表示において当り図柄が表示されると当り遊技が行われるようになる。この点、このパチンコ機１では、操作手段に関連する演出として特別な演出を行いうる。
【選択図】図６０



【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、
判定を行う判定手段と、
前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、
前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、
前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、
前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、
特定動画を表示可能な特定動画表示手段と
を備え、
前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、
前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、
前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、
前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、
前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、
前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される所定１回操作許容状態を発生可能である
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般的に「スロットマシン」とも称する）等の遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、例えば特許文献１に見られるように、当りに当選したとき、多量の賞が獲得可能とされる特別遊技が行われる遊技機が知られている。
【０００３】
すなわち、この特許文献１に記載の遊技機では、まず、始動口への遊技球の入賞があるか否かを判断する。そして、この始動口への遊技球の入賞があったときは、当りの当落などが判定される判定処理を行う。またこの際、所定の表示器において特別図柄を所定の変

動時間だけ変動表示させる。そして、所定の変動時間が経過したとき、当りに当選したことが示される表示態様にて上記特別図柄を停止表示させるとともに、大入賞口の開閉部材を動作させることで、遊技者に対して多くの賞が獲得可能とされる特別遊技を提供する。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１９－２０１９０１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
　このような従来の遊技機では、操作手段による演出が実行されることが多いが、該操作手段による演出が行われるときの遊技興趣をより一層向上させるようにすることが求められる。
【０００６】
　この発明は、こうした実情に鑑みてなされたものであり、遊技興趣の低下が抑制されうる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
　手段１：
　遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、
　判定を行う判定手段と、
　前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、
　前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、
　前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、
　前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、
　特定動画を表示可能な特定動画表示手段と
　を備え、
　前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、
　前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、
　前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、
　前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、
　前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する

場合があり、
前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される所定１回操作許容状態を発生可能である
ことを特徴とする遊技機。
【０００８】
上記構成によれば、まず、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある。また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立可能であるようにした上で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。
【０００９】
この点、上記構成では、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる（例えば、段落２２７４，７８７３，７８７４などを参照）。
【発明の効果】
【００１０】
この発明によれば、遊技興趣の低下が抑制されうる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の右側面図である。
【図３】パチンコ機の左側面図である。
【図４】パチンコ機の背面図である。
【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。
【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。
【図８】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。
【図９】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１】パチンコ機における外枠の正面図である。
【図１２】外枠の右側面図である。
【図１３】外枠を前から見た斜視図である。
【図１４】外枠を後ろから見た斜視図である。
【図１５】外枠を分解して前から見た分解斜視図である。

【図１６】（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。
【図１７】（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。
【図１８】外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。
【図１９】パチンコ機における扉枠の正面図である。
【図２０】扉枠の右側面図である。
【図２１】扉枠の左側面図である。
【図２２】扉枠の背面図である。
【図２３】扉枠を右前から見た斜視図である。
【図２４】扉枠を左前から見た斜視図である。
【図２５】扉枠を後ろから見た斜視図である。
【図２６】図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図２７】図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。
【図２８】図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。
【図２９】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３０】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３１】（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３２】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３３】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３４】（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。
【図３５】（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３６】演出操作ユニットを、操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図３７】図３４（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図である。
【図３８】図３４（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。
【図３９】（ａ）は図３４（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。
【図４０】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図４１】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４２】（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４３】演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図４４】図３７の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。
【図４５】（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図４６】（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図４７】（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見

た斜視図である。
【図４８】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図４９】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５０】図４７（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。
【図５１】（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５２】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図５３】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５４】図５１（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。
【図５５】（ａ）は図５１（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図５１（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。
【図５６】（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５７】扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図５８】扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５９】図５６におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。
【図６０】遊技盤の正面図である。
【図６１】遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図６２】遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６３】表ユニットと裏ユニットを除いた遊技盤の正面図である。
【図６４】図６３の遊技盤を分解して前から見た分解斜視図である。
【図６５】図６３の遊技盤を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６６】遊技盤をパチンコ機に取付けた状態で機能表示ユニットの部位を正面から拡大して示す説明図である。
【図６７】図６３とは異なる形態の遊技パネルを、前構成部材、基板ホルダ、及び主制御ユニットと共に前から見た分解斜視図である。
【図６８】図６７を後ろから見た分解斜視図である。
【図６９】主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図である。
【図７０】図６９のつづきを示すブロック図である。
【図７１】主基板を構成する払出制御基板とＣＲユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図である。
【図７２】図６９のつづきを示すブロック図である。
【図７３】周辺制御ＭＰＵの概略を示すブロック図である。
【図７４】液晶及び音制御部における音源内蔵ＶＤＰ周辺のブロック図である。
【図７５】パチンコ機の電源システムを示すブロック図である。
【図７６】図７５のつづきを示すブロック図である。
【図７７】主制御基板の回路を示す回路図である。
【図７８】停電監視回路を示す回路図である。
【図７９】主制御基板と周辺制御基板との基板間の通信用インターフェース回路を示す回路図である。
【図８０】払出制御部の回路等を示す回路図である。
【図８１】払出制御入力回路を示す回路図である。
【図８２】図８１の続きを示す回路図である。
【図８３】払出モータ駆動回路を示す回路図である。
【図８４】ＣＲユニット入出力回路を示す回路図である。
【図８５】主制御基板との各種入出力信号、及び外部端子板への各種出力信号を示す入出力図である。
【図８６】外部端子板の出力端子の配列を示す図である。

【図８７】上皿側液晶表示装置の表示領域の描画を行う液晶モジュール回路を示す回路図である。
【図８８】主制御基板から払出制御基板へ送信される各種コマンドの一例を示すテーブルである。
【図８９】主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンドの一例を示すテーブルである。
【図９０】図８９の主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンドのつづきを示すテーブルである。
【図９１】主制御基板が受信する払出制御基板からの各種コマンドの一例を示すテーブルである。
【図９２】主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図９３】図９２の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図９４】主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図９５】周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図９６】周辺制御部Ｖブランク割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図９７】周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図９８】周辺制御部コマンド受信割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図９９】周辺制御部停電予告信号割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図１００】ＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理の一例を示すフローチャートである。
【図１０１】接続不具合判定処理の一例を示すフローチャートである。
【図１０２】接続回復処理の一例を示すフローチャートである。
【図１０３】上皿側液晶用トランスミッタＩＣのＩＮＩＴ端子に対して接続確認信号を出力するタイミングを説明するタイミングチャートである。
【図１０４】特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１０５】第一始動口通過処理（ステップＳ５２３２）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１０６】第二始動口通過処理（ステップＳ５２３４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１０７】第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ５２３８）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１０８】第一特別図柄通常処理（ステップＳ５２８０）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１０９】大当り判定処理（ステップＳ５３０５）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１０】（Ａ）は、大当り判定テーブルを示す図であり、（Ｂ），（Ｃ）は、図柄決定テーブルを示す図である。
【図１１１】第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ５２８１）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１２】第一変動パターン設定処理（ステップＳ５２８２）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１３】第一特別図柄変動処理（ステップＳ５２８３）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１４】第一特別図柄停止処理（ステップＳ５２８４）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１５】普通図柄及び普通電動役物制御処理（ステップＳ１１６）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１６】ゲート部通過処理（ステップＳ５４０２）についてその手順を示すフローチャートである。
【図１１７】普通図柄通常処理（ステップＳ５４０３）についてその手順を示すフローチ

ャートである。
【図１１８】通常遊技状態にあるときに上記演出図柄変動開始処理で参照される演出パターン（変動演出）の判定テーブルＴ１を示す図である。
【図１１９】音定義テーブルの一例を示す図である。
【図１２０】図１１９で例示した報知音の種類別に、報知内容や、報知態様、報知時間のほか、報知が終了される条件（解除条件）を示す図である。
【図１２１】刀演出操作ユニットを備えた遊技機の正面図である。
【図１２２】刀演出操作ユニットを備えた遊技機の右側面図である。
【図１２３】抜刀演出を実行可能な演出モードにおける演出パターンの選択テーブルの一例を示す図であり、（Ａ）変動パターンの種別に応じた抜刀準備移行演出の有無を選択する選択テーブルの一例を示し、（Ｂ）抜刀本演出の有無を選択する選択テーブルの一例を示す。
【図１２４】オーラ部材が刀部（刀身部）自体に設けられる場合の刀装飾体の抜刀動作について説明する状態遷移図であり、（Ａ）納刀状態、（Ｂ）第一抜刀状態、（Ｃ）第二抜刀状態を示す。
【図１２５】オーラ部材の動作について説明する縦断面図である。
【図１２６】オーラ部材が鞘部に設けられる場合の刀装飾体の抜刀動作について説明する状態遷移図であり、（Ａ）納刀状態、（Ｂ）第一抜刀状態、（Ｃ）第二抜刀状態を示す。
【図１２７】オーラ部材の動作について説明する縦断面図である。
【図１２８】姫リーチ演出における演出表示装置の画面遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１２９】姫リーチ演出における演出表示装置の画面遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３０】姫リーチ演出における演出表示装置の画面遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３１】多面的に使われる操作ボタンの操作演出を含むリーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３２】多面的に使われる操作ボタンの操作演出を含むリーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３３】多面的に使われる操作ボタンの操作演出を含むリーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３４】リーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３５】リーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３６】リーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３７】リーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３８】リーチ演出における演出表示装置の画面遷移、操作ボタンの状態遷移及び刀装飾体の動作遷移を説明する図である。
【図１３９】擬似連演出に用いられる刀装飾体の形態について説明する図である。
【図１４０】主制御基板によって抽選された変動パターンの変動演出（リーチ演出）に基づいて、周辺制御基板による抽選によってリーチ演出中に操作ボタン又は刀装飾体のいずれかが操作有効とされると決定した場合に、第１示唆パターンの操作前示唆演出が実行されるリーチ演出の遷移例を示す図である。
【図１４１】主制御基板によって抽選された変動パターンの変動演出（リーチ演出）に基づいて、周辺制御基板による抽選によってリーチ演出中に操作ボタン又は刀装飾体のいずれかが操作有効とされると決定した場合に、第１示唆パターンの操作前示唆演出が実行されるリーチ演出の遷移例を示す図である。

【図１４２】前述した第１示唆パターンと同様にリーチ演出中に操作ボタン又は刀装飾体のいずれかが操作有効とされると決定した場合に、第２示唆パターンの操作前示唆演出が実行されるリーチ演出の遷移例を示す図である。
【図１４３】操作前示唆演出として第２示唆パターンが行われたにも拘わらず、刀装飾体が操作有効とならずに一旦は操作ボタンが操作有効になり、その後に刀装飾体が操作有効になるステップアップパターンの操作前示唆演出について示す図である。
【図１４４】一体化摸画像について、その一例を示す図である。
【図１４５】有効期間が開始されてから終了されるまでの一体化摸画像についての表示例を示す図である。
【図１４６】第１Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１４７】第１Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１４８】第１Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１４９】第２Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５０】第２Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５１】第２Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１５２】第３Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５３】第３Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５４】第３Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１５５】第４Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５６】第４Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５７】第４Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１５８】第５Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１５９】第５Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６０】第５Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１６１】第６Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６２】第６Ａ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６３】第６Ａ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１６４】第１Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６５】第１Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１６６】第２Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６７】第２Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１６８】第３Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１６９】第３Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１７０】第４Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１７１】第４Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１７２】第５Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１７３】第５Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１７４】第６Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１７５】第６Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１７６】第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１７７】第７Ｂ受付許容状態が発生する変動パターンの演出例を示す図である。
【図１７８】第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１７９】第１Ｂ受付許容状態及び第２Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８０】第１Ｂ受付許容状態及び第２Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８１】第３Ｂ受付許容状態及び第４Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８２】第３Ｂ受付許容状態及び第５Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。

【図１８３】第３Ｂ受付許容状態及び第５Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８４】第１Ｂ受付許容状態及び第６Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８５】第２Ｂ受付許容状態及び第６Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８６】第３Ｂ受付許容状態及び第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８７】第５Ｂ受付許容状態及び第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８８】第１Ｂ受付許容状態及び第６Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１８９】第４Ｂ受付許容状態及び第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１９０】第５Ｂ受付許容状態及び第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１９１】第６Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１９２】第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１９３】第７Ｂ受付許容状態についてその一例を示すタイムチャートである。
【図１９４】「刀操作関連表示」が第１態様や第２態様で表示されるときの基本的な演出性について説明するための演出例を示す図である。
【図１９５】「刀操作関連表示」が第１態様や第２態様で表示されるときの基本的な演出性について説明するためのタイムチャートである。
【図１９６】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図１９７】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図１９８】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図１９９】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２００】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０１】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０２】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０３】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０４】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０５】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０６】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０７】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２０８】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２０９】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタ

ン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２１０】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２１１】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２１２】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１３】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１４】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１５】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１６】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１７】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１８】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２１９】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２０】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２１】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２２】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２３】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２４】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２２５】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２２６】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２２７】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【図２２８】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２２９】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３０】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３１】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３２】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３３】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３４】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさ

らに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３５】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３６】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３７】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３８】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２３９】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４０】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出例を示す図である。
【図２４１】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４２】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４３】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４４】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４５】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４６】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４７】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４８】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２４９】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５０】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５１】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５２】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５３】「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出例を示す図である。
【図２５４】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５５】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５６】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５７】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５８】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２５９】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートで

ある。
【図２６０】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６１】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６２】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６３】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６４】「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６５】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６６】「第２Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６７】「第３Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６８】「第３Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２６９】「第３Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７０】「第３Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７１】「第３Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７２】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７３】「第３Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７４】「第４Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７５】「第４Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７６】「第４Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７７】「第４Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７８】「第４Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２７９】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８０】「第４Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８１】「第５Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８２】「第５Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８３】「第５Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８４】「第５Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタ

ン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８５】「第５Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８６】「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８７】「第５Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで「第２Ｃ刀受付状態」がさらに発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８８】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２８９】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【図２９０】「第１Ｃボタン受付状態」の別例にかかる演出内容を示すタイムチャートである。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１０を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図８は本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図９はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００１３】
本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。
【００１４】
パチンコ機１の外枠２は、図９及び図１０等に示すように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。
【００１５】
また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３が開閉可能に取付けられている。
【００１６】
パチンコ機１の扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で前後に貫通している貫通口１１１を有した枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面右下隅に取付けられており遊技球を遊技盤５の遊技領域５ａ

内へ打込むために遊技者が操作可能なハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられており遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて遊技者に参加型の演出を提示することが可能な演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも上側の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００１７】

パチンコ機１の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球を打込むための球発射装置６８０と、本体枠ベース６００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット７００と、本体枠ベース６００の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆Ｌ字状の払出ユニット８００と、本体枠ベース６００の後面下部に取付けられている基板ユニット９００と、本体枠ベース６００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース６００に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー９８０と、を備えている。

【００１８】

本体枠４の払出ユニット８００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる逆Ｌ字状の払出ユニットベース８０１と、払出ユニットベース８０１の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク８０２と、球タンク８０２の下側で払出ユニットベース８０１に取付けられており球タンク８０２内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール８０３と、払出ユニットベース８０１における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール８０３からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット８２０と、球誘導ユニット８２０の下側で払出ユニットベース８０１から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット８２０により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス９５０に収容された払出制御基板９５１からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置８３０と、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１及び満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

【００１９】

本体枠４の基板ユニット９００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる基板ユニットベース９１０と、基板ユニットベース９１０の正面視左側で本体枠ベース６００の後側に取付けられ内部に低音用の下部スピーカ９２１を有したスピーカユニット９２０と、基板ユニットベース９１０の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス９３０と、スピーカユニット９２０の後側に取付けられており内部

にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス９４０と、電源基板ボックス９３０及びインターフェイス制御基板ボックス９４０に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板９５１が収容された払出制御基板ボックス９５０と、を備えている。

【００２０】

パチンコ機１の遊技盤５は、図９及び図１０等に示すように、遊技球が打込まれる遊技領域５ａの外周を区画し球発射装置６８０から発射された遊技球を遊技領域５ａの上部に案内する外レール１００１及び内レール１００２を有した前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられると共に遊技領域５ａの後端を区画する平板状の遊技パネル１１００と、を備えている。

【００２１】

本実施形態のパチンコ機１は、上皿３２１に遊技球を貯留した状態で、遊技者がハンドル３０２を回転操作すると、球発射装置６８０によってハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込まれる。そして、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、入賞口に受入れられると、受入れられた入賞口に応じて、所定数の遊技球が払出装置８３０によって上皿３２１に払出される。この遊技球の払出しによって遊技者の興趣を高めることができるため、上皿３２１内の遊技球を遊技領域５ａ内へ打込ませることができ、遊技者に遊技を楽しませることができる。

【００２２】

［２．外枠の全体構成］

パチンコ機１の外枠２について、図１１乃至図１６を参照して説明する。図１１はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１２は外枠の右側面図である。また、図１３は外枠を前から見た斜視図であり、図１４は外枠を後ろから見た斜視図である。図１５は、外枠を分解して前から見た分解斜視図である。図１６（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。

【００２３】

外枠２は、図示するように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。また、外枠２は、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右両端面と、左枠部材３０及び右枠部材４０の左右方向の外側を向いた側面とが、同一面となるように組立てられている。

【００２４】

また、外枠２は、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、外枠側上ヒンジ部材６０の下面に取付けられているロック部材６６と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３を開閉可能に取付けることができる。

【００２５】

また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、幕板部材５０の後側に取付けられていると共に両端が左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々取付けられる幕板補強部材８０と、幕板部材５０の上面における左右中央から左寄りの位置に取付けられている平板状の左滑り部材８１と、幕板部材５０の上面における右端付近の位置に取付けられている平板状の右滑り部材８２と、を備えている。幕板補強部材８０は、中実の部材（例えば、木材、合板、等）によって形成されており、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０に、取付けられてい

る。
【００２６】
更に、外枠２は、上枠部材１０と左枠部材３０、上枠部材１０と右枠部材４０、下枠部材２０と左枠部材３０、及び下枠部材２０と右枠部材４０を、夫々連結している連結部材８５を備えている。また、外枠２は、右枠部材４０の内側（左側面側）に取付けられており後述する施錠ユニット７００の外枠用鉤７０３が係止される上鉤掛部材９０及び下鉤掛部材９１を、備えている。
【００２７】
［２－１．上枠部材］
外枠２の上枠部材１０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この上枠部材１０は、左右両端における前後方向の中央に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部１１を備えている。この係合切欠部１１内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７が取付けられる。また、上枠部材１０は、正面視左側端部の上面と前面に、一般面よりも窪んだ取付段部１２を備えている。この取付段部１２には、外枠側上ヒンジ部材６０が取付けられる。
【００２８】
［２－２．下枠部材］
外枠２の下枠部材２０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この下枠部材２０は、左右の長さ及び上下の厚さが、上枠部材１０の左右の長さ及び上下の厚さと同じ寸法に形成されていると共に、前後の幅が、上枠部材１０の前後の幅よりも長く形成されている。下枠部材２０は、左右両端における前後方向の中央よりも後側寄りの位置に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部２１を備えている。この係合切欠部２１内には、連結部材８５の後述する左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８が取付けられる。
【００２９】
また、下枠部材２０は、左右両端の前面から後方へ窪んだ前端切欠部２２を備えている。下枠部材２０において、前端切欠部２２の後端から下枠部材２０の後面までの前後方向の幅が、上枠部材１０の前後方向の幅と同じ寸法に形成されている。この下枠部材２０は、外枠２に組立てた状態で、左右の前端切欠部２２同士の間の部位が、幕板部材５０内に挿入される。
【００３０】
［２－３．左枠部材及び右枠部材］
外枠２の左枠部材３０及び右枠部材４０は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金等の金属の押出形材によって形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、平面視において互いに対称の形状に形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、外枠２として組立てた時に、左右方向の外側となる側面において、前後方向中央に対して後寄りの位置から後端付近までの間に、内側へ窪んだ凹部３１，４１と、凹部３１，４１の反対側の側面から膨出しており内部が空洞に形成されている突出部３２，４２と、を備えている。この左枠部材３０及び右枠部材４０は、突出部３２，４２によって、強度・剛性が高められている。また、突出部３２，４２内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８が挿入されて取付けられる。
【００３１】
また、左枠部材３０及び右枠部材４０は、表面に上下に延びた複数の溝が形成されている。この複数の溝によって、パチンコ機１を遊技ホール等の島設備に設置したり運搬したりする等の際に、作業者の指掛りとなってパチンコ機１を持ち易くすることができると共に、パチンコ機１の外観の意匠性を高めることとができる。
【００３２】
［２－４．幕板部材］
外枠２の幕板部材５０は、後側が開放された箱状に形成されている。幕板部材５０は、

上面における正面視左端付近に後方へ平板状に延出している後方延出部５１と、後方延出部５１の左端から遊技球が通過可能な大きさでＵ字状に切欠かれており上下に貫通している左排出孔５２と、後方延出部５１における左排出孔５２の右側において遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している右排出孔５３と、後方延出部５１の後端を含む幕板部材５０の上面の後端から上方へ平板状に延出している立壁部５４と、立壁部５４の上端付近から前方へ膨出しており前面が上方へ向かうに従って後方へ向かうように傾斜している返し部５５と、を備えている。

【００３３】

幕板部材５０は、後方延出部５１の前側の上面と、後方延出部５１の上面とに、外枠側下ヒンジ部材７０が載置されるように、外枠側下ヒンジ部材７０の後述する水平部７１が取付けられる。また、幕板部材５０の左排出孔５２は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０の後述する排出孔７４と一致する位置に形成されている。また、右排出孔５３は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０よりも右側となる位置に形成されている。右排出孔５３は、左排出孔５２よりも大きく形成されている。

【００３４】

また、幕板部材５０は、後方延出部５１よりも右側の上面が、前端側が低くなるように傾斜している。また、幕板部材５０は、上面における後方延出部５１よりも右側の部位に左滑り部材８１を取付けるための左取付部５６と、上面における右端付近に右滑り部材８２を取付けるための右取付部５７と、を備えている。幕板部材５０は、上面に、左滑り部材８１及び右滑り部材８２を介して本体枠４の下面が載置される。

【００３５】

この幕板部材５０は、図示するように、前面に浅いレリーフ状の装飾が形成されている。また、幕板部材５０は、図示は省略するが、箱状の内部が複数のリブによって格子状に仕切られており、強度・剛性が高められている。また、幕板部材５０は、幕板補強部材８０の前側半分を、内部に収容可能に形成されている。

【００３６】

［２－５．外枠側上ヒンジ部材］

外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０は、図示するように、水平に延びた平板状で外形が四角形の上固定部６１と、上固定部６１の前端から前方へ延出している平板状の前方延出部６２と、前方延出部６２の右端から前方へ向かうに従って前方延出部６２の左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝６３と、上固定部６１の平面視左辺から下方へ延びている平板状の横固定部６４と、前方延出部６２の左端から前端を周って軸受溝６３が開口している部位までの端辺から下方へ延びており横固定部６４と連続している平板状の垂下部６５と、を備えている（図１６（ｂ）等を参照）。

【００３７】

外枠側上ヒンジ部材６０は、外枠２が組立てられた状態で、上固定部６１が、上枠部材１０の取付段部１２の上面に載置されており、図示しないビスによって固定されている。また、前方延出部６２は、上枠部材１０の前端よりも前方へ延出している。また、横固定部６４は、左枠部材３０の外側側面の凹部３１内に上側から挿入された状態で、ビスによって左枠部材３０に固定されている。

【００３８】

この外枠側上ヒンジ部材６０は、軸受溝６３内に本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入させることで、外枠側下ヒンジ部材７０と協働して本体枠４を開閉可能に支持することができる。この外枠側上ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【００３９】

［２－６．ロック部材］

外枠２のロック部材６６は、図１６に示すように、左右が所定幅で前後に延びている帯板状のロック本体６６ａと、ロック本体６６ａの後端から右方へ突出している操作部６６ｂと、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可

能な棒状の弾性部６６ｃと、ロック本体６６ａの後端付近で上下に貫通している取付孔６６ｄと、を備えている。このロック部材６６は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材６６は、取付ビス６７によって、外枠側上ヒンジ部材６０における前方延出部６２の下面に回動可能に取付けられる。

【００４０】

このロック部材６６は、取付孔６６ｄを通して、ロック本体６６ａの後端が、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２における軸受溝６３よりも後側の位置に取付けられる。また、ロック部材６６を外枠側上ヒンジ部材６０に取付けた状態では、ロック本体６６ａが、平面視で軸受溝６３を遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠側上ヒンジ部材６０の垂下部６５における軸受溝６３の開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている（図１８を参照）。

【００４１】

また、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びている弾性部６６ｃの先端は、外枠側上ヒンジ部材６０における垂下部６５の内周面に当接している。このロック部材６６は、弾性部６６ｃの付勢力によって取付孔６６ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端付近の右側面が、垂下部６５に当接している（図１８を参照）。この状態では、軸受溝６３におけるロック本体６６ａよりも前側の部位に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の後述する本体枠上ヒンジピン６２２を収容可能な空間が形成される。

【００４２】

このロック部材６６は、操作部６６ｂを操作することで、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａを回動させることができる。そして、操作部６６ｂの操作によって、ロック本体６６ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させることができ、軸受溝６３が全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入したり、軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を外したりすることができる。

【００４３】

［２－７．外枠側下ヒンジ部材］

外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０は、図示するように、水平に延びている平板状の水平部７１と、水平部７１の左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上り部７２と、水平部７１の前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン７３と、水平部７１を上下に貫通しており遊技球が一つのみ通過可能な大きさの排出孔７４と、を備えている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【００４４】

外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン７３は、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン７３は、水平部７１の前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔７４は、水平部７１において、立上り部７２の前後方向中央の部位と接し、水平部７１の左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔７４は、幕板部材５０の左排出孔５２と、略同じ大きさに形成されている。

【００４５】

外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠２が組立てられた状態では、水平部７１が、幕板部材５０の左端付近の上面と後方延出部５１上に載置されており、水平部７１が、幕板部材５０の上面を貫通する図示しないビスによって幕板補強部材８０に固定されている。また、外枠２が組立てられた状態では、立上り部７２が、左枠部材３０の内側側面における突出部３２よりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠下ヒンジピン７３を、本体枠４の本体枠側下ヒンジ部材６４０における本体枠用下ヒンジ孔（図示は省略）に挿通させることで、外枠側上ヒンジ部材６０と

協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。
【００４６】
　また、外枠２が組立てられた状態では、排出孔７４が、幕板部材５０の左排出孔５２と一致している。これにより、水平部７１上の遊技球を、排出孔７４及び左排出孔５２を通して、幕板部材５０の後側へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球が、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔７４から排出させることができる。この際に、排出孔７４が、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球を、排出孔７４から排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位に遊技球が留まり難くすることができる。
【００４７】
［２－８．連結部材］
　外枠２の連結部材８５は、上枠部材１０と左枠部材３０とを連結する左上連結部材８５Ａと、上枠部材１０と右枠部材４０とを連結する右上連結部材８５Ｂと、下枠部材２０と左枠部材３０とを連結する左下連結部材８５Ｃと、下枠部材２０と右枠部材４０とを連結する右下連結部材８５Ｄと、がある。
【００４８】
　連結部材８５は、水平に延びた平板状の水平固定部８６と、水平固定部８６の左右側辺の何れか一方から上方へ延出している平板状の上横固定部８７と、水平固定部８６における上横固定部８７が延出している部位と同じ側から下方へ延出している平板状の下横固定部８８と、を備えている。この連結部材８５は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００４９】
　左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、水平固定部８６の前後方向の中央から上横固定部８７が上方へ延出していると共に、上横固定部８７の前後両側から下横固定部８８が下方へ延出している。つまり、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、下横固定部８８が前後に離間して二つ備えられている。左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの水平固定部８６は、上枠部材１０の下面に当接した状態で上枠部材１０に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７は、上枠部材１０の係合切欠部２１内に挿入されて、上枠部材１０の左右方向の端部に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの前側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２内に挿入されて外側側面から捩じ込まれるビスにより左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々固定される。
【００５０】
　左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端が、水平固定部８６の後端よりも後方へ突出していると共に、上横固定部８７の水平固定部８６よりも後方へ突出している部位の下端から下横固定部８８が水平固定部８６よりも下方へ延出している。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端から水平固定部８６と同じ側へ突出している屈曲部８９を更に備えている。左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの水平固定部８６は、下枠部材２０の上面に当接した状態で固定される。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの上横固定部８７は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８は、下枠部材２０の係合切欠部２１内に挿入されて下枠部材２０の左右方向の端部面に夫々固定される。
【００５１】

［２－９．外枠側上ヒンジ部材のロック機構］
次に、本実施形態のパチンコ機１の外枠２において、外枠側上ヒンジ部材６０におけるロック部材６６による本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０に対するロック機構について、図１７及び図１８を参照して説明する。図１７（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。図１８は、外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。
【００５２】
外枠２におけるロック部材６６は、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２に取付けた状態（通常の状態）では、弾性部６６ｃの先端が垂下部６５の内周面と当接しており、ロック本体６６ａがく字状に屈曲した軸受溝６３の一部を閉塞するようになっていると共に、ロック本体６６ａの先端部分が、軸受溝６３の最深部分を閉塞した状態とはならず、軸受溝６３の最深部分に本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入可能な空間が形成された状態となっている。
【００５３】
本実施形態における外枠側上ヒンジ部材６０とロック部材６６とを用いた本体枠上ヒンジピン６２２の支持機構は、本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の最深部分に挿入されてロック本体６６ａの前端の右側面が、右側の垂下部６５と接近している状態（この状態ではロック本体６６ａの前端の右側面と右側の垂下部６５との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない）である通常の軸支状態においては、屈曲している軸受溝６３の最深部分に位置する本体枠上ヒンジピン６２２とロック本体６６ａの前端面との夫々の中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。
【００５４】
そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠４を軸支している本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の前端部分に当接した状態となっているので、本体枠上ヒンジピン６２２からロック本体６６ａの前端面への負荷がほとんどかかっていない。つまり、ロック部材６６の弾性部６６ｃに対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ロック本体６６ａの前端面が円弧状に形成されているため、ロック部材６６を回動させるために操作部６６ｂを回動操作した時に、ロック部材６６がスムーズに回動するようになっている。また、図示では、ロック本体６６ａの前端面の円弧中心が、取付孔６６ｄの中心（ロック部材６６の回転中心）とされている。
【００５５】
従って、本体枠上ヒンジピン６２２がく字状に形成された軸受溝６３の傾斜に沿って抜ける方向に作用力Ｆがかかって、ロック本体６６ａの円弧状の前端面に当接したとき、その作用力Ｆを、本体枠上ヒンジピン６２２と円弧状の前端面との当接部分に作用する分力Ｆ１（ロック本体６６ａの前端面の円弧の法線方向）と、本体枠上ヒンジピン６２２と軸受溝６３の一側内面との当接部分に作用する分力Ｆ２と、に分けたときに、分力Ｆ１の方向が取付孔６６ｄ（取付ビス６７）の中心（ロック部材６６の回転中心）を向くため、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端が、右側の垂下部６５から離れる方向に回転させるモーメントが働かず、本体枠上ヒンジピン６２２がロック部材６６のロック本体６６ａの前端部と軸受溝６３の一側内面との間に挟持された状態が保持される。
【００５６】
このため、通常の軸支状態、或は、本体枠上ヒンジピン６２２の作用力がロック部材６６にかかった状態でも、ロック部材６６の弾性部６６ｃに常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性部６６ｃのクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って本体枠上ヒンジピン６２２の軸受溝６３からの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材６６のロック本体６６ａの前端部が右方へ移動する方向へ回転させられても、ロック本体６６ａの前端右側面が垂下部６５に当接してそれ以上回転しないので、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ないようになっている。
【００５７】

なお、ロック本体６６ａの前端面の形状は円弧状でなくても、上記した分力Ｆ１の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材６６をその前端部が前方延出部６２の外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材６６の回転中心（取付ビス６７により固定される軸）を位置させることにより、常時ロック部材６６の弾性部６６ｃに対しても負荷がかかることはないし、ロック部材６６が回転してもロック本体６６ａの前端の右側面が垂下部６５に当接するだけであるため、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ることもない。

【００５８】

外枠側上ヒンジ部材６０の軸受溝６３に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を支持させる場合は、軸受溝６３の開放されている側から軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入する。軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入すると、ロック部材６６のロック本体６６ａの右側面に本体枠上ヒンジピン６２２が当接し、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６が取付ビス６７を中心に回動する。これにより、軸受溝６３を閉鎖していたロック本体６６ａが後退して軸受溝６３が開放され、軸受溝６３の最深部（前端）へ本体枠上ヒンジピン６２２を移動させることができるようになる。

【００５９】

そして、軸受溝６３の最深部に本体枠上ヒンジピン６２２を移動させると、本体枠上ヒンジピン６２２とロック部材６６のロック本体６６ａとの当接が解除され、弾性部６６ｃの付勢力によってロック本体６６ａの前端が右方へ移動するようにロック部材６６が回動し、ロック部材６６が通常の状態に復帰する。これにより、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３内におけるロック本体６６ａの前端よりも前側の空間に収容された状態となり、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３の最深部において回動可能な状態で保持（ロック）された状態となる。

【００６０】

軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を取外す場合は、ロック部材６６の操作部６６ｂを操作して、ロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６を回動させ、弾性部６６ｃの付勢力に抗して軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させる。これにより、軸受溝６３の最深部と開口部とが連通した状態となり、軸受溝６３から本体枠上ヒンジピン６２２を取外すことができる。

【００６１】

［２－１０．外枠側下ヒンジ部材の部位における防犯機構と球噛み防止機構］

本実施形態のパチンコ機１における外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０の部位における防犯機構と外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを防止するための球噛み防止機構について説明する。

【００６２】

外枠２は、組立てた状態では、幕板部材５０の上面における正面視左端部に外枠側下ヒンジ部材７０が取付けられている。外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、幕板部材５０の上面の左端付近と後方延出部５１の上面とに載置された状態で取付けられている。この幕板部材５０には、上面の後端から上方へ立上っている立壁部５４を備えている。これにより、外枠側下ヒンジ部材７０と本体枠側下ヒンジ部材６４０との間の隙間を通して、本体枠４（パチンコ機１）の後側へピアノ線等の不正な工具を侵入させようとしても、不正な工具の先端が幕板部材５０の上面の後端から上方へ延出している立壁部５４に当接するため、不正な工具がこれ以上後側へ挿入されるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われるのを防止することができる。

【００６３】

また、立壁部５４の上端に、前方へ延出している返し部５５を備えているため、立壁部５４に当接した不正な工具が上方へ曲がった場合、返し部５５によって不正な工具の先端を更に前方へ折返させることができるため、本体枠４の後側に不正な工具が侵入させられるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われる

のを確実に阻止することができる。
【００６４】
ところで、幕板部材５０の上面の後端に上方へ延出している立壁部５４を備えるようにした場合、外枠２に対して本体枠４を開いている状態で、遊技球が外枠側下ヒンジ部材７０（水平部７１）上に落下した場合、水平部７１上の遊技球が、立壁部５４の存在によって水平部７１の後端から後方へ排出されないため、外枠２と本体枠４との間に挟まれてしまう虞がある。これに対して、本実施形態では、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１と、幕板部材５０の後方延出部５１とに、遊技球が通過可能な排出孔７４、左排出孔５２、及び右排出孔５３を備えているため、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１上の遊技球を、排出孔７４等から下方へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを低減させることができる。
【００６５】
従って、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれることで、外枠側下ヒンジ部材７０の周りが破損したり、本体枠４が正常な状態で閉まらずに外枠２と本体枠４との間に隙間ができてしまい、その隙間を使って不正行為が行われてしまったりするのを防止することができる。
【００６６】
［３．扉枠の全体構成］
パチンコ機１の扉枠３について、図１９乃至図３０を参照して説明する。図１９はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図２０は扉枠の右側面図であり、図２１は扉枠の左側面図であり、図２２は扉枠の背面図である。図２３は扉枠を右前から見た斜視図であり、図２４は扉枠を左前から見た斜視図であり、図２５は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２６は図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図であり、図２７は図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図であり、図２８は図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。図２９は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３０は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００６７】
扉枠３は、図２９及び図３０等に示すように、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられている演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。
【００６８】
扉枠３の扉枠ベースユニット１００は、詳細は後述するが、正面視の外形が上下に延びた長方形（四角形）で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられ開閉可能とされている扉枠３と本体枠４、及び本体枠４と外枠２との間を施錠するための開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ遊技球を球発射装置６８０に送るための球送りユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ球発射装置６８０により発射されて遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球を受けて下皿３２２へ排出させるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００６９】
扉枠３のハンドルユニット３００は、詳細は後述するが、回転可能なハンドル３０２を遊技者が回転操作することで、上皿３２１内に貯留されている遊技球を、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。
【００７０】
扉枠３の皿ユニット３２０は、詳細は後述するが、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面において貫通口１１１の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出していると共に、左右方向中央の前端に演出操作ユニット４００が取付けられる。皿ユニット３２０は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球を貯留する上皿３２１と、上皿３２１の下側に配置されており上皿３２１やファールカバーユニット２７０から供給される遊技球を貯留可能な下皿３２２と、上皿３２１に貯留されている遊技球を下皿３２２へ抜くための上皿球抜きボタン３２７と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残金の範囲内で遊技者に遊技球を貸し出すための球貸ボタン３２８と、球貸機から貸出された遊技球の分を差し引いた現金やプリペイドカードを返却させるための返却ボタン３２９と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数等を表示する球貸返却表示部３３０と、演出提示時に遊技者の操作が受付可能とされている演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２と、下皿３２２内の遊技球を皿ユニット３２０の下方へ排出するための下皿球抜きボタン３３３と、を備えている。
【００７１】
扉枠３の演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。この演出操作ユニット４００は、詳細は後述するが、遊技者が操作可能な大型の操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０内に遊技者側から視認可能に配置され演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。
【００７２】
扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の左外側を装飾するものである。扉枠左サイドユニット５３０は、発光装飾可能な左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）を備えている。
【００７３】
扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の右外側を装飾するものである。この扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく突出しており、左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を備えている。扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させることができる。
【００７４】
扉枠３の扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられ、扉枠３の上部を装飾するものである。扉枠トップユニット５７０は、詳細な内容は後述するが、左右に離間した一対の上部スピーカ５７３と、前面中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、を備えている。扉枠トップユニット５７０は、トップ中装飾部材５７６、トップ左装飾レンズ部材５７９、及びトップ右装飾レンズ部材５８０を発光装飾させることができる。
【００７５】
［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］

扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００７６】

扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４の前面を閉鎖するように本体枠４に対して開閉可能（ヒンジ回転可能）に取付けられるものである。扉枠ベースユニット１００は、前面下隅にハンドルユニット３００が、貫通口１１１の下側前面に演出操作ユニット４００が取付けられる皿ユニット３２０が、貫通口１１１の左外側前面に扉枠左サイドユニット５３０が、貫通口１１１の右外側前面に扉枠右サイドユニット５５０が、貫通口１１１の上外側前面に扉枠トップユニット５７０が、夫々取付けられるものである。

【００７７】

扉枠ベースユニット１００は、図３２及び図３３に等に示すように、正面視の外形が上下に延びた長方形で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており扉枠ベース１１０から前方へ突出して本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０に回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板１６０と、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのガラスユニット取付部材１７０と、を備えている。

【００７８】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１１０の前面で正面視右下隅に取付けられておりハンドルユニット３００を取付けるための筒状のハンドル取付部材１８０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられる開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられる球送りユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００７９】

更に、扉枠ベースユニット１００は、図示は省略するが、扉枠３に備えられている各種の装飾基板、球送ソレノイド２５５、ハンドル回転検知センサ３０７、ハンドルタッチセンサ３１０、単発ボタン操作センサ３１２、球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、球貸返却表示部３３０、演出選択左ボタン３３１、演出選択右ボタン３３２、振動モータ４２４、押圧検知センサ４４０、扉枠側演出表示装置４６０（液晶表示装置４６１）、上部スピーカ５７３、等と、本体枠４における基板ユニット９００の扉枠用中継基板９１１との接続を中継するための扉本体中継基板を備えている。

【００８０】

［３－１ａ．扉枠ベース］

扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１１０は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１１０は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された貫通口１１１を備えている。貫通口１１１は、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１１０の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１１０の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。従って、扉枠ベース１１０は、前後に貫通している貫通口１１１により全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１１０は、合成樹脂により一体成形されている。

【００８１】
扉枠ベース１１０は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面１１２と、ハンドル取付座面１１２と貫通口１１１との間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３が取付けられるシリンダ取付部１１３と、シリンダ取付部１１３において前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通孔１１４と、シリンダ挿通孔１１４及びハンドル取付座面１１２の正面視左側で前後に貫通しており球送りユニット２５０の進入口２５１ａ及び球抜口２５１ｂを前方に臨ませるための球送り開口１１５と、を備えている。
【００８２】
また、扉枠ベース１１０は、扉枠ベース１１０の左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面１１２と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の球放出口２７６を前方に臨ませる下皿用通過口１１６と、扉枠ベース１１０の正面視左端付近で貫通口１１１の下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３を前方に臨ませる上皿用通過口１１７と、貫通口１１１の内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１９０のガラス枠１９１が挿入されるガラスユニット取付部１１８と、扉枠ベース１１０の左右両上隅において前後に貫通しており扉枠トップユニット５７０の上部スピーカ５７３の後端が挿通されるスピーカ挿通口１１９と、を備えている。
【００８３】
［３－１ｂ．補強ユニット］
扉枠ベースユニット１００の補強ユニット１３０について、図３１及び図３３等を参照して詳細に説明する。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後側に取付けられることで扉枠ベース１１０を補強して、扉枠ベース１１０（扉枠３）の強度剛性を高めている。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後面における上辺に沿って取付けられる左右に延びた上補強板金１３１と、扉枠ベース１１０の後面における貫通口１１１の下側に取付けられる左右に延びた中補強板金１３２と、扉枠ベース１１０の後面における正面視左辺に沿って取付けられる上下に延びた左補強板金１３３と、扉枠ベース１１０の後面における正面視右辺に沿って取付けられる上下に延びた右補強板金１３４と、右補強板金１３４の後面に取付けられており施錠ユニット７００の扉枠用鉤７０２が係止される施錠係止部１３５と、を備えている。
【００８４】
補強ユニット１３０は、上補強板金１３１の左右両端が左補強板金１３３及び右補強板金１３４の夫々の上端にビスによって連結固定されており、中補強板金１３２の左端が左補強板金１３３にビスによって連結固定されている。中補強板金１３２の右端は、後述する開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３を介して右補強板金１３４に連結固定されている。従って、補強ユニット１３０は、上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４等によって、枠状に形成されている。
【００８５】
補強ユニット１３０の上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、右補強板金１３４、及び施錠係止部１３５は、夫々金属板を適宜屈曲させて形成されている。中補強板金１３２は、扉枠ベース１１０の上皿用通過口１１７と対応する位置に、前後に貫通した切欠部１３２ａが形成されている。
【００８６】
補強ユニット１３０は、詳細な図示は省略するが、各上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４において、夫々前後方向に屈曲された部位を有しており、その部位によって、強度剛性が高められていると共に、外部からのピアノ線やマイナスドライバー等の不正な工具の侵入を防止している。
【００８７】
［３－１ｃ．扉枠側上ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠側上ヒンジ部材１４０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠ベース１１０に取付けられ上下に離間している一対の突出片１４１ａを有した扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１と、扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａを貫通しており、上端が本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入される円柱状の扉枠上ヒンジピン１４２と、扉枠上ヒンジピン１４２における一対の突出片１４１ａの間の位置に取付けられている円盤状の鍔部材１４３と、鍔部材１４３と一対の突出片１４１ａのうちの下側の突出片１４１ａとの間に介装されていると共に扉枠上ヒンジピン１４２が挿通されており、扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢しているロックバネ１４４と、を備えている。

【００８８】

扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、図示は省略するが一対の突出片１４１ａの後端同士を連結している平板状の取付片を有しており、側面視の形状が前方へ開放されたコ字状に形成されている。扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、一対の突出片１４１ａ同士を連結している取付片が、ビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。

【００８９】

扉枠上ヒンジピン１４２は、上側の突出片１４１ａよりも上方に突出している部位（上端）が、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して回転可能に挿入される。また、扉枠上ヒンジピン１４２は、図示は省略するが、下側の突出片１４１ａよりも下方に突出している部位が水平方向に屈曲している。この屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、扉枠上ヒンジピン１４２の上方への移動を規制している。

【００９０】

鍔部材１４３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１４２の外周に形成されている溝内に挿入保持されている。ロックバネ１４４は、扉枠上ヒンジピン１４２を挿通可能なコイルスプリングとされており、上端が鍔部材１４３に当接していると共に、下端が下側の突出片１４１ａに当接している。このロックバネ１４４は、鍔部材１４３と下側の突出片１４１ａとの間に、圧縮された状態で介装されており、鍔部材１４３を介して扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢している。

【００９１】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２がロックバネ１４４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１４２の上端が、上側の突出片１４１ａの上面よりも所定量上方に突出している。

【００９２】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位を作業者が持って、ロックバネ１４４の付勢力に抗してその部位を下方へ引っ張ると、扉枠上ヒンジピン１４２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、上側の突出片１４１ａの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【００９３】

また、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａにより支持されている部位が、後述する扉枠側下ヒンジ部材１５０の扉枠下ヒンジピン１５２と同軸上に支持されている。これにより、

扉枠側上ヒンジ部材１４０と扉枠側下ヒンジ部材１５０とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【００９４】

［３－１ｄ．扉枠側下ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠側下ヒンジ部材１５０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠ベース１１０に取付けられ前方に延出している平板状の延出片１５１ａを有している扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１と、扉枠下ヒンジ軸ブラケットにおける延出片１５１ａの前端部付近から下方に突出している円柱状の扉枠下ヒンジピン１５２（図２１及び図２２を参照）と、を備えている。

【００９５】

扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、水平に延びた平板状の延出片１５１ａの後端から上方に延出した平板状の取付片（図示は省略）を有しており、側面視の全体形状が略Ｌ字状に形成されている。この扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、図示しない取付片がビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。

【００９６】

扉枠下ヒンジピン１５２は、下端部が、下方へ向かうほど窄まる円錐台状に形成されている。この扉枠下ヒンジピン１５２は、後述する本体枠４における本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に、上方から回転可能に挿入される。扉枠下ヒンジピン１５２は、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２と同軸上に配置されている。

【００９７】

この扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠下ヒンジピン１５２が本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に挿入されることで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【００９８】

［３－１ｅ．扉枠左サイド装飾基板］

扉枠ベースユニット１００の扉枠左サイド装飾基板１６０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０の前面において、貫通口１１１の正面視左側に取付けられている。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０における正面視左側のスピーカ挿通口１１９よりも下側の位置の高さから貫通口１１１の上下方向の中央付近の高さまで上下に延びている扉枠左サイド上装飾基板１６１と、扉枠左サイド上装飾基板１６１の下側の位置の高さから上皿用通過口１１７の下端と略同じ高さまで上下に延びている扉枠左サイド下装飾基板１６２と、を備えている。

【００９９】

扉枠左サイド装飾基板１６０の扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２は、夫々前面に、前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを備えている。これらＬＥＤ１６１ａ，１６２ａは、フルカラーＬＥＤとされている。

【０１００】

扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠３を組立てた状態で、後述する扉枠左サイドユニット５３０の後方に位置しており、前面に備えられた（実装された）複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを適宜発光させることで、扉枠左サイドユニット５３０の左ユニット装飾レンズ部材を発光装飾させることができる。

【０１０１】

［３－１ｆ．ガラスユニット取付部材］

扉枠ベースユニット１００のガラスユニット取付部材１７０について、主に図３１（ｂ）等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのものである。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側で前後に延びた軸

線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１と、基部１７１から回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部１７２と、を有している。

【０１０２】

ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後面における一対のスピーカ挿通口１１９の下側で、ガラスユニット取付部１１８よりも外側の部位に、夫々回転可能に取付けられている。

【０１０３】

ガラスユニット取付部材１７０は、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させた状態とすることで、背面視において扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８よりも突出部１７２が外側に位置した状態となり、扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に対してガラスユニット１９０を挿入したり、ガラスユニット取付部１１８からガラスユニット１９０を取外したりすることができる。

【０１０４】

ガラスユニット取付部材１７０は、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に挿入させた状態で、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出するように回転させると、突出部１７２がガラスユニット１９０の取付片１９１ａの後側と当接し、ガラスユニット１９０上部の後方への移動を規制した状態となり、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０に取付けることができる。

【０１０５】

ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０に回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１から突出部１７２が突出しているため、ガラスユニット取付部材１７０の重心位置が突出部１７２内に位置している。このことから、ガラスユニット取付部材１７０が自由に回転できる状態では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出した状態で安定することとなる。そして、ガラスユニット取付部材１７０では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出している回転位置の時に、突出部１７２によりガラスユニット１９０の後方への移動を規制させるようにしているため、ガラスユニット取付部材１７０に振動等が作用しても、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように全体が回転することはなく、ガラスユニット１９０の後方への移動の規制が自然に解除されることはない。

【０１０６】

なお、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外す場合は、ガラスユニット取付部材１７０を、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させて、突出部１７２をガラスユニット１９０の取付片１９１ａよりも外側へ移動させることで、ガラスユニット１９０の上部側を後方へ移動させることができるようになり、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外すことができる。

【０１０７】

［３－１ｇ．ハンドル取付部材］

扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材１８０は、扉枠ベース１１０の前面にハンドルユニット３００を取付けるためのものである。ハンドル取付部材１８０は、図３２及び図３３等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部１８１と、筒部１８１の後端から筒部１８１の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部１８２と、筒部１８１内に突出していると共に筒部１８１の軸方向全長に亘って延びており筒部１８１の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条１８３と、筒部１８１の外周面とフランジ部１８２の前面とを繋ぎ、筒部１８１の周方向に対して複数配置された補強リブ１８４と、を備えている。

【０１０８】

ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面を、扉枠ベース１１０におけるハンドル取付座面１１２の前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面１１２に取付けられる。

【０１０９】

筒部１８１は、内径がハンドルユニット３００におけるハンドルベース３０１の基部３０１ａの外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条１８３は、一つが筒部１８１内の上側に備えられており、残り二つが筒部１８１内の下側に備えられている。これら三つの突条１８３は、ハンドルベース３０１における三つの溝部３０１ｃと対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材１８０は、三つの突条１８３と、ハンドルベース３０１の三つの溝部３０１ｃとを一致させた状態でのみ、筒部１８１内にハンドルベース３０１の基部３０１ａを挿入させることができ、扉枠ベース１１０に対してハンドルベース３０１（ハンドルユニット３００）の回転位置を規制することができる。

【０１１０】

なお、ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面に対して、筒部１８１の軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース１１０の傾斜したハンドル取付座面１１２に取付けることで、筒部１８１の軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット３００を同様に傾いた状態で扉枠ベース１１０に取付けることができる。

【０１１１】

［３－１ｈ．ガラスユニット］

扉枠ベースユニット１００のガラスユニット１９０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１を、前方から後方が視認できるように閉鎖するものである。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１１８に取付可能な枠状のガラス枠１９１と、ガラス枠１９１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１９１に取付けられている透明な二つのガラス板１９２と、を備えている。二つのガラス板１９２は、ガラス枠１９１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図２６等を参照）。

【０１１２】

ガラス枠１９１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１９１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１９１ｂと、を有している。ガラス枠１９１の取付片１９１ａは、ガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２と当接可能とされている。係止片１９１ｂは、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の空間内に挿入可能とされている（図２６を参照）。

【０１１３】

このガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の後側から、ガラス枠１９１の係止片１９１ｂを、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１９１の前端を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８の後面に当接させ、ガラスユニット取付部材１７０を回転させてガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２をガラス枠１９１の取付片１９１ａの後面と当接させることで、扉枠ベース１１０に取付けられる。

【０１１４】

ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０に対して着脱可能となっている。

【０１１５】

［３－１ｉ．防犯カバー］

扉枠ベースユニット１００の防犯カバー２００について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。防犯カバー２００は、ガラスユニット１９０の後面下部を覆うように扉枠ベース１１０の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー２００は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部２０１と、本体部２０１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片２０２と、左右に離間して配置され本体部２０１よりも前方に突出し、扉枠ベース１１０の後側に係止可能とされている一対の係止片２０３と、を備えている。

【０１１６】
防犯カバー２００の本体部２０１は、扉枠ベース１１０に取付けた状態で下端がガラスユニット１９０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部２０１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部２０１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。
【０１１７】
後方突片２０２は、本体部２０１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー２００は、本体部２０１と後方突片２０２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片２０２は、図３３に示すように、本体部２０１の外周縁とは異なる本体部２０１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部２０１の後面の一部から後方に突出している後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。
【０１１８】
なお、後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球（球発射装置６８０により発射された遊技球）が、防犯カバー２００の後方突片２０２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球の打込みを阻害することはない。
【０１１９】
一対の係止片２０３は、扉枠ベース１１０の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー２００は、扉枠ベース１１０に対して容易に着脱することができる。
【０１２０】
防犯カバー２００は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部２０１の前面がガラスユニット１９０の後面（ガラス枠１９１の後端）と当接し、本体部２０１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片２０２が、後述する前構成部材１０００の防犯凹部１００８内に挿入された状態となる。また、防犯カバー２００は、本体部２０１の下辺から後方に突出している後方突片２０２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。
【０１２１】
［３－１ｊ．開閉シリンダユニット］
扉枠ベースユニット１００の開閉シリンダユニット２１０について、主に図３１乃至図３３等を参照して説明する。開閉シリンダユニット２１０は、正面視において扉枠ベース１１０の右端付近で貫通口１１１とハンドル取付座面１１２との間の位置のシリンダ取付部１１３に後側から取付けられ、後述する施錠ユニット７００と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉に使用されるものである。
【０１２２】
開閉シリンダユニット２１０は、前面に鍵穴２１１ａを有し前後に延びた円筒状のシリンダ錠２１１と、シリンダ錠２１１の後端に取付けられており鍵穴２１１ａに挿入された鍵の回動操作を施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させる回転伝達部材２１２と、シリンダ錠２１１を扉枠ベース１１０（補強ユニット１３０）に取付けるシリンダ取付板金２１３と、を備えている。

【０１２３】
シリンダ錠２１１は、対応する鍵（図示は省略）を鍵穴２１１ａに差し込むことで、鍵を回転させることができるものであり、対応する鍵であれば、正面視において時計回り及び反時計回りの何れの方向へも所定角度回転させることができる。
【０１２４】
回転伝達部材２１２は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部２１２ａを有している。この回転伝達部材２１２は、本体枠４における施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０が後方から挿入されるように形成されており、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０の突起が一対の切欠部２１２ａ内に挿入されることで、回転伝達部材２１２（シリンダ錠２１１の鍵穴２１１ａに挿入された鍵）の回転を、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させて鍵シリンダ７１０を回転させることができる。
【０１２５】
シリンダ取付板金２１３は、一枚の金属板を屈曲させて形成されており、平面視の形状が前方へ突出している凸形状に形成されている。詳述すると、シリンダ取付板金２１３は、正面視において上下に延びた長方形で平板状の前板部２１３ａと、前板部２１３ａの左右両辺から後方へ平板状に延出している一対の側板部２１３ｂと、一対の側板部２１３ｂの夫々の後辺から互いに遠ざかる方向へ平板状に延出している一対の取付板部２１３ｃと、を備えている。シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａは、上下方向略中央の位置で後方からシリンダ錠２１１が貫通し、前板部２１３ａの後面にシリンダ錠２１１の後端が取付けられる。シリンダ取付板金２１３の一対の取付板部２１３ｃは、正面視左側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の中補強板金１３２の右端部に取付けられ、正面視右側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の右補強板金１３４に取付けられる。これにより、シリンダ取付板金２１３によって、補強ユニット１３０の中補強板金１３２と右補強板金１３４とが連結される。
【０１２６】
開閉シリンダユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａから前方に突出しているシリンダ錠２１１の前端が、扉枠ベース１１０の後側からシリンダ挿通孔１１４に挿通されて扉枠ベース１１０の前方へ突出していると共に、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａ及び一対の側板部２１３ｂが後方へ開放されている箱状のシリンダ取付部１１３内に収容されている。
【０１２７】
［３－４．演出操作ユニットの全体構成］
扉枠３における演出操作ユニット４００の全体構成について、主に図３４乃至図４１等を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。また、図３５（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図３６は、演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図３７は図３４（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図であり、図３８は図３４（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。図３９（ａ）は図３４（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。図４０は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図４１は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。
【０１２８】
演出操作ユニット４００は、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の外周を囲み皿ユニッ

トカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる枠状のフレームユニット４１５と、操作ボタン４１０よりも後方に配置されており操作ボタン４１０の外周縁及びフレームユニット４１５を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット４２０と、フレームユニット４１５の後側に取付けられており操作ボタン４１０及び装飾基板ユニット４２０が前面に取付けられているベースユニット４３０と、操作ボタン４１０を通して遊技者側から視認可能にベースユニット４３０に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。

【０１２９】

［３－４ａ．操作ボタン］

演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０について、主に図３９乃至図４２等を参照して詳細に説明する。図４２（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。操作ボタン４１０は、外形が皿ユニット３２０の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。操作ボタン４１０は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ４１１と、ボタンレンズ４１１の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム４１２と、ボタンフレーム４１２の後側にボタンレンズ４１１の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース４１３と、を備えている。ボタンフレーム４１２及びボタンベース４１３は、光を通し難い部材によって形成されている。

【０１３０】

ボタンレンズ４１１は、全体が略一定の厚さに形成されている。また、ボタンレンズ４１１は、表面側が凹凸の無い滑らかな湾曲面状に形成されている。ボタンレンズ４１１は、ボタンフレーム４１２の内周側となる位置に裏面から断面Ｗ字状に窪んだ状態で中央側（内側）へ所定長さで延びていると共に周方向に列設されている第一ボタン装飾部４１１ａと、第一ボタン装飾部４１１ａよりも外周側の位置に裏面から断面円弧状に窪んだ状態で中央側へ向かう軸線上に延びていると共に周方向に所定角度範囲内で列設されている複数（六つ）の第二ボタン装飾部４１１ｂと、を備えている。

【０１３１】

ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａは、図示するように、操作ボタン４１０に組立てた状態では、ボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びており、左右両側の一群が、上下両側の一群よりも中央側へ長く延びている。

【０１３２】

ボタンレンズ４１１の複数の第二ボタン装飾部４１１ｂは、夫々が同一の円周上において円弧状に延びており、左右両側に夫々三つずつ形成されている。これらの第二ボタン装飾部４１１ｂは、ボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨むように形成されていると共に、前面側がボタンフレーム４１２の前面と略同一面上となるように前方へ突出している。

【０１３３】

ボタンレンズ４１１は、第一ボタン装飾部４１１ａ及び第二ボタン装飾部４１１ｂの部位において、裏面に形成されている断面Ｗ字状や断面円弧状の凹凸により、光が屈折するレンズ効果が発揮されるため、後側が明瞭に見えないようになっている。

【０１３４】

ボタンフレーム４１２は、円環状に形成されており、前後方向に貫通し周方向へ所定長さで円弧状に延びた複数（六つ）のフレーム開口部４１２ａを備えている。六つのフレーム開口部４１２ａは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂと対応している。このボタンフレーム４１２は、表面に金属光沢を有したメッキ層を備えている。

【０１３５】

ボタンベース４１３は、前後方向に短く延びた略円筒状の本体部４１３ａと、本体部４１３ａの前端から外方へ突出している円環状のフランジ部４１３ｂと、フランジ部４１３

ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ円柱状に突出しており周方向に略等間隔で複数（四つ）配置されているガイドボス部４１３ｃと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ帯板状に突出しており周方向に複数（三つ）配置されている検知片４１３ｄと、本体部４１３ａよりも外側でフランジ部４１３ｂを前後に貫通していると共に外周に沿って所定長さで延びており周方向に複数（六つ）形成されているベース開口部４１３ｅと、本体部４１３ａの前端から前方へ筒状に延出しており前端側がボタンレンズ４１１の内面に沿うように内側（中央側）へ窄まっている内側延出部４１３ｆと、を備えている。

【０１３６】

ボタンベース４１３における内側延出部４１３ｆの外周面と、フランジ部４１３ｂの前面とにボタンレンズ４１１の外周縁及びボタンフレーム４１２が取付けられる。四つのガイドボス部４１３ｃは、本体部４１３ａの周方向に対して、上下左右の四隅に相当する部位に夫々配置されている。これら四つのガイドボス部４１３ｃは、ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂ内に夫々摺動可能に挿入される。三つの検知片４１３ｄは、本体部４１３ａの周方向に対して、上側に二つ、下側に一つ、配されるように、周方向へ略等間隔に配置されている。これら三つの検知片４１３ｄは、操作ボタン４１０が押圧されると、ベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０により検知される。

【０１３７】

六つのベース開口部４１３ｅは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａと対応している。ボタンベース４１３におけるベース開口部４１３ｅの部位では、本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆの一部が、外周側から内側へ窪んでいる。内側延出部４１３ｆは、内側へ窄まっている前端の内径が、ボタンフレーム４１２の内径と略一致している。

【０１３８】

この操作ボタン４１０は、前面が前方へ湾曲面状（略球面の一部の形状）に膨出していると共に、透明に形成されており、後側に配置されている扉枠側演出表示装置４６０の表示画面を前方から視認することができる。操作ボタン４１０は、四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂに摺動可能に挿入されていると共に、ユニットベース４３１の保持孔に４３１ｂに挿入されている操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。操作ボタン４１０は、ベースユニット４３０の操作ボタンバネ４３８の付勢力により、外周縁の前面側がフレームユニット４１５に当接することで、前方へのこれ以上の移動が規制されており、操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して押圧操作することで、後端がベースユニット４３０の前面に当接するまで後方へ移動する。操作ボタン４１０は、押圧操作して後方へ移動させると、三つの検知片４１３ｄの少なくとも一つがベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０に検知される。この押圧検知センサ４４０による検知片４１３ｄの検知によって、操作ボタン４１０が操作されたこととなる。

【０１３９】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、透明なボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周端から中央側へ延びるように全周に亘って形成されている第一ボタン装飾部４１１ａによって、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くすることができる。

【０１４０】

更に、操作ボタン４１０は、円筒状のボタンベース４１３の前端開口を、ボタンレンズ４１１とボタンフレーム４１２とで閉鎖しており、ボタンレンズ４１１の外周縁に取付けられているボタンフレーム４１２により、操作ボタン４１０の外径に対して、後方が視認可能な透明な部分が、外周から内側へ窄まったように形成されている。このボタンフレー

ム４１２の存在によっても、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くしている。

【０１４１】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、筒状のボタンベース４１３（本体部４１３ａ）の後端が、装飾基板ユニット４２０の内周側を通して装飾基板ユニット４２０の前面よりも後方へ突出した状態となる。これにより、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に夫々実装されている第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂから前方へ照射された光が、ボタンベース４１３の外側から内側へ漏れるのを防止することができると共に、ベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤから前方へ照射された光がボタンベース４１３の内側から外側へ漏れるのを防止することができる。従って、装飾基板ユニット４２０の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂやベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤが、発光装飾対象としている部位以外が発光装飾されてしまうのを防止することができ、見栄え良く発光装飾を行うことができる。

【０１４２】

［３－４ｂ．フレームユニット］

演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５について、主に図３９乃至図４１等を参照して詳細に説明する。フレームユニット４１５は、操作ボタン４１０の前方側から外周を囲むように、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに前側から取付けられ、操作ボタン４１０の外側を装飾している。フレームユニット４１５は、外形が演出操作ユニット取付部３２６ａの前端側に合せた形状に形成されている。

【０１４３】

フレームユニット４１５は、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられ円形の中央開口部４１６ａを有する枠状のフレーム本体４１６と、中央開口部４１６ａの左右両側でフレーム本体４１６に後側から取付けられる透光性を有した一対のフレームサイドレンズ４１７と、中央開口部４１６ａの上側でフレーム本体４１６に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ４１８と、を備えている。

【０１４４】

フレーム本体４１６は、操作ボタン４１０の外径よりも小径で前後に貫通している円形の中央開口部４１６ａと、中央開口部４１６ａよりも左右両外側で前後に貫通していると共に中央開口部４１６ａの周縁に沿って円弧状に延びており周方向に列設されている複数（六つ）の外周開口部４１６ｂと、中央開口部４１６ａの上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部４１６ｃと、を備えている。中央開口部４１６ａは、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａの外周側の直径と略同じ大きさに形成されている。これにより、フレーム開口部４１２ａの外周後側に操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端側が当接できるようになっている。

【０１４５】

六つの外周開口部４１６ｂは、中央開口部４１６ａの左右両外側に、夫々三つずつ備えられており、後側からフレームサイドレンズ４１７によって閉鎖されている。切欠部４１６ｃは、前後方向にも貫通しており、前側からフレームトップレンズ４１８が嵌込まれている。

【０１４６】

また、フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａの周縁よりも若干外側の位置から後方へ延出している略筒状の内側筒部４１６ｄを備えている。内側筒部４１６ｄは、中央開

口部４１６ａと外周開口部４１６ｂとの間の位置から後方へ延出しており、切欠部４１６ｃと対応している部位が切欠かれている。内側筒部４１６ｄは、演出操作ユニット４００を組立てた状態では、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間を仕切っている（図３８を参照）。

【０１４７】

更に、フレーム本体４１６は、外周の左右両側上部において夫々外方へ延出しており、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる一対の取付部４１６ｅを備えている。フレーム本体４１６（演出操作ユニット４００）は、一対の取付部４１６ｅと切欠部４１６ｃの左右両側の部位が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる。

【０１４８】

フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａを間にして切欠部４１６ｃ側（フレームトップレンズ４１８が取付けられる側）とは反対側で切欠部４１６ｃと同じ幅の部位を除いて、表面の略全体に金属光沢を有したメッキ層が形成されている。

【０１４９】

フレームサイドレンズ４１７は、フレーム本体４１６の左右に夫々三つずつ形成されている外周開口部４１６ｂを後側から閉鎖している。フレームサイドレンズ４１７は、前面側が凹凸の無い滑らかな面に形成されており、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿った複数の凹凸が形成されている（図３９及び図４６を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームサイドレンズ４１７の後側が見えないようになっている。

【０１５０】

フレームトップレンズ４１８は、フレーム本体４１６の切欠部４１６ｃに前側から嵌込まれるように、外形が略四角形に形成されている。フレームトップレンズ４１８は、前面側が滑らかに形成されている。また、フレームトップレンズ４１８は、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿ってジグザグ状に延びた複数の凹凸が中央開口部４１６ａの半径方向に複数列設されている（図３７及び図４６を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームトップレンズ４１８の後側が見えないようになっている。

【０１５１】

フレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、一対のフレームサイドレンズ４１７が装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂの前方に位置すると共に、フレームトップレンズ４１８がベースユニット４３０のフレームトップレンズ装飾基板４３７の前方に位置し、それらに実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂ等によって夫々が発光装飾可能となっている。

【０１５２】

［３－４ｃ．装飾基板ユニット］

演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０について、主に図３９乃至図４３等を参照して詳細に説明する。図４３は、演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方でベースユニット４３０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、演出操作ユニット４００に振動を付与させることができるものである。

【０１５３】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。

【０１５４】
基板ベース４２１は、内周側が操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの外径よりも若干大きく形成されていると共に、外周側がボタンベース４１３におけるフランジ部４１３ｂの外径よりも大きく且つフレームユニット４１５の外径よりも小さく形成されている。
【０１５５】
操作ボタン左外装飾基板４２２は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン左外装飾基板４２２は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２２ａと、複数の第一ＬＥＤ４２２ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２２ｂと、を備えている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２３ａと、複数の第一ＬＥＤ４２３ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２３ｂと、を備えている。これら操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３は、前後両面が白色とされている。
【０１５６】
振動モータ４２４は、回転軸に偏芯した錘４２４ａが取付けられており、この錘４２４ａを回転させることで振動を発生させることができる。
【０１５７】
装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、基板ベース４２１の内側に、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の筒状の本体部４１３ａ後端側が挿入されている。また、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａが操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に位置し、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂがフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７の後方に位置している。また、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３の夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に、フレームユニット４１５の内側筒部４１６ｄが位置している（図３８を参照）。
【０１５８】
従って、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光によって操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを発光装飾させることができると共に、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光によってフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを発光装飾させることができる。
【０１５９】
また、装飾基板ユニット４２０は、振動モータ４２４の錘４２４ａを回転させることで、振動を発生させて、演出操作ユニット４００全体を振動させることができる。
【０１６０】
［３－４ｆ．演出操作ユニットの作用効果］
演出操作ユニット４００の作用効果について、主に図４４乃至図４６等を参照して詳細に説明する。図４４は、図３７の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。図４５（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図４６（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【０１６１】
本実施形態の演出操作ユニット４００は、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン４１０の操作をさせて遊技者に提示した演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。
【０１６２】
演出操作ユニット４００は、全高が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット４００は、全幅が、扉枠３の全幅の１／３よりも若干大きく形成されている。演出操作ユニット４００は、正面視において、遊技領域５ａ（扉枠ベース１１０の貫通口１１１）の下側で左右方向の中央に配置されている。
【０１６３】
演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の上部が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられている。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に取付けた状態で、底面となる中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面が、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６における底板部３２６ｉの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。
【０１６４】
また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５の前面（フレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、演出操作ユニット４００は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、垂直線に対して６３度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機１を用いて遊技を行うために本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット３２０（演出操作ユニット４００）の上方に配置されている遊技盤５における遊技領域５ａの中央の前方に位置するため、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域５ａから演出操作ユニット４００（操作ボタン４１０）に視線を落すと、操作ボタン４１０がその正面視（中心軸線ＣＬと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側演出表示装置４６０等を良好な状態で視認することができる。
【０１６５】
演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０の四つの保持孔４３１ｂに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。演出操作ユニット４００は、通常の状態（操作ボタン４１０を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ４３８の付勢力によって、操作ボタン４１０のボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の後面における中央開口部４１６ａ付近の部位に当接している。
【０１６６】
演出操作ユニット４００は、通常の状態では、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内周付近から中央側（中心軸線ＣＬ側）が、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン４１０における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している（図３７等を参照）。
【０１６７】

因みに、本実施形態では、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの直径が約１５ｃｍとされており、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ方向に対してボタンレンズ４１１（の前端）がフレームユニット４１５の前面から約４ｃｍ前方へ突出している。

【０１６８】

通常の状態において、遊技者が演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作すると、操作ボタン４１０は操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して中心軸線ＣＬに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン４１０の後端がベースユニット４３０のユニットベース４３１の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。

【０１６９】

この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、図４４において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる。

【０１７０】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【０１７１】

これに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

【０１７２】

また、演出操作ユニット４００は、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、演出操作ユニット４００が吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４ａを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、演出操作ユニット４００全体を大きく（強く）振動させることができ、演出操作ユニット４００に触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（図４４において白抜きの矢印の位置）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。

【０１７３】

更に、演出操作ユニット４００は、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に隙間が形成されているた

め、操作ボタン４１０を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接するまでの間、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方への移動を規制し、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させることができ、演出操作ユニット４００等の破損を防止することができる。従って、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や演出操作ユニット４００等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０１７４】

なお、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【０１７５】

また、演出操作ユニット４００は、図４６に示すように、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、フレームトップレンズ４１８、及び操作ボタン内装飾部材４３２が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、第一ボタン内装飾部４３２ｆ、及び第二ボタン内装飾部４３２ｇ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【０１７６】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、操作ボタン内装飾部材４３２の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、位置が固定されている操作ボタン内装飾部材４３２を備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に操作ボタン内装飾部材４３２を問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。

【０１７７】

詳述すると、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２の外周よりも外側で後方側（奥側）にあるユニットベース４３１や装飾基板ユニット４２０等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、図４５において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等を備えているため、操作ボタン内装飾部材４３２の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン４１０、ひいては、演出操作ユニット

４００全体の見栄えを良くすることができる。
【０１７８】
　また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａが、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬへ向かうように延びていると共に周方向に列設されているのに対して、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている操作ボタン内装飾部材４３２の前板部４３２ｂに形成されている第二ボタン内装飾部４３２ｇが中心軸線ＣＬを中心とした変八角形状に延びていると共に同心円状に列設されているため、図４６に示すように、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線とが交差することとなり、幾何学的な装飾を遊技者に見せることができる。
【０１７９】
　また、演出操作ユニット４００は、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが、前後方向（中心軸線ＣＬの延びている方向）に離れているため、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって奥行のある立体的な感じの幾何学模様を遊技者に見せることができ、操作ボタン４１０内を含む装飾を楽しませることができる。
【０１８０】
　更に、演出操作ユニット４００では、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と、第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線との重なり具合が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。
【０１８１】
　このように、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａと操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。
【０１８２】
　また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）で、操作ボタン内装飾部材４３２の後方には、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６が配置されており、それらの前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、操作ボタン４１０内の操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。つまり、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６によって、操作ボタン４１０内を発光装飾させることができる。これら操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の前面に実装されているＬＥＤは、図３８に示すように、中心軸線ＣＬの延びている方向から見て、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの内側に配置されているため、それらからの光が本体部４１３ａの外側に漏れることはなく、操作ボタン４１０内のみを良好に発光装飾させることができる。
【０１８３】
　また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、図３８に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニ

ット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。

【０１８４】

更に、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６ｂから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとフレーム本体４１６の外周との間に位置しており、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が内側筒部４１６ｄの内側やフレーム本体４１６の外側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを良好に発光装飾させることができる。

【０１８５】

また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に、ベースユニット４３０におけるフレームトップレンズ装飾基板４３７が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板４３７の前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１のフレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ４１８の下端後方付近まで平板状の遮光壁部４３１ｃが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板４３７のＬＥＤからの光が操作ボタン４１０やフレームサイドレンズ４１７側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８のみを良好に発光装飾させることができる。

【０１８６】

［３－５．扉枠左サイドユニット］

扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０について、主に図４７乃至図５０を参照して詳細に説明する。図４７（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図４８は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図４９は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図５０は図４７（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット５３０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２（扉枠左サイド装飾基板１６０）の前側を覆うように扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられるものである。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の正面視左側を装飾するためのものである。

【０１８７】

扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられる上下に延びた帯板状の左ユニットベース５３１と、左ユニットベース５３１の前面に取付けられている透明な帯板状の左ユニット拡散レンズ部材５３２と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の前方に配置されており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面上部に取付けられており前方へ筒枠状に突出していると共に上下に延びている左ユニット上装飾ベース５３４と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面下部に取付けられており左ユニット上装飾ベース５３４よりも短く前方へ枠状に突出している左ユニット下装飾ベース５３５と、左ユニット上装飾ベース５３４及び左ユニット下装飾ベ

ース５３５の前側から左ユニット装飾レンズ部材の前端側を覆うように左ユニットベース５３１の前側に取付けられている透明な左ユニット装飾カバー５３６と、左ユニット装飾カバー５３６の前側に取付けられている複数の飾り部材５３７と、を備えている。

【０１８８】

扉枠左サイドユニット５３０の左ユニットベース５３１は、後側が開放された浅い箱状に形成されており、前面に前後に貫通している複数の開口部５３１ａを有している。複数の開口部５３１ａは、図示するように、円形状の穴と、上下に延びた四角形状の穴とがある。左ユニットベース５３１は、扉枠左サイド装飾基板１６０（扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２）の前面に実装されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが、複数の開口部５３１ａから前方へ臨むように、扉枠ベース１１０の前面左側に取付けられる。左ユニットベース５３１の各開口部５３１ａは、扉枠３に組立てた時に、扉枠左サイド装飾基板１６０の各ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが上下方向の略中央に位置するように夫々形成されている。この左ユニットベース５３１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０１８９】

また、左ユニットベース５３１は、上記貫通口１１１を塞ぐように配設されるガラス板１９２から手前側に向けて立設された左側反射立壁部５３８（図５、図２３を参照）を有している。この左側反射立壁部５３８では、平らな面状をなし上記貫通口１１１に対して臨むように設けられる内側面が光を反射可能な反射面として設けられている。なお、この反射面は、左側反射立壁部５３８の内側面これ自体を金属や樹脂などの反射用素材から設けることのほか、同内側面に対して反射用シールを取り付けることなどによっても設けることが可能である。そして後述するが、この左側反射立壁部５３８は、左ユニットベース５３１によって形成されて、上述した反射立壁部３３の一部（左側部分）を担う部分となっている。

【０１９０】

左ユニット拡散レンズ部材５３２は、透明な部材によって形成されており、上拡散レンズ部材５３２Ａと下拡散レンズ部材５３２Ｂとに上下に分割されている。左ユニット拡散レンズ部材５３２は、左ユニットベース５３１における円形状の開口部５３１ａと対応している正面視円形の円形レンズ部５３２ａと、四角形状の開口部５３１ａと対応している正面視四角形の角形レンズ部５３２ｂと、を備えている。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠３に組立てた状態で、円形レンズ部５３２ａ及び角形レンズ部５３２ｂの中央の直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の夫々のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置するように形成されている。

【０１９１】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａは、前面及び後面が滑らかな凸レンズ状に形成されている。この円形レンズ部５３２ａによって、後方に配置されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａからの光を、点状のまま前方へ照射させることができる。この円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光によって、左ユニット装飾レンズ部材の円形装飾部を発光装飾させることができる。

【０１９２】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂは、前面中央において円錐状に後方へ窪んだ中央拡散反射部５３２ｃと、前面における中央拡散反射部５３２ｃの外側に形成されている前面拡散レンズ部５３２ｄと、後面中央（中央拡散反射部５３２ｃの直後）において湾曲面状に後方へ膨出している入力レンズ部５３２ｅと、後面における入力レンズ部５３２ｅの外側で全体的に入力レンズ部５３２ｅから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜している前方反射部５３２ｆと、を備えている。

【０１９３】

角形レンズ部５３２ｂの前面拡散レンズ部５３２ｄは、中央拡散反射部５３２ｃを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。更に詳述すると、前面拡散レンズ部５３２ｄは、半径方向に沿って切断

した時の断面形状に、溝の部分が後方へ円弧状に窪んでおり、溝と溝の間の山の部分が前方へ円弧状に膨出しており、前面が滑らかな波状に形成されている。また、前面拡散レンズ部５３２ｄは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。

【０１９４】

角形レンズ部５３２ｂの前方反射部５３２ｆは、入力レンズ部５３２ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら複数の溝は、後方から前方へ向かってＶ字状に窪んでおり、最深部が円弧状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、半径方向に沿って切断した時の断面形状が、溝と溝との間の山の部分が後方へ尖った三角形状に形成されており、鋸状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、中心から遠ざかるに従って溝及び山の部分が前方へ移動するように形成されている。また、前方反射部５３２ｆは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。この周方向へ分割している放射状に延びた線は、前面拡散レンズ部５３２ｄにおける放射状に延びた分割線と一致している。

【０１９５】

この角形レンズ部５３２ｂは、扉枠３に組立てた状態で、入力レンズ部５３２ｅの直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の対応しているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置している。

【０１９６】

角形レンズ部５３２ｂは、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５３２ｅから角形レンズ部５３２ｂ内に入力される。この入力レンズ部５３２ｅは、後方へ湾曲面状（凸レンズ状）に膨出していることから、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ広がる光を、前方へ平行に進むように屈折させて、入力された光の略全てを円錐状の中央拡散反射部５３２ｃへ導くことができる。そして、中央拡散反射部５３２ｃへ導かれた光は、中央拡散反射部５３２ｃの傾斜している円錐面により、前後に延びた軸線に対して直角方向（扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と平行な方向）へ拡散するように反射させられ、角形レンズ部５３２ｂ内をその前面に沿って中央側から外側へ向かって進むこととなる。また、中央拡散反射部５３２ｃで反射した光は、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って、中央側から外側（中央拡散反射部５３２ｃの中心線から遠ざかる方向）へ進む。

【０１９７】

角形レンズ部５３２ｂ内を扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と略平行に中央側から外側へ向かって反射した光が、鋸状の前方反射部５３２ｆに到達すると、前方反射部５３２ｆの面により前方側へ反射する。この際に、前方反射部５３２ｆは、後面が中央拡散反射部５３２ｃから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜していることから、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚が、中央から遠ざかるに従って薄くなっている（図５０を参照）。これにより、中央拡散反射部５３２ｃにおいて角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って外側へ向かって反射している光を、中心側から外側へ向かうに従って、前方反射部５３２ｆにより順次前方へ反射させることができる。

【０１９８】

そして、前方反射部５３２ｆにより前方へ向かって反射させられた光は、前面拡散レンズ部５３２ｄを通って角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射される。この際に、前面拡散レンズ部５３２ｄは、断面が波状に形成されているため、前方反射部５３２ｆで前方へ向かって反射させられた光を様々な方向へ拡散させることができ、角形レンズ部５３２ｂの前面から略均一に光を前方（左ユニット装飾レンズ部材の後面）へ照射させることができる。

【０１９９】

この角形レンズ部５３２ｂは、前面拡散レンズ部５３２ｄ及び前方反射部５３２ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧

状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、角形レンズ部５３２ｂの前面から前方へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を前方へ照射させることができる。これにより、左ユニット装飾レンズ部材における角形レンズ部５３２ｂの前方の多面装飾部を略均一に発光装飾させることができる。

【０２００】

図示しない左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット装飾カバー５３６の前面に沿うように形成されている。左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａの前方の位置する部位に形成されている円形装飾部と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂの前方に位置する部位に形成されている多面装飾部と、を備えている。円形装飾部は、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部は、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。円形装飾部及び多面装飾部は、扉枠右サイドユニット５５０における右ユニット装飾レンズ部材５６１の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂと、同じ形状に形成されている。

【０２０１】

左ユニット装飾レンズ部材は、透明な左ユニット装飾カバー５３６を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。また、左ユニット装飾レンズ部材は、円形装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光により、多面装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射された光により、夫々発光装飾させられる。

【０２０２】

左ユニット上装飾ベース５３４は、正面視の形状が上下に延びた四角形で、前後に延びた角筒状に形成されている。左ユニット上装飾ベース５３４は、外周における下面を構成する部位が、前端側から後端側へ向かうに従って下方へ突出するように傾斜しており、その部位の下部が前後に貫通している。この左ユニット上装飾ベース５３４は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２０３】

左ユニット下装飾ベース５３５は、正面視の形状が、上方へ開放されているコ字状に形成されている。左ユニット下装飾ベース５３５は、前端における上下方向略中央から上側が、上方へ向かうに従って後方へ移動するように後端まで傾斜している。この左ユニット下装飾ベース５３５は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２０４】

左ユニット装飾カバー５３６は、扉枠左サイドユニット５３０の全高に亘って上下に延びている。左ユニット装飾カバー５３６は、上下方向の中間部が後方へ凹むように屈曲しており、左ユニット上装飾ベース５３４の前端に沿うように下部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、左ユニット下装飾ベース５３５の前端に沿うように上部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、上側のく字状の部位の下端と下側のく字状の部位の上端とを結んでいる直線状の部位と、で構成されている。

【０２０５】

左ユニット装飾カバー５３６は、上下両端が左ユニット上装飾ベース５３４の前面と、左ユニット下装飾ベース５３５の前面とに夫々取付けられる。この左ユニット装飾カバー５３６は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている左ユニット装飾レンズ部材を前方側から視認することができる。

【０２０６】

飾り部材５３７は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で左ユニット装飾カバー５３６の前面に取付けられている。飾り部材５３７は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２０７】
［３－６．扉枠右サイドユニット］
扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０について、主に図５１乃至図５５等を参照して詳細に説明する。図５１（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図５２は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図５３は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図５４は、図５１（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。図５５（ａ）は図５１（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図５１（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット５５０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の右側に取付けられるものである。
【０２０８】
扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視右側に取付けられる上下に延びた箱状の右ユニットベース５５１と、右ユニットベース５５１の前面に取付けられている扉枠右サイド装飾基板５５２と、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より左側に取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット左拡散レンズ部材５５３と、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の左側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット左装飾部材５５４と、右ユニット左装飾部材５５４の左側を覆うように右ユニット左拡散レンズ部材５５３に取付けられている透明平板状の右ユニット左カバー５５５と、を備えている。
【０２０９】
また、扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側且つ右ユニット左拡散レンズ部材５５３の正面視右側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より右側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３とに取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット右拡散レンズ部材５５６と、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の右側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット右装飾部材５５７と、右ユニット右装飾部材５５７の右側を覆うように右ユニット右拡散レンズ部材５５６に取付けられている透明平板状の右ユニット右カバーと５５８、を備えている。
【０２１０】
更に、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３と右ユニット右拡散レンズ部材５５６との間に配置されており前方及び右方が開放された上下方向及び前後方向に延びた浅い箱状で不透光性の右ユニット左遮光部材５５９と、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の左側で右ユニット左遮光部材５５９の開放されている右側を閉鎖するように取付けられている不透光性で平板状の右ユニット右遮光部材５６０と、を備えている。
【０２１１】
また、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する右ユニット装飾レンズ部材５６１と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端側を覆うように右ユニットベース５５１の前面に取付けられている前後に貫通した枠状の右ユニット装飾ベース５６２と、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖するように右ユニット装飾ベース５６２の前側に取付けられている透明な右ユニットカバー５６３と、右ユニットカバー５６３の前側に取付けられている複数の飾り部材５６４と、を備えている。なお、図示は省略するが、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニットベース５５１を上下に貫通するように取付けられ、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板と、扉枠トップユニット５７０の扉枠トップユニット中継基板５８９とを接続する

ための接続ケーブルを備えている。
【０２１２】
扉枠右サイドユニット５５０の右ユニットベース５５１は、正面視の形状が上下に長く延びた四角形で、前後に短く角筒状に延びており、前後方向の中央付近が閉鎖された箱状に形成されている。この右ユニットベース５５１は、不透光性の部材によって形成されている。
【０２１３】
また、右ユニットベース５５１は、上記貫通口１１１を塞ぐように配設されるガラス板１９２から手前側に向けて立設された右側反射立壁部５６８（図６、図２４を参照）を有している。この右側反射立壁部５６８では、平らな面状をなし上記貫通口１１１に対して臨むように設けられる内側面が光を反射可能な反射面として設けられている。なお、この反射面は、左側反射立壁部５３８の内側面と同様、右側反射立壁部５６８の内側面これ自体を金属や樹脂などの反射用素材から設けることのほか、同内側面に対して反射用シールを取り付けることなどによっても設けることが可能である。そして後述するが、この右側反射立壁部５６８は、右ユニットベース５５１によって形成されて、上述した反射立壁部３３の一部（右側部分）を担う部分となっている。
【０２１４】
扉枠右サイド装飾基板５５２は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、前面における左右方向中央より左側に実装されている複数の左ＬＥＤ５５２ａと、前面における左右方向中央より右側に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂと、前面における左右方向中央に実装されている複数の中ＬＥＤ５５２ｃと、を備えている。扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を介して右ユニット左装飾部材５５４を発光装飾させためのものである。また、右ＬＥＤ５５２ｂは、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を介して右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させるためのものである。中ＬＥＤ５５２ｃは、右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させるためのものである。
【０２１５】
扉枠右サイド装飾基板５５２は、前後両面が白色に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、上側の扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａと、下側の扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂとに上下に分割されている。図示は省略するが、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂは、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板に接続されており、扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａは、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂに接続されている。
【０２１６】
右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５３ａと、本体部５５３ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５３ｂと、後壁部５５３ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５３ｃと、本体部５５３ａの正面視左面側において右ユニット左装飾部材５５４を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５３ｄと、本体部５５３ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５３ｅと、本体部５５３ａの正面視右面側において各入力レンズ部５５３ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５３ｆと、を備えている。
【０２１７】
右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されている。また、本体部５５３ａは、図５５に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視右方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５３ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０２１８】
後壁部５５３ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その右端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５３ｂの右端には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の後壁部５５６ｂの左端が当接する。
【０２１９】
複数の切欠部５５３ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５３ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨んでおり、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。
【０２２０】
収容凹部５５３ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット左装飾部材５５４の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット左装飾部材５５４を収容することができる。
【０２２１】
複数の入力レンズ部５５３ｅは、本体部５５３ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５３ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５３ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａの直前に夫々位置している。これにより、左ＬＥＤ５５２ａからの光を、本体部５５３ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。
【０２２２】
側面反射部５５３ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５３ｅに近い側の面が本体部５５３ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５３ｅから遠い側の面が本体部５５３ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５３ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。
【０２２３】
この右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５３ｅの後面から右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５３ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により左ＬＥＤ５５２ａからの光が広がるように屈折し、本体部５５３ａ内において、各入力レンズ部５５３ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。
【０２２４】
本体部５５３ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視右方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている左ＬＥＤ５５２ａから照射されて入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に入射された光が、本体部５５３ａ内の平坦な左面に当ることとなる。しかしながら、左ＬＥＤ５５２ａからの直接光は、本体部５５３ａの左面に対する入射角度の関係で、本体部５５３ａの左面から外部へ放射されることはなく、左面の内面で側面反射部５５３ｆ側へ反射することとなる。

【０２２５】
そして、入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５３ｆに当ることで正面視左方へ反射し、本体部５５３ａの左面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５３ａの右面（側面反射部５５３ｆ）からも外方（正面視右方）へ光が照射されるが、本体部５５３ａの右側に配置されている右ユニット左遮光部材５５９が白色の部材とされているため、右ユニット左遮光部材５５９の左面が明るく照らされることとなり、右ユニット左遮光部材５５９で反射した間接光が本体部５５３ａを通って左方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５３ａの左面からは、本体部５５３ａ内において側面反射部５５３ｆにより左方へ反射された光と、側面反射部５５３ｆから右方へ照射されて右ユニット左遮光部材５５９の左面で左方へ反射して本体部５５３ａを通過した光とが、左方へ照射されるため、本体部５５３ａの左側に取付けられている右ユニット左装飾部材５５４を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０２２６】
また、側面反射部５５３ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５３ａの左面から外方（左方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を左方へ照射させることができる。これにより、本体部５５３ａの左面の収容凹部５５３ｄに収容されている右ユニット左装飾部材５５４を、略均一に発光装飾させることができる。

【０２２７】
なお、右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、透明な部材により形成されているため、本体部５５３ａの正面視左側（収容凹部５５３ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５３ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット左装飾部材５５４において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット左拡散レンズ部材５５３の側面反射部５５３ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット左装飾部材５５４における透明な部分を側面反射部５５３ｆによって装飾することができる。

【０２２８】
右ユニット左装飾部材５５４は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット左カバー５５５は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット左装飾部材５５４の外面を保護している。

【０２２９】
右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３とは略左右対称に形成されており、同じような構成を備えている。詳述すると、右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５６ａと、本体部５５６ａの後辺から正面視左方へ短く平板状に突出している後壁部５５６ｂと、後壁部５５６ｂの正面視左端側から右方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５６ｃと、本体部５５６ａの正面視右面側において右ユニット右装飾部材５５７を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５６ｄと、本体部５５６ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５６ｅと、本体部５５６ａの正面視左面側において各入力レンズ部５５６ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５６ｆと、を備えている。

【０２３０】
右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａと外形が略同じ形状に形成されている。また、本体部

５５６ａは、図５５に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視左方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５６ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０２３１】

後壁部５５６ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５６ｂの左端には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の後壁部５５３ｂの右端が当接する。

【０２３２】

複数の切欠部５５６ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５６ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の複数の切欠部５５３ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の切欠部５５３ｃと、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の切欠部５５６ｃとで、前後に貫通している四角い開口部が形成され、その開口部から扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０２３３】

収容凹部５５６ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット右装飾部材５５７の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット右装飾部材５５７を収容することができる。

【０２３４】

複数の入力レンズ部５５６ｅは、本体部５５６ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５６ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５６ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂの直前に夫々位置している。これにより、右ＬＥＤ５５２ｂからの光を、本体部５５６ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０２３５】

側面反射部５５６ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５６ｅに近い側の面が本体部５５６ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５６ｅから遠い側の面が本体部５５６ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５６ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０２３６】

この右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５６ｅの後面から右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５６ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により右ＬＥＤ５５２ｂからの光が広がるように屈折し、本体部５５６ａ内において、各入力レンズ部５５６ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【０２３７】

本体部５５６ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視左方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂから照射されて入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に入射された光が、本体部５５６ａ内の平坦な右面に当ることとなる。しかしながら、右ＬＥＤ５５２ｂからの直接光は、本体部５５６ａの右面に対する入射角度の関係で、本体部５５６ａの左面から外部へ放射されることはなく、右面の内面で側面反射部５５６ｆ側へ反射することとなる。

【０２３８】

そして、入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５６ｆに当ることで正面視右方へ反射し、本体部５５６ａの右面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５６ａの右面（側面反射部５５６ｆ）からも外方（正面視左方）へ光が照射されるが、本体部５５６ａの左側に配置されている右ユニット右遮光部材５６０が白色の部材とされているため、右ユニット右遮光部材５６０の右面が明るく照らされることとなり、右ユニット右遮光部材５６０で反射した間接光が本体部５５６ａを通って右方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５６ａの右面からは、本体部５５６ａ内において側面反射部５５６ｆにより右方へ反射された光と、側面反射部５５６ｆから左方へ照射されて右ユニット右遮光部材５６０の右面で右方へ反射して本体部５５６ａを通過した光とが、右方へ照射されるため、本体部５５６ａの右側に取付けられている右ユニット右装飾部材５５７を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０２３９】

また、側面反射部５５６ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５６ａの右面から外方（右方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を右方へ照射させることができる。これにより、本体部５５６ａの右面の収容凹部５５６ｄに収容されている右ユニット右装飾部材５５７を、略均一に発光装飾させることができる。

【０２４０】

なお、右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、透明な部材により形成されているため、本体部５５６ａの正面視右側（収容凹部５５６ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５６ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット右装飾部材５５７において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面反射部５５６ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット右装飾部材５５７における透明な部分を側面反射部５５６ｆによって装飾することができる。

【０２４１】

右ユニット右装飾部材５５７は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット右カバー５５８は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット右装飾部材５５７の外面を保護している。右ユニット右装飾部材５５７及び右ユニット右カバー５５８は、右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット左カバー５５５とは、略左右対称に形成されている。また、右ユニット左装飾部材５５４と右ユニット右装飾部材５５７とに施される装飾は、同じ装飾であっても良いし、異なる装飾であっても良い。

【０２４２】

右ユニット左遮光部材５５９は、側面視の形状が右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面視の形状と、略同じ形状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、前方及び右方が開放された浅い箱状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５９ａ

と、本体部５５９ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５９ｂと、後壁部５５９ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５９ｃと、本体部５５９ａの右面から右方へ延出していると共に後壁部５５９ｂから本体部５５９ａの前端まで延びている平板状の複数の補強部５５９ｄと、を備えている。

【０２４３】

右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと外形が略同じ形状に形成されている。

【０２４４】

後壁部５５９ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央よりも右側へ延出している。この後壁部５５９ｂの右端には、右ユニット右遮光部材５６０の左面が当接する。

【０２４５】

複数の切欠部５５９ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５９ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の複数の切欠部５５３ｃ，５５６ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５９ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０２４６】

複数の補強部５５９ｄは、左右の幅と略同じ高さで上下方向に離間している一対の補強部５５９ｄを一組として、上下方向へ所定距離離間して三組備えられている。各組の補強部５５９ｄは、右ユニットカバー５６３に取付けられる飾り部材５６４の後方となる位置に夫々形成されている。これら複数の補強部５５９ｄによって、扉枠右サイドユニット５５０の全体の強度・剛性を高めている。

【０２４７】

右ユニット右遮光部材５６０は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左遮光部材５５９における本体部５５９ａと略同じ形状に形成されている。右ユニット右遮光部材５６０は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、浅い箱状に形成されている右ユニット左遮光部材５５９の右方へ開放されている右側開口を閉鎖している。

【０２４８】

右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、白色の部材によって夫々形成されている。右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、図５５に示すように、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、夫々の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０が、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと近接するように配置されている。これにより、右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士が左右方向に離間しており、左右方向に所定幅で上下方向及び前後方向に延びた空間を形成している。この右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士の間に形成された空間を通して、扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃから前方へ放射された光が、右ユニット装飾レンズ部材５６１の後側に照射される。

【０２４９】

また、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、不透光性の部

材によって形成されており、扉枠右サイド装飾基板５５２における左ＬＥＤ５５２ａ、中ＬＥＤ５５２ｃ、右ＬＥＤ５５２ｂから夫々前方へ照射される光が、互いに干渉するのを防止しており、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を、夫々対応している左ＬＥＤ５５２ａ、右ＬＥＤ５５２ｂ、及び中ＬＥＤ５５２ｃによってのみ発光装飾させることができる。

【０２５０】

更に、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、三組の補強部５５９ｄによって内部空間が上下方向へ四つに分割されているため、分割された夫々の空間の後側に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、各空間同士の間で光が干渉しないようにすることができ、右ユニット装飾レンズ部材５６１の各空間の前方に位置している部位を、夫々独立して発光装飾させることができる。つまり、扉枠右サイドユニット５５０の前端側において、上下方向へ複数（四つ）の領域に分割して夫々を独立して発光装飾させることができる。

【０２５１】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、正面視において円形状に形成されている円形装飾部５６１ａと、上下に延びており複数の多面体が形成されている多面装飾部５６１ｂと、を備えている。円形装飾部５６１ａは、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部５６１ｂは、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。

【０２５２】

詳述すると、右ユニット装飾レンズ部材５６１は、複数の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂが、右ユニット左遮光部材５５９における三組の補強部５５９ｄによって四つに分割されている夫々の空間の前方に位置する部位において、上から三つの部位では、上下方向の中央に配置された円形装飾部５６１ａの上下両側に一つずつ多面装飾部５６１ｂが配置され、最も下側の部位では、多面装飾部５６１ｂのみが配置されるように形成されている。

【０２５３】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、透明な右ユニットカバー５６３を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。この右ユニット装飾レンズ部材５６１は、後方に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、発光装飾させられる。

【０２５４】

右ユニット装飾ベース５６２は、前後方向に貫通している筒枠状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端及び上端の形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６における前端付近の左右両外側と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側を被覆可能に形成されている。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット装飾ベース５６２の前端よりも、右ユニット装飾レンズ部材５６１の前端が、僅かに前方へ突出している。この右ユニット装飾ベース５６２は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２５５】

右ユニットカバー５６３は、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖可能に形成されている。この右ユニットカバー５６３は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている右ユニット装飾レンズ部材５６１を前方側から視認することができる。

【０２５６】

飾り部材５６４は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で右ユニットカバー５６３の前面に取付けられている。飾り部材５６４は、不透光性の部材によって形成されている。三つの飾り部材５６４は、右ユニットカバー５６３（右ユニット装飾レンズ部材５６１）を上下方向へ四つに分割している。

【０２５７】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく板状に突出しており、皿ユニット３２０の上皿３２１前端よりも若干前方へ突出している。扉枠右サイドユニット５５０は、突出した左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を夫々独立して発光装飾させることができる。

【０２５８】

扉枠右サイドユニット５５０は、板状で前方へ大きく突出していることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができる。これにより、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているように錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。

【０２５９】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、前方へ大きく突出していることから、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホールでは、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向からでも視認することができ、多数のパチンコ機が列設されている遊技ホール内において本パチンコ機１を目立たせることができる。従って、扉枠右サイドユニット５５０の左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させると、本パチンコ機１の前方近辺に位置していなくても、遠くから本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０２６０】

更に、扉枠右サイドユニット５５０において、本パチンコ機１で球詰りやエラー等の不具合が発生した時に、左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１等を特有な態様で発光装飾させるようにすることで、遊技ホールの係員に対して、不具合の発生を直ち知らせて認識させることができ、不具合に対して素早い対応ができるようになることから、遊技者の遊技の中断を早期に解決させることができ、遊技者が苛立ちを覚えて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０２６１】

［３－７．扉枠トップユニット］

扉枠３の扉枠トップユニット５７０について、主に図５６乃至図５９等を参照して詳細に説明する。図５６（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。図５７は扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図５８は扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図５９は、図５６におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられるものである。

【０２６２】

扉枠トップユニット５７０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側で左右方向の中央に取付けられる中央ベース５７１と、中央ベース５７１の左右両側に取付けられていると共に扉枠ベース１１０の前面に取付けられる一対のサイドベース５７２と、一対のサイドベース５７２の前面に夫々取付けられている

一対の上部スピーカ５７３と、左右に延びていると共に左右方向中央が前方へ突出しており後方が開放されている箱状で一対の上部スピーカ５７３の前方位置で前後に夫々貫通している一対の開口部５７４ａ、及び一対の開口部５７４ａよりも左右方向中央寄りの位置から中央付近まで夫々延びていると共に前後方向に夫々貫通しており上下に離間している複数（左右夫々三つ）のスリット５７４ｂを有しており中央ベース５７１及び一対のサイドベース５７２の前側に取付けられているユニット本体２７１と、一対の上部スピーカ５７３の前側に夫々配置されており一対の開口部５７４ａを閉鎖するようにユニット本体２７１の後側に取付けられているパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５と、を備えている。

【０２６３】

ここで、図示は割愛するが、一対のサイドベース５７２（左側サイドベース５７２ａ，右側サイドベース５７２ｂ）では、開口窓の設けられる側に向けてのみ開口された内部空間をそれぞれ有しており、これらの内部空間において、開口窓の外周内へと外周外から発光するように設けられる上記外周外発光部３４（左側外周外発光部３４ａ，右側外周外発光部３４ｂ）と、開口窓の外周内からの光をその外周外で検出する外周外光検出部３５（左側外周外光検出部３５ａ，右側外周外光検出部３５ｂ）とがそれぞれ設けられる構造となっている。

【０２６４】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体２７１の左右方向中央の前面に取付けられており透光性を有しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中装飾基板５７７と、ユニット本体２７１の前面に夫々取付けられており複数のスリット５７４ｂを夫々閉鎖していると共にトップ中装飾部材５７６の左右両端付近から開口部５７４ａを跨いでユニット本体２７１の左右両端付近まで夫々延びている透明平板状の複数（左右夫々三つ）の導光部材５７８と、ユニット本体２７１の前面におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８の前面を夫々覆っているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の前方側からユニット本体２７１の前面に夫々取付けられておりトップ中装飾部材５７６の左右両側から開口部５７４ａの中央側端部付近まで夫々延びているトップ中左装飾部材５８１及びトップ中右装飾部材５８２と、を備えている。

【０２６５】

更に、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体２７１における左右両側面の内側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８における左右方向外側端部と対面する部位にＬＥＤが夫々実装されている扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ右装飾基板５８４と、ユニット本体２７１の後側における左右方向中央の左右両側に夫々形成されている複数（三つの）スリット５７４ｂが貫通している部位に夫々取付けられている一対の基板ベース５８５と、一対の基板ベース５８５の前面に夫々取付けられておりユニット本体２７１のスリット５７４ｂの後方となる位置に複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａが実装されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の前側でユニット本体２７１の後側に夫々取付けられている一対の遮光部材５８８と、を備えている。

【０２６６】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体２７１内で中央ベース５７１の前面に取付けられている扉枠トップユニット中継基板５８９と、扉枠トップユニット中継基板５８９の前面を覆うように中央ベース５７１に取付けられている中継基板カバー５９０と、ユニット本体２７１の上開口部５７４ｃを閉鎖するようにユニット本体２７１に取付けられている上カバー５９１と、ユニット本体２７１の下開口部５７４ｄを閉鎖するようにユニット本体２７１に取付けられている下カバー５９２と、を備えている。

【０２６７】

扉枠トップユニット５７０の中央ベース５７１は、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されている。中央ベース５７１は、後方へ開放された箱状に形成されており、前面に複数の凹凸を備えている。一対のサイドベース５７２は、中央ベース５７１の左右両端に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、各サイドベース５７２の前面に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、夫々の前面が、扉枠トップユニット５７０の左右方向中央に近い側が後方へ移動するように斜めに取付けられている。一対の上部スピーカ５７３は、広い周波数帯域で音を出力可能なフルレンジのコーン型スピーカである。

【０２６８】

ユニット本体２７１は、正面視の形状が、左右に延びた四角形の左右両端付近の下部が下方へ膨出したような形状に形成されている。換言すると、ユニット本体２７１は、正面視の形状が、左右に延びた四角形を、下端辺側から上方へ窄まった台形で切欠いたような形状に形成されている。ユニット本体２７１は、平面視の形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前端辺側における左右方向中央を中心にして全幅（左右方向の長さ）の約１／２の部位を底辺とする前方へ突出した台形と、その台形の前端辺を長辺として前方へ短く突出した四角形と、を組合せた形状に形成されている。従って、ユニット本体２７１は、前面における左右方向中央で前方へ突出した部位の両側が、ユニット本体２７１の左右方向の端部と、前方へ突出した部位の前端の左右方向端部とを結んだ線よりも後方に位置している（窪んでいる）。

【０２６９】

ユニット本体２７１は、前面における左右方向両端から前方へ突出している部位よりも外側の位置までの部位に、夫々前後に貫通している開口部５７４ａが形成されている。また、ユニット本体２７１は、前面における前方へ台形に突出している部位の斜めに延びている部位に、上下方向に所定の高さで左右に延びていると共に前後方向に貫通している複数のスリット５７４ｂが形成されている。複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体２７１の前面における前方へ斜めに延びている部位の前端付近から、開口部５７４ａ付近まで左右に延びている。また、複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体２７１の左右方向中央の両側に、夫々三つずつ上下に離間して形成されている。

【０２７０】

また、ユニット本体２７１は、上面における左右方向中央に後端から前方へ向かって四角く切欠かれた上開口部５７４ｃと、下面における左右方向に後端から前方へ向かって切欠かれた下開口部５７４ｄと、を備えている。ユニット本体２７１の上開口部５７４ｃは、上カバー５９１によって閉鎖される。また、下開口部５７４ｄは、下カバー５９２によって閉鎖される。

【０２７１】

また、ユニット本体２７１は、左右両端に上下に延びたトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆを備えている。トップ左装飾部５７４ｅは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面と、前後方向が略同じ位置に形成されている。トップ右装飾部５７４ｆは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面よりも前方へ位置するように形成されている。このユニット本体２７１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２７２】

トップ中装飾部材５７６は、ユニット本体２７１の前面における左右方向中央において前方へ突出している部位の前端に取付けられる。トップ中装飾部材５７６は、正面視の形状が、略正方形の下辺の左右方向中央部が下方へ位置するように折れ曲がった変五角形と、変五角形の左右の辺の上端から左右方向外側へ延出した辺の先端と辺五角形の左右の辺の下端とを結んだ略直角三角形と、を組合せたような形状に形成されている。トップ中装飾部材５７６は、前面の変五角形の部位が、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。このトップ中装飾部材５７６は、全体が立体的な形状に形成されており、透光性を有している。

【０２７３】
扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面が、トップ中装飾部材５７６の変五角形の部位の前面と沿うように、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜した状態でトップ中装飾部材５７６の後側に取付けられる。扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで、トップ中装飾部材５７６を発光装飾させることができる。
【０２７４】
導光部材５７８は、透明な部材によって形成されている。導光部材５７８は、ユニット本体２７１の前面における前方へ突出した部位の前端よりも左右両外側の形状に沿った形状に形成されている。ユニット本体２７１の左右方向両端部に近い側を端部側、中央に近い側を中央側として説明すると、導光部材５７８は、端部側から中央側へ向かって左右に真っすぐに延びた直部５７８ａと、直部５７８ａの中央側の端部側から中央側へ向かうに従って前方へ移動するように半径の大きい円弧状に延びた円弧部５７８ｂと、で構成されている。導光部材５７８は、直部５７８ａでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも小さく形成されており、円弧部５７８ｂでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも大きく形成されている。また、導光部材５７８は、直部５７８ａでは上下方向の高さが一定に形成されており、円弧部５７８ｂでは上下方向の高さが中央側へ向かうに従って小さくなるように形成されている。導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、直部５７８ａがユニット本体２７１の開口部５７４ａの直前に位置し、円弧部５７８ｂがユニット本体２７１のスリット５７４ｂを前方から閉鎖している。
【０２７５】
導光部材５７８は、直部５７８ａの後面に形成されている鋸状の凹凸からなる拡散反射部５７８ｃと、円弧部５７８ｂの後面側に形成されている複数の凹凸からなる拡散入力部５７８ｄと、を備えている。
【０２７６】
導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、左右方向両外側の端部が、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａと対面していると共に、拡散入力部５７８ｄが扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａと対面している。この導光部材５７８は、左右方向両外側の端部から、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａからの光が入射されると、その光が直部５７８ａ内を中央側へ進むと共に、直部５７８ａの後面に形成されている拡散反射部５７８ｃにより端部側から順次前方へ反射され、直部５７８ａの前面全体から光が前方へ照射される。導光部材５７８の前方にはトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されており、それらのうちの直部５７８ａの前方となる部位が発光装飾させられる。
【０２７７】
また、導光部材５７８は、円弧部５７８ｂの後面に形成されている拡散入力部５７８ｄから、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａからの光が入射されると、その光が拡散入力部５７８ｄの凹凸により円弧部５７８ｂ内へ広く拡散され、円弧部５７８ｂの前面全体から光が前方へ照射される。これにより、トップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０における円弧部５７８ｂの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。
【０２７８】
このように、導光部材５７８は、扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａ、又は、扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａ、からの光を導いて、前方に配置されているトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０の全体を良好（均一）な状態で発光装飾させることができる。
【０２７９】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、ユニット本体２７１の前面における左右方向中央より左側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体２７１の前面に取付けられる。トップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５７９ａを有している。トップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５７９ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０２８０】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左端から、ユニット本体２７１のトップ左装飾部５７４ｅの右端まで延びている。つまり、トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも左側の略全体を装飾している。このトップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａによって発光装飾させられる。

【０２８１】

トップ右装飾レンズ部材５８０は、ユニット本体２７１の前面における左右方向中央より右側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体２７１の前面に取付けられる。トップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５８０ａを有している。トップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５８０ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０２８２】

トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の右端から、ユニット本体２７１のトップ右装飾部５７４ｆの左端まで延びている。つまり、トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも右側の略全体を装飾している。このトップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａによって発光装飾させられる。

【０２８３】

トップ中左装飾部材５８１は、ユニット本体２７１の前面における左側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ左装飾レンズ部材５７９の前方からユニット本体２７１の前面に取付けられる。トップ中左装飾部材５８１は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ左装飾レンズ部材５７９の三つの装飾レンズ部５７９ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ左装飾レンズ部材５７９の前面よりも前方に突出している。このトップ中左装飾部材５８１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２８４】

トップ中右装飾部材５８２は、ユニット本体２７１の前面における右側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ右装飾レンズ部材５８０の前方からユニット本体２７１の前面に取付けられる。トップ中右装飾部材５８２は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ右装飾レンズ部材５８０の三つの装飾レンズ部５８０ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ右装飾レンズ部材５８０の前面よりも前方に突出している。このトップ中右装飾部材５８２は、不透光性の部材によって形成されている。

【０２８５】

扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体２７１内における左側面（トップ左装飾部５７４ｅ）の内側に、ＬＥＤ５８３ａが実装されている面を右方へ向けて取付けられている。扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体２７１の左右方向中央より左側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の左端面と対向する位置にＬＥＤ５８３ａが

実装されている（図５９を参照）。三つのＬＥＤ５８３ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ左装飾基板５８３のＬＥＤ５８３ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９におけるユニット本体２７１の左側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【０２８６】

扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体２７１内における右側面（トップ右装飾部５７４ｆ）の内側に、ＬＥＤ５８４ａが実装されている面を左方へ向けて取付けられている。扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体２７１の左右方向中央より右側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の右端面と対向する位置にＬＥＤ５８４ａが実装されている（図５９を参照）。三つのＬＥＤ５８４ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８４ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０におけるユニット本体２７１の右側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【０２８７】

一対の基板ベース５８５は、ユニット本体２７１内における複数のスリット５７４ｂが形成されている部位の後側に取付けられるものである。一対の基板ベース５８５は、互いが略左右対称に形成されている。基板ベース５８５は、上下及び前後に延びた辺を有する側面視略正方形の側壁と、側壁の後辺から直角に左右方向外方へ延びた正面視四角形の後壁と、側壁の上辺の前端から側壁の上辺途中までを結んだ線を斜辺として側壁と後壁の上辺同士を結んでいる略直角三角形の上壁と、上壁とは反対側で側壁と後壁の下辺同士を結んでいる略直角三角形の下壁と、を備え、上下の斜辺同士の間が開放された三角柱状の箱状に形成されている。基板ベース５８５は、開放されている部位が、ユニット本体２７１によって閉鎖されるようにユニット本体２７１に取付けられる。この基板ベース５８５は、開放されている部位が閉鎖されるように、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７が取付けられる。

【０２８８】

扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体２７１における左右中央より左側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体２７１の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体２７１の左右方向中央より左側の三つのスリット５７４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

【０２８９】

扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体２７１の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８６ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体２７１の中央より左側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８６ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、複数のＬＥＤ５８６ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。

【０２９０】

扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体２７１における左右中央より右側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体２７１の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体２７１の左右方向中央より右側の三つのスリット５７

４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。
【０２９１】
扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体２７１の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８７ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体２７１の中央より右側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８７ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、複数のＬＥＤ５８７ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。
【０２９２】
一対の遮光部材５８８は、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７とユニット本体２７１との間の位置で、ユニット本体２７１の前面後側に取付けられるものである。一対の遮光部材５８８は、不透光性の部材によって、互いが略左右対称に形成されている。遮光部材５８８は、ユニット本体２７１における三つのスリット５７４ｂと対応して列設されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａの上下の間を仕切っている。この遮光部材５８８により、各導光部材５７８の直後に位置しているＬＥＤ５８６ａ，５８７ａによってのみ、その導光部材５７８により光を前方へ誘導させることができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａを夫々独立させた状態で良好に発光装飾させることができる。
【０２９３】
扉枠トップユニット中継基板５８９は、中央ベース５７１の前面に取付けられている。扉枠トップユニット中継基板５８９は、一対の上部スピーカ５７３、扉枠トップ中装飾基板５７７、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継している。扉枠トップユニット中継基板５８９は、扉枠右サイドユニット５５０に備えられている図示しない接続ケーブルを介して、扉本体中継基板と接続されている。この扉枠トップユニット中継基板５８９は、前側が中継基板カバー５９０によって覆われている。
【０２９４】
この扉枠トップユニット５７０は、左右方向中央において前方へ突出したトップ中装飾部材５７６を備えていると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ抉れているように湾曲しているため、トップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように遊技者を錯覚させることができ、遊技者の関心を本パチンコ機１に対して強く引付けさせることができる。
【０２９５】
また、扉枠トップユニット５７０は、中央に配置されているトップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を、トップ中装飾部材５７６の左右両側から、ユニット本体２７１の左右両端に形成されているトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆまで延びるように形成している。これにより、扉枠トップユニット５７０によって、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができる。
【０２９６】
この際に、扉枠トップユニット５７０では、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されている左右方向両端付近の夫々の後方に、パンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された上部スピーカ５７３を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の上下に離間している三つの装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａの間からスピーカカバー５７５が前方へ臨むようにしているため、左右の上部スピーカ５７３から出力されるサウンドを、良好な状態で遊技者に聴かせることができ、良質なステレオサウンドを楽しませることができる。

【０２９７】
　また、扉枠トップユニット５７０は、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の後側に備えられた複数の導光部材５７８により、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７からの光を、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０に導くことができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を良好に発光装飾させることができる。従って、扉枠トップユニット５７０は、左右の上部スピーカ５７３の前方を含む扉枠３の上部の前面全体を発光装飾させることができる。
【０２９８】
［３－８．扉枠の作用効果］
　扉枠３の作用効果について説明する。本実施形態のパチンコ機１における扉枠３は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前後に貫通している貫通口１１１を、従来のパチンコ機よりは上下及び左右方向へ大きくしており、貫通口１１１の拡大に合せて、皿ユニット３２０及び扉枠トップユニット５７０の上下方向の高さを小さくしていると共に、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の左右方向の幅を小さくしている。これにより、貫通口１１１（ガラスユニット１９０）を通して、本体枠４に取付けられた遊技盤５（遊技領域５ａ）の前面を、可及的に広く遊技者（前方）から見えるようにすることができ、遊技領域５ａの広い遊技盤５に対応している。
【０２９９】
　扉枠３は、貫通口１１１の下側において、前方へ膨出している皿ユニット３２０の左右方向中央に大きな半球面状の操作ボタン４１０を有した演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を備え、演出操作ユニット４００の左右両側における下半分（上皿３２１よりも下側の部分）の前面（皿前下装飾部３２６ｃの前面）を、後方へ抉れるように窪んだ形状（皿ユニット３２０の左右両端の前端と、演出操作ユニット４００の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、演出操作ユニット４００の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、皿ユニット３２０の左右方向中央の前面に取付けられている演出操作ユニット４００が前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対して演出操作ユニット４００を目立たせて強調して見せることができ、演出操作ユニット４００に強く注目させることができる。
【０３００】
　扉枠３は、貫通口１１１よりも下側の皿ユニット３２０の前面に配置されている演出操作ユニット４００を、大きな半球面状の透明な操作ボタン４１０が、斜め上前方を向くように傾けた状態で取付けているため、本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、操作ボタン４１０が遊技者の頭部（顔）を向いた状態となり、遊技者が視線を落として演出操作ユニット４００を見ると、操作ボタン４１０が略正面に近い状態で見えることとなり、大きくて丸い操作ボタン４１０を強烈に視認させることができ、操作ボタン４１０を用いた演出に対して期待感を高めさせることができると共に、透明な操作ボタン４１０内に配置されている扉枠側演出表示装置４６０に表示される演出画像を良好な状態で視認させることができ、演出画像を十分に楽しませることができる。
【０３０１】
　また、扉枠３は、皿ユニット３２０の全高と略同じ直径の大きくて前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を備えているため、操作ボタン４１０を操作する際に、短い距離の手の移動で操作ボタン４１０の何れかの部位に触れることができ、操作ボタン４１０の「早押し」を比較的容易に行うことができる。また、大径で前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を、傾けた状態で取付けているため、従来のパチンコ機の操作ボタンのように上から押圧操作することができるだけでなく、左方や右方、或いは、前方からでも良好に操作することができ、操作性の良い操作ボタン４１０によって操作ボタン４１０を用いた演出をより楽しませることができる。
【０３０２】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０によって演出操作ユニット４００を、吊り下げたような状態で取付けていると共に、演出操作ユニット４００の下部に振動を発生させる振動モータ４２４を備えているため、遊技状態に応じて振動モータ４２４を回転させて振動を発生させると、操作ボタン４１０の上部に触れている遊技者の手に対して、強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて操作ボタン４１０を用いた演出をより一層楽しませることができる。

【０３０３】

更に、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面中央に、皿ユニット３２０の全高に亘る大きな操作ボタン４１０（演出操作ユニット４００）を備えていることから、従来のパチンコ機と比較して上皿３２１の下にある下皿３２２が目立ち難くなるため、従来のパチンコ機を見慣れた遊技者に対して、明らかに異なっていると認識させ易くすることができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０３０４】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面における演出操作ユニット４００の左側に開口している下皿開口部３２６ｄに対して、下皿３２２を、演出操作ユニット４００の後側へ回り込むように形成しているため、下皿開口部３２６ｄの大きさに対して、下皿３２２の容積を大きくすることができ、下皿３２２での遊技球の貯留数を十分に確保することができる。また、下皿３２２の後部が演出操作ユニット４００の後側へ回り込んでいることから、遊技者が下皿３２２内に左手を入れたり、下皿開口部３２６ｄに左手の指を掛けたりした時に、指先が下皿３２２の後の壁に触れ難くなるため、遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、下皿開口部３２６ｄの大きさに比べて下皿３２２の容積が大きいことを触覚でも認識させることができる。

【０３０５】

更に、扉枠３は、上皿３２１からの遊技球が下皿３２２に放出される下皿球供給口３２３ｃと下皿３２２の遊技球を皿ユニット３２０の下方のドル箱等に抜くための下皿球抜き孔３２２ａとを、前後に直線状に配置すると共に、正面視において下皿開口部３２６ｄの右外側（演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５の左端よりも右側）に配置している。つまり、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａを、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置しているため、遊技者側から下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えず、皿ユニット３２０（パチンコ機１）の外観をスッキリさせることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０３０６】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）の下方に下皿球抜き孔３２２ａを配置しているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いた状態とすると、上皿３２１等から下皿３２２へ放出された遊技球が、下皿３２２に入ると直ぐに下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱等へ排出されることとなる。この際に、遊技者側からは、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えないため、上皿３２１等から下皿３２２を通ってドル箱へ排出される遊技球の流れも見ることができない。これにより、遊技者に対して上皿３２１の遊技球や上皿３２１が満タンな状態で払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができるため、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０３０７】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方左寄りの位置に下皿球抜き孔３２２ａを配置すると共に、下皿球抜き孔３２２ａよりも右側の下皿３２２の立上った壁部を下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように斜めに湾曲させているため、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球を、直接的に下皿球抜き孔３２２

ａへ誘導したり、右側の壁部に反射させて間接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したりすることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球が、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域（下皿第一領域Ａ１）へ侵入することなく、下皿球抜き孔３２２ａから下方へ排出させることができるため、下皿３２２内を流通する遊技球を遊技者に見せることなく下皿３２２の下方（ドル箱）へ遊技球を排出させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０３０８】

また、扉枠３は、下皿３２２が前方へ臨む皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄを、演出操作ユニット取付部３２６ａ（演出操作ユニット４００）と下スピーカ口３２６ｅとの間に備えているため、遊技者が下皿開口部３２６ｄに手を掛けたり、下皿３２２に手を入れたりしても、下スピーカ口３２６ｅの前方が遊技者の手によって遮られることはないため、本体枠４の基板ユニット９００における下部スピーカ９２１からのサウンドを、良好に前方へ出力させることができ、本パチンコ機１によるサウンドを楽しませることができる。また、遊技者が下皿３２２に手を入れたり近付けたりすると、下スピーカ口３２６ｅから前方へ出力される下部スピーカ９２１からの重低音による振動を、遊技者に触覚的に感じさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０３０９】

また、扉枠３は、貫通口１１１の右側から板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０を備えていることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができるため、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているような感じに錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。

【０３１０】

更に、扉枠３は、板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０の前端や左右両面を、発光装飾させることができるため、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホール内において、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向から等の遠くからでも本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０３１１】

また、扉枠３は、貫通口１１１の上側の扉枠トップユニット５７０において、左右方向中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６を備えると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面を、後方へ抉れるように窪んだ形状（扉枠トップユニット５７０の左右両端の前端と、トップ中装飾部材５７６の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対してトップ中装飾部材５７６を目立たせて強調して見せることができ、トップ中装飾部材５７６に強く注目させることができる。

【０３１２】

ところで、従来のパチンコ機における扉枠の上部には、左右に離間した一対の上部スピーカが備えられており二つの上部スピーカが目立っていた。これに対して、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１の上側に取付けられている扉枠トップユニット５７０において、左右両端にパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された一対の上部スピーカ５７３を備えた上で、中央のトップ中装飾部材５７６の左右両側からスピーカカバー５７５の前を通って左右方向両端まで延びたトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を、発光装飾できるようにしている。これにより、扉枠３

の前面上部を全体的に装飾することができるため、扉枠３の上部において、一対の上部スピーカ５７３が目立たなくなり、従来のパチンコ機とは明らかに異なる装飾が施されていることを一見して遊技者に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、一対の上部スピーカ５７３により良質なステレオサウンドを遊技者に楽しませることができる。

【０３１３】

このように、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１より下側と上側において、皿ユニット３２０に取付けられている演出操作ユニット４００と、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６とが、夫々左右方向の中央で前方へ大きく突出しているため、左右方向中央を通る仮想線が目立つような上下において統一感のある装飾を遊技者に見せることができると共に、洗練された感じの装飾により他のパチンコ機よりも目立たせることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０３１４】

また、扉枠３は、左右方向の中央において上下に配置されている扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６と演出操作ユニット４００とを、前方へ突出させているため、トップ中装飾部材５７６及び演出操作ユニット４００を発光装飾させると、扉枠３の前面の左右方向中央で上下に延びたような発光ラインを遊技者に見せることができ、遊技者の視線を左右方向中央に配置された演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０等に誘導させることができる。

【０３１５】

［５．遊技盤の全体構成］

次に、パチンコ機１の遊技盤５の全体構成について、図６０乃至図６６等を参照して詳細に説明する。図６０は、遊技盤の正面図である。図６１は遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図６２は遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図６３は表ユニットと裏ユニットを除いた遊技盤の正面図であり、図６４は図６３の遊技盤を分解して前から見た分解斜視図であり、図６５は図６３の遊技盤を分解して後ろから見た分解斜視図である。図６６は、遊技盤をパチンコ機に取付けた状態で機能表示ユニットの部位を正面から拡大して示す説明図である。

【０３１６】

遊技盤５は、遊技者がハンドルユニット３００のハンドル３０２を操作することで遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有している。また、遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており遊技球を遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。遊技パネル１１００の前面において遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球と当接する複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている（図示は省略）。

【０３１７】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左下隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に取付けられている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な遊技盤側演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている。裏ユニット３０００の後面に遊技盤側演出表示装置１６００が取付けられていると共に、遊技盤側演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が取付けられている。

【０３１８】

遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成

されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。

【０３１９】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能に常時開口している複数の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２００３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球の受入れが何れかにおいて可能となる大入賞口２００５と、を備えている。

【０３２０】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に取付けられており第一始動口２００２及び大入賞口２００５を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿って取付けられており複数の一般入賞口２００１を有しているサイドユニット下２２００と、サイドユニット下２２００の正面視左端上方に取付けられているサイドユニット上２３００と、遊技領域５ａ内の略中央に取付けられておりゲート部２００３、及び第二始動口２００４を有している枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０３２１】

裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、を備えている。

【０３２２】

更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の前端で正面視左辺側の上下方向中央から上寄りに取付けられている裏左中装飾ユニット３０５０と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下方で裏箱３０１０の後壁付近に取付けられている裏下後可動演出ユニット３１００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上方で正面視左側に取付けられている裏上左可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内で開口部３０１０ａの正面視左側に取付けられている裏左可動演出ユニット３３００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上方で左右方向中央から正面視右端までにかけて取付けられている裏上中可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下方で裏下後可動演出ユニット３１００の前方に取付けられている裏下前可動演出ユニット３５００と、を備えている。

【０３２３】

［５－１．前構成部材］

次に、前構成部材１０００について、主に図６４及び図６５等を参照して説明する。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０３２４】

また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１０

０４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球が当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０３２５】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０３２６】

更に、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００８を備えている。この防犯凹部１００８は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー２００の後方へ突出した後方突片２０２が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０３２７】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の後端から後方へ突出している複数の位置決め突起１００９を備えている。これら位置決め突起１００９は、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０に形成されている内レール固定孔１１１６に挿入させることで、内レール１００２をパネル板１１１０の前面に位置決め固定することができる。

【０３２８】

更に、前構成部材１０００は、後面から後方へ突出している複数の取付ボス１０１０を備えている。複数の取付ボス１０１０は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の取付孔１１２８に挿入されることで、パネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）との間を位置決めすることができる。

【０３２９】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１１を備えている。この切欠部１０１１は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の切欠部１１２７と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１，１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０３３０】

［５－２．遊技パネル］

次に、遊技パネル１１００について、主に図６１及び図６２、図６４及び図６５等を参照して説明する。遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。

【０３３１】

遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダ１１２０（遊技パネル１

１５０）よりも薄く、障害釘を前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０ｍｍ）とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によってパネル板１１１０が形成されている。

【０３３２】

パネル板１１１０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に下端から上方へ窪んだアウト凹部１１１１が形成されている。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。

【０３３３】

また、パネル板１１１０は、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔１１１３と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔１１１４と、を備えている。これら嵌合孔１１１３及び長孔１１１４は、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネルホルダ１１２０との位置決めを行うものである。また、パネル板１１１０は、上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部１１１５が夫々備えられている。これら係合段部１１１５は、パネル板１１１０の板厚の略半分まで切欠いた形態とされると共に、嵌合孔１１１３及び長孔１１１４と同様に、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネル板１１１０をパネルホルダ１１２０へ係合固定するためのものである。

【０３３４】

また、パネル板１１１０は、所定位置に内レール固定孔１１１６が複数備えられている。この内レール固定孔１１１６に内レール１００２の後側から突出する位置決め突起１００９を嵌合固定させることで、内レール１００２を所定の位置に固定することができる。

【０３３５】

遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本例では、約２０ｍｍ）形成されている。パネルホルダ１１２０は、合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部１１２１と、保持段部１１２１の内側において略遊技領域５ａと同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口１１２２と、を備えている。

【０３３６】

パネルホルダ１１２０の保持段部１１２１は、前面からの深さがパネル板１１１０の厚さと略同じ深さとされており、保持段部１１２１内に保持されたパネル板１１１０の前面が、パネルホルダ１１２０の前面と略同一面となる。また、保持段部１１２１は、その前側内周面が、パネル板１１１０の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさに形成されている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板１１１０が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。

【０３３７】

また、パネルホルダ１１２０は、保持段部１１２１に保持されるパネル板１１１０に形成されている嵌合孔１１１３及び長孔１１１４と対応する位置に配置され、保持段部１１２１の前面から前方に向かって延びており、パネル板１１１０の嵌合孔１１１３及び長孔１１１４に嵌合及び挿通可能な複数の突出ピン１１２３を備えている。これらの突出ピン１１２３をパネル板１１１０の嵌合孔１１１３及び長孔１１１４に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ１１２０とパネル板１１１０とを互いに位置決めすることができる。

【０３３８】

更に、パネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０の係合段部１１１５と対応する位置に、係合段部１１１５と係合する係合爪１１２４及び係合片１１２５を備えている。詳述すると、係合爪１１２４は、パネルホルダ１１２０の保持段部１１２１の上部に配置されており、パネル板１１１０における上側の係合段部１１１５と対応し、保持段部１１２１の前面から前方に向かって突出し、係合段部１１１５と弾性係合するようになっている。この係合爪１１２４は、先端がパネルホルダ１１２０の前面から突出しない大きさとされている。

【０３３９】
パネルホルダ１１２０の係合片１１２５は、パネルホルダ１１２０の保持段部１１２１の下部に配置され、パネル板１１１０における下側の係合段部１１１５と対応している。この係合片１１２５は、保持段部１１２１の前面との間にパネル板１１１０の係合段部１１１５が挿入可能な大きさの隙間を形成した状態で、パネルホルダ１１２０の前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びている。これら係合爪１１２４及び係合片１１２５にパネル板１１１０の係合段部１１１５を係合させることで、パネル板１１１０がパネルホルダ１１２０に対して着脱可能に保持される。
【０３４０】
また、パネルホルダ１１２０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に前後に貫通しているアウト口１１２６を備えている。パネルホルダ１１２０は、アウト口１１２６の後面下側が、アウト口１１２６と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。
【０３４１】
更に、パネルホルダ１１２０は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１１２７を備えている。この切欠部１１２７は、前構成部材１０００の切欠部１０１１と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１，１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。
【０３４２】
また、パネルホルダ１１２０は、前構成部材１０００における複数の取付ボス１０１０と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔１１２８を備えている。これら複数の取付孔１１２８に、前構成部材１０００の取付ボス１０１０を挿入することで、パネルホルダ１１２０を前構成部材１０００の後側に取付けることができると共に、前構成部材１０００との間でパネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）を位置決めすることができる。
【０３４３】
また、パネルホルダ１１２０は、切欠部１１２７の上側で前後方向に貫通している四角い挿通孔１１２９を備えている。この挿通孔１１２９は、機能表示ユニット１４００の後端が挿通される。
【０３４４】
遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後側に取付けた状態では、前構成部材１０００のアウト誘導部１００３の後側にパネルホルダ１１２０のアウト口１１２６が開口した状態となる。これにより、遊技領域５ａの下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部１００３によって後側のアウト口１１２６へ誘導され、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出される。
【０３４５】
［５－２ａ．遊技パネルの第二実施形態］
次に、上記の遊技パネル１１００とは異なる実施形態の遊技パネル１１５０について、主に図６７及び図６８を参照して詳細に説明する。図６７は、図６３とは異なる形態の遊技パネルを、前構成部材、基板ホルダ、及び主制御ユニットと共に前から見た分解斜視図である。図６８は、図６７を後ろから見た分解斜視図である。この遊技パネル１１５０は、所定厚さ（例えば、１８ｍｍ～２１ｍｍ）のベニヤ合板等の木質板材によって形成されている。この遊技パネル１１５０は、上記の遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０と同じ厚さに形成されている。
【０３４６】
遊技パネル１１５０は、外形が前構成部材１０００の外形と略同形状に形成されている。遊技パネル１１５０は、正面視左右方向略中央の下部で前構成部材１０００のアウト誘導部１００３と対応した位置に前後方向へ貫通するアウト口１１５１を備えている。遊技パネル１１５０は、アウト口１１５１の後面下側が、アウト口１１５１と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。

【０３４７】
　また、遊技パネル１１５０は、下端の正面視左側に前後方向へ横長に貫通すると共に下方へ開放され前構成部材１０００の切欠部１０１１と同形状の切欠部１１５２と、切欠部１１５２の上側で上下方向に貫通しており機能表示ユニット１４００の後端が挿通される四角い挿通孔１１５３と、を備えている。
【０３４８】
　また、遊技パネル１１５０は、前構成部材１０００の内レール１００２から後方へ突出している複数の位置決め突起１００９と対応する位置に、位置決め突起１００９を嵌合可能な前後に貫通している複数の内レール固定孔１１５４を備えている。また、遊技パネル１１５０は、前構成部材１０００における複数の取付ボス１０１０と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔１１５５を備えている。これら複数の取付孔１１５５に、前構成部材１０００の取付ボス１０１０を挿入することで、遊技パネル１１５０を前構成部材１０００の後側に取付けることができると共に、前構成部材１０００との間で遊技パネル１１５０を位置決めすることができる。
【０３４９】
　更に、遊技パネル１１５０は、図示は省略するが、上記の遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の開口部１１１２と同様に、表ユニット２０００を取付けるための前後に貫通している複数の開口部が備えられている。
【０３５０】
　遊技パネル１１５０は、前構成部材１０００の後側に取付けた状態で、前構成部材１０００のアウト誘導部１００３の後側にアウト口１１５１が開口した状態となる。これにより、遊技領域５ａの下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部１００３によって後側のアウト口１１５１へ誘導され、アウト口１１５１を通って遊技パネル１１５０の後側へ排出される。
【０３５１】
［５－３．基板ホルダ］
　次に、基板ホルダ１２００について、主に図６４乃至図６５等を参照して説明する。基板ホルダ１２００は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。この基板ホルダ１２００は、遊技盤５に組立てた状態で、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３０００の下部を下側から覆うことができる。これにより、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出された遊技球、及び、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球、を全て受けることができ、底面に形成された排出部１２０１から下方へ排出させることができる。
【０３５２】
［５－４．主制御基板ユニット］
　次に、主制御ユニット１３００について、主に図６４乃至図６５等を参照して説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。この主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板１３１０と、主制御基板１３１０を収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。
【０３５３】
　主制御基板ボックス１３２０は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。
【０３５４】
　なお、主制御基板ボックス１３２０をはじめとした各種の基板ボックス９３０，９５０

，１３２０，１５２０，３０４２はいずれも、外部からの目視確認が可能とされるように透過性をもった部材として設けられている。すなわち後述するが、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特に、上記払出制御基板ボックス９５０内の払出制御基板９５１や上記主制御基板ボックス１３２０内の主制御基板１３１０において不正抑制性能で劣る表面実装領域が設けられるようになっていることから、後述の不正対策に関わる各種の作用効果を得る上でこのような透過性を確保しておくことは重要である。

【０３５５】

［５－５．機能表示ユニット］

次に、機能表示ユニット１４００について、主に図６４乃至図６６等を参照して説明する。機能表示ユニット１４００は、図示するように、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左下隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、遊技盤５をパチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の貫通口１１１を通して前方（遊技者側）から視認することができる（図６６を参照）。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

【０３５６】

機能表示ユニット１４００は、図６６に示すように、遊技状態を表示する一つのＬＥＤからなる状態表示器１４０１と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過により抽選される普通抽選結果を表示する四つのＬＥＤからなる普通図柄表示器１４０２と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過に係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器１４０８と、第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器１４０３と、第一始動口２００２への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器１４０４と、第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器１４０５と、第二始動口２００４への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器１４０６と、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「大当り」等の時に、大入賞口２００５の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する三つのＬＥＤからなるラウンド表示器１４０７と、を主に備えている。

【０３５７】

この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。

【０３５８】

［５－６．周辺制御ユニット］

次に、周辺制御ユニット１５００について、図６２を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられる遊技盤側演出表示装置１６００の後側に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基いて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、図示は省略するが、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部と、演出画像を制御するための演出表示制御部と、を備えている。

【０３５９】

［５－７．遊技盤側演出表示装置］

次に、遊技盤側演出表示装置１６００について、図６１乃至図６２を参照して説明する。遊技盤側演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。詳述すると、遊技盤側演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。この遊技盤側演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者

側）から視認することができる。この遊技盤側演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとしたフルカラーの液晶表示装置であり、静止画像や動画を表示することができる。

【０３６０】

遊技盤側演出表示装置１６００は、正面視左側面から外方へ突出している二つの左固定片１６０１と、正面視右側面から外方へ突出している右固定片１６０２と、を備えている。この遊技盤側演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の枠状の液晶取付部３０１０ｂ内の正面視左内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｃに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの左固定片１６０１を挿入した上で、右固定片１６０２側を前方へ移動させて、右固定片１６０２をロック機構３０２０の開口部内に挿入し、ロック機構３０２０を下方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。

【０３６１】

［５－８．表ユニット］

次に、表ユニット２０００について、図６０乃至図６２を参照して説明する。遊技盤５の表ユニット２０００は、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０に、前方から取付けられており、前端がパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出していると共に、後端が開口部１１１２を貫通してパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【０３６２】

本実施形態の表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能としており常時開口している複数の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２００３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる大入賞口２００５と、を備えている。

【０３６３】

複数の一般入賞口２００１は、遊技領域５ａ内の下部に配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に配置されている。ゲート部２００３は、遊技領域５ａ内における正面視右上で衝止部１００６の略直下に配置されている。第二始動口２００４は、ゲート部２００３の直下から正面視右寄りに配置されている。大入賞口２００５は、第一始動口２００２とアウト口１１２６との間に配置されている。

【０３６４】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に取付けられており第一始動口２００２及び大入賞口２００５を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿って取付けられており複数の一般入賞口２００１を有しているサイドユニット下２２００と、サイドユニット下２２００の正面視左端上方に取付けられているサイドユニット上２３００と、遊技領域５ａ内の略中央に取付けられており、ゲート部２００３、及び第二始動口２００４を有している枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０３６５】

始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口１１２６の直上に配置されており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２が、遊技球を一度に一つのみ受入可能な大きさで上方に向かって開口しており、大入賞口２００５が、遊技球を一度に複数（例えば、４個～６個）受入可能な大きさで左右に延びており、遊技状態に応じて開閉可能に形成されている。

【０３６６】

サイドユニット下２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿って円弧状に延びており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。サイドユニット下２２００は、常時遊技球を受入可能な複数の一般入賞口２００１を有している。

【０３６７】

サイドユニット上２３００は、遊技領域５ａ内において、サイドユニット下２２００の正面視左上方で上下方向中央からやや下寄りに前方からパネル板１１１０に取付けられている。サイドユニット上２３００は、パネル板１１１０の前面に取付けた状態で、棚部の左端が内レール１００２に接近しており、内レール１００２に沿って流下してきた遊技球を、右方（遊技領域５ａの左右方向中央）へ誘導させることができる。

【０３６８】

センター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００、及びサイドユニット下２２００よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に取付けられている。センター役物２５００は、枠状に形成されており、枠内を通して遊技パネル１１００の後方に配置された遊技盤側演出表示装置１６００や裏ユニット３０００に備えられている演出ユニット等を前方から視認することができる。センター役物２５００は、ゲート部２００３、及び第二始動口２００４を有している。

【０３６９】

枠状のセンター役物２５００は、下辺を除いた全周が、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、枠内に侵入できないようになっている。

【０３７０】

センター役物２５００は、正面視左側の外周面に、遊技領域５ａ内の遊技球が進入可能に開口しているワープ入口２５２０と、ワープ入口２５２０に進入した遊技球を放出可能とされ枠内に開口しているワープ出口２５２２と、ワープ出口２５２２から放出された遊技球を左右方向に転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出するステージ２５３０と、を備えている。ステージ２５３０の直下に始動口ユニット２１００が配置されており、ステージ２５３０の中央から遊技球が下方へ放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に遊技球が受入れられる。

【０３７１】

［５－９．裏ユニット］

次に、遊技盤５における裏ユニット３０００について、図６０乃至図６２を参照して説明する。裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられている。また、裏ユニット３０００の後側に遊技盤側演出表示装置１６００及び周辺制御ユニット１５００が取付けられている。

【０３７２】

裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａの下辺に沿って左右に延びた軸周りに回動可能に取付けられており演出駆動基板を収容している箱状の演出駆動基板ボックス３０４２と、を備えている。

【０３７３】

また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の前端で正面視左辺側の上下方向中央から上寄りに取付けられている裏左中装飾ユニット３０５０と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下方で裏箱３０１０の後壁付近に取付けられている裏下後可動演出ユニット３１００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上方で正面視左側に取付けられている裏上左可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内で開口部３０１０ａの正面視左側に取付けられている裏左可動演出ユニット３３００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上方で左右方向中央から正面視右端までにかけて取付けられている裏上中可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下方で裏

下後可動演出ユニット３１００の前方に取付けられている裏下前可動演出ユニット３５００と、を備えている。

【０３７４】

裏ユニット３０００の裏箱３０１０は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部３０１０ａと、開口部３０１０ａの周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部３０１０ｂと、液晶取付部３０１０ｂにおける背面視左辺において枠内の内側から外方へ向かって窪んでおり遊技盤側演出表示装置１６００の左固定片１６０１が挿入される二つの固定溝３０１０ｃと、液晶取付部３０１０ｂの背面視右辺の上下方向中央において後端から裏箱３０１０の後壁まで切欠かれロック機構３０２０が取付けられる切欠部３０１０ｄと、を備えている。

【０３７５】

開口部３０１０ａは、遊技盤側演出表示装置１６００の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部３０１０ｂは、枠内に遊技盤側演出表示装置１６００を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱３０１０は、後面における切欠部３０１０ｄの背面視左側にロック機構３０２０が上下にスライド可能に取付けられる。

【０３７６】

また、裏箱３０１０は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部３０１０ｅを備えている。この固定片部３０１０ｅは、前面が遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０の後面に当接した状態で、パネルホルダ１１２０に取付けられる。裏箱３０１０は、各可動演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【０３７７】

裏ユニット３０００は、裏下後可動演出ユニット３１００、裏上左可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏上中可動演出ユニット３４００、及び裏下前可動演出ユニット３５００、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０３７８】

［６．遊技内容］

次に、本実施形態のパチンコ機１による遊技内容について、図６０等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の前面右下隅に配置されたハンドルユニット３００のハンドル３０２を遊技者が回転操作することで、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球が、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間を通って遊技領域５ａ内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始される。遊技領域５ａ内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物２５００の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球の打込み強さは、ハンドル３０２の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大１００個の遊技球、つまり、０．６秒間隔で遊技球を打込むことができる。

【０３７９】

また、遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘（図示は省略）が遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面に植設されており、遊技球が障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域５ａ内には、障害釘の他に、遊技球の当接により回転する風車（図示は省略）が適宜位置に備えられている。

【０３８０】

センター役物２５００の上部へ打込まれた遊技球は、センター役物２５００の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、図示しない複数の障害釘に当接しながら、センター役物２５００よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物２５００の左側の領域を流下する遊技球が、センター役物２５００の外周面に開口しているワープ入口２５２０に進入すると、ワープ出口２５２２からステージ２５３

０に供給される。
【０３８１】
ステージ２５３０に供給された遊技球は、ステージ２５３０上を転動して左右に行ったり来たりして前方へ放出される。ステージ２５３０の中央から遊技球が遊技領域５ａ内に放出されと、第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この第一始動口２００２に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０３８２】
ステージ２５３０を転動している遊技球が、中央以外から遊技領域５ａ内に放出されと、始動口ユニット２１００へ向かって流下する。センター役物２５００のステージ２５３０から遊技領域５ａ内に放出された遊技球は、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２や、開状態の大入賞口２００５等に受入れられる可能性がある。
【０３８３】
ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球が、ワープ入口２５２０に進入しなかった場合、サイドユニット上２３００により左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット下２２００の一般入賞口２００１や第一始動口２００２等に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口２００１に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、１０個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０３８４】
一方、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球が、センター役物２５００の外周面の最も高くなった部位よりも右側に進入する（所謂、右打ちする）と、その下流側に、ゲート部２００３と第二始動口２００４とが備えられている領域を流下することとなる。
【０３８５】
そして、右打した遊技球が、ゲート部２００３を通過すると、主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第二始動口２００４が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、開状態となり、第二始動口２００４への遊技球の受入れが可能となる。そして、第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、４個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０３８６】
本実施形態では、ゲート部２００３を遊技球が通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、０．０１～６０秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。
【０３８７】
また、遊技球がゲート部２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球がゲート部２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部２００３を遊技球が通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。
【０３８８】
本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動当り」、「時間短縮当り」、等）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間

（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「小当り」、「２Ｒ大当り」、「５Ｒ大当り」、「１５Ｒ大当り」、「確変（確率変更）当り」、「時短（時間短縮）当り」、「確変時短当り」、「確変時短無し当り」、等がある。

【０３８９】

第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果の場合、特別変動時間の経過後に、大入賞口２００５が所定の開閉パターンで遊技球の受入れが可能な状態となる。大入賞口２００５が開状態の時に、大入賞口２００５に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出基板によって払出装置８３０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。従って、大入賞口２００５が遊技球を受入可能としている時に、大入賞口２００５に遊技球を受入れさせることで、多くの遊技球を払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０３９０】

特別抽選結果が「小当り」の場合、大入賞口２００５が、所定短時間（例えば、０．２秒～０．６秒の間）の間、遊技球を受入可能な開状態となってから閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、２回）繰返す。一方、特別抽選結果が「大当り」の場合、大入賞口２００５が、遊技球を受入可能な開状態となった後に、所定時間（例えば、約３０秒）経過、或いは、大入賞口２００５への所定個数（例えば、１０個）の遊技球の受入れ、の何れかの条件が充足すると、遊技球を受入不能な閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを１ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返す。例えば、「２Ｒ大当り」であれば２ラウンド、「５Ｒ大当り」であれば５ラウンド、「１５Ｒ大当り」であれば１５ラウンド、夫々繰返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させる。

【０３９１】

なお、「大当り」では、大当り遊技の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする「当り」がある。

【０３９２】

本実施形態では、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に対して、夫々４つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【０３９３】

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット１４００と遊技盤側演出表示装置１６００とで行われる。機能表示ユニット１４００では、主制御基板１３１０によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット１４００での特別抽選結果の示唆は、複数のＬＥＤを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているＬＥＤの組合せによって特別抽選結果を示唆する。

【０３９４】

一方、遊技盤側演出表示装置１６００では、主制御基板１３１０からの制御信号に基いて、周辺制御基板１５１０によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。遊技盤側演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の図柄からなる図柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各図柄列を変動させ

、変動表示されている図柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの図柄列の図柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の図柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの図柄列が停止して各図柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、小当り遊技、大当り遊技、等）が発生する。

【０３９５】

なお、機能表示ユニット１４００での特別抽選結果を示唆する時間（ＬＥＤの点滅時間（変動時間））と、遊技盤側演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する時間（図柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット１４００の方が長い時間に設定されている。

【０３９６】

また、周辺制御基板１５１０では、遊技盤側演出表示装置１６００による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠３における演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０や扉枠側演出表示装置４６０、センター役物２５００の各種装飾体、裏ユニット３０００の各種装飾体、裏下後可動演出ユニット３１００、裏上左可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏上中可動演出ユニット３４００、及び裏下前可動演出ユニット３５００、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０３９７】

［本実施形態と本発明の関係］

本実施形態における扉枠３は本発明の扉ユニットに、本実施形態における本体枠４は本発明の本体ユニットに、本実施形態の扉枠３における扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１は本発明の窓部に、本実施形態の扉枠３における皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６は本発明の膨出部に、本実施形態の演出操作ユニット４００及び第二演出操作ユニット４００Ａにおける操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１は本発明の第一装飾体に、本実施形態におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａは本発明の第一装飾部に、夫々相当している。

【０３９８】

また、本実施形態におけるベースユニットの操作ボタン内装飾部材、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるスクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２は本発明の第二装飾体に、本実施形態における操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇ、スクリーンユニット４７０の周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、及び周縁装飾部材４７８は本発明の第二装飾部に、夫々相当している。

【０３９９】

更に、本実施形態における操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されている各ＬＥＤとサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａとは本発明の発光体に、本実施形態における扉枠側演出表示装置４６０は本発明の奥側装飾手段に、本実施形態におけるフレームユニット４１５、ベースユニット４３０のユニットベース４３１、及び第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１は本発明のベース部に、夫々相当している。

【０４００】

［８．本実施形態の特徴的な作用効果］

このように、本実施形態のパチンコ機１によると、扉枠３における前方に膨出している皿ユニット３２０の前面に取付けられている演出操作ユニット４００（或いは、第二演出操作ユニット４００Ａ）の操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を外方から見ると、第

一ボタン装飾部４１１ａと操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるスクリーンユニット４７０の周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）とが重なった装飾、第一ボタン装飾部４１１ａと扉枠側演出表示装置４６０とが重なった装飾、等のこれまでにない遠近感のある装飾性に溢れた装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、他のパチンコ機との差別化を図ることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４０１】

また、ボタンレンズ４１１（操作ボタン４１０）の移動方向に操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ（スクリーンユニット４７０））、及び扉枠側演出表示装置４６０等を配置していると共に、ユニットベース４３１（ユニットベース４５１）によりボタンレンズ４１１を遊技者の操作によって移動させることができるように支持されているため、遊技者がボタンレンズ４１１を操作（押圧）して移動させると、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）とが近付いたり離れたりすることとなるため、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）との距離の変化により第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）とが重なって見える装飾の遠近感を変化させることが可能となり、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）とによる装飾（交差態様）を、遊技者自身によって変化させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４０２】

また、ボタンレンズ４１１の中央を、操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）とは反対側となる外方へ膨出させていることから、第一装飾体と第二装飾体との間に空間が形成されることとなるため、遊技者から見た時に、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａまでの距離と、操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、スクリーンユニット４７０の周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）までの距離とが、より大きく異なることとなり、ボタンレンズ４１１を操作して移動させていない状態でも、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、周縁装飾部４７２ａ、サブスクリーン装飾部材４７６、周縁装飾部材４７８、等）との交差態様（重なり具合）が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けることができる。

【０４０３】

更に、透明なボタンレンズ４１１の外周縁に、中央へ向かう放射状の装飾を有した第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１ａが備えられていない中央側を通して奥側の操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）や扉枠側演出表示装置４６０を、良好に視認させることができると共に、第一ボタン装飾部４１１ａの放射状の装飾によって遊技者の視線をボタンレンズ４１１の中央へ向けさせることができ、透明なボタンレンズ４１１の中央を通して操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）や扉枠側演出表示装置４６０に対して遊技者の関心を強く向けさせることができる。

【０４０４】

また、操作ボタン内装飾部材４３２に、中央を中心とした同心円状の複数の多角形の装飾を有した第二ボタン内装飾部４３２ｇを備えているため、外方から見た時に、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａの装飾と、操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇの装飾とが、互いに交差することとなり、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとによる装飾の遠近感を確実に発揮させることができ、

第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとによる装飾を目立たせて遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４０５】

また、操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇの装飾に、中央を中心とした同心円状の複数の多角形の装飾を有するようにしているため、第二ボタン内装飾部４３２ｇの装飾によって遊技者の視線や関心を操作ボタン内装飾部材４３２の中央に見える扉枠側演出表示装置４６０へ向けさせることができ、扉枠側演出表示装置の装飾（演出画像）を楽しませることができる。

【０４０６】

更に、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されている各ＬＥＤ（或いは、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａ）を発光させると、その光によって操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、サブスクリーン装飾部材４７６）を発光装飾させることができると共に、更に、ボタンレンズ４１１も発光装飾させることができるため、第一ボタン装飾部４１１ａや第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、サブスクリーン装飾部材４７６）の装飾に加えて発光装飾によっても遊技者を楽しませることができる。この際に、第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、サブスクリーン装飾部材４７６）によって操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の各ＬＥＤ（或いは、ＬＥＤ４７７ａ）からの光を拡散させることができることから、第二ボタン内装飾部４３２ｇでは、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の各ＬＥＤ（或いは、ＬＥＤ４７７ａ）からの直接的な光により発光装飾させられるのに対して、第一ボタン装飾部４１１ａでは、第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、サブスクリーン装飾部材４７６）により拡散された間接的な光により発光装飾させられることとなり、第二ボタン内装飾部４３２ｇ（サブスクリーン装飾部材４７６）が強く発光装飾されるのに対して第一ボタン装飾部４１１ａが弱く発光装飾されるため、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の各ＬＥＤ（或いは、ＬＥＤ４７７ａ）を発光させた状態で、外方から第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇ（或いは、サブスクリーン装飾部材４７６）とを見ると、より遠近感が強調された装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４０７】

また、ボタンレンズ４１１の移動する方向に操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を配置しているため、ボタンレンズ４１１や操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外周りよも外側の部位に、ボタンレンズ４１１が移動するためのスペースを確保する必要がなく、ボタンレンズ４１１や操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を外側に広げて、可及的に大きくすることが可能となり、大型化できることでボタンレンズ４１１や操作ボタン内装飾部材４３２（或いは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を目立たせることができる。また、上述したように、ボタンレンズ４１１の外側に、移動させるためのスペースを確保する必要がないため、ボタンレンズ４１１の外側の部位に、フレームユニット４１５を配置することで、パチンコ機１全体の装飾性を高めることができ、見栄えを良くして遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４０８】

また、ボタンレンズ４１１の中央を外方へ膨出させていることから、遊技者がボタンレンズ４１１を叩いたりして表面の一部に衝撃を加えた場合、ボタンレンズ４１１を平坦な形状とした場合と比較して、加えられた衝撃力が、ボタンレンズ４１１の全体に分散し易くなるため、ボタンレンズ４１１を壊れ難く（破損し難く）することができる。従って、

遊技中にボタンレンズ４１１が破損することで、遊技が中断してしまい、遊技者によっては苛立ちを覚えて興趣を低下させてしまうのを回避させることができると共に、ボタンレンズ４１１が破損し難くなることで、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０４０９】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、本体枠４内に配置されている遊技盤５の遊技領域５ａを、前方から貫通口１１１を通して視認可能としている扉枠３において、貫通口１１１の下側で前方に膨出している皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６に取付けられている演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）のユニットベース４３１（第二ベースユニット４５０）に、外径が１０ｃｍ～３０ｃｍの範囲内である約１５ｃｍの円形状で遊技者が操作することで可動する（進退する）操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の透明なボタンレンズ４１１を通して前方から視認可能な操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）と、操作ボタン４１０が枠内に配置される枠状のフレームユニット４１５と、を取付けていることから、従来のパチンコ機において遊技球の貯留皿が目立った位置に、可及的に大きな操作ボタン４１０を有した演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が見えるため、遊技者に対して一見しただけで従来のパチンコ機とは異なっていることを認識させることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。そして、フレームユニット４１５に透光性を有したフレームサイドレンズ４１７を備えると共に、フレームサイドレンズ４１７と隣接するように操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）の外縁に透光性を有した第二ボタン装飾部４１１ｂを備え、フレームサイドレンズ４１７と第二ボタン装飾部４１１ｂの後側でユニットベース４３１（第二ベースユニット４５０）に取付けられた操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させるための第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと、フレームサイドレンズ４１７を発光装飾させるための第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂと、を備えた上で、フレームサイドレンズ４１７と第二ボタン装飾部４１１ｂとの間を仕切るフレーム本体４１６の内側筒部４１６ｄと、第二ボタン装飾部４１１ｂとボタンレンズ４１１の中央側とを仕切るボタンベース４１３の本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆとを備えるようにしているため、内側筒部４１６ｄと本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆとにより、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光がフレームサイドレンズ４１７やボタンレンズ４１１の中央側を照らしたり、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が第二ボタン装飾部４１１ｂを照らしたりするのを防止することができ、隣接しているフレームサイドレンズ４１７と第二ボタン装飾部４１１ｂとを夫々独立させて発光装飾させることができる。従って、フレームサイドレンズ４１７や第二ボタン装飾部４１１ｂを、夫々くっきりと発光装飾させることができ、見栄えの良い発光演出を行うことができる。また、隣接しているフレームサイドレンズ４１７と第二ボタン装飾部４１１ｂとに対して、消灯、点灯、点滅、明るさ、色、等を適宜組合せることで、多彩なパターンの発光演出を行うことができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１０】

また、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させる第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させる第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとを、一つの操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に備え、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３をユニットベース４３１（第二ベースユニット４５０）に取付けているため、第二ボタン装飾部４１１ｂ（操作ボタン４１０）に基板を備えた場合と比較して、第二ボタン装飾部４１１ｂから第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを可及的に遠ざけることができ、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光を十分に拡散させた状態で第二ボタン装飾部４１１ｂに照射させることができる。従って、第二ボタン装飾部４１１ｂを均一に発光装飾させることができるため、第二ボタン装飾部４１１ｂやフレームサイドレンズ４１７の発

光装飾の見栄えを良くすることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１１】

更に、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３を、ユニットベース４３１（第二ベースユニット４５０）に取付けているため、操作ボタン４１０の進退に伴って操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に接続されている配線が屈曲したり伸展したりすることはなく、疲労による配線の断線を無くすことができる。従って、操作ボタン４１０（第二ボタン装飾部４１１ｂ）を可動させても、配線が断線することはないため、操作ボタン４１０の可動（操作）や、フレームサイドレンズ４１７及び第二ボタン装飾部４１１ｂの発光装飾を、問題なく遊技者に楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１２】

また、操作ボタン４１０の透明なボタンレンズ４１１の外縁に第二ボタン装飾部４１１ｂが備えられていることから、透明なボタンレンズ４１１を通して後方の操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を見た時に、操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外縁を第二ボタン装飾部４１１ｂが装飾している状態となり、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。そして、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａや第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを適宜発光させることで、後方に操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）が見える透明なボタンレンズ４１１の外縁を装飾している第二ボタン装飾部４１１ｂやフレームサイドレンズ４１７を、上述したように、様々なパターンで発光装飾させることができるため、遊技者の関心を操作ボタン４１０や扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）に強く引付けさせることができ、発光演出や操作ボタン４１０の操作、及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）による演出画像等を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１３】

また、外縁に第二ボタン装飾部４１１ｂが備えられたボタンレンズ４１１（操作ボタン４１０）を、遊技者によって操作可能としているため、遊技者参加型演出の実行中に、操作ボタン４１０を遊技者に操作させるようにすることで、遊技者に対して操作ボタン４１０の操作（遊技者参加型演出）を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。そして、遊技者参加型演出の実行時に、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂやフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることで、遊技者の関心を操作ボタン４１０に引付けることができるため、遊技者に対して操作ボタン４１０の操作を促すことができ、遊技者を遊技者参加型演出に参加させて楽しませることができる。

【０４１４】

更に、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａによって発光装飾可能としている不透光性の本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆを備えていため、操作ボタン４１０における第二ボタン装飾部４１１ｂよりも中央側の部位が第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａによって発光装飾させられる（照らされる）ことはなく、操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）の中央側が明るくなることで後方に配置されている操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）が前方から見辛くなるのを防止することができる。従って、第二ボタン装飾部４１１ｂを良好な状態で発光装飾させることができると共に、透明なボタンレンズ４１１を通して後方の操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を良好な状態で視認させることができ、遊技者に対して装飾や発光演出等を十分に楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１５】

また、内側筒部４１６ｄを、フレームサイドレンズ４１７を備えたフレームユニット４

１５の後側から延びるようにしているため、フレームユニット４１５の後側では、フレームサイドレンズ４１７と操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂとの間を内側筒部４１６ｄによって完全に仕切ることができる。一方、内側筒部４１６ｄにおける操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に近い側の端部（後端部）では、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａや第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が拡散範囲よりも内側筒部４１６ｄの後端が、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に近い側に位置しているため、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３の前面との間に隙間が形成されていても、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光がフレームサイドレンズ４１７を照らしたり、第二ＬＥＤ４２２ｂ４２３ｂからの光が第二ボタン装飾部４１１ｂを照らしたりすることはない。従って、内側筒部４１６ｄによって光を確実に遮ることができ、上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機１を具現化することができる。

【０４１６】

また、ボタンベース４１３の本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆを、操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）の後側から延びるようにしているため、操作ボタン４１０の後側では、第二ボタン装飾部４１１ｂとボタンレンズ４１１の中央側との間を、本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆによって完全に仕切ることができる。一方、本体部４１３ａにおける操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に近い側の端部（後端部）では、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３よりも後方へ延びているため、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの後端を潜ることはなく、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１の中央側への光の浸入を完全に遮断することができる。従って、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａによって第二ボタン装飾部４１１ｂを良好な状態で発光装飾させることができると共に、透明なボタンレンズ４１１を通して後方の操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を良好な状態で視認させることができ、遊技者に対して装飾や発光演出等を十分に楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１７】

また、前方から見た時に、操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）の後方に配置された操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外側の部位の前方に第二ボタン装飾部４１１ｂが位置することとなるため、ボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）との間の隙間から、操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外側にあるの部材や後側（奥側）を第二ボタン装飾部４１１ｂによって見え難くすることができ、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができる。また、この際に、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａによって第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させると、第二ボタン装飾部４１１ｂの明るさに対して、操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外側や後側が相対的に暗くなるため、操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）の外側や後側にある部材を見え難くすることができる。従って、操作ボタン４１０、フレームユニット４１５、操作ボタン内装飾部材４３２及び扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）、等の見栄えをより向上させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１８】

また、操作ボタン４１０の外周形状を円形状としているため、操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）の外縁に備えられている第二ボタン装飾部４１１ｂと、第二ボタン装飾部４１１ｂに隣接しているフレームサイドレンズ４１７が、円弧状に延びた形態となる。従って、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａや第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを適宜発光させることで、操作ボタン４１０の外縁を光がグルグル回るような発光演出や、操作ボタン４１０の内側から外側へ光が広がるような発光演出や、操作ボタン４１０の外側から内側へ光が収束するような発光演出、等を遊技者に見せることができるため、多彩な発光演出に

よって遊技者を飽き難くさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４１９】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、扉枠３における皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６に、貯留されている遊技球が遊技領域５ａ内に打込まれて遊技に用いられる上皿３２１を取付けると共に、上皿３２１の前側且つ下方に演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を着脱可能に取付けて演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方に所定広さの取付空間３２６ｊの残りの空間を形成し、その取付空間３２６ｊの残りの空間の左側に下皿本体３２５における下皿第一領域Ａ１に対応する部位を配置すると共に、その部位から取付空間３２６ｊの残りの空間内に下皿本体３２５における下皿第二領域Ａ２に対応する部位を延出させて遊技球を貯留可能な下皿３２２を取付けるようにしているため、前方から見た時に下皿３２２が小さく見えることとなり、下皿３２２を目立ち難くすることができ、相対的に演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を目立ち易くすることができる。従って、本パチンコ機１を前方から見た時に、従来のパチンコ機では上皿と下皿とが上下に並んで見えていた位置に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が見えるため、遊技者に対して一見しただけで従来のパチンコ機とは異なっていることを認識させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４２０】

また、下皿３２２の下皿本体３２５における下皿第二領域Ａ２の部位において、外周から上方へ延出した本体立壁部３２５ｂの上端から上方へ延出し、取付空間３２６ｊの残りの空間側への遊技球の移動を規制する下皿カバー３４０，３４０Ａを備えているため、下皿３２２内の遊技球が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に接触するのを阻止することができ、下皿３２２内に供給された遊技球や下皿３２２に貯留されている遊技球が、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に当接したり押圧したりするのを防止することができる。従って、遊技球が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に当接することはなく、遊技球によって演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側が破損することはないため、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の破損により遊技が中断することで遊技者の興趣を低下させてしまうのを防止することができると共に、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０４２１】

また、下皿３２２の下皿本体３２５における下皿第二領域Ａ２の部位に、本体立壁部３２５ｂと取付空間３２６ｊの残りの空間側へ遊技球が移動するのを規制する下皿カバー３４０，３４０Ａとを備えているため、遊技球が下皿本体３２５から取付空間３２６ｊの残りの空間内へ侵入する（こぼれる）のを防止することがでる。従って、遊技球が取付空間３２６ｊの残りの空間内に侵入することで、遊技者が損した気分になったり、不快な気分になったりするのを防止することができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４２２】

また、下皿カバー３４０，３４０Ａによって、下皿３２２における下皿本体３２５の下皿第二領域Ａ２の部位を覆っているため、下皿３２２内に供給され遊技球が、下皿３２２内で跳ねて飛び上がっても、取付空間３２６ｊの残りの空間側へ侵入するのを確実に防止することができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。また、下皿カバー３４０，３４０Ａによって下皿本体３２５の下皿第二領域Ａ２の部位を覆っていることから、遊技者が、下皿本体３２５の下皿第一領域Ａ１側（下皿開口部３２６ｄ）から下皿第二領域Ａ２の部位内に手を入れた時に、下皿カバー３４０，３４０Ａにより指先等が取付空間３２６ｊの残りの空間側へ侵入するのを規制することができるため、指先等が上皿３２１の下面や演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側等に触れて怪

我をするのを防止することができ、遊技者に対して安全な状態で遊技させることができる。

【０４２３】

更に、下皿カバー３４０，３４０Ａと演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）との間に隙間を有しているため、下皿カバー３４０，３４０Ａに遊技球の当接による衝撃や圧力等が作用しても、下皿カバー３４０，３４０Ａから演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）へ伝達されることはなく、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の破損を確実に防止することができる。

【０４２４】

また、下皿３２２の下皿本体３２５における下皿第二領域Ａ２の部位において、下皿球供給口３２３ｃの前方に下皿球抜き孔３２２ａを備えているため、下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態では、下皿球供給口３２３ｃから放出された遊技球をそのまま下皿球抜き孔３２２ａに進入させて下方（ドル箱）へ排出させることができ、遊技球を下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側に到達し難くすることができる。たとえ、遊技球が下皿球抜き孔３２２ａを飛び越えたとしても、上述したように下皿カバー３４０，３４０Ａを備えていることから、遊技球が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に当接するのを阻止することができるため、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の破損を防止することができ、遊技の中断を低減させて遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４２５】

また、下皿３２２の前端付近の下皿本体３２５の底壁部３２５ａが、前方へ向かうほど高くなっているため、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側へ向かう遊技球が、傾斜した底面を登ることとなり、遊技球の移動速度を減衰させることができる。従って、下皿カバー３４０，３４０Ａに当接する遊技球の速度を遅くすることができるため、下皿カバー３４０，３４０Ａによって遊技球が取付空間３２６ｊの残りの空間側へ移動するのを確実に規制することができると共に、遊技球が下皿カバー３４０，３４０Ａや本体立壁部３２５ｂに当接した時の衝撃を小さくしてそれらが破損するのを抑制させることができる。

【０４２６】

また、少なくとも下皿カバー３４０，３４０Ａを別部材としているため、下皿カバー３４０，３４０Ａが破損した時に、下皿カバー３４０，３４０Ａを交換するだけで、容易に修復することができ、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担の増加を軽減させることができる。

【０４２７】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、一般入賞口２００１等に遊技球を受入させるような遊技が行われる遊技盤５の遊技領域５ａの下方に、前面の左右方向中央が最も前方へ膨出した皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６に備えた上で、その最も前方へ膨出した部位に演出操作ユニット４００や第二演出操作ユニット４００Ａ着脱可能に取付けると共に、皿ユニットカバー３２６に上皿３２１と下皿３２２とからなる遊技球を貯留可能な貯留皿を備え、貯留皿（上皿３２１及び下皿３２２）に、正面視において演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の外方に位置する下皿第一領域Ａ１と正面視において演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方となる取付空間３２６ｊの後部の空間内に位置する下皿第二領域Ａ２とを有するようにしているため、前方から見た時に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を目立たせることができると共に、貯留皿（上皿３２１及び下皿３２２）を小さく見せて目立ち難くすることができる。従って、従来のパチンコ機では上皿と下皿とが見えていた部位に目立つ演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が見えるため、遊技者に対して従来のパチンコ機とは異なる遊技機であることを一見して認識させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４２８】
　また、皿ユニットカバー３２６の前面の左右方向中央に演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が取付けられていることから、皿ユニットカバー３２６の表面における下皿３２２が開口している部位が小さくなるが、正面視において演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方となる取付空間３２６ｊの後部の空間内に位置する下皿第二領域Ａ２を有した下皿本体３２５の第一増設部３２５Ｂ、第二増設部３２５Ｃ、及び下皿カバー３４０，３４０Ａを、備えているため、下皿３２２における前方から見えない範囲（下皿第二領域Ａ２）にも遊技球を貯留することができる。従って、前方からの見た目に反して遊技球の貯留量を十分に確保することができるため、遊技者に対して、下皿３２２内における遊技球の残量を気にさせることなく遊技に専念させることができ、遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０４２９】
　更に、下皿第一領域Ａ１を有している下皿本体３２５や本体部３２５Ａに、下皿第二領域Ａ２を有している下皿カバー３４０，３４０Ａや第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃを取付けて（組合せて）下皿３２２を構成しているため、予め大きさの異なる複数の下皿カバー３４０，３４０Ａや第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃ等を用意しておき、パチンコ機１のコンセプトや皿ユニットカバー３２６内の取付空間３２６ｊの広さ等に応じた大きさの下皿カバー３４０，３４０Ａや第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃを取付けることで、下皿３２２の容積を最適なものとすることができる。また、上述したように、下皿カバー３４０，３４０Ａや第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃを組替える（取替える）ことで、取付空間３２６ｊの後部の空間の広さに対応させることができ、この後部の空間の広さが演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方への突出量に依存していることから、後方の突出量の異なる様々な演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）に対応可能な下皿３２２とすることができ、パチンコ機１の汎用性を高めることができる。
【０４３０】
　また、下皿３２２に、底壁部３２５ａと、底壁部３２５ａの外周端から立上った本体立壁部３２５ｂとを備えているため、下皿３２２が下方へ窪んだ容器状となり、遊技球を確実に貯留させることができる。また、下皿カバー３４０，３４０Ａに、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から立上ったカバー立壁部３４０ａを有しているため、予め様々な形状の下皿カバー３４０，３４０Ａを用意しておき、パチンコ機１のコンセプトや取付空間３２６ｊの後部の空間の広さ（形状）等に応じた形状の下皿カバー３４０，３４０Ａを組合せる（取付ける）ことで、様々な形態に対応させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。
【０４３１】
　また、下皿本体３２５と下皿カバー３４０，３４０Ａとで構成されている下皿３２２において、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端に下皿カバー３４０，３４０Ａを組合せて（取付けて）いることから、下皿３２２における遊技球が載置される部位が下皿本体３２５となるため、貯留により多くの遊技球の荷重がかかる部位に、下皿本体３２５と下皿カバー３４０，３４０Ａとの境界（繋ぎ目、分割線ＰＬ）が位置することはない。従って、貯留された遊技球の荷重を下皿本体３２５でのみ受けることとなるため、多くの遊技球を貯留させても下皿本体３２５から下皿カバー３４０，３４０Ａが引離されるような力が作用することはなく、下皿本体３２５から下皿カバー３４０，３４０Ａが外れるのを防止することができる。
【０４３２】
　更に、本実施形態のパチンコ機１によると、一般入賞口２００１等に遊技球を受入させるような遊技が行われる遊技盤５の遊技領域５ａの下方且つ前方に、遊技球を貯留可能な上皿３２１と下皿３２２とを備えていると共に、左右方向中央に配置された演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）によって下皿３２２内の下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとを含む下皿３２２の半分以上を前方（遊技者）から視認困

難としている（見え難くしている）ため、パチンコ機１の外観をすっきりさせて見栄えを良くすることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。また、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）によって下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ向かう遊技球を視認困難としているため、遊技者に対して下皿３２２内における遊技球の流れに気付かせ難くして気が散るのを防止することができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３３】

また、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）によって、下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ遊技球を誘導する下皿３２２における底面の下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとの間の部位、球誘導部３２２ｃ及び緩衝部３２２ｄ等の誘導手段により誘導されている遊技球を視認困難としているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いたままの状態とすると、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球が、誘導手段に誘導されてスムーズ（即座）に下皿球抜き孔３２２ａから下方へ排出されることとなり、遊技者に対して下皿３２２を通ることなく遊技球が下皿３２２の下方（ドル箱）へ排出されているように錯覚させることができる。これにより、遊技者に対して、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３４】

更に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）によって、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａ等を含む下皿３２２の半分以上を前方から視認困難としていることから、蓋然的に、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａ等が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方に位置している。つまり、下皿３２２の半分以上を、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方へ回り込ませるようにしているため、前方から見える下皿３２２の大きさに対して、実際の下皿３２２の大きさ（容量）が大きくなっているため、見た目に比べて下皿３２２内における遊技球の貯留量を十分に確保することができる。

【０４３５】

また、下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内に放出された遊技球を、下皿３２２における底面の下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとの間の部位、球誘導部３２２ｃ及び緩衝部３２２ｄ等の誘導手段によって下皿球抜き孔３２２ａへスムーズに誘導して下皿３２２の下方（ドル箱）へ排出させることができるため、遊技球が下皿３２２内を回るように流通するのを防止することができ、下皿３２２内を流通する遊技球を前方（遊技者）から確実に視認困難な状態とすることができる。従って、遊技者に対して下皿３２２内における遊技球の流れに気付かせ難くすることができ、遊技者の気が散るのを防止して遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３６】

更に、下皿球抜き孔３２２ａを開いたままの状態とすると、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球を、球誘導部３２２ｃ等によって遊技者に気付かせることなく即座に下皿球抜き孔３２２ａから下方へ排出させることができるため、遊技者に対して下皿３２２を通ることなく遊技球が下皿３２２の下方（ドル箱）へ排出されているように錯覚させることができる。これにより、遊技者に対して、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３７】

また、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）によって、下皿３２２の平面視における遊技球の貯留領域（貯留面積）の半分以上を前方から視認困難としていることから、前方から見える下皿３２２の大きさに対して、実際の下皿３２２は、見える大きさの倍以上あるため、従来のパチンコ機の下皿と同様に、遊技球の貯留量を十分に確保することができる。

【０４３８】
更に、本実施形態のパチンコ機１によると、一般入賞口２００１等に遊技球を受入させるような遊技が行われる遊技盤５の遊技領域５ａの正面視下方で前方へ膨出している扉枠３の皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の前面の左右方向中央に、皿ユニットカバー３２６の全高と同じ高さの大型の演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を取付けるための演出操作ユニット取付部３２６ａを備えていると共に、皿ユニットカバー３２６の前面における演出操作ユニット取付部３２６ａの左右両側で上下方向略中央よりも下側の皿前下装飾部３２６ｃを、後方へ抉れるように凹んだ形状としているため、演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられた演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が、前方へ大きく突出しているように見せることができ、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を目立たせることができる。従って、従来のパチンコ機において上皿と下皿とが上下に並んで見えていた位置に、大型の演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が強調された状態で見えるため、遊技者に対して一見しただけで従来のパチンコ機とは異なっていることを認識させることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。そして、皿ユニットカバー３２６の前面における演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の左右両外側で後方へ凹んでいる皿前下装飾部３２６ｃから、下皿３２２を後方へ窪ませていると共に一部を演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方へ回り込ませており、下皿３２２内における遊技球の貯留量（下皿３２２の容積）を十分に確保することができるため、下皿３２２が遊技球で満杯になるのを気にしながら遊技しなくても良く、遊技者を遊技に専念させることができ、遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４３９】
また、下皿３２２の一部が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方へ回り込んでいるため、遊技者が前方から下皿３２２内に手を入れた時に、指先が下皿３２２の後壁（皿ユニットベース３２３の前面）や下皿カバー３４０等に触れ難くすることができる。これにより、遊技者に対して触覚でも遊技球の貯留量が十分に確保されていることを認識させることができると共に、下皿３２２内に遊技球が貯留されている状態では、下皿３２２内に多くの遊技球が貯留されていることを認識できるため、遊技者に対して満足感を付与させることができ、遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、下皿３２２に入れた手の指先が、下皿３２２の後壁や下皿カバー３４０等に触れ難いことから、遊技者に対して従来のパチンコ機における下皿と同じような感覚を与えることができるため、従来のパチンコ機に慣れた遊技者に対して、違和感を与えてしまうのを低減させることができ、遊技者を安心させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４４０】
更に、下皿３２２を、奥側（後方）へ行くほど広くなるように形成しているため、前側が小さくても、遊技球の貯留量を十分に確保することができる。換言すると、下皿３２２の前端側の部位を小さくしているため、下皿３２２が開口している皿ユニットカバー３２６の前面（皿前下装飾部３２６ｃ）において、下皿３２２を目立ち難くすることができ、相対的に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を目立ち易くすることができる。従って、下皿３２２における遊技球の貯留量を十分に確保しつつ演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を備えることができ、遊技者に対する訴求力を高めることができると共に、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４４１】
また、下皿３２２における演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方に回り込んでいる部位の側方及び上方を下皿カバー３４０で覆っているため、遊技者が下皿３２２内に手を入れた時に、指先等が皿ユニットカバー３２６の内面や演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後面等に触れて怪我をするのを防止

することができ、遊技者に対して安全な状態で遊技させることができる。また、下皿カバー３４０により、下皿３２２から皿ユニットカバー３２６内へ遊技球が侵入する（こぼれる）のを防止することができる。

【０４４２】

更に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を、皿ユニットカバー３２６の前面の左右方向中央に配置しているため、遊技者側から演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）をより目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）による装飾を見え易くするとことができ、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の装飾や演出を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４４３】

また、下皿３２２に、上皿３２１と連通可能な下皿球供給口３２３ｃと、開閉可能に上下へ貫通している下皿球抜き孔３２２ａと、を備えていることから、従来のパチンコ機における下皿と同じ機能を有しているため、従来のパチンコ機に慣れた遊技者が、本パチンコ機１で遊技した時に、下皿３２２の機能に対して戸惑うことはなく、従来と同じような感じで遊技を行うことができ、遊技者を遊技に専念させて遊技を楽しませることができる。また、下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとを演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方に夫々配置しているため、正面から見ると下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとが、遊技者側から見えず、パチンコ機１の外観をすっきりさせて見栄えを良くすることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４４４】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、扉枠３における遊技領域５ａが臨むの扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側で、前方に膨出している皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６に取付けられている演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）のベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）に、遊技者に演出を提示可能な扉枠側演出表示装置４６０の外側を装飾している操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０）を取付けると共に、操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）の外周を囲むように外径が約１５ｃｍで中央がベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）から遠ざかる方向（外方）へ膨出している透明なボタンレンズ４１１を有した操作ボタン４１０を取付け、ボタンレンズ４１１の外周縁に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２を備えていると共に、ボタンレンズ４１１側からベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）側へ突出している筒状のボタンベース４１３を備えているため、第一ボタン装飾部４１１ａやボタンベース４１３等によってボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間から操作ボタン内装飾部材４３２（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０）の外縁や奥側（後側）等が見えるのを低減させることができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。従って、操作ボタン４１０や内部に備えられた操作ボタン内装飾部材４３２や扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）等の見栄えをより向上させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４４５】

また、操作ボタン４１０における第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、ボタンフレーム４１２、及びボタンベース４１３によってボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間から操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）の外縁や奥側等を見え難くすることができることから、操作ボタン４１０の外径を大きくすることでボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間が相対的に大きくなっても

、第一ボタン装飾部４１１ａ等によって良好に隠すことができるため、見栄えの悪化を防止しつも、外径が約１５ｃｍの大型の操作ボタン４１０（ボタンレンズ４１１）を問題なく具現化することができる。従って、操作ボタン４１０や扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を大型化することができるため、本パチンコ機１を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けて訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４４６】

更に、ボタンレンズ４１１側からベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）側へ筒状に突出しているボタンベース４１３（本体部４１３ａ）を備えているため、ボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）の間の隙間を斜めから見た時に、ボタンベース４１３の内壁によって操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）よりも外側にあるものを遮蔽して見えなくすることができ、操作ボタン４１０の見栄えをより一層良くすることができる。

【０４４７】

また、透明なボタンレンズ４１１を、ベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）から遠ざかる方向（外方）へ膨出した立体形状（半球面体状）としていることから、ボタンレンズ４１１の外周縁付近の表面が、ボタンベース４１３の前端側の開口により形成される平面（ベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）とボタンレンズ４１１とが並んでいる方向と直交する平面、つまり、操作ボタン４１０の進退方向と直交する平面）に対して傾斜している状態となるため、遊技者側から見ると光が屈折し易くなる。従って、外周縁に備えられている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２とボタンベース４１３とを合せて、ボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間から操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）の外縁や奥側等を見え難くすることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【０４４８】

また、ボタンレンズ４１１を外方へ膨出した立体形状に形成していることから、操作ボタン４１０内の容積が大きくなるため、操作ボタン４１０内に配置される操作ボタン内装飾部材４３２や扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を、より大きくしたり可動させ易くしたりすることが可能となり、操作ボタン４１０内により遊技者を楽しませられる扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を備え易くすることができ、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１を具現化することができる。

【０４４９】

更に、ボタンレンズ４１１を立体形状に形成しているため、操作ボタン４１０に意匠性（装飾性）が付与されることとなるため、本パチンコ機１において操作ボタン４１０を目立たせて遊技者の関心を向けさせることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０４５０】

また、ボタンレンズ４１１の外周縁に備えられている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２において、ボタンフレーム４１２を不透明としているため、ボタンフレーム４１２の部位では、ボタンレンズ４１１と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間から操作ボタン４１０や操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）等の奥側が見えるのを確実に隠すことができ、操作ボタン４１０等の見栄えの悪化を低減させて見栄えを良くすることができる。

【０４５１】

また、ボタンレンズ４１１の外周端から内側へ所定幅で全周に亘って不透明なボタンフレーム４１２を備えており、第一ボタン装飾部４１１ａ及び第二ボタン装飾部４１１ｂと協働して、遊技者側から操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の本体部４１３ａ

と操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間を見え難くすることができるため、本体部４１３ａと操作ボタン内装飾部材４３２（スクリーンユニット４７０）との間の隙間を大きくすることが可能となり、その分、操作ボタン４１０や扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０が動くスペースを確保し易くすることができ、それらを良好に可動させることができる。

【０４５２】

更に、ボタンレンズ４１１の外周を円筒状としているため、多角形状とした場合と比較して、外周に方向性が無くなることから操作ボタン４１０をスムーズに可動させ易くすることができる。従って、操作ボタン４１０を大型化しても問題なく押圧操作することができ、遊技者に対して操作ボタン４１０を用いる遊技者参加型演出を確実に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４５３】

また、操作ボタン４１０を大型化していることから、遊技者に対して操作ボタン４１０を操作させる遊技者参加型演出を実行した時に、操作ボタン４１０の位置を確認しながら操作しなくても容易に操作ボタン４１０に触れて押圧操作させ易くすることができるため、遊技者に対して操作ボタン４１０を用いた遊技者参加型演出に参加させ易くすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４５４】

更に、操作ボタン４１０内に扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を備えているため、遊技状態に応じて演出画像を提示することで、遊技者の関心を操作ボタン４１０内の扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）に強く引付けさせることができ、扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）による演出を楽しませることができると共に、扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）による演出画像や発光演出等により遊技者に対して操作ボタン４１０の操作を促すことができ、遊技者参加型演出に遊技者を積極的に参加させて楽しませることで興趣の低下を抑制させることができる。また、操作ボタン４１０内で演出が実行されることで、遊技者によっては何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４５５】

また、大型の操作ボタン４１０の透明なボタンレンズ４１１（第一ボタン装飾部４１１ａよりも内側の部位）を通して扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を視認することができるため、遊技者に対して本パチンコ機１の操作ボタン４１０が、従来のパチンコ機の操作ボタンとは明らかに異なるものであることを即座に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、遊技者の操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側演出表示装置４６０（扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ）を用いた演出に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４５６】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【０４５７】

すなわち、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０４５８】

また、上記の実施形態では、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周側となる部位に第一ボタン装飾部４１１ａを形成したものを示したが、これに限定するものではなく、第一ボタン装飾部４１１ａが形成されていない

ボタンレンズ４１１しても良い。
【０４５９】
　また、上記の実施形態では、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の外周縁に不透明なボタンフレーム４１２を取付けたものを示したが、これに限定するものではなく、ボタンフレーム４１２を取付けずに、ボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２と対応する部位に、全周に亘って後側を隠すための装飾部を形成するようにしても良い。
【０４６０】
　更に、上記の実施形態では、操作ボタン４１０において、ボタンレンズ４１１の外周縁から操作ボタン内装飾部材４３２や扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの外周の全周を囲むようにベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）側へ筒状に突出したボタンベース４１３（本体部４１３ａ）を備えたものを示したが、これに限定するものではなく、操作ボタン内装飾部材４３２や扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの外周の全周に対して一部のみ囲むように少なくとも一つベースユニット４３０（第二ベースユニット４５０）側へ突出したものであっても良い。このボタンベース４１３の形状としては、ボタンレンズ４１１の外周に沿った形状としても良いし、ボタンレンズ４１１の外周に沿っていない形状としても良い。ボタンベース４１３は、少なくとも内壁側に装飾（シールの貼付けや印刷等による平面的な装飾、レリーフ等の凹凸による立体的な装飾）を有していても良い。更に、ボタンベース４１３は、透光性であっても良いし、不透光性であっても良い。また、ボタンベース４１３は、有色であっても良いし、無色透明であっても良い。また、ボタンベース４１３を透明とした場合、内壁側又は外壁側の少なくとも一方に、シボ、スリット、プリズム、等の光拡散加工を施すことが望ましい。
【０４６１】
　また、上記の実施形態では、下皿３２２が、皿ユニットカバー３２６の前面における演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の左外側の部位からのみ後方へ窪んだ例を示したが、これに限定するものではなく、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の左右両側から後方へ窪み、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方において互いに繋がっているような下皿３２２としても良いし、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の右外側の部位からのみ後方へ窪み、一部が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方へ回り込んでいるようにしても良い。
【０４６２】
　更に、上記の実施形態では、皿ユニットカバー３２６の前面における下皿３２２が後方へ窪んでいる部位（皿前下装飾部３２６ｃ）の形状（下皿３２２の前端の形状）を、後方へ湾曲面状に凹んだ例を示したが、これに限定するものではなく、多角柱面状、或いは、多面体状に凹んだ前面としても良い。
【０４６３】
　また、上記の実施形態では、皿ユニットカバー３２６の前面に演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を取付けた例を示したが、これに限定するものではなく、「操作ダイヤル、タッチパネル等の操作装置を備えたもの」、「表面に装飾を有した回転体を備えたもの」、「装飾を有した装飾体と、装飾体を可動させる可動装置と、を備えたもの」、「遊技機のコンセプトに沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴ、及びシーン（ジオラマ）等を立体的に摸した装飾体を備えたもの」、「遊技機のコンセプトに沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴや、所定の摸様、等の装飾がシールや印刷等によって施されたもの」、等を備えたユニット或いはパネル等の部材を取付けても良い。また、取付空間３２６ｊ（演出操作ユニット取付部３２６ａ）に取付けられる部材は、一つである必要はなく、複数（二つ以上）の部材を取付けても良い。例えば、取付空間３２６ｊの上半分に取付けられる部材と、取付空間３２６ｊの下半分に取付けられる部材とのように、別々の部材を取付けるようにしても良い。
【０４６４】

また、上記の実施形態では、皿ユニットカバー３２６に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を取付けるための前方へ開口した演出操作ユニット取付部３２６ａを形成したものを示したが、これに限定するものではなく、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を取付けるための開口（演出操作ユニット取付部３２６ａ）を有していない皿ユニットカバー（例えば、パネル状のカバー部）とし、皿ユニットカバーの後方に、取付空間３２６ｊ（或いは、取付空間３２６ｊの残りの空間）に相当する空間を形成する構成としても良い。なお、このような皿ユニットカバーの前面には、遊技機のコンセプトに沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴ、所定の模様、等の装飾を、シール、印刷、装飾部材の取付け、等によって施すことが望ましい。

【０４６５】

更に、上記の実施形態では、下皿３２２の平面視における遊技球の貯留領域（貯留面積）の半分よりも若干大きい領域を、被覆部としての演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）により前方から視認困難に被覆する例を示したが、これに限定するものではなく、下皿３２２における遊技球の貯留領域の半分以下の領域を前方から視認困難とするようにしても良いし、下皿３２２の全体を前方から視認困難とするようにしても良い。

【０４６６】

また、上記の実施形態では、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を、周方向に対して部分的に備えた円弧状のものを示したが、これに限定するものではなく、第二ボタン装飾部４１１ｂやフレームサイドレンズ４１７が全周に亘って延びた円環状のものとしても良い。

【０４６７】

また、上記の実施形態では、演出操作ユニット４００における操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇとして、中央を中心とした同心円状の複数の多角形を有した装飾を示したが、これに限定するものではなく、第二ボタン内装飾部４３２ｇとして、中央を中心とした同心円状の複数の円形（楕円形を含む）を有した装飾としても良い。

【０４６８】

更に、上記の実施形態では、操作ボタン４１０の透明なボタンレンズ４１１（前部材）を通して、後側に配置された操作ボタン内装飾部材４３２や扉枠側演出表示装置４６０、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ等の後部材が常に視認できるようにしたものを示したが、これに限定するものではなく、前後（又は上下）に配置された、前部材及び後部材の少なくとも一方を、所定条件の充足により後側が視認可能となる可変光透過手段を有した構成としても良い。ここで、可変光透過手段としては、「マジックミラーのように、前側と後側の明るさの違いにより後側が視認可能となるもの」、「液晶フィルムのように、電源のＯＮ／ＯＦＦにより透明となったり不透明となったりして後側が視認可能となるもの」、等が挙げられる。なお、前部材と後部材とは、相対的に移動可能としても良いし、相対的に移動できないようにしても良い。

【０４６９】

前部材及び後部材の少なくとも一方に可変光透過手段を有するようにすることで、通常の状態では、前部材のみが、或いは、前部材と後部材とが、視認可能な状態となっており、視認可能な部材の装飾を遊技者に見せることができる。そして、特別な状態では、所定条件を充足させることで、通常の状態では見えなかった後側の部材（後部材、或いは、後部材の後側に配置されている部材）が見えることで、前部材と後部材が、或いは、前部材と後部材と後部材の後側の部材とが、重なった装飾を見せることができる。従って、前部材と後部材とを用いて様々な装飾（装飾演出）を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４７０】

具体的に詳述すると、例えば、前部材にマジックミラーのような可変光透過手段を有す

るようにした場合、通常の状態では、前部材の後側を暗くすることで、前部材の装飾のみを遊技者に視認させることができる。そして、前部材と後部材との間、或いは、後部材の後側、をＬＥＤ等の発光部の光により明るくすると、前部材における可変光透過手段の充足条件が満たされて、前部材を通して後部材が視認できるようになり、前部材の装飾と後部材の装飾とが重なった装飾を遊技者に見せることができる。

【０４７１】

或いは、前部材を透明とし、後部材にマジックミラーのような可変光透過手段を有するようにした場合、通常の状態では、前部材を通して後部材の表面が見えるため、前部材の装飾と後部材の表面とによる装飾を遊技者に見せることができる。そして、後部材の後側を、ＬＥＤ等の発光部の光により明るくすると、後部材における可変光透過手段の充足条件が満たされて、後部材を通して後側が視認できるようになり、前部材及び後部材を通して、後部材の後側の部材（例えば、表示装置、キャラクタ等の装飾体）を遊技者に見せることができる。

【０４７２】

更には、前部材と後部材の両方に、マジックミラーのような可変光透過手段を有するようにした場合、通常の状態では、前部材の装飾のみを遊技者に見せることができ、前部材と後部材との間を、ＬＥＤ等の発光部の光により明るくすると、前部材における可変光透過手段の充足条件が満たされて、前部材を通して後部材の表面が視認できるようになり、前部材と後部材とによる装飾を遊技者に見せることができる。一方、後部材の後側を、ＬＥＤ等の発光部の光により明るくする（或いは、前部材と後部材との間と後部材の後側とを同時に、ＬＥＤ等の発光部の光により明るくする）と、前部材及び後部材における夫々の可変光透過手段の充足条件が夫々満たされて、前部材及び後部材を通して、後部材の後側の部材（例えば、表示装置、キャラクタ等の装飾体）を遊技者に見せることができる。これにより、発光部の光により明るくする部位を適宜選択することで、視認可能となる範囲を多段階に変化させることができ、多彩な装飾を遊技者に楽しませることができる。

【０４７３】

なお、上記の具体例では、可変光透過手段を、マジックミラーのようなものとしていることから、後側を暗くしている状態では、鏡のように見えるため、前部材や後部材の表面においてキラキラした装飾を遊技者に見せることができる。

【０４７４】

また、上記の具体例では、可変光透過手段を、マジックミラーのようなものとして説明したが、液晶フィルムのようなものとした場合でも、同様の作用効果を奏することができる。また、液晶フィルムのようなものを可変光透過手段とした場合、不透明な状態でも光を透過させることができる（透光性を有している）ため、前部材と後部材との間や後部材の後側を、ＬＥＤ等の発光部の光により明るくさせる（又は、発光装飾させる）ことができるようにすれば、より多彩な発光演出や装飾演出等の演出を遊技者に見せることができる。

【０４７５】

［７．主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板］

次に、パチンコ機１の各種制御を行う制御基板について、図６９～図７４を参照して説明する。図６９は主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図であり、図７０は図６９のつづきを示すブロック図であり、図７１は主基板を構成する払出制御基板とＣＲユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図であり、図７２は図６９のつづきを示すブロック図であり、図７３は周辺制御ＭＰＵの概略を示すブロック図であり、図７４は液晶表示制御部における音源内蔵ＶＤＰ周辺のブロック図である。

【０４７６】

パチンコ機１は、その制御構成として、図６９に示すように、制御用電源（例えば、＋５Ｖなど）の生成処理のほか、賞球の払出しを含めた遊技に関する制御を行う第１制御部ＭＣＧと、該第１制御部ＭＣＧによって進行される遊技に関する演出を行う第２制御部Ｓ

ＣＧとを備えている。
【０４７７】
より具体的には、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、複数の基板を用意することにより各種制御が分担される構造を採用しており、上記第１制御部ＭＣＧとして、主制御基板１３１０、払出制御基板９５１、及び電源基板９３１を備えており、上記第２制御部ＳＣＧとして、周辺制御基板１５１０を備えている。以下、この実施の形態にかかるパチンコ機１の制御構成を説明するにあたり、まず、主制御基板１３１０、払出制御基板９５１、電源基板９３１の順に上記第１制御部ＭＣＧについて説明し、その後、上記第２制御部ＳＣＧ（周辺制御基板１５１０）について説明する。
【０４７８】
［７－１．主制御基板］
上記第１制御部ＭＣＧのうち、遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、図６９に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに遊技動作を制御するメイン制御プログラムなどの各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂと、各種信号を外部の基板等へ出力するための主制御出力回路１３１０ｃと、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄと、予め定めた電圧の停電又は瞬停の兆候を監視する停電監視回路１３１０ｅと、を主として備えている。
【０４７９】
主制御ＭＰＵ１３１０ａには、その内蔵されているＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）や、その内蔵されているＲＯＭ（以下、「主制御内蔵ＲＯＭ」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマ１３１０ａｆ（以下、「主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆ」と記載する。）や不正を防止するための機能等も内蔵されている。
【０４８０】
また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭが内蔵されている。この不揮発性のＲＡＭには、主制御ＭＰＵ１３１０ａを製造したメーカによって個体を識別するためのユニークな符号（世界で１つしか存在しない符号）が付された固有のＩＤコードが予め記憶されている。この一度付されたＩＤコードは、不揮発性のＲＡＭに記憶されるため、外部装置を用いても書き換えることができない。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出して参照することができるようになっている。
【０４８１】
また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための大当り判定用乱数をハードウェアにより更新するハード乱数回路１３１０ａｎ（以下、「主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎ」と記載する。）が内蔵されている。この主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎは、予め定めた数値範囲（本実施形態では、最小値として値０～最大値として値３２７６７という数値範囲が予め設定されている。）内において乱数を生成し、初期値として予め定めた値が固定されておらず（つまり、初期値が固定されておらず）、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされるごとに異なる値がセットされるように回路構成されている。具体的には、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎは、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号（後述する主制御水晶発振器から出力されるクロック信号）に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが繰り返し行い、主制御ＭＰＵ１３

１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎから値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが抽出した値を大当り判定用乱数としてセットするようになっている。

【０４８２】

主制御入力回路１３１０ｂは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、主制御入力回路１３１０ｂは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、主制御入力回路１３１０ｂは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０４８３】

主制御出力回路１３１０ｃは、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂと、から構成されている。リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０４８４】

図６０に示した、第一始動口２００２に入球した遊技球を検出する第一始動口センサ４００２、第二始動口２００４に入球した遊技球を検出する第二始動口センサ４００４、及び一般入賞口２００１に入球した遊技球を検出する一般入賞口センサ４０２０からの検出信号や停電監視回路１３１０ｅからの信号は、主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。また、図６０に示した、ゲート部２００３を通過した遊技球を検出するゲートセンサ４００３、大入賞口２００５に入球した遊技球を検出するカウントセンサ４００５、及び図９に示した裏ユニット３０００に取り付けられて磁石を用いた不正行為を検出する磁気検出センサ４０２４からの検出信号は、遊技盤５に取り付けられたパネル中継基板４１６１、そして主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【０４８５】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、これらの各スイッチからの検出信号に基づいて、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄに制御信号を出力し、主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄからパネル中継基板４１６１を介して始動口ソレノイド２１０７及びアタッカソレノイド２１０８に駆動信号を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力

回路１３１０ｃａからパネル中継基板４１６１、そして機能表示ユニット１４００を介して第一特別図柄表示器１４０３、第二特別図柄表示器１４０５、第一特別保留数表示器１４０４、第二特別保留数表示器１４０６、普通図柄表示器１４０２、状態表示器１４０１、及びラウンド表示器１４０７に駆動信号を出力したりする。

【０４８６】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから払出制御基板９５１に遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに信号（停電クリア信号）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから停電監視回路１３１０ｅに信号（停電クリア信号）を出力したりする。

【０４８７】

なお、本実施形態において、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、ゲートセンサ４００３、及びカウントセンサ４００５には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ４０２０，４０２０には、接触タイプのＯＮ／ＯＦＦ動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球が第一始動口２００２や第二始動口２００４に頻繁に入球するし、ゲート部２００３を頻繁に通過するため、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ４００３による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ４００３には、寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技者にとって有利となる大当り遊技状態が発生すると、大入賞口２００５が開放されて遊技球が頻繁に入球するため、カウントセンサ４００５による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、カウントセンサ４００５にも、寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球が頻繁に入球しない一般入賞口２００１，２２０１には、一般入賞口センサ４０２０，４０２０による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ４０２０，４０２０には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。

【０４８８】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに払い出しに関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから払出制御基板９５１に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ＡＣＫ信号）を主制御基板１３１０に出力する。この信号（払主ＡＣＫ信号）が主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

【０４８９】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からのパチンコ機１の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして主制御入力回路１３１０ｂで受信することにより、主制御入力回路１３１０ｂからその所定のシリアル入力ポートの入力端子で各種コマンドをシリアルデータとして受信する。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ＡＣＫ信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに出力し、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから払出制御基板９５１に信号（主払ＡＣＫ信号）を出力する。

【０４９０】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機１の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リ

セット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから周辺制御基板１５１０に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。

【０４９１】

ここで、周辺制御基板１５１０へ各種コマンドをシリアルデータとして送信する主周シリアル送信ポートについて簡単に説明する。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御ＣＰＵコア１３１０ａａを中心として構成されており、主制御内蔵ＲＡＭのほかに、主制御各種シリアルＩ／Ｏポートの１つである主周シリアル送信ポート１３１０ａｅ等がバス１３１０ａｈを介して回路接続されている（図７９を参照）。主周シリアル送信ポート１３１０ａｅは、周辺制御基板１５１０へ各種コマンドを主周シリアルデータとして送信するものであり、送信シフトレジスタ１３１０ａｅａ、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂ、シリアル管理部１３１０ａｅｃ等を主として構成されている（図７９を参照）。主制御ＣＰＵコア１３１０ａａは、コマンドを送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットして送信開始信号をシリアル管理部１３１０ａｅｃに出力すると、このシリアル管理部１３１０ａｅｃが送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされたコマンドを送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂから送信シフトレジスタ１３１０ａｅａに転送して主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信開始する。本実施形態では、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂの記憶容量として３２バイトを有している。主制御ＣＰＵコア１３１０ａａは、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに複数のコマンドをセットした後にシリアル管理部１３１０ａｅｃに送信開始信号を出力することによって複数のコマンドを連続的に周辺制御基板１５１０に送信している。

【０４９２】

なお、主制御基板１３１０に各種電圧を供給する電源基板９３１は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）ＢＣ０（図７５を参照）を備えている。このキャパシタＢＣ０により主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を主制御内蔵ＲＡＭに記憶することができるようになっている。主制御内蔵ＲＡＭに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に後述する払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されると、操作スイッチ９５４からの操作信号（ＲＡＭクリア信号）が払出制御基板９５１から出力され、主制御入力回路１３１０ｂを介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力され、これを契機として、主制御ＭＰＵ１３１０ａによって主制御内蔵ＲＡＭから完全に消去（クリア）されるようになっている。

【０４９３】

［７－２．払出制御基板］

上記第１制御部ＭＣＧのうち、遊技球の払い出し等を制御する払出制御基板９５１は、図７０に示すように、払い出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２と、各種機能を兼用する操作スイッチ９５４と、パチンコ機１の状態を表示するエラーＬＥＤ表示器８６０ｂと、を備えている。また、ＲＡＭクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ９５４は、操作されることによって出力された検出信号に基づいて、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）に記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリア信号を出力する。

【０４９４】

［７－２－１．払出制御部］

払い出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２は、図７０に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行される遊技媒体の払出動作を制御する払出制御プログラムを含む各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａと、払い出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路９５２ｂと、各種信号を外部の基板等へ出力するための払出制御出力回路９５２ｃと、払出装置８３０の払出モータ８３４に駆動信

号を出力するための払出モータ駆動回路９５２ｄと、ＣＲユニット６との各種信号をやり取りするためのＣＲユニット入出力回路９５２ｅと、を備えている。払出制御ＭＰＵ９５２ａには、その内蔵されているＲＡＭ（以下、「払出制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）や、その内蔵されているＲＯＭ（以下、「払出制御内蔵ＲＯＭ」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【０４９５】

払出制御プログラムは、払出制御ＭＰＵ９５２ａの制御によって、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドをそれぞれ払出制御入力回路９５２ｂを介して主払シリアルデータ受信信号としてシリアル方式でシリアルデータを受信する。また、払出制御プログラムは、遊技球の払出動作にエラーが発生したことを契機として枠状態１コマンド（第１のエラー発生コマンドに相当）を生成したり、エラー解除部としての操作スイッチ９５４の操作信号（検出信号）に基づいて１６ビット（２バイト）のエラー解除ナビコマンド（第１のエラー解除コマンドに相当）を作成し、これらエラー発生コマンド及びエラー解除ナビコマンドをそれぞれ、払主シリアルデータ送信信号としてシリアル方式のシリアルデータとして、払出制御Ｉ／Ｏポート９５２ｂを介して主制御基板１３１０の受信ポートに対して出力する（コマンド送信手段）。また、この払出制御プログラムは、電源投入時から所定時間が経過した後、即ち、払出制御部メイン処理が実行されたり払出制御部タイマ割り込み処理が実行されて払出制御が開始された後に、その払出動作に関してエラーが発生した場合、操作スイッチ９５４の操作に伴って発生した検出信号に基づいて当該エラーを解除するとともに当該エラーに応じた警告情報の出力などを停止させる（エラー解除制御手段）。

【０４９６】

また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ６１８からその開放操作に伴う検出信号（扉枠開放検出信号）が入力されると扉枠開放コマンドの（第１の扉開放コマンド）を出力するとともに、本体枠開放スイッチ６１９からその開放操作に伴う検出信号（本体枠開放検出信号）が入力されると本体枠開放コマンド（第１の本体枠開放コマンド）を出力する。一方、また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ６１８からその閉鎖操作に伴う検出信号（扉枠閉鎖検出信号）が入力されると扉枠閉鎖コマンド（第１の扉枠閉鎖コマンド）のを出力するとともに、本体枠開放スイッチ６１９からその閉鎖操作に伴う検出信号（本体枠閉鎖検出信号）が入力されると本体枠閉鎖コマンド（第１の本体枠閉鎖コマンド）を出力する。

【０４９７】

払出制御入力回路９５２ｂは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、払出制御入力回路９５２ｂは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、払出制御入力回路９５２ｂは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０４９８】

払出制御出力回路９５２ｃは、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂと、から構成されている。リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａは、そ

の各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０４９９】

払出ユニット８００の球誘導ユニット８２０の供給通路内の遊技球の球切れを検知する球切れ検知センサ８２７、及び払出装置８３０の払出出口８３１ｂ，８３２ｂから放出される遊技球を検知する払出検知センサ８４２、払出羽根８３９の回転を検知する羽根回転検知センサ８４０からの検出信号は、払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。なお、後述の説明上、羽根回転検知センサ８４０を、この明細書において単に回転検知センサ８４０ということにする。

【０５００】

また、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチ６１８、及び外枠２に対する本体枠４の開放を検出する本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号は、払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【０５０１】

また、図１に示したファールカバーユニット２７０の収容空間が貯留された遊技球で満タンであるか否かを検出する満タン検知センサ２７９からの検出信号は、まずハンドル中継端子板３１５、電源基板９３１、そして払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【０５０２】

払出制御ＭＰＵ９５２ａは、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを、払出制御入力回路９５２ｂを介して、そのシリアル入力ポートの入力端子でシリアルデータ方式で受信したり、操作スイッチ９５４の操作信号（検出信号）を払出制御入力回路９５２ｂを介して主制御基板１３１０に対して出力する。払出制御ＭＰＵ９５２ａは、主制御基板１３１０からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ＡＣＫ信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから主制御基板１３１０に信号（払主ＡＣＫ信号）を出力する。

【０５０３】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、そのシリアル出力ポートの出力端子から、パチンコ機１の状態を示すための各種コマンドをシリアルデータとしてリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂに送信することにより、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから主制御基板１３１０に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。

主制御基板１３１０は、払出制御基板９５１からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ＡＣＫ信号）を払出制御基板９５１に出力する。この信号（主払ＡＣＫ信号）が払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

【０５０４】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、その所定の出力ポートの出力端子から、払出モータ８３４を駆動するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから駆動信号を払出モータ駆動回路９５２ｄに出力し、払出モータ駆動回路９５２ｄから駆動信号を払出モータ８

３４に出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から、パチンコ機１の状態をエラーＬＥＤ表示器８６０ｂに表示するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから駆動信号をエラーＬＥＤ表示器８６０ｂに出力したりする。

【０５０５】

エラーＬＥＤ表示器８６０ｂは、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機１の状態を表示している。エラーＬＥＤ表示器８６０ｂが表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「－」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「０」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間において電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「１」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切れ検知センサ８２７からの検出信号に基づいて払出装置８３０の供給通路内に遊技球がない旨）を報知し、数字「２」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、回転検知センサ８４０からの検出信号に基づいて払出装置８３０の供給通路と連通する振分空間の入り口において払出回転体と遊技球とがその入り口近傍でかみ合って払出回転体が回転困難となっている旨）を報知し、数字「３」が表示されているときには「払出検知センサエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ８４２からの検出信号に基づいて払出検知センサ８４２に不具合が生じている旨）を報知し、数字「５」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払い出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「６」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ２７９からの検出信号に基づいてファールカバーユニット２７０の収容空間が貯留された遊技球で満タンである旨）を報知し、数字「７」が表示されているときには「ＣＲ未接続」である旨（払出制御基板９５１からＣＲユニット６までに亘るいずれかにおいて電気的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「９」が表示されているときには「ストック中（賞球ストック（未払出）あり）」である旨（具体的には、まだ払い出していない遊技球の球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【０５０６】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、その所定の出力ポートの出力端子から、実際に払い出した遊技球の球数等をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから図示しない抵抗を介して外部端子板７８４に実際に払い出した遊技球の球数等を出力したりする。

【０５０７】

また、払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）を図示しない抵抗を介して外部端子板７８４に出力している。外部端子板７８４は、図示しない複数のフォトカプラ（赤外ＬＥＤとフォトＩＣとが内蔵されて構成されている。）が設けられており、これらの複数のフォトカプラを介して、遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータに遊技球の球数等及び各種情報（遊技情報、遊技球の払出動作に関するエラー内容或いはエラーがあった旨）をそれぞれ伝えるようになっている。外部端子板７８４とホールコンピュータとは、複数のフォトカプラにより電気的に絶縁された状態となっており、パチンコ機１の外部端子板７８４を経由してホールコンピュータへ異常な電圧が印加されてホールコンピュータが誤動作したり故障したりしないようになっているし、ホールコンピュータからパチンコ機１の外部端子板７８４を経由して遊技を進行する主制御基板１３１０や払出等を制御する払出制御基板９５１に異常な電圧が印加されて誤動作したり故障したりしなしようになっている。ホールコンピュータは、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数等やパチンコ機１の遊技情報を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

【０５０８】

球貸ボタン３２８からの遊技球の球貸要求信号、及び返却ボタン３２９からのプリペイドカードの返却要求信号は、まず度数表示板３６５、主扉中継端子板８８０、そして遊技

球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。ＣＲユニット６は、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球の球数を指定した信号を、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して払出制御基板９５１にシリアル方式で送信し、この信号がＣＲユニット入出力回路９５２ｅを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。また、ＣＲユニット６は、貸し出した遊技球の球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度を球貸返却表示部３３０に表示するための信号を、遊技球等貸出装置接続端子板８６９、主扉中継端子板８８０、そして度数表示板３６５に出力し、この信号が球貸返却表示部３３０に入力されるようになっている。また、球貸返却表示部３３０に隣接するＣＲユニットランプ３６５ｄは、ＣＲユニット６からの供給電圧が遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して入力されるようになっている。

【０５０９】

なお、払出制御基板９５１に各種電圧を供給する電源基板９３１は、電源遮断時にでも所定時間、払出制御基板９５１に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタＢＣ１（図７５を参照）を備えている。このキャパシタＢＣ１により払出制御ＭＰＵ９５２ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御内蔵ＲＡＭ（払出記憶部）に記憶することができるようになっている。払出制御内蔵ＲＡＭに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に操作スイッチ９５４が操作されると、その操作信号が払出制御入力回路９５２ｂを介して、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力され、払出制御ＭＰＵ９５２ａは払出制御内蔵ＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリア信号として判断し、これを契機として、払出制御ＭＰＵ９５２ａによって払出制御内蔵ＲＡＭから完全に消去（クリア）されるようになっている。この操作信号（ＲＡＭクリア信号）は、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂに出力され、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから主制御基板１３１０に出力されるようにもなっている。

【０５１０】

［７－２－２．遊技球等貸出装置接続端子板との各種信号のやり取り］

ここで、払出制御部９５２とＣＲユニット６とにおける各種信号のやり取り、及びＣＲユニット６と度数表示板３６５とにおける各種信号のやり取りについて、図７１に基づいて説明する。遊技球等貸出装置接続端子板８６９は、図７１に示すように、ＣＲユニット６と払出制御基板９５１との基板間の電気的な接続を中継するほかに、ＣＲユニット６と度数表示板３６５との基板間の電気的な接続も中継している（正確には、遊技球等貸出装置接続端子板８６９は、主扉中継端子板８８０を介して度数表示板３６５と電気的に接続されており、ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９とが電気的に接続され、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と主扉中継端子板８８０とが電気的に接続され、そして主扉中継端子板８８０と度数表示板３６５とが電気的に接続されている）。ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と払出制御基板９５１との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と主扉中継端子板８８０との基板間、及び遊技球等貸出装置接続端子板８６９と度数表示板３６５との基板間は、各配線（ハーネス）によって電気的にそれぞれ接続されている。また、電源基板９３１からの後述するＡＣ２４Ｖが遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に供給されている。ＣＲユニット６は、この供給されたＡＣ２４Ｖから所定電圧ＶＬ（本実施形態では、直流＋１２Ｖ（ＤＣ＋１２Ｖ、以下「＋１２Ｖ」記載する。））を、内蔵する図示しない電圧作成回路により作成してグランドＬＧとともに、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して払出制御基板９５１に供給する一方、遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して度数表示板３６５に供給している。

【０５１１】

度数表示板３６５は、その部品面に、の球貸ボタン３２８と対応する位置に押ボタンスイッチである球貸ボタン３２８が実装され、貸球ユニット３６０の返却ボタン３２９と対

応する位置に押ボタンスイッチである返却ボタン３２９が実装され、貸球ユニット３６０の貸出残表示部３６３と対応する位置にセグメント表示器である球貸返却表示部３３０が実装されている。

【０５１２】

球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９は、ＣＲユニット６からのグランドＬＧが遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して電気的に接続されている。球貸ボタン３２８は、球貸ボタン３２８が押圧操作されると、球貸ボタン３２８のスイッチが入り（ＯＮし）、球貸ボタン３２８からの球貸操作信号ＴＤＳが主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。返却ボタン３２９は、返却ボタン３２９が押圧操作されると、返却ボタン３２９のスイッチが入り（ＯＮし）、返却ボタン３２９からの返却操作信号ＲＥＳが主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。

【０５１３】

球貸返却表示部３３０は、セグメント表示器が３個一列に並設されたものであり、これら３桁のセグメント表示器のうち１桁のセグメント表示器ずつ順次駆動する、いわゆるダイナミック点灯方式によって３桁のセグメント表示器が点灯制御されるようになっている。このような点灯制御によって、球貸返却表示部３３０は、ＣＲユニット６に挿入されたプリペイドカードの残額を表示したり、ＣＲユニット６のエラーを表示したりする。球貸返却表示部３３０は、３桁のセグメント表示器のうち１桁のセグメント表示器を指定するためのデジット信号ＤＧ０～ＤＧ２（計３本の信号）と、この指定した１桁のセグメント表示器を点灯させて表示させる内容を指定するためのセグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇ（計７本の信号）と、がＣＲユニット６から遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して入力されると、この入力された、デジット信号ＤＧ０～ＤＧ２及びセグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇに従って１桁のセグメント表示器が順次発光され、これらの３桁のセグメント表示器の発光による内容が貸出残表示部３６３を通して視認することができるようになっている。

【０５１４】

なお、球貸返却表示部３３０に隣接してＣＲユニットランプ３６５ｄが度数表示板３６５に実装されている。このＣＲユニットランプ３６５ｄは、ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して入力されている。所定電圧ＶＬは、ＣＲユニットランプ３６５ｄを介して遊技球等貸出装置接続端子板８６９に実装された電流制限抵抗を通って球貸可能信号ＴＤＬとしてＣＲユニット６に入力されている。ＣＲユニット６は、内蔵する電圧作成回路で電源基板９３１から供給されたＡＣ２４Ｖから所定電圧ＶＬを作成しており、球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９が有効である球貸可能な状態である場合には球貸可能信号ＴＤＬの論理を制御してＣＲユニットランプ３６５ｄを発光させ、この発光が貸出残表示部３６３を通して視認することができるようになっている。また、セグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇは、遊技球等貸出装置接続端子板８６９に実装された電流制限抵抗を通って球貸返却表示部３３０に入力されている。

【０５１５】

ＣＲユニット６は、球貸ボタン３２８が押圧操作されて球貸ボタン３２８からの球貸操作信号ＴＤＳが度数表示板３６５から主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して入力されると、貸球要求信号であるＢＲＤＹを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）に出力するようになっている。そしてＣＲユニット６は、１回の払出動作で所定の貸球数（本実施形態では、２５球であり、金額として１００円に相当する。）を払い出すための１回の払出動作開始要求信号であるＢＲＱを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）に出力するようになっている。ＢＲＤＹ及びＢＲＱが入力される払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）は、１回の払出動作を

開始した旨又は終了した旨を伝えるための信号であるＥＸＳを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６に出力したり、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨又は不可能である旨を伝えるための信号であるＰＲＤＹを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６に出力したりする。なお、例えば、球貸ボタン３２８が押圧操作されると、２００円分の遊技球が払い出されるように、ホールの店員等がＣＲユニット６に予め設定している場合には、１回の払出動作が連続して２回行われるようになっており、１００円分の２５球が払い出されると、続けて１００円分の２５球が払い出され、計２００円分の５０球が払い出されることとなる。

【０５１６】

ＣＲユニット６は、返却ボタン３２９が押圧操作されて返却ボタン３２９からの返却操作信号ＲＥＳが度数表示板３６５から主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して入力されると、プリペイドカードを図示しない挿入口から排出して返却するようになっている。この返却されたプリペイドカードは、球貸ボタン３２８が押圧操作された結果、払い出された遊技球の球数に相当する金額が減算された残額が記憶されている。

【０５１７】

［７－３．電源基板９３１］

次に、上記第１制御部ＭＣＧのうち、電源基板９３１について簡単に説明する。電源基板９３１は、パチンコ島設備から供給され交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）を電気的に接続したり、電気的に遮断したりすることができる電源スイッチ９３４と、各種電源を生成する電源制御部９３５と、図５に示した打球発射装置６５０の発射ソレノイド６８２による発射制御及び図１に示した球送りユニット２５０の球送ソレノイド２５５による球送制御を行う発射制御部９５３と、を備えている。

【０５１８】

［７－３－１．電源制御部］

電源制御部９３５は、電源スイッチ９３４が操作されてパチンコ島設備から供給される交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）を整流する同期整流回路９３５ａと、同期整流回路９３５ａで整流された電力の力率を改善する力率改善回路９３５ｂと、力率改善回路９３５ｂで力率が改善された電力を平滑化する平滑化回路９３５ｃと、平滑化回路９３５ｃで平滑化された電力から各種基板に供給するための各種直流電源を作成する電源作成回路９３５ｄと、を備えている。

【０５１９】

［７－３－２．発射制御部］

発射ソレノイド６８２による発射制御と、球送ソレノイド２５５による球送制御と、を行う発射制御部９５３は、発射制御回路９５３ａを主として構成されている。発射制御回路９５３ａは、ハンドル３０２の回転位置に応じて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出す強度（発射強度）を電気的に調節するハンドル回転検知センサ３０７からの操作信号と、ハンドル３０２に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ３１０からの検出信号と、遊技者の意志によって遊技球の打ち出し（発射）を強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ３１２からの検出信号と、がハンドル中継端子板３１５を介して、入力されている。また、発射制御回路９５３ａは、ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９とが電気的に接続されると、その旨を伝えるＣＲ接続信号が払出制御基板９５１を介して入力されている。

【０５２０】

発射制御回路９５３ａは、ハンドル回転検知センサ３０７からの操作信号に基づいて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出す（発射する）ための駆動電流を調整して発射ソレノイド６８２に出力する制御を行っている一方、ハンドル中継端子板３１５を介して球送ソレノイド２５５に一定電流を出力することにより球送りユニット２５０の球送部材が皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球を１球受け入れ、球送部材が受け入れた遊技球を打球発射装置６５０側へ送る制御を行っている。

【０５２１】
［７－４．周辺制御基板］
こうした第１制御部ＭＣＧに対し、上記第２制御部ＳＣＧのうちの周辺制御基板１５１０では、図７２に示すように、主制御基板１３１０からの各種コマンドに基づいて演出制御を行い、かつ、図１９に示す扉枠側演出表示装置４６０の表示領域の描画を行う演出表示駆動基板４４５０と制御コマンドや各種情報（各種データ）をやり取りする周辺制御部１５１１と、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行う一方、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音制御を行う液晶表示制御部１５１２と、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するリアルタイムクロック（以下、「ＲＴＣ」と記載する。）制御部４１６５と、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節する音量調整ボリューム１５１０ａと、を備えている。
【０５２２】
［７－４－１．周辺制御部］
演出制御を行う周辺制御部１５１１は、図７２に示すように、マイクロプロセッサとしての周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに演出動作を制御するサブ制御プログラムなどの各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータを記憶する周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂと、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのＶブランク信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理をまたいで継続される各種情報（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に描画する画面を規定するスケジュールデータや各種ＬＥＤ等の発光態様を規定するスケジュールデータなどを管理するための情報など）を記憶する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃと、日をまたいで継続される各種情報（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など）を記憶する周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄと、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが正常に動作しているか否かを監視するための周辺制御外部ウォッチドックタイマ１５１１ｅ（以下、「周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅ」と記載する。）と、を備えている。
【０５２３】
周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃは、瞬停が発生して電力がすぐ復帰する程度の時間しか記憶された内容を保持することができず、電力が長時間遮断された状態（長時間の電断が発生した場合）ではその内容を失うのに対して、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、電源基板９３１に設けられた図示しない大容量の電解コンデンサ（以下、「ＳＲＡＭ用電解コンデンサ」と記載する。）によりバックアップ電源が供給されることにより、記憶された内容を５０時間程度、保持することができるようになっている。電源基板９３１にＳＲＡＭ用電解コンデンサが設けられることにより、遊技盤５をパチンコ機１から取り外した場合には、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄにバックアップ電源が供給されなくなるため、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、記憶された内容を保持することができなくなってその内容を失う。
【０５２４】
周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）に周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、一定期間内にクリア信号を周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅに出力するときには、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅのタイマカウントを再スタートさせることができるため、リセットがかからない。
【０５２５】
周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を複数

内蔵しており、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤５の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから図示しない周辺制御出力回路を介してランプ駆動基板４１７０に送信したり、遊技盤５に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データをモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路を介してモータ駆動基板４１８０に送信したり、扉枠３に設けたダイヤル駆動モータ４１４等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データを枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信したり、扉枠３の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データを枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信したりする。

【０５２６】

主制御基板１３１０からの各種コマンドは、図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。また、演出操作ユニット４００に設けられた、ダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）を検出するための回転検出スイッチからの検出信号、及び押圧操作部４０５の操作を検出するための押圧検出スイッチからの検出信号は、枠装飾駆動アンプ基板１９４に設けた図示しない扉側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された演出操作ユニット検出データが扉側シリアル送信回路から、周辺扉中継端子板８８２、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの演出操作ユニット検出用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。

【０５２７】

遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチ（例えば、フォトセンサなど。）からの検出信号は、モータ駆動基板４１８０に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された可動体検出データが遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの入出力を切り替えることにより周辺制御基板１５１０とモータ駆動基板４１８０との基板間における各種データのやり取りを行うようになっている。

【０５２８】

なお、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ウォッチドックタイマを内蔵（以下、「周辺制御内蔵ＷＤＴ」と記載する。）しており、周辺制御内蔵ＷＤＴと周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。

【０５２９】

［７－４－１ａ．周辺制御ＭＰＵ］

次に、マイクロコンピュータである周辺制御ＭＰＵ１５１１ａについて説明する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図７３に示すように、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを中心として、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＤＭＡ（Ｄｉｒｅｃｔ Ｍｅｍｏｒｙ Ａｃｃｅｓｓの略）コントローラ１５１１ａｃ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御アナログ／デジタルコンバータ（以下、周辺制御Ａ／Ｄコンバータと記載する）１５１１ａｋ等から構成されている。

【０５３０】

周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃに対して、内部バス１５１１ａｈを介して、各種データを読

み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、各種データを読み書きする。

【０５３１】

また、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして外部バス１５１１ｈを介して、各種データを読み込む一方、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして外部バス１５１１ｈを介して、各種データを読み書きする。

【０５３２】

周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行う専用のコントローラであり、ＤＭＡ０～ＤＭＡ３という４つのチャンネルを有している。

【０５３３】

具体的には、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂの記憶装置と、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂの記憶装置に対して、内部バス１５１１ａｈを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び周辺バス１５１１ａｉを介して、読み書きする。

【０５３４】

また、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び外部バス１５１１ｈを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び周辺バス１５１１ａｉを介して、読み書きする。

【０５３５】

周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄは、内部バス１５１１ａｈ、周辺バス１５１１ａｉ、及び外部バス１５１１ｈをコントロールして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａの中央処理装置と、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレ

ルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の各種装置間において、各種データのやり取りを行う専用のコントローラである。

【０５３６】

周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅは、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート、主制御基板用シリアルＩ／Ｏポート、演出操作ユニット情報取得用シリアルＩ／Ｏポートを有している。

【０５３７】

周辺制御内蔵ウォッチドックタイマ（周辺制御内蔵ＷＤＴ）１５１１ａｆは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、ウォッチドックタイマをスタートさせた場合には、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）にそのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、ウォッチドックタイマをスタートさせて一定期間内にクリア信号を周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆに出力するときには、タイマカウントを再スタートさせることができるため、リセットがかからない。

【０５３８】

周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇは、遊技盤側モータ駆動ラッチ信号、扉側モータ駆動発光ラッチ信号等の各種ラッチ信号を出力するほかに、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅにクリア信号を出力したり、遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチからの検出信号をモータ駆動基板４１８０に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化して、このシリアル化された可動体検出データを遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートで受信するための可動体情報取得ラッチ信号を出力したりする。このＬＥＤは、高輝度の白色ＬＥＤであり、大当り遊技状態の発生が確定している旨を伝えるための確定告知ランプとなっている。本実施形態では、ＬＥＤと周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇとが電気的に直接接続された構成を採用することにより、ＬＥＤと周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇとの経路を短くすることで遊技上重量な意味を持つＬＥＤの点灯制御についてノイズ対策を講ずることができる。なお、ＬＥＤの点灯制御については、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において実行されるようになっており、このＬＥＤを除く他のＬＥＤ等は、後述する周辺制御部定常処理において実行されるようになっている。

【０５３９】

周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋは、音量調整ボリューム１５１０ａと電気的に接続されており、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変し、つまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように液晶表示制御部１５１２（後述する音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。

【０５４０】

なお、本実施形態では、音楽や効果音のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する

内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりする等。）ための告知音も下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部１５１２（後述する音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、上述した７段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００で繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【０５４１】

［７－４－１ｂ．周辺制御ＲＯＭ］

周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂは、周辺制御部１５１１、液晶表示制御部１５１２、ＲＴＣ制御部４１６５等を制御する各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータを予め記憶されている。各種スケジュールデータには、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面を生成する画面生成用スケジュールデータ、各種ＬＥＤの発光態様を生成する発光態様生成用スケジュールデータ、音楽や効果音等を生成する音生成用スケジュールデータ、及びモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動態様を生成する電気的駆動源スケジュールデータ等がある。画面生成用スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面の順序が規定されている。発光態様生成用スケジュールデータは、各種ＬＥＤの発光態様を規定する発光データが時系列に配列されて構成されている。音生成用スケジュールデータは、音指令データが時系列に配列されて構成されており、音楽や効果音が流れる順番が規定されている。この音指令データには、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数の出力チャンネルのうち、どの出力チャンネルを使用するのかを指示するための出力チャンネル番号と、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックのうち、どのトラックに音楽及び効果音等の音データを組み込むのかを指示するためのトラック番号と、が規定されている。電気的駆動源スケジュールデータは、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データが時系列に配列されて構成されており、モータやソレノイド等の電気的駆動源の動作が規定されている。

【０５４２】

なお、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている各種制御プログラムは、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから直接読み出されて実行されるものもあれば、後述する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御プログラムコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されて実行されるものもある。また周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータも、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから直接読み出されるものもあれば、後述する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されるものもある。

【０５４３】

また、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂには、ＲＴＣ制御部４１６５を制御する各種制御プログラムの１つとして、遊技盤側演出表示装置１６００の使用時間に応じて遊技盤側演出表示装置１６００の輝度を補正するための輝度補正プログラムが含まれている。この輝度補正プログラムは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置１６００の経年変化にともなう輝度低下を補正するものであり、後述するＲＴＣ制御部４１６５の内蔵ＲＡＭから遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時、現在の日時、輝度設定情報等を取得して、この取得した輝度設定情報を補正情報に基づいて補正する。この補正情報は、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに予め記憶されている。輝度設定情報は、後述するように、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度と、が含まれているものであり、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに６月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、５％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である５％だけさらに上乗せした８０％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに１２月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、１０％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である１０％だけさらに上乗せした８５％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【０５４４】

［７－４－１ｃ．周辺制御ＲＡＭ］

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃは、図７３に示すように、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａと、このバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃと、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている各種制御プログラムがコピーされたものを専用に記憶する各種制御プログラムコピーエリア１５１１ｃｄと、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータ等がコピーされたものを専用に記憶する各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅと、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっていないものを専用に記憶するバックアップ非管理対象ワークエリア１５１１ｃｆと、が設けられている。

【０５４５】

なお、パチンコ機１の電源投入時（瞬停や停電による復電時も含む。）には、バックアップ非管理対象ワークエリア１５１１ｃｆに対して値０が強制的に書き込まれてゼロクリアされる一方、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａ、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ、及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃについては、パチンコ機１の電源投入時に主制御基板１３１０からの電源投入時状態コマンド（図８９を参照）がＲＡＭクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである（例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図６９に示した操作スイッチ９５４が操作された時における演出の開始を指示したりするものである）であるときにはゼロクリアされる。

【０５４６】

バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａは、後述する液晶表示制御部１５１２

の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのＶブランク信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理において更新される各種情報である演出情報（１ｆｒ）をバックアップ対象として専用に記憶するＢａｎｋ０（１ｆｒ）と、後述する１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに実行される周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において更新される各種情報である演出情報（１ｍｓ）をバックアップ対象として専用に記憶するＢａｎｋ０（１ｍｓ）と、から構成されている。ここで、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）及びＢａｎｋ０（１ｍｓ）の名称について簡単に説明すると、「Ｂａｎｋ」とは、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Ｂａｎｋ」に続く「０」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Ｂａｎｋ０」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂからバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに亘るエリアに設けられる、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」とは、「Ｂａｎｋ０」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「（１ｆｒ）」は、後述するように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが１画面分（１フレーム分）の描画データを遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力するようになっているため、Ｖブランク信号が入力されるごとに、換言すると、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるところから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（１ｆｒ）や後述する演出バックアップ情報（１ｆｒ）についても、同一の意味で用いる）。「（１ｍｓ）」は、後述するように、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるところから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（１ｍｓ）や後述する演出バックアップ情報（１ｍｓ）についても、同一の意味で用いる）。

【０５４７】

Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）には、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａ、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂ、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃ、ＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄ、及びスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅ等が設けられている。ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａには、遊技盤５の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂには、扉枠３の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃには、主制御基板１３１０から送信される各種コマンドを受信してその受信した各種コマンドがセットされる記憶領域であり、ＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄには、ＲＴＣ制御部４１６５（後述するＲＴＣ４１６５ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａ）から取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅには、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）から受信したコマンドに基づいて、この受信したコマンドと対応する各種スケジュールデータがセットされる記憶領域である。スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅには、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅにコピーされた各種スケジュールデータが読み出されてセットされるものもあれば、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから各種スケジュールデータが直接読み出されてセットされるものもある。

【０５４８】

Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）には、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆ、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇ、可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈ、及び演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉ、及び描画

状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋ等が設けられている。枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆには、扉枠３に設けたダイヤル駆動モータ４１４等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇには、遊技盤５に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈには、遊技盤５に設けた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉには、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいてダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）及び押圧操作部４０５の操作等を取得した各種情報（例えば、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて作成するダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部４０５の操作履歴情報など。）がセットされる記憶領域であり、描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋには、演出表示駆動基板４４５０が周辺制御基板１５１０の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する後述するＬＯＣＫＮ信号に基づいて周辺制御基板１５１０と演出表示駆動基板４４５０との接続間における不具合の頻度や不具合の発生状態を取得した各種情報がセットされる記憶領域である。

【０５４９】

なお、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）のランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａ及び枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂと、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆ及びモータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇとは、第１領域及び第２領域という２つの領域にそれぞれ分割されている。

【０５５０】

ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａは、後述する周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域に、遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域、第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理においてランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域にセットした遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。

【０５５１】

枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂは、周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域に、扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域、第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理において枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域にセッ

トした扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。
【０５５２】
枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆは、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域に、扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域、第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域にセットした扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。
【０５５３】
モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇは、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第１領域に、遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第１領域、第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理においてモータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された際に、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第１領域にセットした遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。
【０５５４】
次に、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａに記憶されている各種情報である演出情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃについて説明する。バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、２つのバンクを１ペアとする２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容である演出情報（１ｆｒ）は、演出バックアップ情報（１ｆｒ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される内容である演出情報（１ｍｓ）は、演出バックアップ情報（１ｍｓ）として、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされる。１ページの整合性は、そのページを構成する２つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。
【０５５５】
具体的には、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂは、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａ

ｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される記憶は、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【０５５６】

また、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される記憶は、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【０５５７】

このように、本実施形態では、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂは、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアを１ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアを１ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃの先頭と終端とには、それぞれ異なるＩＤコートが記憶されるようになっている。

【０５５８】

また、本実施形態では、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容である演出情報（１ｆｒ）は、演出バックアップ情報（１ｆｒ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される内容である演出情報（１ｍｓ）は、演出バックアップ情報（１ｍｓ）として、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるようになっているが、これらの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによる高速コピーを実行するプログラムは共通化されている。つまり本実施形態では、演出情報（１ｆｒ）、演出情報（１ｍｓ）を、共通の管理手法（共通のプログラムの実行）で情報を管理している。

【０５５９】

［７－４－１ｄ．周辺制御ＳＲＡＭ］

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａと、このバッ

クアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃと、が設けられている。なお、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶された内容は、パチンコ機１の電源投入時（瞬停や停電による復電時も含む。）に主制御基板１３１０からの電源投入時状態コマンド（図８９を参照）がＲＡＭクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである（例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図６９に示した操作スイッチ９５４が操作された時における演出の開始を指示したりするものである）ときにおいても、ゼロクリアされない。この点については、上述した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａ、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ、及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃがゼロクリアされる点と、全く異なる。また、パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている内容（項目）ごとに（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴など。）クリアすることができる一方、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃに記憶されている内容（項目）については、全く表示されず、設定モードにおいてクリアすることができないようになっている。この点についても、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃと周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄとで全く異なる。

【０５６０】

バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａは、日をまたいで継続される各種情報である演出情報（ＳＲＡＭ）（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など）をバックアップ対象として専用に記憶するＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）から構成されている。ここで、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の名称について簡単に説明すると、「Ｂａｎｋ」とは、上述したように、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Ｂａｎｋ」に続く「０」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Ｂａｎｋ０」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂからバックアップ第２エリア１５１１ｄｃに亘るエリアに設けられる、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」とは、「Ｂａｎｋ０」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「（ＳＲＡＭ）」は、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている各種情報がバックアップ対象となっていることから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（ＳＲＡＭ）や後述する演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）についても、同一の意味で用いる）。

【０５６１】

次に、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａに記憶されている各種情報である演出情報（ＳＲＡＭ）がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃについて説明する。バックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、２つのバンクを１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容である演出情報（ＳＲＡＭ）は、演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされる。１ページの整合性は、そのページを構成する２つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。

【０５６２】

具体的には、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂは、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【０５６３】

また、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【０５６４】

このように、本実施形態では、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂは、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃの先頭と終端とには、それぞれ異なるＩＤコートが記憶されるようになっている。

【０５６５】

［７－４－２．液晶表示制御部］

遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御と下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音制御とを行う液晶表示制御部１５１２は、図７２に示すように、音楽や効果音等の音制御を行うための音源が内蔵（以下、「内蔵音源」と記載する。）されるとともに遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行う音源内蔵ＶＤＰ（Ｖｉｄｅｏ　Ｄｉｓｐｌａｙ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒの略）１５１２ａと、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示される画面の各種キャラクタデータに加えて音楽や効果音等の各種音データを記憶する液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂと、シリアル化された音楽や効果音等をオーディオデータとして枠装飾駆動アンプ基板１９４に向かって送信するオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃと、扉枠側演出表示装置４６０へシリアル化された描画データを扉枠３の皿ユニット３２０の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置４６０の下方近傍に配置されて皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０へ向かって送信する扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データをプラス信号とマイナス信号とに差動化する差動化回路１５１２ｅと、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号のほかに、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されるとともに、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されているときには、この信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続する強制切替回路１５１２ｆと、を備えている。この液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂには、後述する画面や画像の表示に用いるスプライトデータとして、例えばリング状表示物（環状の表示物）の表示に用いる環状画像データ、後述する操作メニュー背景画像の表示に用いる操作メニュー背景画像データ、後述する少なくとも１つの選択表示物の表示に用いる選択表示物画像データ、後述するボリュームスケールを含む音量調整画面の表示に用いる音調調整背景画像データ、後述する音量調整アイコンの

表示に用いる音量設定アイコン画像データ等の他、遊技者から見て本体枠４の背面における各部位の位置が視認可能な本体枠背面画像の表示に用いる本体枠背面画像データ、サービスモード画面の表示に用いるサービスモード画面画像データ、休憩タイマー設定画面の表示に用いる休憩タイマー設定画面画像データ、及び、休憩中画面の表示に用いる休憩中画面画像データが格納されている。なお、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂは、演出操作ユニット４００の押圧操作部４０５（操作部）を操作すべき旨を促すための示唆表示物の表示に用いる示唆表示物画像データをも格納している。

【０５６６】

周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０からのコマンドと対応する画面生成用スケジュールデータを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域に１５１１ｃａｅにセットし、このスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータの先頭の画面データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力した後に、後述するＶブランク信号が入力されたことを契機として、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って先頭の画面データに続く次の画面データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って、この画面生成用スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、Ｖブランク信号が入力されるごとに、先頭の画面データから１つずつ音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。

【０５６７】

また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０からのコマンドと対応する音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域に１５１１ｃａｅにセットし、このスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力した後に、Ｖブランク信号が入力されたことを契機として、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータに従って先頭の音指令データに続く次の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータに従って、この音生成用スケジュールデータに時系列に配列された音指令データを、Ｖブランク信号が入力されるごとに、先頭の音指令データから１つずつ音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。

【０５６８】

［７－４－２ａ．音源内蔵ＶＤＰ］

音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、上述した内蔵音源のほかに、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて、図７４に示すように、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂから遊技盤側キャラクタデータ及び上皿側キャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを生成するためのＶＲＡＭも内蔵（以下、「内蔵ＶＲＡＭ」と記載する。）している。音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、内蔵ＶＲＡＭ上に生成した描画データのうち、遊技盤側演出表示装置１６

００に対する描画データをチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する描画データをチャンネルＣＨ２から、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して、扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）することで、遊技盤側演出表示装置１６００と扉枠側演出表示装置４６０との同期化を図っている。

【０５６９】

チャンネルＣＨ１から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるのに対して、チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置４６０の下方近傍に配置されて皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）される。このように、チャンネルＣＨ１から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるため、周辺制御基板１５１０及び遊技盤側演出表示装置１６００は遊技盤５にそれぞれ取り付けられていることによりチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００までの経路に要する配線の長さが短いものの、チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板１５１０から扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力されるため、周辺制御基板１５１０は遊技盤５に取り付けられているのに対して、演出表示駆動基板４４５０は扉枠３の皿ユニット３２０内に収納されていることによりチャンネルＣＨ２から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして演出表示駆動基板４４５０までの経路に要する配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなることでノイズの影響を極めて受けやすくなる。このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるというチャンネルＣＨ２に対しては、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。

【０５７０】

チャンネルＣＨ１は、ＬＶＤＳ（Ｌｏｗ Ｖｏｌｔａｇｅ Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔｉａｌ Ｓｉｇｎａｌｉｎｇ）というシリアル方式による差動インターフェースを使用しているのに対して、チャンネルＣＨ２は、パラレル方式によるインターフェースを使用している。チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、から構成されており、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ４６１０ｄでシリアル化されて、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される。そして、このシリアル化された各種信号は、演出表示駆動基板４４５０においてパラレル信号に復元されて扉枠側演出表示装置４６０に出力されるようになっている。

【０５７１】

このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の画面データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力すると、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、この入力された画面データに基づいて液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂからキャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭ上で生成し、この生成した描画データうち、遊技盤側演出表示装置１６００に対する画像データをチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する画像データをチャンネルＣＨ２から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周

辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）する。つまり、「１画面分（１フレーム分）の画面データ」とは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭ上で生成するためのデータのことである。

【０５７２】

また、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、１画面分（１フレーム分）の描画データを、チャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する画像データをチャンネルＣＨ２から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力する。本実施形態では、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が出力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、このＶブランク信号が入力されたことを契機として、後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理を実行するようになっている。ここで、Ｖブランク信号が出力される間隔は、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の液晶サイズによって多少変化する。また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａとが実装された周辺制御基板１５１０の製造ロットにおいてもＶブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合がある。

【０５７３】

なお、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、フレームバッファ方式が採用されている。この「フレームバッファ方式」とは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の画面に描画する１画面分（１フレーム分）の描画データをフレームバッファ（内蔵ＶＲＡＭ）に保持し、このフレームバッファ（内蔵ＶＲＡＭ）に保持した１画面分（１フレーム分）の描画データを、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力する方式である。

【０５７４】

また、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから上述した音指令データが入力されると、図７４に示すように、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂに記憶されている音楽や効果音等の音データを抽出して内蔵音源を制御することにより、音指令データに規定された、トラック番号に従って音楽及び効果音等の音データをトラックに組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定して下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。

【０５７５】

なお、音指令データには、音データを組み込むトラックの音量を調節するためのサブボリューム値も含まれており、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックには、音楽や効果音等の演出音の音データとその音量を調節するサブボリューム値のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音の音データとその音量を調節するサブボリューム値が組み込まれる。具体的には、演出音に対しては、上述した、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として設定され、報知音に対しては、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量がサブボリューム値として設定されるようになっている。演出音のサブボリューム値は、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで後述する設定モードへ移行して調節することができるようになってい

る。
【０５７６】
　また、音指定データには、出力するチャンネルの音量を調節するためのマスターボリューム値も含まれており、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数の出力チャンネルには、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値と、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力するようになっている。
【０５７７】
　本実施形態では、マスターボリューム値は一定値に設定されており、合成した演出音の音量が最大音量であるときに、マスターボリューム値まで増幅されることにより、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量が許容最大音量となるように設定されている。具体的には、演出音に対しては、複数のトラックのうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームと、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力し、報知音に対しては、使用するトラックに組み込まれた報知音の音データと、使用するトラックに組み込まれた報知音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量と、を合成して、この合成した報知音の音量を、実際に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。
【０５７８】
　ここで、演出音が下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音を流す制御について簡単に説明すると、まず演出音が組み込まれているトラックのサブボリューム値を強制的に消音に設定し、この演出音が組み込まれたトラックの音データと、その消音に設定したサブボリューム値と、報知音が組み込まれたトラックの音データと、報知音の音量が最大音量に設定されたサブボリューム値と、を合成し、この合成した演出音の音量と報知音の音量とを、実際に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音及び報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。
【０５７９】
　つまり、実際に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音は、最大音量の報知音だけが流れることとなる。このとき、演出音は消音となっているため、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れないものの、演出音は、上述した音生成用スケジュールデータに従って進行している。本実施形態では、報知音は所定期間（例えば、９０秒）だけ下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるようになっており、この所定期間経過すると、これまで消音に強制的に設定された音生成用スケジュールデータに従って進行している演出音の音量が、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として再び設定され（このとき、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行して調節されている場合には、その調節された演出音のサブボリューム値に設定され）、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるようになっ

ている。
【０５８０】
　このように、演出音が下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音が流れるときには、演出音の音量が消音になって報知音が下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるものの、この消音となった演出音は、音生成用スケジュールデータに従って進行しているため、報知音が所定期間経過して下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れなくなると、演出音は、報知音が流れ始めたところから再び流れ始めるのではなく、報知音が流れ始めて所定期間経過した時点まで音生成用スケジュールデータに従って進行したところから再び流れ始めるようになっている。
【０５８１】
［７－４－２ｂ．液晶及び音制御ＲＯＭ］
　液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂは、図７４に示すように、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に描画するための遊技盤側キャラクタデータと、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域に描画するための上皿側キャラクタデータと、が予め記憶されるとともに、音楽、効果音、報知音、及び告知音等の各種の音データも予め記憶されている。
【０５８２】
［７－４－２ｃ．オーディオデータ送信ＩＣ］
　オーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃは、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのシリアル化したオーディオデータが入力されると、右側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信するとともに、左側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信する。これにより、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から各種演出に合わせた音楽や効果音等がステレオ再生されるようになっている。
【０５８３】
　なお、オーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃは、周辺制御基板１５１０から枠装飾駆動アンプ基板１９４に亘る基板間を、左右それぞれ差分方式のシリアルデータとしてオーディオデータを出力することにより、例えば、左側オーディオデータのプラス信号、マイナス信号にノイズの影響を受けても、プラス信号に乗ったノイズ成分と、マイナス信号に乗ったノイズ成分と、を枠装飾駆動アンプ基板１９４で合成して１つの左側オーディオデータにする際に、互いにキャンセルし合ってノイズ成分が除去されるようになっているため、ノイズ対策を講じることができる。
【０５８４】
［７－４－２ｄ．扉枠側演出用トランスミッタＩＣ］
　扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄは、図７４に示すように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データが入力されている。チャンネルＣＨ２は、上述したように、パラレル方式によるインターフェースが使用されている。描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、から構成されており、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ８ビット、計２４ビットで構成されている。本実施形態では、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力可能な赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ６ビット、計１８ビットであるため、各映像信号における上位６ビットが扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力されている。下位２ビットは、人間の目にとって判別困難な極めて微弱な色情報であるため、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａから出力されているものの、微弱な色情報を含む下位２ビットを無効化している。
【０５８５】

音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データである、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、が扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力されると、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、がザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化して差動１ペアケーブルのみでこれらの各種信号を、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信する。

【０５８６】

上述したように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるため、チャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００までの経路（第１経路）に要する配線の長さが短いものの、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）されるため、チャンネルＣＨ２から扉枠側演出表示装置４６０までの経路（第２経路）に要する配線の長さが第１経路に要する配線の長さより極めて長くなることによりノイズの影響を極めて受けやすくなる。

【０５８７】

具体的には、図１に示した本体枠４に対して開閉自在に扉枠３が軸支されているため、本体枠４の開放側辺に沿って図５に示した施錠ユニット７００の反対側である閉塞側に、例えば本体枠４に装着される遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０から扉枠３に備える皿ユニット３２０に収納される演出表示駆動基板４４５０などの、本体枠４側に備える各種基板と扉枠３側に備える各種基板とを電気的に接続する各種配線を通す必要がある。ところが、本体枠４の閉塞側には、払出装置８３０のほかに、この払出装置８３０によって払出された遊技球を、皿ユニット３２０の上皿３２１へ誘導することができると共に上皿３２１が遊技球で満タンになると払出された遊技球を下皿３２２側へ分岐誘導することができる満タン分岐ユニット７７０が配置されている。

また、本体枠４の下側には、パチンコ島設備から電源が供給される図６に示した電源基板９３１等を一纏めにしてユニット化した図５に示した払出ユニット８００が配置されている。このように、本体枠４側に備える各種基板と扉枠３側に備える各種基板とを電気的に接続する各種配線は、払出装置８３０、満タン分岐ユニット７７０、電源基板９３１等の近傍に引き回されることとなり、払出装置８３０に備える払出モータ８３４が駆動されることによるノイズのほかに、遊技球による静電放電によるノイズやパチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等を受ける環境下にある。

【０５８８】

このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるというチャンネルＣＨ２に対しては、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。本実施形態では、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続するための配線として、上述したように、差動１ペアケーブルを用いているが、この差動１ペアケーブルは、２本の配線が単に平行に設けられる平行線ではなく、ツイストペアケーブルである。このツイストペアケーブルは、２本の配線を撚り合わせたケーブルであって、撚り対線とも呼ば

れるものである。
【０５８９】
ここで、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして平行線を採用した場合について簡単に説明する。描画データを送るための配線の長さが音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるという音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２に対して、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとしても、このようなハードウェアによる構成だけでは、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、平行線におけるシリアルデータが影響を受けると、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信する際にそのノイズがキャンセル（除去）されないため、シリアルデータが影響を受けた状態のまま扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信されることとなり、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データが正規なものと異なる乱れたものとして扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信され、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域では、いわゆる砂嵐のような画像が表示されて何の画像であるのかを全く認識することができなくなるという問題がある。
【０５９０】
そこで、本実施形態では、描画データを送るための配線の長さが音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるという音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２に対して、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとするとともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして採用した。これにより、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、ツイストペアケーブルにおいてシリアルデータが影響を受けたとしても、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信する際にそのノイズがキャンセル（除去）されるようになっているため、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データは、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で確実に受信されて扉枠側演出表示装置４６０に出力されることにより、扉枠側演出表示装置４６０において、液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが生成した画像を確実に表示することができる。ノイズをキャンセル（除去）することにより、砂嵐のような何の画像であるのかを全く認識することができなくなるような画像が扉枠側演出表示装置４６０で表示されることを防止することができるため、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。したがって、ノイズの影響による遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。
【０５９１】
なお、本実施形態では、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間においては、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２が介在している。これは、本体枠４と扉枠３とが一体的に構成されるものではなく、別々に組み立てられたものを、本体枠４に扉枠３を取り付けるという構造を採用しているため、本体枠４に扉枠３を取り付ける作業のあとに、扉枠３側に備える各種基板からのハーネスやツイストケーブルなどの各種配線を本体枠４側に備える周辺扉中継端子板８８２に

電気的に接続することによって、本体枠４側に備える各種基板と、扉枠３側に備える各種基板と、を電気的に接続することができるようになっている。このような構成により、本体枠４から扉枠３を開放して各種配線を取り外す作業を行ったあとに、本体枠４から扉枠３を取り外すことで、本体枠４や扉枠３のメンテナンスを行うことができるし、扉枠３に生じた不具合が解消することができない場合には、この不具合のある扉枠３に替えて他の扉枠３'を本体枠４に取り付けて、扉枠３'側に備える各種基板からの各種配線を本体枠４側に備える周辺扉中継端子板８８２に電気的に接続することによって、本体枠４側に備える各種基板と、扉枠３'側に備える各種基板と、を電気的に接続することができる。

【０５９２】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとするとともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして採用した。具体的には、周辺制御基板１５１０と枠周辺中継端子板８６８との基板間、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２との基板間、そして周辺扉中継端子板８８２と演出表示駆動基板４４５０との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電気的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電気的に接続されている。これにより、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２とには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにより送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送するための映像伝送用配線パターンのほかに、電源用配線パターンやその他の各種信号を伝送するための各種信号用配線パターンと、が混在している。このため、枠周辺中継端子板８６８、及び周辺扉中継端子板８８２には、電源用配線パターンや各種信号用配線パターンから所定寸法だけ離して上述した映像伝送用配線パターンがそれぞれ形成されている。トランスミッタからレシーバまでの経路には、枠周辺中継端子板８６８、及び周辺扉中継端子板８８２という複数の中継端子板をまたぐこととなるため、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンの入出力間において、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにより送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送する信号の一部が反射されてノイズとなったり、その信号の出力レベルが低下するという問題が生ずる。そこで、本実施形態では、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンには、インピーダンス整合が施されている。

【０５９３】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板１５１０と枠周辺中継端子板８６８との基板間、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２との基板間、そして周辺扉中継端子板８８２と演出表示駆動基板４４５０との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電気的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電気的に接続されているが、ツイストペアケーブルのうち、一方の配線を赤色とし、他方の配線を灰色とするとともに、ハーネスのうち、電源を供給する配線を赤色とし、他の複数の配線を灰色としている。なお、電源を供給する配線を赤色とせず、黄色としてもよい。

【０５９４】

［７－４－２ｅ．強制切替回路、差動化回路］

扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号は、強制切替回路１５１２ｆ、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信されるようになっている。この強制切替回路１５１２ｆには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号のほかに、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１

１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データが差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化されて入力されている。この差動化回路１５１２ｅでは、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データをディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化している。このＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置４６０の動作確認要求として送信されるものである。強制切替回路１５１２ｆは、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、この２つの信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するように回路構成されている。これにより、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、その２つの信号を伝送するように回路接続するため、その２つの信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するため、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データを、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０（実際には、周辺制御基板１５１０に備える差動化回路１５１２ｅ）に向かって送信する。

【０５９５】

扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０は、周辺制御基板１５１０からのシリアル信号（シリアルデータ）を後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信すると、シリアル化された各種信号をパラレル信号に復元して扉枠側演出表示装置４６０に出力する液晶モジュール回路４４５０Ｖと、から主として構成されている。

【０５９６】

扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝える後述するＬＯＣＫＮ信号を周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、入力されるＬＯＣＫＮ信号に基づいて、所定の条件が成立すると、その旨を伝えるための画像を音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して生成して遊技盤側演出表示装置１６００に出力することにより遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示して報知する。

【０５９７】

また、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、受信したその２つの信号がＬＯＣＫＮ信号出力要求データであると判断したときには、後述するＬＯＣＫＮ信号を周辺扉中継端

子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。これにより、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データの送信に対する応答信号として、ＬＯＣＫＮ信号が入力されているときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していないとして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していないと判断することができる一方、ＬＯＣＫＮ信号が入力されていないときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していると判断して、その旨を伝える報知画像（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、その旨を伝える報知音（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しています。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御してオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力することにより扉枠３に設けたスピーカから報知音が流れる。これにより、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示される報知画像と、扉枠３に設けたスピーカ等から繰り返し流れる報知音と、により報知を行うことができるようになっている。このとき、扉枠３に備える発光装飾用のＬＥＤや遊技盤５に備える各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤをすべて点灯してもよい。

【０５９８】

［７－４－３．ＲＴＣ制御部］

年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するＲＴＣ制御部４１６５は、図７２に示すように、ＲＴＣ４１６５ａを中心として構成されている。このＲＴＣ４１６５ａには、カレンダー情報と時刻情報とが保持されるＲＡＭ４１６５ａａが内蔵（以下、「ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａ」と記載する。）されている。ＲＴＣ４１６５ａは、駆動用電源及びＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａのバックアップ用電源として電池４１６５ｂ（本実施形態では、ボタン電池を採用している。）から電力が供給されるようになっている。つまりＲＴＣ４１６５ａは、周辺制御基板１５１０（パチンコ機１）からの電力が全く供給されずに、周辺制御基板１５１０（パチンコ機１）と独立して電池４１６５ｂから電力が供給されている。これにより、ＲＴＣ４１６５ａは、パチンコ機１の電力が遮断されても、電池４１６５ｂからの電力供給により、カレンダー情報や時刻情報を更新保持することができるようになっている。

【０５９９】

周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＲＴＣ４１６５ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａからカレンダー情報や時刻情報を取得して上述した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄにセットし、この取得したカレンダー情報や時刻情報に基づく演出を遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げることができるようになっている。このような演出としては、例えば、１２月２５日であればクリスマスツリーやトナカイの画面が遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられたり、大晦日であれば新年カウントダウンを実行する画面が遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられたりする等を挙げることができる。カレンダー情報や時刻情報は、工場出荷時に設定される。

【０６００】

なお、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合にはＬＥＤの輝度設定情報が記憶保持されている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから輝度設定情報を取得してバックライトの輝度調整をＰＷＭ制御により行う。輝度設定情報は、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトで

あるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のバックライトであるＬＥＤの輝度と、が含まれている。

【０６０１】

また、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報、時刻情報や輝度設定情報のほかに、カレンダー情報、時刻情報、及び輝度設定情報をＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに最初に記憶した年月日及び時分秒の情報として入力日時情報も記憶されている。

【０６０２】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のバックライトが冷陰極管タイプのものが装着されている場合には、バックライトのＯＮ／ＯＦＦ制御もしくはＯＮのみとするようになっている。

【０６０３】

ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶される、カレンダー情報、時刻情報、輝度設定情報、及び入力日時情報等の各種情報は、遊技機メーカの製造ラインにおいて設定される。製造ラインにおいては、例えば遊技盤側演出表示装置１６００の表示テスト等の各種テストを行うため、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時として入力日時情報が製造ラインで入力された年月日及び時分秒である製造日時に設定される。

【０６０４】

このように、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合における輝度設定情報、及び入力日時情報等、パチンコ機１の機種情報（例えば、低確率や高確率における大当り遊技状態が発生する確率など）とは独立して維持が必要な情報を記憶保持することができるようになっている。

【０６０５】

また、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶保持される輝度設定情報等は、パチンコ機１が設置されるホールの環境によっては製造日時に設定された遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度では明るすぎたり、暗すぎたりする場合もある。そこで、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行してバックライトの輝度を所定の輝度に調節することができるようになっている。パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるほかに、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することでカレンダー情報、時刻情報を再設定したり、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を所望の輝度に調節したりすることができる。この調節された遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの所望の輝度は、輝度設定情報に記憶されるＬＥＤの輝度としてそれぞれ上書き（更新記憶）されるようになっている。

【０６０６】

なお、設定モードでは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、上述した輝度補正プログラムを実行することにより、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置１６００の経年変化にともなう輝度低下を補正する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから、入力日時情報を取得して遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時を特定し、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定し、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝

度とを有する輝度設定情報を取得する。この取得した輝度設定情報を周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに予め記憶されている補正情報に基づいて補正する。

【０６０７】

例えば、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに６月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、５％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である５％だけさらに上乗せした８０％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに１２月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、１０％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である１０％だけさらに上乗せした８５％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【０６０８】

なお、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから、直接、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定してもいいし、後述する周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理において周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄにおける、カレンダー情報記憶部にセットされて周辺制御基板１５１０のシステムにより更新される現在のカレンダー情報と、時刻情報記憶部にセットされて周辺制御基板１５１０のシステムにより更新される現在の時刻情報と、を取得して現在の日時を特定してもいい。

【０６０９】

［８３４．音量調整ボリューム］

音量調整ボリューム１５１０ａは、上述したように、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節することができるようになっている。音量調整ボリューム１５１０ａは、上述したように、そのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変するようになっており、電気的に接続された周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋがつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、上述したように、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように液晶表示制御部１５１２（音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。

【０６１０】

このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。また、本実施形態では、上述したように、音楽や効果音のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したり等。）ための告知音も下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕

組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部１５１２（音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して調整することができるようになっている。

【０６１１】

このプログラムにより調整される音量は、上述した７段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。

【０６１２】

また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【０６１３】

なお、本実施形態では、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節するようになっていることに加えて、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行して音楽や効果音の音量を調節することができるようになっている。パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるほかに、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができる。具体的には、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋがアナログ値からデジタル値に変換して、この変換した値に対して、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることができるようになっている。この調節された音量は、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックのうち、音楽や効果音等の演出音の音データが組み込まれたトラックに対して、サブボリューム値として設定更新されて演出音の音量の調節に反映されるものの、上述した報知音や告知音の音量に調節に反映されないようになっている。

【０６１４】

このように、本実施形態では、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を直接回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、の２つの方法がある。音量調整ボリューム１５１０ａは、周辺制御基板１５１０に実装されているため、本体枠４を外枠２から必ず開放した状態にする必要がある。そうすると、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作することができるのは、ホールの店員となる。ところが、ホールの店員が調節した音量では、遊技者

にとって小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合もあるし、遊技者にとって大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合もある。そこで、パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作したり、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作したりした場合には、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示され、この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができるようになっている。これにより、遊技者は所望の音量に音楽や効果音の音量を調節することができるため、ホールの店員が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、ホールの店員が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

【０６１５】

また、本実施形態では、パチンコ機１において遊技が行われていない状態が所定時間継続され、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが繰り返し行われると（例えば、１０回）、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量がキャンセルされて、音量が初期化されるようになっている。この音量の初期化では、ホールの店員が調節した音量、つまりホールの店員が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を直接回動操作して調節した音量となるようになっている。これにより、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、今回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、今回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

【０６１６】

［８．電源システム］

次に、パチンコ機１の電源システムについて、図７５及び図７６を参照して説明する。図７５はパチンコ機の電源システムを示すブロック図であり、図７６は図７５のつづきを示すブロック図である。まず、電源基板９３１について説明し、続いて各制御基板等に供給される電源について説明する。なお、各種基板のグランド（ＧＮＤ）や各種端子板のグランド（ＧＮＤ）は、電源基板９３１のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、同一グランド（ＧＮＤ）となっている。

【０６１７】

［８－１．電源基板９３１］

電源基板９３１は、電源コードと電気的に接続されており、この電源コードのプラグがパチンコ島設備の電源コンセントに差し込まれている。電源スイッチ９３４を操作すると、パチンコ島設備から供給されている電力が電源基板９３１に供給され、パチンコ機１の電源投入を行うことができる。

【０６１８】

電源基板９３１は、図７５に示すように、電源制御部９３５、発射制御部９５３を備えている。電源制御部９３５は、パチンコ島設備から供給される交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）から各種直流電圧を作成したり、主制御基板１３１０や払出制御基板９５１へのバックアップ電源を供給する回路であり、発射制御部９５３は、図５に示した打球発射装置６５０の発射ソレノイド６８２や図１に示した球送りユニット２５０の球送ソレノイド２５

５を駆動制御する回路である。
【０６１９】
電源制御部９３５は、同期整流回路９３５ａ、力率改善回路９３５ｂ、平滑化回路９３５ｃ、電源作成回路９３５ｄ、キャパシタＢＣ０，ＢＣ１を備えている。パチンコ島設備から供給されているＡＣ２４Ｖは、電源基板９３１を介して遊技球等貸出装置接続端子板８６９に供給されるとともに、同期整流回路９３５ａに供給されている。この同期整流回路９３５ａは、パチンコ島設備から供給され交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）を整流して力率改善回路９３５ｂに供給している。この力率改善回路９３５ｂは、整流された電力の力率を改善して直流＋３７Ｖ（ＤＣ＋３７Ｖ、以下、「＋３７Ｖ」と記載する。）を作成して平滑化回路９３５ｃに供給している。この平滑化回路９３５ｃは、供給される＋３７Ｖのリップルを除去して＋３７Ｖを平滑化させて発射制御部９５３の発射制御回路９５３ａ及び電源作成回路９３５ｄにそれぞれ供給している。
【０６２０】
キャパシタＢＣ０は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（主制御内蔵ＲＡＭ）へのバックアップ電源を供給し、キャパシタＢＣ１は、払出制御基板９５１における払出制御部９５２の払出制御ＭＰＵ９５２ａに内蔵されたＲＡＭ（払出制御内蔵ＲＡＭ）へのバックアップ電源を供給している。
【０６２１】
発射制御部９５３の発射制御回路９５３ａは、平滑化回路９３５ｃから供給される＋３７Ｖを駆動電源として、ハンドル３０２の回転位置に見合う打ち出し強度（発射強度）で遊技球を図１に示した遊技領域５ａに向かって打ち出す（発射する）ための駆動電流を調整して発射ソレノイド６８２に出力する制御を行う一方、球送りユニット２５０の球送ソレノイド２５５に一定電流を出力することにより球送りユニット２５０の球送部材が皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球を１球受け入れ、球送部材が受け入れた遊技球を打球発射装置６５０側へ送る制御を行う。
【０６２２】
電源作成回路９３５ｄは、平滑化回路９３５ｃから供給される＋３７Ｖから直流＋５Ｖ（ＤＣ＋５Ｖ、以下、「＋５Ｖ」と記載する。）、直流＋１２Ｖ（ＤＣ＋１２Ｖ、以下、「＋１２Ｖ」と記載する。）、及び直流＋２４Ｖ（ＤＣ＋２４Ｖ、以下、「＋２４Ｖ」と記載する。）をそれぞれ作成して払出制御基板９５１及び枠周辺中継端子板８６８にそれぞれ供給している。＋５Ｖが印加されて供給される電源系統が＋５Ｖ電源ライン、＋１２Ｖが印加されて供給される電源系統が＋１２Ｖ電源ライン、そして＋２４Ｖが印加されて供給される電源系統が＋２４Ｖ電源ラインとなる。
【０６２３】
電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖは、後述するように、払出制御基板９５１に供給されている。払出制御基板９５１に供給される＋５Ｖは、払出制御フィルタ回路９５１ａを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの電源端子に印加されるとともに、ダイオードＰＤ０を介して払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子に印加されるようになっている。電源作成回路９３５ｄで作成される＋１２Ｖは、払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇに供給されている。この＋５Ｖ作成回路１３１０ｇは、払出制御基板９５１からの＋１２Ｖから主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖを作成している。＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖは、主制御フィルタ回路１３１０ｈを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子に供給されるとともに、ダイオードＭＤ０を介して主制御内蔵ＲＡＭの電源端子に供給されるようになっている。
【０６２４】
電源基板９３１のキャパシタＢＣ１のマイナス端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地される一方、キャパシタＢＣ１のプラス端子は、払出制御基板９５１の払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子と電気的に接続されるとともに、払出制御基板９５１のダイオードＰＤ０のカソード端子とも電気的に接続されている。つまり、電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖは、払出制御ＭＰＵ９５２ａの電源端子に向かって電流が流れるとと

もに、ダイオードＰＤ０により順方向である払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子と、キャパシタＢＣ１のプラス端子と、に向かって電流が流れるようになっている。このように、キャパシタＢＣ１は、電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖが払出制御基板９５１、そして再び払出制御基板９５１から電源基板９３１に戻ってくるという電気的な接続方法により、＋５Ｖが供給されて充電することができるようになっている。これにより、電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖが払出制御基板９５１に供給されなくなった場合には、キャパシタＢＣ１に充電された電荷が払ＶＢＢとして払出制御基板９５１に供給されるようになっているため、払出制御ＭＰＵ９５２ａの電源端子にはダイオードＰＤ０により電流が妨げられて流れず払出制御ＭＰＵ９５２ａが作動しないものの、払出制御内蔵ＲＡＭの電源端子には払ＶＢＢが供給されることにより記憶内容が保持されるようになっている。

【０６２５】

電源基板９３１のキャパシタＢＣ０のマイナス端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地される一方、キャパシタＢＣ０のプラス端子は、払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０の主制御内蔵ＲＡＭの電源端子と電気的に接続されるとともに、主制御基板１３１０のダイオードＭＤ０のカソード端子とも電気的に接続されている。つまり、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子に向かって電流が流れるとともに、ダイオードＭＤ０により順方向である主制御内蔵ＲＡＭの電源端子と、キャパシタＢＣ０のプラス端子と、に向かって電流が流れるようになっている。このように、キャパシタＢＣ０は、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖが主制御基板１３１０、そして払出制御基板９５１から電源基板９３１に供給されるという電気的な接続方法により、＋５Ｖが供給されて充電することができるようになっている。これにより、電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋１２Ｖが払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇに供給されなくなって＋５Ｖ作成回路１３１０ｇが＋５Ｖを作成することができなくなった場合には、キャパシタＢＣ０に充電された電荷が主ＶＢＢとして、払出制御基板９５１を介して、主制御基板１３１０に供給されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子にはダイオードＭＤ０により電流が妨げられて流れず主制御ＭＰＵ１３１０ａが作動しないものの、主制御内蔵ＲＡＭの電源端子には主ＶＢＢが供給されることにより記憶内容が保持されるようになっている。このように、この実施の形態にかかるパチンコ機１にあって、主制御内蔵ＲＡＭに対してバックアップ電源を供給するバックアップ電源回路は、上記ダイオードＭＤ０と上記キャパシタＢＣ０とによって構成されている。

【０６２６】

［８－２．各制御基板等に供給される電圧］

次に、各制御基板等に供給される電圧についての概要を説明し、続いて、主として払出制御基板に供給される電圧、そして主制御基板に供給される電圧について説明する。

【０６２７】

電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成された＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電圧は、図７５に示すように、払出制御基板９５１に供給され、これら３種類の電圧のうち、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖという２種類の電圧は、払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０に供給されている。また電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成された＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電圧は、枠周辺中継端子板８６８に供給されるとともに、この枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０及び周辺扉中継端子板８８２にそれぞれ供給されている。

【０６２８】

周辺制御基板１５１０に供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電圧は、図７６（ａ）に示すように、ランプ駆動基板４１７０のランプ駆動回路４１７０ａ及びモータ駆動基板４１８０の駆動源駆動回路４１８０ａにそれぞれ供給されている。ランプ駆動基板４１７０のランプ駆動回路４１７０ａは、遊技盤５の各種装飾基板に点灯信号、点滅信号や階調点灯信号等の各種信号を出力し、モータ駆動基板４１８０の駆動源駆

動回路４１８０ａは、遊技盤５のモータやソレノイド等の電気的駆動源に駆動信号を出力する。

【０６２９】

周辺制御基板１５１０は、枠周辺中継端子板８６８から供給される＋５Ｖから直流３．３Ｖ（ＤＣ＋３．３Ｖ、以下、「＋３．３Ｖ」と記載する。）を作成する＋３．３Ｖ作成回路１５１０ｂを備えている。＋３．３Ｖ作成回路１５１０ｂが作成する＋３．３Ｖは、遊技盤側演出表示装置１６００の液晶モジュール１６００ａに供給されている。また、周辺制御基板１５１０に供給される＋１２Ｖは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライト電源１６００ｂに供給されている。

【０６３０】

これに対して、周辺扉中継端子板８８２に供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという３種類の電圧は、図７６（ｂ）に示すように、枠装飾駆動アンプ基板１９４に供給されている。枠装飾駆動アンプ基板１９４は、周辺扉中継端子板８８２から供給される＋１２Ｖから直流＋９Ｖ（ＤＣ＋９Ｖ、以下、「＋９Ｖ」と記載する。）を作成する＋９Ｖ作成回路１９４ａを備えている。＋９Ｖ作成回路１９４ａが作成する＋９Ｖとともに、周辺扉中継端子板８８２から供給される＋５Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋２４Ｖという計４種類の電圧が扉枠３の各種装飾基板等に供給されている。

【０６３１】

また、周辺扉中継端子板８８２に供給される＋１２Ｖは、上皿側液晶モジュール電源回路４４５０ｘに供給されている。上皿側液晶モジュール電源回路４４５０ｘは、＋１２Ｖから＋３．３Ｖを作成している。上皿側液晶モジュール電源回路４４５０ｘが作成した＋３．３Ｖは、図７４に示した液晶モジュール回路４４５０Ｖを構成する各種電子部品にそれぞれ供給されているほかに、上皿側液晶モジュールバックライト電源回路４４５０ｙや扉枠側演出表示装置４６０にそれぞれ供給されている。上皿側液晶モジュールバックライト電源回路４４５０ｙが作成した電圧は、扉枠側演出表示装置４６０に供給されている。

【０６３２】

［８－２－１．払出制御基板に供給される電圧］

払出制御基板９５１は、図７５に示すように、払出制御ＭＰＵ９５２ａ等のほかに、払出制御フィルタ回路９５１ａ等を備えている。この払出制御フィルタ回路９５１ａは、電源基板９３１からの＋５Ｖが供給されており、この＋５Ｖからノイズを除去している。この＋５Ｖは、ダイオードＰＤ０を介して電源基板９３１のキャパシタＢＣ１に供給されるほかに、例えば、払出制御部９５２の払出制御ＭＰＵ９５２ａ等に供給されている。電源基板９３１からの＋１２Ｖは、例えば、払出制御部９５２の払出制御入力回路９５２ｂ等に供給されるとともに、払出制御基板９５１を介して、外部端子板７８４の外部通信回路７８４ａに供給されている。この外部端子板７８４の外部通信回路７８４ａは、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数やパチンコ機１の遊技情報等を伝える信号を遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータへ出力する回路である。ホールコンピュータは、外部通信回路７８４ａから出力される信号から、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数やパチンコ機１の遊技情報等を把握することにより遊技者の遊技を監視している。なお、電源基板９３１からの＋２４は、払出制御基板９５１において何ら使用されずに、払出制御基板９５１を介して、主制御基板１３１０に供給されている。

【０６３３】

［８－２－２．主制御基板に供給される電圧］

主制御基板１３１０は、図７５に示すように、主制御ＭＰＵ１３１０ａ等のほかに、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇ、主制御フィルタ回路１３１０ｈ、停電監視回路１３１０ｅ等を備えている。＋５Ｖ作成回路１３１０ｇは、電源基板９３１からの＋１２Ｖが払出制御基板９５１を介して供給され、この＋１２Ｖから主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖを作成している。主制御基板１３１０において、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇが作成する＋５Ｖが印加されて供給される電源系統が＋５Ｖ電源ラインとなる。本実施形態では、電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖ電源ラインと、主制御

基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ電源ラインと、が電気的に接続されることがないように回路構成されているため、電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖ電源ラインが主制御基板１３１０の各種電子部品と電気的に接続されることがないし、主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖ電源ラインが主制御基板１３１０を除く他の基板等の各種電子部品と電気的に接続されることもない。

【０６３４】

主制御フィルタ回路１３１０ｈは、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖが供給されており、この＋５Ｖからノイズを除去している。この＋５Ｖは、ダイオードＭＤ０を介して電源基板９３１のキャパシタＢＣ０に供給されるほかに、例えば、主制御ＭＰＵ１３１０ａ等に供給されている。払出制御基板９５１からの＋１２Ｖは、例えば、主制御入力回路１３１０ｂ等に供給され、払出制御基板９５１からの＋２４Ｖは、例えば、主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄ等に供給されている。

【０６３５】

停電監視回路１３１０ｅは、電源基板９３１からの＋１２Ｖ及び＋２４Ｖが払出制御基板９５１を介して供給されており、これら＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を監視している。停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を検出すると、停電予告として停電予告信号を主制御ＭＰＵ１３１０ａに出力する。停電予告信号は、主制御基板１３１０、そして払出制御基板９５１の払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される。また、停電予告信号は、主制御基板１３１０を介して周辺制御基板１５１０に入力される。また、停電予告信号は、周辺制御基板１５１０、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、図７６（ｂ）に示すように、枠装飾駆動アンプ基板１９４に入力されるとともに、この枠装飾駆動アンプ基板１９４を介して、扉枠の装飾基板等にそれぞれ入力されるようになっている。

【０６３６】

本実施形態では、停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ電源ラインと＋２４Ｖ電源ラインとの２つの電源ラインに印加される電圧をそれぞれ監視することによって、＋１２Ｖ電源ライン又は＋２４Ｖ電源ラインの一方の電源ラインに印加される電圧を監視する場合と比べて、停電又は瞬停等の電源断の兆候をより正確に把握することができる。

【０６３７】

［９．主制御基板の回路］

次に、図６９に示した主制御基板１３１０の回路等について、図７７～図７９を参照して説明する。図７７は主制御基板の回路を示す回路図であり、図７８は停電監視回路を示す回路図であり、図７９は主制御基板と周辺制御基板との基板間の通信用インターフェース回路を示す回路図である。まず、図７５に示した主制御フィルタ回路１３１０ｈについて説明し、続いて主制御基板１３１０で作成された電源、主制御システムリセット、主制御水晶発振器、主制御入力回路、停電監視回路、主制御ＭＰＵへの各種入出力信号、そして主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間の通信用インターフェース回路について説明する。

【０６３８】

主制御基板１３１０は、図６９及び図７５に示した、主制御ＭＰＵ１３１０ａ、主制御入力回路１３１０ｂ、主制御出力回路１３１０ｃ、主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄ、停電監視回路１３１０ｅ、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇ、及び主制御フィルタ回路１３１０ｈのほかに、周辺回路として、図７７に示すように、リセット信号を出力する主制御システムリセットＭＩＣ１、クロック信号を出力する主制御水晶発振器ＭＸ０（本実施形態では、２４メガヘルツ（ＭＨｚ））を主として構成されている。

【０６３９】

［９－１．主制御フィルタ回路］

主制御フィルタ回路１３１０ｈは、図７７に示すように、主制御３端子フィルタＭＩＣ

０を主として構成されている。この主制御３端子フィルタＭＩＣ０は、Ｔ型フィルタ回路であり、フェライトで磁気シールドした減衰特性の優れたものである。主制御３端子フィルタＭＩＣ０は、その１番端子に、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇで作成される＋５Ｖが印加され、その２番端子がグランド（ＧＮＤ）と接地され、その３番端子からノイズ成分を除去した＋５Ｖが出力されている。１番端子に印加される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ０の他端と電気的に接続されることにより、まずリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている。

【０６４０】

３番端子から出力される＋５Ｖは、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される、コンデンサＭＣ１及び電解コンデンサＭＣ２（本実施形態では、静電容量：４７０マイクロファラッド（μＦ））の他端とそれぞれ電気的に接続されることにより、さらにリップルが除去されて平滑化されている。この平滑化された＋５Ｖは、主制御システムリセットＭＩＣ１の電源端子、主制御水晶発振器ＭＸ０の電源端子であるＶＤＤ端子、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子等にそれぞれ印加されている。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、停電又は瞬停が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっている。

【０６４１】

主制御ＭＰＵ１３１０ａのＶＤＤ端子は一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ３の他端と電気的に接続され、ＶＤＤ端子に印加される＋５Ｖはさらにリップルが除去されて平滑化されている。主制御ＭＰＵ１３１０ａの接地端子であるＶＳＳ端子はグランド（ＧＮＤ）と接地されている。

【０６４２】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＶＤＤ端子は、コンデンサＭＣ３と電気的に接続されるほかに、ダイオードＭＤ０のアノード端子と電気的に接続されている。ダイオードＭＤ０のカソード端子は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭ（主制御内蔵ＲＡＭ）の電源端子であるＶＢＢ端子と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ４の他端と電気的に接続されている。この主制御内蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子は、ダイオードＭＤ０のカソード端子及びコンデンサＭＣ４の他端と電気的に接続されるほかに、抵抗ＭＲ０を介して、図７５に示した電源基板９３１のキャパシタＢＣ０のプラス端子と電気的に接続されている。つまり、主制御フィルタ回路１３１０ｈによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＶＤＤ端子に印加されるとともに、ダイオードＭＤ０を介して、主制御内蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子と、キャパシタＢＣ０のプラス端子と、に印加されるようになっている。これにより、上述したように、図７５に示した電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋１２Ｖが払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０の＋５Ｖ作成回路１３１０ｇに供給されなくなって＋５Ｖ作成回路１３１０ｇが＋５Ｖを作成することができなくなった場合には、キャパシタＢＣ０に充電された電荷が主ＶＢＢとして主制御基板１３１０に供給されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＶＤＤ端子にはダイオードＭＤ０により電流が妨げられて流れず主制御ＭＰＵ１３１０ａが作動しないものの、主制御内蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子には主ＶＢＢが印加されることにより記憶内容が保持されるようになっている。

【０６４３】

［９－２．主制御システムリセット］

主制御フィルタ回路１３１０ｈによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、図７７に示すように、主制御システムリセットＭＩＣ１の電源端子に印加されている。主制御システムリセットＭＩＣ１は、主制御ＭＰＵ１３１０ａ及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａにそれぞれリセットをかけるものであり、遅延回路が内蔵されている。主制御システムリセットＭＩＣ１の遅延容量端子には、一端がグランド（ＧＮＤ）と

接地されるコンデンサＭＣ５の他端と電気的に接続されており、このコンデンサＭＣ５の容量によって遅延回路による遅延時間を設定することができるようになっている。具体的には、主制御システムリセットＭＩＣ１は、電源端子に入力された＋５Ｖがしきい値（例えば、４．２５Ｖ）に達すると、遅延時間経過後に出力端子からシステムリセット信号を出力する。

【０６４４】

主制御システムリセットＭＩＣ１の出力端子は、主制御ＭＰＵ１３１０ａのリセット端子であるＳＲＳＴ端子及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａのリセット端子とそれぞれ電気的に接続されている。出力端子は、オープンコレクタ出力タイプであり、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ１の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ６の他端と電気的に接続されている。このコンデンサＭＣ６によりリップルが除去されて平滑化されている。出力端子は、電源端子に入力される電圧がしきい値より大きいときにはプルアップ抵抗ＭＲ１により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなり、この論理が主制御ＭＰＵ１３１０ａのＳＲＳＴ端子及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａのリセット端子にそれぞれ入力される一方、電源端子に入力される電圧がしきい値より小さいときには論理がＬＯＷとなり、この論理が主制御ＭＰＵ１３１０ａのＳＲＳＴ端子及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａのリセット端子にそれぞれ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａのＳＲＳＴ端子及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａのリセット端子はそれぞれ負論理入力であるため、電源端子に入力される電圧がしきい値より小さい状態となると、主制御ＭＰＵ１３１０ａ及びリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａにリセットがかかる。なお、電源端子は一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ７の他端と電気的に接続されており、電源端子に入力される＋５Ｖはリップルが除去されて平滑化されている。また、接地端子はグラント（ＧＮＤ）と接地されており、ＮＣ端子は外部と電気的に未接続の状態となっている。

【０６４５】

［９－３．主制御水晶発振器］

主制御フィルタ回路１３１０ｈによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、図７７に示すように、主制御水晶発振器ＭＸ０の電源端子であるＶＤＤ端子に印加されている。このＶＤＤ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ８の他端と電気的に接続されており、ＶＤＤ端子に入力される＋５Ｖは、さらにリップルが除去されて平滑化されている。また、この平滑化された＋５Ｖは、ＶＤＤ端子のほかに、出力周波数選択端子であるＡ端子、Ｂ端子、Ｃ端子及びＳＴ端子にもそれぞれ印加されている。主制御水晶発振器ＭＸ０は、これらのＡ端子、Ｂ端子、Ｃ端子及びＳＴ端子に＋５Ｖがそれぞれ印加されることにより、２４ＭＨｚのクロック信号を出力端子であるＦ端子から出力する。

【０６４６】

主制御水晶発振器ＭＸ０のＦ端子は、主制御ＭＰＵ１３１０ａのクロック端子であるＣＬＫ端子と電気的に接続されており、２４ＭＨｚのクロック信号が入力されている。なお、主制御水晶発振器ＭＸ０の接地端子であるＧＮＤ端子はグランド（ＧＮＤ）と接地されており、主制御水晶発振器ＭＸ０のＦ端子の分周波を出力するＤ端子は外部と電気的に未接続の状態となっている。

【０６４７】

［９－４．主制御入力回路］

主制御入力回路１３１０ｂは、図６９に示した、一般入賞口センサ４０２０，４０２０、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、磁気検出センサ４０２４、カウントセンサ４００５、ゲートセンサ４００３からの検出信号のほかに、図７０に示した払出制御基板９５１に備える操作スイッチ９５４からの操作信号（ＲＡＭクリア信号）等が入力される回路である。各スイッチからの検出信号が入力される回路構成は、同一であるため、ここでは、操作スイッチ９５４からの操作信号（ＲＡＭクリア信号）が入力され

る回路について説明する。
【０６４８】
［９－４－１．操作スイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）が入力される回路］
まず、操作スイッチ９５４は、上述したように、電源投入時から予め定めた期間内において払出制御基板９５１の払出制御ＭＰＵ９５２ａに内蔵されるＲＡＭ（払出制御内蔵ＲＡＭ）、及び主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＲＡＭ（主制御内蔵ＲＡＭ）をクリアする場合に操作されたり、電源投入後においてエラー報知されている際に、そのエラーを解除するために操作されたりするようになっており、電源投入時から予め定めた期間内におけるＲＡＭクリアを行う機能と、電源投入後（ＲＡＭクリアとして機能を奏する期間を経過した後、つまり電源投入時から予め定めた期間が経過した後）におけるエラー解除を行う機能と、を有している。主制御基板１３１０には、払出制御基板９５１が有するエラー解除を行う機能を有していないため、電源投入時から予め定めた期間内に操作スイッチ９５４からの操作信号が入力されると、主制御内蔵ＲＡＭをクリアするためのＲＡＭクリア信号として判断して主制御内蔵ＲＡＭをクリアする処理を行う。
【０６４９】
主制御基板１３１０には、操作スイッチ９５４が操作されていないときには払出制御基板９５１から論理がＬＯＷとなった操作信号が入力される一方、操作スイッチ９５４が操作されているときには払出制御基板９５１から論理がＨＩとなった操作信号が払出制御基板９５１から入力されるようになっている（この点の詳細な説明について後述する）。
【０６５０】
電源投入時から予め定めた期間内において払出制御基板９５１に備える操作スイッチ９５４からの操作信号を伝える伝送ラインは、図７７に示すように、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ３を介してトランジスタＭＴＲ０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ０のベース端子は、抵抗ＭＲ３と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ４の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ５の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＭＩＣ１０（非反転バッファＩＣＭＩＣ１０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ１０Ａ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０と電気的に接続されている。
【０６５１】
払出制御基板９５１における操作スイッチ９５４からの操作信号を出力する回路は、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されるオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、操作スイッチ９５４からの操作信号を伝える伝送ラインがプルアップ抵抗ＭＲ２により＋１２Ｖ側に引き上げられている。主制御基板１３１０は、操作スイッチ９５４が操作されていないときには払出制御基板９５１からの操作信号がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなって入力される一方、操作スイッチ９５４が操作されているときには払出制御基板９５１からの操作信号がプルアップ抵抗ＭＲ２により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなって入力される。
【０６５２】
抵抗ＭＲ３，ＭＲ４、及びトランジスタＭＴＲ０から構成される回路は、操作スイッチ９５４からの操作信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。
【０６５３】
操作スイッチ９５４が操作されていないときには、論理がＬＯＷとなった操作信号がトランジスタＭＴＲ０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ５により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった操作スイッチ９５４からの操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子

ＰＡ０に入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力端子ＰＡ０に入力される操作スイッチ９５４からの操作信号の論理値がＨＩであるときには主制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものでないと判断する。

【０６５４】

一方、操作スイッチ９５４が操作されているときには、プルアップ抵抗ＭＲ２により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった操作信号がトランジスタＭＴＲ０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった操作スイッチ９５４からの操作信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力端子ＰＡ０に入力される操作スイッチ９５４からの操作信号の論理値がＬＯＷであるときには主制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断する。

【０６５５】

なお、操作スイッチ９５４からの操作信号は、プルアップ抵抗ＭＲ２により＋１２Ｖ側に引き上げられている。これは、操作スイッチ９５４からの操作信号が払出制御基板９５１を介して入力されているためである。つまり、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間においては、基板間を電気的に接続する配線（ハーネス）に侵入するノイズの影響を抑えるために、制御基準電圧である＋５Ｖよりも高い電圧である＋１２Ｖを用いて信号の信頼性を高めている。そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０に直接入力される、一般入賞口センサ４０２０、第一始動口センサ４００２、及び第二始動口センサ４００４からの検出信号は、プルアップ抵抗により＋５Ｖ側に引き上げられる一方、図６９に示したパネル中継基板４１６１を介して入力される、磁気検出センサ４０２４、カウントセンサ４００５、一般入賞口センサ４０２０、及びゲートセンサ４００３からの検出信号は、主制御基板１３１０に直接入力されないため、操作スイッチ９５４からの操作信号と同様に、プルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられている。

【０６５６】

［９－５．停電監視回路］

主制御基板１３１０は、図７５に示したように、電源基板９３１から＋１２Ｖ及び＋２４Ｖという２種類の電圧が払出制御基板９５１を介して供給されており、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖが停電監視回路１３１０ｅに入力されている。停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの停電又は瞬停の兆候を監視しており、停電又は瞬停の兆候を検出すると、停電予告として停電予告信号を、主制御ＭＰＵ１３１０ａのほかに、払出制御基板９５１の払出制御ＭＰＵ９５２ａや周辺制御基板１５１０に出力する。ここでは、まず停電監視回路の構成について説明し、続いて＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視、＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視、そして停電予告信号の出力について説明する。

【０６５７】

［９－５－１．停電監視回路の構成］

停電監視回路１３１０ｅは、図７８に示すように、シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０、オープンコレクタ出力タイプのコンパレータＭＩＣ２１、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２、トランジスタＭＴＲ２０～ＭＴＲ２３を主として構成されている。

【０６５８】

シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０の基準電圧入力端子であるＲＥＦ端子、及びカソード端子であるＫ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２０の他端と電気的に接続されて＋５Ｖが印加されており、ＲＥＦ端子に入力される電流が抵抗ＭＲ２０により制限されている。Ｋ端子は、コンパレータＭＩＣ２１の比較基準電圧となるリファレンス電圧Ｖｒｅｆ（本実施形態では、２．４９５Ｖが設定されている。）を出力する。Ｋ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２０の他端と電気的に接続されており、Ｋ端子から出力されるリファレンス電圧Ｖｒｅｆは、コンデンサＭＣ２０によりリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている

。なお、シャント式安定化電源回路ＭＩＣ２０のアノード端子であるＡ端子はグランド（ＧＮＤ）と接地されている。

【０６５９】

コンパレータＭＩＣ２１は、２つの電圧比較回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ２１Ａ）を、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較するために用いているとともに、残りの１つ（ＭＩＣ２１Ｂ）を、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較するために用いている。ＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子は、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１が印加され、ＭＩＣ２１Ａのマイナス端子である２番端子は、リファレンス電圧Ｖｒｅｆが印加されている。ＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子は、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２が印加され、ＭＩＣ２１Ｂのマイナス端子である６番端子は、リファレンス電圧Ｖｒｅｆが印加されている。これらの比較結果は、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２に入力されている。このＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２は、２つのＤタイプフリップフロップ回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ２２Ａ）を本実施形態に用いている。コンパレータＭＩＣ２１の電源端子であるＶｃｃ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２１の他端と電気的に接続されており、コンパレータＭＩＣ２１の電源端子であるＶｃｃ端子に印加される＋５Ｖは、コンデンサＭＣ２１によりリップルが除去されて平滑化され、コンパレータＭＩＣ２１のグランド端子であるＧＮＤ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地されている。

【０６６０】

［９－５－２．＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視］

＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視は、上述したように、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａが＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較することにより行われている。＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１が印加されるコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子は、図７８に示すように、一端が＋２４Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２１の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）に接地される抵抗ＭＲ２２の他端と、が電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ２１，ＭＲ２２の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２３の他端と、が電気的に接続されている。コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａのプラス端子である３番端子に印加される＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１は、抵抗ＭＲ２１，ＭＲ２２による抵抗比によって＋２４Ｖが分圧され、コンデンサＭＣ２３によりリップルが除去されて平滑化されている。抵抗ＭＲ２１，ＭＲ２２の値は、＋２４Ｖが停電又は瞬停した際に、その電圧が＋２４Ｖから落ち始めて予め設定した停電検知電圧Ｖ１ｐｆ（本実施形態では、２１．４０Ｖに設定されている。）となったときに、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆと同値になるように設定されている。

【０６６１】

コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子は、オープンコレクタ出力となっており、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２３の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２４の他端と電気的に接続されてＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子と電気的に接続されている。コンデンサＭＣ２４は、ローパスフィルタとしての役割を担っている。

【０６６２】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいときには、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより大きくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子に印加される電圧は、プルアップ抵抗ＭＲ２３により＋５Ｖ側に引き上げられ、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【０６６３】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいときには、＋２４Ｖの監視電圧Ｖ１がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより小さくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２

１Ａの出力端子である１番端子に印加される電圧は、グランド（ＧＮＤ）側に引き下げられ、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【０６６４】

［９－５－３．＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視］

＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視は、上述したように、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂが＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２とリファレンス電圧Ｖｒｅｆとを比較することにより行われている。＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２が印加されるコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子は、図７８に示すように、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２４の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）に接地される抵抗ＭＲ２５の他端と、が電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５の他端と、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２５の他端と、が電気的に接続されている。コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂのプラス端子である５番端子に印加される＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２は、抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５による抵抗比によって＋１２Ｖが分圧され、コンデンサＭＣ２５によりリップルが除去されて平滑化されている。抵抗ＭＲ２４，ＭＲ２５の値は、＋１２Ｖが停電又は瞬停した際に、その電圧が＋１２Ｖから落ち始めて予め設定した停電検知電圧Ｖ２ｐｆ（本実施形態では、１０．４７Ｖに設定されている。）となったときに、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆと同値になるように設定されている。

【０６６５】

コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子は、オープンコレクタ出力となっており、上述したＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子と電気的に接続されているため、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２３の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２４の他端と電気的に接続されてＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子と電気的に接続されている。コンデンサＭＣ２４は、上述したように、ローパスフィルタとしての役割を担っている。

【０６６６】

＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいときには、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより大きくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子に印加される電圧は、プルアップ抵抗ＭＲ２３により＋５Ｖ側に引き上げられ、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【０６６７】

一方、＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいときには、＋１２Ｖの監視電圧Ｖ２がリファレンス電圧Ｖｒｅｆより小さくなり、コンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子に印加される電圧は、グランド（ＧＮＤ）側に引き下げられ、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される。

【０６６８】

［９－５－４．停電予告信号の出力］

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、クロック入力端子である１ＣＫ端子に入力されるクロック信号のエッジの変化により、Ｄ入力端子である１Ｄ端子に入力される信号の値（論理）を記憶し、この記憶値（論理）を、出力端子である１Ｑ端子から出力するとともに、その記憶値（論理）を反転させた値を、出力端子である負論理１Ｑ端子から出力する。また、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＬＯＷとなった信号が入力されると、ラッチ状態を解除してプリセット端子であるＰＲ端子に入力されている信号の論理を反転させた信号を出力端子である１Ｑ端子から出力する（このとき、１Ｑから出力される信号の論理を反転させた信号、つまりプリセット端子であるＰＲ端子に入力されている信号の論理と同一の論理となった信号を負論理１Ｑ端子

から出力する）一方、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＨＩとなった信号が入力されると、ラッチ状態をセットする。また、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、クリア端子であるＣＬＲ端子に論理がＨＩとなった信号が入力されてラッチ状態をセットするようになっている際に、プリセット端子であるＰＲ端子に論理がＬＯＷとなった信号が入力されると、論理をＨＩとする信号を出力端子である１Ｑ端子から出力する状態を維持する（このとき、１Ｑから出力される信号の論理を反転させた信号を負論理１Ｑ端子から出力する状態を維持する）。

【０６６９】

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、本実施形態において、Ｄ入力端子である１Ｄ端子、及びクロック入力端子である１ＣＫ端子は、グランド（ＧＮＤ）とそれぞれ接地されているため、クロック入力端子である１ＣＫ端子に入力されるクロック信号のエッジの変化がなく、Ｄ入力端子である１Ｄ端子に入力される信号の値（論理）を記憶して出力端子である１Ｑ端子から出力することがないように回路構成されている。Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、プリセット端子であるＰＲ端子に、上述したように、＋２４Ｖの停電又は瞬停の監視を行うコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ａの出力端子である１番端子からの信号と、＋１２Ｖの停電又は瞬停の監視を行うコンパレータＭＩＣ２１のＭＩＣ２１Ｂの出力端子である７番端子からの信号と、が入力され、これらの信号に基づいて、出力端子である１Ｑ端子から信号を出力する。なお、電源端子であるＶｃｃ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２２の他端と電気的に接続されており、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の電源端子であるＶｃｃ端子に印加される＋５Ｖは、コンデンサＭＣ２２によりリップルが除去されて平滑化され、接地端子であるＧＮＤ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、出力端子である１Ｑ端子の論理を反転する負論理１Ｑ端子は外部と電気的に未接続の状態となっている。

【０６７０】

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、本実施形態において、クリア端子であるＣＬＲ端子に主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号がリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａを介して入力されている。この停電クリア信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａが行う後述する主制御側電源投入時処理において、出力開始されて所定時間経過後に停止されるようになっている。ＣＬＲ端子は負論理入力であるため、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号は、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａを介してその論理がＬＯＷとなってＣＬＲ端子に入力される。Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、ＣＬＲ端子に停電クリア信号が入力されると、ラッチ状態を解除するようになっており、このとき、プリセット端子であるＰＲ端子に入力された論理を反転して出力端子である１Ｑ端子から出力する。

【０６７１】

一方、主制御ＭＰＵ１３１０ａからの停電クリア信号の出力が停止されると、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａを介してその論理がＨＩとなってＣＬＲ端子に入力される。Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、ＣＬＲ端子に停電クリア信号が入力されないときには、ラッチ状態をセットするようになっており、ＰＲ端子に論理がＬＯＷとなって入力された状態をラッチする。

【０６７２】

Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子は、主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１と電気的に接続され、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号が停電予告信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力されるようになっている。また、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子は、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂと電気的に接続され、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号をリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから払出制御基板９５１に払出停電予告信号として出力するとともに、周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力する。

【０６７３】
　ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子と、主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１と、を電気的に接続する主制御入力回路１３１０ｂは、図７８に示すように、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２６の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ２７を介してトランジスタＭＴＲ２０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２０のベース端子は、抵抗ＭＲ２７と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ２８の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２９の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＭＩＣ２３（非反転バッファＩＣＭＩＣ２３は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＭＩＣ２３Ａ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１と電気的に接続されている。
【０６７４】
　抵抗ＭＲ２７，ＭＲ２８、及びトランジスタＭＴＲ２０から構成される回路は、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。
【０６７５】
　ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ２０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ２０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。一方、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２０のベース端子に印加される電圧が＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。
【０６７６】
　＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなってトランジスタＭＴＲ２０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２０がＯＦＦする。これにより、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ２９により＋５Ｖ側に引き上げられて非反転バッファＩＣＭＩＣ２３を介して論理がＨＩとなった停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される。
【０６７７】
　一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなってトランジスタＭＴＲ２０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２０がＯＮする。これにより、トランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて非反転バッファＩＣＭＩＣ２３を介して論理がＬＯＷとなった停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される。
【０６７８】
　また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を払出制御基板９５１に払出停電予告信号として出力するリセット機能なし主制御出

力回路１３１０ｃｂは、図７８に示すように、オープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が上述した主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ２６と電気的に接続されて抵抗ＭＲ３０を介して前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子と電気的に接続されている。前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子は、抵抗ＭＲ３０と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ３１の他端と電気的に接続されている。前段のトランジスタＭＴＲ２１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ３２の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ３３を介して後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子と電気的に接続されている。後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子は、抵抗ＭＲ３３と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ３４の他端と電気的に接続されている。後段のトランジスタＭＴＲ２２のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＭＣ２６の他端と電気的に接続され、そして配線（ハーネス）を介して払出制御基板９５１と電気的に接続されている。なお、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、払出制御基板９５１と電気的に接続されると、払出制御基板９５１における図７０に示した払出制御部９５２の払出制御入力回路９５２ｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されるとともに図７０に示した払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続される。

【０６７９】

抵抗ＭＲ３０，ＭＲ３１、及び前段のトランジスタＭＴＲ２１から構成される回路は前段のスイッチ回路であり、抵抗ＭＲ３３，ＭＲ３４、及び後段のトランジスタＭＴＲ２２から構成される回路は後段のスイッチ回路であり、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするものである。

【０６８０】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＦＦし、前段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなり、後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加される電圧である、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ３２により＋５Ｖ側に引き上げられることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＮし、後段のスイッチ回路もＯＮすることとなる。一方、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２１のベース端子に印加される電圧が＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２１がＯＮし、前段のスイッチ回路もＯＮすることとなり、後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加される電圧である、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＦＦし、後段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなる。

【０６８１】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなって前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に入力されることで前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＦＦする。これにより、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ３２により＋５Ｖ側に引き上げられて後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加されることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＮする。これにより、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレク

タ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して払出制御基板９５１においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力される。

【０６８２】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなって前段のトランジスタＭＴＲ２１のベース端子に入力されることで前段のトランジスタＭＴＲ２１がＯＮする。これにより、前段のトランジスタＭＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）に引き下げられて後段のトランジスタＭＴＲ２２のベース端子に印加されることで後段のトランジスタＭＴＲ２２がＯＦＦする。これにより、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して払出制御基板９５１における払出制御部９５２の払出制御入力回路９５２ｂにおいてプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力される。

【０６８３】

また、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力するリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂは、図７８に示すように、オープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子が上述した主制御入力回路１３１０ｂの抵抗ＭＲ２６と電気的に接続されて抵抗ＭＲ３５を介してトランジスタＭＴＲ２３のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２３のベース端子は、抵抗ＭＲ３５と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ３６の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ２３のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０と電気的に接続されている。なお、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０と電気的に接続されると、図７２に示した周辺制御基板１５１０における周辺制御部１５１１の図示しない周辺制御入力回路において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されるとともに図７２に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続される。

【０６８４】

抵抗ＭＲ３５，ＭＲ３６、及びトランジスタＭＴＲ２３から構成される回路は、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０６８５】

ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ２３のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ２３がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。一方、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ２３のベース端子に印加される電圧が＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ２３がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。

【０６８６】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、論理がＨＩとなった信号がＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子

に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＬＯＷとなってトランジスタＭＴＲ２３のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２３がＯＦＦする。これにより、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０における周辺制御部１５１１の払出制御入力回路においてプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった周辺停電予告信号が周辺制御基板１５１０に入力される。

【０６８７】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、論理がＬＯＷとなった信号がＤタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるため、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号がその論理がＨＩとなってトランジスタＭＴＲ２３のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ２３がＯＮする。これにより、トランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して周辺制御基板１５１０においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった周辺停電予告信号が周辺制御基板１５１０に入力される。

【０６８８】

このように、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を主制御ＭＰＵ１３１０ａに停電予告信号として伝える主制御入力回路１３１０ｂと、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を周辺制御基板１５１０に周辺停電予告信号として出力するリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂと、にはトランジスタがそれぞれ１つであり、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される停電予告信号と周辺制御基板１５１０に入力される周辺停電予告信号との論理が同一論理となっているのに対して、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力される信号を払出制御基板９５１に払出停電予告信号として出力するリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂにはトランジスタが前段と後段との２つであり、払出停電予告信号の論理は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される停電予告信号の論理と周辺制御基板１５１０に入力される周辺停電予告信号の論理とを反転させた論理となっており、停電予告信号の論理及び周辺停電予告信号の論理と異なっている。

【０６８９】

また、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ２９の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＭＩＣ２３を介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１と電気的に接続されているのに対して、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂの後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、払出制御基板９５１における払出制御部９５２の払出制御入力回路９５２ｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗の他端と電気的に接続されているとともに、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂのトランジスタＭＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して、周辺制御基板１５１０における周辺制御部１５１１の払出制御入力回路において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗と電気的に接続されている。これは、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０のコレクタ端子と主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１との端子間においては、主制御入力回路１３１０ｂのトランジスタＭＴＲ２０と主制御ＭＰＵ１３１０ａとが主制御基板１３１０に実装されているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖを用いた停電予告信号の論理（ＯＮ／ＯＦＦ信号）によって停電予告を行うのに対して、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間、及び主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間においては、基板間を電気的に接続する配線（ハーネス）に侵入するノイズの影響を抑えるために、主制御ＭＰＵ１３１０ａ、払出制御ＭＰＵ９５２ａ、及び周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの制御基準

電圧である＋５Ｖよりも高い電圧である＋１２Ｖを用いた停電予告信号の論理（ＯＮ／ＯＦＦ信号）によって停電予告を行っている。

【０６９０】

［９－６．主制御ＭＰＵへの各種入出力信号］

次に、主制御ＭＰＵ１３１０ａへの各種入出力信号について、図７７を参照して説明する。主制御ＭＰＵ１３１０ａのシリアル入力ポートのシリアルデータ入力端子であるＲＸＡ端子は、図６９に示した払出制御基板９５１からのシリアルデータが主制御入力回路１３１０ｂを介して払主シリアルデータ受信信号として受信される。一方、主制御ＭＰＵ１３１０ａのシリアル出力ポートのシリアルデータ出力端子であるＴＸＡ端子及びＴＸＢ端子は、ＴＸＡ端子から、払出制御基板９５１に送信するシリアルデータを主払シリアルデータ送信信号としてリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに送信してリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから払出制御基板９５１に主払シリアルデータ送信信号を送信し、ＴＸＢ端子から、図６９に示した周辺制御基板１５１０に送信するシリアルデータを主周シリアルデータ送信信号としてリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに送信してリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから周辺制御基板１５１０に主周シリアルデータ送信信号を送信する。

【０６９１】

主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの各入力端子には、上述した操作信号（ＲＡＭクリア信号）が入力されるほかに、例えば、上述した主払シリアルデータ受信信号の正常受信完了の旨を伝える払出制御基板９５１からの払主ＡＣＫ信号が主制御入力回路１３１０ｂを介して入力されたり、図６９に示した第一始動口センサ４００２等の各種スイッチからの検出信号が主制御入力回路１３１０ｂを介してそれぞれ入力されたり等する。

【０６９２】

一方、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの各出力端子からは、例えば、上述した払主シリアルデータ受信信号の正常受信完了の旨を伝える主払ＡＣＫ信号をリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに出力してリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから主払ＡＣＫ信号を払出制御基板９５１に出力したり、図６９に示した、始動口ソレノイド２１０７に対して、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに駆動信号を出力してリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄを介して始動口ソレノイド２１０７に駆動信号を出力したり、図６９に示した第一特別図柄表示器１４０３等の各種表示器に対して、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａにそれぞれ駆動信号を出力してリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから各種表示器に駆動信号をそれぞれ出力したり、遊技に関する各種情報（遊技情報）をリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに出力してリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから遊技に関する各種情報（遊技情報）を払出制御基板９５１に出力したり等する。

【０６９３】

［９－７．主制御基板と周辺制御基板との基板間の通信用インターフェース回路］

次に、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間の通信用インターフェース回路について、図７９を参照して説明する。主制御基板１３１０は、図７５に示した電源基板９３１からの＋１２Ｖが払出制御基板９５１を介して供給され、＋５Ｖ作成回路１３１０ｇは、この＋１２Ｖから主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖを作成している。主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号は、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間を電気的に接続する配線（ハーネス）に侵入するノイズの影響を抑えるために、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖよりも高い電圧である＋１２Ｖを用いて送信されることによってその信頼性が高められている。

【０６９４】

具体的には、主制御基板１３１０は、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂを通信用インターフェース回路として機能させており、通信用インターフェース回路は、抵

抗ＭＲ５０、抵抗ＭＲ５１，ＭＲ５２、及びトランジスタＭＴＲ５０を主として構成されている。これに対して、周辺制御基板１５１０には、通信用インターフェース回路として、ダイオードＡＤ１０、電解コンデンサＡＣ１０（本実施形態では、静電容量：４７μＦ）、フォトカプラＡＩＣ１０（赤外ＬＥＤとフォトＩＣとが内蔵されて構成されている。）を主として構成されている。

【０６９５】

主制御基板１３１０のダイオードＭＤ５０のアノード端子には、電源基板９３１から供給される＋１２Ｖが払出制御基板９５１を介して印加され、ダイオードＭＤ５０のカソード端子には、マイナス端子がグランド（ＧＮＤ）と接地される電解コンデンサＭＣ５０（本実施形態では、静電容量：２２０マイクロファラッド（μＦ））のプラス端子と電気的に接続されている。ダイオードＭＤ５０のカソード端子は、電解コンデンサＭＣ５０のプラス端子と電気的に接続されるほかに、配線（ハーネス）を介して、周辺制御基板１５１０のフォトカプラＡＩＣ１０のアノード端子（１番端子）と電気的に接続されている。これにより、例えば停電又は瞬停が発生することにより、電源基板９３１からの電力が払出制御基板９５１を介して主制御基板１３１０に供給されなくなった場合には、電解コンデンサＭＣ５０に充電された電荷が＋１２Ｖとして主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０のフォトカプラＡＩＣ１０のアノード端子に印加し続けることができるようになっている。

【０６９６】

このように、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、停電又は瞬停が発生した場合に、図７７に示した電解コンデンサＭＣ２（本実施形態では、静電容量：４７０μＦ）に充電された電荷が＋５Ｖとして印加されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅは、少なくとも、その送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに主制御ＣＰＵコア１３１０ａａがセットしたコマンドをシリアル管理部１３１０ａｅｃにより送信シフトレジスタ４１ａｅａに転送して送信シフトレジスタ１３１０ａｅａから主周シリアルデータとして送信完了することができる。

【０６９７】

主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号は、上述したように、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間を電気的に接続する配線（ハーネス）に侵入するノイズの影響を抑えるために、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖよりも高い電圧である＋１２Ｖを用いて送信されることによってその信頼性が高められている。

【０６９８】

そこで、本実施形態では、停電又は瞬停が発生した場合に、電解コンデンサＭＣ５０に充電された電荷が＋１２Ｖとして主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０のフォトカプラＡＩＣ１０のアノード端子に印加されるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅは、その送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに主制御ＣＰＵコア１３１０ａａがセットしたコマンドをシリアル管理部１３１０ａｅｃにより送信シフトレジスタ４１ａｅａに転送して送信シフトレジスタ１３１０ａｅａから主周シリアルデータとして送信すると、トランジスタＭＴＲ５０のコレクタ端子から＋１２Ｖにより論理をＨＩとする主周シリアルデータ送信信号を送信することができるようになっている。

【０６９９】

なお、本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅの送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂの記憶容量が３２バイトを有しており、また１パケットが３バイトのデータから構成されているため、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに最大で１０パケット分のデータが記憶されるようになっている。また、本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａから送信される主周シリアルデータの転送ビットレートが１９２００ｂｐｓに設定されている。

【０７００】
フォトカプラＡＩＣ１０のカソード端子（３番端子）は、抵抗ＡＲ１０、そしてその配線（ハーネス）を介して、主制御基板１３１０のトランジスタＭＴＲ５０のコレクタ端子と電気的に接続されている。周辺制御基板１５１０の抵抗ＡＲ１０は、フォトカプラＡＩＣ１０の内蔵赤外ＬＥＤに流れる電流を制限するための制限抵抗である。
【０７０１】
図７７に示した主制御ＭＰＵ１３１０ａから主周シリアルデータ送信信号を出力するＴＸＢ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＭＲ５０の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＭＲ５１を介してトランジスタＭＴＲ５０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ５０のベース端子は、抵抗ＭＲ５１と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＭＲ５２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＭＴＲ５０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地されている。
【０７０２】
抵抗ＭＲ５１，ＭＲ５２、及びトランジスタＭＴＲ５０から構成される回路はスイッチ回路であり、主周シリアルデータ送信信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ５０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ５０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、周辺制御基板１５１０のフォトカプラＡＩＣ１０の内蔵赤外ＬＥＤに順方向の電流が流れないため、フォトカプラＡＩＣ１０がＯＦＦする。一方、主周シリアルデータ送信信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ５０のベース端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ５０により＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ５０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、周辺制御基板１５１０のフォトカプラＡＩＣ１０の内蔵赤外ＬＥＤに順方向の電流が流れるため、フォトカプラＡＩＣ１０がＯＮする。
【０７０３】
周辺制御基板１５１０のダイオードＡＤ１０のアノード端子には、電源基板９３１から供給される＋５Ｖが枠周辺中継端子板８６８を介して印加されて、ダイオードＡＤ１０のカソード端子が、マイナス端子がグランド（ＧＮＤ）と接地される電解コンデンサＡＣ１０のプラス端子と電気的に接続されている。ダイオードＡＤ１０のカソード端子は、電解コンデンサＡＣ１０のプラス端子と電気的に接続されるほかに、フォトカプラＡＩＣ１０の電源端子であるＶｃｃ端子（６番端子）と電気的に接続されている。フォトカプラＡＩＣ１０のエミッタ端子（４番端子）は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、フォトカプラＡＩＣ１０のコレクタ端子（５番端子）は、電解コンデンサＡＣ１０のプラス端子と電気的に接続されるプルアップ抵抗ＡＲ１１により＋５Ｖ側に引き上げられて周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートの入力端子と電気的に接続されている。フォトカプラＡＩＣ１０がＯＮ／ＯＦＦすることによりフォトカプラＡＩＣ１０のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が主周シリアルデータ送信信号として周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートの入力端子に入力される。
【０７０４】
これにより、上述したように、例えば停電又は瞬停が発生することにより、電源基板９３１から供給される＋５Ｖが枠周辺中継端子板８６８を介して周辺制御基板１５１０に供給されなくなった場合には、電解コンデンサＡＣ１０に充電された電荷が＋５ＶとしてフォトカプラＡＩＣ１０のＶｃｃ端子に印加し続けることができるようになっている。電又は瞬停が発生した際に、電解コンデンサＡＣ１０からの＋５Ｖが印加されることにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＴＸＢ端子から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅの送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされたデータが送信完了することができるようになっており、送信途中の主周シリアルデータ送信信号、つまり主周シリアルデータが寸断されることなく、また欠落されることなく周辺制御基板１５１０で確実

に受信されるようになっている。

【０７０５】

主制御ＭＰＵ１３１０ａのＴＸＢ端子から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号の論理がＨＩであるときには、トランジスタＭＴＲ５０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられてトランジスタＭＴＲ５０がＯＦＦすることでフォトカプラＡＩＣ１０がＯＦＦするようになっているため、フォトカプラＡＩＣ１０のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＡＲ１１により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった主周シリアルデータ送信信号が周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートの入力端子に入力される一方、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＴＸＢ端子から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号の論理がＬＯＷであるときには、トランジスタＭＴＲ５０のベース端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ５０により＋５Ｖ側に引き上げられてトランジスタＭＴＲ５０がＯＮすることでフォトカプラＡＩＣ１０がＯＮするようになっているため、フォトカプラＡＩＣ１０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった主周シリアルデータ送信信号が周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートの入力端子に入力される。このように、フォトカプラＡＩＣ１０のコレクタ端子から出力される主周シリアルデータ送信信号の論理は、主制御ＭＰＵ１３１０ａのＴＸＢ端子から周辺制御基板１５１０へ送信される主周シリアルデータ送信信号の論理と、同一の論理となっている。

【０７０６】

このように、本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御基準電圧である＋５Ｖが印加される＋５Ｖ電源ラインと、ダイオードＭＤ５０を介して印加される通信用電圧である＋１２Ｖが印加される＋１２Ｖ電源ラインと、が停電又は瞬停が発生して制御基準電圧及び通信用電圧が低下した際の対策が施されている。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅに対しては、＋５Ｖ電源ラインと、主制御フィルタ回路１３１０ｈの電解コンデンサＭＣ２を第１の補助電源とする電解コンデンサＭＣ２のプラス端子と、が電気的に並列接続されることにより、停電又は瞬停が発生して＋５Ｖ電源ラインから印加される制御基準電圧が低下しても、第１の補助電源である主制御フィルタ回路１３１０ｈの電解コンデンサＭＣ２のプラス端子からの制御基準電圧が印加されることによって、制御基準電圧が印加された状態を維持することができるようになっているし、抵抗ＭＲ５０、抵抗ＭＲ５１，ＭＲ５２、及びトランジスタＭＴＲ５０から構成されて通信用インターフェース回路として機能させるリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに対しては、＋１２Ｖ電源ラインに印加される＋１２Ｖが通信用電圧としてダイオードＭＤ５０のアノード端子に印加され、このダイオードＭＤ５０のカソード端子と、第２の補助電源である電解コンデンサＭＣ５０のプラス端子と、が電気的に並列接続されることにより、停電又は瞬停が発生して＋１２Ｖ電源ラインからダイオードＭＤ５０を介して印加される通信用電圧が低下しても、第２の補助電源である電解コンデンサＭＣ５０のプラス端子からの通信用電圧が印加されることによって、通信用電圧が印加された状態を維持することができるようになっている。これにより、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信中のコマンドの寸断を防止することができ、また欠落を防止することができるため、周辺制御基板１５１０は、送信中のコマンドを確実に受信することができる。したがって、停電の発生直後や瞬停時におけるコマンドの取りこぼしを解消することができる。

【０７０７】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅの送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされた複数のコマンドを主周シリアルデータとしてすべて、抵抗ＭＲ５０、抵抗ＭＲ５１，ＭＲ５２、及びトランジスタＭＴＲ５０から構成されて通信用インターフェース回路として機能させるリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂを介して、周辺制御基板１５１０へ送信完了することができるように、主制御フィルタ回路１３１０ｈの電解コンデンサＭＣ２の静電容量として４７０μＦが設

定され、電解コンデンサＭＣ５０の静電容量として２２０μＦが設定されている。これにより、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信中に停電又は瞬停が発生しても、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされた複数のコマンドを主周シリアルデータとしてすべてインターフェース回路として機能させるリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂを介して周辺制御基板１５１０へ送信完了することができるため、周辺制御基板１５１０は、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされた複数のコマンドを寸断することなく、また欠落することなく確実に受信することができる。

【０７０８】

［１０．払出制御基板の回路］

次に、図７０に示した払出制御基板９５１の回路等について、図８０～図８５を参照して説明する。図８０は払出制御部の回路等を示す回路図であり、図８１は払出制御入力回路を示す回路図であり、図８２は図８１の続きを示す回路図であり、図８３は払出モータ駆動回路を示す回路図であり、図８４はＣＲユニット入出力回路を示す回路図であり、図８５は主制御基板との各種入出力信号、及び外部端子板への各種出力信号を示す入出力図である。まず、払出制御フィルタ回路について説明し、続いて払出制御部の回路、そして主制御基板との各種入出力信号及び外部端子板への各種出力信号について説明する。

【０７０９】

［１０－１．払出制御フィルタ回路］

払出制御フィルタ回路９５１ａは、図８０に示すように、払出制御３端子フィルタＰＩＣ０を主として構成されている。この払出制御３端子フィルタＰＩＣ０は、Ｔ型フィルタ回路であり、フェライトで磁気シールドした減衰特性の優れたものである。払出制御３端子フィルタＰＩＣ０の１番端子は、図７５に示した電源基板９３１からの＋５Ｖが印加されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ０の他端と電気的に接続されており、電源基板９３１からの＋５ＶがコンデンサＰＣ０により、まずリップル（電圧に畳重された交流成分）が除去されて平滑化されている。払出制御３端子フィルタＰＩＣ０の２番端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、払出制御３端子フィルタＰＩＣ０の３番端子は、ノイズ成分を除去した＋５Ｖを出力している。

【０７１０】

払出制御３端子フィルタＰＩＣ０の３番端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される、コンデンサＰＣ１、及び電解コンデンサＰＣ２（本実施形態では、静電容量：１８０マイクロファラッド（μＦ））の他端とそれぞれ電気的に接続されることにより、払出制御３端子フィルタＰＩＣ０の３番端子から出力される＋５Ｖからさらにリップルが除去されて平滑化されている。この平滑化された＋５Ｖは、後述する、払出制御システムリセットＰＩＣ１の電源端子、払出制御水晶発振器ＰＸ０の電源端子であるＶＣＣ端子、払出制御ＭＰＵ９５２ａの電源端子であるＶＤＤ端子等にそれぞれ印加されている。なお、払出制御ＭＰＵ９５２ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、停電又は瞬停が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＰＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっている。

【０７１１】

払出制御ＭＰＵ９５２ａのＶＤＤ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ３の他端と電気的に接続され、ＶＤＤ端子に印加される＋５ＶはコンデンサＰＣ３によりさらにリップルが除去されて平滑化されている。払出制御ＭＰＵ９５２ａの接地端子であるＶＳＳ端子はグランド（ＧＮＤ）と接地されている。

【０７１２】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａのＶＤＤ端子は、コンデンサＰＣ３と電気的に接続されるほかに、ダイオードＰＤ０のアノード端子と電気的に接続されている。ダイオードＰＤ０のカソード端子は、払出制御ＭＰＵ９５２ａに内蔵されているＲＡＭ（払出制御内蔵ＲＡＭ）の電源端子であるＶＢＢ端子と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ４の他端と電気的に接続されている。この払出制御内

蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子は、ダイオードＰＤ０のカソード端子及びコンデンサＰＣ４の他端と電気的に接続されるほかに、抵抗ＰＲ０を介して、図７５に示した電源基板９３１のキャパシタＢＣ１のプラス端子と電気的に接続されている。つまり、払出制御フィルタ回路９５１ａによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、払出制御ＭＰＵ９５２ａのＶＤＤ端子に印加されるとともに、ダイオードＰＤ０を介して、払出制御内蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子と、キャパシタＢＣ１のプラス端子と、に印加されるようになっている。これにより、上述したように、図７５に示した電源基板９３１の電源作成回路９３５ｄで作成される＋５Ｖが払出制御基板９５１に供給されなくなった場合には、キャパシタＢＣ１に充電された電荷が払ＶＢＢとして払出制御基板９５１に供給されるようになっているため、払出制御ＭＰＵ９５２ａのＶＤＤ端子にはダイオードＰＤ０により電流が妨げられて流れず払出制御ＭＰＵ９５２ａが作動しないものの、払出制御内蔵ＲＡＭのＶＢＢ端子には払ＶＢＢが印加されることにより記憶内容が保持されるようになっている。このように、この実施の形態にかかるパチンコ機１にあって、払出制御内蔵ＲＡＭに対してバックアップ電源を供給するバックアップ電源回路は、上記ダイオードＰＤ０と上記キャパシタＢＣ１とによって構成されている。

【０７１３】

［１０－２．払出制御部の回路］

払出制御部９５２は、払出制御ＭＰＵ９５２ａ、払出制御入力回路９５２ｂ、払出制御出力回路９５２ｃ、払出モータ駆動回路９５２ｄ、ＣＲユニット入出力回路９５２ｅのほかに、周辺回路として、図８０に示すように、リセット信号を出力する払出制御システムリセットＰＩＣ１、クロック信号を出力する払出制御水晶発振器ＰＸ０（本実施形態では、８メガヘルツ（ＭＨｚ））を主として構成されている。ここでは、まず払出制御システムリセットについて説明し、続いて払出制御水晶発振器、払出制御入力回路、払出モータ駆動回路、ＣＲユニット入出力回路、そして払出制御ＭＰＵへの各種入出力信号について説明する。

【０７１４】

［１０－２－１．払出制御システムリセット］

払出制御フィルタ回路９５１ａによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、図８０に示すように、払出制御システムリセットＰＩＣ１の電源端子に印加されている。払出制御システムリセットＰＩＣ１は、払出制御ＭＰＵ９５２ａ及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａにそれぞれリセットをかけるものであり、遅延回路が内蔵されている。払出制御システムリセットＰＩＣ１の遅延容量端子には、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ５の他端と電気的に接続されており、このコンデンサＰＣ５の容量によって遅延回路による遅延時間を設定することができるようになっている。具体的には、払出制御システムリセットＰＩＣ１は、電源端子に入力された＋５Ｖがしきい値（例えば、４．２５Ｖ）に達すると、遅延時間経過後に出力端子からシステムリセット信号を出力する。

【０７１５】

払出制御システムリセットＰＩＣ１の出力端子は、払出制御ＭＰＵ９５２ａのリセット端子であるＳＲＴ０端子及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａのリセット端子とそれぞれ電気的に接続されている。出力端子は、オープンコレクタ出力タイプであり、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ１の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ６の他端と電気的に接続されている。このコンデンサＰＣ６は、ローパスフィルタとしての役割を担っている。出力端子は、電源端子に入力される電圧がしきい値より大きいときにはプルアップ抵抗ＰＲ１により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなり、この論理が払出制御ＭＰＵ９５２ａのＳＲＴ０端子及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａのリセット端子にそれぞれ入力される一方、電源端子に入力される電圧がしきい値より小さいときには論理がＬＯＷとなり、この論理が払出制御ＭＰＵ９５２ａのＳＲＴ０端子及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａのリセット端子にそれぞれ入力される。払出制

御ＭＰＵ９５２ａのＳＲＴ０端子及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａのリセット端子はそれぞれ負論理入力であるため、電源端子に入力される電圧がしきい値より小さい状態となると、払出制御ＭＰＵ９５２ａ及びリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａにリセットがかかる。なお、電源端子は一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ７の他端と電気的に接続されており、電源端子に入力される＋５Ｖはリップルが除去されて平滑化されている。また、接地端子はグラント（ＧＮＤ）と接地されており、ＮＣ端子は外部と電気的に未接続の状態となっている。

【０７１６】

［１０－２－２．払出制御水晶発振器］

払出制御フィルタ回路９５１ａによりノイズ成分が除去されて平滑化された＋５Ｖは、図８０に示すように、払出制御水晶発振器ＰＸ０の電源端子であるＶＣＣ端子に入力されている。このＶＣＣ端子は、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ８の他端と電気的に接続されており、ＶＣＣ端子に入力される＋５Ｖはさらにリップルが除去されて平滑化されている。また、この平滑化された＋５Ｖは、ＶＣＣ端子のほかに、払出制御水晶発振器ＰＸ０の出力許可（Ｏｕｔｐｕｔ　Ｅｎａｂｌｅ）端子であるＯＥ端子にも印加されている。払出制御水晶発振器ＰＸ０は、そのＯＥ端子に＋５Ｖが印加されることにより、８ＭＨｚのクロック信号を出力端子であるＯＵＴ端子から出力する。

【０７１７】

払出制御水晶発振器ＰＸ０のＯＵＴ端子は、払出制御ＭＰＵ９５２ａのクロック端子であるＭＣＬＫ端子と電気的に接続されており、８ＭＨｚのクロック信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力されている。なお、払出制御水晶発振器ＰＸ０の接地端子であるＧＮＤ端子はグラント（ＧＮＤ）と接地されている。

【０７１８】

［１０－２－３．払出制御入力回路］

払出制御入力回路９５２ｂは、図７０に示した、扉枠開放スイッチ６１８、本体枠開放スイッチ６１９、図７５に示した主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの払出停電予告信号が入力される回路、図７０に示したハンドル中継端子板３１５、そして電源基板９３１を介して満タン検知センサ２７９からの検出信号が入力される回路、操作スイッチ９５４からの操作信号が入力される回路等である。まず、扉枠開放スイッチからの検出信号が入力される回路について説明し、続いて本体枠開放スイッチからの検出信号が入力される回路、停電監視回路からの払出停電予告信号が入力される回路、満タン検知センサからの検出信号が入力される回路、そして操作スイッチからの操作信号が入力される回路について説明する。なお、満タン検知センサ２７９や、図７０に示した、球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２、回転検知センサ８４０等の各種検出スイッチは、出力端子がオープンコレクタ出力タイプであるため、各種検出スイッチからの検出信号が入力される回路構成はほぼ同一であるため、ここでは、満タン検知センサからの検出信号が入力される回路について説明する。

【０７１９】

［１０－２－３（ａ）．扉枠開放スイッチからの検出信号が入力される回路］

扉枠開放スイッチ６１８は、常閉形（ノーマルクローズ（ＮＣ））を用いており、図１に示した、扉枠３が本体枠４から開放された状態でスイッチがＯＮ（導通）し、扉枠３が本体枠４に閉鎖された状態でスイッチがＯＦＦ（切断）するようになっている。扉枠開放スイッチ６１８の２番端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地される一方、扉枠開放スイッチ６１８の１番端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ２０の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＰＲ２１を介してトランジスタＰＴＲ２０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２０のベース端子は抵抗ＰＲ２１と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ２２の他端と電気的に接続されている。また、扉枠開放スイッチ６１８の１番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ２０と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ２０の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２０のエミ

ッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ２０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ２３の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ２０（非反転バッファＩＣＰＩＣ２０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ２０Ａ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２０がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ２０のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が扉開放信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。

【０７２０】

また、扉枠開放スイッチ６１８の１番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２１を介してトランジスタＰＴＲ２０のベース端子と電気的に接続されるほか、プルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２４を介してトランジスタＰＴＲ２１のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２１のベース端子は抵抗ＰＲ２４と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ２５の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４と電気的に接続されると、外部端子板７８４において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ２１がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が外端枠扉開放情報出力信号として外部端子板７８４に入力される。

【０７２１】

更に、扉枠開放スイッチ６１８の１番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２１を介してトランジスタＰＴＲ２０のベース端子と電気的に接続されるとともに、プルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２４を介してトランジスタＰＴＲ２１のベース端子と電気的に接続されるほか、プルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２６を介してトランジスタＰＴＲ２２のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２２のベース端子は抵抗ＰＲ２６と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ２７の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２２のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して図６９に示した主制御基板１３１０と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されると、図６９に示した主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ２２がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が主枠扉開放信号として主制御基板１３１０に入力される。

【０７２２】

プルアップ抵抗ＰＲ２０及びコンデンサＰＣ２０から構成される回路は、スイッチ信号発生回路であり、扉枠３が本体枠４から開放される際に、又は扉枠３が本体枠４に閉鎖される際に、扉枠開放スイッチ６１８を構成する接点が短時間ＯＮ／ＯＦＦを繰り返すバタつき現象による扉枠開放スイッチ６１８からの電圧の変動を吸収する機能も有する回路として構成されている。

【０７２３】

抵抗ＰＲ２１，ＰＲ２２、及びトランジスタＰＴＲ２０から構成される回路と、抵抗ＰＲ２４，ＰＲ２５、及びトランジスタＰＴＲ２１から構成される回路と、抵抗ＰＲ２６，

ＰＲ２７、及びトランジスタＰＴＲ２２から構成される回路と、は扉枠開放スイッチ６１８からの検出信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０７２４】

扉枠３が本体枠４から開放された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＮしているため、トランジスタＰＴＲ２０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ２０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ２３により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった扉枠開放信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。また、扉枠３が本体枠４から開放された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＮしているため、トランジスタＰＴＲ２１のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ２１がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４のプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力される。また、扉枠３が本体枠４から開放された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＮしているため、トランジスタＰＴＲ２２のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ２２がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂのプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７２５】

一方、扉枠３が本体枠４から閉鎖された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＦＦしているため、トランジスタＰＴＲ２０のベース端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ２０により＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ２０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった扉枠開放信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。また、扉枠３が本体枠４から閉鎖された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＦＦしているため、トランジスタＰＴＲ２１のベース端子に印加される電圧が＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ２１がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力される。また、扉枠３が本体枠４から閉鎖された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＦＦしているため、トランジスタＰＴＲ２２のベース端子に印加される電圧が＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ２２がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７２６】

このように、扉枠３が本体枠４から開放された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＮすることにより、論理がＨＩとなった扉枠開放信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力され、論理がＨＩとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力され、論理がＨＩとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される一方、扉枠３が本体枠４に閉鎖された状態では、扉枠開放スイッチ６１８がＯＦＦすることにより、論理がＬＯＷとなった扉枠開放信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力され、論理がＬＯＷとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力され、論理がＬＯＷとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７２７】
［１０－２－３（ｂ）．本体枠開放スイッチからの検出信号が入力される回路］
本体枠開放スイッチ６１９は、常閉形（ノーマルクローズ（ＮＣ））を用いており、図１に示した、本体枠４が外枠２から開放された状態でスイッチがＯＮ（導通）し、本体枠４が外枠２に閉鎖された状態でスイッチがＯＦＦ（切断）するようになっている。本体枠開放スイッチ６１９の２番端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地される一方、本体枠開放スイッチ６１９の１番端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ２８の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＰＲ２９を介してトランジスタＰＴＲ２３のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２３のベース端子は抵抗ＰＲ２９と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ３０の他端と電気的に接続されている。また、本体枠開放スイッチ６１９の１番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ２８と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ２１の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２３のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ２３のコレクタ端子は、上述したトランジスタＰＴＲ２１のコレクタ端子と電気的に接続されるとともに、配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ２３のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４と電気的に接続されると、外部端子板７８４において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ２３がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ２３のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が外端枠扉開放情報出力信号として外部端子板７８４に入力される。
【０７２８】
また、本体枠開放スイッチ６１９の１番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ２８により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ２９を介してトランジスタＰＴＲ２３のベース端子と電気的に接続されるほか、プルアップ抵抗ＰＲ２８により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ３１を介してトランジスタＰＴＲ２４のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２４のベース端子は抵抗ＰＲ３１と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ３２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ２４のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ２４のコレクタ端子は、上述したトランジスタＰＴＲ２２のコレクタ端子と電気的に接続されるとともに、配線（ハーネス）を介して図６９に示した主制御基板１３１０と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ２４のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されると、図６９に示した主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ２４がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ２４のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が主枠扉開放信号として主制御基板１３１０に入力される。
【０７２９】
プルアップ抵抗ＰＲ２８及びコンデンサＰＣ２１から構成される回路は、スイッチ信号発生回路であり、本体枠４が外枠２から開放される際に、又は本体枠４が外枠２に閉鎖される際に、本体枠開放スイッチ６１９を構成する接点が短時間ＯＮ／ＯＦＦを繰り返すバタつき現象による本体枠開放スイッチ６１９からの電圧の変動を吸収する機能も有する回路として構成されている。
【０７３０】
抵抗ＰＲ２９，ＰＲ３０、及びトランジスタＰＴＲ２３から構成される回路と、抵抗ＰＲ３１，ＰＲ３２、及びトランジスタＰＴＲ２４から構成される回路と、は本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。
【０７３１】
本体枠４が外枠２から開放された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＮしている

ため、トランジスタＰＴＲ２３のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ２３がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４のプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力される。また、本体枠４が外枠２から開放された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＮしているため、トランジスタＰＴＲ２４のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ２４がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２４のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂのプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７３２】

一方、本体枠４が外枠２に閉鎖された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＦＦしているため、トランジスタＰＴＲ２３のベース端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ２８により＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ２３がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２３のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して外部端子板７８４においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力される。また、本体枠４が外枠２に閉鎖された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＦＦしているため、トランジスタＰＴＲ２４のベース端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ２８により＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ２４がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ２４のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７３３】

このように、本体枠４が外枠２から開放された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＮすることにより、論理がＨＩとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力され、論理がＨＩとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される一方、本体枠４が外枠２に閉鎖された状態では、本体枠開放スイッチ６１９がＯＦＦすることにより、論理がＬＯＷとなった外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４に入力され、論理がＬＯＷとなった主枠扉開放信号が主制御基板１３１０に入力される。

【０７３４】

本実施形態では、上述したように、扉枠３が本体枠４に閉鎖された状態と、本体枠４が外枠２から開放された状態と、のうち、いずれか一方の状態又は両方の状態となった場合でも、主制御基板１３１０に対しては主枠扉開放信号が入力されるようになっているため、図６９に示した主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主枠扉開放信号に基づいて、扉枠３が本体枠４から開放された状態であるか、それとも本体枠４が外枠２から開放された状態であるかを判別することができないものの、扉枠３及び／又は本体枠４が開放されているという遊技者が通常遊技中に生じない状態が発生していることを判断することができるし、外部端子板７８４に対しては外端枠扉開放情報出力信号が入力されるようになっているため、この外端枠扉開放情報出力信号が外部端子板７８４を介してホールコンピュータに伝わり、ホールコンピュータは、外端枠扉開放情報出力信号に基づいて、扉枠３が本体枠４から開放された状態であるか、それとも本体枠４が外枠２から開放された状態であるかを判別することができないものの、扉枠３及び／又は本体枠４が開放されているという遊技者が通常遊技中に生じない状態が発生していることを判断することができる。

【０７３５】

また、本実施形態では、上述したように、扉枠開放スイッチ６１８、本体枠開放スイッ

チ６１９をノーマルクローズのスイッチを採用したことにより、何らかの原因により扉枠開放スイッチ６１８が短絡してスイッチがＯＮ（導通）する状態となっても、扉枠３が本体枠４から開放された状態となり、何らかの原因により本体枠開放スイッチ６１９が短絡してスイッチがＯＮ（導通）する状態となっても、本体枠４が外枠２から開放された状態となる。このように、扉枠開放スイッチ６１８及び本体枠開放スイッチ６１９をノーマルクローズのスイッチを採用することにより、短絡時にでも、主枠扉開放信号を主制御基板１３１０に出力することができるとともに、外端枠扉開放情報出力信号を外部端子板７８４を介してホールコンピュータに伝えることができる。

【０７３６】

なお、扉枠開放スイッチ６１８及び本体枠開放スイッチ６１９をノーマルクローズのスイッチから、常開形（ノーマルオープン（ＮＯ））のスイッチ（扉枠開放スイッチ６１８'及び本体枠開放スイッチ６１９'）に替えると、扉枠開放スイッチ６１８'は、扉枠３が本体枠４から閉鎖された状態でスイッチがＯＮ（導通）し、扉枠３が本体枠４に開放された状態でスイッチがＯＦＦ（切断）する。本体枠開放スイッチ６１９'は、本体枠４が外枠２から閉鎖された状態でスイッチがＯＮ（導通）し、本体枠４が外枠２に開放された状態でスイッチがＯＦＦ（切断）する。そうすると、何らかの原因により扉枠開放スイッチ６１８'が断線してスイッチがＯＦＦ（切断）する状態となっても、扉枠３が本体枠４から開放された状態となるし、また、何らかの原因により本体枠開放スイッチ６１９'が断線してスイッチがＯＦＦ（切断）する状態となっても、本体枠４が外枠２から開放された状態となる。このように、扉枠開放スイッチ６１８'及び本体枠開放スイッチ６１９'をノーマルオープンのスイッチを採用しても、断線時にでも、主枠扉開放信号を主制御基板１３１０に出力することができるとともに、外端枠扉開放情報出力信号を外部端子板７８４を介してホールコンピュータに伝えることができる。

【０７３７】

［１０－２－３（ｃ）．停電監視回路からの払出停電予告信号が入力される回路］

主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの払出停電予告信号を伝える伝送ラインは、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ４０の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＰＲ４１を介してトランジスタＰＴＲ４０のベース端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０のベース端子は抵抗ＰＲ４１と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ４２の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ４３の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ４０（非反転バッファＩＣＰＩＣ４０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ４０Ａ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４０がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が払出停電予告信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される。

【０７３８】

抵抗ＰＲ４１，ＰＲ４２、及びトランジスタＰＴＲ４０から構成される回路は、主制御基板１３１０に備える停電監視回路１３１０ｅからの払出停電予告信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０７３９】

停電監視回路１３１０ｅは、上述したように、電源基板９３１からの＋１２Ｖ及び＋２４Ｖという２種類の電圧の停電又は瞬停の兆候を監視しており、停電又は瞬停の兆候を検出すると、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂを介して停電予告として払出停電予告信号を払出制御基板９５１に出力する。停電監視回路１３１０ｅは、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候を監視し、上述したように、＋２４Ｖの電圧が停電

検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して払出制御基板９５１においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力される一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、後段のトランジスタＭＴＲ２２のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して上述したプルアップ抵抗ＰＲ４０により＋１２Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力される。

【０７４０】

＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより大きいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより大きいという条件の両方の条件が成立したときには、つまり＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候がないときには、論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力されるため、トランジスタＰＴＲ４０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ４０がＯＦＦし、トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＰＲ４３により＋５Ｖ側に引き上げられる。これにより、トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子から論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される。

【０７４１】

一方、＋２４Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ１ｐｆより小さいという条件、及び＋１２Ｖの電圧が停電検知電圧Ｖ２ｐｆより小さいという条件のうち、いずれか一方の条件が成立したときには、つまり＋１２Ｖ及び／又は＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候があるときには、論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御基板９５１に入力されるため、停電監視回路１３１０ｅからの払出停電予告信号によりトランジスタＰＴＲ４０のベース端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ４０により＋１２Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ４０がＯＮし、トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられる。これにより、トランジスタＰＴＲ４０のコレクタ端子の論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される。

【０７４２】

このように、＋１２Ｖ及び／又は＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候があるときには、論理がＨＩとなった払出停電予告信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される一方、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候がないときには、論理がＬＯＷとなった払出停電予告信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力されるようになっている。これは、上述したように、＋１２Ｖ及び／又は＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候があるときには、論理がＨＩとなった停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力される一方、＋１２Ｖ及び＋２４Ｖの電圧の停電又は瞬停の兆候がないときには、停電予告信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ１に入力されるようになっているため、停電監視回路１３１０ｅからの停電予告による、払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される払出停電予告信号の論理と、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される停電予告信号の論理と、が同一論理となっている。

【０７４３】

［１０－２－３（ｄ）．満タン検知センサからの検出信号が入力される回路］

図１に示したファールカバーユニット２７０に備える満タン検知センサ２７９からの検出信号は、図１に示したハンドル中継端子板３１５、そして図６に示した電源基板９３１を介して、払出制御基板９５１に入力されている。この満タン検知センサ２７９の出力端子は、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されるオープンコレクタ出力タイプとし

て回路構成されており、払出制御基板９５１において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ４４ａの他端と電気的に接続されるとともに満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０の１番端子と電気的に接続されている。この満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０は、Ｔ型フィルタ回路であり、フェライトで磁気シールドした減衰特性の優れたものである。

【０７４４】

満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０の２番端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０の３番端子は、抵抗ＰＲ４４ｂを介して、満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０の１番端子と電気的に接続されるとともに、抵抗ＰＲ４５を介してトランジスタＰＴＲ４１のベース端子と電気的に接続されている。これにより、満タン検知センサ２７９の検出信号は、満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０において、ノイズ成分が除去されてトランジスタＰＴＲ４１のベース端子に入力される。トランジスタＰＴＲ４１のベース端子は、抵抗ＰＲ４５が電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）に接地される抵抗ＰＲ４６の他端と電気的に接続されるとともに、一端がグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されるコンデンサＰＣ４０の他端と電気的に接続されている。コンデンサＰＣ４０は、ローパスフィルタとしての役割を担っている。トランジスタＰＴＲ４１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地され、トランジスタＰＴＲ４１のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ４７の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ４０（非反転バッファＩＣＰＩＣ４０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ４０Ｂ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４１がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ４１のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号が満タン信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２に入力される。

【０７４５】

抵抗ＰＲ４５，ＰＲ４６、及びトランジスタＰＴＲ４１から構成される回路は、満タン検知センサ２７９からの検出信号によりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０７４６】

満タン検知センサ２７９は、上述したように、ファールカバーユニット２７０の第二球通路における収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かを検出するものである。本実施形態では、収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっていないときには、満タン検知センサ２７９の出力端子に印加される電圧がハンドル中継端子板３１５、そして電源基板９３１を介して、払出制御基板９５１においてプルアップ抵抗４４ａにより＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった信号が払出制御基板９５１に入力される一方、収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっているときには、満タン検知センサ２７９の出力端子に印加される電圧がハンドル中継端子板３１５、そして電源基板９３１を介して、払出制御基板９５１においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった信号が払出制御基板９５１に入力される。

【０７４７】

収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっていないときには、満タン検知センサ２７９の出力端子に印加される電圧がハンドル中継端子板３１５、そして電源基板９３１を介して、払出制御基板９５１においてプルアップ抵抗４４ａにより＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった信号が上述したトランジスタＰＴＲ４１のベース端子に入力されることでトランジスタＰＴＲ４１がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ４１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった満タン信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２に入力される。

【０７４８】

一方、収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっているときには、満タン検知センサ

２７９の出力端子に印加される電圧がハンドル中継端子板３１５、そして電源基板９３１を介して、払出制御基板９５１においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなった信号が上述したトランジスタＰＴＲ４１のベース端子に入力されることでトランジスタＰＴＲ４１がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ４１のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＰＲ４７により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった満タン信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ２に入力される。

【０７４９】

なお、本実施形態では、満タン検知センサ２７９からの検出信号は、満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０を介して、抵抗ＰＲ４５、抵抗ＰＲ４６、及びトランジスタＰＴＲ４１から構成されるスイッチ回路に入力される回路構成としていたが、図７０に示した、球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２等の各種検出スイッチからの検出信号は、満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０のようなＴ型フィルタ回路を介さずに各スイッチ回路に直接入力される回路構成となっている。満タン検知センサ２７９は、扉枠３に取り付けられるファールカバーユニット２７０に設けられているため、本体枠４に取り付けられる払出装置８３０に設けられる球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２等と比べると、検出信号を伝送する経路が極めて長くなり、ノイズの影響を極めて受けやすい。

【０７５０】

満タン検知センサ２７９は、ファールカバーユニット２７０の第二球通路における収容空間が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かを検出するものであり、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、満タン検知センサ２７９からの検出信号に基づいて、収容空間が貯留された遊技球で満タンであると判断すると、払出モータ８３４の駆動制御を強制的に停止して払出回転体による遊技球の払い出しを停止する制御を行うようになっている。つまり、満タン検知センサ２７９からの検出信号を伝える伝送経路（伝送ライン）にノイズが侵入すると、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、収容空間が貯留された遊技球で満タンでもないのに、払出モータ８３４の駆動制御を強制的に停止して払出回転体による遊技球の払い出しを停止するという場合もあるし、収容空間が貯留された遊技球で満タンであるにもかかわらず、払出モータ８３４を駆動制御して払出回転体を回転させて遊技球の払い出しを継続することにより上述した賞球通路の上流側まで遊技球で満たされると、払出回転体そのものが回転することができなくなって払出モータ８３４に負荷が異常にかかり、払出モータ８３４が過負荷となって異常発熱して故障したり、払出モータ８３４の回転軸を払出回転体の回転運動に伝達する機構等が故障したりするという場合もある。そこで、本実施形態では、このような問題が発生しないように、満タン検知センサ２７９からの検出信号を、まず満タン検知センサ用３端子フィルタＰＩＣ５０において、ノイズ成分が除去するように回路構成を採用した。

【０７５１】

［１０－２－３（ｅ）．操作スイッチからの操作信号が入力される回路］

操作スイッチ９５４の出力端子である１番端子及び２番端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地され、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ４８により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ４９を介して前段のトランジスタＰＴＲ４２のベース端子と電気に接続されている。前段のトランジスタＰＴＲ４２のベース端子は、抵抗ＰＲ４９と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ５０の他端と電気的に接続されている。また、操作スイッチ９５４の出力端子である４番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ４８と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地されるコンデンサＰＣ４１の他端と電気的に接続されている。前段のトランジスタＰＴＲ４２のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、前段のトランジスタＰＴＲ４２のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ５１の他端と電気的に接続されるとともに抵抗ＰＲ５２を介して後段のトランジスタＰＴＲ４３のベース端子と電気的に接続されている。後段のトランジスタＰＴＲ４３

のベース端子は、抵抗ＰＲ５２と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ５３の他端と電気的に接続されている。後段のトランジスタＰＴＲ４３のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、後段のトランジスタＰＴＲ４３のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ５４の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ４０（非反転バッファＩＣＰＩＣ４０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ４０Ｃ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ３と電気的に接続されている。前段及び後段のトランジスタＰＴＲ４２，ＰＴＲ４３がＯＮ／ＯＦＦすることにより後段のトランジスタＰＴＲ４３のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＲＷＭＣＬＲ信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ３に入力される。

【０７５２】

また、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子は、プルアップ抵抗ＰＲ４８により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ４９を介して前段のトランジスタＰＴＲ４２のベース端子と電気に接続されるほか、プルアップ抵抗ＰＲ４８により＋５Ｖ側に引き上げられて抵抗ＰＲ５５を介してトランジスタＰＴＲ４４のベース端子と電気に接続されている。トランジスタＰＴＲ４４のベース端子は、抵抗ＰＲ５５と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ５６の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ４４のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、トランジスタＰＴＲ４４のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ４４のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されると、図７７に示した、主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂにおいて、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＭＲ２の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ４４がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ４４のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＲＡＭクリア信号として主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。

【０７５３】

プルアップ抵抗ＰＲ４８及びコンデンサＰＣ４１から構成される回路は、スイッチ信号発生回路であり、操作スイッチ９５４が押圧操作される際に、操作スイッチ９５４を構成する接点が短時間ＯＮ／ＯＦＦを繰り返すバタつき現象による操作スイッチ９５４からの電圧の変動を吸収する機能も有する回路として構成されている。

【０７５４】

抵抗ＰＲ４９，ＰＲ５０、及びトランジスタＰＴＲ４２から構成される回路は前段のスイッチ回路であり、抵抗ＰＲ５２，ＰＲ５３、及びトランジスタＰＴＲ４３から構成される回路は後段のスイッチ回路であり、抵抗ＰＲ５５，ＰＲ５６、及びトランジスタＰＴＲ４４から構成される回路はスイッチ回路であり、操作スイッチ９５４からの操作信号によりＯＮ／ＯＦＦするものである。

【０７５５】

操作スイッチ９５４は、上述したように、電源投入時から予め定めた期間内において払出制御基板９５１の払出制御ＭＰＵ９５２ａに内蔵されるＲＡＭ（払出制御内蔵ＲＡＭ）、及び主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＲＡＭ（主制御内蔵ＲＡＭ）をクリアする場合に操作されたり、電源投入後においてエラー報知されている際に、そのエラーを解除するために操作されたりするようになっており、電源投入時から予め定めた期間内におけるＲＡＭクリアを行う機能と、電源投入後（ＲＡＭクリアとして機能を奏する期間を経過した後、つまり電源投入時から予め定めた期間が経過した後）におけるエラー解除を行う機能と、を有している。操作スイッチ９５４からの操作信号は、電源投入時から予め定めた期間内におけるＲＡＭクリアを行う機能においては、ＲＡＭクリア信号となる一方、電源投入後（電源投入時から予め定めた期間が経過した後）におけるエラー解除を行う機能においては、エラー解除信号となる。

【０７５６】
操作スイッチ９５４が操作されていないときには、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子がプルアップ抵抗ＰＲ４８により＋５Ｖ側に引き上げられることで論理がＨＩとなった操作信号が前段のトランジスタＰＴＲ４２のベース端子に入力されて前段のトランジスタＰＴＲ４２がＯＮし、前段のスイッチ回路もＯＮすることとなり、後段のトランジスタＰＴＲ４３のベースに印加される電圧である、前段のトランジスタＰＴＲ４３のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで後段のトランジスタＰＴＲ４３がＯＦＦし、後段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、後段のトランジスタＰＴＲ４３のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＰＲ５４により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＲＷＭＣＬＲ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ３に入力される。払出制御ＭＰＵ９５２ａは、電源投入時から予め定めた期間内において、入力端子ＰＡ３に入力されるＲＷＭＣＬＲ信号の論理がＨＩであるときには払出制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものではないと判断し、電源投入後（電源投入時から予め定めた期間が経過した後）において、入力端子ＰＡ３に入力されるＲＷＭＣＬＲ信号の論理がＨＩであるときにはエラー解除を行うことを指示するものではないと判断する。
【０７５７】
また、操作スイッチ９５４が操作されていないときには、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子がプルアップ抵抗ＰＲ４８により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなった操作信号がトランジスタＰＴＲ４４のベース端子に入力されてトランジスタＰＴＲ４４がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ４４のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＲＡＭクリア信号が主制御基板１３１０に入力される。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源投入時から予め定めた期間内に論理がＬＯＷであるＲＡＭクリア信号が入力されているときには、上述したように、図７７に示した、この論理がＬＯＷであるＲＡＭクリア信号がトランジスタＭＴＲ０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＭＲ５により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＲＡＭクリア信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力端子ＰＡ０に入力されるＲＡＭクリア信号の論理がＨＩであるときには主制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものではないと判断する。
【０７５８】
一方、操作スイッチ９５４が操作されているときには、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった操作信号が前段のトランジスタＰＴＲ４２のベース端子に入力されて前段のトランジスタＰＴＲ４２がＯＦＦし、前段のスイッチ回路もＯＦＦすることとなり、後段のトランジスタＰＴＲ４３のベースに印加される電圧である、前段のトランジスタＰＴＲ４２のコレクタ端子に印加される電圧が抵抗ＰＲ５１により＋５Ｖ側に引き上げられることで後段のトランジスタＰＴＲ４３がＯＮし、後段のスイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、後段のトランジスタＰＴＲ４３のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＲＷＭＣＬＲ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ３に入力される。払出制御ＭＰＵ９５２ａは、電源投入時から予め定めた期間内において、入力端子ＰＡ３に入力されるＲＷＭＣＬＲ信号の論理がＬＯＷであるときには払出制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断し、電源投入後（電源投入時から予め定めた期間が経過した後）において、入力端子ＰＡ３に入力されるＲＷＭＣＬＲ信号の論理がＬＯＷであるときにはエラー解除を行うことを指示するものであると判断する。
【０７５９】

また、操作スイッチ９５４が操作されているときには、操作スイッチ９５４の出力端子である３番端子及び４番端子がプルアップ抵抗ＰＲ４８によりグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることで論理がＬＯＷとなった操作信号がトランジスタＰＴＲ４４のベース端子に入力されてトランジスタＰＴＲ４４がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ４４のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂのプルアップ抵抗ＭＲ２により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＲＡＭクリア信号が主制御基板１３１０に入力される。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源投入時から予め定めた期間内に論理がＨＩであるＲＡＭクリア信号が入力されているときには、上述したように、図７７に示した、この論理がＨＩであるＲＡＭクリア信号がトランジスタＭＴＲ０のベース端子に入力されることでトランジスタＭＴＲ０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＭＴＲ０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＲＡＭクリア信号が主制御ＭＰＵ１３１０ａの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ０に入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、入力端子ＰＡ０に入力されるＲＡＭクリア信号の論理がＬＯＷであるときには主制御内蔵ＲＡＭに記憶される情報を消去するＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断する。

【０７６０】

［１０－２－４．払出モータ駆動回路］

次に、図５に示した払出装置８３０の払出モータ８３４に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路９５２ｄについて説明する。払出モータ駆動回路９５２ｄは、図８３に示すように、電圧切替回路９５２ｄａ、ドライブＩＣＰＩＣ６０を主として構成されている。電圧切替回路９５２ｄａの電源入力端子１，２は、＋１２Ｖ電源ライン及び＋５Ｖ電源ラインとそれぞれ電気的に接続されて＋１２及び＋５Ｖがそれぞれ印加され、電圧切替回路９５２ｄａの接地端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地されている。電圧切替回路９５２ｄａの電源切替入力端子は、電圧切替信号が入力される。この電圧切替信号は、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力され、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから電圧切替回路９５２ｄａの電源切替入力端子に出力されるようになっている。電圧切替回路９５２ｄａの電源出力端子は、ツェナーダイオードＰＺＤ６０を介して、ドライブＩＣＰＩＣ６０のカソード端子である３番端子及び１０番端子とそれぞれ電気的に接続されるとともに、払出モータ８３４の電源端子と電気的に接続され、電圧切替回路９５２ｄａの電圧切替入端子に入力される電圧切替信号に基づいて、＋１２Ｖ又は＋５Ｖを、モータ駆動電圧として、ツェナーダイオードＰＺＤ６０を介して、ドライブＩＣＰＩＣ６０のカソード端子である３番端子及び１０番端子にそれぞれ供給するとともに、払出モータ８３４に供給する。

【０７６１】

ドライブＩＣＰＩＣ６０は、４つのダーリントンパワートランジスタを備えており、本実施形態では、ドライブＩＣＰＩＣ６０のエミッタ端子である６番端子及び７番端子は、それぞれグランド（ＧＮＤ）と接地され、ドライブＩＣＰＩＣ６０のベース端子である１番端子、５番端子、８番端子、そして１２番端子は、払出モータ駆動信号が抵抗ＰＲ６０～ＰＲ６３を介してそれぞれ入力される。ドライブＩＣＰＩＣ６０のコレクタ端子である２番端子、４番端子、９番端子、そして１１番端子は、ドライブＩＣＰＩＣ６０のベース端子である１番端子、５番端子、８番端子、そして１２番端子とそれぞれ対応しており、ドライブＩＣＰＩＣ６０のベース端子である１番端子、５番端子、８番端子、そして１２番端子に払出モータ駆動信号が抵抗ＰＲ６０～ＰＲ６３を介してそれぞれ入力されると、励磁信号である駆動パルスを払出モータ８３４と対応する各相（／Ｂ相、Ｂ相、Ａ相、／Ａ相）にそれぞれ出力する。この払出モータ駆動信号は、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力され、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから抵抗ＰＲ６０～ＰＲ６３を介してドライブＩＣＰＩＣ６０のベース端子である１番端子、５番端子、８番端子、そして１２番端

子にそれぞれ出力されるようになっている。これらの駆動パルスは、払出モータ８３４の各相（／Ｂ相、Ｂ相、Ａ相、／Ａ相）に流す励磁電流のスイッチングにより行われ、払出モータ８３４を回転させる。なお、このスイッチングにより各相（／Ｂ相、Ｂ相、Ａ相、／Ａ相）の駆動パルス（励磁信号）を遮断したときには逆起電力が発生する。この逆起電力がドライブＩＣＰＩＣ６０の耐圧を超えると、ドライブＩＣＰＩＣ６０が破損するため、保護として、ドライブＩＣＰＩＣ６０のカソード端子である３番端子及び１０番端子の前段に上述したツェナーダイオードＰＺＤ０を電気的に接続する回路構成を採用した。

【０７６２】

［１０－２－５．ＣＲユニット入出力回路］

次に、図７１に示したＣＲユニット６との各種信号を入出力するためのＣＲユニット入出力回路９５２ｅについて説明する。払出制御基板９５１は、ＣＲユニット６から、上述したように、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、貸球要求信号であるＢＲＤＹと、１回の払出動作開始要求信号であるＢＲＱと、が入力され、また図７１に示した電源基板９３１から供給されるＡＣ２４Ｖから作成した、所定電圧ＶＬ（＋１２Ｖ）及びグランドＬＧが供給される一方、払出制御基板９５１から、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、１回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるＥＸＳ信号と、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨又は不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号と、を出力する。これらの各種信号等を入出力する入出力回路は、図８４に示すように、フォトカプラＰＩＣ７０～ＰＩＣ７４（赤外ＬＥＤとフォトトランジスタとが内蔵されている。）を主として構成されている。

【０７６３】

ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬは、抵抗ＰＲ７０を介して、フォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子に印加されている。フォトカプラＰＩＣ７０のカソード端子は、ＣＲユニット６からのグランドＬＧと電気的に接続されている。抵抗ＰＲ６０は、フォトカプラＰＩＣ７０の内蔵赤外ＬＥＤに流れる電流を制限するための制限抵抗である。フォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＮする一方、フォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されていないときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＦＦするようになっている。フォトカプラＰＩＣ７０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、フォトカプラＰＩＣ７０のコレクタ端子は、抵抗ＰＲ７１を介してトランジスタＰＴＲ７０のベース端子と電気的に接続されるほかに、抵抗ＰＲ７２を介してトランジスタＰＴＲ７１のベース端子と電気的に接続されている。フォトカプラＰＩＣ７０のコレクタ端子は、抵抗ＰＲ７１と電気的に接続されるほかに、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ７３の他端と電気的に接続されている。

【０７６４】

トランジスタＰＴＲ７０のベース端子は、抵抗ＰＲ７１と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ７４の他端と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ７０のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地され、トランジスタＰＴＲ７０のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ７５の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ８０（非反転バッファＩＣＰＩＣ８０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ８０Ａ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して図８０に示した払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続されている。トランジスタＰＴＲ７０がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ７０のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＣＲ接続信号１として払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。

【０７６５】

一方、トランジスタＰＴＲ７１のベース端子は、抵抗ＰＲ７２と電気的に接続されるほかに、一端がグランド（ＧＮＤ）と接地される抵抗ＰＲ７６の他端と電気的に接続されて

いる。トランジスタＰＴＲ７１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）に接地され、トランジスタＰＴＲ７１のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して電源基板９３１と電気的に接続されている。なお、トランジスタＰＴＲ７１のコレクタ端子は、配線（ハーネス）を介して電源基板９３１と電気的に接続されると、電源基板９３１において、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される図示しないプルアップ抵抗の他端と電気的に接続される。トランジスタＰＴＲ７１がＯＮ／ＯＦＦすることによりトランジスタＰＴＲ７１のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＣＲ接続信号として電源基板９３１に入力される。

【０７６６】

抵抗ＰＲ７１，ＰＲ７４、及びトランジスタＰＴＲ７０から構成される回路は、フォトカプラＰＩＣ７０のＯＮ／ＯＦＦによりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０７６７】

ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬがフォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子に印加されていないときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＦＦし、プルアップ抵抗ＰＲ７３により＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ７０がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ７０のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＣＲ接続信号１が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。

【０７６８】

一方、ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬがフォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子に印加されているときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＮし、トランジスタＰＴＲ７０のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ７０がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ７０のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＴＲ７５により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＣＲ接続信号１が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。

【０７６９】

抵抗ＰＲ７２，ＰＲ７６、及びトランジスタＰＴＲ７１から構成される回路も、フォトカプラＰＩＣ７０のＯＮ／ＯＦＦによりＯＮ／ＯＦＦするスイッチ回路である。

【０７７０】

ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬがフォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子に印加されていないときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＦＦし、プルアップ抵抗ＰＲ７３により＋５Ｖ側に引き上げられることでトランジスタＰＴＲ７１がＯＮし、スイッチ回路もＯＮすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ７１のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して電源基板９３１においてグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＣＲ接続信号が電源基板９３１に入力される。

【０７７１】

一方、ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬがフォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子に印加されているときには、フォトカプラＰＩＣ７０がＯＮし、トランジスタＰＴＲ７１のベース端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられることでトランジスタＰＴＲ７１がＯＦＦし、スイッチ回路もＯＦＦすることとなる。これにより、トランジスタＰＴＲ７１のコレクタ端子に印加される電圧が配線（ハーネス）を介して電源基板９３１のプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＣＲ接続信号が電源基板９３１に入力される。

【０７７２】

ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬは、フォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子のほかに、抵抗ＰＲ７７を介して、フォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子にも印加されている。フォトカプラＰＩＣ７１のカソード端子は、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹが入力されている。抵抗ＰＲ７７は、フォトカプラＰＩＣ７１の内蔵赤外ＬＥＤに流がれる電流を制限するための制限抵抗である。フォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子にＣＲユニット６

からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹの論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７１がＯＮする一方、フォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹの論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７１がＯＦＦするようになっている。フォトカプラＰＩＣ７１のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、フォトカプラＰＩＣ７１のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ７８の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ８０（非反転バッファＩＣＰＩＣ８０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ８０Ｂ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続されている。フォトカプラＰＩＣ７１がＯＮ／ＯＦＦすることによりフォトカプラＰＩＣ７１のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＢＲＤＹ信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。

【０７７３】

フォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹの論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７１がＯＮするため、フォトカプラＰＩＣ７１のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＢＲＤＹ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。一方、フォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹの論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７１がＯＦＦするため、フォトカプラＰＩＣ７１のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ７８により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＢＲＤＹ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。このように、フォトカプラＰＩＣ７１のコレクタ端子から出力されるＢＲＤＹ信号の論理は、ＣＲユニット６からのＢＲＤＹの論理と同一の論理となっている。

【０７７４】

ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬは、フォトカプラＰＩＣ７０のアノード端子、及びフォトカプラＰＩＣ７１のアノード端子のほかに、抵抗ＰＲ７９を介して、フォトカプラＰＩＣ７２のアノード端子にも印加されている。フォトカプラＰＩＣ７２のカソード端子は、ＣＲユニット６からのＢＲＱが入力されている。抵抗ＰＲ７９は、フォトカプラＰＩＣ７２の内蔵赤外ＬＥＤに流がれる電流を制限するための制限抵抗である。フォトカプラＰＩＣ７２のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＱの論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７２がＯＮする一方、フォトカプラＰＩＣ７２のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＱの論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７２がＯＦＦするようになっている。フォトカプラＰＩＣ７２のエミッタ端子は、グランド（ＧＮＤ）と接地され、フォトカプラＰＩＣ７２のコレクタ端子は、一端が＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されるプルアップ抵抗ＰＲ８０の他端と電気的に接続されるとともに非反転バッファＩＣＰＩＣ８０（非反転バッファＩＣＰＩＣ８０は、８つの非反転バッファ回路を備えており、その１つ（ＰＩＣ８０Ｃ）に入力された信号波形の論理を反転させることなく整形して出力する。）を介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子と電気的に接続されている。フォトカプラＰＩＣ７２がＯＮ／ＯＦＦすることによりフォトカプラＰＩＣ７２のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＢＲＱ信号として払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。

【０７７５】

フォトカプラＰＩＣ７２のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＱの論理がＬＯＷとなっているときに

は、フォトカプラＰＩＣ７２がＯＮするため、フォトカプラＰＩＣ７２のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＢＲＱ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。一方、フォトカプラＰＩＣ７２のアノード端子にＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが印加されているときであって、ＣＲユニット６からのＢＲＱの論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７２がＯＦＦするため、フォトカプラＰＩＣ７２のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ８０により＋５Ｖ側に引き上げられて論理がＨＩとなったＢＲＱ信号が払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力される。このように、フォトカプラＰＩＣ７２のコレクタ端子から出力されるＢＲＱ信号の論理は、ＣＲユニット６からのＢＲＱの論理と同一の論理となっている。

【０７７６】

払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子から１回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるＥＸＳ信号は、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂに出力され、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから抵抗ＰＲ８１を介してフォトカプラＰＩＣ７３のカソード端子に入力されている。フォトカプラＰＩＣ７３のアノード端子は、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ８２の他端と電気的に接続されている。抵抗ＰＲ８２は、フォトカプラＰＩＣ７３の内蔵赤外ＬＥＤに流がれる電流を制限するための制限抵抗である。フォトカプラＰＩＣ７３のアノード端子に抵抗ＰＲ８２を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＥＸＳ信号の論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７３がＯＮする一方、フォトカプラＰＩＣ７３のアノード端子に抵抗ＰＲ８２を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＥＸＳ信号の論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７３がＯＦＦするようになっている。フォトカプラＰＩＣ７３のエミッタ端子は、ＣＲユニット６からのグランドＬＧと接地され、フォトカプラＰＩＣ７３のコレクタ端子は、プルアップ抵抗ＰＲ８３により、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６内において所定電圧ＶＬに引き上げられてその内蔵制御装置と電気的に接続されている。フォトカプラＰＩＣ７３がＯＮ／ＯＦＦすることによりフォトカプラＰＩＣ７３のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＥＸＳとしてＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。

【０７７７】

フォトカプラＰＩＣ７３のアノード端子に抵抗ＰＲ８２を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＥＸＳ信号の論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７３がＯＮするため、フォトカプラＰＩＣ７３のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＥＸＳがＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。一方、フォトカプラＰＩＣ７３のアノード端子に抵抗ＰＲ８２を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＥＸＳ信号の論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７３がＯＦＦするため、フォトカプラＰＩＣ７３のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ８３により所定電圧ＶＬに引き上げられて論理がＨＩとなったＥＸＳがＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。このように、フォトカプラＰＩＣ７３のコレクタ端子から出力されるＥＸＳの論理は、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＥＸＳ信号の論理と同一の論理となっている。

【０７７８】

払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子から貸球を払い出すための払出動作が可能である旨又は不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号は、抵抗ＰＲ８４を介して

、フォトカプラＰＩＣ７４のカソード端子に入力されている。フォトカプラＰＩＣ７４のアノード端子は、一端が＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続される抵抗ＰＲ８５の他端と電気的に接続されている。抵抗ＰＲ８５は、フォトカプラＰＩＣ７４の内蔵赤外ＬＥＤに流がれる電流を制限するための制限抵抗である。フォトカプラＰＩＣ７４のアノード端子に抵抗ＰＲ８５を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＰＲＤＹ信号の論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７４がＯＮする一方、フォトカプラＰＩＣ７４のアノード端子に抵抗ＰＲ８５を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＰＲＤＹ信号の論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７４がＯＦＦするようになっている。フォトカプラＰＩＣ７４のエミッタ端子は、ＣＲユニット６からのグランドＬＧと接地され、フォトカプラＰＩＣ７４のコレクタ端子は、プルアップ抵抗ＰＲ８６により、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６内において所定電圧ＶＬに引き上げられてその内蔵制御装置と電気的に接続されている。フォトカプラＰＩＣ７４がＯＮ／ＯＦＦすることによりフォトカプラＰＩＣ７４のコレクタ端子から出力される信号の論理が変化し、その信号がＰＲＤＹとしてＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。

【０７７９】

フォトカプラＰＩＣ７４のアノード端子に抵抗ＰＲ８５を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＰＲＤＹ信号の論理がＬＯＷとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７４がＯＮするため、フォトカプラＰＩＣ７４のコレクタ端子に印加される電圧がグランド（ＧＮＤ）側に引き下げられて論理がＬＯＷとなったＰＲＤＹがＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。一方、フォトカプラＰＩＣ７４のアノード端子に抵抗ＰＲ８５を介して＋１２Ｖが印加されているときであって、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＰＲＤＹ信号の論理がＨＩとなっているときには、フォトカプラＰＩＣ７４がＯＦＦするため、フォトカプラＰＩＣ７４のコレクタ端子に印加される電圧がプルアップ抵抗ＰＲ８６により所定電圧ＶＬに引き上げられて論理がＨＩとなったＰＲＤＹがＣＲユニット６の内蔵制御装置に入力される。このように、フォトカプラＰＩＣ７４のコレクタ端子から出力されるＰＲＤＹの論理は、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂを介して出力されるＰＲＤＹ信号の論理と同一の論理となっている。

【０７８０】

［１０－２－６．払出制御ＭＰＵへの各種入出力信号］

次に、払出制御ＭＰＵ９５２ａの各種入出力ポートの入出力端子から入出力される各種入出力信号について説明する。

【０７８１】

払出制御ＭＰＵ９５２ａのシリアル入力ポートのシリアルデータ入力端子であるＲＸＤ端子は、図８０に示すように、主制御基板１３１０からのシリアルデータが払出制御入力回路９５２ｂを介して主払シリアルデータ受信信号として受信される。一方、払出制御ＭＰＵ９５２ａのシリアル出力ポートのシリアルデータ出力端子であるＴＸＤ端子からは、主制御基板１３１０に送信するシリアルデータを払主シリアルデータ送信信号としてリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂに送信してリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから主制御基板１３１０に払主シリアルデータ送信信号を送信する。

【０７８２】

払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの各入力端子には、上述した、ＲＷＭＣＬＲ信号、払出停電予告信号、扉開放信号、満タン信号、ＣＲユニット６からの各種信号（ＢＲＱ信号、ＢＲＤＹ信号、ＣＲ接続信号１等）等がそれぞれ入力されるほかに、例えば

、上述した払主シリアルデータ受信信号の正常受信完了の旨を伝える主制御基板１３１０からの主払ＡＣＫ信号が払出制御入力回路９５２ｂを介して入力されたり、図７０に示した、球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２、回転検知センサ８４０等からの検出信号が払出制御入力回路９５２ｂを介してそれぞれ入力されたり等する。

【０７８３】

一方、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の出力ポートの各出力端子からは、上述したＥＸＳ信号及びＰＲＤＹ信号をリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂにそれぞれ出力してリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂからＥＸＳ信号及びＰＲＤＹ信号をＣＲユニット入出力回路９５２ｅに出力したり、上述した電圧切替信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力してリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから電圧切替信号を電圧切替回路９５２ｄａに出力したり、払出モータ駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力してリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから払出モータ駆動信号を払出モータ駆動回路９５２ｄを介して払出モータ８３４に出力したりするほかに、例えば、上述した主払シリアルデータ受信信号の正常受信完了の旨を伝える払主ＡＣＫ信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力してリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから払主ＡＣＫ信号を主制御基板１３１０に出力したり、図７０に示したエラーＬＥＤ表示器８６０ｂの駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力してリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから駆動信号をエラーＬＥＤ表示器８６０ｂに出力したり等する。

【０７８４】

［１０－３．主制御基板との各種入出力信号及び外部端子板への各種出力信号］

次に、払出制御基板９５１と主制御基板１３１０との各種入出力信号と、払出制御基板９５１から外部端子板７８４への各種出力信号について、図８５を参照して説明する。

【０７８５】

［１０－３－１．主制御基板との各種入出力信号］

払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０と各種入出力信号のやり取りを行う。具体的には、図８５（ａ）に示すように、払出制御基板９５１は、上述した、払主シリアルデータ送信信号、払主ＡＣＫ信号、操作信号（ＲＡＭクリア信号）、主枠扉開放信号等を、主制御基板１３１０に出力する。これらの出力される信号は、主制御基板１３１０の主制御入力回路１３１０ｂのプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられている。

【０７８６】

一方、払出制御基板９５１は、上述した、主払シリアルデータ受信信号、主払ＡＣＫ信号、及び操作信号（ＲＡＭクリア信号）のほかに、メイン賞球数情報出力信号、１５ラウンド大当り情報出力信号、及び２ラウンド大当り情報出力信号等の大当り情報出力信号、確率変動中情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、始動口入賞情報出力信号等の遊技に関する遊技情報信号や払出停電予告信号等が主制御基板１３１０から入力される。これらの入力される信号は、払出制御基板９５１の払出制御部９５２の払出制御入力回路９５２ｂのプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられている。

【０７８７】

［１０－３－２．外部端子板への各種出力信号］

払出制御基板９５１は、外部端子板７８４に各種信号を出力する。具体的には、図８５（ｂ）に示すように、上述した外端枠扉開放情報出力信号のほかに、払出モータ８３４が賞球として実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達するごとに出力される賞球数情報出力信号、主制御基板１３１０から払出制御基板９５１を介して、メイン賞球数情報出力信号、１５ラウンド大当り情報出力信号と２ラウンド大当り情報出力信号との大当り情報出力信号、確率変動中情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、及び始動口入賞情報出力信号等の遊技情報信号を、外部端子板７８４に出力する。これらの出力される信号は、外部端子板７８４のプルアップ抵抗により＋１２Ｖ側に引き上げられている。つまり外部端子板７８４には、払出制御基板９５

１側からの外端枠扉開放情報出力信号、及び賞球数情報出力信号という２つの信号が出力され、主制御基板１３１０側からのメイン賞球数情報出力信号、１５ラウンド大当り情報出力信号、２ラウンド大当り情報出力信号、確率変動中情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、及び始動口入賞情報出力信号という８つの信号が払出制御基板９５１を介して（通過して）出力されるようになっている。

【０７８８】

外部端子板７８４から出力される信号は、図示しない遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータに伝わるようになっており、ホールコンピュータは、遊技者の遊技等を監視している。なお、１５ラウンド大当り情報出力信号又は２ラウンド大当り情報出力信号を１つの大当り情報出力信号としてホールコンピュータに出力する場合には、ホールコンピュータは、ラウンドが２回となった大当りの回数（２ラウンド大当りの発生回数）と、ラウンドが１５回となった大当りの回数（１５ラウンド大当りの発生回数）と、が合算されたものがパチンコ機１の大当りの回数となる。このため、ホールコンピュータは、その合算された大当り回数から、２ラウンド大当りの発生回数や１５ランド大当りの発生回数を把握することができないので、実際にパチンコ機１で発生した大当り回数が多いのが、２ラウンド大当りであるのか、それとも１５ラウンド大当りであるのかを、把握することができない。またパチンコ機１の上方に図示しないデータカウンタが配置されており、遊技者の中には、このデータカウンタに表示された大当り遊技状態の発生回数等を参考にして遊技を行うか否かを選択する者もいる。

【０７８９】

ところが、データカウンタに表示された大当り遊技状態の発生回数は、実際には２ラウンド大当りの発生回数に偏っている場合もあるので、遊技者が遊技を開始しても、２ラウンド大当りばかり発生して１５ラウンド大当りがなかなか発生しないこともある。このように、データカウンタに表示された大当り遊技状態の発生回数は、遊技者に期待感を与えることはできるものの、必要以上に遊技者の射幸心をあおりかねない。

【０７９０】

そこで、本実施形態では、大当り情報出力信号として、１５ラウンド大当り情報出力信号と２ラウンド大当り情報出力信号とを別々にホールコンピュータに出力することにより、ホールコンピュータは、２ラウンド大当りの発生回数と、１５ラウンド大当り発生回数と、を正確に把握することができるようになっている。したがって、ホールコンピュータは、実際にパチンコ機１で発生した大当り回数の多いのが、２ラウンド大当りであるのか、それとも１５ラウンド大当りであるのかを、把握することができるし、データカウンタには１５ラウンド大当りの発生回数と２ラウンド大当りの発生回数とを別々に又は１５ラウンド大当りの発生回数のみを大当り遊技状態の発生回数として表示することができるので、必要以上に遊技者の射幸心をあおることもない。

【０７９１】

なお、本実施形態では、２ラウンド大当り情報出力信号は２ラウンド大当りが発生して終了するまでの期間においてホールコンピュータに出力された状態となっており、１５ラウンド大当り情報出力信号も１５ラウンド大当りが発生して終了するまでの期間においてホールコンピュータに出力された状態となっている。本実施形態のように、２ラウンド大当り情報出力信号及び１５ラウンド大当り情報出力信号をホールコンピュータに出力する方法のほかに、例えば、２ラウンド大当りが発生すると、２ラウンド大当り情報出力信号が所定期間だけホールコンピュータに出力される状態とし、１５ラウンド大当りが発生すると、１５ラウンド大当り情報出力信号が所定期間だけホールコンピュータに出力される状態とする、このような２ラウンド大当り情報出力信号及び１５ラウンド大当り情報出力信号を同一の所定期間だけホールコンピュータに出力する方法も挙げることができる。

【０７９２】

［１１．外部端子板の出力端子の配列］

次に、遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータへ各種信号を出力する外部端

子板７８４の出力端子の配列について、図８６を参照して説明する。外部端子板７８４は、、本体枠ベース６００の後面に取り付けられる賞球ベースの後面に取り付けられるとともに、その後側が外部端子板カバー７８６により覆われている。図８６は外部端子板の出力端子の配列を示す図である。

【０７９３】

外部端子板７８４は、上述したように、外端枠扉開放情報出力信号、賞球数情報出力信号、メイン賞球数情報出力信号、１５ラウンド大当り情報出力信号と２ラウンド大当り情報出力信号との大当り情報出力信号、確率変動中情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、及び始動口入賞情報出力信号を払出制御基板９５１から入力されると、パチンコ機１の外部へ出力するものである。

【０７９４】

これらの各種信号について、簡単に説明すると、外端枠扉開放情報出力信号は、図１に示した扉枠３及び／又は本体枠４が開放されているという遊技者が通常遊技中に生じない状態が発生していることを伝える信号であり、賞球数情報出力信号は、図５に示した払出モータ８３４が賞球として実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号であり、メイン賞球数情報出力信号は、図８に示した第一始動口２００２、第二始動口２００４、一般入賞口２００１，２２０１、及び大入賞口２００５等の各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号であり、１５ラウンド大当り情報出力信号は、１５ラウンド大当りが発生している状態である旨を伝える信号であり、２ラウンド大当り情報出力信号は、２ラウンド大当りが発生している状態である旨を伝える信号であり、確率変動中情報出力信号は、確率変動が発生している状態である旨を伝える信号であり、特別図柄表示情報出力信号は、図１０に示した機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３や第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示を終了（停止）した状態である旨を伝える信号であり、普通図柄表示情報出力信号は、図１０に示した機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２で普通図柄の変動表示を終了（停止）した状態である旨を伝える信号であり、時短中情報出力信号は、時短状態が発生している旨を伝える信号であり、始動口入賞情報出力信号は、図８に示した第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球するごとにその旨を伝える信号である。

【０７９５】

外部端子板７８４には、図８６に示すように、出力端子ＰＴ１～ＰＴ１０が一列に水平に並んで配置されている。出力端子ＰＴ１は、白色に施されて賞球数情報出力信号が出力されるものである。賞球数情報出力信号は、上述したように、図５に示した払出モータ８３４が賞球として実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ１から０．１０５秒間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの賞球数情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、賞球数情報出力信号が入力されるごとに、パチンコ機１の払出モータ８３４が賞球として１０球の遊技球を賞球として払い出したことを把握することができるとともに、その払い出した遊技球の球数をカウントしてパチンコ機１が払い出した遊技球の総球数を把握することができる。

【０７９６】

出力端子ＰＴ２は、緑色に施されて外端枠扉開放情報出力信号が出力されるものである。外端枠扉開放情報出力信号は、上述したように、図１に示した扉枠３及び／又は本体枠４が開放されているという遊技者が通常遊技中に生じない状態が発生していることを伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ２から扉枠３及び／又は本体枠４が開放されている間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの外端枠扉開放情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、外端枠扉開放情報出力信号が入力されている間、パチンコ機１の扉枠３及び／又は本体枠４が開放されていることを把握することができる。

【０７９７】

出力端子ＰＴ３は、灰色に施されて特別図柄表示情報出力信号が出力されるものである。特別図柄表示情報出力信号は、上述したように、図１０に示した機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３や第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示を終了（停止）した状態である旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ３から機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３や第二特別図柄表示器１４０５における特別図柄の変動表示の終了（停止）時に０．１２８秒間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの特別図柄表示情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、特別図柄表示情報出力信号が入力されると、パチンコ機１の機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３や第二特別図柄表示器１４０５において特別図柄の変動表示が終了（停止）したことを把握することができるとともに、その回数をカウントしてパチンコ機１の機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３や第二特別図柄表示器１４０５において特別図柄を変動表示した総回数を把握することができる。

【０７９８】

出力端子ＰＴ４は、黄色に施されて始動口入賞情報出力信号が出力されるものである。始動口入賞情報出力信号は、上述したように、図８に示した第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球するごとにその旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ４から第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球するごとに０．１２８秒間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの始動口入賞情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、始動口入賞情報出力信号が入力されるごとに、パチンコ機１の第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球が入球したことを把握することができるとともに、始動口入賞情報出力信号が入力された回数をカウントしてパチンコ機１の第一始動口２００２又は第二始動口２００４に入球した遊技球の総球数を把握することができる。

【０７９９】

出力端子ＰＴ５は、黒色に施されて１５ラウンド大当り情報出力信号が出力されるものである。１５ラウンド大当り情報出力信号は、上述したように、１５ラウンド大当りが発生している状態である旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ５から１５ラウンド大当りが発生している間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの１５ラウンド大当り情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、１５ラウンド大当り情報出力信号が入力されている間、パチンコ機１に１５ラウンド大当りが発生している状態であることを把握することができるとともに、１５ラウンド大当り情報出力信号が入力された回数をカウントしてパチンコ機１に１５ラウンド大当りが発生した総回数を把握することができる。

【０８００】

出力端子ＰＴ６は、桃色に施されて２ラウンド大当り情報出力信号が出力されるものである。２ラウンド大当り情報出力信号は、上述したように、２ラウンド大当りが発生している状態である旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ６から２ラウンド大当りが発生している間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの２ラウンド大当り情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、２ラウンド大当り情報出力信号が入力されている間、パチンコ機１に２ラウンド大当りが発生している状態であることを把握することができるとともに、２ラウンド大当り情報出力信号が入力された回数をカウントしてパチンコ機１に２ラウンド大当りが発生した総回数を把握することができる。

【０８０１】

出力端子ＰＴ７は、青色に施されて普通図柄表示情報出力信号が出力されるものである。普通図柄表示情報出力信号は、上述したように、図１０に示した機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２で普通図柄の変動表示を終了（停止）した状態である旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ７から機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２における普通図柄の変動表示の終了（停止）時に０．１２８秒間、

出力されるようになっている。外部端子板７８４からの普通図柄表示情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、普通図柄表示情報出力信号が入力されると、パチンコ機１の機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２において普通図柄の変動表示が終了（停止）したことを把握することができるとともに、その回数をカウントしてパチンコ機１の機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２において普通図柄を変動表示した総回数を把握することができる。

【０８０２】

出力端子ＰＴ８は、赤色に施されて時短中情報出力信号が出力されるものである。時短中情報出力信号は、上述したように、時短状態が発生している旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ８から時短状態が発生している間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの時短中情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、時短中情報出力信号が入力されると、パチンコ機１に時短状態が発生していることを把握することができるとともに、時短中情報出力信号が入力された回数をカウントしてパチンコ機１に時短状態が発生した総回数を把握することができる。

【０８０３】

出力端子ＰＴ９は、橙色に施されて確率変動中情報出力信号が出力されるものである。確率変動中情報出力信号は、上述したように、確率変動が発生している状態である旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ９から確率変動が発生している間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からの確率変動中情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、確率変動中情報出力信号が入力されると、パチンコ機１に確率変動が発生している状態であることを把握することができるとともに、確率変動中情報出力信号が入力された回数をカウントしてパチンコ機１に確率変動が発生した総回数を把握することができる。

【０８０４】

出力端子ＰＴ１０は、水色に施されてメイン賞球数情報出力信号が出力されるものである。メイン賞球数情報出力信号は、上述したように、図８に示した第一始動口２００２、第二始動口２００４、一般入賞口２００１，２２０１、及び大入賞口２００５等の各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出される予定の遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号であり、本実施形態では、出力端子ＰＴ１０から０．１２８秒間、出力されるようになっている。外部端子板７８４からのメイン賞球数情報出力信号がホールコンピュータへ入力されると、ホールコンピュータは、メイン賞球数情報出力信号が入力されるごとに、パチンコ機１が賞球として１０球の遊技球を賞球として払い出す予定であることを把握することができるとともに、その払い出す予定の遊技球の球数をカウントしてパチンコ機１が払い出す予定の遊技球の総球数を把握することができる。なお、例えば第一始動口２００２、第二始動口２００４、一般入賞口２００１，２２０１、及び大入賞口２００５等の各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が２０球以上に達してメイン賞球数情報出力信号を複数回出力するとき場合には、メイン賞球数情報出力信号が０．２５６（＝０．１２８秒間×２回）秒間、１つの連続した信号とならにように、０．１２８秒間という間隔をあけて出力するようになっている。

【０８０５】

外部端子板７８４の出力端子ＰＴ１～ＰＴ１０のうち、出力端子ＰＴ１，ＰＴ２は、払出制御基板９５１側において出力される各種信号が出力されるのに対して、出力端子ＰＴ３～ＰＴ１０は、主制御基板１３１０側において出力される各種信号が払出制御基板９５１を介して（通過して）出力されるように配置されている。出力端子ＰＴ１～ＰＴ１０は、それぞれ色が施され、これらの色と同一色に施されたコネクタを有する配線を出力端子ＰＴ１～ＰＴ１０にそれぞれ電気的に接続することにより、他の配線を誤って電気的に接続することを防止することができるようになっている。そして、払出制御基板９５１側において出力される各種信号と、主制御基板１３１０側において出力される各種信号と、を混在しないように、払出制御基板９５１側において出力される各種信号をホールコンピュ

ータへ伝えるための出力端子ＰＴ１，ＰＴ２を外部端子板７８４の左側に一列に配置するとともに、主制御基板１３１０側において出力される各種信号をホールコンピュータへ伝えるための出力端子ＰＴ３～ＰＴ１０を外部端子板７８４の中央左寄りから右側に向かって一列に配置することにより、この点においても、払出制御基板９５１側において出力される各種信号をホールコンピュータへ伝えるための配線と、主制御基板１３１０側において出力される各種信号をホールコンピュータへ伝えるための配線と、を誤って電気的に接続することを防止することができるようになっている。

【０８０６】

なお、本実施形態では、払出制御基板９５１側において出力される賞球数情報出力信号と、主制御基板１３１０側において出力されるメイン賞球数情報出力信号と、がそれぞれ外部端子板７８４からホールコンピュータへ伝えるように構成されている。これは、例えば、パチンコ島設備に何らかのトラブルにより図１に示した賞球タンク７２０にパチンコ島設備側からの遊技球が供給されなくなっている状態において、賞球タンク７２０に貯留されている遊技球が残り少なくなった時点において、たまたまパチンコ機１に１５ラウンド大当りが発生すると、遊技球を賞球として払い出すための賞球タンク７２０に貯留されている遊技球の球数が不足するため、払い出すことができなくなる（また、例えば払出装置８３０内において球詰まりや球がみが発生すると、これを解消することができないと、遊技球を払い出すことができない）。そうすると、払出制御基板９５１側において出力される賞球数情報出力信号は、上述したように、図５に示した払出モータ８３４が賞球として実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号であるため、遊技球を払い出すことができなくなることにより払出制御基板９５１は賞球数情報出力信号を出力して外部端子板７８４を介してホールコンピュータへ伝えることができなくなる。遊技球が払い出されない状態となると、遊技者がホールの店員等を呼び出す。ホールの店員などは、例えば、パチンコ島設備から賞球タンク７２０へ遊技球を供給するためのホース状の補給ノズル等をチェックして球詰まりの位置を特定（また、例えば払出装置８３０内において発生した、球詰まりの位置や球がみの位置を特定）して解消することにより、遊技球が払い出される状態に復帰することとなる。

【０８０７】

しかし、ホールの店員等が作業をすすめている状況であっても、主制御基板１３１０による遊技は進行しているため、１５ラウンド大当り終了したのちに、ホールの店員等の作業により遊技球が払い出される状態に復帰すると、払出制御基板９５１は未払い出しの遊技球を次々と払い出すこととなり、１５ラウンド大当り終了して１５ラウンド大当りが発生していない時期であるにもかかわらず、払出制御基板９５１は、払出モータ８３４が賞球として実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える賞球数情報出力信号を出力して外部端子板７８４を介してホールコンピュータへ伝えることとなる。そうすると、１５ラウンド大当りが発生していない時期であるにもかかわらず、極めて多くの遊技球を払い出すこととなるため、パチンコ機１の遊技状態と、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数と、の関係をホールコンピュータが正確に把握することができないという問題が生ずる。

【０８０８】

そこで、本実施形態では、払出制御基板９５１により払出モータ８３４が駆動制御されて賞球として実際に払い出したか否かに関係なく、つまり払出制御基板９５１が出力する賞球数情報出力信号とは別の信号として、主制御基板１３１０は、図８に示した第一始動口２００２、第二始動口２００４、一般入賞口２００１，２２０１、及び大入賞口２００５等の各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える信号としてメイン賞球数情報出力信号を出力して払出制御基板９５１、そして外部端子板７８４を介して、ホールコンピュータへ伝えるという仕組みを採用した。これにより、仮に、上述したトラブル（補給ノズル等における球詰まり、払出装置８３０内における球詰まりや球がみ等のトラブル）が発生したとしても、パチンコ機１の遊技状態と、この遊技状態における払い出す予定の遊技球の球数と、の関

係を正確にホールコンピュータへ伝えることができる。したがって、パチンコ機１の遊技状態と、遊技状態における払い出される遊技球の球数と、の関係をホールコンピュータが正確に把握することができる。

【０８０９】

［１２．演出表示駆動基板の回路］

次に、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域の描画を行う演出表示駆動基板４４５０の回路について、図８７を参照して説明する。演出表示駆動基板４４５０は、上述したように、扉枠３の皿ユニット３２０の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置４６０の下方近傍に配置されて皿ユニット３２０内に収納されており、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域の描画を行う液晶モジュール回路４５０Ｖを主として構成されている。図８７は上皿側液晶表示装置の表示領域の描画を行う液晶モジュール回路を示す回路図である。

【０８１０】

［１２－１．液晶モジュール回路］

演出表示駆動基板４４５０の液晶モジュール回路４５０Ｖは、図８７に示すように、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０を主として構成されている。

【０８１１】

液晶モジュール回路４５０Ｖは、図７４に示した周辺制御基板１５１０の扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄからザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式によるシリアル信号（シリアルデータ）がプラス信号とマイナス信号として送信されると、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、コモンモードチョークコイルＳＤＬ０にそれぞれ入力され、このコモンモードチョークコイルＳＤＬ０によりプラス信号とマイナス信号とからノイズをそれぞれ分離することができるようになっている。ノイズが分離されたプラス信号とマイナス信号とは、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにそれぞれ入力されている。ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子との間には抵抗ＳＤＲ０が電気的に接続されている。この抵抗ＳＤＲ０は、終端抵抗（ターミネータ）であり、プラス信号とマイナス信号とがＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ反射するのを防ぎ、シリアル信号の乱れを防止している。

【０８１２】

扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ入力されたシリアル信号（シリアルデータ）に基づいて、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、に復元する（つまり、シリアル化される前のパラレル信号に復元する）。なお、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号は、上述したように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ８ビットであるものの、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力可能な赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ６ビット、計１８ビットであるため、各映像信号における上位６ビットの信号となっている。

【０８１３】

液晶モジュール回路４５０Ｖは、周辺制御基板１５１０の扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄからの信号のほかに、上述したように、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データが周辺制御基板１５１０の差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号も入力されるようになっている。周辺制御基板１５１０の強制切替回路１５１２ｆは、上述したように、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、この２つの信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するよ

うに回路構成されている。これにより、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、その２つの信号を伝送するように回路接続するため、その２つの信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０の液晶モジュール回路４５０Ｖに送信される一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するため、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０の液晶モジュール回路４５０Ｖに送信される。

【０８１４】

強制切替回路１５１２ｆは、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号、つまり扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄからザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式によるシリアル信号（シリアルデータ）がプラス信号とマイナス信号として、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、コモンモードチョークコイルＳＤＬ０に入力され、そして扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにそれぞれ入力される一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して入力されているときには、この２つの信号がコモンモードチョークコイルＳＤＬ０に入力され、そして扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにそれぞれ入力される。扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、ＬＯＣＫＮ信号の出力要求であることを判断して、後述するＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。

【０８１５】

なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、上述したように、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置４６０の動作確認要求として送信されるものである。本実施形態におけるＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化されるものの、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号、つまり上述したザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）とデータ形式が全く異なる構造としている。このため、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データが扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信されると、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号でないものと判断し、異常なデータであるとして、後述するＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を出力することとなる。換言すると、本実施形態では、受信したデータが異常なデータであると判断したときにＬＯＣＫＮ信号を出力するという扉枠側演出用レシーバＩＣ

ＳＤＩＣ０の機能を利用して、後述するＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を強制的に出力させるために、わざわざ、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号とデータ形式が異なる構造のＬＯＣＫＮ信号出力要求データを、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力することにより、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０というデバイスが正常に動作しているか否かを確認することができるようになっている。これにより、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認することができる。

【０８１６】

扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＶＤＤ端子、ＶＤＤＯ端子、ＬＶＤＳＶＤＤ端子、ＰＬＬＶＤＤ端子、及びＰＤＷＮ端子は、図７６に示した上皿側液晶モジュール電源回路４４５０ｘが作成した＋３．３Ｖがそれぞれ供給され、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＧＮＤ端子、ＧＮＤＯ端子、ＬＶＤＳＧＮＤ願紙、ＰＬＬＧＮＤ端子、ＥＤＧＥ端子、ＯＥ端子、ＭＯＤＥ０、及びＭＯＤＥ１端子がそれぞれグランドに接地されている。

【０８１７】

ＶＤＤ端子は、デジタル回路用の電源端子であり、このデジタル回路用のグランドとなるＧＮＤ端子との端子間にコンデンサＳＤＣ０が電気的に接続されており、ＶＤＤ端子に供給される＋３．３Ｖの電源ラインから高周波ノイズを除去している。

【０８１８】

ＶＤＤＯ端子は、ＴＴＬ（Ｔｒａｎｓｉｓｔｏｒ－Ｔｒａｎｓｉｓｔｏｒ　Ｌｏｇｉｃ）出力用の電源端子であり、このＴＴＬ出力用のグランドとなるＧＮＤＯ端子との端子間にコンデンサＳＤＣ１が電気的に接続されており、ＶＤＤＯ端子に供給される＋３．３Ｖの電源ラインから高周波ノイズを除去している。

【０８１９】

ＬＶＤＳＶＤＤ端子は、ＬＶＤＳ（Ｌｏｗ　Ｖｏｌｔａｇｅ　Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔｉａｌ　Ｓｉｇｎａｌｉｎｇ）入力用の電源端子であり、このＬＶＤＳ入力用のグランドとなるＬＶＤＳＧＮＤ端子との端子間にコンデンサＳＤＣ２が電気的に接続されており、ＬＶＤＳＶＤＤ端子に供給される＋３．３Ｖの電源ラインから高周波ノイズを除去している。

【０８２０】

ＰＬＬＶＤＤ端子は、ＰＬＬ（Ｐｈａｓｅ　Ｌｏｃｋｅｄ　Ｌｏｏｐ）回路用の電源端子であり、このＰＬＬ回路用のグランドとなるＰＬＬＧＮＤ端子との端子間にコンデンサＳＤＣ３が電気的に接続されており、ＰＬＬＶＤＤ端子に供給される＋３．３Ｖの電源ラインから高周波ノイズを除去している。

【０８２１】

ＰＤＷＮ端子は、＋３．３Ｖが供給（印加）されることにより論理がＨＩとなって通常動作する旨を伝える一方、＋３．３の供給が停止されて論理がＬＯＷとなってパワーダウンする旨を伝える端子である。ＰＤＷＮ端子は、＋３．３Ｖが抵抗ＳＤＲ１を介して供給されるとともに、一端がグランドに接地されたバリスタＳＤＺ０の他端と電気的に接続されている。このバリスタＳＤＺ０は、抵抗ＳＤＲ１を介して供給される＋３．３Ｖの電電ラインのノイズや過電圧を抑えている。

【０８２２】

ＥＤＧＥ端子は、後述する、ＣＬＫＯＵＴ端子から出力されるクロック信号ＤＣＬＫに基づく各種出力端子（ＤＥ端子、ＳＹＮＣ０端子～ＳＹＮＣ２端子、及びＤ０端子～Ｄ１７端子）から出力される各種信号の伝送を、立ち上がりエッジとする（論理がＬＯＷからＨＩへ遷移する）場合、又は立ち下がりエッジとする（論理がＨＩからＬＯＷへ遷移する）場合のいずれかを指定するための端子であり、本実施形態では、上述したように、ＥＤＧＥ端子をグランドに接地することにより立ち下がりエッジを指定している。因みに、ＥＤＧＥ端子を＋３．３Ｖに接続すると、立ち上がりエッジを指定することができる。

【０８２３】

ＯＥ端子は、後述する各種出力端子（ＤＥ端子、ＳＹＮＣ０端子～ＳＹＮＣ２端子、Ｄ

０端子～Ｄ１７端子、及びＣＬＫＯＵＴ端子）の出力を許可するか否かを指示するものであり、本実施形態では、上述したように、ＯＥ端子をグランドに接地することにより、常に、出力可能状態としている。因みに、ＯＥ端子を＋３．３Ｖに接続すると、出力することができない状態となる。

【０８２４】

ＭＯＤＥ０端子、及びＭＯＤＥ１端子は、動作モードを選択する端子であり、ともにグランドに接地することで動作モードを選択することができる。動作モードには、ノーマルモードとシェイクハンドモードとがある。ノーマルモードでは、ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ入力されたシリアル信号（シリアルデータ）に基づいて、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号（１８ビットの映像信号）と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号（３ビットの同期信号）と、から構成されるパラレル信号に扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が復元するという通常動作するモードである。シェイクハンドモードでは、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求する旨をＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を出力するモードである。このシェイクハンドモードは、自動的に切り替わるようになっている。

【０８２５】

例えば、ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ入力されたシリアル信号（シリアルデータ）に基づいて、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号（１８ビットの映像信号）と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号（３ビットの同期信号）と、から構成されるパラレル信号に扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が復元したものが、何らかの理由により、異常なデータで扉枠側演出表示装置４６０に描画することが困難である場合には、ノーマルモードからシェイクハンドモードに自動的に切り替わってＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、ダンピング抵抗である抵抗ＳＤＲ２、周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、入力されるＬＯＣＫＮ信号に基づいて、所定の条件が成立すると、その旨を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに伝えるために、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄのＩＮＩＴ端子に接続確認信号を出力する。この接続確認信号がＩＮＩＴ端子に入力されると、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄは、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を回復するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に送信する。このような所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）が扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信されることにより、トランスミッタとレシーバとの間の接続を容易に回復することができるようになっている。所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）は、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに予め記憶されている。なお、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄのＩＮＩＴ端子と、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子と、を枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して電気的に直接接続してもよい。

【０８２６】

ＬＯＣＫＮ端子は、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回

復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求する旨を出力する端子である。ＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号は、演出表示駆動基板４４５０のダンピング抵抗である抵抗ＳＤＲ２、周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に入力され、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。

【０８２７】

ＳＹＮＣ０端子～ＳＹＮＣ２端子は、ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ入力されたシリアル信号（シリアルデータ）に基づいて復元された水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号を出力する端子である。本実施形態では、復元された、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号を使用しないため、ＳＹＮＣ０端子～ＳＹＮＣ２端子が未接続端子となっている。

【０８２８】

ＤＥ端子は、後述する、ＣＬＫＯＵＴ端子から出力されるクロック信号、データ出力端子であるＤ０端子～Ｄ１７端子から出力されるデータが有効又は無効であることを伝えるＤＥ信号を出力する端子である。ＤＥ端子から出力されるＤＥ信号は、ダンピング抵抗である抵抗ＳＤＲ３を介して扉枠側演出表示装置４６０に入力される。

【０８２９】

ＣＬＫＯＵＴ端子は、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に内蔵されるＰＬＬ回路により生成されるクロック信号ＤＣＬＫを出力する端子である。ＣＬＫＯＵＴ端子から出力されるクロック信号ＤＣＬＫは、ダンピング抵抗である抵抗ＳＤＲ４を介して扉枠側演出表示装置４６０に入力される。

【０８３０】

Ｄ０端子～Ｄ１７端子は、ＲＸＩＮ＋端子とＲＸＩＮ－端子とにおいてそれぞれ入力されたシリアル信号（シリアルデータ）に基づいて復元された赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号（１８ビットの映像信号）を出力するデータ出力端子である。Ｄ０端子～Ｄ５端子という６ビットのデータ出力端子から青色映像信号Ｂ０～Ｂ５（６ビット）をクロック信号ＤＣＬＫと同期して出力し、この青色映像信号Ｂ０～Ｂ５の各信号線がダンピング抵抗であるラダー抵抗ＳＤＲＡ０を介して扉枠側演出表示装置４６０にそれぞれ入力される。Ｄ６端子～Ｄ１１端子という６ビットのデータ出力端子から緑色映像信号Ｇ０～Ｇ５（６ビット）をクロック信号ＤＣＬＫと同期して出力し、この緑色映像信号Ｇ０～Ｇ５の各信号線がダンピング抵抗であるラダー抵抗ＳＤＲＡ１を介して扉枠側演出表示装置４６０にそれぞれ入力される。Ｄ１２端子～Ｄ１７端子という６ビットのデータ出力端子から赤色映像信号Ｒ０～Ｒ５（６ビット）をクロック信号ＤＣＬＫと同期して出力し、この赤色映像信号Ｒ０～Ｒ５の各信号線がダンピング抵抗であるラダー抵抗ＳＤＲＡ２を介して扉枠側演出表示装置４６０にそれぞれ入力される。

【０８３１】

なお、周辺制御基板１５１０、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、演出表示駆動基板４４５０、及び扉枠側演出表示装置４６０のグランドは、電気的に接続されており、同一グランドとなっている。

【０８３２】

［１３．主制御基板の送受信に関する各種コマンド］

次に、主制御基板１３１０から払出制御基板９５１へ送信される各種コマンドと、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信される各種コマンドについて、図８８～図９１を参照して説明する。図８８は主制御基板から払出制御基板へ送信される各種コマンドの一例を示すテーブルであり、図８９は主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンドの一例を示すテーブルであり、図９０は図８９の主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンドのつづきを示すテーブルであり、図９１は主制御基板が受信する払出制御基板からの各種コマンドの一例を示すテーブルである。まず、主制御基板から払出制御基板へ送信される払い出しに関するコマンドである賞球コマンドについて説明し

、続いて主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンドについて説明し、主制御基板が受信する払出制御基板からの各種コマンドについて説明する。

【０８３３】

［１３－１．主制御基板から払出制御基板へ送信される各種コマンド］

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、図６９に示した、一般入賞口センサ４０２０，４０２０、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、及びカウントセンサ４００５等の各種入賞スイッチからの検出信号が入力されると、これらの検出信号に基づいて、予め定めた球数の遊技球を賞球として払い出すための賞球コマンドを払出制御基板へ送信する。この賞球コマンドは、１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドである。本実施形態では、パチンコ機１とＣＲユニット６（パチンコ機１と通信して、パチンコ機１（払出装置８３０）の払出モータ８３４を駆動して貯留皿である、上皿３２１や下皿３２２に貸球として遊技球を払い出す装置）とが電気的に接続されている場合には（このようなパチンコ機を「ＣＲ機」という。）、図８８（ａ）に示すように、主制御基板１３１０から払出制御基板９５１に送信する賞球コマンドには、コマンド１０Ｈ～コマンド１ＥＨ（「Ｈ」は１６進数を表す。）が用意されており、コマンド１０Ｈでは賞球１個が指定され、コマンド１１Ｈでは賞球２個が指定され、・・・、コマンド１ＥＨでは賞球１５個が指定されている。この指定された賞球数だけ、払出制御基板９５１は、払出モータ８３４を駆動して遊技球を払い出す制御を行う。

【０８３４】

また、パチンコ機１と球貸し機（遊技球を貯留皿である、上皿３２１や下皿３２２に貸球として直接払い出す装置）とが遊技場（ホール）に隣接して設置され、パチンコ機１と球貸し機が電気的に接続されている場合には（このようなパチンコ機を「一般機」という。）、図８８（ｂ）に示すように、主制御基板１３１０から払出制御基板９５１に送信する賞球コマンドには、コマンド２０Ｈ～コマンド２ＥＨが用意されており、コマンド２０Ｈでは賞球１個が指定され、コマンド２１Ｈでは賞球２個が指定され、・・・、コマンド２ＥＨでは賞球１５個が指定されている。この指定された賞球数だけ、払出制御基板９５１は、払出モータ８３４を駆動して遊技球を払い出す制御を行う。

【０８３５】

なお、ＣＲ機及び一般機の共通のコマンドとして、図８８（ｃ）に示すように、コマンド３０Ｈが用意されており、このコマンド３０Ｈではセルフチェックが指定されている。送信側は、コマンド送信後、所定期間、受信側からコマンドの受け取り確認として出力するＡＣＫ信号が入力されない場合に、コマンド３０Ｈを送信して、ＡＣＫ信号が入力されるか否かをチェックすることで接続状態を確認する。本実施形態におけるＣＲ機の場合では、払出制御基板９５１がＣＲユニット６との接続状態を確認する。

【０８３６】

［１３－２．主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンド］

次に、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信される各種コマンドについて説明する。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技の進行に基づいて周辺制御基板１５１０に各種コマンドを送信する。これらの各種コマンドは、２バイト（１６ビット）の記憶容量を有するコマンドであり、図８９及び図９０に示すように、１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドの種類を示すステータスと、１バイト（８ビット）の記憶容量を有する演出のバリエーションを示すモードと、から構成されている。

【０８３７】

各種コマンドは、図８９及び図９０に示すように、特図１同調演出関連、特図２同調演出関連、大当り関連、電源投入、普図同調演出関連、普通電役演出関連、報知表示、状態表示、及びその他に区分されている。

【０８３８】

［１３－２－１．特図１同調演出関連］

特図１同調演出関連は、図６９に示した第一始動口センサ４００２からの検出信号に基づくものであり、その区分には、図８９に示すように、図６９に示した機能表示ユニット

１４００の第一特別図柄表示器１４０３に関する、特図１同調演出開始、特別図柄１指定、特図１同調演出終了、及び変動時状態指定という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ａ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８３９】

特図１同調演出開始コマンドは、モードで指定された演出パターンで特図同調演出開始を指示するものであり、特別図柄１指定コマンドは、はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定するものであり、特図１同調演出終了コマンドは、特図１同調演出終了を指示するものであり、変動時状態指定コマンドは、確率及び時短状態を指示するものである。なお、確率及び時短状態には、低確率状態であって時短状態であることを指示する低確率時短状態と、高確率状態であって時短状態であるを指示する高確率時短状態と、低確率状態であって時短状態でないことを指示する低確率非時短状態と、高確率状態であって時短状態でないことを指示する高確率非時短状態と、から構成されている（通常遊技状態としては、低確率非時短状態が設定されている）。ここで、高確率状態は、大当りする確率が低確率状態（通常遊技状態）と比べて高く設定されるという状態であり、時短状態は、例えば、図１０に示した普通図柄表示器１４０２による普通図柄を変動表示する時間を、非時短状態（通常遊技状態）と比べて、短くして普通抽選結果に対応した発光パターンで停止表示することにより、所定時間における後述する普通抽選による普通抽選結果の停止表示回数を非時短状態と比べて多くするとともに、さらに、図８に示した一対の可動片を開閉動作させる期間を、非時短状態（通常遊技状態）と比べて、長くして図８に示した第二始動口２００４への遊技球の受入率（入球率）を高めることにより持ち球を減らさず特別図柄の抽選機会を得ることができるという状態（換言すると、非時短状態と比べて、一対の可動片を開閉動作させるか否かの決定を多くするとともに、一対の可動片を開閉動作させる場合には一対の可動片の開閉動作の期間を長くすることにより、第二始動口２００４への遊技球の受入率（入球率）を高めるという状態）である。

【０８４０】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、特図１同調演出開始コマンドは、特別図柄１変動開始時に送信され、特別図柄１指定コマンドは、特図１同調演出開始の直後に送信され、特図１同調演出終了コマンドは、特別図柄１変動時間経過時（特別図柄１確定時）に送信され、変動時状態指定コマンドは、特図当落情報指定の直後に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には後述する主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８４１】

［１３－２－２．特図２同調演出関連］

特図２同調演出関連は、図６９に示した第二始動口センサ４００４からの検出信号に基づくものであり、その区分には、図８９に示すように、図６９に示した機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器１４０５に関する、特図２同調演出開始、特別図柄２指定、及び特図２同調演出終了という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ｂ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８４２】

特図２同調演出開始コマンドは、モードで指定された演出パターンで特図同調演出開始を指示するものであり、特別図柄２指定コマンドは、はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定するものであり、特図２同調演出終了は、特図２同調演出終了を指示するものである。

【０８４３】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、特図２同調演出開始コマンドは、特別図柄２変動開始時に送信され、特別図柄２指定コマンドは、特図２同調演出開始の直後に

送信され、特図２同調演出終了コマンドは、特別図柄２変動時間経過時（特別図柄２確定時）に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８４４】

［１３－２－３．大当り関連］

大当り関連という区分には、図８９に示すように、大当りオープニング、大入賞口１開放Ｎ回目表示、大入賞口１閉鎖表示、大入賞口１カウント表示、大当りエンディング、大当り図柄表示、小当りオープニング、小当り開放表示、小当りカウント表示、及び小当りエンディングという名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ｃ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８４５】

大当りオープニングコマンドは、大当りオープニング開始を指示するものであり、大入賞口１開放Ｎ回目表示コマンドは、１～１６ラウンド目の大入賞口１開放中開始（図８に示した、始動口ユニット２１００の大入賞口２００５のＮ回目のラウンドの開放中又は開放開始）を指示するものであり、大入賞口１閉鎖表示コマンドは、ラウンド間の大入賞口１閉鎖中開始（始動口ユニット２１００の大入賞口２００５のラウンド間の閉鎖中又は閉鎖開始）を指示するものであり、大入賞口１カウント表示コマンドは、カウント０～１０個の遊技球の球数をカウントした旨（図６９に示したカウントセンサ４００５によって検出された、大入賞口２００５に入球した遊技球の球数）を伝えるものであり、大当りエンディングコマンドは、大当りエンディング開始を指示するものであり、大当り図柄表示コマンドは、大当り図柄情報表示を指示するものである。

【０８４６】

また、小当りオープニングコマンドは、小当りオープニング開始を指示するものであり、小当り開放表示コマンドは、小当り開放中開始（小当り時における、始動口ユニット２１００の大入賞口２００５の開放中又は開放開始）を指示するものであり、小当りカウント表示コマンドは、小当り中大入賞口入賞演出（小当り中における、大入賞口２００５に入球した遊技球がカウントセンサ４００５によって検出された場合における演出）を指示するものであり、小当りエンディングコマンドは、小当りエンディング開始を指示するものである。

【０８４７】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、大当りオープニングコマンドは、大当りオープニング開始時に送信され、大入賞口１開放Ｎ回目表示コマンドは、１～１６ラウンド目の大入賞口１開放時（始動口ユニット２１００の大入賞口２００５のＮ回目のラウンドの開放時）に送信され、大入賞口１閉鎖表示コマンドは、大入賞口１閉鎖時（始動口ユニット２１００の大入賞口２００５の閉鎖開始）に送信され、大入賞口１カウント表示コマンドは、大入賞口１開放時及び大入賞口１へのカウント変化時（始動口ユニット２１００の大入賞口２００５の開放時、及び大入賞口２００５に入球した遊技球がカウントセンサ４００５によって検出された時）に送信され、大当りエンディングコマンドは、大当りエンディング開始時に送信され、大当り図柄表示コマンドは、大入賞口開放時（始動口ユニット２１００の大入賞口２００５の開放時）に送信される。

【０８４８】

また、小当りオープニングコマンドは、小当りオープニング開始時に送信され、小当り開放表示コマンドは、小当り開放時（小当り時における、始動口ユニット２１００の大入賞口２００５の開放時）に送信され、小当りカウント表示コマンドは、小当り中大入賞口入賞時（小当り中における、大入賞口２００５に入球した遊技球がカウントセンサ４００５によって検出された時）に送信され、小当りエンディングコマンドは、小当りエンディング開始時に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８４９】
［１３－２－４．電源投入］
電源投入という区分には、図８９に示すように、電源投入時状態、及び電源投入時主制御復帰先という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ｄ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。
【０８５０】
電源投入時状態コマンドは、ＲＡＭクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである。電源投入時状態コマンドは、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、図７０に示した払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されてＲＡＭクリアを行う場合にその旨を指示する情報と、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、上述した、低確率時短状態、高確率時短状態、低確率非時短状態、及び高確率非時短状態のうち、いずれの状態（確率及び時短状態）で復帰するかを指示する情報と、パチンコ機の機種コードを示す情報と、から構成されている。このパチンコ機の機種コードは、例えば、いわゆる、マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプをそれぞれ作成するときに、どの作品の版権に対するものであるのか、どのような遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定（例えば、３０回や７０回）された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（いわゆる、ＳＴ機）など）であるのか、を特定するものである。つまり、パチンコ機の機種コードの情報は、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、から主として構成されている。
【０８５１】
電源投入時主制御復帰先コマンドは、主制御基板１３１０自体の復帰先を指示するものである。電源投入時主制御復帰先コマンドは、図６９に示した始動口ソレノイド２１０７の駆動状態を指示する情報と、図６９に示したアタッカソレノイド２１０８の駆動状態を指示する情報と、を主としてから構成されている。
【０８５２】
電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとの送信タイミングとして、主制御基板電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に送信される。具体的には、パチンコ機１の電源投入時、停電又は瞬停から復帰するときに、後述する主制御側電源投入時処理が実行されて主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとが送信される。
【０８５３】
［１３－２－５．普図同調演出関連］
普図同調演出関連は、図６９に示したゲートセンサ４００３からの検出信号に基づくものであり、その区分には、図８９に示すように、図６９に示した機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２に関する、普図同調演出開始、普図柄指定、普図同調演出終了、及び変動時状態指定という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ｅ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。
【０８５４】
普図同調演出開始コマンドは、モードで指定された演出パターンで普図同調演出開始を

指示するものであり、普図柄指定コマンドは、はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定するものであり、普図同調演出終了コマンドは、普図同調演出終了を指示するものであり、変動時状態指定コマンドは、確率及び時短状態を指示するものである。なお、確率及び時短状態には、上述したように、低確率状態であって時短状態であることを指示する低確率時短状態と、高確率状態であって時短状態であるを指示する高確率時短状態と、低確率状態であって時短状態でないことを指示する低確率非時短状態と、高確率状態であって時短状態でないことを指示する高確率非時短状態と、から構成されている（通常遊技状態としては、低確率非時短状態が設定されている）。

【０８５５】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、普図同調演出開始コマンドは、普通図柄１変動開始時に送信され、普図柄指定コマンドは、普図同調演出開始の直後に送信され、普図同調演出終了コマンドは、普通図柄変動時間経過時（普通図柄確定時）に送信され、変動時状態指定コマンドは、普図当落情報指定の直後に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８５６】

［１３－２－６．普通電役演出関連］

普通電役演出関連は、図６９に示した始動口ソレノイド２１０７の駆動により開閉される図８に示した一対の可動片に関するものであり、その区分には、図８９に示すように、普図当りオープニング、普電開放表示、及び普図当りエンディングという名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「Ｆ＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８５７】

普図当りオープニングコマンドは、普図当りオープニング開始を指示するものであり、普電開放表示コマンドは、普電開放中開始（一対の可動片が始動口ソレノイド２１０７の駆動により左右方向へ拡開した状態、又は拡開する時）を指示するものであり、普図当りエンディングコマンドは、普図当りエンディング開始を指示するものである。

【０８５８】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、普図当りオープニングコマンドは、普図当りオープニング開始時に送信され、普電開放表示コマンドは、普電開放時（一対の可動片が始動口ソレノイド２１０７の駆動により左右方向へ拡開する時）に送信され、普図当りエンディングコマンドは、普図当りエンディング開始時に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８５９】

［１３－２－７．報知表示］

報知表示の区分には、図９０に示すように、入賞異常表示、接続異常表示、断線・短絡異常表示、磁気検出スイッチ異常表示、扉開放、及び扉閉鎖という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「６＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８６０】

入賞異常表示コマンドは、大当り中（条件装置作動中）以外に大入賞口に入賞した時（大当り中でもないのに、始動口ユニット２１００の大入賞口２００５に遊技球が入球してその遊技球をカウントセンサ４００５が検出した時）に入賞異常報知の開始を指示するものであり、接続異常表示コマンドは、例えば、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間に亘る経路において電気的な接続異常がある場合に接続異常報知の開始を指示するものであり、断線・短絡異常表示コマンドは、例えば、主制御基板１３１０と、第一

始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、カウントセンサ４００５等との電気的な接続の断線・短絡が生じた場合に断線・短絡異常表示の開始を指示するものであり、磁気検出スイッチ異常表示コマンドは、図６９に示した磁気検出センサ４０２４に異常が生じた場合に磁気検出スイッチ異常報知の開始を指示するものである。

【０８６１】

また、扉開放コマンドは、図７０に示した、払出制御基板９５１を介して入力される扉枠開放スイッチ６１８からの検出信号（開放信号）に基づいて、扉枠３が本体枠４に対して開放された状態である場合に、扉開放報知を指示するものであり、扉枠閉鎖コマンドは、その扉枠開放スイッチ６１８からの検出信号に基づいて、扉枠３が本体枠４に対して閉鎖された状態である場合に扉開放報知終了を指示するものである。一方、本体枠開放コマンドは、図７０に示した、払出制御基板９５１を介して入力される本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号（開放信号）に基づいて、本体枠４が外枠２に対して開放された状態である場合に、本体枠開放報知を指示するものであり、本体枠閉鎖コマンドは、その本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号に基づいて、本体枠４が外枠２に対して閉鎖された状態である場合に本体枠開放報知終了を指示するものである。

【０８６２】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、入賞異常表示コマンドは、大当り中（条件装置作動中）以外に大入賞口に入賞した時に送信され、接続異常表示コマンドは、主制御基板１３１０から払出制御基板９５１へのコマンド送信時に払出制御基板９５１からのＡＣＫ返信（ＡＣＫ信号）がなかった時に送信され、断線・短絡異常表示コマンドは、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、カウントセンサ４００５等のうち、いずれが断線または短絡状態となった時に送信され、磁気検出スイッチ異常表示コマンドは、磁気検出センサ４０２４の異常を検知した時に送信される。また、扉開放コマンドは、扉開放を検知した時（扉枠開放スイッチ６１８からの検出信号に基づいて、扉枠３が本体枠４に対して開放された状態である場合）に送信され、扉枠閉鎖コマンドは、扉閉鎖を検知した時（扉枠開放スイッチ６１８からの検出信号に基づいて、扉枠３が本体枠４に対して閉鎖された状態である場合）に送信される。本体枠開放コマンドは、本体枠開放を検知した時（本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号に基づいて、本体枠４が外枠２に対して開放された状態である場合）に送信され、本体枠閉鎖コマンドは、本体枠閉鎖を検知した時（本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号に基づいて、本体枠４が外枠２に対して閉鎖された状態である場合）に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８６３】

［１３－２－８．状態表示］

状態表示の区分には、図９０に示すように、枠状態１コマンド（エラー発生コマンドに相当）、エラー解除ナビコマンド（エラー解除コマンドに相当）及び枠状態２コマンドという名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「７＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８６４】

枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド及び枠状態２コマンドは、それぞれ、払出制御基板９５１から送信された１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドであり、これらの詳細な説明は、後述する。なお、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からの枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンドを受信すると、図９０に示すように、「７＊Ｈ」をステータスとして設定するとともに、その受信したコマンドをそのままモードとして設定する。つまり、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からの枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンドを受信すると、これら受信したコマンドに付加情報である「７

＊Ｈ」を付加することにより、２バイト（１６ビット）の記憶容量を有するコマンドに整形する。

【０８６５】

整形された、枠状態１コマンドは、電源復旧時、枠状態の変化時、及びエラー解除ナビ時に送信され、エラー解除ナビコマンドは、エラー解除ナビ時に送信され、枠状態２コマンドは、電源復旧時、及び枠状態の変化時に送信される。なお、これら整形された、枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８６６】

［１３－２－９．テスト関連］

テスト関連の区分には、図９０に示すように、テストという名称の各種コマンドから構成されている。このテストコマンドには、ステータスとして「８＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８６７】

テストコマンドは、周辺制御基板１５１０の各種検査を指示するものである（例えば、図７２に示した、周辺制御部１５１１、液晶表示制御部１５１２、ランプ駆動基板４１７０、モータ駆動基板４１８０、及び枠装飾駆動アンプ基板１９４等の各種基板の検査を行うものである）。

【０８６８】

テストコマンドの送信タイミングとして、主制御基板電源投入時ＲＡＭクリア及びＲＡＭクリア以外の時に送信される。具体的には、パチンコ機１の電源投入時、停電又は瞬停から復帰するときであって、払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されたときに、後述する主制御側電源投入時処理が実行されて主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理でテストコマンドが送信される。

【０８６９】

［１３－２－１０．その他］

その他の区分には、図９０に示すように、始動口入賞、変動短縮作動終了指定、高確率終了指定、特別図柄１記憶、特別図柄２記憶、普通図柄記憶、特別図柄１記憶先読み演出、及び特別図柄２記憶先読み演出という名称のコマンドから構成されている。これらの各種コマンドには、ステータスとして「９＊Ｈ」、モードとして「＊＊Ｈ」（「Ｈ」は１６進数を表す。）が割り振られている（「＊」は、特定の１６進数であることを示し、パチンコ機１の仕様内容によって予め定められたものである）。

【０８７０】

始動口入賞コマンドは、始動口入賞演出開始を指示するものであって、第一始動口センサ４００２からの検出信号に基づいて第一始動口２００２に遊技球が入球した場合における演出の開始と、第二始動口センサ４００４からの検出信号に基づいて第二始動口２００４に遊技球が入球した場合における演出の開始と、をそれぞれ指示するものであり、変動短縮作動終了指定コマンドは、変動短縮作動状態から変動短縮非作動状態への状態移行を指示するものであり、高確率終了指定コマンドは、高確率状態から低確率状態への状態移行を指示するものであり、特別図柄１記憶コマンドは、特別図柄１保留０～４個（図８に示した第一始動口２００２に遊技球が入球して機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３で特別図柄の変動表示に未だ使用されていない球数（保留数））を伝えるものであり、特別図柄２記憶コマンドは、特別図柄２保留０～４個（図８に示した第二始動口２００４に遊技球が入球して機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示に未だ使用されていない球数（保留数））を伝えるものであり、普通図柄記憶コマンドは、普通図柄１保留０～４個（図８に示したゲート部２００３を遊技球が通過して機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２で普通図柄の変動表示に未だ使用されていない球数（保留数））を伝えるものであり、特別図柄１記憶先読み

演出コマンドは、特別図柄１保留が機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３で特別図柄の変動表示に使用される前に、先読みしてその特別図柄１保留に基づく第一特別図柄表示器１４０３による表示結果の予告を報知する先読み演出開始を指示するものであり、特別図柄２記憶先読み演出コマンドは、特別図柄２保留が機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示に使用される前に、先読みしてその特別図柄２保留に基づく第二特別図柄表示器１４０５による表示結果の予告を報知する先読み演出開始を指示するものである。

【０８７１】

これらの各種コマンドの送信タイミングとして、始動口入賞コマンドは、始動口入賞時（第一始動口センサ４００２からの検出信号に基づいて第一始動口２００２に遊技球が入球した時や、第二始動口センサ４００４からの検出信号に基づいて第二始動口２００４に遊技球が入球した時）に、図５に示した下部スピーカ９２１及び図２に示した上部スピーカ５７３から主に音声でその旨を報知するために送信され、変動短縮作動終了指定コマンドは、規定回数の変動短縮を消化した変動確定後の停止期間終了時（はずれ停止期間経過後）に送信され、高確率終了指定コマンドは、「高確率Ｎ回」の場合の高確率回数を消化した変動確定後の停止期間終了時（はずれ停止期間経過後）に送信され、特別図柄１記憶コマンドは、特別図柄１作動保留球数変化時（第一始動口２００２に遊技球が入球して機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３で特別図柄の変動表示に未だ使用されていない保留数がある状態において、さらに第一始動口２００２に遊技球が入球して保留数が増加した時や、その保留数から第一特別図柄表示器１４０３で特別図柄の変動表示に使用してその保留数が減少した時）に送信され、特別図柄２記憶コマンドは、特別図柄２作動保留球数変化時（第二始動口２００４に遊技球が入球して機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示に未だ使用されていない保留数がある状態において、さらに第二始動口２００４に遊技球が入球して保留数が増加した時や、その保留数から第二特別図柄表示器１４０５で特別図柄の変動表示に使用してその保留数が減少した時）に送信され、普通図柄記憶コマンドは、普通図柄１作動保留球数変化時（ゲート部２００３を遊技球が通過して機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器１４０２で普通図柄の変動表示に未だ使用されていない保留数がある状態において、さらにゲート部２００３を遊技球が通過して保留数が増加した時や、その保留数から普通図柄表示器１４０２で普通図柄の変動表示に使用してその保留数が減少した時）に送信され、特別図柄１記憶先読み演出コマンドは、特別図柄１作動保留球数増加時（第一始動口２００２に遊技球が入球して保留数が増加した時）に送信され、特別図柄２記憶先読み演出コマンドは、特別図柄２作動保留球数増加時（第二始動口２００４に遊技球が入球して保留数が増加した時）に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理で送信される。

【０８７２】

ところで、始動口入賞コマンドは、上述したように、始動口入賞時（第一始動口センサ４００２からの検出信号に基づいて第一始動口２００２に遊技球が入球した時や、第二始動口センサ４００４からの検出信号に基づいて第二始動口２００４に遊技球が入球した時）に、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から主に音声でその旨を報知するために送信されるが、図７２に示した周辺制御基板１５１０が始動口入賞コマンドをどのように利用するかについては、パチンコ機の仕様によって異なる場合もある。例えば、本実施形態におけるパチンコ機１では、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音声で報知するほかに、不正行為の有無を監視するためにも利用するという仕様のものである。これに対して、他のパチンコ機では、周辺制御基板１５１０が始動口入賞コマンドを単に受信するだけで、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音声で報知しない仕様のものもある。

【０８７３】

［１３－３．主制御基板が受信する払出制御基板からの各種コマンド］

次に、主制御基板１３１０が受信する払出制御基板９５１からの各種コマンドについて

説明する。
【０８７４】
　払出制御基板９５１からの各種コマンドの区分には、図９１に示すように、枠状態１、エラー解除ナビ及び枠状態２という名称のコマンドから構成されており、枠状態１、エラー解除ナビ、そして枠状態２の順で優先順位が設定されている。
【０８７５】
　枠状態１コマンド（エラー発生コマンドに相当）には、球切れ、満タン、５０個以上のストック中、接続異常及びＣＲ未接続が用意されており、球切れではビット０（Ｂ０、「Ｂ」はビットを表す。）に値１がセットされ、満タンではビット１（Ｂ１）に値１がセットされ、５０個以上のストック中ではビット２（Ｂ２）に値１がセットされ、接続異常ではビット３（Ｂ３）に値１がセットされ、ＣＲ未接続ではビット４（Ｂ４）に値１がセットされる。枠状態１コマンドのビット５（Ｂ５）～ビット７（Ｂ７）には、Ｂ５に値１、Ｂ６に値０、そしてＢ７に値０がセットされている。
【０８７６】
　エラー解除ナビコマンド（エラー解除コマンドに相当）には、球がみ、払出検知センサエラー及びリトライエラーが用意されており、球がみではビット２（Ｂ２）に値１がセットされ、払出検知センサエラーではビット３（Ｂ３）に値１がセットされ、リトライエラーではビット４（Ｂ４）に値１がセットされる。ここで、「払出検知センサエラー」とは、図７０に示した払出検知センサ８４２の不具合が生じているか否かを示すものである。「リトライエラー」とは、リトライ動作によるつじつまの合わない遊技球の払い出しが繰り返し行われたことを示すものである。エラー解除ナビコマンドのビット（Ｂ０）、ビット（Ｂ１）、及びビット５（Ｂ５）～ビット７（Ｂ７）には、Ｂ０に値０、Ｂ１に値０、Ｂ５に値０、Ｂ６に値１、そしてＢ７に値０がセットされている。
【０８７７】
　枠状態２コマンドには、球抜き中が用意されており、球抜き中ではビット０（Ｂ０）に値１がセットされる。枠状態２コマンドのビット１（Ｂ１）～ビット７（Ｂ７）には、Ｂ１に値０、Ｂ２に値０、Ｂ３に値０、Ｂ４に値０、Ｂ５に値１、Ｂ６に値１、そしてＢ７に値０がセットされている。
【０８７８】
　これらの各種コマンドの送信タイミングとして、枠状態１コマンドは、電源復旧時、枠状態の変化時、及びエラー解除ナビ時に送信され、エラー解除ナビコマンドは、エラー解除ナビ時に送信され、枠状態２コマンドは、電源復旧時、及び枠状態の変化時に送信される。なお、これらの各種コマンドは、実際には後述する払出制御部電源投入時処理の払出制御部メイン処理におけるステップＳ５５８のコマンド送信処理で送信される。
【０８７９】
［１４．主制御基板の各種制御処理］
　次に、パチンコ機１の遊技の進行に応じて、図６９に示した主制御基板１３１０が行う各種制御処理について、図９２～図９４を参照して説明する。図９２は主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図９３は図９２の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図９４は主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。まず、遊技制御に用いられる各種乱数について説明し、続いて初期値更新型のカウンタの動き、主制御側電源投入時処理、主制御側タイマ割り込み処理について説明する。
【０８８０】
［１４－１．各種乱数］
　遊技制御に用いられる各種乱数として、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための大当り判定用乱数と、大当り遊技状態を発生させないときにリーチ（リーチはずれ）を発生させるか否かの決定に用いるためのリーチ判定用乱数と、図６９に示した、第一特別図柄表示器１４０３及び第二特別図柄表示器１４０５で変動表示される特別図柄の変動表示パターンの決定に用いるための変動表示パターン用乱数と、大当り遊技状態を

発生させるときに第一特別図柄表示器１４０３及び第二特別図柄表示器１４０５で導出表示される大当り図柄の決定に用いるための大当り図柄用乱数と、この大当り図柄用乱数の初期値の決定に用いるための大当り図柄用初期値決定用乱数、小当り遊技状態を発生させるときに第一特別図柄表示器１４０３及び第二特別図柄表示器１４０５で導出表示される小当り図柄の決定に用いるための小当り図柄用乱数、この小当り図柄用乱数の初期値の決定に用いるための小当り図柄用初期値決定用乱数等が用意されている。またこれらの乱数に加えて、図８に示した可動片を開閉動作させるか否かの決定に用いるための普通図柄当り判定用乱数と、この普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定用乱数と、図６９に示した普通図柄表示器１４０２で変動表示される普通図柄の変動表示パターンの決定に用いるための普通図柄変動表示パターン用乱数等が用意されている。

【０８８１】

このような遊技制御に用いられる各種乱数のうち、大当り判定用乱数はハードウェアにより更新されるものに対して、他の各種乱数はソフトウェアにより更新されるようになっている。

【０８８２】

例えば、大当り判定用乱数は、図６９に示した主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎによりハードウェアにより直接更新されるようになっている。この主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎは、上述したように、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号（図７７に示した主制御水晶発振器ＭＸ０から出力されるクロック信号）に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが繰り返し行い、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎから値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが抽出した値を大当り判定用乱数としてセットするようになっている。

【０８８３】

これに対して、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。このカウンタは、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定用乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数は更新される。このようなカウンタの更新方法を「初期値更新型のカウンタ」という。普通図柄当り判定用初期値決定用乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。

【０８８４】

なお、本実施形態では、図７０に示した払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が電源投入時に操作された場合や、後述する、主制御側電源投入時処理において図６９に示した主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技情報を数値とみなしてその合計を算出して得たチェックサムの値（サム値）が主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致していない場合など、主制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアする場合には、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数は、図６９に示した主制御ＭＰＵ１３１０ａがその内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新する

カウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を実行し、この導出した固定値がセットされる仕組みとなっている。つまり、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数は、初期値導出処理の実行によりＩＤコードに基づいて導出された同一の固定値が常に上書き更新されるようになっている。このように、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数にセットされる値は、ＩＤコードを利用して導出されており、主制御ＭＰＵ１３１０ａを製造したメーカによって主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭにＩＤコードを記憶させるとＩＤコードが外部装置を用いても書き換えられないという第１のセキュリティー対策と、主制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアする場合に初期値導出処理を実行することによってＩＤコードに基づいて同一の固定値を導出するという第２のセキュリティー対策と、による２段階のセキュリティー対策が講じられることよって解析されるのを防止している。

【０８８５】

ここで、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードを普通図柄当り判定用初期値決定用乱数として用いる利点について説明する。例えば、賞球として払い出される遊技球を不正に獲得しようとする者が何らかの方法で遊技盤５を入手して分解し、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードを不正に取得し、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングを把握することができたとしても、そのＩＤコードが個体を識別するためのユニークな符号が付されたものであるため、他の遊技盤５'に備える主制御ＭＰＵ１３１０ａ'に内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードとまったく異なるものとなる。つまり他の遊技盤５'においては、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングも、入手した遊技盤５のものとまったく異なる。換言すると、入手した遊技盤５を分解して解析して得たＩＤコードは、他の遊技盤５'、つまり他のパチンコ機１'において、まったく役に立たないものであるため、分解して解析した得た所定間隔ごとに瞬停を発生させ、その所定間隔ごとに、図８に示したゲート部２００３に遊技球を通過させたとしても、図８に示した可動片を開閉動作させて第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態を発生させることができない。

【０８８６】

［１４－２．主制御側電源投入時処理］

まず、パチンコ機１に電源が投入されると、デフォルトとして予め定めたアドレスにスタックポインタが設定されるように主制御ＭＰＵ１３１０ａが回路構成されている。
このスタックポインタは、例えば、使用中の記憶素子（レジスタ）の内容を一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したり、サブルーチンを終了して本ルーチンに復帰するときの本ルーチンの復帰アドレスを一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したりするものであり、スタックが積まれるごとにスタックポインタが進む。

【０８８７】

そして上述したメイン制御プログラムが、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる制御の下、図９２及び図９３に示すように、主制御側電源投入時処理を行う。この主制御側電源投入時処理が開始されると、メイン制御プログラムは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御の下、ＲＡＭアクセス許可の設定を行う（ステップＳ１０）。このＲＡＭアクセス許可の設定により主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部）に対する更新を行うことができる。

【０８８８】

ステップＳ１０に続いて、メイン制御プログラムは、図６９に示した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆの初期値設定及び起動設定を行う（ステップＳ１２）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視する主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆに初期値を設定するために主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるウオッチドックタイマコントロールレジスタ（以下、「ＷＤＴコントロールレジスタ」と記載する。）にタイマ設定値を設定して主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆを起動させて主制御ＭＰＵ

１３１０ａをリセットするまでの計時を開始する。主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆが起動すると、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時が開始され、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでに、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるウオッチドックタイマクリアレジスタ（以下、「ＷＤＴクリアレジスタ」と記載する。）にタイマクリア設定値をセットしないと、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされるようになっている。これに対して、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆが起動して計時が開始されると、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでにＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすると、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時がクリアされて、再び計時が開始されるようになっている。このように、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時をタイマ設定値で設定された時間に達するまでにクリアして再び計時を開始するという処理を繰り返し行うことにより主制御ＭＰＵ１３１０ａの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視することができる。

【０８８９】

ステップＳ１２に続いて、メイン制御プログラムは、停電クリア処理を行う（ステップＳ１４）。この電電クリア処理では、まず、図７８に示した停電監視回路１３１０ｅに停電クリア信号の出力を開始する。この停電監視回路１３１０ｅは、電圧比較回路であるコンパレータＭＩＣ２１と、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２と、から構成されている。電圧比較回路であるコンパレータＭＩＣ２１は、＋２４Ｖとリファレンス電圧との電圧を比較したり、＋１２Ｖとリファレンス電圧との電圧を比較したりすることで、その比較結果を出力する。この比較結果は、停電又は瞬停が発生していない場合ではその論理がＨＩとなってＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力される一方、停電又は瞬停が発生した場合ではその論理がＬＯＷとなってＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力されるようになっている。

【０８９０】

電電クリア処理では、まず停電監視回路１３１０ｅに停電クリア信号の出力を開始することにより、このＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のクリア端子であるＣＬＲ端子に停電クリア信号の出力を開始する。この停電クリア信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの出力端子からその論理をＬＯＷとして、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａを介して、Ｄタイプフリップフロップ ＩＣのクリア端子であるＣＬＲ端子に入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のラッチ状態を解除することができ、ラッチ状態をセットするまでの間、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２のプリセット端子であるＰＲ端子に入力された論理を反転して出力端子である１Ｑ端子から出力する状態とすることができ、その１Ｑ端子からの信号を監視することができる。

【０８９１】

続いて、電電クリア処理では、ウェイトタイマ処理を行い、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。電源投入時から所定電圧となるまでの間では電圧がすぐに上がらない。一方、停電又は瞬停（電力の供給が一時停止する現象）となるときでは電圧が下がり、停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路１３１０ｅから停電予告として停電予告信号が入力される。電源投入時から所定電圧に上がるまでの間では同様に電圧が停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路１３１０ｅから停電予告信号が入力される。そこで、ウェイトタイマ処理では、電源投入後、電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待つための処理であり、本実施形態では、待ち時間（ウェイトタイマ）として２００ミリ秒（ｍｓ）が設定されている。停電予告信号が入力されているか否かの判定では、停電予告信号として、上述したＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２の出力端子である１Ｑ端子から出力されている信号に基づいて行う。

【０８９２】

電源投入後に電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待っても停電予告信号の入力がなかったときには、メイン制御プログラムは、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ

２２のクリア端子であるＣＬＲ端子に停電クリア信号の出力を停止する。ここでは、停電クリア信号は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの出力端子からその論理をＨＩとして、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａを介して、Ｄタイプフリップフロップ ＩＣのクリア端子であるＣＬＲ端子に入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２をラッチ状態にセットすることができる。Ｄタイプフリップフロップ ＭＩＣ２２は、そのプリセット端子であるＰＲ端子に論理がＬＯＷとなって入力された状態をラッチすると、出力端子である１Ｑ端子から停電予告信号を出力する。

【０８９３】

ステップＳ１４に続いて、メイン制御プログラムは、電源投入時から所定時間に亘って主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部）の初期化を行うＲＡＭクリア処理を実行可能な状態とする（遊技側電源投入時操作制御手段）。具体的には、メイン制御プログラムは、まず、図７０に示した払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されているか否かを判定する（ステップＳ１６）。この判定では、メイン制御プログラムが、払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されたことに伴う操作信号（検出信号）に基づくエラー解除ナビコマンド（第１のエラー解除コマンド）が主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されているか否かにより行う。メイン制御プログラムは、その操作信号の論理値に基づいて、操作スイッチ９５４からの操作信号の論理値がＨＩであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものではないと判断して操作スイッチ９５４が操作されていないと判定する一方、操作スイッチ９５４からの操作信号の論理値がＬＯＷであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断して操作スイッチ９５４が操作されていると判定する。

【０８９４】

ステップＳ１６において、メイン制御プログラムは、上記操作スイッチ９５４が操作されているときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１８）。一方、メイン制御プログラムは、ステップＳ１６で操作スイッチ９５４が操作されていないときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ２０）。即ち、メイン制御プログラムは、電源投入時から所定時間に亘って、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部））の初期化を行うＲＡＭクリア処理を実行可能な状態とする（遊技制御側電源投入時操作制御手段）。上述したＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部）に記憶されている、確率変動、未払い出し賞球等の遊技に関する遊技情報を消去するか否かを示すフラグであり、遊技情報を消去するとき値１、遊技情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ１８及びステップＳ２０でセットされたＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。

【０８９５】

ステップＳ１８又はステップＳ２０に続いて、メイン制御プログラムは、ウェイト時間待機処理を行う（ステップＳ２２）。このウェイト時間待機処理では、図７２に示した、周辺制御基板１５１０の液晶表示制御部１５１２による遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）まで待っている。本実施形態では、ブートするまでの待機時間（ブートタイマ）として２．５秒（ｓ）が設定されている。

【０８９６】

ステップＳ２２に続いて、メイン制御プログラムは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ２４）。上述したように、パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路１３１０ｅから入力される。ステップＳ２４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。ステップＳ２４の判定で停電予告信号の入力があるときには、メイン制御プログラムは、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行う。これにより、ステップＳ１２に

おいて起動した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆに対して主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされることとなる。その後メイン制御プログラムが、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる制御の下、この主制御側電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ２４の判定がステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行われる点についての詳細な説明を後述する。

【０８９７】

ステップＳ２４の判定で停電予告信号の入力がないときには、メイン制御プログラムは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０である否かを判定する（ステップＳ２６）。上述したように、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧは、遊技情報を消去するとき値１、遊技情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。ステップＳ２６でＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり遊技情報を消去しないときには、チェックサムの算出を行う（ステップＳ２８）。このチェックサムは、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技情報を数値とみなしてその合計を算出するものである。

【０８９８】

ステップＳ２８に続いて、メイン制御プログラムは、算出したチェックサムの値（サム値）が後述する主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致しているか否かを判定する（ステップＳ３０）。一致しているときには、このメイン制御プログラムは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ３２）。このバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧは、遊技情報、チェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値等の遊技バックアップ情報を後述する主制御側電源断時処理において主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、主制御側電源断時処理を正常に終了したとき値１、主制御側電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。なお、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２８のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、についての詳細な説明を後述する。

【０８９９】

ステップＳ３２でバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了したときには、メイン制御プログラムは、復電時として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ３４）。この設定は、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されたＲＯＭ（つまり、主制御内蔵ＲＯＭ）から復電時情報を読み出し、この復電時情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットする。これにより、遊技バックアップ情報から遊技情報を読み出してこの遊技情報に応じた各種コマンドを主制御内蔵ＲＡＭの所定記憶領域に記憶する。なお、「復電」とは、電源を遮断した状態から電源を投入した状態のほかに、停電又は瞬停からその後の電力の復旧した状態、不正手段（例えば、不正行為者が腕の裾に隠した高周波出力装置）からの高周波が主制御基板１３１０に照射されて主制御ＭＰＵ１３１０ａ自体がリセットし、その後に復帰した状態も含める。

【０９００】

ステップＳ３４に続いて、メイン制御プログラムは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ３６）。これにより、これ以後の各種処理が行われることにより遊技情報、チェックサムの値（サム値）等が変更されるため、後述する主制御側電源断時処理を正常に終了してバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１がセットされないと、後述するように、主制御内蔵ＲＡＭの全領域がクリアされることとなる。

【０９０１】

一方、ステップＳ２６でＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり遊技情報を消去するときには、或いはステップＳ３０でチェックサムの値（サム値）が一致していないときには、又はステップＳ３２でバックアップフラグＢ

Ｋ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないときには、メイン制御プログラムは、主制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアする（ステップＳ３８）。即ち、メイン制御プログラムは、上述した操作スイッチ９５４の操作に伴う検出信号の入力を契機として遊技制御側ＲＡＭクリア処理を実行している（払出制御側電源投入時操作制御手段）。具体的には、メイン制御プログラムは、値０を主制御内蔵ＲＡＭに書き込むことよって行う。なお、その代わりに、メイン制御プログラムは、初期値として主制御内蔵ＲＯＭから所定値を読み出して、セットしてもよい。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、操作スイッチ９５４からの操作信号の論理値がＲＡＭクリアを指示するもので遊技情報を消去するとき、サム値が一致していないとき、又は主制御側電源断時処理を正常に終了していないときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａの不揮発性のＲＡＭに予め記憶された固有のＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を行い、この固定値を、上述した普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定用乱数にセットする。

【０９０２】

ステップＳ３８に続いて、メイン制御プログラムは、初期設定として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ４０）。この設定は、主制御内蔵ＲＯＭから初期情報を読み出してこの初期情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされることにより実施される。

【０９０３】

ステップＳ３６又はステップＳ４０に続いて、メイン制御プログラムは、割り込み初期設定を行う（ステップＳ４２）。この設定は、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるときの割り込み周期を設定するものである。本実施形態では、４ミリ秒（ｍｓ）に設定されている。

【０９０４】

ステップＳ４２に続いて、メイン制御プログラムは、シリアル通信初期設定を行う（ステップＳ４４）。ここでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される各種シリアル入出力ポート（例えば、払出制御基板９５１に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）、周辺制御基板１５１０に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）に対応する、送信シリアルポートプリスケーラに通信速度の設定やパリティ有無の設定等を行うとともに、送信シリアルポートコントロールレジスタに送信回路の初期化の設定や送信許可の設定等を行う。

【０９０５】

ステップＳ４４に続いて、メイン制御プログラムは、試験信号出力ポート初期化設定を行う（ステップＳ４６）。ここでは、遊技機の試験機関において、各種検査情報を出力するための図示しない試験信号出力ポートを、電源投入時に初期化設定（ＯＦＦデータ出力に設定）等を行う。

【０９０６】

ステップＳ４６に続いて、メイン制御プログラムは、図６９に示した主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎの起動設定を行う（ステップＳ４８）。ここでは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための大当り判定用乱数を、ハードウェアにより更新するために主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される、ハード乱数コントロールレジスタに乱数をラッチして取得するという設定等を行うとともに、ハード乱数設定レジスタに主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎの起動等を設定する。これらの設定により主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが起動すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号（図７７に示した主制御水晶発振器ＭＸ０から出力されるクロック信号）に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することな

く次々に抽出する。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎから乱数（乱数値）を取得するときには、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎにラッチ信号を出力し、このラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが抽出した乱数（乱数値）を、主制御内蔵主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得するようになっている。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、この取得した乱数値を大当り判定用乱数としてセットする。

【０９０７】

ステップＳ４８に続いて、メイン制御プログラムは、電源投入時に送信するコマンドの予約設定を行う（ステップＳ５０）。ここでは、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から遊技情報を読み出してこの遊技情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとが送信されることとなる。これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。なお、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点についての詳細な説明を後述する。

【０９０８】

ステップＳ５０に続いて、メイン制御プログラムは、割り込み許可設定を行う（ステップＳ５２）。この設定によりステップＳ４２で設定した割り込み周期、つまり４ｍｓごとに後述する主制御側タイマ割り込み処理が繰り返し行われる。

【０９０９】

ステップＳ５２に続いて、メイン制御プログラムは、電源投入時から所定時間を経過すると、つまり、主制御側メイン処理が開始されると、操作スイッチ９５４（操作スイッチ）の操作に伴うエラー解除ナビコマンドの受け取りを契機とした遊技制御側ＲＡＭクリア処理の実行を規制することとなる（通常時操作制御手段）。以上のように、メイン制御プログラムは、操作スイッチ９５４の操作に伴って入力される検出信号を、タイムシェアリングの概念により、上述のように電源投入時から所定時間に亘ってエラー解除ナビコマンドの入力を契機としてＲＡＭクリア処理を実行させたり（遊技制御側電源投入時操作制御手段）、当該所定時間の経過後は当該エラー解除ナビコマンドの入力があってもＲＡＭクリア処理の実行を規制し（遊技制御側通常時操作制御手段）、発生したエラーに伴うエラー報知を解除するための解除スイッチとして取り扱っている。つまり、本来、払出動作に関して発生したエラーを解除するために使用されるはずであった操作スイッチ９５４（エラー解除部）を、電源投入時から所定時間に亘って、その代わりに、遊技記憶部としての主制御内蔵ＲＡＭ（及び後述する払出記憶部としての払出制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を開始させるためのＲＡＭクリア処理を実行するための操作部として機能させたり、当該所定時間の経過後に、遊技球の払出動作に関して発生したエラーを解除するための操作部として機能させることができるようになっている。

【０９１０】

次にメイン制御プログラムは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５４）。上述したように、パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路１３１０ｅから入力される。ステップＳ５４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。

【０９１１】

ステップＳ５４で停電予告信号の入力がないときには、メイン制御プログラムは非当落乱数更新処理を行う（ステップＳ５６）。この非当落乱数更新処理では、上述した、リー

チ判定用乱数、変動表示パターン用乱数、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数等を更新する。このように、非当落乱数更新処理では、当落判定（大当り判定）にかかわらない乱数をソフトウェアにより更新する。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数及び普通図柄変動表示パターン用乱数等もこの非当落乱数更新処理により更新される。

【０９１２】

ステップＳ５６に続いて、再びステップＳ５４に戻り、メイン制御プログラムは、停電予告信号の入力があるか否かを判定し、この停電予告信号の入力がなければ、ステップＳ５６で非当落乱数更新処理を行い、ステップＳ５４～ステップＳ５６を繰り返し行う。なお、このステップＳ５４～ステップＳ５６の処理を「主制御側メイン処理」という。

【０９１３】

一方、ステップＳ５４で停電予告信号の入力があったときには、メイン制御プログラムは、割り込み禁止設定を行う（ステップＳ５８）。この設定により後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われなくなり、主制御内蔵ＲＡＭへの書き込みを防ぎ、遊技情報の書き換えを保護している。

【０９１４】

ステップＳ５８に続いて、メイン制御プログラムは、停電クリア信号を出力開始する（ステップＳ６０）。ここでは、ステップＳ１４の停電クリア処理において停電クリア信号を出力開始した処理と同一の処理を行う。これにより、メイン制御プログラムは、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御の下、ＤタイプフリップフロップＭＩＣ２２のラッチ状態を解除することができる。

【０９１５】

ステップＳ６０に続いて、メイン制御プログラムは、図６９に示した、始動口ソレノイド２１０７、アタッカソレノイド２１０８、第一特別図柄表示器１４０３、第二特別図柄表示器１４０５、第一特別保留数表示器１４０４、第二特別保留数表示器１４０６、普通図柄表示器１４０２、普通図柄記憶表示器１１８８、状態表示器１４０１、ラウンド表示器１４０７等に出力している駆動信号を停止する（ステップＳ６２）。

【０９１６】

ステップＳ６２に続いて、メイン制御プログラムは、チェックサムの算出を行ってこの算出した値を記憶する（ステップＳ６４）。このチェックサムは、上述したチェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値の記憶領域を除く、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の遊技情報を数値とみなしてその合計を算出する。

【０９１７】

ステップＳ６４に続いて、メイン制御プログラムは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ６６）。これにより、遊技バックアップ情報の記憶が完了する。

【０９１８】

ステップＳ６６に続いて、メイン制御プログラムは、ＲＡＭアクセス禁止の設定を行う（ステップＳ６８）。このＲＡＭアクセス禁止の設定により主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部）に対するアクセスが行うことができなくなることよって主制御内蔵ＲＡＭ（遊技記憶部）の内容の更新を防止することができる。

【０９１９】

ステップＳ６８に続いて、無限ループに入る。この無限ループでは、ステップＳ１２において起動した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆに対して主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされることとなる。その後メイン制御プログラムが、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによる制御の下、この主制御側電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループを「主制御側電源断時処理」という。

【０９２０】
パチンコ機１（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）は、停電したとき又は瞬停したときにはリセットがかかり、その後の電力の復旧により主制御側電源投入時処理を行う。
【０９２１】
なお、ステップＳ３０では主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報が正常なものであるか否かを検査し、続いてステップＳ３２では主制御側電源断時処理が正常に終了された否かを検査している。このように、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報を２重にチェックすることにより遊技バックアップ情報が不正行為により記憶されたものであるか否かを検査している。
【０９２２】
ここで、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定をステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行う点について説明する。まず、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定がない場合における問題点について、つまりステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いてステップＳ２６のＲＡＭクリアフラグの値の判定を行ってその後の処理をすすめる場合における問題点について説明する。
【０９２３】
主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された場合に、図７７に示した電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっている。つまり、瞬停や停電によりパチンコ島設備からの電源が遮断された状態であっても、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が＋５Ｖとして印加されることにより、パチンコ島設備からの電源が遮断されてから約７ｍｓという時間が経過するまでの期間内に、主制御側電源断時処理を完了することができるようになっている。これは、遊技者が遊技を行っている際に、つまり、主制御側メイン処理又は後述する主制御側タイマ割り込み処理を行っている際に、停電又は瞬停が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された場合において、主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。
【０９２４】
ところが、極めて稀な現象として、復電時にステップＳ２２のウェイト時間待機処理において、図７２に示した、周辺制御基板１５１０の液晶表示制御部１５１２による遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）までの待機時間（ブートタイマ：本実施形態では、２．５秒が設定されている。）を計時開始し、その待機時間に達する直前で、仮に瞬停又は停電が発生すると、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が＋５Ｖとして印加されるものの、約７ｍｓという期間内に、ステップＳ４２で割り込み初期設定が行われ、その後、ステップＳ５２で割り込み許可設定が行われることにより、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われて、主制御内蔵ＲＡＭの内容が更新されても、主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を完了することができなくなる場合がある。このため、主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づく、チェックサムを算出した値が記憶されることなく再び復電時に主制御側電源投入時処理を開始することとなる。
【０９２５】
そうすると、今回の復電時において主制御側電源投入時処理を開始して、瞬停や停電が発生することなく、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を完了し、その後、ステップＳ２８で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出した値と、瞬停又は停電が発生した直前における主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている値と、をステップＳ３０で比較判定すると、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアすることなる。換言すると、復電時に操作スイッチ９５４がホールの店員等により操作されてＲＡＭクリアというホールの店員等による意思表示がなくても、強制的に主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている情報を消去（クリア）することとなるという

問題がある。
【０９２６】
そこで、本実施形態では、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うようになっている。これにより、ステップＳ１２において起動した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆに対して主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットさせることができるようになっている。ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を行う前に、ステップＳ１８又はステップＳ２０においてＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値が設定されるものの、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、上述したように、主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶されるため、ステップＳ１０でＲＡＭアクセス許可の設定が行われていても、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が全く変更されない。
【０９２７】
このように、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されるとステップＳ２４の判定により判定されたときには）、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａを強制的にリセットして主制御基板１３１０を再起動することができるようになっているため、遊技の進行を行うことができず、遊技情報が更新されることを防止することができ、チェックサムの算出結果に変動が生ずることがないようになっている。これにより、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、再起動した際に、ステップＳ２８のチェックサムの算出結果と、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。したがって、復電時において、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報が初期化されることを防止することができる。
【０９２８】
また、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップ２４として設けて、停電予告信号が入力されていないときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されないとステップＳ２４の判定により判別されたときには）、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断されても、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に、図７７に示した電解コンデンサＭＣ２による電源の供給により、この遊技の進行による遊技情報を記憶するためのバックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが完了することができるようになっているため、主制御ＭＰＵ１３１０ａの主制御ＭＰＵ１３１０ａは、再起動した際に、ステップＳ２８のチェックサムの算出結果と、バックアップ処理においてチェックサムの算出結果（つまり、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値）と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。つまり、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報に復元されて主制御基板１３１０を起動することができるようになっている。
【０９２９】
更に、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信

号が入力されていると判定したときには主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットさせることで主制御内蔵ＲＡＭの内容を全く更新することなく再び主制御側電源断時処理を開始することができる一方、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信号が入力されていないと判定したときにはこれまで通りハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は停電時電源確保期間」以内に主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。つまり、本実施形態では、復電時に主制御側電源投入時処理を行っている際に瞬停や停電が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された場合であって、主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子に、図７７に示した電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って＋５Ｖとして印加されるようになっているため、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は電源確保期間」内において主制御側電源断時処理を完了することができない場合においては、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後におけるステップ２４で停電予告信号が入力されているか否かの判定を行い、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、ステップＳ１２において起動した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆに対して主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットさせることができるようになっている。このようなソフトウェアによる主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされることでステップＳ２４より後のステップ（具体的には、ステップＳ４２で割り込み初期設定を行って、その後に、ステップＳ５２で割り込み許可を設定して後述する主制御側タイマ割り込み処理を開始するという制御フロー）への進行を阻止することで主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が更新されることを回避することができるという仕組みを採用した。このように停電又は瞬停が発生してパチンコ島設備からの電源が遮断された際に、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が全く変更されないようにソフトウェアで賄う部分と、主制御側電源断時処理を確実に完了して主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が全く変更されないようにハードウェアで賄う部分と、に２つに分けて構成することにより、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が変更されることを確実に防止することができるようになっている。

【０９３０】

次に、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点について説明する。ステップＳ５０では、上述したように、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。この電源投入時主制御復帰先コマンドは、上述したように、始動口ソレノイド２１０７の駆動状態を指示する情報と、図６９に示したアタッカソレノイド２１０８の駆動状態を指示する情報と、主として構成されている。ここでは、まず電源投入時主制御復帰先コマンドに、始動口ソレノイド２１０７の駆動状態を指示する情報と、図６９に示したアタッカソレノイド２１０８の駆動状態を指示する情報と、が含まれていない場合における問題点、つまり、ステップＳ５０において電源投入時主制御復帰先コマンドが電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われない場合における問題点について説明する。

【０９３１】

例えば、周辺制御基板１５１０が大当り遊技状態の画面（例えば、大当り遊技演出の画面）を図８に示した遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示制御している際に、主制御基板１３１０がアタッカソレノイド２１０８を駆動して図８に示した大入賞口２００５が開閉部材２１０７により開放されているときに瞬停や停電が発生して、その後に復

電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、アタッカソレノイド２１０８の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材２１０７により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行することとなる。

【０９３２】

ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として大当り遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、大当り遊技状態のどのラウンドであるか全く表示することができない。つまり、例えば大入賞口２００５に遊技球が入球して図６９に示したカウントセンサ４００５によって検出され、大入賞口２００５に入球した遊技球の球数を伝える大入賞口１カウント表示コマンドを主制御基板１３１０が周辺制御基板１５１０に送信して周辺制御基板１５１０が受信したとしても、周辺制御基板１５１０は、確率及び時短状態に応じて画面に大入賞口２００５に入球した遊技球の球数が遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示することができても、大当り遊技状態のどのラウンド（つまり、何回目のラウンド）であるか全く表示することができない。

【０９３３】

このような状況において、主制御基板１３１０は、例えば大当り遊技状態の４ラウンド（４回目のラウンド）を終了するときには、アタッカソレノイド２１０８の駆動を停止して大入賞口２００５が開閉部材２１０７により開放されている状態から閉鎖されている状態へ移行する旨（つまり、始動口ユニット２１００の大入賞口２００５のラウンド間の閉鎖開始）を指示する大入賞口１閉鎖表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に送信し、主制御基板１３１０が大当り遊技状態の５ラウンド（５回目のラウンド）を開始するときには、アタッカソレノイド２１０８の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材２１０７により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨（つまり、大入賞口２００５の５回目のラウンドの開放開始）を指示する大入賞口開放５回目表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信する。これにより、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の５ラウンドの開始という画面を、上述した確率及び時短状態に応じた画面からようやく切り替えて遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示することととなる。

【０９３４】

また、例えば、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面（例えば、可動片が拡開されている旨を遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示制御している際に、主制御基板１３１０が始動口ソレノイド２１０７を駆動して図８に示した一対の可動片を左右方向へ拡開させた状態となっているときに瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、始動口ソレノイド２１０７の駆動を開始して一対の可動片が略垂直に立上った状態から左右方向へ拡開させた状態へ移行することとなる。

【０９３５】

ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停

電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面を周辺制御基板１５１０が遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に全く表示することができない。このため、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生したことに驚いて、復電時において、瞬停や停電が発生する直前における第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態であることを忘れている場合もあり、このような場合には、復電時における遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態に復帰されているにもかかわらず、復電時に遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に遊技を指示する画面（つまり、第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示する画面）が表示されないことにより、遊技者がどのような遊技を行えば分からなくなるという問題もあった。

【０９３６】

このように、上述した２つ例においては、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができないという問題があった。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いするという問題があった。

【０９３７】

そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。

【０９３８】

これにより、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとに基づいて、例えば、上述した例では、大当り遊技状態の４ラウンドにおいて、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、アタッカソレノイド２１０８の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材２１０７により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨を周辺制御基板１５１０に伝えることができるため、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の４ラウンドである旨を特定した画面（つまり、何回目のラウンドであるかを示す画面）を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示することができないものの、大当り遊技状態であってアタッカソレノイド２１０８の駆動を開始して大入賞口２００５が開閉部材２１０７により開放されている状態である旨を伝える画面（例えば、「大当りです。大入賞口が開放されています。大入賞口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において大入賞口２００５に遊技球を入球させるという遊技を指示することができるし、また例えば、上述した例では、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている状態において、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、始動口ソレノイド２１０７の駆動を開始して一対の可動片を左右方向へ拡開させた状態となっている旨を伝える画面（例えば、「可動片を拡開さ

せています。下始動口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示することができる。これにより、瞬停や停電が発して、その後に復電する際に、周辺制御基板１５１０の復帰先を主制御基板１３１０側で細かく指示することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができる。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いすることを防止することができる。

【０９３９】

次に、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２８のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、について説明する。主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述した、バックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、一度も実行していない状態であるため、ステップＳ２８で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出しても、ステップＳ３０で比較判定において、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域を必ずクリアすることなる。これにより、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドという２つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となる。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において、まず電源投入時状態コマンドが送信され、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドが送信されるようになっている。これを利用して、主制御基板検査工程においては、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、主制御基板１３１０から最初のコマンドとして電源投入時状態コマンドが主制御基板検査工程の検査装置へ送信されることとなる。

【０９４０】

ところで、電源投入時状態コマンドは、上述したように、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、図７０に示した払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されてＲＡＭクリアを行う場合にその旨を指示する情報と、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、上述した、低確率時短状態、高確率時短状態、低確率非時短状態、及び高確率非時短状態のうち、いずれの状態（確率及び時短状態）で復帰するかを指示する情報と、パチンコ機の機種コードを示す情報と、から構成されている。ここでは、電源投入時状態コマンドにパチンコ機の機種コードを示す情報が含まれていない場合における問題点について説明する。

【０９４１】

パチンコ機の機種コードは、上述したように、パチンコ機１（正確には、主制御基板１３１０）として、いわゆる、マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプをそれぞれ作成するときに、どの作品の版権に対するものであるのか、どのような遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定（例えば、３０回や７０回）された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（いわゆる、ＳＴ機）など））であるのか、を特定することができるものである。

【０９４２】

パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいては、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在する場合がある。そうすると、製造ラインの作業者は、複数種類の作品の版権（例えば、映画Ａ、映画Ｂ、ドラマＣ、映画Ｄ、漫画Ｅ、及び漫画Ｆという作品の版権）のうち、どの作品の版権に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているのか分からなくなったり、複数種類の作品の版権のうち、一の版権（例えば、映画Ｄという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているにもかかわらず、他の版権（例えば、漫画Ｆという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているという思い込みや勘違いもある。このため、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、製造ラインの作業者は、製造ラインで製造した主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを確認することができないし、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを確認することもできない。これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在したまま、遊技盤５に主制御基板１３１０を取り付けるための遊技盤組立ラインへ送られることとなる。このため、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付ける場合もあった。これにより、結果として、遊技盤５の生産効率が低下するという問題があった。

【０９４３】

そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、パチンコ機の機種コードを示す情報を含む電源投入時状態コマンドを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。

【０９４４】

これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインの作業者は、製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、主制御基板１３１０を電源投入することにより、検査装置が主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、検査モニタに表示する詳細な機種情報を目視することにより、主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを判別することができるとともに、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを判別することもできるようになっている。これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在しても、製造ラインの主制御基板検査工程の作業者は、検査モニタを目視して主制御基板１３１０の機種タイプ、作品

の版権、及び遊技仕様を正確に判別することができることによって、作品の版権に対する主制御基板１３１０ごとに分別して後続の遊技盤組立ラインへ送ることができる。そして、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応する主制御基板１３１０を遊技盤５に確実に取り付けることができ、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付けるという作業によって生ずる遊技盤５の生産効率の低下を防止することができる。したがって、遊技盤５の生産効率の向上に寄与することができる。

【０９４５】

［１４－３．主制御側タイマ割り込み処理］

次に、主制御側タイマ割り込み処理について説明する。この主制御側タイマ割り込み処理は、図９２及び図９３に示した主制御側電源投入時処理において設定された割り込み周期（本実施形態では、４ｍｓ）ごとに繰り返し行われる。

【０９４６】

主制御側タイマ割り込み処理が開始されると、主制御基板１３１０では、メイン制御プログラムが、主制御ＭＰＵ１３１０ａの制御の下、図９４に示すように、レジスタバンクの切替を行う（ステップＳ１００）。主制御ＭＰＵ１３１０ａの汎用記憶素子（汎用レジスタ）には、第１のレジスタバンクと第２のレジスタバンクとから構成される２つのレジスタバンクがある。第１のレジスタバンクは上述した主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用される一方、第のレジスタバンクは本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において使用される。ステップＳ１００では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において第２のレジスタバンクを使用するため、主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用されている第１のレジスタバンクから第２のレジスタタンクへのレジスタバンクの切り替えを行う。なお、本実施形態では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理が開始されるときに、各レジスタをスタックに退避する処理は必要ないようになっている。

【０９４７】

ステップＳ１００に続いて、メイン制御プログラムは、タイマ減算処理を行う（ステップＳ１０２）。このタイマ減算処理では、例えば、後述する特別図柄及び特別電動役物制御処理で決定される変動表示パターンに従って第一特別図柄表示器１４０３及び第二特別図柄表示器１４０５が点灯する時間、後述する普通図柄及び普通電動役物制御処理で決定される普通図柄変動表示パターンに従って普通図柄表示器１４０２が点灯する時間のほかに、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）が送信した各種コマンドを払出制御基板９５１が正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が入力されているか否かを判定する際にその判定条件として設定されているＡＣＫ信号入力判定時間等の時間管理を行う。具体的には、変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間が５秒間であるときには、タイマ割り込み周期が４ｍｓに設定されているので、このタイマ減算処理を行うごとに変動時間を４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることで変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間を正確に計っている。

【０９４８】

本実施形態では、ＡＣＫ信号入力判定時間が１００ｍｓに設定されている。このタイマ減算処理を行うごとにＡＣＫ信号入力判定時間が４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることでＡＣＫ信号入力判定時間を正確に計っている。なお、これらの各種時間及びＡＣＫ信号入力判定時間は、時間管理情報として主制御内蔵ＲＡＭの時間管理情報記憶領域に記憶される。

【０９４９】

ステップＳ１０２に続いて、メイン制御プログラムは、スイッチ入力処理を行う（ステップＳ１０４）。このスイッチ入力処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種入力ポートの入力端子に入力されている各種信号を読み取り、入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。具体的には、このメイン制御プログラムは、例えば、図８に示した一般入賞口２００１，２２０１に入球した遊技球を検出する図６９に示した一般入

賞口センサ４０２０，４０２０からの検出信号、図８に示した大入賞口２００５に入球した遊技球を検出する図６９に示したカウントセンサ４００５からの検出信号、図８に示した第一始動口２００２に入球した遊技球を検出する図６９に示した第一始動口センサ４００２からの検出信号、図８に示した第二始動口２００４に入球した遊技球を検出する図６９に示した第二始動口センサ４００４からの検出信号、図８に示したゲート部２００３を通過した遊技球を検出する図６９に示したゲートセンサ４００３からの検出信号、図６９に示した磁石を用いた不正行為を検出する磁気検出センサ４０２４からの検出信号や後述する賞球制御処理で送信した賞球コマンドを図６９に示した払出制御基板９５１が正常に受信した旨を伝える払出制御基板９５１からの払主ＡＣＫ信号、をそれぞれ読み取り、入力情報として入力情報記憶領域に記憶する。また、第一始動口２００２に入球した遊技球を検出する第一始動口センサ４００２からの検出信号、第二始動口２００４に入球した遊技球を検出する第二始動口センサ４００４からの検出信号をそれぞれ読み取ると、これと対応する図９０に示したその他に区分される始動口入賞コマンドを送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。つまり、第一始動口センサ４００２からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として送信情報記憶領域に記憶されるし、第二始動口センサ４００４からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として送信情報記憶領域に記憶されるようになっている。

【０９５０】

なお、本実施形態では、一般入賞口２００１，２２０１に入球した遊技球を検出する一般入賞口センサ４０２０，４０２０からの検出信号、大入賞口２００５に入球した遊技球を検出するカウントセンサ４００５からの検出信号、第一始動口２００２に入球した遊技球を検出する第一始動口センサ４００２からの検出信号、第二始動口２００４に入球した遊技球を検出する第二始動口センサ４００４からの検出信号、及びゲート部２００３を通過した遊技球を検出するゲートセンサ４００３からの検出信号は、このスイッチ入力処理が開始されると、まず１回目としてそれぞれ読み取られ、所定時間（例えば、１０μｓ）経過した後、２回目としてそれぞれ再び読み取られる。そして、この２回目に読み取られた結果と、１回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを判定する。同結果でないものについては、さらに、３回目として再び読み取られ、この３回目に読み取られた結果と、２回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果でないものについては、さらに、４回目として再び読み取られ、この４回目に読み取られた結果と、３回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果とならいものについては、遊技球の入球がないものとして扱う。

【０９５１】

このように、スイッチ入力処理では、メイン制御プログラムが、一般入賞口センサ４０２０，４０２０、カウントセンサ４００５、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ４００３からの検出信号を、１回目～３回目に亘って比較する２度読み取りと、２回目～４回目に亘って比較する２度読み込みと、による計２回の２度読み取りを行うことによって、チャタリングやノイズ等の影響による誤検出を回避することができるようになっているため、一般入賞口センサ４０２０，４０２０、カウントセンサ４００５、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ４００３からの検出信号の信頼性を高めることができる。

【０９５２】

ステップＳ１０４に続いて、メイン制御プログラムは、当落乱数更新処理を行う（ステップＳ１０６）。この当落乱数更新処理では、上述した、大当り図柄用乱数、及び小当り図柄用乱数を更新する。またこれらの乱数に加えて、図９３に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理で更新される、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数も更新する。これらの大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数は、主制御側メ

イン処理及びこの主制御側タイマ割り込み処理においてそれぞれ更新されることでランダム性をより高めている。これに対して、大当り図柄用乱数、及び小当り図柄用乱数は、当落判定（大当り判定）にかかわる乱数であるためこの当落乱数更新処理が行われるごとにのみ、それぞれのカウンタがカウントアップする。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定用乱数もこの当落乱数更新処理により更新される。

【０９５３】

例えば、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、上述したように、初期値更新型のカウンタであり、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、この主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。普通図柄当り判定用初期値決定用乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定用乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、この当落乱数更新処理により大当り判定用初期値決定用乱数は更新される。普通図柄当り判定用初期値決定用乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。

【０９５４】

本実施形態では、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数を、図９３に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理、及び本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１０６の当落乱数更新処理でそれぞれ更新しているが、割り込みタイマが発生するごとに本ルーチンの処理時間にムラが生じて次の割り込みタイマが発生するまでの残り時間内において主制御側メイン処理を繰り返し実行することによりステップＳ５６の非当落乱数更新処理の実行回数がランダムとなる場合には、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数をステップＳ５６の非当落乱数更新処理においてのみ更新する仕組みとしてもよい。

【０９５５】

ステップＳ１０６に続いて、メイン制御プログラムは、賞球制御処理を行う（ステップＳ１０８）。この賞球制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて遊技球を払い出すための図８８に示した賞球コマンドを作成するとともに、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達している場合には、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間の接続状態を確認するための図８８に示したセルフチェックコマンドを作成したりする。そして作成した賞球コマンドやセルフチェックコマンドを主払シリアルデータとして払出制御基板９５１に送信する。例えば、図８に示した大入賞口２００５に遊技球が１球、入球すると、賞球として１５球を払い出す賞球コマンドを作成するとともに、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達しているため、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶し、賞球コマンドを払出制御基板９５１に送信したり、この賞球コマンドを払出制御基板９５１が正常に受信完了した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が所定時間内に入力されないときには主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間の接続状態を確認するセルフチェックコマンドを作成して払出制御基板９５１に送信したりする。なお、賞球として１５球を払い出す賞球コマンドを作成する場合のように、賞球として払い出す遊技球の球数が１０球を超える場合には、その超えた球数に、次回のこの賞球制御処理において、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が加算されて、この加算された遊技球の球数がに達しているときには、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶することとなる。

【０９５６】

ステップＳ１０８に続いて、メイン制御プログラムは、枠コマンド受信処理を行う（ステップＳ１１０）。払出制御基板９５１では、払出制御プログラムが、図９１に示した状態表示に区分される１バイト（８ビット）の各種コマンド（例えば、枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド）を送信する。一方、後述するように払出制御プログラムは、払出動作にエラーが発生した場合にエラー発生コマンドを出力したり、操作スイッチ９５４の検出信号に基づいてエラー解除ナビコマンドを出力する。
上述した枠コマンド受信処理では、メイン制御プログラムが、この各種コマンドを払主シリアルデータとして正常に受信すると、その旨を払出制御基板９５１に伝える情報を、出力情報として主制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域に記憶する。また、メイン制御プログラムは、その正常に払主シリアルデータとして受信したコマンドを２バイト（１６ビット）のコマンドに整形し（図９０の状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド））、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。なお、ここでいう枠状態１コマンドは第１のエラー発生コマンドに相当するとともに、エラー解除ナビコマンドは第１のエラー解除コマンドに相当する。

【０９５７】

ステップＳ１１０に続いて、メイン制御プログラムは、不正行為検出処理を行う（ステップＳ１１２）。この不正行為検出処理では、賞球に関する異常状態を確認する。例えば、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出し、大当り遊技状態でない場合にカウントセンサ４００５からの検出信号が入力されているとき（大入賞口２００５に遊技球が入球するとき）等には、異常状態として図９０に示した報知表示に区分される入賞異常表示コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【０９５８】

ステップＳ１１２に続いて、メイン制御プログラムは、特別図柄及び特別電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１４）。この特別図柄及び特別電動役物制御処理では、図６９に示した主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎにラッチ信号を出力し、ラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが抽出した乱数（乱数値）を、主制御内蔵主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得し、この取得した乱数値を大当り判定用乱数としてセットする。そして大当り判定用乱数（つまり、主制御内蔵主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得した乱数値）と、主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている大当り判定値と、が一致するか否かを判定（大当り遊技状態を発生させるか否かを判定（「特別抽選」という。））したり、大当り図柄用乱数を更新するカウンタの値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている確変当り判定値と一致するか否かを判定（確率変動を発生させるか否かの判定）したりする。ここで、「確率変動」とは、大当りする確率が通常時（低確率）にくらべて高く設定された高確率（確変時）に変化することである。本実施形態では、上述した大当り判定値の範囲（大当り判定範囲）として、低確率では値３２６６８～値３２７６７が設定されており、通常時判定テーブルから読み出されるのに対して、高確率では値３１７６８～値３２７６７が設定されており、確変時判定テーブルから読み出される。このように、ステップＳ１１４の特別図柄及び特別電動役物制御処理では、大当り判定用乱数（つまり、主制御内蔵主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得した乱数値）と、主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている大当り判定値と、が一致するか否かを判定するときには、大当り判定用乱数（つまり、主制御内蔵主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得した乱数値）が大当り判定範囲に含まれているか否かにより行う。

【０９５９】

これらの判定結果が第一始動口センサ４００２によるものである場合には図８９に示した特図１同調演出関連の各種コマンドを作成する一方、その抽選結果が第二始動口センサ４００４によるものである場合には図８９に示した特図２同調演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するするとともに、その決定した特別図柄の変動表示パターンに従って第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４

０５を点灯させるよう第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。また、発生させる遊技状態に応じて、例えば大当り遊技状態となるときには、図８９に示した大当り関連に区分される各種コマンド（大当りオープニングコマンド、大入賞口１開放Ｎ回目表示コマンド、大入賞口１閉鎖表示コマンド、大入賞口１カウント表示コマンド、大当りエンディングコマンド、及び大当り図柄表示コマンド）を作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶したり、図８に示した開閉部材２１０７を開閉動作させるようアタッカソレノイド２１０８への駆動信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、大入賞口２００５が閉鎖状態から開放状態となる回数（ラウンド）が２回であるときには、図１０に示したラウンド表示器１４０７の２ラウンド表示ランプ１４０７ａを点灯させるよう２ラウンド表示ランプ１４０７ａへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、ラウンドが１５回であるときには、図１０に示したラウンド表示器１４０７の１５ラウンド表示ランプ１４０７ｂを点灯させるよう１５ラウンド表示ランプ１４０７ｂへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、確率変動の発生の有無を所定の色で点灯させるよう状態表示器１４０１への点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したりする。

【０９６０】

ステップＳ１１４に続いて、メイン制御プログラムは、普通図柄及び普通電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１６）。この普通図柄及び普通電動役物制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいてゲート入賞処理を行う。このゲート入賞処理では、入力情報からゲートセンサ４００３からの検出信号が入力端子に入力されていたか否かを判定する。この判定結果に基づいて、検出信号が入力端子に入力されていたときには、上述した普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値等を抽出してゲート情報として主制御内蔵ＲＡＭのゲート情報記憶領域に記憶する。

【０９６１】

このゲート情報記憶領域には、第０区画～第３区画（４つの区画）が設けられており、第０区画、第１区画、第２区画、そして第３区画の順にゲート情報が格納されるようになっている。例えばゲート情報がゲート情報記憶の第０区画～第２区画に格納されている場合、ゲートセンサ４００３からの検出信号が入力端子に入力されていたときにはゲート情報をゲート情報記憶の第３区画に格納する。

【０９６２】

ゲート情報はゲート情報記憶の第０区画に格納されているものが主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされる。このゲート情報がセットされると、ゲート情報記憶の第１区画のゲート情報がゲート情報記憶の第０区画に、ゲート情報記憶の第２区画のゲート情報がゲート情報記憶の第１区画に、ゲート情報記憶の第３区画のゲート情報がゲート情報記憶の第２区画に、それぞれシフトされてゲート情報記憶の第３区画が空き領域となる。例えば、ゲート情報記憶の第１区画～第２区画にゲート情報が記憶されている場合には、ゲート情報記憶の第１区画のゲート情報がゲート情報記憶の第０区画に、ゲート情報記憶の第２区画のゲート情報がゲート情報記憶の第１区画にそれぞれシフトされてゲート情報記憶の第２区画及びゲート情報記憶の第３区画が空き領域となる。ここで、ゲート情報記憶の第１区画～第３区画にゲート情報が格納されていると、格納されたゲート情報の総数を保留球として普通図柄記憶表示器１１８８を点灯させるよう、上述したゲート情報に基づいて普通図柄記憶表示器１１８８の点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【０９６３】

ゲート入賞処理に続いて、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされたゲート情報を読み出し、この読み出したゲート情報から普通図柄当り判定用乱数の値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致するか否かを判定する（「普通抽選」という）。この判定結果（普通抽選による抽選結果）により可動片を開閉動作さ

せるか否かが決定する。この決定で開閉動作をさせる場合には、一対の可動片が左右方向へ拡開した状態となることで第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態なる。この決定と対応する普通図柄の変動表示パターンを上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて決定し、図８９に示した普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄の変動表示パターンに従って普通図柄表示器１４０２を点灯させるよう普通図柄表示器１４０２への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。また、例えばその取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致しているときには、図８９に示した普通電役演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するとともに、可動片を開閉動作させるよう始動口ソレノイド２１０７への駆動信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する一方、その取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致していないときには、上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて普通図柄変動表示パターンを決定し、図８９に示した普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄変動表示パターンに従って普通図柄表示器１４０２を点灯させるよう普通図柄表示器１４０２への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【０９６４】

ステップＳ１１６に続いて、メイン制御プログラムは、ポート出力処理を行う（ステップＳ１１８）。このポート出力処理では、主制御ＭＰＵ１３１０ａの各種出力ポートの出力端子から、上述した出力情報記憶領域から出力情報を読み出してこの出力情報に基づいて各種信号を出力する。このメイン制御プログラムは、例えば、出力情報に基づいて主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の出力ポートの出力端子から、払出制御基板９５１からの各種コマンドを正常に受信完了したときには主払ＡＣＫ信号を払出制御基板９５１に出力したり、大当り遊技状態であるときには大入賞口２００５の開閉部材２１０７の開閉動作を行うアタッカソレノイド２１０８に駆動信号を出力したり、可動片の開閉動作を行う始動口ソレノイド２１０７に駆動信号を出力したりするほかに、メイン賞球数情報出力信号、１５ラウンド大当り情報出力信号、２ラウンド大当り情報出力信号、確率変動中情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力情報、始動口入賞情報出力信号等の遊技に関する各種情報（遊技情報）信号を払出制御基板９５１に出力したりする。

【０９６５】

ステップＳ１１８に続いて、メイン制御プログラムは、周辺制御基板コマンド送信処理を行う（ステップＳ１２０）。この周辺制御基板コマンド送信処理では、このメイン制御プログラムが、上述した送信情報記憶領域から送信情報を読み出してこの送信情報を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する。この送信情報には、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理で作成した、図８９に示した、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド（例えば、大入賞口２００５（図８参照）に入球した遊技球を検出した際にカウントセンサ４００５（図６９参照）からの検出信号に基づ大入賞口カウントコマンドに相当する大入賞口１カウント表示コマンド）、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、図９０に示した、報知表示に区分される各種コマンド（扉開放コマンド、扉枠閉鎖コマンド、本体枠開放コマンド、本体枠閉鎖コマンドなど）、状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド及び枠状態２コマンド）、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンドが記憶されている。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構成されている。具体的には、主周シリアルデータは、１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドの種類を示すス

テータスと、１バイト（８ビット）の記憶容量を有する演出のバリエーションを示すモードと、ステータス及びモードを数値とみなしてその合計を算出したサム値と、から構成されており、このサム値は、送信時に作成されている。

【０９６６】

この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、主周シリアルデータとして各種コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。主制御ＭＰＵ１３１０ａの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生した場合に、図７７に示した電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が＋５Ｖとして印加されるようになっているため、図７９に示した、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵される主周シリアル送信ポート１３１０ａｅは、少なくとも、その送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに主制御ＣＰＵコア１３１０ａａがセットしたコマンドをシリアル管理部１３１０ａｅｃにより送信シフトレジスタ４１ａｅａに転送して送信シフトレジスタ１３１０ａｅａから主周シリアルデータとして送信完了することができるようになっている。停電又は瞬停が発生して電力が回復する復電時には、図９３に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、復電した旨を伝えるために、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶しているため、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。なお、主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から遊技情報を読み出してこの遊技情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとが送信されることとなる。

【０９６７】

この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１から枠状態１コマンド（第１のエラー発生コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０（演出制御部）に対して枠状態１コマンド（第２のエラー発生コマンド）を送信する（エラーコマンド送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態である枠状態１コマンドを、図９０に示す形態の枠状態１コマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。

【０９６８】

またその一方、この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１からエラー解除ナビコマンド（第１のエラー解除コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０に対してエラー解除ナビコマンド（第２のエラー解除コマンド）を送信する（エラーコマンド送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態であるエラー解除ナビコマンドを、図９０に示す形態のエラー解除ナビコマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。

【０９６９】

またさらに、この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１から本体枠開放コマンド（第１の本体枠開放コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０（演出制御部）に対して本体枠開放コマンド（第２の本体枠開放コマンド）を送信する（本体枠コマンド送出手段、第２の本体枠送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態である本体枠開放コマンドを、図９０に示す形態である本体枠開放コマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。一方、この周辺制御基板コマンド

送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１から本体枠閉鎖コマンド（第１の本体枠閉鎖コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０（演出制御部）に対して本体枠閉鎖コマンド（第２の本体枠閉鎖コマンド）を送信する（本体枠コマンド送出手段、第２の本体枠コマンド送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態である本体枠閉鎖コマンドを、図９０に示す形態である本体枠閉鎖コマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。

【０９７０】

また、この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１から扉開放コマンド（第１の扉開放コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０（演出制御部）に対して扉開放コマンド（第２の扉枠開放コマンド）を送信する（扉枠コマンド送出手段、第２の扉枠コマンド送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態である扉枠閉鎖コマンドを、図９０に示す形態である扉閉鎖コマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。一方、この周辺制御基板コマンド送信処理では、メイン制御プログラムが、ＲＸＡ端子の受信ポートによって払出制御基板９５１から扉閉鎖コマンド（第１の扉閉鎖コマンド）を受信した場合、周辺制御基板１５１０（演出制御部）に対して扉閉鎖コマンド（第２の扉閉鎖コマンド）を送信する（扉枠コマンド送出手段、第２の扉枠コマンド送出手段）。この場合、メイン制御プログラムは、払出制御基板９５１から受け取った図９１に示す形態である扉閉鎖コマンドを、図９０に示す形態である扉閉鎖コマンドとして周辺制御基板１５１０に転送している。

【０９７１】

ステップＳ１２０に続いて、メイン制御プログラムは、図６９に示した主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆのクリアを行い（ステップＳ１２２）、このルーチンを終了する。ステップＳ２２の主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆのクリアは、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすることにより行う。これにより、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時がクリアされる。そして、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆによる計時が再び開始されることによって、主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆにより主制御ＭＰＵ１３１０ａが強制的にリセットされずに済む。

【０９７２】

なお、主制御基板１３１０は、上述したように、遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断される前に、遊技の進行による遊技情報を記憶するための上述したバックアップ処理を実行して完了することができるとともに、復電時において、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先として、バックアップ処理を実行した遊技情報に基づいて、パチンコ機１への電源が遮断される際における、本ルーチンにおけるステップＳ１１８のポート出力処理による電気的駆動源である始動口ソレノイド２１０７やアタッカソレノイド２１０８の駆動状態を指示する図８９の電源投入時主制御復帰先コマンドを周辺制御基板１５１０へ出力することができるようになっている。つまり、主制御基板１３１０は、図９３の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、同処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、図８９の電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。このため、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からの電源投入時主制御復帰先コマンドに基づいて、復電時における主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域

において演出表示することができる。これにより、遊技者が遊技を行っている際に、瞬停や停電が発生して、その後に復電するときに、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができるとともに、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域において演出表示して報知することができるため、パチンコ機１のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に遊技者に見えて故障したと勘違いされることを防止することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することにより、遊技者に故障したと勘違いされることを防止することができる。

【０９７３】

また、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述したように、図９２の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域を必ずクリアすることなる。これにより、同処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、図８９に示した電源投入に区分される電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドという２つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となり、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信する。主制御基板検査工程の検査装置は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、主制御基板検査工程の検査モニタに詳細な機種情報を表示するようになっている。

【０９７４】

［１６－１．周辺制御部の各種制御処理］

［１６－１－１．周辺制御部電源投入時処理］

まず、周辺制御部電源投入時処理について、図９５を参照して説明する。パチンコ機１に電源が投入されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図９５に示すように、周辺制御部電源投入時処理を行う。この周辺制御部電源投入時処理が開始されると、演出制御プログラムが周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの制御の下、初期設定処理を行う（ステップＳ１０００）。この初期設定処理では、演出制御プログラムが、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ自身を初期化する処理と、ホットスタート／コールドスタートの判定処理と、リセット後のウェイトタイマを設定する処理等を行う。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、まず自身を初期化する処理を行うが、この周辺制御ＭＰＵ１５１１ａを初期化する処理にかかる時間は、マイクロ秒（μｓ）オーダーであり、極めて短い時間で周辺制御ＭＰＵ１５１１ａを初期化することができる。これにより、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、割り込み許可が設定された状態となることによって、例えば、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理において、主制御基板１３１０から出力される、図８９及び図９０に示した、遊技演出の制御に関するコマンドやパチンコ機１の状態に関するコマンド等の各種コマンドを受信することができる状態となる。

【０９７５】

ホットスタート／コールドスタートの判定処理では、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃについては、そのバックアップ第１エリア１５１１ｃｂにおける、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（１ｆｒ）を比較するとともに、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（１ｍｓ）を比較し、そのバックアップ第２エリア１５１１ｃｃにおける、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（１ｆｒ）を比較するとともに、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（１ｍｓ）を比較し、この比較した内容が一致しているときには図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの通常使用する記憶領域である、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）に対してＢａｎｋ１（１ｆｒ）に記憶されている内容である演出バックアップ情報（１ｆｒ）と、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）に対してＢａｎｋ１（１ｍｓ）に記憶されている内容である演出バックアップ情報（１ｍｓ）と、をそれぞれコピーバックしてホットスタートとする一方、比較した内容が一致していないとき（つまり、不一致であるとき）には周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの通常使用する記憶領域である、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）及びＢａｎｋ０（１ｍｓ）に対してそれぞれ値０を強制的に書き込んでコールドスタートとする。

【０９７６】

またホットスタート／コールドスタートの判定処理では、図７３に示した周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄについても、そのバックアップ第１エリア１５１１ｄｂにおける、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）を比較するとともに、そのバックアップ第２エリア１５１１ｄｃにおける、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）にバックアップされている内容である演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）を比較する。この比較した内容が一致しているときには図７３に示した周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄの通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に対してＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容である演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）をコピーバックしてホットスタートとする一方、比較した内容が一致していないとき（つまり、不一致であるとき）には周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄの通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に対して値０を強制的に書き込んでコールドスタートとする。このようなホットスタート又はコールドスタートに続いて、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのバックアップ非管理対象ワークエリア１５１１ｃｆに対して値０を強制的に書き込んでゼロクリアする。そして周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、この初期化設定処理を行った後に、図７３に示した周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと、図７２に示した周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅと、にクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにしている。

【０９７７】

ステップＳ１０００に続いて、演出制御プログラムは現在時刻情報取得処理を行う（ステップＳ１００２）。この現在時刻情報取得処理では、図７２に示したＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ４１６５４ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄに、現在のカレンダー情報としてカレンダー情報記憶部にセットするとともに、現在の時刻情報として時刻情報記憶部にセットする。また、現在時刻情報取得処理では、液晶表示装置の輝度設定処理も行う。この液晶表示装置の輝度設定処理では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａがＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから輝度設定情報を取得して、この取得した輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度となるように、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する処理を行う。輝度設定情報は、上述したように、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度と、が含まれているものである。

【０９７８】
液晶表示装置の輝度設定処理では、具体的には、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶されている輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯し、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶されている輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が８０％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する。なお、この液晶表示装置の輝度設定処理では、上述した、遊技盤側演出表示装置１６００の使用時間に応じて遊技盤側演出表示装置１６００の輝度を補正するための輝度補正プログラムと同様な補正が全く行われないようになっている。これは、この液晶表示装置の輝度設定処理に輝度補正プログラムと同様な補正プログラムが組み込まれることにより、液晶表示装置の輝度設定処理が実行されるごとに、ＬＥＤの輝度が１００％に向かって補正されるのを防止するためである。

【０９７９】
本実施形態では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａがＲＴＣ４１６５ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａからカレンダー情報と時刻情報とを取得するのは、電源投入時の１回のみとなっている。また周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、この現在時刻情報取得処理を行った後に、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅとにクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにしている。

【０９８０】
ステップＳ１００２に続いて、演出制御プログラムは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ１００６）。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、後述する周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａから入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。このステップＳ１００６では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットすることによりＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧを一度初期化している。また周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットした後に、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅとにクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにしている。

【０９８１】
ステップＳ１００６に続いて、演出制御プログラムは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ１００８）。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１でない（値０である）ときには、再びステップＳ１００８に戻ってＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを繰り返し判定する。このような判定を繰り返すことにより、周辺制御部定常処理を実行するまで待機する状態となる。また周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定した後に、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅとにクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにしている。

【０９８２】
ステップＳ１００８でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行するときには、まず定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１００９）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞ

れセットされる。
【０９８３】
ステップＳ１００９に続いて、演出制御プログラムは１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行う（ステップＳ１０１０）。この１ｍｓ割り込みタイマ起動処理では、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を実行するための１ｍｓ割り込みタイマを起動するとともに、この１ｍｓ割り込みタイマが起動して周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするための１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１をセットして１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮの初期化も行う。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理で更新される。
【０９８４】
ステップＳ１０１０に続いて、演出制御プログラムは、ランプデータ出力処理を行う（ステップＳ１０１２）。このランプデータ出力処理では、演出制御プログラムが図７２に示したランプ駆動基板４１７０へのＤＭＡシリアル連続送信を行う。ここでは、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃを利用してランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート連続送信を行う。このランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート連続送信が開始されるときには、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａに、図８に示した遊技盤５に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号、又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴが後述するランプデータ作成処理で作成されてセットされた状態となっている。
【０９８５】
図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信を指定し、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの先頭アドレスに格納された遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴのうちの最初の１バイトを、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込む。これにより、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、遊技盤側発光クロック信号ＳＬ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始する。
【０９８６】
周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信割り込み要求が発生するごとに、これを契機として（本実施形態では、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに書き込まれた１バイトのデータが送信シフトレジスタに転送され、その送信バッファレジスタに１バイトのデータがなくなって空となったことを契機としている。）、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａがバスを使用していない場合に、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａに格納された残りの遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴを１バイトずつ、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込むことで、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、遊技盤側発光クロック信号ＳＬ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始し、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートによる連続送信を行っている。
【０９８７】
またランプデータ出力処理では、演出制御プログラムが、図７２に示した枠装飾駆動アンプ基板１９４へのＤＭＡシリアル連続送信処理を行う。ここでも、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃを利用して枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポート連続送信を行う。この枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポート連続送信が開始されるときには、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ

に外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂに、扉枠３に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴが後述するランプデータ作成処理で作成されてセットされた状態となっている。

【０９８８】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因に枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートの送信を指定し、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの先頭アドレスに格納された扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴのうちの最初の１バイトを、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込む。これにより、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、扉側発光クロック信号ＳＴＬ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始する。

【０９８９】

周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートの送信割り込み要求が発生するごとに、これを契機として（本実施形態では、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに書き込まれた１バイトのデータが送信シフトレジスタに転送され、その送信バッファレジスタに１バイトのデータがなくなって空となったことを契機としている。）、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａがバスを使用していない場合に、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂに格納された残りの扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴを１バイトずつ、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込むことで、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、扉側発光クロック信号ＳＴＬ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始し、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートによる連続送信を行っている。

【０９９０】

ステップＳ１０１２に続いて、演出制御プログラムは、演出操作ユニット監視処理を行う（ステップＳ１０１４）。この演出操作ユニット監視処理では、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理における演出操作ユニット情報取得処理において、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて操作ボタン４１０の操作等を取得した各種情報がセットされる図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉに基づいて、操作ボタン４１０の操作有無を監視し、操作ボタン４１０の操作の状態を遊技演出に反映するか否かを適宜決定する。

【０９９１】

ステップＳ１０１４に続いて、演出制御プログラムは、表示データ出力処理を行う（ステップＳ１０１６）。この表示データ出力処理では、後述する表示データ作成処理で音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵ＶＲＡＭ上に生成した１画面分（１フレーム分）の描画データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが図７４に示したチャンネルＣＨ１，２から遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力する。これにより、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０にさまざまな画面が描画される。なお、表示データ出力処理では、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの描画能力を超える描画を行った場合には、生成した１画面分（１フレーム分）の描画データを遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力することをキャンセルするようになっている。これにより、処理時間の遅れを防止することができるが、いわゆるコマ落ちが発生すること

となるものの、ステップＳ１０１２のランプデータ出力処理による、図８に示した遊技盤５に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤ、及び扉枠３に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤによる演出と、後述する音データ出力処理による、図５に示した下部スピーカ９２１及び図２に示した上部スピーカ５７３から各種演出に合わせた音楽や効果音等による演出と、の同期を優先することができる仕組みとなっている。

【０９９２】

ステップＳ１０１６に続いて、演出制御プログラムは、音データ出力処理を行う（ステップＳ１０１８）。この音データ出力処理では、演出制御プログラムが、後述する音データ作成処理で音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに設定された音楽及び効果音等の音データをシリアル化したオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力したり、音楽及び効果音のほかに報知音や告知音の音データをシリアル化したオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力したりする。このオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃは、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのシリアル化したオーディオデータが入力されると、右側オーディオデータを、プラス信号及びマイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして枠装飾駆動アンプ基板１９４に向かって送信するとともに、左側オーディオデータを、プラス信号及びマイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして枠装飾駆動アンプ基板１９４に向かって送信する。これにより、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から各種演出に合わせた音楽や効果音等がステレオ再生されたりするほかに報知音や告知音もステレオ再生されたりする。

【０９９３】

ステップＳ１０１８に続いて、演出制御プログラムはスケジューラ更新処理を行う（ステップＳ１０２０）。このスケジューラ更新処理では、演出制御プログラムが図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた各種スケジュールデータを更新する。例えば、スケジューラ更新処理では、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、先頭の画面データから何番目の画面データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。

【０９９４】

またスケジューラ更新処理では、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データのうち、先頭の発光データから何番目の発光データを各種ＬＥＤの発光態様とするのかを指示するために、ポインタを更新する。

【０９９５】

またスケジューラ更新処理では、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された、音楽や効果音等の音データ、報知音や告知音の音データを指示する音指令データのうち、先頭の音指令データから何番目の音指令データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。

【０９９６】

またスケジューラ更新処理では、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、先頭の駆動データから何番目の駆動データを出力対象とするのかを指示するために、ポインタを更新する。電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データは、後述する、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し実行される周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるモータ及びソレノイド駆動処理で更新される。この１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し実行されるモータ及びソレノイド駆動処理では、ポインタが指示する駆動データに従ってモータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、自身の処理を実行するごとに、ポインタを更新する。つまり、モータ及びソレノイド駆動処理において更新

したポインタの指示する駆動データは、スケジューラ更新処理において強制的に更新される仕組みとなっているため、仮に、モータ及びソレノイド駆動処理においてポインタが何らかの原因で本来指示するはずの駆動データから他の駆動データを指示することとなっても、スケジューラ更新処理において強制的に本来指示するはずの駆動データに指示するように強制的に更新されるようになっている。

【０９９７】

ステップＳ１０２０に続いて、演出制御プログラムは、受信コマンド解析処理を行う（ステップＳ１０２２）。この受信コマンド解析処理では、演出制御プログラムが、演出表示駆動基板４４５０から周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して送信された情報や、主制御基板１３１０から送信された各種コマンドを、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理（コマンド受信手段）において受信した各種コマンドの解析を行う（コマンド解析手段）。演出制御プログラムは、演出表示駆動基板４４５０から周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して送信された情報に基づいて、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域に１５１１ｃａｅにセットする。また、演出制御プログラムは、この周辺制御部コマンド割り込み処理で受信された主制御基板１３１０からのコマンドが、例えば、始動口入賞演出の開始を指示するための始動口入賞コマンド、普通図柄の保留数（０～４個）を識別するための普通図柄記憶コマンド、図柄同調演出の開始を指示するための図柄同調演出開始コマンド、始動保留数が変化すると出力される図柄記憶コマンド、大入賞口２００５に遊技球が受け入れられる度に出力された大入賞口１カウント表示コマンド（大入賞口カウントコマンド）、または、図９０に示される満タンという内容を示す枠状態１コマンド（第２のエラー発生コマンド、満タンエラー発生コマンド）であるか否かを解析し（コマンド解析手段）、現在、どの遊技状態であるかを認識する。また、この演出制御プログラムは、電源投入時から所定時間が経過した後、この周辺制御部コマンド受信割り込み処理によって受信されたコマンドが本体枠開放コマンド、本体枠閉鎖コマンド、扉開放コマンドまたは扉枠閉鎖コマンドであるか否かを解析する。主制御基板１３１０からの各種コマンドは、周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信されて図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されるようになっており、受信コマンド解析処理では、演出制御プログラムが、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶された各種コマンドの解析を行う。各種コマンドには、図８９に示した、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、図９０に示した、報知表示に区分される各種コマンド、上述した扉枠開放コマンド、扉枠閉鎖コマンド、本体枠開放コマンド及び本体枠閉鎖コマンド並びにエラー解除ナビコマンド（第２のエラー解除コマンドに相当）及び枠状態１コマンド（第２のエラー発生コマンドに相当）などの状態表示に区分される各種コマンド、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンドがある。

【０９９８】

ステップＳ１０２２に続いて、演出制御プログラムが警告処理を行う（ステップＳ１０２４）。この警告処理では、さらに、演出制御プログラムが、上述のようにステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析したコマンドに、図９０に示した報知表示に区分される各種コマンドが含まれているときには、各種異常報知を実行するための異常表示態様に設定されている、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記

憶領域に１５１１ｃａｅにセットする。なお、警告処理では、複数の異常が同時に発生した場合には、予め登録した優先度の高い順から異常報知から行われ、その異常が解決して残っている他の異常報知に自動的に遷移するようになっている。これにより、一の異常が発生した後であってその異常を解決する前に他の異常が発生して一の異常が発生しているという情報を失うことなく、複数の異常を同時に監視することができる。

【０９９９】

またさらに、この警告処理では、電源投入時から所定時間が経過した後に、演出制御プログラムが、上述した受信コマンド解析処理（ステップＳ１０２２）において解析したコマンドが、図９０に示した状態表示に区分される各種コマンド、例えばエラー解除ナビコマンド（第２のエラー解除コマンド）である場合、演出動作に伴う通常の演出態様とは異なる態様で液晶表示制御部１５１２を制御することにより、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００（演出装置）、扉枠側演出表示装置４６０（演出装置）、ランプ（演出装置）を用いて視覚的に外部に警告したり、スピーカを用いて聴覚的に外部に警告する（エラー報知手段）。このようにすると、悪意のある遊技者が、遊技状態であるにも拘わらず払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４を操作することにより主制御基板１３１０にエラー解除ナビコマンドを入力しようと試行した際に、パチンコ機１が外部に警告を行う構成となっているため、遊技の進行に影響を及ぼしかねない主制御基板１３１０に対する不正行為が抑止されるようになる。

【１０００】

次に、上述したステップＳ１０２４に続いて、演出制御プログラムはＲＣＴ取得情報更新処理を行う（ステップＳ１０２６）。このＲＴＣ取得情報更新処理では、演出制御プログラムが、ステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理で取得して図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄにセットした、カレンダー情報記憶部に記憶されたカレンダー情報と時刻情報記憶部に記憶された時刻情報とを更新する。このＲＣＴ取得情報更新処理により、時刻情報記憶部に記憶される時刻情報である時分秒が更新され、この更新される時刻情報に基づいてカレンダー情報記憶部に記憶されるカレンダー情報である年月日が更新される。

【１００１】

ステップＳ１０２６に続いて、演出制御プログラムはランプデータ作成処理を行う（ステップＳ１０２８）。このランプデータ作成処理では、この演出制御プログラムが、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データのうち、そのポインタが指示する発光データに基づいて、図８に示した遊技盤５に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号、又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して作成するとともに、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａにセットするとともに、扉枠３に設けた各種装飾基板の複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して作成して、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂにセットする。

【１００２】

ステップＳ１０２８に続いて、演出制御プログラムは表示データ作成処理を行う（ステップＳ１０３０）。この表示データ作成処理では、演出制御プログラムが、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、そのポインタが示す画面データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから画面データが入力され

ると、この入力された画面データに基づいて液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂからキャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭ上に生成する。

【１００３】

ステップＳ１０３０に続いて、演出制御プログラムは音データ作成処理を行う（ステップＳ１０３２）。この音データ作成処理では、演出制御プログラムが、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された音指令データのうち、そのポインタが指示する音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから音指令データが入力されると、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂに記憶されている音楽や効果音等の音データを抽出して内蔵音源を制御することにより、音指令データに規定された、トラック番号に従って音楽及び効果音等の音データを組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定する。

【１００４】

なお、音データ作成処理では、この音データ作成処理を行うごとに（つまり、周辺制御部定常処理を行うごとに）、図７３に示した周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋを起動し、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理しており、基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して、上述したステップＳ１０１８の音データ出力処理で音データをシリアル化したオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力することにより、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。

【１００５】

また、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、上述した７段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、下部スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【１００６】

ステップＳ１０３２に続いて、演出制御プログラムはバックアップ処理を行う（ステップＳ１０３４）。このバックアップ処理では、演出制御プログラムが、図７３に示した、

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂと、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃと、にそれぞれコピーしてバックアップするとともに、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂと、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃと、にそれぞれコピーしてバックアップする。

【１００７】

具体的には、バックアップ処理では、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃについて、図７３に示した、バックアップ対象ワークエリア１５１１ｃａにおける、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに、つまり周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ対象となっているＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａ、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂ、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃ、ＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄ、及びスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅに記憶されている内容である演出情報（１ｆｒ）を、演出バックアップ情報（１ｆｒ）として、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーし、そしてバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーする。

【１００８】

この周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶されている内容の高速コピーについて簡単に説明すると、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｆｒ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｆｒ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１００９】

続いて、周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｆｒ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｆｒ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０１０】

またバックアップ処理では、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄについて、図７３に示した、バックアップ対象ワークエリア１５１１ｄａにおける、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに、つまり周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ対象となっているＢａ

ｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容である演出情報（ＳＲＡＭ）を、演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）として、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂのＢａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーし、そしてバックアップ第２エリア１５１１ｄｃのＢａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーする。

【１０１１】

この周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容の高速コピーについて簡単に説明すると、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂのＢａｎｋ１（ＳＲＡＭ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｄｂのＢａｎｋ１（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂのＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｄｂのＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０１２】

続いて、周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃのＢａｎｋ３（ＳＲＡＭ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｄｃのＢａｎｋ３（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃのＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｄｃのＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０１３】

ステップＳ１０３４に続いて、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１０３６）。このＷＤＴクリア処理では、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅと、にクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにしている。

【１０１４】

ステップＳ１０３６に続いて、演出制御プログラムが、周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ１０３８）、再びステップＳ１００６に戻り、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットして初期化し、後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理においてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで、ステップＳ１００８の判定を繰り返し行う。つまりステップＳ１００８では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで待機し、ステップＳ１００８でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００９～ステップＳ１０３８の処理を行い、再びステップＳ１００６に戻る。このように、ステップＳ１００８でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００９～ステップＳ１０３８の処理を行うようになっている。ステップＳ１００９～ステップＳ１０３８の処理を「周

辺制御部定常処理」という。
【１０１５】
この周辺制御部定常処理は、演出制御プログラムが、まずステップＳ１００９で周辺制御部定常処理を実行中であるとして定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることから開始し、ステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行い、ステップＳ１０１２、ステップＳ１０１４、・・・、そしてステップＳ１０３６の各処理を行って最後にステップＳ１０３８において周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすると、完了することとなる。周辺制御部定常処理は、ステップＳ１００８でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるときに実行される。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａから入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。本実施形態では、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっている。
【１０１６】
［１６－１－２．周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理］
次に、図７２に示した、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａから入力されたことを契機として実行する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理が開始されると、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図９６に示すように、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるかを判定する（ステップＳ１０４５）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、上述したように、図９５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００９～ステップＳ１０３８の周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞれセットされる。
【１０１７】
ステップＳ１０４５で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり周辺制御部定常処理を実行中であるときには、そのままこのルーチンを終了する。一方、ステップＳ１０４５で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したときには、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ１０５０）、このルーチンを終了する。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。
【１０１８】
本実施形態では、ステップＳ１０４５で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定し、周辺制御部定常処理を実行完了したときにはステップＳ１０５０でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットするようになっているが、これは、周辺制御部定常処理を実行中であるときに、Ｖブランク信号が入力されてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットすると、図９５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００８の判定で周辺制御部定常処理を実行するものとして、現在実行中の周辺制御部定常処理を途中で強制的にキャンセルして周辺制御部定常処理を最初から実行開始するため、これを防止する目的で、図９５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１００９で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることで周辺制御部定常処理を実行中

である旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝えるとともに、図９５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０３８で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすることで周辺制御部定常処理を実行完了した旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝えることにより、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理におけるステップＳ１０４５の判定で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定するようになっている。換言すると、Ｖブランク信号が入力されて次のＶブランク信号が入力されるまでに周辺制御部定常処理を実行完了することができず、いわゆる処理落ちした場合の処置である。

【１０１９】

これにより、今回の周辺制御部定常処理においては、約３３．３ｍｓという時間でその処理を完了できず処理落ちした場合には、図９５の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００８の判定で次回のＶブランク信号が入力されるまで待機する状態となる。つまり、処理落ちした今回の周辺制御部定常処理を実行するための時間が約６６．６ｍｓとなる。通常、図９５の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理は１回の周辺制御部定常処理に対して３２回だけ実行されるものの、上述した処理落ちした今回の周辺制御部定常処理が存在する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が６４回ではなく、３２回だけ実行されるようになっている。つまり、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても演出の進行状態を確実に整合させることができる。

【１０２０】

［１６－１－３．周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理］

次に、図９５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理について説明する。この周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図９７に示すように、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいか否かを判定する（ステップＳ１１００）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは、上述したように、図９５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするカウンタである。本実施形態では、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっているため、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを起動した後、次の周辺制御部定常処理が実行されるまでに、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が３２回だけ実行されるようになっている。具体的には、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマが起動されると、まず１回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生し、２回目、・・・、そして３２回目の１ｍｓタイマ割り込みが順次発生することとなる。

【１０２１】

ステップＳ１１００で１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたときには、そのままこのルーチンを終了する。３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、本実

施形態では、割り込み処理の優先順位として、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の方が周辺制御部Ｖブランク割り込み処理と比べて高く設定されているものの、この３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルするようになっている。換言すると、本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。そして、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。

【１０２２】

一方、ステップＳ１１００で１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいときには、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１だけ足す（インクリメントする、ステップＳ１１０２）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１が足されることにより、図９５の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数が１回分だけ増えることとなる。

【１０２３】

ステップＳ１１０２に続いて、モータ及びソレノイド駆動処理を行う（ステップＳ１１０４）。このモータ及びソレノイド駆動処理では、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、ポインタが指示する駆動データに従って、図７２に示した、枠装飾駆動アンプ基板１９４及びモータ駆動基板４１８０のモータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、このモータ及びソレノイド駆動処理を実行するごとに、ポインタを更新する。

【１０２４】

具体的には、モータ及びソレノイド駆動処理では、枠装飾駆動アンプ基板１９４へのＤＭＡシリアル連続送信処理を行う。ここでは、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃを利用して枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート連続送信を行う。この枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート連続送信が開始されるときには、まず周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、ポインタが指示する駆動データに基づいて、演出操作ユニット４００のダイヤル駆動モータ４１４への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して作成するとともに、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆにセットする。そして周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因に枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートの送信を指定し、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの先頭アドレスに格納された扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴのうちの最初の１バイトを、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込む。これにより、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バ

ッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、扉側モータ駆動クロック信号ＳＴＭ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始する。

【１０２５】

周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートの送信割り込み要求が発生するごとに、これを契機として（本実施形態では、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに書き込まれた１バイトのデータが送信シフトレジスタに転送され、その送信バッファレジスタに１バイトのデータがなくなって空となったことを契機としている。）、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａがバスを使用していない場合に、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆに格納された残りの扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴを１バイトずつ、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込むことで、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、扉側モータ駆動クロック信号ＳＴＭ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始し、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートによる連続送信を行っている。

【１０２６】

またモータ及びソレノイド駆動処理では、モータ駆動基板４１８０へのＤＭＡシリアル連続送信処理を行う。ここでも、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃを利用してモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート連続送信を行う。このモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート連続送信が開始されるときには、まず周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、ポインタが指示する駆動データに基づいて、図８に示した遊技盤５に設けられる各種可動体を可動させるためのモータやソレノイドへの駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して作成するとともに、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのモータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇにセットする。そして周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信を指定し、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの先頭アドレスに格納された遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴのうちの最初の１バイトを、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込む。これにより、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、遊技盤側モータ駆動クロック信号ＳＭ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始する。

【１０２７】

周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信割り込み要求が発生するごとに、これを契機として（本実施形態では、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに書き込まれた１バイトのデータが送信シフトレジスタに転送され、その送信バッファレジスタに１バイトのデータがなくなって空となったことを契機としている。）、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａがバスを使用していない場合に、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇに格納された残りの遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴを１バイトずつ、外部バス１５１１ｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、モータ駆

動基板用シリアルＩ／Ｏポートの送信バッファレジスタに転送して書き込むことで、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートは、この書き込まれた送信バッファレジスタのデータを送信シフトレジスタに転送し、遊技盤側モータ駆動クロック信号ＳＭ－ＣＬＫと同期して送信シフトレジスタの１バイトのデータを、１ビットずつ送信開始し、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートによる連続送信を行っている。

【１０２８】

ステップＳ１１０４に続いて、可動体情報取得処理を行う（ステップＳ１１０６）。この可動体情報取得処理では、遊技盤５に設けた各種検出スイッチからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種検出スイッチからの検出信号の履歴情報（例えば、原位置履歴情報、可動位置履歴情報など。）を作成し、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈにセットする。この可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈにセットされる各種検出スイッチからの検出信号の履歴情報から遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を取得することができる。

【１０２９】

ステップＳ１１０６に続いて、演出操作ユニット情報取得処理を行う（ステップＳ１１０８）。この演出操作ユニット情報取得処理では、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種検出スイッチからの検出信号の履歴情報（例えば、操作ボタン４１０の操作履歴情報など。）を作成し、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉにセットする。この演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉにセットされる各種検出スイッチからの検出信号の履歴情報から操作ボタン４１０の操作有無を取得することができる。

【１０３０】

ステップＳ１１０８に続いて、描画状態情報取得処理を行う（ステップＳ１１１０）。この描画状態情報取得処理では、図８７に示した演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号の履歴情報を作成し、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋにセットする。ＬＯＣＫＮ信号は、上述したように、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する信号であり、具体的には、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求するために出力する信号である。描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋにセットされるＬＯＣＫＮ信号の履歴情報から周辺制御基板１５１０と演出表示駆動基板４４５０との接続間における不具合の頻度や不具合の発生状態を取得して扉枠側演出表示装置４６０の描画状態を取得することができる。

【１０３１】

ステップＳ１１１０に続いて、バックアップ処理を行い（ステップＳ１１１２）、このルーチンを終了する。このバックアップ処理では、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂと、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃと、にそれぞれコピーしてバックアップするとともに、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂと、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃと、にそれぞれコピーしてバックアップする。

【１０３２】

具体的には、バックアップ処理では、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃについて、図７３に示

した、バックアップ対象ワークエリア１５１１ｃａにおける、１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに、つまり本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ対象となっているＢａｎｋ０（１ｍｓ）に含まれる、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆ、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇ、可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈ、及び演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉに記憶されている内容である演出情報（１ｍｓ）を、演出バックアップ情報（１ｍｓ）として、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーし、そしてバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーする。

【１０３３】

この周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶されている内容の高速コピーについて簡単に説明すると、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｍｓ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｍｓ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｍｓ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｍｓ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｍｓ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｍｓ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０３４】

続いて、周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｍｓ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｍｓ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｍｓ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｍｓ）へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｍｓ）の終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｍｓ）の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０３５】

このように、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、１ｍｓという期間内において、演出の進行として上述したステップＳ１１０４～ステップＳ１１０８の演出に関する各種処理を実行している。これに対して、図９５の周辺制御部電源投入時処理における周辺制御部定常処理では、約３３．３ｍｓという期間内において、演出の進行として上述したステップＳ１０１２～ステップＳ１０３２の演出に関する各種処理を実行している。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、ステップＳ１１００で１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが値３３より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたときには、そのままこのルーチンを終了するようになっているため、仮に、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合でも、この３３回目の１ｍｓタイ

マ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルし、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。つまり、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、演出の進行状態を確実に整合させることができる。

【１０３６】

また、上述したように、Ｖブランク信号が出力される間隔は、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の液晶サイズによって多少変化するし、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａとが実装された周辺制御基板１５１０の製造ロットにおいてもＶブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合もある。本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。つまり本実施形態では、Ｖブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合であっても、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルすることによって、このＶブランク信号が出力される間隔が多少変化することによる時間ズレを吸収することができるようになっている。

【１０３７】

［１６－１－４．周辺制御部コマンド受信割り込み処理］

次に、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信する周辺制御部コマンド受信割り込み処理について説明する。図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０からの各種コマンドがシリアルデータとして送信開始されると、これを契機として主周シリアルデータを周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵する主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートで１バイト（８ビット）の情報を受信バッファに取り込み、この取り込みが完了すると、これを契機として割り込みが発生し、周辺制御部コマンド受信割り込み処理を行う。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構成されており、１バイト目としてステータスが割り振られ、２バイト目としてモードが割り振られ、３バイト目としてステータスとモードとを数値とみなしてその合計を算出したサム値が割り振られている。

【１０３８】

周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されると、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図９８に示すように、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしたか否かを判定する（ステップＳ１２００）。この１バイト受信期間タイマは、主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を設定するものである。

【１０３９】

ステップＳ１２００で１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間内であるときには、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの内蔵する主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートの受信バッファから受信した１バイトの情報を取り込み（ステップＳ１２０２）、受信カウンタＳＲＸＣに値１を加える（インクリメントする、ステップＳ１２０４）。この受信カウンタＳＲＸＣは、受信バッファから取り出した回数を示すカウンタであり、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスを受信バッファから取り出すと値１、主周シリアルデータの２バイト目であるモードを受信バッファから取り出すと値２、主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出すと値３となる。なお、受信カウンタＳＲＸＣは、電源投入時等に初期値０がセットされる。

【１０４０】
ステップＳ１２０４に続いて、受信カウンタＳＲＸＣが値３であるか否か、つまり主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出したか否かを判定する（ステップＳ１２０６）。この判定では、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したか否かを判定している。
【１０４１】
ステップＳ１２０６で受信カウンタＳＲＸＣが値３でないとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、まだ主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出していないときには、１バイト受信期間タイマのセットを行い（ステップＳ１２０８）、このルーチンを終了する。ステップＳ１２０８で１バイト受信期間タイマがセットされることで、主周シリアルデータの２バイト目であるモード又は主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信し得る期間が設定される。
【１０４２】
一方、ステップＳ１２０６で受信カウンタＳＲＸＣが値３であるとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したときには、受信カウンタＳＲＸＣに初期値０をセットし（ステップＳ１２１０）、サム値を算出する（ステップＳ１２１２）。この算出は、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスと、主周シリアルデータの２バイト目であるモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出する。
【１０４３】
ステップＳ１２１２に続いて、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致しているか否かを判定する（ステップＳ１２１４）。ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値は、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値であるため、ステップＳ１２１２で算出したサム値と一致しているはずである。ところが、パチンコ機１は、パチンコ島設備から遊技球が供給されており、遊技球は、互いにこすれ合って帯電すると、静電放電してノイズを発生するため、パチンコ機１はノイズの影響を受けやすり環境下にある。そこで、本実施形態では、周辺制御部１５１１側において、受信した主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出し、この算出したサム値が、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値と一致しているか否かを判定している。これにより、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間において、主周シリアルデータがノイズの影響を受けて正規と異なる主周シリアルデータに変化したか否かを判定することができる。
【１０４４】
ステップＳ１２１４で、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致しているときには、受信した、主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードとを、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶し（ステップＳ１２１６）、このルーチンを終了する。この受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃは、リングバッファとして用いており、

主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードとは、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの周辺制御部受信リングバッファに記憶される。この「周辺制御部受信リングバッファ」とは、バッファの最後と先頭が繋がっているように使われるバッファのことであり、バッファの先頭から順次データを記憶し、バッファの最後まできたら最初に戻って記憶する。なお、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ステップＳ１２１６で周辺制御部受信リングバッファに記憶する際に、受信した、主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードと、を対応付けて記憶しており、３バイト目として割り振られたサム値を破棄する。

【１０４５】

一方、ステップＳ１２００で１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を超えているときには、又はステップＳ１２１４で、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致していないときには、そのままこのルーチンを終了する。

【１０４６】

［１６－１－５．周辺制御部停電予告信号割り込み処理］

次に、図７５に示した、主制御基板１３１０の停電監視回路１３１０ｅからの停電予告信号（周辺停電予告信号）が主制御基板１３１０から入力されたことを契機として実行する周辺制御部停電予告信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、まず２マイクロ秒タイマを起動し（ステップＳ１３２０）、停電予告信号（周辺停電予告信号）が入力されているか否かを判定する（ステップＳ１３０２）。この判定で停電予告信号（周辺停電予告信号）が入力されていないときには、そのままこのルーチンを終了する。

【１０４７】

一方、ステップＳ１３０２で停電予告信号が入力されているときには、２マイクロ秒経過したか否かを判定する（ステップＳ１３０４）。この判定では、ステップＳ１３２０で起動したタイマが２マイクロ秒経過した否かを判定している。ステップＳ１３０４で２マイクロ秒経過していないときには、ステップＳ１３０２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定し、停電予告信号が入力されていないときにはそのままこのルーチンを終了する一方、停電予告信号が入力されているときには、再びステップＳ１３０４で２マイクロ秒経過したか否かを判定する。つまりステップＳ１３０４の判定では、本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けているか否かを判定している。

【１０４８】

ステップＳ１３０４で本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けているときには、節電処理を行う（ステップＳ１３０６）。この節電処理では、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のバックライトの消灯、遊技盤５に設けられるモータやソレノイドへの励磁ＯＦＦ、各種ＬＥＤの消灯等を順次実行することによりパチンコ機１のシステム全体の消費電力を抑えることによって、パチンコ機１の電力が遮断されても周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが動作可能な時間である２０ミリ秒の期間だけ安定動作を確保している。

【１０４９】

ステップＳ１３０６に続いて、コマンド受信待機処理を行う（ステップＳ１３０８）。このコマンド受信待機処理では、主制御基板１３１０が送信中の各種コマンドがある場合を想定して、送信中のコマンドを周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが受信することができるように、少なくとも、１７ミリ秒の期間だけ待機するようになっている。コマンドを受信すると、上述した、周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されて、図７３に示した、周

辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃ（周辺制御部受信リングバッファ）に受信したコマンドが記憶される。

【１０５０】

ステップＳ１３０８に続いて、コマンドのバックアップ処理を行う（ステップＳ１３１０）。このコマンドのバックアップ処理では、図７３に示した、バックアップ対象ワークエリア１５１１ｃａにおけるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーし、そしてバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃが高速にコピーする。

【１０５１】

この周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容の高速コピーについて簡単に説明すると、図７３に示した周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ１（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容を、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第１エリア１５１１ｃｂのＢａｎｋ２（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０５２】

続いて、周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ３（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域の先頭アドレスから順番にすべてコピーし、そして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａが周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃの要求要因にＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃに記憶されている内容を、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域へのコピーを指定し、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの先頭アドレスに格納された内容からＢａｎｋ０（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃの終端アドレスに格納された内容までを、所定バイト（例えば、１バイト）ずつ連続してバックアップ第２エリア１５１１ｃｃのＢａｎｋ４（１ｆｒ）に含まれる受信コマンド記憶領域の先頭アドレスから順番にすべてコピーする。

【１０５３】

ステップＳ１３１０に続いて、停電予告信号（周辺停電予告信号）が入力されているか

否かを判定する（ステップＳ１３１２）。この判定で停電予告信号が入力されているときには、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１３１４）。このＷＤＴクリア処理では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図７３に示した周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと、図７２に示した周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅと、にクリア信号を出力して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようにする。

【１０５４】

一方、ステップＳ１３１２で停電予告信号が入力されていないとき、又はステップＳ１３１４に続いて、再びステップＳ１３１２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。つまり、停電予告信号（周辺停電予告信号）が入力されているか否かを無限に判定し続けることとなる。このように無限に判定し続けることにより、ステップＳ１３１２で停電予告信号（周辺停電予告信号）が入力されていないときには、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅと、にクリア信号を出力することができなくなり、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかかる一方、ステップＳ１３１２で停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理を行い、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからない。なお、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかかると、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理が再び開始されることとなる。

【１０５５】

このように、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号（周辺停電予告信号）の入力が継続する場合には、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理が実行されることによって停電状態になる直前で周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかからないようになっている。これに対して、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続されず解除された場合には、ＷＤＴクリア処理が実行されないため、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆと、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅと、にクリア信号を出力が中断されるようになっている。これにより、ノイズなどで本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が誤って開始され、そのノイズが２マイクロ秒の期間を超えて発生することでステップＳ１３０２の判定を通過したとしても、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号（周辺停電予告信号）の入力が継続されず解除された場合には、ステップＳ１３１４のＷＤＴクリア処理が実行されないことにより周辺制御ＭＰＵ１５１１ａにリセットがかかるようになっているため、そのようなノイズに対して自動的にリセット復帰することで対応することができるようになっている。

【１０５６】

［１６－１－６．ＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理］

次に、図９７に示した周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるステップＳ１１１０の描画状態情報取得処理の一処理として実行するＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理について説明する。このＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理では、図８７に示した演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号の履歴を作成する。このＬＯＣＫＮ信号は、上述したように、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、図７４に示した周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する信号であり、具体的には、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求するために出力する信号である。

【１０５７】

ＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理が開始されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図１００に示すように、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの描画状態情報取得記憶領域１５１１

ｃａｋからＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴを読み出す（ステップＳ１５００）。このＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴは、１バイト（８ビット：最上位ビットＢ７、Ｂ６、Ｂ５、Ｂ４、Ｂ３、Ｂ２、Ｂ１、最下位ビットＢ０、「Ｂ」はビットを表す。）の記憶容量を有しており、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号の履歴がＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴとして描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋに記憶されている。

【１０５８】

ステップＳ１５００に続いて、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号があるか否かを判定する（ステップＳ１５０２）。この判定は、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号があるときには、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであると判断して、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求していると判定する一方、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号がないときには、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータでない（正常なデータである）と判断して、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求していないと判定する。

【１０５９】

ステップＳ１５０２で扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号があるときには、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報のシフト処理を行う（ステップＳ１５０４）。このＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報のシフト処理では、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号があるときには、ステップＳ１５００で読み出したＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴを、最上位ビットＢ７←Ｂ６、Ｂ６←Ｂ５、Ｂ５←Ｂ４、Ｂ４←Ｂ３、Ｂ３←Ｂ２、Ｂ２←Ｂ１、Ｂ１←最下位ビットＢ０という具合に、最下位ビットＢ０から最上位ビットＢ７に向かって１ビットずつシフトする。

【１０６０】

ステップＳ１５０４でＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴをシフトした場合には、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴの最下位ビットＢ０に値１をセットし（ステップＳ１５０６）、このルーチンを終了する。

【１０６１】

一方、ステップＳ１５０２で扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号がないときには、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報のシフト処理を行う（ステップＳ１５０８）。このＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報のシフト処理では、ステップＳ１５０４のＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報のシフト処理と同一の処理を行い、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号がないときには、ステップＳ１５００で読み出したＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴを、最上位ビットＢ７←Ｂ６、Ｂ６←Ｂ５、Ｂ５←Ｂ４、Ｂ４←Ｂ３、Ｂ３←Ｂ２、Ｂ２←Ｂ１、Ｂ１←最下位ビットＢ０という具合に、最下位ビットＢ０から最上位ビットＢ７に向かって１ビットずつシフトする。

【１０６２】

ステップＳ１５０８でＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴをシフトした場合には、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴの最下位ビットＢ０に値０をセットし（ステップＳ１５１０）、このルーチンを終了する。

【１０６３】

このように、このＬＯＣＫＮ信号履歴作成処理が実行されるごとに、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴを最下位ビットＢ０から最上位ビットＢ７に向かって１

ビットずつシフトしたのち、最下位ビットＢ０に値１又は値０がセットされるため、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号の履歴を作成することができる。

【１０６４】

［１６－１－７．接続不具合判定処理］

次に、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理の一処理として実行する接続不具合判定処理について説明する。この接続不具合判定処理では、図８７に示した演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号の履歴に基づいて、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否か判定する。

【１０６５】

接続不具合判定処理が開始されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図１０１に示すように、図７３に示した、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋからＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴを読み出す（ステップＳ１５２０）。このＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴには、上述したように、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子から出力されるＬＯＣＫＮ信号の履歴が記憶されている。このＬＯＣＫＮ信号は、上述したように、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する信号であり、具体的には、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求するために出力する信号である。

【１０６６】

ステップＳ１５２０に続いて、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号があるか否かを判定する（ステップＳ１５２２）。この判定は、ステップＳ１５２０で読み出したＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴが接続確認判定値と一致しているか否かを判定する。この接続確認判定値は、図７２に示した周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに予め記憶されており、本実施形態では、「００００１１１１Ｂ（「Ｂ」はビットを表す。）」であり、上位４ビットのＢ７～Ｂ４が値０、下位４ビットのＢ３～Ｂ０が値１となっている。ステップＳ１５２２の判定では、ＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴの下位４ビットＢ３～Ｂ０と接続確認判定値の下位４ビットＢ３～Ｂ０とが一致しているか否かの判定を行う。

【１０６７】

ステップＳ１５２２で、ステップＳ１５２０で読み出したＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴの下位４ビットＢ３～Ｂ０と接続確認判定値の下位４ビットＢ３～Ｂ０とが一致していないときには、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していない状態であると判定して、そのままこのルーチンを終了する。

【１０６８】

一方、ステップＳ１５２２で、ステップＳ１５２０で読み出したＬＯＣＫＮ信号検出履歴情報ＬＯＣＫＮ－ＨＩＳＴの下位４ビットＢ３～Ｂ０と接続確認判定値の下位４ビットＢ３～Ｂ０とが一致しているときには、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が

発生している状態であると判定して通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴに値１だけ足す（インクリメントする、ステップＳ１５２４）。この通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴは、本ルーチンが実行されるごとに、ステップＳ１５２２の判定において、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数をカウントアップする（累積回数を数える）ものである。なお、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴは、パチンコ機１が電源投入されると、値０がセットされてリセットされるようになっているのに対して、瞬停や停電によってリセットされず、復電時において瞬間や停電となる直前の通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値に復元されるようになっている。

【１０６９】

ステップＳ１５２４に続いて、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴより小さいか否かを判定する（ステップＳ１５２６）。この判定では、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴより小さいときには、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないと判定する一方、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴより小さくない（大きい）ときには、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していると判定する。

【１０７０】

ステップＳ１５２６で通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴより小さいとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ１５２８）、このルーチンを終了する。一方、ステップＳ１５２６で通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴより小さくない（大きい）とき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達しているときには、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ１５３０）、このルーチンを終了する。通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧは、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達してトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているか否かを示すフラグであり、トランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているとき値１、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないとき値０にそれぞれ設定される。なお、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧは、パチンコ機１が電源投入されると、値０がセットされてリセットされるようになっているのに対して、瞬停や停電によってリセットされず、復電時において瞬間や停電となる直前の通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値に復元されるようになっている。

【１０７１】

［１６－１－８．接続回復処理］

次に、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理の一処理として実行する接続回復処理について説明する。この接続回復処理では、図１０１に示した接続不具合判定処理に続いて実行され、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するために所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を出力する一方、トランスミッタとレシーバとの間の接続が異常であるときにその旨を報知する。

【１０７２】

接続回復処理が開始されると、図７２に示した周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図１０２に示すように、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理において、図７３に示

した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた各種スケジュールデータのうち、画面生成用スケジュールデータを起動中であるか否かを判定する（ステップＳ１５４０）。この判定では、スケジューラ更新処理において、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、先頭の画面データから何番目の画面データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力するのかを指示するために、ポインタが更新されているか否かを判定する。換言すると、スケジューラ更新処理において、ポインタを更新しているときには画面生成用スケジュールデータに沿って演出が進行しているため、画面生成用スケジュールデータが起動中であると判定する一方、画面生成用スケジュールデータに沿って演出が完了してポインタの更新がすべて終了しているときには画面生成用スケジュールデータが未起動であると判定する。なお、この判定では、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間であるか否かを、画面生成用スケジュールデータに基づいて判断することができるようになっており、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間であるときには、後述するステップＳ１５４２へ進む一方、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間でないとき（単なる、客待ちの待機した状態であるとき）には、そのままこのルーチンを終了するようになっている。

【１０７３】

ステップＳ１５４０で画面生成用スケジュールデータに沿って演出が進行しているとき、つまり画面生成用スケジュールデータが起動中であるときには、そのままこのルーチンを終了する一方、ステップＳ１５４０で画面生成用スケジュールデータに沿って演出が完了してポインタの更新がすべて終了しているとき、つまり画面生成用スケジュールデータが未起動であるときには、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０でないか否かを判定する（ステップＳ１５４２）。この通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴは、上述したように、図１０１に示した接続不具合判定処理が実行されるごとに、同処理におけるステップＳ１５２２の判定において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数をカウントアップする（累積回数を数える）ものである。この判定では、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回でもあったか否かを判定する。

【１０７４】

ステップＳ１５４２で通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０であるとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回もないときには、そのままこのルーチンを終了する一方、ステップＳ１５４２で通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０でないとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回でもあったときには、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値が値０であるか否かを判定する（ステップＳ１５４４）。この通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧは、上述したように、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達してトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているか否かを示すフラグであり、トランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているとき値１、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないとき値０にそれぞれ設定される。

【１０７５】

ステップＳ１５４４で通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値が値０であるとき、つまりトラ

ンスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、ＳＹＮＣパターン出力処理を行い（ステップＳ１５４６）、このルーチンを終了する。このＳＹＮＣパターン出力処理では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄのＩＮＩＴ端子に対して接続確認信号を出力することにより、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄが演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に対して所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を出力する。この所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）は、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに予め記憶されているものであって扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に対して出力されるものであり、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を回復するものである。

【１０７６】

一方、ステップＳ１５４４で通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値が値０でない（値１である）とき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているときには、通信エラー表示処理を行い（ステップＳ１５４８）、このルーチンを終了する。この通信エラー表示処理では、トランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生している旨を伝えるために、図８に示した遊技盤５に備える遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に描画する処理を行う。例えば、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージが表示される。また、通信エラー表示処理では、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置４６０の動作確認要求として、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからＬＯＣＫＮ信号出力要求データを送信し、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０がＬＯＣＫＮ信号出力要求データの送信に対する応答信号として、ＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力し、このＬＯＣＫＮ信号が入力されていないときには、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして扉枠側演出表示装置４６０に不具合が発生していると判断し、その旨を、報知画像（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」）が遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示する処理を行うとともに、報知音（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しています。」）が扉枠３に設けたスピーカ等から繰り返し流れる処理を行う。このとき、扉枠３に備える発光装飾用のＬＥＤや遊技盤５に備える各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤをすべて点灯する処理を行うようにしてもよい。

【１０７７】

次に、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが図７４に示した周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄのＩＮＩＴ端子に対して接続確認信号を出力するタイミングについて図１０３のタイミングチャートを用いて説明する。

【１０７８】

まず、図８に示した遊技盤５に備える遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に変動表示される装飾図柄について簡単に説明すると、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理等により装飾図柄の変動表示が実行されるようになっており、図６９に示した主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａよる図９３に示した主制御側電源投入時処理の主制御側メイン処理や図９４に示した主制御側タイマ割り込み処理等により図８に示した第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果、又は図８に示した第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果が「大当り」となると、図８に示した大入賞口２００５の開閉動作の繰返し回

数（ラウンド数）が１ラウンド～１５ラウンドまでの計１５ラウンドとなり、各ラウンドでは、所定時間（例えば、３０秒間）内において、大入賞口２００５に遊技球が入球して、その球数が所定個数（例えば、９球）となると、そのラウンドが消化するようになっており、大入賞口２００５に遊技球が１球入球するごとに、所定個数（例えば、１５球）の遊技球が払い出されるようになっている。

【１０７９】

第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果、又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果は、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１が液晶表示制御部１５１２を制御することにより、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域の左側には左側装飾図柄、中央には中央装飾図柄、そして右側には右側装飾図柄の変動表示が開始され、所定時間経過した後に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が停止されて第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果を遊技者が認識することができるようになっており、このとき、図６６に示した機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５で表示された第一特別図柄又は第二特別図柄においても第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果を確認することができるようになっている。左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が変動表示されているときには背景画像が視認できる程度に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が半透明な態様となり、左側装飾図柄は表示領域の左上側から左下側に向かって、中央装飾図柄は表示領域の中央上側から中央下側に向かって、右側装飾図柄は表示領域の右上側から右下側に向かってそれぞれリールが回転しているかのような態様で変動表示されるとともに、左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が停止表示されると、停止表示された左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄と対応する位置における背景画像が視認困難となるように左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が不透明な態様となるようになっている。このように、図６６に示した機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において変動表示開始されて停止表示される第一特別図柄又は第二特別図柄と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域で変動表示開始されて停止表示される左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄と、が同期化されている。

【１０８０】

周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１は、第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果、又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を伝える主制御基板１３１０からのコマンドを受信すると、この受信したコマンドに基づいて、液晶表示制御部１５１２を制御することにより、図１０３に示すように、図８に示した遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されると（タイミングＫ０）、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理において、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、先頭の画面データから何番目の画面データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力するのかを指示するために、ポインタが更新されているため、つまりスケジューラ更新処理において、ポインタを更新しているときには画面生成用スケジュールデータに沿って演出が進行しているため、画面生成用スケジュールデータが起動中であり、画面生成用スケジュールデータが起動中である間、つまり左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示されるまでの間においては、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理において、図１０２に示した接続回復処理を実行しても、この接続回復処理におけるステップＳ１５４０の判定で、そのままルーチンを強制的に終了するようになっている。

【１０８１】

これにより、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示されるまでの間においては、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０でないときであっても、つまり周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間（つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続）に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回でもある場合であっても、接続回復処理におけるステップＳ１５４６のＳＹＮＣパターン出力処理を行わず、トランスミッタとレシーバとの間の接続を回復する処理を行わないようになっているし、接続回復処理におけるステップＳ１５４８の通信エラー表示処理を行わず、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージが表示されないようになっているため、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号を無効化するとともに、扉枠側演出表示装置４６０は、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データに基づいて画像を表示する。

【１０８２】

遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示されると（タイミングＫ１）、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理において、図７３に示した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータに沿って演出が完了してポインタの更新がすべて終了しているため、つまりスケジューラ更新処理において、画面生成用スケジュールデータが未起動であり、画面生成用スケジュールデータが未起動である間においては、図９５に示した周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０２４の警告処理の一処理として実行する図１０２に示した接続回復処理におけるステップＳ１５４０の判定で、同処理におけるステップＳ１５４２の処理へ進み、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０であるとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回もないときには、そのままルーチンを終了する一方、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０でないとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回でもあったときには、同処理におけるステップＳ１５４４の処理へ進み、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値が値０であるとき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、同処理におけるステップＳ１５４６の処理へ進み、上述したＳＹＮＣパターン出力処理を行い、ルーチンを終了する一方、通信異常フラグＣＣ－ＦＬＧの値が値０でない（値１である）とき、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生しているときには、同処理におけるステップＳ１５４８の処理へ進み、上述した通信エラー表示処理を行い、ルーチンを終了する。換言すると、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が停止表示されている間においては、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態が１回でもある場合であって、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、ＳＹＮＣパターン出力処理を必ず行うことにより、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を回復する処理を行う一方、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達しているとき（つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生している）には、通信エラー表示処

理を必ず行うことにより、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージを表示して報知する処理を行うようになっており、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号を有効化している。

【１０８３】

遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示され、再び左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されるまでのインターバル期間においては、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が停止表示されている間であるため、上述したように、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号が有効化され、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態が１回でもある場合であって、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、ＳＹＮＣパターン出力処理を必ず行うことにより、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０との接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を回復する処理を行う一方、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達しているとき（つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に確実に不具合が発生している）には、通信エラー表示処理を必ず行うことにより、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージを表示して報知する処理を行うようになっている。

【１０８４】

再び左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されると（タイミングＫ２）、上述したように、画面生成用スケジュールデータが起動中であるため、左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が停止表示される（タイミングＫ３）までの間においては、通信チェックカウンタＣＣ－ＣＮＴの値が値０でないときであっても、つまり周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間（つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続）に不具合が発生している状態であると判定した回数が１回でもある場合であっても、接続回復処理におけるステップＳ１５４６のＳＹＮＣパターン出力処理を行わず、トランスミッタとレシーバとの間の接続を回復する処理を行わないようになっているし、接続回復処理におけるステップＳ１５４８の通信エラー表示処理を行わず、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージが表示されないようになっているため、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号を無効化するとともに、扉枠側演出表示装置４６０は、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データに基づいて画像を表示する。

【１０８５】

このように、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示され、再び左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の変動表示が開始されるまでのインターバル期間においては、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号が有効化される一方、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右

側装飾図柄の変動表示が開始されて停止表示されるまでの間においては、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであることを伝える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０からのＬＯＣＫＮ信号が無効化されるようになっている。これは、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域において左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄の停止表示される組み合わせ結果が遊技者には最も関心のある情報であり、遊技者に利益が付与される大当り遊技状態が発生するか否かを遊技者が判断することができるため、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が変動表示されると、左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄が停止表示されるまでは、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域に描画される演出の画像がノイズの影響等により乱れて正しく描画できない状態となったとしても、途中で演出を中断し、正しく描画できる状態に回復する処理を行うのではなく、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に左側装飾図柄、中央装飾図柄、及び右側装飾図柄を停止表示させることにより、遊技者の最も関心のある情報を描画完了させている。

【１０８６】

この点においては、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データを、周辺制御基板１５１０に備える差動化回路１５１２ｅに送信する場合と大きく異なっている。このＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから送信されるものであって、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置４６０の動作確認要求として送信されるものである。

【１０８７】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データが周辺制御基板１５１０に備える差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化されると、上述したように、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が周辺制御基板１５１０に備える強制切替回路１５１２ｆに入力される。強制切替回路１５１２ｆは、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、その２つの信号を伝送するように回路接続するため、その２つの信号が、周辺制御基板１５１０から扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される。そして演出表示駆動基板４４５０に備える液晶モジュール回路４４５０Ｖの扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、受信したその２つの信号がＬＯＣＫＮ信号出力要求データであると判断したときには、そもそも、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、上述したように、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号とデータ形式が異なる構造であるため、異常なデータであると判断され、ＬＯＣＫＮ信号を周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力する。これにより、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データの送信に対する応答信号として、ＬＯＣＫＮ信号が入力されているときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していないとして演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していないと判断することができる一方、ＬＯＣＫＮ信号が入力されていないときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していると判断して、その旨を伝える報知画像（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、その旨を伝える報知音（例え

ば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しています。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御してオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力することにより扉枠３に設けたスピーカ等から報知音が流れる。これにより、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示される報知画像と、扉枠３に設けたスピーカ等から繰り返し流れる報知音と、により報知を行うことができるようになっている。このとき、扉枠３に備える発光装飾用のＬＥＤや遊技盤５に備える各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤをすべて点灯してもよい。

【１０８８】

このように、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、シリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データを送信すると、強制切替回路１５１２ｆがＬＯＣＫＮ信号出力要求データを扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信することができるように回路接続し、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データを受信した扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が応答信号として扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０のＬＯＣＫＮ端子からＬＯＣＫＮ信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力するようになっているため、ＬＯＣＫＮ信号が入力されているときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していないとして扉枠側演出表示装置４６０に不具合が発生していないと判断することができる一方、ＬＯＣＫＮ信号が入力されていないときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして扉枠側演出表示装置４６０に不具合が発生していると判断することができる。そして、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、扉枠側演出表示装置４６０に不具合が発生していると判断したときには報知処理として、図１０２の接続回復処理におけるステップＳ１５４８の通信エラー表示処理を実行することができるようになっている。換言すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、扉枠側演出表示装置４６０の不具合を発見すると、その旨を、報知処理を実行することにより、ホールの店員等に報知することができるようになっているため、ホールの店員等は、遊技者が遊技を行う前に、扉枠側演出表示装置４６０に不具合が発生しているか否かを極めて簡単にチェックすることができ、そのチェックに手間がかからないようになっている。したがって、扉枠側演出表示装置４６０の不具合を手間をかけずに発見することができる。

【１０８９】

また、ＬＯＣＫＮ信号は、上述したように、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０が、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する信号であり、具体的には、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続を確認（回復）するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を送信要求するために出力する信号であるため、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから送信される画像を正常に受信できないときには扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄとの画像通信間において通信不具合が発生して受信した描画データが異常なデータとなる旨を伝えるために、ＬＯＣＫＮ信号を周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力することができるようになっている。これにより、ＬＯＣＫＮ信号が入力される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０へ送信開始する旨を伝える接続確認信号を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに出力することにより、画像通信間における通信不具合を解消させることができるようになっている。換言すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、画像通信間における通信不具合による扉枠側演出表示装置４６０の不具合を早期に発見して、その不具合を解消させるように扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに働きかけることができるようになっている。したがって、扉枠側演出表示装置４６０の不具合を発見して解消することにより遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【１０９０】

更に、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから送信される画像を受信して扉枠側演出表示装置４６０に出力する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから送信される画像を正常に受信できないときには扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄとの画像通信間において通信不具合が発生している旨を伝える通信不具合発生信号であるＬＯＣＫＮ信号を演出制御マイクロプロセッサである周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力することができるようになっているため、ＬＯＣＫＮ信号が入力される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して通信不具合が発生している旨を伝える画像である「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」というメッセージを生成し、この生成した画像を遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示して報知することができるようになっている。換言すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、画像通信間における通信不具合による扉枠側演出表示装置４６０の不具合を早期に発見して、その旨を、パチンコ機１の前面に着座する遊技者に報知してその遊技者がホールの店員等に伝えたり、パチンコ機１の前をたまたま通りかかったホールの店員等に直接報知することができるようになっているため、ホールの店員等は、その不具合が発生して早い段階でその不具合を解消するための作業に取り掛かることができる。したがって、扉枠側演出表示装置４６０の不具合を早期発見して解消することにより遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【１０９１】

更にまた、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、タイミングＫ１～タイミングＫ２の期間（インターバル期間）において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態が１回でもある場合であって、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、ＬＯＣＫＮ信号を有効化して画像通信間における通信不具合を解消するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に送信開始する旨を伝える接続確認信号を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに、その累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達するまで、繰り返し出力し続けることができるようになっている。これにより、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において第一特別図柄又は第二特別図柄遊技を変動開始して停止表示して遊技の進行を実行していない期間に限って、繰り返し接続確認信号を出力し続けることができるため、通信不具合が解消される方向へ向かわせることができる。

【１０９２】

そして、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、タイミングＫ１～タイミングＫ２の期間（インターバル期間）において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態が１回でもある場合であって、トランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生している状態であると判定した累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達していないときには、ＬＯＣＫＮ信号を有効化して画像通信間における通信不具合を解消するための所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に送信開始する旨を伝える接続確認信号を扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに、その累積回数が累積回数上限値ＣＣ－ＬＭＴに達するまで、繰り返し出力し続けている際に、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において第一特別図柄又は第二特別図柄遊技を変動開始して遊技の進行を再び実行開始したときには接続確認信号の出力を停止し、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１

２ｄは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力される接続確認信号が停止されて接続確認信号が入力されなくなると、所定のデータパターン（ＳＹＮＣパターン）を扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に送信するのを停止して液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが生成する画像を扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０に出力することができるようになっている。これにより、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において第一特別図柄又は第二特別図柄遊技を変動開始して停止表示して遊技の進行を実行していない期間に限って、繰り返し不具合解消信号である接続確認信号を出力し続けることにより、通信不具合が解消される方向へ向かわせることができるようになっているため、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において第一特別図柄又は第二特別図柄遊技を変動開始して停止表示して遊技の進行を実行していない期間に限って、繰り返し接続確認信号を出力し続けている際に、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが第一特別図柄表示器１４０３又は第二特別図柄表示器１４０５において第一特別図柄又は第二特別図柄遊技を変動開始して遊技の進行を再び実行開始したとしても、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面において進行する演出の歪み（画像の乱れ）は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａが遊技の進行を再び実行開始して終了するごと（タイミングＫ１～タイミングＫ２の期間（インターバル期間）となるごと）に、解消する方向へ向かわせることができる。

【１０９３】

以上のような実施形態によれば、パチンコ機１が図６９の主制御基板１３１０及び図７０の払出制御基板９５１を備えている。主制御基板１３１０は、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに向かって打球発射装置６５０によって発射される遊技球が遊技領域５ａに設けられる始動領域である第一始動口２００２や第二始動口２００４に入球したことに基づいて遊技の進行を制御する遊技制御マイクロプロセッサである図６９の主制御ＭＰＵ１３１０ａが実装されている。払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０からの払出指令である図８８（ａ），（ｂ）の賞球コマンドに基づいて払出装置８３０による遊技球の払い出しを制御する払出制御マイクロプロセッサである図７０の払出制御ＭＰＵ９５２ａが実装されている。

【１０９４】

遊技制御マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａは、少なくとも、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭ（主制御内蔵ＲＡＭ）を備えている。主制御内蔵ＲＡＭは、電源遮断後においても遊技に関する情報を記憶することができるようになっている。

【１０９５】

払出制御マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａは、少なくとも、払出制御ＭＰＵ９５２ａに内蔵されているＲＡＭ（払出制御内蔵ＲＡＭ）を備えている。払出制御内蔵ＲＡＭは、電源遮断後においても払い出しに関する情報を記憶することができるようになっている。

【１０９６】

本実施形態のパチンコ機１は、さらに、図７０の操作スイッチ９５４を備えている。操作スイッチ９５４は、電源投入時から図９２の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ１６の判定処理が行われる期間内に操作されると、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技に関する情報を消去するための図７７のＲＡＭクリア信号を遊技制御マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａ出力するとともに、電源投入時から払出制御部電源投入時処理が行われる期間内に操作されると、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払い出しに関する情報を消去するためのＲＡＭクリア信号として図８２のＲＷＭＣＬＲ信号を払出制御マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａに出力するＲＡＭクリア機能と、電源投入時から図９２の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ１６の判定処理が行われる期間（又は、電源投入時から払出制御部電源投入時処理が行われる期間）が経過

した後に操作されると、払出装置８３０に関して発生したエラーを解除するためのエラー解除信号として図８２のＲＷＭＣＬＲ信号を遊技制御マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａに出力せずに払出制御マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａに出力するエラー解除機能と、を兼備するものである。

【１０９７】

このように、操作スイッチ９５４は、電源投入時から図９２の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ１６の判定処理が行われる期間内に操作されると、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技に関する情報を消去するための図７７のＲＡＭクリア信号を遊技制御マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａに出力するとともに、電源投入時から払出制御部電源投入時処理が行われる期間内に操作されると、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払い出しに関する情報を消去するためのＲＡＭクリア信号として図８２のＲＷＭＣＬＲ信号を払出制御マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａに出力するＲＡＭクリア機能と、電源投入時から図９２の主制御側電源投入時処理におけるステップＳ１６の判定処理が行われる期間（又は、電源投入時から払出制御部電源投入時処理が行われる期間）が経過した後に操作されると、払出装置８３０に関して発生したエラーを解除するためのエラー解除信号として図８２のＲＷＭＣＬＲ信号を遊技制御マイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａに出力せずに払出制御マイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａに出力するエラー解除機能と、を兼備しているため、１つの操作スイッチ９５４による操作により、ＲＡＭクリア機能とエラー解除機能との２つの異なる機能をそれぞれパチンコ機１に設けることができる。したがって、コスト削減に寄与しながらＲＡＭクリア機能及びエラー解除機能を設けることができる。

【１０９８】

［パネル中継基板４１６１のセンサ信号入力部］

パネル中継基板４１６１のセンサ信号入力部は、遊技盤に配された各種検出センサ、例えば、一般入賞口センサ４０２０、第一始動口センサ４００２、第二始動口センサ４００４、カウントセンサ４００５、振動検出センサ、磁気検出センサ４０２４等からの検出信号が入力される回路である。各検出センサからの検出信号が入力される回路構成は、同一であるため、ここでは、検出センサの一例として磁気検出センサ４０２４を挙げ、磁気検出センサ４０２４からの検出信号が入力される回路について説明する。

【１０９９】

遊技機において、遊技領域に打ち込まれた遊技球に対し、磁石（例えば、永久磁石や電磁石）を近づける等して、遊技球の流下状態を欲しいがままに操り、不当な利益を得ようとする不正な遊技行為が後を絶たない。

【１１００】

このような不正な遊技行為を検知し、発光手段や音声による警報等によって不正行為を抑制するために、遊技領域の所定位置に対応させて、磁気を検出可能な磁気検出センサ４０２４が設けられている。

【１１０１】

以下、この実施の形態にかかるパチンコ機１において、遊技進行や演出にかかる制御について総括する。

【１１０２】

上述の通り、主制御基板１３１０は、パチンコ機１全体を制御するための各種処理を実行するとともに、該処理結果に応じた各種の制御信号（制御コマンド）を出力する。また、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０が出力した制御信号（制御コマンド）に基づいて、演出表示装置１６００の表示態様（図柄、各種背景画像、文字、キャラクタなどの表示画像など）や、演出に寄与する各種部材（演出操作ユニット４００や可動部材など）の表示態様や動作態様を制御する。

【１１０３】

特に、主制御基板１３１０では、割込処理が行われる都度、特別図柄プロセス処理を行う。この特別制御処理では、まず、第一・第二始動口入賞処理を行う。この第一・第二始

動口入賞処理では、始動口に遊技球が入賞したか否かの判断が行われ、入賞した旨判断したときには該当する特別図柄側の保留数を１増加させる処理などが行われる。

【１１０４】

第一・第二始動口入賞処理を終えたとき、処理フラグが０であれば、変動開始処理を実行する。この変動開始処理では、保留数が１以上であることを条件に、保留状態にある大当り判定を消化してこれを実行し、この大当り判定（当落や、その種別など）の結果を記憶した後、処理フラグを「１」に更新する。

【１１０５】

一方、第一・第二始動口入賞処理を終えたとき、処理フラグが１であれば、変動パターン設定処理を実行する。この変動パターン設定処理では、上記記憶した大当り判定の結果や現在の遊技状態などに基づいて第一特別図柄表示器または第二特別図柄表示器に表示される特別図柄（識別図柄）の変動パターン（特別図柄の変動表示を開始してから停止表示するまでの変動時間など）や停止図柄（大当り図柄やハズレ図柄など）を決定・設定した後、処理フラグを「２」に更新する。

【１１０６】

また一方、第一・第二始動口入賞処理を終えたとき、処理フラグが２であれば、変動中処理を実行する。この変動中処理では、変動パターン設定処理にて決定・設定された変動時間をタイマにより監視し、タイムアウトしたことに基づいて第一特別図柄表示器または第二特別図柄表示器における特別図柄の変動表示を停止させる。そしてこの後、変動開始処理にて記憶した大当り判定の結果が大当りであるときには、処理選択フラグを「３」に更新し、変動開始処理にて記憶した大当り判定の結果が大当りでないとき（ハズレ）には、処理選択フラグを「０」に更新する。すなわちこの場合、次の割込処理では、変動開始処理から再びやり直すこととなる。

【１１０７】

また一方、第一・第二始動口入賞処理を終えたとき、処理フラグが３であれば、大当り遊技処理を実行する。この大当り遊技処理では、大当り遊技を実行するための条件の一つである条件装置を作動させて、当選した大当りの種別に基づいて決定された大当り遊技の態様（例えばラウンド数）をセットし、これに基づいて開閉部材２１０６にかかる開閉動作が制御される。また、大当り遊技が終了する場合には、条件装置の作動を停止させる処理を行ったり、当選した大当りの種別が特別種別であるときには時短状態や確変状態などの有利状態に制御されていることを示すように遊技状態フラグの更新を行った後、処理フラグが「０」に更新される。すなわちこの場合、次の割込処理では、変動開始処理から再びやり直すこととなる。

【１１０８】

なお、変動パターンとしては、複数種類の変動パターンが記憶されている。変動パターンは、特別図柄の図柄変動が開始してから終了するまでの時間を決定付けるものであるほか、周辺制御基板１５１０に対してその情報が送信されることで、演出表示装置１６００において現れる演出パターンの種類を決定しうるものである。本実施形態において、複数種類の変動パターンは、大当り変動用変動パターン、はずれリーチ変動用変動パターン、及びはずれ変動用変動パターンに分類できる。大当り変動は、大当り判定の結果が大当りであるときに行われる変動であり、演出表示装置１６００では、リーチ演出を経て、装飾図柄の変動表示が最終的に大当り図柄を確定停止表示させるように展開される演出が実行される。はずれリーチ変動は、大当り判定の結果がハズレであり、且つリーチ乱数に基づくリーチ判定にてリーチを行う旨判断されたときに行われる変動であり、演出表示装置１６００では、リーチ演出を経て、装飾図柄の変動表示が最終的にはずれ図柄を確定停止表示させるように展開される演出が実行される。はずれ変動は、大当り判定の結果がハズレであり、且つリーチ乱数に基づくリーチ判定にてリーチを行う旨判断されなかったときに行われる変動であり、演出表示装置１６００では、リーチ演出を経ないで、装飾図柄の変動表示が最終的にはずれ図柄を確定停止表示させるように展開される演出が実行される。また、変動パターンは、第１特別図柄側と第２特別図柄側とのいずれの変動パターンであ

るかを特定可能なように規定されている。
【１１０９】
すなわち、周辺制御基板１５１０では、主制御基板１３１０から大当り判定の結果などの遊技情報を取得してこれを参照することで、こうした装飾図柄の変動パターンを出現可能としている。また、周辺制御基板１５１０では、該取得した遊技情報に基づいて演出表示装置１６００にて装飾図柄の変動パターンを出現させるほか、期待度に関わる演出表示（背景や保留画像）を変化させたり、演出操作ユニット４００における態様（表示や動き）を変化させたり、裏下後可動演出ユニット３１００などの可動部材を動作させたりする制御を実行する。
【１１１０】
次に、本実施例におけるパチンコ機１の遊技制御について詳述する。図１０４は、特別図柄及び特別電動役物制御処理（図９４：ステップＳ１１４）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１１１】
いま、メイン制御プログラムにおいて、特別図柄及び特別電動役物制御処理（図９４：ステップＳ１１４）に移行されたとすると、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａはまず、図１０４に示されるように、上記第一始動口センサ４００２による検出信号がオン状態（第一始動口２００２への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ５２３１におけるＹＥＳ）、第一大当り判定用乱数を上記乱数カウンタから取得してこれを主制御内蔵ＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップＳ５２３２）。また、上記第二始動口センサ４００４による検出信号がオン状態（第二始動口２００４への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ５２３３におけるＹＥＳ）、第二特別図柄の第二特別乱数（第二大当り判定用乱数）を上記乱数カウンタから取得してこれを主制御内蔵ＲＡＭの第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップＳ５２３４）。
【１１１２】
次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し（ステップＳ５２３５）、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理（ステップＳ５２４０ａ）を実行する。
【１１１３】
なお、この実施の形態にかかる大当り制御処理では、図１１０に示されるように、
・第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての判定処理の結果が「８Ｒ確変大当りＡ」、及び「８Ｒ通常大当り」のいずれかを示唆する態様となったときに、大入賞口２００５を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を８回繰り返す８Ｒ大当り遊技状態に制御し、
・第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての判定処理の結果が「１６Ｒ確変大当り」を示唆する態様となったときに、大入賞口２００５を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を１６回繰り返す１６Ｒ大当り遊技状態に制御し、
・第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての判定処理の結果が「８Ｒ確変大当りＢ」を示唆する態様となったときに、大入賞口２００５を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２００５に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を８回繰り返す８Ｒ大当り遊技状態に制御し、
・第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての判定処理の結果が「２Ｒ通常大当り」を示唆する態様となったときに、大入賞口２００５を短時間開放（例えば０．６秒）した後に閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を２回繰り返す２Ｒ大当り遊技状態に制御する。

【１１１４】
すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上記時短制御が実行される状況においては左打ちよりも右打ちが遊技者にとって有利であり、上記時短制御が実行されない状況においては右打ちよりも左打ちが遊技者にとって有利であることは上述した通りである。この点、左打ち状態では、第一始動口２００２への遊技球の受け入れに応じた第一特別図柄についての抽選の結果として大当りが当選されたとしても最大で８ラウンドの長時間開放の大当り遊技状態（概ね１０００個の遊技球が獲得可能）しか発生しない。
【１１１５】
これに対し、右打ち状態では、第二始動口２００４への遊技球の受け入れに応じた第二特別図柄についての抽選において、大当りが当選されると、概ね５０％の確率（当選種の割り振り率）で１６ラウンドの長時間開放の大当り遊技状態（概ね２０００個の遊技球が獲得可能）が実行されるようになっているなど、大当りに当選したときに獲得可能とされる賞球の期待値が多くなっているため、右打ち状態に移行制御された場合には左打ち状態にあるときよりも多量の賞球獲得が期待できるようになっている。
【１１１６】
なお、大当り制御処理では、このような大入賞口２００５の開放制御を開始させるにあたり、まず、条件装置の作動を開始させる処理、後述の変動回数カウンタをリセットする処理、等々といった処理が行われる。
【１１１７】
また、大当り制御処理では、このような大入賞口２００５の開放制御を行った後、図１１０に示されるように、当該大当り遊技が行われる契機となった大当りの当選種に応じて、高確率フラグ、時短フラグの各セット処理を実行する。
【１１１８】
高確率フラグは、高確率状態であることを示すフラグであって、後述する図１０９に示す大当り判定処理で用いられるものであり、大当り遊技状態終了後に確変制御する大当り（８Ｒ確変大当りＡ、１６Ｒ確変大当り、８Ｒ確変大当りＢ）に基づく大当り遊技状態を終了するときにセットされ、次に大当りとなったときに後述する図１１４に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。
【１１１９】
時短フラグは、時短制御の実行中（低確率時短状態、高確率時短状態）であることを示すフラグであり、図１１０に示されるように、大当り遊技状態終了後に時短制御（高確率時短状態）する大当り（８Ｒ確変大当りＡ、１６Ｒ確変大当り、８Ｒ確変大当りＢ）に基づく大当り遊技状態を終了するときにセットされ、次に大当りとなったときに後述する図１１４に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。若しくは、低確率時短状態が発生してから大当りに当選しないままで特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）が１００回消化されたときに後述する図１１４に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。
【１１２０】
変動回数カウンタは、該変動回数カウンタがリセットされてからの特別図柄の変動回数を示すカウンタであって、後述する図１１２に示す第１変動パターン設定処理（第２変動パターン設定処理）で用いられるものであり、特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動が行われるときに更新（例えば、カウントアップ）されるとともに、少なくとも特定種別の大当り（１６Ｒ確変大当り、８Ｒ確変大当りＢ）に基づく大当り遊技状態を開始するときにリセットされる。
【１１２１】
また、大当り実行中フラグがセットされていなければ（ステップＳ５２３５におけるＮＯ）、次にステップＳ５２３６の処理として、小当り遊技状態に制御している旨を示す小当り実行中フラグがセットされているか否かを判別する。そしてこの結果、小当り実行中フラグがセットされていれば、小当り遊技状態の制御を行う小当り制御処理（ステップＳ５２４０ｂ）を実行する。なお、小当り制御処理では、大入賞口２００５を特定の開放時

間（例えば１．８秒）だけ開放させる処理が行われる。
【１１２２】
ここで、小当り制御処理（ステップＳ５２４０ｂ）では、大当り制御処理（ステップＳ５２４０ａ）の場合とは異なり、このような大入賞口２００５の開放制御が行われた後、高確率フラグ、時短フラグ、時短回数カウンタなどの各セット処理が行われることはない。ただし、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、図１１０（ａ）に示されるように、大当り判定にて小当りに当選することはない。
【１１２３】
また、小当り実行中フラグがセットされていなければ（ステップＳ５２３６におけるＮＯ）、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二大当り判定用乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」であることを条件に（ステップＳ５２３７）、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ５２３８）。
【１１２４】
これに対し、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二大当り判定用乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」でない場合は（ステップＳ５２３７）、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ５２３９）。これにより、保留状態にされている第二特別図柄についての抽選が無くならないように遊技している限りは（第二特別保留数カウンタの値が「０」でない限りは）、第一特別図柄についての抽選の保留状況にかかわらず、第二大当り判定用乱数についての抽選のみが途切れることなく連続して行われるようになる（優先実行）。
【１１２５】
したがって、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者は、時短状態（高確率時短状態）においてはセンター役物２５００の右側への遊技球の打込み（右打ち）を維持するだけで、第二大当り判定用乱数についての抽選（判定処理）のみを途切れることなく連続して行うことができるようになる。
【１１２６】
なお、第２特図（第二特別図柄）を用いた特図ゲーム（図柄変動）が第１特図（第一特別図柄）を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるものに限定されず、例えば、第一始動口２００２や第二始動口２００４を遊技球が進入（通過）して始動入賞が発生した順に、特図ゲームの実行が開始されるようにしてもよい。この場合には、始動入賞が発生した順番を特定可能なデータを記憶するテーブルを設けて、その記憶データから第１特図と第２特図のいずれを用いた特図ゲームの実行を開始するかを決定できればよい。
【１１２７】
図１０５は、上記第一始動口通過処理（ステップＳ５２３２）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１２８】
いま、上記ステップＳ５２３１の処理において、上記第一始動口センサ４００２がオン状態にあり、上記第一始動口２００２への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１０５に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５２４１の処理として、まず、第一特別図柄側の各乱数（大当り判定用乱数、リーチ判定用乱数、大当り図柄用乱数、変動表示パターン用乱数）を上記乱数カウンタから取得する。
【１１２９】
次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第一特別図柄の保留数がその最大値（上限値）である「４」であるか否かの判断を行う（ステップＳ５２４２）。このステップＳ５２４２の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示（第一特別

図柄についての判定処理）を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ５２４３～Ｓ５２４５の処理を行うこととなる。

【１１３０】

すなわち、まず、上記ステップＳ５２４３の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ５２４４の処理として、上記ステップＳ５２４１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第一特別図柄保留記憶領域に格納する。

【１１３１】

そして次に、第１特図側の先読み演出を実行するための第１特図先読み処理を実行し、処理を終了する（ステップＳ５２４５）。後述するが、第１特図側の先読み演出は、第一特別図柄の変動表示を開始する前に第一特別図柄の判定結果（若しくは、その期待度）を事前に示唆する演出である。この第１特図先読み処理では、周辺制御基板１５１０側で先読み演出の実行有無や演出内容などを決定するために必要とされる情報（先読み判定用の当落に関する情報、先読み判定用の図柄種別に関する情報、先読み判定用の変動パターン番号に関する情報等）を生成し、周辺制御基板１５１０に対する送信情報として対応する記憶領域に記憶する。この際、第一特別図柄の判定結果そのものの代わりに、大当り遊技の種別を示唆している情報として特別図柄の停止図柄に関する情報をコマンドに含めるようにしてもよい。例えば、変動パターンのうちのＳＰリーチ群、ノーマルリーチ群、図柄種別のうちの潜確当り群、小当り群といった、最終的に決定される前の段階の情報を先読みコマンドとして送信してもよい。

【１１３２】

一方、上記ステップＳ５２４２の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ５２４３～ステップＳ５２４５の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示を新たに保留の状態としない。

【１１３３】

図１０６は、上記第二始動口通過処理（ステップＳ５２３４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１３４】

いま、上記ステップＳ５２３３の処理において、上記第二始動口センサ４００４がオン状態にあり、上記第二始動口２００４への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１０６に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５２５１の処理として、まず、上記第二特別図柄側の各乱数（第二大当り判定用乱数、第二リーチ判定用乱数、第二大当り図柄用乱数、第二変動表示パターン用乱数）を上記乱数カウンタから取得する。

【１１３５】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第二特別図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う（ステップＳ５２５２）。このステップＳ５２５２の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御（第二特別図柄についての抽選）を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ５２５３～Ｓ５２５５の処理を行うこととなる。

【１１３６】

すなわち、まず、上記ステップＳ５２５３の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ５２５４の処理として、上記ステップＳ５２５１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。

【１１３７】
そして次に、第２特図側の先読み演出を実行するための第２特図先読み処理を実行し、処理を終了する（ステップＳ５２５５）。後述するが、第２特図側の先読み演出は、第二特別図柄の変動表示を開始する前に第二特別図柄の判定結果（若しくは、その期待度）を事前に示唆する演出である。この第２特図先読み処理では、周辺制御基板１５１０側で先読み演出の実行有無や演出内容などを決定するために必要とされる情報（当落情報、図柄種別、変動パターン番号等）を生成し、周辺制御基板１５１０に対する送信情報として対応する記憶領域に記憶する。この際、第二特別図柄の判定結果そのものの代わりに、大当り遊技の種別を示唆している情報として特別図柄の停止図柄に関する情報をコマンドに含めるようにしてもよい。例えば、変動パターンのうちのＳＰリーチ群、ノーマルリーチ群、図柄種別のうちの潜確当り群、小当り群といった、最終的に決定される前の段階の情報を先読みコマンドとして送信してもよい。
【１１３８】
一方、上記ステップＳ５２５２の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ５２５３～ステップＳ５２５５の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。
【１１３９】
第一始動口２００２へ遊技球が入球したことに基づいて第一特別図柄の保留数が変化すると上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第一特別図柄の保留数を指示するコマンド（第一保留数指定コマンド０～４）をセットして周辺制御基板１５１０に送信する。また、第二始動口２００４へ遊技球が入球したことに基づいて第二特別図柄の保留数が変化すると上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第二特別図柄の保留数を指示するコマンド（第二保留数指定コマンド０～４）をセットして周辺制御基板１５１０に送信する。
【１１４０】
図１０７は、第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ５２３８）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄及び特別電動役物制御処理のステップＳ５２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄及び特別電動役物制御処理のステップＳ５２３９で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄及び特別電動役物制御処理のステップＳ５２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上記第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理のうち１つを選択的に実行することとなる。
【１１４１】
１．主制御内蔵ＲＡＭに格納されている第一特別図柄に対応する大当り判定用乱数を読み出し、読み出した大当り判定用乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップＳ５２８０）
【１１４２】
２．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての判定処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ５２８１）
【１１４３】
３．変動表示パターン用乱数に基づいて上記第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記演出表示装置（遊技盤側演出表示装置）１６００に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップＳ５２８２）
【１１４４】
４．第一特別図柄表示器１４０３における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるま

で待機する第一特別図柄変動処理（ステップＳ５２８３）
【１１４５】
５．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての判定処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記第一特別図柄表示器１４０３に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップＳ５２８４）
【１１４６】
なお、上記第一特別図柄プロセスフラグの初期値は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ５２８０）を行うべき旨を示すよう操作されている。
【１１４７】
図１０８は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ５２８０）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１４８】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図１０８に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ５３０１の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示があると判断された場合には、次にステップＳ５３０２の処理として、上記主制御内蔵ＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一大当り判定用乱数、第一リーチ判定用乱数、第一大当り図柄用乱数、第一変動表示パターン用乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同主制御内蔵ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ５３０３及びＳ３０４の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御内蔵ＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（例えば、第一大当り判定用乱数、第一リーチ判定用乱数、第一大当り図柄用乱数、第一変動表示パターン用乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。
【１１４９】
具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は４つの記憶領域（第一特別図柄保留記憶領域ａ～第一特別図柄保留記憶領域ｄ）を有し、第一始動口２００２への始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示の保留が解除されるようになる。同様に第二特別図柄保留記憶領域は４つの記憶領域（第二特別図柄保留記憶領域ａ～第二特別図柄保留記憶領域ｄ）を有し、第二始動口２００４への始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第二特別図柄の変動表示の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示の保留が解除されるようになる。
【１１５０】
そしてその後、ステップＳ５３０５の処理として、上記読み出された第一大当り判定用

乱数に基づいて上記大当りの当落についての判定処理である大当り判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ５２８１）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ５３０６）、この処理を終了する。

【１１５１】

図１０９は、上記大当り判定処理（ステップＳ５３０５）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１５２】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が高確率状態（高確率時短状態、高確率非時短状態）であれば（ステップＳ５３１１）、図１１０（Ａ）に示す高確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ５３１２）、現在の遊技状態が低確率状態であれば（ステップＳ５３１１）、図１１０（Ａ）に示す低確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ５３１３）、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ５３０２で読み出した大当り判定用乱数とを比較する（ステップＳ５３１４）。

【１１５３】

図１１０（Ａ）に示すように大当り判定テーブルは、上記主制御内蔵ＲＯＭに記憶され、特別乱数の種類毎（第一大当り判定用乱数、第二大当り判定用乱数）に遊技状態が低確率時（低確率非時短状態、低確率時短状態）の場合に使用する低確率時の大当り判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率非時短状態、高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当り判定テーブルと、を備えている。そして、第一大当り判定用乱数と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルでは、２０４種類の第一大当り判定用乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、６５３３２種類の第一大当り判定用乱数が上記ハズレであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第一大当り判定用乱数（６５５３６種類）がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率；概ね「３２１分の１」）。これに対し、特別図柄及び特別電動役物制御処理のステップＳ５２３９で実行される第二特別図柄プロセス処理内において第二特別図柄の大当り判定用乱数（第二大当り判定用乱数）と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルでは、２０４種類の第二大当り判定用乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、６５３３２種類の第二大当り判定用乱数が上記ハズレであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二大当り判定用乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率；概ね「３２１分の１」）。

【１１５４】

また、第一大当り判定用乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルでは、２０４０種類の第一大当り判定用乱数が大当り判定値と一致し、６３４９６種類の第一大当り判定用乱数がはずれ判定値と一致するように上記第一大当り判定用乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率；概ね「３２分の１」）。これに対し、特別図柄及び特別電動役物制御処理のステップＳ５２３９で実行される第二特別図柄プロセス処理内において第二大当り判定用乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルでは、２０４０種類の第二大当り判定用乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、６３４９６種類の第二大当り判定用乱数が上記ハズレであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二大当り判定用乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率；概ね「３２分の１」）。なお、第一大当り判定用乱数と比較するために参照される大当り判定テーブルと、第二大当り判定用乱数と比較するために参照される大当り判定テーブルに設定される大当り判定値（大当り判定値の個数を同数として大当り判定値を異ならせるものであってもよいし（大当り確率は同一）、大当り判定値の個数を異ならせるものであってもよい（大当り確率を異ならせる））を異ならせるようにしてもよく、この場合には低確率時の大当り判定テーブルと高確率時の大当り判定テーブルのうち少なくとも一方の大当り判定値を異ならせるようにすればよい（両方異ならせるようにしてもよい）。

【１１５５】
上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ５３０２で読み出した大当り判定用乱数との比較の結果、大当りとすると判定した場合には（ステップＳ５３１５）、当該変動が大当りに当選していることを示す大当りフラグをセットし（ステップＳ５３１６）、大当り判定処理を終了する。
【１１５６】
また、上記ステップＳ５３１５で、大当りに落選した旨判断された場合は、選択した大当り判定テーブルに基づいて、上記読み出した大当り判定用乱数が小当りに当選したことを示す小当り判定値と一致するか否かの判断を行う（ステップＳ５３１７）。ただし上述の通り、本例の第一特別図柄通常処理（第二特別図柄プロセス処理）のステップＳ５３０２においては小当り判定値と一致する大当り判定用乱数が読み出されることはないので（小当り確率；６５５３６分の０）、このステップＳ５３１７では、小当りに当選されていない旨判断される（ハズレ判定される）こととなる。
【１１５７】
一方、上記ステップＳ５３１７で、ハズレとすると判定した場合には、リーチ判定テーブルとステップＳ５３０２で読み出したリーチ判定用乱数とを比較する（ステップＳ５３１９）。
【１１５８】
図示しないリーチ判定テーブルは、上記主制御内蔵ＲＯＭに記憶され、遊技状態が高確率非時短状態時の場合に使用する高確率非時短状態時のリーチ判定テーブルと、遊技状態が高確率時短状態時の場合に使用する高確率時短状態時のリーチ判定テーブルと、遊技状態が低確率状態時（低確率非時短状態）の場合に使用する低確率状態時のリーチ判定テーブルと、を備えている。
【１１５９】
ここで、高確率時短状態時のリーチ判定テーブルでは、１種類のリーチ判定用乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、７１種類のリーチ判定用乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ判定用乱数がそれぞれ関連付けされている。ただし、高確率時短状態時のリーチ判定テーブルでは、時短状態にあるときの遊技の進行スピードを最大限まで高めるべく、７２種類のリーチ判定用乱数の全てがリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するようにして、リーチすることを示すリーチ判定値と一致することがないようにしてもよい。
【１１６０】
また、低確率状態時のリーチ判定テーブルでは、高確率時短状態時のリーチ判定テーブルに設定されるリーチ判定用乱数と同一のリーチ判定用乱数を含む５種類のリーチ判定用乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、６７種類のリーチ判定用乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ判定用乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、この実施の形態では、低確率状態時では、リーチすることを示すリーチ判定値が高確率時短状態時よりも高められ、所定の確率で得られるようになっている。
【１１６１】
さらに、高確率非時短状態時のリーチ判定テーブルでは、高確率時短状態時及び低確率状態時のリーチ判定テーブルに設定されるリーチ判定用乱数と同一のリーチ判定用乱数を含む５種類のリーチ判定用乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、６７種類のリーチ判定用乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ判定用乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、この実施の形態では、高確率非時短状態時では、リーチすることを示すリーチ判定値が低確率非時短状態と同じとされている。
【１１６２】
上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択したリーチ判定テーブルと

ステップＳ５３０２で読み出したリーチ判定用乱数との比較の結果（ステップＳ５３１９）、リーチハズレとすると判定した場合には（ステップＳ５１２０におけるＹＥＳ）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップＳ５１２１）。

【１１６３】

図１１１は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ５２８１）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１６４】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１１１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記大当り判定処理（ステップＳ５３０５）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ５３３１）を判別することにより行う。

【１１６５】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５３３１で大当りフラグがセットされていれば、図１１０（Ｂ）に示す図柄決定テーブルを選択して、第一特別図柄通常処理のステップＳ５３０２で読み出した第一大当り図柄用乱数と選択した図柄決定テーブルとを比較することにより第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）としての大当り図柄を決定する（ステップＳ５３３２）。

【１１６６】

図１１０（Ｂ）に示すように、第一特別図柄側の図柄決定テーブルには、判定結果（８Ｒ確変大当りＡ，８Ｒ通常大当り）に対して第一大当り図柄用乱数（ここでは、総数２００個の第一大当り図柄用乱数）がそれぞれ関連付けされるかたちで記憶されている。なお、図１１０（Ｃ）に示すように、第二特別図柄側の図柄決定テーブルには、判定結果（１６Ｒ確変大当り，８Ｒ確変大当りＢ，２Ｒ通常大当り）に対して第二大当り図柄用乱数（ここでは、総数２００個の第二大当り図柄用乱数）がそれぞれ関連付けされるかたちで記憶されている。

【１１６７】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａでは、取得した大当り図柄用乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当りの種類を決定する。なお、本例の図柄決定テーブルでは、第一大当り図柄用乱数に基づいて決定される大当りの種類と第二大当り図柄用乱数に基づいて決定される大当りの種類とが異なるように設定している。より具体的には、高確率状態への移行契機となる確変大当りと、高確率状態への移行契機とならない通常大当りとの振分け率（割り振り）は同じとされているが、第一大当り図柄用乱数に基づいて決定される大当りによって獲得可能とされる遊技球の期待値よりも、第二大当り図柄用乱数に基づいて決定される大当りによって獲得可能とされる遊技球の期待値のほうが大きくなっている。

【１１６８】

大当りの種類毎の具体的な遊技・演出内容を簡潔にまとめると以下の通りである。

１．演出表示装置１６００において大当り図柄組合わせが現れてから、大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２１０３に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を８回繰り返すことで遊技球が大入賞口２１０３に入球可能（容易）な８Ｒ大当り遊技状態に制御し、この８Ｒ大当り遊技状態の後は、次に大当り遊技状態が発生するまで高確率時短状態に制御するとともに、８Ｒ大当り遊技状態の実行期間中は特定のキャラクタが勝利するバトル演出（バトル勝利演出）を行い、高確率時短状態においては相対的に有利な状態であることが演出表示装置１６００において示される演出モードに制御される８Ｒ確変大当りＡ

【１１６９】

２．演出表示装置１６００において大当り図柄組合わせが現れてから、大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２１０３に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を８回繰り返すことで遊技球が大入賞口２１０３に入球可能（容易）な８Ｒ大当り遊技状態に制御し、この８Ｒ大当り遊技状態の後は、特別図柄の変動表示が１００回消化される（若しくは、１００回消化されるまでの期間内で大当りに当選する）まで低確率時短状態に制御するとともに、８Ｒ大当り遊技状態の実行期間中は特定のキャラクタが敗北するバトル演出（バトル敗北演出）を行い、低確率時短状態においては、相対的に不利な状態であることが演出表示装置１６００において示される演出モードに制御される８Ｒ通常大当り

【１１７０】

３．演出表示装置１６００において大当り図柄組合わせが現れてから、大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２１０３に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を１６回繰り返すことで遊技球が大入賞口２１０３に入球可能（容易）な１６Ｒ大当り遊技状態に制御し、この１６Ｒ大当り遊技状態の後は、次に大当り遊技状態が発生するまで高確率時短状態に制御するとともに、１６Ｒ大当り遊技状態の実行期間中はラウンド数が８ラウンドを超えるか（１６ラウンドになるか）についての演出（成功演出）が行われる上乗せチャレンジ演出を行い、高確率時短状態に制御されてからの所定期間が経過した以降は相対的に有利な状態であることが演出表示装置１６００において示される演出モードに制御される１６Ｒ確変大当り

【１１７１】

４．演出表示装置１６００において大当り図柄組合わせが現れてから、大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）した後又は大入賞口２１０３に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を８回繰り返すことで遊技球が大入賞口２１０３に入球可能（容易）な８Ｒ大当り遊技状態に制御し、この８Ｒ大当り遊技状態の後は、次に大当り遊技状態が発生するまで高確率時短状態に制御するとともに、８Ｒ大当り遊技状態の実行期間中はラウンド数が８ラウンドを超えるか（１６ラウンドになるか）についての演出（失敗演出）が行われる上乗せチャレンジ演出を行い、高確率時短状態に制御されてからの所定期間が経過した以降は相対的に有利な状態であることが演出表示装置１６００において示される演出モードに制御される８Ｒ確変大当りＢ

【１１７２】

５．演出表示装置１６００において大当り図柄組合わせが現れてから、大入賞口２１０３を短時間開放（例えば０．６秒）した後又は大入賞口２１０３に遊技球が９個入賞したことが上記カウントセンサ４００５で検出されたときに閉鎖させる開閉パターン（ラウンド遊技）を２回繰り返すことで遊技球が大入賞口２１０３に入球され難い２Ｒ大当り遊技状態に制御し、この２Ｒ大当り遊技状態の後は、特別図柄の変動表示が１００回消化される（若しくは、１００回消化されるまでの期間内で大当りに当選する）まで低確率時短状態に制御するとともに、２Ｒ大当り遊技状態の実行期間中は特定のキャラクタが敗北するバトル演出（バトル敗北演出）を行い、低確率時短状態においては、相対的に不利な状態であることが演出表示装置１６００において示される演出モードに制御される２Ｒ通常大当り

【１１７３】

なお、上記左打ち状態では遊技球がゲート部２００３を通過することがなく、第二始動口２００４を開状態にする可動片（図示略）の駆動は行われない。そのため、左打ち状態では第二始動口２００４への遊技球の入賞は発生せず、第一始動口２００２への遊技球の入賞のみが発生することになり、第二特別図柄の保留球がある場合を除き第一特別図柄表示器１４０３における第一特別図柄の変動表示のみが実行され、第一特別図柄に関連した大当り（８Ｒ確変大当りＡ，８Ｒ通常大当り）が発生することになる。同様に、上記右打

ち状態では第一始動口２００２に遊技球は入賞しない。そのため、右打ち状態では第二始動口２００４への遊技球の入賞のみが発生することになり、第一特別図柄の保留球がある場合を除き第二特別図柄表示器１１８６における第二特別図柄の変動表示のみが実行され、第二特別図柄に関連した大当り（１６Ｒ確変大当り，８Ｒ確変大当りＢ，２Ｒ通常大当り）が発生することになる。

【１１７４】

また、第一特別図柄に関連した大当りでは最大で大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）する開閉パターンを８回繰り返して概ね１０００個の遊技球しか払い出されないのに対し、第二特別図柄に関連した大当りでは最大で大入賞口２１０３を長時間開放（例えば２８．５秒）する開閉パターンを１６回繰り返して概ね２０００個の遊技球を払い出し可能である。

【１１７５】

なお、第一特別図柄停止図柄設定処理において８Ｒ確変大当りＡに決定した場合には大当り図柄として８Ｒ確変大当りＡ図柄に決定し、８Ｒ通常大当りに決定した場合には大当り図柄として８Ｒ通常大当り図柄に決定する。また、図示しないが第二特別図柄停止図柄設定処理において１６Ｒ確変大当りに決定した場合には大当り図柄として１６Ｒ確変大当り図柄に決定し、８Ｒ確変大当りＢに決定した場合には大当り図柄として８Ｒ確変大当りＢ図柄に決定し、２Ｒ通常大当りに決定した場合には大当り図柄として２Ｒ通常大当り図柄に決定する。

【１１７６】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５３３１で大当りフラグがセットされていなければ、次にステップＳ５３３３の処理として、小当りフラグがセットされているか否かを判断する。そしてこの結果、第二特別図柄プロセス処理（ステップＳ５２３９）内の当該ステップＳ５３３３に相当する処理にて小当りフラグがセットされていれば、第二特別図柄の変動停止時の態様として小当り図柄（特有の図柄停止態様）に決定した後（ステップＳ５３３４）、ステップＳ５３３７に移行する。

【１１７７】

またさらに、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５３３３で小当りフラグがセットされていなければ、特別図柄の変動停止時の態様としてハズレ図柄に決定した後（ステップＳ５３３６）、ステップＳ５３３７に移行する。

【１１７８】

そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５３３７の処理として、上記抽選結果（大当りの種類、小当り、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板１５１０に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする。そしてその後は、ステップＳ５３３８の処理として、上記第１変動パターン設定処理（ステップＳ５２８２）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【１１７９】

なお、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて演出表示装置１６００を表示制御する（左・中・右の装飾図柄を変動表示して左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示させる（なお左・中・右の装飾図柄を同一図柄で同期して変動表示し同時に停止表示する場合もある））。例えば、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、大当りとして２Ｒ通常大当り以外の種別に当選した場合には左・中・右の装飾図柄が３つ揃いとなる組合わせに決定する。これに対し、２Ｒ通常大当りが得られた場合は、特定の図柄組合わせ（左・中・右の装飾図柄の少なくとも１つが他の図柄と同じとならない組合わせ）に決定する。また、リーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（左・右の装飾図柄が「０」～「９」の同一の図柄の組み合わせであって中装飾図柄が異なる図柄の組み合わせ；リーチハズレ図柄）に決定し、は

ずれを特定した場合には、リーチを伴わないはずれ図柄（左・中・右の装飾図柄のうち少なくとも左・右の装飾図柄が異なる図柄となる組合せ）に決定する。こうして決定された停止図柄は、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）において演出表示装置１６００に表示される。

【１１８０】

いずれにせよ、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、遊技が進行された結果として当りが得られたときは、大当り遊技が開始されるよりも前に当り時の演出表示（特別表示態様）を出現させ、大当り遊技が開始された後に大当り遊技中の演出表示を出現させるようになっている。

【１１８１】

図１１２は、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ５２８２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１８２】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１１２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当りフラグがセットされていれば（ステップＳ５３４１）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ５３３２で決定した大当りの種類に応じた大当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ５３４２）、小当りフラグがセットされていれば（ステップＳ５３４３）、小当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ５３４４）、リーチフラグがセットされていれば（ステップＳ５３４５）、リーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ５３４６）、大当りフラグと小当りフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のはずれ（リーチ演出を実行しないはずれ）となる場合には、はずれ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップＳ５３４７）。

【１１８３】

そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ５３０２で読み出した変動表示パターン用乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップＳ５３４８）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板１５１０に通知する変動パターンコマンドをセットして第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップＳ５３４９）。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップＳ５３５０）。そして、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ５２８３）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で（ステップＳ５３５５）、この処理を終了する。これにより、こうして決定された変動時間だけ第一特別図柄表示器１４０３にて第一特別図柄の変動表示制御が行われるとともに該特別図柄の変動表示に同期して上記演出表示装置１６００にて演出制御が行われるようになる。

【１１８４】

なお、本例の変動パターンテーブルは、大当り判定用乱数（第一大当り判定用乱数、第二大当り判定用乱数）及び大当り図柄用乱数（第一大当り図柄用乱数、第二大当り図柄用乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記第一変動表示パターン用乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当り判定用乱数及び大当り図柄用乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ５３０２で読み出した変動表示パターン用乱数とを比較し、上記読み出した変動表示パターン用乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについて

の判定処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御内蔵ＲＯＭに記憶されている。

【１１８５】

ただし上述の通り、本例では小当りに当選することがないことから、小当り時の変動パターンテーブルが用いられることはない。本例では、小当りに当選することはないが、小当りに当選するようにしてもよい。

【１１８６】

また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動表示パターン用乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、非時短状態においては、２４１種類の変動表示パターン用乱数のうち１６４種類の変動表示パターン用乱数がノーマルリーチ演出のいずれかを実行することを示す判定値（０～１６３）として設定され、５９種類の変動表示パターン用乱数が大当り期待度の低いスーパーリーチ演出のいずれかを実行することを示す判定値（１６４～２２２）として設定され、１８種類の変動表示パターン用乱数が大当り期待度の高いスーパーリーチ演出のいずれかを実行することを示す判定値（２２３～２４０）として設定される。

【１１８７】

なお、スーパーリーチ演出（ＳＰ演出）とは、ノーマルリーチ演出よりも大当り期待度が高く、大当り遊技状態の発生を望む遊技者に対してはスーパーリーチ演出が実行されたときに大当り遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。すなわち、このようなスーパーリーチ演出は、大当り時の変動パターンテーブルにおいて最も選択率が高いものとなっており、これによって最終的にはハズレが表示されたとしても大当り遊技状態に対する遊技者の期待度を高めることができるようになる。ただし実際には、大当り遊技状態に対する遊技者の期待度を十分に高める上では、スーパーリーチ演出が実行されている期間中に、変動パターンとは別抽選とされている高期待の予告演出が出現する（複合する）ことが求められる。

【１１８８】

また、第一大当り判定用乱数及び第一大当り図柄用乱数に対応して設けられて第一特別図柄の変動時間を決定するときに用いられるはずれ時の変動パターンテーブルでは、非時短状態と時短状態とに共通して１２秒の変動時間が設定されている。一方、第二大当り判定用乱数及び第二図柄乱数に対応して設けられて第二特別図柄の変動時間を決定するときに用いられるはずれ時の変動パターンテーブルでは、時短状態として０．１秒～１２秒の変動時間が設定可能とされ、非時短状態として１２秒の変動時間が設定されている。このように第一特別図柄の変動時間は、時短状態中と非時短状態中とで同一とされ、時短状態において第一特別図柄の変動中に、第二始動口２００４への遊技球の入賞を促すとともに遊技者が第二始動口２００４へ遊技球を入賞させるための時間を確保している。

【１１８９】

また、第二特別図柄のハズレ時の変動時間のうち０．１秒が選択される場合、時短状態（高確率時短状態など）において遊技領域５ａに０．６秒間隔で打ち込まれる各遊技球が抽選処理に供されないままで排出されてしまうようなことが抑制されるようになる。

【１１９０】

すなわち、右打ちされた遊技球は、ゲート部２００３の直上となる領域に供給される。そして、時短状態（高確率時短状態など）にあるときに、この領域からゲート部２００３に同遊技球が受け入れられると、普通図柄としての当りが得られて（例えば、当選確率が１００％）、第二始動口２００４の開閉に関わる可動片が長期間（本例では５．５秒間）に亘って開状態にて維持されるようになる。これにより、第二始動口２００４に連続して次々と受け入れられうる状況下（センター役物２５００の右側へ打込まれた遊技球の略全てが第二始動口２００４に受け入れられうる時短状態）にあっても、それら遊技球の受け入れがある都度、「概ね３２分の１」前後の高い大当り確率（高確率状態での確率）で第二特別図柄側の抽選が次々と消化されうる制御が実行可能とされるようになる。

【１１９１】
そして本例では、遊技者がハンドル３０２を操作しているときには０．６秒間隔で遊技球が発射されるようになっていることから、時短状態（高確率時短状態など）においては、第二始動口２００４には０．６秒間隔で遊技球が受け入れられることが多くなる。この点、本例では上記したように第二始動口２００４への遊技球の入賞に基づく第二特別図柄のはずれ時の変動パターンテーブルには時短状態（高確率時短状態など）の変動時間として極めて短い０．１秒に設定可能とされている。すなわちこの場合、ハズレが得られたときは、遊技球の発射間隔（０．６秒）未満の時間（０．１秒）だけで図柄変動が終了されるようになることから、０．６秒間隔で打ち出される遊技球が第二始動口２００４に次々と受け入れるような状況であっても、それらの遊技球が抽選処理に供されないままで排出されてしまうようなことが抑制されるようになる。
【１１９２】
図１１３は、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ５２８３）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１９３】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図１１３に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ５３７１の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（ステップＳ５２８２）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを１減算する。そしてこの結果、変動時間タイマが０、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップＳ５３７２）、次にステップＳ５３７３の処理に移行する。すなわち、このステップＳ５３７３の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ５２８４）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【１１９４】
なお、変動タイマを１減算したにもかかわらず（ステップＳ５３７１）、変動時間タイマが０になっていないときは、変動時間タイマが０になるまで（図柄を確定停止させるべき時間になるまで）、当該タイマ割り込み処理が行われる都度、上記ステップＳ５３７１，Ｓ５３７２の処理が行われることとなる。
【１１９５】
図１１４は、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ５２８４）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１９６】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図１１４に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ５３８１の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記第一特別図柄表示器１４０３に表示させるための表示制御を行うとともに、上記演出表示装置１６００に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板１５１０へのコマンドとしてセットする（ステップＳ５３８２）。
【１１９７】
また、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記大当りフラグがセットされているときは（ステップＳ５３８６におけるＹＥＳ）、大当り遊技状態を開始することを示す大当り開始コマンドをセットし（ステップＳ５３８７）、大当り遊技状態の開始までの待機時間（大当り遊技状態を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ５３８８）。そして、大当り遊技状態の実行中であることを示す大当り実行中フラグをセットするとともに上記高確率フラグがセットされていれば当該高確率フラグをリセットし、また、上記時短フラグがセットされていれば当該時短フラグをリセットし（ステップＳ５３８９）、さらに上記変動回数カウンタをリセットし、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行される

ように更新した時点で（ステップＳ５３９４）、この処理を終了する。すなわちこの場合、次の割り込み制御が行われる際に、上記ステップＳ５２３５の処理にて大当り実行中フラグがセットされている旨判断されることとなり、上述の大当り制御処理（ステップＳ５２４０ａ）にて大当り遊技状態が実行されるようになる。

【１１９８】

なお、大当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りの種類に応じて個々に用意されている。ステップＳ５３８７では、大当りの種類（８Ｒ確変大当りＡ、８Ｒ通常大当り、１６Ｒ確変大当り、８Ｒ確変大当りＢ、２Ｒ通常大当り）に応じた大当り開始コマンド（８Ｒ確変大当りＡコマンド、８Ｒ通常大当りコマンド、１６Ｒ確変大当りコマンド、８Ｒ確変大当りＢコマンド、２Ｒ通常大当りコマンド）をセットする。これにより、大当り開始コマンドによって指示された大当りの種類に応じた大当り遊技状態の演出（バトル演出や上乗せチャレンジ演出）が演出表示装置１６００、各ランプ・ＬＥＤ及び各スピーカ等により実行される。

【１１９９】

一方、上記ステップＳ５３８６の処理において、大当りフラグがセットされていない旨判断されたときは（ステップＳ５３８６におけるＮＯ）、まず、低確率時短状態にあるか否かを判断する（ステップＳ５３９０）。そして、低確率時短状態にあるときには、低確率時短状態に制御されてから消化した特別図柄の変動回数が予め定められている上限値（ここでは１００回）に達したか否かを判断する（ステップＳ５３９１）。すなわち、低確率時短状態に制御されてから消化した特別図柄の変動回数が予め定められている上限値（１００回）に達したときには、低確率時短状態を終了させるべき条件が成立したとして、時短機能を停止させて通常遊技状態（低確率非時短遊技状態）に移行させることとなる（ステップＳ５３９２）。

【１２００】

そして、こうして時短機能に関する処理が行われた後は、小当りフラグがセットされているか否かを判断する（ステップＳ５３９３）。そしてこの結果、小当りフラグがセットされている旨判断されたときは（ステップＳ５３９３におけるＹＥＳ）、小当り遊技状態を開始することを示す小当り開始コマンドをセットし（ステップＳ５３９４）、小当り遊技状態の開始までの待機時間（小当り遊技状態を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ５３９５）。そして、小当り遊技状態の実行中であることを示す小当り実行中フラグをセットし（ステップＳ５３９６）、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ５３９４）、この処理を終了する。すなわちこの場合、次の割り込み制御が行われる際に、上記ステップＳ５２３６の処理にて小当り実行中フラグがセットされている旨判断されることとなり、上述の小当り制御処理（ステップＳ５２４０ｂ）にて小当り遊技状態が実行されるようになる。ちなみに、大当りが当選された場合とは異なり、このような小当り遊技状態の実行に際しては、遊技状態が変更されるようなことはない。

【１２０１】

他方、大当りフラグと小当りフラグとのいずれもセットされていない旨判断されたときは（ステップＳ５３９３におけるＮＯ）、ハズレであるとして、大当りや小当りに関する処理を行うことなく、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ５３９４）、この処理を終了する。すなわちこの場合、次の割り込み制御が行われる際に、大当り実行中フラグや小当り実行中フラグがセットされていない旨判断されることとなり（ステップＳ５２３５，Ｓ２３６）、保留の状況にしたがって新たな遊技（抽選や、図柄制御）の進行にかかる処理が行われるようになる（ステップＳ５２３７～Ｓ５２３９）。

【１２０２】

図１１５は、上記普通図柄及び普通電動役物制御処理（ステップＳ１１６）についてその手順を示すフローチャートである。

【１２０３】
いま、ステップＳ５４０１の処理において、上記ゲートセンサ４００３による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図１１５に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５４０２の処理として、まず、普通図柄の普通乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納するなどのゲート部通過処理を実行する。
【１２０４】
次いで、普通図柄プロセス処理では、普通図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行する。
【１２０５】
１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている普通乱数を読み出し、読み出した普通乱数に基づいて上記普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる普通図柄通常処理（ステップＳ５４０３）
２．普図変動乱数に基づいて上記普通図柄表示器１４０２に表示される普通図柄の変動態様（変動時間）についての抽選処理などが行われる普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ５４０４）
３．普通図柄表示器１４０２における上記普通図柄の変動表示が停止されるまで待機する普通図柄変動処理（ステップＳ５４０５）
４．普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された普通図柄の変動制御停止時の態様が上記普通図柄表示器１４０２に表示されるように上記普通図柄の変動表示を停止させる普通図柄停止処理（ステップＳ５４０６）
５．普通図柄の変動制御停止時の態様についての抽選処理の結果が「普図当り」を示唆する態様となったとき、上記可動片が開状態になって第二始動口２００４への遊技球の受け入れを可能に制御する処理を実行する普通電動役物開放処理（ステップＳ５４０７）
【１２０６】
なお、上記普通図柄プロセスフラグは、その初期値が、上記普通図柄通常処理（ステップＳ５４０３）を行うべき旨を示すよう操作されている。
【１２０７】
図１１６は、上記ゲート部通過処理（ステップＳ５４０２）についてその手順を示すフローチャートである。
【１２０８】
いま、上記ステップＳ５４０１の処理において、上記ゲートセンサ４００３による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図１１６に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５４１１の処理として、まず、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて普通図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。
【１２０９】
このステップＳ５４１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ５４１２～Ｓ５４１４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ５４１２の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ５４１３の処理として、上記普通乱数、上記普図変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ５４１４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に対応する普通図柄保留記憶領域に格納する。
【１２１０】
ただし、上記ステップＳ５４１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すな

わち、ステップＳ５４１２～ステップＳ５４１４の処理を実行しないことで、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１２１１】

図１１７は、上記普通図柄通常処理（ステップＳ５４０３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１２１２】

上記普通図柄プロセスフラグが当該普通図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図１１７に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ５４２１の処理として、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ５４２２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納されている普通図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、普通乱数、普図変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ５４２３及びＳ５４２４の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（普通乱数、普図変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【１２１３】

具体的には、普通図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、上記ゲート部２００３への遊技球の通過に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に上記ゲート部２００３に遊技球が通過するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記普通図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【１２１４】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が時短状態（高確率時短状態）であれば（ステップＳ５４２６）、時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ５４２６）、現在の遊技状態が非時短状態（低確率非時短状態、高確率非時短状態）であれば（ステップＳ５４２５）、非時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ５４２７）、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ５４２２で読み出した普通乱数とを比較する（ステップＳ５４２８）。

【１２１５】

なお、普図当り判定テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶され、遊技状態が時短時（高確率時短状態）の場合に使用する時短時の普図当り判定テーブルと、遊技状態が非時短時（低確率非時短状態、高確率非時短状態）の場合に使用する非時短時の普図当り判定テーブルと、を備えている。そして、普通乱数と比較するために参照される時短時の普図当り判定テーブルでは、２５５種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致し、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致することがないように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとき、普図当りに必ず当選し、上記可動片が開状態になって第二始動口２００４への遊技球の受け入れを可能に制御している。２５５種類の全てではなく、非時短状態のときよりも多くの普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致するようにしてもよい。

【１２１６】
　また、普通乱数と比較するために参照される非時短時の普図当り判定テーブルでは、２５５種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致することがなく、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致するように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、非時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとしても、普図当りに当選することがないため、上記可動片２１０６が開状態になって第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御することがない。ただし上述の通り、非時短状態においても普通図柄の当りが得られるようにしてもよく、この場合には時短状態よりも低い当選確率（例えば５０％）とし、普通図柄の抽選結果が当りとなったときに上記第二始動口２００４の可動片を時短状態よりも短い時間、例えば、２秒間開状態にさせて第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能とした後に再び前進させて第二始動口２００４への遊技球の受入れを不能にするようにしてもよい。
【１２１７】
　上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ５４２２で読み出した普通乱数との比較の結果、普図当りとすると判定した場合には（ステップＳ５４２９）、当該変動が普図当りに当選していることを示す普図当りフラグをセットした後（ステップＳ５４３０）、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図当り図柄を決定する（ステップＳ５４３１）、一方、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ５４２２で読み出した普通乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図はずれ図柄を決定する（ステップＳ５４３２）。そしてその後、上記普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ５４０４）にプロセス移行されるよう上述の普通図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ５４３３）、この処理を終了する。
【１２１８】
　そして、このような主制御ＭＰＵ１３１０ａによる制御が行われるなかで、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、該主制御ＭＰＵ１３１０ａから送信される上述の各種コマンドを取得することで上記周辺制御部定常処理（受信コマンド解析処理（ステップＳ１０２２））内でその都度の遊技状況を把握し、該遊技状況に応じた演出を実行可能としている。
【１２１９】
　より具体的には、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、まず、始動入賞が発生した状況にあるかを判断し、該状況にあるときには始動入賞に応じた保留表示や先読み演出に関する制御を行う。そしてこの後、把握した遊技状況に基づいてプロセスフラグを更新することで、以下の変動パターン指定コマンド受信待ち処理、演出図柄変動開始処理、演出図柄変動中処理、演出図柄変動停止処理、大当り表示処理、大当り遊技中処理、及び大当り終了演出処理のいずれかを実行する。
【１２２０】
　変動パターン指定コマンド受信待ち処理：主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンに関する変動パターンコマンドを受信するまでの間、図柄が変動状態になく且つ大当りに関する制御が行われていないときの演出（デモ演出など）にかかる制御を行うとともに、主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンに関する変動パターンコマンドを受信するとプロセスフラグを演出図柄変動開始処理に対応した値に変更する。
【１２２１】
　演出図柄変動開始処理：変動パターンコマンドなどに基づいて図柄変動期間における各種の演出内容（演出パターンや予告演出など）を決定するとともに、該決定した演出内容に基づいて装飾図柄の変動が開始されるように制御する。そしてこの後、プロセスフラグの値を演出図柄変動中処理に対応した値に更新する。なお、変動パターン（演出パターン）のうち「大当り図柄で停止される変動パターン（演出パターン）」の多くは、「ハズレ図柄で停止される変動パターン（演出パターン）」と対になるかたちで用意されており、それらが同じ変動パターン（演出パターン）として機能することで、大当り図柄が現れる

かハズレ図柄が現れるかについての演出が提供されるようになる。したがって、以下、変動パターン（演出パターン）について説明するときに、「所定の変動パターン」や「特定の変動パターン」などと記載する場合、特に断り書きがない限りは、「大当り図柄で停止される所定の変動パターン（特定の変動パターン）」と、「ハズレ図柄で停止される所定の変動パターン（特定の変動パターン）」との両方を意味しており、同じ態様で演出内容が進展した結果として大当り図柄とハズレ図柄とのいずれかが現れる分岐点へと到来することとなる。

【１２２２】

演出図柄変動中処理：演出図柄変動開始処理にて決定した各種の演出内容を、図柄変動期間中のそれぞれのタイミングで開始させる制御などを行うとともに、変動時間が終了するとプロセスフラグの値を演出図柄変動停止処理に対応した値に更新する。

演出図柄変動停止処理：全図柄停止を指示するコマンド（図柄確定コマンド）の受信に基づいて装飾図柄の変動を停止し表示結果（停止図柄）を導出表示する制御などを行う。そして、装飾図柄を大当り図柄で停止させる場合はプロセスフラグの値を大当り表示処理に対応した値に更新し、装飾図柄をハズレ図柄で停止させる場合はプロセスフラグの値を変動パターン指定コマンド受信待ち処理に対応した値に更新する。

【１２２３】

大当り表示処理：装飾図柄が大当り図柄で停止してから大当り遊技が開始されるまでの期間における演出（演出表示装置１６００に大当りの発生を報知する表示演出など）を制御する。そしてこの後、プロセスフラグの値を大当り遊技中処理に対応した値に更新する。

【１２２４】

大当り遊技中処理：大当り遊技状態の発生期間中における各種演出にかかる制御を行う。大当り遊技状態が終了すると、プロセスフラグの値を大当り終了演出処理に対応した値に更新する。

【１２２５】

大当り終了演出処理：演出表示装置１６００において、大当り遊技状態が終了してから変動許容状態になるまでの期間における演出（大当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示演出など）を制御する。そして、プロセスフラグの値を変動パターン指定コマンド受信待ち処理に対応した値に更新する。

【１２２６】

図１１８は、通常遊技状態にあるときに上記演出図柄変動開始処理で参照される演出パターン（変動演出）の判定テーブルＴ１を示す図である。

同図１１８に示されるように、判定テーブルＴ１では、変動パターンコマンドにより示される変動番号１～２２の各別にそれぞれ演出パターン（変動演出）が対応付けされている。したがって、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドを取得すると、該変動パターンコマンドに対応付けされている演出パターン（変動演出）を上記判定テーブルＴ１に基づいて決定し、該決定した演出パターン（変動演出）に基づいて装飾図柄の変動が開始されるように制御することとなる。

【１２２７】

なお、演出パターン（変動演出）については、上記変動パターンコマンドにより示される変動番号との間で必ずしも一対一で対応するものでなくてもよい。例えば、変動パターンコマンドによって示される一の変動番号に対して複数の演出パターン（変動演出）を対応付けておき、これら演出パターン（変動演出）のいずれかを演出抽選や遊技状況などに基づいて決定するようにしてもよい。後述するが、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａも、変動番号１～２２のうちの一部については複数の演出パターンが対応付けられるようにしている。

【１２２８】

また、これも後述するが、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、こうして演出パターン（変動演出）を決定した後に、大当り判定の結果や図柄種別、変動パターンに基づいて予告抽

選（予告演出の判定処理）を行うとともに、該予告抽選で当選した予告演出を、上記決定された演出パターン（変動演出）が行われるなかでの所定タイミングで出現させる制御（演出図柄変動中処理）を行うことで、複数の演出内容を複合可能としてそれらの出現態様などによって大当り図柄の現れる期待度を示唆するようにしている。

【１２２９】

そして従来、このような複合演出のなかには、同じ特定予告演出（例えば、タイマ演出）でありながらも一の演出パターン（変動演出）が実行されている間に複数出現させて実行することがあり、これによって遊技興趣の維持を図ることが期待されるようにしている。しかしながら、大当り図柄の現れる期待度が高いときにしか予告演出は複合可能とされないため、一の演出パターン（変動演出）が実行されている間に複数のタイマ演出が実行される頻度は自ずと低くなり、遊技興趣の向上を十分に図ることは困難とされていた。

【１２３０】

なお後述するが、「タイマ演出」とは、演出パターン（変動演出）の実行中に現れる所定の演出を対象とし、該所定の演出が行われるタイミングに向けてのカウント表示を第一の所定数値（例えば「６０秒」）から第二の所定数値（例えば「０秒」）まで行うカウント演出表示として実行されたり、カウント表示を開始する前の待機表示（準備中など）として実行されたりするものである。すなわちこの場合、タイマ演出として第一の所定数値からのカウント表示（例えば、カウントダウン）が開始されると、第二の所定数値になったときに何らかの演出が必ず発生することが保証されるようになる。若しくは、遊技者にとって相対的に不利な演出態様（期待度の低い演出態様）と有利な演出態様（期待度の高い演出態様）とのいずれかを出現させる演出（例えば、会話予告やカットインＡ，Ｂなど）がタイマ演出の対象とされる場合には、第二の所定数値になったときに有利な演出結果が必ず発生することが保証されるようになる。ただし、タイマ演出（特に、予告抽選の結果として実行される予告側タイマ演出）においては、少なくともカウント表示が開始される時点ではその演出対象となっている演出がいずれであるのかについて秘匿とされるようにすることが望ましい。また、「タイマ演出の演出対象」とは、タイマ演出として第一の所定数値からのカウント表示（例えば、カウントダウン）が第二の所定数値（例えば「０秒」）になったときに現れる演出のことであり、タイマ演出では、該演出対象の発生するタイミングに向けてカウント表示を行うこととなる。

【１２３１】

なお、この実施の形態にかかる「タイマ演出」では、カウント開始されてからの時間経過を小数点第２位まで表示して秒数などを正確に表示するものとなっている。ただし、必ずしもこのようなタイマ演出として実行されるものでなくてもよく、カウントアップまたはカウントダウンなどによるカウント表示が行われるカウント演出として実行されるものであれば、カウント開始されてからの時間経過（秒数など）を正確に示すものでなくてもよい。

【１２３２】

そこで、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、予告抽選で当選したときにのみ現れる演出内容としてのタイマ演出（予告側タイマ演出）のほか、判定テーブルＴ１に基づいて決定された上記演出パターン（変動演出）の演出内容として予め組み込まれているタイマ演出（変動側タイマ演出）を実行可能としている。すなわちこの場合、カウント演出表示を、「変動パターンコマンドに基づいて決定された演出パターンに対し、大当り期待度が上積みされるように機能する予告演出の演出内容」として実行する予告側タイマ演出のみならず、「変動パターンコマンドに基づいて決定された演出パターンそのものの演出内容」としても実行するようにしたことで、変動パターンコマンドに基づいて決定された演出パターンによって示される大当り期待度からその期待度を無駄に上積み（「予告抽選での当選」という条件を満たすことによる期待度の上積み）することなくカウント演出表示（タイマ演出）を出現させることが可能とされるようになる。例えば、変動パターンコマンドに基づいて決定された特定の演出パターンが出現したときの大当り期待度が「２０％」である場合、予告側タイマ演出をさらに実行すると複合演出の機能によ

って大当り期待度が上積みされて例えば「４０％」になってしまいその分だけ出現頻度を低くせざるを得ないのに対し、特定の演出パターンこれ自体の演出内容として変動側タイマ演出が実行される場合には大当り期待度を「２０％」としたままでタイマ演出を実行することが可能（特定の変動パターンが選択されるだけで出現可能）であり出現頻度を好適に維持することができるようになる。

【１２３３】

なお、判定テーブルＴ１において演出パターン（変動演出）が出現したときの大当り期待度は、変動番号（さらには演出パターン）に応じてそれぞれ異なっており、基本的には変動番号が大きくなるにつれて大当り期待度が高くなる傾向が持たされている。例えば、変動番号５（６），９（１０），１７（１８）に対応する演出パターンではその演出内容としていずれも「会話予告」が演出対象とされる変動側タイマ演出が実行されるが、その出現比率は、変動番号５（６）＞変動番号９（１０）＞変動番号１７（１８）であるのに対し、出現時の大当り期待度は、変動番号５（６）＜変動番号９（１０）＜変動番号１７（１８）となるように設定されている。またここでは、説明の便宜上、通常遊技状態のときに参照される判定テーブルしか詳述しないが、低確率時短状態や高確率時短状態において参照される判定テーブルにおいても、演出パターンこれ自体の演出内容として変動側タイマ演出が実行されうる演出パターン（カウント変動パターン）が含まれるようになっており、通常遊技状態にあるときとは異なる確率で出現可能とされている。

【１２３４】

また、判定テーブルＴ１において、変動番号３～６はいずれも同じノーマルリーチ演出が行われる点で同じであるが、変動番号５，６は、会話予告を演出対象とした変動側タイマ演出が実行されうる点で変動番号３，４と異なっている。また、変動番号７～１４はいずれも同じキャラリーチ演出が行われる点で同じであるが、変動番号９，１０は、会話予告を演出対象とした変動側タイマ演出が実行され、変動番号１１，１２は、カットインＡを演出対象とした変動側タイマ演出が実行され、変動番号１３，１４は、会話予告とカットインＡとが実行されるとともにそれらを演出対象とした変動側タイマ演出が実行されうる点で異なっている。また、変動番号１５～２２はいずれも同じＳＰリーチ演出が行われる点で同じであるが、変動番号１７，１８は、会話予告を演出対象とした変動側タイマ演出が実行され、変動番号１９，２０は、カットインＢを演出対象とした変動側タイマ演出が実行され、変動番号２１，２２は、会話予告とカットインＢとが実行されるとともにそれらを演出対象とした変動側タイマ演出が実行されうる点で異なっている。なお、会話予告を演出対象とした変動側タイマ演出が実行される場合よりも、カットインＡ，Ｂを演出対象とした変動側タイマ演出が実行される場合のほうが大当り期待度が高くなり、さらには会話予告とカットインＡ，Ｂとの両方を演出対象とした変動側タイマ演出が実行される場合のほうが大当り期待度が高くなる傾向を持つように設定されている。

【１２３５】

なお、「会話予告」とは、演出パターン（装飾図柄の変動演出）が実行されてから相対的に早い段階で出現可能とされ、且つ相対的に低い期待度の上積みがなされることが多い演出であるのに対し、カットインＡ，Ｂとは、演出パターン（装飾図柄の変動演出）が実行されてから相対的に遅い段階で出現可能とされ、且つ相対的に高い期待度の上積みがなされることが多い演出（若しくは、相対的に高い期待度の上積みが必ずなされる演出）である。したがって、「会話予告」は、これよりも期待度の高い他の演出（カットインＡ，Ｂや、後述の役物Ａ動作，Ｂなど）よりも出現割合（実行確率）が高くなるように設定されるものとなっている。また、変動演出の内容として出現する「カットイン」は、キャラリーチでは、予告演出の演出内容として出現するカットインＡに相当するように実行されるものであるのに対し、ＳＰリーチでは、予告演出の演出内容として出現するカットインＡではなくカットインＢに相当するように実行されるものである。

【１２３６】

しかも、この実施の形態にかかる判定テーブルＴ１では、同図１１８に示されるように、複数の変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）に対してその演出内容

（演出パターン）を変動側タイマ演出として割り当てるようにしている。そしてこの上で、変動パターンが「短縮変動や期待度の低いノーマルリーチ演出などの予め定められた種別（例えば、変動番号１～６など）」である場合は予告側タイマ演出としてのカウント演出表示が演出当選されないようにして（プレミアム度合いを高めて）該予告側タイマ演出が出現したときの期待度ＵＰを好適に確保しているなかで、変動パターンが「変動側タイマ演出を実行する変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２などのカウント変動パターン）」である場合は、このようなカウント変動パターンでない場合に比べて当該変動パターンが上記予め定められた種別（例えば、変動番号１～６など）に該当する割合が低くなるようにしている。

【１２３７】

なおここでは、変動側タイマ演出が実行されるカウント変動パターンとしては１４個の変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）が用意されているが、そのうちの２個（０個に設定してもよい）の変動パターン（変動番号５，６）しか上記予め定められた種別（変動番号１～６など）に該当しないから、その該当割合は「２／１４」である。これに対し、変動側タイマ演出が実行されない変動パターンとしては８個の変動パターン（変動番号１～４，７，８，１５，１６）が用意されており、そのうちの４個の変動パターン（変動番号１～４）が上記予め定められた種別（変動番号１～６など）に該当するから、その該当割合は「４／８」である。

【１２３８】

このような構成では、変動パターンの演出内容がカウント演出表示（変動側タイマ演出）を行いうるもの（カウント変動パターン）であるときには、変動側タイマ演出を行わない変動パターンである場合よりも、予告演出の演出内容としてカウント演出表示（予告側タイマ演出）が実行し得ないと判断される割合が低くなる。したがって、期待度を無駄に上積みさせて出現頻度を低くすることなく、一の演出パターン（変動演出）内で複数のカウント表示が出現することを促すことができるようになる。

【１２３９】

また後述するが、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、上記演出図柄変動開始処理において決定された演出パターン（変動演出）がカウント変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）である場合であっても、該カウント変動パターンがいずれのカウント変動パターンであるかに応じて上記予告側タイマ演出の出現する割合が異なるようにしている。例えば、同図１１８に示されるように、変動番号５，６に対応する演出パターンが実行されるときには上記予告側タイマ演出は全く出現されず、変動番号９～１４に対応する演出パターンが実行されるときには上記予告側タイマ演出は中程度の抽選確率で出現可能とされており、変動番号１７～２２に対応する演出パターンが実行されるときには上記予告側タイマ演出は高い抽選確率で出現可能とされている。

【１２４０】

なお、変動番号５，６に対応する演出パターンが実行されるときにも、低確率で上記予告側タイマ演出が出現されるようにしてもよい。また、高い抽選確率で上記予告側タイマ演出が出現可能とされる変動番号１５～２２に対応する演出パターンのいずれかが実行される場合であっても、実際には、ハズレの場合よりも大当りに当選している演出パターンのほうがより高い抽選確率で上記予告側タイマ演出が出現可能とされるし、変動番号１６よりも変動番号２２のほうがさらに高い抽選確率で出現可能とされるようになっている。

【１２４１】

このような構成では、変動パターンが第１のカウント変動パターン（例えば、変動番号１０）及び第２のカウント変動パターン（例えば、変動番号２２）のいずれであるかによっても、カウント演出表示を予告演出の演出内容（予告側タイマ演出）として実行する割合が異なるようになる。したがって、一の演出パターン（変動演出）内で複数のカウント表示の出現する割合が高くされている上記カウント変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）のなかでも、その種別によっては複数のカウント表示が出現する割合をより一層高くすることができるようになることから、遊技興趣の好適な維持を図ること

が期待されるようになる。
【１２４２】
特に、後述するが、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、同じリーチ種別の演出内容が現れる演出パターン（例えば、キャラリーチ、ＳＰリーチ）であっても、変動側タイマ演出が演出内容として含まれる演出パターン（例えば、変動番号１７～２２）では、変動側タイマ演出が演出内容として含まれない演出パターン（例えば、変動番号１５，１６）に比べて当該演出パターンの実行期間内に予告側タイマ演出の出現する割合（予告抽選にて予告側タイマ演出を実行する旨決定される割合）が高くなるようにしている。すなわちこの場合、予告抽選にて一の予告側タイマ演出が当選されるだけの大当り期待度を要するだけで一の演出パターン内に２つのタイマ演出（変動側タイマ演出、予告側タイマ演出）を出現させることができるようになり、ひいてはダブルタイマの演出機会を、大当り期待度の無駄な上積みをすることなく実現することができるようになる。
【１２４３】
また、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、上記演出図柄変動開始処理において決定された演出パターン（変動演出）がカウント変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）である場合であっても、「会話予告」が演出対象とされる変動側タイマ演出（変動側カウント演出表示）と「カットイン」が演出対象とされる変動側タイマ演出（変動側カウント演出表示）とではカウント表示の態様（カウント数字の形態や色など）が異なるようにしている。すなわちこの場合、同じリーチ演出を演出内容とする演出パターン（例えば、変動番号９，１１）が実行される場合であっても変動側タイマ演出（変動側カウント演出表示）のカウント表示の態様を確認することで、「いずれのカウント変動パターンであるかに応じて上記予告側タイマ演出の出現する割合が異なるようにされていること」と相まって、予告側タイマ演出の出現し易さを認識して期待することができるようになる。
【１２４４】
なお、予告側タイマ演出（予告側カウント演出表示）で現れるカウント表示の態様については、その演出対象が同じ（会話予告、カットイン）であるか否かにかかわらず、変動側タイマ演出（変動側カウント演出表示）で現れるカウント表示の態様（会話予告、カットイン）と異なる（若しくは、少なくともいずれかと異なる）ようにしてもよいし、同態様と同じ（若しくは、少なくともいずれかと同じ）にしてもよい。
【１２４５】
ただし、予告側タイマ演出（予告側カウント演出表示）として実行されるカウント表示については、その演出対象となる演出の種別にかかわらず共通の態様で実行されるようにすることが、相対的に期待度が高く設定される予告側タイマ演出が出現している状態にあることを遊技者に認識させて期待感の向上を図る上で有益である。この意味では、予告側タイマ演出については、変動側タイマ演出（変動側カウント演出表示）で現れるカウント表示の態様（会話予告、カットイン）のいずれとも異なるようにすることがより望ましい。予告側タイマ演出（予告側カウント演出表示）としての上記共通の態様については、期待度の異なる複数の態様（例えば、青色カウントや赤色カウントなど）が用意されており、それらのいずれかを実行するようにしてもよい。
【１２４６】
また、予告側タイマ演出が実行されていることをより好適に認識可能とする上では、予告側タイマ演出が実行されるときのカウント表示と、変動側タイマ演出が実行されるときのカウント表示とでカウント速度（例えば、カウントアップやカウントダウンにおいて数字が変化する速度）を異ならしめるようにすることが望ましい。このような構成では、タイマ演出が開始された以降、カウント表示が進行されている期間中においても当該タイマ演出のカウント速度に注視させて、相対的に期待度の低い変動側タイマ演出と相対的に期待度の高い予告側タイマ演出とのいずれが実行されているのかについての興味を持たせることができるようになり、タイマ消化期間中における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【１２４７】
　またこの際、変動側タイマ演出においては、その演出対象（会話予告、カットイン）に応じて、予告側タイマ演出のカウント速度と相対的に近い速度（若しくは同じ速度）でカウント表示される態様（カットイン）と、予告側タイマ演出のカウント速度と相対的に近くない速度でカウント表示される態様（会話予告）とでカウント表示するようにすれば、予告側タイマ演出が実行されているか否かの判断し難さを異ならせて面白みを付与することができるようになる。また、変動側タイマ演出（または予告側タイマ演出）においてはカウント数字の出現と消去の繰り返しによってカウント表示するのに対し、予告側タイマ演出（または変動側タイマ演出）においてはカウント数字を継続的に表示することによってカウント表示するようにしてもよい。
【１２４８】
　このような構成によれば、変動側タイマ演出のカウント表示と予告側タイマ演出のカウント表示とが同時に実行される状況が発生すると、予告側タイマ演出が実行されているのか否かを容易に把握することができるようになり、遊技興趣の向上が図られることが期待される。
【１２４９】
　この点、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、変動側タイマ演出に対応する変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２などのカウント変動パターン）に対しては、カウント表示の開始タイミングまたは終了タイミング（カウント総数、または全カウント消化に要する時間）が異なる複数の演出パターンを選択可能な演出パターンとして設定している。そして、変動側タイマ演出に対応する変動パターンを取得した場合は、演出用の乱数などに基づいて上記複数の演出パターンのいずれかを決定するようにして変動側タイマ演出のカウント表示と予告側タイマ演出のカウント表示との同時実行のし易さ（例えば、カウント総数が大きいほうが重なり易いなど）を異ならせるようにすることで、予告側タイマ演出が実行されているか否かの判断容易性を異ならせて面白みを付与するようにしている
【１２５０】
　なお、この実施の形態では、一の変動パターンに対してカウント表示の開始タイミングまたは終了タイミング（カウント総数、または全カウント消化に要する時間）が異なる複数の演出パターン（タイマ演出の演出対象と、リーチ演出の内容は同じ）を用意することとしたが、カウント表示の開始タイミングまたは終了タイミング（カウント総数、または全カウント消化に要する時間）が異なる複数の演出パターン（ただし、タイマ演出の演出対象にされる演出の種別と、変動パターンの演出内容として実行されるリーチ演出の種別とは、各演出パターンで同じ）の別に異なる複数の変動パターンを用意して一対一対応させるようにしてもよい。
【１２５１】
　また、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで出現したときのカウント表示数（カウント総数）を異ならせるようにしたり、同じ特定カウント表示数を選択可能であったとしても変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで特定カウント表示数の選択率を異ならせるようにすれば、予告側タイマ演出が実行されているか否かの判断し難さを異ならせて面白みを付与することができるようになる。
【１２５２】
　また、予告側タイマ演出をカウントダウン表示で実行するのに対し、変動側タイマ演出についてはカウントアップ表示で実行するようにすれば、予告側タイマ演出が実行されているのか否かを確定的に把握することができるようになり、遊技興趣の向上を大幅に図ることが期待される。また、予告側タイマ演出をカウントダウン表示で実行するのに対し、特定演出（例えば、会話予告）を対象とした変動側タイマ演出についてはカウントアップ表示で実行し、特定演出とは異なる演出（例えば、カットイン）を対象とした変動側タイマ演出についてはカウントダウン表示で実行するようにすれば、予告側タイマ演出が実行されているか否かの判断し難さを演出対象に応じて異ならせて面白みを付与することがで

きるようになる。
【１２５３】
　また、後述するが、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで同じ演出を演出対象にする場合と、異なる演出を演出対象にする場合とがあるように制御する。そして、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで同じ演出（例えば、会話予告）を演出対象にする場合は、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで異なる演出を対象にする場合に比べて大当り期待度が低くなる割合が高くなるように設定するとともに、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで同じ演出（例えば、会話予告）を演出対象にする場合であっても、各カウント表示の終了タイミングを異ならせるようにしている。
【１２５４】
　すなわちこの場合、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで同じ演出（例えば、会話予告）が演出対象にされていたとしても、変動側タイマ演出と予告側タイマ演出との一方が先に所定数値に達して終了されるのに対し他方のカウント表示は継続されるようになることから、この時点では、あたかも異なる演出を演出対象としている（相対的に期待度の高い態様でタイマ演出が実行されている）かのように見える。そしてこの後、継続されていた他方のカウント表示も同じ演出（例えば、会話予告）を演出対象としていることが明らかとされる態様で所定数値に達して終了されるようになることから、先に終了した側のタイマ演出によって相対的に期待度の低い会話予告が演出対象とされていることが明らかにされた場合であっても、その後に出現可能とされる異なる演出を演出対象としている（相対的に期待度の高い態様でタイマ演出が実行されている）ことへの期待感を維持して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【１２５５】
　また、このように変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とで同じ演出（例えば、会話予告）が演出対象にされる場合、変動側タイマ演出が所定数値に達するタイミングと、予告側タイマ演出が所定数値に達するタイミングとでそれぞれ別個のカウント終了対応表示（例えば、「カウント成功！」、「チャンスＵＰ！」など）を出現させるようにすることが望ましい。
【１２５６】
　より具体的には、変動側または予告側の演出として実行される「会話予告」を演出対象にした変動側タイマ演出と予告側タイマ演出とを一の演出パターン内でそれぞれ出現させる。そしてこの場合、変動側タイマ演出のカウント表示と予告側タイマ演出のカウント表示とがそれぞれ同時進行されることとなるが、変動側タイマ演出では、「会話予告」に関連して変動側の演出として発生する変動側特定演出（「カウント成功！」や、会話予告の出現に合わせたエフェクトなど）に合わせてカウント表示を進行させるのに対し、予告側タイマ演出では、「会話予告」に関連して予告側の演出として発生する予告側特定演出（「チャンスＵＰ！」や、会話予告の開始タイミング（若しくは、演出開始の所定数秒前）に合わせて出現するタイマ終了表示など）に合わせてカウント表示を進行させることで、それぞれ別個のカウント終了対応表示を異なるタイミングで出現させることとなる。
【１２５７】
　ところで、会話予告及びカットインの各演出については、変動側タイマ演出の演出対象にされる場合（カウント変動パターンが決定された場合）は必ず実行されることが求められるものである。特に、会話予告やカットインは、期待度の異なる複数の態様で実行可能とされる演出であるから、変動側タイマ演出の演出対象とされる場合にはカウント表示が所定数値に達するときに相対的に期待度の高い態様で出現させることが求められる。したがって、変動側タイマ演出の演出対象にされる演出については、上記演出パターン（変動演出）の演出内容として予め組み込んでおき、該演出パターンが実行されるだけで変動側タイマ演出とその演出対象とされる演出（相対的に期待度の高い態様）とがそれぞれ出現可能とされるようにすることが望ましい。ただしこれに代えて、変動側タイマ演出が実行されるときには予告抽選にてその演出対象にされる演出（相対的に期待度の高い態様）が

必ず選択されるように制御することも可能である。
【１２５８】
なお、会話予告及びカットインの各演出は、変動側タイマ演出の演出対象にされない場合は、後述の予告抽選において予告側の演出内容として出現させるか否かの判定が行われることはもとより、予告側の演出内容としていかなる態様（相対的に期待度の高い態様または低い態様）で出現させるかについての判定が行われ、該判定の結果に基づいて出現にかかる制御が行われるようになっている。
【１２５９】
以下、図１１８を用いた演出パターンの決定処理について総括する。
すなわち、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、主制御ＭＰＵ１３１０ａから変動パターンコマンドや図柄種別コマンドなどを取得すると、まず、変動パターンコマンドにより示される変動番号や図柄種別コマンドにより示される図柄種別などに基づいて、現在の遊技状態に応じた判定テーブルを参照する。例えば、図柄種別に基づいて演出パターンを決定するようにすれば、特定の演出パターンが出現したときの確変期待度や大当り遊技状態におけるラウンド数などに偏り（期待度）を持たせることができるようになる。
【１２６０】
そして次に、変動番号に対応付けされている演出パターンとして、複数の演出パターン（変動側タイマ演出で出現するカウント表示の開始タイミングまたは終了タイミングが異なる複数の演出パターンなど）が選択可能に用意されている場合には、大当り判定の当落に基づいてカウント表示の開始タイミングまたは終了タイミングが異なる複数の演出パターンのいずれかを選択する。なおこの際、大当り判定に当選している場合にはカウント表示の開始タイミングまたは終了タイミングが遅くなる割合が高くなるように演出パターンを設定することとしており、これによってカウント表示の開始タイミングまたは終了タイミングが遅くなるほど大当り図柄が現れる可能性が高くなる傾向を持たせるようにしている。
【１２６１】
また後述するが、この実施の形態にかかる周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、特別な演出条件が成立しているときには、カウント変動パターン（変動番号５，６，９～１４，１７～２２）が取得されている場合であっても、複数の演出パターンのうち、変動側タイマ演出が出現しないように設定されている演出パターンを選択する。
【１２６２】
そして、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、図柄変動中に現れる演出パターン（装飾図柄の変動開始から変動停止までの演出）がこうして選択された後に、該演出パターンの実行期間内でどのような予告演出をどのような態様で付加的に実行するのか（複合させるのか）を決定することとなる（予告抽選）。
【１２６３】
図１１９は、演出音を除いた各種の報知音（払出報知音や異常報知音）を固定チャンネル方式による音制御として、用意されている有限数のチャンネルのうちの特定チャンネル（以下、チャンネルＸと言う）でのみ出力させる処理を実現する場合における音定義テーブルの一例を示している。この音定義テーブルにおいては、音の名称ごとに、再生にかかる優先順位、左右パン初期値、上下パン初期値、ボリューム初期値、音番号、シークポイント、再生タイプ設定及び出力タイプ設定の定義を管理している。なおここでは、説明の便宜上、報知音１～７に関しての定義のみを示しており、その他の報知音や演出音などの定義については説明を省略している。なお、演出音については、固定チャンネル方式による定義のほか、報知音の割り当て対象とされるチャンネルＸを除く他の各チャンネルに対して自動チャンネル方式による定義を用いるようにすることも可能である。
【１２６４】
優先順位は、複数の報知音が出力条件をそれぞれ満たした状況にあるとき、それら報知音のいずれをチャンネルＸに割り当てて出力させるかについての判断に供されるパラメータであり、優先順位の数値が高い報知音は、優先順位の数値が低い報知音のチャンネルＸ

に対する割り当て状態に関係なく、チャンネルＸに対して割り当てられて出力されることとなる。なお後述するが、優先順位が同じ場合は、チャンネルＸに対して先に割り当てられている報知音が優先されることとなり、該報知音の出力が終了した後にチャンネルＸに対して割り当てられて出力されることとなる。

【１２６５】

左右パン初期値は、上部左スピーカ５７３Ｌ及び下部左スピーカ９２１Ｌと上部右スピーカ５７３Ｒ及び下部右スピーカ９２１Ｒとの組み合わせでなる左右のスピーカによる音の音像定位初期位置を表している。音の再生中に左右パンの設定値を動的に変化させることにより左及び右スピーカから個別に出力される音量に差が生まれ、左右スピーカ間の任意の空間に音像を定位させることが出来る。例えば「０ｘ００」と設定されると、左スピーカ（上部左スピーカ５７３Ｌ及び下部左スピーカ９２１Ｌ）のみから出力されることを示し、例えば「０ｘ８０」と設定されると、上部左スピーカ５７３Ｌ及び下部左スピーカ９２１Ｌと上部右スピーカ５７３Ｒ及び下部右スピーカ９２１Ｒとの組み合わせでなる左及び右スピーカから個別に出力される音量差は０となり左右スピーカの中央に音像が定位することとなる。例えば「０ｘＦＦ］と設定されると右スピーカ（上部右スピーカ５７３Ｒ及び下部右スピーカ９２１Ｒ）のみから出力されることを示している。

【１２６６】

上下パン初期値は、例えば一対の上部スピーカ５７３（上部左スピーカ５７３Ｌ及び上部右スピーカ５７３Ｒ）及び一対の下部スピーカ９２１（下部左スピーカ９２１Ｌ及び下部右スピーカ９２１Ｒ）などの上下のスピーカによる音の音像定位初期位置を表している。音の再生中に上下パンの設定値を動的に変化させることによりそれら上及び下スピーカから個別に出力される音量に差が生まれ、上下スピーカ間の任意の空間に音像を定位させることが出来る。例えば「０ｘ００」と設定されると一対の上部スピーカ５７３のみから出力されることを示し、例えば「０ｘ８０」と設定されると、これらの組み合わせでなる上及び下スピーカから個別に出力される音量差は０となり上下スピーカの中央に音像が定位することとなる。例えば「０ｘＦＦ］と設定されると一対の下部スピーカ９２１のみから出力されることを示している。

【１２６７】

ボリューム初期値は、再生開始時の音量設定を表しており、例えば「０ｘ００」から「０ｘＦＦ」の設定範囲で定めることができる。音番号は、上述した各音を区別するための識別子である。再生タイプ設定は、対象とする音を繰り返し再生するループ再生（図示の「ＬＯＯＰ」に相当）であるか、或いは、対象とする音を１回再生する１ＳＨＯＴ再生（図示の「１ＳＨＯＴ」に相当）であるかを表している。出力タイプ設定は、対象とする音をモノラルで再生するか、或いは、ステレオで再生するかを表している。

【１２６８】

図１２０は、図１１９で例示した各報知音について、それら報知音の種類別に、報知内容や、報知態様、報知時間のほか、報知が終了される条件（解除条件）を示す表である。なお、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、いずれの報知音に関しても有限の報知時間を定めることとしているが、これは単一のチャンネルＸを有効活用するべくこれを可能な限り空きチャンネルの状態にて維持しておき、その後の報知音出力に控えるための処置である。

【１２６９】

同図１２０に示されるように、報知音１（磁気異常）は、磁気検出センサ４０２４によって磁気の検出が行われた状態（磁石を用いた不正行為が行われている可能性が高い状態）にあることを報知するものである。そして、その報知態様としては、「ブーブー　磁気を検知しました」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「磁気を検知しました」）と、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯とがそれぞれ実行されるようになっている。また、報知時間としては、「ブーブー　磁気を検知しました」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理については磁気検出センサ４０２４による

検出があったときから６０秒（６回分の報知音繰り返しに相当）で終了されるのに対し、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示、及び各種ランプによる点灯については、解除条件である「電源再投入」が満たされるまでその実行が継続されるようになっている。

【１２７０】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、報知音１（磁気異常）のほか、振動センサ２４０５によって振動の検出が行われた状態（ドツキ行為による不正行為が行われている可能性が高い状態）にあることを報知する報知音２（振動異常）、及び大当り遊技状態（大入賞口が開放された状態）にないにもかかわらずカウントセンサ４００５（第一大入賞口センサまたは第二大入賞口センサ）による検出が行われた状態（閉鎖状態にある大入賞口を強制開放させて遊技球を入賞させる不正行為が行われている可能性が高い状態）にあることを報知する報知音３（大入賞異常）を、何らかの不正行為が行われた可能性が高い状態にあるときの第１報知グループに属するものとして捉えており、該第１報知グループに属する報知音については、それらの報知態様や報知時間、解除条件をいずれも共通したものに設定することとしている。

【１２７１】

例えば、報知音２（振動異常）では、その報知態様として、「ブーブー　振動を検知しました」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「振動を検知しました」）と、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯とがそれぞれ実行されるとともに、報知時間として、振動センサ２４０５による検出があったときから６０秒（６回分の報知音繰り返しに相当）で報知音を繰り返し出力させるループ処理を終了させるのに対し、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示、及び各種ランプによる点灯については、解除条件である「電源再投入」が満たされるまでその実行が継続されることとなる。また、報知音３（大入賞異常）では、その報知態様として、「ブーブー　大入賞異常を検知しました」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「大入賞異常を検知しました」）と、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯とがそれぞれ実行されるとともに、報知時間として、カウントセンサ４００５による検出があったときから６０秒（６回分の報知音繰り返しに相当）で報知音を繰り返し出力させるループ処理を終了させるのに対し、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示、及び各種ランプによる点灯については、解除条件である「電源再投入」が満たされるまでその実行が継続されることとなる。

【１２７２】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示については、第１報知グループに属する報知音１～３でそれぞれ異なる表示態様を採用するが、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯については、第１報知グループに属する報知音１～３でそれぞれ同じ点灯態様（各種のランプの全てを必ずしも点灯させる態様でなくてもよい）を採用するようにしている。また、ループ処理の対象とされる報知音については、第１報知グループに属するもの（不正行為が行われた可能性が高い状態）であることを報知する役割を担う「ブーブー」といった報知音１～３のいずれでも用いられる警報音と、報知の内容がいずれであるかについての個体識別を報知する役割を担うメッセージ音（ユニーク音）との順次出力による組み合わせを採用するようにしている。警報音は、緊迫した不正状況下での警告的な意味合いをもたせるために単調な音からなるものであり、メッセージ音は、他の報知音との区別を明確にするために多様な音から構成されるようにすることが望ましい。

【１２７３】

すなわち、第１報知グループに属するもの（不正行為が行われた可能性が高い状態）を報知する場合は、それがいずれの報知種別であるかを特定することよりも、不正行為に対するホール側対応の初動を迅速化させることが重要である。この点、上記構成によれば、

「ブーブー」の報知音や、各種のランプ（発光装置）による第１報知グループ独自の点灯態様が出力されるだけで第１報知グループに属するもの（不正行為が行われた可能性が高い状態）であることが認識可能とされることから、不正行為に対するホール側対応の初動を迅速化させることが期待されるようになる。またさらに、「ブーブー」の報知音に続くようにいずれの報知種別であるかを報知するメッセージ音を出力したり、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示を行うようにしていることから、ホール側対応の初動後の処置もスムーズに行うことが期待されるようになる。

【１２７４】

一方、報知音４（扉開放）は、扉枠開放スイッチ６１８によって本体枠４に対して扉枠３が開放していることが検出された状態（扉開放による不正行為が行われている可能性はあるものの、ホール側による異常対応処置によって扉開放されている可能性もある状態）にあることを報知するものである。そして、その報知態様としては、「扉が開いています ピンポンピンポン」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「扉が開いています」）と、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯とがそれぞれ実行されるようになっている。また、報知時間としては、「扉が開いています ピンポンピンポン」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理については扉枠開放スイッチ６１８による検出があったときから３０秒（３回分の報知音繰り返しに相当）で終了されるのに対し、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示、及び各種ランプによる点灯については、解除条件である「扉閉鎖検知（扉枠開放スイッチ６１８によって本体枠４に対して扉枠３が閉鎖したことの検出）」が満たされるまでその実行が継続されるようになっている。

【１２７５】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、報知音４（扉開放）のほか、本体枠開放スイッチ６１９によって外枠２に対して本体枠４が開放していることが検出された状態（本体枠開放による不正行為が行われている可能性はあるものの、ホール側による異常対応処置によって本体枠開放されている可能性もある状態）にあることを報知する報知音５（枠開放）を、何らかの不正行為が行われた可能性が中程度ありこれを否定できない状態にあるときの第２報知グループに属するものとして捉えており、該第２報知グループに属する報知音については、それらの報知態様や報知時間、解除条件をいずれも共通したものに設定することとしている。

【１２７６】

例えば、報知音５（枠開放）では、その報知態様として、「枠が開いています ピンポンピンポン」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「枠が開いています」）と、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯とがそれぞれ実行されるとともに、報知時間として、本体枠開放スイッチ６１９による検出があったときから３０秒（３回分の報知音繰り返しに相当）で報知音を繰り返し出力させるループ処理を終了させるのに対し、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示、及び各種ランプによる点灯については、解除条件である「枠閉鎖検知（本体枠開放スイッチ６１９によって外枠２に対して本体枠４が閉鎖したことの検出）」が満たされるまでその実行が継続されることとなる。

【１２７７】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示については、第２報知グループに属する報知音４，５でそれぞれ異なる表示態様を採用するが、扉枠３及び遊技盤５に配設されている各種のランプ（発光装置）による点灯については、第２報知グループに属する報知音４，５でそれぞれ同じ点灯態様（各種のランプの全てを必ずしも点灯させる態様でなくてもよい）を採用するようにしている。ただし、第２報知グループに属する場合におけるランプ（発光装置）による点灯態様は、第１報知グループに属する場合におけるランプ（発光装置）による点灯態様とは異

なっている。また、ループ処理の対象とされる報知音については、報知の内容がいずれであるかについての個体識別を報知する役割を担うメッセージ音（ユニーク音）と、第２報知グループに属するもの（不正行為が行われた可能性が中程度ある状態）であることを報知する役割を担う「ピンポンピンポン」といった報知音４，５のいずれでも用いられる警報音との順次出力による組み合わせを採用するようにしている。

【１２７８】

すなわち、第２報知グループに属するもの（不正行為が行われた可能性が中程度ある状態）を報知する場合は、適正な遊技を行っている者に対して嫌悪感を覚えさせないようにしつつもホール側の異常対応処置もある程度迅速に行いうるようにすることが重要である。この点、上記構成によれば、報知音として、まず、後述の第３報知グループに属するものである場合と同様、いずれの報知種別であるかを報知するメッセージ音を出力するようにしていることから、適正な遊技を行っている者が嫌悪感を覚え難くなることが期待されるようになる。その一方で、適正な遊技を行っている者に対して嫌悪感を覚えさせ難くするべく第１報知グループに属する場合とは異なる警報音ではあるものの「ピンポンピンポン」といった警報音をメッセージ音に続くように出力したり、適正な遊技を行っている者に対して嫌悪感を覚えさせ難くするべく第１報知グループに属する場合とは異なる点灯態様ではあるものの第３報知グループに属する場合には出力されない各種ランプの点灯による報知を行うことで、ホール側の異常対応処置をある程度迅速化させることが期待されるようになる。

【１２７９】

また一方、報知音６（左打ち案内）は、非時短の状態にあるにもかかわらず遊技領域５ａのうちセンター役物２５００に対して右側となる領域内に設けられるゲート部２００３を遊技球が通過したことがゲートセンサ４００３によって検出された状態（遊技者にとって不利益となる態様で遊技が行われており、それを適正な態様（左打ち）での遊技へと是正させるべき状態）にあることを報知するものである。そして、その報知態様としては、「左打ちに戻してください」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「左打ちに戻してください」）とがそれぞれ実行されるようになっている。また、報知時間としては、「左打ちに戻してください」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示とのいずれもが、非時短の状態においてゲートセンサ４００３による検出があったときから２０秒（２回分の報知音繰り返しに相当）で終了されるようになっている。

【１２８０】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、報知音６（左打ち案内）のほか、満タン検知センサ２７９によって下皿３２２が遊技球で満タンであることが検出された状態（下皿３２２内にある遊技球の玉抜きを行うべき状態）にあることを報知する報知音７（玉抜き案内）を、不正行為の可能性は低いものの遊技を適正に進行させるための遊技案内を行うべき状態にあるときの第３報知グループに属するものとして捉えており、該第３報知グループに属する報知音については、それらの報知態様や報知時間、解除条件をいずれも共通したものに設定することとしている。

【１２８１】

例えば、報知音７（玉抜き案内）では、その報知態様として、「下皿の球を抜いてください」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示（例えば、「下皿の球を抜いてください」）とがそれぞれ実行されるとともに、報知時間として、「下皿の球を抜いてください」といった報知音を繰り返し出力させるループ処理と、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域内における表示とのいずれもが、満タン検知センサ２７９による検出があったときから２０秒（２回分の報知音繰り返しに相当）で終了されるようになっている。

【１２８２】

ただし、報知音６（左打ち案内）や報知音７（玉抜き案内）については、ゲートセンサ

４００３や満タン検知センサ２７９による検出があったときから２０秒で終了された時点でそれらセンサ２４０１，２７９が未だ検出状態にあるときには、再び最初から報知処理（報知音６（左打ち案内）や報知音７（玉抜き案内））を実行することとなる。

【１２８３】

なお、この実施例にかかる第３報知グループでは、報知音６，７としてメッセージ音のみが出力されるが、より厳密には、例えば５秒間のメッセージ音が出力し終わった後には５秒間の無音データがチャンネルＸに割り当てられてそれに応じた音が出力（無音出力）されるようになっており、それらメッセージ音と無音データとをセットにした１０秒間の報知音を繰り返すループ処理が行われるようになっている。そして、報知音６，７では、いずれも同じ時間分だけ無音データを出力するようになっていることから、第１報知グループや第２報知グループとは異なる独自の報知態様として機能することとなり、ホール側としても、喧騒なホール内で聞き取りにくいメッセージ音の部分ではなく無音データの部分を確認するだけでも第３報知グループに属する報知であることを適正に認識することができるようになる。無音データに関しては、メッセージ音を含めた一の音データ（１０秒間の音データ）として予め用意し、これをチャンネルＸに割り当てたままでループ処理を行うようにすることが望ましい。

【１２８４】

ちなみに、第１報知グループや第２報知グループで用いられる報知音内（警報音とメッセージ音との間など）にも無音部分は存在しうるが、これらは「間」を持たせるためのごく短時間のものであり、グループ識別機能を有する上述の比較的長い時間を持った無音部分（第３報知グループ）とは根本的に異なるものであることは明らかである。

【１２８５】

このような構成によれば、「ブーブー」や「ピンポンピンポン」などの警報音が出力されず、メッセージ音のみが所定の無音時間を挟んで繰り返し出力されるようになることから、遊技者に対して嫌悪感を覚えさせることなく、遊技案内に関する報知を行うことができるようになる。

【１２８６】

図１１９や図１２０に示した例では、同じ報知グループ内に属する報知音に関しては、優先順位を同じに設定することとしたが、同じ報知グループ内に属する報知音の間で優先順位を異ならせるようにしてもよい。また、再生タイプ設定として、対象とする音を繰り返し再生するループ再生を採用することとしたが、必ずしもこれに限られず、対象とする音を１回再生する１ＳＨＯＴ再生を採用するようにしてもよい。また、第１報知グループに属する報知音で共通して用いられる「ブーブー」や、第２報知グループに属する報知音で共通して用いられる「ピンポンピンポン」については、メッセージ音と繋がりをもった一の音データとして各報知音の別にそれぞれ用意するようにしてもよいし、メッセージ音とは別の音データとして用意しておき、出力に際してメッセージ音と警報音とを結合させた音データを作成してからチャンネルに割り当てるようにしてもよい。

【１２８７】

［複数の演出操作ユニットを備えた遊技機］

ところで、前述では遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができる演出操作ユニット４００を皿ユニット３２０に備えた遊技機について説明したが、以下では、図１２１～図１４３を参照して、より遊技者の操作意欲を高めることが可能な遊技機について説明する。なお、以下に述べる演出操作ユニットの演出制御は、周辺制御基板１５１０によって行われる。

【１２８８】

図１２１は、刀演出操作ユニット５０００を備えた遊技機の正面図である。図１２２は、刀演出操作ユニット５０００を備えた遊技機の右側面図である。ここでは、前述の遊技機１の扉枠３に配設される刀演出操作ユニット５０００について述べ、前述と同様の構成については同じ符号を付し、適宜説明を省略する。

【１２８９】

刀演出操作ユニット５０００は、正面視右側の扉枠３の前面に設けられる。刀演出操作ユニット５０００は、刀身部５０１１と、柄部５０１２と、刀身部５０１１と柄部５０１２との間に挟まれる鍔部５０１３とを有する刀部５０１０と、刀部５０１０の刀身部５０１１を納めることが可能な鞘部５０２０とからなる刀装飾体５００１を構成している。

【１２９０】

刀装飾体５００１は、扉枠３に正面視左右方向に鞘部５０２０を可動可能に設けられている。また、刀部５０１０を抜刀方向及び納刀方向に可動可能に設けられている。刀部５０１０は、通常は刀身部５０１１が鞘部５０２０に納められた納刀状態であり、抜刀演出において抜刀動作により刀身部５０１１が遊技者に視認可能になる抜刀状態になる。そして、抜刀状態となった刀部５０１０は、遊技者による納刀操作を受け付けて納刀状態に戻る操作手段として機能可能になる。

【１２９１】

ここで、図１２３を参照して、刀演出操作ユニット５０００（刀装飾体５００１）の可動を伴う抜刀演出の実行機会ついて説明する。図１２３は、抜刀演出を実行可能な演出モードにおける演出パターンの選択テーブルの一例を示す図であり、（Ａ）変動パターンの種別に応じた抜刀準備移行演出の有無を選択する選択テーブルの一例を示し、（Ｂ）抜刀本演出の有無を選択する選択テーブルの一例を示す。

【１２９２】

ここで述べる演出パターンには、抜刀準備移行演出実行後に抜刀本演出が行われるパターン、事前に抜刀準備移行演出が行われることなく抜刀本演出が行われるパターン、事前に抜刀準備移行演出が行われたにもかかわらず抜刀本演出が行われないパターン、抜刀準備移行演出が行われることも抜刀本演出が行われることもないパターンがあり、さらに抜刀本演出における刀装飾体５００１の形態には、オーラ部材付き形態とオーラ部材なし形態の２パターンが設けられている。

【１２９３】

図１２３（Ａ）に示すように、主制御基板１３１０において決定され、周辺制御基板１５１０に送信される変動パターンの種類に応じて、抜刀準備移行演出の実行有無が抽選される。ここで、複数種類の変動パターンは大当り時の大当り変動用変動パターン、小当り時の小当り変動用変動パターン及びはずれ時のはずれ変動用変動パターンに分類され、遊技者にとって有利な結果となる変動パターンであるほど抜刀準備移行演出が実行される確率が高くなるように設定されている。具体的には、抜刀準備移行演出は、大当り変動用変動パターンのときは５０％の確率で実行され、小当り変動用変動パターンのときには３０％の確率で実行され、はずれ変動用変動パターンのときには２０％の確率で実行される。なお、はずれ変動時変動パターンは、リーチ演出が行われる場合は行われない場合に比べて抜刀準備移行演出が実行される確率が高くなるようにリーチ演出の有無に応じて確率を変えてもよい。

【１２９４】

次に、図１２３（Ｂ）に示すように、変動パターンの種類と抜刀準備移行演出の有無に応じて、抜刀本演出の実行有無が抽選される。変動パターンの種類が同じでも抜刀準備移行演出が実行される場合は、抜刀準備移行演出が実行されない場合よりも抜刀本演出が実行される確率が高くなるよう設定される。また、遊技者にとって有利な結果となる変動パターンであるほど抜刀本演出が実行される確率が高くなるように設定される。ここで、変動パターンの有利度が低くても抜刀準備移行演出が実行される方が、抜刀本演出が実行される確率が高くなるよう設定される。具体的には、はずれ変動用変動パターンで抜刀準備移行演出が実行される場合は、小当り変動用変動パターンで抜刀準備移行演出が実行されない場合よりも抜刀本演出が実行される確率が高い。なお、大当り変動用変動パターンの場合には抜刀準備移行演出の有無に関わらず必ず抜刀本演出が実行される。

【１２９５】

また、抜刀本演出が実行される場合は、事前に抜刀準備移行演出が実行され、遊技者にとって有利な結果となる変動パターンであるほどオーラ部材付き形態の抜刀本演出が実行

される確率が高くなるよう設定される。なお、ここでは小当り変動用変動パターンの場合にはオーラ部材付き形態の抜刀本演出が選択されることはない。

【１２９６】

（刀装飾体の抜刀動作による状態遷移とオーラ部材の動作）

続いて、図１２４～図１２７を参照して、抜刀演出（抜刀準備移行演出及び抜刀本演出）における刀装飾体５００１の抜刀動作について説明する。また、オーラ部材５０３０が遊技者による納刀操作を受け付け可能な刀部５０１０（刀身部５０１１）自体に設けられ、刀部５０１０が自身の構成部材（オーラ部材５０３０）によって変形する場合（図１２４、図１２５）と、オーラ部材５０３５が刀部５０１０（刀身部５０１１）を収納する扉枠３の鞘部５０２０に設けられ、刀部５０１０が扉枠３側の部材（オーラ部材５０３５）と合体して一体的な装飾体となる場合（図１２６、図１２７）について、オーラ部材５０３０、５０３５の動作について説明する。

【１２９７】

図１２４は、オーラ部材５０３０が刀部５０１０（刀身部５０１１）自体に設けられる場合の刀装飾体５００１の抜刀動作について説明する状態遷移図であり、（Ａ）納刀状態、（Ｂ）第一抜刀状態、（Ｃ）第二抜刀状態を示す。図１２５は、オーラ部材５０３０の動作について説明する縦断面図である。なお、図１２５は、オーラ部材５０３０の動作を分かり易くするために刀身部５０１１を鞘部５０２０から抜き出した状態における縦断面図である。

【１２９８】

通常状態における刀装飾体５００１は、図１２４（Ａ）に示すように、刀身部５０１１が鞘部５０２０に納められた納刀状態である。抜刀準備移行演出における抜刀動作後の刀装飾体５００１は、図１２４（Ｂ）に示すように、刀身部５０１１の手元に嵌められるハバキ５０１１ａの部分のみが鞘部５０２０から抜かれて遊技者から視認可能になる第一抜刀状態となる。そして、抜刀本演出における抜刀動作後の刀装飾体５００１は、図１２４（Ｃ）に示すように、刀身部５０１１が鞘部５０２０からさらに抜かれて大部分が遊技者から視認可能になる第二抜刀状態となる。ここで、第二抜刀状態となった刀装飾体５００１は、遊技者による納刀操作を受け付け可能な操作手段として機能することができるようになる。

【１２９９】

刀身部５０１１に設けられるオーラ部材５０３０は、刀身部５０１１の抜刀動作とは別に単独で動作可能に構成されている。刀装飾体５００１がオーラ部材付き形態となる場合では、オーラ部材５０３０は、刀身部５０１１が納刀状態（図１２４（Ａ））から第一抜刀状態（図１２４（Ｂ））となるときに鞘部５０２０の内部で閉状態（図１２５（Ａ））から開状態（図１２５（Ｂ））に可動域を可能な限り動作（最大動作）し、刀身部５０１１を変形させる。このため、オーラ部材５０３０によって変形された刀身部５０１１が第一抜刀状態から第二抜刀状態（図１２４（Ｃ））となる変化過程においても遊技者はオーラ部材５０３０を視認することができる。なお、後述するがオーラ部材５０３０は最大動作しても刀身部５０１１のハバキ５０１１ａの下方に位置するよう設けられるので、遊技者は第一抜刀状態でオーラ部材５０３０を視認することができない。

【１３００】

通常状態（閉状態）におけるオーラ部材５０３０は、図１２５（Ａ）に示すように、刀身部５０１１に内包される。オーラ部材５０３０は、刀身部５０１１のハバキ５０１１ａの下方に設けられ、右オーラ部材５０３１と、左オーラ部材５０３２と、右オーラ部材５０３１に設けられるラック５０３１ａ及び左オーラ部材５０３２に設けられるラック５０３２ａと噛み合うピニオン５０３３とを有する。オーラ部材５０３０は、駆動手段（図示省略）によってピニオン５０３３が正面視反時計回りに回転されることで、回転力がラック５０３１ａの右方向及びラック５０３２ａの左方向の直線運動に変換され、図１２５（Ｂ）に示すように、右オーラ部材５０３１及び左オーラ部材５０３２がそれぞれ刀身部５０１１の外形から外側に突出した位置（開状態）で停止する。

【１３０１】
　また、刀身部５０１１のハバキ５０１１ａの下方には刀身軸５０１１ｂに複数のＬＥＤを有するＬＥＤ基板５０１１ｃが内包されている。これらＬＥＤが発光されることで、刀身部５００１１（オーラ部材５０３０）を発光装飾させることが可能となる。
【１３０２】
　なお、ここでは、オーラ部材５０３０の動作タイミングについて刀装飾体５００１（刀部５０１０）が納刀状態から第一抜刀状態になるときに閉状態から開状態となり、オーラ部材５０３０の動作によって刀身部５０１１を変形させた上で刀装飾体５００１が第一抜刀状態から第二抜刀状態に変化する例を示したが、これに限らない。オーラ部材５０３０は、刀装飾体５００１が第二抜刀状態になってから動作（変形）を開始してもよい。第二抜刀状態となった刀装飾体５００１が操作手段として機能するまでに設定された演出パターンに基づく最終態様（最大動作して成る形態に限らず、途中で動作を停止して成る形態を含む）になっていればよい。
【１３０３】
　図１２６は、オーラ部材５０３５が鞘部５０２０に設けられる場合の刀装飾体５００１の抜刀動作について説明する状態遷移図であり、（Ａ）納刀状態、（Ｂ）第一抜刀状態、（Ｃ）第二抜刀状態を示す。図１２７は、オーラ部材５０３５の動作について説明する縦断面図である。なお、図１２７は、オーラ部材５０３５の動作を分かり易くするために刀身部５０１１を鞘部５０２０から抜き出した状態における縦断面図である。ここでは、前述の図１２５及び図１２６と同様の構成には同じ符号を付して説明を適宜省略する。
【１３０４】
　図１２６（Ａ）～（Ｃ）に示すように、刀部５０１０（刀身部５０１１）を収納する扉枠３の鞘部５０２０に設けられるオーラ部材５０３５は、前述の刀部５０１０（刀身部５０１１）自体に設けられるオーラ部材５０３０が左右方向に可動するのに対し、上下方向に可動する。また、オーラ部材５０３５は、刀身部５０１１の外周を囲うように設けられる。そして、刀装飾体５００１がオーラ部材付き形態となる場合では、オーラ部材５０３５は、納刀状態における刀身部５０１１とオーラ部材５０３５との相対位置関係を保ちながら刀身部５０１１の状態変化（納刀状態⇔第一抜刀状態⇔第二抜刀状態）に合わせて動作する。これにより、刀部５０１０（刀身部５０１１）が枠側の部材（オーラ部材５０３５）と合体して一体的な装飾体とみせることを可能にしている。
【１３０５】
　通常状態（完全収容状態）におけるオーラ部材５０３５は、図１２７（Ａ）に示すように、鞘部５０２０に収容される。オーラ部材５０３５は、完全収容状態において上端が刀身部５０１１のハバキ５０１１ａの下方になるよう設けられ、刀身部５０１１の外周を囲うように設けられる中空円柱状の囲いオーラ部材５０３６と、囲いオーラ部材５０３６の中空部下方に設けられる右ラック５０３６ａ及び左ラック５０３６ｂと、右ラック５０３６ａ及び左ラック５０３６ｂとそれぞれ噛み合う右ピニオン５０３７ａ及び左ピニオン５０３７ｂとを有する。囲いオーラ部材５０３６は、駆動手段（図示省略）によって右ピニオン５０３７ａが正面視反時計回りに回転され、左ピニオン５０３７ｂが正面視時計回りに回転され、両ピニオンも噛み合うことで、回転力がラック右ラック５０３６ａ及び左ラック５０３６ｂの上方向の直線運動に変換され、図１２７（Ｂ）に示すように、囲いオーラ部材５０３６が刀身部５０１１と合体して第二抜刀状態を形成する位置で停止する。このときのオーラ部材５０３５は、囲いオーラ部材５０３６が可動域上限まで可動（最大動作）している完全出現状態となる。
【１３０６】
　また、図示は省略しているが、刀身部５０１１には複数のＬＥＤを有するＬＥＤ基板が内包されており、刀身部５０１１及びオーラ部材５０３５を発光装飾させることが可能である。
【１３０７】
　なお、ここでは、オーラ部材５０３５の動作タイミングについて刀装飾体５００１（刀

部５０１０）の状態変化（納刀状態⇔第一抜刀状態⇔第二抜刀状態）に応じて相対位置関係を保ちながら刀身部５０１１と合体する例を示したが、これに限らない。オーラ部材５０３５は、刀装飾体５００１が第二抜刀状態になってから動作（合体）を開始してもよい。第二抜刀状態となった刀装飾体５００１が操作手段として機能するまでに設定された演出パターンに基づく最終態様（最大動作して成る完全出現状態に限らず、途中で動作を止めて成る途中出現状態のオーラ部材付き形態を含む）になることができればよい。また、オーラ部材５０３５は、納刀状態から第一抜刀状態において遊技者から視認されないように刀身部５０１１と合体すればよい。

【１３０８】

（刀装飾体５００１を用いる他の演出パターン１）

続いて、図１２８～図１３０を参照して、前述の刀装飾体５００１を用いる他のリーチ演出について説明する。図１２８～図１３０は、姫リーチ演出における演出表示装置１６００の画面遷移及び刀装飾体５００１の動作遷移を説明する図である。ここでは、前述の刀装飾体５００１と主に以下の点が異なる。第一に、納刀状態の刀装飾体５００１が操作手段として機能し、遊技者による抜刀操作を操作検出する。第二に、扉枠３に設けられる鞘部５０２０は、正面視左右方向に可動することができるように構成されており、第二抜刀状態となった刀装飾体５００１は、演出表示装置１６００の前面中央まで動作可能である。

【１３０９】

変動中の図柄がリーチ状態を形成すると、演出表示装置１６００の表示領域では、三つの装飾図柄の変動表示がリーチ状態となり（図１２８（Ａ１））、姫リーチの開始画像が表示される（図１２８（Ａ２））。ここで、演出表示装置１６００の表示領域の上方には、上下方向に可動させることができる特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が設けられている。特定装飾部材ＳＤＹは、通常状態では正面視で演出表示装置１６００の表示領域に重なることなく、表示領域の上方にて簾の一部が遊技者から視認可能な状態（初期状態）で静止されている。また、このとき刀装飾体５００１は納刀状態である。

【１３１０】

姫リーチ演出では、簾の奥に姫が向かう画像が表示されたのち（図１２８（Ａ３））、操作演出を示唆する操作演出示唆画像が表示される（図１２８（Ｂ１））。そして、刀装飾体５００１の操作演出が開始されて刀装飾体５００１の操作を受け付ける操作有効期間が始まるとともに、演出表示装置１６００の表示領域には、遊技者に刀装飾体５００１の抜刀操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される（図１２９（Ｂ２））。このとき、操作演出示唆画像が表示されてから操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示されるまでの間、刀装飾体５００１や特定装飾部材ＳＤＹを上下方向に小刻みに可動させるようにしてもよい。そして、遊技者による抜刀操作が検出されると、予め設定される発展パターンもしくは終了パターンに応じて演出が行われる。

【１３１１】

遊技者による抜刀操作は、納刀状態の刀装飾体５００１の柄部５０１２を遊技者が掴んで上方に刀部５０１０を持ち上げるようにして刀身部５０１１を鞘部５０２０から抜き出す動作をいう。刀装飾体５００１が納刀状態から第二抜刀状態になると遊技者による抜刀操作が検出され、遊技者に検出を報知する検出報知動作が行われる。検出報知動作は、刀部５０１０（もしくは柄部５０１２）が上下運動する可動や振動等、遊技者が掴んだ柄部５０１２を介して自身の抜刀操作とは別の動作を感じ取れるような動作であればよい。また、検出報知動作は、操作を検出してから一定期間行われ、遊技者が柄部５０１２から手を離しても動作を視認することができる。このため、遊技者は視覚でも操作検出を確認することができるので、刀装飾体５００１への不要な接触（検出確認のために再度掴む等）を減らし、可動体の故障や破損を防止することができる。

【１３１２】

ここでの遊技者による抜刀操作では、オーラ部材５０３０（５０３５）は出現しないが、期待度に応じて、遊技者が抜刀操作したときにオーラ部材５０３０（５０３５）が遊技

者から視認可能に出現するようにしてもよい。
【１３１３】
終了パターンが行われる場合には、遊技者による抜刀操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹは、演出表示装置１６００の表示領域に重なることなく、表示領域の上方にて静止された状態（初期状態）を維持し、刀装飾体５００１による操作演出の終了を示す画面が表示される（図１２９（Ｃ１））。そして、装飾図柄がはずれ態様「７６７」で停止表示される（図１２９（Ｃ２））。このとき、刀装飾体５００１は、図１２９（Ｃ２）の停止結果が報知されるタイミングで納刀状態に戻されるが、これに限らず、検出報知動作を終了するタイミングで納刀状態に戻されるようにしてもよい。
【１３１４】
一方、発展パターンが行われる場合には、遊技者による抜刀操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は、演出表示装置１６００の表示領域と重なる前面中央（表示領域の下方の保留表示領域のみ視認可能な状態（全落下状態）に落下可動される（図１２９（Ｄ１））。次いで、演出表示装置１６００の表示領域には姫の影が映し出される。このとき、刀装飾体５００１は、第二抜刀状態を維持している（図１２９（Ｄ２））。なお、このときに演出表示装置１６００の表示領域に映し出される姫の影の表示を複数パターン設けてもよく、例えば、影の色や影の大きさ、その後表示されるコメントを異ならせることで姫リーチによる抽選結果の期待度（当り期待度や、当りであるときの遊技利益など）を示唆するようにしてもよい。
【１３１５】
そして、刀装飾体５００１が遊技者による抜刀操作によって第二抜刀状態となってから、すなわち演出表示装置１６００の表示領域に姫の影が映し出されてから所定期間が経過すると、第二抜刀状態の刀装飾体５００１は、扉枠３に設けられる鞘部５０２０が可動されることで演出表示装置１６００の表示領域の前面左右方向中央まで移動する（図１２９（Ｄ３））。そして、刀装飾体５００１が演出表示装置１６００の表示領域の前面中央位置に到達すると、特定装飾部材ＳＤＹが全落下状態から初期状態に戻り、視界良好となった演出表示装置１６００の表示領域には簾を外されて驚く姫の画像が表示される（図１３０（Ｄ４））。その後、刀装飾体５００１は、再び元の抜刀操作が行われた位置まで戻り、演出表示装置１６００の表示領域では、今回の変動表示の結果が当りとなる場合に笑顔の姫とともに当りを報知する画像が表示され（図１３０（Ｅ１）（Ｅ２）、はずれとなる場合に悲しむ姫とともにはずれを報知する画像が表示される（図１３０（Ｆ１）（Ｆ２））。
【１３１６】
なお、遊技者による抜刀操作が検出された際には、上述した通り検出報知動作を行うこととしているが、刀装飾体５００１が演出表示装置１６００の表示領域の前面左右方向中央まで移動する可動演出を実行する際に遊技者が掴んでいることにより移動できない場合には、「刀を離して下さい」等のアナウンスや表示が行われる。遊技者が刀装飾体５００１の掴みを止めなくても演出自体は進行するが、刀装飾体５００１の左右方向の可動演出タイミング（図１２９（Ｄ３））に刀装飾体５００１が遊技者による操作が行われた位置に保持される場合には左右方向の可動演出の遅延を引き起こすことになる。しかし、刀装飾体５００１の左右方向の可動演出が実行されたか否かに拘わらず演出表示装置１６００の表示領域にて実行される演出及び特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の落下可動演出は進展するように構成されているため、遊技進行が停滞することはない。なお、刀装飾体５００１は、遊技者による刀装飾体５００１の保持が解除された場合に、直ちに左右方向の可動演出を行うように構成されてもよいし、可動演出を行わないように構成されてもよい。
【１３１７】
このように、姫リーチ演出では、遊技者による刀装飾体５００１の抜刀操作（上下方向動作）によって、刀装飾体５００１の操作演出（操作有効）の示唆を行った特定装飾部材ＳＤＹを落下可動させるとともに、演出表示装置１６００の表示領域外にて操作が行われた刀装飾体５００１自体を、扉枠３に設けられる鞘部５０２０が可動されることで演出表

示装置１６００の前方方向（操作位置に対して左方向）に可動させることができる。すなわち、遊技者による抜刀操作に基づき、刀装飾体５００１自体を抜刀操作が行われた操作位置とは異なる動作位置に移動させることが可能となり、遊技者の操作価値を高め、遊技者の操作意欲の減退を抑制することができる。また、遊技者による操作によって、一の操作手段が段階的に異なる態様（操作時は上下方向、操作後は左右方向）で動作可能に構成されているので、複数の可動態様を用いる演出を提供することができ、一可動態様しか持たない従来の操作手段に比べて操作手段の操作価値を高めることができる。よって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【１３１８】

なお、刀装飾体５００１の左右方向の可動演出は、演出表示装置１６００の表示領域で行われる演出画像、及び特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との一体的な演出を行う目的で、演出表示装置１６００の表示領域外となる操作位置から演出表示装置１６００の表示領域の前方となる動作位置に変位させたが、これに限らない。例えば、演出表示装置１６００の表示領域の前方に刀装飾体５００１を位置させた状態で抜刀操作を行わせたのち、刀装飾体５００１を可動させて演出表示装置１６００の表示領域外に位置するように左方向（枠の左端）まで変位させる左右方向の可動演出を行ってもよい。また、本例の刀装飾体５００１の遊技者による操作が上下方向の動作（刀部５０１１を下から上に引き上げる抜刀動作）となるので、操作に基づいて当該操作後に行われる刀装飾体５００１の可動演出は遊技者の操作時の動作方向（ここでは上下方向）とは異なる方向（本例のように左右方向等）に刀装飾体５００１が動作することが望ましい。

【１３１９】

また、遊技者による抜刀操作が検出されたときには遊技者が操作した操作部（刀部５０１０）を介して遊技者に検出を報知する検出報知動作が行われるので、遊技者は操作終了タイミングを的確に判断することができる。また、検出報知動作は一定期間、遊技者が視覚でも確認できるように行われるので、検出確認のために再度操作部に触れる等の不要な接触を抑制することができる。よって、遊技者が操作を継続してしまい、その後の刀装飾体５００１の可動演出が遅延してしまったり、不要な接触により可動体が破損してしまったりするのを防止することができる。さらに、検出報知動作後も刀装飾体５００１への接触により可動演出が実行できない場合には、遊技者に手を離すようアナウンス等の警告が行われ、操作有効期間には操作を求められていた操作手段が検出報知動作終了後は接触すら禁止されるので、操作手段の操作価値を高めることができる。

【１３２０】

（刀装飾体５００１を用いる他の演出パターン２）

続いて、図１３１～図１３３を参照して、前述の刀装飾体５００１を用いる他のリーチ演出について説明する。図１３１～図１３３は、多面的に使われる操作ボタン４１０の操作演出を含むリーチ演出における演出表示装置１６００の画面遷移、操作ボタン４１０の状態遷移及び刀装飾体５００１の動作遷移を説明する図である。ここでは、操作ボタン４１０の操作演出として実行中の変動が大当りとなる期待度を示唆する期待度示唆演出が行われるパターン（図中（Ａ）（Ｂ）→Ｎ）と、操作ボタン４１０の操作演出として刀装飾体５００１の操作演出の示唆及び展開が行われるパターン（図中（Ａ）（Ｂ）→Ｍ）について説明する。

【１３２１】

ここでのリーチ演出は、演出表示装置１６００の表示領域において、三つの装飾図柄の変動表示がリーチ状態となると（図１３１（Ａ））、まず、操作ボタン４１０の押圧操作を受け付ける操作有効期間が開始され、遊技者に操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進演出が行われる（図１３１（Ｂ））。演出表示装置１６００の表示領域には、操作対象となる操作手段（操作ボタン４１０）の画像と操作有効期間が表示され、操作対象の操作ボタン４１０は発光装飾される。このとき、刀装飾体５００１は納刀状態を維持している。そして、遊技者による操作ボタン４１０への押圧操作が検出されると、予め設定される演出パターンに応じて演出が行われる。

【１３２２】
まず、操作ボタン４１０の押圧操作によって期待度示唆演出が行われるパターンでは、遊技者による操作ボタン４１０への押圧操作が検出されると、演出表示装置１６００の表示領域には、エフェクト画像が表示されたのち（図１３１（Ｎ１））、大当り期待度を示唆する画像が表示される（図１３２（Ｎ２））。その後、今回の変動表示の結果（大当り、はずれ）が報知される（図１３２（Ｎ３）又は（Ｎ４））。なお、実行中の変動表示に対する期待度示唆演出の代わりに先読み演出が行われてもよく、例えば、期待度を示す画像（図１３２（Ｎ２））の代わりに演出表示装置１６００の表示領域に表示されている保留表示を変化させるキャラクタを登場させるようにしてもよい。
【１３２３】
また、操作ボタン４１０の押圧操作によって刀装飾体５００１の操作演出の示唆及び展開が行われるパターンでは、遊技者による操作ボタン４１０への押圧操作が検出されると、演出表示装置１６００の表示領域には、刀装飾体５００１の納刀操作を要求する操作演出が行われることを示唆するエフェクト画像が表示される図１３１（Ｍ１））。次いで、演出表示装置１６００の表示領域に、刀装飾体５００１の操作演出の開始画像（ここでは、タイトル「抜刀チャンス」及び操作説明「刀を納めて頂きたくござ候う」のメッセージ）が表示されるとともに、刀装飾体５００１が納刀状態から第二抜刀状態に変化する。このときの刀装飾体５００１は、オーラ部材５０３０の最大動作によって刀身部５０１１が変形されたオーラ部材付き形態である（図１３３（Ｍ２））。続いて、第二抜刀状態になって所定期間が経過し、刀装飾体５００１の操作有効期間が始まると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態で上下方向に小刻みに可動され、演出表示装置１６００の表示領域には、遊技者に刀装飾体５００１の納刀操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される（図１３３（Ｍ３））。そして、遊技者による納刀操作が検出されると、今回の変動表示の結果に基づいた演出が行われる。
【１３２４】
今回の変動表示の結果が大当りとなる場合には、遊技者による納刀操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態から全落下状態になるよう落下可動される（図１３３（Ｍ４））。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が再び初期状態に戻されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との重複が解除された演出表示装置１６００の表示領域には、大当りを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７７７」、「お見事」のメッセージ）が表示される（図１３３（Ｍ５））。一方、今回の変動表示の結果がはずれとなる場合には、遊技者による納刀操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は、初期状態における小刻み可動が停止されるのみで、演出表示装置１６００の表示領域には、はずれを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７６７」）が表示される（図１３３（Ｍ６））。
【１３２５】
このように、操作ボタン４１０の押圧操作によって、期待度を示唆したり他の操作手段（刀装飾体５００１）の操作演出を展開したりと多様な演出が可能になり、遊技者は操作ボタン４１０を操作する時点でその後の展開を特定することができない。したがって、遊技者の操作ボタン４１０の操作への関心を高めることができ、操作後の演出が単調なことで懸念される操作意欲の減退及び遊技興趣の低下を抑制することができる。
【１３２６】
また、一連のリーチ演出において一回目の操作（操作ボタン４１０の押圧操作）と二回目の操作（刀装飾体５００１の納刀操作）とで異なる操作態様（押圧操作と納刀操作）が一回目の操作（操作ボタン４１０の押圧操作）に基づいて遊技者に要求されることとなる。したがって、遊技者の操作参加への関心を高めることができ、代わり映えせず単調な操作になることで懸念される遊技興趣の低下を抑制することができる。
【１３２７】
なお、本例では一回目の操作機会として操作ボタン４１０を有効な操作手段とし、操作ボタン４１０の押圧操作に基づいて二回目の操作機会（刀装飾体５００１の納刀操作）を

付与するものとしたが、これに限らない。一回目の操作機会として刀装飾体５００１の納刀操作を有効な操作としてもよい。この場合の二回目の操作機会に有効とする操作手段は、一回目の刀装飾体５００１よりも相対的に期待度が低い操作ボタン４１０を対象とするよりも、刀装飾体５００１を対象とするのが望ましい。

【１３２８】

（刀装飾体５００１を用いる他の演出パターン３）

続いて、図１３４～図１３８を参照して、前述の刀装飾体５００１を用いる他のリーチ演出について説明する。図１３４～図１３８は、リーチ演出における演出表示装置１６００の画面遷移、操作ボタン４１０の状態遷移及び刀装飾体５００１の動作遷移を説明する図である。ここでは、操作ボタン４１０の押圧操作に基づいて特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が可動した場合に大当りとなるパターン（図中（Ａ）（Ｂ１）（Ｂ２）→Ｏ）と、操作ボタン４１０の押圧操作に基づいて特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が可動せずに、はずれ態様で表示された場合でも、はずれ態様の図柄表示から再変動が行われ再度遊技者に操作機会が与えられるパターン（図中（Ａ）（Ｂ１）（Ｂ２）→（Ｐ１）～（Ｐ４）→刀装飾体５００１の操作機会が与えられる場合はＱ／操作ボタン４１０の操作機会が与えられる場合はＲ）とについて説明する。

【１３２９】

ここでのリーチ演出は、演出表示装置１６００の表示領域において、三つの装飾図柄の変動表示がリーチ状態となると（図１３４（Ａ））、まず、操作ボタン４１０の操作演出の開始画像（ここでは、「ボタン一撃で可動体を動かすでござる」のメッセージ）が表示され（図１３４（Ｂ））、次いで、操作ボタン４１０の押圧操作を受け付ける操作有効期間が開始され、操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進演出が行われる（図１３４（Ｃ））。演出表示装置１６００の表示領域には、操作対象となる操作手段（操作ボタン４１０）の画像と操作回数と操作有効期間が表示され、操作対象の操作ボタン４１０は発光装飾される。このとき、刀装飾体５００１は納刀状態を維持している。そして、遊技者による操作ボタン４１０への押圧操作が検出されると、予め設定される演出パターンに応じて演出が行われる。なお、操作ボタン４１０の押圧操作は、一撃（１回）に限らず連打（複数回）でもよい。また、遊技者が操作によって動く対象（可動体）を把握しやすいように、操作ボタン４１０の操作有効期間中に特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態で上下方向に小刻みに可動されるようにしてもよい。また、後に刀装飾体５００１が操作対象となる場合には、この時点で刀装飾体５００１を納刀状態から第二抜刀状態に状態変化させてもよい。

【１３３０】

特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が可動して大当りとなるパターンでは、遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態から全落下状態になるよう落下可動される（図１３５（Ｏ１））。次いで、特定装飾部材ＳＤＹが再び初期状態に戻されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との重複が解除された演出表示装置１６００の表示領域には、大当りを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７７７」、「お見事」のメッセージ）が表示される（図１３５（Ｏ２））。このとき、操作ボタン４１０を振動させるようにしてもよい。

【１３３１】

特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が可動しないパターンでは、遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の小刻み可動が停止されるのみで落下可動されない。そして、演出表示装置１６００の表示領域には、画面中央にはずれ態様（「７６７」）の装飾図柄が揺動表示される（図１３６（Ｐ１）。その後、設定される演出パターンに応じて、そのまま装飾図柄がはずれ態様（「７６７」）で停止表示されるパターン（図１３６（Ｐ２））、又は、再度リーチ状態が復活する復活パターンに展開される。

【１３３２】

復活パターンでは、演出表示装置１６００の表示領域には、図１３６（Ｐ１）のはずれ

態様の装飾図柄の揺動表示から、まだ変動表示が終わらないことを示す復活開始画像（「まだじゃ」と言う武士画像）が挿入され（図１３６（Ｐ３））、再度、装飾図柄がリーチ状態となって画面右上に縮小表示されるとともに、画面中央に操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１のどちらかの操作手段が有効となる操作有効示唆画像（味方の武士の目を閉じた顔）が表示される（図１３６（Ｐ４））。そして、時間経過とともに、表示された武士の目元が拡大表示されるとともに、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態で上下方向に小刻みに可動される（図１３６（Ｐ５））。これにより遊技者は特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を用いる演出が行われることへの期待感を高める。また、このとき操作ボタン４１０を高速点滅態様で発光装飾させたり、刀装飾体５００１を納刀状態から第一抜刀状態に変化させて上下可動させたりしてもよい。そして、設定される演出パターンに応じて、操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１が操作有効な操作手段として機能し、操作ボタン４１０の押圧操作又は刀装飾体５００１の納刀操作に基づく特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の演出が行われる。なお、操作ボタン４１０が操作対象となるパターンは、刀装飾体５００１が操作対象となるパターンよりも期待度が低いように設定されている。

【１３３３】

操作手段として操作ボタン４１０が用いられる場合には、演出表示装置１６００の表示領域に表示されていた操作有効示唆画像の武士の額に汗が滲む画像（操作ボタン確定画像）が表示され、操作ボタン４１０が発光装飾される（図１３７（Ｒ１））。そして、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の小刻み可動が継続されるとともに、操作ボタン４１０が発光装飾される中、操作ボタン４１０の操作有効期間が開始され、操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進演出が行われる（図１３７（Ｒ２））。演出表示装置１６００の表示領域には、操作対象となる操作手段（操作ボタン４１０）の画像と操作回数と操作有効期間が表示される。ここで、操作ボタン４１０は、必要回数操作されると発光装飾されなくなる。

【１３３４】

そして、変動表示の結果が大当りとなる場合には、遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態から全落下状態に落下可動される（図１３７（Ｒ３））。このとき、演出表示装置１６００の表示領域の画面右上に表示されていた装飾図柄は画面右下に遊技者から視認可能に停止表示される。なお、前述（図１３３（Ｍ４））と同様にこの時点では遊技者に装飾図柄の態様が把握されにくいようにしてもよい。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が全落下状態から再び初期状態に戻され、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との重複が解除された演出表示装置１６００の表示領域には、画面中央に大当りを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７７７」、「お見事」のメッセージ）が表示される（図１３７（Ｒ４））。

【１３３５】

一方、変動表示の結果がはずれとなる場合には、遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の小刻み可動が停止され、演出表示装置１６００の表示領域には、画面中央にはずれ態様（「７６７」）の装飾図柄が停止表示される（図１３７（Ｒ５））。

【１３３６】

操作手段として刀装飾体５００１が用いられる場合には、演出表示装置１６００の表示領域に表示されていた操作有効示唆画像の目を閉じていた武士が目を開け眼光が鋭くなる画像（刀装飾体確定画像）が表示され、刀装飾体５００１は、納刀状態からオーラ部材付き形態の第二抜刀状態にされる（図１３８（Ｑ１））。このとき、刀装飾体５００１は発光装飾されてもよい。遊技者は表示領域の画像によって操作ボタン４１０ではなく刀装飾体５００１が操作有効であることを把握可能であるが、この時点で刀装飾体５００１がオーラ部材付き形態であるか否か等の形態は刀装飾体５００１を実際に見ることで把握可能である。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が小刻みに可動される中、第二抜刀状態になって所定期間が経過し、刀装飾体５００１の操作有効期間が始まると、演出表示装置１６００の表示領域には、遊技者に刀装飾体５００１の納刀操作を促す操作促進画像と操

作有効期間を示すゲージが表示される（図１３８（Ｑ２））。
【１３３７】
そして、今回の変動表示の結果が大当りとなる場合には、遊技者による納刀操作が検出されると、前述の図１３７（Ｒ３）及び（Ｒ４）と同様の演出遷移を辿る（図１３８（Ｑ３）及び（Ｑ４））。一方、変動表示結果がはずれとなる場合には、遊技者による納刀操作が検出されると、前述の図１３７（Ｒ５）と同様の演出遷移を辿る（図１３８（Ｑ５））。
【１３３８】
このように、操作ボタン４１０の押圧操作に基づいて実行される特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の落下状態に応じて期待度が示唆されるので、画像による期待度示唆よりも迫力ある期待度示唆を提供することができ、遊技興趣の低下を抑制することができる。また、操作ボタン４１０の押圧操作に基づいて特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が落下可動されない場合でも、遊技者に操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１のどちらかの操作手段の操作機会が再度付与される。操作機会が付与される操作手段によっても期待度を示唆することができるので、代わり映えせず単調な操作演出となることで懸念される遊技興趣の低下を抑制することができる。
【１３３９】
なお、前述の図１２８～図１３８には、刀装飾体５００１を用いたリーチ演出の演出パターンを３例挙げたが、各種演出態様を組合せてもよい。これにより、多種多様な演出を提供でき、より遊技興趣を高めることができる。
【１３４０】
（刀装飾体の形態）
図１３９を参照して、本例の刀装飾体５００１の形態について説明する。前述までの刀装飾体５００１の形態は、オーラ部材付き形態とオーラ部材なし形態の２種類が設けられていたが、ここでは、さらに柄部５０１２が動作されることで刀部５０１０が変形する形態が２種類設けられる。
【１３４１】
図１３９は、擬似連演出に用いられる刀装飾体５００１の形態について説明する図である。ここでの刀装飾体５００１は、柄部５０１２の変形によって２段階の形態変化を可能に設けられるとともに、扉枠３の鞘部５０２０の内部に設けられ、鞘部５０２０の左右側部から遊技者に視認可能に出現するオーラ部材５０４０を有することを特徴とする。オーラ部材５０４０は、前述のオーラ部材５０３５と同様に扉枠３の鞘部５０２０の内部に設けられるが、その動作態様は前述のオーラ部材５０３０と同様に左右方向に可動するものである。図１３９（Ａ）～（Ｄ）は、納刀状態における刀装飾体５００１の形態の種類（段階変化）を示す図であり、順に、段階０形態～段階３形態を示す。刀装飾体５００１は、演出に応じて段階０形態～段階３形態のいずれかの形態となる。
【１３４２】
図１３９（Ａ）に示すように、段階０形態は、前述の図１２４（Ａ）及び図１２６（Ａ）と同様の通常状態における形態であり、どの構成部材も動作が何ら要求されていない初期形態を示す。図１３９（Ｂ）に示すように、段階１形態は、段階０形態からオーラ部材５０４０の動作によってオーラ部材５０４０が鞘部５０１２の側面外部に出現する形態を示す。図１３９（Ｃ）に示すように、段階２形態は、段階１形態から柄部５０１２が中心から左右に二分割されるように広がって可動し、中から第一装飾部５０１２ａが出現する形態を示す。図１３９（Ｄ）に示すように、段階３形態は、段階２形態においてさらに柄部５０１２の内部から第二装飾部５０１２ｂが上方に可動されて第一装飾部５０１２ａと一体的な装飾を形成する形態を示す。ここでの段階１形態～段階３形態は刀装飾体５００１を第二抜刀状態にさせずとも形態変化を可能としている。さらに、操作手段の操作部として遊技者による操作を受け付け可能な刀部５０１０と、動作しない鞘部５０２０が共に動作して一体的な装飾体を形成するので、より迫力ある操作手段を提供することができる。

【１３４３】
（特定装飾部材ＳＤＹを用いた操作前示唆演出）
続いて、図１４０～図１４３を参照して、リーチ演出において操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１が操作有効となる操作有効期間の前に実行される操作前示唆演出について説明する。操作前示唆演出では、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の動作によって複数の操作手段のうち、操作ボタン４１０が操作有効となるか、刀装飾体５００１が操作有効となるかを示唆可能としている。具体的には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を用いた操作前示唆演出による示唆パターンとして、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置に位置された状態で操作有効期間を発生させる第１示唆パターンと、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置から示唆位置へ動作された状態で操作有効期間を発生させる第２示唆パターンとがあり、刀装飾体５００１（操作ボタン４１０よりも当り期待度が高く設定）が操作有効になる場合には、第１示唆パターンよりも高い割合で第２示唆パターンが実行される。具体的には、操作有効期間においても特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置に位置された状態で操作有効期間を発生させる第１示唆パターン（図１４０（Ｂ））の操作前示唆演出が行われた場合には、３０％の確率で刀装飾体５００１が操作有効となり、７０％の確率で操作ボタン４１０が操作有効となる。これに対し、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置へ動作された状態で操作有効期間が発生させる第２示唆パターン（図１４２（ＡＡ１））の操作前示唆演出が行われた場合には、７０％の確率（ステップアップパターン含む）で刀装飾体５００１が操作有効となり、３０％の確率で操作ボタン４１０が操作有効となる。以下に、操作前示唆演出の第１示唆パターン及び第２示唆パターンにおける特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の動作に応じた演出遷移例について説明する。

【１３４４】
（第１示唆パターン）
図１４０及び図１４１は、主制御基板１３１０によって抽選された変動パターンの変動演出（リーチ演出）に基づいて、周辺制御基板１５１０による抽選によってリーチ演出中に操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１のいずれかが操作有効とされると決定した場合に、第１示唆パターンの操作前示唆演出が実行されるリーチ演出の遷移例を示す図である。このリーチ演出では、演出表示装置１６００の表示領域において三つの装飾図柄がリーチ状態となると（図１４０（Ａ））、周辺制御基板１５１０の抽選により操作有効とされることが予め決定された操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１のいずれかの操作手段に対する操作有効期間が発生される前に第１示唆パターンの操作前示唆演出が実行される。第１示唆パターンの具体的な演出内容として、操作有効期間が発生される前の演出表示装置１６００の表示領域に操作手段が操作有効となることを示唆する操作演出示唆画像（オーラの回転）が表示され（図１４０（Ｂ））、このとき、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は、初期位置を維持している。また、操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１に変化はない。

【１３４５】
そして、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を初期位置に維持した状態で、操作有効とされることが予め決定されている操作手段（操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１）に対する操作有効期間を発生させる。本例では、操作ボタン５００１が操作有効とされる場合には、操作前示唆演出として第２示唆パターン（後述する）よりも高い割合で第１示唆パターンが実行されるように設定している。つまりは、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置にある状態で操作有効期間が発生した場合には、刀装飾体５００１よりも操作ボタン４１０のほうが高い割合で操作有効とされることを遊技者に示唆可能となる。

【１３４６】
操作ボタン４１０が操作有効になる場合には、図１４０（Ｃ）に示すように、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置を維持している状態で操作ボタン４１０に対する操作有効期間を発生させる。それとともに演出表示装置１６００の表示領域では、遊技者に操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される操作促進演出が行われる。また、このとき操作ボタン４１０は発光装飾され、遊技者が操作

対象を容易に認識できるようにしている。また、刀装飾体５００１が操作有効となる場合においても、操作ボタン４１０よりも低い割合であるが操作前示唆演出が第１示唆パターンで実行される場合がある。そのときには、図１４０（Ｄ）に示すように、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置を維持している状態で、刀装飾体５００１に対する操作有効期間を発生させる。それとともに演出表示装置１６００の表示領域では、遊技者に刀装飾体５００１の納刀操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される操作促進演出が行われる。また、このとき刀装飾体５００１は納刀状態から第二抜刀状態（オーラ部材付き形態）に状態変化され、遊技者による納刀操作が可能にされる。

【１３４７】

前述の図１４０（Ｃ）又は（Ｄ）において操作有効な操作手段（操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１）への操作が検出されると、今回の変動表示の結果が大当りとなる場合には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態から全落下状態になるよう落下可動される（図１４１（ＣＣ１））。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が再び初期状態に戻されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との重複が解除された演出表示装置１６００の表示領域には、大当りを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７７７」、「お見事」のメッセージ）が表示される（図１４１（ＣＣ２））。一方、今回の変動表示の結果がはずれとなる場合には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は初期状態を維持して可動されないまま、演出表示装置１６００の表示領域には、はずれを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７６７」）が表示される（図１４１（ＣＣ３））。

【１３４８】

（第２示唆パターン）

図１４２は、前述した第１示唆パターンと同様にリーチ演出中に操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１のいずれかが操作有効とされると決定した場合に、第２示唆パターンの操作前示唆演出が実行されるリーチ演出の遷移例を示す図である。尚、図１４３は、操作前示唆演出として第２示唆パターンが行われたにも拘わらず、刀装飾体５００１が操作有効とならずに一旦は操作ボタン４１０が操作有効になり、その後に刀装飾体５００１が操作有効になるステップアップパターンの操作前示唆演出について示す図である。

【１３４９】

図１４２（ＡＡ１）に示すように、第２示唆パターンの操作前示唆演出は、周辺制御基板１５１０の抽選により操作有効とされることが予め決定された操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１のいずれかの操作手段に対する操作有効期間が発生される前に実行される。第２示唆パターンの具体的な演出内容として、操作有効期間が発生される前の演出表示装置１６００の表示領域に操作手段が操作有効となることを示唆する操作演出示唆画像（オーラの回転）が表示される。このとき表示される操作演出示唆画像は、第１示唆パターンにおいて表示される画像と同じであるが、第２示唆パターンにおいては操作演出示唆画像の表示とともに、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置から正面視で演出表示装置１６００の表示領域の上方部分と重なる小落下状態（示唆位置）に動作し、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は、初期位置と示唆位置との間で上下方向に小刻みに可動される。このとき、操作ボタン４１０及び刀装飾体に変化はない。

【１３５０】

そして、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を示唆位置に動作された状態で、操作有効とされることが予め決定されている操作手段（操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１）に対する操作有効期間を発生させる。本例では、刀装飾体５００１が操作有効とされる場合には、操作前示唆演出として第１示唆パターンよりも高い割合で第２示唆パターンが実行されるように設定している。つまりは、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置にある状態で操作有効期間が発生した場合には、操作ボタン４１０よりも刀装飾体５００１のほうが高い割合で操作有効とされることを遊技者に示唆可能となる。

【１３５１】

刀装飾体５００１が操作有効となる場合には、図１４２（ＡＡ３）に示すように、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に動作している状態で刀装飾体５００１に対する操

作有効期間を発生させる。それとともに演出表示装置１６００の表示領域では、遊技者に刀装飾体５００１の納刀操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される操作促進演出が行われる。このとき刀装飾体５００１は納刀状態から第二抜刀状態（オーラ付き形態）に状態変化され、遊技者による納刀操作が可能にされる。また、操作ボタン４１０が操作有効となる場合においても、低い割合ではあるが操作前示唆演出が第２示唆パターンで実行される場合がある。そのときには、図１４２（ＡＡ２）に示すように、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に動作している状態で操作ボタン４１０に対する操作有効期間を発生させ、それとともに演出表示装置１６００の表示領域では、遊技者に操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される操作促進演出が行われる。なお、第２示唆パターンでは、操作促進演出において遊技者の操作が検出されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に動作している状態から初期状態に可動される。また、初期状態に戻されることなく示唆位置に動作している状態から特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の全落下状態若しくは初期状態への可動が行われるようにしてもよい。

【１３５２】

そして、前述の図１４２（ＡＡ２）又は（ＡＡ３）において操作有効な操作手段（操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１）への操作が検出されると、前述の図１４０（Ｃ）又は（Ｄ）と同様に、今回の変動表示の結果が大当りとなる場合には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期状態から全落下状態になるよう落下可動される（図１４１（ＣＣ１））。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が再び初期状態に戻されると、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）との重複が解除された演出表示装置１６００の表示領域には、大当りを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７７７」、「お見事」のメッセージ）が表示される（図１４１（ＣＣ２））。一方、今回の変動表示の結果がはずれとなる場合には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は初期状態を維持して可動されないまま、演出表示装置１６００の表示領域には、はずれを報知する画像（装飾図柄の停止態様「７６７」）が表示される（図１４１（ＣＣ３））。操作促進演出以降の演出遷移は、第１示唆パターンにおける操作促進演出以降の演出遷移と同様である。

【１３５３】

なお、第２示唆パターンにおける特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の動作パターンは示唆位置に動作されるパターンだけでなく、複数の動作パターンが設けられてもよい。例えば、刀装飾体５００１が操作有効となる割合が異なるように複数種類の動作パターンを設ける場合には、動作に対する遊技者の関心を高めることができるので、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を用いた操作前示唆演出及び操作促進演出の興趣を高めることができる。

【１３５４】

（ステップアップパターン）

特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置へ動作された状態で操作有効期間が発生させる第２示唆パターンの操作前示唆演出が行われ、刀装飾体５００１が操作有効になる場合には、刀装飾体５００１が操作有効となるまでに前述の図１４２（ＡＡ１）→（ＡＡ３）の演出遷移を辿る基本パターンの他に、一旦は操作ボタン４１０が操作有効になり、その後刀装飾体５００１が操作有効になるステップアップパターンが設けられている。

【１３５５】

図１４３（ＢＢ１）～（ＢＢ４）に示すように、ステップアップパターンの操作前示唆演出は、周辺制御基板１５１０の抽選により操作有効とされることが予め決定された刀装飾体５００１に対する操作有効期間が発生される前に、すなわち前述の図１４２（ＡＡ３）に示す刀装飾体５００１の操作促進演出が行われる前に実行される。

【１３５６】

ステップアップパターンでは、まず、前述の図１４２（ＡＡ１）と同様の操作演出示唆画像（オーラの回転）の表示及び特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の小刻み可動が行われる（図１４３（ＢＢ１））。次いで、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を示唆位置に動作された状態で、操作ボタン４１０に対する操作有効期間を発生させる。それとともに操作ボタ

ン４１０が発光装飾され、演出表示装置１６００の表示領域では、遊技者に操作ボタン４１０の押圧操作を促す操作促進画像と操作有効期間を示すゲージが表示される操作促進演出が行われる（図１４３（ＢＢ２））。ここでは操作ボタン４１０の操作有効期間中に遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作が検出されても前述の図１４１に示すような結果報知は行われず、操作有効な操作手段の切り替えを示唆する切替示唆画像（大部分のブラックアウト画像）が表示される（図１４３（ＢＢ３））。切替示唆画像は、遊技者による操作ボタン４１０の押圧操作又は操作ボタン４１０の操作有効期間の終了を契機に表示される。その後、刀装飾体５００１が納刀状態から第二抜刀状態（オーラ付き形態）に変化するとともに、演出表示装置１６００の表示領域には、操作有効となる操作手段が操作ボタン４１０から刀装飾体５００１に切り替えられることを報知する切替報知画像（「抜刀チャンス」「刀を納めて頂きたくござ候う」のメッセージ）が表示される（図１４３（ＢＢ４））。この間、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は示唆位置に動作した状態である。そして、刀装飾体５００１の操作有効期間を発生させると、前述の図１４２（ＡＡ３）に示す刀装飾体５００１の操作促進演出が行われる。操作促進演出以降の演出遷移は、前述の第２示唆パターンにおける操作促進演出以降の演出遷移（図１４１）と同様である。

【１３５７】

なお、前述の図１４３（ＢＢ２）のときにボタン操作４１０を操作有効にすることなく（操作促進演出なし）、ボタン操作４１０の画像表示のみが行われるようにしてもよい。遊技者の関心を一旦はボタン操作４１０に向けたのちに刀装飾体５００１を操作させるようにできればよい。また、ステップアップパターンは、第２示唆パターンとなるときに限らず、第１示唆パターンとなるときにも選択可能にしてもよい。

【１３５８】

このように、本例の操作前示唆演出では、複数の操作手段のうち一方の操作手段が操作有効とされる操作手段の操作有効期間が発生される前に、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の位置を変化可能とし、その位置によって操作有効とされる操作手段を示唆する。具体的には、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が初期位置に位置している状態において操作有効期間が発生される第１示唆パターン（図１４０（Ｂ））では、操作ボタン４１０が操作有効とされる期待度が高く、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に位置している状態において操作有効期間が発生される第２示唆パターン（図１４２（ＡＡ１）では、刀装飾体５００１が操作有効とされる期待度が高い。このため、遊技者はいずれの操作手段が操作有効となるか把握するために特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の状態に着目するので、操作前示唆演出の興趣を高めることができる。

【１３５９】

また、第２示唆パターンでは操作前示唆演出において特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の上下方向の小刻み可動が行われる。そして、操作手段の操作後の結果報知（図１４１）にも特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の動作演出（落下演出）が用いられるので、操作前示唆演出の上下小刻み可動から落下演出を一連の演出に見せることができ、遊技興趣の低下を抑制することができる。なお、前述では特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の状態、すなわち可動体によって操作有効となる操作手段が操作有効となる期待度を示したが、これに限らず、操作前示唆演出中にキャラクタ表示を行って期待度を示唆してもよい。また、操作有効となる操作手段が決まったときに、操作ボタン４１０の点灯、又は、刀装飾体５００１の第二抜刀状態への変化だけでなく、操作有効となる操作手段を振動等によって可動させたりしてもよい。

【１３６０】

また、第２示唆パターンには、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に位置している状態において一旦は操作ボタン４１０が操作有効になったのちに（もしくは操作有効になると見せかけたのちに）刀装飾体５００１が操作有効になるステップアップパターンが設けられている。これにより、遊技者は双方の操作手段に関心を持つ。また、操作前示唆演出の直後に操作ボタン４１０が操作有効となってもその後に刀装飾体５００１が操作有効になるかもしれない期待をもつことができるので、操作意欲の減退及び遊技興趣の低下

を抑制することができる。
【１３６１】
なお、操作前示唆演出の第１示唆パターンにおいて、複数の操作手段（操作ボタン４１０又は刀装飾体５００１）のうちいずれかが操作有効とされる操作有効期間の前の操作演出示唆画像が表示されるタイミングにおいて（図１４０（Ｂ））、第２示唆パターンと同様に（図１４２（ＡＡ１））、特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）を初期位置から正面視で演出表示装置１６００の表示領域の上方部分と重複する小落下状態（示唆位置）に動作し、初期位置と示唆位置との間で上下方向の小刻み可動をさせるようにしても良い。なお、その後に操作有効期間を発生させるときには特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）は初期位置（静止）に戻される。これにより、第１示唆パターンにおける特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）の動作は、同タイミングの第２示唆パターンにおける動作と一部同じ動作となるので、遊技者に第１示唆パターンによる操作演出示唆画像が表示された場合においても、第２示唆パターンの操作前示唆演出が実行されていると思わせることが可能となる。このため、第１示唆パターンによる操作前示唆演出が実行されている場合においても遊技者に刀装飾体５００１が操作有効となることを期待させることが可能となる。そして、遊技者は、操作演出示唆画像の表示タイミングで動作される特定装飾部材ＳＤＹ（簾役物）が示唆位置に動作された状態で操作有効期間が発生することを強く望むので、操作前示唆演出の興趣を向上させることができる。
【１３６２】
［特定の操作関連演出］
上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、大当り判定の結果に応じた演出判定で特定の結果が得られた場合、遊技盤側演出表示装置１６００において特定の演出パターンで演出を実行する。特定の演出パターンが実行される演出期間では、遊技者による操作によって特定の演出実行条件を成立させる特定演出受付期間（有効期間）を発生可能であり、該特定演出受付期間内で操作が行われると、特定の演出実行条件の成立に基づき特定の操作時演出（特典付与にかかる期待度が示唆される演出など）を実行可能としている。特定の操作時演出の結果として示唆される特典付与にかかる期待度は１００％や０％であってもよい。
【１３６３】
また、これも上述した通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、このような操作時演出（操作すると特典付与にかかる期待度が示唆される演出など）に供される操作手段として、操作ボタン４１０のほか、これとは別の操作手段（刀装飾体５００１など）をさらに備えることが可能とされている。この点、特定の演出パターンでは、演出判定の結果に基づいて、操作ボタン４１０に対して操作機会が付与される場合（操作ボタン４１０を操作すると特定の演出実行条件が成立する場合）と、これとは別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対して操作機会が付与される場合（別の操作手段を操作すると特定の演出実行条件が成立する場合）とがある。そして、別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対して操作機会が付与されると、その操作機会で操作が行われずとも該操作機会が付与される当該操作前演出が発生しただけで、操作ボタン４１０に対して操作機会が付与される場合よりも特典付与にかかる期待度（大当り期待度）が高いことを遊技者に対して認識可能とされるようにしている。別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対して操作機会が付与されたときに示唆される特典付与にかかる期待度は１００％や０％であってもよい。
【１３６４】
このような構成によれば、別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対して操作機会が付与された場合は、該別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対する操作に応じた操作時演出が未だ行われていない前段階にあり、且つ今まさに操作が行われようとしている状況にあるときの遊技興趣の向上を図ることができるようになる。すなわちこの場合、別の操作手段（刀装飾体５００１など）に対する操作に応じた操作時演出において所望の演出結果（特典付与にかかる期待度が高いことが示唆される演出結果など）が現れないように

なっていたり、特定演出受付期間（有効期間）内に操作手段に対する操作を行うことができなかった場合であっても、このような操作関連演出を通じて遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【１３６５】

そして、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、このような演出的性質を有した複数の操作手段（操作ボタン４１０、刀装飾体５００１など）のいずれかに操作機会を付与する場合は、それら操作機会の付与に際して、共通の操作関連演出（例えば、図１４２（ＡＡ１）を参照）実行可能としている。

【１３６６】

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、操作ボタン４１０に対する操作が有効化（演出受付可能に）される有効期間（演出受付期間）を発生させる演出態様として、少なくとも、

・刀装飾体５００１に対する操作が有効化（演出受付可能に）される場合にも現れうる「特定の操作関連演出」が演出開始されてから当該操作ボタン４１０に対する操作が有効化（演出受付可能に）される有効期間（演出受付期間）を発生させる第１の演出態様、及び

・「特定の操作関連演出」が演出開始されることなく当該操作ボタン４１０に対する操作が有効化（演出受付可能に）される有効期間（演出受付期間）を発生させる第２の演出態様

といった複数の演出態様を用意しており、それら演出態様のいずれかを実行することで、操作ボタン４１０に対する操作が有効化（演出受付可能に）される有効期間（演出受付期間）を発生させるようにしている。

【１３６７】

このような構成によれば、複数の操作手段（操作ボタン４１０、刀装飾体５００１など）のうち特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対する操作が演出受付可能とされる期間が発生する場合と該特定操作手段とは別の操作手段（例えば、刀装飾体５００１）が演出受付可能とされる期間が発生する場合とのいずれの場合であっても、それらの期間発生に先立って共通（特定）の操作関連演出が実行可能とされるようになることから、特定操作手段及び別の操作手段のいずれが演出受付可能とされるかについての面白みを持たせることができるようになり、こうした演出が行われるもとで操作を行わせることで、遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【１３６８】

なお、このような共通（特定）の操作関連演出では、該演出が演出開始されてから所定時間が経過すると複数の操作手段（例えば、操作ボタン４１０、刀装飾体５００１）のいずれかに対応する演出受付期間が発生されることとなるが、少なくとも該演出が演出開始された時点ではそれら操作手段（例えば、操作ボタン４１０、刀装飾体５００１）のいずれに対応する演出受付期間が発生するかについては秘匿にするようにすることが望ましい。また、以下に例示される各操作関連演出については、演出受付期間が発生するよりも前に、複数の操作手段（例えば、操作ボタン４１０、刀装飾体５００１）のいずれに対して操作機会が付与されるのかを示す（演出結果表示を出現させる）ようにしてもよいし、演出受付期間が発生するのと同時を含めて、該演出受付期間が発生した以降の当該期間内で、複数の操作手段（例えば、操作ボタン４１０、刀装飾体５００１）のいずれに対して操作機会が付与されるのかを示す（演出結果表示を出現させる）ようにしてもよく、操作関連演出をいずれのタイミングまで実行するかについては適宜に変更可能である。

【１３６９】

［自動ボタン演出状態］

この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）への制御が実行可能とされており、この自動ボタン演出状態に制御されているときに、大当り判定の結果に基づいて操作ボタン４１０に対する演出受付期間（より正確には、操作ボタン４１０に対する演出受付期間が設定されている所定の演出パターン）が発生すると、該演出受付期間内において遊技者による操作が演出受付さ

れなかったとしても、該演出受付期間内において遊技者による操作が演出受付されたときと同じ変化を演出に対して生じさせる処理（自動演出機能）を実行可能としている。このような自動ボタン演出状態によれば、演出受付期間が発生する度に操作せずとも、操作したときの操作後演出が発生するようになることから、操作し忘れによる遊技興趣の低下を抑制することができるようになる。なお、自動演出機能についてはこれが機能したときに操作が実際にあったときと同じ演出受付を生じさせることで、該演出受付に応じた処理が行われるようにしてもよいし、演出受付を生じさせずに演出受付があったときと同じ処理が行われるようにしてもよい。

【１３７０】

以下に説明する「自動演出機能」に関する実施例では、上述した操作関係の各技術や演出、設定などを適宜に組み合わせて用いたり、置き換えて用いたりするようにしてもよい。

【１３７１】

ここで、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、図柄変動が未実行の状態にあるデモ画面が表示されている期間中は、操作手段を複数回操作させることによって自動ボタン演出状態への設定がなされうるようにしている。より具体的には、操作ボタン４１０に対する１回目の操作によってメニュー画面を表示させた後、操作ボタン４１０に対する２回目の操作（若しくは、操作ボタン４１０とは異なる操作手段）によってメニュー画面内に表示されている「各種設定」が選択されて「各種設定」の画面が表示されるようにし、操作ボタン４１０に対する３回目の操作（若しくは、操作ボタン４１０とは異なる操作手段）によって「各種設定」の画面内に表示されている「自動ボタン演出状態の設定」が選択されると、自動ボタン演出状態への設定がなされるようになっている。なお、操作ボタン４１０のみを複数回にわたって操作するようにしてもよいし、操作ボタン４１０に対する操作とこれとは異なる操作手段に対する操作とで合わせて複数回にわたって操作するようにしてもよい。

【１３７２】

これに対し、図柄変動が実行状態にある期間中は、操作ボタン４１０が１回操作されるだけで自動ボタン演出状態への設定がなされうるようにしており、このような操作の簡易化によって、図柄変動中における演出進展への注視を維持しつつ自動ボタン演出状態への設定が可能とされるようにしている。ただし、遊技者の中には、有効期間が発生しているか否かにかかわらず操作ボタン４１０に対する操作を積極的に行いたいと思う者がおり、このような者からすれば、操作ボタン４１０を操作しただけで自動ボタン演出状態への設定がなされるようなことがあると、遊技興趣が低下しかねない。そこで、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、図柄変動が実行状態にある期間中に自動ボタン演出状態への設定がなされるようにするためには、操作ボタン４１０に対する操作状態が所定時間（ここでは２秒間）にわたって維持される態様（いわゆる「長押しの態様」）でこれを１回操作させることが求められるようにしている。これにより、図柄変動が実行状態にある期間中、有効期間が発生しているか否かにかかわらず操作ボタン４１０に対する操作が積極的に行われるようなことがあったとしても、自動ボタン演出状態へと誤って設定されてしまうことを生じ難くすることができるようになる。なお、図柄変動が実行状態にある期間のうち少なくとも演出受付期間が発生しているときには長押しの態様で操作が行われたとしても自動ボタン演出状態への設定がなされないようにすることが望ましい。

【１３７３】

一方、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、自動ボタン演出状態が設定されている状態においてこれを設定解除させる方法としても、図柄変動が未実行の状態にあるデモ画面が表示されている期間中と、図柄変動が実行状態にある期間中とで異なる操作態様が求められるようになっている。

【１３７４】

すなわち、図柄変動が未実行の状態にあるデモ画面が表示されている期間中は、操作手段を複数回操作させることによって自動ボタン演出状態の設定解除がなされうるようにし

ている。より具体的には、操作ボタン４１０に対する１回目の操作によってメニュー画面を表示させた後、操作ボタン４１０に対する２回目の操作（若しくは、操作ボタン４１０とは異なる操作手段）によってメニュー画面内に表示されている「各種設定」が選択されて「各種設定」の画面が表示されるようにし、操作ボタン４１０に対する３回目の操作（若しくは、操作ボタン４１０とは異なる操作手段）によって「各種設定」の画面内に表示されている「自動ボタン演出状態の解除」が選択されると、自動ボタン演出状態が設定解除されるようになっている。

【１３７５】

これに対し、図柄変動が実行状態にある期間中は、操作ボタン４１０が１回操作されるだけで自動ボタン演出状態の設定解除がなされうるようにしており、このような操作の簡易化によって、図柄変動中における演出進展への注視を維持しつつ自動ボタン演出状態の設定解除が可能とされるようにしている。ただし、自動ボタン演出状態へと設定する場合とは異なり、操作ボタン４１０に対する操作状態を所定時間にわたって維持せずとも（長押しの操作態様でなくても）、操作ボタン４１０が操作状態へと位置したことが検出されるだけで（単発の操作態様で操作されるだけで）自動ボタン演出状態が設定解除されるようになっている。すなわち、操作ボタン４１０に対して何らかの操作が行われたということは、該操作ボタン４１０に対する操作を行いたい願望が現われている状況にあると言えることから、該操作があった時点で自動ボタン演出状態を設定解除させて通常の演出状態へと早期復帰させることで、遊技興趣が好適に維持されることが期待されるようになる。

【１３７６】

なお上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、操作ボタン４１０を含めて複数の操作手段を備えて構成されている。この点、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、操作ボタン４１０に対する操作によって設定された自動ボタン演出状態にあるときに、大当り判定の結果に基づいて操作ボタン４１０とは異なる特定の操作手段（例えば、刀装飾体５００１など）に対して操作機会が付与される演出受付期間（より正確には、刀装飾体５００１などに対する演出受付期間が設定されている所定の演出パターン）が発生し、該演出受付期間内において遊技者による操作（刀装飾体５００１に対する操作）が演出受付されなかったとしても、該演出受付期間内において遊技者による操作（刀装飾体５００１に対する操作）が演出受付されたときと同じ変化を演出に対して生じさせる処理（自動演出機能）を実行可能としている。このような構成によれば、複数の操作手段（操作ボタン４１０、刀装飾体５００１など）のうち操作ボタン４１０に対する操作が演出受付可能とされる期間が発生するのか、それとも別の操作手段（例えば、刀装飾体５００１）に対する操作が演出受付可能とされる期間が発生するのかについての上述した演出（特定の操作関連演出）が実行された場合、その演出結果として操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１のいずれが演出受付可能とされたとしても操作し忘れを心配する必要がなくなることから、このような特定の操作関連演出を安心して楽しむことができるようになる。

【１３７７】

また、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、

・特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに複数の操作手段のうち第一操作手段（例えば、操作ボタン４１０）を操作対象として設定した第一側演出受付期間が発生すると、該第一側演出受付期間内に第一操作手段に対する操作が行われなかったとき、第一操作手段に対する操作が行われたときと同じ変化を演出に対して生じさせる自動処理を実行可能であり（第一自動演出手段）、

・特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに複数の操作手段のうち第二操作手段（例えば、刀装飾体５００１など）を操作対象として設定した第二側演出受付期間が発生すると、該第二側演出受付期間内に第二操作手段に対する操作が行われなかったとき、第二操作手段に対する操作が行われたときと同じ変化を演出に対して生じさせる自動処理を実行可能である（第二自動演出手段）

といった構成を備えることとした上で、第一側演出受付期間及び第二側演出受付期間のい

ずれが発生した場合であっても、該期間が発生してから同じ特定時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理または第二自動演出手段による自動処理が実行可能とされるようにしている。

【１３７８】

このような構成によれば、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているとき、第一操作手段を操作対象として設定した第一側演出受付期間と、第二操作手段を操作対象として設定した第二側演出受付期間とのいずれが図柄変動の実行期間内で発生した場合であっても、それら期間の発生から同じ特定時間が経過したときに自動演出機能が機能しうるようになることから、安心して演出を楽しむことができるようになる。

【１３７９】

ただし、第一操作手段（例えば、操作ボタン４１０）を操作対象として設定した第一側演出受付期間が発生した場合は、該第一側演出受付期間が発生してから特定時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行される場合と、該第一側演出受付期間が発生してから特定時間とは異なる時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行される場合とがあるように図柄変動内における演出進展を行うようにしてもよい。このような構成によれば、第一側演出受付期間が発生してから特定時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行されると想定していたところ、これとは異なるタイミングで演出受付がなされて操作後演出が自動発生するようになることから、サプライズ的な演出として機能させることができるようになる。

【１３８０】

なお、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されると、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときよりも図柄変動期間内で操作手段に対して操作機会が付与される演出受付期間が発生する割合が高くなるようにしてもよい。すなわちこの場合、演出受付期間が発生する頻度が高くなることで、該演出受付期間内での操作し忘れが生じる頻度も高くなることが想定されうるが、操作し忘れが生じたとしても自動演出機能が機能することによって操作後演出は実行されることから、操作し忘れが多発することによる遊技興趣の低下を抑制しつつ、演出受付期間がより高い頻度で発生させることができるようになる。ちなみに、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されると、第一操作手段に対する演出受付期間と第二操作手段に対する演出受付期間とのいずれの発生割合も高くなるようにすることが望ましいが、発生割合の高くなる度合いについては、第一操作手段に対する演出受付期間と第二操作手段に対する演出受付期間とで異ならせるようにすることがより望ましい。

【１３８１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、

・演出受付期間内で演出受付条件が成立すると、操作後演出を実行可能であり（操作後演出実行手段）、

・演出受付期間内で遊技者による操作が行われたことに基づいて演出受付条件を成立させる処理を実行可能とし（遊技者操作受付手段）、

・演出受付期間内で遊技者による操作が行われなかったとき、該演出受付期間内の特定タイミングで遊技者による操作を受けること無しで演出受付条件を成立させる処理を実行可能（自動演出受付手段）

としたものであるが、演出受付期間内の特定タイミングについては、該演出受付期間が開始されてから当該演出受付期間として設定されている時間の少なくとも半分以上が経過するまでは到来しないように設定することとしている。これにより、自動演出機能が機能するまでの間に遊技者自らが操作するだけの十分な余裕が与えられるようになり、遊技者による操作によって演出受付を生じさせる選択肢も残されるようになることから、遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【１３８２】

なおこの場合、第一側演出受付期間が発生してから特定時間が経過したときに第一自動

演出手段による自動処理が実行される場合と、第一側演出受付期間が発生してから特定時間とは異なる時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行される場合とがあるように図柄変動内における演出進展を行うとしたときには、上記「特定時間」や、上記「特定時間とは異なる時間」のいずれもが、当該第一側演出受付期間として設定されている時間の少なくとも半分よりも長い時間値として設定されるようにすることとなる。

【１３８３】

ここで、自動ボタン演出状態に制御されているときの図柄変動の実行期間中に操作ボタン４１０に対する演出受付期間が発生し、該演出受付期間内において操作ボタン４１０に対する操作が演出受付された場合は、該演出受付に応じた操作後演出を発生させる処理が実行されることとなる。ただしこの際、該演出受付に応じた操作後演出を発生させる処理に加えて、自動ボタン演出状態を設定解除させる処理も併せて行うようにしてもよい。

【１３８４】

また、これも同様、自動ボタン演出状態に制御されているときの図柄変動の実行期間中に操作ボタン４１０とは異なる操作手段（刀装飾体５００１など）に対する演出受付期間が発生し、該演出受付期間内において刀装飾体５００１に対する操作が演出受付された場合も、該演出受付に応じた操作後演出を発生させる処理と、自動ボタン演出状態を設定解除させる処理とをそれぞれ実行するようにすることが望ましい。なおこの際も、「演出受付に応じた操作後演出」については、自動ボタン演出状態に制御されていない期間中に刀装飾体５００１に対する演出受付期間が発生し、該演出受付期間内において刀装飾体５００１に対する操作が演出受付された場合に実行される操作後演出と同じ内容の演出として実行されることとなる。

【１３８５】

すなわち、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）へと制御された後には、遊技者自らの操作次第で演出を進展させることのできる演出状態（通常の演出モード）に戻したい願望（特定の演出状態を終了させたい願望）が生じることがある。このような願望は、遊技者に対して操作機会が付与される演出受付期間が発生したときに生じることが多いが、該演出受付期間が開始されてからこれが終了されるまでの限られた時間内で、特定の演出状態を終了させるための操作と操作受付がなされるようにするための操作との両方をそれぞれ行うことは困難であり、その結果として操作機会が喪失されるようなことがあれば、遊技興趣が低下しかねない。この点、上記構成では、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）に制御されているときに特定演出に関する演出受付期間が発生したときには、該演出受付期間内において操作機会が付与されている操作ボタン４１０または刀装飾体５００１に対する操作を１回行うだけで（単発の操作態様で操作されるだけで）、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）を終了させる処理と演出に変化を生じさせうる処理（操作後演出を実行する処理）とがそれぞれ行われるようにしたことから、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）を終了させて遊技者自らの操作次第で演出を進展させたい願望が演出受付期間内で生じた場合であっても、演出状態の切り替えをスムーズに行うことが可能とされるようになる。

【１３８６】

ただし、デモ画面が表示されている期間（図柄変動が未実行の状態）中における自動ボタン演出状態にかかる設定変更（自動ボタン演出状態への設定変更や、自動ボタン演出状態の設定解除）に関しては、刀装飾体５００１に対する操作を必要とせずにその設定変更が可能とされるようになっている。すなわち、刀装飾体５００１は、図柄変動の実行期間中において操作ボタン４１０よりも操作機会の付与される頻度が低くなっており、その分だけ操作機会が付与されたときには操作ボタン４１０よりも大当り期待度が高くされるものである。したがって、自動ボタン演出状態（特定の演出状態）にかかる設定変更だけを目的として刀装飾体５００１に対する操作が許容されることがないようにし、これによって刀装飾体５００１に対して操作機会が付与されたときのプレミアム感を高めて遊技興趣を維持するようにすることがより望ましいといえる。なお、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、図柄変動が未実行の状態にあるデモ画面が表示されている期間中は、複数

の操作手段のうち刀装飾体５００１以外の操作手段（操作ボタン４１０や、これとは別の操作手段など）を複数回操作させることによって自動ボタン演出状態への設定や設定解除がなされうるようになっている。

【１３８７】

したがって、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、自動ボタン演出状態に制御されていないときの図柄変動の実行期間中においても、刀装飾体５００１に対する操作を必要とせずに自動ボタン演出状態への設定変更がなされうるようになっている。すなわち、操作ボタン４１０を「長押しの態様」で１回操作すれば自動ボタン演出状態へと制御されるようになっていることは上述した通りであるが、自動ボタン演出状態への設定変更だけを目的として刀装飾体５００１に対する操作が許容されることはないようにされている。

【１３８８】

すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機１にあって、刀装飾体５００１に対する操作によって自動ボタン演出状態にかかる設定に変更が生じうる場合とは、自動ボタン演出状態に制御されているときの図柄変動の実行期間中に刀装飾体５００１に対する演出受付期間が発生し、該演出受付期間内において刀装飾体５００１に対する操作が演出受付されてこれに応じた操作後演出が出現される場合に限られる。このような構成によれば、刀装飾体５００１に対して操作機会が付与されたときのプレミアム感を損なうことなく、刀装飾体５００１に対する操作によって自動ボタン演出状態への設定変更を行うことができるようになる。

【１３８９】

なお、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）が備える複数の操作手段としては、自動ボタン演出状態にあるときに「演出受付期間内において操作せずとも操作時演出を発生させる自動演出機能」の対象にされうる操作手段（操作ボタン４１０、刀装飾体５００１）のほか、「演出受付期間内において操作せずとも操作時演出を発生させる自動演出機能」の対象にされない特殊操作手段をさらに含むものであってもよい。すなわちこの場合、図柄変動が実行状態にあるときに、特殊操作手段に対する操作機会が付与される演出受付期間が発生し、該演出受付期間内において特殊操作手段に対する操作が演出受付されると、該演出受付に応じた操作後演出によって大当りにかかる期待度が示唆されることとなる。ただし、自動ボタン演出状態に制御されている状況にあったとしても、該演出受付期間内において特殊操作手段に対する操作が演出受付されなければ、上記演出受付されたときと同じ操作後演出が現れることはない。ただしこの場合、上記演出受付されたときと同じ操作後演出が現れることはないが、上記演出受付されたときと異なる演出であればこれを出現させるようにしてもよい。

【１３９０】

また、操作ボタン４１０（長押しの態様での操作）を用いた自動ボタン演出状態への設定については、図柄変動が実行状態にある期間のうち該操作ボタン４１０に対する演出受付期間が発生しているときのみならず、該操作ボタン４１０とは別の操作手段に対する演出受付期間（刀装飾体５００１を操作すると期待度が示唆される演出受付期間や、特殊操作手段を操作すると期待度が示唆される演出受付期間など）が発生している場合であってもこれが許容されないようにすることが望ましい。すなわち、操作ボタン４１０とは異なる操作手段に対する演出受付期間内にあるときに、操作ボタン４１０を操作（長押しの態様での操作）することによって自動ボタン演出状態が発生されるようにしてしまうと、演出受付期間の途中段階で「演出受付期間内において操作せずとも操作時演出を発生させる自動演出機能」が有効化されることによって本来の演出受付（操作ボタン４１０とは異なる操作手段を操作したときの演出受付）が操作無しで発生しかねず、このような自動ボタン演出状態に対する知識に疎い遊技者からすれば、操作ボタン４１０に対する演出受付期間が発生していたのか、それとも操作ボタン４１０とは異なる操作手段に対する演出受付期間が発生していたのか困惑しかねず、これによって遊技興趣が低下することが懸念されるためである。

【１３９１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、演出受付期間の発生に先立って前兆演出を実行可能としているが、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときに演出受付期間の発生に先立って出現される前兆演出と、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに演出受付期間の発生に先立って出現される前兆演出とは異なる表示態様として実行されうるようにしてもよい。すなわちこの場合、特定演出受付期間内で自動演出機能が機能しうる演出状態にあるかを先行認識させることができるようになり、安心して演出を楽しむことができるようになる。

【１３９２】

また、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、演出受付期間において、残り時間を示唆する特定画像（例えば、残り時間を示唆する「バー表示」）を表示するものとなっているが、演出受付期間の発生に際しては、少なくとも特定画像（例えば、残り時間を示唆する「バー表示」）が表示されるまでの間にわたって該特定画像が表示される特定領域に向かうように該特定領域外に特定画像とは異なる演出画像（例えば、稲妻が特定領域に向けて落ちる画像）を表示（前兆演出）するようにしてもよい。すなわちこの場合、演出受付期間の発生に際しては、特定画像とは異なる演出画像の動きを確認することによって、非表示の状態にある「残り時間を示唆する特定画像」がこれから出現する箇所へと注視を促すことができるようになることから、遊技者による操作が間に合わずに特定演出受付期間が終了してしまうような事態が発生することを好適に抑制することができるようになり、さらには、遊技者による操作が間に合わなかったとしても自動演出機能が機能することによって操作後演出は実行されることから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１３９３】

なお、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者による操作によって自動ボタン演出状態にかかる状態設定や設定解除を実行可能としているが、以下の各説明例も含めて、大当り判定の結果に基づいて遊技や演出が進展されることに応じて自動ボタン演出状態へと状態設定されたり、該自動ボタン演出状態の設定解除が行われたりするようにしてもよい。遊技や演出が進展されることに応じて状態設定や設定解除が行われうる例としては、例えば、「通常遊技状態に制御されている間は自動ボタン演出状態として制御されるが、大当り遊技状態や高確率時短状態へと移行されると自動ボタン演出状態が解除される」といった制御態様や、「図柄変動の実行期間内で自動ボタン演出状態を発生させ、該実行状態にある図柄変動が終了されるよりも前の、発生から所定時間が経過したときに設定解除させる演出パターンを発生させる」といった制御態様や、「複数回の図柄変動が実行される期間にわたって自動ボタン演出状態を発生させる」といった制御態様、等々といった態様を採用することが可能である。また、自動ボタン演出状態に常に制御されているパチンコ機１であってもよく、この場合は、該自動ボタン演出状態が設定解除されることはなく、「自動ボタン演出状態」にかかる設定、解除といった処理これ自体がなくなることとなる。

【１３９４】

また、上述の自動演出機能が機能するタイミングとしては、演出受付期間の残り時間が消化されたとき、またはそれ以降の所定タイミングであってもよいし、演出受付期間の残り時間が残されている途中タイミング（特定タイミング）であってもよい。演出受付期間の残り時間が消化されたとき、またはそれ以降の所定タイミングで上述の自動演出機能が機能する場合は、演出受付期間が終了された以降に演出受付がなされたかのように操作後演出が実行されることとなる。これに対し、演出受付期間の残り時間が残されている途中タイミング（特定タイミング）で上述の自動演出機能が機能する場合は、実際に操作があった場合と同様、上述の自動演出機能が機能した時点（特定タイミング）で演出受付期間が終了されて操作後演出が実行されることとなる。

【１３９５】

ただし、自動ボタン演出状態に制御されているときに操作しなくても操作後演出が発生

することに対する安心感を確保するようにする上では、演出受付期間が終了されるまでの間（演出受付期間内の特定タイミング）に上述の自動演出機能を機能させてこれに応じた操作後演出を開始させるようにすることが重要である。すなわちこの場合、演出受付期間内の特定タイミングが到来したにもかかわらず上述の自動演出機能が機能しなかったときには、特定タイミングが到来した以降に遊技者自らが操作することによって操作後演出を発生させることも可能であり、これによって自動ボタン演出状態に制御されているときの不安感（例えば、「自動ボタン演出状態に制御されていないにもかかわらず自動ボタン演出状態に制御されていると誤認識しており、操作後演出を確認できなくなってしまうかもしれない」、「何らかのトラブルによって自動演出機能が機能せず、操作後演出を確認できなくなってしまうかもしれない」など）を好適に抑制することができるようになる。

【１３９６】

そして、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、このような自動ボタン演出状態に関連した特徴的技術を有するものとなっている。以下、自動ボタン演出状態に関連した特徴的技術について順次に説明するが、これらの特徴的技術については上述の各演出例に対して適用するようにしてもよいし、以下の各特徴的技術を適宜に組み合わせて用いるようにしてもよい。

【１３９７】

なお、以下の各特徴的技術を説明するにあたり、その前提として、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）においては、通常、該特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときにも発生しうる演出受付期間が発生したときに、該演出受付期間内において操作が行われなくても該操作が行われたときと同じ操作後演出を発生させるものとなっている。ただしこれに代えて、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときにしか実行可能とされない特定の表示演出（大当り判定の結果に基づいて選択されうる表示演出）を用意し、該特定の表示演出が行われているなかでこれに関する特定有効期間が発生すると、該特定有効期間内において操作が行われなくても該操作が行われたときと同じ操作後演出を発生させるようにしてもよい。このような構成によれば、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときの演出性が高められること（特定の表示演出の発生が許容されることによる演出性の向上）はもとより、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）が発生しているとしても特定の表示演出が行われていないときに設定される別の演出受付期間では自動演出機能が機能し得ない場合もありうるのに対し、特定の表示演出が行われているときの特定有効期間においては自動演出機能が機能することによって操作する手間が省けるようになることによるＶＩＰ感を味わうことができるようになることから、遊技興趣を好適に高めることが期待されるようになる。なお、特定の表示演出が行われていないときに設定される別の演出受付期間の全てで必ずしも自動演出機能が機能し得ないようにしなくてもよく、少なくとも一部の演出受付期間で自動演出機能が機能し得ないようにすれば、特定の表示演出が行われているときに特定有効期間が発生したとき（自動演出機能が必ず機能する演出受付期間が発生したとき）の上述の作用効果を期待することは可能である。また、このような特定有効期間が発生した場合も、特定有効期間内の特定タイミングが到来するまでの間に遊技者による操作がなかった場合に、該特定タイミングで上述の自動演出機能を機能させてこれに応じた操作後演出を開始させるようにすることが望ましい。

【１３９８】

また、大当り判定の結果に基づいて実行されうる特定の表示演出として、少なくとも第１の特定表示演出、第２の特定表示演出、及び第３の特定表示演出を用意した上で、

・第１の特定表示演出が実行されているときに第１の特定有効期間が発生すると、該第１の特定有効期間が発生してから第１の所定時間が経過したタイミングで上述の自動演出機能が機能して、第１の特定有効期間を終了させるとともにこれに応じた操作後演出を発生させるのに対し、

・第２の特定表示演出が実行されているときに第２の特定有効期間が発生すると、該第２の特定有効期間が発生してから上記第１の所定時間よりも長い第２の所定時間が経過した

タイミングで上述の自動演出機能が機能して、第２の特定有効期間を終了させるとともにこれに応じた操作後演出を発生させ、さらに、
・第３の特定表示演出が実行されているときに第３の特定有効期間が発生すると、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているにもかかわらず該第３の特定有効期間が終了されるまでの間に操作がなければ該操作があったときと同じ操作後演出は出現し得ないようにする
といった各処理を特定の演出状態にあるときに行うようにしてもよい。このような構成によれば、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに演出受付期間（特定有効期間）が発生したとしても、該演出受付期間が発生したときから第１の所定時間が経過したときに上述の自動演出機能が機能したり、該第１の所定時間よりも長い第２の所定時間が経過しなければ上述の自動演出機能が機能しないようにされたり、演出受付期間が終了しても上述の自動演出機能がそもそも機能し得ないようにされたりするようになる。したがって、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されている場合であっても、演出受付期間（特定有効期間）が発生したときにいずれの種別の特定表示演出が行われていたかを確認する必要性を持たせることができるようになり、例えば、第１の所定時間が経過したにもかかわらず上述の自動演出機能が機能しなかったときには、第２の所定時間が経過するときに上述の自動演出機能が機能するのか、若しくは上述の自動演出機能がそもそも機能しないのか、などといった緊張感を持たせて演出進展させることができるようになる。なお、第１の特定有効期間、第２の特定有効期間、及び第３の特定有効期間はいずれも、操作対象とされる操作手段（例えば、操作ボタン４１０）が操作状態になったとき（いわゆる単発操作が行われたとき）に演出受付されて操作後演出を発生させるものである。

【１３９９】

なお、第１の特定表示演出、第２の特定表示演出、及び第３の特定表示演出については、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときにしか実行可能とされないものであってもよい。このように、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときには、該特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときには出現し得ない表示態様が表示されうるようにした場合は、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときの遊技興趣を好適に維持することができるようになる。また、第１の特定表示演出（第１の特定有効期間）及び第２の特定表示演出（第２の特定有効期間）を用意し、第３の特定表示演出（第３の特定有効期間）については必ずしも用意するようにしなくてもよい。また、第１の特定有効期間、第２の特定有効期間、及び第３の特定有効期間で演出受付されたときに発生する操作後演出は互いに異なる演出内容であってもよい。

【１４００】

また、上述の自動演出機能が機能することによって操作後演出を発生させる場合は、演出受付期間内のいずれのタイミングで該自動演出機能が機能したのか（演出受付されたときに演出受付期間としてどれだけの時間が残されていたか）を認識しうるように、演出受付可能期間の残り時間を示すバー表示（時間経過とともに画像変化（ここでは面積変化）する表示）については自動演出機能が機能した時点で非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにしてもよい。このような構成によれば、例えば、自動演出機能が機能した時点で継続表示されている「バー表示」によって示される残り時間を確認することで、当該演出受付期間が第１の特定有効期間（演出受付期間が発生してから比較的早い段階である第１の所定時間が経過したときに自動演出機能が機能する期間）と第２の特定有効期間（演出受付期間が発生してから比較的遅い段階である第２の所定時間が経過したときに自動演出機能が機能する期間）とのいずれであったのかを認識することができるようになる。

【１４０１】

この意味では、第１の特定有効期間（演出受付期間が発生してから第１の所定時間が経過したときに自動演出機能が機能する期間）が発生したときと、第２の特定有効期間（演

出受付期間が発生してから第２の所定時間が経過したときに自動演出機能が機能する期間）が発生したときとで大当り期待度が異なる（例えば、第２の特定有効期間のほうが有利）ようにすることが望ましい。またこの場合、第１の特定表示演出や第２の特定表示演出については必ずしも実行されないようにしてもよい。ただし、第１の特定表示演出や第２の特定表示演出が実行されるようにした場合は、第１の特定表示演出が現われたときと第２の特定表示演出が現われたときとで大当り期待度が異なる（例えば、第２の特定表示演出のほうが有利）ように機能することとなる。また、演出受付期間内において遊技者による操作によって操作後演出が発生する場合は、操作後演出が発生した状態において「バー表示」を非表示とするようにしてもよいし、上述の自動演出機能が機能した場合と同様、「バー表示」を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにしてもよい。操作後演出については、演出表示装置１６００における表示変化として実行されるものでなくてもよく、例えば、遊技盤５にて設けられるランプによる発光または可動装飾体による動作として実行されるものであってもよい。

【１４０２】

また、上述の自動演出機能が機能することによって操作後演出を発生させた場合は、操作対象となっている操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対して遊技者は何ら関与しないままで操作後演出を自動発生させることとなることから、遊技者側からすれば、該自動発生した操作後演出がいずれの操作手段に対応したものであるのか把握できなくなってしまう懸念がある。したがって、上述の自動演出機能を機能させて操作後演出を発生させる場合は、まず、演出受付期間内において操作対象とされる操作手段を示唆する操作対象示唆画像（例えば、操作対象とされる操作手段を摸した画像表示など）を表示するとともに、上述の自動演出機能が機能した場合であっても、該操作対象示唆画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにすることが望ましい。なおこの場合、操作後演出が発生する前と発生した後とで操作対象示唆画像の表示態様（例えば、色や透過率など）は必ずしも同じでなくてもよく、操作対象とされていた操作手段がいずれであったのかを操作後演出が発生した状態においても認識可能であればよい。これに対し、演出受付期間内において遊技者による操作によって操作後演出が発生する場合は、操作後演出が発生した状態において操作対象示唆画像を非表示とするようにしてもよいし、上述の自動演出機能が機能した場合と同様、操作対象示唆画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにしてもよい。上述の第１の特定有効期間内で自動演出機能が機能した場合や、上述の第２の特定有効期間内で自動演出機能が機能した場合など、上述の自動演出機能が機能したときには、必ず、操作対象示唆画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにしてもよい。

【１４０３】

またこの際、大当り期待度の異なる複数態様のいずれかで操作対象示唆画像を表示した状態で操作後演出を発生させるようにすれば、操作対象示唆画像の態様と操作後演出の態様との両方を同時確認することができるようになり、遊技興趣の向上を図ることができるようになる。また、操作後演出については、演出表示装置１６００における表示変化として実行されるものでなくてもよく、例えば、遊技盤５にて設けられるランプによる発光または可動装飾体による動作として実行されるものであってもよい。

【１４０４】

例えば、上述の自動演出機能を搭載しないパチンコ機１であっても、操作対象示唆画像（操作手段を摸した摸画像など）として、大当り期待度（例えば、大当りが得られているときにしか現れない態様で操作後演出が実行される割合）が異なる複数態様を用意し、遊技者による操作によって操作受付がなされた場合、該操作受付に基づいて操作後演出が実行開始される時点で操作対象示唆画像（操作手段を摸した摸画像など）を上記期待度の異なる複数態様のいずれかで表示された状態のままとするようにすれば、操作対象示唆画像の態様と操作後演出の態様との両方を同時確認することができるようになり、遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【１４０５】

また、摸画像が表示される有効期間（演出受付期間）を発生させる場合、その有効期間（演出受付期間）の種別（有効期間の発生条件や、操作受付がなされたときに発生する操作後演出の種別など）に基づいて、時間経過に応じて表示面積が減少される表示を行う場合（第１条件の成立によって発生する第１有効期間）と、時間経過に応じて表示面積が減少される表示を行わない場合（第２条件の成立によって発生する第２有効期間）とがあるようにすることが望ましい。すなわち、時間経過に応じて表示面積が減少される表示を行わない有効期間では、操作受付が許容される残り時間がどれだけ残されているかを認識し難くすることができるようになり、有効期間内における緊張感を好適に維持することができるようになる。なお、「時間経過に応じて特定画像の表示面積が減少される表示を行わない」とは、例えば、通常（第１有効期間）は、時間経過に応じて表示面積が減少される態様でゲージ画像を表示するところ、第２有効期間では、ゲージ画像これ自体を表示しないか、ゲージ画像は表示するがその表示面積が時間経過に応じて減少されない手法を採用することによって実現することが可能である。

【１４０６】

この点、第２有効期間（時間経過に応じて表示面積が減少される表示を行わない場合）で操作受付がなされたときは、該操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始される時点で摸画像は非表示とされず表示された状態にあるようにすることが望ましい。これにより、摸画像が表示されている間（有効期間の終了前）に操作受付がなされたことを把握することができるようになり、「操作受付に間に合わなかったのではないか」といった不安感を取り除くことができるようになる。

【１４０７】

なおこの場合、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生する前と発生した後とで摸画像の表示態様（例えば、色や透過率など）は必ずしも同じでなくてもよく、他の画像によって摸画像が視認し難くされた状態であってもよく、操作対象とされていた操作手段がいずれであったのかを操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生した状態においても認識可能であればよい。ただし、このような作用効果を好適に得る上では、少なくとも、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始された時点においては、操作受付がなされる前に表示されていた態様のままで摸画像の表示状態が維持されるようにし、他の画像によって摸画像が視認し難くされることもないようにすることが望ましい。したがって、操作受付が許容される有効期間中において摸画像を動的表示していたのであれば、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始された時点においても、その動的表示を継続させるようにすることが望ましい。これに対し、第１有効期間内において、遊技者による操作によって操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生する場合は、該変化（表示変化や、ランプ発光など）が発生した状態において摸画像を非表示とするようにしてもよいし、上述の第２有効期間の場合と同様、摸画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など）を発生させるようにしてもよい。

【１４０８】

ただし、このように「時間経過に応じて特定画像の表示面積が減少される表示を行わない」有効期間においても、操作対象とされる操作手段を摸した摸画像は表示することとし、該摸画像については、特定の速度で進展される動画像として表示するようにすることが望ましい。このような構成によれば、ゲージ画像による残り時間の示唆こそ行われないものの、摸画像による動画像がどれだけ進展したかによって操作受付が許容される残り時間を把握することが困難ではあるが可能であり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１４０９】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、操作手段として第１操作手段（例えば、操作ボタン４１０）及び第２操作手段（例えば、刀装飾体５００１）を備えており、第１操作手段に対する操作受付が許容される有効期間（演出受付期間）を発生させる場合と、第２操作手段に対する操作受付が許容される有効期間（演出受付期間）を発生させる場合とがあり、それら有効期間のうち、第１操作手段に対する操作受付が許容される有効期間では第１操作手段を摸した第１摸画像が表示され、第２操作手段に対する操作受付が許容される有効期間では第２操作手段を摸した第２摸画像が表示される。また、第１操作手段に対する操作受付が許容される有効期間と、第２操作手段に対する操作受付が許容される有効期間とでは、操作受付がなされたときに示唆される大当り期待度（操作後演出として大当り時にしか現れない態様が実行される割合）が異なるようにされている。なお、第１操作手段に対する操作受付が許容される有効期間（演出受付期間）や、第２操作手段に対する操作受付が許容される有効期間（演出受付期間）のほか、これらとは異なる有効期間をさらに発生可能なものであってもよい。この点、大当り期待度が高い側である有効期間（例えば、第２操作手段に対する操作受付が許容される有効期間）で操作受付がなされたときは、該操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始される時点で摸画像（第２摸画像）は非表示とされず表示された状態にあるようにすることが望ましい。

【１４１０】

これにより、上述した図１８３（ｆ）に示したような状況で操作受付がなされた場合のほか、例えば、第２操作手段（例えば、刀装飾体５００１）に対して操作機会が付与されているにもかかわらず、第１操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対して誤って操作を行ってしまい、該第１操作手段（例えば、操作ボタン４１０）を操作状態にしたまま（操作を行っているまま）で、第２操作手段（例えば、刀装飾体５００１）に対して操作を行ってこれが操作受付された場合であっても、これが適正に演出受付されたことを遊技者側に認識させることができるようになる。

【１４１１】

なおこの場合、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生する前と発生した後とで摸画像の表示態様（例えば、色や透過率など）は必ずしも同じでなくてもよく、他の画像によって摸画像が視認し難くされた状態であってもよく、操作対象とされていた操作手段がいずれであったのかを操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生した状態においても認識可能であればよい。ただし、上述の作用効果を好適に得る上では、少なくとも操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始された時点においては、操作受付がなされる前に表示されていた態様のままで摸画像の表示状態が維持されるようにし、他の画像によってゲージ画像が視認し難くされることもないようにすることが望ましい。したがって、操作受付が許容される有効期間中において摸画像を動的表示していたのであれば、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始された時点においても、その動的表示を継続させるようにすることが望ましい。また、適正に演出受付されたことを遊技者側に認識させるようにする上では、第１有効期間内において、遊技者による操作によって操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など）が発生する場合も、該変化（表示変化や、ランプ発光など）が発生した状態において摸画像（第１摸画像）を非表示とせずこれを表示した状態で操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など）を発生させるようにすることが望ましい。

【１４１２】

このような構成によれば、「判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定の結果に基づいて演出を行う演出手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、第１位置と第２位置との間で変位可能に設けられる特定操作受け部（通常位置と押下位置との間で変位可能な操作ボタン４

１０）と、前記特定操作受け部が第２位置に変位したことに基づいて遊技者による特定動作（押下操作）を検出可能な第１検出部と、前記特定操作受け部とは異なる特別操作受け部（例えば、刀装飾体５００１）に対しての遊技者による特別動作（例えば、納刀操作）を検出可能な第２検出部とを備え、（演出受付がなされたときに発生する操作後演出の種別が異なる）演出受付期間として、第１演出受付期間及び第２演出受付期間を含む複数の演出受付期間が用意されており、前記第１演出受付期間では、前記特定操作受け部を摸した特定摸画像が表示され、前記第１検出部による検出によって演出受付がなされるようになっており、前記第２演出受付期間では、前記特別操作受け部を摸した特別摸画像が表示され、前記第２検出部による検出によって演出受付がなされるようになっており、前記第２演出受付期間において前記特別操作受け部を摸した特別摸画像が表示されているにもかかわらず、遊技者による特定動作によって前記特定操作受け部が第１位置から第２位置へと変位した場合、該特定操作受け部を第２位置に維持したままで遊技者による前記特別動作が行われたとしても前記第２検出部による検出によって演出受付がなされ、該演出受付に基づいて操作後演出が実行可能とされる」といった構成を備えることとなる。

【１４１３】

そして、このような構成にあって、「特定操作受け部を第２位置に維持したままで遊技者による前記特別動作が行われたとしても前記第２検出部による検出によって演出受付がなされ、該演出受付に基づいて操作後演出が実行開始される時点においては、特別操作受け部を摸した特別摸画像を非表示とせずこれを表示したままとすることで、誤って操作した側でなく、適正な側の操作として操作後演出が実行されていることを遊技者側に認識させることができるようになる。

【１４１４】

なお、特別摸画像が、大当り期待度の異なる複数態様のいずれかで表示される場合は、該表示されている態様のままで操作後演出が実行開始されることとなる。このような誤った操作が行われることなく演出受付がなされた場合は、操作後演出が実行開始される時点において摸画像を非表示とせず表示したままにするようにしてもよいし、操作後演出が実行開始される時点において摸画像を非表示とするようにしてもよい。

【１４１５】

ところで、特別操作受け部に対して操作機会が付与される第２演出受付期間は、特定操作受け部に対して操作機会が付与される第１演出受付期間に比べてその発生頻度が低いことが多く、このことが操作誤りを生じさせる一因となっていると考えられる。したがって、特別操作受け部に対して操作機会が付与される第２演出受付期間の発生に際しては、演出受付が許容される状態になったこと、または演出受付が許容される状態になることを示唆する受付許容音が出力されるようにすることが望ましい。これにより、第２演出受付期間が発生したことを遊技者が認識することができるようになり、操作誤りを生じ難くさせることが期待されるようになる。該「受付許容音」とは、音が出力開始されると、この音が出力されている間（音データが割り当てられている間）に受付許容状態（有効期間）が必ず発生するか、受付許容状態（有効期間）が既に発生している状態にある音のことである。換言すれば、演出受付が許容される設定時間内で出力開始されて演出受付が許容される状態になったことを示唆したり、または演出受付が許容される設定時間が開始されるよりも前に出力開始されて演出受付が許容される状態になることを示唆したりするものであり、例えば、「ピキーン」などといった演出音として出力されるものである。

【１４１６】

ただし、特定操作受け部に対して操作機会が付与される第１演出受付期間の発生に際しても、演出受付が許容される状態になったこと、または演出受付が許容される状態になることを示唆する受付許容音が出力されるようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容音については、その態様（音色など）を、第１演出受付期間が発生する場合と第２演出受付期間が発生する場合とで異ならせるようにすることが望ましい。若しくは、第１演出受付期間においては、受付許容音が出力されている間に演出受付がなされたとしても、出力状態にある受付許容音を終了させずこれを継続させるが、第２演出受付期間においては、

受付許容音が出力されている間に演出受付がなされると、出力状態にある受付許容音をその途中で終了させるようにすることが望ましい。それら構成の両方を採用するようにしてもよい。このような構成によれば、第１演出受付期間と第２演出受付期間とのいずれが発生するかについての把握が容易とされるようになったり、特定操作受け部に対する操作と、特別操作受け部に対する操作とのいずれが受付されたのかを適正に把握することができるようになる。

【１４１７】

また、この例にかかるパチンコ機１では、表示面積が比較的小さいゲージ画像（小ゲージ画像）を表示してから、該ゲージ画像（小ゲージ画像）の表示面積を時間経過に応じて小さくする表示（例えば、最終的には表示面積を「０」にする表示）を行うことで操作受付が許容される残り時間を示唆する小ゲージ有効期間（演出受付期間）を発生させる場合と、表示面積が比較的大きいゲージ画像（大ゲージ画像）を表示してから、該ゲージ画像（大ゲージ画像）の表示面積を時間経過に応じて小さくする表示（例えば、最終的には表示面積を「０」にする表示）を行うことで操作受付が許容される残り時間を示唆する大ゲージ有効期間（演出受付期間）を発生させる場合と、がある。そして、小ゲージ画像が表示される小ゲージ有効期間と、大ゲージ画像が表示される大ゲージ有効期間とでは、操作受付がなされたときに示唆される大当り期待度（操作後演出として大当り時にしか現れない態様が実行される割合）が異なるようにされている（例えば、大ゲージ有効期間のほうが大当り期待度が高い）。なお、小ゲージ有効期間や大ゲージ有効期間のほか、これらとは異なる有効期間をさらに発生可能なものであってもよい。小ゲージ有効期間と大ゲージ有効期間とは同じ操作対象に対して操作機会を付与するものであってもよいし、異なる操作対象に対して操作機会を付与するものであってもよい。

【１４１８】

この点、大ゲージ有効期間で操作受付がなされたときは、該操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始される時点で大ゲージ画像は非表示とされず表示された状態にあるようにすることが望ましい。また、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始される時点においても、大ゲージ画像が時間経過に応じて小さくなっていく表示が終了されずこれが継続されるようにすることが望ましい。これにより、大ゲージ画像が表示されたことによって多くの残り時間が残っているように見える安心感があった一方で、操作受付がなされた以降は、適正に操作受付がなされたのか否かについての不安感を覚えさせることができるようになり、緊張感を好適に維持することができるようになる。

【１４１９】

なおこの場合、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生する前と発生した後とでゲージ画像の表示態様（例えば、色や透過率など）は必ずしも同じでなくてもよく、他の画像によってゲージ画像が視認し難くされた状態であってもよい。ただし、上述の作用効果を好適に得る上では、少なくとも操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始された時点においては、操作受付がなされる前に表示されていた態様のままでゲージ画像の表示状態が維持されるようにし、他の画像によってゲージ画像が視認し難くされることもないようにすることが望ましい。これに対し、小ゲージ有効期間内において、遊技者による操作によって操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が発生する場合は、該変化（表示変化や、ランプ発光など）が発生した状態においてゲージ画像（小ゲージ画像）を非表示とするようにしてもよいし、上述の大ゲージ有効期間の場合と同様、ゲージ画像（大ゲージ画像）を非表示とせずこれを表示した状態で操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など）を発生させるようにしてもよい。

【１４２０】

また、大ゲージ有効期間の発生に際しては、演出受付が許容される状態になったこと、

または演出受付が許容される状態になることを示唆する受付許容音が出力されるようにすることが望ましい。これにより、大ゲージ有効期間が発生したことを遊技者が認識することができるようになり、操作受付がなされるまでの安心感をより強調することができるようになる。該「受付許容音」とは、音が出力開始されると、この音が出力されている間（音データが割り当てられている間）に受付許容状態（有効期間）が必ず発生するか、受付許容状態（有効期間）が既に発生している状態にある音のことである。換言すれば、演出受付が許容される設定時間内で出力開始されて演出受付が許容される状態になったことを示唆したり、または演出受付が許容される設定時間が開始されるよりも前に出力開始されて演出受付が許容される状態になることを示唆したりするものであり、例えば、「ピキーン」などといった演出音として出力されるものである。

【１４２１】

ただし、小ゲージ有効期間の発生に際しても、演出受付が許容される状態になったこと、または演出受付が許容される状態になることを示唆する受付許容音が出力されるようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容音については、その態様（音色など）を、小ゲージ有効期間が発生する場合と大ゲージ有効期間が発生する場合とで異ならせるようにすることが望ましい。若しくは、小ゲージ有効期間においては、受付許容音が出力されている間に演出受付がなされたとしても、出力状態にある受付許容音を終了させずこれを継続させるが、大ゲージ有効期間においては、受付許容音が出力されている間に演出受付がなされると、出力状態にある受付許容音をその途中で終了させるようにすることが望ましい。それら構成の両方を採用するようにしてもよい。このような構成によれば、小ゲージ有効期間と大ゲージ有効期間とのいずれが発生するかについての把握が容易とされるようになったり、小ゲージ有効期間での操作受付と、大ゲージ有効期間での操作受付とのいずれがなされたのかを適正に把握することができるようになる。

【１４２２】

大ゲージ画像と小ゲージ画像とは、大きさが異なるだけでなく、形態これ自体も異なる画像であってもよい（相似関係にない画像など）。

【１４２３】

なお、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上述（または後述）のように、操作受付が許容される期間中、摸画像については、操作受け部が変位する様子を描写するように動的表示されるものとなっている。この点、操作受付に応じた変化（表示変化や、ランプ発光など、操作後演出によって生じる変化の少なくとも１つ）が実行開始される時点で摸画像を非表示とせずこれを表示したままにする場合、該摸画像の動的表示についてもこれが終了されず継続されるようにしてもよい。

【１４２４】

また、摸画像やゲージ画像については、それらが一体化された後述の一体化摸画像として表示されるものであってもよい。

【１４２５】

上述した各演出例や、後述する各演出例にあって、「操作受付」とは、ボタンなどの機械式操作手段における検出のほか、特定の操作受け部に対する接触をタッチセンサで検出することによって操作受付がなされるものや、特定領域における遊技者の動きを非接触で検出することによって操作受付がなされるものであってもよい。

【１４２６】

また、操作手段（複数の操作手段のいずれか）に対して操作機会が付与される演出受付期間を発生させる演出を「操作系演出」とするとき、該操作系演出については、これとは関係のない別の特定演出（例えば、可動体演出や、カウント演出など）と並行して実行される場合があるようにしてもよい。ただしこの場合、「操作系演出」は実行されるが「これと関わりのない別の特定演出」が実行されていない演出状況にあるときは、「操作系演出」及び「これと関わりのない別の特定演出」が並行される演出状況にあるときよりも上述の自動演出機能が機能する割合が高くなるようにすることが望ましい。すなわち、「操作系演出」及び「これと関わりのない別の特定演出」が並行される演出状況にあるときは

、「操作系演出」で演出受付がなされず操作後演出が実行されなかったとしても「これと関わりのない別の特定演出」が実行状態にあることから、遊技興趣の低下は抑制されうるのに対し、「操作系演出」は実行されるが「これと関わりのない別の特定演出」が実行されていない演出状況にあるときは、「操作系演出」で演出受付がなされず操作後演出が実行されないようなことがあると何らの演出も実行されない状況になってしまうことから、遊技興趣の低下が避けられない。したがって、「操作系演出」は実行されるが「これと関わりのない別の特定演出」が実行されていない演出状況にあるときは、「操作系演出」及び「これと関わりのない別の特定演出」が並行される演出状況にあるときよりも上述の自動演出機能が機能する割合を高くするようにすることで、操作系演出が発生したときの遊技興趣を好適に維持することができるようになる。割合については１００％であってもよい。ちなみに、演出受付期間が発生するのに合わせてその前から行われる前兆演出や、操作対象とされる操作手段が動作する演出などについては「操作系演出」またはこれに関連した演出として実行されるものであるといえる。また、「別の特定演出」として、例えば、演出受付期間（好ましくは、前兆演出）の開始前から発生させるものとすれば、上述の自動演出機能が機能する割合が高くなることを事前に示唆することができるようになる。この場合、演出受付期間（好ましくは、操作後演出）の終了後に終了される演出として実行されるものとするようにすることが望ましい。これに対し、「別の特定演出」として、例えば、演出受付期間（好ましくは、前兆演出）の開始後に発生し、演出受付期間の終了前に終了される演出として実行されるものとすれば、上述の自動演出機能が機能する割合が高い状況にあるのかを直前にしか認識し得ないようになり、緊張感のあるなかで演出を提供することができるようになる。この点、「別の特定演出」として、演出受付期間（好ましくは、前兆演出）の開始前から発生させるものとする場合、該「別の特定演出」を、一の図柄変動内で複数回にわたって行われるようにすれば、演出受付期間が発生しないときにも実行されるようになることから、「別の特定演出」が実行されたときに自動演出機能が機能する割合が高くされているなかで演出受付期間が発生するかについての緊張感を持たせることができるようになる。

【１４２７】

また、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときに大当り判定の結果に応じたハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値（例えば、９９９回連続してハズレ変動が実行され、１０００回目のハズレ変動）に達するまでの間は、大当り判定の結果に基づいて操作手段（複数の操作手段のいずれか）に対して操作機会が付与される演出受付期間が所定確率で発生されうるようにするとともに、該演出受付期間が発生したとしても遊技者による操作がなかったときには上述の自動演出機能を機能させる場合と上述の自動演出機能を機能させない場合とがあるようにする。これに対し、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときに大当り判定の結果に応じたハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値（例えば、９９９回連続してハズレ変動が実行され、１０００回目のハズレ変動）に達した場合、該特定値に達した図柄変動（演出パターン）では、大当り判定の結果にかかわらず操作手段（複数の操作手段のいずれか）に対して操作機会が付与される演出受付期間を必ず発生させるとともに、該演出受付期間内で遊技者による操作がなかったとしても上述の自動演出機能を機能させて該演出受付期間内で遊技者による操作があったときと同じ操作後演出を必ず発生させる処理を実行するようにしてもよい。このような構成によれば、ハズレ変動の連続実行回数が特定値に達すると、「ハズレ変動が連続して実行されているなかで演出受付期間が発生する度に遊技者に対して操作すべきことを促してきたにもかかわらず何らの成果も挙げられなかった」これまでの責任を感じたかのように、遊技者による操作がなかったとしても当該パチンコ機１これ自体が自動演出機能を必ず機能させる演出として実現されることから、遊技興趣を好適に維持することができるようになる。なおこの際、ハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値に達した状態（例えば、１０００回目のハズレ変動）にあるときに発生する演出受付期間では、ハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値（例えば、９９９回までのハズレ変動）に達するまでの演出受付期間にあるときに出現していた表示画像（例えば、「操作しろ」など

）とは異なる特別の表示画像（例えば、「面倒であれば、わたくしが代行して操作させていただきます」など）を出現させるようにすることが望ましい。また、特定値に達した図柄変動（演出パターン）が消化された以降も、特定の条件（例えば、大当り遊技状態の発生）が満たされるまでの間は図柄変動が消化される都度、該図柄変動（演出パターン）内で、大当り判定の結果にかかわらず操作手段（複数の操作手段のいずれか）に対して操作機会が付与される演出受付期間を必ず発生させるとともに特別の表示画像（例えば、「面倒であれば、わたくしが代行して操作させていただきます」など）を出現させ、該演出受付期間内で遊技者による操作がなかったとしても上述の自動演出機能を機能させて演出受付に応じた操作後演出を必ず発生させる処理を実行するようにすることが望ましい。

【１４２８】

なお、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときに大当り判定の結果に応じたハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値（例えば、９９９回連続してハズレ変動が実行され、１０００回目のハズレ変動）に達するまでの残り変動数の表示を行うようにしてもよい。

【１４２９】

また、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときに大当り判定の結果に応じたハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値に達するまでの間は、図柄変動中、第一操作手段に対する演出受付期間と、第二操作手段に対する演出受付期間とのいずれもが発生しうるようにされるが、ハズレ変動が順次消化されてその実行回数が特定値に達したときの図柄変動では、第一操作手段に対する演出受付期間と第二操作手段に対する演出受付期間とのいずれかのみが常に発生して、その他方側は発生し得ないように演出進展させるようにしてもよい。このような構成によれば、常に同じ操作手段に対して操作機会が付与されることから、演出受付期間が発生したことこれ自体に対して期待を持たせてしまうようなことが好適に抑制されうるようになる。ただしこの演出例が、「ハズレ変動が連続して実行されているなかで演出受付期間が発生する度に遊技者に対して操作すべきことを促してきたにもかかわらず何らの成果も挙げられなかった」これまでの責任を感じたかのように、遊技者による操作がなかったとしても当該パチンコ機１これ自体が自動演出機能を必ず機能させる演出として実現されるものであることに鑑みれば、過渡な期待をこれ以上持たせないように、発生時の期待度が相対的に低い側の第一操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対する演出受付期間を発生させて、第二操作手段（例えば、刀装飾体５００１）に対する演出受付期間は発生させないようにすることが望ましい。

【１４３０】

また、複数の操作手段のうち第１の操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される第１演出受付期間については、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときと特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときとのいずれにおいても発生可能であるが、複数の操作手段のうち第２の操作手段（例えば、刀装飾体５００１）に対して操作機会が付与される第２演出受付期間については、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときには発生し得ず、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときの演出性を高めることができるようになり、該特定の演出状態（自動ボタン演出状態）にあるときの遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【１４３１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御ＭＰＵ１５１１ａ）では、大当り判定の結果に基づいて演出受付期間を発生させるとき、

・操作手段を摸した摸画像（操作対象とされる操作手段を示唆する操作対象示唆画像）を表示し（摸画像表示手段）、

・演出受付期間が発生した以降、摸画像が表示されているなかで遊技者による操作が行われると、該操作に基づいて操作後演出を実行可能であり（遊技者操作受付手段）、

・演出受付期間が発生した以降、摸画像が表示されているなかで遊技者による操作が行わ

れないままで特定タイミングが到来すると、遊技者による操作を受けること無しで操作後演出を実行可能（自動演出受付手段）
としたものであるが、摸画像については、演出受付がなされたときに「遊技者に有利な態様」で操作後演出が実行される割合（期待度）が異なる複数態様のいずれかで、表示されうるようにすることが望ましい。このような構成によれば、遊技者操作受付手段によって操作後演出が発生する場合と、自動演出受付手段によって操作後演出が発生する場合とのいずれの場合であっても、期待度が認識可能とされているなかで操作後演出を発生させることができるようになる。

【１４３２】

また、上述の自動演出機能が機能することによって操作後演出を発生させた場合は、操作対象となっている操作手段（例えば、操作ボタン４１０）に対して遊技者は何ら関与しないままで操作後演出を自動発生させることとなることから、遊技者側からすれば、該自動発生した操作後演出がいずれの操作手段に対応したものであるのか把握できなくなってしまう懸念がある。したがって、上述の自動演出機能を機能させて操作後演出を発生させる場合は、まず、演出受付期間内において摸画像（操作対象とされる操作手段を示唆する操作対象示唆画像）を表示するとともに、上述の自動演出機能が機能した場合であっても、該摸画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにすることが望ましい。なおこの場合、操作後演出が発生する前と発生した後とで操作対象示唆画像の表示態様（例えば、色や透過率など）は必ずしも同じでなくてもよく、操作対象とされていた操作手段がいずれであったのかを操作後演出が発生した状態においても認識可能であればよい。これに対し、演出受付期間内において遊技者による操作によって操作後演出が発生する場合は、操作後演出が発生した状態において操作対象示唆画像を非表示とするようにしてもよいし、上述の自動演出機能が機能した場合と同様、操作対象示唆画像を非表示とせずこれを表示した状態で操作後演出を発生させるようにしてもよい。操作後演出については、演出表示装置１６００のうち少なくとも摸画像が表示される領域とは異なる領域を用いて実行するようにしてもよいし、遊技盤５にて設けられるランプによる発光または可動装飾体による動作として実行されるものであってもよい。

【１４３３】

なおこの際、摸画像を、期待度が異なる複数態様のいずれかで表示するようにした場合は、操作後演出が発生した状態においても、演出受付期間内で示唆されていた期待度（摸画像の表示態様）を確認することができるようになる。

【１４３４】

こうして表示継続される摸画像については、操作後演出が発生した後に非表示にされることとなる。ただし、第一側演出受付期間が発生してから特定時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行される場合と、第一側演出受付期間が発生してから特定時間とは異なる時間が経過したときに第一自動演出手段による自動処理が実行される場合とでは、操作後演出が実行されてから摸画像が非表示にされるまでの時間についても互いに異なるようにすることが望ましい。このような構成によれば、特定時間が経過したときに自動処理によって操作後演出が発生したのか、特定時間とは異なる時間が経過したときに自動処理によって操作後演出が発生したのかを認識できなかったとしても、操作後演出が実行されてから摸画像が非表示にされるまでの時間を確認することで、いずれの時間で操作後演出が発生したのかを認識することができるようになる。

【１４３５】

なお、特定時間が経過したときに自動処理によって操作後演出が発生したときと、特定時間とは異なる時間が経過したときに自動処理によって操作後演出が発生したときとで、大当り判定にて大当りが得られている期待度が異なるようにしてもよい。

【１４３６】

また、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されているときに、遊技者に対して操作機会が付与される演出受付期間が発生される場合は、該演出受付期間中、２つの表示態様（例えば、相対的に大当り期待度の低い低期待表示態様、相対的に大当り期待度の

高い高期待表示態様）のいずれかが現れうるようにし、高期待表示態様（例えば、赤色の操作画像）が現れたときには該演出受付期間内で操作が行われなかったとしても必ず演出受付（自動演出機能が必ず機能）されて該演出受付に応じた操作後演出が実行されるが、低期待表示態様（例えば、青色の操作画像）が現れたときには該演出受付期間内で操作が行われなかったときに演出受付（自動演出機能が機能）されて該演出受付に応じた操作後演出が実行される場合と、演出受付（自動演出機能が機能）されず操作後演出が実行されない場合とがあるように演出進展させるようにしてもよい。すなわち、高期待表示態様（例えば、赤色の操作画像）が現れたときに操作し忘れが生じると操作後演出を確認することができなかったことによる遊技興趣の低下が避けられないが、低期待表示態様（例えば、青色の操作画像）が現れたときには操作し忘れが生じたとしてもそれほど遊技興趣は低下しないと想定されることから、高期待表示態様（例えば、赤色の操作画像）が現れたときに操作し忘れが生じた場合は演出受付期間内で自動演出機能を必ず機能させることで操作し忘れによる遊技興趣の低下を回避するようにしつつも、低期待表示態様（例えば、青色の操作画像）が現れたときに操作し忘れが生じた場合は演出受付期間内で自動演出機能を必ずしも機能させないようにすることで操作し忘れを生じさせないように遊技することに対する緊張感を持たせて遊技者参加意識を高めることが期待されるようになる。なお、特定の演出状態（自動ボタン演出状態）に制御されていないときには、低期待表示態様（例えば、青色の操作画像）は出現されるが、高期待表示態様（例えば、赤色の操作画像）は出現し得ないようにしてもよい。また、演出受付期間中は、３つ以上の表示態様のいずれかが現れうるようにしてもよい。

【１４３７】

［摸画像表示についてのさらなる演出性］

図１１８を参照して説明した通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、大当り判定の結果に基づいて複数の変動パターンのいずれを実行するかについての変動パターン判定を実行可能としている。そして、該変動パターン判定が行われた結果として一の変動パターンが選択されると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、該選択された変動パターンに対応して用意されている複数の期待演出（予告演出など）のうちいずれの期待演出（予告演出など）を選択的に出現させるかについての演出判定（予告判定など）を実行可能としている。なお、この演出判定の結果によっては、上記選択された変動パターンに対応して用意されている複数の期待演出（予告演出など）の全てが順次実行されることとなる場合もありうるし、複数の期待演出（予告演出など）のいずれもが実行されないこととなる場合もありうる。

【１４３８】

そして、こうした演出判定（演出パターン判定、予告判定など）が行われると、該演出判定の結果に応じた演出内容を上記演出表示装置１６００に表示させる制御を行うことで、大当り判定の結果に応じた装飾図柄による変動演出がその背景描写（背景予告）や可動体動作（役物演出）などにかかる期待演出（予告演出）とともに実行されることとなる。そしてこの結果、装飾図柄による変動演出が、その背景描写や可動体動作などにかかる期待演出とともに実行された結果、大当り図柄で停止表示されると、遊技者に対して特典としての大当り遊技が実行可能とされるようになる。

【１４３９】

このような構成では、上記装飾図柄による変動演出が「大当り判定の結果として大当りが得られているか否かを示す機能」をもった演出として供されることとなり、その背景描写や可動体動作などにかかる期待演出が「大当りが得られていることについての期待度（０％や１００％を含む）を示唆する機能」をもった演出として供されることとなる。すなわち、遊技者は、これらの演出を通じて遊技を楽しむこととなる。

【１４４０】

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上記変動パターン判定が行われた結果としてＳＰリーチ（背景変更を伴うリーチ演出など）に発展する高期待変動パターン（ＳＰリーチ変動パターン）のうち特定の変動パターンが選択された場合は、演出判定（

予告判定など）としていずれの結果が得られたとしても、該特定の変動パターンに基づく図柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展すると（所定条件が成立すると）、演出受付が許容される操作受付演出（有効期間）を発生可能としている。ただし後述するが、該操作受付演出の発生に際して出力される受付許容音は、演出判定の結果に応じてその態様が異なるようにされており、これによって操作後演出が期待度の高い態様で実行される割合や、大当り図柄が停止される割合を示唆するようにしている。

【１４４１】

また、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上記変動パターン判定が行われた結果としてリーチ状態すら形成されない低期待変動パターン（非リーチ変動パターン）のうち所定の変動パターンが選択された場合であっても該所定の変動パターンに対応する演出判定（予告判定など）で特別結果が得られたときには、該所定の変動パターンに基づく図柄演出が所定タイミングまで進展すると（所定条件が成立すると）、演出受付が許容される操作受付演出（有効期間）を発生可能としている。ただし、所定の変動パターンが選択された場合は、演出判定で特別結果が得られなければ該所定の変動パターンに基づく図柄演出が所定タイミングまで進展されても操作受付演出（有効期間）は発生しない。また、所定の変動パターンで発生する操作受付演出（有効期間）は、特定の変動パターンに基づく図柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展したときに発生する操作受付演出（有効期間）とは異なる演出として実行されるものである。

【１４４２】

なお、予告演出判定としていずれの結果が得られたとしてもＳＰリーチ中における予め定められたタイミングになると操作受付演出（有効期間）を発生させる変動パターンについては、上記「特定の変動パターン」以外にも備えるようにしてもよい。ただし、予告演出判定としていずれの結果が得られたとしても予め定められたタイミングになると操作受付演出（有効期間）を発生させる変動パターンについては、低期待変動パターン（非リーチ変動パターン）には含まれないようにするか、若しくはその選択割合を低くするようにすることが望ましい。

【１４４３】

ところで、これらの条件等で発生しうる操作受付演出（有効期間）とは、その設定時間（有効期間）内で操作が検出されさえすれば、演出対象とされる演出部材に対して予め定められた変化（演出表示装置１６００における表示変化、スピーカにおける演出音変化、ランプによる発光変化、及び可動装飾体による演出動作の少なくとも１つ）を発生させる操作後演出が実行されるだけであるから、操作受付演出（有効期間）これ自体の演出性は乏しいものとなっており、操作後演出が実行されるまでの遊技興趣の低下が懸念される。

【１４４４】

そこで、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作受付演出として、

・低期待変動パターン（所定の変動パターン）に基づく図柄演出（演出パターン）の実行期間中、当該変動パターン（演出パターン）に応じた「ＢＧＭ再生（特定種別の演出音）」が非抑制態様で出力されているなかで操作機会を付与する低期待非抑制受付演出や

・高期待変動パターン（特定の変動パターン）に基づく図柄演出（演出パターン）の実行期間中、当該変動パターン（演出パターン）に応じた「ＢＧＭ再生（特定種別の演出音）」が抑制態様または無音で出力されているか、非出力の状態（音データのうち可聴音が収録されている再生期間が終了しているか、チャンネル割り当てが終了されているなど）にされているなかで操作機会を付与する高期待抑制受付演出

を少なくとも発生可能としているなど、様々な工夫を施すようにしていることは前述した通りである。

【１４４５】

この点、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、さらに、操作受付演出において表示される摸画像を、該摸画像の周縁を装飾する周縁装飾画像と一体化された一体化摸画像として表示することで、操作受付演出（有効期間）が発生したときの遊技興趣の向上を図るようにしている。このような一体化摸画像については、特定の変動パターンに基づく図

柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展したときに発生する操作受付演出（有効期間）と、上記所定の変動パターンで発生する操作受付演出（有効期間）とのいずれにおいても表示されるようにすることが望ましいし、低期待非抑制受付演出と高期待抑制受付演出とのいずれにおいても表示されるようにすることが望ましい。また、上述した各演出例についても、例示した摸画像の表示態様を、以下に説明する一体化摸画像のいずれかに置き換えて実現するようにすることが、遊技興趣の向上を図る上で望ましい。

【１４４６】

以下、摸画像を「一体化摸画像」として表示する場合について説明する。

まず、「摸画像」について改めて説明しておくと、操作受付演出において操作機会の付与対象となる操作手段には、遊技者による操作を受ける「操作受け部」と、該操作受け部の周縁を装飾する「周縁装飾部」とが設けられている。この点、「摸画像」とは、このような操作手段のうち「操作受け部」を摸した画像のことを意味している。「操作受け部」は、通常、遊技者による操作によって変位するように設けられており、「周縁装飾部」は、非可動部材として設けられることが多いものである。例えば、図３９や図４０などに例示した操作手段（演出操作ユニット４００）であれば、「操作受け部」がボタンレンズ４１１（操作ボタン４１０）に相当し、「周縁装飾部」がフレームユニット４１５に相当することとなる。また、図１２４や図１３９などに例示した操作手段（刀装飾体５００１）であれば、「操作受け部」が刀部５０１０に相当し、「周縁装飾部」が鞘部５０２０に相当することとなる。

【１４４７】

図１４４は、遊技者による「押圧操作」を受ける「操作受け部」が設けられた操作手段に対して操作受付演出（有効期間）が発生したときに表示される「一体化摸画像」について、その一例を示す図である。

【１４４８】

この説明例では、説明の便宜上、刀装飾体５００１の柄部５０１２上面に、プッシュ式の柄ボタン５０１４が「操作受け部」として設けられた場合を想定している。すなわち、該柄ボタン５０１４は、遊技者により「押圧操作」されると柄部５０１２内に押し込まれて所定のセンサ（検出手段）により検出され、その検出情報が演出（操作後演出の実行契機など）に供されるようになっている。このような構成によれば、操作ユニットとしての刀装飾体５００１には、柄部５０１２に対して動作（上下動）可能な「柄ボタン５０１４」と、鞘部５０２０に対して動作（上下動）可能な「柄部５０１２」との２つの操作受け部が設けられることとなる。

【１４４９】

図１４４では、所定の変動パターンが所定タイミングまで進展したときに柄ボタン５０１４に対して操作機会が付与される特定の操作受付演出（有効期間）が発生したときの「一体化摸画像」について説明することとする。ただし、図１４４を始めとして、以下に説明する例において、柄ボタン５０１４に対して操作機会を付与するときの「一体化摸画像」については、柄ボタン５０１４ではなく、操作ボタン４１０に対して操作機会が付与される操作受付演出（有効期間）が発生したときの「一体化摸画像」として適用するようにしてもよい。すなわちこの場合、上述した各演出例において例示した「操作ボタン４１０を摸した摸画像」については、以下に説明する「一体化摸画像」としてそれぞれ置き換えることが可能であり、この場合、柄ボタン５０１４は設けられずこれが部材として割愛されることとなる。

【１４５０】

同図１４４（ａ）～（ｄ）に示されるように、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される特定の操作受付演出（有効期間）を発生させる場合、演出表示装置１６００においては、該柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸したボタン摸画像ＢＭＧが、その周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧと一体化した一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄとして表示される。図１４４（ａ）～（ｄ）に示される例では、ボタン摸画像ＢＭＧと周縁装飾画像ＳＳ

Ｇとについては画像データとして個別に用意されておらず、それらが一体化された１つの画像データ（一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄ）としてのみ表示されるようになっている。また、一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄが表示されるときには、「押せ」や「下矢印」などの操作促進表示も併せて表示されるが、説明の便宜上、ここでは割愛する。

【１４５１】

この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定の操作受付演出（有効期間）で操作が受け付けられたときに実行する操作後演出として「相対的に期待度の低い第一演出態様」と「相対的に期待度の高い第二演出態様」とを含めた複数の演出態様が用意されており、大当り判定（演出判定）の結果に基づいてそれら演出態様のいずれかを実行するものとなっている。この点、図１４４（ａ）～（ｄ）に示す例では、

・特定の操作受付演出（有効期間）において図１４４（ａ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧａ）が現れたときよりも、図１４４（ｂ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧｂ）が現れたときのほうが操作後演出として「相対的に期待度の高い第二演出態様」の出現割合が高くなるようになっており、

・特定の操作受付演出（有効期間）において図１４４（ｂ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧｂ）が現れたときよりも、図１４４（ｃ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧｃ）が現れたときのほうが操作後演出として「相対的に期待度の高い第二演出態様」の出現割合が高くなるようになっており、

・特定の操作受付演出（有効期間）において図１４４（ｃ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧｃ）が現れたときよりも、図１４４（ｄ）に示される態様（一体化摸画像ＩＧｄ）が現れたときのほうが操作後演出として「相対的に期待度の高い第二演出態様」の出現割合が高くなる

といった関係性が成立するように、大当り判定（演出判定）の結果に基づいて一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄのいずれかを表示するようにしている。

【１４５２】

一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄとして示した４つの態様についてはこれらの全てを必ずしも用意しなくてもよい。少なくとも２つの態様を用意するだけでも操作後演出としての期待度を有効期間内において示唆することは可能である。また、上記４つの態様（一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄ）とは異なる態様をさらに用意し、それら用意した態様のいずれかを表示するようにしてもよい。

【１４５３】

このように、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、

・遊技者による操作によって変位する操作受け部（柄ボタン５０１４、または操作ボタン４１０）、及びその周縁に設けられる周縁装飾部（柄部５０１２，フレームユニット４１５）を有する操作手段（刀装飾体５００１，演出操作ユニット４００）と、

・操作受け部を摸した摸画像を、該摸画像の周縁を装飾する周縁装飾画像と一体化された一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄとして表示する一体化摸画像表示手段と、

・一体化摸画像が表示されているときに遊技者による操作が行われて操作受け部に所定変位が生じると表示変化（操作後演出）を生じさせうる操作受付実行手段と

を備えており、一体化摸画像は、複数態様（一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄ）のいずれかで表示されうるものとなっている。

【１４５４】

図１４４（ａ）～（ｄ）に示される「一体化摸画像」についての詳細を、それら態様（一体化摸画像ＩＧａ～ＩＧｄ）の別に説明する。

【１４５５】

まず、図１４４（ａ）に示される「一体化摸画像ＩＧａ」は、通常ボタン摸画像ＢＭＧａと、その周縁を装飾する通常周縁装飾画像ＳＳＧａとを有して構成されている。ただし、「一体化摸画像ＩＧａ」にあっては、通常ボタン摸画像ＢＭＧａが「操作機会の付与される対象である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸した画像」として表示されるものであるのに対し、通常周縁装飾画像ＳＳＧａは、「操作機会の付与される対

象である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）の周縁に実際に設けられる周縁装飾部（柄部５０１２、またはフレームユニット４１５）を摸しておらず、演出表示装置１６００での表示演出上における仮想的な装飾として通常ボタン摸画像ＢＭＧａの周縁を装飾するものとなっている。

【１４５６】

このような構成によれば、まず、操作手段が複数設けられている場合であってもそれら操作手段のいずれに対して操作機会が付与されているかについては、操作対象となっている操作手段（の一部）を摸した通常ボタン摸画像ＢＭＧａを視認することによって容易に認識することが可能である。しかも、通常ボタン摸画像ＢＭＧａこれ自体が、実在する周縁装飾部ではなく、装飾性や演出性の向上を図る上で好ましい周縁装飾画像と一体化された豪華且つ大型の画像（一体化摸画像ＩＧａ）として表示されるようになることから、該通常ボタン摸画像ＢＭＧａが表示されたときの演出的インパクトが大きくなり、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。また、実在する周縁装飾部を豪華にするためのコストや設置スペースに悩むこともないし、実在する周縁装飾部の形状に捉われない自由度の高い演出性を実現することが可能とされるようになる。

【１４５７】

図１４４（ａ）に示される「一体化摸画像ＩＧａ」にあっては、通常周縁装飾画像ＳＳＧａは、ボタン（通常ボタン摸画像ＢＭＧａ）設置用の台座として表現されており、その上面には、危険度の高いボタンであることを警告するような所定装飾が施されたものとなっている。上述の通り、これらの「台座」や「所定装飾」は、実在する周縁装飾部とは異なる形状であり且つ異なる装飾として表現されるものとなっている。

【１４５８】

この点、この実施の形態にかかる「一体化摸画像ＩＧａ」では、このような通常周縁装飾画像ＳＳＧａに対し、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域を設けることとしている。図１４５などを参照して後述するが、ゲージ画像（所定画像）ＧＧは、該表示対象領域内での表示面積を時間経過に応じて減少させるように表示可能とされるものである。より具体的には、ゲージ画像（所定画像）ＧＧは、有効期間内で操作受付がなされないとき、予め定められた最大値の表示面積から、予め定められた最小値（「０」も含む）の表示面積になるまで時間経過に応じて減少するように表示される。すなわちこの場合、通常周縁装飾画像ＳＳＧａは、操作対象とされている操作手段を示唆する機能を担うことはもとより、操作受付が許容される状態（有効期間）が終了されるまでの残り時間を示唆する残り時間示唆機能をも担うこととなる。

【１４５９】

図１４４（ａ）に示される通常周縁装飾画像ＳＳＧａにおいては、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域を、当該通常周縁装飾画像ＳＳＧａ内の他領域と区画する区画画像ＫＧが設けられている。この区画画像ＫＧに囲まれた領域が「ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域」として機能することとなる。ただし、該区画画像ＫＧについては必ずしも表示しなくてもよく、通常周縁装飾画像ＳＳＧａ内の所定範囲を「ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域」とするようにしてもよい。

【１４６０】

また、図１４４（ａ）に示される例では、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内には所定装飾（ここでは「白と黒の縞々模様」）が施されるようになっており、該所定装飾が施された表示対象領域に対して、所定の透過率を有したゲージ画像（ここでは、「灰色」のゲージ画像）ＧＧが重なるかたちで表示されている。このような構成によれば、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示される部分においても所定装飾が非表示とされず視認可能とされるようになることから、ゲージ画像ＧＧが満タンの状態から空の状態になるまでの全期間にわたって遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【１４６１】

なお、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内におけるこのような表示態様を実現する場合、所定装飾が施された表示対象領域に対して、所定の透過率を有したゲージ画

像ＧＧを重ねて表示する手法のほか、所定装飾が施された表示対象領域これ自体の色をゲージがある部分とゲージがない部分とで変化させて表示する手法を採用するようにしてもよい。この場合、ゲージ画像ＧＧこれ自体は画像データとして単体で存在することはなく、表示対象領域内における所定装飾の色変化だけでゲージ画像ＧＧを表現することができるようになる。

【１４６２】

また、図１４４（ａ）に示される例では、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内に施されている所定装飾（ここでは「白と黒の縞々模様」）を、当該通常周縁装飾画像ＳＳＧａ内の他領域にも跨るかたちで施されるものとするようにしていることから、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域これ自体の一体化装飾性をより一層高めることができるようになり、「一体化摸画像ＩＧａ」が表示されたときの遊技興趣の向上が図られることがより好適に期待される。

【１４６３】

また、図１４４（ａ）に示されるように、演出表示装置１６００において「一体化摸画像ＩＧａ」が表示される特定の操作受付演出（有効期間）が発生したときには、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を、「一体化摸画像ＩＧａ」内の通常ボタン摸画像ＢＭＧａと同じ色（例えば「青色」）で発光させるようにしている。すなわち後述するが、ボタン摸画像ＢＭＧには、期待度の異なる複数態様が用意されており、それら態様の１つとして通常ボタン摸画像ＢＭＧａが表示されている状態にあるが、このような発光態様を採用すれば、該通常ボタン摸画像ＢＭＧａを視認せずとも、操作対象である柄ボタン５０１４を確認するだけでボタン摸画像ＢＭＧとしての態様（期待度）を認識することができるようになる。

【１４６４】

「ボタン摸画像ＢＭＧａ（図１４４（ａ））」については、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を必ずしも正確に摸したものでなくてもよく、要は、操作対象がいずれの操作手段であるのかを認識できる程度の模写レベル（デフォルメなど）をもって表示されるものであればよい。

【１４６５】

これに対し、図１４４（ｂ）に示される「一体化摸画像ＩＧｂ」も、基本的には、上述した「一体化摸画像ＩＧａ」と同じであり、操作対象を摸したボタン摸画像ＢＭＧと、その周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧとが一体化された画像として構成されている。ただし、該「一体化摸画像ＩＧｂ」では、周縁装飾画像ＳＳＧについては、上述した「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」と同じものとして表示されるが、ボタン摸画像ＢＭＧについては、上述した「ボタン摸画像ＢＭＧａ」ではなくこれとは異なる形状を持った「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」として表示されるものとなっている。

【１４６６】

より具体的には、図１４４（ｂ）に示される「一体化摸画像ＩＧｂ」にあっては、特別ボタン摸画像ＢＭＧｂが、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸しておらず、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸した「ボタン摸画像ＢＭＧａ（図１４４（ａ））」とは異なる形状を持った画像として表示されるものとなっている。ただし、このような表示手法を単純に採用した場合、「一体化摸画像ＩＧｂ」が表示されたときに、複数の操作手段のいずれが操作対象になっているかを認識し難くなる懸念がある。

【１４６７】

ただし上述の通り、「一体化摸画像ＩＧａ」では、操作対象である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸した「ボタン摸画像ＢＭＧａ」が「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」と一体化して表示されるものとなっていることから、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」これ自体も柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）が操作対象であることを示唆する機能を自ずと持つようになる。この点、「一体化摸画像ＩＧｂ」では、「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」を、このような「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」と一体化させて表示

するようにしていることから、「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」が操作対象を適正に摸していないとしても、当該「一体化摸画像ＩＧｂ」全体としては、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）が操作対象になっていることを示唆することができるようになる。このような作用効果（通常周縁装飾画像ＳＳＧａによる操作対象の示唆機能）を好適に得る上では、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」については、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）とは異なる操作手段（柄部５０１２など）が操作対象になっているときには表示されないようにすることが重要であると言える。

【１４６８】

このような構成によれば、操作受け部を摸したボタン摸画像ＢＭＧと、その周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧとを一体化させた一体化摸画像として表示するようにしたことで、該一体化摸画像の一部でしかないボタン摸画像ＢＭＧを、操作対象とされる操作手段の形状に必ずしも捉われないより自由度の高い表現方法で表示することができるようになり、より際立った演出性・装飾性によって遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１４６９】

なお、図１４４（ｂ）に例示した「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」では、流線形のある形状を持ったボタンとして「ボタン摸画像ＢＭＧａ」よりもスタイリッシュなデザインで描写されており、且つその頂部に「ＤＡＮＧＥＲ」といった文言が施されるものとなっている。このようなパチンコ機１の部品として実在しない「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」が現れることで、遊技者に対してプレミアム感を覚えやすくすることができるようになり、「ボタン摸画像ＢＭＧａ」が現れたときよりも期待度が高いことを本能的に感じ取らせることが期待されるようになる。

【１４７０】

また、図１４４（ｂ）に示されるように、演出表示装置１６００において「一体化摸画像ＩＧｂ」が表示される特定の操作受付演出（有効期間）が発生したときにも、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を、「一体化摸画像ＩＧｂ」内の特別ボタン摸画像ＢＭＧｂと同じ色（例えば「赤色」）で発光させるようにしている。すなわち、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）では、「一体化摸画像ＩＧ」内のボタン摸画像ＢＭＧの種別に応じた態様で発光可能とされており、これによってボタン摸画像ＢＭＧを視認せずとも、操作対象である柄ボタン５０１４を確認するだけでボタン摸画像ＢＭＧとしての態様（期待度）を認識することができるようになる。

【１４７１】

一方、図１４４（ｃ）に示される「一体化摸画像ＩＧｃ」も、基本的には、上述した「一体化摸画像ＩＧａ」と同じであり、操作対象を摸したボタン摸画像ＢＭＧと、その周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧとが一体化された画像として構成されている。ただし、該「一体化摸画像ＩＧｃ」では、ボタン摸画像ＢＭＧについては、上述した「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」と同じものとして表示されるが、周縁装飾画像ＳＳＧについては、上述した「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」ではなくこれとは異なる形状を持った「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」として表示されるものとなっている。

【１４７２】

ただし、「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」も、以下の各点においては「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」と同様である。

・「操作機会の付与される対象である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）の周縁に実際に設けられる周縁装飾部（柄部５０１２、またはフレームユニット４１５）を摸しておらず、演出表示装置１６００での表示演出上における仮想的な装飾としてボタン摸画像ＢＭＧの周縁を装飾する。

・ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域が設けられている。

【１４７３】

このような「一体化摸画像ＩＧｃ（図１４４（ｃ））」によれば、「一体化摸画像ＩＧ

ａ（図１４４（ａ））」を基準としたときに、いずれの操作手段に対して操作機会が付与されるかを示唆する「ボタン摸画像ＢＭＧ」に形状変化を生じさせることなく、当該「一体化摸画像ＩＧｃ（図１４４（ｃ））」これ全体としての形状を大きく変化させることができるようになる。これにより、操作対象の示唆機能を犠牲にすることなく、形状変化を生じさせることによる自由度の高い装飾性・演出性を実現することができるようになる。

【１４７４】

また、この実施の形態にかかる「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ（図１４４（ｃ））」では、その少なくとも一部が「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ（図１４４（ａ））」と同じ装飾をもった画像として表示されるものとなっている。したがって、「一体化摸画像ＩＧａ（図１４４（ａ））」が現れた場合と、「一体化摸画像ＩＧｃ（図１４４（ｃ））」が現れた場合とで、同じ操作後演出を対象とした特定の操作受付演出（有効期間）であることを示唆することができるようになる。

【１４７５】

特に、この実施の形態にかかる「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ（図１４４（ｃ））」では、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ（図１４４（ａ））」に対して特別装飾を持った別部材が付加され、拡張されるかたちでその全体が大型化された画像として表示されるものとなっている。したがって、「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」が、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」の発展型として表示されたものであることを認識し易くなり、「ボタン摸画像ＢＭＧａ」が現れたときよりも期待度が高いことを本能的に感じ取らせることが期待されるようになる。

【１４７６】

また、「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ（図１４４（ｃ））」では、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ（図１４４（ａ））」と異なる形状・装飾を有するものであるが、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域これ自体には何らの変化も生じさせないようにしている。

【１４７７】

すなわち、このような一体化摸画像ＩＧの一部分をゲージ画像ＧＧの表示対象領域として用いるようにした場合、該表示対象領域やゲージ画像が「単なる装飾の一部」でしかないのか、それとも「残り時間を示唆する機能を有した部分」であるのか、を遊技者側が見分けることは困難である。この点、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ（図１４４（ａ））」と「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ（図１４４（ｃ））」とでは、「残り時間を示唆する」といった重要な機能を担ったゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域についてはこれを形状変更させず、それ以外の部分に形状変更を生じさせるようにしたことから、残り時間の示唆機能を犠牲にすることなく、形状変化を生じさせることによる自由度の高い装飾性・演出性を実現することができるようになる。

【１４７８】

また、図１４４（ｃ）に示されるように、演出表示装置１６００において「一体化摸画像ＩＧｃ」が表示される特定の操作受付演出（有効期間）が発生したときにも、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を、「一体化摸画像ＩＧｃ」内の通常ボタン摸画像ＢＭＧａと同じ色（例えば「青色」）で発光させるようにしている。すなわち、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）では、「一体化摸画像ＩＧ」内のボタン摸画像ＢＭＧの種別に応じた態様で発光可能とされており、これによってボタン摸画像ＢＭＧを視認せずとも、操作対象である柄ボタン５０１４を確認するだけでボタン摸画像ＢＭＧとしての態様（期待度）を認識することができるようになる。ただし、「一体化摸画像ＩＧｃ」が表示されたときの通常ボタン摸画像ＢＭＧａについては、「一体化摸画像ＩＧａ」が表示されたときとは異なる色（例えば、「緑色」）で表示するようにしてもよい。この場合、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）も緑色で発光することとなる。

【１４７９】

一方、図１４４（ｄ）に示される「一体化摸画像ＩＧｄ」も、基本的には、上述した「一体化摸画像ＩＧａ」と同じであり、操作対象を摸したボタン摸画像ＢＭＧと、その周縁

を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧとが一体化された画像として構成されている。ただし、該「一体化摸画像ＩＧｄ」では、ボタン摸画像ＢＭＧについては、上述した「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」ではなく、これとは異なる形状を持った「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」として表示されており、周縁装飾画像ＳＳＧについても、上述した「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」ではなくこれとは異なる形状を持った「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」として表示されるものとなっている。

【１４８０】

すなわち、「一体化摸画像ＩＧｄ（図１４４（ｄ））」では、「一体化摸画像ＩＧｂ（図１４４（ｂ））」で用いられる「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」と、「一体化摸画像ＩＧｃ（図１４４（ｃ））」で用いられる「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」とが一体化された画像として表示されるものとなっている。このような構成によれば、「一体化摸画像ＩＧｂ（図１４４（ｂ））」に関して上述した「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」によって奏される作用効果と、「一体化摸画像ＩＧｃ（図１４４（ｃ））」に関して上述した「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」によって奏される作用効果とがそれぞれ得られることはもとより、「一体化摸画像ＩＧａ（図１４４（ａ））」を基準としたときに、ボタン摸画像ＢＭＧと周縁装飾画像ＳＳＧとの両方の態様が変更されるようになることから、期待度が高いことを本能的に感じ取らせることが期待されるようになる。

【１４８１】

その一方で、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧを両方ともそれらの態様を変更するようにしつつも、周縁装飾画像ＳＳＧにおける一部領域では同じ装飾や形状が現れるようになっていることから、「一体化摸画像ＩＧａ（図１４４（ａ））」が現れた場合と、「一体化摸画像ＩＧｄ（図１４４（ｄ））」が現れた場合とで、同じ操作後演出を対象とした特定の操作受付演出（有効期間）であることを示唆することができるようになる。

【１４８２】

また、図１４４（ｄ）に示されるように、演出表示装置１６００において「一体化摸画像ＩＧｄ」が表示される特定の操作受付演出（有効期間）が発生したときにも、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を、「一体化摸画像ＩＧｄ」内の特別ボタン摸画像ＢＭＧｂと同じ色（例えば「赤色」）で発光させるようにしている。すなわち、操作対象とされる柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）では、「一体化摸画像ＩＧ」内のボタン摸画像ＢＭＧの種別に応じた態様で発光可能とされており、これによってボタン摸画像ＢＭＧを視認せずとも、操作対象である柄ボタン５０１４を確認するだけでボタン摸画像ＢＭＧとしての態様（期待度）を認識することができるようになる。ただし、「一体化摸画像ＩＧｄ」が表示されたときの特別ボタン摸画像ＢＭＧｂについては、「一体化摸画像ＩＧｂ」が表示されたときとは異なる色（例えば、「レインボー色」）で表示するようにしてもよい。この場合、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）もレインボー色で発光することとなる。

【１４８３】

図１４４（ａ）～（ｄ）に示したように、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、所定の変動パターンに基づく図柄演出が所定タイミングまで進展して所定の操作受付演出（有効期間）が発生する場合、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧが一体化された一体化摸画像ＩＧを表示するものであるが、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧの一方側が一の態様で表示されるときに他方側は複数態様のいずれかで表示されうるようにしている。例えば、ボタン摸画像ＢＭＧが「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」として表示されるときに、周縁装飾画像ＳＳＧは、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」及び「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」のいずれかで表示されうる（図１４４（ａ），（ｃ））。また、ボタン摸画像ＢＭＧが「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」として表示されるときに、周縁装飾画像ＳＳＧは、「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」及び「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」のいずれかで表示されうる（図１４４（ｂ），（ｄ））。また、周縁装飾画像ＳＳＧが「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」として表示されるときに、ボタン摸画像ＢＭＧは、「通常ボタン摸画像Ｂ

ＭＧａ」及び「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」のいずれかで表示されうる（図１４４（ａ），（ｂ））。また、周縁装飾画像ＳＳＧが「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」として表示されるときに、ボタン摸画像ＢＭＧは、「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」及び「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」のいずれかで表示されうる（図１４４（ａ），（ｂ））。

【１４８４】

このような構成によれば、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧは一体化されて表示されるものであるにもかかわらず、態様が変化するときにはその片側のみとされるようになる。したがって、態様が変化していない一方側を見れば、他方側がいずれの態様で表示されていたとしても、所定の操作受付演出（有効期間）が発生している状態にあることを容易に認識可能であるし、態様が変化している他方側を見ることで期待度についても好適に認識することができるようになる。なお、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧの一方側は態様が変化されず、他方側のみ態様が変化されうるようにしてもよい。

【１４８５】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧにあって、周縁装飾画像ＳＳＧには、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域が含まれている。そして、操作受付演出（有効期間）において一体化摸画像ＩＧが表示される場合、ゲージ画像（所定画像）ＧＧは、その表示対象領域内での表示面積を時間経過に応じて減少させるように表示可能とされている。すなわちこの場合、「周縁装飾画像ＳＳＧ」は、操作受付が許容される状態が終了されるまでの残り時間を示唆する残り時間示唆機能を担うこととなり、操作対象がいずれの操作手段であるのかを示唆する機能を担う「ボタン摸画像ＢＭＧ」と一体化された一体化摸画像ＩＧとして表示されることで、残り時間や操作対象を把握しつつさらには複数態様のいずれが現れたかを認識することができるようになるなど、操作受付演出（有効期間）が発生しているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１４８６】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧにあって、周縁装飾画像ＳＳＧには、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域と、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの非表示領域とが含まれている（残り時間示唆機能を有する部分と、残り時間示唆機能を有しない部分との両方がある）。すなわち、周縁装飾画像ＳＳＧは、操作受付演出（有効期間）の残り時間を示唆することのみを目的としたものではなく、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示されない部分では「ボタン摸画像ＢＭＧの装飾性を高めること」を目的とした表示態様を積極的に採用することが可能であることから、残り時間を示唆するようにしつつも、重要演出である操作受付演出が発生したときの演出性を著しく向上させることができるようになる。このような作用効果を得る上では、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域よりも、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの非表示領域のほうが大きな領域として表示されるようにすることがより望ましいと言える。

【１４８７】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、周縁装飾画像ＳＳＧが一の態様で表示されるときにボタン摸画像ＢＭＧが複数態様のいずれかで表示されうるようにしたが、実体としても、周縁装飾部である「柄部５０１２」が一の態様であるときに、操作受け部である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）が複数態様（複数の発光色）のいずれかに変化するようにしている。したがって、ボタン摸画像ＢＭＧが変化したときには、その模写対象である柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を確認するだけでもそれを確認することができるようになる。

【１４８８】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、ボタン摸画像ＢＭＧが一の態様で表示されるときに周縁装飾画像ＳＳＧが複数態様のいずれかで表示されうるようにしたが、実体としては、周縁装飾部である「柄部５０１２」が複数態様のいずれかに変化することはないようになっている。すなわち上述の通り、周縁装飾画像ＳＳＧは、パチンコ機１の部品として実在しない仮想的な装飾としてボタン摸画像ＢＭＧの周縁を装飾

するものとなっている。したがって、周縁装飾画像ＳＳＧは、周縁装飾部である「柄部５０１２」の態様に合わせる必要がなく、演出を盛り上げる上で好ましい多彩な描写を行うことができるようになる。なお、周縁装飾部である「柄部５０１２」については、非発光とされるなど、複数の態様にそもそも変化し得ないものとして設けられるものであってもよい。

【１４８９】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、ボタン摸画像ＢＭＧと周縁装飾画像ＳＳＧとの両方の態様が変化する場合（図１４４（ｄ））もあるようにしているが、実体としては、周縁装飾部である「柄部５０１２」が一の態様であるときにボタン摸画像ＢＭＧと周縁装飾画像ＳＳＧとの両方の態様が変化するようにすることが望ましい。

【１４９０】

周縁装飾画像ＳＳＧが「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」である場合と、周縁装飾画像ＳＳＧが「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」である場合とで、周縁装飾部である「柄部５０１２」において異なる態様が現れるようにしてもよい。ただし、周縁装飾画像ＳＳＧは「通常周縁装飾画像ＳＳＧａ」である場合と、周縁装飾画像ＳＳＧが「特別周縁装飾画像ＳＳＧｂ」である場合とで少なくとも形状が変化しているのに対し、周縁装飾部である「柄部５０１２」においては形状変化を伴わない態様変化（例えば、発光態様の変化など）を生じさせるに留まらせるようにすることが望ましい。周縁装飾部についてはそもそも形状変化が不可能なものとして設けるようにすることが、周縁装飾画像ＳＳＧによる仮想的な演出機能を際立たせる上で望ましいと言える。

【１４９１】

また後述するが、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、摸画像としては、柄ボタン５０１４（または、操作ボタン４１０）を摸したボタン摸画像ＢＭＧのほか、柄部５０１２を摸した柄摸画像ＴＭＧを用意しており、それら摸画像のいずれが表示されるかに応じて周縁装飾画像ＳＳＧとしての形態を異ならせるようにしている。すなわちこの場合、ボタン摸画像ＢＭＧの周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧａ，ｂについては、ボタン摸画像ＢＭＧとは異なる摸画像が表示されるときには表示され得ないものとなっていることから、該周縁装飾画像ＳＳＧａ，ｂこれ自体にも「操作対象がいずれの操作手段であるのかを示唆する機能」を期待することができるようになる。

【１４９２】

なお、摸画像の形態（ボタン摸画像ＢＭＧ，柄摸画像ＴＭＧ）に応じて周縁装飾画像ＳＳＧとしての形態が異なる場合、周縁装飾画像に含まれるゲージ画像（所定画像）ＧＧとしての形態（太さ、長さ）も異ならせるようにすることが望ましい。ボタン摸画像ＢＭＧが表示される操作受付演出と、柄摸画像ＴＭＧが表示される操作受付演出とは、同じ変動パターン内の同じタイミングで発生する演出（演出判定に応じていずれが発生するか選択されるもの）であってもよいし、異なる変動パターンや異なるタイミングで発生する演出であってもよい。ボタン摸画像ＢＭＧであるときに現れる周縁装飾画像ＳＳＧは、周縁装飾部を摸したものではなく、且つ柄摸画像ＴＭＧであるときに現れる周縁装飾画像ＳＳＧは、周縁装飾部を摸したものであってもよい。ただし、ゲージ画像（所定画像）ＧＧとしての形態（太さ、長さ）が異なっていても、操作受付演出（有効期間）としての設定時間は同じ場合もあるようにすることが望ましい。

【１４９３】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧにあって、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域と、周縁装飾画像ＳＳＧ内における他領域とには、それら領域に跨る所定装飾（ここでは「縞々模様」）が施されており、ゲージ画像（所定画像）ＧＧは、該所定装飾に重なるかたちで表示されるようにしている。すなわちこの場合、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が減少していくにつれて、露わにされた所定装飾の表示面積が拡大していくようになることから、遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【１４９４】
特に、この実施の形態では、所定装飾が施された表示対象領域に対して、所定の透過率を有したゲージ画像（ここでは、「灰色」のゲージ画像）ＧＧを重ねるかたちで表示するようにしている。このような構成によれば、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示される部分においても所定装飾が非表示とされず視認可能とされるようになることから、ゲージ画像ＧＧが満タンの状態から空の状態になるまでの全期間にわたって遊技興趣を好適に維持することができるようになる。
【１４９５】
ただし、該所定装飾については、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域において必ずしも表示するようにしなくてもよい。また、ゲージ画像（所定画像）ＧＧこれ自体が所定装飾を有する（兼ねる）ものであってもよく、この場合、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が減少していくにつれて所定装飾の表示面積も減少するようになることから、所定装飾が減少することを嫌う遊技者に対して早期に操作を行うことが促されるようになる。
【１４９６】
また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧにあっては、周縁装飾画像ＳＳＧが、操作対象とされる操作受け部（柄ボタン５０１４、または操作ボタン４１０）の周縁に設けられる周縁装飾部（柄部５０１２、またはフレームユニット４１５）を摸しておらず、遊技機部品としての実体のない物体を表現した画像となっている。したがって、遊技機部品としての実体に捉われない、より自由度の高い装飾性・演出性を実現することができるようになる。
【１４９７】
また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、ボタン摸画像ＢＭＧと周縁装飾画像ＳＳＧとのうち、少なくとも周縁装飾画像ＳＳＧには複数形状があるようにしている。すなわちこの場合、ボタン摸画像ＢＭＧを形状変更させることなく、実体のない物体を表現した周縁装飾画像ＳＳＧのみを形状変更させることができるようになることから、複数の操作手段のいずれが操作対象になっているかを適正に示唆するようにしつつ、一体化摸画像ＩＧとしての形状を異ならせてより演出性・装飾性の高い表示を実現することができるようになる。
【１４９８】
周縁装飾画像ＳＳＧについては、ボタン摸画像ＢＭＧが一の態様にあるときに形状を必ずしも変化させず、色のみを変化させるようにしてもよい。ただし、形状変化が許容されるのは、周縁装飾画像ＳＳＧが実体のない物体を表現したものであることと、周縁装飾画像ＳＳＧが、ボタン摸画像ＢＭＧと一体化された画像として表示されるからこそであり、このような意味では周縁装飾画像ＳＳＧの形状を変化させることには大きな技術的価値があると言える。
【１４９９】
なお、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧにあって、周縁装飾画像ＳＳＧについては、その形態を大型化させるかたちで変更させることとした。後述するが、このような形態変更の手法としては、画像として表現している物体の数（飾りの数など）を増加させる手法や、輪郭形状（直方体、球体など）が異なる複数態様のいずれかで表示されるものや、画像として表現している所定物体のうち表示される対象範囲が広がったりする手法などを採用することが可能である。また、これも後述するが、周縁装飾画像ＳＳＧの形態変化については、前兆演出として、期待度の低い形態から期待度の高い形態へと段階的に変化させる演出を実行し、その後、最終的に変更された形態が維持されているもとで操作受付演出での操作受付が許容されるようにしてもよい。
【１５００】
また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、周縁装飾画像ＳＳＧがいずれの形態で表示される場合であっても、該周縁装飾画像ＳＳＧに含まれるゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域については変更（少なくとも形状は変更）させず同じ形

態として表示されるようにしている。したがって、周縁装飾画像ＳＳＧとしての形態に変化が生じたとしても、残り時間がどれだけ残っているかについての示唆機能についてはこれを好適に維持することが可能であり、こうして重要な機能についてはこれを保持しているもとで、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域とは異なる他領域での形状変化によって期待度をも示唆することができるようになる。

【１５０１】

上述した各作用効果のいずれを奏することを目的とするかによっては、周縁装飾画像ＳＳＧについては、実体のない物体を必ずしも表現するものでなくてもよく、操作受け部の周縁に設けられる周縁装飾部を摸した画像として表示されるものであってもよい。

【１５０２】

また、図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧは、所定の操作受付演出などの「操作受付が許容される有効期間」中においては動的表示されうるものとなっており、これによって遊技者に対して操作を促すようにしている。

【１５０３】

ただし、この実施の形態にかかる一体化摸画像ＩＧでは、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧが一体化されて表示されるものであるにもかかわらず、ボタン摸画像ＢＭＧ及び周縁装飾画像ＳＳＧの一方側のみが動的表示され、他方側は動かないように表示されるようにしている。このような構成によれば、一方側では動的な表現によって重要演出であるボタン演出が発生したときの演出性を向上させるのに寄与するようにしつつも、他方側がその場に留まるように表示されることによって一体化摸画像ＩＧを全体として見たときには移動表示されることがないため、視認性を好適に確保することができるようになる。

【１５０４】

図１４４（ａ）～（ｄ）に示した一体化摸画像ＩＧでは、操作機会が付与されている操作受け部がその可動範囲で変位する様子が描写されるようにボタン摸画像ＢＭＧを動的表示し、周縁装飾画像ＳＳＧについてはこれを動的表示しないようにしている。そして、動的表示されない側（周縁装飾画像ＳＳＧ）に、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域を設けることとし、一体化摸画像ＩＧが表示される場合、該ゲージ画像（所定画像）ＧＧは、その表示対象領域内での表示面積を時間経過に応じて減少させるように表示可能としている。

【１５０５】

このように、一体化摸画像ＩＧのうち好適な視認性を確保した側（動的表示されない側である周縁装飾画像ＳＳＧ）にゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域が含まれるようにすることで、重要演出である操作受付演出が発生したときの演出性についてはこれをボタン摸画像ＢＭＧによる動的表示によって向上させるようにしつつも、演出受付が許容される残り時間がどれだけあるのかを容易に認識させることができるようになる。

【１５０６】

また、一体化摸画像ＩＧのうち好適な視認性を確保した側（動的表示されない側である周縁装飾画像ＳＳＧ）には、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域のほか、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示されない領域も含まれるようになっている。すなわちこの場合、一体化摸画像ＩＧのうち好適な視認性を確保した側で期待度を示唆する演出を行うにあたり、該演出を、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示されない領域で行うようにすることで、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域に対して悪影響を及ぼすことがないようにすることができるようになる。

【１５０７】

周縁装飾画像ＳＳＧのうちゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域とは異なる領域や、周縁装飾画像ＳＳＧこれ自体の形状や、ボタン摸画像ＢＭＧに、期待度の異なる複数態様を持たせ、それら態様のいずれかを大当り判定（演出判定）の結果に基づいて表示させるようにしたが、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域や、ゲージ画像（所定画像）ＧＧこれ自体に期待度の異なる複数態様を持たせ、それら態様のいずれかを大当り判

定（演出判定）の結果に基づいて表示させるようにしてもよい。

【１５０８】

ところで、図１４４（ａ）～（ｄ）に示したように、ボタン摸画像ＢＭＧを、その周縁を装飾する周縁装飾画像ＳＳＧと一体化させた一体化摸画像ＩＧとして表示する場合であって、且つ周縁装飾画像ＳＳＧには、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域が含まれるようにした場合は、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが周縁装飾画像ＳＳＧ内の単なる装飾や模様でしかないのか、それとも残り時間を示唆する機能を有するものであるのかを把握し難くなることが懸念される。また、周縁装飾画像ＳＳＧに施されている装飾や模様と混在することによってゲージ画像（所定画像）ＧＧがどの位置まで減少しているのかを把握し難くなることによる遊技興趣の低下が懸念される。

【１５０９】

そこで、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御部１５１１）では、少なくともゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が減少されている状況（有効期間内）にあるときは、該ゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示されうる表示対象領域において、該ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された画像を表示可能としている。

【１５１０】

より具体的には、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」を、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内のうち該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部またはその近傍において表示する。そして、該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が減少するときの当該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部の変位に合わせて、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」の表示位置も同じように変位するように表示させることとしている。

【１５１１】

このような構成によれば、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」が予め定められた位置まで変位すると有効期間が終了するようになることから、ゲージ画像（所定画像）ＧＧこれ自体が単なる装飾なのか、残り時間を示唆するものなのかを認識できなかったとしても、該「特定画像」の位置を確認することで残り時間を認識することができるようになる。この意味では、このような「特定画像」を表示する場合は、ゲージ画像（所定画像）ＧＧについてはこれを必ずしも表示しなくてもよいと言える。

【１５１２】

図１４５は、操作受付が許容される有効期間が開始されてから終了されるまでの一体化摸画像ＩＧについての表示例を示す図である。

【１５１３】

図１４５に示されるように、いま、所定の変動パターン内において、操作受付が許容される有効期間（所定の操作受付演出）が開始されるタイミングＡ０が到来したとすると、演出表示装置１６００においては、一体化摸画像ＩＧや、「押せ！」、「下向き矢印」などの操作促進画像が表示される。

【１５１４】

この例では、一体化摸画像ＩＧとして、図１４４（ａ）に示した態様（一体化摸画像ＩＧａ）を表示することとしているが、演出判定の結果に基づいて図１４４（ｂ）～（ｄ）に示した態様のいずれかで表示するようにしてもよい。いずれの態様で一体化摸画像ＩＧが表示された場合であっても、当該有効期間内におけるゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示や、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」の表示は、時間経過に応じて以下に説明する態様での変化を生じさせることとなる。

【１５１５】

図１４５（ａ）に示されるように、まず、タイミングＡ０（有効期間の開始タイミング

）にあるときの一体化摸画像ＩＧでは、ゲージ画像（所定画像）ＧＧがその表示対象領域の全領域で表示されることとなる。このような満タンの態様でゲージ画像（所定画像）ＧＧが表示されることで、有効期間が開始されたばかりの状況にあることを認識することができるようになる。

【１５１６】

この点、図１４５（ａ）に示される例では、有効期間の開始タイミングであるタイミングＡ０においては、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」が、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内で表示されない。このような構成によれば、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」が表示されているか否かを確認するだけで、操作受付が許容されてから既に所定時間が経過している状況（残り股間が減少している状況）にあるのかを容易に把握することができるようになる。

【１５１７】

ただし、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」は、まず、タイミングＡ０（有効期間の開始タイミング）から所定時間（特定画像の全貌が出現し終えるまでに要する時間）が経過するまでの間は、「経過した時間に応じた分だけ表示面積が増加する」といった態様で、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域に表示されるものとなっている。

【１５１８】

例えば、タイミングＡ０（有効期間の開始タイミング）から少しの時間が経過したタイミングＡ１にあるときの一体化摸画像ＩＧでは、図１４５（ｂ）に示されるように、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」としての「特定画像ＴＧ」が、当該画像としての半分程度が視認可能とされるところまで出現しており、時間経過に応じて表示面積を増加させる段階にあることがわかる。

【１５１９】

時間が大きく経過したタイミングＡ２，Ａ３にあるときの一体化摸画像ＩＧでは、図１４５（ｃ），（ｄ）に示されるように、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」としての「特定画像ＴＧ」が、その全貌を既に出現し終えている状況にあり、表示面積を増加させることなくゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内を変位する状況にあることがわかる。

【１５２０】

すなわち上述の通り、「特定画像ＴＧ」は、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内のうち該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が減少されるときに変位する当該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部またはその近傍において表示されるものであり、且つゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部の変位に合わせて（続くかたちで）その表示位置を変位するように表示されるものとなっている。

【１５２１】

この実施の形態にかかる「特定画像ＴＧ」は、白抜きの四角スペースの中に星型のマークが施されている画像として、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部と繋がる位置に表示されるものとなっている。ただし、「特定画像ＴＧ」については、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部と繋がる位置にて別画像として表示されるものでなくてもよく、例えば、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部から所定長さにわたって同画像が徐々に薄くなっていく画像など、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部が一部変化された態様で表示されるものであってもよい。若しくは、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部、またはその近傍に現れるエフェクト画像として表示されるものであってもよい。

【１５２２】

いずれにせよ、「特定画像ＴＧ」については、表示面積が最小値（ここでは「０」）に

なることによって残り時間が無くなったことを示唆するゲージ画像（所定画像）ＧＧの一部として本来機能するものではないから、残り時間が無くなった時点（有効期間が終了した時点）においても少なくとも一部（全部であってもよい）は非表示とされず表示状態を維持することとなる。

【１５２３】

この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御部１５１１）では、図１４５（ｅ）に示されるように、有効期間の終了タイミングであるタイミングＡ４にあるときの一体化摸画像ＩＧにおいては、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が「０」になっており、「特定画像ＴＧ」の表示面積が半分程度残されるようになっている。そして、この状態になるまで操作の受け付けがなかったときには、該状態にて、操作受付が許容される期間が終了され、一体化摸画像ＩＧが非表示にされるようになる。

【１５２４】

ただし上述の通り、「特定画像ＴＧ」とは、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの一部として本来機能するものではない。したがって、有効期間の終了タイミングであるタイミングＡ４にあるときの一体化摸画像ＩＧにおいては、「特定画像ＴＧ」の表示面積が全て残されるように表示することが最も望ましいし、そのような構成とするようにしてもよい。

【１５２５】

しかしながら、有効期間の終了に合わせてゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示面積が丁度「０」になる表示を実現することは困難である。この点、この実施の形態にかかるパチンコ機１（周辺制御部１５１１）では、「特定画像ＴＧ」を、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの末端部の変位に合わせて（続くかたちで）その表示位置を変位するように表示させるようにしたことから、遊技者側から見たときに、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内で表示されている画像のうち、どこまでの画像がゲージ画像（所定画像）ＧＧであるのか曖昧にすることができるようになる。

【１５２６】

すなわち、「特定画像ＴＧ」は、有効期間が終了されるときに非表示とされずその大部分（半分以上、または全部）の表示面積が残されるものであるにもかかわらず、遊技者側から見ると、有効期間が終了されるときにその表示面積が最小値（ここでは非表示）とされるゲージ画像（所定画像）ＧＧの一部であるようにも見えるものとなっている。このような構成によれば、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが実際よりも長い画像であるように見せることが可能であるから、有効期間が実際よりも多く残っているように見せることができるようになり、操作受付演出が行われている間における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【１５２７】

またその一方で、操作受付演出の有効期間が終了するときには、「特定画像ＴＧ」の少なくとも一部が残されて終了されるようになっていることから、ゲージ画像（所定画像）ＧＧが非表示になってすぐに期間終了されないようなことがあったとしても、「特定画像ＴＧ」の表示面積が減少されるように表示することが可能であり、これによってゲージ画像（所定画像）ＧＧの非表示タイミングと、有効期間の終了タイミングとの間にズレが生じていることによる違和感を生じ難くすることができるようになる。すなわちこの場合、「特定画像ＴＧ」については、このような時間的なズレ分を吸収可能な緩衝部としての役割を期待することができるようになる。

【１５２８】

ところで、図１４５に示した例では、有効期間の開始タイミングであるタイミングＡ０において、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」を、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内で表示しないようにした。ただし、有効期間の開始タイミングであるタイミングＡ０において、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」を、ゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域内で表示するようにしてもよい。

【１５２９】
このような構成によれば、「ゲージ画像（所定画像）ＧＧとは異なる特定画像、または該ゲージ画像（所定画像）ＧＧの態様が一部変化された特定画像」を、ゲージ画像ＧＧの一部であるかのように積極的に見せることができるようになることから、見た目よりも長い時間が有効期間として設定されているかのように見えるようになり、有効期間が発生したときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【１５３０】
［構成１Ａ～構成４０Ａ、構成１Ｂ～構成７５Ｂ、及び構成１Ｃ～構成１３０Ｃの少なくとも１つを有する受付許容期間］
図１１８を例示して説明した通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、始動入賞（保留消化）に応じた大当り判定の結果に基づいて複数の変動パターンのいずれを実行するかについての変動パターン判定を実行可能としている。そして、該変動パターン判定が行われた結果として一の変動パターンが選択されると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、該選択された変動パターンに対応して用意されている複数の期待演出（予告演出など）のうちいずれの期待演出（予告演出など）を選択的に出現させるかについての演出判定（予告判定など）を実行可能としている。なお、この演出判定の結果によっては、上記選択された変動パターンに対応して用意されている複数の期待演出（予告演出など）の全てが順次実行されることとなる場合もありうるし、複数の期待演出（予告演出など）のいずれもが実行されないこととなる場合もありうる。
【１５３１】
そして上述の通り、こうした演出判定（変動パターン判定、予告判定など）が行われると、該演出判定の結果に応じた演出内容を上記演出表示装置１６００に表示させる制御を行うことで、大当り判定の結果に応じた装飾図柄による変動演出がその背景描写（背景予告）や可動体動作（役物演出）などにかかる期待演出（予告演出）とともに実行されることとなる。そしてこの結果、装飾図柄による変動演出が、その背景描写や可動体動作などにかかる期待演出とともに実行された結果、大当り図柄（特別の図柄組み合わせ）で停止表示されると、遊技者に対して特典としての大当り遊技や高確率遊技状態への移行が実行可能とされるようになる。
【１５３２】
このような構成では、上記装飾図柄による変動演出が「大当り判定の結果として大当りが得られているか否かを示す機能」をもった演出として供されることとなり、その背景描写や可動体動作などにかかる期待演出が「大当りが得られていることについての期待度、すなわち割合（０％や１００％を含む）を示唆する機能」をもった演出として供されることとなる。すなわち、遊技者は、これらの演出を通じて遊技を楽しむこととなる。
【１５３３】
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上記変動パターン判定が行われた結果としてＳＰリーチ（背景変更を伴うリーチ演出など）に発展する高期待変動パターン（ＳＰリーチ変動パターン）のうち特定の変動パターンが選択された場合は、演出判定（予告判定など）としていずれの結果が得られたとしても、該特定の変動パターンに基づく図柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展すると（所定条件が成立すると）、演出受付が許容される受付許容状態（有効期間）を発生可能としている。
【１５３４】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、上記変動パターン判定が行われた結果としてリーチ状態すら形成されない低期待変動パターン（非リーチ変動パターン）のうち所定の変動パターンが選択された場合であっても該所定の変動パターンに対応する演出判定（予告判定など）で特別結果が得られたときには、該所定の変動パターンに基づく図柄演出が所定タイミングまで進展すると（所定条件が成立すると）、演出受付が許容される受付許容状態（有効期間）を発生可能としている。ただし、所定の変動パターンが選択された場合は、演出判定で特別結果が得られなければ該所定の変動パターンに基づく図柄演出が所定タイミングまで進展されても受付許容状態（有効期間）は発生しな

い。また、所定の変動パターンで発生する受付許容状態（有効期間）は、特定の変動パターンに基づく図柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展したときに発生する受付許容状態（有効期間）とは異なる演出（受付後表示や受付後出力音など）として実行されるものである。

【１５３５】

このように、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、予め定められた条件が成立すると遊技者による動作（操作）の受付けが許容される受付許容状態を発生可能であり、該受付許容状態内において遊技者による動作（操作）が受付けされると、該発生した受付許容状態の種別に応じた受付後変化（表示変化や、受付出力音、演出発光など）を生じさせうるものとなっている。

【１５３６】

また、受付許容状態では、操作部に対する操作受付が許容される状態（受付許容期間）になるか、または該操作受付が許容されている状態（受付許容期間）にあるときにしか出現し得ない操作関連の表示態様が表示可能とされている。このような操作関連の表示態様としては、例えば、遊技者による動作（操作）の対象となる対象物（操作手段）が画像として表現された摸画像表示として表示されることが多いがこれには限られず、表示されると、遊技者に対して操作機会が必ず付与される画像表示であればよい。「操作関連表示（摸画像表示）」については、期待度が異なる複数態様（例えば、白、赤などの複数配色など）を有しており、それら複数態様のいずれかが選択的に表示されるようにしてもよい。

【１５３７】

さらに言えば、「操作関連の表示態様」とは、操作部に対する操作受付が許容される状態（受付許容期間）になるか、または該操作受付が許容されている状態（受付許容期間）にあるときにしか出現し得ないものであるから、少なくとも当該「操作関連の表示態様」が表示されると、受付許容状態が必ず発生するか、該表示された時点で許容状態にあるものであればよい。したがって、「操作関連の表示態様」が表示されているなかでこれが非表示になるよりも前に受付許容状態が終了される場合があるようにしてもよい。また、このような「操作関連の表示態様」として、複数種別の画像表示を用意することとし、受付許容状態においては、それら画像表示の両方が表示される場合があるようにしてもよい。

【１５３８】

また、受付許容状態では、遊技者による動作（操作）の受付けが許容される残り時間を示唆する残り時間表示が表示可能とされている。このような残り時間表示は、例えば、枠画像内に表示されるゲージ画像の表示面積を時間経過に応じて減少させる描写として実行されうるものである。枠画像及びゲージ画像の少なくとも一方の態様として、複数の態様（例えば、ゲージ画像の表示面積の減少速度や、期待度の示唆や、操作手段の種別を示唆など）を用意することとし、それら態様のいずれかで実行されるようにしてもよい。この場合、いずれの態様で実行されるかによって異なる期待度（大当り図柄が現れる割合）が示唆されるようにしてもよい。

【１５３９】

また、受付許容状態が発生する場合は、これよりも前に、遊技者に対して動作機会が付与されることを示唆する（受付許容状態が発生することを示唆する）前演出（前兆演出）が実行可能とされている。前演出とは、例えば、演出表示装置１６００における演出表示やこれに対応する演出音の出力などによって実行されるものである。

【１５４０】

なお、予告演出判定としていずれの結果が得られたとしてもＳＰリーチ中における予め定められたタイミングになると受付許容状態（有効期間）を発生させる変動パターンについては、上記「特定の変動パターン」以外にも備えるようにしてもよい。また、予告演出判定としていずれの結果が得られたとしてもＳＰリーチになるよりも前の予め定められたタイミングになると受付許容状態（有効期間）を発生させる変動パターンを備えるようにしてもよい。

【１５４１】

また、上述した各例や後述の各例も含めて、検出対象となる「遊技者による操作（動作）」とは、「操作ボタン４１０」や「刀装飾体５００１」などのような、遊技者によって直接操作（押下動作や抜刀動作）されるものに限られず、タッチセンサでの検出対象となる「特定部位に対する遊技者による接触動作」や、非接触センサでの検出対象となる「特定空間内における遊技者による動作」なども含む意味である。「操作手段」としては、要は、遊技者による動作（押下動作や、抜刀動作、タッチ動作、非接触動作など）を受付対象とする１または複数の受付手段（操作部）を備えるものであればよい。

【１５４２】

ところで、この実施の形態にかかる受付許容状態（有効期間）としては、受付後表示や受付後出力音などの種別、出力の有無が異なっていたり、ＢＧＭの可聴出力状況が異なっていたり、当該受付許容状態（有効期間）内で操作受付が許容される回数が異なっていたり、オート連打機能や自動ボタン機能が有効化されるか否かが異なっていたりするなどの、様々なタイプの受付許容状態（有効期間）が用意されている。

【１５４３】

この点、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、複数の受付許容状態の間で、以下のような特殊な演出性を持たせることで、受付許容状態が発生したときの演出性を高めるようにしたり、受付許容状態が発生したときの緊張感を好適に維持するようにしたりすることとしている。なお、以下に説明する各演出性（各構成）については、それら構成の全てを必ずしも備えなくてもよく、例えば、いずれか１つの演出性（任意の構成）を備えるだけであっても遊技興趣の低下を抑制することは可能であるし、若しくは、さらなる作用効果を得る上で必要と思われるいくつかの構成を選択的に備えるようにしてもよいし、若しくは別構成に対して適用可能（適用が望ましい）として記載されている構成を適宜に採用するようにしてもよい。さらに言えば、以下に説明する各演出性（構成）については、例示に過ぎず、受付許容状態に関連した遊技興趣の低下を抑制可能な何らかの１つの構成を備えるものであればよい。

【１５４４】

［構成１－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。また、上記特定操作手段に対する操作を促すメッセージ表示を表示可能なものとなっている。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態では、上記メッセージ表示が表示される場合と上記メッセージ表示が表示されない場合との両方があるようにしている。また、このような複数回操作有効状態のうち、上記メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるようにしたから、メッセージ表示が表示されているときには特定操作手段に対する操作を維持するべきかについての緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成１－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成１－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５４５】

そしてこの場合、後述するが、上記複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検

出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化されることがなく、該検出を契機とせずに変化する（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、メッセージ表示が表示されるか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５４６】

また、後述するが、この場合は、特に、上記複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされる場合と該検出を契機とせずになされる場合（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される場合）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されたときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５４７】

なお、「複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されたとき、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果を好適に奏するようにする上では、メッセージ表示として一の態様が現れているときに、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じる場合と、操作後出力音に変化が生じない場合との両方があるようにすることが望ましい。ただし、当該構成は必ずしも採用しなくてもよく、例えば、メッセージ表示の大きさが異なっていたり、色が異なっていたり、表示態様が異なっていたりするなど、メッセージ表示として異なる態様が現れるときに、その態様に応じて、操作後出力音に変化が生じる場合と、操作後出力音に変化が生じない場合とがあるようにしたとしても、メッセージ表示これ自体が全く表示されない場合と比較すれば、遊技者に対して「操作後出力音に変化が生じるか否か」をある程度のレベルでは認識し難くさせることは期待できる。ただし、複数回の操作を促すメッセージ表示については、１回の操作しか受付けされない操作有効状態では出現し得ない態様として表示されるようにすることが望ましい（必須構成ではない）。

【１５４８】

［構成２－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始される状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操

作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態には、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態と、前記特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態とがあるようにしている。そしてこの上で、該複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるようにしたから、上記特定操作手段の操作状態を維持するべきかについての緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成２－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成２－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５４９】

そしてこの場合、後述するが、上記複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、前記特定操作手段が前記操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機として変化されることがなく、該検出を契機とせずに変化する（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５５０】

また、後述するが、この場合は、特に、上記複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされる場合と該検出を契機とせずになされる場合（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される場合）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されたときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５５１】
なお、当該構成２－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、複数回操作有効状態において、複数回操作が許容されている操作手段を摸した摸画像表示が表示されている場合は、該摸画像表示に対応する操作手段を操作した状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化される種別の複数回操作有効状態と、該摸画像表示に対応する操作手段を操作した状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化されない種別の複数回操作有効状態とで、「操作後出力音に変化が生じるか否か」にかかる構成を採用するようにしてもよい。
【１５５２】
［構成３－Ａ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、上記特定操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにしている。そしてこの上で、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるようにしたから、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３－Ａにかかる「特定操作手段」や「所定時間」は、当該構成３－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や「所定時間」と同じ操作手段や時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や時間と同じ「操作手段」や「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間よりも長い時間」としては、１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。
【１５５３】
そしてこの場合、後述するが、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化されることがなく、該検出を契機とせずに変化する（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長さを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【１５５４】

また、後述するが、この場合は、特に、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされる場合と該検出を契機とせずになされる場合（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される場合）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的短いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的長いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５５５】

なお、当該構成３－Ａでは、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるときの操作手段と、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。すなわち、複数回操作有効状態において、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れているときも、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れているときも、その摸画像表示に対応する操作手段を操作対象として、「操作後出力音に変化が生じるか否か」にかかる構成を採用するようにしてもよい。

【１５５６】

また、当該構成３－Ａにおいては、上記「所定時間以下の時間」として、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間（例えば、「所定時間」）のみが用意されていてもよい。また、上記「所定時間よりも長い時間」についても同様、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間のみが用意されていてもよい。

【１５５７】

［構成４－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、上記操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、上記操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作手段として、第１操作手段及び第２操作手段が設けられている。そしてこの上で、上記複数回操作有効状態のうち、上記第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態において、該第１操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、該第１操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるようにしたから、第１操作手段を摸した摸画像表示が

表示されたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成４－Ａにかかる「第１操作手段」や「第２操作手段」は、当該構成４－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」や「第２操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５５８】

そしてこの場合、後述するが、上記複数回操作有効状態のうち、上記第２操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態において該第２操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第２操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音、該検出を契機として変化されることがなく、該検出を契機とせずに変化する（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、複数回操作が許容されている操作手段としての種別を通じて、操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５５９】

また、後述するが、この場合は、特に、複数回操作有効状態のうち、上記第２操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態において該第２操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第２操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、複数回操作有効状態のうち、上記第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態において該第１操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第１操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされる場合と該検出を契機とせずになされる場合（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される場合）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態において、第２操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第２操作手段を操作したときには、該第２操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、第１操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第１操作手段を操作したときには、該第１操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５６０】

［構成５－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作後変化の１つとして、操作後出力音が出力可能とされており、複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、特定操作手段が操作状態から操

作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化する場合と、該検出を契機としては変化しない場合との両方があるようにしたから、複数回操作有効状態にあるときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成５－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成５－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５６１】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意することとし、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされるが、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は不定の時間とされるものであり、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が一定の時間毎に新たに実行開始可能とされるものとするようにしてもよい。そしてこの上で、第１複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされうるようになっており、第２複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようになっており、第３複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、まず、特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆することができるようになる。この点、特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときにこれを契機として、操作後出力音に変化が生じる場合と、操作後出力音に変化が生じない場合との両方があるようにされるが、上記特定操作手段が操作状態に維持されたときの操作後出力音が一定の時間毎に出力されるか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５６２】

なお、当該構成５－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を

、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１５６３】

［構成６－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作後変化の１つとして、操作後出力音が出力可能とされており、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そしてこの上で、上記第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされるものであり、上記第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされないものであり、上記複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が上記操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化する場合と、該検出を契機としては変化しない場合との両方があるようにしたから、複数回操作有効状態にあるときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成６－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成６－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や複数回操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や複数回操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や複数回操作有効状態と同じ「操作手段」や「複数回操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１５６４】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意することとし、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされ、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされるものであり、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされ、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は必ず特定時間以下の時間とされるものであり、第１複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされうるようになっており、上記第２複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようになっており、第３複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出

力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、まず、特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆することができるようになる。この点、特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときにこれを契機として、操作後出力音に変化が生じる場合と、操作後出力音に変化が生じない場合との両方があるようにされるが、上記特定操作手段が操作状態に維持されたときに操作後出力音が出力されてから新たに出力されるまでの間隔が特定時間よりも長いか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１５６５】

なお、当該構成６－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。また、当該構成６－Ａにかかる「特定時間」は、当該構成６－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定時間」と同じ時間を意味するものであってもよいし、異なる時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の時間と同じ「時間」を意味するものであってもよい。また、当該構成６－Ａにかかる「特定時間よりも長い時間」は、複数用意されていてもよいし、１つのみ用意されていてもよい。これと同様、当該構成６－Ａにかかる「特定時間以下の時間」は、複数用意されていてもよいし、１つのみ用意されていてもよい。

【１５６６】

［構成７－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されている。そしてこの上で、このような複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるようにしたから、複数回操作有効状態にあるときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成７－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成７－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操

作手段」を意味するものであってもよい。
【１５６７】
そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化されることがなく、該検出を契機とせずに変化する（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されるか否かを通じて、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【１５６８】
また、後述するが、この場合は、特に、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされるようになっており、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態において上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、当該出力状態にある操作後出力音の終了は、該検出を契機としてなされる場合と該検出を契機とせずになされる（契機としてなされない）場合との両方があるようしてもよい。このような構成によれば、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【１５６９】
なお、当該構成７－Ａでは、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、複数回操作有効状態において、摸画像表示として表現されている「操作手段」を操作したときにこれを契機として当該操作有効状態が終了されうる種別であるか否かとして、この発明にかかる構成を特定付けるようにしてもよい。また、大当り判定などの結果によっては予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に終了されることがない複数回操作有効状態であったとしても、

大当り判定などの結果によっては予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に終了される場合もあるものであれば、当該複数回操作有効状態は、上述の「操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態」に相当するものである。

【１５７０】

［構成８－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、特定操作手段に対する操作を促すメッセージ表示を表示可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態では、メッセージ表示が表示される場合とメッセージ表示が表示されない場合との両方があるようにしている。そしてこの上で、複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態では、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が前記操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力されうるようにしたから、操作後出力音が出力状態にあり且つメッセージ表示が表示されているときには、上記特定操作手段に対する操作を終了したとしても、該非操作状態になってからどれだけの時間が経過したときに出力状態にある操作後出力音が終了されるのかを推測困難であることを示唆することができるようになる。なお、当該構成８－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成８－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５７１】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされるようにし、複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態では、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合と、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力される場合との両方があるようにしてもよい。

【１５７２】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において、操作後出力音が出力状態にあり且つメッセージ表示が表示されていない場合は、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆す

ることができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態において、操作後出力音が出力状態にあり且つメッセージ表示が表示されている場合は、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１５７３】

なお、このような作用効果を好適に奏するようにする上では、メッセージ表示として一の態様が現れているときに、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力される場合との両方があるようにすることが望ましい。ただし、当該構成は必ずしも採用しなくてもよく、例えば、メッセージ表示の大きさが異なっていたり、色が異なっていたり、表示態様が異なっていたりするなど、メッセージ表示として異なる態様が現れるときに、その態様に応じて、いずれかの音が出力されるようにしたとしても、メッセージ表示これ自体が全く表示されない場合と比較すれば、上述の作用効果をある一定のレベルでは奏されることを期待できる。ただし、複数回の操作を促すメッセージ表示については、１回の操作しか受付けされない操作有効状態では出現し得ない態様として表示されるようにすることが望ましい（必須構成ではない）。

【１５７４】

［構成９－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力されうるようにしたから、特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力可能とされているときには、上記特定操作手段に対する操作を終了したとしても、該非操作状態になってからどれだけの時間が経過したときに出力状態にある操作後出力音が終了されるのかを推測困難であることを示唆することができるようになる。なお、当該構成９－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成９－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５７５】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状

態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされるようにし、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」が出力される場合と、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である音（一定の時間でない音）」が出力される場合との両方があるようにしてもよい。

【１５７６】

このような構成によれば、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されたときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１５７７】

なお、当該構成９－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、複数回操作有効状態において、複数回操作が許容されている操作手段を摸した摸画像表示が表示されている場合は、該摸画像表示に対応する操作手段を操作した状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化される種別の複数回操作有効状態と、該摸画像表示に対応する操作手段を操作した状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化されない種別の複数回操作有効状態とで、当該構成９－Ａにかかる構成を採用するようにしてもよい。

【１５７８】

［構成１０－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、特定操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記摸画像表示は、複数回操作有効状態におい

て周期的変化が現れるように表示可能とされ、該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにしている。そしてこの上で、複数回操作有効状態のうち、上記摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力されうるようにしたから、摸画像表示の周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されているときには、上記特定操作手段に対する操作を終了したとしても、該非操作状態になってからどれだけの時間が経過したときに出力状態にある操作後出力音が終了されるのかを推測困難であることを示唆することができるようになる。なお、当該構成１０－Ａにかかる「特定操作手段」や「所定時間」は、当該構成１０－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や「所定時間」と同じ操作手段や時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や時間と同じ「操作手段」や「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間よりも長い時間」としては、１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１５７９】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、上記摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされるようにし、複数回操作有効状態のうち、上記摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合と、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である音（一定の時間でない音）」が出力される場合との両方があるようにしていもよい。

【１５８０】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的短いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的長いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時

間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１５８１】

なお、当該構成１０－Ａでは、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるときの操作手段と、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。すなわち、複数回操作有効状態において、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れているときも、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れているときも、その摸画像表示に対応する操作手段を操作対象として、当該構成１０－Ａにかかる構成を採用するようにしてもよい。

【１５８２】

また、当該構成１０－Ａにおいては、上記「所定時間以下の時間」として、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間（例えば、「所定時間」）のみが用意されていてもよい。また、上記「所定時間よりも長い時間」についても同様、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間のみが用意されていてもよい。

【１５８３】

［構成１１－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、上記操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、上記操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作手段として、第１操作手段及び第２操作手段が設けられている。そしてこの上で、上記複数回操作有効状態のうち、上記第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態では、上記第１操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力されうるようにしたから、複数回操作が許容される操作手段として上記第１操作手段を摸した摸画像表示が表示されているときには、該第１操作手段に対する操作を終了したとしても、該非操作状態になってからどれだけの時間が経過したときに出力状態にある操作後出力音が終了されるのかを推測困難であることを示唆することができるようになる。なお、当該構成１１－Ａにかかる「第１操作手段」や「第２操作手段」は、当該構成１１－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」や「第２操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５８４】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、上記第２操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態では、上記第２操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第２操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第２操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」のみが出力可能とされるようにし、上記第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態では、上記第１操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているな

かで上記第１操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音」が出力される場合と、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力される場合との両方があるようにしてもよい。

【１５８５】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において、第２操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第２操作手段を操作したときには、該第２操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記第２操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、第１操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第１操作手段を操作したときには、該第１操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記第１操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１５８６】

［構成１２－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、まず、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音」が出力される場合と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力される場合との両方があるようにしたから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。なお、当該構成１２－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成１２－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５８７】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、及び第２複数回操作有効状態を用意することとし、第１複数回操作有効状態では、上記特

定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は不定の時間とされるが、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力されうるようになっており、第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が予め定められた時間毎に発生可能とされるが、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力されうるようにしてもよい。

【１５８８】

このような構成によれば、複数回操作有効状態のうち、第２複数回操作有効状態では、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、第１複数回操作有効状態では、特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆することができるようになる。

【１５８９】

また、後述するが、この場合は、特に、第１複数回操作有効状態では、１つの有効期間でありながら、上記操作後出力音として、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」で出力される場合と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」で出力される場合との両方があるようにするようにしてもよい。

【１５９０】

このような構成によれば、複数回操作有効状態のうち、第１複数回操作有効状態では、、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１５９１】

なお、当該構成１２－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作

が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【１５９２】
［構成１３－Ａ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされうるようになっている。この点、複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」が出力される場合と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力される場合との両方があるようにしたから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。なお、当該構成１３－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成１３－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。
【１５９３】
そしてこの場合、後述するが、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態を用意することとし、該第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされ、且つ該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力されうるようにしてもよい。
【１５９４】
また、後述するが、上記複数回操作有効状態として、第２複数回操作有効状態を用意することとし、該第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音は複数回発生可能とされず、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に前記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力されうるようにしてもよい。
【１５９５】
また、後述するが、上記複数回操作有効状態として、第３複数回操作有効状態を用意することとし、該第３複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間以下の時間とされ、且つ該操作後出力音は「

当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力されうるようにしてもよい。

【１５９６】

なお、当該構成１３－Ａでは、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。また、当該構成１３－Ａにかかる「特定時間」は、当該構成１３－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定時間」と同じ時間を意味するものであってもよいし、異なる時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の時間と同じ「時間」を意味するものであってもよい。また、当該構成１３－Ａにかかる「特定時間よりも長い時間」は、複数用意されていてもよいし、１つのみ用意されていてもよい。これと同様、当該構成１３－Ａにかかる「特定時間以下の時間」は、複数用意されていてもよいし、１つのみ用意されていてもよい。

【１５９７】

［構成１４－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力されうるようにしたから、当該種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。なお、当該構成１４－Ａにかかる「特定操作手段」は、当該構成１４－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」と同じ操作手段を意味するものであってもよいし、異なる操作手段を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段と同じ「操作手段」を意味するものであってもよい。

【１５９８】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態にな

った場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力されるようにしてもよい。このような構成によれば、当該終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。

【１５９９】

また、後述するが、この場合は、特に、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」のみが出力可能とされるようにし、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」が出力される場合と、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力される場合との両方があるようにしてもよい。

【１６００】

このような構成によれば、上記終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてすぐの状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することが可能であるのに対し、上記終了される種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６０１】

なお、当該構成１４－Ａでは、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、複数回操作有効状態において、摸画像表示として表現されている「操作手段」を操作したときにこれを契機として当

該操作有効状態が終了されうる種別であるか否かとして、この発明にかかる構成を特定付けるようにしてもよい。また、大当り判定などの結果によっては予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に終了されることがない複数回操作有効状態であったとしても、大当り判定などの結果によっては予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に終了される場合もあるものであれば、当該複数回操作有効状態は、上述の「操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態」に相当するものである。

【１６０２】

［構成１５－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そしてこの上で、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされており、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないようにされうる。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態では、操作状態にある上記特定操作手段を非操作状態にしたとしても、それまで出力状態にあった操作後出力音にはこれを契機とした変化が生じないから、気軽な気持ちで操作の中断を行うようになることが期待されるものの、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音に変化が生じうるようにされているから、再操作するときには緊張感を好適に提供することが期待されうる。なお、当該構成１５－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成１５－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６０３】

そしてこの場合、後述するが、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下においては、上記操作後出力音として、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときにこれを契機としてその出力状態に変化を生じさせうる音とその出力状態に変化を生じさせない音とのいずれもが出力状態になっている場合があるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音として出力されている音の種別にかかわらずその出力状態はこれを契機として変化しないようにしてもよい。このような構成によれば、第１複数回操作有効状態では、操作状態にある上記特定操作手段を非操作状態にしたとしても、それまで出力状態にあった操作後出力音にはこれを契機とした変化が生じないから、気軽な気持ちで操作の中断を行うようになることが期待されるものの、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音に変化が生じる場合と、変化が生じない場合との両方があるようにされて

いるから、再操作することを促すようにしつつも、操作後出力音に変化が生じる可能性もあることによって再操作することに対する緊張感についてもこれを好適に提供することが期待されうる。

【１６０４】

また、後述するが、この場合には、特に、上記第２複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下においては、上記操作後出力音として、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときにこれを契機としてその出力状態に変化を生じさせない音が出力状態にあるが（出力状態に変化を生じさせうる音が上記操作後出力音として出力されていることはないが）、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合と変化されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２複数回操作有効状態では、操作状態にある上記特定操作手段を非操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音に変化が生じる場合と、変化が生じない場合との両方があるようにされているから、操作の中断を促すようにしつつも、操作後出力音に変化が生じる可能性もあることによって操作を中断することに対する緊張感が好適に提供されるようになる一方で、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音に変化が生じることがないようにされているから、気軽な気持ちで再操作を行うようになることが期待されうる。

【１６０５】

なお、当該構成１５－Ａでは、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６０６】

［構成１６－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、上記第１複数回操作有効状態は、上記操作手段のうち第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第１操作手段が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ該第１操作手段が操作されていない非操作状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるものとし、上記第２複数回操作有効状態は、上記操作手段のうち第２操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第２操作手段が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第２側操作後出力音が出力状態にあり且つ該第２操作手段が操作されていない非操作状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるものとした上で、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記第１操作手段が非操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記第１操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、上記第１側操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるが、上記第１操作手段が操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記第１側操作後出力音の出力状態はこれ

を契機として変化しないようにされうるようにしたから、非操作状態にある上記第１操作手段を操作状態にすることをより積極的に促すことができるようになる。なお、当該構成１６－Ａにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成１６－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」や「第２操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６０７】

そしてこの場合、後述するが、第１複数回操作有効状態のうち、第１操作手段が非操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音が出力状態にある状況下においては、上記第１側操作後出力音として、上記第１操作手段が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときにこれを契機としてその出力状態に変化を生じさせる音のみが出力されている場合があるが（出力状態にある音に変化を生じさせる処理が可能とされるが）、上記第１操作手段が操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記第１側操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しない（出力状態にある音に変化を生じさせる処理が可能とされない）ようにしてもよい。このような構成によれば、非操作状態にある上記第１操作手段を操作状態にすることをより積極的に促すことができるようになる。

【１６０８】

また、後述するが、この場合には、特に、第２複数回操作有効状態のうち、第２操作手段が非操作状態にあり且つ上記第２側操作後出力音が出力状態にある状況下においては、上記第２側操作後出力音として、上記第２操作手段が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときにこれを契機としてその出力状態に変化を生じさせない音のみが出力されているが（出力状態に変化を生じさせうる音が上記第２側操作後出力音とし出力されていることはない）、上記第２操作手段が操作状態にあり且つ上記第２側操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記第２側操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合と変化されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２複数回操作有効状態が発生している場合には、操作状態にある上記第２操作手段を非操作状態にすることをより積極的に促すようにしつつも、非操作状態を契機として変化を生じさせない音が出力されている可能性もあることから、緊張感についても好適に維持することが期待されうる。

【１６０９】

［構成１７－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後変化を実行可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作後変化の１つとして、操作後出力音が出力可能とされており、上記複数回操作有効状態として、それぞれ発生条件が異なる第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、上記第２複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうるものであるが、上記第１複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了される場合のないものであるようにした上で、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記特定

操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないようにされうるようにしたから、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にすることをより積極的に促すことができるようになる。なお、当該構成１７－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成１７－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６１０】

そしてこの場合、後述するが、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないようになっており、上記第２複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化することがないが、上記特定操作手段が上記操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合と変化されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、遊技者による操作を契機として終了されることがない「第１複数回操作有効状態」が発生している場合には、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にすることをより積極的に促すことができるようになる。また、遊技者による操作を契機として終了されうる「第２複数回操作有効状態」が発生している場合には、操作状態にある上記特定操作手段を非操作状態にすることをより積極的に促すようにしつつも、非操作状態を契機として変化を生じさせない音が出力されている可能性もあることから、緊張感についても好適に維持することが期待されうる。

【１６１１】

なお、当該構成１７－Ａでは、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６１２】

［構成１８－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そしてこの上で、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操

作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされており、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間である場合と一定の時間でない場合との両方があるようにしたから、特定操作手段に対する操作を終了したときの演出性が複雑化することとなり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成１８－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成１８－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６１３】

そしてこの場合、後述するが、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある操作後出力音の種別に応じて一定の場合と不定の場合とがあるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合、非操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるようにしてもよい。このような構成によれば、上記第１複数回操作有効状態では、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、特定操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６１４】

また、後述するが、この場合には、特に、上記第２複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある操作後出力音の種別に応じて一定の場合と不定の場合とがあるようにしてもよい。このような構成によれば、上記第２複数回操作有効状態では、特定操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を非操作状態から操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定

操作手段を非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６１５】

［構成１９－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、上記操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、上記摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、上記操作手段として、第１操作手段及び第２操作手段が設けられており、上記複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、上記第１複数回操作有効状態は、上記第１操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第１操作手段が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ該第１操作手段が操作されていない非操作状態にある状況を出現させるように遊技することが可能なものとされ、上記第２複数回操作有効状態は、上記第２操作手段を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第２操作手段が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第２側操作後出力音が出力状態にあり且つ該第２操作手段が操作されていない非操作状態にある状況を出現させるように遊技することが可能なものとされるようにした上で、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第１操作手段が非操作状態である状況下にあるなかで上記第１操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記第１側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間であるようにしたから、上記第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第１操作手段が非操作状態である状況下においては、上記第１操作手段をいずれのタイミングで操作すべきかについての演出性を付与することができるようになり、遊技興趣が好適に維持されることが期待されうる。なお、当該構成１９－Ａにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成１９－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」や、「第２操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６１６】

そしてこの場合、後述するが、第２複数回操作有効状態のうち、上記第２側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第２操作手段が非操作状態である状況下にあるなかで上記第２操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記第２側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（一定の時間として処理されずに）不定であるようにしてもよい。このような構成によれば、上記第２複数回操作有効状態では、第２操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記第２操作手段を非操作状態から操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。

【１６１７】

また、後述するが、この場合には、特に、上記第１複数回操作有効状態のうち、上記第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第１操作手段が非操作状態である状況下にあ

るなかで上記第１操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記第１側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるが、上記第１側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第１操作手段が操作状態である状況下にあるなかで上記第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記第１側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定である（一定の時間として処理されない）ようにしてもよい。このような構成によれば、上記第１複数回操作有効状態では、第１操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音は、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされ、例えば、上記第１操作手段を非操作状態から操作状態にして間もない状況下でも注目すべき演出性があることを好適に示唆するのに対し、第１操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音は、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測困難であること、例えば、上記第１操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。

【１６１８】

また、これも後述するが、上記第２複数回操作有効状態のうち、上記第２側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第２操作手段が非操作状態である状況下にあるなかで上記第２操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記第２側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるが、上記第２側操作後出力音が出力状態にあり且つ上記第２操作手段が操作状態である状況下にあるなかで上記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記第２側操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある第２側操作後出力音の種別に応じて一定の場合と不定の場合とがあるようにしてもよい。このような構成によれば、上記第２複数回操作有効状態では、第２操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音は、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測困難であること、例えば、上記第２操作手段を非操作状態から操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるのに対し、第２操作手段を操作状態から非操作状態にするときには、出力状態にある操作後出力音は、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記第２操作手段を非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６１９】

［構成２０－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意するとともに、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、上記第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は（一定の時間として処理されずに）不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後

出力音が複数回発生可能とされないようになっており、上記第３複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにした上で、複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、例えば、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには間もない状況下でも注目すべき演出性があることを好適に示唆することができるようになる。なお、当該構成２０－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」は、当該構成２０－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６２０】

そしてこの場合、後述するが、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されることがないのに対し、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第３複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されうるようにし、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されうるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合と、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される上記第３複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、上記操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化されうるようになっているから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態）にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるようにしたから、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であるのか」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【１６２１】

なお、当該構成２０－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、第３複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしても

よい。
【１６２２】
［構成２１－Ａ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、上記第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間として処理可能とされるようにした上で、複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、例えば、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには間もない状況下でも注目すべき演出性があることを好適に示唆することができるようになる。なお、当該構成２１－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成２１－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。
【１６２３】
そしてこの場合、後述するが、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されないようになっており、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第２複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合と変化されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されない第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないから、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされることとも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６２４】
なお、当該構成２１－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【１６２５】
［構成２２－Ａ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされている。そして、第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は不定の時間にされており、第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないようになっており、第３複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成２２－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」は、当該構成２２－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。
【１６２６】
そしてこの場合、後述するが、特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定である（一定の時間として処理されない）のに対し、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第３複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間でなく一定の時間として処理可能であり、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるようにしてもよい。このよ

うな構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合と、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される上記第３複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が一定であるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態）にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であるのか」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【１６２７】

なお、当該構成２２－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、第３複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６２８】

［構成２３－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は不定の時間にされており、第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成２３－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」は、当該構成２３－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６２９】

そしてこの場合、後述するが、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態

が終了されるまでの時間が不定であるようにし、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第２複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間である場合と一定の時間である場合とがあるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されない第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされることとも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６３０】

なお、当該構成２３－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６３１】

［構成２４－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、複数回操作有効状態として、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を不定の時間とするように処理可能な不定変化複数回操作有効状態と、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた前記操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能な一定変化複数回操作有効状態とを用意した上で、上記一定変化複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生しうるようにしたから、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を通じて、特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了される可能性についての示唆を行うことができるようになる。なお、当該構成２４－Ａにかかる「特定操作手段」、「不定変化複数回操作有効状態」、「一定変化複数回操作有効状態」は、当該構成２４－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「不定変化複数回操作有効状態」、「一定変化複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。

【１６３２】

そしてこの場合、後述するが、上記不定変化複数回操作有効状態は、予め定められた終

了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生可能であるのに対し、上記一定変化複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態として発生する場合と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる場合には、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる場合には、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了され得ない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１６３３】

なお、当該構成２４－Ａでは、不定変化複数回操作有効状態、一定変化複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６３４】

［構成２５－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意するとともに、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものとし、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず上記特定時間以下の時間とするものとした上で、複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆することができるようになる。なお、当該構成２５－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成２５－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「特定時間」と同じ操作手

段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６３５】

そしてこの場合、後述するが、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から上記操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されることがないようにし、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず上記特定時間以下の時間とされる上記第３複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されうるようにし、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されるようにしてもよい。

【１６３６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合と、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される上記第３複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作を契機として出力状態にあった操作後出力音が変化されるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態）にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であること」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【１６３７】

なお、当該構成２５－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、第３複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６３８】

［構成２６－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態

である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず上記特定時間以下の時間とするものとした上で、複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆することができるようになる。なお、当該構成２６－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成２６－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「特定時間」と同じ操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６３９】

そしてこの場合、後述するが、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化されないようにし、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず上記特定時間以下の時間とされる上記第２複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合と変化されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも必ず長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能によって新たな操作後出力が開始されない上記第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも必ず長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されないこととも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６４０】

なお、当該構成２６－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６４１】

［構成２７－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず前記特定時間以下の時間とするものとしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成２７－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成２７－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「特定時間」と同じ操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６４２】

そしてこの場合、後述するが、特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上位特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定である（一定の時間として処理されない）のに対し、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず上記特定時間以下の時間とされる上記第３複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間でなく一定の時間として処理可能であり、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態において

は、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であり、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合と、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される上記第３複数回操作有効状態で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が一定であるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態）にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であること」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【１６４３】

なお、当該構成２７－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、第３複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６４４】

［構成２８－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態が用意されており、それら操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、第２複数回操作有効状態は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず前記特定時間以下の時間とするものとしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成２８－Ａにかかる「特定操作手段」、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成２８－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称

に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「特定時間」と同じ操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６４５】

そしてこの場合、後述するが、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない上記第１複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定である（一定の時間として処理されない）ようにし、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される上記第２複数回操作有効状態において、上記特定操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間である（一定の時間として処理されない）場合と一定の時間である（一定の時間として処理可能である）場合とがあるようにしてもよい。このような構成によれば、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない第１複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されないこととも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６４６】

なお、当該構成２８－Ａでは、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６４７】

［構成２９－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能である。この点、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されている。そして、該複数回操作有効状態として、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの

間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされる長変化複数回操作有効状態と、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は必ず上記特定時間以下の時間とされる短変化複数回操作有効状態とを用意した上で、短変化複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生しうるようにしたから、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を通じて、特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了される可能性についての示唆を行うことができるようになる。なお、当該構成２９－Ａにかかる「特定操作手段」、「長変化複数回操作有効状態」、「短変化複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成２９－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「長変化複数回操作有効状態」、「短変化複数回操作有効状態」、「特定時間」と同じ操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６４８】

そしてこの場合、後述するが、上記長変化複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生可能であり、上記短変化複数回操作有効状態は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態として発生する場合と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、オート連打機能の有効化対象ではあるものの、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない場合には、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される場合には、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも上記特定操作手段が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了されない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１６４９】

なお、当該構成２９－Ａでは、短変化複数回操作有効状態、長変化複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６５０】

［構成３０－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音

が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、且つ該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにされており、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意して、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにし、第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないようにし、第３複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにした上で、複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、摸画像表示の対象である操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆することができるようになる。なお、当該構成３０－Ａにかかる「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「所定時間」は、当該構成３０－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１複数回操作有効状態」や、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「所定時間」と同じ操作有効状態や、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作有効状態や、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作有効状態や、時間と同じ「操作有効状態」や、「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６５１】

そしてこの場合、後述するが、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化することがないようにし、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる上記第３複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにした上で、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、該操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしてもよい。

【１６５２】
このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第１複数回操作有効状態については、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、第２複数回操作有効状態の場合とは異なり、該操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化しないようにしたから、このような再操作時における変化の有無を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。また、摸画像表示の対象である操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第３複数回操作有効状態については、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、該操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化しうるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、摸画像表示の周期的変化が、第２複数回操作有効状態の場合とは異なり、上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされるようにしたから、このような摸画像表示の周期的変化の長短を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１６５３】
［構成３１－Ａ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、且つ該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにされており、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態を用意して、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ前記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そして、第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにし、第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにした上で、複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しうるようにしたから、摸画像表示の対象である操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆することができるようになる。なお、当該構成３１－Ａにかかる「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「所定時間」は、当該構成３１－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１複数回操作有効状態」や、「第２複数回操作有効状態」、「所定時間」と同じ操作有効状態や、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作有効状

態や、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作有効状態や、時間と同じ「操作有効状態」や、「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６５４】

そしてこの場合、後述するが、第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようになっており、上記摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、これを契機として、前記操作後出力音の出力状態が変化しないようになっており、第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようになっており、該摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて当該操作後出力音の出力状態が変化する場合と変化しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される上記第１複数回操作有効状態では、上記操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化しないから、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される第２複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６５５】

［構成３２－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、且つ該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにされており、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態が用意されており、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、前記摸画像表示の対象である操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ前記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされており、複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態を用意して、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そしてこの上で、第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後

出力音が複数回発生可能とされるようにし、第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないようにし、第３複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３２－Ａにかかる「第１複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「第３複数回操作有効状態」、「所定時間」は、当該構成３２－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１複数回操作有効状態」や、「第２複数回操作有効状態」、「第２複数回操作有効状態」、「所定時間」と同じ操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作有効状態や、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作有効状態や、時間と同じ「操作有効状態」や、「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６５６】

そしてこの場合、後述するが、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（一定の時間として処理されずに）不定であるのに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる上記第３複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（不定の時間でなく）一定の時間として処理可能であり、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態においては、該操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（不定の時間でなく）一定の時間として処理可能であるようにしてもよい。

【１６５７】

このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記第１複数回操作有効状態については、第２複数回操作有効状態と同様、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるようになっている点でオート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、第２複数回操作有効状態の場合とは異なり、該再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（一定の時間として処理されずに）不定であるようにしたから、このような再操作時における操作後出力音の出力状態を確認することで、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。また、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記第３複数回操作有効状態については、第２複数回操作有効状態と同様、操作後出力音が出力状態にあるなかで

再操作を行った場合には、該再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間を（不定の時間でなく）一定の時間として処理可能とするようになっている点でオート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、摸画像表示の周期的変化が、第２複数回操作有効状態の場合とは異なり、上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされるようにしたから、このような摸画像表示の周期的変化の長短を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１６５８】

［構成３３－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、且つ該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあるようにされており、上記複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態及び第２複数回操作有効状態が用意されており、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記摸画像表示の対象である操作手段が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにしている。そしてこの上で、第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにし、第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるようにしたから、演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３３－Ａにかかる「第１複数回操作有効状態」や、「第２複数回操作有効状態」、「所定時間」は、当該構成３３－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１複数回操作有効状態」や、「第２複数回操作有効状態」、「所定時間」と同じ操作有効状態や、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作有効状態や、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作有効状態や、時間と同じ「操作有効状態」や、「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６５９】

そしてこの場合、後述するが、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は（一定の時間として処理されずに）不定であるのに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる上記第２複数回操作有効状態においては、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が

終了されるまでの時間が一定の時間として処理される場合と、該時間が一定の時間として処理されず不定の時間とされる場合とがあるようにしてもよい。

【１６６０】

このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態では、摸画像表示の対象である操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる第２複数回操作有効状態では、摸画像表示の対象である操作手段を再び操作状態にしてから新しい演出が現れる可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１６６１】

［構成３４－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあり、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態においては、該摸画像表示の対象である操作手段を操作状態に維持したとき、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後出力音が複数回出力可能とされるようにしたから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。なお、当該構成３４－Ａにかかる「所定時間」は、当該構成３４－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「所定時間」と同じ時間を意味するものであってもよいし、異なる時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の時間と同じ「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６６２】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態においては、該摸画像表示の対象である操作手段を操作状態に維持したとき、（該操作状態が維持されるだけでは上記操作後出力音が複数回出力可能とされない場合がなく）上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後出力音が複数回出力可能とされるようになっており、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態においては、該摸画像表示の対象である操作手段を操作状態に維持したとき、（操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後出力音が複数回出力される場合がなく）上記操作後出力音が（検出に基づいて読み出された別データに基づく出力音として）新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされるかたちで上記操作後出力音が複数回出力可能とされる場合と、該操作状態が維持されるだけでは上記

操作後出力音が複数回出力可能とされない場合との両方があるようにしてもよい。
【１６６３】
　このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを好適に示唆することができることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されるときには一定の時間毎に受付後出力音が出力されるようになっていることから、いわゆるオート連打機能が有効化されている実感も覚えやすくなっており遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象である場合と、有効化される対象でない場合との両方があることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されたとしても不定の時間毎にしか受付後出力音が出力されず該オート連打機能が有効化されている実感も認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【１６６４】
［構成３５－Ａ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあり、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態においては、該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は必ず特定時間以下の時間とされるようにしたから、摸画像表示の周期的変化が比較的早いときには「操作手段を操作状態に維持するだけで操作後出力音が比較的短い間隔で連続的に出力されうる状況下」にあることを好適に示唆することができるようになる。なお、当該構成３５－Ａにかかる「所定時間」や「特定時間」は、当該構成３５－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「所定時間」や「特定時間」と同じ時間を意味するものであってもよいし、異なる時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の時間と同じ「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」、「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。
【１６６５】
　そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態のうち、「摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態」においては、該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は必ず上記特定時間以下の時間とされるようにするのに対し、「摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態」においては、該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合と、操作状態が維持されるだけでは上記操作後出力音が複数回出力可能とされない場合との両方があるが、操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合は、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされ

るようにしてもよい。このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを好適に示唆することができることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されるときには比較的短い時間内で新たな受付後出力音が次々と出力されるようになっていることから、いわゆるオート連打機能が有効化されている実感も覚えやすくなっており遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象である場合と、有効化される対象でない場合との両方があることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されたとしても比較的長い時間が経過しなければ新たな受付後出力音が出力されず該オート連打機能が有効化されている実感も認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１６６６】

［構成３６－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作手段の状態を検出可能であり、上記操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該検出に応じた操作後出力音を出力可能であり、操作手段を摸した摸画像表示を表示可能である。この点、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後出力音が出力開始されうる状態である摸画像操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後出力音が複数回出力可能とされる複数回操作有効状態が用意されており、摸画像表示は、上記複数回操作有効状態において周期的変化が現れるように表示可能とされ、該周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、該周期的変化が前記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とがあり、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態においては、上記複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうるようにしたから、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長さを通じて、操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了される可能性を示唆することができるようになる。なお、当該構成３６－Ａにかかる「所定時間」は、当該構成３６－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「所定時間」と同じ時間を意味するものであってもよいし、異なる時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の時間と同じ「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定時間以下の時間」や「所定時間よりも長い時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６６７】

そしてこの場合、後述するが、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態が発生している状況にあるようにし（（終了されない種別の複数回操作有効状態が発生している状況にある場合はないようにし）、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態が発生している状況にある場合と、操作状態にあることが検出されたことを契機としては当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態が発生している状況にある場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画

像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了されない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１６６８】

［構成３７－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされる場合がない所定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにするのに対し、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるとともに、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした上で、特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうるようにしたから、上記特定操作手段を操作状態に維持したときの演出性の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３７－Ａにかかる「特定操作手段」、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」は、当該構成３７－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。また、「所定種別の複数回操作有効状態」とは、「上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけでは該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされる場合がない複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。また、「特定種別の複数回操作有効状態」についても同様、「上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされうる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。

【１６６９】

そしてこの場合、後述するが、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表

示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況において、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示に対しては変化を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音に対しては変化を生じさせずその出力状態を維持しうるようにしてもよい。このような構成によれば、特定種別の複数回操作有効状態にあって、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況では、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせるようにしたから、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【１６７０】

なお、当該構成３７－Ａでは、所定種別の複数回操作有効状態、特定種別の複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」のみである場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６７１】

［構成３８－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されることがない所定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにするのに対し、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるとともに、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした上で、特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示されており、且つ操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうるようにしたから、当該状況が現れたときには、前記特定操作手段が前記操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了される可能性がある状況下にあることを好適に示唆することが期待されうる。なお、当該構成３８－Ａにかかる「特定操作手段」、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」は、当該構成３８－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。また、「所定種別の複数回操作有効状態」とは、「予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に前記特定操作手段が前記操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終

了されることがない複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。また、「特定種別の複数回操作有効状態」についても同様、「予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に前記特定操作手段が前記操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。

【１６７２】

そしてこの場合、後述するが、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況において、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示に対しては変化を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音に対しては変化を生じさせずその出力状態を維持しうるようにしてもよい。このような構成によれば、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせるようにしたから、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【１６７３】

なお、当該構成３８－Ａでは、所定種別の複数回操作有効状態、特定種別の複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」のみである場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６７４】

［構成３９－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合が少なくともあるようにするのに対し、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が不定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示可能とされるようにした上で、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうるようにしたから、上記特定操作手段を操作状態に維持したときの演出の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる

。なお、当該構成３９－Ａにかかる「特定操作手段」、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」は、当該構成３９－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」と同じ操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態と同じ「操作手段」や「操作有効状態」を意味するものであってもよい。また、「所定種別の複数回操作有効状態」とは、「特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が一定の時間とされるかたちで操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。また、「特定種別の複数回操作有効状態」についても同様、「特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が不定の時間とされるかたちで操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。

【１６７５】

そしてこの場合、後述するが、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況において、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示に対しては変化を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音に対しては変化を生じさせずその出力状態を維持しうるようにしてもよい。このような構成によれば、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせるようにしたから、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【１６７６】

なお、当該構成３９－Ａでは、所定種別の複数回操作有効状態、特定種別の複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」のみである場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６７７】

［構成４０－Ａ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、特定操作手段（例えば、操作ボタン４１０）の状態を検出可能であり、上記特定操作手段が操作されている操作状態にあることが検出されると、該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化を実行可能である。この点、特定操作手段が操作状態にあることが検出されると上記操作後変化が実行開始されうる状態である操作有効状態として、操作状態にあることの検出が複数回許容されて上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態を用意することとしている。そして、複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が必ず特定時間以下の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合が少なくともあるようにするのに対し、上記特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化

の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示可能とされるようにした上で、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうるようにしたから、上記特定操作手段を操作状態に維持したときの演出の幅が広がるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成４０－Ａにかかる「特定操作手段」、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」、「特定時間」は、当該構成４０－Ａの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特定操作手段」や、「所定種別の複数回操作有効状態」、「特定種別の複数回操作有効状態」、「特て時間」と同じ操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や操作有効状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や操作有効状態、時間と同じ「操作手段」や「操作有効状態」、「時間」を意味するものであってもよい。また、「所定種別の複数回操作有効状態」とは、「特定操作手段を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が必ず特定時間以下の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。また、「特定種別の複数回操作有効状態」についても同様、「特定操作手段を前記操作状態に維持したときに前記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるかたちで前記操作後変化が複数回実行可能とされる複数回操作有効状態」のことであるが、このような複数回操作有効状態として、発生条件が異なる複数を用意するようにしてもよいし、１つのみを用意するようにしてもよい。また、「特定時間以下の時間」とは、「特定時間」を含むものであることはもとより、「特定時間よりも長い時間」や「特定時間以下の時間」としては、それぞれ１つの時間のみが用意されていてもよいし、複数の異なる時間が用意されていてもよい。

【１６７８】

そしてこの場合、後述するが、上記特定種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況において、上記特定操作手段が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示に対しては変化を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音に対しては変化を生じさせずその出力状態を維持しうるようにしてもよい。このような構成によれば、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせるようにしたから、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【１６７９】

なお、当該構成４０－Ａでは、所定種別の複数回操作有効状態、特定種別の複数回操作有効状態で、複数回操作が許容されている操作手段が、いずれも「特定操作手段」のみである場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【１６８０】

ちなみに、上記構成１－Ａ～構成４０－Ａにあって、「演出性には注目すべき価値があることの示唆」を作用効果として謳っているものがあるが、注目すべき価値のある演出性を実際に備えることは必須でない。「価値のある演出が実行されるかもしれない」といった演出性が提供されるだけで遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１６８１】

［構成１－Ｂ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はなく、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

すなわちこの場合、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段に対して「オート連打機能」が有効化されたときに新たな受付後変化が現れるまでの間隔が比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「特定時間」は、当該構成１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１６８２】

ここで、当該「構成１－Ｂ」や、後述の「構成２－Ｂ」～「構成８－Ｂ」の発明を実現する上では、「第１所定態様」や「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」については、それらの態様自体に技術的な意味は必ずしもなくてもよい。要は、「表示状態にあるときには、第１操作手段がオート連打（長押しでの複数回操作受付が許容）可能な状況下にある場合がある第１操作関連表示」が非表示にされたときには、所定時間内に該第１操作関連表示が別の態様で現れる可能性があるのに対し、「表示状態にあるときには、第２操作手段がオート連打（長押しでの複数回操作受付が許容）可能な状況下にあ

る場合がある第２操作関連表示」が非表示にされたときには、所定時間内に該第２操作関連表示が別の態様で現れる可能性がないものであればよい。

【１６８３】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（第１所定態様とは異なる態様）で新たに表示される場合があり、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、前記第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、必ず特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段に対して「オート連打機能」が有効化されるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が必ず比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【１６８４】

また、後述するが、この場合は、特に、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下にある場合と、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下にある場合とでは、第２所定態様で表示されている状況下にある場合に限り、第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔を、必ず特定時間以下の時間とするようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作手段に対して「オート連打機能」が有効化される場合であっても、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下にあるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が必ず比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下にあるときには、第２操作手段に対して「オート連打機能」が有効化されるときの変化間隔が、特定時間よりも長い時間（比較的長い間隔）とされうるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１６８５】

また、後述するが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下において第２操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行される場合は、その間隔が上記特定時間以下の時間とされる場合がなく、必ず、特定時間よりも長い時間とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下では、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かをより一層認識し難くして緊張感をより好適に維持することが期待されうる。

【１６８６】

また、後述するが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下において第２操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔については、予め定められていない時間（不定の時間）として現れるようにしてもよい。例えば、第２操作手段が操作状態に維持されているときに操作受付がなされる都度、受付後変化を生じさせるか否かについての演出判定を行い、この結果として特別の判定結果が得られたときに受付後変化を生じさせるようにする、といった手法などで実現することが可能である。ただし、当該構成を実現する手法としてはこれに限られない。

【１６８７】

そしてこの場合、「不定の時間」として採用されうる時間のうち最も短い時間（間隔）と比較した場合であっても、上記特定時間のほうが短い時間とされるようにすることが、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し難くする上でより望ましい（必須ではない）。

【１６８８】

また、当該「構成１－Ｂ」を実現する上では、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。また、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間よりも長い時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されないもの（不定の時間）でなくてもよい。また、第１操作関連表示が第１所定態様または第１特定態様で表示されているなかで第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。

【１６８９】

また、第１操作関連表示が第１所定態様または第１特定態様で表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、いずれも特定時間以下の時間とされるが、互いの時間（間隔）は、異なる時間（間隔）として設定されるようにしてもよい。

【１６９０】

例えば、第１操作関連表示が第１所定態様または第１特定態様で表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するようにすれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１６９１】

また、当該構成１－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【１６９２】

［構成２－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、

前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はなく、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

すなわちこの場合、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段に対して「オート連打機能」が有効化されたときに新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定の時間にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

すなわちこの場合、第２操作手段に対して「オート連打機能」が一定の間隔で機能したときには、第２所定態様が非表示にされてから所定時間内に第２特定態様で新たに表示されないことを示唆することができるようになる。なお、当該構成２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」は、当該構成２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１６９３】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（第１所定態様とは異なる態様）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１６９４】

また、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、必ず、予め定められた時間（一定の時間）とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段に対して「オート連打機能」が有効化されるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【１６９５】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合に該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されているなかで第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合に該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔よりも必ず短くなるようにしてもよい。

【１６９６】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下において第２操作手段

を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔は一定であるが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下において第２操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で操作受付がなされる間隔）は一定ではなく不定であるようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作関連表示は、その表示態様に応じて、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあることを認識し易くする場合と、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあることを認識し難くする場合との両方があるようになるから、演出性の向上を通じて遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１６９７】

また、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下において第２操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、不定の時間であり、特定時間よりも長い間隔として現れる場合があるのに対し、第１操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（一定の間隔）や、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下において第２操作手段を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（一定の間隔）は、特定時間よりも長い間隔として現れる場合がないようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１６９８】

なお、当該構成２－Ｂはもとより、上述や後述の各構成を実現する上では、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とは、予め定められた時間間隔で新たな受付後変化が生じるものであればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」を実現するようにしてもよい。

【１６９９】

また、当該構成２－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【１７００】

［構成３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されて該操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始された以降もその操作状態が維持された場合、前記第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前

記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されて該操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始された以降もその操作状態が維持された場合、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作された場合であっても、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があり、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作された場合であっても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があるようにした。

【１７０１】

すなわちこの場合、第１操作関連表示や第２操作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されうるようにしつつも、緊張感を好適に維持することができるようになる。なお、当該構成３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」は、当該構成３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１７０２】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７０３】

また、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示されているなかで第１操作手段が操作された場合であっても、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合があるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作関連表示が表示されているときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【１７０４】

またこの場合、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示されているなかで第１操作手段を操作したにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段については、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７０５】

なおこの場合、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示さ

れているなかで第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じた以降、その操作状態を維持しているにもかかわらず、該第１操作関連表示が表示されているなかで新たな受付後変化が生じなくなる場合（いわゆるオート連打機能が無効化される場合）があるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件が満たされると）、それまで維持された操作状態に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が再び実行されうるようにしてもよい。

【１７０６】

また、第２操作関連表示が第２所定態様及び第２特定態様のいずれかで表示されているなかで第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れないようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作手段については、第２操作関連表示が第２所定態様及び第２特定態様のいずれかで表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１７０７】

［構成４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で表示されるとき、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音を出力可能であるようにした。

【１７０８】

すなわちこの場合、第２所定態様が非表示にされた以降、第２特定態様が長い期間にわたって表示されないとしても、該第２特定態様が現れるときには、該第２特定態様が現れた状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。なお、当該構成４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２操作関連音」は、当該構成４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様

」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７０９】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。またこの際、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音を出力可能としてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７１０】

また、少なくとも第１操作関連表示が第１特定態様で表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音を出力可能としてもよい。そして、該第１操作関連音については、特に、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に出力された場合（所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって必ず維持されるのに対し、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に出力された場合（所定時間が経過した以降に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされてからどれだけの時間が経過したときに第１操作関連音が出力されたかによって演出性が異なるようになり、緊張感を好適に提供することが期待されうる。特に、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１操作関連音が出力された場合（所定時間が経過した以降に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるから、遊技興趣を維持しつつも緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１７１１】

また、少なくとも第２操作関連表示が第２特定態様で表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音を出力可能としてもよい。そして、該第２操作関連音については、特に、その出力状態が第２時間（予め定められた出力時間）にわたって必ず維持されるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が第２所定態様で表示された以降、第２特定態様が現れるまでには比較的長い時間を要するものの、該第２特定態様が現れるときには、該第２特定態様が現れた状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。

【１７１２】

また、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１操作関連音が出力される場合は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるが、いずれの場合であっても、当該第１操作関連音としての態様（音の種別）は同じ（例えば、特別態様）であるようにすることが望ましい。

【１７１３】

また、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降、第１操作関連音が特別態様で出力されているなかで第１操作手段に対する操作受付がなされた場合、該操作

受付に応じた受付後変化は、第１操作関連音の出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合とで、同じ態様（同じ変化）で実行可能とされるようにすることが望ましい。

【１７１４】

［構成５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第２所定態様が非表示にされてから前記所定時間が経過した以降に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で表示された場合、その表示状態は第２表示時間にわたって維持されうるようにしたから、第２特定態様が現れている状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。

【１７１５】

なお、当該構成５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２表示時間」は、当該構成５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２表示時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１７１６】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。またこの際、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音を出力可能としてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７１７】

またこの場合は、特に、第１所定態様（第１操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１特定態様（第１操作関連表示）が表示され、且つ該第１特

定態様が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、第１操作関連表示は、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたってその表示状態が必ず継続されるが、第１所定態様（第１操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様（第１操作関連表示）が表示され、且つ該第１特定態様が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、第１操作関連表示は、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたってその表示状態が継続される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされてからどれだけの時間が経過したときに第１特定態様が現れたかによって演出性が異なるようになり、緊張感を好適に提供することが期待されうる。特に、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様で表示された場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって維持される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるから、遊技興趣を維持しつつも緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１７１８】

また、第２所定態様（第２操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第２特定態様（第２操作関連表示）が表示され、且つ該第２特定態様が表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、第２操作関連表示は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって維持される場合と、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。これにより、第２特定態様が表示されたとき、遊技興趣を維持しつつも緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１７１９】

この点、第１所定態様（第１操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様（第１操作関連表示）が表示された場合は、該第１特定態様が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて操作受付が複数回なされるか否かにかかわらず、第１操作関連表示が、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにする。そして、第２所定態様（第２操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第２特定態様（第２操作関連表示）が表示され、且つ該第２特定態様が表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合は、第２操作関連表示は、第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示される場合と、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるが、第２所定態様（第２操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第２特定態様（第２操作関連表示）が表示され、且つ該第２特定態様が表示されているなかで第２操作手段が操作されず該第２操作手段に対する操作受付がなされていない状況下にある場合は、第２操作関連表示は、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合がなく、第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示されるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様（第１操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様（第１操作関連表示）が表示された場合における緊張感と、第２所定態様（第２操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第２特定態様（第２操作関連表示）が表示された場合における緊張感とを、互いに異なる演出性を通じて提供することができるようになり、遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１７２０】

また、第１所定態様（第１操作関連表示）が非表示にされてから所定時間が経過するよ

りも前に第１特定態様（第１操作関連表示）が表示された場合、該第１特定態様が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて操作受付が複数回なされるか否かにかかわらず、第１操作関連表示は、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされることがなく、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示されるようにしてもよい。

【１７２１】

なお、第１操作関連表示が第１特定態様で表示される場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合と継続されない場合とで、第１特定態様としての態様は同じであることが望ましいし、第２操作関連表示が第２特定態様で表示される場合は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合と継続されない場合とで、第２特定態様としての態様は同じであることが望ましい。

【１７２２】

また、第１操作関連表示が第１特定態様で表示される場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合と継続されない場合とで、第１操作手段に対する操作受付がなされたときには受付後変化として同じ態様（同じ変化）が現れるようにすることが望ましい。また、第２操作関連表示が第２特定態様で表示される場合は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続された場合（第２操作手段に対する操作受付がなされなかった場合）であっても、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続されない場合に現れる受付後変化と同じ態様（同じ変化）が実行されるようにすることが望ましい。

【１７２３】

［構成６－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第２操作関連表示が表示されるときには、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音を出力可能であるようにしたから、第２所定態様が非表示にされた以降、第２特定態様が長い期間にわたって表示されないとしても、該第２特定態様が現れるときには、該第２特定態様が現れる状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。

【１７２４】

なお、当該構成６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２操作関連音」は、当該構成６－Ｂの技術思

想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７２５】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。またこの際、第１操作関連表示が表示されるとき、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音を出力可能としてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７２６】

また、第２操作関連表示が表示されるときには、第２所定態様及び第２特定態様のいずれで表示される場合であっても、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音を、同じ音が複数回現れない単発音として出力可能であるようにしてもよい。これに対し、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力されないが、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されるときは、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に当該第１特定態様が表示されたか否かにかかわらず、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音を、同じ音が複数回現れる繰返音として出力可能であるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されるときには、第２操作手段に対する操作が、１回分の音出力を通じて促されるのに対し、第１操作関連表示が表示されるときには、第１操作手段に対する操作が音出力を通じて促されない場合があるから、操作忘れが生じることに対する緊張感を好適に付与することが期待されうる。ただしその代わり、第１操作関連表示が第１特定態様で表示される場合は、第１操作手段に対する操作が、複数回の音出力を通じてより強く促されるようになっていることから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７２７】

またこの場合は、特に、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合は、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音として、特定の音が必ず複数回現れるように出力されるが、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合は、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音として、特定の音が複数回現れるように出力される場合と、特定の音が１回しか現れないように出力される場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が第１特定態様で表示される場合であっても、第１操作手段に対する操作が、複数回の音出力を通じてより強く促されるとは限らないようになるから、緊張感を好適に付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７２８】

なお、「特定の音が１回しか現れないように出力される」手法としては、そのような音データを予め用意しておき、この音データを再生することによって実現するようにしてもよいし、「特定の音が複数回現れるように出力される」手法のときに用いられる音データを途中で再生終了させることによって実現するようにしてもよいし、それ以外の手法によって実現してもよい。

【１７２９】

［構成７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされることを契機として、第２特定態様が長い期間にわたって表示されないことを示唆することが期待されうる。

【１７３０】

なお、当該構成７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「非操作後表示」は、当該構成７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」、「非操作後表示」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間、非操作後表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間、非操作後表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」、「非操作後表示」を意味するものであってもよい。

【１７３１】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７３２】

またこの場合、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようになっており、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になった

ときには、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれで表示されている場合（表示可能ないかなる態様で表示されている場合）であっても、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１７３３】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、第２操作関連表示が表示されていないなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が表示されていないなかでオート連打機能が有効化されていたときには非操作後表示が表示される場合がないから、第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【１７３４】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかでオート連打機能が有効化されていたときには非操作後表示が表示される場合がないから、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【１７３５】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として非操作後表示が表示される場合、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【１７３６】

［構成８－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様及び第１特定態様が少なくとも用意されており

、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様及び第２特定態様が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で新たに表示される場合はないようになっており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされることを契機として、第２特定態様が長い期間にわたって表示されないことを示唆することが期待されうる。

【１７３７】

なお、当該構成８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」は、当該構成８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１所定態様」、「第１特定態様」、「第２所定態様」、「第２特定態様」、「所定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、態様、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、態様、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「態様」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１７３８】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１所定態様が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【１７３９】

またこの場合、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にするが、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれで表示されている場合（表示可能ないかなる態様で表示されている場合）であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１７４０】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実

行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にするが、第２操作関連表示が表示されていないなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が表示されていないなかでオート連打機能が有効化されていたときにはその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないから、第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【１７４１】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にするが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかでオート連打機能が有効化されていたときにはその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないから、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【１７４２】

また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【１７４３】

［構成９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力

時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連音が可聴とされているときに前記第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【１７４４】

すなわちこの場合、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことから、比較的短い間隔（特定時間以下の時間）で受付後変化が複数回生じている状況下にあることを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」、「第２操作関連音」は、当該構成９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間、操作関連音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７４５】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにし、第１操作関連音が可聴とされているときに第１操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされたか否かにかかわらず、必ず特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作関連音が可聴とされているときに第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が出力されているなかで第１操作手段を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされるか否かにかかわらず、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ず短時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作関連音が出力されているなかで第２操作手段を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことに加えて、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ずしも短時間とされず、特定時間よりも長い時間とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１７４６】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力

時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにしてもよい。

【１７４７】

なおこの場合、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、出力音（音の種別）は同じであるようにすることが望ましい。

【１７４８】

また、第１操作関連表示は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、第１操作関連音が予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、表示態様が同じであるようにすることが望ましい。

【１７４９】

また、当該「構成９－Ｂ」を実現する上では、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。

【１７５０】

また、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、いずれも特定時間以下の時間とされうるが、この場合であっても、互いの時間（間隔）は、異なる時間（間隔）として設定されるようにしてもよい。

【１７５１】

例えば、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するとともに、且つ第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも短い時間として設定するようにすれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７５２】

また、当該構成９－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【１７５３】

［構成１０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と

、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連音が可聴とされているときに前記第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【１７５４】

すなわちこの場合、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことから、一定の時間で複数回の操作受付がなされている状況下にあることを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」は、当該構成９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７５５】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにし、第１操作関連音が可聴とされているときに第１操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされたか否かにかかわらず、一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）であり、第２操作関連音が可聴とされているときに第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）である場合と、一定の時間ではなく不定の時間である場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が出力されているなかで第１操作手段を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされるか否かにかかわらず、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が、必ず、不定の時間でなく予め定められた時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに

対し、第２操作関連音が出力されているなかで第２操作手段を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことに加えて、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ずしも一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）とされず、不定の時間とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１７５６】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにしてもよい。

【１７５７】

なおこの場合、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、出力音（音の種別）は同じであるようにすることが望ましい。

【１７５８】

また、第１操作関連表示は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、第１操作関連音が予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、表示態様が同じであるようにすることが望ましい。

【１７５９】

なお、当該構成１０－Ｂはもとより、上述や後述の各構成を実現する上では、「不定の時間」とは、予め定められていない時間のことであり、例えば、第２操作手段が操作状態に維持されているときに操作受付がなされる都度、受付後変化を生じさせるか否かについての演出判定を行い、この結果として特別の判定結果が得られたときに受付後変化を生じさせるようにする、といった手法などで実現することが可能である。ただし、当該構成を実現する手法としてはこれに限られない。

【１７６０】

また、当該構成１０－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【１７６１】

［構成１１－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわ

たって可聴にされるようになっており、前記第１操作関連表示が表示されているなかで前記第１操作手段が操作された場合であっても、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があり、前記第２操作関連表示が表示されているなかで前記第２操作手段が操作された場合であっても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があるようにしたから、第２操作関連表示が表示されているときにオート連打機能が有効化されうるようにしつつも、緊張感についてはこれを好適に維持することができるようになる。また、第１操作関連表示が表示されているときの緊張感についてもこれを維持することが期待されうる。

【１７６２】

なお、当該構成１１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」は、当該構成１１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７６３】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段を操作したにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにし、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れることがないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段については、第１操作関連表示が表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるのに対し、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１７６４】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになり、このような状況下で操作状態を維持すべきかについての緊張感を付与することができるようになる。これに対し、第１操作手段に対してはオート連打機能が有効化されているかを認識し易くする場

合と、認識し難くする場合との両方があるが、いずれにせよ、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、緊張感を付与しつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７６５】

ただし、予め定められた出力時間が経過するよりも前に第１操作関連音を非可聴の状態にする処理は、必ずしも第１操作手段に対する操作受付を契機として行われるものでなくてもよい（第１操作手段に対する操作受付を契機として行われるものであってもよい）。すなわちこの場合、第１操作手段に対する操作受付の有無にかかわらず、予め定められた出力時間が経過するよりも前に第１操作関連音が非可聴の状態にされる場合と、第１操作関連音が非可聴にされず予め定められた出力時間だけ出力される場合との両方があることとなる。

【１７６６】

また、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じた以降、その操作状態を維持しているにもかかわらず、該第１操作関連表示が表示されているなかで新たな受付後変化が生じなくなる場合（いわゆるオート連打機能が無効化される場合）があるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件が満たされると）、それまで維持された操作状態に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が再び実行されうるようにしてもよい。

【１７６７】

［構成１２－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【１７６８】

なお、当該構成１２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」、「非操作後表示」は、当該構成１２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」、「非操作後表示」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表

示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」、「非操作後表示」を意味するものであってもよい。

【１７６９】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにし、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１７７０】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになる。この点、第２操作手段に対する操作状態が解除されたときに非操作後表示が表示されるようにすれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されていたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第１操作手段に対してはオート連打機能が有効化されているかを認識し易くする場合と、認識し難くする場合との両方がある。この点、第１操作手段に対する操作状態を解除したとしても非操作後表示が表示されないようにすれば、安心感のあるなかで遊技を進行させるか、不安感のあるなかで遊技を進行させるかのどちらかしかないこととなるから、第２操作手段の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７７１】

なおこの場合、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、第１操作関連表示がいずれの態様で表示されている場合であっても、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【１７７２】

また、第１操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【１７７３】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合と、該非操作後表示が表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた

受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が必ずしも表示されないこととなるから、第２操作手段を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１７７４】

また、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として非操作後表示が表示されない場合はもとより、非操作後表示が表示される場合であっても、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【１７７５】

［構成１３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【１７７６】

なお、当該構成１３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」は、当該構成１３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７７７】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、そ

の時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１７７８】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになる。この点、第２操作手段に対する操作状態が解除されたときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにすれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されていたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第１操作手段に対してはオート連打機能が有効化されているかを認識し易くする場合と、認識し難くする場合との両方がある。この点、第１操作手段に対する操作状態を解除したとしてもその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にすることがないようにすれば、安心感のあるなかで遊技を進行させるか、不安感のあるなかで遊技を進行させるかのどちらかしかないこととなるから、第２操作手段の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７７９】

なおこの場合、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、第１操作関連表示がいずれの態様で表示されている場合であっても、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にすることがないようにしてもよい。

【１７８０】

また、第１操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【１７８１】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを必ずしも非可聴の状態にしないこととなるから、第２操作手段を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる

【１７８２】

［構成１４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されている期間内において、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【１７８３】

なお、当該構成１４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」は、当該構成１４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第２操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７８４】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、該第１操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を中断してから第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し易くされうるが、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を中断してから第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、オート連打機能（長押し機能）を中断したり再操作したりするときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１７８５】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じてい

る状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになる。この点、第２操作手段に対する操作状態を解除してから該第２操作手段を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにすれば、第２操作手段に対する操作受付が適正になされてオート連打機能が有効化されたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第１操作手段に対してはオート連打機能が有効化されているかを認識し易くする場合と、認識し難くする場合との両方がある。この点、第１操作手段に対する操作状態を解除してから該第１操作手段を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音が非可聴の状態にされることがないようにすれば、安心感のあるなかで遊技を進行させるか、不安感のあるなかで遊技を進行させるかのどちらかしかないこととなるから、第２操作手段の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７８６】

また、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、該第１操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にしたときには、第１操作関連表示がいずれの態様で表示されている場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【１７８７】

なおこの場合、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【１７８８】

また、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段に対する操作状態を解除してから該第２操作手段を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つが必ずしも非可聴の状態にされないこととなるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる

【１７８９】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴

の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを必ずしも非可聴の状態にしないこととなるから、第２操作手段を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１７９０】

また、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合は、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるが、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合も、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるようにしてもよい。

【１７９１】

［構成１５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記判定手段による判定の結果に基づいて複数の変動パターンのいずれかで図柄変動を実行可能な図柄変動手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ前記第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされうるようになっており、前記第１操作関連表示は、前記第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示される場合と、前記第２操作関連表示が表示された後に表示される場合との両方があるようにしたから、第１操作関連表示が表示されるタイミングや、第１操作関連音が非可聴にされるタイミングなどを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１７９２】

なお、当該構成１５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１操作関連音」は、当該構成１５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。

【１７９３】

そしてこの場合、後述するが、複数の変動パターンには特別の変動パターンが含まれており、該特別の変動パターンで図柄変動が実行されている期間では、第１操作関連表示は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示される場合と、第２操作関連表示が表示

された後に表示される場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示済みの状況になっているか否かにかかわらず第１操作関連表示が表示されることを期待可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示済みの状況になっているか否かにかかわらず第２操作関連表示が表示されることを期待可能であるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７９４】

なおこの場合、特別の変動パターン内において、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合と、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合とで、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化は同じ態様（変化）であるようにすることが望ましい（必須ではない）。

【１７９５】

また、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。そしてこの上で、複数の変動パターンには特別の変動パターンが含まれており、該特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間では、第１操作関連表示は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示される場合と、第２操作関連表示が表示された後に表示される場合との両方があり、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる可能性を示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１７９６】

また、特別の変動パターン内において、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示されないようにしてもよいし、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示される場合は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示されないようにしてもよい。

【１７９７】

また、特別の変動パターンでは、第２操作関連表示は必ず表示されるが、第１操作関連表示については必ずしも表示されないようにしてもよい。

【１７９８】

また、特別の変動パターンでは、第１操作関連表示については、第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示された場合であっても、第２操作関連表示が表示された後に再び表示される場合があるようにしてもよい。

【１７９９】

また、特別の変動パターンでは、第１操作関連表示が、第２操作関連表示が非表示にされた後に再び表示される場合も、第１操作関連音が再び出力可能とされ、該第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合は、第２操作関連表示が表示される前のときよりも高いようにしてもよい。

【１８００】
［構成１６－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記判定手段による判定の結果に基づいて複数の変動パターンのいずれかで図柄変動を実行可能な図柄変動手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ前記第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされうるようになっており、前記複数の変動パターンには、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンと、前記第２操作関連表示が表示されず且つ前記第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンとが含まれるが、それら種別のいずれで前記図柄変動が行われる場合であっても、当該図柄変動が実行されている期間では、前記第１操作関連表示が表示される場合があるようにしたから、図柄変動が実行されている期間内においては第１操作関連表示が表示される期待感を好適に維持することが期待されうる。
【１８０１】
　なお、当該構成１６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１操作関連音」は、当該構成１６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１操作関連音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作関連音、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作関連音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作関連音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作関連音」を意味するものであってもよい。
【１８０２】
　そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作手段に対する操作に関連した第１操作関連音が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作手段に対する操作に関連した第２操作関連音が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい。そしてこの上で、複数の変動パターンには、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンと、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンとが含まれるが、それら種別のいずれで図柄変動が行

われる場合であっても、当該図柄変動が実行されている期間では、第１操作関連表示が表示される場合（第１操作関連表示の表示条件が満たされる場合）があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる可能性を示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８０３】

また、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合であっても、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合はもとより、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が低いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。

【１８０４】

ただしこの場合、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにすることとなる。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。

【１８０５】

また、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して操作機会が付与される種別の変動パターンでは、第１操作関連表示については、第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示された場合であっても、第２操作関連表示が表示された後に再び表示される場合があるようにしてもよい。なおこの場合、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合と、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合とで、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化は同じ態様（変化）であるようにすることが望ましい（必須ではない）。

【１８０６】

また、当該構成１６－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【１８０７】

［構成１７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表

示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【１８０８】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作関連表示が表示されていない状態においてオート連打機能が秘かに有効化されている状況下にあることを遊技者側が気付き易くして遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成１７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１８０９】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい。

【１８１０】

この点、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれの場合であっても、特定時間よりも長い時間にされることがなく、必ず、特定時間以下の時間とされるのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第２操作関連表示が表示されていない状況下においては、必ず、特定時間以下の時間とされるが、第２操作関連表示が表示されている状況下においては特定時間よりも長い時間にされうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第１操作関連表示が表示されている状況下にあるかにかかわらず、必ず短時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第２操作関連表示が表示されていないときには、必ず短時間とされるものの、第２操作関連表示が表示されているときには特定時間よりも長い時間とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１８１１】

また、第２操作関連表示が表示されているときに第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くしうるものの、認識し易くする場合もあるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８１２】

また、当該「構成１７－Ｂ」を実現する上では、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。

【１８１３】

また、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、いずれも特定時間以下の時間とされうるが、この場合であっても、互いの時間（間隔）は、異なる時間（間隔）として設定されるようにしてもよい。

【１８１４】

例えば、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するとともに、且つ第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも短い時間として設定するようにすれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８１５】

また、当該構成１７－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【１８１６】

［構成１８－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手

段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【１８１７】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作関連表示が表示されていない状態においてオート連打機能が秘かに有効化されている状況下にあることを遊技者側が気付き易くして遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成１８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成１８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８１８】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい。

【１８１９】

この点、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれの場合であっても、予め定められた時間ではない不定の時間にされることがなく、必ず、予め定められた時間である一定の時間とされるのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第２操作関連表示が表示されていない状況下においては、必ず、予め定められた時間である一定の時間とされるが、第２操作関連表示が表示されている状況下においては予め定められた時間ではない不定の時間にされうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第１操作関連表示が表示されている状況下にあるかにかかわらず、必ず一定の時間（予め定められた時間）とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第２操作関連表示が表示されていないときには、必ず一定の時間（予め定められた時間）とされるものの、第２操作関連表示が表示されているときには不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【１８２０】

また、第２操作関連表示が表示されているときに第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操

作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くしうるものの、認識し易くする場合もあるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８２１】

また、第１操作手段が操作状態に維持されたことに基づいて受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示が表示されている場合と表示されていない場合とで同じであるようにしてもよい。

【１８２２】

また、当該構成７２－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【１８２３】

［構成１９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていないときに前記第１操作手段を操作状態に維持すると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合と、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合との両方があり、前記第２操作関連表示が表示されていないときに前記第２操作手段を操作状態に維持すると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合と、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合との両方があるようにしたから、第１操作関連表示や第２操作関連表示が表示されていないときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８２４】

なお、当該構成１９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成１９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８２５】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段を操作したにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにし、第２操作関連表示が表示されていないなかで第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状

態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れることがないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段については、第１操作関連表示が表示されていないなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるのに対し、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示されていないなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８２６】

また、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じた以降、その操作状態を維持しているにもかかわらず、該第１操作関連表示が表示されているなかで新たな受付後変化が生じなくなる場合（いわゆるオート連打機能が無効化される場合）があるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件が満たされると）、それまで維持された操作状態に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が再び実行されうるようにしてもよい。

【１８２７】

［構成２０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下において前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示されうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、オート連打機能が有効化されている状態にあったことを示唆することができるようになる。

【１８２８】

なお、当該構成２０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「非操作後表示」は、当該構成２０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「非操作後表示」と同じ操作手段や、操作関連表示、非操作後表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、非操作後表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、非操作後表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「非操作後表示」を意味するものであってもよい。

【１８２９】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、

第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい。

【１８３０】

この点、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないが、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【１８３１】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第１操作関連表示が表示されているか否かにかかわらず、非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がなく、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示が表示されているときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示されうるが、第２操作関連表示が表示されていないときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第１操作手段の操作状態が解除されたときは、第１操作関連表示が表示されている状態にあるか否かにかかわらず、該第１操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くするから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第２操作手段の操作状態が解除されたときは、該第２操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くする場合と認識し易くする場合との両方があるから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８３２】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示が表示されているときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合と該非操作後表示が表示されない場合との両方があるが、第２操作関連表示が表示されていないときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されておらず且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くするのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くする場合と認識し易くする場合とがあるから、第２操作関連表示が表示されており且つオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第２操作関連表示が表示されておらず且つオート連打機能が有効化されているときには、そもそも緊張感があると考えられるから、適度な緊張感が提供されているなかで遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８３３】

また、第１操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【１８３４】

また、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として非操作後表示が表示されない場合はもとより、非操作後表示が表示される場合であっても、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【１８３５】

［構成２１－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下において前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、オート連打機能が有効化されている状態にあったことを示唆することができるようになる。

【１８３６】

なお、当該構成２１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８３７】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい。

【１８３８】

この点、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第１操作関連表示が表示されているか否かにかかわらず、該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示が表示されている

ときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるが、第２操作関連表示が表示されていないときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第１操作手段の操作状態が解除されたときは、第１操作関連表示が表示されている状態にあるか否かにかかわらず、該第１操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くするから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第２操作手段の操作状態が解除されたときは、該第２操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くする場合と認識し易くする場合との両方があるから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８３９】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示が表示されているときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合との両方があるが、第２操作関連表示が表示されていないときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されておらず且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くするのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くする場合と認識し易くする場合とがあるから、第２操作関連表示が表示されており且つオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第２操作関連表示が表示されておらず且つオート連打機能が有効化されているときには、そもそも緊張感があると考えられるから、適度な緊張感が提供されているなかで遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１８４０】

また、第１操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【１８４１】

また、第２操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合はもとより、可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【１８４２】

［構成２２－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な

第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていないときに前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段を再び操作状態にしたときには、これによってオート連打機能が再び有効化されたことを示唆することができるようになる。

【１８４３】

なお、当該構成２２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８４４】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい。

【１８４５】

この点、第１操作関連表示が表示されていないときに第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、第１操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作関連表示が表示されていないときに第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されていないときに第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し易くされうるが、第１操作関連表示が表示されていないときに第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、オート連打機能（長押し機能）を中断したり再操作したりするときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【１８４６】

また、第２操作関連表示が表示されていないときに第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【１８４７】

また、第２操作関連表示が表示されているときに第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合との両方があるようになっており、第２操作関連表示が表示されていないときに第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは（操作受付がなされたときは）、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にするようにしてもよい。

【１８４８】

また、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、該第１操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にしたときには（操作受付がなされたときは）、第１操作関連表示が表示されている状況下にあるか否かにかかわらず、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【１８４９】

また、第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合は、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるが、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合も、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるようにしてもよい。

【１８５０】

［構成２３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段及び第２操作手段のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【１８５１】

なお、当該構成２３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２３－Ｂの技術思想を説明するために用い

ている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８５２】

そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示が表示されていない状態においても、第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようにし、第２操作関連表示が表示されていない状態においても、第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようにしてもよい。

【１８５３】

また、第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第１操作手段に対する操作受付がなされた場合、受付後変化として、演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合と、演出表示手段における表示変化が生じず該表示変化とは異なる変化が生じる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第１操作手段に対する操作受付がなされたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８５４】

また、第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第１操作手段に対する操作受付がなされた場合は、受付後変化として、演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合があるが、この際、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての上記「表示変化とは異なる変化」は複数回実行されうるのに対し、上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」は複数回実行される場合がないようにし、第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第２操作手段に対する操作受付がなされた場合は、受付後変化として、演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合があるが、この際、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」と該「表示変化とは異なる変化」との両方が複数回実行されうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段と第２操作手段とでオート連打機能を有効化させるときの演出性が異なるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるし、第１操作手段に対してオート連打機能を有効化させるときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８５５】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」が複数回実行されない場合であっても、「表示変化とは異なる変化」は、第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」が生じるときに現れる態様と同じ態様で複数回実行されうるようにすることが望ましい（必須ではない）。

【１８５６】

また、第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されたときは、該第２操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」と「表示変化とは異なる変化」とのうち一方のみが複数回実行される場合はないようにすることが望ましい（必須ではない）。

【１８５７】

［構成２４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第１操作関連表示が表示されず且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す前記操作促進発光が実行されないようにしたから、第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態にあるときの、操作許容に関する秘匿性を好適に維持することが期待されうる。

【１８５８】

なお、当該構成２４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８５９】

そしてこの場合、後述するが、第２操作関連表示が表示されていない状態においても、第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにし、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対して秘かに複数回の操作機会を付与するときには、第１操作関連表示についてはこれを表示せず且つ第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光についてもこれを実行しないのに対し、第２操作手段に対して秘かに複数回の操作機会を付与するときには、第２操作関連表示についてはこれを表示しないものの、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光についてはこれを実行しうるようにしているから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【１８６０】

また、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能とされる場合と、（第１操作関

連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能とされない場合との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【１８６１】

［構成２５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第１操作関連表示が表示されておらず且つ前記第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態から、前記第１操作関連表示が表示されないままで前記第１操作手段に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、前記第１操作促進音は出力されず、前記第２操作関連表示が表示されておらず且つ前記第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態から、前記第２操作関連表示が表示されないままで前記第２操作手段に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、前記第２操作促進音は出力されないようにしたから、「第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」や、「第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの、操作許容に関する秘匿性を好適に維持することが期待されうる。

【１８６２】

なお、当該構成２５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段

」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【１８６３】
そしてこの場合、後述するが、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、第１操作促進音が出力される場合と操作促進発光が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。
【１８６４】
またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合と第１操作促進音が出力されない場合とでは、当該第１操作関連表示としての態様が異なるようにすることが望ましい（必須ではない）。
【１８６５】
［構成２６－Ｂ］
また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作手段に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作手段に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態に維持したとしても、該維持している操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付がなされることがないようにしたから、第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が現れないときには、操作状態を維持せず、再操作を促すことが期待されうる。
【１８６６】
なお、当該構成２６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【１８６７】
そしてこの場合、後述するが、第１操作手段を操作したにもかかわらず該第１操作手段

に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合（第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態において第１操作手段を操作状態にした場合）であっても、該第１操作手段を操作した状態に維持しているなかで所定の受付許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合と、演出表示手段における表示変化は生じず、該表示変化とは異なる変化のみが生じる場合とがあるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態にあるときから維持している「第１操作手段の操作状態」に基づいて、第１操作手段に対する操作受付がなされたことを認識し易い場合と認識し難い場合との両方があるから、緊張感を好適に維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【１８６８】

また、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化として演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じた以降も第１操作手段を操作状態に維持すると、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるが、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化が複数回生じることはなく、該表示変化とは異なる変化のみが複数回生じるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態にあるときから維持している「第１操作手段の操作状態」に基づいて、第１操作手段に対する操作受付がなされたことを認識し易い場合であっても、それ以降のオート連打機能が有効化される状況下では、第１操作手段に対する操作受付が複数回なされていることを認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８６９】

なおこの場合、第２操作手段に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化として演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合があり、この際、第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされるときには、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が必ず複数回生じるようにすることが望ましい（必須でない）。

【１８７０】

［構成２７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示及び前記第２操作関連表示がいずれも表示されていない状態においても前記第１操作手段に対する操作受付がなされる場合があり、この場合、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるが、該受付後変化が生じた時点において前記第２操作手段に対する操作を開始してその操作状態を維持したとしても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されることはないようにしたから、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化への集中を

促すことが期待されうる。
【１８７１】
なお、当該構成２７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【１８７２】
そしてこの場合、後述するが、第１操作関連表示及び第２操作関連表示がいずれも表示されていない状態にあるときに第１操作手段に対する操作受付がなされた場合、受付後変化として、演出表示手段における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）の両方が生じる場合と、演出表示手段における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）のうち「表示変化とは異なる変化（特定変化）」のみが生じる場合とがあるが、いずれの場合であっても、この際、第１操作手段が操作状態に維持されると、演出表示手段における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）のうち「表示変化とは異なる変化（特定変化）」のみが受付後変化として複数回実行されうるようにしてもよい。
【１８７３】
またこの場合、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化及び特定変化の両方が生じたときは、その時点において第２操作手段に対する操作を開始してその操作状態を維持したとしても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合がないが、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化及び特定変化のうち特定変化のみが生じたときは、その時点において第２操作手段に対する操作を開始してその操作状態を維持すると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合と、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化としての態様（演出表示手段における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）の両方が生じるか否か）によって、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されうる状況下にあるか否かが示唆されうるが、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されると「演出表示手段における表示変化」が新たに発生することがなくなり、その見分けがし難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【１８７４】
［構成２８－Ｂ］
また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２

操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【１８７５】

すなわちこの場合、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされうるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成２８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成２８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【１８７６】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１８７７】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８７８】
なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【１８７９】
また、当該構成２８－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。
【１８８０】
また、当該構成２８－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【１８８１】
また、当該構成２９－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。
【１８８２】
［構成２９－Ｂ］
また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされうるようにした。
【１８８３】

すなわちこの場合、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的一定の間隔（予め定められた時間）にされうるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成２９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成２９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８８４】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１８８５】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【１８８６】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示

されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１８８７】

また、当該構成２９－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１８８８】

また、当該構成２９－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１８８９】

また、当該構成２９－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【１８９０】

［構成３０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。

【１８９１】

すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手

段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１８９２】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１８９３】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【１８９４】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合と、該非操作後表示が表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたことを必ずしも認識し易くするとは限らないようにされるから、緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１８９５】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１８９６】

また、当該構成３０－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況

が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。
【１８９７】
　また、当該構成３０－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【１８９８】
［構成３１－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。
【１８９９】
　すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【１９００】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１９０１】
　またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【１９０２】
　また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段の操作状態が解除されたことを必ずしも認識し易くするとは限らないようにされるから、緊張感を好適に提供することが期待されうる。
【１９０３】
　なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【１９０４】
　また、当該構成３１－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。
【１９０５】
　また、当該構成３１－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【１９０６】
［構成３２－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて

所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第２操作関連表示が表示されている期間内において、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【１９０７】

なお、当該構成３２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９０８】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１９０９】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作

手段については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。これに対し、第２操作手段については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【１９１０】

また、第２操作関連表示が表示されている期間のうち、第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【１９１１】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９１２】

また、当該構成３２－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９１３】

また、当該構成３２－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９１４】

［構成３３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、

該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１９１５】

なお、当該構成３３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９１６】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１９１７】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【１９１８】

また、このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段に対する操作受付がなされないよう

になったとしても第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に関しては、第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、該第２操作手段に対する操作受付がなされないようになると、第２操作手段を操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１９１９】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９２０】

また、当該構成３３－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９２１】

また、当該構成３３－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９２２】

［構成３４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに、前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、前記第２操作手段を操作状態に維持し続

けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１９２３】

なお、当該構成３４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「第１操作促進音」、「第２操作促進音」は、当該構成３４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「操作促進音」と同じ操作手段や、操作関連表示、操作促進音を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、操作促進音を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、操作促進音と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「操作促進音」を意味するものであってもよい。

【１９２４】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されている期間内で、第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【１９２５】

またこの場合は、特に、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、第１操作促進音が実行される場合と第１操作促進音が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【１９２６】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９２７】

また、当該構成３４－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がない

ようにしてもよい。
【１９２８】
　また、当該構成３４－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【１９２９】
［構成３５－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。
【１９３０】
　なお、当該構成３５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成３５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。
【１９３１】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段

に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。
【１９３２】
　またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。
【１９３３】
　このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、第２操作関連表示が再び表示されるときまで（第２操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生するときまで）第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【１９３４】
　また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９３５】
　また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９３６】
　なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９３７】
　また、当該構成３５－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。
【１９３８】
　また、当該構成３５－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。
【１９３９】
　また、当該構成３５－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。
【１９４０】
［構成３６－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。
【１９４１】
　なお、当該構成３６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９４２】
そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。
【１９４３】
またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。
【１９４４】
このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、第２操作関連表示が再び表示されるときまで（第２操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生するときまで）第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【１９４５】
また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９４６】
また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９４７】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９４８】

また、当該構成３６－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９４９】

また、当該構成３６－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９５０】

また、当該構成３６－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【１９５１】

［構成３７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。

【１９５２】

すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９５３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【１９５４】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【１９５５】

このような構成によれば、第１操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【１９５６】

また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９５７】

また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９５８】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される

状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９５９】

また、当該構成３７－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９６０】

また、当該構成３７－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９６１】

［構成３８－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【１９６２】

すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成３８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手

段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９６３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【１９６４】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【１９６５】

このような構成によれば、第１操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【１９６６】

また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９６７】

また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９６８】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の

終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９６９】

また、当該構成３８－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９７０】

また、当該構成３８－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９７１】

［構成３９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作関連表示が表示されている期間内において、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【１９７２】

なお、当該構成３９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成３９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９７３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に

維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【１９７４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【１９７５】

このような構成によれば、第１操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。これに対し、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【１９７６】

また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９７７】

また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９７８】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９７９】

また、当該構成３９－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９８０】

また、当該構成３９－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９８１】

［構成４０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【１９８２】

なお、当該構成４０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【１９８３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に

維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【１９８４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【１９８５】

また、このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段に対する操作受付がなされないようになったとしても第１操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に関しては、第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、該第２操作手段に対する操作受付がなされないようになると、第２操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【１９８６】

また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９８７】

また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【１９８８】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されて

いる状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【１９８９】

また、当該構成３９－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【１９９０】

また、当該構成３９－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【１９９１】

［構成４１－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【１９９２】

なお、当該構成４１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段

」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【１９９３】
そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降も第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。
【１９９４】
またこの場合は、特に、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。
【１９９５】
また、このような構成によれば、第１操作手段に関しては、第１操作関連表示が表示されるとき、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段に対する操作受付がなされないようになったとしても第１操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に関しては、第２操作関連表示が表示されるときは第２操作促進音が必ず出力されるようになっているものの、該第２操作手段に対する操作受付がなされないようになると、第２操作関連表示が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。
【１９９６】
また、第１操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９９７】
また、第２操作関連表示が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【１９９８】
なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにし

てもよい。
【１９９９】
　また、当該構成４１－Ｂを実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。
【２０００】
　また、当該構成４１－Ｂを実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。
【２００１】
［構成４２－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。
【２００２】
　すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成４２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成４２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示

」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【２００３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２００４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２００５】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示される期間が終了された後も、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２００６】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにし

てもよい。
【２００７】
　また、当該構成４２－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。
【２００８】
　また、当該構成４２－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【２００９】
　また、当該構成４２－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。
【２０１０】
［構成４３－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。
【２０１１】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成４３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０１２】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０１３】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示される期間にあるときに第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし、第２操作関連表示が表示される期間にあるときに第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２０１４】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示される期間が終了された後も、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了した以降、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２０１５】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される

状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０１６】

また、当該構成４３－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０１７】

また、当該構成４３－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０１８】

また、当該構成４３－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【２０１９】

［構成４４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けた

としても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。

【２０２０】

すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成４４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０２１】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０２２】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【２０２３】

このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、該第１操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【２０２４】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作

受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０２５】

また、当該構成４４－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０２６】

また、当該構成４４－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０２７】

［構成４５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【２０２８】
すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成４５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２０２９】
そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。
【２０３０】
またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。
【２０３１】
このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、該第１操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【２０３２】
なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２

操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０３３】

また、当該構成４５－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０３４】

また、当該構成４５－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０３５】

［構成４６－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【２０３６】

なお、当該構成４６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を

意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０３７】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０３８】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２０３９】

このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、該第１操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段については、第２操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【２０４０】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０４１】

また、当該構成４６－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとし

ても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０４２】

また、当該構成４６－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０４３】

［構成４７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段及び第２操作手段のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【２０４４】

なお、当該構成４７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を

意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０４５】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０４６】

またこの場合は、特に、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされる場合は、該操作受付に応じた前記受付後変化の１つとして演出表示手段における表示変化が生じる場合と、該表示変化が生じない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し難くされる場合と、認識し易くされる場合との両方があるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで第１操作手段を操作状態に維持するときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【２０４７】

また、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされた結果、該操作受付に応じた上記受付後変化の１つとして「演出表示手段における表示変化」が生じた場合であっても、この際、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化とは異なる変化」が複数回実行されうるのに対し、受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化」が複数回実行されることがないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し易くされたとしても、さらに操作状態を維持したときにオート連打機能も有効化されることについては認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２０４８】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０４９】

また、当該構成４７－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとし

ても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０５０】

また、当該構成４７－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０５１】

［構成４８－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【２０５２】

なお、当該構成４８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４８－Ｂの技術思想を説明するために用い

ている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０５３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０５４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２０５５】

また、このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、該第１操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に関しては、第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、第２操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【２０５６】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の

終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０５７】

また、当該構成４８－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０５８】

また、当該構成４８－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０５９】

［構成４９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されているときに前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【２０６０】

なお、当該構成４９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成４９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０６１】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されているときに第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０６２】

またこの場合は、特に、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２０６３】

また、このような構成によれば、第１操作手段に関しては、第１操作関連表示が表示されるとき、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、該第１操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に関しては、第２操作関連表示が表示されるときは第２操作促進音が必ず出力されるようになっているものの、第２操作関連表示が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【２０６４】

なお、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【２０６５】

また、当該構成４９－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段

を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０６６】

また、当該構成４９－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０６７】

［構成５０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【２０６８】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成５０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成５０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の

構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【２０６９】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０７０】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作手段が操作状態に維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２０７１】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２０７２】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２０７３】

また、当該構成５０－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段

を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０７４】

また、当該構成５０－Ｂを実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０７５】

また、当該構成５０－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【２０７６】

［構成５１－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【２０７７】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すこ

とが期待されうる。なお、当該構成５１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０７８】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０７９】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし、第２操作手段が操作状態に維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２０８０】

また、このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２０８１】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、

第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２０８２】

また、当該構成５１－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０８３】

また、当該構成５１－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０８４】

また、当該構成５１－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【２０８５】

［構成５２－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに

応じた非操作後表示が表示されうるようにした。
【２０８６】
すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成５２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２０８７】
そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。
【２０８８】
またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。
【２０８９】
また、このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【２０９０】
なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて

第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２０９１】

また、当該構成５２－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２０９２】

また、当該構成５２－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２０９３】

［構成５３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【２０９４】

すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成５３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関

連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２０９５】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２０９６】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２０９７】

また、このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【２０９８】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２０９９】

また、当該構成５３－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関

連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１００】

また、当該構成５３－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１０１】

［構成５４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【２１０２】

なお、当該構成５４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１０３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１０４】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２１０５】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【２１０６】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１０７】

また、当該構成５４－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１０８】

また、当該構成５４－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関

連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１０９】

［構成５５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段及び第２操作手段のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【２１１０】

なお、当該構成５５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１１１】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操

作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１１２】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされる場合は、該操作受付に応じた前記受付後変化の１つとして演出表示手段における表示変化が生じる場合と、該表示変化が生じない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し難くされる場合と、認識し易くされる場合との両方があるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで第１操作手段を操作状態に維持するときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【２１１３】

また、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされた結果、該操作受付に応じた上記受付後変化の１つとして「演出表示手段における表示変化」が生じた場合であっても、この際、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化とは異なる変化」が複数回実行されうるのに対し、受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化」が複数回実行されることがないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し易くされたとしても、さらに操作状態を維持したときにオート連打機能も有効化されることについては認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２１１４】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１１５】

また、当該構成５５－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１１６】

また、当該構成５５－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１１７】
［構成５６－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されず且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されうるようにしたから、第１操作関連表示が表示されずに第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。
【２１１８】
　なお、当該構成５６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２１１９】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示

が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１２０】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第１操作手段に対する操作を促す画像表示である操作促進発光が実行されず、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、該操作促進発光が実行されない場合との両方があるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、操作促進発光が実行されないことによる秘匿性が提供されるようになり、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１２１】

また、このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が実行されることがないものの、第１操作手段を操作状態に維持しておけば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるなかで第１操作手段に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示が表示されているときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作関連表示によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１２２】

また、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２１２３】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１２４】

また、当該構成５６－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１２５】

また、当該構成５６－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されている

なかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１２６】

［構成５７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されておらず且つ前記第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態から、前記第１操作関連表示が表示されないままで前記第１操作手段に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、これを契機として前記第１操作促進音は出力されず、前記第２操作関連表示が表示されておらず且つ前記第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態から、前記第２操作関連表示が表示されないままで前記第２操作手段に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、これを契機として前記第２操作促進音は出力されないようにしたから、操作関連表示が表示されずに操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【２１２７】

なお、当該構成５７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１２８】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操

作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１２９】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示は、第１態様及び第２態様を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能であり、第１操作関連表示が第１態様で表示されるときは、第１操作促進音が出力されず、第１操作関連表示が第２態様で表示されるときは、第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、その表示態様に応じて、操作促進音が実行されないことによる秘匿性が提供されうるから、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１３０】

また、このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が出力されることがないものの、第１操作手段を操作状態に維持しておけば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるなかで第１操作手段に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示が表示されているときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作関連表示によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１３１】

また、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２１３２】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１３３】

また、当該構成５７－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１３４】

また、当該構成５７－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されている

なかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１３５】

［構成５８－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【２１３６】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成５８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成５８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【２１３７】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続け

て該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１３８】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作手段が操作状態に維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２１３９】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作関連表示が表示されていないなかで第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたときには、それ以降、第２操作関連表示が表示されるときまで（若しくは、表示された以降も）第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２１４０】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１４１】

また、当該構成５８－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１４２】

また、当該構成５８－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなか

で操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１４３】

また、当該構成５８－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【２１４４】

［構成５９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【２１４５】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。なお、当該構成５９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成５９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示

と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１４６】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１４７】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし、第２操作手段が操作状態に維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２１４８】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示が非表示の状態にされているなかで第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作関連表示が表示されていないなかで第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れたときには、それ以降、第２操作関連表示が表示されるときまで（若しくは、表示された以降も）第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２１４９】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示さ

れていない状態において終了されうることとなる。
【２１５０】
　また、当該構成５９－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。
【２１５１】
　また、当該構成５９－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【２１５２】
　また、当該構成５９－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。
【２１５３】
［構成６０－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。
【２１５４】
　すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受

付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成６０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１５５】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１５６】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【２１５７】

また、このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該第１操作関連表示が表示されているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【２１５８】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１５９】
　また、当該構成６０－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。
【２１６０】
　また、当該構成６０－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【２１６１】
［構成６１－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。
【２１６２】
　すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成６１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を

意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１６３】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１６４】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２１６５】

また、このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該第１操作関連表示が表示されているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【２１６６】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１６７】

また、当該構成６１－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作

手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。
【２１６８】
　また、当該構成６１－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【２１６９】
［構成６２－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。
【２１７０】
　なお、当該構成６２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２１７１】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行さ

れる状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１７２】

またこの場合は、特に、第１操作手段が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し、第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２１７３】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段を操作状態に維持し続けると、該第１操作関連表示が表示されているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くするから、第１操作手段については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【２１７４】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１７５】

また、当該構成６２－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１７６】

また、当該構成６２－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操

作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１７７】

［構成６３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、演出に関する表示が行われる演出表示手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段に対する操作受付がなされた場合は、前記受付後変化として、前記演出表示手段における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段及び第２操作手段のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【２１７８】

なお、当該構成６３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１７９】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作

手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１８０】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、該第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持した上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされる場合は、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして演出表示手段における表示変化が生じる場合と、該表示変化が生じない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持した上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し難くされる場合と、認識し易くされる場合との両方があるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ、第１操作手段を操作状態に維持し続けるときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【２１８１】

また、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた後、該第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持した上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされた結果、該操作受付に応じた上記受付後変化の１つとして「演出表示手段における表示変化」が生じた場合であっても、この際、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化とは異なる変化」が複数回実行されうるのに対し、受付後変化の１つである「演出表示手段における表示変化」が複数回実行されることがないようにしてもよい。このような構成によれば、該第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持した上記操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が再びなされたことを認識し易くされたとしても、さらに操作状態を維持したときにオート連打機能も有効化されることについては認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【２１８２】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１８３】

また、当該構成６３－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１８４】

また、当該構成６３－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい

。

【２１８５】

［構成６４－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されず且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されうるようにしたから、第１操作関連表示が表示されずに第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【２１８６】

なお、当該構成６４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１８７】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作

手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１８８】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第１操作手段に対する操作を促す画像表示である操作促進発光が実行されず、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、該操作促進発光が実行されない場合との両方があるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、操作促進発光が実行されないことによる秘匿性が提供されるようになり、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１８９】

また、このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が実行されることがないものの、第１操作手段を操作状態に維持しておけば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるなかで第１操作手段に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示が表示されているときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作関連表示によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１９０】

また、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２１９１】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２１９２】

また、当該構成６４－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２１９３】

また、当該構成６４－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作

関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【２１９４】

［構成６５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態においても、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようになっており、前記第２操作関連表示が表示されていない状態において前記第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降、前記第２操作関連表示が表示される状態が現れるときまで前記第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【２１９５】

なお、当該構成６５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２１９６】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、該第１操作関連表示が

表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【２１９７】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示は、第１態様及び第２態様を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能であり、第１操作関連表示が第１態様で表示されるときは、第１操作促進音が出力されず、第１操作関連表示が第２態様で表示されるときは、第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、その表示態様に応じて、操作促進発光が実行されないことによる秘匿性が提供されうるから、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１９８】

また、このような構成によれば、第１操作関連表示が非表示の状態にあるときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が出力されることがないものの、第１操作関連表示が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで（満たされた以降も）、第１操作手段を操作状態に維持しておけば、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示が表示されているときは第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作関連表示によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【２１９９】

また、（第２操作手段に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【２２００】

なお、第１操作関連表示が表示されていない状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。また、第２操作関連表示が表示されていない状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が表示されていない状態において終了されうることとなる。

【２２０１】

また、当該構成６５－Ｂを実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【２２０２】

また、当該構成６５－Ｂを実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい

。
【２２０３】
［構成６６－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。
【２２０４】
　すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が現れたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときにはそれを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成６６－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成６６－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。
【２２０５】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。
【２２０６】
　またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）

必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあるなかで、第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２２０７】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２０８】

また、当該構成６６－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【２２０９】

［構成６７－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【２２１０】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が現れたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときにはそれを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成６７－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６７－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２１１】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい。

【２２１２】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあるなかで、第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２２１３】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）とされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２１４】

また、当該構成６８－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【２２１５】
［構成６８－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。
【２２１６】
　すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されてから第２操作手段を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成６８－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６８－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２２１７】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合はないようにしてもよい。
【２２１８】
　またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が必ず実行されるが、該操作促進発光が実行されている状況下において、第２操作手段が操

作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【２２１９】

このような構成によれば、第１操作手段については、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２２０】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合と、該非操作後表示が表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段についても、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【２２２１】

なお、当該構成６８－Ｂについては、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表示や第２操作関連表示の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段については、第１操作関連表示の有無は問わず、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作関連表示の有無は問わず、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されることとなる。

【２２２２】

［構成６９－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表

示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【２２２３】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されてから第２操作手段を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成６９－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成６９－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２２４】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。

【２２２５】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が必ず実行されるが、該操作促進発光が実行されている状況下において、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２２２６】

このような構成によれば、第１操作手段については、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから

、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２２７】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段についても、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【２２２８】

なお、当該構成６９－Ｂについては、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表示や第２操作関連表示の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段については、第１操作関連表示の有無は問わず、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作関連表示の有無は問わず、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されることとなる。

【２２２９】

［構成７０－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操

作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示が表示され且つ前記第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【２２３０】

なお、当該構成７０－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成７０－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２３１】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、第１操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。

【２２３２】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が必ず実行されるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあり且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２２３３】

このような構成によれば、第１操作手段については、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が有効化されるときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうることに加えて、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【２２３４】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に

応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制しつつ、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されうる。

【２２３５】

なお、当該構成７０－Ｂについては、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表示や第２操作関連表示の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。

【２２３６】

［構成７１－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした。

【２２３７】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す第２操作促進音が出力されたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときにはそれを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成７１－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成７１－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【２２３８】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるが、いずれの場合であっても、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。

【２２３９】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２２４０】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２４１】

また、当該構成７１－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【２２４２】

［構成７２－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり、前記第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じ

た受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした。

【２２４３】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す第２操作促進音が出力されたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときにはそれを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、当該構成７２－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成７２－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２４４】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい。

【２２４５】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【２２４６】

このような構成によれば、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２４７】

また、当該構成７２－Ｂを実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【２２４８】

［構成７３－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な

第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした。

【２２４９】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す第２操作促進音が出力されてから第２操作手段を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成７３－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成７３－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２５０】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【２２５１】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい。

【２２５２】

このような構成によれば、第１操作手段については、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示されるときに第１操作促進音を必ずしも出力しないから、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２５３】
　また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合と、該非操作後表示が表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段についても、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。
【２２５４】
［構成７４－Ｂ］
　また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり、前記第２操作手段が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。
【２２５５】
　すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す第２操作促進音が出力されてから第２操作手段を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成７４－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成７４－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。
【２２５６】
　そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。
【２２５７】
　またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段が操作状態から非

操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２２５８】

このような構成によれば、第１操作手段については、その操作状態が解除されて該第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示されるときに第１操作促進音を必ずしも出力しないから、第１操作手段に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、その操作状態が解除されて該第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２５９】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段についても、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【２２６０】

［構成７５－Ｂ］

また、例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な第１操作手段及び第２操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段を操作状態に維持した場合、該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段を操作状態に維持した場合、該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり、前記第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段を非操作状態にした後、前記第２操作手段を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにした。

【２２６１】

すなわちこの場合、第２操作手段に対する操作を促す第２操作促進音が出力されてから第２操作手段を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。なお、当該構成７５－Ｂにかかる「第１操作手段」、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」は、当該構成７５－Ｂの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「第１操作手段」

、「第２操作手段」、「第１操作関連表示」、「第２操作関連表示」と同じ操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」を意味するものであってもよい。

【２２６２】

そしてこの場合、第１操作関連表示が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段を非操作状態にした後、第１操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【２２６３】

またこの場合は、特に、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【２２６４】

このような構成によれば、第１操作手段については、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示が表示されるときに第１操作促進音を必ずしも出力しないから、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が有効化されるときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうることに加えて、第２操作関連表示が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【２２６５】

また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段を操作状態から非操作状態にした後、第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制しつつ、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されうる。

【２２６６】

［構成１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作（特別操作手段を特定操作状態にする操作）の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示され

ていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２２６７】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかでは、特別操作関連表示が表示されていない状況下（いわゆる秘匿性の有効期間が発生している状態）にあるときに限り、特定動画に関連した一連の特別演出が生じるようになるから、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、特別変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２２６８】

そしてこの場合、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２２６９】

このような構成によれば、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合には、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって「特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合」における遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２２７０】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２２７１】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２２７２】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２２７３】

また、当該構成１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２２７４】

［構成２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされ

ると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。

【２２７５】

すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２２７６】

そしてこの場合、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣をさらに向上させることが期待されるようになる。

【２２７７】

また、所定操作関連表示が表示されないなかで所定操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示される動画区間が現れることがなく、特定動画が表示されない非動画区間しかないようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されないなかで所定操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態よりも、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生したときのほうが遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２２７８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付

けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２２７９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２２８０】

また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。

【２２８１】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。

【２２８２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２２８３】

なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２２８４】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２２８５】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複

数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【２２８６】

また、当該構成２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２２８７】

［構成３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２２８８】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が秘匿性のあるなかで発生した状況下にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２２８９】
そしてこの場合、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣をさらに向上させることが期待されるようになる。
【２２９０】
また、所定操作関連表示が表示されないなかで所定操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示される動画区間が現れることがなく、特定動画が表示されない非動画区間しかないようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されないなかで所定操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態よりも、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生したときのほうが遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２２９１】
また、特別操作関連表示が表示されず且つ特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。
【２２９２】
このような構成によれば、特別操作関連表示が表示されず且つ特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２２９３】
なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。
【２２９４】
また、当該構成３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２２９５】
［構成４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示が表示されないなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２２９６】

すなわちこの場合、特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２２９７】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２２９８】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２２９９】

ただしこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化

が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２３００】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２３０１】

また、当該構成４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３０２】

［構成５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合との両方があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２３０３】

すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし

、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３０４】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であるが、当該状況下にある場合であっても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ上記自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２３０５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２３０６】

また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下にあるときには、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が発生しているなかでも条件成立可能であるが、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい。

【２３０７】

なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【２３０８】

若しくは、上記［構成５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、少なくとも、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ上記自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるようにしてもよい。

【２３０９】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下にあるときには、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるようにしてもよい。そして、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受

付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３１０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２３１１】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３１２】

特定動画については、特別操作関連表示が表示されている状態においては、その動画にかかる表示を開始することがない（開始条件が成立することがない）ようにしてもよい。

【２３１３】

また、当該構成５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３１４】

［構成６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、前記所定操作関連表示が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容

される状態が発生し、該状態が継続しているなかで前記特定動画の表示が開始された場合、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２３１５】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３１６】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３１７】

また、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２３１８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、こ

れによって「所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合」における遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２３１９】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２３２０】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２３２１】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２３２２】

若しくは、上記［構成６－Ｃ］にかかる「特定動画の表示にかかる開始条件」については、上述した構成に代えて、「前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示されないなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示開始されることがあったときにも、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。

【２３２３】

そしてこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３２４】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２３２５】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２３２６】
また、当該構成６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２３２７】
［構成７－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、前記所定操作関連表示が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生し、該状態が継続しているなかで前記特定動画の表示が開始された場合、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に

基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにしてもよい。

【２３２８】

すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３２９】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３３０】

また、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２３３１】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操

作手段を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２３３２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２３３３】

また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。

【２３３４】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。

【２３３５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２３３６】

なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２３３７】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２３３８】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として

生じさせることも可能である。
【２３３９】
特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【２３４０】
若しくは、上記［構成７－Ｃ］にかかる「特定動画の表示にかかる開始条件」については、上述した構成に代えて、「前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示されないなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示開始されることがあったときにも、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。
【２３４１】
そしてこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２３４２】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２３４３】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２３４４】
また、当該構成７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画

が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３４５】

［構成８－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、前記所定操作関連表示が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生し、該状態が継続しているなかで前記特定動画の表示が開始された場合、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２３４６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３４７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されない

ときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがない」ものとして用意するようにしてもよい。

【２３４８】

そしてこの場合、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２３４９】

また、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２３５０】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２３５１】

なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【２３５２】

特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【２３５３】

若しくは、上記［構成８－Ｃ］にかかる「特定動画の表示にかかる開始条件」については、上述した構成に代えて、「前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示されないなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示開始されることがあったときにも、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。

【２３５４】

そしてこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特別

操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３５５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２３５６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３５７】

また、当該構成８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３５８】

［構成９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示

されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、前記所定操作関連表示が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２３５９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３６０】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３６１】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２３６２】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２３６３】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２３６４】
ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。
【２３６５】
特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【２３６６】
若しくは、上記［構成９－Ｃ］にかかる「特定動画の表示にかかる開始条件」については、上述した構成に代えて、「前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示されないなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作関連表示が表示開始されることがあったときにも、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。
【２３６７】
そしてこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２３６８】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２３６９】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示され

ているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３７０】

また、当該構成９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３７１】

［構成１０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、前記所定操作関連表示が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生して、該状態において前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２３７２】

すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成１０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成１０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、

「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３７３】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３７４】

そしてこの場合、所定操作関連表示が表示されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２３７５】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した状況が現れたとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、該発生した状態内で特別操作手段に対する操作受付がなされ、これに応じた受付後変化が実行開始されると、その後、上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい

【２３７６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２３７７】

また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されないなかで「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れたとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することが

ないようにすることがより望ましい。
【２３７８】
なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。
【２３７９】
特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【２３８０】
若しくは、上記［構成１０－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されないなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示開始されることがあったときにも、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。
【２３８１】
そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されないなかで「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れたとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるが、特別操作手段に対する操作を行っておらず自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２３８２】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２３８３】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合

には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２３８４】

また、当該構成１０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３８５】

［構成１１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２３８６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３８７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特

定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３８８】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２３８９】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２３９０】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２３９１】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２３９２】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付が

なされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２３９３】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２３９４】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２３９５】

また、当該構成１１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２３９６】

［構成１２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてからの特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付

後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。

【２３９７】

すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成１２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成１２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２３９８】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２３９９】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２４００】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４０１】
　また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２４０２】
　そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。
【２４０３】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２４０４】
　また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。
【２４０５】
　また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。
【２４０６】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【２４０７】
　なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなさ

れたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２４０８】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２４０９】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【２４１０】

特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【２４１１】

また、当該構成１２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４１２】

［構成１３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回

許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２４１３】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成１３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成１３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４１４】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示が表示開始されてからの特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４１５】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２４１６】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４１７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れ

る場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２４１８】

そして、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２４１９】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２４２０】

なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【２４２１】

特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【２４２２】

また、当該構成１３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４２３】

［構成１４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場

合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２４２４】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成１４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４２５】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４２６】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２４２７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４２８】
そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。
【２４２９】
このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【２４３０】
また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。
【２４３１】
ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。
【２４３２】
また、当該構成１４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２４３３】
［構成１５－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手

段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２４３４】

すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成１５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成１５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４３５】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４３６】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２４３７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようにな

るから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４３８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２４３９】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合であっても（さらには、特別操作関連表示が表示されていなかった場合であっても）、上記特定時間が経過する時点で、自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには条件成立することがないようにしてもよい。

【２４４０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２４４１】

また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過する時点で「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れていたとしても、該特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい。

【２４４２】

なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【２４４３】

若しくは、上記［構成１５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点で、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立することがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示は第１態様で表示されている状況下にあったか、若しくは特別操作関連表示が表示されていない状況下にあったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示は第２態様で表示されている状況下にあったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【２４４４】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持す

る操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２４４５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２４４６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２４４７】

また、当該構成１５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４４８】

［構成１６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示

されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２４４９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４５０】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４５１】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２４５２】

このような構成によれば、所定操作関連表示が非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始された時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４５３】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ

、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２４５４】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２４５５】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２４５６】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２４５７】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２４５８】

また、当該構成１６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光さ

れない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４５９】

［構成１７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。

【２４６０】

すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成１７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４６１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始

される時点で前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４６２】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２４６３】

このような構成によれば、所定操作関連表示が非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始された時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４６４】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２４６５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２４６６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２４６７】

また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手

段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。

【２４６８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。

【２４６９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２４７０】

なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２４７１】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２４７２】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【２４７３】

また、当該構成１７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４７４】

［構成１８－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。
【２４７５】
すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成１８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２４７６】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【２４７７】
またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示が表示開始さ

れる時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２４７８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始された時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２４７９】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２４８０】

そして、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２４８１】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２４８２】

なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【２４８３】

また、当該構成１８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２４８４】

［構成１９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２４８５】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成１９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４８６】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４８７】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立

することがないようにしてもよい。
【２４８８】
このような構成によれば、所定操作関連表示が非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始された時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２４８９】
そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。
【２４９０】
このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【２４９１】
また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。
【２４９２】
ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。
【２４９３】
また、当該構成１９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２４９４】
［構成２０－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、

前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２４９５】

すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成２０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成２０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２４９６】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２４９７】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２４９８】
このような構成によれば、所定操作関連表示が非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始された時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２４９９】
また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２５００】
また、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合であっても、所定操作関連表示が非表示にされる時点で、自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには条件成立することがないようにしてもよい。
【２５０１】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２５０２】
また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が非表示にされる時点で「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れていたとしても、該非表示にされるときにこれを契機として（所定操作関連表示が非表示にされる所定条件が満たされたことを契機として）条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい。
【２５０３】
なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。
【２５０４】
若しくは、上記［構成２０－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに（その非表示にされるための所定条件が満たされたことに基づいて）条件成立することがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示は第１態様で表示されている状況下にあったか、若しくは特別操作関連表示が表示されていない状況下にあったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示は第２態様で表示されている状況下にあったときには

条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【２５０５】
すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２５０６】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２５０７】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２５０８】
また、当該構成２０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２５０９】
［構成２１－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、

前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２５１０】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成２１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成２１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５１１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５１２】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５１３】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５１４】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生

じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２５１５】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２５１６】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２５１７】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２５１８】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２５１９】

また、当該構成２１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間

」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２５２０】
［構成２２－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてからの特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。
【２５２１】
すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成２２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成２２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２５２２】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前

記所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５２３】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５２４】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５２５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２５２６】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２５２７】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２５２８】

また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。

【２５２９】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回

しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。
【２５３０】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【２５３１】
なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。
【２５３２】
また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
【２５３３】
また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【２５３４】
また、当該構成２２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２５３５】
［構成２３－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対

する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２５３６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成２３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成２３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５３７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５３８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５３９】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５４０】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態

内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２５４１】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２５４２】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２５４３】

なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【２５４４】

また、当該構成２３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２５４５】

［構成２４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示

は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２５４６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成２４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成２４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５４７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５４８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５４９】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５５０】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２５５１】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２５５２】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２５５３】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２５５４】

また、当該構成２４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２５５５】

［構成２５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２５５６】
すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成２５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成２５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５５７】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、前記所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５５８】
このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５５９】
またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５６０】
また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２５６１】
また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過する時点で「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れていたとしても、該特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい。

【２５６２】
なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。
【２５６３】
若しくは、上記［構成２５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点で、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立することがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【２５６４】
すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２５６５】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２５６６】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２５６７】
また、当該構成２５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」

、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２５６８】

［構成２６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２５６９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成２６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成２６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５７０】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５７１】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５７２】
　またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。
【２５７３】
　また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。
【２５７４】
　このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。
【２５７５】
　なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。
【２５７６】
　また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
【２５７７】
　また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」と

して生じさせることも可能である。
【２５７８】
　また、当該構成２６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２５７９】
［構成２７－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があるようにした。
【２５８０】
　すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成２７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成２７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を

意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２５８１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２５８２】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２５８３】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５８４】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２５８５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が必ず機能するのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合とがあり、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合と、該自動操作受付が機能しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２５８６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２５８７】

また、所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されて

いる間は、必ず、自動操作受付が機能しない状態として発生している（所定操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されるが自動操作受付が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。

【２５８８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されている間は、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されて自動操作受付が機能しうる状態として発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されておらず自動操作受付が機能し得ない状態（特別操作手段に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合との両方があるようにしてもよい。

【２５８９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画が表示されている間に限っては、所定操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２５９０】

なお、特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２５９１】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２５９２】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【２５９３】

また、当該構成２７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間

」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２５９４】
［構成２８－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。
【２５９５】
すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成２８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成２８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２５９６】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【２５９７】
このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２５９８】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２５９９】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２６００】

そして、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２６０１】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２６０２】

なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【２６０３】

また、当該構成２８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２６０４】

［構成２９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表

示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２６０５】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成２９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成２９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２６０６】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６０７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２６０８】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２６０９】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２６１０】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向

上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２６１１】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２６１２】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２６１３】

また、当該構成２９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２６１４】

［構成３０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記

受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。
【２６１５】
すなわちこの場合、特別操作手段に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成３０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成３０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「第１配色及び第２配色」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２６１６】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている前記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【２６１７】
このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２６１８】
またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。
【２６１９】
また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２６２０】
またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色で表示されている所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないようになっており、且つ第１配色で表示されている所定操作関連表示が非表示にされる場合であっても、該所定操作関連表示が非表示にされる時点で、自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには条件成立することがないようにしてもよい。
【２６２１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６２２】

また、この場合は、特に、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が非表示にされる時点で「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」が現れていたとしても、該非表示にされるときにこれを契機として（所定操作関連表示が非表示にされる所定条件が満たされたことを契機として）条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい。

【２６２３】

なおこの場合、自動操作受付を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段に対する操作を終了して自動操作受付が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【２６２４】

若しくは、上記［構成３０－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに（その非表示にされるための所定条件が満たされたことに基づいて）条件成立することがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【２６２５】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６２６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開

始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６２７】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６２８】

また、当該構成３０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２６２９】

［構成３１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２６３０】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成３１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成３１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画

、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２６３１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるが、前記特別操作手段に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６３２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６３３】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２６３４】

ただし、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において所定操作関連表示が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい。

【２６３５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて自動操作受付が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、自動操作受付が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化が上記自動操作受付の機能の対象とされることなく１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２６３６】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特

別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２６３７】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２６３８】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２６３９】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２６４０】

若しくは、上記［構成３１－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい。

【２６４１】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６４２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状

況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６４３】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６４４】

また、当該構成３１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２６４５】

［構成３２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２６４６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成３２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成３２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２６４７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるが、前記特別操作手段に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６４８】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６４９】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２６５０】

ただし、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において所定操作関連表示が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい。

【２６５１】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２６５２】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操

作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。
【２６５３】
このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２６５４】
なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。
【２６５５】
若しくは、上記［構成３２－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい。
【２６５６】
すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２６５７】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２６５８】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生

じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２６５９】
　また、当該構成３２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２６６０】
［構成３３－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。
【２６６１】
　すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成３３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成３３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２６６２】
　この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるもので

あり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるが、前記特別操作手段に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６６３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６６４】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２６６５】

ただし、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において所定操作関連表示が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい。

【２６６６】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２６６７】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２６６８】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２６６９】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２６７０】

若しくは、上記［構成３３－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連

表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい。

【２６７１】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６７２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６７３】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６７４】

また、当該構成３３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２６７５】

［構成３４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受

付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２６７６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成３４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」は、当該構成３４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２６７７】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６７８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画が開始されることがなくなるから、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６７９】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機とし

て条件成立可能であるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、条件成立することがないことは言うまでもない。

【２６８０】

またこの場合は、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２６８１】

またさらに、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２６８２】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて自動操作受付が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、自動操作受付が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化が上記自動操作受付の機能の対象とされることなく１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２６８３】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２６８４】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにし

てもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２６８５】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２６８６】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２６８７】

若しくは、上記［構成３４－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２６８８】

ただしこの際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作をやり直すと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、上記特定時間が経過するときまで特別操作手段に対する操作を継続し且つ該特定時間が経過する時点においては上記自動操作受付が機能することにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６８９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６９０】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２６９１】
　また、当該構成３１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２６９２】
［構成３５－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画の表示が開始されて、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。
【２６９３】
　すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成３５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成３５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２６９４】
　この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作

の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２６９５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画が開始されることがなくなるから、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２６９６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、条件成立することがないことは言うまでもない。

【２６９７】

またこの場合は、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２６９８】

またさらに、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２６９９】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２７００】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操

作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。
【２７０１】
このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２７０２】
なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。
【２７０３】
若しくは、上記［構成３５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。
【２７０４】
ただしこの際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作をやり直すと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、上記特定時間が経過するときまで特別操作手段に対する操作を継続し且つ該特定時間が経過する時点においては上記自動操作受付が機能することにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２７０５】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【２７０６】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２７０７】

また、当該構成３５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７０８】

［構成３６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けは許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２７０９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。当該構成３５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」は、当該構成３５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、、「特定動画」、「特定時間」、「特別変化」と同じ操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、操作関連表示、配色、動画、時間、変化と同じ「操作手段」や、「操作関連表示」、「配色」、「動画」、「時間」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７１０】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状

態が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２７１１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２７１２】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２７１３】

ただし、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において所定操作関連表示が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい。

【２７１４】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２７１５】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２７１６】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２７１７】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２７１８】

若しくは、上記［構成３６－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態

が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２７１９】

ただしこの際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作をやり直すと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、上記特定時間が経過するときまで特別操作手段に対する操作を継続し且つ該特定時間が経過する時点においては上記自動操作受付が機能することにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２７２０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２７２１】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２７２２】

また、当該構成３６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７２３】

［構成３７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた

受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして第１特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２７２４】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成３７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「第１特別変化」は、当該構成３７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「第１特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７２５】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７２６】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７２７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２７２８】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持

する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２７２９】

なお、第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【２７３０】

また、第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【２７３１】

また、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２７３２】

また、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」の発生条件については、特定動画にかかる表示が実行されていない状況下にあるときと、特定動画にかかる表示が実行されている状況下にあるときとのいずれの状況下にあるなかでも満たされうるように設定することが望ましい。

【２７３３】

そしてこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」が先に発生しているなかで特定動画にかかる表示が開始されて、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画にかかる表示が先に実行されているなかで「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」が発生して、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【２７３４】

なお、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」については、特定動画が表示開始された場合、該特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされて発生する場合と、該特定動画が表示されてから非表示にされるまでの間にその発生条件が満たされずに発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２７３５】

また、当該構成３７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特

定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７３６】

［構成４０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生するか否かにかかわらず、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２７３７】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７３８】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生するか否かにかかわらず、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２７３９】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７４０】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７４１】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当

該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２７４２】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあり且つ所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるなかで、特定動画にかかる表示が開始された場合、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで終了されうるが、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで終了されることがないようにしてもよい。

【２７４３】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、当該状態内で特別操作関連表示が表示される状況が現れないときには上記タイミングが到来したことを契機として条件成立する場合があるが、当該状態内で特別操作関連表示が表示される状況が現れたときには上記タイミングが到来したことを契機として条件成立することがないものとして設定するようにしてもよい。

【２７４４】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したとしても、該特定時間が経過したときに特定動画が表示開始される場合があるが、この場合とは、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が秘かに発生したとき（特別操作関連表示が表示される状況が現れずに発生したとき）に限られるようになっているから、遊技者は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間は、特別操作関連表示が表示されないときの遊技興趣の低下を抑制することはもとより、逆に、遊技興趣の向上を図ることすらも期待できるようになる。

【２７４５】

また、以下の各構成については、［構成４０－Ｃ］～［構成４７－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

・第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

・特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）

検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。
・「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」の発生条件については、特定動画にかかる表示が実行されていない状況下にあるときと、特定動画にかかる表示が実行されている状況下にあるときとのいずれの状況下にあるなかでも満たされうるように設定することが望ましい。
・「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」が先に発生しているなかで特定動画にかかる表示が開始されて、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画にかかる表示が先に実行されているなかで「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」が発生して、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。
・「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」については、特定動画が表示開始された場合、該特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされて発生する場合と、該特定動画が表示されてから非表示にされるまでの間にその発生条件が満たされずに発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【２７４６】

また、当該構成４０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７４７】

［構成４１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときと、該特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときとのいずれにおいても表示開始されうる遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受

付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。
【２７４８】
すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２７４９】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。
【２７５０】
また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。
【２７５１】
また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。
【２７５２】
また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２７５３】
また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。
【２７５４】
例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であ

るが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２７５５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２７５６】

なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【２７５７】

また、当該構成４１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７５８】

［構成４２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときと、該特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときとのいずれにおいても表示開始されうる遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定

動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２７５９】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７６０】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２７６１】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７６２】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７６３】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２７６４】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらずこれを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にある場合は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２７６５】
例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらずこれを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。
【２７６６】
このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２７６７】
なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。
【２７６８】
また、当該構成４２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２７６９】
［構成４３－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経

過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２７７０】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１配色及び第２配色」、「特別変化」は、当該構成４３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１配色及び第２配色」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、配色、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、配色、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、配色、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「配色」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７７１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２７７２】

また、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を有し、特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があるようにしてもよい。

【２７７３】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７７４】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７７５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２７７６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに

該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるが、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２７７７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２７７８】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２７７９】

なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【２７８０】

また、当該構成４３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７８１】

［構成４４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回

許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２７８２】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１配色及び第２配色」、「特別変化」は、当該構成４４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「第１配色及び第２配色」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、配色、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、配色、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、配色、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「配色」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７８３】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された前記所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２７８４】

また、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を有し、特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があるようにしてもよい。

【２７８５】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７８６】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７８７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２７８８】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として条件成立しうるものであるが、第１配

色で表示されている上記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し、第２態様で表示されている上記所定操作関連表示が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２７８９】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２７９０】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２７９１】

なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【２７９２】

また、当該構成４４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２７９３】

［構成４５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能しうる遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複

数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２７９４】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２７９５】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にない場合とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２７９６】

また、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を有し、特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があるようにしてもよい。

【２７９７】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２７９８】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２７９９】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２８００】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるが、特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が上記自動操作受付

の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２８０１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画が開始されることがなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２８０２】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２８０３】

なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【２８０４】

若しくは、上記［構成４５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付が機能することにより受付後変化が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい。

【２８０５】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２８０６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開

始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２８０７】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２８０８】

また、当該構成４５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８０９】

［構成４６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能しうる遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生しても、条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が現れうるようにした。

【２８１０】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味する

ものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８１１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生しても、条件成立可能であるものとして用意するようにしてもよい。

【２８１２】

また、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を有し、特別操作関連表示が表示されていない状況下においても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される場合があるようにしてもよい。

【２８１３】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段との関係では、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【２８１４】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段との関係では、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい。

【２８１５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２８１６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２８１７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画が開始されることがなくなるから、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２８１８】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過する時点において「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、条件成立することがないことは言うまでもない。

【２８１９】

またこの場合は、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２８２０】

またさらに、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２８２１】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２８２２】

なお、特別操作関連表示が表示されていない状況下においては、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示が表示されている状況下においても、その態様（第１態様、第２態様）にかかわらず、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生している場合と、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【２８２３】

若しくは、上記［構成４６－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能により特別操作手段に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【２８２４】

ただしこの際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作をやり直すと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、上記特定時間が経過するときまで特別操作手段に対する操作を継続し且つ該特定時間が経過する時点においては上記自動操作受付が機能することにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持し

ている上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２８２５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【２８２６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２８２７】

また、当該構成４６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８２８】

［構成４７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても条件成立可能であり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２８２９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図

ることが期待されるようになる。なお、当該構成４７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８３０】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２８３１】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２８３２】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２８３３】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２８３４】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２８３５】

また、当該構成４７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８３６】

［構成４８－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操

作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態として発生可能であり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態として発生可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態が発生しているなかで条件成立可能であり、該第１自動複数回受付状態が継続しているなかで前記特定動画の表示が開始された場合、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２８３７】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８３８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、特別操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態として必ず発生するようになっており、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態として発生する場合と、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【２８３９】

このような構成によれば、第１複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、第２複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【２８４０】

また、第１自動複数回受付状態では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操

作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２８４１】

このような構成によれば、第１自動複数回受付状態が発生した場合には、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２８４２】

また、以下の各構成については、［構成４９－Ｃ］～［構成５１－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

【２８４３】

・「特定動画の表示にかかる開始条件」については、第１自動複数回受付状態においては当該状態内で条件成立可能であるのに対し、第２自動複数回受付状態においては当該状態内で条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

・特定動画の表示にかかる開始条件は、第１自動複数回受付状態が発生している場合と該第１自動複数回受付状態が発生していない場合とのいずれにおいても条件成立可能であり、且つ第２自動複数回受付状態にが発生している場合には条件成立することがなく、該第２自動複数回受付状態が発生していない場合に限り条件成立可能であるようにしてもよい。

・第１自動複数回受付状態は、特定動画が表示されているなかでも発生可能とされるが、第２自動複数回受付状態は、特定動画が表示されているなかでは発生可能とされないようにしてもよい。

・第１自動複数回受付状態は、特別操作手段に関連した特別操作関連表示が表示されているなかで発生する場合があり、特別操作関連表示は、第１自動複数回受付状態が発生しているなかで表示開始される場合があるが、第１自動複数回受付状態が発生しているなかで特定動画にかかる表示が開始されたときには、該第１自動複数回受付状態が発生しており且つ特定動画が表示されているなかで特別操作関連表示が表示開始されることがないようにしてもよい。

・第１自動複数回受付状態は、特別操作手段に関連した特別操作関連表示が表示されているなかで発生する場合があり、特別操作関連表示は、第１自動複数回受付状態が発生しているなかで表示開始される場合があるが、特定動画が表示されているなかで第１自動複数回受付状態が発生したときには、該第１自動複数回受付状態が発生する時点で特別操作関連表示が表示状態にあることがないようにしてもよい。

・第１自動複数回受付状態においては特別操作関連表示が表示されない場合があり、第２自動複数回受付状態においては所定操作関連表示が表示されない場合があるが、所定操作関連表示が表示されることなく第２自動複数回受付状態が発生するときには、所定操作手段に対する操作受付が許容されることを示唆する所定の発光演出が実行されるのに対し、特別操作関連表示が表示されることなく第１自動複数回受付状態が発生するときには、特別操作手段に対する操作受付が許容されることを示唆する発光演出が実行されることがな

いようにしてもよい。
・第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。
・第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
・特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

【２８４４】
　また、当該構成４８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８４５】
［構成４９－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態として発生可能であり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態として発生可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態が発生しているときと、該第１自動複数回受付状態が発生していないときとのいずれにおいても、条件成立可能であり、前記第１自動複数回受付状態が発生していないときに前記特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで、前記第１

自動複数回受付状態は発生可能とされており、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２８４６】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成４９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成４９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８４７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、特別操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態として必ず発生するようになっており、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態として発生する場合と、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【２８４８】

このような構成によれば、第１複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、第２複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【２８４９】

また、第１自動複数回受付状態では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２８５０】

また、第１自動複数回受付状態が発生していないときに特定動画にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで第１自動複数回受付状態が発生可能であり、「第１自動複数回受付状態が発生しているなかで特定動画にかかる表示が開始されたときに、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合」と、「特定動画にかかる表示が実行されているなかで上記第１自動複数回受付状態が発生したときに、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合」とでは、受付後変化として同じ態様が現れるようにしてもよい。

【２８５１】

また、当該構成４９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」

、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８５２】

［構成５０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態として発生可能であり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態として発生可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態が発生しているなかで条件成立可能であり、該第１自動複数回受付状態が継続しているなかで前記特定動画の表示が開始された場合、該特定動画が表示されているなかで前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようになっており、前記第１自動複数回受付状態においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２８５３】

すなわちこの場合、第１自動複数回受付状態においては、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成５０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８５４】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、特別操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態として必ず発生するようになっており、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態として発生する場合と、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態として発生する場合との両方があるようにして

もよい。
【２８５５】
このような構成によれば、第１複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、第２複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。
【２８５６】
また、第１自動複数回受付状態では、特定動画が表示されない非動画区間と、特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２８５７】
そして、第１自動複数回受付状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合との両方があるが、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。
【２８５８】
このような構成によれば、第１自動複数回受付状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２８５９】
なお、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。
【２８６０】
また、当該構成５０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２８６１】
［構成５１－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画

表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態として発生可能であり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態として発生可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態が発生しているなかで条件成立可能であり、前記第１複数回受付状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化が生じうるようにした。

【２８６２】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８６３】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、特別操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態として必ず発生するようになっており、所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態として発生する場合と、所定操作手段を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【２８６４】

このような構成によれば、第１複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、第２複数回受付状態が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【２８６５】

また、第１自動複数回受付状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化が生じうるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２８６６】

そしてこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の

受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じ、特定動画が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２８６７】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２８６８】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２８６９】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２８７０】

また、当該構成５１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８７１】

［構成５２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるときと、該状況下にないときとのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１

つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２８７２】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８７３】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２８７４】

また、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下においては、特定動画にかかる表示が開始可能であり、この際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるが、（特定動画が表示される動画区間では）それよりも前から維持されている所定操作状態（の検出）に基づいて上記所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２８７５】

また、特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下においては、特定動画にかかる表示が開始可能であるとともに、該特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされるようにしてもよい。

【２８７６】

ただしこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生したときに、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、該第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じることはないようにすることが望ましい。

【２８７７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２８７８】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については

、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２８７９】

また、以下の各構成については、［構成５２－Ｃ］～［構成５９－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

【２８８０】

・特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画の表示にかかる開始条件が満たされた場合、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画が表示開始されるとともに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生するようにしてもよい。該発生する状態については、例えば、「特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」として発生させるようにすることが望ましい。

・特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画の表示にかかる開始条件が満たされた場合であっても、特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるなかで当該開始条件が満たされた状況下にあるときは、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画は表示開始されるが、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は発生しないようにしてもよい

・特定動画の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生しなかった場合であっても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい。ただし、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされたときには、「特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」として発生することがなく、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」としてのみ発生可能とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として発生可能とされる種別を第１種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第１特別変化を１回だけ発生可能な第１種別許容状態）とするとき、特定動画が表示されているなかでは、該第１種別の発生条件が満たされることはなく、該第１種別とは異なる第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）の発生条件だけが満たされうるように設定することとなる。

・「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）の発生条件については、特定動画が表示されているなかで条件成立可能であるように設定されることはもとより、特定動画が表示されていないなかでも条件成立可能であるように設定するようにしてもよい。

・特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときに、特定動画が表示されているなかで「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生した場合は、当該状態が発生するよりも前から維持されている上記特定操作状態の検出に基づいて特別操作手段に対する操作の受付けがなされるようにしてもよい。

・「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）は、特定動画が表示される期間内でその発生条件が満たされるとは限らないものであり、この場合、特定動画は、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）が発生しないままで終了することとなる。

・第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされ

たときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

・第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

・特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。

・特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段との関係では、該所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかでのみ、条件成立可能であるようにしてもよい。

・特定動画が表示される動画区間内では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあり、該特定動画が表示される動画区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化として、該特定動画が表示されない非動画区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときとは異なる表示変化が現れるようにしてもよい。

・特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに特別操作関連表示のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始されることがないようにしてもよい。

・特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに所定操作関連表示のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。

・ただし、特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに所定操作関連表示のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始される場合と開始されない場合との両方があるようにしてもよい。

【２８８１】

若しくは、上記［構成５２－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２８８２】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２８８３】

この点、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操

作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにしてもよい。

【２８８４】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【２８８５】

また、当該構成５２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８８６】

［構成５３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるときと、該状況下にないときとのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち前記特定動画が表示されない非動画区間においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２８８７】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段だけでなく、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。なお、当該構成５３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、

「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２８８８】
　また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。
【２８８９】
　また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２８９０】
　そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。
【２８９１】
　このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。
【２８９２】
　若しくは、上記［構成５３－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい。
【２８９３】
　そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。
【２８９４】
　この点、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにしてもよい。
【２８９５】
　このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。
【２８９６】
　また、当該構成５３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における

特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２８９７】

［構成５４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２８９８】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２８９９】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２９００】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化

の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９０１】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても条件成立可能とされるとともに、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態（特定操作状態または所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示開始された場合は、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９０２】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画が表示開始可能とされるが、その際、所定操作関連表示が表示されているなかで特別操作関連表示がさらに表示されてしまったときには、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画が表示開始されることがなくなるから、所定操作関連表示が表示されているときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９０３】

若しくは、上記［構成５４－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生するか否かにかかわらず条件成立可能とされるとともに、特定時間が経過したときに所定操作手段が操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされるが、特定時間が経過したときに特別操作手段が操作状態に維持されたままの状況下にあったときには条件成立することがないようにしてもよい。

【２９０４】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【２９０５】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生するか否かにかかわらず条件成立可能とされるとともに、特定時間が経過したときに所定操作手段が操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示開始された場合と、特定時間が経過したときに特別操作手段が操作状態に維持されたままの状況下にあった場合とでは、いずれの場合であっても、前記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９０６】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示されているなかで特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、該所定操作関連表示が表示開始されて

から特定時間が経過したときに特定動画が表示開始可能とされるが、その際、所定操作関連表示が表示されているなかで特別操作関連表示がさらに表示されてしまったときには、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画が表示開始されることがなくなるから、所定操作関連表示が表示されているときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９０７】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２９０８】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２９０９】

また、当該構成５４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９１０】

［構成５５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２９１１】
すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。
【２９１２】
また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。
【２９１３】
また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【２９１４】
この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、上記特定時間が経過したことを契機として条件成立する場合がないようにしてもよい。
【２９１５】
このような構成によれば、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、上記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがなくなるから、所定操作関連表示が表示された時点においても、特別操作関連表示に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２９１６】
例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に操作されたままの状況下にあったとしても、該特定時間が経過したことを契機として条件成立する場合があるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表

示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９１７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９１８】

若しくは、上記［構成５５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合があるとともに、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合と、特別操作手段が操作状態に維持されたままの状況下にあった場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９１９】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【２９２０】

例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該特定時間が経過したことを契機として条件成立しうるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にあった場合と、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあった場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９２１】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２９２２】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２９２３】

また、当該構成５５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９２４】

［構成５６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２９２５】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９２６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２９２７】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示さ

れない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９２８】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９２９】

このような構成によれば、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が非表示にされるときに条件成立することがなくなるから、所定操作関連表示が表示された時点においても、特別操作関連表示に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９３０】

例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に操作されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立する場合があるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２９３１】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから所定操作関連表示が非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９３２】

若しくは、上記［構成５６－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表

示が特定態様で表示されていた場合と、特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあった場合とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９３３】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【２９３４】

例えば、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立する場合があるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にあった場合と、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされた時点で特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあった場合は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立することがないようにしてもよい。

【２９３５】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２９３６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２９３７】

また、当該構成５６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９３８】

［構成５７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付

後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２９３９】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９４０】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２９４１】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９４２】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９４３】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされる

から、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９４４】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【２９４５】

若しくは、上記［構成５７－Ｃ］にあって、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立する場合があるが、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであったときと、上記特定時間が経過したときに特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあったときにはこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９４６】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【２９４７】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２９４８】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２９４９】

また、当該構成５７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９５０】

［構成５８－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付

後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段が前記特定操作状態に操作された場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２９５１】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９５２】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２９５３】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９５４】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段及び所定操作手段のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときには該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたことを契機として条件成立する場合があるが、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたことを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【２９５５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって、特定動画に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９５６】
　またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。
【２９５７】
　若しくは、上記［構成５８－Ｃ］にあって、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、所定操作手段が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、これを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであったときには該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたことを契機として条件成立する場合があるが、該所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであったときと、上記所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに上記特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあったときにはこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。
【２９５８】
　このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。
【２９５９】
　そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。
【２９６０】
　また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。
【２９６１】
　また、当該構成５８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【２９６２】
［構成５９－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた

受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるときと、該状況下にないときとのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作を行った場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作を行った場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【２９６３】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成５９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成５９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９６４】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

【２９６５】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９６６】

そしてこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示される動画区間に移行する前の上記非動画区間において特別操作手段に対する操作を行った場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、該第２特別変化とは異なる上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【２９６７】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【２９６８】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【２９６９】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１

つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。

【２９７０】

また、当該構成５９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９７１】

若しくは、上記［構成５９－Ｃ］にあって、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段が操作状態に維持されたままの状況下においては条件成立可能であるが、特別操作手段が操作状態に維持されたままの状況下においては条件成立することがないようにしてもよい。

【２９７２】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【２９７３】

そしてこの場合、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画が表示開始されるときには、その際、所定操作手段に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされることはないようにしてもよい。

【２９７４】

また、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【２９７５】

また、当該構成５９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９７６】

［構成６０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操

作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が１回だけ生じうるようにした。

【２９７７】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９７８】

また、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい。

【２９７９】

このような構成によれば、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特

別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【２９８０】

また、以下の各構成については、［構成６０－Ｃ］～［構成６６－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段を上記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われることによって上記自動操作受付が機能している状況下にあるなかでは、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

・「所定操作手段を仮に所定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能する状態」は、「特別操作手段を仮に特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能する状態」が発生している状況下においても発生可能とされるようにしてもよい。

・ただし、所定操作手段を仮に所定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能する状態」は、「特別操作手段を仮に特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間内では発生可能とされるが、特定動画が表示される動画区間内では発生することがない（所定操作手段に対する操作受付に関して上記自動操作受付が機能する状態にあることがない）ようにすることが望ましい。

・特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、該状態にない場合とのいずれの場合であっても、条件成立可能であるようにしてもよい。

・特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画の表示にかかる開始条件が満たされた場合、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画が表示開始されるとともに、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生するようにしてもよい。該発生する状態については、例えば、「特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」として発生させるようにすることが望ましい。

・特別操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画の表示にかかる開始条件が満たされた場合であっても、特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるなかで当該開始条件が満たされた状況下にあるときは、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画は表示開始されるが、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は発生しないようにしてもよい

・特定動画の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生しなかった場合であっても、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい。ただし、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画が表示されているなかでその発生条件が満たされたときには、「特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」として発生することがなく、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」としてのみ発生可能とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態については、特定動画の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として発生可能とされる種別を第１種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第１特別変化を１回だけ発生可能な第１種別許容状態）とするとき、特定動画が表示されているなかでは、該第１種別の発生条件が満たされることはなく、該第１種別とは異なる第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）の発生条件だけが満たされうるように設定することとなる。

・「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作

手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）の発生条件については、特定動画が表示されているなかで条件成立可能であるように設定されることはもとより、特定動画が表示されていないなかでも条件成立可能であるように設定するようにしてもよい。
・特別操作手段が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときに、特定動画が表示されているなかで「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生した場合は、当該状態が発生するよりも前から維持されている上記特定操作状態の検出に基づいて特別操作手段に対する操作の受付けがなされるようにしてもよい。
・「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）は、特定動画が表示される期間内でその発生条件が満たされるとは限らないものであり、この場合、特定動画は、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（特別操作手段に対する操作受付を契機として第２特別変化を複数回発生可能な第２種別許容状態）が発生しないままで終了することとなる。
・第１特別変化とは、特定動画が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画が表示されない非動画区間において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化が１回だけ生じる場合」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が複数回生じるとともに、第１特別変化及び第３特別変化が１回だけ生じるようにすることが望ましい。
・第１特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
・特定動画が表示される動画区間において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化」として生じさせることも可能である。
・特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段との関係では、該所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかでのみ、条件成立可能であるようにしてもよい。
・特定動画が表示される動画区間内では、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあり、該特定動画が表示される動画区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化として、該特定動画が表示されない非動画区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときとは異なる表示変化が現れるようにしてもよい。
・特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに特別操作関連表示のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始されることがないようにしてもよい。
・特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに所定操作関連表示のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。
・ただし、特別操作関連表示及び所定操作関連表示が表示されているときに所定操作関連表示のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画にかかる表示が開始される場合と開始されない場合との両方があるよ

うにしてもよい。
【２９８１】
　また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【２９８２】
　このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【２９８３】
　すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２９８４】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる
【２９８５】
　なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【２９８６】
　若しくは、上記［構成６０－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件について

は、特別操作手段が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときと、所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときとのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【２９８７】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【２９８８】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【２９８９】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【２９９０】

また、当該構成６０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【２９９１】

［構成６１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態に

してこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようになっており、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態のうち、前記特定動画が表示されない非動画区間においては、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にある場合と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合とがあるようにした。

【２９９２】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【２９９３】

また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【２９９４】

そしてこの場合、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画が表示される動画区間では、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【２９９５】

このような構成によれば、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」が発生した場合、当該状態では、所定操作手段に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【２９９６】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段に対する操作受付

に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【２９９７】

このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【２９９８】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【２９９９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる

【３０００】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３００１】

若しくは、上記［構成６１－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、特別操作手段が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときと、所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときとのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３００２】
このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３００３】
そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【３００４】
このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【３００５】
また、当該構成６１－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６１－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【３００６】
［構成６２－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始さ

れてから特定時間が経過するときに条件成立しうるものであるが、この際、前記所定操作手段が前記所定操作状態にされていることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあったときには、条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【３００７】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【３００８】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が現れた場合であっても、条件成立可能であるが、特定時間が経過したときに所定操作手段が所定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にあった場合は、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３００９】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過したときに特別操作手段が特別操作状態で維持されていることによって自動操作受付が機能している状況下にあった場合と、特定時間が経過したときに当該状況下になくても該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示開始された場合とでは、いずれの場合においても、条件成立可能であるが、特定時間が経過したときに所定操作手段が所定操作状態で維持されていることによって自動操作受付が機能している状況下にあった場合は、条件成立することがないようにしてもよい。

【３０１０】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【３０１１】

また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【３０１２】
　また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【３０１３】
　このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【３０１４】
　すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【３０１５】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる
【３０１６】
　なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【３０１７】
　若しくは、上記［構成６２－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到

来したことを契機として条件成立可能であるが、この際、（特定時間が経過したときに）「特別操作手段が特定操作状態で維持されていることによって自動操作受付が機能している状況」にあった場合と、「所定操作手段が所定操作状態で維持されていることによって自動操作受付が機能している状況」にあった場合と、特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が現れた場合との少なくとも１つがあったときには、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０１８】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないし、特に、特別操作手段に関しては、特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が現れたときには、この時点で、特定動画が表示開始される可能性が排除されることが明らかになるから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段及び所定操作手段に対する緊張感を高めるようにするにあたり、特に、特別操作手段に対する緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３０１９】

ただし、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【３０２０】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【３０２１】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３０２２】

また、当該構成６２－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【３０２３】

［構成６３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操

作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特別操作関連表示は、第１態様を含む複数態様のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示が表示開始される時点で前記特別操作関連表示が表示状態にあったとしても条件成立可能であるが、前記特定時間が経過するまでの間に前記所定操作手段が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付が機能する状況が現れたときには、条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【３０２４】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【３０２５】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示状態にあった場合と、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合とでは、いずれの場合であっても条件成立可能であるが、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合は、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０２６】
　また、特別操作関連表示を、所定態様及び特定態様を含む複数態様のいずれかで表示可能なものとした上で、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が所定態様で表示状態にあった場合と、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合とでは、いずれの場合であっても条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示状態にあった場合と、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合とでは、いずれの場合においても、特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【３０２７】
　また、特定動画の表示にかかる開始条件は、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。
【３０２８】
　また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。
【３０２９】
　また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【３０３０】
　このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【３０３１】
　すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にして

これを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３０３２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる

【３０３３】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３０３４】

若しくは、上記［構成６３－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるが、この際、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が表示状態にあったとしても条件成立可能であるのに対し、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合と、所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０３５】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段及び所定操作手段に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。

【３０３６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が所定態様で表示状態にあった場合であっても条件成立しうるが、所定操作関連表示が表示開始される時点で特別操作関連表示が特定態様で表示状態にあった場合と、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特別操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合と、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能する状況が現れた場合との少なくとも１つが現れたときは、特定時間が経過したときに条件成立することがないようにしてもよい。

【３０３７】

ただし、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しただけの場合（

何らの操作も行われなかった場合）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【３０３８】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【３０３９】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３０４０】

また、当該構成６３－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【３０４１】

［構成６４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作状態にされていることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあるなかでは条件成立

することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【３０４２】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【３０４３】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段が特定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にあったとしても条件成立可能であるが、所定操作手段が所定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にあったときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０４４】

また、所定操作関連表示を、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であるようにした上で、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が第１配色及び第２配色のうち第１配色で表示開始されたときに限り、該所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立しうるものであり、この際は、特別操作手段が特別操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にあったとしても条件成立可能であるが、所定操作手段が所定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にあったときには条件成立することがないようにしてもよい。

【３０４５】

このような構成によれば、特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示されているなかでの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３０４６】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【３０４７】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されていないなかで、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても条件成立可能であるようにしてもよい。

【３０４８】

また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の

１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【３０４９】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態で維持しているときには、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態で維持しているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【３０５０】

このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３０５１】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３０５２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる

【３０５３】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生

じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【３０５４】
若しくは、上記［構成６４－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が第１配色及び第２配色のうち第１配色で表示開始されたときに限り、該所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立しうるものであるが、特別操作手段が特定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況下にある場合と、所定操作手段が所定操作状態にされていることによって自動操作受付が機能している状況にある場合とでは、いずれにおいても、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【３０５５】
このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段及び所定操作手段に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。
【３０５６】
ただし、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が表示されているなかで、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【３０５７】
そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【３０５８】
このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【３０５９】
また、当該構成６４－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６４－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【３０６０】
［構成６５－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の

結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであるが、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記所定操作手段が前記所定操作状態にされていることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあったときには、条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間と、前記特定動画が表示される動画区間とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【３０６１】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「所定操作関連表示」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、関連表示、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、関連表示、動画、変化と同じ「操作手段」や、「関連表示」、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【３０６２】

この点、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況が現れたとしても条件成立する場合があるが、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況が現れたときには条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０６３】

また、所定操作関連表示を、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であるようにした上で、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が第１配色及び第２配色のうち第１配色で表示開始されたときに限り、該表示開始から特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際は、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特別操作状態に

されることによって自動操作受付が機能している状況が現れたとしても条件成立可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況が現れたときには条件成立することがないようにしてもよい。

【３０６４】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされる一方で、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの間に、自動操作受付が機能している状況が現れたときには、その種別に応じて、特定動画が開始されなくなる懸念があるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３０６５】

またさらに、特定動画の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【３０６６】

また、特定動画の表示にかかる開始条件は、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【３０６７】

また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【３０６８】

また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」が発生するか否かにかかわらず上記特定時間が経過したときに発生可能であり、且つ上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたとしても上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況が現れたか否かにかかわらず上記特定時間が経過したときに発生可能であるのに対し、上記特定時間が経過するまでの間に「所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」が発生したときには、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないようにしてもよい。

【３０６９】

このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３０７０】

すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」に

あるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３０７１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる

【３０７２】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。

【３０７３】

若しくは、上記［構成６５－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示が第１配色及び第２配色のうち第１配色で表示開始されたときに限り、該表示開始から特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであるが、この際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段が特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況が現れた場合と、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況が現れた場合とでは、いずれにおいても（特定時間が経過した時点で、仮に、いずれの自動操作受付も機能していなかったとしても）、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０７４】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段及び所定操作手段に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。

【３０７５】

ただし、特定動画の表示にかかる開始条件については、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【３０７６】
これに対し、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合は、何らの操作も行われなかった場合であっても、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として特定動画の表示にかかる開始条件が条件成立することがないようにすることが望ましい。
【３０７７】
またこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過するまでの間に、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況が現れたか否かにかかわらず、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないのに対し、上記特定時間が経過するまでの間に、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況が現れたか否かにかかわらず、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないようにしてもよい。
【３０７８】
このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないことはもとより、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、操作手段を操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定時間が経過したときに特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、操作手段に対する操作に関しては、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【３０７９】
また、当該構成６５－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６５－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【３０８０】
［構成６６－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合があり、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段が前記所定操作

状態にされることによって前記自動操作受付が機能している状況下にあるときは条件成立することがないようになっており、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態として、前記特別操作手段を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付が機能する状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画が表示されない非動画区間から前記特定動画が表示される動画区間に移行する態様と、前記特定動画が表示される動画区間から前記特定動画が表示されない非動画区間に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合には現れない特別変化が生じうるようにした。

【３０８１】

すなわちこの場合、特定動画にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」は、当該構成６６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特定動画」、「特別変化」と同じ操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、動画、変化を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、動画、変化と同じ「操作手段」や、「動画」、「変化」を意味するものであってもよい。

【３０８２】

また、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示されない非動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化とは異なる第１特別変化がさらに生じうるようにしてもよい。

【３０８３】

そしてこの場合、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」のうち、特定動画が表示される動画区間に移行する前の上記非動画区間において特別操作手段に対する操作を行った場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるが、該第２特別変化とは異なる上記第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。

【３０８４】

このような構成によれば、特定動画が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【３０８５】

また、特定動画が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である第３特別変化がさらに生じるようにしてもよい。

【３０８６】

ただしこの場合、特定動画が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画が表示されない非動画区間」においては、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、（第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる変化である）第３特別変化がさらに生じる場合」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画が表示される動画区間において特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化が生じるとともに、第１特別変

化及び第３特別変化がさらに生じるようにすることが望ましい。
【３０８７】
　また、「特定動画の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段に対する操作受付に関しての上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。
【３０８８】
　このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【３０８９】
　すなわちこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる。ただしこの際、特別操作手段に対する操作を行っておらず上記自動操作受付が機能していないなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかで特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ生じうるのに対し、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画が表示開始されたときには、該特定動画が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【３０９０】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画は開始されるものの、該特定動画が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる
【３０９１】
　なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段に対する操作を中断し、その後、特定動画が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにしてもよい。
【３０９２】
　若しくは、上記［構成６６－Ｃ］にあって、特定動画の表示にかかる開始条件について

は、特別操作手段が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときと、所定操作手段が所定操作状態にされることによって自動操作受付が機能している状況下にあるときとのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【３０９３】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３０９４】

そしてこの場合、特定動画の表示にかかる開始条件は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【３０９５】

このような構成によれば、特別操作手段及び所定操作手段にいずれに関しても、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段に限っては、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけで、いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても、特定動画が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３０９６】

また、当該構成６６－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【３０９７】

［構成６７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第１特別変化を生じさせる第１特別許容状態を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第２特別変化を生じさせる第２特別許容状態を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態はいずれも、前記特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに、前記第１特別許容状態の発生条件は、前記第２特別許容状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており、前記第２特別許容状態が発生しているなかで前記第１特別許容状態の発生条件

が満たされた場合は、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化を１回だけ生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化とは異なる前記第２特別変化がさらに生じうるようにした。

【３０９８】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」は、当該構成６７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」と同じ操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、変化、許容状態と同じ「操作手段」や、「変化」、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３０９９】

この点、第１特別許容状態及び第２特別許容状態はいずれも、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが、第１特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し、第２特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生する場合と、特別操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【３１００】

このような構成によれば、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態）と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態）とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１０１】

これに対し、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別は用意されるが、一の発生条件（一の受付後変化のみが対応付けられる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【３１０２】

また、第２特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい。

【３１０３】

このような構成によれば、第１特別許容状態については、秘匿にされているなか（特別操作手段に関連した画像表示が表示されないなか）でのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段に関連した画像表示との関係では該画像表示が表示されているなかでのみその発生条件が満たされるようにしたから、所定操作手段に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段に

対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【３１０４】

また、第１特別許容状態と第２特別許容状態との両方が発生している状況下において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、第１特別変化は１回しか発生しないが、第２特別変化は複数回発生するようにしてもよい。

【３１０５】

このような構成によれば、特別操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される状態においては、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とする場合があるが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないこととなる。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れる場合があるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【３１０６】

これに対し、所定操作手段に関する許容状態については、「いわゆるオート連打機能による複数回の第１変化を発生可能な許容状態」と「１回の操作受付だけで終了され、第２変化を１回だけ発生させる許容状態」とがそれぞれ別個に発生可能とされるものの、それら別個の許容状態については「いわゆるオート連打機能による複数回の変化に加えて、これとは異なる変化をさらに１回だけ発生する」ことを可能ならしめる態様で重複発生することがないようにすることが望ましい。

【３１０７】

また、当該構成６７－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【３１０８】

［構成６８－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第１特別変化を生じさせる第１特別許容状態を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第２特別変化を生じさせる第２特別許容状態を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態はいずれも、前記特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに、前記第１特別許容状態の発生条件は、前記第２特別許容状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており、前記第２特別許容状態が発生しているなかで前記第１特別許容状態の発生条件が満たされた場合は、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況が現れて、当該状況下において前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされ

ると、前記第１特別変化を生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化とは異なる前記第２特別変化がさらに生じうるようになっており、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況では、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されているだけでなく、前記所定操作手段に対する操作の受付けも必ず許容されている状態にあるようにした。

【３１０９】

すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」は、当該構成６８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」と同じ操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、変化、許容状態と同じ「操作手段」や、「変化」、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３１１０】

この点、第１特別許容状態及び第２特別許容状態はいずれも、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが、第１特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し、第２特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生する場合と、特別操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【３１１１】

このような構成によれば、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態）と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態）とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１１２】

これに対し、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別は用意されるが、一の発生条件（一の受付後変化のみが対応付けられる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【３１１３】

また、第２特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい。

【３１１４】

このような構成によれば、第１特別許容状態については、秘匿にされているなか（特別操作手段に関連した画像表示が表示されないなか）でのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段に関連した画像表示との関係では該画像表示が表示されているなかでのみその発生条件が満たされるようにしたから、所定操作手段に対して操作機会が

付与される都度（所定操作手段に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【３１１５】

また、「所定許容状態実行手段」として、所定操作手段に対する操作の受付けがなされると第１所定変化を生じさせる第１所定許容状態を発生可能な第１所定許容状態実行手段と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされると第２所定変化を生じさせる第２所定許容状態を発生可能な第２所定許容状態実行手段とを備えることとした上で、第１特別許容状態及び第２特別許容状態の両方が発生している状況では、第１所定許容状態が発生していることはないが、第２所定許容状態は必ず発生している状況下にあるように設定することとしてもよい。

【３１１６】

このような構成によれば、第１特別許容状態及び第２特別許容状態の両方が発生している状況では、第２所定許容状態は必ず発生している状況下にあるから、特別操作手段に対する操作だけでなく、所定操作手段に対する操作に関しても、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３１１７】

また、第２所定許容状態については、第１特別許容状態と同じタイミングで発生するものであってもよい。また、第２所定許容状態については、第１特別許容状態が発生するよりも前に発生しているものであってもよく、この場合、第１特別許容状態の発生条件は、第２所定許容状態が発生しているなかでのみ満たされるものとして設定されることとなる。

【３１１８】

また、第１所定許容状態及び第２所定許容状態は、第２特別許容状態が発生している状況下にあるときと、第２特別許容状態が発生していない状況下にあるときとのいずれにおいても、その発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい。

【３１１９】

また、第１特別許容状態、第２特別許容状態、及び第２所定許容状態のうち第１特別許容状態及び第２所定許容状態が発生している状況において、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた変化（第１特別変化、第２所定変化）の１つとして同じ画像表示（特別の動画など）が現れるようにしてもよい。

【３１２０】

このような構成によれば、第１特別許容状態及び第２所定許容状態の両方が発生している状況下においては、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対して操作が行われたとしても同じ画像表示が表示開始されることから、操作手段の種別にかかわらず操作に関して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３１２１】

ただしこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた変化（第１特別変化、第２所定変化）の１つとして同じ画像表示（特別の動画データに基づく特別動画など）が現れるが、その表示態様については、互いに異なる態様（例えば、明暗や配色が異なるなど）として実行されるようにしてもよい。

【３１２２】

また、第１特別許容状態、第２特別許容状態、及び第２所定許容状態が発生している状況において特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、第１特別変化の１つとして特別画像表示（特別動画）を表示させることに加えて第２特別変化をさらに生じさせるのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、該受付けがなされたことを契機として第２特別変化を生じさせずに第２所定変化の１つとして特別画像表示（

特別動画）を表示させるようにしてもよい。
【３１２３】
　また、当該構成６８－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【３１２４】
［構成６９－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第１特別変化を生じさせる第１特別許容状態を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第２特別変化を生じさせる第２特別許容状態を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態はいずれも、前記特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに、前記第２特別許容状態の発生条件は、前記第１特別許容状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており、前記第１特別許容状態が発生しているなかで前記第２特別許容状態の発生条件が満たされた場合は、前記１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化を１回だけ生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化とは異なる前記第２特別変化がさらに生じうるようにした。
【３１２５】
　すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成６９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」は、当該構成６９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」と同じ操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、変化、許容状態と同じ「操作手段」や、「変化」、「許容状態」を意味するものであってもよい。
【３１２６】
　ここで、第１特別許容状態が発生しているなかで第２特別許容状態の発生条件が満たされた場合、該発生条件が満たされたことを契機として見た目上の変化（表示変化、音変化、発光変化などの少なくとも１つ）は何ら生じないようにすることが望ましい。これに対し、第１特別許容状態が発生するときには見た目上の変化（表示変化、音変化、発光変化などの少なくとも１つ）が生じるようにすることが望ましい。このような構成によれば、第１特別許容状態が発生した以降、第２特別許容状態が重複して発生しているかを認識し難くすることができるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【３１２７】
　この点、第１特別許容状態及び第２特別許容状態はいずれも、特別操作手段に関連した

画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが、第１特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し、第２特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生する場合と、特別操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【３１２８】

このような構成によれば、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態）と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態）とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１２９】

これに対し、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別は用意されるが、一の発生条件（一の受付後変化のみが対応付けられる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【３１３０】

また、第２特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい。

【３１３１】

このような構成によれば、第１特別許容状態については、秘匿にされているなか（特別操作手段に関連した画像表示が表示されないなか）でのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段に関連した画像表示との関係では該画像表示が表示されているなかでのみその発生条件が満たされるようにしたから、所定操作手段に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【３１３２】

また、第１特別許容状態と第２特別許容状態との両方が発生している状況下において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、第１特別変化は１回しか発生しないが、第２特別変化は複数回発生するようにしてもよい。

【３１３３】

このような構成によれば、特別操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される状態においては、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化」をさらに発生可能とする場合があるが、この際、該「第１特別変化」については、「第２特別変化」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないこととなる。すなわちこの場合、第１特別変化は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、１回の操作（特別操作手段を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れる場合があるようになり、これによって遊

技興趣の向上を図ることができるようになる。
【３１３４】
　これに対し、所定操作手段に関する許容状態については、「いわゆるオート連打機能による複数回の第１変化を発生可能な許容状態」と「１回の操作受付だけで終了され、第２変化を１回だけ発生させる許容状態」とがそれぞれ別個に発生可能とされるものの、それら別個の許容状態については「いわゆるオート連打機能による複数回の変化に加えて、これとは異なる変化をさらに１回だけ発生する」ことを可能ならしめる態様で重複発生することがないようにすることが望ましい。
【３１３５】
　また、当該構成６９－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６９－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【３１３６】
［構成７０－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第１特別変化を生じさせる第１特別許容状態を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると第２特別変化を生じさせる第２特別許容状態を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態はいずれも、前記特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに、前記第２特別許容状態の発生条件は、前記第１特別許容状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており、前記第１特別許容状態が発生しているなかで前記第２特別許容状態の発生条件が満たされた場合は、前記１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化を生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化とは異なる前記第２特別変化がさらに生じうるようになっており、前記第１特別許容状態及び前記第２特別許容状態の両方が発生している状況では、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容されているだけでなく、前記所定操作手段に対する操作の受付けも必ず許容されている状態にあるようにした。
【３１３７】
　すなわちこの場合、所定操作手段に対する操作に関しても遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成７０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」は、当該構成７０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「第１特別変化」、「第１特別許容状態」、「第２特別変化」、「第２特別許容状態」と同じ操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、変化、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、変化、許容状態と同じ「操作手段」や、「変化」、「許容状態」を意味するものであってもよい。
【３１３８】

ここで、第１特別許容状態が発生しているなかで第２特別許容状態の発生条件が満たされた場合、該発生条件が満たされたことを契機として見た目上の変化（表示変化、音変化、発光変化などの少なくとも１つ）は何ら生じないようにすることが望ましい。これに対し、第１特別許容状態が発生するときには見た目上の変化（表示変化、音変化、発光変化などの少なくとも１つ）が生じるようにすることが望ましい。このような構成によれば、第１特別許容状態が発生した以降、第２特別許容状態が重複して発生しているかを認識し難くすることができるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１３９】

この点、第１特別許容状態及び第２特別許容状態はいずれも、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが、第１特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し、第２特別許容状態は、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生する場合と、特別操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【３１４０】

このような構成によれば、特別操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態）と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態）とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１４１】

これに対し、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別は用意されるが、一の発生条件（一の受付後変化のみが対応付けられる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【３１４２】

また、第２特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態は、所定操作手段に関連した画像表示が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい。

【３１４３】

このような構成によれば、第１特別許容状態については、秘匿にされているなか（特別操作手段に関連した画像表示が表示されないなか）でのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段に関連した画像表示との関係では該画像表示が表示されているなかでのみその発生条件が満たされるようにしたから、所定操作手段に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【３１４４】

また、「所定許容状態実行手段」として、所定操作手段に対する操作の受付けがなされると第１所定変化を生じさせる第１所定許容状態を発生可能な第１所定許容状態実行手段

と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされると第２所定変化を生じさせる第２所定許容状態を発生可能な第２所定許容状態実行手段とを備えることとした上で、第１特別許容状態及び第２特別許容状態の両方が発生している状況では、第１所定許容状態が発生していることはないが、第２所定許容状態は必ず発生している状況下にあるように設定することとしてもよい。

【３１４５】

このような構成によれば、第１特別許容状態及び第２特別許容状態の両方が発生している状況では、第２所定許容状態は必ず発生している状況下にあるから、特別操作手段に対する操作だけでなく、所定操作手段に対する操作に関しても、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３１４６】

また、第２所定許容状態については、第１特別許容状態と同じタイミングで発生するものであってもよい。また、第２所定許容状態については、第１特別許容状態が発生するよりも前に発生しているものであってもよく、この場合、第１特別許容状態の発生条件は、第２所定許容状態が発生しているなかでのみ満たされるものとして設定されることとなる。

【３１４７】

また、第１所定許容状態及び第２所定許容状態は、第２特別許容状態が発生している状況下にあるときと、第２特別許容状態が発生していない状況下にあるときとのいずれにおいても、その発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい。

【３１４８】

また、第１特別許容状態、第２特別許容状態、及び第２所定許容状態のうち第１特別許容状態及び第２所定許容状態が発生している状況において、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた変化（第１特別変化、第２所定変化）の１つとして同じ画像表示（特別の動画など）が現れるようにしてもよい。

【３１４９】

このような構成によれば、第１特別許容状態及び第２所定許容状態の両方が発生している状況下においては、特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対して操作が行われたとしても同じ画像表示が表示開始されることから、操作手段の種別にかかわらず操作に関して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３１５０】

ただしこの場合、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた変化（第１特別変化、第２所定変化）の１つとして同じ画像表示（特別の動画データに基づく特別動画など）が現れるが、その表示態様については、互いに異なる態様（例えば、明暗や配色が異なるなど）として実行されるようにしてもよい。

【３１５１】

また、第１特別許容状態、第２特別許容状態、及び第２所定許容状態が発生している状況において特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、第１特別変化の１つとして特別画像表示（特別動画）を表示させることに加えて第２特別変化をさらに生じさせるのに対し、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合は、該受付けがなされたことを契機として第２特別変化を生じさせずに第２所定変化の１つとして特別画像表示（特別動画）を表示させるようにしてもよい。

【３１５２】

また、当該構成７０－Ｃやその別例に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成７０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での

発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【３１５３】

［構成９０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで前記特別複種別許容状態が発生した場合には、前記特別単種別許容状態に対応する前記受付後変化と、前記特別複種別許容状態に対応する前記受付後変化とをそれぞれ生じさせるように操作可能とされるようにした。

【３１５４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成９０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３１５５】

また、以下の各構成については、［構成９０－Ｃ］～［構成９８－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが、特別単種別許容状態は、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定単種別許容状態は、所定複種別許容状態が発生している

なかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。
・「（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、特別複種別許容状態から「特別操作手段に対して操作を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。
・（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態から「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。
・「（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、所定単種別許容状態から「所定操作手段に対して操作を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合がないことを意味する。また、「（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、特別単種別許容状態から「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては複数回の操作受付が許容されており、且つ特別操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合がないことを意味する。すなわちこの場合、「所定複種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定単種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定複種別許容状態」の発生条件については、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定複種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定複種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定複種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させるようにすることとなる。また、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定複種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないが、「所定単種別許容状態」が

発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定単種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。
・（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、特別単種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい。
・特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別複種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい。
・所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」とがあることに加えて、「受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合」がさらにあるようにしてもよい。
・特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
・特別単種別許容状態が発生しているなかで特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３１５６】

また、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技とのいずれを行うかを、「特別操作手段に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにしてもよい。

【３１５７】

例えば、特別単種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報と、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報とは互いに異なっており、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときに

は、第１操作検出情報と第２操作検出情報との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化及び特別複種別許容状態に対応する受付後変化の両方を生じさせる）が、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作が特別操作手段に対して行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報とのうち第１操作検出情報のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。

【３１５８】

また、当該構成９０－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３１５９】

［構成９１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態で前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化と、前記所定単種別許容状態で前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現しうるようにした。

【３１６０】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成９１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３１６１】
この点、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
【３１６２】
そして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされるようにしてもよい。ただし、特別種別動画表示の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。
【３１６３】
また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」と、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。
【３１６４】
このような構成によれば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【３１６５】
ただしこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。
【３１６６】
例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。
【３１６７】
なおこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態においては、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されうるようにするこ

とが望ましい。若しくは、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間と、表示されていない区間との両方があるようにしてもよい。

【３１６８】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【３１６９】

このような構成によれば、「所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３１７０】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現させることはない。

【３１７１】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすることで、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが、予め定められた時間が経過してから所定操作手段に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないようにすることが望ましい。

【３１７２】

若しくは、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を

新たに出現させる区間」が（予定通り）現れるようにしてもよい。
【３１７３】
　また、当該構成９１－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３１７４】
［構成９２－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能であるようにした。
【３１７５】
　すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成９２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。
【３１７６】
　この点、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段

を備えることとした上で、特別単種別許容状態については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。またこの場合、特別単種別許容状態については、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生するだけでなく特別操作関連表示がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３１７７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合であれば、上記特定時間が経過するときに上記特別単種別許容状態を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されたときには、上記特定時間が経過するときに上記特別単種別許容状態が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されることはもとより、上記特別単種別許容状態において特別操作手段に対する操作受付がなされたときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３１７８】

なお、上記特別単種別許容状態については、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、該特定時間が経過するまでの間に発生した上記特別複種別許容状態がその発生状態を維持しているか、それとも終了しているかにかかわらず、発生可能とされるようにすることが望ましい。

【３１７９】

また、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間には、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態が発生することはないようにすることが望ましい。

【３１８０】

またこの場合、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生した以降、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されない場合であっても、上記特別単種別許容状態については、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３１８１】

また、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３１８２】

また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が

発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３１８３】

また、特別単種別許容状態が発生しているなかで（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３１８４】

また、当該構成９２－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３１８５】

［構成９３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした。

【３１８６】

すなわちこの場合、特別操作手段や所定操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向

上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成９３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３１８７】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３１８８】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３１８９】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１９０】

また、当該構成９３－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生したときには、その後、特別複種別許容状態がさらに発生する可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３１９１】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、

特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。
【３１９２】
　また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。
【３１９３】
　また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。
【３１９４】
［構成９４－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにしてもよい。
【３１９５】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所

定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成９４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３１９６】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３１９７】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が表示されていない状況下」にあるときに表示開始されたものである場合と、「特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合とでは、いずれの場合であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３１９８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３１９９】

また、当該構成９４－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生したときには、その後、特別複種別許容状態がさらに発生する可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２００】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３２０１】

また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３２０２】

また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。

【３２０３】

［構成９５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした。

【３２０４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成９５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる

操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３２０５】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３２０６】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２０７】

また、当該構成９５－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生したときには、その後、特別複種別許容状態がさらに発生する可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２０８】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３２０９】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３２１０】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３２１１】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３２１２】

［構成９６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるようにした。

【３２１３】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成９６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３２１４】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい。

【３２１５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満た

されたときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２１６】

また、当該構成９６－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生したときには、その後、特別複種別許容状態がさらに発生する可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２１７】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３２１８】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３２１９】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３２２０】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３２２１】

［構成９７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許

容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３２２２】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」は、当該構成９７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３２２３】

この点、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい。

【３２２４】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、こうした現象が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２２５】

この点、当該構成９７－Ｃでは、「特別複種別許容状態」が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【３２２６】
　またこの場合、「特別単種別許容状態」は、特別操作関連表示が特定態様で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するとともに、「特別操作関連表示」は、特別複種別許容状態が発生していない状態にあるときに特定態様で表示可能とされるものとして用意するとともに、「特別複種別許容状態」は、特別操作関連表示が特定態様で表示されているなかで発生可能とされるものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示が特定態様で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。
【３２２７】
　これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態や、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい。
【３２２８】
　このような構成によれば、所定操作手段に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがあるものの、当該所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。
【３２２９】
　また、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３２３０】
　このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。
【３２３１】
　また、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とのいずれで発生した場合であっても）それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３２３２】
　このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、所定操作手段に対する操作についてはこれを一旦

終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２３３】

若しくは、上記［構成９７－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３２３４】

また、当該構成９７－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２３５】

［構成９８－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定複種別許容状態は、前記所定操作手段を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３２３６】

すなわちこの場合、所定複種別許容状態が発生していないときに所定操作手段を操作するときの遊技興趣に低下が生じることを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成９８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容

状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」は、当該構成９８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３２３７】

この点、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３２３８】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、こうした現象が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２３９】

また、特別単種別許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい。この点、当該構成９８－Ｃでは、「特別複種別許容状態」が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【３２４０】

またこの場合、「特別単種別許容状態」は、特別操作関連表示が特定態様で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するとともに、「特別操作関連表示」は

、特別複種別許容状態が発生していない状態にあるときに特定態様で表示可能とされるものとして用意するとともに、「特別複種別許容状態」は、、特別操作関連表示が特定態様で表示されているなかで発生可能とされるものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示が特定態様で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【３２４１】

また、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３２４２】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【３２４３】

若しくは、上記［構成９８－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３２４４】

また、当該構成９８－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２４５】

［構成９９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操

作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態で前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化と、前記所定単種別許容状態で前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現しうるようにした。

【３２４６】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成９９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成９９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３２４７】

この点、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち特別複種別許容状態（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３２４８】

また、以下の各構成については、［構成９９－Ｃ］～［構成１０６－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが、特別単種別許容状態は、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定単種別許容状態は、所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。

・「（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段を特定操作状態にする操作を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化（１回だけ）と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化（複数回）とがそれぞれ生じる状態を発生可能である」ことを意味している。したがって、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。

・「（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、

「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態を発生可能である」ことを意味する。
・「（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、「所定操作手段に対して操作を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態が発生することがない」ことを意味する。また、「（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては複数回の操作受付が許容されており、且つ特別操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されている状態」が現れ得ない遊技機であることを意味する。すなわちこの場合、「所定複種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定単種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定複種別許容状態」の発生条件については、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定複種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定複種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定複種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させるようにすることとなる。また、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定複種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないが、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定単種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。
・（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、特別単種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れうるようにすることが望ましい。
・特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、特別複種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別複種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れうるようにすることが望ましい。
・（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」とがあるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態において特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたと

きに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」がなく、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」しかないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技とのいずれを行うかを、「特別操作手段に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにしてもよい。例えば、特別単種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報と、特別複種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報とは互いに異なっており、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化及び特別複種別許容状態に対応する受付後変化の両方を生じさせる）が、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作が特別操作手段に対して行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報とのうち第１操作検出情報のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。
・特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
・特別単種別許容状態が発生しているなかで特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３２４９】

この点、特別単種別許容状態が発生しているなかで（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３２５０】

また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３２５１】

そして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合と、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合とのいずれの場合であっても、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされるようにしてもよい。ただし、特別種別動画表示の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。

【３２５２】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」と、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。

【３２５３】

このような構成によれば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３２５４】

ただしこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。

【３２５５】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【３２５６】

なおこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態においては、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間と、表示されていない区間との両方があるようにしてもよい。

【３２５７】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあると

きに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【３２５８】

このような構成によれば、「所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３２５９】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現させることはない。

【３２６０】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすることで、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが、予め定められた時間が経過してから所定操作手段に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないようにすることが望ましい。

【３２６１】

若しくは、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が（予定通り）現れるようにしてもよい。

【３２６２】

また、所定単種別許容状態には、当該所定単種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態が重複するかたちで発生しうる種別の第１所定単許容状態と、当該所定単種別許容状態が継続しているなかでは特別単種別許容状態が重複するかたちで発生することのない種別の第２所定単許容状態とが含まれているようにしてもよい。

【３２６３】
　また、当該構成９９－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３２６４】
［構成１００－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能であり、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにした。
【３２６５】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１００－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１００－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３２６６】
　この点、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態については、所定操作手段に対する操作の

受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。またこの場合、特別単種別許容状態については、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生するだけでなく特別操作関連表示がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３２６７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合であれば、上記特定時間が経過したときに、該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態を発生可能であるが、その際、特別操作関連表示が表示されたときには該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されることはもとより、上記特別単種別許容状態において特別操作手段に対する操作受付がなされたときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３２６８】

なお、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間には、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態が発生することはないようにすることが望ましい。

【３２６９】

またこの場合、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生した以降、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されない場合であっても、上記特別単種別許容状態については、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３２７０】

また、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３２７１】

また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３２７２】

また、特別単種別許容状態が発生しているなかで特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する

操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３２７３】

また、当該構成１００－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２７４】

［構成１０１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにした。

【３２７５】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、

他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３２７６】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３２７７】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３２７８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２７９】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３２８０】

また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３２８１】

また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。

【３２８２】

また、当該構成１０１－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２８３】

［構成１０２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにした。

【３２８４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３２８５】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単

種別許容状態）については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３２８６】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が表示されていない状況下」にあるときに表示開始されたものである場合と、「特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合とでは、いずれの場合であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３２８７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２８８】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３２８９】

また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３２９０】

また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。

【３２９１】

また、当該構成１０２－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３２９２】

［構成１０３－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにした。
【３２９３】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３２９４】
この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。
【３２９５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３２９６】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３２９７】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３２９８】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３２９９】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３３００】

また、当該構成１０３－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３０１】

［構成１０４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受

付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにした。

【３３０２】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３３０３】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい。

【３３０４】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３０５】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３３０６】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３３０７】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３３０８】
なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。
【３３０９】
また、当該構成１０４－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３３１０】
［構成１０５－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。
【３３１１】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３３１２】
この点、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態

については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい。

【３３１３】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３１４】

これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態や、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい。

【３３１５】

このような構成によれば、所定操作手段に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないものの、当該所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３３１６】

また、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３３１７】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【３３１８】

また、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、（いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かにかかわらず）それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３３１９】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、

所定複種別許容状態は発生するものの、所定操作手段に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３２０】

若しくは、上記［構成１０５－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３３２１】

また、当該構成１０５－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３２２】

［構成１０６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定複種別許容状態は、前記所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定複種別許容状態は、前記所定操作手段を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３３２３】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１０６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」

、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３３２４】

この点、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３３２５】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるのか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３２６】

また、特別単種別許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないのに対し、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３３２７】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【３３２８】

若しくは、上記［構成１０６－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３３２９】
　また、当該構成１０６－Ｃとは、特別複種別許容状態が「特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態が発生した時点では、特別単種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３３３０】
［構成１０７－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで前記特別単種別許容状態が発生した場合には、前記特別単種別許容状態に対応する前記受付後変化と、前記特別複種別許容状態に対応する前記受付後変化とをそれぞれ生じさせるように操作可能とされるようにした。
【３３３１】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成１０７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３３３２】
　また、以下の各構成については、［構成１０７－Ｃ］～［構成１１５－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。
・特別単種別許容状態は、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが、特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなか

でこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・所定単種別許容状態は、所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。
・「特別単種別許容状態は、（オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うと、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別複種別許容状態に対応する受付後変化のみが生じる状態」から、「特別操作手段に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。
・所定単種別許容状態は、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態から「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。
・所定単種別許容状態は、「（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、所定単種別許容状態から「所定操作手段に対して操作を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行することがないことを意味する。また、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがあるのに対し、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。すなわちこの場合、「所定単種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定複種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定単種別許容状態」の発生条件については、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定単種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定単種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定単種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発

生させるようにすることとなる。また、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定単種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件自体が新たに満たされることはないが、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定複種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定単種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。

・（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、特別単種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい。

・特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別複種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい。

・所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」とがあることに加えて、「受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合」がさらにあるようにしてもよい。

・特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

・特別複種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別複種別許容状態のうち、上記特別単種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別単種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３３３３】

また、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技とのいずれを行うかを、「特別操作手段に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにしてもよい。

【３３３４】
例えば、特別単種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報と、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報とは互いに異なっており、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化及び特別複種別許容状態に対応する受付後変化の両方を生じさせる）が、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作が特別操作手段に対して行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報とのうち第１操作検出情報のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。
【３３３５】
また、当該構成１０７－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３３３６】
［構成１０８－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別単種別許容状態で前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化と、前記所定単種別許容状態で前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現しうるようにした。
【３３３７】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成１０８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼

称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３３３８】

この点、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３３３９】

そして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされるようにしてもよい。ただし、特別種別動画表示の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。

【３３４０】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」と、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。

【３３４１】

このような構成によれば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３３４２】

ただしこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。

【３３４３】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容

の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【３３４４】

なおこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態においては、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間と、表示されていない区間との両方があるようにしてもよい。

【３３４５】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【３３４６】

このような構成によれば、「所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３３４７】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現させることはない。

【３３４８】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすることで、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが、予め定められた時間が経過してから所定操作手段に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないようにすることが望ましい。

【３３４９】

若しくは、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とし

た受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が（予定通り）現れるようにしてもよい。

【３３５０】

また、当該構成１０８－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３５１】

［構成１０９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能であるようにした。

【３３５２】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１０９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１０９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異

なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３３５３】

また、当該構成１０９－Ｃに係る構成によれば、特別単種別許容状態は、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにされているから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生すると、該特別複種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する可能性を意識するようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３５４】

この点、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。またこの場合、特別単種別許容状態については、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生するだけでなく特別操作関連表示がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３３５５】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合であれば、上記特定時間が経過したときに、該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態を発生することを期待できるようになるが、その際、特別操作関連表示が表示されたときには該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されることはもとより、上記特別単種別許容状態において特別操作手段に対する操作受付がなされたときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３３５６】

なお、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間には、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態が発生することはないようにすることが望ましい。

【３３５７】

またこの場合、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生した以降、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されない場合であっても、上記特別単種別許容状態については、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３３５８】

また、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容

されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前に表示される場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。

【３３５９】

なお、「第１種別の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３３６０】

また、「第１種別の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許容状態」についてはいずれも、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３６１】

なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【３３６２】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。

【３３６３】

また、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３３６４】

また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複す

るかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３３６５】

また、特別単種別許容状態が発生しているなかで（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【３３６６】

また、当該構成１０９－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３６７】

［構成１１０－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした。

【３３６８】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１１０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３３６９】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３３７０】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３３７１】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３７２】

また、当該構成１１０－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３７３】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）

特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３３７４】

また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３３７５】

また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。

【３３７６】

［構成１１１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした。

【３３７７】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手

段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１１１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３３７８】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３３７９】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が表示されていない状況下」にあるときに表示開始されたものである場合と、「特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合とでは、いずれの場合であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３３８０】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３８１】

また、当該構成１１１－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３８２】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３３８３】
　また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。
【３３８４】
　また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。
【３３８５】
［構成１１２－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記所定操作関連表示は、第１配色及び第２配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした。
【３３８６】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１１２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時

間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３３８７】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３３８８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３８９】

また、当該構成１１２－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３９０】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３３９１】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３３９２】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３３９３】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３３９４】

［構成１１３－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であるようにした。

【３３９５】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」は、当該構成１１３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３３９６】
この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい。

【３３９７】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３３９８】

また、当該構成１１３－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３３９９】

なお、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３４００】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３４０１】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３４０２】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３４０３】

［構成１１４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別

許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３４０４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」は、当該構成１１４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３４０５】

この点、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい。

【３４０６】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、こうした現象が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別単種別許容状態は「（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能とされるもの」であるにもかかわらず、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、当該特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４０７】

この点、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該受付後変化が現れた以降、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４０８】
なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示が表示されていないなかでは特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。
【３４０９】
また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示が表示されていたとしても、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」が発生しており且つ特別操作関連表示が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。
【３４１０】
これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態や、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい。
【３４１１】
このような構成によれば、所定操作手段に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがあるものの、当該所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。
【３４１２】
また、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３４１３】
このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。
【３４１４】
また、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とのいずれで発生した場合であっても）それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３４１５】
このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、所定操作手段に対する操作についてはこれを一旦

終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４１６】

若しくは、上記［構成１１４－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３４１７】

また、当該構成１１４－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３４１８】

［構成１１５－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定複種別許容状態は、前記所定操作手段を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３４１９】

すなわちこの場合、所定複種別許容状態が発生していないときに所定操作手段を操作するときの遊技興趣に低下が生じることを好適に抑制することが期待されるようになる。なお、当該構成１１５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」

、「特定時間」は、当該構成１１５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特定時間」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示、時間を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、時間を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、時間と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「時間」を意味するものであってもよい。

【３４２０】

この点、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、（いわゆるオート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である）所定複種別許容状態については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３４２１】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、こうした現象が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４２２】

また、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで、「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化が現れたときには、その時点で、特別操作関連表示が表示されていなくても「特別複種別許容状態」が発生したことを容易に認識可能とされるが、当該構成１１５－Ｃでは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されていることに鑑みれば、遊技者は、「特別複種別許容状態」が発生している状況下にあることを認識したときには特別単種別許容状態がさらに発生することを期待するから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４２３】

ただし、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい。すなわちこの場合、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れたときには、「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が継続される限りは、特別単種別許容状態がさらに発生する可能性が喪失されることとなる。この点、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても

、該受付後変化が現れた以降、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４２４】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示が表示されていないときには特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるものの、特別操作関連表示が表示されているときには特別単種別許容状態がさらに発生することがないようにしてもよい。

【３４２５】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示が表示されていたとしても、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」が発生しており且つ特別操作関連表示が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【３４２６】

また、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３４２７】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【３４２８】

若しくは、上記［構成１１５－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３４２９】

また、当該構成１１５－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３４３０】

［構成１１６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態

手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することはないようになっており、前記特別単種別許容状態で前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化と、前記所定単種別許容状態で前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現しうるようにした。

【３４３１】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」は、当該構成１１６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３４３２】

この点、以下の各構成については、［構成１１６－Ｃ］～［構成１２３－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・特別単種別許容状態は、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが、特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・所定単種別許容状態は、所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。

・「特別単種別許容状態は、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段を特定操作状態にする操作を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化（１回だけ）と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化（複数回）とがそれぞれ生じる状態を発生可能である」ことを意味している。したがって、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じると

ともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。
・「所定単種別許容状態は、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態から「所定操作手段及び特別操作手段のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。
・所定単種別許容状態は、「（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、「所定操作手段に対して操作を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態が発生することがない」ことを意味する。また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがあるのに対し、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。すなわちこの場合、「所定単種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定複種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは新たに満たされることがないものとして設定されることとなる。または、「所定単種別許容状態」の発生条件については、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定単種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定単種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定単種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させるようにすることとなる。また、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定単種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件自体が新たに満たされることはないが、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定複種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定単種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。
・（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、特別単種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい。
・特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、特別複種別許容状態が発生しているなかで生じた場合と、特別複種別許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れうるようにすることが望ましい。
・（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態において所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」とがあるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態において特別操作

手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」がなく、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」しかないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技とのいずれを行うかを、「特別操作手段に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにしてもよい。例えば、特別単種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報と、特別複種別許容状態で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報とは互いに異なっており、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化及び特別複種別許容状態に対応する受付後変化の両方を生じさせる）が、「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作が特別操作手段に対して行われたときには、第１操作検出情報と第２操作検出情報とのうち第１操作検出情報のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。
・特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
・特別単種別許容状態が発生しているなかで特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。
【３４３３】
　この点、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別複種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別複種別許容状態のうち、上記特別単種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別単種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。
【３４３４】
　また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【３４３５】
そして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合と、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合とのいずれの場合であっても、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされるようにしてもよい。ただし、特別種別動画表示の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。
【３４３６】
また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」と、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。
【３４３７】
このような構成によれば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【３４３８】
ただしこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。
【３４３９】
例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。
【３４４０】
なおこの場合、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態においては、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間と、表示されていない区間との両方があるようにしてもよい。
【３４４１】
また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付け

に応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【３４４２】

このような構成によれば、「所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３４４３】

また、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現させることはない。

【３４４４】

例えば、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすることで、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが、予め定められた時間が経過してから所定操作手段に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないようにすることが望ましい。

【３４４５】

若しくは、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が（予定通り）現れるようにしてもよい。

【３４４６】

また、所定単種別許容状態には、当該所定単種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態が重複するかたちで発生しうる種別の第１所定単許容状態と、当該所定単種別許容状態が継続しているなかでは特別単種別許容状態が重複するかたちで発生すること

のない種別の第２所定単許容状態とが含まれているようにしてもよい。
【３４４７】
　また、当該構成１１６－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３４４８】
［構成１１７－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能であるようにした。
【３４４９】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１１７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３４５０】
　また、当該構成１１７－Ｃに係る構成によれば、特別単種別許容状態は、特別複種別許

容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにされているから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生すると、該特別複種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する可能性を意識するようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４５１】

この点、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。またこの場合、特別単種別許容状態については、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生するだけでなく特別操作関連表示がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３４５２】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合であれば、上記特定時間が経過したときに、該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態が発生することを期待できるようになるが、その際、特別操作関連表示が表示されたときには該特別複種別許容状態と重複するかたちで上記特別単種別許容状態が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されることはもとより、上記特別単種別許容状態において特別操作手段に対する操作受付がなされたときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３４５３】

なお、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間には、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態が発生することはないようにすることが望ましい。

【３４５４】

またこの場合、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生した以降、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されない場合であっても、上記特別単種別許容状態については、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３４５５】

また、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、

「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前に表示される場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。

【３４５６】

なお、「第１種別の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３４５７】

また、「第１種別の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許容状態」についてはいずれも、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４５８】

なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【３４５９】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。

【３４６０】

また、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態及び所定複種別許容状態のうち（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３４６１】

また、特別単種別許容状態及び所定単種別許容状態はいずれも、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【３４６２】

また、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種

別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
【３４６３】
　また、特別単種別許容状態が発生しているなかで特別複種別許容状態がこれと重複するかたちで発生する場合、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合とで同じ態様として現れるようにしてもよい。
【３４６４】
　また、当該構成１１７－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３４６５】
［構成１１８－Ｃ］
　例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした。
【３４６６】
　すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１１

８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３４６７】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３４６８】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３４６９】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４７０】

また、当該構成１１８－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３４７１】

また、特別単種別許容状態として、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」とし

て構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。

【３４７２】

なお、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３４７３】

また、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許容状態」についてはいずれも、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４７４】

なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【３４７５】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。

【３４７６】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。

【３４７７】

また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３４７８】

また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味す

るものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。

【３４７９】

［構成１１９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした。

【３４８０】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１１９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１１９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３４８１】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満た

されたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが、該非表示にされる所定操作関連表示が、特別操作関連表示が特定態様で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３４８２】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が表示されていない状況下」にあるときに表示開始されたものである場合と、「特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合とでは、いずれの場合であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示が「特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下」にあるときに表示開始されたものである場合は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３４８３】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３４８４】

また、当該構成１１９－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３４８５】

また、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、「所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの間に表示される場合があるもの」として用意するとともに、該所定操作関連表示が非表示にされる時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。

【３４８６】
なお、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされた時点において「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該条件が満たされたことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。
【３４８７】
また、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許容状態」についてはいずれも、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【３４８８】
なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。
【３４８９】
ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。
【３４９０】
なお、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態においては、特別操作関連表示が第１態様で表示されている場合と、特別操作関連表示が第２態様で表示されている場合との両方があるようにしてもよい。
【３４９１】
また、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。
【３４９２】
また、当該構成に関して、「特別操作関連表示が表示されている状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されており且つ特別複種別許容状態が発生している状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。これと同様、「特別操作関連表示が表示されていない状況下」とは、「特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別複種別許容状態が発生していない状況下」を意味するものであってもよいし、特別複種別許容状態の発生状況との関連性はないものとして実現するようにしてもよい。
【３４９３】
［構成１２０－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた

受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした。

【３４９４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２０－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２０－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３４９５】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３４９６】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるよう

になる。
【３４９７】
なお、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。
【３４９８】
また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。
【３４９９】
また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。
【３５００】
また、当該構成１２０－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。
【３５０１】
また、特別単種別許容状態として、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。
【３５０２】
なお、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。
【３５０３】
また、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許

容状態」についてはいずれも、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５０４】

なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【３５０５】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。

【３５０６】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３５０７】

［構成１２１－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない遊技機であって、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単種別許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であるようにした。

【３５０８】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待

されるようになる。なお、当該構成１２１－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２１－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３５０９】

この点、特別単種別許容状態には、特定種別（受付後変化として特定変化を生じさせる種別）の特別単種別許容状態が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい。

【３５１０】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５１１】

なお、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態においては、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合はないようにしてもよい。

【３５１２】

また、所定操作関連表示が第１配色で表示されている場合と、所定操作関連表示が第２配色で表示されている場合とのいずれの状況下においても、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態は発生可能とされるようにしてもよい。

【３５１３】

また、特定種別の特別単種別許容状態（特別単種別許容状態）については、所定操作関連表示が第１配色で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合と、発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３５１４】

また、当該構成１２１－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３５１５】

また、特別単種別許容状態として、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」と、「第２種別の特別単種別許容状態」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そして

このうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態」については、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミングが到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化とがそれぞれ生じることとなる。

【３５１６】

なお、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【３５１７】

また、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」及び「第２種別の特別単種別許容状態」についてはいずれも、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される）特別複種別許容状態が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５１８】

なお、特別複種別許容状態が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することなく、「第１種別（特定種別）の特別単種別許容状態」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【３５１９】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態」については必ずしも備えなくてもよい。

【３５２０】

なお、特別単種別許容状態は、このような特定種別の特別単種別許容状態のほか、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときにこれを契機として発生することがない種別（特定種別とは異なる種別）の特別単種別許容状態をさらに含むものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態のみを含むものであってもよい。

【３５２１】

［構成１２２－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の

結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記特別複種別許容状態は、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。

【３５２２】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２２－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２２－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３５２３】

この点、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい。

【３５２４】

このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待さ

れるようになる。
【３５２５】
この点、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該受付後変化が現れた以降、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【３５２６】
なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示が表示されていないなかでは特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。
【３５２７】
また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示が表示されていたとしても、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」が発生しており且つ特別操作関連表示が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。
【３５２８】
これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態や、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい。
【３５２９】
このような構成によれば、所定操作手段に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないものの、当該所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。
【３５３０】
また、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３５３１】
このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。
【３５３２】
また、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われてい

るなかでも発生可能であるが、この際、（いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かにかかわらず）それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３５３３】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、所定操作手段に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５３４】

若しくは、上記［構成１２２－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３５３５】

また、当該構成１２２－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３５３６】

［構成１２３－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態では、前記特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能するが、前記所定複種別許容状態では、前記所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態は、前記特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるのに対し、前記所定単種別許容状態は、前記所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようになっており、前記所定複種別許容状態は、前記所定操作手段を前記所定

操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした。
【３５３７】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２３－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２３－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単種別許容状態」、「特別複種別許容状態」、「所定単種別許容状態」、「所定複種別許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態、関連表示と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３５３８】
この点、（いわゆるオート連打機能が必ず有効化される側である）特別複種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し、（いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である）所定複種別許容状態については、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。
【３５３９】
このような構成によれば、特別操作手段については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるのか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【３５４０】
また、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで、「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化が現れたときには、その時点で、特別操作関連表示が表示されていなくても「特別複種別許容状態」が発生したことを容易に認識可能とされるが、当該構成１２３－Ｃでは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されていることに鑑みれば、遊技者は、「特別複種別許容状態」が発生している状況下にあることを認識したときには特別単種別許容状態がさらに発生することを期待するから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【３５４１】
ただし、特別単種別許容状態については、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい。すなわちこの場合、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れたときには、「特別複種別許容状態」

が発生したことの認識を容易化する代わりに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が継続される限りは、特別単種別許容状態がさらに発生する可能性が喪失されることとなる。この点、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該受付後変化が現れた以降、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５４２】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示が表示されていないときには特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるものの、特別操作関連表示が表示されているときには特別単種別許容状態がさらに発生することがないようにしてもよい。

【３５４３】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示が表示されていたとしても、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」が発生しており且つ特別操作関連表示が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【３５４４】

また、所定単種別許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい。

【３５４５】

このような構成によれば、所定操作手段を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【３５４６】

若しくは、上記［構成１２３－Ｃ］にあって、特別単種別許容状態についても、特別複種別許容状態と同様、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【３５４７】

また、当該構成１２３－Ｃとは、特別単種別許容状態が「特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの」として用意されるものであることに鑑みれば、特別単種別許容状態が発生した時点では、特別複種別許容状態が既に発生している可能性があることとなるから、特別単種別許容状態が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【３５４８】

［構成１２４－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操

作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段とを備え、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、前記特別単許容状態及び前記所定単許容状態は発生条件が異なるが、前記特別単許容状態で前記特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記第１特別変化と、前記所定単許容状態で前記所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときの前記第１所定変化とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現しうるようにした。

【３５４９】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２４－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」は、当該構成１２４－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」と同じ操作手段や、許容状態を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」を意味するものであってもよい。

【３５５０】

そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。

【３５５１】

このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【３５５２】

この点、以下の各構成については、［構成１２４－Ｃ］～［構成１２９－Ｃ］に記載された発明のいずれに対しても適用可能である。

・特別単許容状態に対応する第１特別変化は、特別複許容状態が発生しているなかで発生した場合と、特別複許容状態が発生していないなかで発生した場合とで同じ態様として実行されるようにしてもよい。

・特別複許容状態に対応する第２特別変化は、特別単許容状態が発生しているなかで発生した場合と、特別単許容状態が発生していないなかで発生した場合とで同じ態様として実

行されるようにしてもよい。
・特別単許容状態及び特別複許容状態は、それらの一方が発生しているなかでもそれらの他方が発生しうる関係性を有するが、特別複許容状態が発生しているなかであっても、特別操作手段が特定操作状態に維持される操作が行われており且つこれに応じた第２特別変化が生じている状況下にあるときには特別単許容状態が発生することがないようにしてもよい。
・特別単許容状態は、特別複許容状態が発生していないなかで発生可能であるが、特別複許容状態が発生していない場合であっても、特別操作手段が特定操作状態に維持される操作が行われているときには特別単許容状態が発生することがないようにしてもよい。
・所定複許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２所定変化（所定複許容状態に対応する受付後変化）が生じることがないようにしてもよい。
・所定単許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１所定変化（所定単許容状態に対応する受付後変化）が生じることがないようにしてもよい。
・第１所定変化（所定単許容状態に対応する受付後変化）では、その変化の１つとして、特別種別動画表示を新たに出現する場合と、特別種別動画表示が新たに出現しない場合との両方があるようにしてもよい。
・第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）では、その変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに必ず出現するようにしてもよい。
・特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を「第１特別単許容状態」とした上で、特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化及び第２特別変化のいずれとも異なる第３特別変化を１回だけ生じさせうる第２特別単許容状態を発生可能な手段をさらに備えるようにしてもよい。
・特別単許容状態に対応する第１特別変化は、特別複許容状態が発生しているなかで発生した場合と、特別複許容状態が発生していないなかで発生した場合とで同じ態様であるようにしてもよい。
・特別複許容状態に対応する第２特別変化は、特別単許容状態が発生しているなかで発生した場合と、特別単許容状態が発生していないなかで発生した場合とで同じ態様であるようにしてもよい。
・所定複許容状態は、所定単許容状態において所定操作手段が所定操作状態に維持される操作が行われた結果として所定単許容状態が終了し且つ第１所定変化が生じている状況下にあるなかで発生することがないようにしてもよい。
・所定複許容状態は、所定単許容状態において所定操作手段が所定操作状態に維持される操作が行われた結果として所定単許容状態が終了した以降（第１所定変化が終了し）、所定操作状態に維持される操作が所定単許容状態にあったときから継続して行われているなかで発生可能であるが、この際、該操作が行われているときに得られる検出情報に基づいて所定操作手段に対する操作の受付けがなされてこれに応じた第２所定変化が生じることはないようにしてもよい。
・特別複許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２特別変化が生じるのに対し、特別単許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生しないようにしてもよい。若しくは、特別複許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２特別変化が生じるのに対し、特別単許容状態は、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維

持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１特別変化が生じることがないようにしてもよい。
・所定単許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１所定変化が生じることがないようにしてもよい。
・所定複許容状態は、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２所定変化が生じることがないようにしてもよい。
【３５５３】
この点、特別単許容状態については、所定単許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なものとした上で、所定単許容状態のうち、特別単許容状態が発生するよりも前の区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これに応じた受付後変化（第１所定変化）の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないが、特別単許容状態が発生している区間内で所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これに応じた受付後変化（第１所定変化）の１つとして特別種別動画表示を新たに出現可能とするようにしてもよい。
【３５５４】
すなわちこの場合、特別単許容状態と所定単許容状態とのうち所定単許容状態のみが発生しているなかで所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされることがないが、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合と、所定操作手段を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合とでは、いずれの場合であっても、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が新たに出現可能とされることとなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。なお、特別種別動画表示の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。
【３５５５】
若しくは、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」と、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。このような構成によれば、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。ただしこの場合、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。
【３５５６】
例えば、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じ

た受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【３５５７】

なおこの場合、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態においては、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間と、表示されていない区間との両方があるようにしてもよい。

【３５５８】

また、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単許容状態」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単許容状態」で、所定操作手段に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【３５５９】

このような構成によれば、「所定操作手段に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段）に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【３５６０】

また、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示が新たに出現させることはない。

【３５６１】

例えば、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単許容状態を終了させるようにすることで、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単許容状態については、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが、予め定められた時間が経過してから所定操作手段に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させることがないようにすることが望まし

い。
【３５６２】
若しくは、特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間」にあるときに、特別操作手段に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単許容状態と所定単許容状態とのうち特別単許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単許容状態が、所定単許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段及び所定操作手段のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が（予定通り）現れるようにしてもよい。
【３５６３】
［構成１２５－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するときに発生可能であり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複許容状態が発生した場合であっても発生可能であり、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした。
【３５６４】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２５－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２５－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３５６５】
そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行

われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。

【３５６６】

このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【３５６７】

この点、特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段をさらに備えることとした上で、特別単許容状態については、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するときに（該タイミングが到来したことを契機として）発生可能であり、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの間に特別複許容状態が発生した場合であっても特定時間が経過するときに（該タイミングが到来したことを契機として）発生可能であるが、特別複許容状態が発生してから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示された場合は、特定時間が経過するときに発生することがないようにしてもよい。

【３５６８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に特別複許容状態が発生する場合に関して、該特別複許容状態が秘かに発生した場合であれば、上記特定時間が経過したときに、該特別複許容状態と重複するかたちで上記特別単許容状態が発生することを期待できるようになるが、その際、特別操作関連表示が表示されたときには該特別複許容状態と重複するかたちで上記特別単許容状態が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されることはもとより、上記特別単許容状態において特別操作手段に対する操作受付がなされたときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【３５６９】

またこの場合、特別複許容状態が発生してから特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示が表示されない場合であっても、特定時間が経過するときには（該タイミングが到来したことを契機として）発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、該特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３５７０】

［構成１２６－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表

示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした。

【３５７１】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２６－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２６－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３５７２】

そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。

【３５７３】

このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【３５７４】

この点、特別単許容状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３５７５】

例えば、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別複許容状態が発生しているか否かにかかわらず、該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１

態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３５７６】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特別単許容状態が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５７７】

またこの場合、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示開始される時点において、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに（該タイミングが到来したことを契機として）発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、該特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３５７８】

［構成１２７－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段と、前記特別操作手段に関連した特別操作関連表示を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示が、前記特別操作関連表示が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした。

【３５７９】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２７－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２７－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「特別操作関連表示」、「所定操作関連表示」と同じ操作手

段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３５８０】

そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。

【３５８１】

このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【３５８２】

この点、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であるが、上記所定操作関連表示が表示開始される時点において上記特別操作関連表示が特定態様で表示されていた場合は、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３５８３】

例えば、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別複許容状態が発生しているか否かにかかわらずこれを契機として発生しうるものであるが、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示が表示開始される時点で、特別操作関連表示が第２態様（特定態様）で表示されている状況下にある場合は、上記非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい。

【３５８４】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特別単許容状態が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における特別操作関連表示の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５８５】

またこの場合、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示開始される時点において、特別操作関連表示が第１態様（所定態様）で表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、非表示にされたときの緊張感をより好適に提供することが期待される

ようになる。
【３５８６】
［構成１２８－Ｃ］
例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単許容状態は、前記所定操作手段に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした。
【３５８７】
すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２８－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２８－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。
【３５８８】
そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。
【３５８９】
このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。
【３５９０】
この点、特別単許容状態は、所定操作手段に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示が表示開始されてか

ら特定時間が経過するときに該タイミングが到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色（所定配色）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色（特定配色）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい。

【３５９１】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したときに特別単許容状態が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５９２】

またこの場合、所定操作関連表示が第１配色（所定配色）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、該特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３５９３】

［構成１２９－Ｃ］

例えば、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、遊技者によって操作可能な特別操作手段及び所定操作手段と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化を１回だけ生じさせうる特別単許容状態を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化を複数回生じさせうる特別複許容状態を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化を１回だけ生じさせうる所定単許容状態を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化を複数回生じさせうる所定複許容状態を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段に関連した所定操作関連表示を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特別単許容状態は、前記所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり、前記特別複許容状態は、前記特別単許容状態において前記特別操作手段が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態が終了し且つ前記第１特別変化が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした。

【３５９４】

すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。なお、当該構成１２９－Ｃにかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」は、当該構成１２９－Ｃの技術思想を説明するために用いている呼称に過ぎない。したがって、他の構成にかかる「特別操作手段」、「所定操作手段」、「特別単許容状態」、「特別複許容状態」、「所定単許容状態」、「所定複許容状態」、「所定操作関連表示」と同じ操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよいし、異なる操作手段や、許容状態、関連表示を意味するものであってもよい。また、他の構成にかかる別名称の操作手段や、許容状態と同じ「操作手段」や、「許容状態」、「関連表示」を意味するものであってもよい。

【３５９５】

そしてこの場合、特別複許容状態については、特別単許容状態において「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態が終了し且つこれに応じた第１特別変化（特別単許容状態に対応する受付後変化）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても特別単許容状態で開始された「特別操作手段を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）が生じるようにしてもよい。

【３５９６】

このような構成によれば、特別単許容状態に対応する受付後変化（第１特別変化）が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【３５９７】

この点、特別単許容状態は、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示が第１配色（所定配色）で表示開始されたものであるときには、上記非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合があるのに対し、所定操作関連表示が第２配色（特定配色）で表示開始されたものであるときには、上記非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい。

【３５９８】

このような構成によれば、所定操作関連表示が表示状態から非表示にされるときに特別単許容状態が発生するか否かについては、該所定操作関連表示が表示開始される時点における当該所定操作関連表示としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【３５９９】

またこの場合、所定操作関連表示が第１配色（所定配色）で表示開始された場合であっても、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるときにこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示が非表示にされるときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【３６００】

なお、上記各構成（構成１－Ａ～構成４０－Ａ、構成１－Ｂ～構成７５－Ｂ）にあって、第１操作手段に対応する操作関連表示（第１所定態様及び第１特定態様）が表示されている期間であっても、オート連打可能な状態にある場合と、オート連打可能でない状態にある場合との両方があるようにしてもよい。オート連打可能でない状態とは、例えば、第１操作手段に対応する操作関連表示（第１所定態様及び第１特定態様）が表示されてから間もない状態（操作受付が許容される状態になる直前）とか、第１操作手段に対応する操作関連表示（第１所定態様及び第１特定態様）が非表示にされる直前の間もない状態（操作受付が許容される状態が終了した直後）であってもよいし、それ以外の状態であってもよい。

【３６０１】

また、上記各構成にあって、第２操作手段に対応する操作関連表示（第２所定態様及び第２特定態様）が表示されている期間であっても、オート連打可能な状態にある場合と、オート連打可能でない状態にある場合との両方があるようにしてもよい。オート連打可能でない状態とは、例えば、第２操作手段に対応する操作関連表示（第２所定態様及び第２特定態様）が表示されてから間もない状態（操作受付が許容される状態になる直前）とか、第２操作手段に対応する操作関連表示（第２所定態様及び第２特定態様）が非表示にさ

れる直前の間もない状態（操作受付が許容される状態が終了した直後）であってもよいし、それ以外の状態であってもよい。

【３６０２】

また、上記各構成にあって、第１操作関連表示（第１所定態様、第１特定態様など）や第２操作関連表示（第２所定態様、第２特定態様など）は、図柄変動が行われていない状態（例えば、大当り遊技状態や、図柄変動が停止されてから次の図柄変動が開始されるまでの間など）において表示されるものであってもよいし、複数回の図柄変動にわたって表示されるもの（例えば、「保留状態にされている図柄変動において大当り図柄が現れる期待度」を事前示唆する受付後変化（例えば、いわゆる保留変化など）が出現可能な有効期間にあることを示唆する画像表示など）であってもよい。

【３６０３】

また、上記各構成にあって、第１操作関連表示は、第１所定態様で表示されている状態から非表示の状態にされたとしても、該非表示の状態にされてから所定時間が経過するよりも前に第１特定態様で新たに表示されない場合があるようにしてもよい。

【３６０４】

また、上記各構成にあって、第１操作関連表示が表示される条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて表示されるようにしてもよいし、第２操作関連表示が表示される条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて表示されるようにしてもよい。第１操作関連表示が非表示にされる条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて非表示にされるようにしてもよいし、第２操作関連表示が非表示にされる条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて非表示にされるようにしてもよい。第１操作関連表示や第２操作関連表示が表示される条件としては、例えば、大当り判定で特別の結果が得られた場合や、図柄変動の変動パターンとして特別の変動パターンを選択した場合や、始動口への入球に基づく演出判定（先読み判定など）で特別の結果が得られた場合や、大当り遊技状態が開始されてから所定時間が経過した場合などを採用することが可能である。第１操作関連表示や第２操作関連表示が非表示にされる条件としては、例えば、操作受付に応じた演出判定で特別の結果が得られた場合や、予め定められた表示時間が終了した場合などを採用することが可能である。

【３６０５】

また、上記各構成にあって、第１所定態様で表示されている第１操作関連表示が非表示の状態にされてから所定時間が経過するよりも前に、第１特定態様で第１操作関連表示が新たに表示される場合、「第１所定態様で表示されている第１操作関連表示が非表示の状態にされてから第１特定態様で第１操作関連表示が新たに表示されるまでの時間」が必ず予め定められた時間（常に一定の時間）であるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１所定態様で表示されている第１操作関連表示が非表示の状態にされてから所定時間が経過するまでの間における遊技興趣を好適に維持することが可能とされうる。

【３６０６】

また、上記各構成にあって、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されているときに第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されているときに第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化とは同じ変化であってもいいし、異なる変化であってもよい。また、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているときに第２操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化と、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているときに第２操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化とは同じ変化であってもいいし、異なる変化であってもよい。

【３６０７】

例えば、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されているときに第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されているときに第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化とは、互いに同

じ変化であるが、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているときに第２操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化と、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているときに第２操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化とは、互いに異なる変化であるようにすれば、第１操作関連表示が表示されたときには、該第１操作関連表示が所定時間内に再び現れるかについての演出性に集中することを促すことが可能であり、第２操作関連表示が表示されたときには、その表示態様に応じて受付後変化としていかなる態様が現れるかについての演出性に集中することを促すことが可能であるようになる点で望ましい。

【３６０８】

なお、上記各構成にあって、第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化と、第２操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化とは同じ変化として現れる場合がないようにすることが望ましい。

【３６０９】

また、上記各構成にあって、受付後変化とは、大当りが得られる期待度を示唆するものであってもよいし、期待度を示唆しないものであってもよい。なお、大当りが得られる期待度を示唆しない場合とは、例えば、大当り遊技状態において大当りが得られる確率が高い高確率遊技状態に移行する期待度を示唆する場合や、ミニゲームでの得点を示す場合や、単に発光を繰り返すことができるだけの装飾用として用いられる場合などとして実現することが可能である。

【３６１０】

また、上記各構成にあって、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されているなかで第１操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、互いに同じ時間（間隔）であってもよい。

【３６１１】

また、上記各構成にあって、後述するが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音を上記受付後変化の１つとして出力させる場合と、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される受付後出力音を上記受付後変化の１つとして出力させる場合との両方があるようにしてもよい。

【３６１２】

また、上記各構成にあって、「第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音」と「第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される受付後出力音」とが同時出力されるようにしてもよい。

【３６１３】

また、上記各構成にあって、「第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音」が出力されているなかで第２操作手段が操作状態にあることの検出がなされた場合、該検出を契機として、該「第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音」は非可聴にされず継続するようにしてもよいし、非可聴にされるようにしてもよい。

【３６１４】

例えば、上記各構成にあって、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音を上記受付後変化の１つとして出力させうるが、該受付後出力音が出力されているなかで第２操作手段が再び操作状態になったことの検出がなされた場合、該検出を契機として該受付後出力音が非可聴の状態にされうるのに対し、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音を上記受付後変化の１

つとして出力させうるが、該受付後出力音が出力されているなかで第２操作手段が再び操作状態になったことの検出がなされた場合、該検出を契機として該受付後出力音が非可聴の状態にされることはないようにしてもよい。

【３６１５】

また、上記各構成にあって、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される受付後出力音が上記受付後変化の１つとして出力される場合がなく、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音を出力させる場合しかないようにしてもよい。

【３６１６】

また、上記各構成にあって、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、第２操作手段が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない受付後出力音を上記受付後変化の１つとして出力させうるが、該受付後出力音が出力されているなかで第２操作手段が再び操作状態になったことの検出がなされた場合、該検出を契機として該受付後出力音が非可聴の状態にされる場合と、該受付後出力音が非可聴の状態にされない場合との両方があるようにしてもよい。これらの種別の音のいずれもが出力状態にある場合があるようにしてもよい。

【３６１７】

また、上記各構成にあって、第１操作手段や第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化としては、受付後出力音や受付後表示などを必ずしも出力させないものであってもよく、何らかの変化が生じるものであればよい。

【３６１８】

また、上記各構成にあって、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化される（第２操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）場合と、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（第２操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合との両方があるが、第１操作関連表示が表示されており且つ第１操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（第１操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合がなく、いわゆるオート連打（長押し）が必ず有効化される（第１操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ようにしてもよい。

【３６１９】

また、上記各構成では、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下においては、「第２操作手段を操作状態に維持することによって受付後出力音を複数回発生させることができる回数」が、「第２操作手段を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音を複数回発生させることができる回数」よりも少なくなるようにしてもよい。これに対し、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている状況下においては、「第２操作手段を操作状態に維持することによって受付後出力音を複数回発生させることができる回数」が、「第２操作手段を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音を複数回発生させることができる回数」と同じとされるか、それよりも多くなるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が第２所定態様で表示される場合と第２特定態様で表示される場合とで、いわゆるオート連打機能としての有用性が異なるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【３６２０】

また、上記各構成では、第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの期間内で第１操作手段が操作状態に維持されたときに受付後変化を複数回発生させることのできる最大回数が、第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの期間内で第２操作手段が操作状態に維持されたときに受付後変化を複数回発生させることのできる最大回数よりも多くなるようにしてもよい。

【３６２１】
また、上記各構成では、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されており、且つ第２操作手段が非操作状態にあり、且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後出力音（受付後変化の１つである受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで第２操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、その時点で出力状態にある演出音の少なくとも１つが、これを契機として非可聴の状態（出力終了）にされる場合と、非可聴の状態（出力終了）にされない場合とがあるようにしてもよい。これに対し、上記各構成では、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されており、且つ第２操作手段が非操作状態にあり、且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後出力音（受付後変化の１つである受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで第２操作手段が非操作状態から操作状態になった場合は、その時点で出力状態にある演出音の少なくとも１つが、これを契機として非可聴の状態（出力終了）にされる場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されているときには、第２操作手段に対する再操作が受付けされたかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。第２操作関連表示が第２所定態様で表示されているときには、第２操作手段に対する再操作が受付けされたかを認識し難くしつつも認識しやすくされるときもあるから、緊張感を維持しつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。なお、「演出音の少なくとも１つ」とは、操作受付に応じた受付後出力音であってもよいし、受付後出力音ではなく、ＢＧＭや、他の効果音などであってもよい。

【３６２２】
また、上記各構成にあって、第１操作関連表示が表示されている期間内で第１操作手段が操作状態から非操作状態にされたときにこれを契機として表示変化が現れることはないが、第２操作関連表示が表示されている期間内で第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたときにはこれを契機として表示変化が現れる場合と現れない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されている期間内では、第１操作手段を操作状態に維持できているか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。第２操作関連表示が表示されている期間内では、第２操作手段を操作状態に維持できているか否かを認識し難くしつつも認識しやすくされるときもあるから、緊張感を維持しつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【３６２３】
また、上記各構成にあって、第２操作関連表示が第２所定態様で表示されている期間内で第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたときにはこれを契機として表示変化が現れないが、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている期間内で第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたときにはこれを契機として表示変化が現れうるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示される場合は、その態様に応じて、第２操作手段を操作状態に維持できているか否かの認識し易さが異なるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【３６２４】
また、上記各構成にあって、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたときにこれを契機として表示変化が現れるようにした場合であっても、その際、該非操作状態になったことを契機として新たな音が可聴出力させることはないようにしてもよい。

【３６２５】
また、上記各構成にあって、操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）は、操作手段に対する操作受付が許容される状態の発生と必ずしも関連して表示されるものでなくてもよい。例えば、遊技の進行中、操作ボタンに対する操作の説明をするために表示したり、演出の意味（期待度など）を説明したりするために、操作受付は許容しないものの操作対象を摸した摸画像表示として表示される場合などがあるようにしてもよいし、操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）が表示されていないなかで操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生する場合があるようにしてもよい。

【３６２６】

また、上記各構成にあって、操作手段に対する操作受付が許容される状態が継続している途中で操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）が非表示にされる場合があるようにしてもよいし、操作手段に対する操作受付が許容される状態が終了した時点において操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）が非表示の状態にされず、その表示状態が継続される場合があるようにしてもよい。

【３６２７】

要は、操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）については、該操作関連表示が表示されているときに、これに対応する操作手段（第１操作手段、第２操作手段）の操作受付が許容される場合があるものであればよい。

【３６２８】

また、上記各構成にあって、操作関連表示（第１操作関連表示、第２操作関連表示など）は、操作対象（操作手段）を摸した摸画像表示であってもよいし、操作対象への操作を促す文字情報（「押せ」、「引け」、「連打」など）であってもよい。操作を促すものであればよい。

【３６２９】

なお、上述や後述の各構成を実現する上では、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とは、予め定められた時間間隔で新たな受付後変化が生じるものであればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」を実現するようにしてもよい。

【３６３０】

また、上記各構成にあって、例えば、「第１受付後変化実行手段」や「第２受付後変化実行手段」など、異なる手段（構成）として記載されているものがあるが、これらの手段（構成）を具現化するにあたっては、各々の手段を、異なるハードウェア（若しくはソフトウェア）として別個構成するようにしてもよいし、同じハードウェア（若しくはソフトウェア）として構成するようにしてもよいし、若しくは各々の手段のうちの一方だけが複数のハードウェア（若しくはソフトウェア）で構成され、且つそれらハードウェア（若しくはソフトウェア）の１つは、各々の手段のうちの他方をも構成するものであるようにしてもよい。要は、１つの遊技機がその全体で各手段（各構成）を構築するものであれば、それらの手段（構成）をどのように構築するかは限定されない。

【３６３１】

また、上記各構成にあって、「時間が経過した以降に表示」と記載されている場合など、特に言及がされていないときは、複数回の図柄変動に跨って、そうした事象が生じる場合があるようにしてもよいし、複数回の図柄変動に跨ってしか、そうした事象が生じないようにしてもよい。そもそも、図柄変動も必ずしも実行されなくてもよい。

【３６３２】

また、「操作対象を操作状態に維持するだけで操作受付が複数回なされ、これによって操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される機能」のことを、 説明の便宜上、「オート連打機能」や「長押し機能」として記載する場合があるが、これは、押しボタン式の操作対象に限られない。例えば、レバーなどの引くタイプの操作対象であれば、「引いた状態を維持するだけで、操作受付が複数回なされ、これによって操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される」こととなるが、説明の便宜上、これも「オート連打機能」や「長押し機能」として説明する場合がある。このような操作対象としては、他にも、近接タイプや接触タイプの操作対象（操作状態は、「近接した状態」に相当）や、回転操作や回動操作タイプの操作対象（操作状態は、「回転または回動した状態」に相当）や、引き抜くタイプの操作対象（操作状態は、「引き抜いた状態」に相当）など、様々なタイプの操作対象を用いることが可能である。

【３６３３】
また、上記各構成にあって、「第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、それまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はない」とは、「第２操作手段に対する操作受付が１回だけ許容される単発操作状態」を対象として含む意図であるが、当該単発操作状態では、第２操作手段に対する操作受付が再びなされないことは当然である。なぜなら、第２操作手段に対する操作受付が１回だけ許容される単発操作受付状態では、通常、第２操作手段が非操作状態（オフ）から操作状態（オン）に切り替わったことの検出を契機として、該第２操作手段に対する操作受付が１回だけなされるようになっているからである。すなわち、「操作状態を維持」する操作では、このようなオフからオンへの検出が生じず、第２操作手段に対する操作受付がなされないことは明らかである。なおこのことは、「第２操作手段に対する操作受付が複数回許容されるが、いわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されない状態」においても同様のことが言える。
【３６３４】
この点、上記構成にあって、「第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、それまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はない」とは、「第２操作手段に対する操作受付が複数回許容されており且ついわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化される状態」を対象として含むことに技術的特徴があると言える。すなわち、「第２操作手段に対する操作受付が複数回許容されており且ついわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されうる状態」では、第２操作手段が操作状態に維持されていることの検出（より正確には、予め定められた処理単位時間毎に、第２操作手段が操作状態（オン）になっていることの検出）に基づいてオート連打機能（長押し機能）を通じた複数回の受付後変化が生じるようになっている。したがって、「第２操作手段に対する操作受付が複数回許容されており且ついわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されうる状態」が発生した場合であっても、「第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても、それまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が再びなされる場合はない」ようにすることは、「有効操作」として判定するだけの検出結果が得られているにもかかわらず、これを制御上無視することであり、このことは「有効操作」として判定するだけの検出結果（オン→オフ）が得られない上述した「単発操作受付状態」の場合とは異なり、困難性がある。
【３６３５】
事実、第１操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、それ以降も該第１操作手段を操作状態に維持し続けると、それまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じるようになっており、このことは、「操作手段に対する操作受付が複数回許容されており且ついわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されうる状態」においては、操作手段を操作状態に維持するだけで「有効操作」として判定するだけの検出結果が得られていることを意味している。
【３６３６】
なお、第１操作手段に対する操作受付が許容される状態として「第１操作手段に対する操作受付が１回だけ許容される単発操作受付状態」が発生した場合であっても、それまで維持した第１操作手段に対する操作状態の検出に基づいて受付後変化が１回だけ生じるようにしてもよいが、該１回だけの受付後変化については「それまで維持した第１操作手段に対する操作状態」の検出に基づいて生じないようにすることが望ましい。若しくは、第１操作手段に対する操作受付が許容される状態としては、「第１操作手段に対する操作受付が複数回許容されており且ついわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されうる

状態」しか用意されないようにし、これによって「それまで維持した第１操作手段に対する操作状態」の検出に基づいて１回だけ受付後変化が生じる場合がないようにしてもよい。

【３６３７】

また、上記各構成にあって、第１受付後変化実行手段については、「第１操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能」な手段として実現することとしたが、要は、第１操作手段に対して操作が行われると、該操作が検出され、その検出に応じた検出後変化（例えば、表示変化や、可動体動作や、発光変化や、音出力変化（再生、停止）など）を生じさせる手段として実現されるものであればよい。第２受付後変化実行手段についても、「第２操作手段に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能」な手段として実現することとしたが、要は、第２操作手段に対して操作が行われると、該操作が検出され、その検出に応じた検出後変化（例えば、表示変化や、可動体動作や、発光変化や、音出力変化（再生、停止）など）を生じさせる手段として実現されるものであればよい。

【３６３８】

また、上記各構成にあって、第１操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じうるようにすることが望ましいし、第２操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じうるようにすることが望ましい。ただし、第１操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じる場合があればよく、該受付後表示変化が生じない場合があるようにしてもよいし、第２操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じる場合があればよく、該受付後表示変化が生じない場合があるようにしてもよい。

【３６３９】

また、上記各構成（構成１－Ｃ～構成１２９－Ｃ）にあって、特別操作関連表示（所定態様、特定態様など）や所定操作関連表示（第１配色、第２配色など）は、図柄変動が行われていない状態（例えば、大当り遊技状態や、図柄変動が停止されてから次の図柄変動が開始されるまでの間など）において表示されるものであってもよいし、複数回の図柄変動にわたって表示されるもの（例えば、「保留状態にされている図柄変動において大当り図柄が現れる期待度」を事前示唆する受付後変化（例えば、いわゆる保留変化など）が出現可能な有効期間にあることを示唆する画像表示など）であってもよい。

【３６４０】

また、上記各構成にあって、特別操作関連表示については、その表示条件が複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて表示されるようにしてもよいし、所定操作関連表示についても、その表示条件が複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて表示されるようにしてもよい。また、特別操作関連表示が非表示にされる条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて非表示にされるようにしてもよいし、所定操作関連表示が非表示にされる条件は複数あり、それら条件のいずれかが満たされたことに基づいて非表示にされるようにしてもよい。

【３６４１】

また、特別操作関連表示や所定操作関連表示が表示される条件としては、例えば、大当り判定で特別の結果が得られた場合や、図柄変動の変動パターンとして特別の変動パターンを選択した場合や、受入口（特別図柄や普通図柄などに関連した始動口や通過口など）への入球に基づいて満たされるように設定することが可能である（例えば、大当り判定や、先読み判定、普図当り判定、入球数判定、演出判定などで特別の結果が得られた場合など）。また、図柄変動が開始されてから所定時間が経過した場合や、大当り遊技状態が開始されてから所定時間が経過した場合など、何らかのイベント発生から予め定められた時間が経過したことに基づいて満たされるようにしたり、ＲＴＣ（リアルタイムクロック）機能を用いて適宜のタイミングで満たされるようにしたり、遊技者による何らかの操作対象に対する操作が検出、受付けされたことに基づいて満たされるようにすることも可能であり、要は、特別操作関連表示や所定操作関連表示が表示される条件については、「予め

定められた条件」として設定されるものであればよい。
【３６４２】
　また、上記各構成にあって、受付後変化とは、大当りが得られる期待度を示唆するものであってもよいし、期待度を示唆しないものであってもよい。なお、大当りが得られる期待度を示唆しない場合とは、例えば、大当りが得られる確率が高い高確率遊技状態に移行する期待度を示唆する場合や、ミニゲームでの得点を示す場合や、単に発光を繰り返すことができるだけの装飾用として用いられる場合や、大当り中のキャラクタや楽曲などの選択などとして実現することが可能である。
【３６４３】
　また、上記各構成にあって、特別操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）は、特別操作関連表示がいずれの表示態様で表示されているか、さらには表示されているか否かにかかわらず、同じ時間（間隔）であり、一定の時間であるようにしてもよい。
【３６４４】
　これに対し、上記各構成にあって、所定操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）は、所定操作関連表示がいずれの表示態様で表示されているか、さらには表示されているか否かに応じて、異なる時間（間隔）で現れるようにしてもよい。例えば、所定操作関連表示が同じ配色で表示されている場合であっても、その形態が第１態様であるときと第２態様であるときとで、所定操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）が異なるようにしてもよい。例えば、所定操作関連表示がいずれの表示態様で表示されているかに応じて、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定の時間で現れる場合と、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定ではない時間（不定の時間）で現れる場合とがあるようにしてもよい。なお、所定操作手段を所定操作状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化されて「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定の時間で現れる場合であっても、特別操作手段を特別操作状態に維持したときにいわゆるオート連打機能が有効化されて「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定の時間で現れるときとは異なる間隔の長さで現れるようにすることが望ましい。
【３６４５】
　また、上記各構成にあって、特別操作手段や所定操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化としては、受付後出力音や受付後表示などを必ずしも実行させないものであってもよく、何らかの変化が生じるものであればよい。
【３６４６】
　また、上記各構成にあって、所定操作関連表示が表示されており且つ所定操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化される（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）場合と、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合との両方があるが、特別操作関連表示が表示されており且つ特別操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合がなく、いわゆるオート連打（長押し）が必ず有効化される（特別操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ようにしてもよい。
【３６４７】
　また、上記各構成にあって、特別操作関連表示が表示されておらず且つ特別操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（特別操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合がなく、いわゆるオート連打（長押し）が必ず有効化される（特別操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ようにしてもよい。

【３６４８】
　また、上記各構成にあって、所定操作関連表示が表示されておらず且つ所定操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態においては、いわゆるオート連打（長押し）が有効化されない（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされない）場合がなく、いわゆるオート連打（長押し）が必ず有効化される（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ようにしてもよい。
【３６４９】
　また、上記各構成にあって、所定操作関連表示が表示されており且つ所定操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態において、いわゆるオート連打（長押し）が有効化される（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ときは、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定ではない時間（不定の時間）で現れる場合と、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定の時間で現れる場合との両方があるが、所定操作関連表示が表示されておらず且つ所定操作手段に対する操作受付が複数回許容されている状態において、いわゆるオート連打（長押し）が有効化される（所定操作手段を操作状態にするだけでは操作受付が複数回なされる）ときは、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定ではない時間（不定の時間）で現れる場合がなく、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔」が一定の時間でのみ現れるようにしてもよい。
【３６５０】
　また、上記各構成にあって、操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）は、操作手段に対する操作受付が許容される状態の発生と必ずしも関連して表示されるものでなくてもよい。例えば、遊技の進行中、操作ボタンに対する操作の説明をするために表示したり、演出の意味（期待度など）を説明したりするために、操作受付は許容しないものの操作対象を摸した摸画像表示として表示される場合などがあるようにしてもよいし、操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）が表示されていないなかで操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生する場合があるようにしてもよい。
【３６５１】
　また、上記各構成にあって、操作手段に対する操作受付が許容される状態が継続している途中で操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）が非表示にされる場合があるようにしてもよいし、操作手段に対する操作受付が許容される状態が終了した時点において操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）が非表示の状態にされず、その表示状態が継続される場合があるようにしてもよい。
【３６５２】
　要は、操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）については、該操作関連表示が表示されているときに、これに対応する操作手段（特別操作手段、所定操作手段）の操作受付が許容される場合があるものであればよい。
【３６５３】
　また、上記各構成にあって、操作関連表示（特別操作関連表示、所定操作関連表示など）は、操作対象（操作手段）を摸した摸画像表示であってもよいし、操作対象への操作を促す文字情報（「押せ」、「引け」、「連打」など）であってもよい。操作を促すものであればよい。
【３６５４】
　なお、上述や後述の各構成を実現する上では、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とは、予め定められた時間間隔で新たな受付後変化が生じるものであればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」を実現するようにしてもよい。
【３６５５】

また、上記各構成にあって、例えば、「特別単種別許容状態手段」や「特別複種別許容状態手段」など、異なる手段（構成）として記載されているものがあるが、これらの手段（構成）を具現化するにあたっては、各々の手段を、異なるハードウェア（若しくはソフトウェア）として別個構成するようにしてもよいし、同じハードウェア（若しくはソフトウェア）として構成するようにしてもよいし、若しくは各々の手段のうちの一方だけが複数のハードウェア（若しくはソフトウェア）で構成され、且つそれらハードウェア（若しくはソフトウェア）の１つは、各々の手段のうちの他方をも構成するものであるようにしてもよい。要は、１つの遊技機がその全体で各手段（各構成）を構築するものであれば、それらの手段（構成）をどのように構築するかは限定されない。

【３６５６】

また、上記各構成にあって、「・・・時間が経過したときに表示」や「・・・が非表示にされるときに表示」と記載されている場合など、特に限定的な言及がされていないときは、１つの図柄変動内でそうした事象が生じる場合のほか、複数回の図柄変動に跨って、そうした事象が生じる場合があるようにしてもよいし、複数回の図柄変動に跨ってしか、そうした事象が生じないようにしてもよい。そもそも、図柄変動も必ずしも実行されなくてもよい。

【３６５７】

また、「操作対象を操作状態に維持するだけで操作受付が複数回なされ、これによって操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される機能」のことを、 説明の便宜上、「オート連打機能」として記載する場合があるが、実際には「オート連打機能」に限られず、これとは異なる機能として呼称される機能（例えば、長押し機能など）も含む意図である。また、このような機能を実現する操作対象としても、押しボタン式の操作対象に限られない。例えば、レバーなどの引くタイプの操作対象であれば、「引いた状態を維持するだけで、操作受付が複数回なされ、これによって操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される」こととなるが、説明の便宜上、これも「オート連打機能」として説明する場合がある。このような操作対象としては、他にも、近接タイプや接触タイプの操作対象（操作状態は、「近接した状態」に相当）や、回転操作や回動操作タイプの操作対象（操作状態は、「回転または回動した状態」に相当）や、引き抜くタイプの操作対象（操作状態は、「引き抜いた状態」に相当）など、様々なタイプの操作対象を用いることが可能である。

【３６５８】

また、上記各構成にあって、特別操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じうるようにすることが望ましいし、所定操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じうるようにすることが望ましい。ただし、特別操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じる場合があればよく、該受付後表示変化が生じない場合があるようにしてもよいし、所定操作手段の操作受付に応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化が生じる場合があればよく、該受付後表示変化が生じない場合があるようにしてもよい。

【３６５９】

また、上記各構成では、特別操作関連表示の態様として複数種別が用意されるが、それら態様には、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生する（または、発生している）ことを確定的に示唆する態様が１つも含まれないようにするのに対し、所定操作関連表示の態様として複数種別が用意されるが、それら態様には、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」が発生する（または、発生している）ことを確定的に示唆する態様が少なくとも１つは含まれるようにしてもよい（それら態様の全てが確定的に示唆する態様であってもよい）。

【３６６０】

また、上記各構成にあって、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」や、「所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」は、操作受付を契機として終了されない状態（例えば、時間経過や、所定タイミングの到来や、演出抽選などで終了される状態など）として用意されるものであってもよいし、操作受付を契機

として終了される状態として用意されるものであってもよい。
【３６６１】
　また、上記各構成にあって、「特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」は、所定操作関連表示が表示開始されてからの経過時間や、所定操作関連表示の表示状態の変化（非表示条件の成立など）を契機として発生する場合があるが、「所定操作手段に対する操作の受付けが許容される状態」は、特別操作関連表示が表示開始されてからの経過時間や、その表示状態の変化を契機として発生することがないようにしてもよい。またこの場合、「特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」は、所定操作関連表示が表示開始されてからの経過時間や、所定操作関連表示の表示状態の変化（非表示条件の成立など）を契機として発生可能であるが、「特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態」は、特別操作関連表示が表示開始されてからの経過時間や、その表示状態の変化を契機として発生することがないようにしてもよい。
【３６６２】
　また、上記各構成にあって、特別操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（特別単種別許容状態）については、該受付けがなされたことに応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化を１回だけ生じさせるものとして用意するのに対し、特別操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態（特別複種別許容状態）については、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化の１つとして受付後表示変化を生じさせることはないが、これとは異なる特定変化を複数回生じさせるものとして用意するようにしてもよい。また、「所定操作手段に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（所定単種別許容状態）については、該受付けがなされたことに応じた受付後変化の１つとして受付後表示変化を１回だけ生じさせるものとして用意するとともに、「所定操作手段に対する操作の受付けが複数回許容される状態（所定複種別許容状態）については、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化の１つとして受付後表示変化を複数回生じさせるものとして用意するようにしてもよい。
【３６６３】
　［その他の構成］
　また上述の通り、パチンコ機１では、操作部に対して操作機会が付与される受付許容期間（操作許容状態）が発生する場合、該受付許容期間が発生することに関連した操作関連表示（例えば、操作受け部を摸した摸画像表示や、有効期間の発生に伴って表示される画像（味方キャラクタや、敵キャラクタなど））を表示するが、例えば、摸画像表示については、その周縁を装飾する周縁装飾画像と一体化された一体化摸画像表示（図１４４を参照）として表示するようにしてもよい。このような一体化摸画像表示については、図柄演出がＳＰリーチ中における特定タイミングまで進展したときに発生する受付許容期間（操作許容状態）と、ＳＰリーチに発展しない変動パターンで予告判定の結果として発生する受付許容期間（操作許容状態）とのいずれにおいても表示されるようにすることが望ましいし、低期待非抑制受付演出と高期待抑制受付演出とのいずれにおいても表示されるようにすることが望ましい。
【３６６４】
　なお、このような操作関連表示については、図１４４や図１４５を参照して説明した通り、またはその別例や変形例として記載した通りであるから、詳細は割愛するが、例えば、周縁装飾画像内にはゲージ画像（所定画像）ＧＧの表示対象領域が設けられている。また、操作関連表示として、期待度が異なる複数態様（図１４４参照）が用意されており、それら態様のいずれかで表示されるようになっている点も同様である。ただし、このような摸画像表示については、周縁装飾画像と一体化された一体化摸画像表示として必ずしも表示しなくてもよい。
【３６６５】
　また、この例にかかるパチンコ機１においても、操作部に対して操作機会が付与される受付許容期間（操作許容状態）が発生する場合、該受付許容期間が発生することに関連した操作関連音（例えば、受付許容音など）を可聴出力させる場合があるようになっており

、これによって操作し忘れを生じ難くするようにしている。ここで、「受付許容音」とは、音が出力開始されると、この音が出力されている間（音データが割り当てられている間）に受付許容期間（受付期間）が必ず発生するか、受付許容期間（受付期間）が既に発生している状態にある音のことである。すなわち、「受付許容音」とは、操作受付が許容される状態になったこと、または操作受付が許容される状態になることを示唆するものであり、受付許容期間（受付期間）と何ら関係のない演出が行われている状況下においては出力されることがない音であるとも言える。

【３６６６】

ところで、上述の通り、このパチンコ機１では、受付けされたときに現れる受付後変化（例えば、受付後表示、受付後出力音など）としての種別（例えば、会話予告、カットイン予告、可動体予告など）が異なる複数の受付許容期間（操作許容状態）を用意している。各受付許容期間（操作許容状態）には発生条件がそれぞれ定められており、それら発生条件のいずれか１つが成立すると、該成立した発生条件に応じた種別の受付許容期間（操作許容状態）を発生可能としている。

【３６６７】

また、これも上述したが、パチンコ機１では、遊技者による操作を受ける操作部として、複数の操作部（例えば、操作ボタン４１０や、刀装飾体５００１など）を備えている。この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、１つの操作部だけでなく、いくつか（複数）の操作部が操作受付可能な状態として許容されうる受付期間（複数操作許容期間）を発生可能としている。ただし、当該構成については、必須の構成ではない。

【３６６８】

以下、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」や、「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」、「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」等を備える当該パチンコ機１について、その詳細を、図を参照して説明する。ただし、これらの発明を実現する場合は、以下に説明する各構成から所望の作用効果を得る上で必要な構成だけを適宜選出して部分的に備えるだけでよく、その全てを備える必要はない。例えば、解決する課題（目的とした作用効果）の種別（発明の種別）によっては、いくつか（複数）の操作部が操作受付可能な状態として許容されうる受付期間（複数操作許容期間）が必ずしも発生しないもの（１つの操作部だけが操作受付可能な状態として許容されうる受付期間）であってもよいし、複数回の操作受付が許容されうる操作部を備えないものであってもよいし、１回の操作受付だけが許容される操作部を備えないものであってもよいし、自動ボタン機能やオート連打機能が有効化されないものであってもよい。また、図１４５までを参照しつつ上述した各受付期間についてはこれらを必ずしも備えないようにしてもよいし、それらの各構成から所望の作用効果を得る上で必要な構成だけを適宜選出して部分的に備えるようにしてもよい。すなわち、以下に説明する明細書中に記載される各構成については、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」、「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」、及び「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」のいずれか１つに対してさらなる作用効果を得たいときにそれに対応する構成だけを任意に選別して採用可能である。また、以下に説明する各例では、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」や「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」や「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」等の多く、または全てを有する遊技機として説明する便宜上、あらゆる構成を有した場合を例示することとなるが、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」や「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」や「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」の各構成（技術思想）については、以下に例示する「他の構成（技術思想）が有している構成」を必ずしも持たなくてよい。例えば、以下に例示する「他の構成（技術思想）が有している構成」を、それとは別の構成に置き換えて備えるようにしてもよいし、以下に例示する「他の構成（技術思想）が有している構成」を割愛してもよいことは言うまでもない。

【３６６９】

まず、説明の便宜上、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」、「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」、及び「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」のうち、まず、パチンコ機１が「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」を備える場合について説明することとする。

【３６７０】
この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第１Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１４６は、上記発生条件として「条件１Ａ」が満たされたことに基づいて「第１Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１４７は、「第１Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１４８は、「第１Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【３６７１】
いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第１Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第１Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第１Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第１Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第１Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。
【３６７２】
図１４６（ｃ）に示されるように、「第１Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ａ時間が経過したタイミングｔＡａ２が到来したことに基づいて（「条件１Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ａ受付後変化（第１Ａ演出状況示唆表示ＪＡ１や、第１Ａ連打中表示ＨＡ１、第１Ａ受付後出力音ＳＡ１，ＳＢ１など）に関しての第１Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第１Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１４８（ａ）に示される状況）。
【３６７３】
ここで、この実施の形態にかかる第１Ａ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第１Ａ操作部」は上記操作ボタン４１０として設定されており、当該第１Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【３６７４】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１４６（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第１Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第１Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ１と、操作対象（ここでは、第１Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＡ１と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１とを、当該第１Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第１Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡａ１が到来したときに表示するものとなっている。
【３６７５】
ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ１や、メッセージ表示ＭＡ１、状況示唆表示ＪＡ１については、必ずしも第１Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第１Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＡ１については、第１Ａ受付許容状態において第１Ａ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第１Ａ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ａ１が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＡ１が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＡ１は、摸画像表示ＭＧ－Ａ１が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。
【３６７６】
摸画像表示ＭＧ－Ａ１や、メッセージ表示ＭＡ１、状況示唆表示ＪＡ１については、表

示開始された以降は、第１Ａ操作部の操作状態にかかわらず、当該第１Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。

【３６７７】

ここで、第１Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ１」は、その配色として「第１配色（例えば、白色が基調とされた配色）」及び「第２配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」のいずれかが選択的に用いられるようになっており、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を用いて表示されるようになっている。

【３６７８】

また、第１Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ１」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期１Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。なお後述するが、この周期１Ａ時間は、他の受付許容状態の多くで用いられる周期時間よりも短い時間（短サイクル）として設定されていることから、当該第１Ａ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下に素早く移動する様子が描写されることとなる。

【３６７９】

また、第１Ａ受付許容状態とは、本来、図１４７（ｂ）に示されるように、第１Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡａ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡａ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第１Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第１Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡａ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ１内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。

【３６８０】

なお、第１Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ１」を、当該第１Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡａ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡａ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第１Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ１」は、タイミングｔＡａ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。

【３６８１】

また、この例にかかる第１Ａ受付許容状態では、図１４６（ｃ），（ｄ）及び図１４８（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ａ１のほか、第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「コウモリを倒せ！ボタン「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＡ１）が表示されるものとなっている。

【３６８２】

また、この例にかかる第１Ａ受付許容状態では、図１４６（ｅ）及び図１４８（ａ）に示されるように、当該第１Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１として、当該第１Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ１）と、当該第１Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、巨大コウモリとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ１が表示されるようになっている。第１Ａ受付許容状態では、「第１Ａ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ１を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃するように演出が実行

されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ１として、味方キャラクタＹＳ－Ａ１と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ１と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。

【３６８３】

例えば、図１４６に示した例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ａ１（図１４８（ｂ）に示される演出状況）において、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【３６８４】

この例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ａ１において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１４８（ｂ）に示される演出状況）。

【３６８５】

より具体的には、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ａ１において、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ａ受付後変化として、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ａ受付後表示」が表示開始される。

【３６８６】

すなわち、第１Ａ受付許容状態において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ａ受付後表示」として、図１４８（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第１Ａ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」が傷を負ったり、氷系魔法の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第１Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１４６（ｅ），（ｆ）や、図１４８（ｆ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第１Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第１Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第１Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【３６８７】

また、この例では、第１Ａ受付許容状態において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ａ受付後表示」のほか、上記「第１Ａ受付後出力音」として、図１４６（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ１が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ１は、上記「第１Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第１Ａ受付後出力音」と

して、第２の受付後出力音ＳＢ１がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ１は、上記「第１Ａ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音ＳＡ１については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第１Ａ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能なものであればよい。

【３６８８】

このように、第１Ａ受付許容状態では、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【３６８９】

そしてこの例は、図１４６（ａ）に示されるように、タイミングｔＡａ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第１Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡａ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【３６９０】

この点、第１Ａ受付許容状態は、「操作部（第１Ａ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１４６（ａ）に示される例では、タイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２までの期間（第１Ａ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第１Ａ操作部に対する操作受付が複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３６９１】

ここで、第１Ａ受付許容状態において第１Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第１Ａ受付後表示として、図１４８（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２では、まず、このような「１回分の動画表示」が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３６９２】

また、第１Ａ受付許容状態において第１Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第１Ａ受付後出力音が、上記「第１Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３６９３】

ただし、第１Ａ受付許容状態では、操作部（第１Ａ操作部）が操作状態に維持されてオ

ート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１Ａ受付後出力音）が、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。

【３６９４】

また、第１Ａ受付許容状態では、操作部（第１Ａ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１Ａ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間以下の時間とされるようになっている。

【３６９５】

すなわちこの場合、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２では、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する「１回分の動画表示」がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ１ａ」として表現することとしている。

【３６９６】

またこれも同様、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１Ａ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ１ａ」として表現することとしている。

【３６９７】

この点、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【３６９８】

したがって、当該期間内では、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ１（図１４６（ｅ）を参照）」や、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１４６（ｈ）を参照）」が、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることはない。

【３６９９】

このような構成によれば、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、図１４８中に示される「氷系の魔法攻撃」や「煙エフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行されるものの（連打中表示ＨＡ１ａ、第１の受付後出力音ＳＡ１ａ）、「状況示唆表示ＪＡ１（図１４６（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、単調な繰り返し操作を行わずとも、それを行ったときと同じ演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３７００】

なお、「状況示唆表示ＪＡ１（図１４６（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２までの期間（第１Ａ

操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１などの「状況示唆表示ＪＡ１（図１４６（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【３７０１】

また、タイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ１（図１４６（ｅ）を参照）」や、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１４６（ｈ）を参照）」は、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【３７０２】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ１ａが実行されている状況下（タイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間）では、図１４８（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ１ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ１」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【３７０３】

この点、図１４６や図１４８に示される演出例は、遊技者が、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡａ２―Ａ２において第１Ａ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【３７０４】

ここで、第１Ａ受付許容状態では、図１４６（ｆ）や図１４８（ｃ）などに示されるように、タイミングｔＡａ２―Ａ２において第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ１ａがこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＡ１ａは、タイミングｔＡａ２―Ａ２以降も（第１Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【３７０５】

このような構成によれば、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ１ａがすぐには非表示の状態にされないことから、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第１Ａ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３７０６】

またこの例では、連打中表示ＨＡ１ａが表示されているなかで第１Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ１ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３７０７】

このような構成によれば、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＡ１ａが非表示の状態にされて、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３７０８】

また、第１Ａ受付許容状態では、図１４６（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音ＳＡ１ａについても、上記連打中表示ＨＡ１ａと同様、タイミングｔＡａ２―Ａ２において第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音ＳＡ１ａは、タイミングｔＡａ２―Ａ２以降も（第１Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３７０９】

このような構成によれば、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【３７１０】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが出力されているなかで第１Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３７１１】

このような構成によれば、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３７１２】

また、この実施の形態にかかる第１Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ１ａ及び第１の受付後出力音ＳＡ１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、図１４６（ｆ），（ｇ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ１ａが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＡ１ａが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＡ１ａが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【３７１３】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第１Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ１ａ及び第１の受付後出力音ＳＡ１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１４６（ｆ），（ｇ）や、図１４８（ｃ）などに示されるように、第１Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＡ１ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ１ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第１Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１４６（ｆ），（ｇ）や、図１４８（ｄ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＡ１ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音ＳＡ１ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様（ここでは、態様ＪＡ１ａ）を容易に認識することができるようになる（図１４８（ｄ）を参照）。

【３７１４】

ただし上述の通り、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【３７１５】

したがって、図１４８（ｄ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様（ここでは、態様ＪＡ１ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１４８（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１４８（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【３７１６】

そしてこの例では、図１４６（ａ）に示されるように、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｂ１（図１４８（ｅ）に示される演出状況）において、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【３７１７】

この例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｂ１において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１４８（ｅ）に示される演出状況）。

【３７１８】

より具体的には、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｂ１において、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ａ受付後変化として、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ１（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【３７１９】

この例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｂ１で第１Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１４８（ｅ）に示される状況

では、上記タイミングｔＡａ２－Ａ１で第１Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第１Ａ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後表示や、第１Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３７２０】

この点、図１４６や図１４８に示される演出例は、タイミングｔＡａ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第１Ａ操作部の操作状態）も、タイミングｔＡａ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【３７２１】

したがって、当該「タイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３までの期間（第１Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第１Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３７２２】

そして、当該「タイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３までの期間（第１Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ１ａや、第１の受付後出力音ＳＡ１ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２までの期間」の場合（図１４８（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３７２３】

ただし、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１４８（ｆ）に示される演出状況）。

【３７２４】

したがって、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＡａ２－Ｂ２からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【３７２５】

より具体的には、タイミングｔＡａ２－Ｂ２からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡａ２－Ｂ２」では、図１４６（ｅ）及び図１４８（ｆ）に示されるように、第１Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ１ａ」から、これとは異なる「態様ＪＡ１ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１４８（ｆ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ１による氷系魔法がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ１の態様変化を通じて、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３７２６】
そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第１Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ａ受付後表示」として、図１４８（ｆ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１が強度の高くなった氷系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。
【３７２７】
なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第１Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第１Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第１Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。
【３７２８】
すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＡａ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。
【３７２９】
また、演出内容が進展したタイミングｔＡａ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示」による繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ１ｂ」として表現することとしている。
【３７３０】
このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡａ２－Ｂ２」が到来すると、図１４６（ｅ），（ｆ）及び図１４８（ｅ），（ｆ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ１の態様が「態様ＪＡ１ａ」から「態様ＪＡ１ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＡ１の態様についても「態様ＨＡ１ａ」から「態様ＨＡ１ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＡａ２－Ｂ２～ｔＡａ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＡ１が「態様ＪＡ１ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＡ１が「態様ＨＡ１ｂ」で実行されることとなる。
【３７３１】
なおこの例では、連打中表示ＨＡ１の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＡ１を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＡ１を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＡ１の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。
【３７３２】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第１Ａ受付許容状態において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ａ受付後表示」のほか、上記「第１Ａ受付後出力音」として、図１４６（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第１Ａ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の

受付後出力音ＳＡ１のほか、図１４６（ｈ）に示されるように、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ１が出力可能であることも上述した通りである。

【３７３３】

したがって、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡａ２－Ｂ２が到来すると、同図１４６（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡａ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ１が態様ＳＢ１ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音ＳＢ１については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音ＳＡ１よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【３７３４】

ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ１については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡａ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音ＳＡ１が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＡａ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＡａ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【３７３５】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡａ２－Ｂ１からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ１）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ１ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音ＳＡ１ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＡａ２－Ａ１からタイミングｔＡａ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３７３６】

なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ１ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【３７３７】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ１ｂが実行されている状況下（タイミングｔＡａ２－Ｂ２からタイミングｔＡａ２－Ｂ３の期間）においても、図１４８（ｆ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ１ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ１が、強度の高い氷系の魔法で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ１」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【３７３８】

この点、図１４６や図１４８に示される演出例は、遊技者が、当該第１Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡａ２―Ｂ３において第１Ａ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【３７３９】

ここで、上述の通り、第１Ａ受付許容状態では、当該第１Ａ受付許容状態が継続されているなかで第１Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を

無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ１がこれを契機として非表示の状態にされることはない。したがって、図１４６（ｆ）や図１４８（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＡａ２―Ｂ３において第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＡ１ｂは、タイミングｔＡａ２―Ｂ３以降も（第１Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【３７４０】

また、これも連打中表示ＨＡ１ａの場合と同様、連打中表示ＨＡ１ｂが表示されているなかで第１Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ１ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３７４１】

また上述の通り、第１Ａ受付許容状態では、当該第１Ａ受付許容状態が継続されているなかで第１Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１４６（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＡａ２―Ｂ３において第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音ＳＡ１ａは、タイミングｔＡａ２―Ｂ３以降も（第１Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３７４２】

ただし、図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ３は、タイミングｔＡａ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音ＳＢ１が出力状態を継続しているなかで、第１Ａ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。

【３７４３】

この点、第１Ａ受付許容状態では、第２の受付後出力音ＳＢ１についても、上記第１の受付後出力音ＳＡ１と同様、第１Ａ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にされる）ことがない。したがって、図１４６（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＡａ２―Ｂ３において第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音ＳＢ１ｂ－１は、タイミングｔＡａ２―Ｂ３以降も（第１Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３７４４】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ１が出力されているなかで第１Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音ＳＢ１についても同様、該第２の受付後出力音ＳＢ１が出力されているなかで第１Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音ＳＢ１が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３７４５】

このような構成によれば、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音ＳＡ１や第２の受付後出力音ＳＢ１が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費

することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第１Ａ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３７４６】

また、この実施の形態にかかる第１Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ１ｂ及び第１の受付後出力音ＳＡ１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１４６（ｆ），（ｇ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ１ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＡ１ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＡ１ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音ＳＡ１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。なお、このような連打中表示ＨＡ１ｂ及び第１の受付後出力音ＳＡ１ａの関係性については、連打中表示ＨＡ１ｂと第２の受付後出力音ＳＢ１との間や、第１の受付後出力音ＳＡ１ａと第２の受付後出力音ＳＢ１との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。

【３７４７】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第１Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ１ｂ、第１の受付後出力音ＳＡ１ａ、及び第２の受付後出力音ＳＢ１ｂ－１がそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１４６（ｆ），（ｇ），（ｈ）や、図１４８（ｇ）などに示されるように、第１Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＡ１ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ１ａが出力状態を継続しており、且つ第２の受付後出力音ＳＢ１ｂ－１が出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第１Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＡａ２－Ｂ３からの時間経過）によって、図１４６（ｆ）や、図１４８（ｈ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＡ１ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ａ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１、ゲージ画像ＨＰ－Ａ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＡ１ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１４８（ｈ）を参照）。

【３７４８】

また、本来であれば、第１の受付後出力音ＳＡ１ａ及び第２の受付後出力音ＳＢ１も、第１Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＡａ２－Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた各出力状態はいずれも終了（非可聴の状態に）される。

【３７４９】

ただしこの例では、図１４６（ａ）に示されるように、第１Ａ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＡａ２－Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音ＳＡ１ａ及び第２の受付後出力音ＳＢ１がいずれも可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＡａ２－Ｃ１（図１４８（ｉ）に示される演出状況）において第１Ａ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【３７５０】

この例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｃ１において「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＡａ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出

）」を再び生じさせることとなる（図１４８（ｉ）に示される演出状況）。
【３７５１】
より具体的には、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｃ１において、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４６（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ａ受付後変化として、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ１（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第１Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。
【３７５２】
この例では、第１Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡａ２－Ｃ１で第１Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が図１４８（ｈ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１４８（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔＡａ－Ｂ２で第１Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第１Ａ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後表示や、第１Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【３７５３】
ただし上述の通り、この例では、第１Ａ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１が、第１の受付後出力音ＳＡ１及び第２の受付後出力音ＳＢ１がいずれも可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。
【３７５４】
この点、第１の受付後出力音ＳＡ１については、タイミングｔＡａ２－Ｃ１で第１Ａ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、それまでの出力状態を終了するとともに、該新たな操作受付を契機とした新たな出力を開始させるようにしている。これに対し、第２の受付後出力音ＳＢ１については、タイミングｔＡａ２－Ｃ１で第１Ａ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続するようにしている。
【３７５５】
このような構成によれば、第１Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた第１Ａ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第１Ａ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第１Ａ受付後出力音が終了される場合（第１の受付後出力音ＳＡ１）と終了されない場合（第２の受付後出力音ＳＢ１）との両方があるようになるから、非操作の状態にあった第１Ａ操作部を再び操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。なお、第１Ａ受付許容状態では、第１の受付後出力音ＳＡ１が出力されており且つ第２の受付後出力音ＳＢ１が出力されている当該状況下において第１Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合のほか、第１の受付後出力音ＳＡ１が出力されており且つ第２の受付後出力音ＳＢ１が出力されていない状況下において第１Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合や、第１の受付後出力音ＳＡ１が出力されておらず且つ第２の受付後出力音ＳＢ１が出力されている状況下において第１Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合もあることは言うまでもない。
【３７５６】
なお、連打中表示ＨＡ１についても、タイミングｔＡａ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。この場合、連打中表示ＨＡ１については、それまで非操作の状態にあった第１Ａ操作部に対して操作受付がなされると、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで該新たな操作受付を契機とした新たな表示（１回分の動画表示）を開始させるようにすることが望ましい。

【３７５７】
　また、図１４６や図１４８に示される演出例は、タイミングｔＡａ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第１Ａ操作部の操作状態）も、タイミングｔＡａ２－Ｃ２までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。
【３７５８】
　したがって、当該「タイミングｔＡａ２－Ｃ１からタイミングｔＡａ２－Ｃ２までの期間（第１Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第１Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。
【３７５９】
　そして、当該「タイミングｔＡａ２－Ｃ１からタイミングｔＡａ２－Ｃ２までの期間（第１Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ１ｂや、第１の受付後出力音ＳＡ１ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、上述の「タイミングｔＡａ２－Ｂ２からタイミングｔＡａ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１４８（ｆ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【３７６０】
　ただし、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｃ１からタイミングｔＡａ２－Ｃ２の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡａ２－Ｃ２でなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）を想定したものとなっている（図１４８（ｊ）に示される演出状況）。特に、この例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｃ２では、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様に進展した場合を想定したものとなっており、当該第１Ａ受付許容状態についても、該タイミングｔＡａ２－Ｃ２でなされた操作受付を契機として終了される場合を想定したものとなっている（図１４６（ａ）及び図１４８（ｊ）を参照）。
【３７６１】
　したがって、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｃ１からタイミングｔＡａ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１４８（ｉ）を参照）で実行されるのに対し、タイミングｔＡａ２－Ｃ２以降は、第１Ａ操作部に対する操作受付が許容されない状態にされているもとで、「第１Ａ受付後変化（第１Ａ受付後演出）」が、演出内容がさらに進展した態様（最終段階の演出態様）で実行されることとなる（図１４８（ｊ）を参照）。
【３７６２】
　より具体的には、タイミングｔＡａ２－Ｃ２では、図１４６（ｅ）及び図１４８（ｊ）に示されるように、第１Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ１の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ１ｂ」から、これとは異なる「態様ＪＡ１ｃ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１４８（ｊ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１が撃破された態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ１による氷系魔法が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ１の周辺で爆発している態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ１が残りＨＰゲージのさらに減少した態様（ここでは「０」）に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ１の態様変化を通じて、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡａ２－Ｃ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３７６３】
ただし上述の通り、このような状況示唆表示ＪＡ１としての「態様ＪＡ１ｃ」は、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様」に相当するものであり、且つ当該第１Ａ受付許容状態が操作受付を契機として終了されるときにしか現れないものである。したがって、状況示唆表示ＪＡ１としての「態様ＪＡ１ｃ」は、タイミングｔＡａ２－Ｃ１でなされた操作受付に基づいて実行開始された以降は、その実行期間内で遊技者による操作があったか否かにかかわらず、予め定められた時間分だけ実行されてから非表示の状態にされることとなる。なおここでは、状況示唆表示ＪＡ１の最終段階の演出態様として、「態様ＪＡ１ｃ」のみを用意することとしたが、大当りが得られている期待度が異なる複数態様を用意することとし、その期待度に応じた（演出判定の結果に応じた）態様を選択的に出現させるようにしてもよい。
【３７６４】
また、タイミングｔＡａ２－Ｃ２で操作受付がなされると、それまで有効化されていたオート連打機能は、第１Ａ受付許容状態がこれを契機として終了されることに伴って無効化されることとなる。この点、タイミングｔＡａ２－Ａ２や、タイミングｔＡａ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＡ１を、これを契機として非表示の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非表示の状態にするようにしたが）、タイミングｔＡａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＡ１を、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間（例えば０秒）で）非表示の状態にするようにしている。
【３７６５】
また、この例では、タイミングｔＡａ２－Ａ２や、タイミングｔＡａ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１ａを、これを契機として非可聴の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非可聴の状態にするようにしたが）、タイミングｔＡａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１ａを、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にするようにしている。このような構成によれば、オート連打機能が無効化された以降の第１の受付後出力音ＳＡ１ａの出力状況を通じて、第１Ａ受付許容状態が終了されたか否かを示唆することができるようになる。
【３７６６】
ただし、第１の受付後出力音ＳＡ１ａについては、タイミングｔＡａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときに、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にする場合と、非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。例えば、大当りが得られている期待度が高いときには非可聴の状態にされるが、大当りが得られている期待度が低いときには非可聴の状態にされないようにすれば、最終態様が現れていない（高期待であることが示唆され得ない）タイミングｔＡａ２－Ａ２や、タイミングｔＡａ２－Ｂ３において非可聴の状態にされないこととも相まって、オート連打機能が無効化された以降の第１の受付後出力音ＳＡ１ａの出力状況を通じて、大当りが得られている期待度を示唆することができるようになる。
【３７６７】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作受付に応じた第１Ａ受付後出力音として、第１の受付後出力音ＳＡ１のほか、図１４６（ｈ）に示されるように、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ１を出力可能である。
【３７６８】
したがって、図１４６に示した例にかかるタイミングｔＡａ２－Ｃ１からタイミングｔ

Ａａ２－Ｃ２の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡａ２－Ｃ２が到来すると、同図１４６（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡａ２－Ｃ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ１が態様ＳＢ１ｂ－２で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容の進展度合いを認識することができるようになる。第２の受付後出力音ＳＢ１については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音ＳＡ１よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【３７６９】

なおこの例では、タイミングｔＡａ２－Ｃ２が、タイミングｔＡａ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ１ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音ＳＢ１ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。そしてこの場合、第２の受付後出力音ＳＢ１は、タイミングｔＡａ２－Ｃ２において「態様ＳＢ１ｂ－１」から、これとは異なる「態様ＳＢ１ｂ－２」に変化するかたちで（態様ＳＢ１ｂ－１を終了させ、これに代わるかたちで態様ＳＢ１ｂ－２が）出力されるようにしてもよい。

【３７７０】

また上述の通り、第１Ａ受付許容状態とは、本来、図１４７（ｂ）に示されるように、第１Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡａ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡａ３が到来したことに基づいて終了されるものである。この点、第１Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化される受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１４７に示されるように、第１Ａ受付許容状態でタイミングｔＡａ３が到来するときまで第１Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡａ３が到来したことに基づいて第１Ａ受付許容状態が終了されるだけでなく、第１Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第１Ａ受付後変化として、当該第１Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様（図１４７（ｅ），（ｈ）や、図１４８（ｊ）などを参照）が実行開始されることとなる。

【３７７１】

なお、第１Ａ受付許容状態については、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生させるようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ３が到来したことに基づいて第１Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第１Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第１Ａ受付後変化が実行開始されることはなくなる。

【３７７２】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第２Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１４９は、上記発生条件として「条件２Ａ」が満たされたことに基づいて「第２Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５０は、「第２Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５１は、「第２Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【３７７３】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第２Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第２Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第２Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第２Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第２Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【３７７４】

図１４９（ｃ）に示されるように、「第２Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期

間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第２Ａ時間が経過したタイミングｔＡｂ２が到来したことに基づいて（「条件２Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第２Ａ受付後変化（第２Ａ演出状況示唆表示ＪＡ２や、第２Ａ連打中表示ＨＡ２、第２Ａ受付後出力音ＳＡ２，ＳＢ２など）に関しての第２Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第２Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１５１（ａ）に示される状況）。

【３７７５】

ここで、この実施の形態にかかる第２Ａ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第２Ａ操作部」は、上記第１Ａ受付許容状態と同じ操作手段（操作ボタン４１０）として設定されており、当該第２Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。ただし、第２Ａ操作部については、上記第１Ａ受付許容状態と異なる操作手段として設定するようにしてもよい。

【３７７６】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１４９（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第２Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第２Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ２と、操作対象（ここでは、第２Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＡ２と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２とを、当該第２Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第２Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡｂ１が到来したときに表示するものとなっている。

【３７７７】

ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ２や、メッセージ表示ＭＡ２、状況示唆表示ＪＡ２については、必ずしも第２Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第２Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＡ２については、第２Ａ受付許容状態において第２Ａ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第２Ａ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ａ２が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＡ２が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＡ２は、摸画像表示ＭＧ－Ａ２が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【３７７８】

摸画像表示ＭＧ－Ａ２や、メッセージ表示ＭＡ２、状況示唆表示ＪＡ２については、表示開始された以降は、第２Ａ操作部の操作状態にかかわらず、当該第２Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。

【３７７９】

ここで、第２Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ２」は、その配色として「第１配色（例えば、白色が基調とされた配色）」及び「第２配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」のいずれかが選択的に用いられるようになっており、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を用いて表示されるようになっている。ただし、これらの配色については、上記第１Ａ受付許容状態と異なるようにしてもよい。

【３７８０】

また、第２Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ２」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期２Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期２Ａ時間は、第１Ａ受付許容状態で現れる周期１Ａ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されていることから、当該第２Ａ受付許容状態では、上述の第１Ａ受付許容状態と比べて「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【３７８１】
　また、第２Ａ受付許容状態とは、本来、図１５０（ｂ）に示されるように、第２Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｂ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｂ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第２Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第２Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｂ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ２内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。
【３７８２】
　なお、第２Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ２」を、当該第２Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡｂ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡｂ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第２Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ２」は、タイミングｔＡｂ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。
【３７８３】
　また、この例にかかる第２Ａ受付許容状態では、図１４９（ｃ），（ｄ）及び図１５１（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ａ２のほか、第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「タイガーを倒せ！ボタン「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＡ２）が表示されるものとなっている。
【３７８４】
　また、この例にかかる第２Ａ受付許容状態では、図１４９（ｅ）及び図１５１（ａ）に示されるように、当該第２Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２として、当該第２Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ２）と、当該第２Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、タイガーとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ２が表示されるようになっている。第２Ａ受付許容状態では、「第２Ａ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ２が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ２を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ２として、味方キャラクタＹＳ－Ａ２と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ２と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。なお、味方キャラクタＹＳ－Ａ２については、上記第１Ａ受付許容状態で現れる味方キャラクタＹＳ－Ａ１と異なる画像表示として表示するようにしてもよい。
【３７８５】
　例えば、図１４９に示した例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ａ１（図１５１（ｂ）に示される演出状況）において、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。
【３７８６】
　この例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ａ１において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１５１（ｂ）に示される演出状況）。

【３７８７】
より具体的には、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ａ１において、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、第２Ａ受付後変化として、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ａ受付後表示」が表示開始される。
【３７８８】
すなわち、第２Ａ受付許容状態において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ａ受付後表示」として、図１５１（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第２Ａ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」が傷を負ったり、炎系魔法の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第２Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１４９（ｅ），（ｆ）や、図１５１（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第２Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第２Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第２Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。
【３７８９】
また、この例では、第２Ａ受付許容状態において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ａ受付後表示」のほか、上記「第２Ａ受付後出力音」として、図１４９（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ２が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ２は、上記「第２Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものであり、上述の「第１の受付後出力音ＳＡ１」とは異なる音である。またこの際、後述するが、「第２Ａ受付後出力音」として、第２の受付後出力音ＳＢ２がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ２は、上記「第２Ａ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音ＳＡ２については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第２Ａ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能なものであればよい。
【３７９０】
このように、第２Ａ受付許容状態では、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「

敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【３７９１】

そしてこの例は、図１４９（ａ）に示されるように、タイミングｔＡｂ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第２Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡｂ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【３７９２】

この点、第２Ａ受付許容状態は、「操作部（第２Ａ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１４９（ａ）に示される例では、タイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第２Ａ操作部に対する操作受付が複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３７９３】

ここで、第２Ａ受付許容状態において第２Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第２Ａ受付後表示として、図１５１（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２では、まず、このような「１回分の動画表示」が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３７９４】

また、第２Ａ受付許容状態において第２Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第２Ａ受付後出力音が、上記「第２Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３７９５】

ただし、第２Ａ受付許容状態では、操作部（第２Ａ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、このような受付後変化（１回分の動画表示、効果音（第２Ａ受付後出力音）など）が複数回実行されるが、それらの実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）にされる。

【３７９６】

また、第２Ａ受付許容状態では、操作部（第２Ａ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第２Ａ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず上記特定時間（第１Ａ受付許容状態や第３Ａ受付許容状態で用いられる時間）よりも長い時間とされるようになっている。

【３７９７】

すなわちこの場合、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２では、味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する「１回分の動画表示」がオート連打機能によって不定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ２ａ」として表現することとしている。

【３７９８】

またこれも同様、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第２Ａ受付後出力音）がオート連打機能によって不定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ２ａ」として表現することとしている。

【３７９９】

この点、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【３８００】

したがって、当該期間内では、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ２（図１４９（ｅ）を参照）」や、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１４９（ｈ）を参照）」が、いずれも操作受付を契機として（演出進展する態様で）変化したり実行開始されたりすることはない。

【３８０１】

このような構成によれば、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間では、図１５１中に示される「炎系の魔法攻撃」や「煙エフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ不定の間隔毎に繰り返し実行されるものの（連打中表示ＨＡ２ａ、第１の受付後出力音ＳＡ２ａ）、「状況示唆表示ＪＡ２（図１４９（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３８０２】

なお、「状況示唆表示ＪＡ２（図１４９（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２などの「状況示唆表示ＪＡ２（図１４９（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【３８０３】

また、タイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間では、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ２（図１４９（ｅ）を参照）」や、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１４９（ｈ）を参照）」は、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができ

るようになる。
【３８０４】
ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ２ａが実行されている状況下（タイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２の期間）では、図１５１（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ２ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」が不定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ２」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。
【３８０５】
この点、図１４９や図１５１に示される演出例は、遊技者が、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡｂ２―Ａ２において第２Ａ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【３８０６】
ここで、第２Ａ受付許容状態では、図１４９（ｆ）や図１５１（ｃ）などに示されるように、タイミングｔＡｂ２―Ａ２において第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ２ａがこれを契機として非表示の状態にされる。すなわちこの場合、連打中表示ＨＡ２ａは、タイミングｔＡｂ２―Ａ２が到来したことを契機として（第２Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その実行状態が終了されることとなる。
【３８０７】
このような構成によれば、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ２ａがすぐに非表示の状態にされることから、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況は、早期に認識し易くされることとなる。そしてこのことは、当該第２Ａ受付許容状態としての残り時間をあまり消費しないことを意味するから、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為の容易化を図ることが期待されるようになる。
【３８０８】
またこの例では、連打中表示ＨＡ２ａが表示されているなかで第２Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ２ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。
【３８０９】
このような構成によれば、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＡ２ａが非表示の状態にされて、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し易くなる。そしてこのことは、当該第２Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し易くなることを意味するから、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為の容易化を図ることが期待されるようになる。当該作用効果については、上記一定の時間として「１秒」を設定した場合であっても得ることができるから、非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ２ａが非表示の状態にされるまでの時間については必ずしも「０秒」に設定しなくてもよい。
【３８１０】
また、第２Ａ受付許容状態では、図１４９（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音ＳＡ２ａについても、上記連打中表示ＨＡ２ａと同様、タイミングｔＡｂ２―Ａ２において第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にさ

れる。すなわちこの場合、第１の受付後出力音ＳＡ２ａは、タイミングｔＡｂ２―Ａ２が到来したことを契機として（第２Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その出力状態が終了されることとなる。

【３８１１】

このような構成によれば、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２ａがすぐに非出力の状態にされることとなり、この場合、オート連打機能が無効化されたことを好適に示唆することが期待されうる。

【３８１２】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ２ａが出力されているなかで第２Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ２ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。

【３８１３】

このような構成によれば、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音ＳＡ２ａが非出力の状態になるのかを予測し易くなる。そしてこのことは、当該第２Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し易くなることを意味するから、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断しようとする遊技手法の容易化を図ることが期待されるようになる。当該作用効果については、例えば、上記一定の時間として「０．５秒」を設定した場合であっても得ることができるから、非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ２ａが非出力の状態にされるまでの時間については必ずしも「０秒」に設定しなくてもよい。

【３８１４】

しかも、この例にかかる第２Ａ受付許容状態では、図１４９（ｆ）及び図１５１（ｃ）に示されるように、タイミングｔＡｂ２―Ａ２において第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、これを契機とした表示変化を新たに生じさせることとしている。

【３８１５】

ここで、第２Ａ操作部が非操作状態にされることを契機とした表示変化とは、「それまで表示状態にあった連打中表示ＨＡ２ａが非表示の状態にされることによって、その背後側にもともと表示されていた表示画像が視認可能とされる」といったようなものではなく、第２Ａ操作部が非操作の状態にされたことを契機とした処理を行うことによって何らかの新たな態様を出現させることであり、この例にかかる表示変化は、図１５１（ｃ）に示されるカットイン画像としての「非操作後表示ＨＢ２」を新たに表示開始させる処理を行うことによって出現されている。このような構成によれば、第２Ａ操作部が非操作の状態にされており、オート連打機能が無効化されている状態にあることをより確実に示唆することができるようになる。

【３８１６】

なお、この例にかかる「非操作後表示ＨＢ２」は、演出の進展度合いによって異なる複数態様が用意されており、タイミングｔＡｂ２―Ａ２では、演出が進展していないことを示唆する態様ＨＢ２ａで表示されるようになっている。ただし、「非操作後表示ＨＢ２」については、必ずしも演出の進展度合いを示唆する複数態様を用意するものでなくてもよい。若しくは、演出の進展度合いを示唆する複数態様のいずれかで表示される種別の第１非操作後表示と、演出の進展度合いを示唆しない一の態様でのみ表示される種別の第２非操作後表示との両方が「非操作後表示ＨＢ２」として表示されるようにしてもよい。

【３８１７】

この点、この例にかかる第２Ａ受付許容状態では、第２Ａ操作部が非操作状態にされる場合、これを契機として、新たな表示（非操作後表示ＨＢ２）を表示させるものの、該表示に対応する音を新たに出力開始させることはないようにしている。

【３８１８】
　また、図１５１（ｃ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２の態様（ここでは、態様ＪＡ２ａ）は、操作前の状態（図１５１（ａ）を参照）と同じであり、これによっても演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１５１（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。
【３８１９】
　なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ２のうち、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２については、「非操作後表示ＨＢ２」によって視認し難くされることがないようにすることとしており、これによって状況示唆表示ＪＡ２の態様を通じて演出内容の進展度合いを容易に把握することができるようにしている。味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２についても、「非操作後表示ＨＢ２」によって視認し難くされることがないようにしてもよい。
【３８２０】
　この点、「非操作後表示ＨＢ２」については、その態様にかかわらず、第２Ａ操作部が非操作の状態にされてから所定時間が経過したときに非表示にするようにしてもよいが、この例では、当該第２Ａ受付許容状態が継続している間はその表示状態を継続させることとし、当該第２Ａ受付許容状態が終了するタイミングｔＡｂ３が到来したこと、または遊技者による操作受付が新たに生じたことを契機として非表示にされるようにしている。このような構成によれば、第２Ａ受付許容状態が継続している途中段階で遊技者が操作を続けようとする意志を喪失した場合であっても、非操作後表示ＨＢ２の表示状態が当該第２Ａ受付許容状態の終了されるタイミングｔＡｂ３まで継続されるようになるから、それまで操作した分の演出結果が現れているように見せることが可能であり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【３８２１】
　そしてこの例では、図１４９（ａ）に示されるように、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｂ１（図１５１（ｄ）に示される演出状況）において、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。
【３８２２】
　この例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｂ１において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１５１（ｄ）に示される演出状況）。
【３８２３】
　より具体的には、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｂ１において、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、非操作後表示ＨＢ２（態様ＨＢ２ａ）を非表示にした上で、第２Ａ受付後変化として、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ２（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。
【３８２４】
　この例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｂ１で第２Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１５１（ｄ）に示される状況

では、上記タイミングｔＡｂ２－Ａ１で第２Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第２Ａ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後表示や、第２Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３８２５】

この点、図１４９や図１５１に示される演出例は、タイミングｔＡｂ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第２Ａ操作部の操作状態）も、タイミングｔＡｂ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【３８２６】

したがって、当該「タイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第２Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３８２７】

そして、当該「タイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ２ａや、第１の受付後出力音ＳＡ２ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２までの期間」の場合（図１５１（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３８２８】

ただし、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１５１（ｅ）に示される演出状況）。

【３８２９】

したがって、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【３８３０】

より具体的には、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡｂ２－Ｂ２」では、図１４９（ｅ）及び図１５１（ｅ）に示されるように、第２Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ２ａ」から、これとは異なる「態様ＪＡ２ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１５１（ｅ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ２による炎系魔法がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ２の態様変化を通じて、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３８３１】
そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第２Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ａ受付後表示」として、図１５１（ｅ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２が強度の高くなった炎系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。
【３８３２】
なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第２Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第２Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第２Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。
【３８３３】
すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＡｂ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。
【３８３４】
また、演出内容が進展したタイミングｔＡｂ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ａ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として不定の間隔（予め定められていない時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって不定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示」による繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ２ｂ」として表現することとしている。
【３８３５】
このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡｂ２－Ｂ２」が到来すると、図１４９（ｅ），（ｆ）及び図１５１（ｄ），（ｅ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ２の態様が「態様ＪＡ２ａ」から「態様ＪＡ２ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＡ２の態様についても「態様ＨＡ２ａ」から「態様ＨＡ２ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＡｂ２－Ｂ２～ｔＡｂ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＡ２が「態様ＪＡ２ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＡ２が「態様ＨＡ２ｂ」で実行されることとなる。
【３８３６】
なおこの例では、連打中表示ＨＡ２の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＡ２を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＡ２を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＡ２の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。
【３８３７】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第２Ａ受付許容状態において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ａ受付後表示」のほか、上記「第２Ａ受付後出力音」として、図１４９（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第２Ａ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の

受付後出力音ＳＡ２のほか、図１４９（ｈ）に示されるように、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ２が出力可能であることも上述した通りである。

【３８３８】

したがって、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来すると、同図１４９（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ２が態様ＳＢ２ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音ＳＢ２については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音ＳＡ２よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【３８３９】

ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ２については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音ＳＡ２が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＡｂ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【３８４０】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ１からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ２）がオート連打機能によって不定の間隔毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ２ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音ＳＡ２ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＡｂ２－Ａ１からタイミングｔＡｂ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３８４１】

なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ２ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【３８４２】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ２ｂが実行されている状況下（タイミングｔＡｂ２－Ｂ２からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３の期間）においても、図１５１（ｅ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ２ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ２が、強度の高い炎系の魔法で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」が不定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ２」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【３８４３】

この点、図１４９や図１５１に示される演出例は、遊技者が、当該第２Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３において第２Ａ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【３８４４】

ここで、上述の通り、第２Ａ受付許容状態では、当該第２Ａ受付許容状態が継続されているなかで第２Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を

無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ２がこれを契機として非表示の状態にされる。すなわちこの場合、連打中表示ＨＡ２ｂは、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３が到来したことを契機として（第２Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その実行状態が終了されることとなる。

【３８４５】

また、これも連打中表示ＨＡ２ａの場合と同様、連打中表示ＨＡ２ｂが表示されているなかで第２Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ２ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。

【３８４６】

しかも、この例にかかる第２Ａ受付許容状態では、第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、これを契機とした表示変化を新たに生じさせるものとなっていることは上述した通りである。したがって、図１４９（ｆ）及び図１５１（ｆ）に示されるように、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３において第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにも、これを契機として、図１５１（ｆ）に示されるカットイン画像としての「非操作後表示ＨＢ２」を新たに表示開始させる処理を行うこととなる。なお、これも上述したが、この例にかかる「非操作後表示ＨＢ２」は、演出の進展度合いによって異なる複数態様が用意されており、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３では、演出内容が１段階進展したことを示唆する態様ＨＢ２ｂで表示されている。

【３８４７】

図１５１（ｆ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ａ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２の態様（ここでは、態様ＪＡ２ｂ）によっても、演出内容が１段階進展したことが示唆される。

【３８４８】

また上述の通り、第２Ａ受付許容状態では、当該第２Ａ受付許容状態が継続されているなかで第２Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２を、これを契機として非可聴の状態にさせる。すなわちこの場合、第１の受付後出力音ＳＡ２ａは、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３が到来したことを契機として（第２Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その出力状態が終了されることとなる。

【３８４９】

ただし、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ３は、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音ＳＢ２が出力状態を継続しているなかで、第２Ａ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。

【３８５０】

この点、第２Ａ受付許容状態では、第２の受付後出力音ＳＢ２については、上記第１の受付後出力音ＳＡ２の場合とは異なり、第２Ａ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にする）ことがない。したがって、図１４９（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３において第２Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ－１は、タイミングｔＡｂ２―Ｂ３以降も（第２Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３８５１】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ２ａが出力されているなかで第２Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ２ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。これに対し、第２の受付後出力音ＳＢ２に

ついては、該第２の受付後出力音ＳＢ２が出力されているなかで第２Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音ＳＢ２が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。すなわちこの場合、第２Ａ操作部に対する操作を中断すると、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２と第２の受付後出力音ＳＢ２とで異なる演出性が提供されるようになる。

【３８５２】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第２Ａ受付許容状態においても、第２Ａ受付後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ）が実行状態にあるなかで第２Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１４９（ｈ）に示されるように、第２Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、第２Ａ受付後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ）が実行状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第２Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＡｂ２―Ｂ３からの時間経過）によって、図１４９（ｈ）などに示されるように、継続されていた第２Ａ受付後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ）は非出力の状態にされることとなる。

【３８５３】

この点、この演出例では、図１４９（ａ）に示されるように、第２Ａ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＡｂ２―Ｂ３以降であり、且つ第２Ａ受付後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ）が可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＡｂ２－Ｃ１（図１５１（ｇ）に示される演出状況）において第２Ａ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【３８５４】

この例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｃ１において「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＡｂ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１５１（ｇ）に示される演出状況）。

【３８５５】

より具体的には、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｃ１において、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１４９（ｆ），（ｇ）に示されるように、非操作後表示ＨＢ２（態様ＨＢ２ｂ）を非表示にした上で、第２Ａ受付後変化として、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ２（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第２Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【３８５６】

この例では、第２Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｂ２－Ｃ１で第２Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が上記１段階目の進展態様から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１５１（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＡｂ２－Ｂ２で第２Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第２Ａ受付後変化が最初に実行開始されたとき（図１５１（ｅ）に示される態様）と同じ態様で、該第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後表示や、第２Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３８５７】

ただし上述の通り、この例では、第２Ａ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１が、第２の受付後出力音ＳＢ２が可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【３８５８】
この場合、第２の受付後出力音ＳＢ２は、タイミングｔＡｂ２－Ｃ１で第２Ａ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続する。なお、第２Ａ受付許容状態に対応する第１の受付後出力音ＳＡ２は、第２Ａ操作部が非操作状態にされることを契機として非可聴の状態にされるものであるから、第２Ａ操作部が再操作される時点で可聴状態にされていることがない。
【３８５９】
このような構成によれば、第２Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた第２Ａ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第２Ａ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第２Ａ受付後出力音が終了される場合がなく、必ず終了されない（第２の受付後出力音ＳＢ２）ようになる。
【３８６０】
なお、連打中表示ＨＡ２についても、第１の受付後出力音ＳＡ２と同様、第２Ａ操作部が非操作状態にされることを契機として非表示の状態にされるものであるから、第２Ａ操作部が再操作される時点で表示状態にされていることがない。
【３８６１】
また、図１４９や図１５１に示される演出例は、タイミングｔＡｂ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第２Ａ操作部の操作状態）も、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。
【３８６２】
したがって、当該「タイミングｔＡｂ２－Ｃ１からタイミングｔＡｂ２－Ｃ２までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第２Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。
【３８６３】
そして、当該「タイミングｔＡｂ２－Ｃ１からタイミングｔＡｂ２－Ｃ２までの期間（第２Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ２ｂや、第１の受付後出力音ＳＡ２ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、上述の「タイミングｔＡｂ２－Ｂ２からタイミングｔＡｂ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１５１（ｅ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【３８６４】
ただし、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１からタイミングｔＡｂ２－Ｃ２の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡｂ２－Ｃ２でなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）を想定したものとなっている（図１５１（ｈ）に示される演出状況）。特に、この例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｃ２では、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様に進展した場合を想定したものとなっており、当該第２Ａ受付許容状態についても、該タイミングｔＡｂ２－Ｃ２でなされた操作受付を契機として終了される場合を想定したものとなっている（図１４９（ａ）及び図１５１（ｈ）を参照）。
【３８６５】
したがって、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１からタイミングｔＡｂ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１５１（ｈ）を参照）で実行されるのに対

し、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２以降は、第２Ａ操作部に対する操作受付が許容されない状態にされているもとで、「第２Ａ受付後変化（第２Ａ受付後演出）」が、演出内容がさらに進展した態様（最終段階の演出態様）で実行されることとなる（図１５１（ｈ）を参照）。

【３８６６】

より具体的には、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２では、図１４９（ｅ）及び図１５１（ｈ）に示されるように、第２Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ２の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ２ｂ」から、これとは異なる「態様ＪＡ２ｃ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１５１（ｈ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２が撃破された態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ２による炎系魔法が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ２の周辺で爆発している態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ２が残りＨＰゲージのさらに減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ２の態様変化を通じて、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３８６７】

ただし上述の通り、このような状況示唆表示ＪＡ２としての「態様ＪＡ２ｃ」は、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様」に相当するものであり、且つ当該第２Ａ受付許容状態が操作受付を契機として終了されるときにしか現れないものである。したがって、状況示唆表示ＪＡ２としての「態様ＪＡ２ｃ」は、タイミングｔＡｂ２－Ｃ１でなされた操作受付に基づいて実行開始された以降は、その実行期間内で遊技者による操作があったか否かにかかわらず、予め定められた時間分だけ実行されてから非表示の状態にされることとなる。なおここでは、状況示唆表示ＪＡ２の最終段階の演出態様として、「態様ＪＡ２ｃ」のみを用意することとしており、大当りが得られている期待度が異なる複数態様は用意されない。

【３８６８】

また、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２で操作受付がなされると、それまで有効化されていたオート連打機能は、第２Ａ受付許容状態がこれを契機として終了されることに伴って無効化されることとなる。この点、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときにも、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＡ２を、これを契機として非表示の状態にする。

【３８６９】

また、この例では、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときにも、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２ａを、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にする。

【３８７０】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、操作受付に応じた第２Ａ受付後出力音として、第１の受付後出力音ＳＡ２のほか、図１４９（ｈ）に示されるように、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ２を出力可能である。

【３８７１】

したがって、図１４９に示した例にかかるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１からタイミングｔＡｂ２－Ｃ２の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｂ２－Ｃ２が到来すると、同図１４９（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ２が態様ＳＢ２ｂ－２で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容の進展度合いを認識することができるようになる。第２の受付後出力音ＳＢ２については、第１の受付後出力音ＳＡ２よりもその出力時間が長い時間となるよう

に設定することが望ましい。
【３８７２】
なおこの例では、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２が、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。そしてこの場合、第２の受付後出力音ＳＢ２は、タイミングｔＡｂ２－Ｃ２において「態様ＳＢ２ｂ－１」から、これとは異なる「態様ＳＢ２ｂ－２」に変化するかたちで（態様ＳＢ２ｂ－１を終了させ、これに代わるかたちで態様ＳＢ２ｂ－２が）出力されるようにしてもよい。
【３８７３】
また上述の通り、第２Ａ受付許容状態とは、本来、図１５０（ｂ）に示されるように、第２Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｂ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｂ３が到来したことに基づいて終了されるものである。この点、第２Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化される受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１５０に示されるように、第２Ａ受付許容状態でタイミングｔＡｂ３が到来するときまで第２Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡｂ３が到来したことに基づいて第２Ａ受付許容状態が終了されるだけでなく、第２Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第２Ａ受付後変化として、当該第２Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様（図１５０（ｅ），（ｈ）や、図１５１（ｈ）などを参照）が実行開始されることとなる。
【３８７４】
なお、第２Ａ受付許容状態については、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生させるようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ３が到来したことに基づいて第２Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第２Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第２Ａ受付後変化が実行開始されることはなくなる。
【３８７５】
また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第３Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１５２は、上記発生条件として「条件３Ａ」が満たされたことに基づいて「第３Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５３は、「第３Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５４は、「第３Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【３８７６】
いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第３Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第３Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第３Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第３Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第３Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。
【３８７７】
図１５２（ｃ）に示されるように、「第３Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第３Ａ時間が経過したタイミングｔＡｃ２が到来したことに基づいて（「条件３Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ａ受付後変化（第３Ａ演出状況示唆表示ＪＡ３や、第３Ａ連打中表示ＨＡ３、第３Ａ受付後出力音ＳＡ３，ＳＢ３など）に関しての第３Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第３Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１５４（ａ）に示される状況）。

【３８７８】
ここで、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第３Ａ操作部」は上記操作ボタン４１０として設定されており、当該第３Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【３８７９】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１５２（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第３Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第３Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ３と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３とを、当該第３Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第３Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡｃ１が到来したときに表示するものとなっている。
【３８８０】
ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ３や、状況示唆表示ＪＡ３については、必ずしも第３Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第３Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＡ３については、第３Ａ受付許容状態において第３Ａ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第３Ａ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。
【３８８１】
摸画像表示ＭＧ－Ａ３や、状況示唆表示ＪＡ３については、表示開始された以降は、第３Ａ操作部の操作状態にかかわらず、当該第３Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。
【３８８２】
ここで、第３Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ３」は、その配色として「第１配色（例えば、白色が基調とされた配色）」及び「第２配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」のいずれかが選択的に用いられるようになっており、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を用いて表示されるようになっている。
【３８８３】
また、第３Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ３」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期３Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。なお、この周期３Ａ時間は、上記周期２Ａ時間よりも短い時間（短サイクル）として設定されており、例えば、上記周期１Ａ時間と同じ時間として設定するようにしてもよい。したがって、当該第３Ａ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下に素早く移動する様子が描写されることとなる。
【３８８４】
また、第３Ａ受付許容状態とは、図１５３（ｂ）に示されるように、第３Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｃ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｃ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第３Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第３Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｃ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ３内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。
【３８８５】
なお、第３Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ３」を、当該第３Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡｃ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡｃ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第３Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－

Ａ３」は、タイミングｔＡｃ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。

【３８８６】

なお、この例にかかる第３Ａ受付許容状態では、図１５２（ｄ）及び図１５４（ａ）に示されるように、第１Ａ受付許容状態や第２Ａ受付許容状態とは異なり、第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示が表示されないようになっている。

【３８８７】

また、この例にかかる第３Ａ受付許容状態では、図１５２（ｅ）及び図１５４（ａ）に示されるように、当該第３Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３として、当該第３Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ３）と、当該第３Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、ゴーストとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ３が表示されるようになっている。第３Ａ受付許容状態では、「第３Ａ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ３を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ３として、味方キャラクタＹＳ－Ａ３と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ３と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。

【３８８８】

例えば、図１５２に示した例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ａ１（図１５４（ｂ）に示される演出状況）において、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【３８８９】

この例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ａ１において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１５４（ｂ）に示される演出状況）。

【３８９０】

より具体的には、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ａ１において、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、第３Ａ受付後変化として、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第３Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第３Ａ受付後表示」が表示開始される。

【３８９１】

すなわち、第３Ａ受付許容状態において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」として、図１５４（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が雷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃する態様で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第３Ａ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」が傷を負ったり、雷系魔法の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第

３Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が雷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１５２（ｅ），（ｆ）や、図１５４（ｆ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第３Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第３Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第３Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が雷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【３８９２】

また、この例では、第３Ａ受付許容状態において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」のほか、上記「第３Ａ受付後出力音」として、図１５２（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ３は、上記「第３Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様（雷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第３Ａ受付後出力音」として、第２の受付後出力音ＳＢ３がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ３は、上記「第３Ａ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音ＳＡ３については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第３Ａ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能なものであればよい。

【３８９３】

このように、第３Ａ受付許容状態では、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【３８９４】

そしてこの例は、図１５２（ａ）に示されるように、タイミングｔＡｃ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第３Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡｃ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【３８９５】

この点、第３Ａ受付許容状態は、「操作部（第３Ａ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１５２（ａ）に示される例では、タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第３Ａ操作部に対する操作受付が複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３８９６】

ここで、第３Ａ受付許容状態において第３Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第３Ａ受付後表示として、図１５４（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２では、まず、このような「１回分の動画表示」が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３８９７】

また、第３Ａ受付許容状態において第３Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第３Ａ受付後出力音が、上記「第３Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様（煙エフェクトや、雷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３８９８】

ただし、第３Ａ受付許容状態では、操作部（第３Ａ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第３Ａ受付後出力音）が、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。

【３８９９】

また、第３Ａ受付許容状態では、操作部（第３Ａ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ａ１が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第３Ａ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間以下の時間とされるようになっている。

【３９００】

すなわちこの場合、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２では、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する「１回分の動画表示」がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ３ａ」として表現することとしている。

【３９０１】

またこれも同様、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第３Ａ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ３ａ」として表現することとしている。

【３９０２】

この点、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【３９０３】

したがって、当該期間内では、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ３（図１５２（ｅ）を参照）」や、当該第３Ａ受付許容状態における

操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１５２（ｈ）を参照）」が、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることはない。

【３９０４】

このような構成によれば、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、図１５４中に示される「雷系の魔法攻撃」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行されるものの（連打中表示ＨＡ３ａ、第１の受付後出力音ＳＡ３ａ）、「状況示唆表示ＪＡ３（図１５２（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、単調な繰り返し操作を行わずとも、それを行ったときと同じ演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【３９０５】

なお、「状況示唆表示ＪＡ３（図１５２（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３などの「状況示唆表示ＪＡ３（図１５２（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【３９０６】

また、タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＡ３（図１５２（ｅ）を参照）」や、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１５２（ｈ）を参照）」は、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【３９０７】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ３ａが実行されている状況下（タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間）では、図１５４（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ３ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ３」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【３９０８】

この点、図１５２や図１５４に示される演出例は、遊技者が、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡｃ２―Ａ２において第３Ａ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【３９０９】

ここで、第３Ａ受付許容状態では、図１５２（ｆ）や図１５４（ｃ）などに示されるように、タイミングｔＡｃ２―Ａ２において第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ３ａがこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＡ３ａは、タイミングｔＡｃ２―Ａ２以降も（第３Ａ操作部が非操作状

態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【３９１０】

このような構成によれば、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ３ａがすぐには非表示の状態にされないことから、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第３Ａ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３９１１】

またこの例では、連打中表示ＨＡ３ａが表示されているなかで第３Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ３ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３９１２】

このような構成によれば、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＡ３ａが非表示の状態にされて、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第３Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３９１３】

また、第３Ａ受付許容状態では、図１５２（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音ＳＡ３ａについても、上記連打中表示ＨＡ３ａと同様、タイミングｔＡｃ２―Ａ２において第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音ＳＡ３ａは、タイミングｔＡｃ２―Ａ２以降も（第３Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３９１４】

このような構成によれば、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【３９１５】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが出力されているなかで第３Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３９１６】

このような構成によれば、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのこと

は、当該第３Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【３９１７】

また、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３ａ及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、図１５２（ｆ），（ｇ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ３ａが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＡ３ａが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＡ３ａが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【３９１８】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３ａ及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１５２（ｆ），（ｇ）や、図１５４（ｃ）などに示されるように、第３Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＡ３ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ３ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第３Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１５２（ｆ），（ｇ）や、図１５４（ｄ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＡ３ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音ＳＡ３ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様（ここでは、態様ＪＡ３ａ）を容易に認識することができるようになる（図１５４（ｄ）を参照）。

【３９１９】

ただし上述の通り、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【３９２０】

したがって、図１５４（ｄ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様（ここでは、態様ＪＡ３ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１５４（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１５４（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【３９２１】

そしてこの例では、図１５２（ａ）に示されるように、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｂ１（図１５４（ｅ）に示される演出状況）において、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【３９２２】

この例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｂ１において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１５４（ｅ）に示される演出状況）。

【３９２３】

より具体的には、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｂ１において、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、第３Ａ受付後変化として、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ３（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第３Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【３９２４】

この例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｂ１で第３Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１５４（ｅ）に示される状況では、上記タイミングｔＡｃ２－Ａ１で第３Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第３Ａ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後表示や、第３Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３９２５】

この点、図１５２や図１５４に示される演出例は、タイミングｔＡｃ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第３Ａ操作部の操作状態）も、タイミングｔＡｃ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【３９２６】

したがって、当該「タイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第３Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３９２７】

そして、当該「タイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ３ａや、第１の受付後出力音ＳＡ３ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２までの期間」の場合（図１５４（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３９２８】

ただし、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡｃ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１５４（ｆ）に示される演出状況）。

【３９２９】

したがって、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ２の

期間では、操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【３９３０】

より具体的には、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡｃ２－Ｂ２」では、図１５２（ｅ）及び図１５４（ｆ）に示されるように、第３Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ３ａ」から、これとは異なる「態様ＪＡ３ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１５４（ｆ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ３による雷系魔法がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ３の態様変化を通じて、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３９３１】

そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第３Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」として、図１５４（ｆ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が強度の高くなった雷系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【３９３２】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第３Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第３Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第３Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３」が雷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【３９３３】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＡｃ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３９３４】

また、演出内容が進展したタイミングｔＡｃ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が雷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示」による繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ３ｂ」として表現することとしている。

【３９３５】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＡｃ２－Ｂ２」が到来すると、図１５２（ｅ），（ｆ）及び図１５４（ｅ），（ｆ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ３の態様が「態様ＪＡ３ａ」から「態様ＪＡ３ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＡ３の態様についても「態様ＨＡ３ａ」から「態様ＨＡ３ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連

打機能が有効化されている間（タイミングｔＡｃ２－Ｂ２～ｔＡｃ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＡ３が「態様ＪＡ３ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＡ３が「態様ＨＡ３ｂ」で実行されることとなる。

【３９３６】

なおこの例では、連打中表示ＨＡ３の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＡ３を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＡ３を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＡ３の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。

【３９３７】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第３Ａ受付許容状態において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」のほか、上記「第３Ａ受付後出力音」として、図１５２（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第３Ａ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ３のほか、図１５２（ｈ）に示されるように、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ３が出力可能であることも上述した通りである。

【３９３８】

したがって、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｃ２－Ｂ２が到来すると、同図１５２（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ３が態様ＳＢ３ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音ＳＢ３については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音ＳＡ３よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【３９３９】

ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ３については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｃ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音ＳＡ３が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＡｃ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【３９４０】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ｂ１からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ３）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ３ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音ＳＡ３ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３９４１】

なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ３ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【３９４２】
ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＡ３ｂが実行されている状況下（タイミングｔＡｃ２－Ｂ２からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３の期間）においても、図１５４（ｆ）に示されるように、該連打中表示ＨＡ３ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が、強度の高い雷系の魔法で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を攻撃する態様」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＡ３」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。
【３９４３】
この点、図１５２や図１５４に示される演出例は、遊技者が、当該第３Ａ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３において第３Ａ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【３９４４】
ここで、上述の通り、第３Ａ受付許容状態では、当該第３Ａ受付許容状態が継続されているなかで第３Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＡ３がこれを契機として非表示の状態にされることはない。したがって、図１５２（ｆ）や図１５４（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３において第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＡ３ｂは、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３以降も（第３Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。
【３９４５】
また、これも連打中表示ＨＡ３ａの場合と同様、連打中表示ＨＡ３ｂが表示されているなかで第３Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＡ３ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【３９４６】
また上述の通り、第３Ａ受付許容状態では、当該第３Ａ受付許容状態が継続されているなかで第３Ａ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１５２（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３において第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音ＳＡ３ａは、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３以降も（第３Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【３９４７】
ただし、図１５２に示されるタイミングｔＡｃ２―Ｂ３は、タイミングｔＡｃ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音ＳＢ３が出力状態を継続しているなかで、第３Ａ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。
【３９４８】
この点、第３Ａ受付許容状態では、第２の受付後出力音ＳＢ３についても、上記第１の受付後出力音ＳＡ３と同様、第３Ａ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にされる）ことがない。したがって、図１５２（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３において第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－１は、タイミングｔＡｃ２―Ｂ３以降も（第３Ａ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め

定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【３９４９】
　またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されているなかで第３Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音ＳＢ３についても同様、該第２の受付後出力音ＳＢ３が出力されているなかで第３Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音ＳＢ３が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【３９５０】
　このような構成によれば、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音ＳＡ３や第２の受付後出力音ＳＢ３が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第３Ａ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第３Ａ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。
【３９５１】
　また、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３ｂ及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１５２（ｆ），（ｇ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ３ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＡ３ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＡ３ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。なお、このような連打中表示ＨＡ３ｂ及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａの関係性については、連打中表示ＨＡ３ｂと第２の受付後出力音ＳＢ３との間や、第１の受付後出力音ＳＡ３ａと第２の受付後出力音ＳＢ３との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。
【３９５２】
　このような構成によれば、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３ｂ、第１の受付後出力音ＳＡ３ａ、及び第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－１がそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１５２（ｆ），（ｇ），（ｈ）や、図１５４（ｇ）などに示されるように、第３Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＡ３ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ３ａが出力状態を継続しており、且つ第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－１が出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第３Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＡｃ２－Ｂ３からの時間経過）によって、図１５２（ｆ）や、図１５４（ｈ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＡ３ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ａ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３、ゲージ画像ＨＰ－Ａ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＡ３ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１５４（ｈ）を参照）。

【３９５３】
また、本来であれば、第１の受付後出力音ＳＡ３ａ及び第２の受付後出力音ＳＢ３も、第３Ａ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＡｃ２―Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた各出力状態はいずれも終了（非可聴の状態に）される。
【３９５４】
ただしこの例では、図１５２（ａ）に示されるように、第３Ａ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＡｃ２―Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音ＳＡ３ａ及び第２の受付後出力音ＳＢ３がいずれも可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＡｃ２－Ｃ１（図１５４（ｉ）に示される演出状況）において第３Ａ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。
【３９５５】
この例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｃ１において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＡｃ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１５４（ｉ）に示される演出状況）。
【３９５６】
より具体的には、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｃ１において、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１５２（ｆ），（ｇ）に示されるように、第３Ａ受付後変化として、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音ＳＡ３（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第３Ａ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。
【３９５７】
この例では、第３Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｃ２－Ｃ１で第３Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が図１５４（ｈ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１５４（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔＡｃ－Ｂ２で第３Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第３Ａ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後表示や、第３Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【３９５８】
ただし上述の通り、この例では、第３Ａ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１が、第１の受付後出力音ＳＡ３及び第２の受付後出力音ＳＢ３がいずれも可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。
【３９５９】
この点、第１の受付後出力音ＳＡ３については、タイミングｔＡｃ２－Ｃ１で第３Ａ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、それまでの出力状態を終了するとともに、該新たな操作受付を契機とした新たな出力を開始させるようにしている。これに対し、第２の受付後出力音ＳＢ３については、タイミングｔＡｃ２－Ｃ１で第３Ａ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続するようにしている。
【３９６０】
このような構成によれば、第３Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた第３Ａ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第３Ａ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第３Ａ受付後出力音が終了される場合（第１の受付

後出力音ＳＡ３）と終了されない場合（第２の受付後出力音ＳＢ３）との両方があるようになるから、非操作の状態にあった第３Ａ操作部を再び操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。なお、第３Ａ受付許容状態では、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されており且つ第２の受付後出力音ＳＢ３が出力されている当該状況下において第３Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合のほか、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されており且つ第２の受付後出力音ＳＢ３が出力されていない状況下において第３Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合や、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されておらず且つ第２の受付後出力音ＳＢ３が出力されている状況下において第３Ａ操作部に対する操作受付がなされる場合もあることは言うまでもない。

【３９６１】

なお、連打中表示ＨＡ３についても、タイミングｔＡｃ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。この場合、連打中表示ＨＡ３については、それまで非操作の状態にあった第３Ａ操作部に対して操作受付がなされると、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで該新たな操作受付を契機とした新たな表示（１回分の動画表示）を開始させるようにすることが望ましい。

【３９６２】

また、図１５２や図１５４に示される演出例は、タイミングｔＡｃ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第３Ａ操作部の操作状態）が、当該第３Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｃ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【３９６３】

したがって、当該「タイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ３までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第３Ａ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、その都度、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が実行されることとなる。

【３９６４】

そして、当該「タイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングタイミングｔＡｃ３までの期間（第３Ａ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＡ３ｂや、第１の受付後出力音ＳＡ３ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、上述の「タイミングｔＡｃ２－Ｂ２からタイミングｔＡｃ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１５４（ｆ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【３９６５】

ただし、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＡｃ２－Ｃ２でなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）を想定したものとなっている（図１５４（ｊ）に示される演出状況）。特に、この例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｃ２では、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様に進展した場合を想定したものとなっている。

【３９６６】

この点、当該第３Ａ受付許容状態は、上述の第１Ａ受付許容状態や第２Ａ受付許容状態の場合とは異なり、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち最終段階の演出態様に進展した場合であっても当該有効期間が途中終了されることがないようになっており、タイミングｔＡｃ３まで必ず継続される種別の有効期間として発生するものとなっている（図１５２（ａ），（ｅ）及び図１５４（ｊ）などを参照）。

【３９６７】

したがって、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１５４（ｉ）を参照）で実行されるのに対し、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２からタイミングｔＡｃ３の期間では、第３Ａ操作部に対する操作受付が許容される状態が継続されているもとで、「第３Ａ受付後変化（第３Ａ受付後演出）」が、演出内容がさらに進展した態様（最終段階の演出態様）で実行されることとなる（図１５４（ｊ）を参照）。

【３９６８】

より具体的には、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２では、図１５２（ｅ）及び図１５４（ｊ）に示されるように、第３Ａ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ３の態様を、それまで現れていた「態様ＪＡ３ｂ」から、これとは異なる「態様ＪＡ３ｃ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１５４（ｊ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３が撃破された態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ３による雷系魔法が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３の周辺で爆発している態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ３が残りＨＰゲージのさらに減少した態様（ここでは「０」）に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＡ３の態様変化を通じて、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【３９６９】

なお上述の通り、このような状況示唆表示ＪＡ３としての「態様ＪＡ３ｃ」は、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様」に相当するものである。

【３９７０】

そして、こうして演出内容のさらなる進展がなされた後は、第３Ａ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」として、図１５４（ｊ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ３が強度のさらに高くなった雷系魔法を用いて、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を撃破する」といったような、演出内容がさらに進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【３９７１】

なお、この演出例では、演出内容がさらに進展した後は、当該第３Ａ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記さらに進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第３Ａ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第３Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が強度のさらに高くなった雷系魔法を用いて、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を撃破する態様）は、該さらに進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【３９７２】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＡｃ２－Ｃ２以降の期間では、さらなる態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって操作受付がなされた回数分だけ複数回再生されることとなる。

【３９７３】

また、このようなタイミングｔＡｃ２－Ｃ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ａ３が強度のさらに高くなった雷系魔法を用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ３を撃破する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容がさらに進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示」による繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＡ３ｃ」として表現することとしている。

【３９７４】
このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容がさらに進展されるタイミングである「タイミングｔＡｃ２－Ｃ２」が到来すると、図１５２（ｅ），（ｆ）及び図１５４（ｉ），（ｊ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ３の態様が「態様ＪＡ３ｂ」から「態様ＪＡ３ｃ」に変化するとともに、連打中表示ＨＡ３の態様についても「態様ＨＡ３ｂ」から「態様ＨＡ３ｃ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＡｃ２－Ｃ２～ｔＡｃ３）は、状況示唆表示ＪＡ３が「態様ＪＡ３ｃ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＡ３が「態様ＨＡ３ｃ」で実行されることとなる。
【３９７５】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第３Ａ受付許容状態において「第３Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ａ受付後表示」のほか、上記「第３Ａ受付後出力音」として、図１５２（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第３Ａ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ３のほか、図１５２（ｈ）に示されるように、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音ＳＢ３が出力可能であることも上述した通りである。
【３９７６】
したがって、図１５２に示した例にかかるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｃ２－Ｃ２が到来すると、同図１５２（ｈ）に示されるように、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音ＳＢ３が態様ＳＢ３ｂ－２で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。
【３９７７】
ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音ＳＡ３については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｃ２－Ｃ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音ＳＡ３が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＡｃ２－Ｃ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。
【３９７８】
すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＡｃ２－Ｃ１からタイミングｔＡｃ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ３）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音ＳＡ３ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音ＳＡ３ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＡｃ２－Ａ１からタイミングｔＡｃ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。
【３９７９】
この点、図１５２や図１５４に示される演出例は、タイミングｔＡｃ２－Ｃ１で有効化されたオート連打機能が継続されているなかでタイミングｔＡｃ３が到来して当該第３Ａ受付許容状態が終了される場合を想定したものとなっている。
【３９８０】
すなわちこの場合、第３Ａ受付許容状態は、図１５２（ｅ）～（ｈ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ３及び連打中表示ＨＡ３が表示されており、且つ第１の受付後出力音

ＳＡ３及び第２の受付後出力音ＳＢ３が出力されている状況下にあるなかで終了されることとなり、この際、オート連打機能も無効化されることとなる。

【３９８１】

ここで、状況示唆表示ＪＡ３については、図１５２（ｅ）や図１５４（ｋ）に示されるように、第３Ａ受付許容状態が終了されることに基づいて、非表示の状態にされるようにしている。図１５２（ｅ）や図１５４（ｋ）に示した例では、第３Ａ受付許容状態が終了されるタイミングで非表示の状態にすることとしているが、これに限られない。例えば、第３Ａ受付許容状態が終了されることを契機として、該終了されたタイミングｔＡｃ３から一定の時間（０秒よりも大きい時間）が経過したときに非表示の状態にするようにすれば、当該第３Ａ受付許容状態が終了される直前で演出進展がなされたときにもそれを確認するだけの時間が好適に確保されうるようになる。この場合、後述の連打中表示ＨＡ３が非表示の状態にされるタイミングよりも、状況示唆表示ＪＡ３が非表示の状態にされるタイミングのほうが必ず遅くなるようにすることが望ましい。

【３９８２】

また、連打中表示ＨＡ３については、上記第１Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ１）や上記第２Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ２）の場合とは異なり、当該第３Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非表示の状態にされないようになっている。したがって、図１５２（ｆ）や図１５４（ｋ）に示されるように、連打中表示ＨＡ３ｂは、タイミングｔＡｃ３以降も（第３Ａ受付許容状態が終了された以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【３９８３】

また、連打中表示ＨＡ３が表示されているなかで当該第３Ａ受付許容状態が終了される場合は、上記第１Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ１）や上記第２Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ２）の場合とは異なり、当該第３Ａ受付許容状態が終了されてから該連打中表示ＨＡ３が非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３９８４】

また、第１の受付後出力音ＳＡ３ａについては、上記第１Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ１）や上記第２Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ２）の場合とは異なり、当該第３Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非出力の状態にされないようになっている。したがって、図１５２（ｇ）などに示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ３ａは、タイミングｔＡｃ３以降も（第３Ａ受付許容状態が終了された以降も）、出力状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３９８５】

また、第２の受付後出力音ＳＢ３については、上記第１Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ１）や上記第２Ａ受付許容状態（連打中表示ＨＡ２）の場合と同様、当該第３Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非出力の状態にされないようになっている。したがって、図１５２（ｈ）などに示されるように、第２の受付後出力音ＳＢ３は、タイミングｔＡｃ３以降も（第３Ａ受付許容状態が終了された以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【３９８６】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ３が出力されているなかで当該第３Ａ受付許容状態が終了される場合、当該第３Ａ受付許容状態の終了から該第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音ＳＢ３についても同様、該第２の受付後

出力音ＳＢ３が出力されているなかで当該第３Ａ受付許容状態が終了される場合、当該第３Ａ受付許容状態の終了から該第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【３９８７】

また、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで当該第３Ａ受付許容状態が終了される場合も、図１５２（ｆ），（ｇ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ３が非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＡ３が非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＡ３が非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音ＳＡ３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。なお、このような連打中表示ＨＡ３及び第１の受付後出力音ＳＡ３ａの関係性については、連打中表示ＨＡ３と第２の受付後出力音ＳＢ３との間や、第１の受付後出力音ＳＡ３ａと第２の受付後出力音ＳＢ３との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。

【３９８８】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第３Ａ受付許容状態では、連打中表示ＨＡ３ｃ、第１の受付後出力音ＳＡ３ａ、及び第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－２がそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１５２（ｆ），（ｇ），（ｈ）や、図１５４（ｋ）などに示されるように、連打中表示ＨＡ３ｃが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ３ａが出力状態を継続しており、且つ第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－２が出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、当該第３Ａ受付許容状態が終了されてからの時間経過（タイミングｔＡｃ３からの時間経過）によって、継続されていた連打中表示ＨＡ３ｂは非表示の状態にされ、第１の受付後出力音ＳＡ３ａや第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－２は非出力の状態にされることとなる。

【３９８９】

なおこの例では、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２が、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音ＳＢ３ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。そしてこの場合、第２の受付後出力音ＳＢ３は、タイミングｔＡｃ２－Ｃ２において「態様ＳＢ３ｂ－１」から、これとは異なる「態様ＳＢ３ｂ－２」に変化するかたちで（態様ＳＢ３ｂ－１を終了させ、これに代わるかたちで態様ＳＢ３ｂ－２が）出力されるようにしてもよい。

【３９９０】

また、第３Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１５３に示されるように、第３Ａ受付許容状態でタイミングｔＡｃ３が到来するときまで第３Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡｃ３が到来したことに基づいて第３Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第３Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第３Ａ受付後変化が実行開始されることはない。

【３９９１】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第４Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１５５は、上記発生条件として「条件４Ａ」が満たされたことに基づいて「第４Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図

１５６は、「第４Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５７は、「第４Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【３９９２】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第４Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第４Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第４Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第４Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第４Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【３９９３】

図１５５（ｃ）に示されるように、「第４Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第４Ａ時間が経過したタイミングｔＡｄ２が到来したことに基づいて（「条件４Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第４Ａ受付後変化（第４Ａ演出状況示唆表示ＪＡ４や、第４Ａ単発表示ＴＡ４、第４Ａ受付後出力音ＳＡ４，ＳＢ４など）に関しての第４Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第４Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１５７（ａ）に示される状況）。

【３９９４】

ここで、この実施の形態にかかる第４Ａ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第４Ａ操作部」は上記操作ボタン４１０として設定されており、当該第４Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【３９９５】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１５５（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第４Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第４Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ４と、操作対象（ここでは、第４Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＡ４と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ４とを、当該第４Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第４Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡｄ１が到来したときに表示するものとなっている。

【３９９６】

ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ４や、メッセージ表示ＭＡ４、状況示唆表示ＪＡ４については、必ずしも第４Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第４Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。ただしこの例では、特に、状況示唆表示ＪＡ４については、第４Ａ受付許容状態において第４Ａ操作部に対する操作受付が最初になされるよりも前に表示されるものとして実現されることが望ましい。また、摸画像表示ＭＧ－Ａ４が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＡ４が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＡ４は、摸画像表示ＭＧ－Ａ４が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【３９９７】

摸画像表示ＭＧ－Ａ４や、メッセージ表示ＭＡ４、状況示唆表示ＪＡ４については、表示開始された以降は、第４Ａ操作部の操作状態にかかわらず、当該第４Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。

【３９９８】

ここで、第４Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ４」は、その配色として「第１配色（例えば、白色が基調とされた配色）」のみが用いられるようになっている。

【３９９９】

また、第４Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ４」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期５Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期５Ａ時間は、第１Ａ受付許容状態で現れる周期１Ａ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されており、例えば、上記周期２Ａ時間と同じ時間として設定するようにしてもよい。したがって、当該第４Ａ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【４０００】

また、第４Ａ受付許容状態とは、図１５６（ｂ）に示されるように、第４Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｄ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｄ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第４Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第４Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｄ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ４内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。

【４００１】

なお、第４Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ４」を、当該第４Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡｄ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡｄ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第４Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ４」は、タイミングｔＡｄ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。

【４００２】

また、この例にかかる第４Ａ受付許容状態では、図１５５（ｃ），（ｄ）及び図１５７（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ａ４のほか、第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「鬼を倒せ！ボタン「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＡ４）が表示されるものとなっている。

【４００３】

また、この例にかかる第４Ａ受付許容状態では、図１５５（ｅ）及び図１５７（ａ）に示されるように、当該第４Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ４として、当該第４Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ４）と、当該第４Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、鬼として描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ４が表示されるようになっている。第４Ａ受付許容状態では、「第４Ａ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ４が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ４を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ４」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ４として、味方キャラクタＹＳ－Ａ４と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ４と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。

【４００４】

例えば、図１５５に示した例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ａ１

（図１５７（ｂ）に示される演出状況）において、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【４００５】

この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ａ１において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１５５（ｅ），（ｇ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１５７（ｂ）に示される演出状況）。

【４００６】

より具体的には、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ａ１において、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１５５（ｆ），（ｇ）に示されるように、第４Ａ受付後変化として、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第４Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第４Ａ受付後表示」が表示開始される。

【４００７】

すなわち、第４Ａ受付許容状態において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ａ受付後表示」として、図１５７（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ４」が風系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第４Ａ受付許容状態では、操作受付がなされる都度、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」が傷を負うこととなり、風系魔法の強度が上がり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４の残りＨＰゲージが減少するようになっている（演出内容が進展するようになっている）。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第４Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ４」が風系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１５５（ｅ），（ｆ）や、図１５７（ｄ），（ｆ），（ｈ）などを参照）。

【４００８】

ただし、これも後述するが、この例にかかる第４Ａ受付許容状態は、上述の第３受付許容状態と同様、（当該第４Ａ受付許容状態が時間経過によって終了されるタイミングｔＡｄ３よりも前に）操作受付を契機とした早期終了が生じることのない種別の有効期間として発生するものとなっている。すなわちこの場合、このような種別の有効期間（第４Ａ受付許容状態）にあって、操作受付がなされる都度、当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容を必ず変更（進展）させるようなことがあると、その演出内容が最終態様まで進展したときの処理が問題となる。

【４００９】

この点、上述の第３Ａ受付許容状態では、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が最終態様まで進展した状況下において操作受付がさらになされたときには、該操作受付がなされる都度、当該最終態様にかかる受付後変化を繰り返し生じさせることとした。これに対し、この例にかかる第４Ａ受付許容状態では、当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が最終態様まで進展した状況下において操作受付がさらになされたときには、該操作受付を契機として最初の演出態様（所定の演出態様）を出現させ、該最初の演出態様（所定の演出態様）が現れている状況から演出をやり直しさせることとしている。最初の演出態様（所定の演出態様）については、第３Ａ受付許容状態が発生するときに現れる態様のことであってもよいし、第３Ａ受付許容状態が発生してから最初の操作受付がなされたことに基づいて現れる態様のことであってもよい。このような構成によれば、演出内容が最終態様まで進展した以降も、最初の演出態様から最終態様までの演出進展を何度も繰り返し楽しむことができるようになる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。なおこの場合、大当りが得

られていないときには、最終態様に進展するよりも前の段階で、操作受付を契機として最初の演出態様（所定の演出態様）を出現させ、該最初の演出態様（所定の演出態様）が現れている状況から演出をやり直しさせることとなる。

【４０１０】

また、この例では、第４Ａ受付許容状態において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ａ受付後表示」のほか、上記「第４Ａ受付後出力音」として、図１５５（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ４が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ４は、上記「第４Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ４が風系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第４Ａ受付後出力音」として、第２の受付後出力音ＳＢ４がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ４は、上記「第４Ａ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音ＳＡ４については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよい。

【４０１１】

このように、第４Ａ受付許容状態では、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ａ４」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ａ４」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４０１２】

そしてこの例は、図１５５（ａ）に示されるように、タイミングｔＡｄ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第４Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡｄ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４０１３】

ただし、第４Ａ受付許容状態は、第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態などとは異なり、「操作部（第４Ａ操作部）を操作状態に維持したとしても、それに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が複数回実行されない種別（いわゆるオート連打機能が有効化されない種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１５５（ａ）に示される例では、タイミングｔＡｄ２－Ａ１からタイミングｔＡｄ２－Ａ２までの期間（第４Ａ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第４Ａ操作部に対する操作受付はタイミングｔＡｄ２－Ａ１で１回なされるだけであり、該タイミングｔＡｄ２－Ａ１での操作受付に応じた１回分の受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）だけが実行されることとなる。

【４０１４】

したがって、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ａ１において、上記第４Ａ受付後表示として、図１５７（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ａ４が風系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。

【４０１５】

より具体的には、図１５７（ｂ）に示される例では、上記第４Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４が１段階目の傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ

－Ａ４による風系魔法が単発表示ＴＡ４（態様ＴＡ４ａ）として表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４が残りＨＰゲージが１段階分減少した態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ４（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４、味方キャラクタＹＳ－Ａ４、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４）が、操作前の「態様ＪＡ４ａ」から「態様ＪＡ４ｂ」に変化することとなり、これによって当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｄ２－Ａ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。

【４０１６】

また上述の通り、こうして態様変化した状況示唆表示ＪＡ４は、当該第４Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるから、当該第４Ａ受付許容状態が継続している間は、現在がいかなる操作状況下にあるのかを遊技者は容易に認識することが可能である。

【４０１７】

これに対し、味方キャラクタＹＳ－Ａ４による風系魔法として描写される単発表示ＴＡ４は、予め定められた時間（一定の時間）が経過すると非表示の状態にされるものである。図１５５及び図１５７に示した演出例は、タイミングｔＡｄ２－Ａ２が到来するよりも前に該時間が経過して単発表示ＴＡ４（態様ＴＡ４ａ）が非表示の状態にされる場合を想定したものとなっている。なおこの例では、単発表示ＴＡ４については、演出内容の進展度合いに応じて異なる態様で表示することとしたが、演出内容の進展度合いにかかわらず一の態様（同じ態様）で表示するようにしてもよい。若しくは、この例にかかる第４Ａ受付許容状態は、操作受付がなされると、状況示唆表示ＪＡ４の態様変化が必ず生じるものであり、これによって操作受付がなされたことを示唆することが可能であることに鑑みれば、単発表示ＴＡ４については、必ずしも表示しないようにしてもよい。

【４０１８】

また、タイミングｔＡｄ２－Ａ１では、第１の受付後出力音ＳＡ４（第４Ａ受付後出力音）が、このような第４Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が１段階目の態様に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ４ｂ―１で出力開始される。

【４０１９】

この点、第４Ａ受付許容状態に対応する第２の受付後出力音ＳＢ４は、当該第４Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して出力されるものとなっており、これによって当該第４Ａ受付許容状態が継続している間は、その態様を通じて、現在がいかなる操作状況下にあるのかを遊技者は容易に認識することが可能である。ただし、該第２の受付後出力音ＳＢ４については、必ずしも当該第４Ａ受付許容状態が継続している間はその出力状態が終了されないものでなくてもよく、例えば、予め定められた出力時間（タイミングｔＡｄ２～ｔＡｄ３の時間よりも短い時間）だけ出力されてから非出力の状態にされるものとして出力するようにしてもよい。

【４０２０】

これに対し、第１の受付後出力音ＳＡ４は、予め定められた時間（一定の時間）が経過すると非出力の状態にされるものである。図１５５に示した演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ａ２が到来した後に該時間が経過して第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされる場合を想定したものとなっている。

【４０２１】

すなわちこの場合、タイミングｔＡｄ２－Ａ２は、第１の受付後出力音ＳＡ４及び第２の受付後出力音ＳＢ４がいずれも出力状態にあるなかで到来することとなる。ただし、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ４及び第２の受付後出力音ＳＢ４はいずれも、第４Ａ操作部が非操作状態にされること（タイミングｔＡｄ２－Ａ２が到来すること）を契機として何らの変化も生じないものとなっている。

【４０２２】

なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ４については、受付後表示に対応する効果音

として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよい。また、第１の受付後出力音ＳＡ４については、演出内容の進展度合いにかかわらず一の態様（同じ態様）で出力することとしたが、演出内容の進展度合いに応じて異なる態様で出力するようにしてもよい。若しくは、この例にかかる第４Ａ受付許容状態は、操作受付がなされると、第２の受付後出力音ＳＡ４が必ず出力されるものであり、これによって操作受付がなされたことを示唆することが可能であることに鑑みれば、第１の受付後出力音ＳＡ４については、必ずしも出力しないようにしてもよい。

【４０２３】

ここで、第４Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた「１回分の動画表示（単発表示ＴＡ４）」に要する時間が経過するよりも前に（単発表示ＴＡ４が表示されている間に）、第４Ａ操作部を非操作状態にする操作と、該非操作状態から再び操作状態にする操作とが遊技者によってそれぞれ行われる場合が生じうる。この場合、上記「単発表示ＴＡ４」は、操作受付に応じた「１回分の動画表示」が実行開始されてからこれが終了するよりも前のタイミングで上記「一定の時間」が経過して新たな「１回分の動画表示」が実行開始される、といったような態様で実行されることとなるが、この際、新たな「１回分の動画表示」は、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで実行されるようにしてもよい。

【４０２４】

またこれも同様、第４Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた「１回分の動画表示に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ４）」に要する時間が経過するよりも前に（第１の受付後出力音ＳＡ４が出力されている間に）、第４Ａ操作部を非操作状態にする操作と、該非操作状態から再び操作状態にする操作とが遊技者によってそれぞれ行われる場合が生じうる。この場合、上記「第１の受付後出力音ＳＡ４」は、操作受付に応じた「１回分の効果音」が実行開始されてからこれが終了するよりも前のタイミングで上記「一定の時間」が経過して新たな「１回分の効果音」が実行開始される、といったような態様で実行されることとなるが、この際、新たな「１回分の効果音」は、実行途中の状態にあった前回の「１回分の効果音」を途中終了させてこれに代わるかたちで実行されるようにしてもよい。

【４０２５】

味方キャラクタＹＳ－Ａ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４などの「状況示唆表示ＪＡ４（図１５５（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【４０２６】

このような演出例にかかるパチンコ機１によれば、第４Ａ操作部が非操作状態にされるタイミングｔＡｄ２－Ａ２においては、図１５７（ｃ）に示される演出状況が現れることとなるが、該演出状況は、第４Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として現れたものではない。単に、タイミングｔＡｄ２－Ａ１で実行開始された第４Ａ受付後表示や第４Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ４、単発表示ＴＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）のうち、タイミングｔＡｄ２－Ａ２が到来する時点においてもその実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないものはその実行状態を継続しており（状況示唆表示ＪＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）、タイミングｔＡｄ２－Ａ２が到来するよりも前にその実行状態を終了させる条件が満たされたものはその時点（タイミングｔＡｄ２－Ａ２よりも前の時点）で実行状態を終了しているだけのことである。

【４０２７】

またこの例では、単発表示ＴＡ４が表示されているなかで第４Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該単発表示ＴＡ４が非表

示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４０２８】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ４が出力されているなかで第４Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４０２９】

また、この実施の形態にかかる第４Ａ受付許容状態では、単発表示ＴＡ４及び第１の受付後出力音ＳＡ４がそれぞれ実行状態にあるなかで第４Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、単発表示ＴＡ４が非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。この例では、単発表示ＴＡ４と第１の受付後出力音ＳＡ４とのいずれが先に終了されるか、についての関係性については逆転することがないようになっており、例えば、単発表示ＴＡ４が、第１の受付後出力音ＳＡ４よりも先に必ず終了されるようにしている。

【４０３０】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第４Ａ受付許容状態では、単発表示ＴＡ４及び第１の受付後出力音ＳＡ４がそれぞれ実行状態にあるなかで第４Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、第４Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、単発表示ＴＡ４が表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ４が出力状態を継続している状況が現れるようになる。

【４０３１】

そしてこの例では、図１５５（ａ）に示されるように、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｂ１（図１５７（ｄ）に示される演出状況）において、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｄ２－Ｂ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４０３２】

この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｂ１において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５５（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後演出）」を再び１回の操作受付に応じた分だけ生じさせることとなる（図１５７（ｄ）に示される演出状況）。

【４０３３】

ただし上述の通り、この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｂ１において第４Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展されることとなる。したがって、図１５７（ｄ）に示される状況では、第４Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて２段階目の進展がなされたときの態様で、第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後表示や、第４Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。

【４０３４】

したがって、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１において、上記第４Ａ受付後表示として、図１５７（ｄ）に示されるように、２段階目の進展態様で、味方キャラクタＹＳ－Ａ４が風系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。

【４０３５】

より具体的には、図１５７（ｄ）に示される例では、上記第４Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４が２段階目の傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ４による風系魔法が単発表示ＴＡ４として２段階目の態様ＴＡ４ｂで表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４が残りＨＰゲージが２段階分減少した態様に変化される。すなわちこの

場合、状況示唆表示ＪＡ４（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４、味方キャラクタＹＳ－Ａ４、ゲージ画像ＨＰ－Ａ４）が、再操作前の「態様ＪＡ４ｂ」から「態様ＪＡ４ｃ」に変化することとなり、これによって当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。

【４０３６】

また、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１では、第１の受付後出力音ＳＡ４（第４Ａ受付後出力音）が、このような第４Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が２段階目に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ４ｂ－２で出力開始される。

【４０３７】

ここで、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１は、タイミングｔＡｄ２－Ａ１で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にあるなかで到来することとなる。この際、当該タイミングｔＡｄ２－Ｂ１においては、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、出力状態にあった１段階目の態様ＳＢ４ｂ－１を終了させてこれに代わるかたちで２段階目の態様ＳＢ４ｂ－２での出力を開始することとなる。

【４０３８】

また、タイミングｔＡｄ２－Ｂ２では、単発表示ＴＡ４が表示されているなかで第４Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合を想定したものとなっている。この際、非操作状態にしてから該単発表示ＴＡ４が非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定とされることについては上述した通りである。

【４０３９】

そして、第４Ａ操作部が再び非操作状態にされるタイミングｔＡｄ２－Ｂ２では、図１５７（ｅ）に示される演出状況が現れることとなるが、該演出状況は、第４Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として現れたものではない。単に、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１で実行開始された第４Ａ受付後表示や第４Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ４、単発表示ＴＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）がいずれも、タイミングｔＡｄ２－Ｂ２が到来する時点においてもその実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないから、その実行状態を継続しているだけのことである。

【４０４０】

またこの例では、図１５５（ａ）に示されるように、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｃ１（図１５７（ｆ）に示される演出状況）において、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が、もう一度、操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｄ２－Ｃ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４０４１】

この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｃ１において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５５（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後演出）」を、もう一度、１回の操作受付に応じた分だけ生じさせることとなる（図１５７（ｆ）に示される演出状況）。

【４０４２】

ただし上述の通り、この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｃ１において第４Ａ操作部に対する操作がもう一度開始されたときにも、当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展されることとなる。したがって、図１５７（ｆ）に示される状況では、第４Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて３段階目の進展がなされたときの態様で、第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後表示や、第４Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。

【４０４３】

したがって、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１において、上記第４Ａ受付後表示として、図１５７（ｆ）に示されるように、３段階目の進展態様で、味方キャラクタＹＳ－Ａ４が風系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。

【４０４４】

より具体的には、図１５７（ｆ）に示される例では、上記第４Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４が３段階目の傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ４による風系魔法が単発表示ＴＡ４として３段階目の態様ＴＡ４ｃで表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４が残りＨＰゲージが３段階分減少した態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ４（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４、味方キャラクタＹＳ－Ａ４、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４）が、再操作前の「態様ＪＡ４ｃ」から「態様ＪＡ４ｄ」に変化することとなり、これによって当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。

【４０４５】

また、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１では、第１の受付後出力音ＳＡ４（第４Ａ受付後出力音）が、このような第４Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が３段階目に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ４ｂ―３で出力開始される。

【４０４６】

ここで、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１は、タイミングｔＡｄ２－Ｂ１で出力開始された第１の受付後出力音ＳＡ４及び第２の受付後出力音ＳＢ４がいずれも出力状態にあるなかで到来することとなる。この際、当該タイミングｔＡｄ２－Ｃ１においては、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、出力状態にあった２段階目の態様ＳＢ４ｂ―２を終了させてこれに代わるかたちで２段階目の態様ＳＢ４ｂ―３での出力を開始することとなる。また、第１の受付後出力音ＳＡ４（第４Ａ受付後出力音）についても、出力状態にあった音を終了させてこれに代わるかたちで最初から出力をやり直すこととなる。

【４０４７】

そして、第４Ａ操作部が再び非操作状態にされるタイミングｔＡｄ２－Ｃ２では、図１５７（ｇ）に示される演出状況が現れることとなるが、該演出状況は、第４Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として現れたものではない。単に、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１で実行開始された第４Ａ受付後表示や第４Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ４、単発表示ＴＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）のうち、タイミングｔＡｄ２－Ｃ２が到来する時点においてもその実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないものはその実行状態を継続しており（状況示唆表示ＪＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）、タイミングｔＡｄ２－Ｃ２が到来するよりも前にその実行状態を終了させる条件が満たされたものはその時点（タイミングｔＡｄ２－Ｃ２よりも前の時点）で実行状態を終了しているだけのことである。

【４０４８】

またこの例では、図１５５（ａ）に示されるように、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｄ１（図１５７（ｈ）に示される演出状況）において、「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が、さらにもう一度、操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｄ３まで少なくとも継続される場合を想定したものとなっている。

【４０４９】

この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｄ１において「第４Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５５（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後演出）」を、もう一度、１回の操作受付に応じた分だけ生じさせることとなる（図１５７（ｈ）に示される演出状況）。

【４０５０】
ただし上述の通り、この例では、第４Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｄ２－Ｄ１において第４Ａ操作部に対する操作がさらにもう一度開始されたときにも、当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展されることとなる。したがって、図１５７（ｈ）に示される状況では、第４Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて４段階目の進展がなされたときの態様で、第４Ａ受付後変化（第４Ａ受付後表示や、第４Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。
【４０５１】
この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｄ１において、上記第４Ａ受付後表示として、図１５７（ｈ）に示されるように、最終（４段階目）の進展態様で、味方キャラクタＹＳ－Ａ４が風系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４を攻撃する態様（煙エフェクトや、風系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。
【４０５２】
より具体的には、図１５７（ｈ）に示される例では、上記第４Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４が撃破された態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ４による風系魔法が単発表示ＴＡ４として最終の態様ＴＡ４ｄで表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４は残りＨＰゲージが０の態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ４（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ４、味方キャラクタＹＳ－Ａ４、ゲージ画像ＨＰ―Ａ４）が、再操作前の「態様ＪＡ４ｄ」から「態様ＪＡ４ｅ」に変化することとなり、これによって当該第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｄ２－Ｄ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。
【４０５３】
また、タイミングｔＡｄ２－Ｄ１では、第１の受付後出力音ＳＡ４（第４Ａ受付後出力音）が、このような第４Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、第４Ａ受付許容状態に対応する演出内容が最終段階（第４段階）に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ４ｂ―４で出力開始される。
【４０５４】
ここで、この演出例では、タイミングｔＡｄ２－Ｄ１は、タイミングｔＡｄ２－Ｃ１で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ４が出力状態にあるなかで到来することとなる。この際、当該タイミングｔＡｄ２－Ｄ１においては、第２の受付後出力音ＳＢ４（第４Ａ受付後出力音）が、出力状態にあった３段階目の態様ＳＢ４ｂ―３を終了させてこれに代わるかたちで最終段階（４段階目）の態様ＳＢ４ｂ―４での出力を開始することとなる。
【４０５５】
そして、図１５５や図１５７に示される演出例は、こうしてタイミングｔＡｄ２－Ｄ１で実行開始された第４Ａ受付後表示や第４Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ４、単発表示ＴＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、第２の受付後出力音ＳＢ４）のうち、状況示唆表示ＪＡ４、第１の受付後出力音ＳＡ４、及び第２の受付後出力音ＳＢ４がそれぞれ実行状態にあるなかで、当該第４Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｄ３が到来した場合を想定したものとなっている。
【４０５６】
すなわちこの場合、第４Ａ受付許容状態は、図１５５（ｅ）～（ｈ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ４が表示されており、且つ第１の受付後出力音ＳＡ４及び第２の受付後出力音ＳＢ４が出力されている状況下にあるなかで終了されることとなる。
【４０５７】
ここで、状況示唆表示ＪＡ４については、図１５５（ｅ）や図１５７（ｉ）に示されるように、第４Ａ受付許容状態が終了されることに基づいて、それまで表示状態にあった態様ＪＡ４ｅを非表示の状態にすることとしている。
【４０５８】
ただし、状況示唆表示ＪＡ４については、図１５５や図１５７（ｉ）に示されるように

、タイミングｔＡｄ３が到来したことに基づいて、それまで表示状態にあった態様を、態様ＪＡ４Ｌに変化（進展）させて、該態様ＪＡ４Ｌを、第４Ａ受付許容状態が終了した以降も、予め定められた時間だけ表示するようにしてもよい。

【４０５９】

そして、状況示唆表示ＪＡ４の態様ＪＡ４Ｌについては、タイミングｔＡｄ３において表示状態にされ得る状況示唆表示ＪＡ４の態様（ＪＡ４ａ～ＪＡ４ｅ）に対応するために必要な分だけ複数の種別（ＪＡ４Ｌａ～ＪＡ４Ｌｅ）を用意することとし、タイミングｔＡｄ３が到来したときには、その時点で表示されていた態様に対応する態様ＪＡ４Ｌを選択的に実行するようにしてもよい。ちなみに、図１５５や図１５７に示される例では、タイミングｔＡｄ３が到来した時点で表示されていた状況示唆表示ＪＡの態様ＪＡ４ｅに対応して、該タイミングｔＡｄ３が到来したことを契機として、状況示唆表示ＪＡ４の「態様ＪＡ４ｅ」を「態様ＪＡ４Ｌｅ」に変化（進展）させた場合を想定したものになっている。

【４０６０】

また、図１５５や図１５７（ｉ）に示される例では、単発表示ＴＡ４については、非表示の状態にされているが、仮に、単発表示ＴＡ４が表示されているなかでタイミングｔＡｄ３が到来したとすると、当該第４Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非表示の状態にされないようになっている。すなわちこの場合、単発表示ＴＡ４は、タイミングｔＡｄ３以降も（第４Ａ受付許容状態が終了された以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【４０６１】

また、単発表示ＴＡ４が表示されているなかで当該第４Ａ受付許容状態が終了される場合は、当該第４Ａ受付許容状態が終了されてから該単発表示ＴＡ４が非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４０６２】

また、第１の受付後出力音ＳＡ４については、当該第４Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非出力の状態にされないようになっている。したがって、図１５５（ｇ）などに示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ４は、タイミングｔＡｄ３以降も（第４Ａ受付許容状態が終了された以降も）、出力状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【４０６３】

また、第２の受付後出力音ＳＢ４については、当該第４Ａ受付許容状態が終了されることを契機として非出力の状態にされないようになっている。したがって、図１５５（ｈ）などに示されるように、第２の受付後出力音ＳＢ４は、タイミングｔＡｄ３以降も（第４Ａ受付許容状態が終了された以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【４０６４】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ４が出力されているなかで当該第４Ａ受付許容状態が終了される場合、当該第４Ａ受付許容状態の終了から該第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音ＳＢ４についても同様、該第２の受付後出力音ＳＢ４が出力されているなかで当該第４Ａ受付許容状態が終了される場合、当該第４Ａ受付許容状態の終了から該第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４０６５】

また、この実施の形態にかかる第４Ａ受付許容状態では、単発表示ＴＡ４及び第１の受

付後出力音ＳＡ４がそれぞれ実行状態にあるなかで当該第４Ａ受付許容状態が終了される場合も、単発表示ＴＡ４が非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音ＳＡ４が非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。この例では、単発表示ＴＡ４と第１の受付後出力音ＳＡ４とのいずれが先に終了されるか、についての関係性については逆転することがないようになっており、例えば、単発表示ＴＡ４が、第１の受付後出力音ＳＡ４よりも先に必ず終了されるようにしている。なお、このような単発表示ＴＡ４及び第１の受付後出力音ＳＡ４の関係性については、単発表示ＴＡ４と第２の受付後出力音ＳＢ４との間や、第１の受付後出力音ＳＡ４と第２の受付後出力音ＳＢ４との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。

【４０６６】

また、第４Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１５６に示されるように、第４Ａ受付許容状態でタイミングｔＡｄ３が到来するときまで第４Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡｄ３が到来したことに基づいて第４Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第４Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第４Ａ受付後変化が実行開始されることはない。

【４０６７】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第５Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１５８は、上記発生条件として「条件５Ａ」が満たされたことに基づいて「第５Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１５９は、「第５Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６０は、「第５Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【４０６８】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第５Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第５Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第５Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第５Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第５Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【４０６９】

図１５８（ｃ）に示されるように、「第５Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第５Ａ時間が経過したタイミングｔＡｅ２が到来したことに基づいて（「条件５Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第５Ａ受付後変化（第５Ａ演出状況示唆表示ＪＡ５や、第５Ａ単発表示ＴＡ５、第５Ａ受付後出力音ＳＡ５，ＳＢ５など）に関しての第５Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第５Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１６０（ａ）に示される状況）。

【４０７０】

ここで、この実施の形態にかかる第５Ａ受付許容状態にあって、複数回の操作受付が許容される「第５Ａ操作部」は、上記操作ボタン４１０ではなく、上記刀装飾体５００１として設定されており、当該第５Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【４０７１】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１５８（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第５Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第５Ａ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ５と、操作対象

（ここでは、第５Ａ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＡ５と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ５とを、当該第５Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第５Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡｅ１が到来したときに表示するものとなっている。

【４０７２】

ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ５や、メッセージ表示ＭＡ５、状況示唆表示ＪＡ５については、必ずしも第５Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第５Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ａ５が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＡ５が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＡ５は、摸画像表示ＭＧ－Ａ５が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【４０７３】

この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ５や、メッセージ表示ＭＡ５については、表示開始された以降は、第５Ａ操作部の操作状態にかかわらず、当該第５Ａ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっているが、状況示唆表示ＪＡ５については、表示されてから予め定められた時間が経過すると非表示の状態にされるものとなっている。

【４０７４】

ここで、第５Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」は、その配色として「特定配色（例えば、白色が基調とされた配色）」のみが用いられるようになっている。

【４０７５】

また、第５Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期５Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。この周期５Ａ時間は、第１Ａ受付許容状態で現れる周期１Ａ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されており、例えば、上記周期２Ａ時間と同じ時間として設定するようにしてもよい。したがって、当該第５Ａ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【４０７６】

ただし上述の通り、第５Ａ受付許容状態では、上記操作ボタン４１０ではなく、上記刀装飾体５００１を摸した画像が「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」として表示される。したがって、「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」は、実際は、「図１４４（α）に示される態様」で表示されることはなく、「図１４４（α）に示される態様」が、上記操作ボタン４１０ではなく、上記刀装飾体５００１を摸した画像に置き換えられた態様として現れることとなる。

【４０７７】

また、第５Ａ受付許容状態とは、図１５９（ｂ）に示されるように、第５Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｅ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｅ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第５Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第５Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｅ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ５内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。

【４０７８】

なお、第５Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」を、当該第５Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡｅ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡｅ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第５Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ５」は、タイミングｔＡｅ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様（

実際は、刀装飾体５００１を摸した画像に置き換えられた態様）を維持するかたちで表示されることとなる。

【４０７９】

また、この例にかかる第５Ａ受付許容状態では、図１５８（ｃ），（ｄ）及び図１６０（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ａ５のほか、第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「ゴブリンを倒せ！刀を「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＡ５）が表示されるものとなっている。

【４０８０】

また、この例にかかる第５Ａ受付許容状態では、図１５８（ｅ）及び図１６０（ａ）に示されるように、当該第５Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ５として、当該第５Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ５）と、当該第５Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、ゴブリンとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ５が表示されるようになっている。第５Ａ受付許容状態では、「第５Ａ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ５が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ５を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ５」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ５として、味方キャラクタＹＳ－Ａ５と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ５と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。

【４０８１】

例えば、図１５８に示した例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ａ１（図１６０（ｂ）に示される演出状況）において、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【４０８２】

この例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ａ１において「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１５８（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ａ受付後変化（第５Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１６０（ｂ）に示される演出状況）。

【４０８３】

より具体的には、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ａ１において、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１５８（ｆ），（ｇ）に示されるように、第５Ａ受付後変化として、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ａ受付後表示」が表示開始される。

【４０８４】

すなわち、第５Ａ受付許容状態において「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ａ受付後表示」として、図１６０（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ５」が剣術を用いて「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を攻撃する態様（煙エフェクトや、斬撃エフェクトの発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第５Ａ受付許容状態では、操作受付がなされる都度、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」が傷を負うこととなり、剣術の強度が上がり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５の残りＨＰゲージが減少するようになっている

（演出内容が進展するようになっている）。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第５Ａ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ａ５」が剣術を用いて「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１５８（ｅ），（ｆ）や、図１６０（ｄ），（ｆ），（ｈ）などを参照）。

【４０８５】

ただし、これも後述するが、この例にかかる第５Ａ受付許容状態は、上述の第３受付許容状態や第４受付許容状態などと同様、（当該第５Ａ受付許容状態が時間経過によって終了されるタイミングｔＡｅ３よりも前に）操作受付を契機とした早期終了が生じることのない種別の有効期間として発生するものとなっている。すなわちこの場合、このような種別の有効期間（第５Ａ受付許容状態）にあって、操作受付がなされる都度、当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容を必ず変更（進展）させるようなことがあると、その演出内容が最終態様まで進展したときの処理が問題となる。

【４０８６】

この点、上述の第３Ａ受付許容状態では、当該第３Ａ受付許容状態に対応する演出内容が最終態様まで進展した状況下において操作受付がさらになされたときには、該操作受付がなされる都度、当該最終態様にかかる受付後変化を繰り返し生じさせることとした。これに対し、この例にかかる第５Ａ受付許容状態も、当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が最終態様まで進展した状況下において操作受付がさらになされたときには、該操作受付がなされる都度、当該最終態様にかかる受付後変化を繰り返し生じさせうる。ただし後述するが、この例にかかる第５Ａ受付許容状態では、当該最終態様にかかる受付後変化によって受付後表示（第５Ａ受付後表示）が表示されているなかで操作受付がさらになされたときには、当該最終態様にかかる受付後表示を再び表示し直すことがなく、該表示されている受付後表示の表示状態を維持、継続させることとしている。また、受付後出力音（第５Ａ受付後出力音）については、最終態様で一度出力された以降は、該最終態様にかかる受付後出力音の出力状況にかかわらず、操作受付がさらになされたとしてもこれを契機として出力開始されることがないようにしている。このような構成によれば、演出内容が最終態様まで進展した以降は、操作受付がさらになされたとしても、終態様にかかる受付後変化が生じ難くされたり、その実行態様が制限されたりする（少なくとも受付後出力音は出力されない）ようになるから、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が乱雑に扱われるようなことが抑制されうるようになる。

【４０８７】

また、この例では、第５Ａ受付許容状態において「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ａ受付後表示」のほか、上記「第５Ａ受付後出力音」として、図１５８（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ５が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ５は、上記「第５Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ５が剣術を用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５を攻撃する態様（煙エフェクトや、斬撃エフェクトの発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第５Ａ受付後出力音」として、第２の受付後出力音ＳＢ５がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ５は、上記「第５Ａ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音ＳＡ５については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよい。

【４０８８】

このように、第５Ａ受付許容状態では、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ａ５」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ａ５」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」

のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４０８９】

そしてこの例は、図１５８（ａ）に示されるように、タイミングｔＡｅ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第５Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡｅ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４０９０】

ただし、第５Ａ受付許容状態は、第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態などとは異なり、「操作部（第５Ａ操作部）を操作状態に維持したとしても、それに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）が複数回実行されない種別（いわゆるオート連打機能が有効化されない種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１５８（ａ）に示される例では、タイミングｔＡｅ２－Ａ１からタイミングｔＡｅ２－Ａ２までの期間（第５Ａ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第５Ａ操作部に対する操作受付はタイミングｔＡｅ２－Ａ１で１回なされるだけであり、該タイミングｔＡｅ２－Ａ１での操作受付に応じた１回分の受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作など）だけが実行されることとなる。

【４０９１】

したがって、この演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ａ１において、上記第５Ａ受付後表示として、図１６０（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ａ５が剣術を用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５を攻撃する態様（煙エフェクトや、斬撃エフェクトの発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。

【４０９２】

より具体的には、図１６０（ｂ）に示される例では、上記第５Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５が１段階目の傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ５による剣術を用いた攻撃が単発表示ＴＡ５（態様ＴＡ５ａ）として表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５が残りＨＰゲージが１段階分減少した態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ５（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５、味方キャラクタＹＳ－Ａ５、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５）が、操作前の「態様ＪＡ５ａ」から「態様ＪＡ５ｂ」に変化することとなり、これによって当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｅ２－Ａ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。

【４０９３】

ただし上述の通り、こうして態様変化した状況示唆表示ＪＡ５は、当該第５Ａ受付許容状態が終了されるまでにわたって必ずしも継続して表示されず、すなわち該態様変化のあったときから（操作受付のあったときから）予め定められた時間（一定の時間）分だけ表示されてから非表示の状態にされるものとなっている。

【４０９４】

また、味方キャラクタＹＳ－Ａ５による剣術による攻撃として描写される単発表示ＴＡ５も、予め定められた時間（一定の時間）が経過すると非表示の状態にされるものである。図１５８及び図１６０に示した演出例は、タイミングｔＡｅ２－Ａ２が到来するよりも前に該時間が経過して単発表示ＴＡ５（態様ＴＡ５ａ）が非表示の状態にされる場合を想定したものとなっている。なおこの例では、単発表示ＴＡ５については、演出内容の進展度合いに応じて異なる態様で表示することとしたが、演出内容の進展度合いにかかわらず一の態様（同じ態様）で表示するようにしてもよい。若しくは、この例にかかる第５Ａ受付許容状態は、操作受付がなされると、状況示唆表示ＪＡ５の態様変化が必ず生じるものであり、これによって操作受付がなされたことを示唆することが可能であることに鑑みれば、単発表示ＴＡ５については、必ずしも表示しないようにしてもよい。

【４０９５】
　また、タイミングｔＡｅ２－Ａ１では、第１の受付後出力音ＳＡ５（第５Ａ受付後出力音）が、このような第５Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が、第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が１段階目の態様に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ５ｂ―１で出力開始される。
【４０９６】
　この点、第５Ａ受付許容状態に対応する第２の受付後出力音ＳＢ５は、演出進展がなされたとき（演出進展を生じさせる操作受付がなされたとき）から予め定められた時間（タイミングｔＡｅ２～ｔＡｅ３の時間よりも短い一定の時間）分だけ出力されてから非出力の状態にされるものとなっている。第１の受付後出力音ＳＡ５についても、同様、予め定められた時間（一定の時間）が経過すると非出力の状態にされるものである。
【４０９７】
　図１５８に示した演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ａ２が到来した後に、第１の受付後出力音ＳＡ５及び第２の受付後出力音ＳＢ５が非出力の状態にされる場合を想定したものとなっている。
【４０９８】
　すなわちこの場合、タイミングｔＡｅ２－Ａ２は、第１の受付後出力音ＳＡ５及び第２の受付後出力音ＳＢ５がいずれも出力状態にあるなかで到来することとなる。ただし、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ５及び第２の受付後出力音ＳＢ５はいずれも、第５Ａ操作部が非操作状態にされること（タイミングｔＡｅ２－Ａ２が到来すること）を契機として何らの変化も生じないものとなっている。
【４０９９】
　なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ５については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよい。また、第１の受付後出力音ＳＡ５については、演出内容の進展度合いにかかわらず一の態様（同じ態様）で出力することとしたが、演出内容の進展度合いに応じて異なる態様で出力するようにしてもよい。若しくは、この例にかかる第５Ａ受付許容状態は、操作受付がなされると、第２の受付後出力音ＳＡ５が必ず出力されるものであり、これによって操作受付がなされたことを示唆することが可能であることに鑑みれば、第１の受付後出力音ＳＡ５については、必ずしも出力しないようにしてもよい。
【４１００】
　ここで、第５Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた「１回分の動画表示（単発表示ＴＡ５）」に要する時間が経過するよりも前に（単発表示ＴＡ５が表示されている間に）、第５Ａ操作部を非操作状態にする操作と、該非操作状態から再び操作状態にする操作とが遊技者によってそれぞれ行われる場合が生じうる。この場合、上記「単発表示ＴＡ５」は、操作受付に応じた「１回分の動画表示」が実行開始されてからこれが終了するよりも前のタイミングで上記「一定の時間」が経過して新たな「１回分の動画表示」が実行開始される、といったような態様で実行されることとなるが、この際、新たな「１回分の動画表示」は、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで実行されるようにしてもよい。
【４１０１】
　またこれも同様、第５Ａ受付許容状態では、操作受付に応じた「１回分の動画表示に対応する効果音（第１の受付後出力音ＳＡ５）」に要する時間が経過するよりも前に（第１の受付後出力音ＳＡ５が出力されている間に）、第５Ａ操作部を非操作状態にする操作と、該非操作状態から再び操作状態にする操作とが遊技者によってそれぞれ行われる場合が生じうる。この場合、上記「第１の受付後出力音ＳＡ５」は、操作受付に応じた「１回分の効果音」が実行開始されてからこれが終了するよりも前のタイミングで上記「一定の時間」が経過して新たな「１回分の効果音」が実行開始される、といったような態様で実行

されることとなるが、この際、新たな「１回分の効果音」は、実行途中の状態にあった前回の「１回分の効果音」を途中終了させてこれに代わるかたちで実行されるようにしてもよい。

【４１０２】

味方キャラクタＹＳ－Ａ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５や、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５などの「状況示唆表示ＪＡ５（図１５８（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【４１０３】

このような演出例にかかるパチンコ機１によれば、第５Ａ操作部が非操作状態にされるタイミングｔＡｅ２－Ａ２においては、図１６０（ｃ）に示される演出状況が現れることとなるが、該演出状況は、第５Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として現れたものではない。単に、タイミングｔＡｅ２－Ａ１で実行開始された第５Ａ受付後表示や第５Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ５、単発表示ＴＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）のうち、タイミングｔＡｅ２－Ａ２が到来する時点においてもその実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないものはその実行状態を継続しており（状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）、タイミングｔＡｅ２－Ａ２が到来するよりも前にその実行状態を終了させる条件が満たされたものはその時点（タイミングｔＡｅ２－Ａ２よりも前の時点）で実行状態を終了しているだけのことである。

【４１０４】

またこの例では、単発表示ＴＡ５や状況示唆表示ＪＡ５が表示されているなかで第５Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから単発表示ＴＡ５や状況示唆表示ＪＡ５が非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４１０５】

またこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ５や第２の受付後出力音ＳＢ５が出力されているなかで第５Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから第１の受付後出力音ＳＡ５や第２の受付後出力音ＳＢ５が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４１０６】

また、この実施の形態にかかる第５Ａ受付許容状態では、単発表示ＴＡ５や、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５がそれぞれ実行状態にあるなかで第５Ａ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、単発表示ＴＡ５や、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５が非実行（非表示、非出力）の状態にされるタイミングは、それぞれ異なるタイミングとなるようにしている。この例では、それらの終了される順番については入れ替わることがないようになっており、例えば、単発表示ＴＡ５は、それらの中で最も早く終了される。

【４１０７】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第５Ａ受付許容状態では、単発表示ＴＡ５や、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５がそれぞれ実行状態にあるなかで第５Ａ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、第５Ａ操作部が非操作状態にされているなかで、単発表示ＴＡ５や、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５が実行状態を継続している状況が現れるようになる。

【４１０８】

ただしこの例では、図１５８（ａ）及び図１６０（ｄ）に示されるように、単発表示ＴＡ５、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、及び第２の受付後出力音ＳＢ５

の全てが実行状態を終了する時点においても、第５Ａ操作部に対して新たな操作受付がなされない場合を想定したものとなっている。

【４１０９】

そしてこの例では、こうして単発表示ＴＡ５、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、及び第２の受付後出力音ＳＢ５の全てが非実行の状態にされているなかで、図１５８（ａ）に示されるように、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｂ１（図１６０（ｅ）に示される演出状況）において、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が再び操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｅ２－Ｂ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４１１０】

この例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｂ１において「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５８（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ａ受付後変化（第５Ａ受付後演出）」を再び１回の操作受付に応じた分だけ生じさせることとなる（図１６０（ｅ）に示される演出状況）。

【４１１１】

ただし上述の通り、この例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｂ１において第５Ａ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展されることとなる。したがって、図１６０（ｅ）に示される状況では、第５Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて２段階目の進展がなされたときの態様で、第５Ａ受付後変化（第５Ａ受付後表示や、第５Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。

【４１１２】

したがって、この演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１において、上記第５Ａ受付後表示として、図１６０（ｅ）に示されるように、２段階目の進展態様で、味方キャラクタＹＳ－Ａ５が剣術を用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５を攻撃する態様（煙エフェクトや、斬撃エフェクトの発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。

【４１１３】

より具体的には、図１６０（ｅ）に示される例では、上記第５Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５が２段階目の傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ５による剣術を用いた攻撃が単発表示ＴＡ５として２段階目の態様ＴＡ５ｂで表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５が残りＨＰゲージが２段階分減少した態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ５（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５、味方キャラクタＹＳ－Ａ５、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５）が、再操作前の「態様ＪＡ５ｂ」から「態様ＪＡ５ｃ」に変化することとなり、これによって当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。

【４１１４】

また、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１では、第１の受付後出力音ＳＡ５（第５Ａ受付後出力音）が、このような第５Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が、第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が２段階目に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ５ｂ―２で出力開始される。

【４１１５】

ここで、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１は、タイミングｔＡｅ２－Ａ１で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が出力状態にあるなかで到来する場合もあり得る。この際は、当該タイミングｔＡｅ２－Ｂ１においては、第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が、出力状態にあった１段階目の態様ＳＢ５ｂ―１を終了させてこれに代わるかたちで２段階目の態様ＳＢ５ｂ―２での出力を開始するようにしてもよい。

【４１１６】
　また、タイミングｔＡｅ２－Ｂ２では、単発表示ＴＡ５が表示されているなかで第５Ａ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合を想定したものとなっている。この際、非操作状態にしてから該単発表示ＴＡ５が非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定とされることについては上述した通りである。
【４１１７】
　なお、第５Ａ操作部が再び非操作状態にされるタイミングｔＡｅ２－Ｂ２では、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１で実行開始された第５Ａ受付後表示や第５Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ５、単発表示ＴＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）がいずれも、その実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないから、その実行状態を継続しており、タイミングｔＡｅ２－Ｂ２を契機として何らかの変化を生じることはない。
【４１１８】
　またこの例では、図１５８（ａ）に示されるように、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｃ１（図１６０（ｆ）に示される演出状況）において、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が、もう一度、操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｅ２－Ｃ２まで継続される場合を想定したものとなっている。
【４１１９】
　この例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｃ１において「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１５８（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ａ受付後変化（第５Ａ受付後演出）」を、もう一度、１回の操作受付に応じた分だけ生じさせることとなる（図１６０（ｆ）に示される演出状況）。
【４１２０】
　ただし上述の通り、この例では、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｃ１において第５Ａ操作部に対する操作がもう一度開始されたときにも、当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が進展されることとなる。したがって、図１６０（ｆ）に示される状況では、第５Ａ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて３段階目の進展（ここでは、最終段階の進展）がなされたときの態様で、第５Ａ受付後変化（第５Ａ受付後表示や、第５Ａ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。
【４１２１】
　したがって、この演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１において、上記第５Ａ受付後表示として、図１６０（ｆ）に示されるように、最終（３段階目）の進展態様で、味方キャラクタＹＳ－Ａ５が剣術を用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５を撃破する態様（煙エフェクトや、斬撃エフェクトの発生など）が表示（１回分の動画表示）開始されることとなる。
【４１２２】
　より具体的には、図１６０（ｆ）に示される例では、上記第５Ａ受付後表示として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５が撃破された態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ａ５による剣術を用いた攻撃が単発表示ＴＡ５として３段階目の態様ＴＡ５ｃで表示され、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５が残りＨＰゲージが０まで減少した態様に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ５（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ５、味方キャラクタＹＳ－Ａ５、ゲージ画像ＨＰ―Ａ５）が、再操作前の「態様ＪＡ５ｃ」から「態様ＪＡ５ｄ」に変化することとなり、これによって当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１でなされた操作受付に基づいて進展したことが示唆されるようになる。
【４１２３】
　また、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１では、第１の受付後出力音ＳＡ５（第５Ａ受付後出力音）が、このような第５Ａ受付後表示（攻撃する態様）に対応する効果音として機能するように出力開始されるとともに、第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が、

第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容が３段階目に進展したことを示唆するべく、態様ＳＢ５ｂ－３で出力開始される。

【４１２４】

ここで、この演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１は、タイミングｔＡｅ２－Ｂ１で出力開始された第１の受付後出力音ＳＡ５及び第２の受付後出力音ＳＢ５がいずれも出力状態にあるなかで到来することとなる。この際、当該タイミングｔＡｅ２－Ｃ１においては、第２の受付後出力音ＳＢ５（第５Ａ受付後出力音）が、出力状態にあった２段階目の態様ＳＢ５ｂ－２を終了させてこれに代わるかたちで２段階目の態様ＳＢ５ｂ－３での出力を開始することとなる。また、第１の受付後出力音ＳＡ５（第５Ａ受付後出力音）についても、出力状態にあった音を終了させてこれに代わるかたちで最初から出力をやり直すこととなる。

【４１２５】

そして、第５Ａ操作部が再び非操作状態にされるタイミングｔＡｅ２－Ｃ２では、図１６０（ｇ）に示される演出状況が現れることとなるが、該演出状況は、第５Ａ操作部が非操作状態にされたことを契機として現れたものではない。単に、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１で実行開始された第５Ａ受付後表示や第５Ａ受付後出力音（状況示唆表示ＪＡ５、単発表示ＴＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）のうち、タイミングｔＡｅ２－Ｃ２が到来する時点においてもその実行状態を終了させる条件が未だ満たされていないものはその実行状態を継続しており（状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）、タイミングｔＡｅ２－Ｃ２が到来するよりも前にその実行状態を終了させる条件が満たされたものはその時点（タイミングｔＡｅ２－Ｃ２よりも前の時点）で実行状態を終了しているだけのことである。

【４１２６】

ただしこの例では、図１５８（ａ）及び図１６０（ｈ）に示されるように、単発表示ＴＡ５、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、及び第２の受付後出力音ＳＢ５の全てが実行状態を終了する時点においても、第５Ａ操作部に対して新たな操作受付がなされない場合を想定したものとなっている。

【４１２７】

そしてこの例では、こうして単発表示ＴＡ５、状況示唆表示ＪＡ５、第１の受付後出力音ＳＡ５、及び第２の受付後出力音ＳＢ５の全てが非実行の状態にされているなかで、図１５８（ａ）に示されるように、第５Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｅ２－Ｄ１（図１６０（ｉ）に示される演出状況）において、「第５Ａ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」が、さらにもう一度、操作状態にされて、この操作状態が、タイミングｔＡｅ３まで少なくとも継続される場合を想定したものとなっている。

【４１２８】

ここで上述の通り、当該第５Ａ受付許容状態に対応する演出内容は、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１でなされた操作受付によって、最終の態様まで既に進展している状況下にある。この演出例では、このような状況下にあるなかでタイミングｔＡｅ２－Ｄ１で操作受付がさらになされた場合であっても、図１５８（ａ）及び図１６０（ｉ）に示されるように、状況示唆表示ＪＡ５及び単発表示ＴＡ５については、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１で実行開始された場合と同じ態様（最終の態様）で、１回の操作受付に応じた分を実行開始することとなる。

【４１２９】

ただし、これも上述したが、この演出例では、第５Ａ受付後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）については、最終態様で一度出力された以降は、該最終態様にかかる受付後出力音の出力状況にかかわらず、操作受付がさらになされたとしてもこれを契機として出力開始されることがない。したがって、タイミングｔＡｅ２－Ｄ１で操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として第５Ａ受付後表示（単発表示ＴＡ５、状況示唆表示ＪＡ５）は実行開始されるが、第５Ａ受付後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ５、第２の受付後出力音ＳＢ５）が実行されることはない。

【４１３０】
ここで、この演出例では、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１で表示開始された状況示唆表示ＪＡ５ｄ（最終態様）が非表示にされてから、タイミングｔＡｅ２－Ｄ１が到来した場合を想定したが、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１で表示開始された状況示唆表示ＪＡ５ｄ（最終態様）が表示状態にあるなかでタイミングｔＡｅ２－Ｄ１が到来する（操作受付が発生する）こともあり得る。この際、当該タイミングｔＡｅ２－Ｄ１においては、それまで表示状態にあった状況示唆表示ＪＡ５ｄ（最終態様）を非表示にしてこれを表示し直すようなことはせず、その表示状態を継続させるようにしてもよい。またこの場合、表示状態が維持、継続される時間については、タイミングｔＡｅ２－Ｃ１ではなく、タイミングｔＡｅ２－Ｄ１を基準として再設定するようにしてもよい。この場合は、タイミングｔＡｅ２－Ｄ１において、第５Ａ受付後出力音が新たに出力されないことはもとより、状況示唆表示ＪＡ５ｄ（最終態様）が新たに表示し直されることもないようになる。
【４１３１】
そして、図１５８や図１６０に示される演出例は、こうしてタイミングｔＡｅ２－Ｄ１で実行開始された第５Ａ受付後表示が非実行の状態にされてから、当該第５Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｅ３が到来した場合を想定したものとなっている。
【４１３２】
ただし、第５Ａ受付後表示が表示状態にあるなかでタイミングｔＡｅ３が到来する場合もあり得る。この場合は、タイミングｔＡｅ３が到来したことに基づいて、それまで表示状態にあった第５Ａ受付後表示を非表示の状態にするようにしてもよい。
【４１３３】
また、第５Ａ受付後出力音が出力状態にあるなかでタイミングｔＡｅ３が到来する場合もあり得る。この場合は、タイミングｔＡｅ３が到来したことに基づいて、それまで出力状態にあった第５Ａ受付後出力音を非出力の状態にするようにしてもよい。ただし、タイミングｔＡｅ３が到来したことに基づいて、それまで表示状態にあった第５Ａ受付後表示については、非表示の状態にするが、それまで出力状態にあった第５Ａ受付後出力音については、非出力の状態にせず、継続させるようにしてもよい。
【４１３４】
また、第５Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１５９に示されるように、第５Ａ受付許容状態でタイミングｔＡｅ３が到来するときまで第５Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡｅ３が到来したことに基づいて第５Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第５Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第５Ａ受付後変化が実行開始されることはない。
【４１３５】
また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第６Ａ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１６１は、上記発生条件として「条件６Ａ」が満たされたことに基づいて「第６Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６２は、「第６Ａ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われなかったときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６３は、「第６Ａ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。
【４１３６】
いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第６Ａ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第６Ａ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第６Ａ変動パターンに応じた演出描写や、第６Ａ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第６Ａ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる

。
【４１３７】
図１６１（ｃ）に示されるように、「第６Ａ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第６Ａ時間が経過したタイミングｔＡｆ２が到来したことに基づいて（「条件６Ａ」が満たされたことに基づいて）、「第６Ａ受付後変化（第６Ａ演出状況示唆表示ＪＡ６や、第６Ａ単発表示ＴＡ６、第６Ａ受付後出力音ＳＡ６，ＳＢ６など）に関しての第６Ａ操作部に対する操作受付」が許容される上記第６Ａ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１６３（ａ）に示される状況）。
【４１３８】
ここで、この実施の形態にかかる第６Ａ受付許容状態は、当該第６Ａ受付許容状態が終了されるまでの間に「第６Ａ操作部」に対する操作受付を１回だけ許容するものであり、該「第６Ａ操作部」として上記操作ボタン４１０が設定されるものとなっている。
【４１３９】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１６１（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第６Ａ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第６Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ａ６と、操作対象（ここでは、第６Ａ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＡ６と、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ６とを、当該第６Ａ受付許容状態が発生するよりも前（第６Ａ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＡｆ１が到来したときに表示するものとなっている。
【４１４０】
ただし、摸画像表示ＭＧ－Ａ６や、メッセージ表示ＭＡ６、状況示唆表示ＪＡ６については、必ずしも第６Ａ受付許容状態が発生するよりも前に表示されるものでなくてもよく、第６Ａ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ａ６が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＡ６が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＡ６は、摸画像表示ＭＧ－Ａ６が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。
【４１４１】
ここで、第６Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ６」は、その配色として「第１配色（例えば、白色が基調とされた配色）」と「第２配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」とのいずれかが選択的に用いられるようになっている。
【４１４２】
また、第６Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ６」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期６Ａ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。この周期６Ａ時間は、第１Ａ受付許容状態で現れる周期１Ａ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されており、例えば、上記周期２Ａ時間と同じ時間として設定するようにしてもよい。したがって、当該第６Ａ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。
【４１４３】
また、第６Ａ受付許容状態とは、図１６２（ｂ）に示されるように、第６Ａ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＡｆ３が到来するときまで継続され、タイミングｔＡｆ３が到来したことに基づいて終了されるものである。したがって、第６Ａ受付許容状態が継続されている間、当該第６Ａ受付許容状態が終了されるタイミングｔＡｆ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ａ６内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしているが、当該描写については必ずしも行わないようにしてもよい。

【４１４４】
なお、第６Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ６」を、当該第６Ａ受付許容状態が発生するタイミングｔＡｆ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＡｆ２を待ってから開始させるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第６Ａ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ａ６」は、タイミングｔＡｆ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様（実際は、操作ボタン４１０を摸した画像に置き換えられた態様）を維持するかたちで表示されることとなる。
【４１４５】
また、この例にかかる第６Ａ受付許容状態では、図１６１（ｃ），（ｄ）及び図１６３（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ａ６のほか、第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「魔法使いを倒せ！ハンマーを「一撃」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＡ６）が表示されるものとなっている。
【４１４６】
また、この例にかかる第６Ａ受付許容状態では、図１６１（ｅ）及び図１６３（ａ）に示されるように、当該第６Ａ受付許容状態での操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＡ６として、当該第６Ａ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ａ６）と、当該第６Ａ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、魔法使いとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ａ６が表示されるようになっている。第６Ａ受付許容状態では、「第６Ａ操作部に対する１回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ａ６が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ａ６を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われると、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ａ６」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＡ６として、味方キャラクタＹＳ－Ａ６と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ａ６と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６と、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。
【４１４７】
例えば、図１６１に示した例では、第６Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｆ２－Ａ１（図１６３（ｂ）に示される演出状況）において、「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。
【４１４８】
この例では、第６Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｆ２－Ａ１において「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６１（ｅ）～（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第６Ａ受付後変化（第６Ａ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１６３（ｂ）に示される演出状況）。
【４１４９】
より具体的には、第６Ａ受付許容状態内のタイミングｔＡｆ２－Ａ１において、「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６１（ｅ）～（ｈ）に示されるように、第６Ａ受付後変化として、「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ａ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ａ受付後表示（単発表示ＴＡ６、状況示唆表示ＪＡ６）」が表示開始される。
【４１５０】

すなわち、第６Ａ受付許容状態において「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第６Ａ受付後表示」として、図１６３（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ａ６」がハンマーを用いて「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」を攻撃する態様（衝撃エフェクトの発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。

【４１５１】

この例にかかる１回分の動画表示では、まず、味方キャラクタＹＳ－Ａ６によるハンマーを用いた攻撃が単発表示ＴＡ６として表示される。そしてこの結果として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた態様と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった態様とが用意されており、図１６３（ｂ）に示される例は、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた態様が表示された場合を想定したものとなっている。

【４１５２】

より具体的には、図１６１及び図１６３に示される例では、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」は撃破されることとなり、ハンマーの強度が上がり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６の残りＨＰゲージが０に変化される。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ６（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６、味方キャラクタＹＳ－Ａ６、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６）が、操作前の「態様ＪＡ６ａ」から「態様ＪＡ６ｂ」に変化することとなり、これによって敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた操作状況下にあることが示唆されるようになる（大当りが得られている可能性が高いことが示唆されるようになる）。

【４１５３】

なお、図示は割愛するが、味方キャラクタＹＳ－Ａ６によるハンマーを用いた攻撃が単発表示ＴＡ６として表示されるが、その結果として、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった態様が現れる場合には、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」は生存し、ハンマーの強度が下がり、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６の残りＨＰゲージが一部残されるように変化されることとなる。すなわちこの場合、状況示唆表示ＪＡ６（敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６、味方キャラクタＹＳ－Ａ６、ゲージ画像ＨＰ―Ａ６）が、操作前の「態様ＪＡ６ａ」から「態様ＪＡ６ｂ」とは異なる態様に変化することとなり、これによって敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった操作状況下にあることが示唆されるようになる（大当りが得られている可能性が低いことが示唆されるようになる）。

【４１５４】

また、この例では、第６Ａ受付許容状態において「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされると、上記「第６Ａ受付後表示」のほか、上記「第６Ａ受付後出力音」として、図１６１（ｇ）に示されるように、第１の受付後出力音ＳＡ６が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音ＳＡ６は、上記「第６Ａ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ａ６がハンマーを用いて敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を攻撃する態様（単発表示ＴＡ６）」に対応する効果音として機能するものである。なおこの例では、第１の受付後出力音ＳＡ６については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよい。

【４１５５】

またこの際、「第６Ａ受付後出力音」として、第２の受付後出力音ＳＢ６がさらに出力されるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音ＳＢ６は、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた態様が現れる場合（期待度が高い場合）と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった態様が現れる場合（期待度が低い場合）とで異なる態様が用意されており、それら態様のいずれかで出力されるものとなっている。

【４１５６】

このように、第６Ａ受付許容状態では、「第６Ａ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされると、「味方キャラクタＹＳ－Ａ６」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方

キャラクタＹＳ－Ａ６」による１回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」のＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４１５７】

そしてこの例は、図１６１（ａ）に示されるように、タイミングｔＡｆ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第６Ａ操作部の操作状態）は、タイミングｔＡｆ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４１５８】

ただし、第６Ａ受付許容状態は、第６Ａ操作部に対する操作受付が１回しか許容されないものである。したがって、タイミングｔＡｆ２－Ａ１からタイミングｔＡｆ２－Ａ２までの期間で２回目の操作受付がなされることはないし、タイミングｔＡｆ２－Ａ２を契機として実行状態にある演出が何らかの変化を生じさせることもない。

【４１５９】

また、タイミングｔＡｆ２－Ａ１で実行開始された単発表示ＴＡ６や、状況示唆表示ＪＡ６、第１の受付後出力音ＳＡ６、第２の受付後出力音ＳＢ６は、それぞれ予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされる。これらの演出は、互いに異なる時間分だけ実行されるようになっており、実行状態が終了されるタイミングはそれぞれ異なるようになっている。

【４１６０】

また、タイミングｔＡｆ２－Ａ１で実行開始された単発表示ＴＡ６や、状況示唆表示ＪＡ６、第１の受付後出力音ＳＡ６、第２の受付後出力音ＳＢ６の各実行状態は、タイミングｔＡｆ２－Ａ２から不定の時間で終了される。

【４１６１】

なおこの演出例では、単発表示ＴＡ６については、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた態様が現れる場合と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった態様が現れる場合とで、同じ表示態様として表示されるものとなっている。ただし、単発表示ＴＡ６については、必ずしも表示しないようにしてもよい。また、第１の受付後出力音ＳＡ６についても、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができた態様が現れる場合と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ａ６を倒すことができなかった態様が現れる場合とで、同じ態様で出力されるものとなっている。ただし、第１の受付後出力音ＳＡ６については、必ずしも出力されないようにしてもよい。

【４１６２】

また、第６Ａ受付許容状態は、上述した自動ボタン機能が有効化される受付許容状態として発生するものとなっている。したがって、図１６２に示されるように、第６Ａ受付許容状態でタイミングｔＡｆ３が到来するときまで第６Ａ操作部に対する操作受付がなされなかったときは、タイミングｔＡｆ３が到来したことに基づいて第６Ａ受付許容状態が終了されるだけでなく、第６Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる態様で第６Ａ受付後変化が実行開始されることとなる。

【４１６３】

なお、第６Ａ受付許容状態については、上述した自動ボタン機能が有効化されない受付許容状態として発生させるようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ３が到来したことに基づいて第６Ａ受付許容状態が終了されるだけであり、第６Ａ操作部に対して操作が行われたときに現れる第６Ａ受付後変化が実行開始されることはなくなる。

【４１６４】

また、上述した演出例にかかる「第１Ａ操作部」、「第２Ａ操作部」、「第３Ａ操作部」、「第４Ａ操作部」、「第６Ａ操作部」はいずれも「操作ボタン４１０」として実現することとしたが、それら操作部のなかの一部には、「操作ボタン４１０」とは異なる操作部として実現されるものが含まれていてもよい。例えば、各受付許容状態で摸画像表示と

して表現されている操作部を操作した場合の構成として置き換えるようにしてもよい。すなわち、「第１Ａ操作部」、「第２Ａ操作部」、「第３Ａ操作部」、「第４Ａ操作部」については、摸画像表示として表示され且つ複数回の操作受付が許容されるものであればよいし、「第６Ａ操作部」については、摸画像表示として表示され且つ１回だけの操作受付が許容されるものであればよい。ただし、「第１Ａ操作部」、「第２Ａ操作部」、「第３Ａ操作部」、「第４Ａ操作部」、「第６Ａ操作部」はいずれも、「第５Ａ操作部」とは異なる操作部として用意されることとなる。

【４１６５】

また、上述した演出例にかかる各受付期間（受付許容状態）で操作受付がなされたことに応じた「受付後変化（受付後表示）」は、必ずしも大当たりが得られる期待度を示唆するものでなくてもよい。例えば、大当り遊技の実行期間内で確率変動機能が有効化されるか否かについての受付期間として発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよいし、遊技に関する期待度示唆とは何ら関係のない単なるミニゲーム内の受付期間として発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよい。若しくは、各種のインターバル期間などにおいて予め定められた条件が成立したことに基づいて発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよい。したがって、上述した演出例にかかる受付期間は、必ずしも図柄変動が実行されている期間内で発生するものでなくてもよい。また、このような期待度を示唆しない受付後表示として表示される場合であっても、該受付後表示が表示されるときの態様として複数を用意し、それら複数の態様のいずれかで表示されるようにしてもよい。

【４１６６】

また、摸画像表示の周期的変化が「所定時間よりも長い時間」単位で現れるように表示される場合と、摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示される場合とで、摸画像表示は、同じ形態（若しくは相似形）として表示可能とされている。ただし、摸画像表示の周期的変化が「所定時間よりも長い時間」単位で現れるように表示される場合、摸画像表示は、第１形態で表示される場合と、第２形態で表示される場合とが少なくともあるようにし、摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示される場合は、上記第２形態（若しくは相似形）で表示される場合がなく、上記第１形態（若しくは相似形）で表示される場合があるようにしてもよい。

【４１６７】

ちなみに、摸画像表示の周期的変化は、配色や、発光などとは異なり、時間の経過によって生じる現象であるから、その長短を見分けるためにはそもそも比較的長い時間を要するものであるし、さらに言えば、現在現れている摸画像表示の周期的変化が長短のいずれであるのかを確実に見分けることは難しいものであると言える（長サイクルと、短サイクルとの両方が表示されるわけではないため）。ただしその一方で、それらの見分けを行うことができれば、遊技者は、新たな情報源としての価値を享受することができるようになるから、こうした見分けの困難性と、情報源としての価値とを通じて、新たな演出性を提供することが可能とされることとなる。

【４１６８】

また、上述の演出例にかかる第２Ａ受付許容状態では、オート連打機能が有効化されているときの第１の受付後出力音ＳＡ２ａについては、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来したときにこれを契機として新たな「効果音」が出力開始されるようにした。ただしこれに代えて、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来したことを契機として新たな「効果音」を出力開始させず、それまで実行してきた態様での出力（効果音）を継続させるようにしてもよい。

【４１６９】

すなわち、第１の受付後出力音ＳＡ２ａについては、効果音の繰り返し出力として必ずしも実現しなくてもよく、例えば、「操作受付がなされたときに出力開始された一のデータに基づく演出音を、（都度検出される操作受付の判定によって）その操作状態が維持されていることを条件（オート連打機能が有効化されていることを条件）に継続させ、その

操作状態が維持されなくなったときに終了させる」といった態様で出力されるものとして実現するようにしてもよい。そしてこの場合、このような第１の受付後出力音ＳＡ２ａが出力されている間に、いわゆるオート連打機能によって演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来したとしても、これを契機として、当該第１の受付後出力音ＳＡ２ａ（一のデータに基づく演出音）の出力態様に何らの変化も生じず、その再生状態が継続されるようにしてもよい。この意味では、この演出例にかかるオート連打機能とは、操作状態を維持するだけで、定期的に操作状態にあることの判定がなされる機能のことであると言える。第２Ａ受付許容状態を、このような構成として実現した場合であっても、少なくとも演出進展した回数分は新たな受付後変化（第２の受付後出力音ＳＢ２）が不定の間隔且つ特定時間よりも長い間隔で複数回生じることとなる。

【４１７０】

なお、受付許容状態でオート連打機能によって操作状態にあるか否かの判定がなされる間隔は、周期１Ａ時間、周期２Ａ時間、周期３Ａ時間、周期４Ａ時間、周期５Ａ時間、周期６Ａ時間のいずれよりも短い時間として設定されるようにすることが望ましい。ただし、受付許容状態でオート連打機能によって操作状態にあるか否かの判定がなされる間隔は、受付許容状態の種別によって異なるようにしてもよい。例えば、第２Ａ受付許容状態でオート連打機能によって操作状態にあるか否か（操作受付）の判定がなされる間隔は、第１Ａ受付許容状態や第３Ａ受付許容状態でオート連打機能によって操作状態にあるか否か（操作受付）の判定がなされる間隔と異なるようにしてもよい。また、第１Ａ受付許容状態と第３Ａ受付許容状態とでは、オート連打機能によって操作状態にあるか否かの判定（操作受付）がなされる間隔が同じであってもよい。

【４１７１】

また、いわゆるオート連打機能が有効化される操作対象を操作状態に維持すると、上記受付後変化が一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始される種別の受付許容状態（第１Ａ受付許容状態や、第３Ａ受付許容状態など）では、上記受付後変化が不定の時間（予め定められていない時間）毎に新たに実行開始される種別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態など）よりも、当該受付許容状態内で上記受付後変化が発生する回数が多いようにすることが望ましい。

【４１７２】

また、上述の演出例にかかるパチンコ機１は、上記受付後変化の１つとして、演出表示装置１６００における受付後表示を表示させることとしたが、該受付後表示については、上記受付後変化の１つとして必須な構成ではない。例えば、演出ランプによる発光態様の変化や、可動体の駆動変化などによっても、上述した受付後表示による受付後変化と同様の演出態様を実現することは可能である。

【４１７３】

また上述の通り、第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて（最終の演出態様が現れて）当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として用意されるものである。ただし、第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態では、例えば、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られていないときには、どれだけ操作受付がなされたとしても（最終の演出態様が現れず）当該受付許容状態が早期終了されないようにし、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られているときに限り、操作受付がなされたことを契機として（最終の演出態様が現れて）当該受付許容状態が早期終了されるようにしてもよい。このような構成であっても、「操作受付がなされたことに基づいて（最終の演出態様が現れて）当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として実現されていると言える。

【４１７４】

また、第１Ａ受付許容状態と第３Ａ受付許容状態とでは、オート連打機能によって操作状態にあるか否かの判定（操作受付）がなされる間隔（操作状態を維持したときに受付後変化が新たに発生する間隔）が互いに異なるようにしてもよい。

【４１７５】
　また、第２Ａ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第２Ａ受付許容状態内で第２Ａ受付後出力音を複数回発生させることのできる回数は、第１Ａ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第１Ａ受付許容状態内で第１Ａ受付後出力音を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにしてもよい。
【４１７６】
　また、第２Ａ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第２Ａ受付許容状態内で第２Ａ受付後出力音を複数回発生させることのできる回数は、第３Ａ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第３Ａ受付許容状態内で第３Ａ受付後出力音を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにしてもよい。
【４１７７】
　また、第２Ａ受付許容状態では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持することによって第２Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数は、操作ボタン４１０を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって第２Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数よりも少なくなるように設定してもよい。
【４１７８】
　また、第１Ａ受付許容状態では、操作ボタン４１０を操作状態に維持することによって第１Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数は、操作ボタン４１０を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって第１Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数と同じか、または該上限回数よりも多くなるように設定してもよい。
【４１７９】
　また、第３Ａ受付許容状態では、操作ボタン４１０を操作状態に維持することによって第３Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数は、操作ボタン４１０を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって第３Ａ受付後出力音を複数回発生させることができる上限回数と同じか、または該上限回数よりも多くなるように設定してもよい。
【４１８０】
　また、上述した演出例では、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。
【４１８１】
　また、上述した演出例にかかる第２Ａ受付許容状態では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは

、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４１８２】

また、上述した演出例にかかる第１Ａ受付許容状態では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４１８３】

また、上述した演出例にかかる第３Ａ受付許容状態では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第３の受付後出力音ＳＢ３の出力条件が満たされた場合（図１５２に示されるタイミングｔＡｃ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ３は、該タイミングｔＡｃ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第３の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｃ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｃ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４１８４】

また、「操作後出力音が複数回発生」とは、操作状態を維持するだけで、操作後出力音が新たに出力開始されるタイミングが複数回あることを意味している。すなわち、操作状態を維持したときに、１つのデータに基づく操作後出力音の再生状態が継続されている間は、操作後出力音が１回しか発生していないと言える。

【４１８５】

また、受付許容状態では、摸画像表示は必ずしも表示されなくてもよい。例えば、上述した受付許容状態（第１Ａ受付許容状態～第６Ａ受付許容状態）の少なくとも１つでは、摸画像表示が表示されないようにしてもよい。例えば、第１Ａ受付許容状態では、摸画像表示が表示されないようにしてもよい。若しくは、第１Ａ受付許容状態ではなく、第３Ａ受付許容状態において摸画像表示が表示されないようにしてもよい。

【４１８６】

また、上述した各受付許容状態（第１Ａ受付許容状態～第６Ａ受付許容状態）では、操作受付がなされたことに基づいて、操作後出力音として、２つの種別の音（第１の受付後出力音、第２の受付後出力音）の両方を同時に出力可能としたが、２つの種別の音（第１の受付後出力音、第２の受付後出力音）の両方が同時に出力状態にされることはなく、操作受付がなされたときに、それらの音のいずれかのみが選択的に出力されるようにしてもよいし、それらの音の一方のみを出力可能とし、他方については必ずしも備えないようにしてもよい。

【４１８７】

また、第２Ａ受付許容状態では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるように処理されることはなく、不定の時間とされるようにのみ処理されるが、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理が少なくとも実行されるものであればよく、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理（第１の受付後出力音）と、操作

後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる処理（第２の受付後出力音）との両方が実行されるものであってもよい。

【４１８８】

上述した受付許容状態において、連打中表示や単発表示については、必ずしも表示されないようにしてもよい。

【４１８９】

また、上述の「特定時間以下の時間」には、特定時間も含まれており、「特定時間以下の時間」として特定時間のみが用意されるものであってもよい。また、上述の「特定時間よりも長い時間」として一の時間のみが用意されるものであってもよい。

【４１９０】

また、上述の「所定時間以下の時間」には、所定時間も含まれており、「所定時間以下の時間」として所定時間のみが用意されるものであってもよい。また、上述の「所定時間よりも長い時間」として一の時間のみが用意されるものであってもよい。

【４１９１】

なお、特定時間は、所定時間よりも短い時間であり、「特定時間以下の時間」は、「所定時間以下の時間」よりも短い時間であることが望ましい。これに対し、「特定時間よりも長い時間」は、「所定時間よりも長い時間」よりも長い時間であるようにすることが望ましい。若しくは、「特定時間よりも長い時間」が不定の時間として設定される場合は、その不定性によって、「所定時間よりも長い時間」である場合と、「所定時間よりも長い時間」である場合との両方が生じうるようにしてもよい。

【４１９２】

なお、図１４９（ｇ）に示した演出例では、第２Ａ受付後出力音が出力されている状態にあるなかで上記操作ボタン４１０が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある第２Ａ受付後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を、該検出を契機として終了させるようにしたが、終了ではなく、異なる出力態様に変化（音量・音質の変化や、出力音の態様変化など）させるようにしてもよい。

【４１９３】

また、操作後出力音（受付後出力音）とは、期待度を示唆するものであってもよいし、期待度を示唆しないものであってもよい。事実、第１の受付後出力音ＳＡなどは、期待度を示唆しない音である。

【４１９４】

また、パチンコ機１は、上述した第１Ａ受付許容状態～第６Ａ受付許容状態とは異なる受付許容状態をさらに備えるようにしてもよい。例えば、第１Ａ受付許容状態の場合と操作や非操作に係る演出性は同じであるものの、出現する敵キャラクタの種類が異なっている別の受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態の場合と操作や非操作に係る演出性は同じであるものの、出現する敵キャラクタの種類が異なっている別の受付許容状態や、第３Ａ受付許容状態の場合と操作や非操作に係る演出性は同じであるものの、出現する敵キャラクタの種類が異なっている別の受付許容状態などを備えるようにしてもよい。

【４１９５】

また、このパチンコ機１では、上述した第１Ａ受付許容状態～第６Ａ受付許容状態の全てを備えることとしたが、これら受付許容状態の全てを必ずしも備えなくてもよい。むしろ所望する作用効果との兼ね合いで、これら受付許容状態のうちいくつかの受付許容状態のみを適宜の組み合わせで備えるようにすることが望ましい。下記構成の別に記した「適宜の組み合わせ」で備えるようにすることで優れた作用効果がそれぞれ奏されるようになる。なお、下記各構成では、上述した演出例で示した構成のうち、作用効果が奏されるようにするために備えるべき受付許容状態についての組み合わせを例示しているが、その組み合わせについては例示したものだけに限られず、所望の作用効果が奏されるものであれば、例示していない組み合わせであってもよい。また、所望の作用効果が奏されることに悪影響を及ぼすものでなければ、該所望の作用効果とは関係のない、他の受付許容状態が採用する構成を適宜に備えるようにしてもよい。

【４１９６】
例えば、第１構成Ａ１として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促すメッセージ表示（メッセージ表示ＭＡ１，ＭＡ２，ＭＡ４）が表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、上記メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうる（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）のに対し、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化されることがないようにされる（図１５２（ｇ），（ｈ）に示される第３Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１５２（ｇ），（ｈ）に示される第３Ａ受付後出力音は、該検出を契機とせず、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了されるようになっている。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、メッセージ表示が表示されるか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４１９７】
また、上述した演出例にかかる第１構成Ａ１では、特に、上記複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示（メッセージ表示ＭＡ１，ＭＡ２，ＭＡ４）が表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と該検出を契機とせずになされる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。このような構成によれば、複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されないときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されたときには、上記特定操作手段（

操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４１９８】

しかも、上述した演出例にかかる第１構成Ａ１では、メッセージ表示として一の態様（メッセージ表示ＭＡ２）が現れているときに、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化が生じる場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化が生じない場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、「複数回操作有効状態においてメッセージ表示が表示されたとき、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。ただし、当該構成は必ずしも採用しなくてもよく、例えば、メッセージ表示の大きさが異なっていたり、色が異なっていたり、表示態様が異なっていたりするなど、メッセージ表示として異なる態様が現れるときに、その態様に応じて、操作後出力音に変化が生じる場合と、操作後出力音に変化が生じない場合とがあるようにしたとしても、メッセージ表示これ自体が全く表示されない場合と比較すれば、遊技者に対して「操作後出力音に変化が生じるか否か」をある程度のレベルでは認識し難くさせることは期待できる。ただし、複数回の操作を促すメッセージ表示については、１回の操作しか受付けされない操作有効状態では出現し得ない態様として表示されるようにすることが望ましい（必須構成ではない）。

【４１９９】

また、当該第８構成Ａ８では、複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）と、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）とについてはいずれも、「特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される複数回操作有効状態」として用意されるようにしてもよい。すなわちこの場合、「特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される複数回操作有効状態」でありながらも、メッセージ表示が表示されない場合は、出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされることとなり、メッセージ表示が表示される場合は、出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合と、該検出を契機とせずになされる場合との両方があることとなる。

【４２００】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２０１】

また上述の通り、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２）を出力させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を出力させる場合との両方があるようにしたから、第２Ａ受付許容状態では「上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。

【４２０２】

なお、上述の演出例にかかる第１Ａ受付許容状態や、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後

出力音を出力させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として操作後出力音が終了されない操作後出力音を出力させる場合しかないようになっている。

【４２０３】

また、当該第１構成Ａ１については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４２０４】

また、当該第１構成Ａ１を実現する上では、第４Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２０５】

また例えば、第２構成Ａ２として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるのに対し（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）の終了は、該検出を契機として変化されることがないようにされる（図１５５（ｇ），（ｈ）に示される第４Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１５５（ｇ），（ｈ）に示される第４Ａ受付後出力音は、該検出を契機とせず、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了されるようになっている。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２０６】

また、上述した演出例にかかる第２構成Ａ２では、特に、上記複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態

（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と該検出を契機とせずになされる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。このような構成によれば、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されたときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２０７】

また、上述した演出例にかかる第２構成Ａ２では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、摸画像表示が第１配色で表示される場合と第２配色で表示される場合との両方がある（図１４６（ｃ）、図１４９（ｃ）、図１５２（ｃ）などを参照）が、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、摸画像表示が第１配色で表示される場合は少なくともある（必ず第１配色でもいい）が、第２配色で表示される場合はないようにしてもよい。

【４２０８】

なおこの場合、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示が第１配色で表示される場合と第２配色で表示される場合との両方があればよく、例えば、当該種別の複数回操作有効状態には、摸画像表示が第１配色でしか表示されない所定の複数回操作有効状態が含まれていてもよいし、摸画像表示が第１配色及び第２配色のいずれによっても表示されない特定の複数回操作有効状態が含まれていてもよい。

【４２０９】

また上述の通り、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する種別の複数回操作有効状態のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２）を発生させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を発生させる場合との両方があるようにしたから、第２Ａ受付許容状態では「上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。

【４２１０】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２１１】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じ

た操作後出力音が複数回発生する種別の複数回操作有効状態のうち、特別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態または第３Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音を出力させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として操作後出力音が終了されない操作後出力音を出力させる場合しかないようになっている。

【４２１２】

また、上述した演出例にかかる第２構成Ａ２では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する種別の複数回操作有効状態には、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を発生させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を発生させる場合との両方がある種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）を備える。また、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、３Ａ受付後出力音）しか発生しない種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）を備える。ただし、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音しか発生しない種別の複数回操作有効状態についてはこれを備えないこととなる。

【４２１３】

また、当該第２構成Ａ２については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４２１４】

また、当該第２構成Ａ２を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２１５】

また例えば、第３構成Ａ３として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるのに対し（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）の終了は、該検出を契機として変化されることがないようにされる（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１４６に示される第１Ａ受付後出力音や、図１５２に示される第３Ａ受付

後出力音は、該検出を契機とせず、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了されるようになっている。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長さを通じて、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２１６】

また、上述した演出例にかかる第３構成Ａ３では、特に、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と該検出を契機とせずになされる場合（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的短いときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的長いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２１７】

また、上述した演出例にかかる第３構成Ａ３では、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生するが、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生する場合（第２Ａ受付許容状態）と、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回発生しない複数回操作有効状態」として発生する場合（第４Ａ受付許容状態）との両方があるようにしたから、摸画像表示の周期的変化に要する時間が短いときには、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを示唆するとともに、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長いときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かが認識し難くされるようになる。この点、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長い場合であっても、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化（終了）が生じたときには、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることが示唆されることから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる

。
【４２１８】
　また上述の通り、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２）を発生させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を発生させる場合との両方があるようにしたから、第２Ａ受付許容状態では「上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。
【４２１９】
　なお、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音を発生させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音を発生させる場合しかない。
【４２２０】
　また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。
【４２２１】
　また、当該第３構成Ａ３については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。
【４２２２】
　また、当該第３構成Ａ３においては、上記「所定時間以下の時間」として、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間（例えば、「所定時間」）のみが用意されていてもよい。また、上記「所定時間よりも長い時間」についても同様、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間のみが用意されていてもよい。
【４２２３】
　また、当該第３構成Ａ３を実現する上では、第３Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。
【４２２４】
　また例えば、第４構成Ａ４として、摸画像表示の対象である操作手段に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、上記操作手段として、第１操作手段（操作ボタン４１０）及び第２操作手段（刀装飾体５００１）が用意され、該複数回操作有効状態として、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）と、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）と、を備えるとした場合、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出

力音は、該検出を契機として変化しうるのに対し（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）において上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）の終了は、該検出を契機として変化されることがないようにされる（図１５８に示される第５Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１５８に示される第５Ａ受付後出力音は、該検出を契機とせず、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了されるようになっている。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、複数回操作が許容されており且つ摸画像表示の対象にされている操作手段の種別を通じて、該操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２２５】

また、上述した演出例にかかる第４構成Ａ４では、特に、上記複数回操作有効状態のうち、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）において上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と該検出を契機とせずになされる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。このような構成によれば、複数回操作有効状態において、第２操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第２操作手段を操作したときには、該第２操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、第１操作手段が摸画像表示の対象にされており且つ該第１操作手段を操作したときには、該第１操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２２６】

また上述の通り、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２）を発生させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を発生させる場合との両方があるようにしたから、第２Ａ受付許容状態では「上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態

にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。

【４２２７】

なお、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音を発生させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音を発生させる場合しかない。

【４２２８】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２２９】

また、当該第４構成Ａ４を実現する上では、第４Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２３０】

また、当該第４構成Ａ４を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２３１】

また例えば、第５構成Ａ５として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされるが、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は不定の時間とされるものであり、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）は、上記特定操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が一定の時間毎に新たに実行開始可能とされるものとした場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされうるようになっており（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようになっており（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態

から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにした（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）。

【４２３２】

このような構成によれば、まず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）に変化が生じないことを好適に示唆することができるようになる。この点、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときにこれを契機として、操作後出力音に変化が生じる場合（第２Ａ受付後出力音）と、操作後出力音に変化が生じない場合（第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときの操作後出力音が一定の時間毎に出力されるか否かを通じて、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２３３】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２３４】

なお、当該第５構成Ａ５では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４２３５】

また、当該第５構成Ａ５を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４２３６】

また例えば、第６構成Ａ６として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされ、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされるものであり、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされないものであり、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）は、上記

特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされ、その際、該操作後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔は必ず特定時間以下の時間とされるものとした場合、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされうるようになっており（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようになっており（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）ようにした（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）。

【４２３７】

このような構成によれば、まず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）に変化が生じないことを好適に示唆することができるようになる。この点、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときにこれを契機として、操作後出力音に変化が生じる場合（第２Ａ受付後出力音）と、操作後出力音に変化が生じない場合（第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音が出力されてから新たに出力されるまでの間隔が特定時間よりも長いか否かを通じて、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２３８】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２３９】

なお、当該第６構成Ａ６では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」

を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４２４０】

また、当該第６構成Ａ６を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４２４１】

また例えば、第７構成Ａ７として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、を備えるとした場合、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音は、該検出を契機として変化しうるのに対し（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が上記操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第３Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音（第３Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）の終了は、該検出を契機として変化されることがないようにされる（図１５２に示される第３Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音や、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音は、該検出を契機とせず、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了されるようになっている。このような構成によれば、複数回操作有効状態では、上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されるか否かを通じて、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２４２】

また、上述した演出例にかかる第７構成Ａ７では、特に、上記複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第３Ａ受付後出力音、第４Ａ受付後出力音）が出力された場合は、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操

作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されたとしても、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされる（例えば、予め定められた出力時間分だけ出力されて終了される）のに対し、上記複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）において上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音）が出力された場合、該操作後出力音が出力されている状態にあるなかで、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と該検出を契機とせずになされる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。このような構成によれば、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じないことを好適に示唆するのに対し、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くすることができるようになることから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２４３】

なお、当該第７構成Ａ７では、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態で複数回の操作対象とされる操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、複数回操作有効状態において、摸画像表示として表現されている「操作手段」を操作したときにこれを契機として当該操作有効状態が終了されうる種別であるか否かとして、当該第７構成Ａ７を特定付けるようにしてもよい。

【４２４４】

また、当該第７構成Ａ７にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４２４５】

また、上述した演出例にかかる第７構成Ａ７では、上記複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第２Ａ受付後出力音）が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生するが、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生する場合（第３Ａ受付許容状態）と、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回発生しない複数回操作有効状態」として発生する場合（第４Ａ受付許容

状態）との両方があるようにした。
【４２４６】
　また上述の通り、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音（第２の受付後出力音ＳＢ２）を発生させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音（第１の受付後出力音ＳＡ２）を発生させる場合との両方があるようにしたから、第２Ａ受付許容状態では「上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに操作後出力音に変化が生じるか否かを認識し難くする」といった作用効果がより好適に奏されるようになる。
【４２４７】
　これに対し、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）のうち、特別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音を発生させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了されない操作後出力音を発生させる場合しかない。
【４２４８】
　また、当該第７構成Ａ７では、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）では、上記メッセージ表示ＭＡが必ず表示されるが（メッセージ表示ＭＡ１，ＭＡ２）、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記メッセージ表示ＭＡが表示される場合（第４Ａ受付許容状態）と、上記メッセージ表示ＭＡが表示されない場合（第３Ａ受付許容状態）とがあるようにした。
【４２４９】
　また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。
【４２５０】
　また、当該第７構成Ａ７については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。
【４２５１】
　また、当該第７構成Ａ７を実現する上では、第３Ａ受付許容状態及び第４Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果のうちの少なくとも一部を得ることは可能である。
【４２５２】
　また例えば、第８構成Ａ８として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促すメッセージ表示（メッセージ表示ＭＡ１，ＭＡ２，ＭＡ４）が表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、該メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、上記メッセージ表示が表示されな

い種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされる（図１５２に示される第３Ａ受付後出力音）のに対し、上記メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４２５３】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において、操作後出力音が出力状態にあり且つメッセージ表示が表示されていない場合は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態において、操作後出力音が出力状態にあり且つメッセージ表示が表示されている場合は、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２５４】

しかも、上述した演出例にかかる第１構成Ａ１では、メッセージ表示として一の態様（メッセージ表示ＭＡ２）が現れているときに、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力される場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにした。このような構成では、例えば、メッセージ表示として一の態様（メッセージ表示ＭＡ２）が現れている状況下に

ありながらも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつ、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２５５】

また、当該第８構成Ａ８では、複数回操作有効状態のうち、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）と、メッセージ表示が表示されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）とについてはいずれも、「特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される複数回操作有効状態」として用意されうる。すなわちこの場合、「特定操作手段を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される複数回操作有効状態」でありながらも、メッセージ表示が表示されない場合は、出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされることがなく、該検出を契機とせずになされることとなり、メッセージ表示が表示される場合は、出力状態にある操作後出力音の変化（終了）は、該検出を契機としてなされる場合と、該検出を契機とせずになされる場合との両方があることとなる。

【４２５６】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２５７】

また上述の通り、メッセージ表示が表示される種別の複数回操作有効状態のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音」が出力される場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、例えば、第２Ａ受付許容状態では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつ、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２５８】

なお、上述の演出例にかかる第１Ａ受付許容状態や、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が終了される操作後出力音を出力させる場合がなく、非操作状態になったことの検出を契機として操作後出力音が終了されない操作後出力音を出力させる場合しかないようになっている。

【４２５９】

また、「該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間」は、いずれの時間として設定されるものであってもよく、「０秒」であってもよい。

【４２６０】

また、当該第８構成Ａ８については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ

操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４２６１】

また、当該第８構成Ａ８を実現する上では、第４Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２６２】

また例えば、第９構成Ａ９として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）と、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされる（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）のに対し、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４２６３】

このような構成によれば、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されたときには、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適

に維持することが期待されるようになる。
【４２６４】
　また、上述した演出例にかかる第９構成Ａ９では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、摸画像表示が第１配色で表示される場合と第２配色で表示される場合との両方がある（図１４６（ｃ）、図１４９（ｃ）、図１５２（ｃ）などを参照）が、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回出力されない種別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、摸画像表示が第１配色で表示される場合は少なくともある（必ず第１配色でもいい）が、第２配色で表示される場合はないようにしてもよい。
【４２６５】
　なおこの場合、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回出力される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示が第１配色で表示される場合と第２配色で表示される場合との両方があればよく、例えば、当該種別の複数回操作有効状態には、摸画像表示が第１配色でしか表示されない所定の複数回操作有効状態が含まれていてもよいし、摸画像表示が第１配色及び第２配色のいずれによっても表示されない特定の複数回操作有効状態が含まれていてもよい。
【４２６６】
　また上述の通り、上述した演出例にかかる第９構成Ａ９にあって、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する種別の複数回操作有効状態のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。
【４２６７】
　また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。
【４２６８】
　また、上述した演出例にかかる第９構成Ａ９にあって、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する種別の複数回操作有効状態のうち、特別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態または第３Ａ受付許容状態）では、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合が

なく、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」を出力させる場合しかない。

【４２６９】

また、「該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間」は、いずれの時間として設定されるものであってもよく、「０秒」であってもよい。

【４２７０】

また、当該第９構成Ａ９については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４２７１】

また、当該第９構成Ａ９を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２７２】

また例えば、第１０構成Ａ１０として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とを備えるとした場合、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされる（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音）のに対し、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４２７３】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的短いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了さ

れるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化に要する時間が比較的長いときには、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２７４】

また、上述した演出例にかかる第１０構成Ａ１０では、上記複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音、第３Ａ受付後出力音）が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生するが、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生する場合（第２Ａ受付許容状態）と、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回発生しない複数回操作有効状態」として発生する場合（第４Ａ受付許容状態）との両方があるようにしたから、摸画像表示の周期的変化に要する時間が短いときには、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを示唆するとともに、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長いときには、いわゆるオート連打機能が有効化されるか否かが認識し難くされるようになる。この点、摸画像表示の周期的変化に要する時間の長い場合であっても、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力されたときには、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることが示唆されることから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【４２７５】

また、上述した演出例にかかる第１０構成Ａ１０では、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態では、摸画像表示が第１配色で表示される場合と第２配色で表示される場合との両方があるが、上記特定操作手段を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回発生しない種別の複数回操作有効状態では、摸画像表示が第１配色で表示される場合は少なくともある（必ず第１配色でもいい）が、第２配色で表示される場合はない。

【４２７６】

また上述の通り、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になっ

た場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２７７】

なお、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特別の複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合がなく、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力される場合しかない。

【４２７８】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２７９】

また、当該第１０構成Ａ１０については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４２８０】

また、当該第１０構成Ａ１０においては、上記「所定時間以下の時間」として、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間（例えば、「所定時間」）のみが用意されていてもよい。また、上記「所定時間よりも長い時間」についても同様、複数の時間が用意されていてもよいし、一の時間のみが用意されていてもよい。

【４２８１】

また、当該第１０構成Ａ１０を実現する上では、第３Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２８２】

また例えば、第１１構成Ａ１１として、摸画像表示の対象である操作手段に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、上記操作手段として、第１操作手段（操作ボタン４１０）及び第２操作手段（刀装飾体５００１）が用意され、該複数回操作有効状態として、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）と、を備えるとした場合、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）において上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第２操作手段（刀装飾体５００１）操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状

態に上記第２操作手段（刀装飾体５００１）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定の時間である音）」のみが出力可能とされる（図１５８に示される第５Ａ受付後出力音）のに対し、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）において上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１５２に示される第３Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４２８３】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において、第２操作手段（刀装飾体５００１）が摸画像表示の対象にされており且つ該第２操作手段（刀装飾体５００１）を操作したときには、該第２操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、第１操作手段（操作ボタン４１０）が摸画像表示の対象にされており且つ該第１操作手段（操作ボタン４１０）を操作したときには、該第１操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２８４】

また上述の通り、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第１操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力

されうる場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、例えば、上記第１操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２８５】

なお、上記第２操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される種別の複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）では、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第２操作手段（刀装飾体５００１）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合がなく、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記第２操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記第２操作手段（刀装飾体５００１）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力される場合しかない。

【４２８６】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２８７】

また、当該第１１構成Ａ１１を実現する上では、第４Ａ受付許容状態は必ずしも備えなくてよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２８８】

また、当該第１１構成Ａ１１を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４２８９】

また例えば、第１２構成Ａ１２として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、及び第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が予め定められた時間毎に発生可能とされるが、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力される（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）のに対し、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は不定の時間とされるが、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力される場合と（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音

）、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」として出力される場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４２９０】

このような構成によれば、複数回操作有効状態のうち、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。また、複数回操作有効状態のうち、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４２９１】

また、当該第１２構成Ａ１２では、複数回操作有効状態として、第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）がさらに用意されており、該第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは検出に応じた上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされず、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である音」として出力されうるようにした。このような構成によれば、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、該操作後出力音は「当該操作後出力音が出力されているなかで特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である音」として出力されることを好適に示唆することができるようになる。

【４２９２】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４２９３】

また、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が複数回発生するときの間隔は、不定の時間であるが、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音（第

１Ａ受付後出力音）が複数回発生するときの間隔である所定時間（一定の時間）よりも短い間隔で発生することはなく、該所定時間よりも長い間隔でのみ発生するようにした。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）は、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）とは異なり、オート連打機能によって出力が繰り返されるときの間隔が不定とされ、且つその間隔に要する時間（最短時間）も長くされているから、オート連打機能が有効化されている状況下にあるのかが認識し難くされることとなり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２９４】

また、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに当該第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）内で操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）を複数回発生させることのできる回数は、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに当該第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）内で操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにした。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、オート連打機能が有効化されている状況下にあるのかがより一層認識し難くされることとなり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２９５】

また、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持することによって操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数は、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音を複数回発生させることができる上限回数よりも少なくなるように設定した。このような構成によれば、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）としての演出にかかる性質が、いわゆるオート連打機能が有効化されない第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）により近づくようになり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４２９６】

また、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持することによって操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数は、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数と同じか、または該上限回数よりも多くなるように設定した。

【４２９７】

なお、第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、操作後出力音が「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力されることはない。

【４２９８】

また、当該第１２構成Ａ１２では、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を

想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４２９９】

また、当該第１２構成Ａ１２を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４３００】

また例えば、第１３構成Ａ１３として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされ、且つ該操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力されうるようにし（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）は複数回発生可能とされず、該操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力されうるようにし（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間以下の時間とされ、且つ該操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）は「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力されうるようにした（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３０１】

このような構成によれば、まず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされないときには、操作後出力音が「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定であ

る音）」として出力されることは示唆されるようになる。この点、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされるときには、操作後出力音が、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」として出力される場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音が出力されてから新たに出力されるまでの間隔が特定時間よりも長いか否かを通じて、操作後出力音がいずれの性質を有した音として出力されるのかを示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４３０２】

また、当該第１３構成Ａ１３では、特に、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音は、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力される場合と（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」として出力される場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにした。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３０３】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４３０４】

また、当該第１３構成Ａ１３では、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が複数回発生するときの間隔は、不定の時間であり、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに操作後出力音が複数回発生するときの間隔は一定の時間であるようにした。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）は、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）とは異なり、オート連打機能によって出力が繰り返

されるときの間隔が不定とされ、且つその間隔に要する時間（最短時間）も長くされているから、オート連打機能が有効化されている状況下にあるのかが認識し難くされることとなり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４３０５】

また、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに当該第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）内で操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）を複数回発生させることのできる回数は、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときに当該第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）内で操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにした。すなわちこの場合、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、オート連打機能が有効化されている状況下にあるのかがより一層認識し難くされることとなり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４３０６】

また、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持することによって操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数は、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音を複数回発生させることができる上限回数よりも少なくなるように設定した。このような構成によれば、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）としての演出にかかる性質が、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）により近づくようになり、第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）と第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）とのいずれが発生しているのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４３０７】

また、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持することによって操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数は、特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を複数回発生させることができる上限回数と同じか、または該上限回数よりも多くなるように設定した。

【４３０８】

なお、第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）や、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、操作後出力音が「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」として出力されることはない。

【４３０９】

また、当該第１３構成Ａ１３では、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４３１０】

また、当該第１３構成Ａ１３を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記

第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４３１１】

また例えば、第１４構成Ａ１４として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）と、を備えるとした場合、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力されるのに対し（図１５２に示される第３Ａ受付後出力音、図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されると、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間である音（一定の時間として処理される音）」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、上記操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（一定の時間として処理されずに不定である音）」が出力される場合（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音は、該非操作状態に上記第１操作手段（操作ボタン４１０）がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３１２】

このような構成によれば、上記終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてすぐの状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することが可能であるのに対し、上記終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしたときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる

場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３１３】

また上述の通り、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）のうち、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、１つの有効期間でありながら、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力されうる場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしたから、特殊の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了されるとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３１４】

なお、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）のうち、特別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、操作後出力音として「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間として処理される音」が出力される場合がなく、「当該操作後出力音が出力されているなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になった場合、該非操作状態に上記特定操作手段がなったタイミングから当該操作後出力音が非可聴の状態にされるまでの時間が一定の時間でない音（不定の時間である音）」が出力される場合しかない。

【４３１５】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４３１６】

また、当該第１４構成Ａ１４では、複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生するが、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操

作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）は、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでそれに応じた操作後出力音が複数回発生する複数回操作有効状態」として発生する場合と、「特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけではそれに応じた操作後出力音が複数回発生しない複数回操作有効状態」として発生する場合との両方があるようにしたから、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態では、オート連打機能が有効化されるか否かを認識し難くすることが期待されうる。

【４３１７】

また、当該第１４構成Ａ１４では、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第２Ａ受付許容状態）では、上記メッセージ表示ＭＡが必ず表示されるが（メッセージ表示ＭＡ１，ＭＡ２）、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該操作有効状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態、第４Ａ受付許容状態）では、上記メッセージ表示ＭＡが表示される場合（第４Ａ受付許容状態）と、上記メッセージ表示ＭＡが表示されない場合（第３Ａ受付許容状態）とがあるようにしたから、メッセージ表示ＭＡが表示されたときには、複数回操作有効状態が上記いずれの種別として発生しているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４３１８】

また、当該第１４構成Ａ１４については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４３１９】

また、当該第１４構成Ａ１４にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４３２０】

また、当該第１４構成Ａ１４を実現する上では、第３Ａ受付許容状態及び第４Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４３２１】

また例えば、第１５構成Ａ１５として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）を用意することとし、第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況（例えば、図１４６のタイミングｔＡａ２－Ｂ３～ｔＡａ２－Ｃ１の期間や、図１４９のタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされており、上記第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下においては、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）として、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときにこれを契機としてその出力状態に変化（終了）を生じさせうる音（図１４６（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ１（タイミングｔＡａ２－Ｃ１））とその出力状態に変化を生じさせない音（図１４６（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ１）とのいずれもが出力状態になっている場合があるが、上記特定操作手段が操作状態にあり且つ上記

操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）として出力されている音の種別にかかわらずその出力状態はこれを契機として変化しないようにするのに対し（例えば、図１４６（ｇ），（ｈ）のタイミングｔＡａ２－Ａ２，タイミングｔＡａ２－Ｂ３などを参照）、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下においては、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときに（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ－Ｃ１などを参照）これを契機としてその出力状態に変化を生じさせない音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるが（出力状態に変化を生じさせうる音が上記操作後出力音として出力されていることはないが）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と変化されない場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにした（例えば、タイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）。

【４３２２】

このような構成によれば、第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にしたとしても、それまで出力状態にあった操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）にはこれを契機とした変化（終了）が生じないから、気軽な気持ちで操作の中断を行うようになることが期待されるものの、非操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）に変化（終了）が生じる場合と、変化（終了）が生じない場合との両方があるようにされているから、再操作することを促すようにしつつも、操作後出力音に変化が生じる可能性もあるようにしたことで再操作することに対する緊張感についてもこれを好適に提供することが期待されうる。これに対し、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化が生じる場合と、変化（終了）が生じない場合との両方があるようにされているから、操作の中断を促すようにしつつも、操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化が生じる可能性もあることによって操作を中断することに対する緊張感が好適に提供されるようになる一方で、非操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化（終了）が生じることがないようにされているから、気軽な気持ちで再操作を行うようになることが期待されうる。

【４３２３】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、それまで表示状態にあった操作後表示（連打中表示ＨＡ２）を変化（終了）させるが、この際、操作後表示とは異なる表示（非操作後表示ＨＢ２）を出現させることとしたから（図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）、操作の中断をより積極的に促すことができるようになる。

【４３２４】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、上記非操作後表示ＨＢ２が表示されるが、この際、該非操作後表示ＨＢ２に対応する演出音についてはこれを新たに出力しないようにしたから、非操作後表示ＨＢ２が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示

されたものであることを示唆することができるようになる。
【４３２５】
　また、当該第１５構成Ａ１５では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４３２６】
　また、当該第１５構成Ａ１５では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４３２７】
　また、当該第１５構成Ａ１５の第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４３２８】
　また、当該第１５構成Ａ１５の第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４３２９】
　また、当該第１５構成Ａ１５については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。
【４３３０】
　また、当該第１５構成Ａ１５にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４３３１】
　また、当該第１５構成Ａ１５を実現する上では、第３Ａ受付許容状態を、第１Ａ受付許容状態に代えて、第１複数回操作有効状態として備えるようにしてもよい。若しくは、第１Ａ受付許容状態と第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。
【４３３２】
　また例えば、第１６構成Ａ１６として、摸画像表示の対象である操作手段に対して操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態（図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）を用意することとし、上記第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）は、操作手段のうち第１操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第１側操作後出力音（図１５８に示される第５Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されていない非操作状態にある状況（例えば、図１５８に示されるタイミングｔＡｅ２－Ｂ２～ｔＡｅ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされるものであり、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、上記操作手段のうち第２操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第２側操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にある状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされる。
【４３３３】
　この点、当該第１６構成Ａ１６では、第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）のうち、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下においては、上記第１側操作後出力音として、上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときに（例えば、タイミングｔＡｅ－Ｃ１が到来したときに）これを契機としてその出力状態に変化（終了）を生じさせる音（図１５８（ｇ），（ｈ）に示される第５Ａ受付後出力音）のみが出力されている場合があるが（出力状態にある音に変化を生じさせる処理が可能とされるが）、上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になった場合は、上記第１側操作後出力音（刀装飾体５００１）の出力状態はこれを契機として変化しない（出力状態にある音に変化を生じさせる処理が可能とされない）ようにした（例えば、図１５８（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｅ２－Ａ２を参照）。
【４３３４】
　このような構成によれば、第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態にしたとしても、それまで出力状態にあった操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）にはこれを契機とした変化（終了）が生じないから、気軽な気持ちで操作の中断を行うようになることが期待されるものの、非操作状態にある上記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）に変化（終了）が生じ

る場合があるようにされているから、再操作するときの緊張感についてはこれを好適に提供することが期待されうる。

【４３３５】

また、当該第１６構成Ａ１６では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）のうち、第２操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下においては、上記第２側操作後出力音として、上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときに（例えば、タイミングｔＡｂ－Ｃ１が到来したときに）これを契機としてその出力状態に変化（終了）を生じさせない音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）のみが出力されているが（出力状態に変化を生じさせうる音が上記第２側操作後出力音とし出力されていることはない）、上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として出力されている音の種別に応じて変化（終了）される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と変化（終了）されない場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにしてもよい。

【４３３６】

このような構成によれば、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作の中断を促すようにしつつも、操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化（終了）が生じる可能性もあることによって操作を中断することに対する緊張感が好適に提供されるようになる一方で、非操作状態にある上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にするときには、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）に変化（終了）が生じることがないようにされているから、気軽な気持ちで再操作を行うようになることが期待されうる。

【４３３７】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、それまで表示状態にあった操作後表示（連打中表示ＨＡ２）を変化（終了）させるが、この際、操作後表示とは異なる表示（非操作後表示ＨＢ２）を出現させることとしたから（図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）、操作の中断をより積極的に促すことができるようになる。

【４３３８】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、上記非操作後表示ＨＢ２が表示されるが、この際、該非操作後表示ＨＢ２に対応する演出音についてはこれを新たに出力しないようにしたから、非操作後表示ＨＢ２が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４３３９】

また、当該第１６構成Ａ１６では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３４０】
　また、当該第１６構成Ａ１６にかかる第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４３４１】
　また、当該第１６構成Ａ１６の第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４３４２】
　また例えば、第１７構成Ａ１７として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）を用意することとし、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうるものであるが、第１複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了される場合のないものとした。そしてこの上で、上記第１複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化（終了）しうるが（図１５２（ｇ）のタイミングｔＡｃ２－Ｃ１に示される第１の受付後出力音ＳＡ３）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第３Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合は、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化（終了）しないようにするのに対し（例えば、図１５２（ｇ），（ｈ）のタイミングｔＡｃ２－Ｂ３に示される第１の受付後出力音ＳＡ３、第２の受付後出力音ＳＢ３などを参照）、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力

状態にある状況下においては、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態に仮になったとしたときに（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ－Ｃ１などを参照）これを契機としてその出力状態に変化（終了）を生じさせない音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるが（出力状態に変化（終了）を生じさせうる音が上記操作後出力音として出力されていることはないが）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合は、これを契機として、上記操作後出力音として出力されている音の種別に応じて変化（終了）される場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と変化されない場合（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）との両方があるようにした（例えば、タイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）。

【４３４３】

このような構成によれば、遊技者による操作を契機として終了されることがない「第１複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）」が発生している場合には、非操作状態にある上記特定操作手段を操作状態にすることをより積極的に促すことができるようになる。また、遊技者による操作を契機として終了されうる「第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）」が発生している場合には、操作状態にある上記特定操作手段を非操作状態にすることをより積極的に促すようにしつつも、非操作状態を契機として変化（終了）を生じさせない音が出力されている可能性もあることから、緊張感についても好適に維持することが期待されうる。

【４３４４】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、それまで表示状態にあった操作後表示（連打中表示ＨＡ２）を変化（終了）させるが、この際、操作後表示とは異なる表示（非操作後表示ＨＢ２）を出現させることとしたから（図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）、操作の中断をより積極的に促すことができるようになる。

【４３４５】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、上記非操作後表示ＨＢ２が表示されるが、この際、該非操作後表示ＨＢ２に対応する演出音についてはこれを新たに出力しないようにしたから、非操作後表示ＨＢ２が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４３４６】

また、当該第１７構成Ａ１７では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３４７】

また、当該第１７構成Ａ１７では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が

操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３４８】

また、当該第１７構成Ａ１７の第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４３４９】

また、当該第１７構成Ａ１７の第１複数回操作有効状態（第３Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ３の出力条件が満たされた場合（図１５２に示されるタイミングｔＡｃ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ３は、該タイミングｔＡｃ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｃ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｃ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４３５０】

また、当該第１７構成Ａ１７については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４３５１】

また、当該第１７構成Ａ１７にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４３５２】

また例えば、第１８構成Ａ１８として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）を用意することとし、第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音、図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況（例えば、図１４６のタイミングｔＡａ２－Ｂ３～ｔＡａ２－Ｃ１の期間や、図１４９のタイミングｔ

Ａｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされており、上記第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある操作後出力音の種別に応じて一定の場合（図１４６（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ１）と不定の場合（図１４６（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ１）とがあるが（図１４６（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１を参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合、非操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるようにするのに対し（図１４６（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ３を参照）、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるが（図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１を参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある操作後出力音の種別に応じて一定の場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と不定の場合（図１４９（ｈ）に示される第１の受付後出力音ＳＢ２）とがあるようにした（図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ３を参照）。上述した例では、一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３５３】

このような構成によれば、第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、特定操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３５４】

また、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかを推測困難であること、例えば、上記特定操作手段を非操作状態から操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。これに対し、特定操作手段を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音が、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記特定操作手段を非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずし

も一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３５５】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、それまで表示状態にあった操作後表示（連打中表示ＨＡ２）を変化（終了）させるが、この際、操作後表示とは異なる表示（非操作後表示ＨＢ２）を出現させることとしたから（図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）、操作の中断をより積極的に促すことができるようになる。

【４３５６】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、上記非操作後表示ＨＢ２が表示されるが、この際、該非操作後表示ＨＢ２に対応する演出音についてはこれを新たに出力しないようにしたから、非操作後表示ＨＢ２が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４３５７】

また、当該第１８構成Ａ１８では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間で出力状態が終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間で出力状態が終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３５８】

また、当該第１８構成Ａ１８では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３５９】

また、当該第１８構成Ａ１８の第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないよう

にしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４３６０】

また、当該第１８構成Ａ１８の第１複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４３６１】

また、当該第１８構成Ａ１８については、特定操作手段を、「摸画像表示の対象とされ且つ操作受付が複数回許容される操作手段」として実現するようにしてもよい。

【４３６２】

また、当該第１８構成Ａ１８にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４３６３】

また、当該第１８構成Ａ１８を実現する上では、第３Ａ受付許容状態を、第１Ａ受付許容状態に代えて、第１複数回操作有効状態として備えるようにしてもよい。若しくは、第１Ａ受付許容状態と第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４３６４】

また例えば、第１９構成Ａ１９として、摸画像表示の対象である操作手段に対して操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、互いに発生条件が異なる第１複数回操作有効状態（図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）及び第２複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）を用意することとし、上記第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）は、操作手段のうち第１操作手段（刀装飾体５００１）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第１側操作後出力音（図１５８に示される第５Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されていない非操作状態にある状況（例えば、図１５８に示されるタイミングｔＡｅ２－Ｂ２～ｔＡｅ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされるものであり、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、上記操作手段のうち第２操作手段（操作ボタン４１０）を摸した摸画像表示が少なくとも表示される操作有効状態として発生するものであり、該第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されている操作状態になったことの検出に応じた第２側操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にある状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１の期間など）を出現させるように遊技することが可能とされる。

【４３６５】

この点、当該第１９構成Ａ１９では、第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）のうち、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあり且つ上記第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記

第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるが、上記第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態である状況下にあるなかで上記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記第１側操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定である（一定の時間として処理されない）ようにした（例えば、図１５８（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｅ２－Ａ２を参照）。上述した例では、一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３６６】

このような構成によれば、上記第１複数回操作有効状態（第５Ａ受付許容状態）では、第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）は、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされ、例えば、上記第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から操作状態にして間もない状況下でも注目すべき演出性があることを好適に示唆するのに対し、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音（第５Ａ受付後出力音）は、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測困難であること、例えば、上記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるようになる。

【４３６７】

また、当該第１９構成Ａ１９では、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）のうち、上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態である状況下にあるなかで上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるが、上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にあり且つ上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態である状況下にあるなかで上記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってから上記第２側操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は当該出力状態にある第２側操作後出力音の種別に応じて一定の場合（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と不定の場合（図１４９（ｈ）に示される第１の受付後出力音ＳＢ２）とがあるようにした。

【４３６８】

このような構成によれば、上記第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から操作状態にするときに出力状態にある操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）は、該操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測困難であること、例えば、上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から操作状態にして間もない状況下では注目すべき演出性が低いことを好適に示唆することができるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にするときには、出力状態にある操作後出力音（操作ボタン４１０）は、該非操作状態になってからどれだけの時間経過で終了されるのかが推測可能とされる場合と、推測困難とされる場合との両方があるようにされるから、例えば、上記第２操作手段を非操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、非操作状態にされてから必ずしも一定の時間経過で出力状態にある操作後出力音が終了するとは限らないようになり、非操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３６９】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、それまで表示状態にあった操作後表示（連打中表示ＨＡ２）を終了させるが、この際、操作後表

示とは異なる表示（非操作後表示ＨＢ２）を出現させることとしたから（図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）、操作の中断をより積極的に促すことができるようになる。

【４３７０】

また、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作状態にある上記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にするときには、これを契機として、上記非操作後表示ＨＢ２が表示されるが、この際、該非操作後表示ＨＢ２に対応する演出音についてはこれを新たに出力しないようにしたから、非操作後表示ＨＢ２が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４３７１】

また、当該第１９構成Ａ１９では、第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間でその出力状態が終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間でその出力状態が終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３７２】

また、当該第１９構成Ａ１９にかかる第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間ではなく不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってから一定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３７３】

また、当該第１９構成Ａ１９の第２複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４３７４】

また例えば、第２０構成Ａ２０として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操

作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は（一定の時間として処理されずに）不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようになっており、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにする。そしてこの上で、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されることがないのに対し（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにし（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。

【４３７５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合と、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、上記操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化（終了）されうるようになっているから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態））にはないこと、すなわちオート連打機能の有効

化対象になっている状況下にあることを認識できるようにしたから、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であるのか」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【４３７６】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。すなわちこの場合、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）は、その後に再操作が行われたとしてもその時点で出力状態になっていることはなくなるようになり、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）のみが、再操作が行われる時点で、該再操作によって変化（終了）されない音として出力状態にされうるようにすることが可能とされる。

【４３７７】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を維持せずこれを契機として出力状態を変化（終了）させる種別の操作後出力音は用意されず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を変化（終了）させない種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４３７８】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４３７９】

なお、当該第２０構成Ａ２０では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４３８０】

また、当該第２０構成Ａ２０を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４３８１】

また例えば、第２１構成Ａ２１として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていな

い非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は（一定の時間として処理されずに）不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにする。そしてこの上で、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されないようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、これを契機として、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）として出力されている音の種別に応じて変化される場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）と変化されない場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４３８２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されない第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）しないから、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされることとも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化（終了）させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４３８３】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４３８４】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。

【４３８５】

また、当該第２１構成Ａ２１の第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４３８６】

また、当該第２１構成Ａ２１の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４３８７】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４３８８】

なお、当該第２１構成Ａ２１では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４３８９】

また、当該第２１構成Ａ２１にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４３９０】
　また、当該第２１構成Ａ２１を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。
【４３９１】
　また例えば、第２２構成Ａ２２として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は（一定の時間として処理されずに）不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようになっており、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにする。そしてこの上で、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるのに対し（例えば、図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間でなく一定の時間として処理可能であり（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。上述した例では、操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３９２】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合と、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が一定であるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態））にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であるのか」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。
【４３９３】
また、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）においては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力された場合、当該操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が不定として処理される場合（例えば、図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）と、その出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理される場合（例えば、図１４９（ｇ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４３９４】
なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が不定である種別の操作後出力音は用意されず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理されうる種別の操作後出力音のみが用意されている。
【４３９５】
また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。
【４３９６】
なお、当該第２２構成Ａ２２では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４３９７】

また、当該第２２構成Ａ２２を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４３９８】

また例えば、第２３構成Ａ２３として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は（一定の時間として処理されずに）不定の時間にされており、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるが、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能とされるようにする。そしてこの上で、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間である場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）と一定の時間である場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とがあるようにした。上述した例では、操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４３９９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されない第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされることとも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎に有効化される第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４４００】
　また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）と、その出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間（上述した例では０秒）として処理される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）との両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。
【４４０１】
　また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間（上述した例では０秒）で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間では終了されず不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間では終了されず不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間（上述した例では０秒）で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。
【４４０２】
　また、当該第２３構成Ａ２３の第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４４０３】
　また、当該第２３構成Ａ２３の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。
【４４０４】
　また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４０５】
なお、当該第２３構成Ａ２３では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４４０６】
また、当該第２３構成Ａ２３にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４４０７】
また、当該第２３構成Ａ２３を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。
【４４０８】
また例えば、第２４構成Ａ２４として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を不定の時間とするように処理可能な不定変化複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を一定の時間とするように処理可能な一定変化複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とが用意されており、上記不定変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生するのに対し、上記一定変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態として発生する場合（第３Ａ受付許容状態）と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生する場合（第３Ａ受付許容状態）との両方があるようにした。
【４４０９】
このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる場合には、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる場合には、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了され得ない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【４４１０】
不定変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるように処理されることはなく、不定の時間とされるようにのみ処理されるが、一定変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受

付許容状態）では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理が少なくとも実行されるものであればよく、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理（第１の受付後出力音）と、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる処理（第２の受付後出力音）との両方が実行されるものであってもよい。

【４４１１】

不定変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、当該操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときにその出力状態を維持する場合（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、その出力状態を維持せずこれを契機としてその出力状態を終了する場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４１２】

一定変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときにこれを契機としてその出力状態を終了する場合がないから、操作の中断をしやすくなる。

【４４１３】

また、不定変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、メッセージ表示が表示されない場合がなく、メッセージ表示が必ず表示されるが、一定変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、メッセージ表示が表示されている場合と、メッセージ表示が表示されていない場合との両方があるようにしたから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４４１４】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４１５】

なお、当該第２４構成Ａ２４では、一定変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）と不定変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４４１６】

また、当該第２４構成Ａ２４にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４１７】

また例えば、第２５構成Ａ２５として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操

作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされるものであり、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようになっており、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず前記特定時間以下の時間とされるようにする。そしてこの上で、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されることがないのに対し（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず上記特定時間以下の時間とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにし（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。

【４４１８】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合と、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作を契機として出力状態にあった操作後出力音が変化（終了）されるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態））にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であること」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【４４１９】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操

作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。すなわちこの場合、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）は、その後に再操作が行われたとしてもその時点で出力状態になっていることはなくなるようになり、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）のみが、再操作が行われる時点で、該再操作によって変化（終了）されない音として出力状態にされうるようにすることが可能とされる。

【４４２０】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を維持せずこれを契機として出力状態を変化（終了）させる種別の操作後出力音は用意されず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を変化（終了）させない種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４４２１】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４２２】

なお、当該第２５構成Ａ２５では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４４２３】

また、当該第２５構成Ａ２５を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４４２４】

また例えば、第２６構成Ａ２６として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手

段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず上記特定時間以下の時間とするものとされるようにする。そしてこの上で、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されないようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず上記特定時間以下の時間とされる上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、これを契機として、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）として出力されている音の種別に応じて変化される場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）と変化されない場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４４２５】

このような構成によれば、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも必ず長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能によって新たな操作後出力が開始されない第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）しないから、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも必ず長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化（機能）されないこととも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化（機能）されて新たな操作後出力が開始される第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化（終了）させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４４２６】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４２７】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、操作ボタ

ン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。

【４４２８】

また、当該第２６構成Ａ２６の第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４４２９】

また、当該第２６構成Ａ２６の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４４３０】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４３１】

なお、当該第２６構成Ａ２６では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４４３２】

また、当該第２６構成Ａ２６にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４３３】

また、当該第２６構成Ａ２６を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付

許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４４３４】

また例えば、第２７構成Ａ２７として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようになっており、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず前記特定時間以下の時間とするものとした。そしてこの上で、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるのに対し（例えば、図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が必ず前記特定時間以下の時間とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間でなく一定の時間として処理可能であり（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。上述した例では、操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４４３５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合と、いわゆるオ

ート連打機能が一定間隔毎に有効化（機能）される上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）で遊技者による再操作が行われた場合とでは、いずれも、遊技者による再操作が行われてから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が一定であるから、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記操作後出力音が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段の再操作を行うようにすれば、いわゆるオート連打機能が有効化されない状況下（第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態））にはないこと、すなわちオート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを認識できるから、いわゆるオート連打機能が一定間隔毎には有効化されないことによって「オート連打機能の有効化対象であるのか」を認識し難くするようにしつつも、当該構成を有することによる遊技興趣の低下が抑制されうるようになる。

【４４３６】

また、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が特定時間よりも必ず長い時間とされる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）においては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力された場合、当該操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が不定として処理される場合（例えば、図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）と、その出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理される場合（例えば、図１４９（ｇ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３などを参照）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４３７】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が不定である種別の操作後出力音は用意されず、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理されうる種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４４３８】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４３９】

なお、当該第２７構成Ａ２７では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも「特定操作手段」として同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４４４０】

また、当該第２７構成Ａ２７を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付

許容状態を上記第３複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。

【４４４１】

また例えば、第２８構成Ａ２８として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を特定時間よりも必ず長い時間とするものであり、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔を必ず前記特定時間以下の時間とするものとするようにする。そしてこの上で、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間である場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）と一定の時間である場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とがあるようにした。上述した例では、操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４４４２】

このような構成によれば、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、上記操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされることとも相まって、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるよう

になる。

【４４４３】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）と、その出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間（上述した例では０秒）として処理される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）との両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。

【４４４４】

また、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間（上述した例では０秒）で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間では終了されず不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間では終了されず不定の時間で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になってから一定の時間（上述した例では０秒）で終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。

【４４４５】

また、当該第２８構成Ａ２８の第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４４４６】

また、当該第２８構成Ａ２８の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４４４７】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは

言うまでもない。
【４４４８】
なお、当該第２８構成Ａ２８では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４４４９】
また、当該第２８構成Ａ２８にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４４５０】
また、当該第２８構成Ａ２８を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態ではなく、上記第３Ａ受付許容状態を備えることとし、該第３Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。若しくは、複数回操作有効状態として、上記第１Ａ受付許容状態と上記第３Ａ受付許容状態との両方を備えるようにしてもよい。
【４４５１】
また例えば、第２９構成Ａ２９として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は特定時間よりも必ず長い時間とされる長変化複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は必ず上記特定時間以下の時間とされる短変化複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）とが用意されており、上記長変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生するのに対し、上記短変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）は、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態として発生する場合（第３Ａ受付許容状態）と、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことに基づいて当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態として発生する場合（第３Ａ受付許容状態）との両方があるようにした。
【４４５２】
このような構成によれば、オート連打機能の有効化対象ではあるものの、前回の操作後出力が開始されてから特定時間よりも長い時間が経過しなければいわゆるオート連打機能が有効化されない場合には、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、前回の操作後出力が開始されてから特定時間以下の時間が経過するだけでいわゆるオート連打機能が有効化されて新たな操作後出力が開始される場合には、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了され得ない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【４４５３】
長変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるように処理されることはなく、不定の時間とされるよ

うにのみ処理されるが、短変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理が少なくとも実行されるものであればよく、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされる処理（第１の受付後出力音）と、操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が不定の時間とされる処理（第２の受付後出力音）との両方が実行されるものであってもよい。

【４４５４】

長変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されてこれに応じた操作後出力音が出力された場合、当該操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときにその出力状態を維持する場合（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、その出力状態を維持せずこれを契機としてその出力状態を終了する場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか変化（終了）が生じないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４５５】

短変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、操作後出力音は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときにこれを契機としてその出力状態を終了する場合がないから、操作の中断をしやすくなる。

【４４５６】

また、長変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、メッセージ表示が表示されない場合がなく、メッセージ表示が必ず表示されるが、短変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）においては、メッセージ表示が表示されている場合と、メッセージ表示が表示されていない場合との両方があるようにしたから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４４５７】

また、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４５８】

なお、当該第２９構成Ａ２９では、短変化複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）と長変化複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４４５９】

また、当該第２９構成Ａ２９にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４６０】

また例えば、第３０構成Ａ３０として、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を

出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにし、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようにし、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにする。そしてこの上で、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されることがないのに対し（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにし（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、上記操作後出力音の出力状態はこれを契機として変化（終了）されうるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。

【４４６１】

このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）については、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）の場合とは異なり（図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１を参照）、該操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化しないようにしたから（図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１を参照）、このような再操作時における変化の有無を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。また、摸画像表示の対象である操作手段

に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）については、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、該操作後出力音の出力状態がこれを契機として変化しうるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも（図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１を参照）、摸画像表示の周期的変化が、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）の場合とは異なり、上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされるようにしたから、このような摸画像表示の周期的変化の長短を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【４４６２】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。すなわちこの場合、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）は、その後に再操作が行われたとしてもその時点では既に非出力の状態になっており、すなわち出力状態になっていることはなくなるようになり、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）のみが、再操作が行われる時点で、該再操作によって変化（終了）されない音として出力状態にされうるようにすることが可能とされる。

【４４６３】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を維持せずこれを契機として出力状態を変化（終了）させる種別の操作後出力音は用意されず、該操作手段が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を変化（終了）させない種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４４６４】

また、当該第３０構成Ａ３０では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか非操作状態になったことを契機として終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４６５】

また、当該第３０構成Ａ３０にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、該操作手段が操作状態から非操作状態になったこ

とを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４６６】

また、当該第３０構成Ａ３０にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４４６７】

また、当該第３０構成Ａ３０にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４６８】

また、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４６９】

なお、当該第３０構成Ａ３０では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも同じ操作手段とする場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、当該第３０構成Ａ３０を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第４Ａ受付許容状態ではなく、上記第５Ａ受付許容状態（図１５８～図１６０を参照）を備えることとし、該第５Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。

【４４７０】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされ、且ついわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態、または第５Ａ受付許容状態）では、該第２複数回操作有効状態に対応する操作後出力音として特定種別の出力音を用意するようにしてもよい。そして、当該特定種別の出力音は、一の種別でありながら、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態から操作状態になったことを契機として出力状態が変化（終了）する場合と、出力状態が変化（終了）しない場合との両方があるようにしてもよい。なおこの場合、このような出力状態の変化（終了）にかかる有無については、操作受付に応じた判定（演出判定）に基づいて決定されるようにしてもよいし、操作受付がなされた回数に基づいて決定される

ようにしてもよいし、受付後表示として現れる表示態様の種別に応じて定められるものであってもよい。

【４４７１】

また例えば、第３１構成Ａ３１として、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにし、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにする。そしてこの上で、上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）されないようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったときは、これを契機として、上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）として出力されている音の種別に応じて、その出力状態が変化（終了）される場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）と変化（終了）されない場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４４７２】

このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態はこれを契機として変化（終了）しないから、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を、再び操作状態にされたことを契機として必ずしも変化（終了）させないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４４７３】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図

１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。すなわちこの場合、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）される操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）は、その後に再操作が行われたとしてもその時点で出力状態になっていることはなくなるようになり、非操作状態になったことの検出を契機として出力状態が変化（終了）されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）のみが、再操作が行われる時点で、該再操作によって変化（終了）されない音として出力状態にされうるようにすることが可能とされる。

【４４７４】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を維持せずこれを契機として出力状態を変化（終了）させる種別の操作後出力音は用意されず、該操作手段が操作状態から非操作状態になったときに出力状態を変化（終了）させない種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４４７５】

また、当該第３１構成Ａ３１では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか非操作状態になったことを契機としてその出力状態が変化（終了）されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４７６】

また、当該第３１構成Ａ３１にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、該操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４７７】

また、当該第３１構成Ａ３１にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミ

ングｔＡｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４４７８】

また、当該第３１構成Ａ３１の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２－Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４４７９】

また、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４８０】

また、当該第３１構成Ａ３１にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４８１】

なお、当該第３１構成Ａ３１では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。

【４４８２】

また例えば、第３２構成Ａ３２として、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）、及び第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにし、上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされるが該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは上記検出に応じた操作後出力音（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされないようにし、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される

第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにした。そしてこの上で、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされる上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定であるのに対し（例えば、図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされる上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）においては、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は不定の時間でなく一定の時間として処理可能であり（例えば、図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１などを参照）、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた上記操作後出力音が複数回発生可能とされない上記第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）においては、該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理可能であるようにした（例えば、図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１などを参照）。上述した例では、操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４４８３】

このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）については、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）の場合とは異なり（図１５５（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｄ２－Ｃ１を参照）、該再操作から上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は一定の時間として処理されず不定の時間であるようにしたから（図１４９（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１を参照）、このような再操作時における処理態様を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。また、摸画像表示の対象である操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化される複数回操作有効状態のうち、上記第３複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）については、操作後出力音が出力状態にあるなかで再操作を行った場合には、該再操作から上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理可能とされるようになっている点で、いわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）と同じ構成とすることで、オート連打機能の対象であるかを認識し難くして緊張感を維持するようにしつつも（図１４６（ｇ）に示されるタイミングｔＡａ２－Ｃ１を参照）、摸画像表示の周期的変化が、第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態）の場合とは異なり、上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされるようにしたから、このような摸画像表示の周期的変化の長短を通じて、オート連打機能の有効化対象になっている状況下にあることを

好適に示唆して遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。
【４４８４】
　また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理される種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理されずに不定である種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。上述した例では、非操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。
【４４８５】
　なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）や、第３複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になった場合、該非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理される種別の操作後出力音は用意されず、該操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない種別の操作後出力音のみが用意されている。
【４４８６】
　また、当該第３２構成Ａ３２では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４４８７】
　また、当該第３２構成Ａ３２にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、該操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４４８８】

また、当該第３２構成Ａ３２にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４４８９】

また、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化（終了）にかかる処理が実行されるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化（終了）にかかる処理が実行されるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４４９０】

なお、当該第３２構成Ａ３２では、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されないときの操作手段と、複数回操作有効状態においていわゆるオート連打機能が有効化されるときの操作手段とを、いずれも同じ操作手段とする場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。また、第１複数回操作有効状態、第２複数回操作有効状態、及び第３複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、当該第３２構成Ａ３２を実現する上では、上記複数回操作有効状態として、上記第４Ａ受付許容状態ではなく、上記第５Ａ受付許容状態（図１５８～図１６０を参照）を備えることとし、該第５Ａ受付許容状態を上記第２複数回操作有効状態として実現するようにしてもよい。

【４４９１】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされ、且ついわゆるオート連打機能が有効化されない第２複数回操作有効状態（第４Ａ受付許容状態、または第５Ａ受付許容状態）では、該第２複数回操作有効状態に対応する操作後出力音として特定種別の出力音を用意するようにしてもよい。そして、当該特定種別の出力音は、一の種別でありながら、摸画像表示の対象である操作手段が非操作状態から操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理される場合と、その出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない場合との両方があるようにしてもよい。なおこの場合、このような出力状態の変化（終了）にかかる処理の実行有無については、操作受付に応じた判定（演出判定）に基づいて決定されるようにしてもよいし、操作受付がなされた回数に基づいて決定されるようにしてもよいし、受付後表示として現れる表示態様の種別に応じて定められるものであってもよい。

【４４９２】

また例えば、第３３構成Ａ３３として、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態として、第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）を用意することとし、それら複数回操作有効状態においてはいずれも、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作されていない非操作状態にあり且つ上記操作後出力音が出力状態にある状況を出現させるように遊技することが可能とされるようにし、上記第１複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４９に示される第２Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにし、上記第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされるようにする。そしてこの上で、上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４

１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間は（一定の時間として処理されずに）不定であるようになっており（例えば、図１４９（ｇ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１などを参照）、上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示可能とされて該摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり且つ上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が出力状態にある状況下にあるなかで該操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になった場合、該操作状態になってから上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）の出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間として処理される場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）と、該時間が一定の時間として処理されず不定の時間とされる場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４４９３】

このような構成によれば、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される上記第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象である操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたとしても、該操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの時間が不定であるから、遊技者による操作が適正に受付けされているのかを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待される。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される上記第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、例えば、上記操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしてからの演出性には注目すべき価値がある可能性を示唆するようにしつつも、出力状態にある操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）を、再び操作状態にされてから必ずしも一定の時間で終了されないようにしたことで、再び操作状態にするときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【４４９４】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合と、非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）を出力させる場合との両方があるようにした。

【４４９５】

なお、上述の演出例では、第２複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音としては、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音は用意されず、該操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない種別の操作後出力音のみが用意されている。

【４４９６】

また、当該第３３構成Ａ３３では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）に対応する操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）として、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）と、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間とな

るように処理されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）とが用意されており、それらの操作後出力音の両方が出力状態にある状況が出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作を中断する場合、それまで出力状態にあった操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）の一部だけしか一定の時間で終了されないようになるから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４９７】

また、当該第３３構成Ａ３３にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、該操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４４９８】

また、当該第３３構成Ａ３３にかかる第１複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４４９９】

また、当該第３３構成Ａ３３の第２複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態）では、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４５００】

また、摸画像表示の対象にされる操作手段（操作ボタン４１０）を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに

変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４５０１】

また、当該第３３構成Ａ３３にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４５０２】

なお、当該第３３構成Ａ３３では、第１複数回操作有効状態と第２複数回操作有効状態とで操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。

【４５０３】

また例えば、第３４構成Ａ３４として、摸画像表示の対象である操作手段に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、該摸画像表示の対象である操作手段を操作状態に維持するだけで、上記操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回出力可能とされて、且つ該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が複数回出力可能とされるのに対し、複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態、図１５８に示される第５Ａ受付許容状態など）では、該摸画像表示の対象である操作手段を操作状態に維持した場合、上記操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が複数回出力可能とされるが、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が一定の時間となるようには処理されず不定の時間とされるかたちで上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が複数回出力可能とされる場合（第２Ａ受付許容状態）と、該操作状態に維持されるだけでは上記操作後出力音（第４Ａ受付後出力音、第５Ａ受付後出力音）が複数回出力可能とされない場合（第４Ａ受付許容状態、第５Ａ受付許容状態）との両方があるようにした。

【４５０４】

このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを好適に示唆することができることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されるときには一定の時間毎に受付後出力音が出力されるようになっていることから、いわゆるオート連打機能が有効化されている実感も覚えやすくなっており遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象である場合と、有効化される対象でない場合との両方があることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されたとしても不定の時間毎にしか受付後出力音が出力されず該オート連打機能が有効化されている実感も認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４５０５】

また、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけでは複数回出力されない上記操作後出力音が出力されているなかで、操作状態にある操作手段を非操作状態にした場合は、該非操作状態になってからそれまで出力状態にあった操作後出力音が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理される場合はなく必ず不定の時間とされるようにした（図１５５に示される第４Ａ受付後出力音、図１５８に示される第５Ａ受付後出力音）。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持され、これによって上記操作

後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が不定の間隔で複数回出力されているなかで、操作状態にある操作手段を非操作状態にした場合は、該非操作状態になってからそれまで出力状態にあった操作後出力音が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理される場合（図１４９（ｇ）に示される第２Ａ受付後出力音）と、該非操作状態になってからそれまで出力状態にあった操作後出力音が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されず不定の時間とされる場合（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。上述した例では、非操作状態になってから上記操作後出力音の出力状態が終了されるまでの一定の時間として「０秒」が設定されるようになっている。

【４５０６】

このような構成によれば、操作後出力音が出力されているなかで、操作状態にある操作手段を非操作状態にした場合、該非操作状態になってからそれまで出力状態にあった操作後出力音が終了されるまでの時間が一定の時間（予め定められた時間）となるように処理されたときには、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを示唆することができるようになる。ただし、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であったとしても（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、該非操作状態になってからそれまで出力状態にあった操作後出力音が終了されるまでの時間が一定の時間となるように必ずしも処理されないようになっていることから、非操作状態にするときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【４５０７】

なお、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持され、これによって上記操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）が不定の間隔で複数回出力されているなかで、操作状態にある操作手段を非操作状態にした場合、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、該操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、摸画像表示の対象にされる操作手段が操作状態から非操作状態になってからその出力状態が終了されるまでの時間が一定の時間となるように処理可能とされる種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしてもよい。

【４５０８】

また、摸画像表示の対象にされる操作手段を、操作状態から非操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成や、非操作状態から操作状態にするときに変化が生じるか否かの構成については、受付有効状態が継続されていることを前提とした構成であることは言うまでもない。

【４５０９】

また、当該第３４構成Ａ３４にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４５１０】

また、当該第３４構成Ａ３４を実現する上では、第４Ａ受付許容状態及び第５Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４５１１】
　また例えば、第３５構成Ａ３５として、摸画像表示の対象である操作手段に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）では、該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音（第１Ａ受付後出力音）が複数回発生可能とされ、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は必ず特定時間以下の時間とされるようにするのに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態では、該摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合（例えば、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）と、操作状態が維持されるだけでは上記操作後出力音が複数回出力可能とされない場合（例えば、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態、図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）との両方があるが、操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合（第２Ａ受付許容状態）は、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるようにした。
【４５１２】
　このような構成によれば、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを好適に示唆することができることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されるときには比較的短い時間内で新たな受付後出力音が次々と出力されるようになっていることから、いわゆるオート連打機能が有効化されている実感も覚えやすくなっており遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。これに対し、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、いわゆるオート連打機能が有効化される対象である場合と、有効化される対象でない場合との両方があることに加えて、いわゆるオート連打機能が有効化されたとしても比較的長い時間が経過しなければ新たな受付後出力音が出力されず該オート連打機能が有効化されている実感も認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【４５１３】
　また、当該第３５構成Ａ３５では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）において摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持された場合、その際、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は、上記所定時間以下の時間単位で現れる摸画像表示の周期的変化に要する時間よりも短くされるようにしてもよい。すなわちこの場合、操作した状況下では、操作していない状況下にあるときよりも短い時間を単位とした繰り返し変化が現れるようになるから、いわゆるオート連打機能が有効化される対象であることを認識し易くなる演出メリットを提供することができるようになる。
【４５１４】
　また、当該第３５構成Ａ３５では、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される種別の複数回操作有効状態において摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は、上記所定時間よりも長い時間単位で現れる摸画像表示の周期的変化に要する時間よりも長い時間とされうるようにしてもよい。すなわちこの場合、操作した状況下にしたとしても、操作していない状況下にあるときよりも長い時間を単位とした繰り返し変化しか現れないから、いわゆるオート連打機能が有効化される状況下にあることを、緊張感を好適に維持しつつ示唆することができるようになる。
【４５１５】
　なお、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示

される種別の複数回操作有効状態において摸画像表示の対象である操作手段が操作状態に維持されるだけで上記検出に応じた操作後出力音が複数回発生可能とされる場合（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）、該操作後出力音が新たに発生するまでの間隔は、「所定時間よりも長い時間」である場合と、「所定時間よりも長い時間」である場合との両方が生じうるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が有効化される状況下にあることを、認識し易い場合と認識し難い場合との両方があるようにすることができるようになる。

【４５１６】

また、当該第３５構成Ａ３５にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４５１７】

また、当該第３５構成Ａ３５を実現する上では、第４Ａ受付許容状態及び第５Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４５１８】

また例えば、第３６構成Ａ３６として、摸画像表示の対象である操作手段に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態において、摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、「予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）」が発生している状況にあるようにし（終了されない種別の複数回操作有効状態が発生している状況にある場合はないようにし）、複数回操作有効状態において、摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、「予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる種別の複数回操作有効状態（例えば、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）」が発生している状況にある場合と、「操作状態にあることが検出されたことを契機としては当該状態が終了されない種別の複数回操作有効状態（例えば、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態や、図１５８に示される第５Ａ受付許容状態）」が発生している状況にある場合との両方があるようにしてもよい。

【４５１９】

このような構成によれば、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示されている場合は、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあることを好適に示唆することが可能であるのに対し、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されている場合は、摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機として当該状態が終了されうる状況下にあるか、それとも摸画像表示の対象である操作手段が操作状態にあることの検出を契機としては当該状態が終了されない状況下にあるのかを認識し難くして、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【４５２０】

なお、当該第３６構成Ａ３６を備えるとする場合は、基本的に、第３Ａ受付許容状態を備えないこととなることは言うまでもない。ただし、第３Ａ受付許容状態については、例えば、摸画像表示の周期的変化を、上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示されるものに変形させた上で備えるようにすることは可能である。若しくは、第３Ａ受付許容状態については、摸画像表示これ自体が出現されない受付許容状態として備えるようにしてもよい。

【４５２１】

また、上述の演出例において、複数回操作有効状態の発生に際しては、操作受付が許容

されることを示唆する受付許容音が出力されうるようにしてもよい。そして、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とで、上記受付許容音は同じ態様で出力されうるが、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合は、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合には出力し得ない態様で、上記受付許容音が出力される場合があるようにしてもよい。若しくは、これとは逆に、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合は、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合には出力し得ない態様で、上記受付許容音が出力される場合があるようにしてもよい。また、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合は、上記受付許容音が必ず出力されるが、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合は、上記受付許容音が出力される場合と出力されない場合との両方があるようにしてもよい。

【４５２２】

また、上述の演出例では、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合と、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合とのいずれの場合であっても、複数回操作有効状態が終了されるまでの間に操作受付がなくても、操作受付があったときと同じ受付後変化が生じうる（例えば、図１４７や、図１５０などを参照）。この点、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間以下の時間単位で現れるように表示される場合は、複数回操作有効状態が終了されるまでの間に操作受付がなくても、該操作受付があったときと同じ受付後変化が必ず生じるが、複数回操作有効状態において摸画像表示の周期的変化が上記所定時間よりも長い時間単位で現れるように表示される場合は、複数回操作有効状態が終了されるまでの間に操作受付がないときに、該操作受付があったときと同じ受付後変化が生じる場合と、該操作受付があったときと同じ受付後変化が生じない場合との両方があるようにしてもよい。

【４５２３】

また、当該第３６構成Ａ３６にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４５２４】

また、当該第３６構成Ａ３６を実現する上では、第４Ａ受付許容状態及び第５Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４５２５】

また例えば、第３７構成Ａ３７として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけでは該操作状態にあることの検出に応じた操作後変化が複数回実行可能とされる場合がない所定種別の複数回操作有効状態（図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにするのに対し（図１５５（ｅ），（ｆ）や、図１５７（ｃ），（ｅ），（ｇ）などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第

２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるとともに、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示ＨＢ２（図１４９（ｆ）や、図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）が表示されうるようにした上で、特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）が、遊技者による遊技によって出現しうるようになっており、当該状況において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせるが、それまで出力状態にあった操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせずその出力状態を維持しうるようにした（図１４９（ｆ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１や、図１５１（ｇ）などを参照）。

【４５２６】

このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化（終了）を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５２７】

また、当該第３７構成Ａ３７にかかる特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに、これに応じた非操作後表示が表示される場合（第２Ａ受付許容状態）と該非操作後表示が表示されない場合（第１Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）との両方があるようにしたから、非操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【４５２８】

また、当該第３７構成Ａ３７では、特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態、第３Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を必ず生じさせる一方で、それまで出力状態にあった操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）に対してはその出力状態に変化を生じさせずこれを必ず維持させるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されておらず、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況（例えば、図１４６に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ３～ｔＡａ２－Ｃ１など）において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで出力

状態にあった操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）に対してはその種別に応じてその出力状態に変化を生じさせる場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とその出力状態に変化を生じさせずにこれを維持する場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４５２９】

このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）のうち、非操作後表示が表示されない複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）であっても、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５３０】

なお、上述した演出例において、上記第１Ａ受付許容状態については、上記第２Ａ受付許容状態と同様、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。なおこの場合、非操作後表示が表示される条件や、非表示にされる条件などについては、上記第２Ａ受付許容状態で説明した非操作後表示ＨＢ２と同じにするようにしてもよい。ただし、この場合であっても、上記第３Ａ受付許容状態は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示されない受付許容状態として発生させるようにすることが望ましい。

【４５３１】

また、上述した演出例では、非操作後表示を表示させる際、これに対応する音を出力させることがないようにしたから、非操作後表示が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４５３２】

また、上述した演出例では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）には、第１の受付許容状態（第１Ａ受付許容状態または第３Ａ受付許容状態）と、第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）とが含まれるようにした。

【４５３３】

そして、第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつ

つ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４５３４】
　また、当該第３７構成Ａ３７の第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４５３５】
　また、当該第３７構成Ａ３７の第１の受付許容状態が「第１Ａ受付許容状態」である場合、該第１の受付許容状態（第１Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。
【４５３６】
　また、当該第３７構成Ａ３７の第１の受付許容状態が「第３Ａ受付許容状態」である場合、該第１の受付許容状態（第３Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第３の受付後出力音ＳＢ３の出力条件が満たされた場合（図１５２に示されるタイミングｔＡｃ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ３は、該タイミングｔＡｃ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第３の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｃ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｃ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ３（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。
【４５３７】
　なお、当該第３７構成Ａ３７では、複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４５３８】
　また、当該第３７構成Ａ３７にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４５３９】
　また、当該第３７構成Ａ３７を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果を得ることが可能である。
【４５４０】

また例えば、第３８構成Ａ３８として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されることがない所定種別の複数回操作有効状態（図１５２に示される第３Ａ受付許容状態、図１５５に示される第４Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにするのに対し（図１５２（ｅ），（ｆ）及び図１５４（ｃ），（ｇ）や、図１５５（ｅ），（ｆ）及び図１５７（ｃ），（ｅ），（ｇ）などを参照）、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるとともに、上記特定操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示ＨＢ２が表示されうるようにした上で、上記特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）が、遊技者による遊技によって出現しうるようになっており、当該状況において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせずその出力状態を維持しうるようにした（図１４９（ｆ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１や、図１５１（ｇ）などを参照）。

【４５４１】

このような構成によれば、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化（終了）を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５４２】

また、当該第３８構成Ａ３８にかかる特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに、これに応じた非操作後表示が表示される場合（第２Ａ受付許容状態）と該非操作後表示が表示されない場合（第１Ａ受付許容状態）との両方があるようにしたから、非操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【４５４３】

また、当該第３８構成Ａ３８では、特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態）のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表

示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を必ず生じさせる一方で、それまで出力状態にあった操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２Ａ受付後出力音）に対してはその出力状態に変化を生じさせずこれを必ず維持させるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示が表示されておらず、且つ上記操作後変化のうちの上記操作後出力音が出力状態を維持している状況（例えば、図１４６に示されるタイミングｔＡａ２－Ｂ３～ｔＡａ２－Ｃ１など）において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで出力状態にあった操作後出力音（図１４６に示される第１Ａ受付後出力音）に対してはその種別に応じてその出力状態に変化を生じさせる場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とその出力状態に変化を生じさせずにこれを維持する場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）との両方があるようにした。

【４５４４】

このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されるだけで該操作状態にあることの検出に応じた上記操作後変化が複数回実行可能とされうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）のうち、非操作後表示が表示されない複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態）であっても、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５４５】

なお、上述した演出例において、上記第１Ａ受付許容状態については、上記第２Ａ受付許容状態と同様、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。なおこの場合、非操作後表示が表示される条件や、非表示にされる条件などについては、上記第２Ａ受付許容状態で説明した非操作後表示ＨＢ２と同じにするようにしてもよい。このような変形例を採用した当該第３８構成Ａ３８にかかる特定種別の複数回操作有効状態（第１Ａ受付許容状態や、第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときに、これに応じた非操作後表示が必ず表示されることとなり、非操作後表示が表示されない場合がなくなるようになる。なお、この場合であっても、上記第３Ａ受付許容状態や第４Ａ受付許容状態は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示されない受付許容状態として発生させるようにすることが望ましい。

【４５４６】

また、上述した演出例では、非操作後表示を表示させる際、これに対応する音を出力させることがないようにしたから、非操作後表示が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。

【４５４７】

また、上述した演出例では、予め定められた終了タイミングが到来するよりも前に上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることが検出されたことを契機として当該状態が終了されうる特定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）には、第１の受付許容状態（第１

Ａ受付許容状態）と、第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）とが含まれるようにした。

【４５４８】

そして、第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４５４９】

また、当該第３８構成Ａ３８の第２の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。

【４５５０】

また、当該第３８構成Ａ３８の第１の受付許容状態（第１Ａ受付許容状態）では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで、第１の受付後出力音ＳＢ１の出力条件が満たされた場合（図１４６に示されるタイミングｔＡａ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ１は、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡａ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了し、新たな出力を開始するようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡａ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ１（ここでは、１回分の効果音）の再生状態は中断され、新たなデータ（ここでは、１回分の効果音のデータ）に基づく音（１回分の効果音）が出力開始されることとなる。

【４５５１】

なお、当該第３８構成Ａ３８では、複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。

【４５５２】

また、当該第３８構成Ａ３８にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。

【４５５３】

また、当該第３８構成Ａ３８を実現する上では、第３Ａ受付許容状態及び第４Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上

述した各構成や作用効果を得ることが可能である。

【４５５４】

また例えば、第３９構成Ａ３９として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合が少なくともあるようにするのに対し（図１４６（ｅ），（ｆ）や、図１４８（ｃ），（ｇ）などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が不定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示ＨＢ２（図１４９（ｆ）や、図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）が表示可能とされるようにした上で、上記特定種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）が、遊技者による遊技によって出現しうるようになっており、当該状況において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせずその出力状態を維持しうるようにした（図１４９（ｆ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１や、図１５１（ｇ）などを参照）。

【４５５５】

このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が不定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化（終了）を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５５６】

なお、上述した演出例において、上記第１Ａ受付許容状態については、上記第２Ａ受付許容状態と同様、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。なおこの場合、非操作後表示が表示される条件や、非表示にされる条件などについては、上記第２Ａ受付許容状態で説明した非操作後表示ＨＢ２と同じにするようにしてもよい。ただし、この場合であっても、上記第３Ａ受付許容状態は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示されない受付許容状態として発生させるようにする

ことが望ましい。
【４５５７】
このような構成によれば、当該第３９構成Ａ３９にかかる複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が一定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合（第３Ａ受付許容状態）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示可能とされる場合との両方があることとなる。そしてこの場合、当該第３９構成Ａ３９にかかる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）においても、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示されており、且つ操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうることとなり、当該状況において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった非操作後表示に対しては変化を必ず生じさせる一方で、それまで出力状態にあった操作後出力音に対してはその種別に応じてその出力状態に変化を生じさせる場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とその出力状態に変化を生じさせずにこれを維持する場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）とがあることとなる。
【４５５８】
また、上述した演出例では、非操作後表示を表示させる際、これに対応する音を出力させることがないようにしたから、非操作後表示が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。
【４５５９】
また、上述した演出例では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が不定の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態には、特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）が含まれるようにした。
【４５６０】
そして、特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。

【４５６１】
　また、当該第３９構成Ａ３９の特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４５６２】
　なお、当該第３９構成Ａ３９では、複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４５６３】
　また、当該第３９構成Ａ３９にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４５６４】
　また、当該第３９構成Ａ３９を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果の少なくとも一部を得ることが可能である。
【４５６５】
　また例えば、第４０構成Ａ４０として、特定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される複数回操作有効状態を備え、該複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が必ず特定時間以下の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合が少なくともあるようにするのに対し（図１４６（ｅ），（ｆ）や、図１４８（ｃ），（ｇ）などを参照）、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて上記操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示ＨＢ２（図１４９（ｆ）や、図１５１（ｃ），（ｆ）などを参照）が表示可能とされるようにした上で、上記特定種別の複数回操作有効状態（第２Ａ受付許容状態）では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されており、且つ上記操作後変化のうちの操作後出力音（第２Ａ受付後出力音）が出力状態を維持している状況（例えば、図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｂ３～ｔＡｂ２－Ｃ１など）が、遊技者による遊技によって出現しうるようになっており、当該状況において、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作

状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった上記非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせるが、それまで出力状態にあった上記操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）に対しては変化（終了）を生じさせずその出力状態を維持しうるようにした（図１４９（ｆ），（ｈ）に示されるタイミングｔＡｂ２－Ｃ１や、図１５１（ｇ）などを参照）。

【４５６６】

このような構成によれば、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態（図１４９に示される第２Ａ受付許容状態）では、操作後変化が実行されているなかで遊技者による再操作が行われた場合、それまでの操作後変化の態様を一部継続して実行させるようにしつつも、一部については変化（終了）を生じさせる場合があるようになるから、再操作するときの緊張感を提供するようにしつつも、新たな演出が開始されることへの期待感についても好適に付与することができるようになる。

【４５６７】

なお、上述した演出例において、上記第１Ａ受付許容状態については、上記第２Ａ受付許容状態と同様、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。なおこの場合、非操作後表示が表示される条件や、非表示にされる条件などについては、上記第２Ａ受付許容状態で説明した非操作後表示ＨＢ２と同じにするようにしてもよい。ただし、この場合であっても、上記第３Ａ受付許容状態は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から操作されていない非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示されない受付許容状態として発生させるようにすることが望ましい。

【４５６８】

このような構成によれば、当該第４０構成Ａ４０にかかる複数回操作有効状態のうち、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が必ず特定時間以下の時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったとしてもこれに応じた非操作後表示が表示されない場合（第３Ａ受付許容状態）と、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にあることの検出に基づいて操作後変化の１つである操作後表示が表示可能とされるだけでなく、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことが検出されたときにも該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示可能とされる場合との両方があることとなる。そしてこの場合、当該第４０構成Ａ４０にかかる所定種別の複数回操作有効状態（図１４６に示される第１Ａ受付許容状態や、図１５２に示される第３Ａ受付許容状態）においても、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態にあり、且つ該非操作状態になったことの検出に応じた非操作後表示が表示されており、且つ操作後変化のうちの操作後出力音が出力状態を維持している状況が、遊技者による遊技によって出現しうることとなり、当該状況において、特定操作手段（操作ボタン４１０）が非操作状態から操作状態になったことが検出されると、該検出を契機として、それまで表示状態にあった非操作後表示に対しては変化を必ず生じさせる一方で、それまで出力状態にあった操作後出力音に対してはその種別に応じてその出力状態に変化を生じさせる場合（図１４６（ｇ）に示される第１Ａ受付後出力音）とその出力状態に変化を生じさせずにこれを維持する場合（図１４６（ｈ）に示される第１Ａ受付後出力音）とがあることとなる。

【４５６９】
　また、上述した演出例では、非操作後表示を表示させる際、これに対応する音を出力させることがないようにしたから、非操作後表示が、操作状態にされたことを契機として表示されたものではなく、非操作状態にされたことを契機として表示されたものであることを示唆することができるようになる。
【４５７０】
　また、上述した演出例では、上記特定操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに上記操作後変化の１つである操作後出力音が新たに出力開始されるまでの間隔が上記特定時間よりも必ず長い時間とされるかたちで上記操作後変化が複数回実行可能とされる特定種別の複数回操作有効状態には、特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）が含まれるようにした。
【４５７１】
　そして、特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）が出力状態にあるときと出力状態にないときとのいずれの状況下においても出力開始されうるが、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として変化（終了）されない種別の操作後出力音（図１４９（ｈ）に示される第２の受付後出力音ＳＢ２）は、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として終了される種別の操作後出力音（図１４９（ｇ）に示される第１の受付後出力音ＳＡ２）が出力状態にないときに単独で出力開始されることはなく出力状態にあるとき（または同時）に出力開始されうるようにしたから、適度な緊張感を提供しつつ、操作の中断を促すことができるようになる。
【４５７２】
　また、当該第４０構成Ａ４０の特別の受付許容状態（第２Ａ受付許容状態）では、特定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているなかで、第２の受付後出力音ＳＢ２の出力条件が満たされた場合であっても（図１４９に示されるタイミングｔＡｂ２―Ｂ２）、第２の受付後出力音ＳＢ２は、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいて出力開始されるのに対し、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）については、該タイミングｔＡｂ２―Ｂ２でなされた操作受付に基づいてその出力状態を終了したり、新たな出力を開始したりしないようにしてもよい。すなわちこの場合、タイミングｔＡｂ２―Ｂ２が到来した時点で出力状態にあった第１の受付後出力音ＳＡ２（ここでは、１回分の効果音）の再生状態を継続するだけであり、その再生状態が中途終了されて新たなデータに基づく音（１回分の効果音）が出力開始されたり、再生のし直しをされたりすることはない。
【４５７３】
　なお、当該第４０構成Ａ４０では、複数回操作有効状態で操作対象とされる操作手段が同じ操作手段である場合を想定したが、必ずしもこれに限られない。例えば、「特定操作手段」を、各複数回操作有効状態において「摸画像表示として表現されており且つ複数回の操作が許容されている操作手段」として置き換えて実現するようにしてもよい。
【４５７４】
　また、当該第４０構成Ａ４０にかかる「複数回操作有効状態」については、いずれも大当り判定に基づく図柄変動中に発生する有効期間であるようにしてもよい。
【４５７５】
　また、当該第４０構成Ａ４０を実現する上では、第１Ａ受付許容状態及び第３Ａ受付許容状態についてはいずれか一方のみを備えることとしてもよく、この場合であっても、上述した各構成や作用効果の少なくとも一部を得ることが可能である。
【４５７６】

ちなみに、上記第１構成Ａ１～第４０構成Ａ４０にあって、「演出性には注目すべき価値があることの示唆」を作用効果として謳っているものがあるが、注目すべき価値のある演出性を実際に備えることは必須でない。「価値のある演出が実行されるかもしれない」といった演出性が提供されるだけで遊技興趣を維持することが期待されうる。

【４５７７】

また、上記第１構成Ａ１～第４０構成Ａ４０については、互いの構成を一部適用するようにしてもよい。

【４５７８】

次に、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」、上記「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」、及び「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」のうち、パチンコ機１が上記「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」と、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」の一部を備える場合について説明することとする。

【４５７９】

この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第１Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１６４は、上記発生条件として「条件１Ｂ」が満たされたことに基づいて「第１Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６５は、「第１Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【４５８０】

この例では、説明の便宜上、受付許容状態としての名称こそ異なっているものの、当該「第１Ｂ受付許容状態」を、上述の「第１Ａ受付許容状態（図１４６～図１４８を参照）」として実現した場合を想定したものとなっている。したがって、以下、当該「第１Ｂ受付許容状態」の構成を説明するにあたり、「Ｂ」、「Ｓα」、「Ｓβ」と表現している部材番号等については、上述の「第２Ａ受付許容状態」の構成を説明するときに「Ａ」、「ＳＡ」、「ＳＢ」と表現した部材番号等とそれぞれ同じ構成を示すものとして記載されている。

【４５８１】

すなわち、上述の「第１Ａ受付許容状態」では、操作受付に応じた受付後変化として特別の態様（態様ＪＡ１ｃ）が現れる場合を想定したものであるのに対し、当該「第１Ｂ受付許容状態」では、操作受付に応じた受付後変化として特別の態様が現れないままで操作受付が許容される当該状態が終了される場合を想定したものとなっており、当該「第１Ｂ受付許容状態」にかかる受付後変化や、その他の演出内容については、基本的に、上述の「第１Ａ受付許容状態」において説明した通りである。ただし後述するが、この例では、受付後変化として特別の態様（例えば、上述の態様ＪＡ１ｃに相当する態様）が現れず、操作受付が許容される状態が終了した以降も第１Ａ操作部（この例では、「第１Ｂ操作部」として表現する）を操作状態に維持し続けた場合を想定したものとなっている。

【４５８２】

なお、当該「第１Ｂ受付許容状態」については、上述の「第１Ａ受付許容状態」として必ずしも発生されるものでなくてもよく、例えば、該「第１Ａ受付許容状態」とは別の種別（状況示唆表示や、受付後変化など、受付許容状態に対応する演出や、演出の進展が異なる種別）の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。この場合、以下、当該「第１Ｂ受付許容状態」の構成を説明するにあたり、「Ｂ」、「Ｓα」、「Ｓβ」と表現している部材番号等については、上述の「第１Ａ受付許容状態」の構成を説明するときに「Ａ」、「ＳＡ」、「ＳＢ」と表現した部材番号等と全く異なる構成を示すものとして記載されることとなることは言うまでもない。

【４５８３】

すなわち、いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第１Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第１Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第１Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第

１Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第１Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【４５８４】

図１６４（ｂ）に示されるように、「第１Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｂ時間が経過したタイミングｔＢａ２が到来したことに基づいて（「条件１Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ１や、第１Ｂ連打中表示ＨＢ１、第１Ｂ受付後出力音Ｓα１，Ｓβ１など）に関しての第１Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第１Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１６５（ａ）に示される状況）。

【４５８５】

ここで、この実施の形態にかかる第１Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第１Ｂ操作部」は上記操作ボタン４１０として設定されており、当該第１Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【４５８６】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１６４（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第１Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ１と、操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ１と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ１とを、当該第１Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢａ１が到来したときに表示するものとなっている。また、この例にかかるタイミングｔＢａ１では、遊技者に対して操作を促す第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢａ１～ｔＢａ２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第１態様（図１６５に示される「ボタン連打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示が表示され、且つ第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が可聴出力されている状況下にもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【４５８７】

ただし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１や、メッセージ表示ＭＢ１、状況示唆表示ＪＢ１、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１については、必ずしも第１Ｂ受付許容状態が発生するよりも前に現れるものでなくてもよく、第１Ｂ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＢ１については、第１Ｂ受付許容状態において第１Ｂ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＢ１が表示されるタイミングと、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１の可聴出力が開始されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＢ１は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【４５８８】

摸画像表示ＭＧ－Ｂ１や、メッセージ表示ＭＢ１、状況示唆表示ＪＢ１については、表示開始された以降は、第１Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第１Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。これに対し、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１は、当該第１Ｂ受付許容状態の途中で非可聴の状態にされるものとなっているが、必ずしも途中で終了されないようにしてもよい。

【４５８９】
　また、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態では、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢａ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１が発光されるようになっている。この例では、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１として、第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）が有する発光部を発光させることとしているが、遊技者に対して操作ボタン４１０への操作を促す態様（例えば、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるときにしか現れない態様など）であれば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１として、第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）とは異なる部位に設けられた発光部を発光させるようにしてもよい。この場合、第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。
【４５９０】
　第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１は、発光開始された以降は、第１Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第１Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して発光されるものとなっている。
【４５９１】
　ここで、第１Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ１」は、その配色として「特定配色（例えば、白色が基調とされた配色）」が用いられるようになっている。ただし、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を、複数の配色のなかから選択的に用いて表示されるようにしてもよい。
【４５９２】
　また、第１Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ１」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期１Ｂ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。なお後述するが、この周期１Ｂ時間は、他の受付許容状態の多くで用いられる周期時間よりも短い時間（短サイクル）として設定されていることから、当該第１Ｂ受付許容状態では、「操作受け部」がその可動範囲を上下に素早く移動する様子が描写されることとなる。
【４５９３】
　また、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態では、図１６４（ｃ），（ｄ）及び図１６５（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１のほか、第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「コウモリを倒せ！ボタン「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ１）が表示されるものとなっている。
【４５９４】
　ただし、第１Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されるものであればよく、例えば、該操作関連表示として、摸画像表示及びメッセージ表示の少なくとも一方が表示されるものであれば、それらの両方を必ずしも実行しなくてもよい。
【４５９５】
　また、第１Ｂ受付許容状態では、図１６４（ｃ），（ｄ）に示されるように、第１Ｂ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＢａ３が到来するときまで摸画像表示及びメッセージ表示が継続して表示され、タイミングｔＢａ３において非表示の状態にされる。したがって、第１Ｂ受付許容状態が継続されている間、当該第１Ｂ受付許容状態が終了されるタイミングｔＢａ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしている。ただし、当該描写についても、必ずしも行わないようにしてもよい。
【４５９６】
　また、第１Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ１」を、当該第１Ｂ受付許容状態が発生するタイミングｔＢａ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化や

ゲージ画像の変化については、該タイミングｔＢａ２を待ってから開始させるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ１」は、タイミングｔＢａ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。

【４５９７】

また、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態では、図１６４（ｅ）及び図１６５（ａ）に示されるように、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する状況示唆表示ＪＢ１として、当該第１Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１）と、当該第１Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、巨大コウモリとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ｂ１が表示されるようになっている。第１Ｂ受付許容状態では、「第１Ｂ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ１として、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。

【４５９８】

例えば、図１６４に示した例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ａ１（図１６５（ｂ）に示される演出状況）において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【４５９９】

この例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ａ１において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１６５（ｂ）に示される演出状況）。

【４６００】

より具体的には、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ａ１において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第１Ｂ受付後変化として、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【４６０１】

すなわち、第１Ｂ受付許容状態において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ｂ受付後表示」として、図１６５（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第１Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」が傷を負ったり、氷系魔法の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現

れることとなる（図１６４（ｅ），（ｆ）や、図１６５（ｆ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第１Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第１Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【４６０２】

ただし、第１Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第１Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。この場合、状況示唆表示ＪＢ１が表示されなくなることは言うまでもない。

【４６０３】

また、この例では、第１Ｂ受付許容状態において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ｂ受付後表示」のほか、上記「第１Ｂ受付後出力音」として、図１６４（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα１が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα１は、上記「第１Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第１Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音Ｓβ１がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音Ｓβ１は、上記「第１Ｂ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα１については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第１Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能なものであればよい。

【４６０４】

また、この例では、上記タイミングｔＢａ２－Ａ１が、図１６４（ｇ），（ｊ）に示されるように、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が出力状態にあり、且つ第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１が発光状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっているが、該タイミングｔＢａ２－Ａ１において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が非可聴の状態にされたり、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１が非発光の状態にされたりすることはない。

【４６０５】

すなわち、この例にかかる第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１は、該第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が可聴出力されているなかで「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付がどれだけなされて、いかなる判定結果が得られようとも（仮に、第１Ｂ受付許容状態が早期終了されるとしても）、該操作受付を契機としてその可聴状態が終了されることがないもの（操作受付にかかわらず、予め定められた時間分だけ出力されるもの）となっている。これに対し、この例にかかる第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１は、該第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１が発光状態にあるなかで「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機としてその発光状態が終了されない場合と終了される場合との両方があるものとなっており、ここでは、第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として、「第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態（第１Ｂ受付許容状態）」が早期終了される場合（タイミング

ｔＢａ２－Ｃ２よりも前に終了される場合）に限り、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１の発光状態も併せて早期終了されるものとなっている。

【４６０６】

このように、第１Ｂ受付許容状態では、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４６０７】

ただし、このような第１Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【４６０８】

そしてこの例は、図１６４（ａ）に示されるように、タイミングｔＢａ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第１Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢａ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４６０９】

この点、第１Ｂ受付許容状態は、「操作部（第１Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作などの少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１６４（ａ）に示される例では、タイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第１Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作などの少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４６１０】

ここで、第１Ｂ受付許容状態において第１Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第１Ｂ受付後表示として、図１６５（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【４６１１】

また、第１Ｂ受付許容状態において第１Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第１Ｂ受付後出力音が、上記「第１Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【４６１２】

ここで、第１Ｂ受付許容状態では、操作部（第１Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能（長押し機能）が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。

【４６１３】

また、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態では、操作部（第１Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能（長押し機能）が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようになっている。

【４６１４】

すなわちこの場合、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ１ａ」として表現することとしている。

【４６１５】

またこれも同様、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第１Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα１ａ」として表現することとしている。

【４６１６】

この点、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【４６１７】

したがって、当該期間内では、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ１（図１６４（ｅ）を参照）」や、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１６４（ｉ）を参照）」が、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることはない。また、当該期間内では、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が途中終了されずその出力状態を維持することはもとより、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１も終了されずその発光状態を維持することとなる。

【４６１８】

このような構成によれば、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、図１６５中に示される「氷系の魔法攻撃」や「煙エフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間毎に繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ１ａ、第１の受付後出力音Ｓα１ａ）、「状況示唆表示ＪＢ１（図１６４（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、単調な繰り返し操作を行わずとも、それを行ったときと同じ演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４６１９】

なお、「状況示唆表示ＪＢ１（図１６４（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１のうち少なくとも

１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１などの「状況示唆表示ＪＢ１（図１６４（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【４６２０】

また、タイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ１（図１６４（ｅ）を参照）」や、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１６４（ｉ）を参照）」は、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【４６２１】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ１ａが実行されている状況下（タイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間）では、図１６５（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ１ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ１」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【４６２２】

この点、図１６４や図１６５に示される演出例は、遊技者が、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢａ２―Ａ２において第１Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【４６２３】

ここで、第１Ｂ受付許容状態では、図１６４（ｆ）や図１６５（ｃ）などに示されるように、タイミングｔＢａ２―Ａ２において第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ１ａがこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ１ａは、タイミングｔＢａ２―Ａ２以降も（第１Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その実行状態が継続されることとなる。

【４６２４】

このような構成によれば、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ１ａがすぐには非表示の状態にされないことから、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第１Ｂ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４６２５】

またこの例では、連打中表示ＨＢ１ａが表示されているなかで第１Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ１

ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４６２６】

このような構成によれば、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ１ａが非表示の状態にされて、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４６２７】

また、第１Ｂ受付許容状態では、図１６４（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα１ａについても、上記連打中表示ＨＢ１ａと同様、タイミングｔＢａ２―Ａ２において第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα１ａは、タイミングｔＢａ２―Ａ２以降も（第１Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【４６２８】

このような構成によれば、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα１ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４６２９】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα１ａ（第１Ｂ事象）が出力されているなかで第１Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４６３０】

このような構成によれば、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα１ａ（第１Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４６３１】

また、この実施の形態にかかる第１Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ１ａ及び第１の受付後出力音Ｓα１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、図１６４（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ１ａが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ１ａが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ１ａが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミ

ングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【４６３２】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第１Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ１ａ及び第１の受付後出力音Ｓα１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１６４（ｆ），（ｈ）や、図１６５（ｃ）などに示されるように、第１Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ１ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα１ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第１Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１６４（ｆ），（ｈ）や、図１６５（ｄ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ１ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音Ｓα１ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ１の態様（ここでは、態様ＪＢ１ａ）を容易に認識することができるようになる（図１６５（ｄ）を参照）。

【４６３３】

ただし上述の通り、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。なお、第１Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【４６３４】

したがって、図１６５（ｄ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ１の態様（ここでは、態様ＪＢ１ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１６５（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ１の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１６５（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【４６３５】

そしてこの例では、図１６４（ａ）に示されるように、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｂ１（図１６５（ｅ）に示される演出状況）において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４６３６】

この例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｂ１において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６５（ｅ）に示される演出状況）。

【４６３７】

より具体的には、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｂ１において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第１Ｂ受付後変化として、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα１（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第１Ｂ操作部（こ

こでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４６３８】

この例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｂ１で第１Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６５（ｅ）に示される状況では、上記タイミングｔＢａ２－Ａ１で第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第１Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後表示や、第１Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６３９】

この点、図１６４や図１６５に示される演出例は、タイミングｔＢａ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第１Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢａ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【４６４０】

したがって、当該「タイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第１Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４６４１】

そして、当該「タイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ１ａや、第１の受付後出力音Ｓα１ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２までの期間」の場合（図１６５（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６４２】

ただし、図１６５に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢａ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１６５（ｆ）に示される演出状況）。

【４６４３】

したがって、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【４６４４】

より具体的には、タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢａ２－Ｂ２」では、図１６４（ｅ）及び図１６５（ｆ）に示されるように、第１Ｂ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ１の態様を、それまで現れていた「態様ＪＢ１ａ」から、これとは異なる「態様ＪＢ１ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１６５（ｆ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１が傷を負った態様

に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１による氷系魔法がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ１が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＢ１の態様変化を通じて、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢａ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【４６４５】

そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第１Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ｂ受付後表示」として、図１６５（ｆ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が強度の高くなった氷系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【４６４６】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第１Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第１Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１」が氷系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【４６４７】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢａ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【４６４８】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢａ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が氷系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」による繰り返し表示（複数回の受付後変化）を、図中では、「連打中表示ＨＢ１ｂ」として表現することとしている。

【４６４９】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢａ２－Ｂ２」が到来すると、図１６４（ｅ），（ｆ）及び図１６５（ｅ），（ｆ）に示されるように、状況示唆表示ＪＢ１の態様が「態様ＪＢ１ａ」から「態様ＪＢ１ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＢ１の態様についても「態様ＨＢ１ａ」から「態様ＨＢ１ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢａ２－Ｂ２～ｔＢａ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＢ１が「態様ＪＢ１ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＢ１が「態様ＨＢ１ｂ」で実行されることとなる。

【４６５０】

なおこの例では、連打中表示ＨＢ１の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ１を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ１を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＢ１の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能で

ある。また、第１Ｂ受付許容状態については、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りである。

【４６５１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第１Ｂ受付許容状態において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第１Ｂ受付後表示」のほか、上記「第１Ｂ受付後出力音」として、図１６４（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第１Ｂ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα１のほか、図１６４（ｉ）に示されるように、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音Ｓβ１が出力可能であることも上述した通りである。

【４６５２】

したがって、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢａ２－Ｂ２が到来すると、同図１６４（ｉ）に示されるように、タイミングｔＢａ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音Ｓβ１が態様Ｓβ１ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音Ｓβ１については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音Ｓα１よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【４６５３】

ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα１については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢａ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα１が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢａ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢａ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【４６５４】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢａ２－Ｂ１からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα１）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα１ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα１ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢａ２－Ａ１からタイミングｔＢａ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６５５】

なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα１ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【４６５６】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ１ｂが実行されている状況下（タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３の期間）においても、図１６５（ｆ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ１ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ１が、強度の高い氷系の魔法で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１を攻撃する態様（煙エフェクトや、氷系魔法の発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ１」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【４６５７】
この点、図１６４や図１６５に示される演出例は、遊技者が、当該第１Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢａ２―Ｂ３において第１Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【４６５８】
ここで、上述の通り、第１Ｂ受付許容状態では、当該第１Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第１Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ１がこれを契機として非表示の状態にされることはない。したがって、図１６４（ｆ）や図１６５（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＢａ２―Ｂ３において第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＢ１ｂは、タイミングｔＢａ２―Ｂ３以降も（第１Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。
【４６５９】
また、これも連打中表示ＨＢ１ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ１ｂが表示されているなかで第１Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ１ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【４６６０】
また上述の通り、第１Ｂ受付許容状態では、当該第１Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第１Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα１ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１６４（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢａ２―Ｂ３において第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音Ｓα１ａは、タイミングｔＢａ２―Ｂ３以降も（第１Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【４６６１】
ただし、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２―Ｂ３は、タイミングｔＢａ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音Ｓβ１が出力状態を継続しているなかで、第１Ｂ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。
【４６６２】
この点、第１Ｂ受付許容状態では、第２の受付後出力音Ｓβ１についても、上記第１の受付後出力音Ｓα１と同様、第１Ｂ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にされる）ことがない。したがって、図１６４（ｉ）などに示されるように、タイミングｔＢａ２―Ｂ３において第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音Ｓβ１ｂ－１は、タイミングｔＢａ２―Ｂ３以降も（第１Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【４６６３】
またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα１が出力されているなかで第１Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音Ｓβ１についても同様、該第２の受付後出力音Ｓβ１が出力されているなかで第１Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音Ｓβ１が非

出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４６６４】

このような構成によれば、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα１（第１Ｂ事象）や第２の受付後出力音Ｓβ１（第１Ｂ事象）が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第１Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第１Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４６６５】

また、この実施の形態にかかる第１Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ１ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα１ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１６４（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ１ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ１ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ１ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα１ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。なお、このような連打中表示ＨＢ１ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα１ａの関係性については、連打中表示ＨＢ１ｂと第２の受付後出力音Ｓβ１との間や、第１の受付後出力音Ｓα１ａと第２の受付後出力音Ｓβ１との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。

【４６６６】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第１Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ１ｂ、第１の受付後出力音Ｓα１ａ、及び第２の受付後出力音Ｓβ１ｂ－１がそれぞれ実行状態にあるなかで第１Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１６４（ｆ），（ｈ），（ｉ）や、図１６５（ｇ）などに示されるように、第１Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ１ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα１ａが出力状態を継続しており、且つ第２の受付後出力音Ｓβ１ｂ－１が出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第１Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢａ２－Ｂ３からの時間経過）によって、図１６４（ｆ）や、図１６５（ｈ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ１ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ１や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ１、ゲージ画像ＨＰ－Ｂ１など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ１の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＢ１ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１６５（ｈ）を参照）。

【４６６７】

また、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα１ａ及び第２の受付後出力音Ｓβ１も、第１Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢａ２－Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた各出力状態はいずれも終了（非可聴の状態に）される。

【４６６８】

ただしこの例では、図１６４（ａ）に示されるように、第１Ｂ操作部が非操作状態にさ

れたタイミングｔＢａ２―Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα１ａ及び第２の受付後出力音Ｓβ１がいずれも可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢａ２－Ｃ１（図１６５（ｉ）に示される演出状況）において第１Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４６６９】

この例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｃ１において「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢａ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６５（ｉ）に示される演出状況）。

【４６７０】

より具体的には、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｃ１において、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第１Ｂ受付後変化として、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα１（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第１Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４６７１】

この例では、第１Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢａ２－Ｃ１で第１Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が図１６５（ｈ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６５（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔＢａ－Ｂ２で第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第１Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後表示や、第１Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６７２】

ただし上述の通り、この例では、第１Ｂ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１が、第１の受付後出力音Ｓα１及び第２の受付後出力音Ｓβ１がいずれも可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【４６７３】

この点、第１の受付後出力音Ｓα１については、タイミングｔＢａ２－Ｃ１で第１Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、それまでの出力状態を終了するとともに、該新たな操作受付を契機とした新たな出力を開始させるようにしている。これに対し、第２の受付後出力音Ｓβ１については、タイミングｔＢａ２－Ｃ１で第１Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続するようにしている。

【４６７４】

このような構成によれば、第１Ｂ受付許容状態では、操作受付に応じた第１Ｂ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第１Ｂ受付後出力音が終了される場合（第１の受付後出力音Ｓα１）と終了されない場合（第２の受付後出力音Ｓβ１）との両方があるようになるから、非操作の状態にあった第１Ｂ操作部を再び操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。なお、第１Ｂ受付許容状態では、第１の受付後出力音Ｓα１が出力されており且つ第２の受付後出力音Ｓβ１が出力されている当該状況下において第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合のほか、第１の受付後出力音Ｓα１が出力されており且つ第２の受付後出力音Ｓβ１が出力されていない状況下において第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合や、第１の受付後出力音Ｓα１が出力されて

おらず且つ第２の受付後出力音Ｓβ１が出力されている状況下において第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合もあることは言うまでもない。

【４６７５】

なお、連打中表示ＨＢ１についても、タイミングｔＢａ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。この場合、連打中表示ＨＢ１については、それまで非操作の状態にあった第１Ｂ操作部に対して操作受付がなされると、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで該新たな操作受付を契機とした新たな表示（１回分の動画表示）を開始させるようにすることが望ましい。

【４６７６】

また、図１６４や図１６５に示される演出例は、タイミングｔＢａ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第１Ｂ操作部の操作状態）を、第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢａ２―Ｃ２（当該第１Ｂ受付許容状態が終了されるタイミング）が到来した時点においても継続しており、これによってタイミングｔＢａ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【４６７７】

したがって、当該「タイミングｔＢａ２－Ｃ１からタイミングｔＢａ２－Ｃ２までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第１Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４６７８】

そして、当該「タイミングｔＢａ２－Ｃ１からタイミングｔＢａ２－Ｃ２までの期間（第１Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ１ｂや、第１の受付後出力音Ｓα１ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、図１６５（ｉ）に示されるように、上述の「タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１６５（ｆ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６７９】

なお、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ｃ１からタイミングｔＢａ２－Ｃ２の期間で、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内の所定タイミングでなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）は、図１４６や図１４８などを参照しつつ上述した通りの演出進展が現れることとなるが、その演出の詳細についても上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４６８０】

ただし上述の通り、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態は、上述の「第１Ａ受付許容状態」として実現された場合を想定したものとなっているものの、上述の「第１Ａ受付許容状態」の場合（図１４６，図１４８）とは異なり、受付後変化として特別の態様（例えば、上述の態様ＪＡ１ｃに相当する態様）が現れない場合を想定したものとなっている。

【４６８１】

したがって、図１６４に示した例にかかるタイミングｔＢａ２－Ｃ１からタイミングｔＢａ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１６５（ｉ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。

【４６８２】

この点、タイミングｔＢａ２－Ａ２や、タイミングｔＢａ２－Ｂ３においてオート連打

機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ１を、これを契機として非表示の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非表示の状態にするようにしたが）、タイミングｔＢａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ１を、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間（例えば０秒）で）非表示の状態にするようにしている。

【４６８３】

また、この例では、タイミングｔＢａ２－Ａ２や、タイミングｔＢａ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα１ａを、これを契機として非可聴の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非可聴の状態にするようにしたが）、タイミングｔＢａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα１ａを、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にするようにしている。このような構成によれば、オート連打機能が無効化された以降の第１の受付後出力音Ｓα１ａの出力状況を通じて、第１Ｂ受付許容状態が終了されたか否かを示唆することができるようになる。

【４６８４】

また、この例では、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が、タイミングｔＢａ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音Ｓβ１ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音Ｓβ１ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合、「第１の受付後出力音Ｓα１ａ」とは異なり、タイミングｔＢａ２―Ｃ２が到来したことを契機として、実行途中の状態にある「第２の受付後出力音Ｓβ１」の出力状態を終了させず、その残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにすることが望ましい。

【４６８５】

なお、第１の受付後出力音Ｓα１ａについては、タイミングｔＢａ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときに、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にする場合と、非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。例えば、大当りが得られている期待度が高いときには非可聴の状態にされるが、大当りが得られている期待度が低いときには非可聴の状態にされないようにすれば、大当りが得られている期待度を示唆することができるようになる。

【４６８６】

また、「連打中表示ＨＢ１」や「第１の受付後出力音Ｓα１」については、実行途中の状態にあるときにタイミングｔＢａ２―Ｃ２が到来したときも、それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしてもよい。

【４６８７】

そしてこの例では、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、遊技者に対して操作を促す第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１が非発光の状態にされる。すなわち、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１は、第１Ｂ受付許容状態が発生するときに発光開始され、第１Ｂ受付許容状態が終了するときに発光終了されるものである。これにより、操作受付が許容される状態になったことや、操作受付が許容されない状態になったことを示唆するようにしている。

【４６８８】

すなわちこの場合、この例にかかる「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」では、当該第１Ｂ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様（例えば、上述の態様ＪＡ１ｃに相当する態様）」が現れることのないままで、当該第１Ｂ受付許容状態が終了したことが示唆されることとなる（これは下記構成を備えるにあたり、必須の構成ではない）。

【４６８９】

この点、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１や、メッセージ表示ＭＢ１、状況示唆表示ＪＢ１などについては、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来した時点で非表示にせず、該タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来して第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなった以降も所定の時間（予め定められた時間）にわたって表示されるものとしており、これによってタイミングｔＢａ２－Ｃ２以降も、遊技者に対して「第１Ｂ操作部に対する操作受付がなされて受付後変化を新たに生じさせるチャンスがまだ残されているかもしれない」といった期待感が付与されるようにしている。

【４６９０】

なおこの例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１については、タイミングｔＢａ１で表示開始された以降、操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢａ２―Ｃ２を経た後、タイミングｔＢａ３で非表示の状態にされるものとなっている。また、状況示唆表示ＪＢ１については、タイミングｔＢａ３が到来した時点においても非表示の状態にされず、それ以降の適宜のタイミングで非表示の状態にされるものとなっている。ただし上述の通り、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１及びメッセージ表示ＭＢ１の表示タイミングや、非表示にされるタイミングは互いに異なるようにしてもよいし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１及びメッセージ表示ＭＢ１の一方のみが操作関連表示として表示されるようにしてもよい。また、状況示唆表示ＪＢ１については、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１と同じタイミングで非表示の状態にするようにしてもよい。

【４６９１】

そしてこの例では、タイミングｔＢａ２－Ｃ１から開始されている「第１Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１が非表示の状態にされるタイミングｔＢａ３が到来した時点や、さらには状況示唆表示ＪＢ１が非表示の状態にされるタイミングが到来した時点においても継続している場合を想定したものとなっている。

【４６９２】

ただし、第１Ｂ受付許容状態から「第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢａ２―Ｃ２以降）は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１が非表示の状態にされるタイミングｔＢａ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ１が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生することはない。

【４６９３】

したがって、タイミングｔＢａ２―Ｃ１からタイミングｔＢａ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ１が非表示の状態にされるタイミング）まで「第１Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないようになっている。

【４６９４】

なお、図１６５（ｊ）に示した例では、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来したことに基づいて「失敗！！」といった表示が行われるようにしているが、該タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来したことに基づいて何らの表示も新たに出現しないようにしてもよい。

【４６９５】

また、第１Ｂ受付許容状態を、上述した第１Ａ受付許容状態として実現した場合、上述した第１Ａ受付許容状態において説明した構成については、当該第１Ｂ受付許容状態において説明していなくても有するものである。またこの場合、上述した第１Ａ受付許容状態に対して適用可能として記載した別例等にかかる構成についても、当該第１Ｂ受付許容状態に対して適用可能であることは言うまでもない。例えば、第１Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として用意されるものとなっている。

【４６９６】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）とし

て「第２Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１６６は、上記発生条件として「条件２Ｂ」が満たされたことに基づいて「第２Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６７は、「第２Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【４６９７】

この例では、説明の便宜上、受付許容状態としての名称こそ異なっているものの、当該「第２Ｂ受付許容状態」を、上述の「第２Ａ受付許容状態（図１４９～図１５１を参照）」として実現した場合を想定したものとなっている。したがって、以下、当該「第２Ｂ受付許容状態」の構成を説明するにあたり、「Ｂ」、「Ｓα」、「Ｓβ」と表現している部材番号等については、上述の「第２Ａ受付許容状態」の構成を説明するときに「Ａ」、「ＳＡ」、「ＳＢ」と表現した部材番号等とそれぞれ同じ構成を示すものとして記載されている。

【４６９８】

すなわち、上述の「第１Ａ受付許容状態」では、操作受付に応じた受付後変化として特別の態様（態様ＪＡ２ｃ）が現れる場合を想定したものであるのに対し、当該「第２Ｂ受付許容状態」では、操作受付に応じた受付後変化として特別の態様が現れないままで操作受付が許容される当該状態が終了される場合を想定したものとなっており、当該「第２Ｂ受付許容状態」にかかる受付後変化や、その他の演出内容については、基本的に、上述の「第２Ａ受付許容状態」において説明した通りである。ただし後述するが、この例では、受付後変化として特別の態様（例えば、上述の態様ＪＡ２ｃに相当する態様）が現れず、操作受付が許容される状態が終了した以降も第２Ａ操作部（この例では、「第２Ｂ操作部」として表現する）を操作状態に維持し続けた場合を想定したものとなっている。

【４６９９】

なお、当該「第２Ｂ受付許容状態」については、上述の「第２Ａ受付許容状態」として必ずしも発生されるものでなくてもよく、例えば、該「第２Ａ受付許容状態」とは別の種別（状況示唆表示や、受付後変化など、受付許容状態に対応する演出や、演出の進展が異なる種別）の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。この場合、以下、当該「第２Ｂ受付許容状態」の構成を説明するにあたり、「Ｂ」、「Ｓα」、「Ｓβ」と表現している部材番号等については、上述の「第１Ａ受付許容状態」の構成を説明するときに「Ａ」、「ＳＡ」、「ＳＢ」と表現した部材番号等と全く異なる構成を示すものとして記載されることとなることは言うまでもない。

【４７００】

すなわち、いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第２Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第２Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第２Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第２Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第２Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【４７０１】

図１６６（ｂ）に示されるように、「第２Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第２Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｂ２が到来したことに基づいて（「条件２Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ２や、第２Ｂ連打中表示ＨＢ２、第２Ｂ受付後出力音Ｓα２，Ｓβ２など）に関しての第２Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第２Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１６７（ａ）に示される状況）。

【４７０２】

ここで、この実施の形態にかかる第２Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される

「第２Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作手段（操作ボタン４１０）として設定されており、当該第２Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。ただし、第２Ｂ操作部については、上記第１Ｂ受付許容状態と異なる操作手段として設定するようにしてもよい。

【４７０３】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１６６（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第２Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第２Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ２と、操作対象（ここでは、第２Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ２と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ２とを、当該第２Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（第２Ｂ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｂ１が到来したときに表示するものとなっている。また、この例にかかるタイミングｔＢｂ１では、遊技者に対して操作を促す第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｂ１～ｔＢｂ２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第２態様（図１６７に示される「ボタン乱打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示が表示され、且つ第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が可聴出力されている状況下にもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【４７０４】

ただし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２や、メッセージ表示ＭＢ２、状況示唆表示ＪＢ２、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２については、必ずしも第２Ｂ受付許容状態が発生するよりも前に現れるものでなくてもよく、第２Ｂ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＢ２については、第２Ｂ受付許容状態において第２Ｂ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第２Ｂ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＢ２が表示されるタイミングと、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２の可聴出力が開始されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＢ２は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【４７０５】

摸画像表示ＭＧ－Ｂ２や、メッセージ表示ＭＢ２、状況示唆表示ＪＢ２については、表示開始された以降は、第２Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第２Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている。これに対し、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２は、当該第２Ｂ受付許容状態の途中で非可聴の状態にされるものとなっているが、必ずしも途中で終了されないようにしてもよい。

【４７０６】

また、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢｂ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２が発光されるようになっている。この例では、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２として、第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）が有する発光部を発光させることとしているが、遊技者に対して操作ボタン４１０への操作を促す態様（例えば、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるときにしか現れない態様など）であれば、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２として、第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）とは異なる部位に設けられた発光部を発光させるようにしてもよい。この場合、第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。

【４７０７】

第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２は、発光開始された以降は、第２Ｂ操作部の操作状態にかか

わらず、当該第２Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して発光されるものとなっている。

【４７０８】

ここで、第２Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ２」は、その配色として「特定配色（例えば、白色が基調とされた配色）」が用いられるようになっている。ただし、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を、複数の配色のなかから選択的に用いて表示されるようにしてもよい。ただし、該配色については、上記第１Ｂ受付許容状態と異なるようにしてもよい。

【４７０９】

また、第２Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ２」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分が「図１４４（α）に示される態様で表示された後、図１４４（β）～（σ）に示される各態様で順次表示される」といった動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期２Ｂ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期２Ｂ時間は、第１Ｂ受付許容状態で現れる周期１Ｂ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されていることから、当該第２Ｂ受付許容状態では、上述の第１Ｂ受付許容状態と比べて「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【４７１０】

また、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｃ），（ｄ）及び図１６７（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２のほか、第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「タイガーを倒せ！ボタン「乱打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるものとなっている。

【４７１１】

ただし、第２Ｂ受付許容状態では、第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されるものであればよく、例えば、該操作関連表示として、摸画像表示及びメッセージ表示の少なくとも一方が表示されるものであれば、それらの両方を必ずしも実行しなくてもよい。

【４７１２】

また、第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｃ），（ｄ）に示されるように、第２Ｂ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＢｂ３が到来するときまで摸画像表示及びメッセージ表示が継続して表示され、タイミングｔＢｂ３において非表示の状態にされる。したがって、第２Ｂ受付許容状態が継続されている間、当該第２Ｂ受付許容状態が終了されるタイミングｔＢｂ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしている。ただし、当該描写についても、必ずしも行わないようにしてもよい。

【４７１３】

また、第２Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ２」を、当該第２Ｂ受付許容状態が発生するタイミングｔＢｂ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＢｂ２を待ってから開始させるようにしてもよい。すなわちこの場合、第２Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ２」は、タイミングｔＢｂ２が到来するまでの間は、図１４４（α）に示される態様を維持するかたちで表示されることとなる。

【４７１４】

また、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｅ）及び図１６７（ａ）に示されるように、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する状況示唆表示ＪＢ２として、当該第２Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２）と、当該第２Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、タイガーとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ｂ２が表示されるようになっている。第２Ｂ受付許容状態では、「第２Ｂ

操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ２として、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２については、上記第１Ｂ受付許容状態で現れる味方キャラクタＹＳ－Ｂ１と異なる画像表示として表示するようにしてもよい。

【４７１５】

例えば、図１６６に示した例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ａ１（図１６７（ｂ）に示される演出状況）において、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【４７１６】

この例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ａ１において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１６７（ｂ）に示される演出状況）。

【４７１７】

より具体的には、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ａ１において、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、第２Ｂ受付後変化として、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【４７１８】

すなわち、第２Ｂ受付許容状態において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ｂ受付後表示」として、図１６７（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第２Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」が傷を負ったり、炎系魔法の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１６６（ｅ），（ｆ）や、図１６７（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第２Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第２Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【４７１９】
ただし、第２Ｂ受付許容状態では、第２Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第２Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第２Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。この場合、状況示唆表示ＪＢ２が表示されなくなることは言うまでもない。
【４７２０】
また、この例では、第２Ｂ受付許容状態において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ｂ受付後表示」のほか、上記「第２Ｂ受付後出力音」として、図１６６（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα２が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα２は、上記「第２Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものであり、上述の「第１の受付後出力音Ｓα１」とは異なる音である。またこの際、後述するが、「第２Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音Ｓβ２がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音Ｓβ２は、上記「第２Ｂ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα２については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第２Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能な音として出力されるものであればよい。
【４７２１】
また、この例では、上記タイミングｔＢｂ２－Ａ１が、図１６６（ｇ），（ｊ）に示されるように、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が出力状態にあり、且つ第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２が発光状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっているが、該タイミングｔＢｂ２－Ａ１において、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が非可聴の状態にされたり、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２が非発光の状態にされたりすることはない。
【４７２２】
すなわち、この例にかかる第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２は、該第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が可聴出力されているなかで「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付がどれだけなされて、いかなる判定結果が得られようとも（仮に、第２Ｂ受付許容状態が早期終了されるとしても）、該操作受付を契機としてその可聴状態が終了されることがないもの（操作受付にかかわらず、予め定められた時間分だけ出力されるもの）となっている。これに対し、この例にかかる第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２は、該第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２が発光状態にあるなかで「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機としてその発光状態が終了されない場合と終了される場合との両方があるものとなっており、ここでは、第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として、「第２Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態（第２Ｂ受付許容状態）」が早期終了される場合（タイミングｔＢｂ２－Ｃ２よりも前に終了される場合）に限り、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２の発光状態も併せて早期終了されるものとなっている。
【４７２３】
このように、第２Ｂ受付許容状態では、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高

いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４７２４】

ただし、このような第２Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【４７２５】

そしてこの例は、図１６６（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｂ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第２Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢｂ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４７２６】

この点、第２Ｂ受付許容状態は、「操作部（第２Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１６６（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２までの期間（第２Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第２Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４７２７】

ここで、第２Ｂ受付許容状態において第２Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第２Ｂ受付後表示として、図１６７（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【４７２８】

また、第２Ｂ受付許容状態において第２Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第２Ｂ受付後出力音が、上記「第２Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【４７２９】

ただし、第２Ｂ受付許容状態では、操作部（第２Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能（長押し機能）が有効化されると、このような受付後変化（１回分の動画表示、効果音（第２Ｂ受付後出力音）など）が複数回実行されるが、それらの実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）にされる。

【４７３０】

また、第２Ｂ受付許容状態では、操作部（第２Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応す

る効果音（第２Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は上記特定時間（第１Ｂ受付許容状態や第３Ａ受付許容状態で用いられる時間）よりも長い時間とされる場合があるようにしている。

【４７３１】

すなわちこの場合、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって不定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ２ａ」として表現することとしている。

【４７３２】

またこれも同様、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第２Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって不定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα２ａ」として表現することとしている。

【４７３３】

この点、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【４７３４】

したがって、当該期間内では、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ２（図１６６（ｅ）を参照）」や、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１６６（ｈ）を参照）」が、いずれも操作受付を契機として（演出進展する態様で）変化したり実行開始されたりすることはない。また、当該期間内では、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が途中終了されずその出力状態を維持することはもとより、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２も終了されずその発光状態を維持することとなる。

【４７３５】

このような構成によれば、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、図１６７中に示される「炎系の魔法攻撃」や「煙エフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ不定の間隔毎に繰り返し実行される（受付後変化が不定の時間間隔で繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ２ａ、第１の受付後出力音Ｓα２ａ）、「状況示唆表示ＪＢ２（図１６６（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【４７３６】

なお、「状況示唆表示ＪＢ２（図１６６（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２までの期間（第２Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２などの「状況示唆表示

ＪＢ２（図１６６（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【４７３７】

また、タイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間では、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ２（図１６６（ｅ）を参照）」や、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「第２の受付後出力音（図１６６（ｈ）を参照）」は、いずれも操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【４７３８】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ２ａが実行されている状況下（タイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２の期間）では、図１６７（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ２ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」が不定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ２」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【４７３９】

この点、図１６６や図１６７に示される演出例は、遊技者が、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｂ２―Ａ２において第２Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【４７４０】

ここで、第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｆ）や図１６７（ｃ）などに示されるように、タイミングｔＢｂ２―Ａ２において第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ２ａがこれを契機として非表示の状態にされる。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ２ａは、タイミングｔＢｂ２―Ａ２が到来したことを契機として（第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その実行状態が終了されることとなる。

【４７４１】

このような構成によれば、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ２ａがすぐに非表示の状態にされることから、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況は、早期に認識し易くされることとなる。そしてこのことは、当該第２Ｂ受付許容状態としての残り時間をあまり消費しないことを意味するから、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為の容易化を図ることが期待されるようになる。

【４７４２】

またこの例では、連打中表示ＨＢ２ａが表示されているなかで第２Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ２ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。

【４７４３】

このような構成によれば、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ２ａが非表示の状態にされて、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し易くなる。そしてこのことは、当該第２Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し易くなることを意味するから

、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為の容易化を図ることが期待されるようになる。当該作用効果については、上記一定の時間として「１秒」を設定した場合であっても得ることができるから、非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ２ａが非表示の状態にされるまでの時間については必ずしも「０秒」に設定しなくてもよい。

【４７４４】

また、第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα２ａについても、上記連打中表示ＨＢ２ａと同様、タイミングｔＢｂ２―Ａ２において第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされる。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα２ａは、タイミングｔＢｂ２―Ａ２が到来したことを契機として（第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その出力状態が終了されることとなる。なおこの際、その時点において可聴状態にある、第１の受付後出力音Ｓα２ａ以外の全ての音については、第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として非可聴の状態にされることがない。このことは、タイミングｔＢｂ２―Ａ２だけでなく、後述のタイミングｔＢｂ２―Ｂ３などにおいても同様であり、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、第１の受付後出力音Ｓα２以外の音が第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として非可聴の状態にされることはない。

【４７４５】

このような構成によれば、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα２ａがすぐに非出力の状態にされることとなり、この場合、オート連打機能が無効化されたことを好適に示唆することが期待されうる。

【４７４６】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα２ａが出力されているなかで第２Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα２ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。

【４７４７】

このような構成によれば、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα２ａが非出力の状態になるのかを予測し易くなる。そしてこのことは、当該第２Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し易くなることを意味するから、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする遊技手法の容易化を図ることが期待されるようになる。当該作用効果については、例えば、上記一定の時間として「０．５秒」を設定した場合であっても得ることができるから、非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα２ａが非出力の状態にされるまでの時間については必ずしも「０秒」に設定しなくてもよい。

【４７４８】

しかも、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、図１６６（ｆ）及び図１６７（ｃ）に示されるように、タイミングｔＢｂ２―Ａ２において第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、これを契機とした表示変化を新たに生じさせることとしている。

【４７４９】

ここで、第２Ｂ操作部が非操作状態にされることを契機とした表示変化とは、「それまで表示状態にあった連打中表示ＨＢ２ａが非表示の状態にされることによって、その背後側にもともと表示されていた表示画像が視認可能とされる」といったようなものではなく、第２Ｂ操作部が非操作の状態にされたことを契機とした処理を行うことによって何らかの新たな態様を出現させることであり、この例にかかる表示変化は、図１６７（ｃ）に示されるカットイン画像としての「非操作後表示ＨＢ２」を新たに表示開始させる処理を行

うことによって出現されている。このような構成によれば、第２Ｂ操作部が非操作の状態にされており、オート連打機能が無効化されている状態にあることをより確実に示唆することができるようになる。当該構成については、新たな表示を出現させる手法のほか、それまで表示されていた画像の態様を、別の態様に表示変化させる手法なども採用可能である。

【４７５０】

なお、この例にかかる「非操作後表示ＨＢ２」は、演出の進展度合いによって異なる複数態様が用意されており、タイミングｔＢｂ２―Ａ２では、演出が進展していないことを示唆する態様ＨＢ２ａで表示されるようになっている。ただし、「非操作後表示ＨＢ２」については、必ずしも演出の進展度合いを示唆する複数態様を用意するものでなくてもよい。若しくは、演出の進展度合いを示唆する複数態様のいずれかで表示される種別の第１非操作後表示と、演出の進展度合いを示唆しない一の態様でのみ表示される種別の第２非操作後表示との両方が「非操作後表示ＨＢ２」として表示されるようにしてもよい。

【４７５１】

この点、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、第２Ｂ操作部が非操作状態にされる場合、これを契機として、新たな表示態様（非操作後表示ＨＢ２）を表示させるものの、該表示に対応する音を新たに出力開始させることはないようにしている。

【４７５２】

また、図１６７（ｃ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ２の態様（ここでは、態様ＪＢ２ａ）は、操作前の状態（図１６７（ａ）を参照）と同じであり、これによっても演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ２の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１６７（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【４７５３】

なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ２のうち、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２については、「非操作後表示ＨＢ２」によって視認し難くされることがないようにすることとしており、これによって状況示唆表示ＪＢ２の態様を通じて演出内容の進展度合いを容易に把握することができるようにしている。味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２についても、「非操作後表示ＨＢ２」によって視認し難くされることがないようにしてもよい。

【４７５４】

この点、「非操作後表示ＨＢ２」については、その態様にかかわらず、第２Ｂ操作部が非操作の状態にされてから所定時間が経過したときに非表示にするようにしてもよいが、この例では、当該第２Ｂ受付許容状態が継続している間はその表示状態を継続させることとし、当該第２Ｂ受付許容状態が終了するタイミングｔＢｂ３が到来したこと、または遊技者による操作受付が新たに生じたことを契機として非表示にされるようにしている。このような構成によれば、第２Ｂ受付許容状態が継続している途中段階で遊技者が操作を続けようとする意志を喪失した場合であっても、非操作後表示ＨＢ２の表示状態が当該第２Ｂ受付許容状態の終了されるタイミングｔＢｂ３まで継続されるようになるから、それまで操作した分の演出結果が現れているように見せることが可能であり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。なお、このような非表示としては、それまで表示されていた表示態様を、これとは別の表示態様に変化させることによって非表示とする手法を採用するようにしてもよい。

【４７５５】

そしてこの例では、図１６６（ａ）に示されるように、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｂ１（図１６７（ｄ）に示される演出状況）において、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４７５６】
この例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｂ１において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６７（ｄ）に示される演出状況）。
【４７５７】
より具体的には、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｂ１において、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、非操作後表示ＨＢ２（態様ＨＢ２ａ）を非表示にした上で、第２Ｂ受付後変化として、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα２（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。
【４７５８】
この例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｂ１で第２Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６７（ｄ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｂ２－Ａ１で第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第２Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後表示や、第２Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【４７５９】
この点、図１６６や図１６７に示される演出例は、タイミングｔＢｂ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第２Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｂ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。
【４７６０】
したがって、当該「タイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３までの期間（第２Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第２Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。
【４７６１】
そして、当該「タイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３までの期間（第２Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ２ａや、第１の受付後出力音Ｓα２ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２までの期間」の場合（図１６７（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【４７６２】
ただし、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｂ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１６７（ｅ）に示される演出状況）。
【４７６３】

したがって、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【４７６４】

より具体的には、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｂ２－Ｂ２」では、図１６６（ｅ）及び図１６７（ｅ）に示されるように、第２Ｂ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ２の態様を、それまで現れていた「態様ＪＢ２ａ」から、これとは異なる「態様ＪＢ２ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１６７（ｅ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２による炎系魔法がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＢ２の態様変化を通じて、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【４７６５】

そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第２Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ｂ受付後表示」として、図１６７（ｅ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が強度の高くなった炎系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【４７６６】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第２Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第２Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２」が炎系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【４７６７】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｂ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【４７６８】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢｂ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が炎系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として不定の間隔（予め定められていない時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって不定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示」による繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ２ｂ」として表現することとしている。

【４７６９】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｂ２－Ｂ２」が到来すると、図１６６（ｅ），（ｆ）及び図１６７（ｄ），（ｅ）に示されるように、状況示唆表示ＪＢ２の態様が「態様ＪＢ

２ａ」から「態様ＪＢ２ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＢ２の態様についても「態様ＨＢ２ａ」から「態様ＨＢ２ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｂ２－Ｂ２～ｔＢｂ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＢ２が「態様ＪＢ２ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＢ２が「態様ＨＢ２ｂ」で実行されることとなる。

【４７７０】

なおこの例では、連打中表示ＨＢ２の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ２を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ２を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＢ２の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第２Ｂ受付許容状態については、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りである。

【４７７１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第２Ｂ受付許容状態において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第２Ｂ受付後表示」のほか、上記「第２Ｂ受付後出力音」として、図１６６（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第２Ｂ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα２のほか、図１６６（ｉ）に示されるように、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音Ｓβ２が出力可能であることも上述した通りである。

【４７７２】

したがって、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｂ２－Ｂ２が到来すると、同図１６６（ｉ）に示されるように、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音Ｓβ２が態様Ｓβ２ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音Ｓβ２については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音Ｓα２よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。

【４７７３】

ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα２については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｂ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα２が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢｂ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【４７７４】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｂ２－Ｂ１からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα２）がオート連打機能によって不定の間隔毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα２ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα２ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢｂ２－Ａ１からタイミングｔＢｂ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４７７５】
なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα２ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。
【４７７６】
ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ２ｂが実行されている状況下（タイミングｔＢｂ２－Ｂ２からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３の期間）においても、図１６７（ｅ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ２ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ２が、強度の高い炎系の魔法で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２を攻撃する態様（煙エフェクトや、炎系魔法の発生など）」が不定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ２」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。
【４７７７】
この点、図１６６や図１６７に示される演出例は、遊技者が、当該第２Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３において第２Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【４７７８】
ここで、上述の通り、第２Ｂ受付許容状態では、当該第２Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第２Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ２がこれを契機として非表示の状態にされる。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ２ｂは、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３が到来したことを契機として（第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その実行状態が終了されることとなる。
【４７７９】
また、これも連打中表示ＨＢ２ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ２ｂが表示されているなかで第２Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ２ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。
【４７８０】
しかも、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、これを契機とした表示変化を新たに生じさせるものとなっていることは上述した通りである。したがって、図１６６（ｆ）及び図１６７（ｆ）に示されるように、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３において第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにも、これを契機として、図１６７（ｆ）に示されるカットイン画像としての「非操作後表示ＨＢ２」を新たに表示開始させる処理を行うこととなる。なお、これも上述したが、この例にかかる「非操作後表示ＨＢ２」は、演出の進展度合いによって異なる複数態様が用意されており、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３では、演出内容が１段階進展したことを示唆する態様ＨＢ２ｂで表示されている。
【４７８１】
図１６７（ｆ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ２や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ２、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ２など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ２の態様（ここでは、態様ＪＢ２ｂ）によっても、演出内容が１段階進展したことが示唆される。
【４７８２】
また上述の通り、第２Ｂ受付許容状態では、当該第２Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第２Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα２を、これを契機として非可聴の状態にさせる。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα２ａは、タイ

ミングｔＢｂ２―Ｂ３が到来したことを契機として（第２Ｂ操作部が非操作状態にされたことを契機として）、その出力状態が終了されることとなる。

【４７８３】

ただし、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２―Ｂ３は、タイミングｔＢｂ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音Ｓβ２が出力状態を継続しているなかで、第２Ｂ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。

【４７８４】

この点、第２Ｂ受付許容状態では、第２の受付後出力音Ｓβ２については、上記第１の受付後出力音Ｓα２の場合とは異なり、第２Ｂ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にする）ことがない。したがって、図１６６（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３において第２Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音Ｓβ２ｂ－１は、タイミングｔＢｂ２―Ｂ３以降も（第２Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【４７８５】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα２ａが出力されているなかで第２Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα２ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間（ここでは「０秒」）として設定するようにしている。これに対し、第２の受付後出力音Ｓβ２については、該第２の受付後出力音Ｓβ２が出力されているなかで第２Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音Ｓβ２が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。すなわちこの場合、第２Ｂ操作部に対する操作を中断すると、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα２と第２の受付後出力音Ｓβ２とで異なる演出性が提供されるようになる。

【４７８６】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第２Ｂ受付許容状態においても、第２Ｂ受付後出力音（第２の受付後出力音Ｓβ２ｂ）が実行状態にあるなかで第２Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１６６（ｉ）に示されるように、第２Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、第２Ｂ受付後出力音（第２の受付後出力音Ｓβ２ｂ）が実行状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第２Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｂ２―Ｂ３からの時間経過）によって、図１６６（ｉ）などに示されるように、継続されていた第２Ｂ受付後出力音（第２の受付後出力音Ｓβ２ｂ）は非出力の状態にされることとなる。

【４７８７】

この点、この演出例では、図１６６（ａ）に示されるように、第２Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢｂ２―Ｂ３以降であり、且つ第２Ｂ受付後出力音（第２の受付後出力音Ｓβ２ｂ）が可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｂ２－Ｃ１（図１６７（ｇ）に示される演出状況）において第２Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４７８８】

この例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１において「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｂ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６７（ｇ）に示される演出状況）。

【４７８９】

より具体的には、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１において、「第２

Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６６（ｆ），（ｈ）に示されるように、非操作後表示ＨＢ２（態様ＨＢ２ｂ）を非表示にした上で、第２Ｂ受付後変化として、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα２（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第２Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第２Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４７９０】

この例では、第２Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１で第２Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が上記１段階目の進展態様から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６７（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｂ２－Ｂ２で第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第２Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたとき（図１６７（ｅ）に示される態様）と同じ態様で、該第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後表示や、第２Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４７９１】

ただし上述の通り、この例では、第２Ｂ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ１が、第２の受付後出力音Ｓβ２が可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【４７９２】

この場合、第２の受付後出力音Ｓβ２は、タイミングｔＢｂ２－Ｃ１で第２Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続する。なお、第２Ｂ受付許容状態に対応する第１の受付後出力音Ｓα２は、第２Ｂ操作部が非操作状態にされることを契機として非可聴の状態にされるものであるから、第２Ｂ操作部が再操作される時点で可聴状態にされていることがない。

【４７９３】

このような構成によれば、第２Ｂ受付許容状態では、操作受付に応じた第２Ｂ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第２Ｂ受付後出力音が終了される場合がなく、必ず終了されない（第２の受付後出力音Ｓβ２）ようになる。なおこの際、その時点において可聴状態にある、第２の受付後出力音Ｓβ２以外の全ての音についても、それまで非操作の状態にあった第２Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことを契機として非可聴の状態にされることがない。このことは、タイミングｔＢｂ２―Ｃ１けでなく、タイミングｔＢｂ２―Ｂ１などにおいても同様であり、すなわちこの例にかかる第２Ｂ受付許容状態では、それまで可聴状態にあった音が、第２Ｂ操作部が再び操作状態にされたことを契機として非可聴の状態にされることはない。

【４７９４】

なお、連打中表示ＨＢ２についても、第１の受付後出力音Ｓα２と同様、第２Ｂ操作部が非操作状態にされることを契機として非表示の状態にされるものであるから、第２Ｂ操作部が再操作される時点で表示状態にされていることがない。

【４７９５】

また、図１６６や図１６７に示される演出例は、タイミングｔＢｂ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第２Ｂ操作部の操作状態）を、第２Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２（当該第２Ｂ受付許容状態が終了されるタイミング）が到来した時点においても継続しており、これによってタイミングｔＢｂ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【４７９６】

したがって、当該「タイミングｔＢｂ２－Ｃ１からタイミングｔＢｂ２－Ｃ２までの期

間（第２Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第２Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４７９７】

そして、当該「タイミングｔＢｂ２－Ｃ１からタイミングｔＢｂ２－Ｃ２までの期間（第２Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ２ｂや、第１の受付後出力音Ｓα２ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、上述の「タイミングｔＢｂ２－Ｂ２からタイミングｔＢｂ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１６７（ｅ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４７９８】

なお、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ｃ１からタイミングｔＢｂ２－Ｃ２の期間で、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内の所定タイミングでなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）は、図１４９や図１５１などを参照しつつ上述した通りの演出進展が現れることとなるが、その演出の詳細についても上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４７９９】

ただし上述の通り、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態は、上述の「第２Ａ受付許容状態」として実現された場合を想定したものとなっているものの、上述の「第２Ａ受付許容状態」の場合（図１４９，図１５１）とは異なり、受付後変化として特別の態様（例えば、上述の態様ＪＢ１ｃに相当する態様）が現れない場合を想定したものとなっている。

【４８００】

したがって、図１６６に示した例にかかるタイミングｔＢｂ２－Ｃ１からタイミングｔＢｂ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１６７（ｇ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。

【４８０１】

この点、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときも、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ２を、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間（例えば０秒）で）非表示の状態にするようにしている。ただし、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときは、タイミングｔＢｂ２－Ａ２や、タイミングｔＢｂ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されるときとは異なり、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ２を、これを契機として非表示の状態にしないようにしてもよい。このような構成によれば、オート連打機能が無効化された以降の連打中表示ＨＢ２の表示状況を通じて、第２Ｂ受付許容状態が終了されたか否かを示唆することができるようになる。

【４８０２】

また、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときにも、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα２ａを、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にするようにしている。ただし、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときは、タイミングｔＢｂ２－Ａ２や、タイミングｔＢｂ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されるときとは異なり、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα２ａを、これを契機として非可聴の状態にしないようにしてもよい。このような構成によれば、オート連打機能が無効化された以降の第１の受付後出力音Ｓα２ａ

の出力状況を通じて、第２Ｂ受付許容状態が終了されたか否かを示唆することができるようになる。

【４８０３】

また、この例では、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が、タイミングｔＢｂ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音ＳＢ２ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合、「第１の受付後出力音Ｓα２ａ」とは異なり、タイミングｔＢｂ２―Ｃ２が到来したことを契機として、実行途中の状態にある「第２の受付後出力音ＳＢ２」の出力状態を終了させず、その残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにすることが望ましい。

【４８０４】

なお、第１の受付後出力音Ｓα２ａについては、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときに、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にする場合と、非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい。例えば、大当りが得られている期待度が高いときには非可聴の状態にされるが、大当りが得られている期待度が低いときには非可聴の状態にされないようにすれば、大当りが得られている期待度を示唆することができるようになる。

【４８０５】

また、「連打中表示ＨＢ２」や「第１の受付後出力音Ｓα２」については、実行途中の状態にあるときにタイミングｔＢｂ２―Ｃ２が到来したときも、それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしてもよい。

【４８０６】

そしてこの例では、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、遊技者に対して操作を促す第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２が非発光の状態にされる。すなわち、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２は、第２Ｂ受付許容状態が発生するときに発光開始され、第２Ｂ受付許容状態が終了するときに発光終了されるものである。これにより、操作受付が許容される状態になったことや、操作受付が許容されない状態になったことを示唆するようにしている。

【４８０７】

すなわちこの場合、この例にかかる「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ受付後演出）」では、当該第２Ｂ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様（例えば、上述の態様ＪＢ２ｃに相当する態様）」が現れることのないままで、当該第２Ｂ受付許容状態が終了したことが示唆されることとなる（これは下記構成を備えるにあたり、必須の構成ではない）。

【４８０８】

この点、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２や、メッセージ表示ＭＢ２、状況示唆表示ＪＢ２などについては、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来した時点で非表示にせず、該タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来して第２Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなった以降も所定の時間（予め定められた時間）にわたって表示されるものとしており、これによってタイミングｔＢｂ２－Ｃ２以降も、遊技者に対して「第２Ｂ操作部に対する操作受付がなされて受付後変化を新たに生じさせるチャンスがまだ残されているかもしれない」といった期待感が付与されるようにしている。

【４８０９】

なおこの例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２については、タイミングｔＢｂ１で表示開始された以降、操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２を経た後、タイミングｔＢｂ３で非表示の状態にされるものとなっている。また、状況示唆表示ＪＢ２については、タイミングｔＢｂ３が到来した時点においても非表示の状態にされず、それ以降の適宜のタイミングで非表示の状態にされるものとなっている。ただし上述の通り、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２及びメッセージ表示ＭＢ２の表示タイミングや、非表示にされるタイミングは互いに異なるようにしてもよいし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２及び

メッセージ表示ＭＢ２の一方のみが操作関連表示として表示されるようにしてもよい。また、状況示唆表示ＪＢ２については、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２と同じタイミングで非表示の状態にするようにしてもよい。

【４８１０】

そしてこの例では、タイミングｔＢｂ２－Ｃ１から開始されている「第１Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２が非表示の状態にされるタイミングｔＢｂ３が到来した時点や、さらには状況示唆表示ＪＢ２が非表示の状態にされるタイミングが到来した時点においても継続している場合を想定したものとなっている。

【４８１１】

ただし、第２Ｂ受付許容状態から「第１Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｂ２―Ｃ２以降）は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２が非表示の状態にされるタイミングｔＢｂ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ２が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第２Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生することはない。

【４８１２】

したがって、タイミングｔＢｂ２―Ｃ１からタイミングｔＢｂ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ２が非表示の状態にされるタイミング）まで「第２Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないようになっている。

【４８１３】

なお、図１６７（ｈ）に示した例では、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来したことに基づいて「Ｆａｉｌ！！」といった表示が行われるようにしているが、該タイミングｔＢｂ２－Ｃ２が到来したことに基づいて何らの表示も新たに出現しないようにしてもよい。

【４８１４】

また、第２Ｂ受付許容状態を、上述した第２Ａ受付許容状態として実現した場合、上述した第２Ａ受付許容状態において説明した構成については、当該第２Ｂ受付許容状態において説明していなくても有するものである。またこの場合、上述した第２Ａ受付許容状態に対して適用可能として記載した別例等にかかる構成についても、当該第２Ｂ受付許容状態に対して適用可能であることは言うまでもない。例えば、第２Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として用意されるものとなっている。

【４８１５】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第３Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１６８は、上記発生条件として「条件３Ｂ」が満たされたことに基づいて「第３Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１６９は、「第３Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【４８１６】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第３Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第３Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第３Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第３Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第３Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【４８１７】

図１６８（ｂ）に示されるように、「第３Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期

間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第３Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｃ２が到来したことに基づいて（「条件３Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ３や、第３Ｂ連打中表示ＨＢ３、第３Ｂ受付後出力音Ｓα３など）に関しての第３Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第３Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１６９（ａ）に示される状況）。

【４８１８】

ここで、この実施の形態にかかる第３Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第３Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で複数回の操作受付が許容される上記「操作ボタン４１０」ではなく、上記「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第３Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【４８１９】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１６８（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第３Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ３と、操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ３と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ３とを、当該第３Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｃ１が到来したときに表示するものとなっている。また、この例にかかるタイミングｔＢｃ１では、遊技者に対して操作を促す第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｃ１～ｔＢｃ２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されている状況下にもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【４８２０】

なお後述するが、この例にかかる第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、図１６８（ｇ）に示されるように、上記第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や上記第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２の場合とは異なり、「特定態様の出力音」が複数回繰り返し再生されるかたちで可聴出力されるものとなっている。繰り返し再生させる手法としては、１回分の「特定態様の出力音」が記憶された音データを用意しておき該音データを複数回再生させる手法のほか、複数回分の「特定態様の出力音」が記憶された音データを用意しておき該音データを１回だけ再生させる手法など、繰り返し再生されているように聞こえる手法であれば、いずれの手法を採用してもよい。このような構成によれば、操作関連出力音が繰り返されるかたちで再生されたときには、「操作ボタン４１０」ではなく、「刀装飾体５００１」に対する操作受付が許容されることを示唆することができるようになり、遊技者による操作誤りを好適に抑制することが期待されうる。

【４８２１】

ここで、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３や、メッセージ表示ＭＢ３、状況示唆表示ＪＢ３、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、必ずしも第３Ｂ受付許容状態が発生するよりも前に現れるものでなくてもよく、第３Ｂ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＢ３については、第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＢ３が表示されるタイミングと、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が開始されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＢ３は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【４８２２】
　また、当該第３Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件３Ｂ」については、上述の「条件１Ｂ」や「条件２Ｂ」などとは異なり、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されるタイミングが到来するよりも前に満たされる場合と、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されるタイミングが到来した後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。
【４８２３】
　このような構成を採用した場合、第３Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されるタイミングが到来するよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１６８に示したタイミングｔＢｃ２が、タイミングｔＢｃ１よりも前に到来する場合）と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されるタイミングが到来した後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１６８に示したタイミングｔＢｃ２が、タイミングｔＢｃ１よりも後に到来する場合）との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【４８２４】
　ただし、図１６８に示したタイミングｔＢｃ２がタイミングｔＢｃ１よりも前に到来した当該第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、図１６８に示したタイミングｔＢｃ２がタイミングｔＢｃ１よりも後に到来した当該第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【４８２５】
　なお、当該第３Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件３Ｂ」については、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されるタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。
【４８２６】
　また、これらの構成を採用する場合におけるタイミングｔＢｃ１、タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）の設定手法については、適宜採用してもよい。以下に、実現例を列記しておくが、これらは一例にすぎず、これ以外の手法でも実現可能であることは言うまでもない。
【４８２７】
　例えば、図柄変動が開始されてからの経過時間を当該「タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）」として設定する場合は、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。若しくは、図柄変動が終了されるまでの残り時間を「タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）」として設定する場合は、当該残り時間として複数を用意することとした上で、それら残り時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。また若しくは、図柄変動が実行されていない期間内でタイ

ミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）を設定する場合は、例えば、図柄変動が非実行の状態にされてからの経過時間や、大当り遊技が開始されてからの経過時間などを当該「タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）」として設定することとし、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。なお、これら手法のいずれかを採用する場合、タイミングｔＢｃ１は、予め定められたタイミングでのみ発生することとなる。

【４８２８】

また、これとは逆に、タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）に代えて、タイミングｔＢｃ１を、上述したタイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）の設定手法のいずれかを用いて到来するようにし、タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）を、予め定められたタイミングでのみ発生するようにしても、同様の構成を実現することが可能である。

【４８２９】

また若しくは、「タイミングｔＢｃ１」の発生条件と、「タイミングｔＢｃ２」の発生条件とを、それぞれ所定確率でその都度抽選することとし、「タイミングｔＢｃ１」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｃ２」が到来するようにするのに対し、「タイミングｔＢｃ２」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｃ１」が到来するようにすることとしてもよい。

【４８３０】

この例にかかる摸画像表示ＭＧ－Ｂ３や、メッセージ表示ＭＢ３、状況示唆表示ＪＢ３については、表示開始された以降は、第３Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第３Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている（必須の構成ではない）。これに対し、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、当該第３Ｂ受付許容状態の途中で非可聴の状態にされるものとなっているが、必ずしも途中で終了されないようにしてもよい。

【４８３１】

また、当該第３Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｃ３や、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも前に満たされる場合と、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｃ３や、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。

【４８３２】

このような構成を採用した場合、第３Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４８３３】

ただし、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部（ここで

は、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されなくなるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４８３４】

なお、当該第３Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされるタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。

【４８３５】

また、これらの構成を採用する場合における上記各タイミングの設定手法については、適宜に採用してもよい。これら２つのタイミングの前後にかかる設定手法については、例えば、上述した「タイミングｔＢｃ１」と「タイミングｔＢｃ２（条件３Ｂ）」との前後にかかる設定手法などを踏襲してそれぞれ設定することが可能である。

【４８３６】

ここで、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｂ），（ｊ）に示されるように、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢｃ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が発光されないようになっている。この場合、第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）には発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。

【４８３７】

このような構成によれば、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるにもかかわらず、操作促進発光が実行されないこととなる。すなわちこの場合、操作促進発光が行われる場合と比べると、操作受付が許容されている状態にあることを相対的に認識し難くさせることができるから、操作受付が許容される状態にあることを操作関連表示によって示唆しつつも緊張感を維持することが期待されうるようになる。

【４８３８】

ここで、第３Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ３」は、その配色として「所定配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」が用いられるようになっている。ただし、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を、複数の配色のなかから選択的に用いて表示されるようにしてもよい。

【４８３９】

また、第３Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ３」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分における所定の動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期３Ｂ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期３Ｂ時間は、第１Ｂ受付許容状態で現れる周期１Ｂ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されていることから、当該第３Ｂ受付許容状態では、上述の第１Ｂ受付許容状態と比べて「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【４８４０】

また、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｃ），（ｄ）及び図１６９（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３のほか、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「鬼を攻撃！刀を「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示されるものとなっている。

【４８４１】

ただし、第３Ｂ受付許容状態では、第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されるものであればよく、例えば、該操作関連表示として、摸画像表示及びメッセージ表示の少なくとも一方が表示されるものであれば、それらの両方を必ずしも実行しなくてもよい。

【４８４２】

また、第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｃ），（ｄ）に示されるように、第３Ｂ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＢｃ３が到来するときまで摸画像表示及びメッセージ表示が継続して表示され、タイミングｔＢｃ３において非表示の状態にされる。したがって、第３Ｂ受付許容状態が継続されている間、当該第３Ｂ受付許容状態が終了されるタイミングｔＢｃ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしている。ただし、当該描写についても、必ずしも行わないようにしてもよい。

【４８４３】

また、第３Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ３」を、当該第３Ｂ受付許容状態が発生するタイミングｔＢｃ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＢｃ２を待ってから開始させるようにしてもよい。

【４８４４】

また、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｅ）及び図１６９（ａ）に示されるように、当該第３Ｂ受付許容状態に対応する状況示唆表示ＪＢ３として、当該第３Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３）と、当該第３Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、鬼として描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ｂ３が表示されるようになっている。第３Ｂ受付許容状態では、「第３Ｂ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ３として、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３については、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で現れる味方キャラクタＹＳ－Ｂ１，ＹＳ－Ｂ２と異なる画像表示として表示するようにしてもよい。また、当該第３Ｂ受付許容状態では、状況示唆表示ＪＢ３については必ずしも表示しないようにしてもよい。

【４８４５】

例えば、図１６８に示した例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ａ１（図１６９（ｂ）に示される演出状況）において、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【４８４６】

この例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ａ１において「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１６８（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１６９（ｂ）に示される演出状況）。

【４８４７】

より具体的には、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ａ１において、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６

８（ｆ），（ｈ）に示されるように、第３Ｂ受付後変化として、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第３Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第３Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【４８４８】

すなわち、第３Ｂ受付許容状態において「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ｂ受付後表示」として、図１６９（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第３Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」が傷を負ったり、剣技の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１６８（ｅ），（ｆ）や、図１６９（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第３Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第３Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【４８４９】

ただし、第３Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合（演出内容に演出度合いの設定がある受付許容状態）とは異なり、第３Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第３Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。この場合、状況示唆表示ＪＢ３が表示されなくなることは言うまでもない。

【４８５０】

また、この例では、第３Ｂ受付許容状態において「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ｂ受付後表示」のほか、上記「第３Ｂ受付後出力音」として、図１６８（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα３が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα３は、上記「第３Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）」に対応する効果音として機能するものである。ただし後述するが、当該第３Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、「第３Ｂ受付後出力音」として、第１の受付後出力音Ｓα３とは異なる出力音がさらに出力される可能性はないようになっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα３については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第３Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能な音として出力されるものであればよい。

【４８５１】

ただし、第３Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、第３Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、受付後表示を必

ずしも表示しないようにしてもよいし、受付後出力音を必ずしも出力しないようにしてもよい。例えば、第３Ｂ受付許容状態では、第３Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、所定発光部における所定発光のみが現れるようにしたり、または特定可動体における特定動作のみが現れるようにしたりしてもよい。要は、第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化としての第３Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が少なくとも複数回実行（発生）されるものであればよい。

【４８５２】

また、この例では、上記タイミングｔＢｃ２－Ａ１が、図１６８（ｇ），（ｊ）に示されるように、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が出力状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっているが、該タイミングｔＢｃ２－Ａ１において、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付を契機として第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされることはない。

【４８５３】

すなわち、この例にかかる第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されているなかで「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付がどれだけなされて、いかなる判定結果が得られようとも（仮に、第３Ｂ受付許容状態が早期終了されるとしても）、該操作受付を契機としてその可聴状態が終了されることがないもの（操作受付にかかわらず、予め定められた時間分だけ出力されるもの）となっている。

【４８５４】

ただし後述するが、この例にかかる第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、予め定められた出力時間にわたって出力される場合はもとより、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合もあるものとなっている。当該構成を実現する手法としては、例えば、図柄変動の開始に際して、図柄変動パターンの種別にかかる判定とは別の、演出判定の１つとして、時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力を早期終了させるか否かを判定したり、いずれのタイミングで早期終了させるのかを判定したりする手法のほか、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の出力に際して、演出判定の１つとして、時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力を早期終了させるか否かを判定したり、いずれのタイミングで早期終了させるのかを判定したりする手法を採用することも可能である。若しくは、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３を、「第３Ｂ変動パターン」内のいくつかのタイミングで出力開始されうるものとした上で、それらタイミングのいずれで出力開始されたかに応じて、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が時間範囲ＴＢｃの区間内でその可聴出力が早期終了されること（または、早期終了されないこと）や、同区間内のいずれのタイミングで早期終了されるのかなどを予め定めておく手法を採用することも可能である。または、単に、可聴出力の状況にあるなかで所定時間単位で早期終了させることについての演出判定を行うこととし、該演出判定で特別の結果が得られた時点で早期終了させるようにする手法を採用することも可能である。要は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合があるようにすればよく、その実現手法は特に限定されるものでない。なお、当該構成は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されているなかで少なくとも遊技が適正に進行されている状況下にあるときに機能するものである。

【４８５５】

この点、「第３Ｂ変動パターン」で図柄変動が実行されている期間内で、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた時間分だけ出力されず早期終了された場合には、該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が早期終了されなかった場合よりも、大当り判定の結果として大当りが得られている割合が高くなるように、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の早期終了にかかる条件を設定するようにしてもよい。このような構成によれば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が出力された場合は、第３Ｂ操作部に対する操作受付にかかる状況や、該操作受付

に応じた受付後変化への興味はもとより、該操作受付とは関係のないところでの当該「第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の早期終了」にかかる演出性が提供されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【４８５６】

若しくは、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた時間分だけ出力されず早期終了された場合には、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が早期終了されなかった場合よりも、該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされた時点から特別時間（例えば、１０秒）以内に、後述の第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示や第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４（図１７０を参照）が現れる割合が高くなるように、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の早期終了にかかる条件を設定するようにしてもよい。該割合は、０％や１００％であってもよい。このような構成であっても、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が出力された場合は、第３Ｂ操作部に対する操作受付にかかる状況や、該操作受付に応じた受付後変化への興味はもとより、該操作受付とは関係のないところでの当該「第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の早期終了」にかかる演出性が提供されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【４８５７】

なお上述の通り、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が可聴出力されているなかで少なくとも遊技が適正に進行されている場合は、それら操作関連出力音はいずれも、予め定められた再生時間だけ必ず出力されるようになっており、再生途中で非出力の状態にされることはない。ただしこの場合、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が非可聴の状態にされた時点から特別時間（例えば、１０秒）以内に、「第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されて且つ複数回の操作受付が許容される受付許容状態」に対応する操作関連表示や操作関連出力音が現れる割合は、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされた時点から特別時間（例えば、１０秒）以内に、後述の第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示や第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４（図１７０を参照）が現れる割合よりも低いようになっている。また、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が非可聴の状態にされた時点から特別時間（例えば、１０秒）以内に、「第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されて且つ複数回の操作受付が許容される受付許容状態」に対応する操作関連表示や操作関連出力音が現れる割合は、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態にされた時点から特別時間（例えば、１０秒）以内に、後述の第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示や第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４（図１７０を参照）が現れる割合よりも低いようになっている。該割合は、０％や１００％であってもよい。

【４８５８】

このように、第３Ｂ受付許容状態では、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃する描写とその効果音として現れるものとなっており（１回分の受付後変化）、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている（複数回分の受付後変化）。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【４８５９】

ただし、このような第３Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第３Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受

付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【４８６０】

そしてこの例は、図１６８（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｃ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第３Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢｃ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【４８６１】

この点、第３Ｂ受付許容状態は、「操作部（第３Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１６８（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第３Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４８６２】

ここで、第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第３Ｂ受付後表示として、図１６９（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【４８６３】

また、第３Ｂ受付許容状態において第３Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第３Ｂ受付後出力音が、上記「第３Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【４８６４】

ここで、第３Ｂ受付許容状態では、操作部（第３Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、このような受付後変化（１回分の動画表示、効果音（第３Ｂ受付後出力音）など）が複数回実行されるが、それらの実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）にされる。

【４８６５】

また、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態では、操作部（第３Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第３Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようになっている。ただし、第３Ｂ受付許容状態における当該間隔については、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔とは異なる時間の長さとして設定されるようにすることが望ましく、例えば、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔よりも長い時間であり且つ特定時間（例えば１秒）以下の時間として設定するようにしてもよい。

【４８６６】
すなわちこの場合、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ３ａ」として表現することとしている。
【４８６７】
またこれも同様、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第３Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα３ａ」として表現することとしている。
【４８６８】
この点、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。
【４８６９】
したがって、当該期間内では、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ３（図１６８（ｅ）を参照）」が、操作受付を契機として（演出進展する態様で）変化したり実行開始されたりすることはない。またこの例では、当該期間内では、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が途中終了されずその出力状態を維持する場合を想定したものになっている。
【４８７０】
このような構成によれば、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、図１６９中に示される「剣技攻撃」や「斬撃のエフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間間隔で繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ３ａ、第１の受付後出力音Ｓα３ａ）、「状況示唆表示ＪＢ３（図１６８（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【４８７１】
なお、「状況示唆表示ＪＢ３（図１６８（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３などの「状況示唆表示ＪＢ３（図１６８（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。
【４８７２】
また、タイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ３（図１６８（ｅ）を参照）」は、操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演

出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。
【４８７３】
ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ３ａが実行されている状況下（タイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間）では、図１６９（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ３ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ３」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。
【４８７４】
この点、図１６８や図１６９に示される演出例は、遊技者が、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｃ２―Ａ２において第３Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【４８７５】
ここで、第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｃ２―Ａ２において第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ３ａ（受付後変化）がこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ１ａは、タイミングｔＢｃ２―Ａ２以降も（第３Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（１回分の受付後変化が実行し終わるまでの間）は、その実行状態が継続されることとなる。
【４８７６】
このような構成によれば、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ３ａがすぐには非表示の状態にされない（受付後変化が１回分の実行途中で途中終了されない）ことから、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第３Ｂ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。
【４８７７】
またこの例では、連打中表示ＨＢ３ａが表示されているなかで第３Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ３ａが非表示の状態にされるまでの時間（実行途中の状況下にあった１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【４８７８】
このような構成によれば、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ３ａが非表示の状態にされて、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第３Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。
【４８７９】
また、第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα３ａについても、上記連打中表示ＨＢ３ａと同

様、タイミングｔＢｃ２―Ａ２において第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα３ａは、タイミングｔＢｃ２―Ａ２以降も（第３Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【４８８０】

このような構成によれば、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα３ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４８８１】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα３ａ（第３Ｂ事象）が出力されているなかで第３Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４８８２】

このような構成によれば、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα３ａ（第３Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第３Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４８８３】

また、第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３についても、タイミングｔＢｃ２―Ａ２において第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。

【４８８４】

また、この実施の形態にかかる第３Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ３ａ及び第１の受付後出力音Ｓα３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１６８（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第３Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ３ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＢ３ａが出力状態を継続している状況が現れるようになっている。ただしこの後、第３Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１６８（ｆ），（ｈ）や、図１６９（ｃ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ３ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音Ｓα３ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ３の態様（ここでは、態様ＪＢ３ａ）を容易に認識することができるようになる（図１６９（ｃ）を参照）。

【４８８５】

ただし上述の通り、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。なお、第３Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、

例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【４８８６】

したがって、図１６９（ｃ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ３の態様（ここでは、態様ＪＢ３ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１６９（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ３の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１６９（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【４８８７】

そしてこの例では、図１６８（ａ）に示されるように、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｂ１（図１６９（ｄ）に示される演出状況）において、「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４８８８】

この例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｂ１において「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１６８（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６９（ｄ）に示される演出状況）。

【４８８９】

この点、この演出例では、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力に要する時間（予め定められた再生時間）が経過するよりも前のタイミングｔＢｃ２－Ｂ１において、「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合を想定したものとなっているが、当該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３とは、上述の通り、第３Ｂ操作部に対する操作受付の状況等による影響を受けないものであるから、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１における操作受付を契機としてその可聴出力にかかる状態が終了されることはない。

【４８９０】

ただし上述の通り、この例にかかる第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、第３Ｂ操作部に対する操作受付の状況等による影響を受けないものであり、本来、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃにわたって（予め定められた再生時間にわたって）可聴出力される状態を維持するものであるが、該時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合があるものである。

【４８９１】

そしてこの例では、図１６８（ｇ）に示されるように、タイミングｔＢｃ２－Ａ２からタイミングｔＢｃ２－Ｂ１までの間にあるタイミングｔＢｃ２－Ｘにおいて、当該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了される条件が満たされた場合を想定したものとなっている。

【４８９２】

したがって、この演出例では、図１６８（ｇ）に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｘにおいて、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了されることとなる。ただしこの際、第３Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化については、これが１回分の実行途中の状態にある場合であっても、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了されるタイミングにおいてその実行状態が途中終了されることはない。

【４８９３】

例えば、図１６８（ｈ）に示されるように、この演出例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ｘにおいては、第３Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３ａ）が可聴出力されている状態にあるが、該第

３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３ａ）については、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了される当該タイミングｔＢｃ２－Ｘにおいてその出力状態が途中終了されることはなく、その可聴出力を継続するようになっている。

【４８９４】

また、図１６８（ｇ）に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、第３Ｂ操作部が操作状態に維持されることによるオート連打機能によって「複数回の操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている（連打中表示ＨＢ３ａ、第１の受付後出力音Ｓα３ａが現れている）」状況下にあるタイミングｔＢｃ－Ａ１からタイミングｔＢｃ－Ａ２までの期間内においても、その可聴出力が途中終了される条件が満たされうるものとなっている。ただし、このような演出状況下にあるなかで第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了される条件が満たされたとしても、これを契機として、オート連打機能によって「複数回の操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている（連打中表示ＨＢ３ａ、第１の受付後出力音Ｓα３ａが現れている）」状況が変化が生じることはなく、すなわち受付後変化の態様については、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了される条件が満たされない場合と同じである。

【４８９５】

また上述の通り、この例にかかる第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、図１６８（ｇ）に示されるように、上記第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や上記第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２の場合とは異なり、「特定態様の出力音」が複数回（ここでは、２回）繰り返し再生されるかたちで可聴出力されるものとなっている。すなわちこの場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３としての１回目の「特定態様の出力音」が出力し終わってから、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３としての２回目の「特定態様の出力音」が出力開始されるまでの間に、当該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了される条件が満たされることもありうる。この場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が途中終了されたことを遊技者は認識し難くされるものの、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３としての「特定態様の出力音」が複数回出力されず、１回しか出力されないこととなるから、その出力回数に注意を払っている者であれば、当該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が途中終了されたことを認識することは可能であり、これによって緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４８９６】

また、こうして第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴にされるときには、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３などの操作関連表示についても、これらを非表示の状態にするようにしてもよい。当該構成を採用する場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が非可聴の状態を維持することはもとより、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３などの操作関連表示が非表示の状態を維持しているなかで、タイミングｔＢｃ２－Ｘ以降の下記演出進展が現れることとなる。

【４８９７】

そしてこの例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｂ１において、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６８（ｆ），（ｈ）に示されるように、第３Ｂ受付後変化として、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα３（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第３Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４８９８】

この例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｂ１で第３Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６９（ｄ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｃ２－Ａ１で第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第３Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後表示や、第３Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお

、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４８９９】

この点、図１６８や図１６９に示される演出例は、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第３Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【４９００】

したがって、当該「タイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第３Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４９０１】

そして、当該「タイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ３ａや、第１の受付後出力音Ｓα３ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２までの期間」の場合（図１６９（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４９０２】

ただし、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｃ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１６９（ｅ）に示される演出状況）。

【４９０３】

したがって、図１６８に示した例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｃ２－Ｂ２からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【４９０４】

より具体的には、タイミングｔＢｃ２－Ｂ２からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｃ２－Ｂ２」では、図１６８（ｅ）及び図１６９（ｅ）に示されるように、第３Ｂ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ３の態様を、それまで現れていた「態様ＪＢ３ａ」から、これとは異なる「態様ＪＢ３ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１６９（ｅ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３による剣技がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＢ３の態様変化を通じて、当該第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢｃ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【４９０５】

そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第３Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ｂ受付後表示」として、図１６９（ｅ）に示されるように、「

味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が強度の高くなった剣技を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【４９０６】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第３Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第３Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【４９０７】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｃ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【４９０８】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢｃ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」による繰り返し表示（複数回の受付後変化）を、図中では、「連打中表示ＨＢ３ｂ」として表現することとしている。

【４９０９】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｃ２－Ｂ２」が到来すると、図１６８（ｅ），（ｆ）及び図１６９（ｄ），（ｅ）に示されるように、状況示唆表示ＪＢ３の態様が「態様ＪＢ３ａ」から「態様ＪＢ３ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＢ３の態様についても「態様ＨＢ３ａ」から「態様ＨＢ３ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｃ２－Ｂ２～ｔＢｃ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＢ３が「態様ＪＢ３ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＢ３が「態様ＨＢ３ｂ」で実行されることとなる。

【４９１０】

なおこの例では、連打中表示ＨＢ３の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ３を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ３を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＢ３の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第３Ｂ受付許容状態については、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態とは異なり、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りであり、この場合、状況示唆表示は表示されず、受付後変化が一の態様のみで複数回実行されることとなることは言うまでもない。

【４９１１】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第３Ｂ受付許容状態において「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第３Ｂ受付後表示」のほか、上記「第３Ｂ受付後出力音」として、図１６８（ｈ）に示されるように、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα３が出力されうる。ただし上述の通り、図１６８（ｉ）に示されるように

、当該第３Ｂ受付許容状態では、上記「第３Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音が出力されることはない。

【４９１２】

また、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα３については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｃ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα３が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢｃ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢｃ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【４９１３】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｃ２－Ｂ１からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα３）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα３ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα３ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢｃ２－Ａ１からタイミングｔＢｃ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４９１４】

なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα３ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【４９１５】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ３ｂが実行されている状況下（タイミングｔＢｃ２－Ｂ２からタイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間）においても、図１６９（ｅ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ３ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ３が、強度の高い剣技で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ３」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【４９１６】

この点、図１６８や図１６９に示される演出例は、遊技者が、当該第３Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｃ２―Ｂ３において第３Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【４９１７】

ここで、上述の通り、第３Ｂ受付許容状態では、当該第３Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第３Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ３がこれを契機として非表示の状態にされることはない（実行途中の状態にあった受付後変化が、非操作を契機として途中終了されることはない）。したがって、図１６８（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｃ２―Ｂ３において第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＢ３ｂは、タイミングｔＢｃ２―Ｂ３以降も（第３Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」が予め定められた表示時間（実行時間）分だけ実行されて表示（実行）し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【４９１８】

また、これも連打中表示ＨＢ３ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ３ｂが表示されているなかで第３Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状

態にしてから該連打中表示ＨＢ３ｂが非表示の状態にされるまでの時間（１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【４９１９】

また上述の通り、第３Ｂ受付許容状態では、当該第３Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第３Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα３ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１６８（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｃ２―Ｂ３において第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音Ｓα３ａは、タイミングｔＢｃ２―Ｂ３以降も（第３Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【４９２０】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα３（第３Ｂ事象）が出力されているなかで第３Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα３ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。このような構成によれば、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα３（第３Ｂ事象）が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第３Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第３Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【４９２１】

また、この実施の形態にかかる第３Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ３ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１６８（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ３ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα３ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ３ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ３ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα３ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【４９２２】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第３Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ３ｂ、第１の受付後出力音Ｓα３ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第３Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１６８（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第３Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ３ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα３ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第３Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｃ２―Ｂ３からの時間経過）によって、図１６８（ｆ）や、図１６９（ｆ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ３ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ３、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ３など、操作の状況を示唆

する状況示唆表示ＪＢ３の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＢ３ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１６９（ｆ）を参照）。

【４９２３】

また、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα３ａも、第３Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢａ２―Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた出力状態は終了（非可聴の状態に）される。

【４９２４】

ただしこの例では、図１６８（ａ）に示されるように、第３Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢａ２―Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα３ａが可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｃ２－Ｃ１（図１６９（ｇ）に示される演出状況）において第３Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【４９２５】

この例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｃ１において「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｃ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１６８（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１６９（ｇ）に示される演出状況）。

【４９２６】

より具体的には、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｃ１において、「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６８（ｆ）に示されるように、第３Ｂ受付後変化として、「第３Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第３Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４９２７】

この例では、第３Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｃ２－Ｃ１で第３Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が図１６９（ｇ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６９（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｃ－Ｂ２で第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第３Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後表示）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４９２８】

ただし、この例にかかるタイミングｔＢｃ２－Ｃ１は、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１～タイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力が継続されているなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【４９２９】

この点、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１はもとより、該タイミングｔＢｃ２－Ｃ１が到来した以降も、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１～タイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力が終了されない限りは、第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）が新たに出力開始されることはない。すなわちこの場合、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態では、図１６８（ｈ）に示されるように、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第３Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓ

α３）が新たに出力開始されることとなる。なおこの際、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第３Ｂ操作部に対する操作のやり直しを行う必要はなく、第３Ｂ操作部についてはこれをタイミングｔＢｃ２－Ｃ１から操作状態に維持するだけで操作受付がなされる。

【４９３０】

なお、連打中表示ＨＢ３についても、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１～タイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間内で実行開始された１回分の第３Ｂ受付後表示がタイミングｔＢａ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。ただしこの場合、第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の場合と同様、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３を跨ぐかたちで表示されている１回分の第３Ｂ受付後表示が非表示（予め定められた表示時間分だけ表示されてから非表示）にされた以降、第３Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第３Ｂ受付後表示が新たに表示開始されることとなる。

【４９３１】

若しくは、タイミングｔＢｃ２－Ｂ１～タイミングｔＢｃ２－Ｂ３の期間内で実行開始された受付後変化の少なくとも１つが実行状態にあるなかでタイミングｔＢｃ２－Ｃ１が到来したときには、該受付後変化の全てが非実行の状態にされない限りは、受付後変化が新たに出力開始されることがないようにしてもよい。当該手法を採用した場合、図１６８に示した例では、上記第３Ｂ受付後表示は、第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力が終了されない限りは、新たな１回分が表示開始されることはない。すなわちこの場合、上記第３Ｂ受付後表示については、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１で新たに表示開始されることはなく、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第３Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα３）の可聴出力が終了された以降、第３Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで新たな１回分が表示開始されることとなる。

【４９３２】

また、図１６８や図１６９に示される演出例は、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第３Ｂ操作部の操作状態）を、第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｃ２―Ｃ２が到来した時点（第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた時点）においても継続しており、これによってタイミングｔＢｃ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【４９３３】

したがって、当該「タイミングｔＢｃ２－Ｃ１からタイミングｔＢｃ２－Ｃ２までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第３Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【４９３４】

そして、当該「タイミングｔＢｃ２－Ｃ１からタイミングｔＢｃ２－Ｃ２までの期間（第３Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ３ｂや、第１の受付後出力音Ｓα３ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、図１６９（ｇ）に示されるように、上述の「タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１６９（ｅ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４９３５】

ここで、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態は、受付後変化として特別の態様（最終の態様）が現れない場合を想定したものとなっている。したがって、図１６８に示した例に

かかるタイミングｔＢｃ２－Ｃ１からタイミングｔＢｃ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１６９（ｇ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。

【４９３６】

この点、タイミングｔＢｃ２－Ａ２や、タイミングｔＢｃ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ３や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα３ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させないようにしたが、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときも同様、図１６８（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ３や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα３ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。

【４９３７】

このような構成によれば、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２において第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第３Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。

【４９３８】

この点、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３や、メッセージ表示ＭＢ３、状況示唆表示ＪＢ３などについても、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２が到来した時点で非表示にせず、該タイミングｔＢｃ２－Ｃ２が到来して第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなった以降も表示されうるようにしており、これによってタイミングｔＢｃ２－Ｃ２以降も、遊技者に対して「第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされて受付後変化を新たに生じさせるチャンスがまだ残されているかもしれない」といった期待感が付与されるようにしている。

【４９３９】

なおこの例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３については、タイミングｔＢｃ１で表示開始された以降、操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２を経た後、タイミングｔＢｃ３で非表示の状態にされるものとなっている。また、状況示唆表示ＪＢ３については、タイミングｔＢｃ３が到来した時点においても非表示の状態にされず、それ以降の適宜のタイミングで非表示の状態にされるものとなっている。ただし上述の通り、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３及びメッセージ表示ＭＢ３の表示タイミングや、非表示にされるタイミングは互いに異なるようにしてもよいし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３及びメッセージ表示ＭＢ３の一方のみが操作関連表示として表示されるようにしてもよい。また、状況示唆表示ＪＢ３については、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３と同じタイミングで非表示の状態にするようにしてもよい。

【４９４０】

そしてこの例では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１から開始されている「第３Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３が非表示の状態にされるタイミングｔＢｃ３が到来した時点や、さらには状況示唆表示ＪＢ３が非表示の状態にされるタイミングが到来した時点においても継続している場合を想定したものとなっている。

【４９４１】

この点、第３Ｂ受付許容状態では、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｃ２―Ｃ２以降）に、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３が非表示の状態にされるタイミングｔＢｃ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ３が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第３Ｂ操作部に

対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。なお、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされなかった場合には、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２以降、オート連打機能が無効とされたままでタイミングｔＢｃ３が到来して摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３などの操作関連表示が非表示の状態にされることとなる。

【４９４２】

なお、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされるか否かや、当該状態が発生するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｃ２からタイミングｔＢｃ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。

【４９４３】

若しくは、第３Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【４９４４】

そしてこの例では、図１６８（ｂ）に示されるように、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの期間のうち、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３で「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生した場合（発生条件が満たされた場合）を想定したものとなっている。

【４９４５】

この点、この例にかかるタイミングｔＢｃ３では、図１６８（ａ），（ｂ）や、図１６９（ｇ），（ｈ），（ｉ）に示されるように、第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間（タイミングｔＢｃ２－Ｃ２からタイミングｔＢｃ２－Ｃ３までの期間、図１６９（ｈ）に示される状況）を挟むかたちで上記タイミングｔＢｃ２－Ｃ１から維持されている「第３Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第３Ｂ操作部に対する操作受付が適正になされるようになっており、これによって該操作受付に応じた受付後変化が実行開始されることとなる（図１６９（ｉ）に示される演出状況）。

【４９４６】

より具体的には、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３において、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１６８（ｆ），（ｈ）に示されるように、第３Ｂ受付後変化として、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα３（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第３Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【４９４７】

この例では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３で第３Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第３Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１６９（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｃ２－Ｂ２で第３Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第３Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ受付後表示や、第３Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【４９４８】
この点、第３Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２以降、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３が非表示の状態にされるタイミングｔＢｃ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ３が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされた場合、当該「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」は、タイミングｔＢｃ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。
【４９４９】
なお、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２以降のタイミングＢｃ２－Ｃ３で発生した「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｃ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされるか否かや、当該状態が終了するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｃ２からタイミングｔＢｃ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３で発生した「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｃ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。
【４９５０】
若しくは、第３Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させ、且つ該発生させた「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｃ３までの期間内の予め定められたタイミングで必ず終了させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。
【４９５１】
そして、図１６８や図１６９に示される演出例では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３で開始された「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｃ３よりも前のタイミングｔＢｃ２－Ｃ４まで継続されてその終了条件が満たされた場合を想定したものとなっている。
【４９５２】
この点、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４では、上述のタイミングｔＢｃ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときと同様、図１６８（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ３や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα３ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。
【４９５３】
このような構成によれば、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４において第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第３Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。
【４９５４】
この例では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４において第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた後は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３が非表示の状態にされるタイミングｔＢｃ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ３が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生することはない。したがって、タイミングｔＢｃ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ３が非表示の状態にされるタイミング）まで「第３Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付

が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないこととなる（図１６９（ｊ）を参照）。

【４９５５】

ただし、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４からタイミングｔＢｃ３までの間に、「第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件がもう一度満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるようにしてもよい。この場合、第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間を複数回挟むかたちで上記タイミングｔＢｃ２－Ｃ１から維持されている「第３Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第３Ｂ操作部に対する操作受付が再びなされて、該操作受付に応じた受付後変化（オート連打機能）が実行開始されることとなることは言うまでもない。

【４９５６】

なお、図１６９（ｈ），（ｊ）に示した例では、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２やタイミングｔＢｃ２－Ｃ４が到来したことに基づいて「ミス！！」といった表示が行われるようにしているが、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２やタイミングｔＢｃ２－Ｃ４が到来したことに基づいて何らの表示も新たに出現しないようにしてもよい。

【４９５７】

また、当該第３Ｂ受付許容状態としての演出性を好適に維持する上では、第３Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｃ２―Ｃ２（若しくは、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４）が到来するまで遊技者による操作が行われない場合、該操作が行われたときと同じ受付後変化が生じることがない（自動ボタン機能が有効化されない）ようにすることが望ましい。

【４９５８】

また、第３Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」としては用意されておらず、「第３Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に基づいて当該状態が終了することはないものとなっている。

【４９５９】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第４Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１７０は、上記発生条件として「条件４Ｂ」が満たされたことに基づいて「第４Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１７１は、「第４Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【４９６０】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第４Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第４Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第４Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第４Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第４Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【４９６１】

図１７０（ｂ）に示されるように、「第４Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第４Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｄ２が到来したことに基づいて（「条件４Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ４や、第４Ｂ連打中表示ＨＢ４、第４Ｂ受付後出力音Ｓα４など）に関しての第４Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第４Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１７１（ａ）に示される状況）。

【４９６２】

ここで、この実施の形態にかかる第４Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される

「第４Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で複数回の操作受付が許容される上記「操作ボタン４１０」ではなく、上記第３Ｂ受付許容状態においても複数回の操作受付が許容される上記「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第４Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【４９６３】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１７０（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第４Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ４と、操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ４と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ４とを、当該第４Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｄ１が到来したときに表示するものとなっている。また、この例にかかるタイミングｔＢｄ１では、遊技者に対して操作を促す第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｄ１～ｔＢｄ２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されている状況下にもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【４９６４】

なお後述するが、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、図１７０（ｇ）に示されるように、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の場合とは異なり、「所定態様の出力音」が１回だけ再生されるかたちで可聴出力されるものとなっている。ただし、当該第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４については、必ずしも「所定態様の出力音」が１回だけ再生されるものでなくてもよく、要は、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３とは種別が異なる出力音として可聴出力されるものであればよい。したがって、上記第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３と種別が異なる出力音であれば、これを繰り返し再生させる手法を用いて可聴出力させるようにしてもよい。

【４９６５】

ここで、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４や、メッセージ表示ＭＢ４、状況示唆表示ＪＢ４、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４については、必ずしも第４Ｂ受付許容状態が発生するよりも前に現れるものでなくてもよく、第４Ｂ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＢ４については、第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＢ４が表示されるタイミングと、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４の可聴出力が開始されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＢ４は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【４９６６】

また、当該第４Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件４Ｂ」については、上述の「条件１Ｂ」や「条件２Ｂ」などとは異なり、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されるタイミングが到来するよりも前に満たされる場合と、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力される

タイミングが到来した後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。
【４９６７】
このような構成を採用した場合、第４Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されるタイミングが到来するよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１７０に示したタイミングｔＢｄ２が、タイミングｔＢｄ１よりも前に到来する場合）と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されるタイミングが到来した後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１７０に示したタイミングｔＢｄ２が、タイミングｔＢｄ１よりも後に到来する場合）との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【４９６８】
ただし、図１７０に示したタイミングｔＢｄ２がタイミングｔＢｄ１よりも前に到来した当該第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、図１７０に示したタイミングｔＢｄ２がタイミングｔＢｄ１よりも後に到来した当該第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【４９６９】
なお、当該第４Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件４Ｂ」については、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されるタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。
【４９７０】
また、これらの構成を採用する場合におけるタイミングｔＢｄ１、タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）の設定手法については、適宜に採用してもよい。以下に、実現例を列記しておくが、これらは一例にすぎず、これ以外の手法でも実現可能であることは言うまでもない。
【４９７１】
例えば、図柄変動が開始されてからの経過時間を当該「タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）」として設定する場合は、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。若しくは、図柄変動が終了されるまでの残り時間を「タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）」として設定する場合は、当該残り時間として複数を用意することとした上で、それら残り時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。また若しくは、図柄変動が実行されていない期間内でタイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）を設定する場合は、例えば、図柄変動が非実行の状態にされてからの経過時間や、大当り遊技が開始されてからの経過時間などを当該「タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）」として設定することとし、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。なお、これら手法のいずれかを採用する場合、タイミングｔＢｄ１は、予め定められたタイミングでのみ発生することとなる。
【４９７２】
また、これとは逆に、タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）に代えて、タイミングｔＢｄ１を、上述したタイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）の設定手法のいずれかを用いて到来するよ

うにし、タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）を、予め定められたタイミングでのみ発生するようにしても、同様の構成を実現することが可能である。

【４９７３】

また若しくは、「タイミングｔＢｄ１」の発生条件と、「タイミングｔＢｄ２」の発生条件とを、それぞれ所定確率でその都度抽選することとし、「タイミングｔＢｄ１」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｄ２」が到来するようにするのに対し、「タイミングｔＢｄ２」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｄ１」が到来するようにすることとしてもよい。

【４９７４】

この例にかかる摸画像表示ＭＧ－Ｂ４や、メッセージ表示ＭＢ４、状況示唆表示ＪＢ４については、表示開始された以降は、第４Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第４Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている（必須の構成ではない）。これに対し、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、当該第４Ｂ受付許容状態の途中で非可聴の状態にされるものとなっているが、必ずしも途中で終了されないようにしてもよい。

【４９７５】

また、当該第４Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｄ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも前に満たされる場合と、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｄ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。

【４９７６】

このような構成を採用した場合、第４Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４９７７】

ただし、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されなくなるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【４９７８】

なお、当該第４Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングや、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされ

るタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。

【４９７９】

また、これらの構成を採用する場合における上記各タイミングの設定手法については、適宜採用してもよい。これら２つのタイミングの前後にかかる設定手法については、例えば、上述した「タイミングｔＢｄ１」と「タイミングｔＢｄ２（条件４Ｂ）」との前後にかかる設定手法などを踏襲してそれぞれ設定することが可能である。

【４９８０】

また、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態では、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢｄ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４が発光されるようになっている。この例では、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４として、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）が有する発光部を発光させることとしているが、遊技者に対して刀装飾体５００１への操作を促す態様（例えば、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときにしか現れない態様など）であれば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４として、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）とは異なる部位に設けられた発光部を発光させるようにしてもよい。この場合、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。

【４９８１】

この例にかかる第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４は、発光開始された以降は、第４Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第４Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して発光されるものとなっている（必須の構成ではない）。

【４９８２】

ここで、第４Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ４」は、その配色として「所定配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」が用いられるようになっている。ただし、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を、複数の配色のなかから選択的に用いて表示されるようにしてもよい。

【４９８３】

また、第４Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ４」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分における所定の動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期４Ｂ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期４Ｂ時間は、第１Ｂ受付許容状態で現れる周期１Ｂ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されていることから、当該第４Ｂ受付許容状態では、上述の第１Ｂ受付許容状態と比べて「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【４９８４】

また、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｃ），（ｄ）及び図１７１（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４のほか、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「ゴブリンを攻撃！刀を「超・連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるものとなっている。当該第４Ｂ受付許容状態で表示されるメッセージ表示（ここでは、「ゴブリンを攻撃！刀を「超・連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ４）は、上記第３Ｂ受付許容状態で表示されるメッセージ表示（「鬼を攻撃！刀を「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ３）とは、その態様（表示内容）が異なるものである。

【４９８５】

ただし、第４Ｂ受付許容状態では、第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されるものであればよく、例えば、該操作関連表示として、摸画像表示及びメッセージ表示の少なくとも一方が表示されるものであれば、それらの両方を必ずしも実行しなくてもよい。

【４９８６】
　また、第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｃ），（ｄ）に示されるように、第４Ｂ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＢｄ３が到来するときまで摸画像表示及びメッセージ表示が継続して表示され、タイミングｔＢｄ３において非表示の状態にされる。したがって、第４Ｂ受付許容状態が継続されている間、当該第４Ｂ受付許容状態が終了されるタイミングｔＢｄ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしている。ただし、当該描写についても、必ずしも行わないようにしてもよい。
【４９８７】
　また、第４Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ４」を、当該第４Ｂ受付許容状態が発生するタイミングｔＢｄ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＢｄ２を待ってから開始させるようにしてもよい。
【４９８８】
　また、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｅ）及び図１７１（ａ）に示されるように、当該第４Ｂ受付許容状態に対応する状況示唆表示ＪＢ４として、当該第４Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４）と、当該第４Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、ゴブリンとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ｂ４が表示されるようになっている。第４Ｂ受付許容状態では、「第４Ｂ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ４として、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４については、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で現れる味方キャラクタＹＳ－Ｂ１と異なる画像表示として表示するようにしてもよい。また、当該第４Ｂ受付許容状態では、状況示唆表示ＪＢ４については必ずしも表示しないようにしてもよい。
【４９８９】
　例えば、図１７０に示した例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ａ１（図１７１（ｂ）に示される演出状況）において、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。
【４９９０】
　この例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ａ１において「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１７１（ｂ）に示される演出状況）。
【４９９１】
　より具体的には、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ａ１において、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、第４Ｂ受付後変化として、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第４Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第４Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【４９９２】
すなわち、第４Ｂ受付許容状態において「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ｂ受付後表示」として、図１７１（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第４Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」が傷を負ったり、剣技の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１７０（ｅ），（ｆ）や、図１７１（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第４Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第４Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【４９９３】
ただし、第４Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合（演出内容に演出度合いの設定がある受付許容状態）とは異なり、第４Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第４Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。この場合、状況示唆表示ＪＢ４が表示されなくなることは言うまでもない。

【４９９４】
また、第４Ｂ受付許容状態は、上述の第３Ｂ受付許容状態との間で、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が行われるか否かにかかる構成と、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音にかかる態様（音の種別や、非出力の条件など）とのうち少なくとも１つが異なる（この例では、全てが異なる）ものの、当該第４Ｂ受付許容状態で第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受付後変化については、上述の第３Ｂ受付許容状態で第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受付後変化と同じ変化を生じさせるものとして発生するものであってもよい。若しくは、当該第４Ｂ受付許容状態と、上述の第３Ｂ受付許容状態との間での相違点については、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が行われるか否かにかかる構成と、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音にかかる態様（音の種別や、非出力の条件など）との３つの点が異なるだけで、それ以外の構成については全て同じとなるように設定してもよい。なお上述の通り、受付後変化として複数の変化を必ずしも生じさせなくてもよく、この場合、例えば、当該第４Ｂ受付許容状態で第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第４Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化として第４Ｂ特定事象（例えば、第４Ｂ受付後出力音）のみを生じさせることとしたとすると、上述の第３Ｂ受付許容状態で第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第３Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化については、第３Ｂ特定事象（例えば、第３Ｂ受付後出力音）のみを、上記第４Ｂ特定事象と同じ事象（同じ出力音）として生じさせることとなる。

【４９９５】
また、この例では、第４Ｂ受付許容状態において「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体

５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ｂ受付後表示」のほか、上記「第４Ｂ受付後出力音」として、図１７０（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα４が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα４は、上記「第４Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）」に対応する効果音として機能するものである。ただし後述するが、当該第４Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、「第４Ｂ受付後出力音」として、第１の受付後出力音Ｓα４とは異なる出力音がさらに出力される可能性はないようになっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα４については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第４Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能な音として出力されるものであればよい。

【４９９６】

ただし、第４Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、第４Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、受付後表示を必ずしも表示しないようにしてもよいし、受付後出力音を必ずしも出力しないようにしてもよい。例えば、第４Ｂ受付許容状態では、第４Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、所定発光部における所定発光のみが現れるようにしたり、または特定可動体における特定動作のみが現れるようにしたりしてもよい。要は、第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化としての第４Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が少なくとも複数回実行（発生）されるものであればよい。

【４９９７】

また、この例では、上記タイミングｔＢｄ２－Ａ１が、図１７０（ｇ），（ｊ）に示されるように、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が出力状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっているが、該タイミングｔＢｄ２－Ａ１において、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付を契機として第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が非可聴の状態にされることはない。

【４９９８】

すなわち、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、該第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されているなかで「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付がどれだけなされて、いかなる判定結果が得られようとも（仮に、第４Ｂ受付許容状態が早期終了されるとしても）、該操作受付を契機としてその可聴状態が終了されることがないもの（操作受付にかかわらず、予め定められた時間分だけ出力されるもの）となっている。

【４９９９】

この点、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、上述の第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３（図１６８を参照）の場合とは異なり、その可聴出力が早期終了される場合がないものとなっている。すなわちこの場合、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、予め定められた再生時間だけ必ず出力されることとなる。ただし、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４も、上述の第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３と同様、予め定められた再生時間が経過するよりも前に、第４Ｂ操作部に対する操作受付とは別の条件が満たされたことに基づいて非可聴の状態にされる場合があるものとして実現するようにしてもよい。

【５０００】

このように、第４Ｂ受付許容状態では、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃する描写とその効果音として現れるものとなっており（１回分の受付後変化）、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結

果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている（複数回分の受付後変化）。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【５００１】

ただし、このような第４Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第４Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【５００２】

そしてこの例は、図１７０（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｄ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第４Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢｄ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【５００３】

この点、第４Ｂ受付許容状態は、「操作部（第４Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１７０（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２までの期間（第４Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第４Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５００４】

ここで、第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第４Ｂ受付後表示として、図１７１（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【５００５】

また、第４Ｂ受付許容状態において第４Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第４Ｂ受付後出力音が、上記「第４Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【５００６】

ここで、第４Ｂ受付許容状態では、操作部（第４Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、このような受付後変化（１回分の動画表示、効果音（第４Ｂ受付後出力音）など）が複数回実行されるが、それらの実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）にされる。この「一定の時間」については、第３Ｂ受付許容状態の場合と同じ時間として設定するようにすることが望ましい。

【５００７】

また、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態では、操作部（第４Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第４Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようになっている。ただし、第４Ｂ受付許容状態における当該間隔については、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔とは異なる時間の長さとして設定されるようにすることが望ましく、例えば、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔よりも長い時間であり且つ特定時間（例えば１秒）以下の時間として設定するようにしてもよい。

【５００８】

すなわちこの場合、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ４ａ」として表現することとしている。

【５００９】

またこれも同様、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第４Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα４ａ」として表現することとしている。

【５０１０】

この点、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【５０１１】

したがって、当該期間内では、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ４（図１７０（ｅ）を参照）」が、操作受付を契機として（演出進展する態様で）変化したり実行開始されたりすることはない。またこの例では、当該期間内では、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が途中終了されずその出力状態を維持する場合を想定したものになっている。

【５０１２】

このような構成によれば、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、図１７１中に示される「剣技攻撃」や「斬撃のエフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間間隔で繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ４ａ、第１の受付後出力音Ｓα４ａ）、「状況示唆表示ＪＢ４（図１７０（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【５０１３】

なお、「状況示唆表示ＪＢ４（図１７０（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２までの期間（第４Ｂ

操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４などの「状況示唆表示ＪＢ４（図１７０（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【５０１４】

また、タイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ４（図１７０（ｅ）を参照）」は、操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【５０１５】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ４ａが実行されている状況下（タイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間）では、図１７１（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ４ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ４」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【５０１６】

この点、図１７０や図１７１に示される演出例は、遊技者が、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｄ２―Ａ２において第４Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５０１７】

ここで、第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｄ２―Ａ２において第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ４ａ（受付後変化）がこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ１ａは、タイミングｔＢｄ２―Ａ２以降も（第４Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（１回分の受付後変化が実行し終わるまでの間）は、その実行状態が継続されることとなる。

【５０１８】

このような構成によれば、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ４ａがすぐには非表示の状態にされない（受付後変化が１回分の実行途中で途中終了されない）ことから、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第４Ｂ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５０１９】

またこの例では、連打中表示ＨＢ４ａが表示されているなかで第４Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ４ａが非表示の状態にされるまでの時間（実行途中の状況下にあった１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５０２０】

このような構成によれば、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ４ａが非表示の状態にされて、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第４Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５０２１】

また、第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα４ａについても、上記連打中表示ＨＢ４ａと同様、タイミングｔＢｄ２―Ａ２において第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα４ａは、タイミングｔＢｄ２―Ａ２以降も（第４Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【５０２２】

このような構成によれば、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα４ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５０２３】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα４ａ（第４Ｂ事象）が出力されているなかで第４Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα４ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５０２４】

このような構成によれば、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα４ａ（第４Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第４Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５０２５】

また、第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｇ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４についても、タイミングｔＢｄ２―Ａ２において第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。

【５０２６】

また、この実施の形態にかかる第４Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ４ａ及び第１の受付後出力音Ｓα４ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第４Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７０（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第４Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ４ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＢ４ａが出力状態を継続している状況が現れるようになっている。ただしこの後、第４Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１７０（ｆ），（ｈ）や、図１７１（ｃ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ４ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音Ｓ

α４ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ４の態様（ここでは、態様ＪＢ４ａ）を容易に認識することができるようになる（図１７１（ｃ）を参照）。

【５０２７】

ただし上述の通り、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。なお、第４Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５０２８】

したがって、図１７１（ｃ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ４の態様（ここでは、態様ＪＢ４ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１７１（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ４の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１７１（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【５０２９】

そしてこの例では、図１７０（ａ）に示されるように、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｂ１（図１７１（ｄ）に示される演出状況）において、「第４Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５０３０】

この例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｂ１において「第４Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１７０（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７１（ｄ）に示される演出状況）。

【５０３１】

ここで、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、上記タイミングｔＢｄ２－Ｂ１よりも前に、その再生時間分だけ出力されて非可聴の状態にされた場合を想定している。また、当該第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４は、上述した第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３と同様、第４Ｂ操作部に対する操作受付の状況等による影響を受けないものである。したがって、仮に、該第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴状態になるなかで上記タイミングｔＢｄ２－Ｂ１が到来したとしても、該タイミングｔＢｄ２－Ｂ１における操作受付を契機としてその可聴出力にかかる状態が終了されることはない。

【５０３２】

また、この例にかかる第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４については、上述した第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３とは異なり、少なくとも遊技が適正に進行されている限りは、操作受付とは異なる条件によっても、その可聴出力が早期終了される場合がないものとして構成されている（必須の構成ではない）。なお、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、遊技が適正に進行されているなかで、操作受付とは異なる条件によって、その可聴出力が早期終了される場合があるものとなっていることは上述した通りである。

【５０３３】

そしてこの例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｂ１において、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１

７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、第４Ｂ受付後変化として、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα４（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第４Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５０３４】

この例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｂ１で第４Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７１（ｄ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｄ２－Ａ１で第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第４Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後表示や、第４Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５０３５】

この点、図１７０や図１７１に示される演出例は、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第４Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５０３６】

したがって、当該「タイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３までの期間（第４Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第４Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５０３７】

そして、当該「タイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３までの期間（第４Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ４ａや、第１の受付後出力音Ｓα４ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２までの期間」の場合（図１７１（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５０３８】

ただし、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｄ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１７１（ｅ）に示される演出状況）。

【５０３９】

したがって、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｄ２－Ｂ２からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【５０４０】

より具体的には、タイミングｔＢｄ２－Ｂ２からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｄ２－Ｂ２」では、図１７０（ｅ）及び図１７１（ｅ）に示されるように、第４Ｂ操作部に対する操作受付に基づい

て、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ４の態様を、それまで現れていた「態様ＪＢ４ａ」から、これとは異なる「態様ＪＢ４ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１７１（ｅ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４による剣技がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＢ４の態様変化を通じて、当該第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢｄ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【５０４１】

そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第４Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ｂ受付後表示」として、図１７１（ｅ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が強度の高くなった剣技を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【５０４２】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第４Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第４Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【５０４３】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｄ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【５０４４】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢｄ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」による繰り返し表示（複数回の受付後変化）を、図中では、「連打中表示ＨＢ４ｂ」として表現することとしている。

【５０４５】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｄ２－Ｂ２」が到来すると、図１７０（ｅ），（ｆ）及び図１７１（ｄ），（ｅ）に示されるように、状況示唆表示ＪＢ４の態様が「態様ＪＢ４ａ」から「態様ＪＢ４ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＢ４の態様についても「態様ＨＢ４ａ」から「態様ＨＢ４ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｄ２－Ｂ２～ｔＢｄ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＢ４が「態様ＪＢ４ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＢ４が「態様ＨＢ４ｂ」で実行されることとなる。

【５０４６】

なおこの例では、連打中表示ＨＢ４の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ４を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ４を通じて、オート連打機能が有効化されている

状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＢ４の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第４Ｂ受付許容状態については、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態とは異なり、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りであり、この場合、状況示唆表示は表示されず、受付後変化が一の態様のみで複数回実行されることとなることは言うまでもない。

【５０４７】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第４Ｂ受付許容状態において「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第４Ｂ受付後表示」のほか、上記「第４Ｂ受付後出力音」として、図１７０（ｈ）に示されるように、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα４が出力されうる。ただし上述の通り、図１７０（ｉ）に示されるように、当該第４Ｂ受付許容状態では、上記「第４Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音が出力されることはない。

【５０４８】

また、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα４については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｄ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα４が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢｄ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢｄ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【５０４９】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｄ２－Ｂ１からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα４）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα４ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα４ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢｄ２－Ａ１からタイミングｔＢｄ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５０５０】

なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα４ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【５０５１】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ４ｂが実行されている状況下（タイミングｔＢｄ２－Ｂ２からタイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間）においても、図１７１（ｅ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ４ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ４が、強度の高い剣技で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ４」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【５０５２】

この点、図１７０や図１７１に示される演出例は、遊技者が、当該第４Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｄ２―Ｂ３において第４Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５０５３】

ここで、上述の通り、第４Ｂ受付許容状態では、当該第４Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第４Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を

無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ４がこれを契機として非表示の状態にされることはない（実行途中の状態にあった受付後変化が、非操作を契機として途中終了されることはない）。したがって、図１７０（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｄ２―Ｂ３において第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＢ４ｂは、タイミングｔＢｄ２―Ｂ３以降も（第４Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」が予め定められた表示時間（実行時間）分だけ実行されて表示（実行）し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。

【５０５４】

また、これも連打中表示ＨＢ４ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ４ｂが表示されているなかで第４Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ４ｂが非表示の状態にされるまでの時間（１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５０５５】

また上述の通り、第４Ｂ受付許容状態では、当該第４Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第４Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα４ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１７０（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｄ２―Ｂ３において第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音Ｓα４ａは、タイミングｔＢｄ２―Ｂ３以降も（第４Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。

【５０５６】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα４（第４Ｂ事象）が出力されているなかで第４Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα４ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。このような構成によれば、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα４（第４Ｂ事象）が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第４Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第４Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５０５７】

また、この実施の形態にかかる第４Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ４ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα４ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第４Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１７０（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ４ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα４ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ４ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα４ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ４ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα４ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【５０５８】
このような構成によれば、この実施の形態にかかる第４Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ４ｂ、第１の受付後出力音Ｓα４ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第４Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７０（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第４Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ４ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα４ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第４Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｄ２―Ｂ３からの時間経過）によって、図１７０（ｆ）や、図１７１（ｆ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ４ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ４、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ４など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ４の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＢ４ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１７１（ｆ）を参照）。
【５０５９】
また、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα４ａも、第４Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢａ２―Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた出力状態は終了（非可聴の状態に）される。
【５０６０】
ただしこの例では、図１７０（ａ）に示されるように、第４Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢａ２―Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα４ａが可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｄ２－Ｃ１（図１７１（ｇ）に示される演出状況）において第４Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。
【５０６１】
この例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｃ１において「第４Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｄ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１７０（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７１（ｇ）に示される演出状況）。
【５０６２】
より具体的には、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｃ１において、「第４Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７０（ｆ）に示されるように、第４Ｂ受付後変化として、「第４Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第４Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。
【５０６３】
この例では、第４Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｄ２－Ｃ１で第４Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が図１７１（ｇ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７１（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｄ－Ｂ２で第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第４Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後表示）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５０６４】
ただし、この例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ｃ１は、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１～タイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力が継続されているなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【５０６５】
この点、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、タイミングｔＢｄ２－Ｃ１はもとより、該タイミングｔＢｄ２－Ｃ１が到来した以降も、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１～タイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力が終了されない限りは、第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）が新たに出力開始されることはない。すなわちこの場合、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態では、図１７０（ｈ）に示されるように、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第４Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）が新たに出力開始されることとなる。なおこの際、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第４Ｂ操作部に対する操作のやり直しを行う必要はなく、第４Ｂ操作部についてはこれをタイミングｔＢｄ２－Ｃ１から操作状態に維持するだけで操作受付がなされる。

【５０６６】
なお、連打中表示ＨＢ４についても、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１～タイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間内で実行開始された１回分の第４Ｂ受付後表示がタイミングｔＢａ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。ただしこの場合、第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の場合と同様、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３を跨ぐかたちで表示されている１回分の第４Ｂ受付後表示が非表示（予め定められた表示時間分だけ表示されてから非表示）にされた以降、第４Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第４Ｂ受付後表示が新たに表示開始されることとなる。

【５０６７】
若しくは、タイミングｔＢｄ２－Ｂ１～タイミングｔＢｄ２－Ｂ３の期間内で実行開始された受付後変化の少なくとも１つが実行状態にあるなかでタイミングｔＢｄ２－Ｃ１が到来したときには、該受付後変化の全てが非実行の状態にされない限りは、受付後変化が新たに出力開始されることがないようにしてもよい。当該手法を採用した場合、図１７０に示した例では、上記第４Ｂ受付後表示は、第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力が終了されない限りは、新たな１回分が表示開始されることはない。すなわちこの場合、上記第４Ｂ受付後表示については、タイミングｔＢｄ２－Ｃ１で新たに表示開始されることはなく、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第４Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα４）の可聴出力が終了された以降、第４Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで新たな１回分が表示開始されることとなる。

【５０６８】
また、図１７０や図１７１に示される演出例は、タイミングｔＢｄ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第４Ｂ操作部の操作状態）を、第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｄ２―Ｃ２が到来した時点（第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた時点）においても継続しており、これによってタイミングｔＢｄ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５０６９】
したがって、当該「タイミングｔＢｄ２－Ｃ１からタイミングｔＢｄ２－Ｃ２までの期間（第４Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第４Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が

複数回実行されることとなる。
【５０７０】
そして、当該「タイミングｔＢｄ２－Ｃ１からタイミングｔＢｄ２－Ｃ２までの期間（第４Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ４ｂや、第１の受付後出力音Ｓα４ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、図１７１（ｇ）に示されるように、上述の「タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１７１（ｅ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５０７１】
ここで、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態は、受付後変化として特別の態様（最終の態様）が現れない場合を想定したものとなっている。したがって、図１７０に示した例にかかるタイミングｔＢｄ２－Ｃ１からタイミングｔＢｄ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１７１（ｇ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。
【５０７２】
この点、タイミングｔＢｄ２－Ａ２や、タイミングｔＢｄ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ４や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα４ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させないようにしたが、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときも同様、図１７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ４や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα４ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。
【５０７３】
このような構成によれば、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２において第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第４Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。
【５０７４】
この点、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４や、メッセージ表示ＭＢ４、状況示唆表示ＪＢ４などについても、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２が到来した時点で非表示にせず、該タイミングｔＢｄ２－Ｃ２が到来して第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなった以降も表示されうるようにしており、これによってタイミングｔＢｄ２－Ｃ２以降も、遊技者に対して「第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされて受付後変化を新たに生じさせるチャンスがまだ残されているかもしれない」といった期待感が付与されるようにしている。
【５０７５】
なおこの例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４については、タイミングｔＢｄ１で表示開始された以降、操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｄ２－Ｃ２を経た後、タイミングｔＢｄ３で非表示の状態にされるものとなっている。また、状況示唆表示ＪＢ４については、タイミングｔＢｄ３が到来した時点においても非表示の状態にされず、それ以降の適宜のタイミングで非表示の状態にされるものとなっている。ただし上述の通り、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４及びメッセージ表示ＭＢ４の表示タイミングや、非表示にされるタイミングは互いに異なるようにしてもよいし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４及びメッセージ表示ＭＢ４の一方のみが操作関連表示として表示されるようにしてもよい。また、状況示唆表示ＪＢ４については、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４と同

じタイミングで非表示の状態にするようにしてもよい。
【５０７６】
そしてこの例では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ１から開始されている「第４Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４が非表示の状態にされるタイミングｔＢｄ３が到来した時点や、さらには状況示唆表示ＪＢ４が非表示の状態にされるタイミングが到来した時点においても継続している場合を想定したものとなっている。
【５０７７】
この点、第４Ｂ受付許容状態では、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｄ２―Ｃ２以降）、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４が非表示の状態にされるタイミングｔＢｄ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ４が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。なお、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされなかった場合には、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２以降、オート連打機能が無効とされたままでタイミングｔＢｄ３が到来して摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が非表示の状態にされることとなる。
【５０７８】
なお、タイミングｔＢｄ２―Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの間に「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされるか否かや、当該状態が発生するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｄ２からタイミングｔＢｄ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｄ２―Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの間に「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。
【５０７９】
若しくは、第４Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｄ２―Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。
【５０８０】
そしてこの例では、図１７０（ｂ）に示されるように、タイミングｔＢｄ２―Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの期間のうち、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３で「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生した場合（発生条件が満たされた場合）を想定したものとなっている。
【５０８１】
この点、この例にかかるタイミングｔＢｄ３では、図１７０（ａ），（ｂ）や、図１７１（ｇ），（ｈ），（ｉ）に示されるように、第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間（タイミングｔＢｄ２－Ｃ２からタイミングｔＢｄ２－Ｃ３までの期間、図１７１（ｈ）に示される状況）を挟むかたちで上記タイミングｔＢｄ２－Ｃ１から維持されている「第４Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第４Ｂ操作部に対する操作受付が適正になされるようになっており、これによって該操作受付に応じた受付後変化が実行開始されることとなる（図１７１（ｉ）に示される演出状況）。
【５０８２】
より具体的には、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３において、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、第４Ｂ受付後変化として、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）

」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα４（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第４Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５０８３】

この例では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３で第４Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第４Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７１（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｄ２－Ｂ２で第４Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第４Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ受付後表示や、第４Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５０８４】

この点、第４Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３以降、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４が非表示の状態にされるタイミングｔＢｄ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ４が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされた場合、当該「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」は、タイミングｔＢｄ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。

【５０８５】

なお、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２以降のタイミングｔＢｄ２－Ｃ３で発生した「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｄ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされるか否かや、当該状態が終了するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｄ２からタイミングｔＢｄ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３で発生した「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｄ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。

【５０８６】

若しくは、第４Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｄ２―Ｃ２からタイミングｔＢｄ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させ、且つ該発生させた「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｄ３までの期間内の予め定められたタイミングで必ず終了させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５０８７】

そして、図１７０や図１７１に示される演出例では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３で開始された「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｄ３よりも前のタイミングｔＢｄ２－Ｃ４まで継続されてその終了条件が満たされた場合を想定したものとなっている。

【５０８８】

この点、タイミングｔＢｄ２－Ｃ４では、上述のタイミングｔＢｄ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときと同様、図１７０（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ４や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα４ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。

【５０８９】

このような構成によれば、タイミングｔＢｄ２－Ｃ４において第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第４Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。

【５０９０】

そしてこの例では、タイミングｔＢａ２－Ｃ４が到来すると、これを契機として、遊技者に対して操作を促す第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４が非発光の状態にされる。すなわち、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が表示される状態（第４Ｂ受付許容状態）において発光可能とされるものであり、当該状態が終了されるときに発光終了されるものである。これにより、操作受付が許容される状態になったことや、操作受付が許容されない状態になったことを示唆するようにしている。ただし、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４については、画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が非表示にされるタイミングと同じタイミングで非発光の状態にされるようにしてもよいし、画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が非表示にされるタイミングよりも後に非発光の状態にされるようにしてもよい。また、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４については、画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が表示開始されるタイミングと同じタイミングで発光開始されるようにしてもよいし、画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４などの操作関連表示が表示開始されるタイミングよりも前に発光開始されるようにしてもよい。

【５０９１】

この例では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ４において第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた後は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４が非表示の状態にされるタイミングｔＢｄ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ４が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生することはない。したがって、タイミングｔＢｄ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ４が非表示の状態にされるタイミング）まで「第４Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないこととなる（図１７１（ｊ）を参照）。

【５０９２】

ただし、タイミングｔＢｄ２－Ｃ４からタイミングｔＢｄ３までの間に、「第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件がもう一度満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるようにしてもよい。この場合、第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間を複数回挟むかたちで上記タイミングｔＢｄ２－Ｃ１から維持されている「第４Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第４Ｂ操作部に対する操作受付が再びなされて、該操作受付に応じた受付後変化（オート連打機能）が実行開始されることとなることは言うまでもない。

【５０９３】

なお、図１７１（ｈ），（ｊ）に示した例では、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２やタイミングｔＢｄ２－Ｃ４が到来したことに基づいて「ミス！！」といった表示が行われるようにしているが、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２やタイミングｔＢｄ２－Ｃ４が到来したことに基づいて何らの表示も新たに出現しないようにしてもよい。

【５０９４】

また、当該第４Ｂ受付許容状態としての演出性を好適に維持する上では、第４Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｄ２―Ｃ２（若しくは、タイミングｔＢｄ２－Ｃ４）が到来するまで遊技者による操作が行われない場合、該操作が行われたときと同じ受付後変化が生じることがない（自動ボタン機能が有効化されない）ようにすることが望ましい。

【５０９５】

また、第４Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態

が早期終了されうる種別の受付許容状態」としては用意されておらず、「第４Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に基づいて当該状態が終了することはないものとなっている。

【５０９６】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第５Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１７２は、上記発生条件として「条件５Ｂ」が満たされたことに基づいて「第５Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１７３は、「第５Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【５０９７】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第５Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第５Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第５Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第５Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第５Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【５０９８】

図１７２（ｂ）に示されるように、「第５Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第５Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｅ２が到来したことに基づいて（「条件５Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ５や、第５Ｂ連打中表示ＨＢ５、第５Ｂ受付後出力音Ｓα５など）に関しての第５Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第５Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１７３（ａ）に示される状況）。

【５０９９】

ここで、この実施の形態にかかる第５Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第５Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で複数回の操作受付が許容される上記「操作ボタン４１０」ではなく、上記第３Ｂ受付許容状態や上記第４Ｂ受付許容状態においても複数回の操作受付が許容される上記「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第５Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５１００】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１７２（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第５Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第５Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ５と、操作対象（ここでは、第５Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ５と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ５とを、当該第５Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｅ１が到来したときに表示するものとなっている。

【５１０１】

ただし、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、遊技者に対して操作を促す操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ５、メッセージ表示ＭＢ５など）が表示される点では、上記第３Ｂ受付許容状態や上記第４Ｂ受付許容状態と同じであるが、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音が出力されない点で、上記第３Ｂ受付許容状態や上記第４Ｂ受付許容状態と異なるものとなっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｅ１～ｔＢｅ２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ操作関連出力音が可聴出力されていない状況下とされることとなり、当該状況下において、刀装飾

体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５１０２】

ここで、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５や、メッセージ表示ＭＢ５、状況示唆表示ＪＢ５については、必ずしも第５Ｂ受付許容状態が発生するよりも前に現れるものでなくてもよく、第５Ｂ受付許容状態が発生するのと同時に、若しくはその発生に少し遅れるかたちで表示されるものであってもよい。特に、状況示唆表示ＪＢ５については、第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部に対する操作受付が最初になされるまでの間は表示されないものであってもよく、すなわち第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされたことを契機として出現、表示されるものとして実現するようにしてもよい。また、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５が表示されるタイミングと、メッセージ表示ＭＢ５が表示されるタイミングとは互いに異なるようにしてもよい。例えば、メッセージ表示ＭＢ５は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５が表示されるよりも前に表示されるものであってもよい。

【５１０３】

また、当該第５Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件５Ｂ」については、上述の「条件１Ｂ」や「条件２Ｂ」などとは異なり、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングが到来するよりも前に満たされる場合と、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングが到来した後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。

【５１０４】

このような構成を採用した場合、第５Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングが到来するよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１７２に示したタイミングｔＢｅ２が、タイミングｔＢｅ１よりも前に到来する場合）と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングが到来した後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される場合（図１７２に示したタイミングｔＢｅ２が、タイミングｔＢｅ１よりも後に到来する場合）との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５１０５】

ただし、図１７２に示したタイミングｔＢｅ２がタイミングｔＢｅ１よりも前に到来した当該第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、図１７２に示したタイミングｔＢｅ２がタイミングｔＢｅ１よりも後に到来した当該第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５１０６】

なお、当該第５Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるようになる条件である上記「条件５Ｂ」については、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。

【５１０７】

また、これらの構成を採用する場合におけるタイミングｔＢｅ１、タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）の設定手法については、適宜に採用してもよい。以下に、実現例を列記して

おくが、これらは一例にすぎず、これ以外の手法でも実現可能であることは言うまでもない。

【５１０８】

例えば、図柄変動が開始されてからの経過時間を当該「タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）」として設定する場合は、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。若しくは、図柄変動が終了されるまでの残り時間を「タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）」として設定する場合は、当該残り時間として複数を用意することとした上で、それら残り時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。また若しくは、図柄変動が実行されていない期間内でタイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）を設定する場合は、例えば、図柄変動が非実行の状態にされてからの経過時間や、大当り遊技が開始されてからの経過時間などを当該「タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）」として設定することとし、当該経過時間として複数を用意することとした上で、それら経過時間のいずれか１つを演出判定（抽選）などにより選択的に用いるようにする手法を採用可能である。なお、これら手法のいずれかを採用する場合、タイミングｔＢｅ１は、予め定められたタイミングでのみ発生することとなる。

【５１０９】

また、これとは逆に、タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）に代えて、タイミングｔＢｅ１を、上述したタイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）の設定手法のいずれかを用いて到来するようにし、タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）を、予め定められたタイミングでのみ発生するようにしても、同様の構成を実現することが可能である。

【５１１０】

また若しくは、「タイミングｔＢｅ１」の発生条件と、「タイミングｔＢｅ２」の発生条件とを、それぞれ所定確率でその都度抽選することとし、「タイミングｔＢｅ１」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｅ２」が到来するようにするのに対し、「タイミングｔＢｅ２」の発生条件が先に満たされたときには、その後、「タイミングｔＢｅ１」が到来するようにすることとしてもよい。

【５１１１】

この例にかかる摸画像表示ＭＧ－Ｂ５や、メッセージ表示ＭＢ５、状況示唆表示ＪＢ５については、表示開始された以降は、第５Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第５Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して表示されるものとなっている（必須の構成ではない）。

【５１１２】

また、当該第５Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｅ３よりも前に満たされる場合と、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングｔＢｅ３よりも後に満たされる場合との両方があるようにしてもよい。

【５１１３】

このような構成を採用した場合、第５Ｂ受付許容状態では、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる場合との両方があるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５１１４】

ただし、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングよりも前から刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第５Ｂ受付

許容状態において第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合と、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングよりも後に刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる当該第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた場合とでは、該操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であり、これによって１つの有効期間でありながら操作受付が許容されなくなるタイミングが認識し難くされるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５１１５】

なお、当該第５Ｂ受付許容状態にあって、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されなくなる条件については、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が非表示にされるタイミングなどと同じタイミングにおいて満たされる場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合も、操作受付に応じた受付後変化として同じ態様が現れることが重要であることは言うまでもない。

【５１１６】

また、これらの構成を採用する場合における上記各タイミングの設定手法については、適宜に採用してもよい。これら２つのタイミングの前後にかかる設定手法については、例えば、上述した「タイミングｔＢｅ１」と「タイミングｔＢｅ２（条件５Ｂ）」との前後にかかる設定手法などを踏襲してそれぞれ設定することが可能である。

【５１１７】

ここで、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｂ），（ｊ）に示されるように、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢｅ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が発光されないようになっている。この場合、第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）には発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。

【５１１８】

このような構成によれば、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態、第４Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、操作関連表示（摸画像表示や、メッセージ表示など）が表示されるにもかかわらず、操作促進発光が実行されないこととなる。すなわちこの場合、操作促進発光が行われる場合と比べると、操作受付が許容されている状態にあることを相対的に認識し難くさせることができるから、操作受付が許容される状態にあることを操作関連表示によって示唆しつつも緊張感を維持することが期待されうるようになる。

【５１１９】

特に、当該第５Ｂ受付許容状態では、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音が出力されない構成をさらに採用していることから、操作促進発光が実行されない点で共通する上記第３Ｂ受付許容状態と比べても、操作受付が許容されている状態にあることを相対的に認識し難くさせることが可能である。

【５１２０】

ここで、第５Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ５」は、その配色として「所定配色（例えば、赤色が基調とされた配色）」が用いられるようになっている。ただし、例えば、演出判定などの結果に基づいて判定された配色を、複数の配色のなかから選択的に用いて表示されるようにしてもよい。

【５１２１】

また、第５Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ５」は、操作対象である「操作受け部」を摸した部分における所定の動画像を１つの周期的変化とするとき、該周期的変化が予め定められた周期５Ｂ時間を要するかたちで繰り返し現れるものとなっている。ただし、この周期５Ｂ時間は、第１Ｂ受付許容状態で現れる周期１Ｂ時間よりも長い時間（長サイクル）として設定されていることから、当該第５Ｂ受付許容状態では、上述の第１Ｂ受付許容状態と比べて「操作受け部」がその可動範囲を上下にゆっくりと移動する様子が描写されることとなる。

【５１２２】
　また、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｃ），（ｄ）及び図１７３（ａ）に示されるように、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５のほか、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作受付に関連したメッセージ表示（ここでは、「ゴーストツリーを攻撃！刀を「乱打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるものとなっている。当該第５Ｂ受付許容状態で表示されるメッセージ表示（ここでは、「ゴーストツリーを攻撃！刀を「乱打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ５）は、上記第３Ｂ受付許容状態で表示されるメッセージ表示（「鬼を攻撃！刀を「連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び上記第４Ｂ受付許容状態で表示されるメッセージ表示（「ゴブリンを攻撃！刀を「超・連打」！！」として表示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれとも、その態様（表示内容）が異なるものである。
【５１２３】
　ただし、第５Ｂ受付許容状態では、第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されるものであればよく、例えば、該操作関連表示として、摸画像表示及びメッセージ表示の少なくとも一方が表示されるものであれば、それらの両方を必ずしも実行しなくてもよい。
【５１２４】
　また、第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｃ），（ｄ）に示されるように、第５Ｂ操作部に対する操作受付がなかったときにはタイミングｔＢｅ３が到来するときまで摸画像表示及びメッセージ表示が継続して表示され、タイミングｔＢｅ３において非表示の状態にされる。したがって、第５Ｂ受付許容状態が継続されている間、当該第５Ｂ受付許容状態が終了されるタイミングｔＢｅ３が到来するまでの残り時間を示唆するゲージ画像（この例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５内の画像）が時間経過に応じて減少する描写を行うこととしている。ただし、当該描写についても、必ずしも行わないようにしてもよい。
【５１２５】
　また、第５Ｂ受付許容状態に対応する「摸画像表示ＭＧ－Ｂ５」を、当該第５Ｂ受付許容状態が発生するタイミングｔＢｅ２よりも前に表示開始させる場合、その周期的変化やゲージ画像の変化については、該タイミングｔＢｅ２を待ってから開始させるようにしてもよい。
【５１２６】
　また、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｅ）及び図１７３（ａ）に示されるように、当該第５Ｂ受付許容状態に対応する状況示唆表示ＪＢ５として、当該第５Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５）と、当該第５Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、ゴーストツリーとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５）と、その残りＨＰゲージを示すゲージ画像ＨＰ―Ｂ５が表示されるようになっている。第５Ｂ受付許容状態では、「第５Ｂ操作部に対する複数回の操作受付によって、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を倒すことができるか否か（ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５を０にすることができるか否か）」といった演出性を通じて、大当りが得られている期待度が高いか低いかが示唆されうるものとなっており、すなわち「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃するように演出が実行されうることとなる。なおこの例では、状況示唆表示ＪＢ５として、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５とを表示することとしたが、これら表示の全てを必ずしも表示するようにしなくてもよく、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５と、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５と、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５との少なくとも１つが表示されるものであれば、操作の状況を示唆することは可能である。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５については、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で現れる味方キャラクタＹＳ－Ｂ１と異なる画像表示として表示するようにしてもよい。また、当該第５Ｂ受付許容状態では、状況示唆表示ＪＢ５については必ずしも表示しないようにしてもよい。

【５１２７】
例えば、図１７２に示した例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ａ１（図１７３（ｂ）に示される演出状況）において、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。
【５１２８】
この例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ａ１において「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１７３（ｂ）に示される演出状況）。
【５１２９】
より具体的には、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ａ１において、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、第５Ｂ受付後変化として、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ｂ受付後表示」が表示開始される。
【５１３０】
すなわち、第５Ｂ受付許容状態において「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ｂ受付後表示」として、図１７３（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第５Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」が傷を負ったり、剣技の強度が上がったり、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５の残りＨＰゲージが減少したりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１７２（ｅ），（ｆ）や、図１７３（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第５Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第５Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。
【５１３１】
ただし、第５Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合（演出内容に演出度合いの設定がある受付許容状態）とは異なり、第５Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第５Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。この場合、状況示唆表示ＪＢ５が表示されなくなることは言うまでもない。
【５１３２】
また、第５Ｂ受付許容状態は、上述の第３Ｂ受付許容状態との間で、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音が出力されるか否かにかかる構成とのうち少なくとも１つが異なる（この例では、全てが異なる）ものの、当該第５Ｂ受付許容状態で第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受付後変化については、上述の第３Ｂ受付許容状態で第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受

付後変化と同じ変化を生じさせるものとして発生するものであってもよい。若しくは、当該第５Ｂ受付許容状態と、上述の第３Ｂ受付許容状態との間での相違点については、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音が出力されるか否かにかかる構成との２つの点が異なるだけで、それ以外の構成については全て同じとなるように設定してもよい。なお上述の通り、受付後変化として複数の変化を必ずしも生じさせなくてもよく、この場合、例えば、当該第５Ｂ受付許容状態で第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第５Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化として第５Ｂ特定事象（例えば、第５Ｂ受付後出力音）のみを生じさせることとしたとすると、上述の第３Ｂ受付許容状態で第３Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第３Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化については、第３Ｂ特定事象（例えば、第３Ｂ受付後出力音）のみを、上記第５Ｂ特定事象と同じ事象（同じ出力音）として生じさせることとなる。

【５１３３】

また、第５Ｂ受付許容状態は、上述の第４Ｂ受付許容状態との間では、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が行われるか否かにかかる構成と、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音が出力されるか否かにかかる構成とのうち少なくとも１つが異なる（この例では、全てが異なる）ものの、当該第５Ｂ受付許容状態で第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受付後変化については、上述の第４Ｂ受付許容状態で第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされたときの受付後変化と同じ変化を生じさせるものとして発生するものであってもよい。若しくは、当該第５Ｂ受付許容状態と、上述の第４Ｂ受付許容状態との間での相違点については、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が行われるか否かにかかる構成と、操作関連表示（メッセージ表示など）にかかる態様（表示の種別）と、操作関連出力音が出力されるか否かにかかる構成との３つの点が異なるだけで、それ以外の構成については全て同じとなるように設定してもよい。なお上述の通り、受付後変化として複数の変化を必ずしも生じさせなくてもよく、この場合、例えば、当該第５Ｂ受付許容状態で第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第５Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化として第５Ｂ特定事象（例えば、第５Ｂ受付後出力音）のみを生じさせることとしたとすると、上述の第４Ｂ受付許容状態で第４Ｂ操作部に対する操作受付がなされた（第４Ｂ操作部に対する操作が有効判定された）ときの受付後変化については、第４Ｂ特定事象（例えば、第４Ｂ受付後出力音）のみを、上記第５Ｂ特定事象と同じ事象（同じ出力音）として生じさせることとなる。

【５１３４】

また、この例では、第５Ｂ受付許容状態において「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ｂ受付後表示」のほか、上記「第５Ｂ受付後出力音」として、図１７２（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα５が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα５は、上記「第５Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）」に対応する効果音として機能するものである。ただし後述するが、当該第５Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、「第５Ｂ受付後出力音」として、第１の受付後出力音Ｓα５とは異なる出力音がさらに出力される可能性はないようになっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα５については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第５Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能な音として出力されるものであればよい。

【５１３５】

ただし、第５Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、第５Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、受付後表示を必

ずしも表示しないようにしてもよいし、受付後出力音を必ずしも出力しないようにしてもよい。例えば、第５Ｂ受付許容状態では、第５Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、所定発光部における所定発光のみが現れるようにしたり、または特定可動体における特定動作のみが現れるようにしたりしてもよい。要は、第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた受付後変化としての第５Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が少なくとも複数回実行（発生）されるものであればよい。

【５１３６】

ここで、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃する描写とその効果音として現れるものとなっており（１回分の受付後変化）、すなわち「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」による複数回の攻撃によって「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」のＨＰが減少していき（演出内容が進展していき）、その結果としてＨＰが０になると「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を倒すことができたこととなり、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている（複数回分の受付後変化）。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらずＨＰが０にならず、「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を倒すことができなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【５１３７】

ただし、このような第５Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第５Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【５１３８】

そしてこの例は、図１７２（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｅ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第５Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢｅ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【５１３９】

この点、第５Ｂ受付許容状態は、「操作部（第５Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１７２（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第５Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５１４０】

ここで、第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第５Ｂ受付後表示として、図１７３（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトなど）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【５１４１】

また、第５Ｂ受付許容状態において第５Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第５Ｂ受付後出力音が、上記「第５Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタ

ＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【５１４２】

ここで、第５Ｂ受付許容状態では、操作部（第５Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、このような受付後変化（１回分の動画表示、効果音（第５Ｂ受付後出力音）など）が複数回実行されるが、それらの実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）にされる。この「一定の時間」については、同じ操作部を対象としている第３Ｂ受付許容状態及び第４Ｂ受付許容状態の場合と同じ時間として設定するようにすることが望ましい。

【５１４３】

また、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、操作部（第５Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第５Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようになっている。ただし、第５Ｂ受付許容状態における当該間隔については、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔とは異なる時間の長さとして設定されるようにすることが望ましく、例えば、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔よりも長い時間であり且つ特定時間（例えば１秒）以下の時間として設定するようにしてもよい。

【５１４４】

すなわちこの場合、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ５ａ」として表現することとしている。

【５１４５】

またこれも同様、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第５Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα５ａ」として表現することとしている。

【５１４６】

この点、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【５１４７】

したがって、当該期間内では、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ５（図１７２（ｅ）を参照）」が、操作受付を契機として（演出進展する態様で）変化したり実行開始されたりすることはない。

【５１４８】

このような構成によれば、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、図１７３中に示される「剣技攻撃」や「斬撃のエフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能

によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間間隔で繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ５ａ、第１の受付後出力音Ｓα５ａ）、「状況示唆表示ＪＢ５（図１７２（ｅ）を参照）」には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【５１４９】

なお、「状況示唆表示ＪＢ５（図１７２（ｅ）を参照）」については、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５のうち少なくとも１つを、操作受付を契機として変化させるようにしてもよい。ただしこの場合、「演出内容が進展したときの態様」とは異なる態様に変化させる必要があるし、演出内容が進展しないままでタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）が終了されたとき（操作が中断されたとき）にはこれを契機として「操作前の表示態様」に戻されることとなる。また、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５や、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５などの「状況示唆表示ＪＢ５（図１７２（ｅ）を参照）」については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよいことは上述した通りである。

【５１５０】

また、タイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況を示唆する「状況示唆表示ＪＢ５（図１７２（ｅ）を参照）」は、操作受付を契機として変化したり実行開始されたりすることがないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【５１５１】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ５ａが実行されている状況下（タイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間）では、図１７３（ｂ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ５ａとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の間隔毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ５」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【５１５２】

この点、図１７２や図１７３に示される演出例は、遊技者が、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｅ２―Ａ２において第５Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５１５３】

ここで、第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｅ２―Ａ２において第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ５ａ（受付後変化）がこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ１ａは、タイミングｔＢｅ２―Ａ２以降も（第５Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（１回分の受付後変化が実行し終わるまでの間）は、その実行状態が継続されることとなる。

【５１５４】

このような構成によれば、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ５ａがすぐには非表示の状態にされない（受付後変化が１回分の実行途中で途中終了され

ない）ことから、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第５Ｂ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５１５５】

またこの例では、連打中表示ＨＢ５ａが表示されているなかで第５Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ５ａが非表示の状態にされるまでの時間（実行途中の状況下にあった１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５１５６】

このような構成によれば、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ５ａが非表示の状態にされて、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第５Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５１５７】

また、第５Ｂ受付許容状態では、図１７２（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα５ａについても、上記連打中表示ＨＢ５ａと同様、タイミングｔＢｅ２―Ａ２において第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα５ａは、タイミングｔＢｅ２―Ａ２以降も（第５Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【５１５８】

このような構成によれば、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα５ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５１５９】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα５ａ（第５Ｂ事象）が出力されているなかで第５Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα５ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５１６０】

このような構成によれば、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα５ａ（第５Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第５Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５１６１】

また、この実施の形態にかかる第５Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ５ａ及び第１

の受付後出力音Ｓα５ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第５Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７２（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第５Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ５ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＢ５ａが出力状態を継続している状況が現れるようになっている。ただしこの後、第５Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１７２（ｆ），（ｈ）や、図１７３（ｃ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ５ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音Ｓα５ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ５の態様（ここでは、態様ＪＢ５ａ）を容易に認識することができるようになる（図１７３（ｃ）を参照）。

【５１６２】

ただし上述の通り、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。なお、第５Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５１６３】

したがって、図１７３（ｃ）に示される状況では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ５の態様（ここでは、態様ＪＢ５ａ）を容易に認識することができるようになっているものの、それらの態様は、操作前の状態（図１７３（ａ）を参照）と同じであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆される。なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ５の態様については、演出内容が進展していないことを示唆可能であればよく、必ずしも操作前の態様（図１７３（ａ）を参照）と同じでなくてもよい。

【５１６４】

そしてこの例では、図１７２（ａ）に示されるように、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｂ１（図１７３（ｄ）に示される演出状況）において、「第５Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５１６５】

この例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｂ１において「第５Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１７２（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７３（ｄ）に示される演出状況）。

【５１６６】

そしてこの例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｂ１において、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、第５Ｂ受付後変化として、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα５（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５１６７】

この例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｂ１で第５Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展し

なかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７３（ｄ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｅ２－Ａ１で第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第５Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後表示や、第５Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５１６８】

この点、図１７２や図１７３に示される演出例は、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第５Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５１６９】

したがって、当該「タイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第５Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５１７０】

そして、当該「タイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ５ａや、第１の受付後出力音Ｓα５ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２までの期間」の場合（図１７３（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５１７１】

ただし、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｅ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１７３（ｅ）に示される演出状況）。

【５１７２】

したがって、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｅ２－Ｂ２からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【５１７３】

より具体的には、タイミングｔＢｅ２－Ｂ２からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｅ２－Ｂ２」では、図１７２（ｅ）及び図１７３（ｅ）に示されるように、第５Ｂ操作部に対する操作受付に基づいて、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ５の態様を、それまで現れていた「態様ＪＢ５ａ」から、これとは異なる「態様ＪＢ５Ｂ」に変化させる表示変化が実行される。ここでは、図１７３（ｅ）に示されるように、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５が傷を負った態様に変化され、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５による剣技がより高い強度の態様に変化され、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５が残りＨＰゲージの減少した態様に変化されることとなる。このような構成によれば、このような状況示唆表示ＪＢ５の態様変化を通じて、当該第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢｅ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようにな

る。
【５１７４】
そして、こうして演出内容の進展がなされた後は、第５Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ｂ受付後表示」として、図１７３（ｅ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が強度の高くなった剣技を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。
【５１７５】
なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第５Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第５Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５」が剣技で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。
【５１７６】
すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｅ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。
【５１７７】
また、演出内容が進展したタイミングｔＢｅ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が剣技で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」による繰り返し表示（複数回の受付後変化）を、図中では、「連打中表示ＨＢ５Ｂ」として表現することとしている。
【５１７８】
このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｅ２－Ｂ２」が到来すると、図１７２（ｅ），（ｆ）及び図１７３（ｄ），（ｅ）に示されるように、状況示唆表示ＪＢ５の態様が「態様ＪＢ５ａ」から「態様ＪＢ５Ｂ」に変化するとともに、連打中表示ＨＢ５の態様についても「態様ＨＢ５ａ」から「態様ＨＢ５Ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｅ２－Ｂ２～ｔＢｅ２－Ｂ３）は、状況示唆表示ＪＢ５が「態様ＪＢ５Ｂ」で表示されているなかで、連打中表示ＨＢ５が「態様ＨＢ５Ｂ」で実行されることとなる。
【５１７９】
なおこの例では、連打中表示ＨＢ５の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ５を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ５を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、状況示唆表示ＪＢ５の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第５Ｂ受付許容状態については、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態とは異なり、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りであり、この場合、状況示唆表示は表示されず、受付後変化が一の態様のみで複数回実行されることとなることは言うまでもない。
【５１８０】
また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第５Ｂ受付許容状態にお

いて「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第５Ｂ受付後表示」のほか、上記「第５Ｂ受付後出力音」として、図１７２（ｈ）に示されるように、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα５が出力されうる。ただし上述の通り、図１７２（ｉ）に示されるように、当該第５Ｂ受付許容状態では、上記「第５Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音が出力されることはない。

【５１８１】

また、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα５については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｅ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα５が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢｅ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢｅ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。

【５１８２】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｅ２－Ｂ１からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα５）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα５ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα５ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢｅ２－Ａ１からタイミングｔＢｅ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５１８３】

なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα５ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。

【５１８４】

ただし、このようなオート連打機能によって連打中表示ＨＢ５Ｂが実行されている状況下（タイミングｔＢｅ２－Ｂ２からタイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間）においても、図１７３（ｅ）に示されるように、該連打中表示ＨＢ５Ｂとして「味方キャラクタＹＳ－Ｂ５が、強度の高い剣技で、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５を攻撃する態様（剣筋や斬撃のエフェクトの発生など）」が一定の時間毎に繰り返し現れるから、これによって「状況示唆表示ＪＢ５」が視認し難くされたり、目立たなくなったりして、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況を認識し難くなる場合がある（この構成は必須でない）。

【５１８５】

この点、図１７２や図１７３に示される演出例は、遊技者が、当該第５Ｂ受付許容状態における操作の状況をより積極的に確認するために、タイミングｔＢｅ２―Ｂ３において第５Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５１８６】

ここで、上述の通り、第５Ｂ受付許容状態では、当該第５Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第５Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ５がこれを契機として非表示の状態にされることはない（実行途中の状態にあった受付後変化が、非操作を契機として途中終了されることはない）。したがって、図１７２（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｅ２―Ｂ３において第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＢ５Ｂは、タイミングｔＢｅ２―Ｂ３以降も（第５Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」が予め定められた表示時間（実行時間）分だけ実行されて表示（実行）し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続される

こととなる。
【５１８７】
　また、これも連打中表示ＨＢ５ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ５Ｂが表示されているなかで第５Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ５Ｂが非表示の状態にされるまでの時間（１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【５１８８】
　また上述の通り、第５Ｂ受付許容状態では、当該第５Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第５Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα５ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１７２（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｅ２―Ｂ３において第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音Ｓα５ａは、タイミングｔＢｅ２―Ｂ３以降も（第５Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【５１８９】
　またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα５（第５Ｂ事象）が出力されているなかで第５Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα５ａ（第５Ｂ事象）が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。このような構成によれば、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα５が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第５Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第５Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。
【５１９０】
　また、この実施の形態にかかる第５Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ５Ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα５ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第５Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１７２（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ５Ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα５ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ５Ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα５ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ５Ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα５ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。
【５１９１】
　このような構成によれば、この実施の形態にかかる第５Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ５Ｂ、第１の受付後出力音Ｓα５ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第５Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７２（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第５Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ５Ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα５ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第５Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｅ２―Ｂ３からの時間経過）によって、図１７２（ｆ）

や、図１７３（ｆ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ５Ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされることはもとより、味方キャラクタＹＳ－Ｂ３や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ５、ゲージ画像ＨＰ―Ｂ５など、操作の状況を示唆する状況示唆表示ＪＢ５の態様（ここでは、演出内容が進展した態様ＪＢ５Ｂ）を容易に認識することができるようになる（図１７３（ｆ）を参照）。

【５１９２】

また、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα５ａも、第５Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢａ２―Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた出力状態は終了（非可聴の状態に）される。

【５１９３】

ただしこの例では、図１７２（ａ）に示されるように、第５Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢａ２―Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα５ａが可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｅ２－Ｃ１（図１７３（ｇ）に示される演出状況）において第５Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５１９４】

この例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｃ１において「第５Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｅ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１７２（ｆ）に示されるように、該操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７３（ｇ）に示される演出状況）。

【５１９５】

より具体的には、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｃ１において、「第５Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７２（ｆ）に示されるように、第５Ｂ受付後変化として、「第５Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第５Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５１９６】

この例では、第５Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｅ２－Ｃ１で第５Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が図１７３（ｇ）に示される態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７３（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｅ－Ｂ２で第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第５Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後表示）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５１９７】

ただし、この例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ｃ１は、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１～タイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力が継続されているなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【５１９８】

この点、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１はもとより、該タイミングｔＢｅ２－Ｃ１が到来した以降も、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１～タイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力が終了されない限りは、第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）が新たに出力開始されることはない。すなわちこの場合、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態では、

図１７２（ｈ）に示されるように、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第５Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）が新たに出力開始されることとなる。なおこの際、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第５Ｂ操作部に対する操作のやり直しを行う必要はなく、第５Ｂ操作部についてはこれをタイミングｔＢｅ２－Ｃ１から操作状態に維持するだけで操作受付がなされる。

【５１９９】

なお、連打中表示ＨＢ５についても、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１～タイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間内で実行開始された１回分の第５Ｂ受付後表示がタイミングｔＢａ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。ただしこの場合、第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の場合と同様、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３を跨ぐかたちで表示されている１回分の第５Ｂ受付後表示が非表示（予め定められた表示時間分だけ表示されてから非表示）にされた以降、第５Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第５Ｂ受付後表示が新たに表示開始されることとなる。

【５２００】

若しくは、タイミングｔＢｅ２－Ｂ１～タイミングｔＢｅ２－Ｂ３の期間内で実行開始された受付後変化の少なくとも１つが実行状態にあるなかでタイミングｔＢｅ２－Ｃ１が到来したときには、該受付後変化の全てが非実行の状態にされない限りは、受付後変化が新たに出力開始されることがないようにしてもよい。当該手法を採用した場合、図１７２に示した例では、上記第５Ｂ受付後表示は、第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力が終了されない限りは、新たな１回分が表示開始されることはない。すなわちこの場合、上記第５Ｂ受付後表示については、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１で新たに表示開始されることはなく、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第５Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα５）の可聴出力が終了された以降、第５Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで新たな１回分が表示開始されることとなる。

【５２０１】

また、図１７２や図１７３に示される演出例は、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第５Ｂ操作部の操作状態）を、第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｅ２―Ｃ２が到来した時点（第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた時点）においても継続しており、これによってタイミングｔＢｅ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５２０２】

したがって、当該「タイミングｔＢｅ２－Ｃ１からタイミングｔＢｅ２－Ｃ２までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第５Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５２０３】

そして、当該「タイミングｔＢｅ２－Ｃ１からタイミングｔＢｅ２－Ｃ２までの期間（第５Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ５Ｂや、第１の受付後出力音Ｓα５ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、図１７３（ｇ）に示されるように、上述の「タイミングｔＢａ２－Ｂ２からタイミングｔＢａ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１７３（ｅ）を参照）と同じである。なお、その

演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５２０４】
ここで、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態は、受付後変化として特別の態様（最終の態様）が現れない場合を想定したものとなっている。したがって、図１７２に示した例にかかるタイミングｔＢｅ２－Ｃ１からタイミングｔＢｅ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１７３（ｇ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。
【５２０５】
この点、タイミングｔＢｅ２－Ａ２や、タイミングｔＢｅ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ５や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα５ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させないようにしたが、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときも同様、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ５や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα５ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。
【５２０６】
このような構成によれば、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２において第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第５Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。
【５２０７】
この点、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５や、メッセージ表示ＭＢ５、状況示唆表示ＪＢ５などについても、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２が到来した時点で非表示にせず、該タイミングｔＢｅ２－Ｃ２が到来して第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなった以降も表示されうるようにしており、これによってタイミングｔＢｅ２－Ｃ２以降も、遊技者に対して「第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされて受付後変化を新たに生じさせるチャンスがまだ残されているかもしれない」といった期待感が付与されるようにしている。
【５２０８】
なおこの例では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５については、タイミングｔＢｅ１で表示開始された以降、操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２を経た後、タイミングｔＢｅ３で非表示の状態にされるものとなっている。また、状況示唆表示ＪＢ５については、タイミングｔＢｅ３が到来した時点においても非表示の状態にされず、それ以降の適宜のタイミングで非表示の状態にされるものとなっている。ただし上述の通り、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５及びメッセージ表示ＭＢ５の表示タイミングや、非表示にされるタイミングは互いに異なるようにしてもよいし、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５及びメッセージ表示ＭＢ５の一方のみが操作関連表示として表示されるようにしてもよい。また、状況示唆表示ＪＢ５については、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５と同じタイミングで非表示の状態にするようにしてもよい。
【５２０９】
そしてこの例では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１から開始されている「第５Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３が到来した時点や、さらには状況示唆表示ＪＢ５が非表示の状態にされるタイミングが到来した時点においても継続している場合を想定したものとなっている。
【５２１０】

この点、第５Ｂ受付許容状態では、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｅ２－Ｃ２以降）、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ５が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。なお、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされなかった場合には、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２以降、オート連打機能が無効とされたままでタイミングｔＢｅ３が到来して摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５などの操作関連表示が非表示の状態にされることとなる。

【５２１１】

なお、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされるか否かや、当該状態が発生するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｅ２からタイミングｔＢｅ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。

【５２１２】

若しくは、第５Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５２１３】

そしてこの例では、図１７２（ｂ）に示されるように、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの期間のうち、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３で「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生した場合（発生条件が満たされた場合）を想定したものとなっている。

【５２１４】

この点、この例にかかるタイミングｔＢｅ３では、図１７２（ａ），（ｂ）や、図１７３（ｇ），（ｈ），（ｉ）に示されるように、第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間（タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ２－Ｃ３までの期間、図１７３（ｈ）に示される状況）を挟むかたちで上記タイミングｔＢｅ２－Ｃ１から維持されている「第５Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第５Ｂ操作部に対する操作受付が適正になされるようになっており、これによって該操作受付に応じた受付後変化が実行開始されることとなる（図１７３（ｉ）に示される演出状況）。

【５２１５】

より具体的には、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３において、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、第５Ｂ受付後変化として、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα５（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第５Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５２１６】

この例では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３で第５Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第５Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７３（ｉ）に示される状況では、上記タイミングｔ

Ｂｅ２－Ｂ２で第５Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第５Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ受付後表示や、第５Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５２１７】

この点、第５Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３以降、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ５が非表示の状態にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされた場合、当該「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」は、タイミングｔＢｅ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。

【５２１８】

なお、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２以降のタイミングｔＢｅ２－Ｃ３で発生した「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｅ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされるか否かや、当該状態が終了するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｅ２からタイミングｔＢｅ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの期間内で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３で発生した「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｅ３が到来するまでの間にその終了条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。

【５２１９】

若しくは、第５Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｅ２―Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させ、且つ該発生させた「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｅ３までの期間内の予め定められたタイミングで必ず終了させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５２２０】

そして、図１７２や図１７３に示される演出例では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３で開始された「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、タイミングｔＢｅ３よりも前のタイミングｔＢｅ２－Ｃ４まで継続されてその終了条件が満たされた場合を想定したものとなっている。

【５２２１】

この点、タイミングｔＢｅ２－Ｃ４では、上述のタイミングｔＢｅ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときと同様、図１７２（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ５や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα５ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。

【５２２２】

このような構成によれば、タイミングｔＢｅ２－Ｃ４において第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第５Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第５Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。

【５２２３】

この例では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ４において第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた後は、摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ５が非表示の状態

にされるタイミング）が到来するまでの間に、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生しない。したがって、タイミングｔＢｅ３（さらには、状況示唆表示ＪＢ５が非表示の状態にされるタイミング）まで「第５Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないこととなる（図１７３（ｊ）を参照）。

【５２２４】

ただし、タイミングｔＢｅ２－Ｃ４からタイミングｔＢｅ３までの間に、「第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件がもう一度満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるようにしてもよい。この場合、第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間を複数回挟むかたちで上記タイミングｔＢｅ２－Ｃ１から維持されている「第５Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第５Ｂ操作部に対する操作受付が再びなされて、該操作受付に応じた受付後変化（オート連打機能）が実行開始されることとなることは言うまでもない。

【５２２５】

なお、図１７３（ｈ），（ｊ）に示した例では、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２やタイミングｔＢｅ２－Ｃ４が到来したことに基づいて「ミス！！」といった表示が行われるようにしているが、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２やタイミングｔＢｅ２－Ｃ４が到来したことに基づいて何らの表示も新たに出現しないようにしてもよい。

【５２２６】

また、当該第５Ｂ受付許容状態としての演出性を好適に維持する上では、第５Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｅ２―Ｃ２（若しくは、タイミングｔＢｅ２－Ｃ４）が到来するまで遊技者による操作が行われない場合、該操作が行われたときと同じ受付後変化が生じることがない（自動ボタン機能が有効化されない）ようにすることが望ましい。

【５２２７】

また、第５Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」としては用意されておらず、「第５Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に基づいて当該状態が終了することはないものとなっている。

【５２２８】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第６Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１７４は、上記発生条件として「条件６Ｂ」が満たされたことに基づいて「第６Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１７５は、「第６Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【５２２９】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第６Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第６Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第６Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第６Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第６Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【５２３０】

図１７４（ｂ）に示されるように、「第６Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第６Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｆ２が到来したことに基づいて（「条件６Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ連打中表示ＨＢ６、第６Ｂ受付後出力音Ｓα６，Ｓβ６など）に関

しての第６Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第６Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１７５（ａ）に示される状況）。

【５２３１】

ここで、この実施の形態にかかる第６Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第６Ｂ操作部」は、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態などと同様、上記操作ボタン４１０として設定されており、当該第６Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５２３２】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１７４（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第６Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第６Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示や、操作対象（ここでは、第６Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示などの操作関連表示や、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示などが表示されることがない。またこの例では、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音が可聴出力されることもない。このように、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態は、「第６Ｂ操作部」に対する操作受付が許容されたことを認識し難くするものとなっている。

【５２３３】

ただし、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態では、その発生に際して（この例では、タイミングｔＢｆ２だが、その前後に多少ズレてもよい）、遊技者に対して操作を促す第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６が発光される。この例では、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６として、第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）が有する発光部を発光させることとしているが、遊技者に対して操作ボタン４１０への操作を促す態様（例えば、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるときにしか現れない態様など）であれば、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６として、第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）とは異なる部位に設けられた発光部を発光させるようにしてもよい。この場合、第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。このような構成によれば、「第６Ｂ操作部」に対する操作受付が許容されたことを認識し難くするようにしつつも、操作受付が許容されたことに関してのヒントが提供されるようになり、遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【５２３４】

この例にかかる第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６は、発光開始された以降は、第６Ｂ操作部の操作状態にかかわらず、当該第６Ｂ受付許容状態が少なくとも終了されるまでの間は継続して発光されるものとなっている。なお、第６Ｂ受付許容状態において、当該第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６については必ずしも実行されないようにしてもよい。

【５２３５】

また、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態においても、図１７５（ａ）に示されるように、当該第６Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６）や、当該第６Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、シャドウとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６）は表示されるようになっている。そして、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃するように演出が実行されうる。ただし、この例にかかる味方キャラクタＹＳ－Ｂ６や敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６は、第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）が操作状態にない状況下においても演出内容の進展度合いを示唆可能な上述の「状況示唆表示」としては機能しないものとなっている。また、当該第６Ｂ受付許容状態において、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６や敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６は必ずしも表示しなくてもよい。

【５２３６】

なお、第６Ｂ受付許容状態においても、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態など

と同様に、状況示唆表示を表示するようにしてもよい。ただしこの場合、当該第６Ｂ受付許容状態としての秘匿性に鑑みて、該状況示唆表示については、操作受付がなされていない間は表示されず、操作受付がなされたことに基づいて表示開始されて、それ以降、表示状態を継続するものとして実現することが望ましい。

【５２３７】

例えば、図１７４に示した例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ａ１（図１７５（ｂ）に示される演出状況）において、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。

【５２３８】

この例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ａ１において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１７５（ｂ）に示される演出状況）。

【５２３９】

より具体的には、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ａ１において、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第６Ｂ受付後変化として、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【５２４０】

すなわち、第６Ｂ受付許容状態において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第６Ｂ受付後表示」として、図１７５（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が光系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃する態様（光エフェクトや、光系魔法の発生など）で１回分の動画表示が表示されるようになっている。ただし後述するが、第６Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、光系魔法の強度が上がったり、光エフェクトの大きさが異なったりする可能性（演出判定などによって演出内容が進展する可能性）がある。こうして演出内容が進展した場合は、その後、第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が光系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃する態様）が、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れることとなる（図１７４（ｆ）や、図１７５（ｅ）などを参照）。なお、こうして演出内容が進展した後は、当該第６Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第６Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が光系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れうることとなる。演出内容が進展する都度、大当りが得られている可能性（期待度）が高いことが示唆されるようにしてもよい。

【５２４１】

ただし、第６Ｂ受付許容状態では、第６Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第６Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第６Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。

【５２４２】

また、この例では、第６Ｂ受付許容状態において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第６Ｂ受付後表示」のほか、上記「第６Ｂ受付後出力音」として、図１７４（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力

音Ｓα６が出力されうる。なお、この例にかかる第１の受付後出力音Ｓα６は、上記「第６Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（光エフェクトや、光系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するものである。またこの際、後述するが、「第６Ｂ受付後出力音」として、第２の受付後出力音Ｓβ６がさらに出力される可能性があるようになっている。この例にかかる第２の受付後出力音Ｓβ６は、上記「第６Ｂ受付後表示」の演出内容が進展するときに出力されるものとなっている。なおここでは、第１の受付後出力音Ｓα６については、受付後表示に対応する効果音として機能するものとして実現することとしたが、必ずしも効果音として機能するものでなくてもよく、要は、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第６Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能なものであればよい。

【５２４３】

また、この例では、上記タイミングｔＢｆ２－Ａ１が、図１７４（ｊ）に示されるように、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６が発光状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっているが、該タイミングｔＢｆ２－Ａ１においては、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６が非発光の状態にされない。

【５２４４】

すなわち、この例にかかる第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６は、該第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６が発光状態にあるなかで「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機としてその発光状態が終了されない場合と終了される場合との両方があるものとなっており、ここでは、第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として、「第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態（第６Ｂ受付許容状態）」が早期終了される場合（タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前に終了される場合）に限り、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６の発光状態も併せて早期終了されるものとなっている。ただし、当該第６Ｂ受付許容状態については、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態とは異なり、第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付を契機として、「第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態（第６Ｂ受付許容状態）」が早期終了される場合がないようにしてもよい。

【５２４５】

このように、第６Ｂ受付許容状態では、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされる都度、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃する描写とその効果音が現れるものとなっており、その結果として攻撃の度合いが最も高い態様になると、これによって期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、複数回の攻撃を行ったにもかかわらず攻撃の度合いが最も高い態様にならなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。

【５２４６】

ただし、このような第６Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第６Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光の開始または終了や、出力状態にある音の可聴出力を終了など）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後表示」や「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。したがって、受付後変化として、受付後表示は必ずしも実行しなくてよく、この場合であっても、例えば、ランプ発光の態様や、または出力音の態様によって演出の進展度合いを示唆することが可能である。

【５２４７】

そしてこの例は、図１７４（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｆ２－Ａ１におい

て開始された遊技者による操作（第６Ｂ操作部の操作状態）は、タイミングｔＢｆ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。

【５２４８】

この点、第６Ｂ受付許容状態は、「操作部（第６Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作などの少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１７４（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２までの期間（第６Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第６Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作などの少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５２４９】

ここで、第６Ｂ受付許容状態において第６Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第６Ｂ受付後表示として、図１７５（ｂ）に示されるように、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（光エフェクトや、光系魔法の発生など）が表示（１回分の動画表示）されるようになっていることは上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２では、まず、このような「１回分の動画表示」が、複数回再生されることとなる。

【５２５０】

また、第６Ｂ受付許容状態において第６Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第６Ｂ受付後出力音が、上記「第６Ｂ受付後表示」として現れる、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（光エフェクトや、光系魔法の発生など）」に対応する効果音として機能するように出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、上記「１回分の動画表示」のほか、このような「１回分の動画表示」に対応する効果音が、複数回再生されることとなる。

【５２５１】

ここで、第６Ｂ受付許容状態では、操作部（第６Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能（長押し機能）が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第６Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間）毎に新たに実行開始されるようになっている。

【５２５２】

また、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態では、操作部（第６Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能（長押し機能）が有効化されると、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（１回分の動画表示）や、該「１回分の動画表示」に対応する効果音（第６Ｂ受付後出力音）が、上記受付後変化として複数回実行可能とされるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、上記第１Ｂ受付許容状態の場合と同様、必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようになっている。

【５２５３】

すなわちこの場合、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２では、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する「１回分の動画表示（受付後変化の１つ）」がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような「１回分の動画表示」の繰り返し表示を、図中では、「連打中表示ＨＢ６ａ」として表現することとしている。

【５２５４】

またこれも同様、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（受付後変化の１つである第６Ｂ受付後出力音）がオート連打機能によって一定の時間毎に新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα６ａ」として表現することとしている。

【５２５５】

この点、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。

【５２５６】

したがって、当該期間内では、当該第６Ｂ受付許容状態において演出進展が生じたことを示唆する「第２の受付後出力音（図１７４（ｉ）を参照）」が、操作受付を契機として実行開始されることはない。また、当該期間内では、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６は終了されずその発光状態を維持することとなる。

【５２５７】

このような構成によれば、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、図１７５中に示される「光系の魔法攻撃」や「光エフェクト」などが表示される態様と、それに対応する効果音の出力とが、オート連打機能によってそれぞれ一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間毎に繰り返し実行される）ものの（連打中表示ＨＢ６ａ、第１の受付後出力音Ｓα６ａ）、その（攻撃にかかる）態様が変化しない、といった態様が現れることとなる。これにより、単調な繰り返し操作を行わずとも、それを行ったときと同じ演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【５２５８】

なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機として（当該有効期間が終了されるまでの間、若しくは予め定められた時間だけ）出現、表示されるものとして実現してもよい。

【５２５９】

また、タイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、当該第６Ｂ受付許容状態における演出内容が進展したことを示唆する「第２の受付後出力音（図１７４（ｉ）を参照）」が実行開始されないから、演出内容が進展していないことを好適に示唆することができるようになる。

【５２６０】

この点、図１７４や図１７５に示される演出例は、遊技者が、演出内容が進展していないことにやきもきして、例えば、非操作時の状況を確認するべく、タイミングｔＢｆ２―Ａ２において第６Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５２６１】

ここで、第６Ｂ受付許容状態では、図１７４（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｆ２―Ａ２において第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ６ａがこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、連打中表示ＨＢ６ａは、タイミングｔＢｆ２―Ａ２以降も（第６Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その実行状態が継続されることとなる。

【５２６２】

このような構成によれば、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ１ａがすぐには非表示の状態にされないことから、当該第６Ｂ受付許容状態において非操作時の状況を認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第６Ｂ受付許容状態としての残り時間を大きく消費することを意味するから、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第６Ｂ受付許容状態における非操作時の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５２６３】

またこの例では、連打中表示ＨＢ６ａが表示されているなかで第６Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ６ａが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５２６４】

このような構成によれば、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、連打中表示ＨＢ６ａが非表示の状態にされて、当該第６Ｂ受付許容状態における非操作時の状況を認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第６Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第６Ｂ受付許容状態における非操作時の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５２６５】

また、第６Ｂ受付許容状態では、図１７４（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα６ａについても、上記連打中表示ＨＢ６ａと同様、タイミングｔＢｆ２―Ａ２において第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα６ａは、タイミングｔＢｆ２―Ａ２以降も（第６Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【５２６６】

このような構成によれば、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα６ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５２６７】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα６ａ（第６Ｂ事象）が出力されているなかで第６Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５２６８】

このような構成によれば、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα６ａ（第６Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第６Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５２６９】

また、この実施の形態にかかる第６Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ６ａ及び第１の受付後出力音Ｓα６ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第６Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）は、図１７４（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ６ａが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ６ａが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる上述の性質により、連打中表示ＨＢ６ａが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。

【５２７０】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第６Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ６ａ及び第１の受付後出力音Ｓα６ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第６Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７４（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第６Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ６ａが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα６ａが出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第６Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１７４（ｆ），（ｈ）や、図１７５（ｃ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ６ａは非表示の状態にされるとともに、第１の受付後出力音Ｓα６ａは非出力の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされるようになる（図１７５（ｄ）を参照）。

【５２７１】

そして上述の通り、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。なお、第６Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５２７２】

ただし上述の通り、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態では、状況示唆表示が表示されていないから、当該状況下（図１７５（ｃ）に示される状況下）において、演出の進展度合いを確認することはできない。なお、これも上述したが、第６Ｂ受付許容状態においても、状況示唆表示を表示するようにしたり、表示とは異なる手法（ランプ発光）によって当該状況下（図１７５（ｃ）に示される状況下）における状況示唆を実現したりすることも可能である。

【５２７３】

そしてこの例では、図１７４（ａ）に示されるように、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｂ１（図１７５（ｄ）に示される演出状況）において、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５２７４】

この例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｂ１において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７５（ｄ）に示される演出状況）。

【５２７５】

より具体的には、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｂ１において、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第６Ｂ受付後変化として、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα６（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５２７６】

この例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｂ１で第６Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７５（ｄ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｆ２－Ａ１で第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第６Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後表示や、第６Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５２７７】

この点、図１７４や図１７５に示される演出例は、タイミングｔＢｆ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第６Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｆ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５２７８】

したがって、当該「タイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３までの期間（第６Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第６Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５２７９】

そして、当該「タイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３までの期間（第６Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ６ａや、第１の受付後出力音Ｓα６ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２までの期間」の場合（図１７５（ｂ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５２８０】

ただし、図１７５に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｆ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている（図１７５（ｅ）に示される演出状況）。

【５２８１】

したがって、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｆ２－Ｂ２からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【５２８２】

より具体的には、こうして演出内容の進展がなされた後は、第６Ｂ操作部に対して操作

受付が１回なされると、上記「第６Ｂ受付後表示」として、図１７５（ｅ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が強度の高くなった光系魔法を用いて、傷を負った敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６に対して攻撃を行う」といったような、演出内容が進展した態様で上記「１回分の動画表示」が表示されることとなる。

【５２８３】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第６Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の動画表示が終了した後に、第６Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされたときの態様（ここでは、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ６」が光系の魔法で「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６」を攻撃する態様）は、該進展した演出内容に変化した１回分の動画表示として現れる。

【５２８４】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｆ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の動画表示」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【５２８５】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢｆ２－Ｂ２以降の期間においても、味方キャラクタＹＳ－Ｂ６が光系の魔法で敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ６を攻撃する態様（１回分の動画表示）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の動画表示」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の動画表示（１回分の受付後変化）」による繰り返し表示（複数回の受付後変化）を、図中では、「連打中表示ＨＢ６ｂ」として表現することとしている。

【５２８６】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｆ２－Ｂ２」が到来すると、図１７４（ｆ）及び図１７５（ｅ）に示されるように、連打中表示ＨＢ６の態様が「態様ＨＢ６ａ」から「態様ＨＢ６ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｆ２－Ｂ２～ｔＢｆ２－Ｂ３）は、連打中表示ＨＢ６が「態様ＨＢ６ｂ」で実行されることとなる。

【５２８７】

なおこの例では、連打中表示ＨＢ６の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。すなわち、演出内容の進展にかかわらず連打中表示ＨＢ６を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、遊技者は、連打中表示ＨＢ６を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、第６Ｂ受付後出力音Ｓβ６の出力を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第６Ｂ受付許容状態については、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りである。

【５２８８】

また上述の通り、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、第６Ｂ受付許容状態において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第６Ｂ受付後表示」のほか、上記「第６Ｂ受付後出力音」として、図１７４（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音が出力されうる。そして、このような「第６Ｂ受付後出力音」として、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα６のほか、図１７４（ｉ）に示されるように、当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展したことを示唆する第２の受付後出力音Ｓβ６が出力可能であ

ることも上述した通りである。
【５２８９】
したがって、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間では、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｆ２－Ｂ２が到来すると、同図１７４（ｉ）に示されるように、タイミングｔＢｆ２－Ｂ２で操作受付（演出進展）がなされたことに基づいて、第２の受付後出力音Ｓβ６が態様Ｓβ６ｂ－１で出力開始されることとなる。これにより、遊技者は、受付後出力音の出力態様を通じて、演出内容が進展したことを認識することができるようになる。第２の受付後出力音Ｓβ６については、操作受付に応じた１回分の第１の受付後出力音Ｓα６よりもその出力時間が長い時間となるように設定することが望ましい。
【５２９０】
ただし、この演出例では、「１回分の動画表示」に対応する効果音として機能する第１の受付後出力音Ｓα６については、演出内容が進展する前と後とで同じ態様で出力されるものとして実現することとしている。したがって、演出内容が進展されるタイミングであるタイミングｔＢｆ２－Ｂ２が到来したときには、操作受付がなされたことに基づいて、新たな「効果音」としての第１の受付後出力音Ｓα６が出力開始されることにはなるものの、その態様は、タイミングｔＢｆ２－Ｂ２よりも前に操作受付がなされたときと同じである（タイミングｔＢｆ２－Ｂ２で演出進展が生じた場合と生じなかった場合とでその実行の態様は同じである）。
【５２９１】
すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｆ２－Ｂ１からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３の期間の全期間にわたって、上述の「１回分の動画表示」に対応する効果音（第１の受付後出力音Ｓα６）がオート連打機能によって一定の時間毎に同じ態様で新たに出力開始されることとなり、このような「効果音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα６ａ」として表現することとしている。なお、当該期間における第１の受付後出力音Ｓα６ａの出力態様については、上述した「タイミングｔＢｆ２－Ａ１からタイミングｔＢｆ２－Ａ２までの期間」の場合と同様であるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５２９２】
なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα６ａの態様を、演出内容の進展に応じて変化させないようにしたが、演出内容の進展に応じて変化させるようにしてもよい。
【５２９３】
この点、図１７４や図１７５に示される演出例は、遊技者が、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３において第６Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。
【５２９４】
ここで、上述の通り、第６Ｂ受付許容状態では、当該第６Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第６Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった連打中表示ＨＢ６がこれを契機として非表示の状態にされることはない。したがって、図１７４（ｆ）に示されるように、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３において第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、連打中表示ＨＢ６ｂは、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３以降も（第６Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その実行状態が継続されることとなる。
【５２９５】
また、これも連打中表示ＨＢ６ａの場合と同様、連打中表示ＨＢ６ｂが表示されているなかで第６Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該連打中表示ＨＢ６ｂが非表示の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５２９６】
　また上述の通り、第６Ｂ受付許容状態では、当該第６Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第６Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα６ａがこれを契機として非出力の状態にされることはない。したがって、図１７４（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３において第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第１の受付後出力音Ｓα６ａは、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３以降も（第６Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の動画表示に対応する効果音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【５２９７】
　ただし、図１７４に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｂ３は、タイミングｔＢｆ２―Ｂ２で出力開始された上記第２の受付後出力音Ｓβ６が出力状態を継続しているなかで、第６Ｂ操作部の操作状態が中断された場合を想定したものとなっている。
【５２９８】
　この点、第６Ｂ受付許容状態では、第２の受付後出力音Ｓβ６についても、上記第１の受付後出力音Ｓα６と同様、第６Ｂ操作部の操作状態が中断された（非操作の状態にされた）ことを契機として、その出力状態を終了させる（非可聴の状態にされる）ことがない。したがって、図１７４（ｉ）などに示されるように、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３において第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、第２の受付後出力音Ｓβ６ｂ－１は、タイミングｔＢｆ２―Ｂ３以降も（第６Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間、または非操作状態から予め定められた時間分だけは、その出力状態が継続されることとなる。
【５２９９】
　またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα６（第６Ｂ事象）が出力されているなかで第６Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。また、第２の受付後出力音Ｓβ６（第６Ｂ事象）についても同様、該第２の受付後出力音Ｓβ６が出力されているなかで第６Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第２の受付後出力音Ｓβ６が非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。
【５３００】
　このような構成によれば、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα６（第６Ｂ事象）や第２の受付後出力音Ｓβ６（第６Ｂ事象）が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第６Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第６Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。
【５３０１】
　また、この実施の形態にかかる第６Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ６ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα６ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第６Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１７４（ｆ），（ｈ）などに示されるように、連打中表示ＨＢ６ｂが非表示の状態にされるタイミングと、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。同図中では、連打中表示ＨＢ６ｂが非表示の状態にされるタイミングを、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前にしているが、逆の関係性となるように設定してもよい。若しくは、非表示または非出力の状態にされるまでの時間が不定とされる

上述の性質により、連打中表示ＨＢ６ｂが非表示の状態にされるタイミングが、第１の受付後出力音Ｓα６ａが非出力の状態にされるタイミングよりも前になる場合と、該タイミングよりも後になる場合との両方があるようにしてもよい。また、互いのタイミングが同じになる場合があるようにしてもよい。なお、このような連打中表示ＨＢ６ｂ及び第１の受付後出力音Ｓα６ａの関係性については、連打中表示ＨＢ６ｂと第２の受付後出力音Ｓβ６との間や、第１の受付後出力音Ｓα６ａと第２の受付後出力音Ｓβ６との間でも成立するものであり、その別例についても同じことがいえる。

【５３０２】

このような構成によれば、この実施の形態にかかる第６Ｂ受付許容状態では、連打中表示ＨＢ６ｂ、第１の受付後出力音Ｓα６ａ、及び第２の受付後出力音Ｓβ６ｂ－１がそれぞれ実行状態にあるなかで第６Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７４（ｆ），（ｈ），（ｉ）などに示されるように、第６Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、連打中表示ＨＢ６ｂが表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音Ｓα６ａが出力状態を継続しており、且つ第２の受付後出力音Ｓβ６ｂ－１が出力状態を継続している状況が現れるようになる。ただしこの後、第６Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｆ２－Ｂ３からの時間経過）によって、図１７４（ｆ）や、図１７５（ｆ）などに示されるように、継続されていた連打中表示ＨＢ６ｂは非表示の状態にされることとなる。これにより、遊技者は、オート連打機能が無効化された状況下にあることを容易に認識することが可能とされるようになる（図１７５（ｆ）を参照）。

【５３０３】

また、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα６ａ及び第２の受付後出力音Ｓβ６も、第６Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｆ２－Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた各出力状態はいずれも終了（非可聴の状態に）される。

【５３０４】

ただしこの例では、図１７４（ａ）に示されるように、第６Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢｆ２－Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα６ａ及び第２の受付後出力音Ｓβ６がいずれも可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｆ２－Ｃ１（図１７５（ｇ）に示される演出状況）において第６Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５３０５】

この例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１において「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｆ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７５（ｇ）に示される演出状況）。

【５３０６】

より具体的には、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１において、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７４（ｆ），（ｈ）に示されるように、第６Ｂ受付後変化として、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα６（１回分の動画表示に対応する効果音）」が再び可聴出力されるとともに、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に応じた「第６Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始される。

【５３０７】

この例では、第６Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１で第６Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときに、当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が図１７５（ｅ）に示された態様（１段階目の進展態様）から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、図１７５（ｇ）に示される状況では、上記タイミングｔＢｆ－

Ｂ２で第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第６Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後表示や、第６Ｂ受付後出力音など）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５３０８】

ただし上述の通り、この例では、第６Ｂ操作部に対する操作が再び開始されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ１が、第１の受付後出力音Ｓα６及び第２の受付後出力音Ｓβ６がいずれも可聴状態にあるなかで到来した場合を想定したものとなっている。

【５３０９】

この点、第１の受付後出力音Ｓα６については、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１で第６Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、それまでの出力状態を終了するとともに、該新たな操作受付を契機とした新たな出力を開始させるようにしている。これに対し、第２の受付後出力音Ｓβ６については、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１で第６Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたこと（操作受付がなされたこと）に基づいて、何らかの変化を生じさせることがなく、それまでの出力状態を継続するようにしている。

【５３１０】

このような構成によれば、第６Ｂ受付許容状態では、操作受付に応じた第６Ｂ受付後出力音が出力されているなかで、それまで非操作の状態にあった第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされると、これを契機として第６Ｂ受付後出力音が終了される場合（第１の受付後出力音Ｓα６）と終了されない場合（第２の受付後出力音Ｓβ６）との両方があるようになるから、非操作の状態にあった第６Ｂ操作部を再び操作状態にするときの緊張感を好適に提供することができるようになる。なお、第６Ｂ受付許容状態では、第１の受付後出力音Ｓα６が出力されており且つ第２の受付後出力音Ｓβ６が出力されている当該状況下において第６Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合のほか、第１の受付後出力音Ｓα６が出力されており且つ第２の受付後出力音Ｓβ６が出力されていない状況下において第６Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合や、第１の受付後出力音Ｓα６が出力されておらず且つ第２の受付後出力音Ｓβ６が出力されている状況下において第６Ｂ操作部に対する操作受付がなされる場合もあることは言うまでもない。

【５３１１】

なお、連打中表示ＨＢ６についても、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１でその表示状態が継続されている場合があるようにしてもよい。この場合、連打中表示ＨＢ６については、それまで非操作の状態にあった第６Ｂ操作部に対して操作受付がなされると、実行途中の状態にあった前回の「１回分の動画表示」を途中終了させてこれに代わるかたちで該新たな操作受付を契機とした新たな表示（１回分の動画表示）を開始させるようにすることが望ましい。

【５３１２】

また、図１７４や図１７５に示される演出例は、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第６Ｂ操作部の操作状態）を、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２（当該第６Ｂ受付許容状態が終了されるタイミング）が到来した時点においても継続しており、これによってタイミングｔＢｆ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５３１３】

したがって、当該「タイミングｔＢｆ２－Ｃ１からタイミングｔＢｆ２－Ｃ２までの期間（第６Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第６Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５３１４】

そして、当該「タイミングｔＢｆ２－Ｃ１からタイミングｔＢｆ２－Ｃ２までの期間（

第６Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（連打中表示ＨＢ６ｂや、第１の受付後出力音Ｓα６ａなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、図１７５（ｇ）に示されるように、上述の「タイミングｔＢｆ２－Ｂ２からタイミングｔＢｆ２－Ｂ３までの期間」の場合（図１７５（ｅ）を参照）と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５３１５】

なおこの例では、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ｃ１からタイミングｔＢｆ２－Ｃ２の期間で、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内の所定タイミングでなされた操作受付（演出判定の結果など）に基づいて当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容がさらに進展した場合（二段階目の進展がなされた場合）は、受付後変化としての最終の態様が現れることとなる。ただし、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態は、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態などとは異なり、受付後変化としての最終の態様が現れたとしても、当該第６Ｂ受付許容状態が早期終了されることはない。したがって、それ以降も操作状態を維持した場合は、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が到来するまでの間、受付後変化が最終の態様で複数回実行されることとなる。

【５３１６】

上述の通り、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態は、受付後変化としての最終の態様が現れない場合を想定したものとなっている。したがって、図１７４に示した例にかかるタイミングｔＢｆ２－Ｃ１からタイミングｔＢｆ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様（図１７５（ｇ）を参照）で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。

【５３１７】

この点、タイミングｔＢｆ２－Ａ２や、タイミングｔＢｆ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ６を、これを契機として非表示の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非表示の状態にするようにしたが）、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって表示状態にあった連打中表示ＨＢ６を、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間（例えば０秒）で）非表示の状態にするようにしている。

【５３１８】

また、この例では、タイミングｔＢｆ２－Ａ２や、タイミングｔＢｆ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα６ａを、これを契機として非可聴の状態にすることがないようにしたが（オート連打機能が無効化されてから不定の時間で非可聴の状態にするようにしたが）、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときには、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα６ａを、これを契機として（操作受付がなされたときから一定の時間で）非可聴の状態にするようにしている。このような構成によれば、オート連打機能が無効化された以降の第１の受付後出力音Ｓα６ａの出力状況を通じて、第６Ｂ受付許容状態が終了されたか否かを示唆することができるようになる。

【５３１９】

また、この例では、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が、タイミングｔＢｆ２－Ｂ２で出力開始された第２の受付後出力音Ｓβ６ｂ－１が非可聴の状態になってから到来した場合を想定したが、該第２の受付後出力音Ｓβ６ｂ－１が可聴出力されているなかで到来する場合もあるようにしてもよい。ただしこの場合、「第１の受付後出力音Ｓα６ａ」とは異なり、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が到来したことを契機として、実行途中の状態にある「第２の受付後出力音Ｓβ６」の出力状態を終了させず、その残りの実行時間が消化されるまで

実行状態を維持させるようにすることが望ましい。
【５３２０】
なお、「連打中表示ＨＢ６」や「第１の受付後出力音Ｓα６」については、実行途中の状態にあるときにタイミングｔＢｆ２―Ｃ２が到来したときも、それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしてもよい。
【５３２１】
そしてこの例では、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、遊技者に対して操作を促す第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６が非発光の状態にされる。すなわち、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６は、第６Ｂ受付許容状態が発生するときに発光開始され、第６Ｂ受付許容状態が終了するときに発光終了されるものである。これにより、操作受付が許容される状態になったことや、操作受付が許容されない状態になったことを示唆するようにしている。
【５３２２】
すなわちこの場合、この例にかかる「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ受付後演出）」では、当該第６Ｂ受付許容状態に対応する演出内容のうち「最終段階の演出態様（例えば、上述の態様ＪＡ１ｃに相当する態様）」が現れることのないままで、当該第６Ｂ受付許容状態が終了したことが示唆されることとなる（これは下記構成を備えるにあたり、必須の構成ではない）。
【５３２３】
そしてこの例では、図１７４（ａ），（ｂ）及び図１７５（ｈ）に示されるように、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１から開始されている「第６Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２が到来した以降も継続している場合を想定したものとなっている。
【５３２４】
ただし、第６Ｂ受付許容状態から「第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｆ２―Ｃ２以降）は、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示されていない状況下にあるなかで、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前（第６Ｂ受付許容状態）から維持している操作状態の検出に基づいて第６Ｂ操作部に対する操作受付がなされることはないようになっている。当該構成については、第６Ｂ受付許容状態から「第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｆ２―Ｃ２以降）は、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示されていない状況下にあるなかで、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態が秘かに発生することがないようにすることによってこれを実現するようにしてもよいし、若しくは第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態が秘かに発生することはあるものの、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前（第６Ｂ受付許容状態）から維持している操作状態の検出についてはこれを有効操作として判定せずに無効とする（操作受付しない）ことによってこれを実現するようにしてもよい。
【５３２５】
したがって、タイミングｔＢｆ２―Ｃ１以降、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示されていない状態が継続しているなかで、「第６Ｂ操作部」をどれだけ操作状態に維持したとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ない。
【５３２６】
また、タイミングｔＢｆ２―Ｃ１以降、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示され且つ第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態が発生した後に、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示されていない状況下にあるなかで、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態が秘かに発生した場合であっても、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも

前（第６Ｂ受付許容状態）から維持している操作状態の検出についてはこれを有効操作として判定せずに無効とする（操作受付しない）ことによってこれを実現するようにしてもよい。なおこの場合、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示され且つ第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態においても、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前（第６Ｂ受付許容状態）から維持している操作状態の検出についてはこれを有効操作として判定せずに無効とする（操作受付しない）ことが望ましい。また、タイミングｔＢｆ２―Ｃ１以降、複数回の図柄変動にわたって第６Ｂ操作部に対する操作状態を維持しているなかで、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されることが示唆される「操作関連表示」が表示されていない状況下にあるなかで、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態が秘かに発生した場合であっても、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前（第６Ｂ受付許容状態）から維持している操作状態の検出についてはこれを有効操作として判定せずに無効とする（操作受付しない）ことが望ましい。

【５３２７】

また、当該第６Ｂ受付許容状態としての演出性を好適に維持する上では、第６Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２が到来するまで遊技者による操作が行われない場合、該操作が行われたときと同じ受付後変化が生じることがない（自動ボタン機能が有効化されない）ようにすることが望ましい。

【５３２８】

また、第６Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」としては用意されておらず、「第６Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」に対する操作受付に基づいて当該状態が終了することはないものとなっている。

【５３２９】

また、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第７Ｂ受付許容状態」を発生可能なものとなっている。図１７６は、上記発生条件として「条件７Ｂ」が満たされたことに基づいて「第７Ｂ受付許容状態」が発生して遊技者による操作が行われたときの演出内容についてその一例を示すタイムチャートである。図１７７は、「第７Ｂ受付許容状態」が発生するときの演出例を示す図である。

【５３３０】

いま、始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第７Ｂ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該「第７Ｂ変動パターン」に対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第７Ｂ変動パターンに応じた演出描写や、第７Ｂ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第７Ｂ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【５３３１】

図１７６（ｂ）に示されるように、「第７Ｂ変動パターン」にかかる変動演出の実行期間内では、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第７Ｂ時間が経過したタイミングｔＢｇ２が到来したことに基づいて（「条件７Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）に関しての第７Ｂ操作部に対する操作受付」が許容される上記第７Ｂ受付許容状態（有効期間）を発生可能としている（図１７７（ａ）に示される状況）。

【５３３２】

ここで、この実施の形態にかかる第７Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第７Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態で複数回の操作受付が許容される上記「操作ボタン４１０」ではなく、上記第３Ｂ受付許容状態や上記第４Ｂ受付許容状態、上記第５Ｂ受付許容状態においても複数回の操作受付が許容される上記「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第７Ｂ受付許容状態が終了するま

での間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【５３３３】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、図１７６（ｂ）～（ｅ）などに示されるように、第７Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第７Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示や、操作対象（ここでは、第７Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示などの操作関連表示や、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示などが表示されることがない。またこの例では、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音が可聴出力されることもない。このように、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態は、「第７Ｂ操作部」に対する操作受付が許容されたことを認識し難くするものとなっている。
【５３３４】
また、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、図１７６（ｂ），（ｊ）に示されるように、その発生に際して、遊技者に対して操作を促す操作促進発光が発光されないようになっている。この場合、第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）には発光部を必ずしも設けなくてもよいことは言うまでもない。
【５３３５】
このような構成にかかる当該第７Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、表示によって操作を促す操作関連表示と、音によって操作を促す操作関連出力音と、光によって操作を促す操作促進発光とのいずれもが実行されないこととなる。したがって、当該第７Ｂ受付許容状態は、それらの全てが実行される上記第４Ｂ受付許容状態よりもその秘匿性が高められることはもとより、操作促進発光が実行されない上記第３Ｂ受付許容状態や、操作関連出力音と操作促進発光とが実行されない上記第５Ｂ受付許容状態と比べてもその秘匿性は高いものとなっており、より緊張感のあるなかで操作機会を付与することができるようになる。また、操作対象は異なるものの、当該第７Ｂ受付許容状態は、操作関連表示と操作関連出力音とが実行されない上記第６Ｂ受付許容状態と比べてもその秘匿性は高いものとなっていると言える。
【５３３６】
また、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態においても、図１７６（ｅ）及び図１７７（ａ）に示されるように、当該第７Ｂ受付許容状態としての種別に応じた味方キャラクタ（ここでは、味方キャラクタＹＳ－Ｂ７）や、当該第７Ｂ受付許容状態としての種別に応じた敵キャラクタ（ここでは、ゴーストとして描写される敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７）は表示されるようになっている。そして、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作（操作受付）が行われる都度、これを契機として「味方キャラクタＹＳ－Ｂ７」が「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７」を攻撃するように演出が実行されうる。ただし、この例にかかる味方キャラクタＹＳ－Ｂ７や敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７は、第７Ｂ操作部（操作ボタン４１０）が操作状態にない状況下においても演出内容の進展度合いを示唆可能な上述の「状況示唆表示」としては機能しないものとなっている。また、当該第７Ｂ受付許容状態において、味方キャラクタＹＳ－Ｂ７や敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７は必ずしも表示しないようにしてもよい。
【５３３７】
なお、第７Ｂ受付許容状態においても、状況示唆表示を表示するようにしてもよい。ただしこの場合、当該第７Ｂ受付許容状態としての秘匿性に鑑みて、該状況示唆表示については、操作受付がなされていない間は表示されず、操作受付がなされたことに基づいて表示開始されて、それ以降、表示状態を継続するものとして実現することが望ましい。
【５３３８】
例えば、図１７６に示した例では、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ａ１において、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合を想定している。
【５３３９】

この例では、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ａ１において「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされた場合は、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後演出）」を生じさせることとなる（図１７７（ｂ）に示される演出状況）。

【５３４０】

より具体的には、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ａ１において、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、第７Ｂ受付後変化として、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第７Ｂ受付後出力音」が可聴出力されるとともに、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示」が表示開始される。

【５３４１】

すなわち、第７Ｂ受付許容状態において「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、該操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」として、図１７７（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ７」の顔と「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７」の顔とがそれぞれズームアップされて対決することを示唆する態様（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れるようになっている。これにより、遊技者は、演出表示装置１６００における表示を通じて、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付がなされたことを認識することができるようになる。ただし、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、操作受付がなされたときの演出判定の結果に基づいて、演出内容が進展した場合であっても、当該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」としての態様が変化することはない。また、これも後述するが、第７Ｂ受付許容状態では、いわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化された場合であっても、受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が複数回生じることはない。すなわちこの場合、第７Ｂ受付許容状態では、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされたときに限り、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が実行されるものの、それ以降は、オート連打機能（長押し機能）が有効化されているなかで「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が再び（複数回）実行されることはないこととなる（受付後変化の１つとしての「表示変化」に関してオート連打機能は適用されない）。

【５３４２】

このような構成によれば、当該第７Ｂ受付許容状態としての上述した強い秘匿性が、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７（図１７７（ｂ）を参照）」の出現によって一旦喪失されることとなるが、それ以降は、「いわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているか否か」といった、これまで秘匿してきた対象（有効期間）とは異なる対象（オート連打機能）に関しての秘匿性が付与される（認識し難くされる）から、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されうる。なお、上述した第１Ｂ受付許容状態～第６Ｂ受付許容状態では、受付後変化の１つとして、このようなオート連打機能の適用対象とされない「演出要素」が用意されないことは言うまでもない。

【５３４３】

また、この例では、第７Ｂ受付許容状態において「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付が１回なされると、上記「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」のほか、上記「第７Ｂ受付後出力音」として、図１７６（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα７が出力されうる。ただし後述するが、当該第７Ｂ受付許容状態では、第１Ｂ受付許容状態や第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、「第７Ｂ受付後出力音」として、第１の受付後出力音Ｓα７とは異なる出力音がさらに出力される可能性はないようになっている。第１の受付後出力音Ｓα７については、遊技者による操作受付がなされたことを示唆可能なものであればよく、オート連打機能が有効化されているときには第７Ｂ操作部が操作状態で維持されている状況下にあることを示唆可能な音として出力されるものであればよい。

【５３４４】
この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容が進展した場合、第１の受付後出力音Ｓα７としての出力にかかる態様（音の種別）を異ならせるようにしている。こうして演出内容が進展した後は、当該第７Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはなく、操作受付がなされる都度、該進展した態様で第１の受付後出力音Ｓα７が出力されることとなる。すなわちこの場合、第７Ｂ受付許容状態では、演出表示装置１６００における表示を通じて、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容が進展したか否かを確認することはできないものの、第１の受付後出力音Ｓα７にかかる出力態様を通じて、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容が進展したか否かを確認することが可能とされることとなる。
【５３４５】
なお、第７Ｂ受付許容状態では、第６Ｂ受付許容状態の場合（演出内容に演出度合いの設定がある受付許容状態）とは異なり、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化としての演出内容に演出度合いを設定しないこととし、第７Ｂ操作部に対する操作受付がなされる都度、受付後変化としての第７Ｂ事象（表示だけでもよいし、音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）が繰り返し実行（発生）されるだけにしてもよい。
【５３４６】
また、当該第７Ｂ受付許容状態については、上述の第３Ｂ受付許容状態や第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態との間で、操作受付に応じた受付後変化の１つとして上述の「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が実行される点で異なるものの、該受付後変化としてのそれ以外の変化（ここでは、「第１の受付後出力音Ｓα７」に相当するが、音でなくてもよい）については、上述の第３Ｂ受付許容状態や第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態の場合（第１の受付後出力音Ｓα３，Ｓα４，Ｓα５）と同じ変化（ここでは、同じ態様の音）として実行されるようにしてもよい。例えば、第７Ｂ受付許容状態では、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化として、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と、「第７Ｂ事象（音だけでもよいし、発光だけでもよいし、可動体動作だけでもよい）」とが実行可能とされて、そのうち「第７Ｂ事象」のみが複数回実行されうるのに対し、上述の第３Ｂ受付許容状態や第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態においては、操作受付に応じた受付後変化として、例えば、上記「第７Ｂ事象」と同じ事象のみが実行可能とされて、該同じ事象のみが複数回実行されうるようにしてもよい。
【５３４７】
ここで、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して１回目の操作受付がなされると、図１７７（ｂ）に示される描写と、第１の受付後出力音Ｓα７とがそれぞれ現れるが（１回分の受付後変化）、それ以降の操作受付では、図１７７（ｂ）に示される描写に変化が生じていないなかで、該操作受付がなされる都度、第１の受付後出力音Ｓα７が新たに可聴出力されることとなる。そして、操作受付が複数回なされるなかで演出内容が進展すると、該第１の受付後出力音Ｓα７としての出力にかかる態様が変化することとなり、該態様として「最終の態様」が現れると、期待度が高いことが示唆される演出性を提供するものとなっている。ただしこの場合、第１の受付後出力音Ｓα７の態様として「最終の態様」が現れなかったときには期待度が低いことが示唆されることとなる。
【５３４８】
ただし、このような第７Ｂ受付許容状態としての演出内容は一例にすぎず、他の内容に置き換えて実現するようにしてもよい。例えば、第７Ｂ受付許容状態に対応する受付後変化としては、上述の「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」のほかに、操作受付に応じた何らかの変化（例えば、ランプ発光や、可動体動作）を生じさせる演出要素が１つでもあれば、「受付後出力音」を必ずしも実行しないものであってもよい。このような構成であっても、操作受付が適正になされた状況下にあることを遊技者は把握可能である。

【５３４９】
そしてこの例は、図１７６（ａ）に示されるように、タイミングｔＢｇ２－Ａ１において開始された遊技者による操作（第７Ｂ操作部の操作状態）が、タイミングｔＢｇ２－Ａ２まで継続される場合を想定したものとなっている。
【５３５０】
この点、第７Ｂ受付許容状態は、「操作部（第７Ｂ操作部）を操作状態に維持するだけでそれに応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行される種別（いわゆるオート連打機能が有効化される種別）の複数回操作有効状態」に分類されるものとなっている。したがって、図１７６（ａ）に示される例では、タイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２までの期間（第７Ｂ操作部が操作状態に維持される期間）においては、第７Ｂ操作部に対する操作受付が複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。
【５３５１】
ここで、第７Ｂ受付許容状態において第７Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」として、図１７７（ｂ）に示されるように、「味方キャラクタＹＳ－Ｂ７」の顔と「敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７」の顔とがそれぞれズームアップされて対決することを示唆する態様（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が表示されるようになっていることは上述した通りである。
【５３５２】
ただし、これも上述したが、受付後変化の１つとしての表示変化は、タイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２までの間では、当該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が１回生じるだけとなっており、これ以降、オート連打機能（長押し機能）によって操作受付がどれだけなされても、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化が新たに生じることはない。なお、この例にかかる「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」は、第７Ｂ操作部に対して操作受付が許容される状態が終了されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２においても表示状態を維持しており、その後、非表示の状態にされる場合を想定したものとなっている。
【５３５３】
また、第７Ｂ受付許容状態において第７Ｂ操作部に対して操作受付が１回なされると、上記第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が出力されることも上述した通りである。したがって、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、上記「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が１回に限り生じるほか、このような第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が、複数回再生されることとなる。
【５３５４】
ここで、第７Ｂ受付許容状態では、操作部（第７Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、受付後変化の１つとしての第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が複数回実行されるが、その実行間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）にされる。この「一定の時間」については、同じ操作部を対象としている第３Ｂ受付許容状態及び第４Ｂ受付許容状態の場合と同じ時間として設定するようにすることが望ましい。
【５３５５】
また、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、操作部（第７Ｂ操作部）が操作状態に維持されてオート連打機能が有効化されると、受付後変化の１つとしての第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が複数回実行されるが、この際、該受付後変化が上記検出に応じて新たに実行開始されるまでの間隔（前回の受付後変化が実行開始されてから次の受付後変化が実行開始されるまでの間隔）は必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間

とされるようになっている。ただし、第７Ｂ受付許容状態における当該間隔については、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔とは異なる時間の長さとして設定されるようにすることが望ましく、例えば、上述の第１Ｂ受付許容状態でオート連打機能が有効化されたときの間隔よりも長い時間であり且つ特定時間（例えば１秒）以下の時間として設定するようにしてもよい。

【５３５６】

すなわちこの場合、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、受付後変化の１つである第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７がオート連打機能によって一定の間隔毎に新たに出力開始されることとなり、このような「音」の繰り返し出力を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα７ａ」として表現することとしている。

【５３５７】

この点、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされているものの、第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、当該期間内では、第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７としての出力にかかる態様が変化することはない。

【５３５８】

このような構成によれば、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、受付後変化として、図１７７（ｂ）に示される１回分の「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が現れているなかで、第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）の出力が、オート連打機能によって一定の時間毎に繰り返し実行される（受付後変化が一定の時間間隔で繰り返し実行される）ものの（第１の受付後出力音Ｓα７ａ）、該第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）の出力にかかる態様には変化が生じない、といった態様が現れることとなる。これにより、操作状態に維持するだけで、複数回の操作受付に応じた演出内容や、演出内容が進展しなかったことを確認することができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【５３５９】

なお、味方キャラクタＹＳ－Ｂ７や、敵キャラクタＢＯＳＳ－Ｂ７については、操作受付がなされるまでの間は表示されておらず、操作受付がなされたことを契機とした「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」として出現、表示されるように実現することとしてもよい。

【５３６０】

この点、図１７６や図１７７に示される演出例は、遊技者が、例えば、非操作時の状況を確認するべく、タイミングｔＢｆ２―Ａ２において第７Ｂ操作部に対する操作を一旦中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５３６１】

ここで、第７Ｂ受付許容状態では、図１７６（ｆ）などに示されるように、タイミングｔＢｇ２―Ａ２において第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」（受付後変化）がこれを契機として非表示の状態にされることはない。すなわちこの場合、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」は、タイミングｔＢｇ２―Ａ２以降も（第７Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「１回分の動画表示」が予め定められた表示時間分だけ実行されて表示し終わるまでの間（１回分の受付後変化が実行し終わるまでの間）は、その実行状態が継続されることとなる。

【５３６２】

このような構成によれば、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」がすぐには非表示の状態にされない（受付後変化が１回分の実行途中で途中終了されない）ことから、当該第７Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。そしてこのことは、当該第７Ｂ受付許容状態としての残

り時間を大きく消費することを意味するから、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第７Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。特に、この例にかかる「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」は、第７Ｂ操作部に対して操作受付が許容される状態が終了されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２においても表示状態を維持しており、その後、非表示の状態にされるようになっているから、なおさらである。

【５３６３】

なお、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、第７Ｂ操作部に対して操作受付が許容される状態が終了されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２において必ずしも表示状態を維持していないようにしてもよい。若しくは、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、第７Ｂ操作部に対して操作受付が許容される状態が終了されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２において表示状態を維持している場合と、第７Ｂ操作部に対して操作受付が許容される状態が継続しているなかで非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。

【５３６４】

またこの例では、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで第７Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示の状態にされるまでの時間（実行途中の状況下にあった１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５３６５】

このような構成によれば、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示の状態にされて、当該第７Ｂ受付許容状態における操作の状況が認識し易い状況が現れるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第７Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかが予測し難くなることを意味するから、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して当該第７Ｂ受付許容状態における操作の状況をより簡単に確認しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５３６６】

また、第７Ｂ受付許容状態では、図１７６（ｈ）などに示されるように、それまで実行状態にあった上記第１の受付後出力音Ｓα７ａ（第７Ｂ事象）についても、上記「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と同様、タイミングｔＢｇ２―Ａ２において第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときにこれを契機として非可聴の状態にされることはない。すなわちこの場合、第１の受付後出力音Ｓα７ａは、タイミングｔＢｇ２―Ａ２以降も（第７Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）、実行状態にあった上記「１回分の出力音」が予め定められた出力時間分だけ実行されて出力し終わるまでの間（または非操作状態から予め定められた時間分だけ）は、その出力状態が継続されることとなる。

【５３６７】

このような構成によれば、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第１の受付後出力音Ｓα７ａがすぐには非出力の状態にされないこととなり、この場合、オート連打機能が未だ有効であるかのようにも見えるから緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５３６８】

またこの例では、第１の受付後出力音Ｓα７ａ（第７Ｂ事象）が出力されているなかで第７Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα７ａが非出力の状態にされるまでの時間については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。

【５３６９】

このような構成によれば、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にし

て）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα７ａ（第７Ｂ事象）が非出力の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第７Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５３７０】

また、この実施の形態にかかる第７Ｂ受付許容状態では、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」及び第１の受付後出力音Ｓα７ａがそれぞれ実行状態にあるなかで第７Ｂ操作部の操作状態を中断するように遊技した場合（非操作の状態にした場合）は、図１７６（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第７Ｂ操作部が非操作状態にされているなかで、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示を継続しており、且つ第１の受付後出力音ＳＢ７ａが出力状態を継続している状況が現れるようになっている。ただしこの後、第７Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過によって、図１７６（ｆ），（ｈ）などに示されるように、第１の受付後出力音Ｓα７ａは非出力の状態にされることとなる。ただし、この例にかかる「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」は、第１の受付後出力音ＳＢ７ａが非可聴の状態にされるよりも前に非表示の状態にされることがないものであることはもとより、第７Ｂ受付許容状態が継続しているなかで非表示の状態にされることもないものとして構成されている（必須の構成ではない）。このような構成であっても、遊技者は、第１の受付後出力音Ｓα７ａによる定期的な音出力がなくなったことに気付くことができれば、オート連打機能が無効化された状況下にあることを比較的早期に認識可能であるから、緊張感を好適に維持しつつ、遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【５３７１】

上述の通り、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、オート連打機能によって複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されているものの、第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、タイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２の期間では、図１７７（ｂ）に示される描写が現れた後は、第１の受付後出力音Ｓα７（第７Ｂ事象）が同じ態様で複数回実行されているだけであり、これによって演出内容が進展していないことが示唆されることとなる。なお、第７Ｂ受付許容状態については、演出内容が進展される可能性のある受付許容状態として必ずしも発生させなくてもよく、例えば、受付後変化として一の態様のみが複数回実行される受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５３７２】

そしてこの例では、図１７６（ａ）に示されるように、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｂ１において、「第７Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５３７３】

この例では、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｂ１において「第７Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合は、これを契機として、図１７６（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる（図１７７（ｂ）に示される演出状況）。

【５３７４】

ただし、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、第７Ｂ受付許容状態のタイミングｔＢｇ２－Ｂ１において、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、第７Ｂ受付後変化として、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音

Ｓα７」は再び可聴出力されるものの、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始されることはない。すなわちこの場合、図１７７（ｂ）に示される「第７Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」がその表示を継続しているなかで、第７Ｂ受付後変化として、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα７」が再び可聴出力されることとなる。

【５３７５】

またこの例では、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｂ１で第７Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときにも、当該第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、タイミングｔＢｇ２－Ｂ１において再び可聴出力される「第１の受付後出力音Ｓα７」は、上記タイミングｔＢｇ２－Ａ１で第７Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第７Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で出力開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５３７６】

この点、図１７６や図１７７に示される演出例は、タイミングｔＢｇ２－Ｂ１において開始された遊技者による操作（第７Ｂ操作部の操作状態）も、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３までその操作状態が維持されてオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５３７７】

したがって、当該「タイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３までの期間（第７Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第７Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５３７８】

そして、当該「タイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３までの期間（第７Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（第１の受付後出力音Ｓα７ａなどの態様）については、演出内容が進展しない限りは、上述の「タイミングｔＢｇ２－Ａ１からタイミングｔＢｇ２－Ａ２までの期間」の場合と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５３７９】

ただし、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間では、オート連打機能によってなされる複数回の操作受付のうち、当該期間内のタイミングｔＢｇ２－Ｂ２でなされた操作受付に基づいて当該第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展した場合を想定したものとなっている。

【５３８０】

したがって、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間のうち、タイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ２の期間では、操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（この例では、第１の受付後出力音Ｓα７）」は、演出内容が進展していない態様で実行されるのに対し、タイミングｔＢｇ２－Ｂ２からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間では、操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（この例では、第１の受付後出力音Ｓα７）」は、演出内容が進展した態様で実行されることとなる。

【５３８１】

より具体的には、タイミングｔＢｇ２－Ｂ２からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｇ２－Ｂ２」では、図１７６（ｈ）に示されるように、第１の受付後出力音Ｓα７としての態様（音の種別）が、演出内容が１段階進展した態様に変更される。これに対し、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」に

ついては、演出内容の進展を契機として何らかの変化が生じることはない。このような構成によれば、第１の受付後出力音Ｓα７としての態様（音の種別）を通じて、当該第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が、タイミングｔＢｇ２－Ｂ２でなされた（オート連打機能による）操作受付（に基づく演出判定の結果）によって進展したことが示唆されるようになる。

【５３８２】

なお、この演出例では、演出内容が進展した後は、当該第７Ｂ受付許容状態が継続されている限り、その演出内容の進展度合いが進展前に戻されることはない。したがって、上記進展した演出内容に変化した１回分の可聴出力（第１の受付後出力音Ｓα７）が終了した後に、第７Ｂ操作部に対して操作受付が再びなされたときにも、該第１の受付後出力音Ｓα７は、上記進展した演出内容に変化した態様で可聴出力される。

【５３８３】

すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されるタイミングｔＢｇ２－Ｂ１からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間のうち、演出内容が進展したタイミングｔＢｇ２－Ｂ２以降の期間では、このような態様変化の生じた「１回分の可聴出力」が、オート連打機能によって複数回再生されることとなる。

【５３８４】

また、演出内容が進展したタイミングｔＢｇ２－Ｂ２以降の期間においても、第１の受付後出力音Ｓα７の可聴出力（１回分の可聴出力）は、上記受付後変化として一定の時間（予め定められた時間（変化前と同じ時間））毎に新たに実行開始されるようになっている。したがって、演出内容が進展した態様の上記「１回分の可聴出力」も、オート連打機能によって一定の時間毎に新たに実行開始されることとなり、このような進展態様の「１回分の可聴出力（１回分の受付後変化）」による繰り返し出力（複数回の受付後変化）を、図中では、「第１の受付後出力音Ｓα７ｂ」として表現することとしている。

【５３８５】

このように、この例にかかる演出表示装置１６００においては、演出内容が進展されるタイミングである「タイミングｔＢｇ２－Ｂ２」が到来すると、図１７７（ｂ）に示される表示態様は何ら変化せずこれが継続されているなかで、第１の受付後出力音Ｓα７が「態様Ｓα７ａ」から「態様Ｓα７ｂ」に変化することとなる。そしてこれ以降、オート連打機能が有効化されている間（タイミングｔＢｇ２－Ｂ２～ｔＢｇ２－Ｂ３）は、第１の受付後出力音Ｓα７が「態様Ｓα７ｂ」として複数回実行されることとなる。

【５３８６】

なおこの例では、第１の受付後出力音Ｓα７（第７Ｂ特定事象）の態様を、演出内容の進展に応じて変化させることとしたが、演出内容の進展に応じて変化させないようにしてもよい。例えば、演出内容の進展にかかわらず第１の受付後出力音Ｓα７を一の態様のままで継続実行させるようにした場合であっても、その他の演出要素（例えば、発光）で演出内容の進展を示唆するようにすれば、遊技者は、第１の受付後出力音Ｓα７を通じて、オート連打機能が有効化されている状況下にあることや、操作受付がなされている回数（頻度）を確認することが可能であるし、その他の演出要素（例えば、発光）の態様を通じて、演出内容の進展度合いを確認することも可能である。また、第７Ｂ受付許容状態については、第６Ｂ受付許容状態とは異なり、演出内容の進展これ自体が行われ得ない種別の受付許容状態として実現してもよいことは上述した通りであり、この場合、受付後変化が一の態様のみで複数回実行されることとなることは言うまでもない。

【５３８７】

この点、図１７６や図１７７に示される演出例は、遊技者が、タイミングｔＢｇ２―Ｂ３において第７Ｂ操作部に対する操作を再び中断し、オート連打機能を無効化させた場合を想定したものとなっている。

【５３８８】

ここで、上述の通り、第７Ｂ受付許容状態では、当該第７Ｂ受付許容状態が継続されているなかで第７Ｂ操作部の操作状態を中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を

無効化させたとしても、それまで実行状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」や「第１の受付後出力音Ｓα７」などがこれを契機としてその実行状態を終了させることはない（実行途中の状態にあった受付後変化が、非操作を契機として途中終了されることはない）。したがって、図１７６（ｆ），（ｈ）などに示されるように、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３において第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断したとしても、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」や「第１の受付後出力音Ｓα７ｂ」は、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３以降も（第７Ｂ操作部が非操作状態になった以降も）表示状態や出力状態を継続する。

【５３８９】

また、これも第１の受付後出力音Ｓα７ａの場合と同様、第１の受付後出力音Ｓα７ｂが出力されているなかで第７Ｂ操作部に対する操作を中断してこれを非操作状態にした場合は、該非操作状態にしてから該第１の受付後出力音Ｓα７ｂが非可聴の状態にされるまでの時間（１回分の受付後変化が終了されるまでの時間）については、一定の時間として設定せず、不定であるようにしている。このような構成によれば、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させた時点から、どれだけの時間が経過すれば、第１の受付後出力音Ｓα７が非可聴の状態になるのか、すなわちオート連打機能が無効化されたことをより確実に確認することができるようになるのかを予測し難くなる。そしてこのことは、当該第７Ｂ受付許容状態としての残り時間をどれだけ消費することになるのかを予測し難くなることを意味するから、第７Ｂ操作部の操作状態を一旦中断しようとする行為に対して緊張感を好適に持たせることが期待されるようになる。

【５３９０】

また、この実施の形態にかかる第７Ｂ受付許容状態では、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」及び「第１の受付後出力音Ｓα７ｂ」がそれぞれ実行状態にあるなかで第７Ｂ操作部の操作状態が中断された場合（非操作の状態にされた場合）も、図１７６（ｆ），（ｈ）などに示されるように、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示の状態にされるタイミングと、「第１の受付後出力音Ｓα７ｂ」が非出力の状態にされるタイミングとが互いに異なるようにしている。ただしこの例では、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示の状態にされるタイミングが、「第１の受付後出力音Ｓα７」が非出力の状態にされるタイミングよりも前になることはなく、該タイミングよりも必ず後になるように設定されている。

【５３９１】

ここで、本来であれば、第１の受付後出力音Ｓα７ｂは、第７Ｂ操作部が非操作状態にされてからの時間経過（タイミングｔＢｇ２－Ｂ３からの時間経過）によって、継続されていた出力状態が終了（非可聴の状態に）される。

【５３９２】

ただしこの例では、図１７６（ａ）に示されるように、第７Ｂ操作部が非操作状態にされたタイミングｔＢｇ２－Ｂ３以降であり、且つ第１の受付後出力音Ｓα７ｂが可聴状態にある（出力状態が終了されるよりも前の）タイミングｔＢｇ２－Ｃ１において第７Ｂ操作部が再び操作状態にされた場合を想定している。

【５３９３】

この点、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｃ１において「第７Ｂ操作部（ここでは、操作ボタン４１０）」が再び操作状態にされて操作受付がなされた場合も、本来であれば、上述したタイミングｔＢｇ２－Ｂ１の場合と同様、これを契機として、図１７６（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後演出）」を再び生じさせる。

【５３９４】

ただし上述の通り、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１はもとより、該タイミングｔＢｇ２－Ｃ１が到来した以降も、タイミングｔＢｇ２－Ｂ２～タイミングｔＢｇ２－Ｂ３の期間内で出力開始された第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７

）の可聴出力が終了されない限りは、第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が新たに出力開始されることはない。すなわちこの場合、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、図１７６（ｈ）に示されるように、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第７Ｂ操作部に対する操作受付が初めになされたタイミングで、該操作受付に応じた第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）が新たに出力開始されることとなる。なおこの際、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３を跨ぐかたちで可聴出力されている１回分の第７Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα７）の可聴出力（予め定められた１回分の出力時間）が終了された以降、第７Ｂ操作部に対する操作のやり直しを行う必要はなく、第７Ｂ操作部についてはこれをタイミングｔＢｇ２－Ｃ１から操作状態に維持するだけで操作受付がなされる。

【５３９５】

またこの例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降の期間内において「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合も、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始されることはない。すなわちこの場合、図１７７（ｂ）に示される「第７Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」がその表示を継続しているなかで、第７Ｂ受付後変化として、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα７」が再び可聴出力されることとなる。

【５３９６】

またこの例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１以降の期間内で第７Ｂ操作部に対する操作が再び開始されたときには、当該第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が上述の「１段階目の進展態様」から進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｃ１以降の期間内で第７Ｂ操作部に対する操作が再び開始された場合は、上記タイミングｔＢｇ２－Ｂ２で第７Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第７Ｂ受付後変化（第１の受付後出力音Ｓα７）が実行されたときと同じ態様で、該第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後表示）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５３９７】

また、図１７６や図１７７に示される演出例は、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１において開始された遊技者による操作（第７Ｂ操作部の操作状態）を、第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２が到来した時点（第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた時点）においても継続しており、これによってタイミングｔＢｇ２－Ｃ２までオート連打機能が有効化される場合を想定したものとなっている。

【５３９８】

したがって、当該「タイミングｔＢｇ２－Ｃ１からタイミングｔＢｇ２－Ｃ２までの期間（第７Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、第７Ｂ操作部に対する操作受付はオート連打機能によって複数回なされ、該操作受付に応じた受付後変化（例えば、受付後表示や、受付後出力音、受付後発光、受付後役物動作の少なくとも１つ）が複数回実行されることとなる。

【５３９９】

そして、当該「タイミングｔＢｇ２－Ｃ１からタイミングｔＢｇ２－Ｃ２までの期間（第７Ｂ操作部が操作状態に再び維持される期間）」においても、このような受付後変化がオート連打機能によって複数回実行されるときの態様（第１の受付後出力音Ｓα７ｂなどの態様）については、演出内容のさらなる進展が生じない限りは、上述の「タイミングｔＢｇ２－Ｂ２からタイミングｔＢｇ２－Ｂ３までの期間」の場合と同じである。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５４００】
ここで、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態は、受付後変化として特別の態様（最終の態様）が現れない場合を想定したものとなっている。したがって、図１７６に示した例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ｃ１からタイミングｔＢｇ２－Ｃ２の期間では、操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後演出）」は、演出内容が１度だけ進展している態様で複数回実行されることとなり、タイミングｔＢａ２－Ｃ２が到来すると、これを契機として、それまで有効化されていたオート連打機能が無効化されることとなる。
【５４０１】
この点、タイミングｔＢｇ２－Ａ２や、タイミングｔＢｇ２－Ｂ３においてオート連打機能が無効化されたときには、それまで表示状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα７ｂなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させないようにしたが、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるとき（許容状態が終了される条件が満たされたとき）も同様、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまで表示状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα７ｂなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。
【５４０２】
このような構成によれば、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２において第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第７Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第７Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。
【５４０３】
そしてこの例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１から開始されている「第７Ｂ操作部」の操作状態を、遊技者が、それ以降も継続した場合を想定したものとなっている。
【５４０４】
この点、第７Ｂ受付許容状態では、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない状態」に一旦移行した後（タイミングｔＢｇ２―Ｃ２以降）であっても、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていないなかで（若しくは、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで）、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。
【５４０５】
なお、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていないなかで（若しくは、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで）、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされるか否かや、当該状態が発生するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｇ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていないなかで演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていないなかで「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。
【５４０６】
若しくは、第７Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていない予め定められたタイミングで、必ず、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させる種別の受付許容状態

として発生させるようにしてもよい。
【５４０７】
そしてこの例では、図１７６（ｂ）に示されるように、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていない期間のうち、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３で「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生した場合（発生条件が満たされた場合）を想定したものとなっている。
【５４０８】
この点、この例にかかるタイミングｔＢｇ２－Ｃ３では、図１７６（ａ），（ｂ）に示されるように、第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間（タイミングｔＢｇ２－Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ３までの期間）を挟むかたちで上記タイミングｔＢｇ２－Ｃ１から維持されている「第７Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第７Ｂ操作部に対する操作受付が適正になされるようになっており、これによって該操作受付に応じた受付後変化が実行開始されることとなる。
【５４０９】
より具体的には、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３において、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合も、上述したタイミングｔＢｇ２－Ｂ１や、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１の場合と同様、これを契機として、図１７６（ｈ）に示されるように、該操作受付に応じた「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後演出）」を再び生じさせることとなる。
【５４１０】
ただし上述の通り、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態は、実行途中の状況下にある「前回の受付後変化」を途中終了させるかたちで新たな受付後変化を実行開始させることがないものとして実現されている。したがって、第７Ｂ受付許容状態内のタイミングｔＢｇ２－Ｃ３において、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対して操作受付がなされた場合は、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、第７Ｂ受付後変化として、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第１の受付後出力音Ｓα７」は再び可聴出力されるものの、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示（１回分の動画表示）」が再び表示開始されることはない。
【５４１１】
この例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３で第７Ｂ操作部に対する操作受付が再びなされたときにも、当該第７Ｂ受付許容状態に対応する演出内容が進展しなかった場合を想定したものとなっている。したがって、上記タイミングｔＢｇ２－Ｂ２で第７Ｂ操作部に対して操作受付がなされたことに基づいて第７Ｂ受付後変化が最初に実行開始されたときと同じ態様で、該第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後出力音）が実行開始されることとなる。なお、その演出の詳細については、上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５４１２】
この点、第７Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降、第７Ｂ操作部に対する操作関連表示が表示されていないなかで（若しくは、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで）、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生する条件が再び満たされた場合、当該「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」は、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで、その終了条件が満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるものとなっている。
【５４１３】
なお、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３で発生した「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかでその終了条件が満たされるか否かや、当該状態が終了するタイミングなどについては、例えば、タイミングｔＢｇ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ２までの期間内での操作受付に基づいて定められるようにしてもよいし、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降の所定期間内（例えば、「第７Ｂ受付

後表示ＨＢ７」が表示されている期間内など）で演出判定が行われるようにしてその結果に基づいて定められるようにしてもよいし、図柄変動の変動パターンの種別や、大当り判定の結果などに基づいて定められるようにしてもよい。要は、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３で発生した「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されているなかで、その終了条件が満たされる場合があるものであればよく、その実現手法は限定されない。

【５４１４】

若しくは、第７Ｂ受付許容状態を、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２から「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示にされるタイミングまでの期間内の予め定められたタイミングで、必ず、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を再び発生させ、且つ該発生させた「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｇ３までの期間内の予め定められたタイミングで必ず終了させる種別の受付許容状態として発生させるようにしてもよい。

【５４１５】

そして、図１７６や図１７７に示される演出例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３で開始された「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示にされるタイミングよりも前のタイミングｔＢｇ２－Ｃ４まで継続されてその終了条件が満たされた場合を想定したものとなっている。

【５４１６】

この点、タイミングｔＢｇ２－Ｃ４では、上述のタイミングｔＢｇ２－Ｃ２においてオート連打機能が無効化されるときと同様、図１７６（ｆ），（ｈ）に示されるように、それまでオート連打機能によって表示状態にあった「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」や、それまでオート連打機能によって出力状態にあった第１の受付後出力音Ｓα７ａなどの受付後変化を、操作受付がなされなくなったことを契機として途中終了させることがないようにしている（それらの残りの実行時間が消化されるまで実行状態を維持させるようにしている）。

【５４１７】

このような構成によれば、タイミングｔＢｇ２－Ｃ４において第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされたこと（第７Ｂ操作部に対する操作受付がなされない状況下になったこと）を、遊技者は認識し難くされるから、第７Ｂ操作部を操作した状態に維持し続けるように促すことが期待されうる。

【５４１８】

この例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ４において第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなる条件が満たされた後は、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示にされるタイミングが到来するまでの間に、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が再び発生しない。したがって、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示にされるタイミングまで「第７Ｂ操作部」が操作状態に維持されたとしても、当該期間内においてオート連打機能が有効化されたり、操作受付が複数回なされたり、操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されたりすることは生じ得ないこととなる。

【５４１９】

ただし、タイミングｔＢｇ２－Ｃ４以降、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が非表示にされるタイミングが到来するまでの間に「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」の発生条件がもう一度満たされる場合（と、満たされない場合との両方）があるようにしてもよい。この場合、第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されない期間を複数回挟むかたちで上記タイミングｔＢｇ２－Ｃ１から維持されている「第７Ｂ操作部」の操作状態の検出に基づいて、該第７Ｂ操作部に対する操作受付が再びなされて、該操作受付に応じた受付後変化（オート連打機能）が実行開始されることとなることは言うまでもない。

【５４２０】

なお、図１７７に示した例では、タイミングｔＢｇ２－Ａ１で「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示された以降、演出表示装置１６００では、第７Ｂ操作部に対する操作状態や非

操作状態の検出を契機とした表示変化が生じることはない。したがって、タイミングｔＢｇ２－Ａ１以降の各処理は、図１７７（ｂ）に示される表示が現れているなかで実行されることとなる。

【５４２１】

また、当該第７Ｂ受付許容状態としての演出性を好適に維持する上では、第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容されなくなるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２（若しくは、タイミングｔＢｇ２－Ｃ４）が到来するまで遊技者による操作が行われない場合、該操作が行われたときと同じ受付後変化が生じることがない（自動ボタン機能が有効化されない）ようにすることが望ましい。

【５４２２】

また、タイミングｔＢｇ２－Ｂ１やタイミングｔＢｇ２－Ｃ３については、第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れているなかで到来する場合と、該表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が非表示にされてから到来する場合との両方があるようにしてもよい。そして、該表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が非表示にされてから到来した場合は、タイミングｔＢｇ２－Ａ１の場合と同様、該受付後変化の１つとしての表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れうるようにしてもよい。

【５４２３】

なお、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１については、受付後変化の１つとしての「第７Ｂ特定事象（ここでは、第１の受付後出力音Ｓα７）」が実行されているなかで到来した場合を想定したものとなっている。すなわち上述の通り、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７は、「第７Ｂ特定事象（ここでは、第１の受付後出力音Ｓα７）」よりも先に非表示の状態にされることがないものとなっているから、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１が到来した時点において第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が非表示の状態にされている場合はなく、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１で受付後変化の１つとしての表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れることはない。また上述の通り、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７は、オート連打機能によって複数回の受付後変化が生じているなかの、何回目かの受付後変化の１つとして生じることはないものとなっているから（１回目の受付後変化の１つとしてのみ出現可能）、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１以降の有効期間内で発生することもない。

【５４２４】

ただし、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７については、「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が既に発生しているなかで、第７Ｂ操作部が非操作状態から操作状態にされたときに限り、出現可能とされるものとしてもよい。このような構成を採用した場合、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３では、第７Ｂ操作部が既に操作状態として維持されているなかで「第７Ｂ操作部に対する操作受付が許容される状態」が発生し、その結果として、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて上記受付後変化が実行される態様になっていることから、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が仮に非表示にされているなかで到来した場合であっても、該受付後変化の１つとしての表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れる場合がないようにされることとなる。

【５４２５】

また、第７Ｂ受付許容状態では、第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が現れていないなかで、第７Ｂ操作部が非操作状態から操作状態にされた場合であっても、該第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせる場合（図１７６を参照）と、該表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせない場合（図１７８を参照）との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、図１７８を、図１７６と併せて示すように、タイミングｔＢｇ２－Ａ１においても、第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせる場合（図１７６を参照）と、該表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせない場合（図１７８を参照）

との両方があるようになる。なお、「タイミングｔＢｇ２－Ａ１で第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化を生じさせない」場合（図１７８を参照）については、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７にかかる構成以外の全ての構成は、「タイミングｔＢｇ２－Ａ１で第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化を生じさせる」例として上述した場合（図１７６を参照）と同じであるから、説明の便宜上、その詳細な説明については割愛することとする。また、当該構成にかかる実現手法については、操作受付がなされたときの演出判定に基づいて表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせる（または、生じさせない）ようにしてもよいし、変動パターンの種別や、大当り判定の結果に基づいて表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）を生じさせる（または、生じさせない）ようにしてもよいし、それ以外の手法を採用するようにしてもよい。

【５４２６】

また、図１７６や図１７８に示した演出例では、タイミングｔＢｇ２で「第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態」が発生した以降、第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされた各タイミングのうち、時系列的に最先であるタイミングｔＢｇ２－Ａ１に限り、第７Ｂ操作部に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）が生じる可能性があるようにしてもよい。

【５４２７】

また、操作対象が同じとされる上記第３Ｂ受付許容状態や、第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態においては、操作部に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示変化が生じることがないようにしてもよい。この場合、表示変化とは異なる事象（例えば、第７Ｂ特定事象と同じ事象など）のみが受付後変化として実行されうることとなる。

【５４２８】

また、第７Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」としては用意されておらず、「第７Ｂ操作部（ここでは、刀装飾体５００１）」に対する操作受付に基づいて当該状態が終了することはないものとなっている。

【５４２９】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第１Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６４や図１６５などを参照）。この点、図１７９は、当該「第１Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第１Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が再び表示され、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５４３０】

なおこの例では、説明の便宜上、「第１Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第１Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させた場合の例として説明しているが、以下に説明する例については、「第１Ｂ受付許容状態」とは異なる種別の受付許容状態として実現するようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容状態では、「第１Ｂ受付許容状態」の場合とは異なる受付後変化が生じることなる。

【５４３１】

すなわち、図１７９に示されるように、タイミングｔＢａ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など）が表示開始されてから、タイミングｔＢａ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５４３２】
この点、この例では、第１Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢａ２－Ｃ１から）から継続されている「第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、遊技者が、当該第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５４３３】
そしてこの例では、こうして第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第２Ｂ受付許容状態（図１６６や図１６７を参照）」が発生した場合を想定している。
【５４３４】
ここで、この例にかかるパチンコ機１では、上記第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢａ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間は、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第２態様（図１６７に示される「ボタン乱打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が表示されることはないようになっている。
【５４３５】
したがって、この例では、第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢａ３から所定時間（例えば１０秒）よりも長い時間が経過したタイミングｔＢａ５Ａが到来したことに基づいて（タイミングｔＢａ５Ａで「条件２Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第２Ｂ受付後変化（第２Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ２や、第２Ｂ連打中表示ＨＢ２、第２Ｂ受付後出力音Ｓα２，Ｓβ２など）に関しての第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第２Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１６７（ａ）に示される状況）。
【５４３６】
ここで、この例にかかる第２Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第２Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第１Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「操作ボタン４１０」として設定されており、当該第２Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【５４３７】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第２Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第２Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ２と、操作対象（ここでは、第２Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ２と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ２とを、当該第２Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢａ４Ａが到来したときに表示するものとなっている（図１７９（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢａ４Ａでは、遊技者に対して操作を促す第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢａ４Ａ～ｔＢａ５Ａの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第２態様（図１６７に示される「ボタン乱打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示が表示され、且つ第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２が可聴出力されている状況下にもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５４３８】
このような第２Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１６６及び図１６７を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第２Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。
【５４３９】
ただし、図１７９に示される第２Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢａ５Ａにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生するものの、当該状態では、上記第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることがない）ようになっている。すなわちこの場合、第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、第２Ｂ受付許容状態において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、上記第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）させることを遊技者に対して促すことができるようになる。
【５４４０】
なおこの場合、第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、図１７９に示される第２Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第２Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１６６及び図１６７を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。
【５４４１】
また、第１Ｂ受付許容状態にあるときから「操作ボタン４１０」の操作状態が継続されているなかで、「第２Ｂ受付許容状態」に対応する操作関連表示ではなく、これとは異なる操作関連表示、すなわち「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示（図１６５に示される「ボタン連打！」のメッセージ表示など））」が表示された場合であっても、第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは、該操作関連表示が表示されているなかで「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないようにしてもよい。
【５４４２】
また、図１７９に示した例では、第１Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。
【５４４３】
また、第２Ｂ受付許容状態とは、本来、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態にされると、これを契機として非操作後表示ＨＢ２を表示するものである。ただし、図１７９に示した例において、第１Ｂ受付許容状態にあるときに操作状態にされた第２操作手段（操作ボタン４１０）を、第２Ｂ受付許容状態において非操作状態にしたとしても、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示ＨＢ２が表示されることはないようにすることが望ましい。

【５４４４】
　また、図１７９に示した例において、第１Ｂ受付許容状態が終了した後であり、且つ第２Ｂ受付許容状態が開始されるよりも前に、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にし、該操作状態にした第２操作手段（操作ボタン４１０）を、第２Ｂ受付許容状態において非操作状態にしたとしても、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示ＨＢ２が表示されることはないようにしてもよい。
【５４４５】
　なお、第１Ｂ受付許容状態や第６Ｂ受付許容状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態にされたとしても、これを契機とした非操作後表示が表示されることがないことは言うまでもない。
【５４４６】
　また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第２Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６６や図１６７などを参照）。この点、図１８０は、当該「第２Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第２Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が再び表示され、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。
【５４４７】
　なおこの例では、説明の便宜上、「第２Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第２Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させた場合の例として説明しているが、以下に説明する例については、「第２Ｂ受付許容状態」とは異なる種別の受付許容状態として実現するようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容状態では、「第２Ｂ受付許容状態」の場合とは異なる受付後変化が生じることなる。
【５４４８】
　すなわち、図１８０に示されるように、タイミングｔＢｂ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｂ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１６６及び図１６７を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５４４９】
　この点、この例では、第２Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｂ２－Ｃ１から）から継続されている「第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、遊技者が、当該第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５４５０】
　そしてこの例では、こうして第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第１Ｂ受付許容状態（図１６４や図１６５を参照）」が発生した場合を想定している。
【５４５１】
　ここで、この例にかかるパチンコ機１では、上記第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｂ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間は、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第１態様（図１６５に示される「ボタン連打！」のメッセージ表示な

ど）で促す操作関連表示」が表示されることはないようになっている。
【５４５２】
したがって、この例では、第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｂ３から所定時間（例えば１０秒）よりも長い時間が経過したタイミングｔＢｂ５Ａが到来したことに基づいて（タイミングｔＢｂ５Ａで「条件１Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ１や、第１Ｂ連打中表示ＨＢ１、第１Ｂ受付後出力音Ｓα１，Ｓβ１など）に関しての第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第１Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１６５（ａ）に示される状況）。
【５４５３】
ここで、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第１Ｂ操作部」は、上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第２Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「操作ボタン４１０」として設定されており、当該第１Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【５４５４】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第１Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ１と、操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ１と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ１とを、当該第１Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｂ４Ａが到来したときに表示するものとなっている（図１８０（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｂ４Ａでは、遊技者に対して操作を促す第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｂ４Ａ～ｔＢｂ５Ａの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第１態様（図１６５に示される「ボタン連打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示が表示され、且つ第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が可聴出力されている状況下にもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。
【５４５５】
このような第１Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第１Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。
【５４５６】
ただし、図１８０に示される第１Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢａ５Ａにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生するものの、当該状態では、上記第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることはない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることはない）ようになっている。すなわちこの場合、第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、第１Ｂ受付許容状態において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、上記第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）させることを遊技者に対して促すことができるようになる。
【５４５７】

なおこの場合、第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、図１８０に示される第１Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第１Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５４５８】

また、第２Ｂ受付許容状態にあるときから「操作ボタン４１０」の操作状態が継続されているなかで、「第１Ｂ受付許容状態」に対応する操作関連表示ではなく、これとは異なる操作関連表示、すなわち「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示（図１６７に示される「ボタン乱打！」のメッセージ表示など））」が表示された場合であっても、第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは、該操作関連表示が表示されているなかで「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないようにしてもよい。

【５４５９】

また、図１８０に示した例では、第２Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５４６０】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第３Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６８や図１６９などを参照）。この点、図１８１は、当該「第３Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第３Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示され、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５４６１】

すなわち、図１８１に示されるように、タイミングｔＢｃ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｃ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、基本的には、図１６８及び図１６９を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１６８及び図１６９を参照）の場合であっても、タイミングｔＢｃ３以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。

【５４６２】

この点、この例では、第３Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１から）から継続されている「第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、

遊技者が、当該第３Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５４６３】

すなわちこの例では、こうして第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第４Ｂ受付許容状態（図１７０や図１７１を参照）」が発生する場合を想定している。

【５４６４】

ここで、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態が終了する場合は、当該第３Ｂ受付許容状態とは操作関連表示の対象（オート連打機能が有効化される操作対象）が異なる上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示される場合（と、表示されない場合との両方）があるようになっている。

【５４６５】

例えば、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３（図１８１（ｇ）を参照）が可聴出力されているなかで、「第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」に対する複数回の操作受付が許容される「条件３Ｂ」が満たされて発生した場合を想定したものとなっているが、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１８１（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合があるものとなっていることは上述した通りである。

【５４６６】

この点、該第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１８１（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合と、早期終了されない場合との両方があるようにした上で、その可聴出力が早期終了された場合に限り、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対する操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が表示される場合（と、表示されない場合との両方）があるようにしてもよい。

【５４６７】

すなわちこの場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されず、予め定められた時間だけ可聴出力されたときには、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対する操作を、特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が表示される場合はない（第４Ｂ受付許容状態が発生する場合はない）こととなる。これにより、遊技者は、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降は、少なくとも所定時間が経過しなければ第４Ｂ受付許容状態が発生しないことを認識することが可能であり、刀装飾体５００１を操作状態で維持するメリットが少ないことを認識することができるようになる。

【５４６８】

これに対し、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されたときには、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化

対象とされる刀装飾体５００１に対する操作を、特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が表示される場合がある（第４Ｂ受付許容状態が発生する場合がある）こととなる。これにより、遊技者は、第３Ｂ受付許容状態が終了した場合であっても、所定時間が経過するよりも前に、第４Ｂ受付許容状態が発生する可能性を認識することが可能であり、刀装飾体５００１を操作状態で維持するメリットがあることを認識することができるようになる。

【５４６９】

なお、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されたときには、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対する操作を、特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が必ず表示されるようにしてもよい。

【５４７０】

そしてこの例では、第３Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するよりも前のタイミングｔＢｃ５Ａが到来したときに（タイミングｔＢｃ５Ａで「条件４Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ４や、第４Ｂ連打中表示ＨＢ４、第４Ｂ受付後出力音Ｓα４など）に関しての第４Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第４Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７１（ａ）に示される状況）。

【５４７１】

ここで、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第４Ｂ操作部」は、上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第４Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５４７２】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第４Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ４と、操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ４と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ４とを、当該第４Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｃ４Ａが到来したときに表示するものとなっている（図１８１（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｃ４Ａでは、遊技者に対して操作を促す第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｃ４Ａ～ｔＢｃ５Ａの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されている状況下にもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５４７３】

このような第４Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７０及び図１７１を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第４Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５４７４】

この点、図１８１に示される第４Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｃ５Ａにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオー

ト連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、図１７９や図１８０に示した例の場合とは異なり、該操作関連表示が表示されているなかで、第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｃ５Ａにおいて操作受付がなされるから）、上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。

【５４７５】

特に、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が、図１８１（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了されたときには、該第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの比較的早い段階で、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対する操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示」が表示される可能性（表示される割合が１００％であってもよい）があるから、上記第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされた以降も、「刀装飾体５００１」の操作状態を維持することを促すことが期待されるようになる。

【５４７６】

なお、第４Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７０や図１７１を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５４７７】

また、図１８１に示した例では、第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５４７８】

また、図１８１に示した例では、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、該操作関連表示が表示されているなかで、第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようにした。ただしこれに代えて、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、該操作関連表示が表示されているなかで、第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行され

る）場合と、該有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない場合には、第３Ｂ受付許容状態にあるときからの「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されているままで、操作受付や受付後変化が実行されることなく、タイミングｔＢｃ５Ａにおいて表示開始された「操作関連表示」が非表示の状態にされるタイミングが到来することとなる。なお、操作関連表示が表示されているなかで「オート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合」にかかる構成を実現する手法としては、「操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を発生させるものの、オート連打機能（長押し機能）を無効とする」ことによって実現するようにしてもよいし、「刀装飾体５００１に対する操作受付これ自体を許容しないようにする」ことによって実現するようにしてもよい。

【５４７９】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第５Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７２や図１７３などを参照）。この点、図１８２は、当該「第５Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第５Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示され、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５４８０】

すなわち、図１８２に示されるように、タイミングｔＢｅ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｅ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、基本的には、図１７２及び図１７３を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｅ２―Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｅ２―Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１７２及び図１７３を参照）の場合であっても、タイミングｔＢｅ３以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。

【５４８１】

この点、この例では、第５Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１から）から継続されている「第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５４８２】

すなわちこの例では、こうして第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第３Ｂ受付許容状態（図１６８や図１６９を参照）」が発生する場合を想定している。

【５４８３】

ここで、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態が終了する場合は、当該第５Ｂ受付許容状

態とは操作関連表示の対象（オート連打機能が有効化される操作対象）が異なる上記第１Ｂ受付許容状態や上記第２Ｂ受付許容状態の場合とは異なり、該第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するまでの間に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示される場合（と、表示されない場合との両方）があるようになっている。

【５４８４】

そしてこの例では、第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するよりも前のタイミングｔＢｅ５Ａ－１が到来したときに（タイミングｔＢｅ５Ａ－１で「条件３Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ３や、第３Ｂ連打中表示ＨＢ３、第３Ｂ受付後出力音Ｓα３など）に関しての第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第３Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１６９（ａ）に示される状況）。

【５４８５】

ここで、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第３Ｂ操作部」は、上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第３Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５４８６】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第３Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ３と、操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ３と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ３とを、当該第３Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｅ４Ａ－１が到来したときに表示するものとなっている（図１８２（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｅ４Ａ－１では、遊技者に対して操作を促す第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｅ４Ａ－１～ｔＢｅ５Ａ－１の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されている状況下にもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５４８７】

このような第３Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１６８及び図１６９を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第３Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５４８８】

この点、図１８２に示される第３Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｅ５Ａ－１において「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第５Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（

第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、図１７９や図１８０に示した例の場合とは異なり、該操作関連表示が表示されているなかで、第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｅ５Ａにおいて操作受付がなされるから）、上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。

【５４８９】

なお、第３Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１６８や図１６９を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５４９０】

また、図１８２に示した例では、第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５４９１】

また、図１８２に示した例では、第５Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、該操作関連表示が表示されているなかで、第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようにした。ただしこれに代えて、第５Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、該操作関連表示が表示されているなかで、第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）場合と、該有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない場合には、第５Ｂ受付許容状態にあるときからの「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されているままで、操作受付や受付後変化が実行されることなく、タイミングｔＢｅ５Ａ－１において表示開始された「操作関連表示」が非表示の状態にされるタイミングが到来することとなる。なお、操作関連表示が表示されているなかで「オート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合」にかかる構成を実現する手法としては、「操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を発生させるものの、オート連打機能（長押し機能）を無効とする」ことによって実現するようにしてもよいし、「刀装飾体５００１に対する操作受付これ自体を許容しないようにする」ことによって実現するようにしてもよい。

【５４９２】

ところで、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連出力

音）については、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合があるものとなっていることは上述した通りである。

【５４９３】

この点、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過するよりも前に、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が表示されたときには、それに際して可聴出力される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了されることがないようにしてもよい（図１８２に示した例に相当）。

【５４９４】

これに対し、上記タイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した後に、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が表示されたときには、それに際して可聴出力される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合（と、早期終了されない場合との両方）があるようにしてもよい。

【５４９５】

図１８３は、上記タイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した以降に出力開始された第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５４９６】

図１８３に示される例も、基本的には、図１８２を参照しつつ上述した例の場合と同様であるから、同じ構成についてはその説明を割愛することとする。ただし、図１８３に示される例では、図１８２を参照しつつ上述した例の場合とは異なり、タイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過する前ではなく、タイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した後に、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が表示された場合を想定したものとなっている。

【５４９７】

より具体的には、第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した後のタイミングｔＢｅ５Ａ―２が到来したときに（タイミングｔＢｅ５Ａ－２で「条件３Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｂ受付後変化（第３Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ３や、第３Ｂ連打中表示ＨＢ３、第３Ｂ受付後出力音Ｓα３など）に関しての第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第３Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１６９（ａ）に示される状況）。

【５４９８】

そして、この演出例にかかるパチンコ機１では、第３Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ３と、操作対象（ここでは、第３Ｂ操作部としての「操作ボタン

４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ３と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ３とを、当該第３Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｅ４Ａ－２が到来したときに表示するものとなっている（図１８３（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｅ４Ａ－２では、遊技者に対して操作を促す第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｅ４Ａ―２～ｔＢｅ５Ａ―２の期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴出力されている状況下にもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５４９９】

このような第３Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１６８及び図１６９を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第３Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５００】

また、図１８３に示した例では、第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５０１】

この点、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した後に、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が表示されたときには、それに際して可聴出力される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合と早期終了されない場合との両方があるようになっている。

【５５０２】

図１８３に示される例は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力がタイミングｔＢｅ６で早期終了される場合をタイムチャートとして示したものであるが、早期終了されるタイミングはこれに限られず、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングとして現れることとなる。このような第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の早期終了にかかる構成については、図１６８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでの説明は割愛することとする。

【５５０３】

このような図１８２及び図１８３に示した例によれば、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を所定態様（図１６９に示される「刀を連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が表示されるタイミングが、オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされる刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）が非表示の状態にされるタイミングｔＢｅ３から所定時間（例えば１０秒）が経過した前であるか、それとも該所定時間（例えば１０秒）が経過した後であるかによって、「第３Ｂ操作関連出力音Ｏ

Ｂ３の早期終了にかかる構成」が異なるようになる。
【５５０４】
　また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第１Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６４や図１６５などを参照）。この点、図１８４は、当該「第１Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第１Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。
【５５０５】
　なおこの例では、説明の便宜上、「第１Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第１Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させた場合の例として説明しているが、以下に説明する例については、「第１Ｂ受付許容状態」とは異なる種別の受付許容状態として実現するようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容状態では、「第１Ｂ受付許容状態」の場合とは異なる受付後変化が生じることなる。
【５５０６】
　すなわち、図１８４に示されるように、タイミングｔＢａ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など）が表示開始されてから、タイミングｔＢａ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５５０７】
　この点、この例では、第１Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢａ２－Ｃ１から）から継続されている「第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、遊技者が、当該第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、第１Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５５０８】
　そしてこの例では、こうして第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第６Ｂ受付許容状態（図１７４や図１７５を参照）」が発生した場合を想定している。
【５５０９】
　この例では、第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢａ３以降の、図１８４に示されるタイミングｔＢａ５Ｂが到来したときに（タイミングｔＢａ５Ｂで「条件６Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ連打中表示ＨＢ６、第６Ｂ受付後出力音Ｓα６，Ｓβ６など）に関しての第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第６Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７５（ａ）に示される状況）。
【５５１０】
　ここで、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第６Ｂ操作部」は、上記第１Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第１Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「操作ボタン４１０」として設定されており、当該第６Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５１１】
ただし上述の通り、第６Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１８４（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第１Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢａ３以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。
【５５１２】
このような第６Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第６Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。
【５５１３】
この点、図１８４に示される第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）では、タイミングｔＢａ５Ｂにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生するものの、当該状態では、上記第１Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示される許容状態）にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることがない）ようになっている。すなわちこの場合、第１Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示される許容状態）にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、「タイミングｔＢａ３以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させる」といった遊技性を好適に維持することが期待されうる。
【５５１４】
なおこの場合、第１Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、図１８４に示される第６Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第６Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。
【５５１５】
また、図１８４に示した例では、第１Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、第６Ｂ受付許容状態が発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。
【５５１６】
また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第２Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６６や図１６７などを参照）。この点、図１８５は、当該「第２Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第２Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。
【５５１７】
なおこの例では、説明の便宜上、「第２Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第２

Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第２Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させた場合の例として説明しているが、以下に説明する例については、「第２Ｂ受付許容状態」とは異なる種別の受付許容状態として実現するようにしてもよい。ただしこの場合、該受付許容状態では、「第２Ｂ受付許容状態」の場合とは異なる受付後変化が生じることなる。

【５５１８】

すなわち、図１８５に示されるように、タイミングｔＢｂ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｂ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ２やメッセージ表示ＭＢ２など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１６６及び図１６７を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５１９】

この点、この例では、第２Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｂ２－Ｃ１から）から継続されている「第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、遊技者が、当該第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、第２Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５５２０】

そしてこの例では、こうして第２Ｂ操作部（操作ボタン４１０）の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第６Ｂ受付許容状態（図１７４や図１７５を参照）」が発生した場合を想定している。

【５５２１】

この例では、第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｂ３以降の、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ５Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｂ５Ｂで「条件６Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ連打中表示ＨＢ６、第６Ｂ受付後出力音Ｓα６，Ｓβ６など）に関しての第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第６Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７５（ａ）に示される状況）。

【５５２２】

ここで、この例にかかる第６Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第６Ｂ操作部」は、上記第２Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第２Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「操作ボタン４１０」として設定されており、当該第６Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５２３】

ただし上述の通り、第６Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１８５（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第２Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｂ３以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。

【５５２４】

このような第６Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第６Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５２５】

この点、図１８５に示される第６Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｂ５Ｂにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生するものの、当該状態では、上記第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることがない）ようになっている。すなわちこの場合、第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、第６Ｂ受付許容状態において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、「タイミングｔＢｂ３以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させる」といった遊技性を好適に維持することが期待されうる。

【５５２６】

なおこの場合、第２Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、図１８５に示される第６Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第６Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５２７】

また、図１８５に示した例では、第２Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、第６Ｂ受付許容状態が発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５２８】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第３Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１６８や図１６９などを参照）。この点、図１８６は、当該「第３Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第３Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５５２９】

すなわち、図１８６に示されるように、タイミングｔＢｃ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｃ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、基本的には、図１６８及び図１６９を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｃ２―Ｃ２からタイミングｔＢｃ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１６８及び図１６９を参照）の場合であっても、タイミングｔＢｃ３以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。

【５５３０】

この点、この例では、第３Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｃ２－Ｃ１から）から継続されている「第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第３Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にさ

れた以降、第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５５３１】

すなわちこの例では、こうして第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第７Ｂ受付許容状態（図１７６～図１７８を参照）」が発生した場合を想定している。より具体的には、第３Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３以降の、図１８６に示されるタイミングｔＢｃ５Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｃ５Ｂで「条件７Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）に関しての第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第７Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７７（ａ）に示される状況）。

【５５３２】

ここで、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第７Ｂ操作部」は、上記第３Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第７Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５３３】

ただし上述の通り、第７Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１８６（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第３Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｃ３以降、第７Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。

【５５３４】

このような第７Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第７Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５３５】

この点、図１８６に示される第７Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｃ５Ｂにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降、該第３Ｂ受付許容状態と同じ操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作関連表示が表示されないなかで、該操作手段（刀装飾体５００１）がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態（第７Ｂ受付許容状態）が発生したときには、図１８４や図１８５に示した例の場合とは異なり、第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｃ５Ｂにおいて操作受付がなされるから）、上記第３Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。

【５５３６】

なお、第７Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５３７】

ただし、図１８６に示される「第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３」と「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」とについては、以下の関係性を持たせるようにしてもよい。

【５５３８】

例えば、この例にかかる第３Ｂ受付許容状態は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３（図１８６（ｇ）を参照）が可聴出力されているなかで、「第３Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」に対する複数回の操作受付が許容される「条件３Ｂ」が満たされて発生した場合を想定したものとなっているが、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３については、図１８６（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングでその可聴出力が早期終了される場合と早期終了されない場合との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【５５３９】

また、第７Ｂ受付許容状態では、刀装飾体５００１に対して１回目の操作受付がなされたとき、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうるが、該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、上記１回目の操作受付に基づいて表示される場合（図１７６（ｆ）を参照）と表示されない場合（図１７８（ｆ）を参照）との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【５５４０】

この点、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了された場合には、タイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過してからタイミングｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来したときに限り、該タイミングｔＢｃ５Ｂにおける刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうるようにする。これに対し、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されなかった場合には、タイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過していないなかでタイミングｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来した場合であっても、該タイミングｔＢｃ５Ｂにおける刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうるようにする。

【５５４１】

このような構成によれば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されるか否かによって、タイミングｔＢｃ５Ｂで「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示される可能性（第７Ｂ受付許容状態が秘かに発生しており、操作受付が適正になされたことを容易に認識できる可能性）が異なるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５５４２】

なお、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了され、且つタイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過してからタイミングｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来した場合は、タイミングｔＢｃ５Ｂにおける操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示される場合と表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただし、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了され、且つタイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過していないなかでタイミングｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来した場合は、タイミングｔＢｃ５Ｂにおける操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されることがないことは言うまでもない。

【５５４３】

また、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了されなかった場合には、タイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過してからタイミング

ｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来したときと、タイミングｔＢｃ３から特別時間（例えば２０秒）よりも長い時間が経過していないなかでタイミングｔＢｃ５Ｂ（「条件７Ｂ」が満たされるタイミング）が到来したときとのいずれの場合であっても、タイミングｔＢｃ５Ｂにおける刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとして、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうる。ただしいずれの場合であっても、該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、タイミングｔＢｃ５Ｂにおける操作受付に応じた受付後変化の１つとして表示される場合と表示されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５５４４】

なお、図１８６に示した例では、第３Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、第７Ｂ受付許容状態が発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５４５】

また、図１８６に示した例では、第３Ｂ受付許容状態が終了した以降、第３Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した場合を想定したものとなっているが、当該状態が発生するときまで、第３Ｂ受付許容状態にあるときから「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されたときは、その検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）こととなる。

【５５４６】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第５Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７２や図１７３などを参照）。この点、図１８７は、当該「第５Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第５Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５５４７】

すなわち、図１８７に示されるように、タイミングｔＢｅ１において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５など）が表示開始されてから、タイミングｔＢｅ３において操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ５やメッセージ表示ＭＢ５など）が非表示の状態にされるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、基本的には、図１７２及び図１７３を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｅ２―Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｅ２―Ｃ２からタイミングｔＢｅ３までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１７２及び図１７３を参照）の場合であっても、タイミングｔＢｅ３以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。

【５５４８】

この点、この例では、第５Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｅ２－Ｃ１から）から継続されている「第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされた以降、第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５０

０１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５５４９】

すなわちこの例では、こうして第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第７Ｂ受付許容状態（図１７６～図１７８を参照）」が発生した場合を想定している。より具体的には、第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｅ３以降の、図１８７に示されるタイミングｔＢｅ５Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｅ５Ｂで「条件７Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）に関しての第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第７Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７７（ａ）に示される状況）。

【５５５０】

ここで、この例にかかる第７Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第７Ｂ操作部」は、上記第５Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第７Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５５１】

ただし上述の通り、第７Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１８７（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第５Ｂ受付許容状態が終了してこれに対応する操作関連表示が非表示にされたタイミングｔＢｅ３以降、第７Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。

【５５５２】

このような第７Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第７Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５５３】

この点、図１８７に示される第７Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｅ５Ｂにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第５Ｂ受付許容状態が終了した以降、該第５Ｂ受付許容状態と同じ操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作関連表示が表示されないなかで、該操作手段（刀装飾体５００１）がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態（第７Ｂ受付許容状態）が発生したときには、図１８４や図１８５に示した例の場合とは異なり、第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｅ５Ｂにおいて操作受付がなされるから）、上記第５Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。

【５５５４】

なお、第７Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７６～図１７８を参照

しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。
【５５５５】
　また、図１８７に示される例にかかる第７Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｅ５Ｂで刀装飾体５００１に対して１回目の操作受付がなされたとき、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうるようになっているが、該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、上記１回目の操作受付に基づいて表示される場合（図１７６（ｆ）を参照）と表示されない場合（図１７８（ｆ）を参照）との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。
【５５５６】
　なお、図１８７に示した例では、第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示が非表示にされてから、第７Ｂ受付許容状態が発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。
【５５５７】
　また、図１８７に示した例では、第５Ｂ受付許容状態が終了した以降、第５Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した場合を想定したものとなっているが、当該状態が発生するときまで、第５Ｂ受付許容状態にあるときから「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されたときは、その検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）こととなる。
【５５５８】
　また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第６Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７４や図１７５などを参照）。この点、図１８８は、当該「第６Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第６Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示され、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。
【５５５９】
　すなわち、図１８８に示されるように、「第６Ｂ受付許容状態」は、操作関連表示（摸画像表示やメッセージ表示など）が表示されないものとなっており、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態が発生（タイミングｔＢｆ２）してから終了（タイミングｔＢｆ２－Ｃ２）されるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５５６０】
　この点、この例では、第６Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１から）から継続されている「第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、遊技者が、当該第６Ｂ受付許容状態が終了した以降の、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５５６１】
　そしてこの例では、こうして操作ボタン４１０の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第１Ｂ受付許容状態（図１６４や図１６５を参照）」が発生した場合を想定している。より具体的には、第６Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｆ２―Ｃ２以降の、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ４Ａが到来した

ときに（タイミングｔＢｆ４Ａで「条件１Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｂ受付後変化（第１Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ１や、第１Ｂ連打中表示ＨＢ１、第１Ｂ受付後出力音Ｓα１，Ｓβ１など）に関しての第１Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第１Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１６５（ａ）に示される状況）。

【５５６２】

ここで、この例にかかる第１Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第１Ｂ操作部」は、上記第６Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第６Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「操作ボタン４１０」として設定されており、当該第１Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５６３】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第１Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ１と、操作対象（ここでは、第１Ｂ操作部としての「操作ボタン４１０」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ１と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ１とを、当該第１Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｆ３Ａが到来したときに表示するものとなっている（図１８８（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｆ３Ａでは、遊技者に対して操作を促す第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｆ４Ａ～ｔＢｆ５Ａの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ１やメッセージ表示ＭＢ１など、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を第１態様（図１６５に示される「ボタン連打！」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示が表示され、且つ第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１が可聴出力されている状況下にもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５５６４】

このような第１Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第１Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５６５】

ただし、図１８８に示される第１Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示される許容状態）では、タイミングｔＢｆ４Ａにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生するものの、当該状態では、上記第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることはない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることはない）ようになっている。すなわちこの場合、第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、第１Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示される許容状態）において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、上記第６Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）させることを遊技者に対して促すことができるようになる。

【５５６６】

なおこの場合、第６Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、図１８８に示される第１Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対す

る操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第１Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１６４及び図１６５を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５６７】

また、第６Ｂ受付許容状態にあるときから「操作ボタン４１０」の操作状態が継続されているなかで、「第１Ｂ受付許容状態」に対応する操作関連表示ではなく、これとは異なる操作関連表示、すなわち「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示（図１６７に示される「ボタン乱打！」のメッセージ表示など））」が表示された場合であっても、第６Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは、該操作関連表示が表示されているなかで「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないようにしてもよい。

【５５６８】

また、図１８８に示した例では、第６Ｂ受付許容状態が終了されてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５６９】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第７Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７６や図１７７などを参照）。この点、図１８９は、当該「第７Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第７Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示され、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５５７０】

すなわち、図１８９に示されるように、「第７Ｂ受付許容状態」は、操作関連表示（摸画像表示やメッセージ表示など）が表示されないものとなっており、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生（タイミングｔＢｇ２）してから終了（タイミングｔＢｇ２－Ｃ２）されるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１７６～図１７８を参照）の場合であっても、刀装飾体５００１に対する操作状態が維持されているなかで下記タイミングｔＢｇ３Ａ以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。また、図１８９に示した例では、タイミングｔＢｇ２－Ａ１などにおいて操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されない場合（図１７８の場合に相当）を想定したものとなっているが、該第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が表示される場合（図１７６の場合に相当）もあることは上述した通りであり、この場合も、以下に説明する通りの構成が現れることとなる。

【５５７１】

この点、この例では、第７Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｇ２

－Ｃ１から）から継続されている「第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第７Ｂ受付許容状態が終了した以降の、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５５７２】

すなわちこの例では、こうして刀装飾体５００１の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第４Ｂ受付許容状態（図１７０や図１７１を参照）」が発生する場合を想定している。より具体的には、第７Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｇ２―Ｃ２以降の、図１８９に示されるタイミングｔＢｇ４Ａが到来したときに（タイミングｔＢｇ４Ａで「条件４Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第４Ｂ受付後変化（第４Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ４や、第４Ｂ連打中表示ＨＢ４、第４Ｂ受付後出力音Ｓα４など）に関しての第４Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第４Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７１（ａ）に示される状況）。

【５５７３】

ここで、この例にかかる第４Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第４Ｂ操作部」は、上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第４Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。

【５５７４】

この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第４Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ４と、操作対象（ここでは、第４Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ４と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ４とを、当該第４Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｇ３Ａが到来したときに表示するものとなっている（図１８９（ｂ）～（ｅ）などを参照）。また、この例にかかるタイミングｔＢｇ３Ａでは、遊技者に対して操作を促す第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４の可聴出力も開始されるようになっている。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｇ３Ａ～ｔＢｇ４Ａの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示され、且つ第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４が可聴出力されている状況下にあるにもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。

【５５７５】

このような第４Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７０及び図１７１を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第４Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５７６】

この点、図１８９に示される第４Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｇ４Ａにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ

操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、図１８８に示した例などの場合とは異なり、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｇ４Ａにおいて操作受付がなされるから）、上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。

【５５７７】

なお、第４Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７０や図１７１を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５７８】

また、図１８９に示した例では、第７Ｂ受付許容状態が終了されてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５７９】

また、図１８９に示した例では、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようにした。ただしこれに代えて、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特定態様（図１７１に示される「刀を超・連打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第４Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）場合と、該有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない場合には、第７Ｂ受付許容状態にあるときからの「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されているままで、操作受付や受付後変化が実行されることなく、タイミングｔＢｇ４Ａにおいて表示開始された「操作関連表示」が非表示の状態にされるタイミングが到来することとなる。なお、操作関連表示が表示されているなかで「オート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合」にかかる構成を実現する手法としては、「操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を発生させるものの、オート連打機能（長押し機能）を無効とする」ことによって実現するようにしてもよいし、「刀装飾体５００１に対する操作受付これ自体を許容しないようにする」ことによって実現するようにしてもよい。

【５５８０】
図１８９は、第７Ｂ受付許容状態から刀装飾体５００１の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第４Ｂ受付許容状態（図１７０や図１７１を参照）」が発生する場合を想定した。ただし、第７Ｂ受付許容状態から刀装飾体５００１の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」としては、上述の「第４Ｂ受付許容状態（図１７０や図１７１を参照）」だけでなく、例えば、上述の「第５Ｂ受付許容状態（図１７２や図１７３を参照）」が発生する場合もある。
【５５８１】
図１９０は、第７Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降の、タイミングｔＢｇ４Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｇ４Ｂで「条件５Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ５や、第５Ｂ連打中表示ＨＢ５、第５Ｂ受付後出力音Ｓα５など）に関しての第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第５Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７３（ａ）に示される状況）。
【５５８２】
すなわち上述の通り、「第７Ｂ受付許容状態」は、操作関連表示（摸画像表示やメッセージ表示など）が表示されないものとなっており、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生（タイミングｔＢｇ２）してから終了（タイミングｔＢｇ２－Ｃ２）されるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１７６～図１７８を参照）の場合であっても、刀装飾体５００１に対する操作状態が維持されているなかで下記タイミングｔＢｇ３Ａ以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。また、図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２－Ａ１などにおいて操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されない場合（図１７８の場合に相当）を想定したものとなっているが、該第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が表示される場合（図１７６の場合に相当）もあることは上述した通りであり、この場合も、以下に説明する通りの構成が現れることとなる。
【５５８３】
この点、この例では、第７Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１から）から継続されている「第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第７Ｂ受付許容状態が終了した以降の、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が再び表示された時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５５８４】
すなわちこの例では、こうして刀装飾体５００１の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第５Ｂ受付許容状態（図１７２や図１７３を参照）」が発生する場合を想定している。より具体的には、第７Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降の、図１９０に示されるタイミングｔＢｇ４Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｇ４Ｂで「条件５Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第５Ｂ受付後変化（第５Ｂ演出状況示唆表示ＪＢ５や、第５Ｂ連打中表示ＨＢ５、第５Ｂ受付後出力音Ｓα５など）に関しての第５Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第５Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７３（ａ）に示される状況）。

【５５８５】
ここで、この例にかかる第５Ｂ受付許容状態にあって、操作受付が許容される「第５Ｂ操作部」は、上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作手段、すなわち上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから操作状態が維持されている「刀装飾体５００１」として設定されており、当該第５Ｂ受付許容状態が終了されるまでの間に複数回の操作受付が許容可能とされるものとなっている。
【５５８６】
この点、この演出例にかかるパチンコ機１では、第５Ｂ受付許容状態が発生する場合は、遊技者による操作対象（ここでは、第５Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）を摸した摸画像表示ＭＧ－Ｂ５と、操作対象（ここでは、第５Ｂ操作部としての「刀装飾体５００１」）に対する操作に関連したメッセージ表示ＭＢ５と、操作受付がなされた以降の全期間にわたって演出の進展度合いを示唆可能な状況示唆表示ＪＢ５とを、当該第５Ｂ受付許容状態が発生するよりも前（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるよりも前）のタイミングｔＢｇ３Ｂが到来したときに表示するものとなっている（図１９０（ｂ）～（ｅ）などを参照）。したがって、この例にかかるタイミングｔＢｇ３Ｂ～ｔＢｇ４Ｂの期間では、摸画像表示ＭＧ－Ｂ４やメッセージ表示ＭＢ４など、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されている状況下にあるにもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作が有効操作として判定される（操作受付がなされる）ことはない。
【５５８７】
このような第５Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７２及び図１７３を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第５Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。
【５５８８】
この点、図１９０に示される第５Ｂ受付許容状態では、タイミングｔＢｇ４Ｂにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態が発生することに加えて、当該状態では、上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、図１８８に示した例などの場合とは異なり、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されうるから（タイミングｔＢｇ４Ｂにおいて操作受付がなされるから）、上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。
【５５８９】
なお、第５Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７２や図１７３を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。
【５５９０】
また、図１９０に示した例では、第７Ｂ受付許容状態が終了されてから、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されるまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよ

いし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５５９１】

また、図１９０に示した例では、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようにした。ただしこれに代えて、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、「オート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされ且つ上記第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を特別態様（図１７３に示される「刀を乱打」のメッセージ表示など）で促す操作関連表示（第５Ｂ受付許容状態に対応する操作関連表示）」が現れたときには、第７Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）場合と、該有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない場合には、第７Ｂ受付許容状態にあるときからの「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されているままで、操作受付や受付後変化が実行されることなく、タイミングｔＢｇ４Ｂにおいて表示開始された「操作関連表示」が非表示の状態にされるタイミングが到来することとなる。なお、操作関連表示が表示されているなかで「オート連打機能（長押し機能）の有効化がなされない（複数回の操作受付がなされず、複数回の受付後変化も実行されない）場合」にかかる構成を実現する手法としては、「操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を発生させるものの、オート連打機能（長押し機能）を無効とする」ことによって実現するようにしてもよいし、「刀装飾体５００１に対する操作受付これ自体を許容しないようにする」ことによって実現するようにしてもよい。

【５５９２】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第６Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７４や図１７５などを参照）。この点、図１９１は、当該「第６Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作状態を、当該「第６Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５５９３】

すなわち、図１８８に示されるように、「第６Ｂ受付許容状態」は、操作関連表示（摸画像表示やメッセージ表示など）が表示されないものとなっており、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態が発生（タイミングｔＢｆ２）してから終了（タイミングｔＢｆ２－Ｃ２）されるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。

【５５９４】

この点、この例では、第６Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｆ２－Ｃ１から）から継続されている「第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）」の操作状態を、

遊技者が、当該第６Ｂ受付許容状態が終了した以降、第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が発生した時点においても（さらにはそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。

【５５９５】

そしてこの例では、こうして操作ボタン４１０の操作状態が継続されているなかで発生した「受付許容状態」として、上述の「第６Ｂ受付許容状態（図１７４や図１７５を参照）」が再び発生した場合を想定している。より具体的には、第６Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｆ２―Ｃ２以降の、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ４Ｂが到来したときに（タイミングｔＢｆ４Ｂで「条件６Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第６Ｂ受付後変化（第６Ｂ連打中表示ＨＢ６、第６Ｂ受付後出力音Ｓα６，Ｓβ６など）に関しての第６Ｂ操作部（操作ボタン４１０）に対する操作受付」が許容される上記第６Ｂ受付許容状態（有効期間）が再び発生した場合を想定したものとなっている（図１６５（ａ）に示される状況）。

【５５９６】

なお、タイミングｔＢｆ４Ｂにおいて発生する受付許容状態については、「第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態」であればよく、必ずしも第６Ｂ受付許容状態でなくてもよい。第６Ｂ受付許容状態と異なる種別の受付許容状態として発生する場合は、受付後変化として異なる変化が現れることとなるが、以下に説明する各構成については同様に適用可能である。

【５５９７】

上述の通り、第６Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１９１（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第６Ｂ受付許容状態が終了したタイミングｔＢｆ２－Ｃ２以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。

【５５９８】

このような第６Ｂ受付許容状態にかかる構成については、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第６Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。

【５５９９】

この点、図１９１に示される例では、タイミングｔＢｆ４Ｂにおいて「操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態（第６Ｂ受付許容状態）が再び発生するものの、当該状態では、タイミングｔＢｆ２－Ｃ２よりも前から維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがない（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行されることがない）ようになっている。すなわちこの場合、タイミングｔＢｆ２で発生した第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）しない限りは（より正確には、新たに発生した第６Ｂ受付許容状態（操作関連表示が表示されない許容状態）において非操作状態にある操作ボタン４１０を操作状態にしない限りは）、「操作ボタン４１０」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化されることがないから、「タイミングｔＢｆ２－Ｃ２以降、第６Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させる」といった遊技性を好適に維持することが期待されうる。

【５６００】

なおこの場合、タイミングｔＢｆ２で発生した第６Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「操作ボタン４１０」の操作状態を解除（終了）した場合には、その後、タイミングｔＢｆ４Ｂで再び発生した第６Ｂ受付許容状態において「操作ボタン４１０」を再び操作状態にすることで、該「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされ、ひいてはオート連打機能（長押し機能）が有効化されるようになることは言うまでもない。第６Ｂ受付許容状態において操作受付がなされた場合における各構成についても、図１７４及び図１７５を参照しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５６０１】

また、図１９１に示した例では、第６Ｂ受付許容状態が終了してから、「第６Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該操作ボタン４１０がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態」が再び発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５６０２】

また上述の通り、この実施形態にかかるパチンコ機１は、上記受付許容期間（操作許容状態）として「第７Ｂ受付許容状態」を発生可能である（図１７６～図１７８などを参照）。この点、図１９２は、当該「第７Ｂ受付許容状態」にあるときに開始された第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、当該「第７Ｂ受付許容状態」が終了した以降も継続させて、該操作状態が継続しているなかで「刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示」が表示されておらず、且つ「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象」とされる受付許容状態が発生した場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５６０３】

すなわち、図１９２に示されるように、「第７Ｂ受付許容状態」は、操作関連表示（摸画像表示やメッセージ表示など）が表示されないものとなっており、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生（タイミングｔＢｇ２）してから終了（タイミングｔＢｇ２－Ｃ２）されるまでの期間内における各構成や演出の詳細については、図１７６～図１７８を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。なおこの例では、説明の便宜上、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生しなかった場合を想定したものとなっている。ただし、タイミングｔＢｇ２―Ｃ２からタイミングｔＢｇ２－Ｃ４までの間に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態が再発生する上述した例（図１７６～図１７８を参照）の場合であっても、刀装飾体５００１に対する操作状態が維持されているなかで下記タイミングｔＢｇ４Ｃ以降の下記事象が生じたときには同様の構成が適用されうる。また、図１９２に示した例では、タイミングｔＢｇ２－Ａ１などにおいて操作受付に応じた「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されない場合（図１７８の場合に相当）を想定したものとなっているが、該第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が表示される場合（図１７６の場合に相当）もあることは上述した通りであり、この場合も、以下に説明する通りの構成が現れることとなる。ただしこの場合、タイミングｔＢｇ４Ｃよりも前に第７Ｂ受付後表示ＨＢ７が非表示の状態にされた場合を想定したものとする。

【５６０４】

この点、この例では、第７Ｂ受付許容状態にあるとき（ここでは、タイミングｔＢｇ２－Ｃ１から）から継続されている「第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）」の操作状態を、遊技者が、当該第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が再び発生した時点においても（さらに

はそれ以降も）継続している場合を想定したものとなっている。
【５６０５】
すなわちこの例では、こうして刀装飾体５００１の操作状態が継続されているなかで発生する「受付許容状態」として、上述の「第７Ｂ受付許容状態（図１７６～図１７８を参照）」が再び発生する場合を想定している。より具体的には、第７Ｂ受付許容状態が終了されたタイミングｔＢｇ２－Ｃ２以降の、図１９２に示されるタイミングｔＢｇ４Ｃが到来したときに（タイミングｔＢｇ４Ｃで「条件７Ｂ」が満たされたことに基づいて）、「第７Ｂ受付後変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）に関しての第７Ｂ操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付」が許容される上記第７Ｂ受付許容状態（有効期間）が発生した場合を想定したものとなっている（図１７７（ａ）に示される状況）。
【５６０６】
なお、タイミングｔＢｇ４Ｃにおいて発生する受付許容状態については、「第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態」であればよく、必ずしも第７Ｂ受付許容状態でなくてもよい。第７Ｂ受付許容状態と異なる種別の受付許容状態として発生する場合であっても、以下に説明する各構成については同様に適用可能である。
【５６０７】
上述の通り、第７Ｂ受付許容状態では、その発生に際して、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作関連表示が表示されない（図１９２（ｂ）～（ｄ）などを参照）。また、遊技者に対して操作を促す操作関連出力音の可聴出力も行われない。したがって、遊技者は、第７Ｂ受付許容状態が終了したタイミングｔＢｇ４Ｃ以降、第７Ｂ受付許容状態が発生したとしてもこれを認識することが困難とされるなかで遊技を進行させることとなる。
【５６０８】
このような第７Ｂ受付許容状態にかかる構成については、（図１７６～図１７８を参照）を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。第７Ｂ受付許容状態に対して適用可能な別例にかかる構成等についても同様である。
【５６０９】
この点、図１９２に示される例では、タイミングｔＢｇ４Ｃにおいて「刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される」状態（第７Ｂ受付許容状態）が再び発生することに加えて、当該状態では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２よりも前から維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）ようになっている。すなわち、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２で第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、該第７Ｂ受付許容状態と同じ操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作関連表示が表示されないなかで、該操作手段（刀装飾体５００１）がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態（第７Ｂ受付許容状態）が再び発生したときには、図１９１に示した例の場合とは異なり、該操作関連表示が表示されていないなかでタイミングｔＢｇ２－Ｃ２よりも前から維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を解除（終了）せずとも（より正確には、刀装飾体５００１を再操作せずとも）、「刀装飾体５００１」の操作状態の検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が再び有効化されうるから（タイミングｔＢｇ４Ｃにおいて操作受付がなされるから）、タイミングｔＢｇ２で発生した上記第７Ｂ受付許容状態にあるときから維持されている「刀装飾体５００１」の操作状態を継続させるだけで、遊技を適正に進行させることができるようになる。
【５６１０】
なお、第７Ｂ受付許容状態において「刀装飾体５００１」が操作状態に維持されたとき（オート連打機能が有効化されたとき）の各構成については、図１７６～図１７８を参照

しつつ上述したから、ここでは説明を割愛することとする。

【５６１１】

また、図１９２に示した例では、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２が到来した以降、第７Ｂ受付許容状態が再び発生するまでの間に、他の受付許容状態の発生や終了があってもよいし（なくてもよいし）、実行状態にあった装飾図柄ＳＺの変動演出が終了したり、次回の装飾図柄ＳＺの変動演出が開始したりすることがあってもよい。

【５６１２】

また、図１９２に示される例では、タイミングｔＢｇ４Ｃで刀装飾体５００１に対して１回目の操作受付がなされたとき、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されうるようになっているが、該「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、上記１回目の操作受付に基づいて表示される場合（図１７６（ｆ）を参照）と表示されない場合（図１７８（ｆ）を参照）との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【５６１３】

図１９３は、タイミングｔＢｇ４Ｃで刀装飾体５００１に対して１回目の操作受付がなされたとき、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されない場合について、その一例を示すタイムチャートである。

【５６１４】

図１９３に示されるように、この例では、タイミングｔＢｇ４Ｃで刀装飾体５００１に対して１回目の操作受付がなされたとき、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されない点で、図１９２に示した例の場合と異なるが、それ以外の構成は図１９２を参照しつつ上述した通りであるから、ここでは説明を割愛することとする。また、操作受付に応じた受付後変化の１つとして「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されるか否かにかかる構成についても上述した通りである。

【５６１５】

なお、図１９２や図１９３に示した例では、第７Ｂ受付許容状態が終了した以降、第７Ｂ受付許容状態と同じ操作対象である刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるよう操作を促す操作関連表示が表示されることなく、該刀装飾体５００１がオート連打機能（長押し機能）の有効化対象とされるかたちで操作受付が許容される状態が再び発生した場合を想定したものとなっているが、当該状態が再び発生するときまで、第７Ｂ受付許容状態にあるときから「刀装飾体５００１」の操作状態が維持されたときは、その検出に基づいてオート連打機能（長押し機能）が必ず有効化される（複数回の操作受付がなされて複数回の受付後変化が実行される）こととなる。

【５６１６】

なお、上述した各演出例にかかる構成については、以下のように変更するようにしてもよい。

【５６１７】

例えば、まず、第１Ｂ受付許容状態、第２Ｂ受付許容状態、及び第６Ｂ受付許容状態はいずれも、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態として発生し、終了するものであるが、それらの状態においては、刀装飾体５００１などの他の操作手段に対する操作受付も許容される場合があるようにしてもよい。また逆に、第３Ｂ受付許容状態、第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態は、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態として発生し、終了するものであるが、それらの状態においては、操作ボタン４１０などの他の操作手段に対する操作受付も許容される場合があるようにしてもよい。

【５６１８】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｂ」～「第７Ｂ」の名称が付されている各構成とは、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」にそれぞれ対応するものであることを意図するものであり、当該構成の種別の同異を特定するものではない。例えば、「第１Ｂ操作部」及び「第２Ｂ操作部」は、名称こそ異なるものの、それらの操作部とし

てはいずれも「操作ボタン４１０」が用いられており、操作部としての種別の同異を特定していないことは明らかである。さらに言えば、「第１Ｂ」～「第７Ｂ」の名称については、「受付許容状態」に関しても、それらの種別（受付後変化の態様）の同異を必ずしも特定するものでないようにしてもよい。例えば、「第１Ｂ受付許容状態」及び「第６Ｂ受付許容状態」は、発生時や終了時における演出環境が異なっているだけで、それらの発生条件や終了条件については同じ条件として設定されるものであってもよいし、操作受付に応じた受付後変化として同じ変化が現れるようにしてもよい。すなわちこの場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される時点や、終了条件が満たされるまでの間における演出環境（例えば、操作関連表示の態様や、操作促進発光の態様や有無、操作関連出力音の態様や有無など）が異なるだけであり、操作受付がなされたときに現れる受付後変化の態様は同じにされることとなる。この場合、「第１Ｂ受付許容状態」及び「第６Ｂ受付許容状態」については、それぞれ別個の受付許容状態というよりは、むしろ、「操作ボタン４１０に対して操作受付が許容される状態」として少なくとも２つの演出態様が用意されている、といった捉え方をすることも可能である。ただし、「操作ボタン４１０に対して操作受付が許容される状態」としてこれらの２つの演出態様の全てを必ずしも備えなくてもよいことは上述した通りである。また、第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態についても、それらの発生条件や終了条件は同じであってもよいし、操作受付に応じた受付後変化として同じ変化が現れるようにしてもよい。すなわちこの場合、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される時点や、終了条件が満たされるまでの間における演出環境（例えば、操作関連表示の態様や、操作促進発光の態様や有無、操作関連出力音の態様や有無など）が異なるだけであり、操作受付がなされたときに現れる受付後変化の態様は同じにされることとなる。この場合、第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態については、それぞれ別個の受付許容状態というよりは、むしろ、「刀装飾体５００１に対して操作受付が許容される状態」として少なくとも４つの演出態様が用意されている、といった捉え方をすることも可能である。ただし、「刀装飾体５００１に対して操作受付が許容される状態」としてこれらの４つの演出態様の全てを必ずしも備えなくてもよいことは上述した通りである。

【５６１９】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」については、いずれも同じ変動パターン内で発生可能とされるようにしてもよい。この場合、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」の全てが１つの変動パターン内で生じることとなる。若しくは、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」のうち、適宜のいくつかの受付許容状態が同じ変動パターン内で発生可能とされるようにしてもよい。

【５６２０】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」については、必ずしも、図柄変動の実行期間内で発生したり終了したりするものでなくてもよいし、複数の図柄変動に跨るかたちで発生するものであってもよい。

【５６２１】

また、上述した各演出例やそれらの変形例にかかる受付許容状態で操作受付がなされたことに応じた「受付後変化（受付後表示）」についても、必ずしも大当たりが得られる期待度を示唆するものでなくてもよい。例えば、大当り遊技の実行期間内で確率変動機能が有効化されるか否かについての受付許容状態として発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよいし、遊技に関する期待度示唆とは何ら関係のない単なるミニゲーム内の受付許容状態として発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよい。若しくは、各種のインターバル期間などにおいて予め定められた条件が成立したことに基づいて発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよい。したがって、上述した各演出例やそれらの変形例にかかる受付許容状態は、必ずしも図柄変動が実行されている期間内で発生するものでなくてもよい。また、このような期待度を示唆しない受付後変化として実行される場合であっても、該受付後変化が実行されるときの態様として複数を用

意し、それら複数の態様のいずれかで表示されるようにしてもよい。
【５６２２】
　また、上述した各演出例にあって、操作ボタン４１０に対して操作機会を付与するときには、表示によって操作を促す操作関連表示と、音によって操作を促す操作関連出力音と、光によって操作を促す操作促進発光とのいずれもが実行されないことがなく、それらの少なくとも１つは必ず実行されるようにしてもよい。これに対し、刀装飾体５００１に対して操作機会を付与するときには、表示によって操作を促す操作関連表示と、音によって操作を促す操作関連出力音と、光によって操作を促す操作促進発光とのいずれもが実行されない場合（第７Ｂ受付許容状態）があるようにしてもよい。
【５６２３】
　また、上述した各演出例にあって、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされうる状況（複数回の操作受付が許容される状況）」が現れるための「開始条件（例えば、タイミングｔＢｃ２－Ｃ３や、タイミングｔＢｄ２－Ｃ３、タイミングｔＢｅ２－Ｃ３、タイミングｔＢｇ２－Ｃ３、タイミングｔＢｅ５Ａ－１、タイミングｔＢｅ５Ａ－２、、タイミングｔＢｃ５Ｂ、タイミングｔＢｅ５Ｂ、タイミングｔＢｇ４Ａ、タイミングｔＢｇ４Ｂ、タイミングｔＢｇ４Ｃ、タイミングｔＢｇ４Ｄなど）」や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされうる状況（複数回の操作受付が許容される状況）」が終了されるための「終了条件（例えば、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、タイミングｔＢｄ２－Ｃ２、タイミングｔＢｅ２－Ｃ２、タイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）」については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、それらの条件については特に限られない。
【５６２４】
　また、パチンコ機１にあって、オート連打機能（長押し機能）が有効化される受付許容状態としては、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」のみが用意されるようにしてもよい。若しくは、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」のうちのいくつかのみが用意されるようにしてもよい。
【５６２５】
　また、上述した各演出例にあって、「第１Ｂ受付許容状態」及び「第２Ｂ受付許容状態」のいずれかは、操作ボタン４１０が操作状態に維持される期間だけ、受付後変化の１つとしての音出力を出力維持するものであってもよい。
【５６２６】
　また、上述した各演出例にあっては、操作対象を操作状態に維持したときにオート連打機能によって「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とされる場合があるが、当該構成については、操作対象が操作状態にされていることを契機として、新たな受付後変化が予め定められた時間間隔で生じるものであればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで、上述の「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」にかかる構成を実現するようにしてもよい。
【５６２７】
　また、上述した各演出例にあって、第７Ｂ受付許容状態で刀装飾体５００１に対する特定操作に基づく操作受付に応じた受付後変化のうち、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」については、互いに異なる操作検出に基づいて実行されるものとして実現するようにしてもよい。ただしこの場合、「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」が、刀装飾体５００１に対する「特定操作（例えば、押す操作

や、引く操作など）」の検出に基づいて実行されるものであるとしたとすると、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」については、刀装飾体５００１に対して特定操作を行う上で必須とされる操作（例えば、刀装飾体５００１に対する近接操作や、刀装飾体５００１に対するタッチ操作など）の検出に基づいて実行されるものとして実現されることとなる。このような構成であっても、刀装飾体５００１に対して特定操作に基づく操作受付がなされると、受付後変化として、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行されることとなる。

【５６２８】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｂ受付許容状態」～「第７Ｂ受付許容状態」の発生する「条件１Ｂ」～「条件７Ｂ」は、図柄変動が開始されてからの時間経過によって満たされるものでなくてもよい。予め定められている条件であればよい。

【５６２９】

また、上述した各演出例にかかる各構成は、特に断り書きがない限り、適正に遊技が行われているときの構成であり、すなわち不正行為に基づくエラー処理などが実行されていないときの構成に相当するものである。

【５６３０】

また、上述した演出例にかかる「第１Ｂ操作部」、「第２Ｂ操作部」、「第６Ｂ操作部」はいずれも「操作ボタン４１０」として実現することとしたが、それら操作部のなかの全部または一部を、「操作ボタン４１０」とは異なる操作部（刀装飾体５００１、または操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１のいずれとも異なる操作手段）として実現するようにしてもよい。またこれと同様、上述した演出例にかかる「第３Ｂ操作部」、「第４Ｂ操作部」、「第５Ｂ操作部」、「第７Ｂ操作部」はいずれも「刀装飾体５００１」として実現することとしたが、それら操作部のなかの全部または一部を、「刀装飾体５００１」とは異なる操作部（操作ボタン４１０、または操作ボタン４１０及び刀装飾体５００１のいずれとも異なる操作手段）として実現するようにしてもよい。

【５６３１】

また、「第１Ｂ受付許容状態」～「第５Ｂ受付許容状態」では、オート連打機能が有効化対象とされる操作部を摸した摸画像表示を表示することとしたが、操作関連表示が表示されるものであればよく、該摸画像表示については必ずしも表示されないようにしてもよい。また、「第１Ｂ受付許容状態」、「第２Ｂ受付許容状態」、及び「第６Ｂ受付許容状態」については、操作関連表示としての種別やその有無にかかる構成が異なるものであればよく、受付後変化として同じ態様が現れるものであってもよい。また、「第３Ｂ受付許容状態」～「第５Ｂ受付許容状態」、及び「第７Ｂ受付許容状態」については、操作関連表示としての種別やその有無にかかる構成が異なるものであればよく、受付後変化として同じ態様が現れるものであってもよい。

【５６３２】

また、摸画像表示の周期的変化が「所定時間よりも長い時間」単位で現れるように表示される場合と、摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示される場合とで、摸画像表示は、同じ形態（若しくは相似形）として表示可能とされている。ただし、摸画像表示の周期的変化が「所定時間よりも長い時間」単位で現れるように表示される場合、摸画像表示は、第１形態で表示される場合と、第２形態で表示される場合とが少なくともあるようにし、摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示される場合は、上記第２形態（若しくは相似形）で表示される場合がなく、上記第１形態（若しくは相似形）で表示される場合があるようにしてもよい。

【５６３３】

ちなみに、摸画像表示の周期的変化は、配色や、発光などとは異なり、時間の経過によって生じる現象であるから、その長短を見分けるためにはそもそも比較的長い時間を要するものであるし、さらに言えば、現在現れている摸画像表示の周期的変化が長短のいずれであるのかを確実に見分けることは難しいものであると言える（長サイクルと、短サイクルとの両方が表示されるわけではないため）。ただしその一方で、それらの見分けを行う

ことができれば、遊技者は、新たな情報源としての価値を享受することができるようになるから、こうした見分けの困難性と、情報源としての価値とを通じて、新たな演出性を提供することが可能とされることとなる。

【５６３４】

また、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態は、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として用意されるものである。ただし、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態では、例えば、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られていないときには、どれだけ操作受付がなされたとしても（最終の演出態様が現れず）当該受付許容状態が早期終了されないようにし、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られているときに限り、操作受付がなされたことを契機として当該受付許容状態が早期終了されるようにしてもよい。このような構成であっても、「操作受付がなされたことに基づいて（最終の演出態様が現れて）当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として実現されていると言える。ただし、第１Ｂ受付許容状態や、第２Ｂ受付許容状態についても、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されない種別の受付許容状態」として設けるようにしてもよい。

【５６３５】

また、第１Ｂ受付許容状態と第６Ｂ受付許容状態とでは、オート連打機能によって受付後変化が生じる間隔（操作状態を維持したときに受付後変化が新たに発生する間隔）が互いに同じである。この点、第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態も、オート連打機能によって受付後変化が生じる間隔（操作状態を維持したときに受付後変化が新たに発生する間隔）が互いに同じであるが、第１Ｂ受付許容状態や第６Ｂ受付許容状態の場合よりも、オート連打機能によって受付後変化が生じる間隔が短い時間とされるようにしてもよい。このような構成によれば、第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態では、オート連打機能が有効化されている状態にあることを相対的に認識し難くすることが可能とされるようになり、緊張感が好適に付与されるようになる。

【５６３６】

また、第１Ｂ受付許容状態と第６Ｂ受付許容状態とで、オート連打機能によって受付後変化が生じる間隔（操作状態を維持したときに受付後変化が新たに発生する間隔）は必ずしも同じでなくてもよい。第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態、及び第７Ｂ受付許容状態も、オート連打機能によって受付後変化が生じる間隔（操作状態を維持したときに受付後変化が新たに発生する間隔）は必ずしも同じでなくてもよい。

【５６３７】

また、第２Ｂ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第２Ｂ受付許容状態内で受付後変化を複数回発生させることのできる回数は、第１Ｂ受付許容状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第１Ｂ受付許容状態内で受付後変化を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにしてもよい。

【５６３８】

また、第３Ｂ受付許容状態や第４Ｂ受付許容状態で刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときに当該第３Ｂ受付許容状態や第４Ｂ受付許容状態で受付後変化を複数回発生させることのできる回数は、第５Ｂ受付許容状態で刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときに当該第５Ｂ受付許容状態で受付後変化を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにしてもよい。

【５６３９】

また、第２Ｂ受付許容状態では、操作ボタン４１０を操作状態に維持することによって受付後変化を複数回発生させることができる上限回数は、操作ボタン４１０を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって受付後変化を複数回発生させることができる上限回数よりも少なくなるように設定してもよい。

【５６４０】

また、第１Ｂ受付許容状態では、操作ボタン４１０を操作状態に維持することによって受付後変化を複数回発生させることができる上限回数は、操作ボタン４１０を操作状態に維持せず繰り返し操作することによって受付後変化を複数回発生させることができる上限回数と同じか、または該上限回数よりも多くなるように設定してもよい。

【５６４１】

また、上述の「特定時間以下の時間」には、特定時間も含まれており、「特定時間以下の時間」として特定時間のみが用意されるものであってもよい。また、上述の「特定時間よりも長い時間」として一の時間のみが用意されるものであってもよい。

【５６４２】

また、上述の「所定時間以下の時間」には、所定時間も含まれており、「所定時間以下の時間」として所定時間のみが用意されるものであってもよい。また、上述の「所定時間よりも長い時間」として一の時間のみが用意されるものであってもよい。

【５６４３】

また、第２Ｂ受付許容状態では、操作ボタン４１０が操作状態にされ、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、その不定性によって、特定時間（例えば１秒）以下の時間とされる場合と、特定時間よりも長い時間とされる場合との両方があるようにしてもよい。

【５６４４】

また、上述した「メッセージ表示ＭＢ１」及び「メッセージ表示ＭＢ２」については、いわゆるオート連打機能（長押し機能）の有効化対象にされるかたちで操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容される場合にしか表示されないもの、すなわち「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるが、いわゆるオート連打機能（長押し機能）の有効化対象にはされない」ときには表示されることがない種別（態様）として実現することが望ましい。また、上述した「メッセージ表示ＭＢ３」、「メッセージ表示ＭＢ４」、及び「メッセージ表示ＭＢ５」についても、いわゆるオート連打機能（長押し機能）の有効化対象にされるかたちで刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される場合にしか表示されないものである。ただし、刀装飾体５００１については、「操作受付が複数回許容されるが、いわゆるオート連打機能（長押し機能）の有効化対象にはされない」場合がないようにしてもよい。

【５６４５】

なお、特定時間は、所定時間よりも短い時間であり、「特定時間以下の時間」は、「所定時間以下の時間」よりも短い時間であることが望ましい。これに対し、「特定時間よりも長い時間」は、「所定時間よりも長い時間」よりも長い時間であるようにすることが望ましい。若しくは、「特定時間よりも長い時間」が不定の時間として設定される場合は、その不定性によって、「所定時間よりも長い時間」である場合と、「所定時間よりも長い時間」である場合との両方が生じうるようにしてもよい。

【５６４６】

また、図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングで第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了される条件が満たされたときは、操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３）についても、同条件が満たされたことに基づいて非表示の状態にされるようにしてもよい（メッセージ表示ＭＢ３など、操作関連表示の早期終了）。

【５６４７】

また、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした。この点、上述した演出例では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときに限り、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした。ただしこれに

代えて、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていないなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときにも、これに応じた非操作後表示が表示される場合があるようにしてもよい。

【５６４８】

また上述の通り、図１６６に示した第２Ｂ受付許容状態では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にすることがないものとなっている。この点、図１６６に示した第２Ｂ受付許容状態では、操作ボタン４１０が非操作状態から再操作される時点で第２Ｂ受付後出力音Ｓα２が可聴状態にある場合がないようにしたが、これに代えて、操作ボタン４１０が非操作状態から再操作される時点で該第２Ｂ受付後出力音Ｓα２が可聴状態にある場合があるようにし、この場合であっても、可聴状態にある第２Ｂ受付後出力音Ｓα２が、操作ボタン４１０に対する再操作を契機として非可聴の状態にされないようにしてもよい。

【５６４９】

なお、図１６６（ｈ）に示した演出例では、第２Ｂ受付後出力音が出力されている状態にあるなかで上記操作ボタン４１０が操作状態から操作されていない非操作状態になったことが検出されると、当該出力状態にある第２Ｂ受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα２ａ）を、該検出を契機として終了させるようにしたが、終了ではなく、異なる出力態様に変化（音量・音質の変化や、出力音の態様変化など）させるようにしてもよい。

【５６５０】

また、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた場合、当該状況は、当該状況にあるなかで刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったときか、若しくは刀装飾体５００１が操作状態に維持されているなかで所定の終了条件が満たされたときに終了され、操作ボタン４１０が操作状態に維持されて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた場合、当該状況は、当該状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときか、若しくは操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで特定の終了条件が満たされたときに終了されるようになっていればよい。

【５６５１】

また、上記演出例では、図１６８や、図１７０、図１７２、図１７６などに示されるように、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた場合、当該状況は、当該状況にあるなかで前記刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったときか、若しくは前記刀装飾体５００１が操作状態に維持されているなかで所定の終了条件が満たされたときに終了されるようになっているが、該所定の終了条件については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて予め満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、時間経過に基づいて満たされたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件内容については特に限られない。

【５６５２】

また、上記演出例では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、当該状況は、当該状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときか、若しくは操作ボタン４１０が操作状態に維持されているなかで特定の終了条件が満たされたときに、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされていないなかで終了されるようになっているが、この条件についても、例えば、大当り判定の結果などに基づいて予め満たされるも

のであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、時間経過に基づいて満たされたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件内容については特に限られない。

【５６５３】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１が操作状態（特定操作）に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該刀装飾体５００１を操作状態に維持している（特定操作し続けている）にもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていないなかで、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態（特定操作）の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がある（例えば、図１７８に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ３や、図１８６に示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ、図１８７に示されるタイミングｔＢｅ５Ｂ、図１９２に示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ、図１９３に示されるタイミングｔＢｇ４Ｄなど）。この点、上述した各演出例では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態（特定操作）の検出に基づいて、上記受付後変化として、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行されうるようにしたが、これに代えて、上記受付後変化として、「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」は実行されるものの、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されることはないようにしてもよい。すなわちこの場合、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていないなかで、刀装飾体５００１に対する特定操作が新たになされて非操作状態から操作状態にされたときには、これを契機とした受付後変化として「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行される場合（例えば、図１７６などを参照）と、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」は実行されず「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」が実行される場合（例えば、図１７８などを参照）との両方があるのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていないなかで、それまで維持し続けた操作状態（特定操作）の検出に基づいて上記受付後変化が実行される場合には、該受付後変化として「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行される場合がなく、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」が表示されることなく「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」が実行されることとなる。

【５６５４】

なおこの場合、刀装飾体５００１に対する特定操作に基づく操作受付に応じた受付後変化のうち、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とについては、互いに異なる操作検出に基づいて実行されるものとして実現するようにしてもよいことは上述した通りである。

【５６５５】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対して特定操作が行われた場合、これによって得られる検出情報に応じた受付後変化として、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行される場合があることとしたが、該受付後変化としては、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」及び「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」に限られず、それ以外の変化も生じる場合があるようにしてもよい。

【５６５６】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対して特定操作が行われた場合、こ

れによって得られる検出情報に応じた受付後変化として、「第７Ｂ受付後表示ＨＢ７」と「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」とがそれぞれ実行される場合があることとしたが、該受付後変化として、「第７Ｂ事象（第７Ｂ受付後出力音Ｓα７）」と併せて発生する可能性がある変化については必ずしも表示変化（第７Ｂ受付後表示ＨＢ７）でなくてもよく、例えば、発光変化や可動体動作変化などであってもよい。すなわちこの場合、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていないなかで、刀装飾体５００１に対して特定操作が行われたことに応じた受付後変化が実行される場合は、該受付後変化として「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」と「第２事象（例えば、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７であるが、他の変化であってもよい）」とがそれぞれ生じる場合と、「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」が生じず「第２事象（例えば、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７であるが、他の変化であってもよい）」が生じる場合との両方があることとなる。

【５６５７】

ただしこの場合であっても、「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」は、いわゆるオート連打機能の対象とはされないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」は、上記受付後変化の１つとして１回発生した以降は、少なくとも刀装飾体５００１が操作状態に維持されている限り、新たに発生することはない（例えば、図１７６（ｆ）などを参照）。これに対し、「第２事象（例えば、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７であるが、他の変化であってもよい）」は、いわゆるオート連打機能の対象とされるから、上記受付後変化の１つとしてとして１回発生した以降も、刀装飾体５００１が操作状態に維持されていることに基づいて複数回発生することが可能とされることとなる（例えば、図１７６（ｈ）などを参照）。

【５６５８】

また、上述した各演出例では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される受付許容状態（第３Ｂ受付許容状態や、第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態など）において、刀装飾体５００１に対して特定操作が行われた場合、それに応じた受付後変化として、「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」と「第２事象（例えば、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７であるが、他の変化であってもよい）」とがそれぞれ生じるようにした。ただしこれに代えて、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される受付許容状態（第３Ｂ受付許容状態や、第４Ｂ受付許容状態、第５Ｂ受付許容状態など）において、刀装飾体５００１に対して特定操作が行われた場合は、それに応じた受付後変化として、「第１事象（例えば、第７Ｂ受付後表示ＨＢ７であるが、他の変化であってもよい）」が生じる場合はなく、「第２事象（例えば、第７Ｂ受付後出力音Ｓα７であるが、他の変化であってもよい）」が発生可能とされるようにしてもよい。

【５６５９】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音として、操作関連出力音ＯＢ３と操作関連出力音ＯＢ４とを用意することとしたが、これらの出力音については互いに異なる態様（種別）の音として出力されるようにすることが望ましい。これに対し、操作ボタン４１０に対する操作を促す第２操作促進音として、操作関連出力音ＯＢ１と操作関連出力音ＯＢ２とを用意することとしたが、これらの出力音については互いに同じ態様（種別）の音として出力されるようにしてもよい。

【５６６０】

またこの場合、操作関連出力音ＯＢ３が出力された場合と操作関連出力音ＯＢ４が出力された場合とでは、出力音が異なるにもかかわらず刀装飾体５００１に対する操作に応じた受付後変化は同じ態様が現れるようにし、操作関連出力音ＯＢ１と操作関連出力音ＯＢ２とは同じ音として出力されるにもかかわらず操作ボタン４１０に対する操作に応じた受

付後変化は異なる態様が現れるようにしてもよい。

【５６６１】

また、上述した各演出例において、図１６４に示される第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１と、図１６６に示される第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２とは、同じ発光態様であってもよい。

【５６６２】

また、上述した各演出例において、第１Ｂ受付許容状態や第６Ｂ受付許容状態では、受付後変化の１つとしての受付後出力音が出力されているなかで操作ボタン４１０に対する再操作が行われた場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断される場合と、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断されない場合との両方があるようにしてもよい。例えば、第１Ｂ受付許容状態では、受付後変化の１つとして第１の受付後出力音Ｓα１が可聴状態にある場合は、操作ボタン４１０に対する再操作を契機として、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断されるが、受付後変化の１つとして第１の受付後出力音Ｓα１が可聴状態になく、第２の受付後出力音Ｓβ１が可聴状態にある場合は、操作ボタン４１０に対する再操作を契機として、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断されないようにしてもよい。また、第６Ｂ受付許容状態では、受付後変化の１つとして第１の受付後出力音Ｓα６が可聴状態にある場合は、操作ボタン４１０に対する再操作を契機として、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断されるが、受付後変化の１つとして第１の受付後出力音Ｓα６が可聴状態になく、第２の受付後出力音Ｓβ６が可聴状態にある場合は、操作ボタン４１０に対する再操作を契機として、その時点で可聴状態にある演出音の少なくとも１つが中断されないようにしてもよい。

【５６６３】

また、操作後出力音（受付後出力音）とは、期待度を示唆するものであってもよいし、期待度を示唆しないものであってもよい。

【５６６４】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。この点、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されたにもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が一度も許容されないままで、該「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされる場合（刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容される条件が満たされない場合）があるようにしてもよい。このような構成によれば、「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５６６５】

また、上述した各演出例では、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示される場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。この点、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されたにもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が一度も許容されないままで、該「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされる場合（操作ボタン４１０に関する操作関連表示が表示されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容される条件が満たされない場合）があるようにしてもよい。このような構成によれば、「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５６６６】

また、パチンコ機１は、上述した第１Ｂ受付許容状態～第７Ｂ受付許容状態とは異なる

受付許容状態をさらに備えるようにしてもよい。

【５６６７】

また、このパチンコ機１では、上述した第１Ｂ受付許容状態～第７Ｂ受付許容状態の全てを備えることとしたが、これら受付許容状態の全てを必ずしも備えなくてもよい。むしろ所望する作用効果との兼ね合いで、これら受付許容状態のうちいくつかの受付許容状態のみを適宜の組み合わせで備えるようにすることが望ましい。下記構成の別に記した「適宜の組み合わせ」で備えるようにすることで優れた作用効果がそれぞれ奏されるようになる。なお、下記各構成では、上述した演出例で示した構成のうち、作用効果が奏されるようにするために備えるべき受付許容状態についての組み合わせを例示しているが、その組み合わせについては例示したものだけに限られず、所望の作用効果が奏されるものであれば、例示していない組み合わせであってもよい。また、所望の作用効果が奏されることに悪影響を及ぼすものでなければ、該所望の作用効果とは関係のない、他の受付許容状態が採用する構成を適宜に備えるようにしてもよい。

【５６６８】

例えば、第１構成Ｂ１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１７９を参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間（例えば１秒）以下の時間とされうるようにした（図１６４や図１７９などを参照）。すなわちこ

の場合、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されている状況下においては、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して「オート連打機能」が有効化されたときに新たな受付後変化が現れるまでの間隔が比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【５６６９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）の場合は、オート連打可能な指示態様（第１操作関連表示の態様）が非表示にされたとしても、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第１操作関連表示の別態様）が現れる可能性があり遊技興趣が好適に維持されるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合は、オート連打可能な指示態様（第２操作関連表示の態様）が非表示にされたときに、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第２操作関連表示の別態様）が現れる可能性がないようにされることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５６７０】

またこの場合、第１操作関連表示が第１所定態様で表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、必ず特定時間（例えば１秒）以下の時間とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して「オート連打機能」が有効化されるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が必ず比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【５６７１】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されている状況下にある場合（図１６４及び図１６５を参照）と、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されている状況下にある場合（図１６６及び図１６７を参照）とでは、第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されている状況下にある場合（図１６４を参照）に限り、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔を、必ず特定時間以下の時間とするようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して「オート連打機能」が有効化される場合であっても、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されている状況下にあるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が必ず比較的短い間隔にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されている状況下にあるときには、第２操作手段（操作ボタン４１０）

に対して「オート連打機能」が有効化されるときの変化間隔が、特定時間よりも長い時間（比較的長い間隔）とされうるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５６７２】

なお、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されている状況下において第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行される場合（図１６６及び図１６７を参照）は、その間隔が上記特定時間以下の時間とされる場合がなく、必ず、特定時間よりも長い時間とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作関連表示が第２特定態様で表示されている状況下では、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かをより一層認識し難くして緊張感をより好適に維持することが期待されうる。

【５６７３】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されている状況下において第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔については、予め定められていない時間（不定の時間）として現れるようにしてもよい（図１６６及び図１６７を参照）。例えば、第２操作手段が操作状態に維持されているときに操作受付がなされる都度、受付後変化を生じさせるか否かについての演出判定を行い、この結果として特別の判定結果が得られたときに受付後変化を生じさせるようにする、といった手法などで実現することが可能である。ただし、当該構成を実現する手法としてはこれに限られない。

【５６７４】

そしてこの場合、「不定の時間」として採用されうる時間のうち最も短い時間（間隔）と比較した場合であっても、上記特定時間のほうが短い時間とされるようにすることが、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し難くする上でより望ましい（必須ではない）。

【５６７５】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態で維持されているときに該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものとし、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。また、操作ボタン４１０の操作関連表示が第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態で維持されているときに該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間よりも長い時間とされうるものとし、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されないもの（不定の時間）でなくてもよい。また、刀装飾体５００１の操作関連表示が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）または第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で表示されているなかで刀装飾体５００１が操作状態で維持されているときに該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものとし、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。

【５６７６】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）または第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で表示されているなかで刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、いずれも特定時間以下の時間とされるが、互いの時間（間隔）は、異なる時間（間隔）として設定されるようにしてもよい。

【５６７７】

例えば、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）または第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で表示されているなかで刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するようにすれば、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５６７８】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【５６７９】

また、上述した各演出例では、「刀装飾体５００１に対応する操作関連表示」が表示されている期間であっても、該刀装飾体５００１がオート連打可能な状態にある場合と、該刀装飾体５００１がオート連打可能でない状態にある場合との両方があるようになっている。例えば、刀装飾体５００１に対応する操作関連表示が表示されている期間のうち「刀装飾体５００１がオート連打可能でない状態にある場合」とは、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ１～ｔＢｃ２，タイミングｔＢｃ２－Ｃ２～ｔＢｃ２－Ｃ３，タイミングｔＢｃ２－Ｃ４～ｔＢｃ３の期間や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ１～ｔＢｄ２，タイミングｔＢｄ２－Ｃ２～ｔＢｄ２－Ｃ３，タイミングｔＢｄ２－Ｃ４～ｔＢｄ３の期間や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ１～ｔＢｅ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２～ｔＢｅ２－Ｃ３，タイミングｔＢｅ２－Ｃ４～ｔＢｅ３の期間などに相当する。

【５６８０】

また、上述した各演出例では、「操作ボタン４１０に対応する操作関連表示」が表示されている期間であっても、該操作ボタン４１０がオート連打可能な状態にある場合と、該操作ボタン４１０がオート連打可能でない状態にある場合との両方があるようになっている。例えば、操作ボタン４１０に対応する操作関連表示が表示されている期間のうち「操作ボタン４１０がオート連打可能でない状態にある場合」とは、図１６４に示されるタイ

ミングｔＢａ１～ｔＢａ２，タイミングｔＢａ２－Ｃ２～ｔＢａ３の期間や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ１～ｔＢｂ２，タイミングｔＢｂ２－Ｃ２～ｔＢｂ３の期間などに相当する。ただし、操作ボタン４１０に対応する操作関連表示が表示されている期間には、「刀装飾体５００１に対応する操作関連表示」が表示されている期間」の場合とは異なり、操作関連表示が表示されているなかでオート連打可能な状態ではなくなった後、オート連打可能な状態が再び現れること（図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ３や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ３など）がないようにしてもよい。

【５６８１】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化を実行する手段」や「操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化を実行する手段」にかかる構成を、１つの基板で実現するようにしてもよいし、複数の異なる基板で実現してもよい。例えば、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化には、主制御基板による処理を通じて出現される第１変化と、周辺制御基板による処理を通じて出現される第２変化とが含まれるようにしてもよい。当該構成については、「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化を実行する手段」に限られず、他の構成にかかる「手段」についても同様に適用可能である。

【５６８２】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）の「刀装飾体５００１の操作関連表示」が非表示にされた場合、該非表示にされてから所定時間（例えば１０秒）が経過するよりも前に「刀装飾体５００１の操作関連表示」が第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示されない場合もあるようにしてもよい。

【５６８３】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「メッセージ表示ＭＢ３」の「刀装飾体５００１の操作関連表示」が非表示にされてから、所定時間が経過するよりも前に、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ４」で新たに表示される場合、「メッセージ表示ＭＢ３」が非表示にされてから「メッセージ表示ＭＢ４」がで新たに表示されるまでの時間は常に一定であるようにすることが望ましい（図１８１に示される例）。

【５６８４】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が現れているなかでなされた「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化」と、第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が現れているなかでなされた「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化」とは同じ変化であってもいいし、異なる変化であってもよい。ただし、「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化」と「操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化」とについては、同じ変化でないようにすることが望ましい。

【５６８５】

また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化」や「操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化」は、受付後出力音を出力させるものであってもよいし、受付後出力音を出力させないものであってもよい。

【５６８６】
　また、上述した各演出例では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されておらず且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合がないようになっており、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されておらず且つ操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が必ず実行されるようになっている。ただしこれに代えて、いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されておらず且つ操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、該操作促進発光が実行されない場合との両方があるようにしてもよい。これにより、操作関連表示が表示されていない状態において、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせるにあたり、いずれの操作手段に対して操作機会が付与される場合であっても緊張感を好適に付与することができるようになる。
【５６８７】
　また、当該第１構成Ｂ１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、受付許容状態として、「操作ボタン４１０の操作関連表示が表示されており」且つ「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されており」且つ「操作ボタン４１０を操作状態にするだけでは該操作受付が複数回なされない」状態が発生する場合はあるが、「刀装飾体５００１の操作関連表示が表示されており」且つ「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されており」且つ「刀装飾体５００１を操作状態にするだけでは該操作受付が複数回なされない」状態が発生する場合はないようにしてもよい。
【５６８８】
　また、上述した各演出例では、操作ボタン４１０の操作関連表示としてメッセージ表示ＭＢ１が表示されており、且つ操作ボタン４１０が非操作状態にあり、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第１Ｂ受付後出力音Ｓα」が出力状態にある状況下にあるなかで（図１６４を参照）、操作ボタン４１０が非操作状態から操作状態になった場合は、「第１Ｂ受付後出力音」の出力状態はこれを契機として変化する場合（タイミングｔＢａ２－Ｃ１における第１Ｂ受付後出力音Ｓα１）と変化しない場合（タイミングｔＢａ２－Ｃ１における第１Ｂ受付後出力音Ｓβ１）とがあるが、操作ボタン４１０の操作関連表示としてメッセージ表示ＭＢ２が表示されており、且つ操作ボタン４１０が非操作状態にあり、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第２Ｂ受付後出力音」が出力状態にある状況下にあるなかで（図１６６を参照）、操作ボタン４１０が非操作状態から操作状態になった場合は、「第２Ｂ受付後出力音」の出力状態はこれを契機として変化する場合がなく、必ず変化しない（タイミングｔＢｂ２－Ｃ１における第２Ｂ受付後出力音Ｓβ２）ようにしている。
【５６８９】
　また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１の操作関連表示が表示されている期間内で刀装飾体５００１が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態にされたときにこれを契機として表示変化が現れることはないが（図１６８（ｆ）、図１７０（ｆ）、図１７２（ｆ）、図１７６（ｆ）を参照）、操作ボタン４１０の操作関連表示が表示されている期間内で操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態にされたときにはこれを契機として表示変化が現れる場合（図１６６（ｆ）を参照）と現れない場合（図１６４（ｆ）、図１７４（ｆ）を参照）との両方があるようにしている。
【５６９０】
　また、上述した各演出例にあって、操作ボタン４１０の操作関連表示が表示されている期間内で操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態にされたときにこれを契機として表示変化を生じさせる場合、それに伴って新たな音を出力

させることはないようにしている。
【５６９１】
　また、上述した各演出例にあって、操作関連表示については、操作手段（刀装飾体５００１、操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される受付許容状態の発生と必ずしも関連して表示されるものでなくてもよい。例えば、遊技の進行中、演出説明等として操作関連表示が表示されて、該操作関連表示が表示されている期間内で操作手段に対する操作受付が許容されなかったり、該操作関連表示が表示されている期間内で操作手段に対する操作受付が許容される場合と許容されない場合との両方があるようにしたりしてもよい。また、操作関連表示が表示されていないなかで操作手段に対する操作受付が許容される受付許容状態が発生するようにしてもよい。また、受付許容状態が継続しているにもかかわらずその状態途中で操作関連表示が非表示にされる場合があるようにしてもよいし、操作受付状態が終了した時点において操作関連表示の表示状態が継続される場合があるようにしてもよい。要は、操作関連表示が表示されているときに操作受付が許容される場合があるものであればよい。
【５６９２】
　また、上述した各演出例にあって、操作関連表示は、操作対象（操作手段）を摸した摸画像表示であってもよいし、操作対象への操作を促す文字情報（「押せ」など）であってもよい。操作を促すものであればよい。
【５６９３】
　また、例えば、第２構成Ｂ２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば

、図１７９を参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様で表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、一定の時間とされうるようにした（図１６４や図１７９などを参照）。すなわちこの場合、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されている状況下においては、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して「オート連打機能」が有効化されたときに新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定の時間にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【５６９４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）の場合は、オート連打可能な指示態様（第１操作関連表示の態様）が非表示にされたとしても、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第１操作関連表示の別態様）が現れる可能性があり遊技興趣が維持されるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合は、オート連打可能な指示態様（第２操作関連表示の態様）が非表示にされたときに、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第２操作関連表示の別態様）が現れる可能性がないようにされることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５６９５】

またこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様で表示されている状況下にある場合と、第１操作関連表示が第１特定態様で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、必ず、予め定められた時間（一定の時間）とされるようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して「オート連打機能」が有効化されるときには、新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定にされるから、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあるか否かを認識し易くして安心感を提供することが期待されうる。

【５６９６】

なお、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１が操作状態で維持されているときに該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされて該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、「刀装飾体５００１の操作関連表示」の種別やその有無にかかわらず、必ず、予め定められた時間（一定の時間）とされるようにしてもよい。

【５６９７】

また、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が、例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」で表示されているなかで操作ボタン４１０が操作されてその操作状態が維持された場合に該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が、例えば、「メッセージ表示ＭＢ３」または「メッセージ表示ＭＢ５」で表示されているなかで刀装飾体５００１が操作されてその操作状態が維持された場合に該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受

付後変化が複数回実行されるときの間隔よりも必ず短くなるようにしてもよい。

【５６９８】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示されている状況下において操作ボタン４１０を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔は一定であるが、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示されている状況下において操作ボタン４１０を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で操作受付がなされる間隔）は一定ではなく不定であるようにしてもよい。すなわちこの場合、「操作ボタン４１０の操作関連表示」は、その表示態様に応じて、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあることを認識し易くする場合と、「オート連打機能」が有効化されている状況下にあることを認識し難くする場合との両方があるようになるから、演出性の向上を通じて遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５６９９】

また、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示されている状況下において操作ボタン４１０を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、不定の時間であり、特定時間（例えば１秒）よりも長い間隔として現れる場合があるのに対し、刀装飾体５００１を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（一定の間隔）や、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示されている状況下において操作ボタン４１０を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔（一定の間隔）は、特定時間（例えば１秒）よりも長い間隔として現れる場合がないようにしてもよい。すなわちこの場合、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（メッセージ表示ＭＢ１の場合とメッセージ表示ＭＢ２の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７００】

なお、上述した各演出例にかかる構成を実現するにあたり、「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とは、予め定められた時間間隔で新たな受付後変化が生じるものであればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」を実現するようにしてもよい。

【５７０１】

また、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【５７０２】

また、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が表示されており、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されており、且つ操作ボタン４１０を操作状態にするだけでは該操作受付が複数回なされない状態は発生する場合があるが、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が表示されており、且つ刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されており、且つ刀装飾体５００１を操作状態にするだけでは該操作受付が複数回なされない状態」は発生しないようにしてもよい。

【５７０３】
　また、当該第２構成Ｂ２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１が操作状態にされた場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔については、一定であるが、操作ボタン４１０の操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔が一定であるときの時間よりも長い時間として設定するようにしてもよい。
【５７０４】
　また、例えば、第３構成Ｂ３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されて該操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始された以降もその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されて該操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始された以降もその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１７９を参照）、前記第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が前記第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び前記第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作された場合であっても、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があり、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に

相当）のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作された場合であっても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があるようにした。すなわちこの場合、第１操作関連表示や第２操作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されうるようにしつつも、緊張感を好適に維持することができるようになる。

【５７０５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）の場合は、オート連打可能な指示態様（第１操作関連表示の態様）が非表示にされたとしても、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第１操作関連表示の別態様）が現れる可能性があり遊技興趣が維持されるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合は、オート連打可能な指示態様（第２操作関連表示の態様）が非表示にされたときに、所定時間内に、オート連打可能な別の指示態様（第２操作関連表示の別態様）が現れる可能性がないようにされることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７０６】

また、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）のいずれかで表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作された場合であっても、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合があるようにしてもよい。例えば、刀装飾体５００１に対応する操作関連表示が表示されている期間のうち「刀装飾体５００１がオート連打可能でない状態にある場合」とは、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ１～ｔＢｃ２，タイミングｔＢｃ２－Ｃ２～ｔＢｃ２－Ｃ３，タイミングｔＢｃ２－Ｃ４～ｔＢｃ３の期間や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ１～ｔＢｄ２，タイミングｔＢｄ２－Ｃ２～ｔＢｄ２－Ｃ３，タイミングｔＢｄ２－Ｃ４～ｔＢｄ３の期間や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ１～ｔＢｅ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２～ｔＢｅ２－Ｃ３，タイミングｔＢｅ２－Ｃ４～ｔＢｅ３の期間などに相当する。すなわちこの場合、第１操作関連表示が表示されているときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【５７０７】

またこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８１などに示される第１例として「メッセージ表示ＭＢ４」に相当するか、若しくは図１８２などに示される第２例として「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）のいずれかで表示されているなかで第１操作手段を操作したにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにしてもよい。例えば、「・・・第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持すると（維

持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況」とは、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ３や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ３などに相当する。すなわちこの場合、第１操作手段については、第１操作関連表示が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７０８】

なおこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様及び第１特定態様のいずれかで表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じた以降、その操作状態を維持しているにもかかわらず、該第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が表示されているなかで新たな受付後変化が生じなくなる場合（いわゆるオート連打機能が無効化される場合）があるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ２や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ２などに相当）。ただし、この場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件が満たされると）、それまで維持された操作状態に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が再び実行されうるようにしてもよい（図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３や、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ３や、図１７２に示されるタイミングｔＢｅ２－Ｃ３などに相当）。

【５７０９】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）のいずれかで表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作したにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作した状態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れないようにしてもよい。すなわちこの場合、第２操作手段については、第２操作関連表示が第２所定態様及び第２特定態様のいずれかで表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７１０】

また上述したが、当該第３構成Ｂ３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「メッセージ表示ＭＢ３」については、その表示途中（予め定められた表示時間が経過するよりも前）で非表示の状態にされる場合があるようにしてもよい（メッセージ表示ＭＢ３など、操作関連表示の早期終了）。ただしこの場合、「メッセージ表示ＭＢ３」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「メッセージ表示ＭＢ４」が必ず表示されるようにすることが望ましい。また、「メッセージ表示ＭＢ３」が非表示にされてから「メッセージ表示ＭＢ４」が表示されるまでの時間も、予め定められた時間（一定の時間）として設定されるようにすることが望ましい。

【５７１１】

また、例えば、第４構成Ｂ４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特

典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１７９を参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されるとき、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（例えば、図１６６や図１７９に示される「操作関連出力音ＯＢ２」に相当）を出力可能であるようにした。

【５７１２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。またこの際、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（「操作関連出力音ＯＢ３」に相当）を出力可能としてもよい。このような構成によれば、第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【５７１３】

また、少なくとも第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（操作関連出力音ＯＢ３）を出力可能としてもよい。そして、該第１操作関連音については、特に、第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に出力された場合（所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場

合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって必ず維持されるのに対し（図１８２（ｇ）を参照）、第１所定態様（「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に出力された場合（所定時間が経過した以降に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい（図１８３（ｇ）を参照）。このような構成によれば、第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が非表示にされてからどれだけの時間が経過したときに第１操作関連音（例えば、図１６８に示される「操作関連出力音ＯＢ３」に相当）が出力されたかによって演出性が異なるようになり、緊張感を好適に提供することが期待されうる。特に、第１所定態様が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１操作関連音が出力された場合（所定時間が経過した以降に第１操作関連表示が第１特定態様で表示された場合）は、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるから、遊技興趣を維持しつつも緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【５７１４】

また、少なくとも第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（例えば、図１６６や図１７９に示される「操作関連出力音ＯＢ２」に相当）を出力可能としてもよい。そして、該第２操作関連音については、特に、その出力状態が第２時間（予め定められた出力時間）にわたって必ず維持されるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ１）で表示された以降、第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ２）が現れるまでには比較的長い時間を要するものの（図１７９を参照）、該第２特定態様が現れるときには、該第２特定態様が現れた状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。

【５７１５】

また、当該第４構成Ｂ４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、例えば、メッセージ表示ＭＢ５が非表示にされてから所定時間が経過した以降に操作関連出力音ＯＢ３が出力される場合は（図１８３を参照）、その出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合との両方があるが、いずれの場合であっても、当該操作関連出力音ＯＢ３としての態様（音の種別）は同じ（例えば、特別態様）であるようにすることが望ましい。

【５７１６】

また、当該第４構成Ｂ４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、メッセージ表示ＭＢ５が非表示にされてから所定時間が経過した以降、操作関連出力音ＯＢ３が出力されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、該操作受付に応じた受付後変化は、操作関連出力音ＯＢ３の出力状態が第１時間（予め定められた出力時間）にわたって維持される場合と、第１時間（予め定められた出力時間）が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合とで、同じ態様（同じ変化）で実行可能とされるようにすることが望ましい。

【５７１７】

また、当該第４構成Ｂ４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上で、操作関連出力音ＯＢ３（図１６８などを参照）については、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴（非出力）の状態にされる場合は、刀装飾体５００１に対する操作を契機として非可聴の状態にされるものであってもよいし、刀装飾体５００１に対する操作を契機とせずに（予め定められた非可聴条件が満たされたことに基づいて）非可聴の状態にされるものであってもよい。

【５７１８】
　また、当該第４構成Ｂ４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「刀装飾体５００１の操作関連表示」が、例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」で表示されるときは、刀装飾体５００１に対する操作に関連した操作関連音（受付許容音）が出力されないようにしてもよい（図１７２や図１８３などを参照）。
【５７１９】
　また、例えば、第５構成Ｂ５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１７９を参照）、前記第２所定態様が非表示にされてから前記所定時間が経過した以降に前記第２操作関連表示が前記第２特定態様で表示された場合、その表示状態は第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって維持されうるようにしたから、第２特定態様が現れている状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。
【５７２０】
　そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）で新たに表示される場合があるようにしてもよい。またこの際、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（「操作関連出力音ＯＢ３」に相当）を出力可能としてもよい。このような構成によれば、第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待さ

れうる。
【５７２１】
　またこの場合は、特に、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）が表示され、且つ該第１特定態様が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）は、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたってその表示状態が必ず継続されるが（図１８２を参照）、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）が表示され、且つ該第１特定態様が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、第１操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１の操作関連表示）は、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたってその表示状態が継続される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい（図１８３を参照）。すなわち、図１８３に示した例では、タイミングｔＢｅ４Ａ－２以降、第１操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１の操作関連表示）は、予め定められた表示時間にわたってその表示状態が継続されるようにしたが、これに代えて、第１操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１の操作関連表示）については、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたってその表示状態が継続される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。なお、このような「第１操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３など、刀装飾体５００１の操作関連表示）の早期終了」にかかる構成については、上述した「メッセージ表示ＭＢ３など、操作関連表示の早期終了」にかかる別例を適用した場合のことであり、すなわち図１６８（ｇ）に示される時間範囲ＴＢｃの区間内のいずれかのタイミングで第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３の可聴出力が早期終了される条件が満たされたときは、操作関連表示（摸画像表示ＭＧ－Ｂ３やメッセージ表示ＭＢ３）についても、同条件が満たされたことに基づいて非表示の状態にされることとなる。このような構成によれば、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてからどれだけの時間が経過したときに第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）が現れたかによって演出性が異なるようになり、緊張感を好適に提供することが期待されうる。特に、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３で表示された場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって維持される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるから、遊技興趣を維持しつつも緊張感を好適に提供することが期待されうる。
【５７２２】
　また、当該第５構成Ｂ５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ２」が表示され、且つ該「メッセージ表示ＭＢ２」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態に維持されて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合、「メッセージ表示ＭＢ２」は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって維持される場合と、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があるようにしてもよい。
【５７２３】
　この点、図１６６に示した第２Ｂ受付許容状態は、上述の通り、「操作ボタン４１０」に対する操作受付を契機として、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を（タイミングｔＢｂ２－Ｃ２よりも前に）早期終了させる場合と、操作ボタン４１０に対する操作受付が何回なされても「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を（タイミングｔＢｂ２－Ｃ２よりも前に）早期終了させない場合との両方があるも

のとなっている。すなわち、「メッセージ表示ＭＢ２」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態に維持されて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされている状況下において、「メッセージ表示ＭＢ２」が、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合とは、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２よりも前に早期終了させる場合に相当するものであり、この場合、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を早期終了させる条件が満たされたことに基づいて「メッセージ表示ＭＢ２」が非表示の状態にされることとなる。これに対し、「メッセージ表示ＭＢ２」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態に維持されて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされている状況下において、「メッセージ表示ＭＢ２」が、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされない場合とは、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を、タイミングｔＢｂ２－Ｃ２よりも前に早期終了させない場合に相当するものであり、この場合、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」を早期終了させる条件が満たされないから、「メッセージ表示ＭＢ２」は予め定められた表示時間だけ表示状態を維持することとなる。

【５７２４】

また、上述した各演出例にかかる構成にあっては、「メッセージ表示ＭＢ５」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ３」が表示された場合は、該「メッセージ表示ＭＢ３」が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）なされるか否かにかかわらず、「メッセージ表示ＭＢ３」が、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示される場合と、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合との両方があることも上述した通りである（図１８３を参照）。この点、「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ２」が表示され、且つ該「メッセージ表示ＭＢ２」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作状態に維持されて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされている状況下にある場合は、「メッセージ表示ＭＢ２」は、第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示される場合と、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合（早期終了される場合）との両方があるが、「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ２」が表示され、且つ該「メッセージ表示ＭＢ２」が表示されているなかで操作ボタン４１０が操作されず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされていない状況下にある場合は、「メッセージ表示ＭＢ２」は、第２表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされる場合がなく、第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって必ず表示されるようにしてもよい。このような構成によれば、「メッセージ表示ＭＢ５」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ３」が表示された場合における緊張感と、「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過した以降に「メッセージ表示ＭＢ２」が表示された場合における緊張感とを、互いに異なる演出性を通じて提供することができるようになり、遊技興趣を維持することが期待されうる。

【５７２５】

また、当該第５構成Ｂ５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「メッセージ表示ＭＢ５」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「メッセージ表示ＭＢ３」が表示された場合、該「メッセージ表示ＭＢ３」が表示されているなかで刀装飾体５００１が操作状態に維持されて操作受付が複数回なされるか否かにかかわらず、「メッセージ表示ＭＢ３」は、第１表示時間（予め定められた表示時間）が経過するよりも前に非表示の状態にされることがなく、第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって表示されるようにしてもよい（図１８２を参照）。

【５７２６】

なお、「刀装飾体５００１の操作関連表示」がメッセージ表示ＭＢ３で表示される場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合

と継続されない場合とで、メッセージ表示ＭＢ３としての態様は同じであることが望ましいし、「操作ボタン４１０の操作関連表示」がメッセージ表示ＭＢ２で表示される場合は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合と継続されない場合とで、「メッセージ表示ＭＢ２」としての態様は同じであることが望ましい。

【５７２７】

また、「刀装飾体５００１の操作関連表示」がメッセージ表示ＭＢ３で表示される場合は、その表示状態が第１表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続される場合と継続されない場合とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには受付後変化として同じ態様（同じ変化）が現れるようにすることが望ましい。また、「操作ボタン４１０の操作関連表示」がメッセージ表示ＭＢ２で表示される場合は、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続された場合（操作ボタン４１０に対する操作受付がなされなかった場合）であっても、その表示状態が第２表示時間（予め定められた表示時間）にわたって継続されない場合に現れる受付後変化と同じ態様（同じ変化）が実行されるようにすることが望ましい。

【５７２８】

また、例えば、第６構成Ｂ６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１７９を参照）、前記第２操作関連表示が表示されるときには、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音など）を出力可能であるようにしたから、第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ１）が非表示にされた以降、第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ２）が長い期間にわたって表示されないとしても、該第２特定

態様が現れるときには、該第２特定態様が現れる状況下にあることを好適に示唆することができるようになる。

【５７２９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で新たに表示される場合があるようにしてもよい（図１８２を参照）。またこの際、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が表示されるとき、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）を出力可能としてもよい（図１８２（ｇ）を参照）。このような構成によれば、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【５７３０】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が表示されるときには、第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ１）及び第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ２）のいずれで表示される場合であっても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音など）を、同じ音が複数回現れない単発音として出力可能であるようにしてもよい。これに対し、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）で表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音が出力されないが（図１７２（ｇ）や図１８２（ｇ）、図１８３（ｇ）などを参照）、第１操作関連表示が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で表示されるときは、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に当該第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）が表示されたか否かにかかわらず、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）を、同じ音が複数回現れる繰返音として出力可能であるようにしてもよい（図１６８（ｇ）や図１８２（ｇ）、図１８３（ｇ）などを参照）。このような構成によれば、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が表示されるときには、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作が、１回分の音出力を通じて促されるのに対し、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が表示されるときには、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作が音出力を通じて促されない場合があるから、操作忘れが生じることに対する緊張感を好適に付与することが期待されうる。ただしその代わり、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で表示される場合は、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作が、複数回の音出力を通じてより強く促されるようになっていることから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７３１】

またこの場合は、特に、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で表示された場合は、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）として、特定の音が必ず複数回現れるように出力されるが（図１８２（ｇ）を参照）、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされてから所定時間が経過した以降に第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で表示された場合は、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）として、特定の音が複数回現れるように出力される場合と、特定の音が１回しか現れないように出力される場合とが少なくともあるようにしてもよい（図１８３（ｇ）を参照）。このような構成によれば、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で表示され

る場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作が、複数回の音出力を通じてより強く促されるとは限らないようになるから、緊張感を好適に付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７３２】

なお、「特定の音が１回しか現れないように出力される」手法としては、そのような音データを予め用意しておき、この音データを再生することによって実現するようにしてもよいし、「特定の音が複数回現れるように出力される」手法のときに用いられる音データを途中で再生終了させることによって実現するようにしてもよいし、第１操作手段に対する操作を契機として途中で再生終了させることによって実現するようにしてもよいし、それ以外の手法によって実現してもよい。

【５７３３】

また、当該第６構成Ｂ６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音と、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音とは同じ音として出力されるものであってもよい

【５７３４】

また、当該第６構成Ｂ６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が表示されるときには、「メッセージ表示ＭＢ１」及び「メッセージ表示ＭＢ２」のいずれで表示される場合であっても、操作関連出力音（第１Ｂ操作関連出力音、第２Ｂ操作関連出力音）は、１回分だけ必ず可聴とされる（途中終了されない）ようにしてもよい。

【５７３５】

なお、上述した各演出例にあって、図１８２に示される状況下においては、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、「特定の音」を必ず複数回繰り返すかたちで出力されるようになっており、すなわち刀装飾体５００１に対する操作受付の有無にかかわらず、予め定められた回数分だけ繰り返し可聴とされることとなる。また、図１８３に示される状況下においても、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、「特定の音」を途中で再生終了させる場合があるものの、途中で再生終了させるか否かについては、刀装飾体５００１に対する操作受付とは関係ない条件に基づいて定められる構成として実現されている。

【５７３６】

また、当該第６構成Ｂ６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、メッセージ表示ＭＢ１が非表示にされてから所定時間が経過した以降に出力開始された第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が可聴状態にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、該操作受付に応じた受付後変化は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３としての「特定の音」が複数回にわたって可聴とされる場合と、１回分しか可聴とされない場合とで同じ変化として（態様で）実行されるようにすることが望ましい。

【５７３７】

なお、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３としての「特定の音」を複数回にわたって可聴とさせる手法としては、適宜に設定可能であり、例えば、１つのデータを繰り返し読み出すことにより実現するほか、１つのデータ内に複数回分の繰り返し音が記憶されるようにしておきそのデータを再生することによって繰り返し音を出力するようにしてもよい。ただしこの場合、データの再生を中断することにより１回分しか可聴とされないようにすることとなる。

【５７３８】

また、例えば、第７構成Ｂ７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対す

る操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１８０を参照）、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしたから（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態にされることを契機として、第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）が長い期間にわたって表示されないことを示唆することが期待されうる。

【５７３９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で表示されると、該第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で新たに表示される場合があるようにしてもよい（図１８２を参照）。このような構成によれば、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【５７４０】

またこの場合、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようになっており、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）及び第１特定態様（メッ

セージ表示ＭＢ３）のいずれで表示されている場合（若しくは、表示可能ないかなる態様で表示されている場合）であっても、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５７４１】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるが（図１６６（ｆ）を参照）、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい（図１７４（ｆ）を参照）。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が表示されていないなかでオート連打機能が有効化されていたときには非操作後表示が表示される場合がないから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【５７４２】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるが（図１６６（ｆ）を参照）、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）で表示されているなかでオート連打機能が有効化されていたときには非操作後表示が表示される場合がないから、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【５７４３】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機として非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示される場合、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい（図１６６を参照）。

【５７４４】

なお、上述した各演出例においては、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示されると、該「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で新たに表示される場合はないし（図１７９を参照）、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示されると、該「メッセージ表示ＭＢ２」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で新たに表示される場合もないようになっている（図１８０を参照）。

【５７４５】

また、例えば、第８構成Ｂ８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段とを備え、前記第１操作関連表示を表示するときの態様として第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）及び第１特定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ３」に相当）が少なくとも用意されており、前記第１操作関連表示が前記第１所定態様及び前記第１特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６８，図１７０，図１７２などを参照）、前記第２操作関連表示を表示するときの態様として第２所定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）及び第２特定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）が少なくとも用意されており、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様及び前記第２特定態様のいずれかで表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作されてその操作状態が維持された場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１６４，図１６６などを参照）、前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２所定態様（例えば、図１６６及び図１６７に示される「メッセージ表示ＭＢ２」に相当）で表示されると、該第２所定態様が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に前記第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が前記第２特定態様（例えば、図１６４及び図１６５に示される「メッセージ表示ＭＢ１」に相当）で新たに表示される場合はなく（例えば、図１８０を参照）、前記第２操作関連表示が前記第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態にされることを契機として、第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）が長い期間にわたって表示されないことを示唆することが期待されうる。

【５７４６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（例えば、図１８２及び図１８３などに示される「メッセージ表示ＭＢ５」に相当）で

表示されると、該第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたとしても該非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に第１操作関連表示が第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）で新たに表示される場合があるようにしてもよい（図１８２を参照）。このような構成によれば、第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）が非表示にされたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【５７４７】

またこの場合、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にするが、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、第１操作関連表示（刀装飾体５００１の操作関連表示）が第１所定態様（メッセージ表示ＭＢ５）及び第１特定態様（メッセージ表示ＭＢ３）のいずれで表示されている場合（若しくは、表示可能ないかなる態様で表示されている場合）であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５７４８】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にするが、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示が表示されていないなかでオート連打機能が有効化されていたときにはその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【５７４９】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）をを非可聴の状態にするが、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操

作関連表示）が第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい（図１６４を参照）。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段の操作状態が解除された場合であっても、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２特定態様（メッセージ表示ＭＢ１）で表示されているなかでオート連打機能が有効化されていたときにはその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないから、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対してオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【５７５０】

また、第２操作関連表示（操作ボタン４１０の操作関連表示）が第２所定態様（メッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったことを契機としてその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい（図１６６を参照）。

【５７５１】

なお、上述した各演出例においては、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示されると、該「メッセージ表示ＭＢ１」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で新たに表示される場合はないし（図１７９を参照）、「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示されると、該「メッセージ表示ＭＢ２」が非表示にされてから所定時間が経過するよりも前に「操作ボタン４１０の操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で新たに表示される場合もないようになっている（図１８０を参照）。

【５７５２】

また、例えば、第９構成Ｂ９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）

に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連音が可聴とされているときに前記第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１６４を参照）。すなわちこの場合、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことから、比較的短い間隔（特定時間以下の時間）で受付後変化が複数回生じている状況下にあることを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７５３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合があるようにし（図１６８（ｇ）を参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにし（図１６４（ｇ）や図１６６（ｇ）を参照）、第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が可聴とされているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされたか否かにかかわらず、必ず特定時間以下の時間とされるようにし、第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が可聴とされているときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（図１６４を参照）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（図１６６を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が出力されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされるか否かにかかわらず、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ず短時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作関連音が出力されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことに加えて、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ずしも短時間とされず、特定時間よりも長い時間とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されう

る。
【５７５４】
　また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８（ｇ）や、図１８３（ｇ）などを参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１８２（ｇ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。
【５７５５】
　なおこの場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、出力音（音の種別）は同じであるようにすることが望ましい。
【５７５６】
　また、メッセージ表示ＭＢ３は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、表示態様が同じであるようにすることが望ましい。
【５７５７】
　また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、メッセージ表示ＭＢ３（図１６８を参照）が表示されているなかで刀装飾体５００１が操作状態で維持されているときに該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる場合、該操作受付に応じた新たな受付後変化が現れるまでの間隔は、特定時間以下の時間とされうるものであればよく、必ずしも予め定められた時間（一定の時間）として設定されるものでなくてもよい。
【５７５８】
　また、メッセージ表示ＭＢ１（図１６４を参照）が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３，ＭＢ４，ＭＢ５）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）とは、いずれも特定時間以下の時間とされうるが、この場合であっても、互いの時間（間隔）は、異なる時間（間隔）として設定されるようにしてもよい。
【５７５９】
　例えば、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３，ＭＢ４，ＭＢ５）」が表示されているなかで刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」としてメッセージ表示ＭＢ１（図１６４を参照）が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するとともに、且つ「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」としてメッセージ表示ＭＢ２（図１６６を参照）が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも短い時間として設定するようにすれば、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されているなかで操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔とし

てのギャップを大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７６０】

また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【５７６１】

また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ３，ＭＢ４，ＭＢ５）」や、それに対応する操作関連音が実行されているときに刀装飾体５００１が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、不定の時間とされる場合がなく、一定の時間とされるようにしてもよい。

【５７６２】

また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ１、メッセージ表示ＭＢ２）」や、それに対応する操作関連音が実行されているときに操作ボタン４１０が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされる場合（図１６４を参照）と、不定の時間とされる場合（図１６６を参照）との両方があるようにしてもよい。

【５７６３】

また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示（メッセージ表示ＭＢ１、メッセージ表示ＭＢ２）」や、それに対応する操作関連音が実行されているときに操作ボタン４１０が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、不定の時間とされる場合（図１６６を参照）があるが、該不定の時間として採用されうる時間のうち最も短い時間でも上記特定時間より長いようにしてもよい。

【５７６４】

また、当該第９構成Ｂ９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連音」が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときの受付後変化は同じ変化であるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連音」が予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合、操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときの受付後変化は、特定変化として実行される場合と、特定変化とは異なる変化として実行される場合との両方があるようにしてもよい。

【５７６５】

また、例えば、第１０構成Ｂ１０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可

能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連音が可聴とされているときに前記第２操作手段が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした（図１６４を参照）。すなわちこの場合、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことから、一定の時間で複数回の操作受付がなされている状況下にあることを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７６６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合があるようにし（図１６８（ｇ）を参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにし（図１６４（ｇ）や図１６６（ｇ）を参照）、第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が可聴とされているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされたか否かにかかわらず、一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）であり、第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が可聴とされているときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）である場合（図１６

４を参照）と、一定の時間ではなく不定の時間である場合（図１６６を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連音が出力されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第１操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされるか否かにかかわらず、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が、必ず、不定の時間でなく予め定められた時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作関連音が出力されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にしてこれを維持するようにした場合は、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされることがないことに加えて、いわゆるオート連打機能で受付後変化が生じる間隔が必ずしも一定の時間（予め定められた時間であり、不定の時間でなければよい）とされず、不定の時間とされる場合があるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【５７６７】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８（ｇ）や、図１８３（ｇ）などを参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１８２（ｇ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【５７６８】

なおこの場合、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、出力音（音の種別）は同じであるようにすることが望ましい。

【５７６９】

また、メッセージ表示ＭＢ３は、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３が予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合とで、表示態様が同じであるようにすることが望ましい。

【５７７０】

また、当該第１０構成Ｂ１０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「不定の時間」とは、予め定められていない時間のことであり、例えば、操作ボタン４１０が操作状態に維持されているときに操作受付がなされる都度、受付後変化を生じさせるか否かについての演出判定を行い、この結果として特別の判定結果が得られたときに受付後変化を生じさせるようにする、といった手法などで実現することが可能である。ただし、当該構成を実現する手法としてはこれに限られない。

【５７７１】

また、当該第１０構成Ｂ１０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【５７７２】

また、当該第１０構成Ｂ１０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０に対する操作に関連した操作関連音」が可聴とされているときに操作ボタン４１０が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回

実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付がなされる間隔）が不定の時間とされる場合（図１６６を参照）、該不定の時間として採用されうる時間のうち最も短い時間でも、該操作ボタン４１０の操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔が一定であるときの時間（図１６４を参照）よりも長いようにしてもよい。

【５７７３】

また、当該第１０構成Ｂ１０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０に対する操作に関連した操作関連音」が可聴とされているときに操作ボタン４１０が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付がなされる間隔）が不定の時間とされる場合、該不定の時間として採用されうる時間のうち最も短い時間でも、刀装飾体５００１の操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるとき（図１６８や、図１７０、図１７２などを参照）の間隔（一定の間隔）よりも長いようにしてもよい。

【５７７４】

また、当該第１０構成Ｂ１０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「刀装飾体５００１に対する操作に関連した操作関連音」が可聴とされているときに刀装飾体５００１が操作状態にされ、その後、該操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付がなされる間隔）は一定であるが、操作ボタン４１０の操作状態が維持された場合に受付後変化が複数回実行されるときの間隔が一定であるとき（図１６４を参照）の時間よりも長い時間として設定するようにしてもよい。

【５７７５】

また、例えば、第１１構成Ｂ１１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作された場合であっても、該第１操作手段に対する操作受付に応じた前記受付

後変化が実行開始されない場合があり（図１６８や、図１８２、図１８３などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作された場合であっても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた前記受付後変化が実行開始されない場合があるようにしたから（図１６４や、図１６６、図１７９、図１８０などを参照）、第２操作関連表示が表示されているときにオート連打機能が有効化されうるようにしつつも、緊張感についてはこれを好適に維持することができるようになる。また、第１操作関連表示が表示されているときの緊張感についてもこれを維持することが期待されうる。

【５７７６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作したにもかかわらず該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れることがないようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７７７】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１７０や図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が可聴とされており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定

められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６を参照）。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになり、このような状況下で操作状態を維持すべきかについての緊張感を付与することができるようになる。これに対し、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してはオート連打機能が有効化されているかを認識し易くする場合と、認識し難くする場合との両方があるが、いずれにせよ、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、緊張感を付与しつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７７８】

ただし、予め定められた出力時間が経過するよりも前に第１操作関連音を非可聴の状態にする処理は、必ずしも第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付を契機として行われるものでなくてもよい（第１操作手段に対する操作受付を契機として行われるものであってもよい）。すなわちこの場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付の有無にかかわらず、予め定められた出力時間が経過するよりも前に第１操作関連音が非可聴の状態にされる場合と、第１操作関連音が非可聴にされず予め定められた出力時間だけ出力される場合との両方があることとなる。

【５７７９】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回生じた以降、その操作状態を維持しているにもかかわらず、該第１操作関連表示が表示されているなかで新たな受付後変化が生じなくなる場合（いわゆるオート連打機能が無効化される場合）があるようにしてもよい（図１６８や図１７０を参照）。ただし、この場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件が満たされると）、それまで維持された操作状態に基づいて第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が再び実行されうるようにしてもよい（図１６８や図１７０を参照）。

【５７８０】

なお、「それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況」については、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで現れうるようにしてもよい（図１６８を参照）。若しくは、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた後、該第１操作関連表示が非表示にされているなかで現れうるようにしてもよい（図１８６を参照）。若しくは、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた後、該第１操作関連表示が非表示にされているなかで現れうるようにしてもよい（図１８１を参照）。いずれの場合であっても、「それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況」で現れる受付後変化については、（新たな受付後変化が生じなくなるよりも前の）最初に現れていたときの態様と同じとされるようにすることが望ましい。

【５７８１】

また、例えば、第１２構成Ｂ１２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可

能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしたから（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【５７８２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにし（図１６４や図１６６などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（図１６６（ｆ）などを参照）。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５７８３】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１７０や図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が可聴とされ

ており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６を参照）。この点、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作状態が解除されたときに非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されるようにすれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されていたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を解除したとしても非操作後表示が表示されないようにすれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７８４】

なお、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったときには、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」がいずれの態様で表示されている場合であっても、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【５７８５】

また、刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【５７８６】

また、当該第１２構成Ｂ１２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が必ずしも表示されないこととなるから、操作ボタン４１０を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５７８７】

また、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として非操作後表示が表示されない場合はもとより、非操作後表示が表示される場合であっても、該非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにしてもよい。

【５７８８】

また、例えば、第１３構成Ｂ１３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態

にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されている状況下にあるときに前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【５７８９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第１操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し易くされうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはそれが認識し難くされるから、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を利用するときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５７９０】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１７０や図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が可聴とされ

ており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６を参照）。この点、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作状態が解除されたときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにすれば、第２操作手段に対してオート連打機能が有効化されていたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を解除したとしてもその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にすることがないようにすれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７９１】

なお、当該第１３構成Ｂ１３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるときに刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったときには、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」がいずれの態様で表示されている場合であっても、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にすることがないようにしてもよい。

【５７９２】

また、刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったことを契機として新たな音が出力されることはないようにすることが望ましい。

【５７９３】

また、当該第１３構成Ｂ１３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを必ずしも非可聴の状態にしないこととなるから、操作ボタン４１０を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる

【５７９４】

また、当該第１３構成Ｂ１３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【５７９５】

また、例えば、第１４構成Ｂ１４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（

刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１など）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようになっており、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間内において、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合（図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１）、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされたことを契機として、第２操作関連音（図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１など）が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないことを示唆することができるようになる。

【５７９６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に応じた受付後変化が生じているなかで該第１操作手段を非操作状態にした後、該第１操作手段を前記非操作状態から再び前記操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合がないようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を前記非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を中断してから第２操作手段（操作ボタン４１０）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し易くされうるが、いわゆるオート連打機能（長押し機能）を中断してから第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、オート連打機能（長押し機能）を中断したり再操作したりするときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５７９７】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に

対する操作に関連した第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１７０や図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音（第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が可聴とされており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６を参照）。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているかを認識し難くすることができるようになる。この点、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作状態を解除してから該第２操作手段を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにすれば、第２操作手段に対する操作受付が適正になされてオート連打機能が有効化されたことを確認することができるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を解除してから該第１操作手段を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音が非可聴の状態にされることがないようにすれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の場合とは異なる演出性を提供して緊張感や遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５７９８】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されており且つ刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで刀装飾体５００１を非操作状態にした後、該刀装飾体５００１を該非操作状態から再び前記操作状態にしたときには、、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」がいずれの態様で表示されている場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【５７９９】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、該操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα１）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα１）ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【５８００】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている

なかで該操作ボタン４１０を非操作状態にした後、該操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６４を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作ボタン４１０に対する操作状態を解除してから該操作ボタン４１０を再操作したときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つが必ずしも非可聴の状態にされないこととなるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８０１】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６（ｈ）を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況下にある場合であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときにその時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを必ずしも非可聴の状態にしないこととなるから、操作ボタン４１０を操作状態で維持しているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８０２】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該操作ボタン４１０を非操作状態にした後、該操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合は、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるが（図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１）、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合も、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるようにしてもよい（図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｂ１）。

【５８０３】

また、当該第１４構成Ｂ１４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、上記操作ボタン４１０を非操作状態から再び操作状態にしたとき、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合、その非可聴の状態にされる演出音は、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、第２操作関連音とは異なる音であれば、いずれの種別の音であってもよい。例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている複数の演出音が対象であってもよい。

【５８０４】

また、例えば、第１５構成Ｂ１５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆる

オート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３など）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされうるようにした（図１６８（ｇ）を参照）。この点、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示であり、例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）については、１つの（同じ）図柄変動の実行期間内で、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示であり、例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１）が表示されるタイミングよりも前に表示される場合（タイミングよりも前に表示されて非表示にされる場合）と、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示であり、例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１）が表示されたタイミングよりも後（非表示にされた後）に表示される場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示であり、例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示されるタイミングや、第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３など）が非可聴にされるタイミングなどを認識し難くして緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８０５】

そしてこの場合、図柄の変動パターンとして用意されている複数の変動パターンの１つとして、特別の変動パターンを用意することとし、該特別の変動パターンで図柄変動が実行されている期間内では、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）は、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に表示される場合と、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示された後に表示される場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示済みの状況になっているか否かにかかわらず第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示されることを期待可能であることに加えて、第１操作関連表示が表示済みの状況になっているか否かにかかわらず第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されることを期待可能であるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８０６】

なおこの場合、特別の変動パターンで図柄変動が実行されている期間内において、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合と、第２操作関連表示（例えば

、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示された後に第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合とで、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作受付がなされたときの受付後変化は同じ態様（変化）であるようにすることが望ましい。

【５８０７】

また、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や、図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（例えば、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音（例えば、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６などを参照）。そしてこの上で、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内では、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）は、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に表示される場合と、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示された後に表示される場合との両方があり、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。このような構成によれば、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる可能性を示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８０８】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内において、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合は、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示されないようにしてもよいし、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示される場合は、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示されないようにしてもよい。

【５８０９】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内では、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）は必ず表示されるが、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）については必ずしも表示されない（表示される場合と、表示されない場合との両方がある）ようにしてもよい。

【５８１０】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内では、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）については、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に表示された場合であっても、第２操作関連表示が表示された後に再び表示される場合があるようにしてもよい。

【５８１１】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内では、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が非表示にされた後に再び表示される場合も、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が再び出力可能とされ、該第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合は、第２操作関連表示が表示される前のときよりも高いようにしてもよい。

【５８１２】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内では、第１操作関連表示として、図１６８及び図１６９に示される態様（メッセージ表示ＭＢ３）が表示される場合はあるが、その他の態様（図１７０及び図１７１に示される態様（メッセージ表示ＭＢ４）や、図１７２及び図１７３に示される態様（メッセージ表示ＭＢ５）など）が表示される場合はないようにしてもよい。

【５８１３】

また、特別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内において、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に表示された場合、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がないようにしてもよい。そして、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示された後に表示された場合、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合と、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされない場合との両方があるようにしてもよい。

【５８１４】

また、特別の変動パターンに限らず、図柄変動が実行される期間内において第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされた場合は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされない場合よりも、大当りの得られている割合（期待度）が高いようにしてもよい。

【５８１５】

また、例えば、第１６構成Ｂ１６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記判定手段による判定の結果に基づいて複数の変動パターンのいずれかで図柄変動を実行可能な図柄変動手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後

変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３など）が出力可能とされ、該第１操作関連音（第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が可聴とされており且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、前記第１操作関連音は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされうるようにした（図１６８（ｇ）を参照）。この点、前記複数の変動パターンには、「前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」と、「前記第２操作関連表示が表示されず且つ前記第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターン」とが含まれるが、それら種別のいずれで前記図柄変動が行われる場合であっても、当該図柄変動が実行されている期間では、前記第１操作関連表示（図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３など）が表示される場合があるようにしたから、図柄変動が実行されている期間内においては第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期待感を好適に維持することが期待されうる。

【５８１６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示されるときは、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が出力可能とされ、該第１操作関連音が可聴とされており且つ第１操作手段が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合（図１６８や、図１８３を参照）と、予め定められた出力時間にわたって可聴にされる場合（図１８２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるときは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した第２操作関連音（例えば、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）が出力可能とされ、該第２操作関連音が可聴とされており且つ第２操作手段が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が生じている状況下にあるとき、第２操作関連音（例えば、第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる場合がなく、予め定められた出力時間にわたって可聴にされるようにしてもよい（図１６４や図１６６などを参照）。そしてこの上で、複数の変動パターンには、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」と、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されず且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与されない種別の変動パターン」とが含まれるが、それら種別のいずれで図柄変動が行われる場合であっても、当該図柄変動が実行されている期間では、第１操作関連表示が表示される場合（第１操作関連表示の表示条件が満たされる場合）があるようにする。そして、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」で図

柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合は、「第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターン」で図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合よりも、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。このような構成によれば、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる可能性を示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８１７】

また、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」で図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合であっても、第２操作関連表示（例えば、図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１、または図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）が表示されるよりも前に第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合は、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合はもとより、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターンで図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示が表示された場合よりも、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）は、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が低いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。

【５８１８】

また、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」で図柄変動が実行される期間内で第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合は、「第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して操作機会が付与されない種別の変動パターン」で図柄変動が実行される期間内で第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示された場合よりも、第１操作関連音（例えば、第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３）が、予め定められた出力時間が経過するよりも前に非可聴の状態にされる割合が高いようにしてもよい。該割合は、１００％や０％を含むものであってもよい。

【５８１９】

また、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」では、第１操作関連表示（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）については、第２操作関連表示が表示されるよりも前に表示された場合であっても、第２操作関連表示が表示された後に再び表示される場合があるようにしてもよい。なおこの場合、第２操作関連表示が表示されるよりも前に第１操作関連表示が表示された場合と、第２操作関連表示が表示された後に第１操作関連表示が表示された場合とで、該第１操作関連表示が表示されているなかで第１操作手段に対して操作受付がなされたときの受付後変化は同じ態様（変化）であるようにすることが望ましい（必須ではない）。

【５８２０】

なお、「第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される種別の変動パターン」には、上述の第１５構成Ｂ１５にかかる「

特別の変動パターン」が含まれるようにしてもよい。

【５８２１】

また、例えば、第１７構成Ｂ１７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり（図１７４や図１７５を参照）、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（第６Ｂ受付許容状態）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においてオート連打機能が秘かに有効化されている状況下にあることを遊技者側が気付き易くして遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８２２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７７を参照）。

【５８２３】

この点、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示であり、例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３や、図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４や、図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５など）が表示されている状況下にある場合（図１６８や、図１７０、図１７２などを参照）と、第１操作関連表示が表示されていない状況下にある場合（図１７６を参照）とのいずれの場合であっても、特定時間よりも長い時間にされることがなく、必ず、特定時間以下の時間とされるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第２操作関連表示が表示されていない状況下（図１７４などを参照）

においては、必ず、特定時間以下の時間とされるが、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている状況下（例えば、図１６６を参照）においては特定時間よりも長い時間にされうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状況下にあるかにかかわらず、必ず短時間とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには、必ず短時間とされるものの、第２操作関連表示が表示されているときには特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、第２Ｂ受付許容状態）があるから、オート連打機能（長押し機能）が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【５８２４】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くしうるものの、認識し易くする場合もあるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８２５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）を、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が第２所定態様（図１６４に示されるメッセージ表示ＭＢ１）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも長い時間として設定するとともに、且つ第２操作関連表示が第２特定態様（図１６６に示されるメッセージ表示ＭＢ２）で表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔（新たな受付後変化が現れるまでの間隔）よりも短い時間として設定するようにすれば、第２操作関連表示が表示されているなかで第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されるときの間隔としてのギャップ（第２所定態様の場合と第２特定態様の場合との間のギャップ）を大きく見せることができるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８２６】

また、当該第１７構成Ｂ１７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０については、操作受付が許容されている状態にあることが表示画像によって示唆されない（操作関連表示が表示されていない）なかで操作受付がなされることがあるようにし、この際、いわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化される場合と、有効化されない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、刀装飾体５００１については、操作受付が許容されている状態にあることが表示画像によって示唆されない（操作関連表示が表示されていない）なかで操作受付がなされることがあるようにし、この際、いわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されない場合がなく、必ず有効化されるようにしてもよい。このような構成によれば、表示秘匿にされているなかで刀装飾体５０

０１に対する操作受付がなされたときには安心感のあるなかで受付後変化を楽しむことが可能であるが、表示秘匿にされているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【５８２７】

また、例えば、第１８構成Ｂ１８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり（図１７４や図１７５を参照）、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした（第６Ｂ受付許容状態）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においてオート連打機能が秘かに有効化されている状況下にあることを遊技者側が気付き易くして遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８２８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７７を参照）。

【５８２９】

この点、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示であり、例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３や、図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４や、図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５など）が表示されている状況下にある場合（図１６８や、図１７０、図１７２などを参照）と、第１操作関連表示が表示されていない状況下にある場合（図１７６を参照）とのいずれの場合であっても、予め定められた時間ではない不定の時間にされることがなく、必ず、予め定められた時間である一定の時間とされるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４

１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状況下（図１７４などを参照）においては、必ず、予め定められた時間である一定の時間とされるが、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている状況下（例えば、図１６６を参照）においては予め定められた時間ではない不定の時間にされうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状況下にあるかにかかわらず、必ず一定の時間（予め定められた時間）とされるから、オート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し易くして遊技興趣を維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されたときに受付後変化が生じる間隔は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには、必ず一定の時間とされるものの、第２操作関連表示が表示されているときには不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、第２Ｂ受付許容状態）があるから、オート連打機能（長押し機能）が有効化されている状況下にあることを認識し難くして遊技興趣を維持することが期待されうる。

【５８３０】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作関連表示が表示されているときにはオート連打機能が有効化されている状況下にあることを認識し難くしうるものの、認識し易くする場合もあるから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８３１】

また、例えば、第１９構成Ｂ１９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていないときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、該第１操作

手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合（例えば、図１７６に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ１～ｔＢｇ２－Ｃ２の期間など）と、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合（図１７６に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２～ｔＢｇ２－Ｃ３の期間など）との両方があり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）をが表示されていないときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持すると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１～ｔＢａ２－Ｃ２の期間など）と、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２～ｔＢａ３の期間など）との両方があるようにしたから、第１操作関連表示や第２操作関連表示が表示されていないときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８３２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていないなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作したにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持すると（維持しているなかで、第１操作手段に対する操作受付が許容される条件（許容状態の発生条件）が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにする（例えば、図１７６のタイミングｔＢｇ２－Ｃ３や、図１８９のタイミングｔＢｇ４Ａや、図１９２のタイミングｔＢｇ４Ｃなどを参照）。これに対し、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態に維持し続けたとしても、その後、該操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れることがないようにしてもよい（例えば、図１７４や、図１８８、図１９１のタイミングｔＢｆ２－Ｃ２以降などを参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、第１操作関連表示が表示されていないなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったとしても、その操作状態を継続しておけばオート連打機能が有効化されうるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるのに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示が表示されていないなかでいわゆるオート連打機能が有効化されなかったときには、その操作状態を継続したとしても該操作状態の検出に基づいて操作受付がなされる可能性がないから、オート連打機能の演出性を実現するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８３３】

なお、上記維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで現れうるようにしてもよい（図１８９や図１９０などを参照）。また、上記維持していた操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていないなか（操作状態を維持してから第１操作関連表示が一度も表示されていないなか）で現れうるようにしてもよい（図１９２などを参照）。

【５８３４】

また、上述した各演出例にかかる構成のうち、図１７６や図１７８などに示した例では、タイミングｔＢＧ２－Ｃ２～ｔＢＧ２－Ｃ３の期間内で刀装飾体５００１を非操作状態

から操作状態にし、その操作状態を、タイミングｔＢｇ－Ｃ３以降も継続させるようにした場合であっても、上述した場合と同じ構成が現れるようにしてもよい。これと同様、図１７４や図１８８や図１９１のタイミングｔＢｆ２－Ｃ２以降の期間内で操作ボタン４１０を非操作状態から操作状態にし、その操作状態を、タイミングｔＢｆ４Ａやタイミングｔ Ｂｆ４Ｂ以降も継続させるようにした場合であっても、上述した場合と同じ構成が現れるようにしてもよい。

【５８３５】

また、例えば、第２０構成Ｂ２０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり（図１７４や図１７５を参照）、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下において前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしたから（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態にされることを契機として、オート連打機能が有効化されている状態にあったことを示唆することができるようになる。

【５８３６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７７を参照）。

【５８３７】

この点、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないが、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機とした非操作後表示（非操作後表

示ＨＢ２）が表示されうるようにしたから（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）が表示されうるようにしてもよい。

【５８３８】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているか否かにかかわらず、非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がなく、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるが（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい（図１７４などを参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第１操作手段の操作状態が解除されたときは、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状態にあるか否かにかかわらず、該第１操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くするから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第２操作手段の操作状態が解除されたときは、該第２操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くする場合と認識し易くする場合との両方があるから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８３９】

また、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示される場合（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）と該非操作後表示が表示されない場合（図１６４（ｆ），図１７９（ｆ）などを参照）との両方があるが、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい（図１７４などを参照）。このような構成によれば、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くするのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くする場合と認識し易くする場合とがあるから、第２操作関連表示が表示されており且つオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第２操作関連表示が表示されておらず

且つオート連打機能が有効化されているときには、そもそも緊張感があると考えられるから、適度な緊張感が提供されているなかで遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８４０】

なお、当該第２０構成Ｂ２０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が実行開始されない場合、該第２操作手段に対する操作状態を、「第２操作手段に対する操作受付が許容される状態」が発生するときまで維持させ、その発生した状態において解除した（例えば、図１７９に示される第２Ｂ受付許容状態において、それよりも以前から操作状態にある第２操作手段を非操作状態にした）としても、非操作状態になったことを契機とした非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【５８４１】

また、例えば、第２１構成Ｂ２１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり（図１７４や図１７５を参照）、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が複数回実行されている状況下において前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段が操作状態から非操作状態にされたことを契機として、オート連打機能が有効化されている状態にあったことを示唆することができるようになる。

【５８４２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７７を参照）。

【５８４３】

この点、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第１操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているか否かにかかわらず、該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにし（図１６８～図１７３や、図１７６～図１７８などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるが、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい（図１７４などを参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第１操作手段の操作状態が解除されたときは、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状態にあるか否かにかかわらず、該第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くするから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能が有効化されているなかで該第２操作手段の操作状態が解除されたときは、該第２操作手段が非操作状態になったこと（オート連打機能が有効化されていない状態になったこと）を認識し難くする場合と認識し易くする場合との両方があるから、オート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８４４】

また、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況下において第２操作手段が操作状態から非操作状態になった場合は、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６４（ｈ）や図１７９（ｈ）などを参照）との両方があるが、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときには該非操作状態になったことを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい（図１７４などを参照）。このような構成によれば、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くするのに対し、第２操作関連表示が表示されており且つ第２操作手段に対するオート連打機能が有効化されているなかで、該第２操作手段が非操作状態になったとき（オート連打機能が有効化されていない状態になったとき）にはこれを認識し難くする場合と認識し易くする場合とがあるから、第２操作関連表示が表示されており且つオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に付与しつつも、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。また、第２操作関連表示が表示されておらず且つ

オート連打機能が有効化されているときには、そもそも緊張感があると考えられるから、適度な緊張感が提供されているなかで遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５８４５】

また、当該第２１構成Ｂ２１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【５８４６】

また、例えば、第２２構成Ｂ２２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり（図１７４や図１７５を参照）、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を再び操作状態にしたときには、これによってオート連打機能が再び有効化されたことを示唆することができるようになる。

【５８４７】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７７を参照）。

【５８４８】

この点、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていないときに第１操作手段（刀装飾体５００

１）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態にした後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにし（図１７６～図１７８などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。このような構成によれば、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し易くされうるが、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていないときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、オート連打機能（長押し機能）を中断したり再操作したりするときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【５８４９】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【５８５０】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、該第２操作手段を非操作状態から再び操作状態にしたときは、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にする場合（図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようになっており、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたときは（操作受付がなされたときは）、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にするようにしてもよい（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態）。

【５８５１】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態にした後、該第１操作手段

（刀装飾体５００１）を該非操作状態から再び前記操作状態にしたときには（操作受付がなされたときは）、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状況下にあるか否かにかかわらず、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【５８５２】

また、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、該第２操作手段を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合は、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるが、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合も、該操作状態にされたことを契機として新たな音を出力させるようにしてもよい。

【５８５３】

また、当該第２２構成Ｂ２２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【５８５４】

また、例えば、第２３構成Ｂ２３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われる演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われると、これを契機とした前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われると、これを契機とした前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じうるようにしたから（図１７４を参照）、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段及び第２操作手段のいずれに対する操作が行われた場合であっても、該操作が適正に受付けされたことを好適に示唆することができるようになる。

【５８５５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようにし（図１７６を参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付が複数回なされうるようにしてもよい（図１７４を参照）。

【５８５６】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われると（非操作状態から操作状態にされると）、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化として、演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合（図１７６を参照）と、演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化が生じず該表示変化とは異なる変化のみが生じる場合（図１７８を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作関連表示が表示されていない状態にあるときに第１操作手段に対する操作受付がなされたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８５７】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化として、演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合（図１７６を参照）があるが、この際、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての上記「表示変化とは異なる変化」は複数回実行されうるのに対し、上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化」は複数回実行される場合がないようにし（図１７６を参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされた場合は、受付後変化として、演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化と、該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合（図１７４を参照）があるが、この際、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」と該「表示変化とは異なる変化」との両方が複数回実行されうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段と第２操作手段とでオート連打機能を有効化させるときの演出性が異なるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうるし、第１操作手段に対してオート連打機能を有効化させるときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８５８】

なお、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」が複数回実行されない場合であっても、「表示変化とは異なる変化（例えば、第１の受付後出力音Ｓα７）」は、第１操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化」が生じるときに現れる態様と同じ態様で複数回実行されうるようにす

ることが望ましい（図１７６（ｈ）を参照）。
【５８５９】
　また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されたときは、該第２操作手段に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示手段における表示変化（受付後表示ＨＢ６）」と「表示変化とは異なる変化（例えば、第１の受付後出力音Ｓα６）」とのうち一方のみが複数回実行される場合はないようにすることが望ましい（図１７４（ｆ），（ｈ）を参照）。
【５８６０】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態にあるときに刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持すると（維持しているなかで特定の条件が満たされると）、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作（特定操作）の検出（受付け）に基づいて受付後変化が複数回実行される状況が現れうるようにしてもよい。
【５８６１】
　ただしこの場合、それまで維持していた操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときは、該受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。
【５８６２】
　また、例えば、第２４構成Ｂ２４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、図１７０に示される第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操

作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段と、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されず且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段に対する操作を促す前記操作促進発光が実行されないようにしたから（図１７６（ｊ）を参照）、第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態にあるときの、操作許容に関する秘匿性を好適に維持することが期待されうる。

【５８６３】

そしてこの場合、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合（例えば、図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態など）があり、この場合、第２操作手段が操作状態に維持されると該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようにし、第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６）が実行されうるようにしてもよい（図１７４（ｊ）を参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して秘かに複数回の操作機会を付与するときには、第１操作関連表示についてはこれを表示せず且つ第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光についてもこれを実行しないのに対し、第２操作手段に対して秘かに複数回の操作機会を付与するときには、第２操作関連表示についてはこれを表示しないものの、第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光についてはこれを実行しうるようにしているから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【５８６４】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能とされる場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能とされない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態や、図１７２に示される第５Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにし、第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの間に）第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が必ず実行可能とされるようにしてもよい（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態や、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これに

よって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【５８６５】

また、当該第２４構成Ｂ２４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様（メッセージ表示ＭＢ３や、メッセージ表示ＭＢ４など）が異なるようにしてもよい。

【５８６６】

ただし、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様（メッセージ表示ＭＢ３や、メッセージ表示ＭＢ４など）や、操作促進発光の実行にかかる有無が異なっているとしても、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【５８６７】

また、当該第２４構成Ｂ２４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されず且つ操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行されることがないようにしてもよいし、若しくは操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合と該操作促進発光が実行されない場合との両方があるようにしてもよい。

【５８６８】

また、例えば、第２５構成Ｂ２５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）をを出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００

１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されない状態から、前記第１操作関連表示が表示されないままで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、前記第１操作促進音は出力されないようにし（図１７６（ｇ）を参照）、さらに、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されない状態から、前記第２操作関連表示が表示されないままで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、前記第２操作促進音は出力されないようにしたから（図１７４（ｇ）を参照）、「第１操作関連表示が表示されず且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態）」や、「第２操作関連表示が表示されず且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態）」にあるときの、操作許容に関する秘匿性を好適に維持することが期待されうる。

【５８６９】

そしてこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が必ず出力されるが、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）を参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、第１操作促進音が出力される場合と操作促進発光が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【５８７０】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）を参照）と第１操作促進音が出力されない場合（図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該第１操作関連表示としての態様（メッセージ表示ＭＢ３，メッセージ表示ＭＢ４，メッセージ表示ＭＢ５など）が異なるようにすることが望ましい。

【５８７１】

ただし、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様（メッセージ表示ＭＢ３や、メッセージ表示ＭＢ４、メッセージ表示ＭＢ５など）や、操作関連出力音の実行にかかる有無が異なっているとしても、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【５８７２】

また、例えば、第２６構成Ｂ２６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われる演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われると、これを契機とした受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、受付後表示ＨＢ７）と該表示変化とは異なる変化（第１の受付後出力音Ｓα７など）との両方が生じうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われると、これを契機とした受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、受付後表示ＨＢ１，ＨＢ２，ＨＢ６など）と該表示変化とは異なる変化（第１の受付後出力音Ｓα１，Ｓα２，Ｓα６など）との両方が生じうるようになっており（図１６４や、図１６６、図１７４などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作（所定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態（所定操作し続けた状態）に維持したとしても、該維持している操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがないようにしたから、第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が現れないときには、操作状態を維持せず、再操作を促すことが期待されうる。

【５８７３】

そしてこの場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態において第１操作手段を操作状態にした場合）であっても、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持しているなかで所定の受付許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。

【５８７４】
なお、当該第２６構成Ｂ２６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態において刀装飾体５００１を操作状態にした場合）であっても、該刀装飾体５００１を操作した状態に維持しているなかで所定の受付許容条件が満たされると（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合（図１９２を参照）と、演出表示装置１６００における表示変化は生じず、該表示変化とは異なる変化のみが生じる場合（図１９３を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態にあるときから維持している「刀装飾体５００１の操作状態」に基づいて、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたことを認識し易い場合と認識し難い場合との両方があるから、緊張感を好適に維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【５８７５】
また、当該第２６構成Ｂ２６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作（特定操作）を行った結果として、演出表示装置１６００における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が上記受付後変化として生じた以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持すると、該刀装飾体５００１に対する操作（特定操作）が複数回検出されてその受付けが複数回なされうるが、この際、該受付けに応じた受付後変化としては、演出表示装置１６００における表示変化が複数回生じることはなく、該表示変化とは異なる変化のみが複数回生じるようにしてもよい（例えば、図１７６（ｆ），（ｈ）を参照）。このような構成によれば、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたことを当初は認識し易いものの、それ以降のオート連打機能が有効化される状況下では、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされていることを認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８７６】
ただし、操作ボタン４１０に対する操作（所定操作）が行われると、これに応じた受付後変化として演出表示装置１６００における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合があるが（例えば、図１６４や、図１６６、図１７４などを参照）、この際、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときには、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示手段における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が必ず複数回生じるようにすることが望ましい。

【５８７７】
また、例えば、第２７構成Ｂ２７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われる演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前

記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われると、これを契機とした受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、受付後表示ＨＢ７）と該表示変化とは異なる変化（第１の受付後出力音Ｓα７など）との両方が生じうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われると、これを契機とした受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、受付後表示ＨＢ１，ＨＢ２，ＨＢ６など）と該表示変化とは異なる変化（第１の受付後出力音Ｓα１，Ｓα２，Ｓα６など）との両方が生じうるようになっており（図１６４や、図１６６、図１７４などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作（所定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合は、該第２操作手段を操作した状態（所定操作し続けた状態）に維持したとしても、該維持している操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがないようにしたから、第２操作手段を操作したにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が現れないときには、操作状態を維持せず、再操作を促すことが期待されうる。前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）及び前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）がいずれも表示されていない状態においても前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われるとその検出情報に基づいて操作受付がなされる場合があり（図１７６～図１７８などを参照）、この場合、前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（受付後表示ＨＢ７）と、該表示変化とは異なる変化（第１の受付後出力音Ｓα７）との両方が生じうるが、該受付後変化が生じた時点において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を開始してその操作状態を維持したとしても、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されること（いわゆるオート連打機能が有効化されること）はないようにしてもよい。すなわちこの場合、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化への集中を促すことが期待されうる。

【５８７８】

また、当該第２７構成Ｂ２７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」及び「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」がいずれも表示されていない状態にあるときに刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態）、受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化（受付後表示ＨＢ７）及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）の両方が生じる場合（図１７６を参照）と、演出表示装置１６００における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化であり、例えば、第１の受付後出力音Ｓα７）のうち「表示変化とは異なる変化（特定変化）」のみが生じる場合（図１７８を参照）とがあるが、いずれの場合であっても、この際、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、演出表示装置１６００における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）のうち「表示変化とは異なる変化（特定変化）」のみが受付後変化として複数回実行されうるようにしてもよい（図１７６及び図１７８を参照）。

【５８７９】

また、当該第２７構成Ｂ２７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）の両方が生じたときは、その時点において操作ボタン４１０に対する操作を開始してその操作状態を維持したとしても、該

操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合がないが、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）のうち特定変化のみが生じたときは、その時点において操作ボタン４１０に対する操作を開始してその操作状態を維持すると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合と、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化としての態様（演出表示装置１６００における表示変化及び該表示変化とは異なる変化（特定変化）の両方が生じるか否か）によって、操作ボタン４１０に対してオート連打機能が有効化されうる状況下にあるか否かが示唆されうるが、刀装飾体５００１に対してオート連打機能が有効化されると「演出表示装置１６００における表示変化」が新たに発生することがなくなり、その見分けがし難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８８０】

また、当該第２７構成Ｂ２７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、該刀装飾体５００１を操作した状態に維持しているなかで所定の受付許容条件が満たされると（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。

【５８８１】

また、当該第２７構成Ｂ２７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０を操作状態に維持するとこれに応じた受付後変化が複数回実行される状況下にあるときは、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態にあるときと、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態にないときとの両方があるようにしてもよい。

【５８８２】

また、例えば、第２８構成Ｂ２８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態

にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【５８８３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３）。

【５８８４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし（例えば、図１６８～図１７３などに示される第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容

状態）との両方があるようにしてもよい。
【５８８５】
　このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しておくだけで、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０））に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【５８８６】
　なお、当該第２８構成Ｂ２８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２）操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【５８８７】
　また、当該第２８構成Ｂ２８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。
【５８８８】
　また、当該第２８構成Ｂ２８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【５８８９】
　また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作

関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。

【５８９０】

また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０がに対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、上述した不定性によって、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい。

【５８９１】

また、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示（例えば、メッセージ表示ＭＢ３など）」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に所定条件が満たされない場合とは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示にされた後に、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が終了されることを意味する。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）。

【５８９２】

また、例えば、第２９構成Ｂ２９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわ

らず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされうるようにした（図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態）。すなわちこの場合、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的一定の間隔（予め定められた時間）にされうるから、第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【５８９３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３）。

【５８９４】

またこの場合は、特に、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の

時間（予め定められた時間）とされるようにし（例えば、図１６８～図１７３などに示される第３Ｂ受付許容状態～第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。

【５８９５】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しておくだけで、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０））に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５８９６】

なお、当該第２９構成Ｂ２９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２）操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【５８９７】

また、当該第２９構成Ｂ２９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効

化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５８９８】

また、当該第２９構成Ｂ２９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５８９９】

また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ１」で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい。

【５９００】

また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が「メッセージ表示ＭＢ２」で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０がに対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、必ず、不定の時間（予め定められていない時間）とされるようにしてもよい。

【５９０１】

また、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示（例えば、メッセージ表示ＭＢ３など）」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２）と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。すなわち、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に所定条件が満たされない場合とは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示にされた後に、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が終了されることを意味する。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）。

【５９０２】

また、例えば、第３０構成Ｂ３０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付

がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしたから（図１６６（ｆ），図１６７，図１８０（ｆ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５９０３】

なお、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間では、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、当該状況は、当該状況にあるなかで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときか、若しくは前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されているなかで所定の終了条件が満たされたときに、前記第１操作関連表示が非表示の状態にされていないなかで終了されるようにしてもよい。

【５９０４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２など）であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３など）。

【５９０５】

またこの場合は、特に、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し（図

１６８～図１７３や、図１７６～図１７８などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（図１６６や図１６７などを参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【５９０６】

また、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（例えば、図１６６を参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（例えば、図１６４を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを必ずしも認識し易くするとは限らないようにされるから、緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【５９０７】

なお、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状態においては、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４などを参照）。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【５９０８】

また、当該第３０構成Ｂ３０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９０９】

また、当該第３０構成Ｂ３０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了

された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【５９１０】
　また、当該第３０構成Ｂ３０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４などを参照）と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。なおこの場合、例えば、図１６８に示される例において、上記「所定条件が満たされない場合」を適用したとすると、同図中、第３Ｂ受付許容状態は、タイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４などにおいても、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を継続させる場合があることとなり、すなわちメッセージ表示ＭＢ３などの「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示にされるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２が到来した後に、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態を終了させる場合があることとなる。
【５９１１】
　また、当該第３０構成Ｂ３０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。
【５９１２】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。
【５９１３】
　また、例えば、第３１構成Ｂ３１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわ

らず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにした。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５９１４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２など）であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ３など）。

【５９１５】

またこの場合は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（図１６６や図１６７などを参照）。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができ

るから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【５９１６】
　また、第２操作手段が操作状態に維持されており且つ第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（例えば、図１６６を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（例えば、図１６４を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを必ずしも認識し易くするとは限らないようにされるから、緊張感を好適に提供することが期待されうる。
【５９１７】
　なお、当該第３１構成Ｂ３１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状態においては、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２や、タイミングｔＢｃ２－Ｃ４などを参照）。また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている状態においては、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２などを参照）。
【５９１８】
　また、当該第３１構成Ｂ３１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。
【５９１９】
　また、当該第３１構成Ｂ３１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。
【５９２０】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。
【５９２１】
　また、当該第３１構成Ｂ３１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が

表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【５９２２】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。

【５９２３】

また、例えば、第３２構成Ｂ３２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２―Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間内において、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１を参照）。

【５９２４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操

作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい（図１６８に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ３などを参照）。

【５９２５】

またこの場合は、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持するだけで、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態に維持するだけでは、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間が終了するよりも前に第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【５９２６】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている期間のうち、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα１）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα１）ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【５９２７】

なお、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されている状態においては、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい（例えば、図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２などを参照）。

【５９２８】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されている状態においては、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２などを参照）。

【５９２９】

また、当該第３２構成Ｂ３２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９３０】

また、当該第３２構成Ｂ３２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９３１】

また、当該第３２構成Ｂ３２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（例えば、図１６６を参照）との両方があるようにしてもよい。

【５９３２】

また、当該第３２構成Ｂ３２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【５９３３】

また、例えば、第３３構成Ｂ３３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態に

あるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や、第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２、第６Ｂ操作促進発光ＬＢ６など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１６４に示されるタイミングｔＢａ２―Ｃ２や、図１６６に示されるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２など）は、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっており（例えば、図１６４や図１６６を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態や、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）では、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２）が実行可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【５９３４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（例えば、第４Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ４）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ２を参照）、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示（例えば、第４Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ４）が表示されている期間が終了する

よりも前に再び現れうるようにしてもよい（図１７０を参照）。
【５９３５】
　また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０を参照）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８や図１７２を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい（例えば、図１６４や図１６６などを参照）。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。
【５９３６】
　また、このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされないようになったとしても第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされないようになると、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。
【５９３７】
　また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【５９３８】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９３９】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９４０】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されるようにすることが望ましい。

【５９４１】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了されるよりも前に再び現れうるようにすることが望ましい（図１６８や図１７０などを参照）

【５９４２】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上で、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況」が再び現れるための「所定の開始条件」については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【５９４３】

また、当該第３３構成Ｂ３３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上で、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１６８や図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装

飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【５９４４】

また、例えば、第３４構成Ｂ３４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【５９４５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（例えば、第３Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ３や、第４Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ４）が表示されている期間内で、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（図１６８に示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２、図１７０に示されるタイミングｔＢｄ２－Ｃ２を参照）、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると）、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示（例えば、第３Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ３、第４Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ４）が表示されている期間が終了するよりも前に再び現れうるようにしてもよい。

【５９４６】

また、（第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが（例えば、図１

６４や図１６６などを参照）、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（図１６８や図１７０を参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（図１７２を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、第１操作促進音が実行される場合と第１操作促進音が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【５９４７】

また、当該第３４構成Ｂ３４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了された以降には再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９４８】

また、当該第３４構成Ｂ３４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了された以降に再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９４９】

また、当該第３４構成Ｂ３４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されず、第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。

【５９５０】

また、当該第３４構成Ｂ３４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了されるよりも前に再び現れうるようにすることが望ましい（図１６８や図１７０、図１７２などを参照）。

【５９５１】

また、当該第３４構成Ｂ３４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」に対応する第１操作促進音が出力される場合（図１６８または図１７０などを参照）と該第１操作促進音が出力されない場合（図１７２などを参照）とで

は、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【５９５２】

また、例えば、第３５構成Ｂ３５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるから（図１６４や図１７９に示される第１Ｂ受付許容状態を参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【５９５３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわ

ゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ５Ａ，タイミングｔＢｅ５Ａ）。

【５９５４】

なお、当該第３５構成Ｂ３５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【５９５５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし（図１６８や図１８１などに示される第３Ｂ受付許容状態、図１７０や図１８１などに示される第４Ｂ受付許容状態や、図１７２や図１８２、図１８３などに示される第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４や図１７９などに示される第１Ｂ受付許容状態）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６や図１８０などに示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。

【５９５６】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できると

は限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときまで（第２操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生するときまで）第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５９５７】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９５８】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９５９】

なお、当該第３５構成Ｂ３５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【５９６０】

また、当該第３５構成Ｂ３５を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９６１】

また、当該第３５構成Ｂ３５を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９６２】

また、当該第３５構成Ｂ３５を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況については、第２操作関連表示が再び表示され且つ該再び表示された第２操作関連表示が非表示にされた以降や、若しくは第２操作関連表示が再び表示されるよりも前な

ど、該第２操作関連表示が非表示の状態にあるときに現れる場合があるようにしてもよい。

【５９６３】

また、当該第３５構成Ｂ３５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにすることが望ましい（図１６４や図１７９などを参照）。

【５９６４】

また、当該第３５構成Ｂ３５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６や図１８０などを参照）。

【５９６５】

また、当該第３５構成Ｂ３５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【５９６６】

また、例えば、第３６構成Ｂ３６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手

段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるから（図１６４や図１７９に示される第１Ｂ受付許容状態を参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合にはそれを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【５９６７】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ５Ａ，タイミングｔＢｅ５Ａ）。

【５９６８】

なお、当該第３６構成Ｂ３６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【５９６９】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定めら

れた時間）とされるようにし（図１６８や図１８１などに示される第３Ｂ受付許容状態、図１７０や図１８１などに示される第４Ｂ受付許容状態や、図１７２や図１８２、図１８３などに示される第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４や図１７９などに示される第１Ｂ受付許容状態）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６や図１８０などに示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。

【５９７０】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときまで（第２操作手段に対する操作受付が許容される状態が発生するときまで）第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【５９７１】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９７２】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９７３】

なお、当該第３６構成Ｂ３６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【５９７４】

また、当該第３６構成Ｂ３６を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９７５】

また、当該第３６構成Ｂ３６を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９７６】

また、当該第３６構成Ｂ３６を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況については、第２操作関連表示が再び表示され且つ該再び表示された第２操作関連表示が非表示にされた以降や、若しくは第２操作関連表示が再び表示されるよりも前など、該第２操作関連表示が非表示の状態にあるときに現れる場合があるようにしてもよい。

【５９７７】

また、当該第３６構成Ｂ３６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間とされる場合がなく、必ず、一定の時間とされるようにすることが望ましい（図１６４や図１７９などを参照）。

【５９７８】

また、当該第３６構成Ｂ３６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１

０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【５９７９】

また、例えば、第３７構成Ｂ３７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（図１６６（ｆ）や、図１６７、図１８０（ｆ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【５９８０】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操

作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８１～図１８３などに示されるタイミングｔＢｃ５Ａ，タイミングｔＢｅ５Ａ）。

【５９８１】

なお、当該第３７構成Ｂ３７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【５９８２】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６、図１７７などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（図１６６や図１６７などを参照）。

【５９８３】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【５９８４】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９８５】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関

連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【５９８６】

なお、当該第３７構成Ｂ３７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【５９８７】

また、当該第３７構成Ｂ３７を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【５９８８】

また、当該第３７構成Ｂ３７を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【５９８９】

また、当該第３７構成Ｂ３７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４を参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【５９９０】

なおこの場合、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【５９９１】

また、当該第３７構成Ｂ３７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【５９９２】
　また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。
【５９９３】
　また、例えば、第３８構成Ｂ３８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにした（図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。
【５９９４】
　そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５

００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【５９９５】

なお、当該第３８構成Ｂ３８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【５９９６】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６、図１７７などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【５９９７】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【５９９８】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様で

あってもよい。
【５９９９】
　また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。
【６０００】
　なお、当該第３８構成Ｂ３８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【６００１】
　また、当該第３８構成Ｂ３８を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。
【６００２】
　また、当該第３８構成Ｂ３８を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。
【６００３】
　また、当該第３８構成Ｂ３８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６を参照）と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４を参照）との両方があるようにすることが望ましい。
【６００４】
　なお、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。
【６００５】
　また、当該第３８構成Ｂ３８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６００６】
　また、当該第３８構成Ｂ３８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。
【６００７】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。
【６００８】
　また、例えば、第３９構成Ｂ３９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操

作関連表示）が表示されている期間内において、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【６００９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６０１０】

なお、当該第３９構成Ｂ３９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０１１】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６、図１７７などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６０１２】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持

した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段（操作ボタン４１０）を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【６０１３】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０１４】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０１５】

なお、当該第３９構成Ｂ３９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０１６】

また、当該第３９構成Ｂ３９を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０１７】

また、当該第３９構成Ｂ３９を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０１８】

また、当該第３９構成Ｂ３９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、（「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間のうち）操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にするようにしてもよい。ただしこの際、その非可聴の状態にされる演出音は、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、第２操作関連音とは異なる音であれば、いずれの種別の音であってもよい。例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている複数の演出音が対象であってもよい。

【６０１９】

また、当該第３９構成Ｂ３９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、（「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間のうち）操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（例えば、図１６４（ｈ）に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ１を参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合との両方があるようにしてもよい（例えば、図１６６を参照）。

【６０２０】

また、例えば、第４０構成Ｂ４０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、図１７０に示される第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミン

グｔＢａ２－Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態や、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）では、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２）が実行可能であるようにしたから、第２操作手段が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【６０２１】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６０２２】

なお、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０２３】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場

合（図１７０（ｊ）を参照）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）を参照）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい（図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６０２４】

このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされないようになったとしても第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされないようになると、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６０２５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０２６】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０２７】

なお、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作

状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０２８】

また、当該第４０構成Ｂ４０を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０２９】

また、当該第４０構成Ｂ４０を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０３０】

また、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ４）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（例えば、図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されるようにすることが望ましい。

【６０３１】

また、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ４）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了されるよりも前に再び現れうるようにすることが望ましい（図１６８や図１７０などを参照）

【６０３２】

また、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上で、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況」が再び現れるための「所定の開始条件」については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない

。

【６０３３】

また、当該第４０構成Ｂ４０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１６８や図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６０３４】

また、例えば、第４１構成Ｂ４１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１７９に示されるタイミングｔＢａ２―Ｃ２や、図１８０に示されるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、前記第２操作関連表示が再び表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１７９（ｆ），（ｈ）や、図１８０（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１

７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力可能であり、前記第２操作関連表示が表示されるときは、前記第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が出力可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６０３５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降も第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、該操作状態が維持されているなかで第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示される場合があり、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６０３６】

なお、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０３７】

また、（第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）が必ず出力されるが、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）が出力される場合（図１６８や図１７０などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（図１７２を参照）との両方があるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６０３８】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるとき、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされないようになったとしても第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関

する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持すると、その維持した操作状態が検出されることに基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは第２操作促進音が必ず出力されるようになっているものの、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされないようになると、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が再び現れるときまで（現れた以降も）操作状態に維持するだけでは、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６０３９】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第１操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第１操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０４０】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が再び表示されるときの態様は、非表示にされた第２操作関連表示と同じ態様であってもよいし、非表示にされた第２操作関連表示とは異なる態様であってもよい。

【６０４１】

なお、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０４２】

また、当該第４１構成Ｂ４１を実現する上では、第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第１操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第１操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０４３】

また、当該第４１構成Ｂ４１を実現する上では、第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、その操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該第２操作関連表示が表示される期間が終了されるよりも前や、当該第２操作関連表示が表示されていない状態において再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０４４】

また、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「い

わゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（例えば、図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（例えば、図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進音が出力されず、第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるときは、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進音が出力されるようにすることが望ましい。

【６０４５】

また、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（例えば、図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けると（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）、その操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了されるよりも前に再び現れうるようにすることが望ましい（図１８１や図１８２などを参照）。

【６０４６】

また、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上で、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況」が再び現れるための「所定の開始条件」については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０４７】

また、当該第４１構成Ｂ４１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進音が出力される場合（図１６８や図１７０などを参照）と、該操作促進音が出力されない場合（図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６０４８】

また、例えば、第４２構成Ｂ４２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可

能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１６４や図１８４に示される第１Ｂ受付許容状態を参照）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６０４９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態に

されているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６０５０】

なお、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０５１】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし（図１６８や図１８６などに示される第３Ｂ受付許容状態、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態や、図１７２や図１８７などに示される第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４や図１８４などに示される第１Ｂ受付許容状態）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６や図１８５などに示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。

【６０５２】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかでそれまで維持してい

る上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６０５３】

なお、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０５４】

また、当該構成４２構成Ｂ４２を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０５５】

また、当該構成４２構成Ｂ４２を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生すると、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０５６】

また、当該構成４２構成Ｂ４２を実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【６０５７】

また、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにすることが望ましい（図１６４や図１８４などを参照）。

【６０５８】

また、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作

受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６や図１８５などを参照）。

【６０５９】

また、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６０６０】

また、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【６０６１】

また、当該第４２構成Ｂ４２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるときの間隔は、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れているときと同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。

【６０６２】

また、例えば、第４３構成Ｂ４３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされ

るとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした（図１６４や図１８４に示される第１Ｂ受付許容状態を参照）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の時間にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６０６３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６０６４】

なお、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例

えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０６５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし（図１６８や図１８６などに示される第３Ｂ受付許容状態、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態や、図１７２や図１８７などに示される第５Ｂ受付許容状態）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間にあるときに第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるが、この際、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４や図１８４などに示される第１Ｂ受付許容状態）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６や図１８５などに示される第２Ｂ受付許容状態）との両方があるようにしてもよい。

【６０６６】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了した以降、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６０６７】

なお、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾

体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０６８】

また、当該構成４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０６９】

また、当該構成４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生すると、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０７０】

また、当該構成４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【６０７１】

また、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間とされる場合がなく、必ず、一定の時間とされるようにすることが望ましい（図１６４や図１８４などを参照）。

【６０７２】

また、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間とされる場合がなく、必ず、一定の時間とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６０７３】

また、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合

との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【６０７４】

また、当該第４３構成Ｂ４３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるときの間隔は、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れているときと同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。

【６０７５】

また、例えば、第４４構成Ｂ４４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された

以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（図１６６（ｆ），図１６７，図１８５（ｆ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６０７６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２―Ｃ２，タイミングｔＢｅ２―Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６０７７】

なお、当該第４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６０７８】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し（図１６８～図１７３や図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（図１６６（ｆ），図１６７，図１８５（ｆ）などを参照）。

【６０７９】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【６０８０】

なお、当該第４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６０８１】

また、当該構成４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０８２】

また、当該構成４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生すると、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０８３】

また、当該構成４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったとき

には、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６（ｆ），図１６７，図１８５（ｆ）などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４（ｆ），図１６５，図１８４（ｆ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６０８４】

なおこの場合、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６０８５】

また、当該第４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【６０８６】

また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。

【６０８７】

また、例えば、第４５構成Ｂ４５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場

合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６６（ｈ）や図１８０（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにした（図１６６（ｈ）や図１８５（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６０８８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６０８９】

なお、当該第４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされ

たりするものであってもよく、その条件については特に限られない。
【６０９０】
　また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６６（ｈ）や図１８５（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（図１６６（ｈ）、図１８５（ｈ）などを参照）。
【６０９１】
　このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【６０９２】
　なお、当該第４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。
【６０９３】
　また、当該構成４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操

作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６０９４】

また、当該構成４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生すると、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６０９５】

また、当該構成４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６（ｈ）、図１８５（ｈ）などを参照）と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４（ｈ）、図１８４（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６０９６】

なおこの場合、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６０９７】

また、当該第４４構成Ｂ４４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。これに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【６０９８】

なお、操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６０９９】

また、当該第４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６１００】

また、当該第４５構成Ｂ４５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が

表示されている期間では、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される所定条件が満たされる場合と該所定条件が満たされない場合との両方があるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている期間では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況が現れうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態になるよりも前に当該状況が終了される条件が必ず満たされるようにしてもよい。

【６１０１】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。

【６１０２】

また、例えば、第４６構成Ｂ４６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイ

ミングｔＢｂ２―Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する再操作が適正に受付けされたことを容易に認識させることが可能とされうる。

【６１０３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２―Ｃ２，タイミングｔＢｅ２―Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６１０４】

なお、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６１０５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３などを参照）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態

にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（図１６４（ｈ）、図１８４（ｈ）などを参照）。

【６１０６】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段（操作ボタン４１０）を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【６１０７】

なお、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６１０８】

また、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１０９】

また、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作

受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１１０】

また、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４に示される第１の受付後出力音Ｓα１）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音（第１の受付後出力音Ｓα１）ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６１１１】

また、当該第４６構成Ｂ４６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（受付後出力音）を非可聴の状態にする場合（図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６１１２】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６１１３】

また、例えば、第４７構成Ｂ４７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われる演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応

じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７６に示される受付後表示ＨＢ７など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７６に示される第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７４に示される受付後表示ＨＢ６など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７４に示される第６Ｂ受付後出力音Ｓα６など）との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【６１１４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔ

Ｂｅ５Ｂ）。
【６１１５】
なお、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。
【６１１６】
また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態において第１操作手段を操作状態にした場合）であっても、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持しているなかで所定の許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。すなわちこの場合、図１８６や図１８７に示した例では、タイミングｔＢｃ５Ｂにおいて受付後表示ＨＢ７が表示される場合（可能性）がなくなることとなる。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。
【６１１７】
また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態において刀装飾体５００１を操作状態にした場合）であっても、該刀装飾体５００１を操作した状態に維持しているなかで所定の許容条件が満たされると（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化と該表示変化とは異なる変化との両方が生じる場合と、演出表示装置１６００における表示変化は生じず、該表示変化とは異なる変化のみが生じる場合との両方があるようにしてもよい（図１８６や図１８７を参照しつつ説明した構成）。このような構成によれば、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態にあるときから維持している「刀装飾体５００１の操作状態」に基づいて、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたことを認識し易い場合と認識し難い場合との両方があるから、緊張感を好適に維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。
【６１１８】
また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装

飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた後、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作（特定操作）に関する受付けが再びなされた結果、該受付けに応じた上記受付後変化の１つとして「演出表示装置１６００における表示変化」が生じた場合であっても、この際、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つである「演出表示装置１６００における表示変化とは異なる変化」が複数回実行されうるのに対し、受付後変化の１つである「演出表示装置１６００における表示変化」が複数回実行されることがないようにしてもよい（図１８６や図１８７を参照）。このような構成によれば、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされたことを認識し易くされたとしても、さらに操作状態を維持したときにオート連打機能も有効化されることについては認識し難くされるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６１１９】

また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されている状態においては、第１操作手段が操作状態に維持されると、該第１操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第１操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、第２操作関連表示が表示されている状態においては、第２操作手段が操作状態に維持されると、該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて第２操作手段に対する操作受付が許容されない状態になると、第２操作関連表示が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６１２０】

また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１２１】

また、当該第４７構成Ｂ４７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１２２】

また、例えば、第４８構成Ｂ４８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光

（例えば、図１７０（ｊ）を参照）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）を参照）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２―Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２―Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６１２３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示

されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６１２４】

なお、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６１２５】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにし、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６１２６】

また、このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、操作促進発光が実行される場合と操作促進発光が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されてから非表示にされるまでの間で操作促進発光が必ず実行されるようになっているものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象と

しての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６１２７】

なお、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６１２８】

また、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１２９】

また、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１３０】

また、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されるようにすることが望ましい。

【６１３１】

また、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持し

ているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示にされた以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けて、当該状況下にあるなかで所定の開始条件が満たされると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。

【６１３２】

また、当該第４８構成Ｂ４８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１６８や図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６１３３】

また、例えば、第４９構成Ｂ４９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に

対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているときに、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８４に示されるタイミングｔＢａ２－Ｃ２や、図１８５に示されるタイミングｔＢｂ２－Ｃ２など）は、当該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された以降までにわたって前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８４や図１８５などを参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６１３４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときに第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ２－Ｃ２，タイミングｔＢｅ２－Ｃ２）であっても、当該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される期間が終了された後、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１８６や図１８７などに示されるタイミングｔＢｃ５Ｂ，タイミングｔＢｅ５Ｂ）。

【６１３５】

なお、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。

【６１３６】

また、（第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが（例えば、図１

６４や図１６６などを参照）、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（図１６８や図１７０を参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（図１７２を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、操作手段に対して複数回の操作受付が許容されており且つ操作関連表示が表示される場合であっても、第１操作手段に関しては、第１操作促進音が実行される場合と第１操作促進音が実行されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるから、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６１３７】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、第１操作関連表示が表示されるとき、第１操作促進音が出力される場合と、第１操作促進音が出力されない場合との両方があり、これによって若干の秘匿性が持たされうることとなるが、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持すると、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは第２操作促進音が必ず出力されるようになっているものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで操作受付がなされなくなった場合、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示にされた以降も操作状態のままで維持されたとしても、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされる状況が再び現れることがないようになっているから、緊張感を付与しつつ遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６１３８】

なお、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。また、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされておらず表示されているなかで終了されうるようにしてもよい。

【６１３９】

また、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示

が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１４０】

また、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１４１】

また、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されず、第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。

【６１４２】

また、当該第４９構成Ｂ４９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているときに、刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れた後、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているにもかかわらず該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示されている場合であっても、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示にされた以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けて、当該状況下にあるなかで所定の開始条件が満たされると、それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。

【６１４３】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」に対応する第１操作促進音が出力される場合（図１６８または図１７０などを参照）と該第１操作促進音が出力されない場合（図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６１４４】

また、例えば、第５０構成Ｂ５０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆる

オート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１９１に示される第６Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６１４５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢ

ｇ４Ｄなど）。
【６１４６】
なお、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。
【６１４７】
また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし（図１６８などに示される第３Ｂ受付許容状態や、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態、図１７２などに示される第５Ｂ受付許容状態、図１７６などに示される第７Ｂ受付許容状態など）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態や、図１７４などに示される第６Ｂ受付許容状態など）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６などに示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。
【６１４８】
このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付

が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６１４９】

なお、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６１５０】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１５１】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１５２】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【６１５３】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６１５４】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「い

わゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１６４などを参照）。

【６１５５】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６などを参照）。

【６１５６】

また、当該第５０構成Ｂ５０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるときの間隔とは、同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。

【６１５７】

また、例えば、第５１構成Ｂ５１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行

されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした（図１９１に示される第６Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の時間にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６１５８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６１５９】

なお、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６１６０】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた

時間）とされるようにし（図１６８などに示される第３Ｂ受付許容状態や、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態、図１７２などに示される第５Ｂ受付許容状態、図１７６などに示される第７Ｂ受付許容状態など）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態や、図１７４などに示される第６Ｂ受付許容状態など）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６などに示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。

【６１６１】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかでそれまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６１６２】

なお、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての

操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６１６３】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１６４】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１６５】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【６１６６】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６１６７】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１６４などを参照）。

【６１６８】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）ではなく、必ず、不定の時間（予め定められていない時間）とされるようにしてもよい（図１６６などを参照）。

【６１６９】

また、当該第５１構成Ｂ５１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が

表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるときの間隔とは、同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。

【６１７０】

また、例えば、第５２構成Ｂ５２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除され

たことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６１７１】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６１７２】

なお、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６１７３】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。

【６１７４】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）

を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【６１７５】

なお、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６１７６】

また、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１７７】

また、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１７８】

また、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６（ｆ）、図１６７などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４（ｆ）、図１６５、図１７４などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６１７９】

なおこの場合、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６１８０】

また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操

作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。

【６１８１】

また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。

【６１８２】

また、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【６１８３】

また、当該第５２構成Ｂ５２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６１８４】

また、例えば、第５３構成Ｂ５３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されてい

ない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにした（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６１８５】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６１８６】

なお、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６１８７】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったとき

には、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。

【６１８８】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【６１８９】

なお、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６１９０】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６１９１】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作

受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６１９２】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にする場合（図１６６（ｈ）などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６４（ｈ）や図１７４（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６１９３】

なお、操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６１９４】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６１９５】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。

【６１９６】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【６１９７】

また、当該第５３構成Ｂ５３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６１９８】

また、例えば、第５４構成Ｂ５４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前

記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１や、図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６など）を非可聴の状態にしうるようにしたから（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【６１９９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５

００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６２００】

なお、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２０１】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にした後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１や、図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。

【６２０２】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）を、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、第２操作関連表示が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段（操作

ボタン４１０）を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【６２０３】

なお、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２０４】

また、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２０５】

また、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２０６】

また、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６２０７】

また、当該第５４構成Ｂ５４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状

態にする場合（図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６２０８】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６２０９】

また、例えば、第５５構成Ｂ５５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われる演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記

第１操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（特定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７６に示される受付後表示ＨＢ７など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７６に示される第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７４に示される受付後表示ＨＢ６など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７４に示される第６Ｂ受付後出力音Ｓα６など）との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【６２１０】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６２１１】

なお、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２１２】

また、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態において第１操作手段を操作状態にした場合）であっても、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持しているなかで所定の許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表

示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。すなわちこの場合、図１９２に示した演出態様が現れることはなくなり（タイミングｔＢｇ４Ｃにおいて受付後表示ＨＢ７が表示される場合（可能性）がなくなることとなり）、図１９３に示した演出態様が必ず現れることととなる。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずにこれに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。

【６２１３】

若しくは、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた後、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされる場合は、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして演出表示装置１６００における表示変化が生じる場合（図１９２を参照）と、該表示変化が生じない場合（図１９３を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされたことを認識し難くされる場合と、認識し易くされる場合との両方があるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１を操作状態に維持するときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【６２１４】

なお、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２１５】

また、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２１６】

また、当該第５５構成Ｂ５５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２１７】

なお、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態にあるときに刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示装置１６００における表示変化」が実行されない場合であっても、「表示変化とは異なる変化（例えば、第１の受付後出力音Ｓα７）」は、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示装置１６００における表示変化」が生じるときに現れる態様と同じ態様で複数回実行されうるようにすることが望ましい。

【６２１８】

また、例えば、第５６構成Ｂ５６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこ

れに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１９１に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで維持している当該操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１９１を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されず且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７６～図１７８に示される第７Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されうるようにしたから、第１操作関連表示が表示されずに第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６２１９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６２２０】

なお、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２２１】
　また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されず且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態）では、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示である操作促進発光が実行されず、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）では、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、操作促進発光が実行されないことによる秘匿性が提供されるようになり、緊張感を好適に付与することが期待されうる。
【６２２２】
　このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が実行されることがないものの、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しておけば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。
【６２２３】
　また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。
【６２２４】
　また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。
【６２２５】
　なお、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「い

わゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２２６】

また、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２２７】

また、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２２８】

また、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されるようにすることが望ましい。

【６２２９】

また、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けた後、該操作状態が維持されているなかで「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示される場合であっても、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作

受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。
【６２３０】
　また、当該第５６構成Ｂ５６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１６８や図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。
【６２３１】
　また、例えば、第５７構成Ｂ５７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されない状態から、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されないままで前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状

態に移行する場合、これを契機とした音（前記第１操作促進音なども含めて）は何ら出力されず（例えば、図１９２や図１９３などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されない状態から、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されないままで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態に移行する場合、これを契機とした音（前記第２操作促進音なども含めて）は何ら出力されないようにしたから（例えば、図１９１などを参照）、操作関連表示が表示されずに操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６２３２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１９２や図１９３に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にされているなかで所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい（例えば、図１９２や図１９３などに示されるタイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄなど）。

【６２３３】

なお、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１９２や図１９３に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ｃ，ｔＢｇ４Ｄにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２３４】

また、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）は、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能であり、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、第１操作促進音が出力されず、第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。これにより、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、その表示態様に応じて、操作促進音が実行されないことによる秘匿性が提供されうるから、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６２３５】
このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が出力されることがないものの、第１操作手段を操作状態に維持しておけば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が再びなされうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６２３６】
また、（第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６２３７】
なお、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２３８】
また、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第１操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２３９】
また、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作

受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第２操作関連表示が表示される期間が再び発生したとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２４０】

また、当該第５７構成Ｂ５７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けた後、該操作状態が維持されているなかで「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示される場合であっても、該第１操作関連表示「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。

【６２４１】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」に対応する第１操作促進音が出力される場合（図１６８または図１７０などを参照）と該第１操作促進音が出力されない場合（図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６２４２】

また、例えば、第５８構成Ｂ５８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると

該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（図１８９に示される第６Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６２４３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６２４４】

なお、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２４５】
　また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにし（図１６８などに示される第３Ｂ受付許容状態や、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態、図１７２などに示される第５Ｂ受付許容状態、図１７６などに示される第７Ｂ受付許容状態など）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態や、図１７４などに示される第６Ｂ受付許容状態など）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６などに示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。
【６２４６】
　このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたときには、それ以降、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときまで（若しくは、表示された以降も）第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【６２４７】
　なお、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１

に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２４８】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２４９】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２５０】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【６２５１】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６２５２】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１６４などを参照）。

【６２５３】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対

する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６などを参照）。

【６２５４】

また、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときまで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされてから（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔とは、同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。

【６２５５】

若しくは、当該第５８構成Ｂ５８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときまで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされてから（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔とは、同じ態様（間隔）にされる場合と、同じ態様（間隔）にされない場合との両方があるようにしてもよい。

【６２５６】

また、例えば、第５９構成Ｂ５９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート

連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間とされうるようにした（図１８９に示される第６Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、いわゆるオート連打機能が有効化されているときに操作受付がなされる間隔が一定の間隔にされるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたことを比較的早期に認識し易くし、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態を解除するよう促すことが期待されうる。

【６２５７】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６２５８】

なお、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２５９】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されているときに該第１操

作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにし（図１６８などに示される第３Ｂ受付許容状態や、図１７０などに示される第４Ｂ受付許容状態、図１７２などに示される第５Ｂ受付許容状態、図１７６などに示される第７Ｂ受付許容状態など）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オート連打機能で受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４などに示される第１Ｂ受付許容状態や、図１７４などに示される第６Ｂ受付許容状態など）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６などに示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。

【６２６０】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識し易くすることが可能であることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた後も、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けると、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようになっているから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段に対してオート連打機能が有効化されているときの遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が、一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と、不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、オート連打機能が無効になった場合にはそれを比較的早期に認識できるとは限らないようにされることに加えて、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていないなかで第２操作手段を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れたときには、それ以降、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときまで（若しくは、表示された以降も）第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示が表示されているなかで、それまで維持している上記操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっているから、第２操作関連表示が表示されていない状態において第２操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が有効化されているときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【６２６１】

なお、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する

操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２６２】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２６３】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２６４】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、第２操作手段に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限定されない。

【６２６５】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７４などを参照）。

【６２６６】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１６４などを参照）。

【６２６７】

また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）ではなく、必ず、不定の時間（予め定められていない時間

）とされるようにしてもよい（図１６６などを参照）。
【６２６８】
　また、当該第５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときまで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされてから（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔とは、同じ態様（間隔）にするようにしてもよい。
【６２６９】
　若しくは、当該５９構成Ｂ５９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされる状況が現れたときの（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときまで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされてから（オート連打機能によって）受付後変化が生じる間隔とは、同じ態様（間隔）にされる場合と、同じ態様（間隔）にされない場合との両方があるようにしてもよい。
【６２７０】
　また、例えば、第６０構成Ｂ６０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２

操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６２７１】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６２７２】

なお、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２７３】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況に

あるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合はないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。

【６２７４】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【６２７５】

なお、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２７６】

また、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び

現れる場合がないようにしてもよい。
【６２７７】
　また、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【６２７８】
　また、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６（ｆ）、図１６７などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４（ｆ）、図１６５、図１７４などを参照）との両方があるようにしてもよい。
【６２７９】
　なおこの場合、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。
【６２８０】
　また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。
【６２８１】
　また、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。
【６２８２】
　また、当該第６０構成Ｂ６０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（図１６６などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（図１６４などを参照）との両方があるようにしてもよい。
【６２８３】
　また、例えば、第６１構成Ｂ６１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態

にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにした（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたことを認識しやすくなるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた以降における遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６２８４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂな

ど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６２８５】

なお、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６２８６】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。

【６２８７】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し難くしているから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）の操作状態が解除されたときにはこれを認識し易くして再操作を促すことができるから、緊張感を維持しつつ遊技興趣の向上を図ることが期待されうる。

【６２８８】

なお、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装

飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６２８９】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６２９０】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６２９１】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされる状況にあるなかで操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にする場合（図１６６（ｈ）などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６４（ｈ）や図１７４（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６２９２】

なお、操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６２９３】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６２９４】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現

れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。

【６２９５】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【６２９６】

また、当該第６１構成Ｂ６１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６６などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（図１６４などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６２９７】

また、例えば、第６２構成Ｂ６２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２

操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２－Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１や、図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６など）を非可聴の状態にしうるようにしたから（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる。

【６２９８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２－Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６２９９】

なお、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６３００】

また、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態から非操作状態にした後、該第１操

作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないのに対し（図１６８～図１７３や、図１７６などを参照）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態から非操作状態にした後、該第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態から再び操作状態にしたときは、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１や、図１７４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα６など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。

【６３０１】

このような構成によれば、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるが、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くされるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）については操作状態を維持させることが遊技を進行させる上で容易とされるようになる。また、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、「第２操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった場合、それ以降も該第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても（例えば、第２操作関連表示が表示されて特定の許容条件が満たされるときまで第２操作手段を操作状態に維持し続けたとしても）、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持した当該操作状態の検出に基づいて第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされることがないものの、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段（操作ボタン４１０）を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）については操作状態をやり直しさせることが遊技を適正に進行させる上で容易とされるようになる。

【６３０２】

なお、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打

機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６３０３】

また、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６３０４】

また、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６３０５】

また、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６３０６】

また、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６３０７】

また、当該第６２構成Ｂ６２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されておらず、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたときは、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を必ず非可聴の状態にするようにしてもよい（図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。

【６３０８】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６３０９】

また、例えば、第６３構成Ｂ６３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、演出に関する表示が行われ

る演出表示手段（演出表示装置１６００）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第１操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（特定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７６に示される受付後表示ＨＢ７など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７６に示される第７Ｂ受付後出力音Ｓα７など）との両方が生じうるようになっており、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作（所定操作）が行われた場合は、その際に得られる検出情報に応じた前記受付後変化として、前記演出表示手段（演出表示装置１６００）における表示変化（例えば、図１７４に示される受付後表示ＨＢ６など）と、該表示変化とは異なる変化（例えば、図１７４に示される第６Ｂ受付後出力音Ｓα６な

ど）との両方が生じうるようにしたから、操作関連表示が表示されていないなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付が適正になされたことを好適に示唆することができるようになる。

【６３１０】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６３１１】

なお、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６３１２】

また、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作（特定操作）したにもかかわらず、その際に得られる検出情報に応じた受付後変化が実行開始されない場合（第１操作手段に対する操作受付が許容されない状態において第１操作手段を操作状態にした場合）であっても、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持しているなかで所定の許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることがないようにし、該表示変化とは異なる変化のみが複数回実行されるようにしてもよい。すなわちこの場合、図１９２に示した演出態様が現れることはなくなり（タイミングｔＢｇ４Ｃにおいて受付後表示ＨＢ７が表示される場合（可能性）がなくなることとなり）、図１９３に示した演出態様が必ず現れることとなるし、図１８９や図１９０などに示した例においても、タイミングｔＢｇ４Ａで発生した第４Ｂ受付許容状態や、タイミングｔＢｇ４Ｂで発生した第５Ｂ受付許容状態などにおいて、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化として、演出表示装置１６００における表示変化が（１回も）生じることはなくなることとなる。このような構成では、刀装飾体５００１を操作（特定操作）した結果、その操作が受付けされずに

これに応じた受付後変化が実行開始されない場合であっても、刀装飾体５００１を操作した状態に維持するだけで、受付後変化が現れるようになるものの、その代償として、演出表示装置１６００における表示変化が該受付後変化として現れることがなくなるから、緊張感を好適に維持することが期待されうる。ただしこの場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が非操作状態にあるときに、第１操作関連表示が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して新たな操作（特定操作）が行われたときには、図１７６に示される態様で受付後変化が実行される場合と、図１７８に示される態様で受付後変化が実行される場合との両方があるようにすることが望ましい。

【６３１３】

若しくは、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされない状況が現れた後、該第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作した状態に維持しているなかで所定の許容条件が満たされると（第１操作手段に対する操作受付が許容される状態になると）、該維持している操作状態の検出に基づいて第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるが、この際、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして演出表示装置１６００における表示変化が生じる場合（例えば、図１９２を参照）と、該表示変化が生じない場合（例えば、図１９３を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで維持している上記操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされたことを認識し難くされる場合と、認識し易くされる場合との両方があるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされているなかで刀装飾体５００１を操作状態に維持するときの緊張感を好適に維持することができるようになる。

【６３１４】

なお、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６３１５】

また、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６３１６】
　また、当該第６３構成Ｂ６３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【６３１７】
　なお、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態にあるときに刀装飾体５００１が操作状態に維持されて該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示装置１６００における表示変化」が実行されない場合であっても、「表示変化とは異なる変化（例えば、第１の受付後出力音Ｓα７）」は、刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた上記受付後変化の１つとしての上記「演出表示装置１６００における表示変化」が生じるときに現れる態様と同じ態様で複数回実行されうるようにすることが望ましい。
【６３１８】
　また、例えば、第６４構成Ｂ６４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４

１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されず且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７６～図１７８に示される第７Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、前記第１操作関連表示が表示され且つ前記第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態）では、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されうるようにしたから、第１操作関連表示が表示されずに第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されているときの緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６３１９】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６３２０】

なお、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６３２１】

また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５０

０１に関する操作関連表示）が表示されず且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（例えば、図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態）では、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示である操作促進発光が実行されず、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態（第１操作関連表示が表示される期間が発生する場合）では、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行される場合（例えば、図１７０に示される第４Ｂ受付許容状態など）と、該操作促進発光が（第１操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）実行されない場合（例えば、図１６８に示される第３Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。これにより、第１操作手段に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、操作促進発光が実行されないことによる秘匿性が提供されるようになり、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６３２２】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が実行されることがないものの、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６３２３】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では（第２操作関連表示が表示される期間が発生する場合）、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６３２４】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されておらず且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示にされるまでの少なくとも一部で）必ず実行されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６３２５】

なお、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において必ず終了されうるようにしてもよい。

【６３２６】

また、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。

【６３２７】

また、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。

【６３２８】

また、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行されず、第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４）が実行されるようにすることが望ましい。

【６３２９】

また、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けた後、該操作状態が維持されているなかで「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３）及び第２態様（図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示される場合であっても、該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで（維持しているなかで所定の開始条件が満たさ

れると）それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。

【６３３０】

また、当該第６４構成Ｂ６４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１６８や図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６３３１】

また、例えば、第６５構成Ｂ６５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されると該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７６を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態においても、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化が実行される場合があり、この場合、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されると該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されうるようになっており（図１７４を参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されていない状態において前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、前記第２操作手段

（操作ボタン４１０）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合は（例えば、図１８８に示されるタイミングｔＢｆ２―Ｃ２など）、それ以降、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持し続けたとしても、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかでそれまで維持している前記操作状態の検出に基づいて前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が再びなされる場合はないようになっており（図１８８を参照）、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であるようにしたから、操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が生み出されやすくして緊張感を好適に提供することが期待されうる。

【６３３２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されていない状態において第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れた後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持しているにもかかわらず該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされない状況が現れた場合であっても（例えば、図１８９や図１９０に示されるタイミングｔＢｇ２―Ｃ２など）、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示される状態が現れるときまで（現れた以降も）第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持し続けて該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで所定の許容条件が満たされると（例えば、図１８９や図１９０などに示されるタイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂなど）、それまで維持した操作状態の検出に基づいて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるようにしてもよい。

【６３３３】

なお、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態になるための条件（所定の許容条件）については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件については特に限られない。また、例えば、図１８９や図１９０に示した例では、タイミングｔＢｇ２において刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件と、タイミングｔＢｇ４Ａ，ｔＢｇ４Ｂにおいて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される条件とは、同じ条件（所定の許容条件）として設定されるものであってもよい。

【６３３４】

また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）は、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能であり、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、第１操作促進音が出力されず

、第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）が表示されるときは、第１操作関連表示に対応する第１操作促進音が出力されるようにしてもよい。これにより、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対しては、第１操作関連表示が表示される場合であっても、その表示態様に応じて、操作促進音が実行されないことによる秘匿性が提供されうるから、緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６３３５】

このような構成によれば、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が非表示の状態にあるときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が出力されることがないものの、「第１操作関連表示が非表示の状態」にされているなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作状態を、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されて所定の許容条件が満たされるときまで維持し続けると、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされる状況が再び現れうるから、遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。また、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているときは第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態になったとしても第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）によって操作が促されるとは言え、一定の秘匿性が持たされることとなり、このような「第１操作関連表示が非表示の状態にあるときとは異なる手法」で遊技興趣の低下を抑制しつつ緊張感を好適に付与することが期待されうる。

【６３３６】

また、（第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されているなかで、または第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されるときに）第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるようにしてもよい。これにより、操作手段の種別に応じて秘匿の度合いを異ならせることが可能であり緊張感を付与しつつ演出性の向上を図ることが期待されうる。

【６３３７】

なお、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、刀装飾体５００１が操作状態に維持されると、該刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、所定の終了条件が満たされて刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において終了される場合（図１７６などを参照）と、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されている状態において終了される場合（例えば、図１６８に示される例において、タイミングｔＢｃ１がタイミングｔＢｃ２よりも後に到来するようにし、且つタイミングｔＢｃ２よりも前から刀装飾体５００１を操作状態に維持した場合など）との両方があるようにするのに対し、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態においては、操作ボタン４１０が操作状態に維持されると、該操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れうるが、当該状況は、特定の終了条件が満たされて操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されない状態になると、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない

状態において必ず終了されうるようにしてもよい。
【６３３８】
　また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第１操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第１操作手段を操作状態に維持し続けたとき、第１操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第１操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合がないようにしてもよい。
【６３３９】
　また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作関連表示が表示されていないなかで操作受付がなされなくなった第２操作手段を操作状態に維持し続けたとき、該第２操作関連表示が表示されていないなかで、それまで維持した操作状態の検出に基づいて第２操作手段に対する操作受付が複数回なされる状況が再び現れる場合があるようにしてもよい。
【６３４０】
　また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」として、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）を含む複数の表示態様のいずれかで表示可能とされるようにし、第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）が表示されるときは、第１操作促進音が出力されず、第１操作関連表示が第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）で表示されるときは、第１操作促進音が出力されるようにすることが望ましい。
【６３４１】
　また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される期間が終了された以降も刀装飾体５００１を操作状態に維持し続けた後、該操作状態が維持されているなかで「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が第１態様（図１７２に示されるメッセージ表示ＭＢ５）及び第２態様（図１６８に示されるメッセージ表示ＭＢ３、または図１７０に示されるメッセージ表示ＭＢ４）のいずれで表示される場合であっても、該第１操作関連表示「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されているなかで（維持しているなかで所定の開始条件が満たされると）それまで維持している操作状態の検出に基づいて刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされるように遊技することが可能であるようにすることが望ましい。
【６３４２】
　また、当該第６５構成Ｂ６５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示され且つ刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されている状態において、第１操作促進音が出力される場合（図１６８や図１７０などを参照）と、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行されない場合（図１７２などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。
【６３４３】
　また、例えば、第６６構成Ｂ６６として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（

刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が現れたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときには（操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされることによって）それを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６３４４】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。

【６３４５】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるま

での間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあるなかで、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。

【６３４６】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６３４７】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【６３４８】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６３４９】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６３５０】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１

７２（ｊ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６３５１】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態など）。

【６３５２】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態で維持されていることに基づいて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）。

【６３５３】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。

【６３５４】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）。

【６３５５】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段が用いられて該第１発光手段が発光可能とされるようにし、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段とは異なる第２発光手段が用いられて該第２発光手段が発光可能とされるようにしてもよい。

【６３５６】

また、当該第６６構成Ｂ６６や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、上記第２発光手段が発光される場合がないが、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されていない状態であったとしても）上記第１発光手段が発光される場合があるようにしてもよい。

【６３５７】

また、例えば、第６７構成Ｂ６７として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（

刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされうるようにした（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が現れたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときには（操作受付がなされる間隔が一定の時間にされることによって）それを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６３５８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい。

【６３５９】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるま

での間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあるなかで、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。

【６３６０】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６３６１】

なお、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さや、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔の長さについては特に限られない。

【６３６２】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６３６３】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６３６４】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１

７２（ｊ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６３６５】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態など）。

【６３６６】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態で維持されていることに基づいて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）。

【６３６７】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。

【６３６８】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、必ず、不定の時間（予め定められていない時間）とされるようにしてもよい（図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）。

【６３６９】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段が用いられて該第１発光手段が発光可能とされるようにし、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段とは異なる第２発光手段が用いられて該第２発光手段が発光可能とされるようにしてもよい。

【６３７０】

また、当該第６７構成Ｂ６７や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、上記第２発光手段が発光される場合がないが、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されていない状態であったとしても）上記第１発光手段が発光される場合があるようにしてもよい。

【６３７１】

また、例えば、第６８構成Ｂ６８として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前

記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が実行されてから第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。

【６３７２】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合はないようにしてもよい。

【６３７３】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下において、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。

【６３７４】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、その操作状態が解除されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、その操作状態が解除されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６３７５】

また、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（例えば、図１６４（ｆ）や、図１６５などを参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）についても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【６３７６】

なお、当該第６８構成Ｂ６８を特定するにあたり、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）や第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。

【６３７７】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が

表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６３７８】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６３７９】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６３８０】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段が用いられて該第１発光手段が発光可能とされるようにし、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段とは異なる第２発光手段が用いられて該第２発光手段が発光可能とされるようにしてもよい。

【６３８１】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、上記第２発光手段が発光される場合がないが、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されていない状態であったとしても）上記第１発光手段が発光される場合があるようにしてもよい。

【６３８２】

また、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）であっても、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６３８３】

また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。

【６３８４】

また、当該第６８構成Ｂ６８や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【６３８５】

また、例えば、第６９構成Ｂ６９として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀

装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにした（例えば、図１６６などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が実行されてから第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。

【６３８６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときに、これを契機として、その

時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。
【６３８７】
　また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下において、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。
【６３８８】
　このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、その操作状態が解除されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、その操作状態が解除されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。
【６３８９】
　また、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（例えば、（図１６４（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）についても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。
【６３９０】
　なお、当該第６９構成Ｂ６９を特定するにあたり、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）や第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。

【６３９１】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。
【６３９２】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。
【６３９３】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段が用いられて該第１発光手段が発光可能とされるようにし、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段とは異なる第２発光手段が用いられて該第２発光手段が発光可能とされるようにしてもよい。
【６３９４】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、上記第２発光手段が発光される場合がないが、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されていない状態であったとしても）上記第１発光手段が発光される場合があるようにしてもよい。
【６３９５】
　また、操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。
【６３９６】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。
【６３９７】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。
【６３９８】
　また、当該第６９構成Ｂ６９や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の

状態にしうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【６３９９】

また、例えば、第７０構成Ｂ７０として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第１操作関連表示とは別に、前記第１操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第４Ｂ操作促進発光ＬＢ４など）を実行可能な第１促進発光手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す画像表示であり、且つ当該画像表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作手段に対する操作を促す画像表示である前記第２操作関連表示とは別に、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光（例えば、第１Ｂ操作促進発光ＬＢ１や第２Ｂ操作促進発光ＬＢ２など）を実行可能な第２促進発光手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、前記第２操作手段に対する操作を促す操作促進発光が実行可能であり（例えば、図１６４（ｊ）や図１６６（ｊ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１などを参照）。

【６４００】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と、（第１操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段

（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態にした後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を該非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。

【６４０１】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあり且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６４０２】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示され且つ第１操作手段（刀装飾体５００１）に対して複数回の操作受付が許容されている状態において操作促進発光が必ずしも実行されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が有効化されるときの緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態においては操作促進発光が必ず実行されるから、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。

【６４０３】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで操作ボタン４１０を操作状態から非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１や第１の受付後出力音Ｓα７など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制しつつ、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されうる。

【６４０４】

なお、当該第７０構成Ｂ７０を特定するにあたり、「第１操作関連表示が表示され且つ第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作関連表示が表示され且つ第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として特定することとしたが、これに代えて、第１操作関連表

示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）や第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）の表示の有無にかかる構成は問わないこととし、「第１操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成と、「第２操作手段に対して複数回の操作受付が許容されている状態」にあるときの構成として、上述と同じ内容で特定することとしてもよい。

【６４０５】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６４０６】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されておらず、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたときは、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にするようにしてもよい（図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。

【６４０７】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６４０８】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段が用いられて該第１発光手段が発光可能とされるようにし、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光では、第１発光手段とは異なる第２発光手段が用いられて該第２発光手段が発光可能とされるようにしてもよい。

【６４０９】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、上記第２発光手段が発光される場合がないが、操作ボタン４１０に対する操作を促す操作促進発光が実行される期間内では、（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されていない状態であったとしても）上記第１発光手段が発光される場合があるようにしてもよい。

【６４１０】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６４１１】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６４１２】

また、当該第７０構成Ｂ７０や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す操作促進発光が実行される場合（例えば、図１７０（ｊ）などを参照）と該操作促進発光が実行されない場合（例えば、図１６８（ｊ）や図１７２（ｊ）などを参照）とでは、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６４１３】

また、例えば、第７１構成Ｂ７１として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６４（ｇ）や、図１６６（ｇ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、特定時間以下の時間とされうるようにした（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作促進音が出力されたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときには（操作受付がなされる間隔が比較的短い間隔にされることによって）それを認識し易くなるか

ら、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。
【６４１４】
そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい。
【６４１５】
また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間以下の時間とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）と、特定時間よりも長い時間とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。
【６４１６】
このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が比較的短い間隔にされる場合と比較的長い間隔にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。
【６４１７】
また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。
【６４１８】
また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６４１９】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。
【６４２０】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、該第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。
【６４２１】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態など）。
【６４２２】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態で維持されていることに基づいて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）。
【６４２３】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合がなく、必ず、特定時間以下の時間とされるようにしてもよい（図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。
【６４２４】
　また、当該第７１構成Ｂ７１や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、特定時間よりも長い時間とされる場合と、特定時間以下の時間との両方があるようにしてもよい（図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）。
【６４２５】
　また、例えば、第７２構成Ｂ７２として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（

刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６４（ｇ）や、図１６６（ｇ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される場合、該受付後変化が複数回実行されるときの間隔は、一定の時間（予め定められた時間）とされうるようにした（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作促進音が出力されたときにはいわゆるオート連打機能が好適に有効化されることへの期待感を覚えることはもとより、オート連打機能が機能している状態にあるときには（操作受付がなされる間隔が一定の時間にされることによって）それを認識し易くなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。

【６４２６】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、該第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態で維持されているときに該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（いわゆるオート連打機能で操作受付に応じた受付後変化が生じる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい。

【６４２７】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態で維持されているときに該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、一定の時間（予め定められた時間）とされる場合（例えば、図１６４に示される第１Ｂ受付

許容状態など）と、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合（例えば、図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）との両方があるようにしてもよい。

【６４２８】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされるから、オート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期に認識し易くすることが可能であるものの、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対していわゆるオート連打機能が有効化されているときには受付後変化の生じる間隔が一定の時間（予め定められた時間）にされる場合と不定の時間（予め定められていない時間）にされる場合との両方があり、これによってオート連打機能が機能している状況下にあることや、オート連打機能が機能しなくなったことなどを比較的早期には認識し難くされうるものの、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６４２９】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔や、操作ボタン４１０に対していわゆるオート連打機能（長押し機能）が有効化されているときに受付後変化の生じる間隔は、一定の時間（予め定められた時間）であってもよいし、不定の時間（予め定められていない時間）であってもよい。

【６４３０】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６４３１】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６４３２】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、該第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６４３３】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態で維持されていることに基づいて該操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受

付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７４に示される第６Ｂ受付許容状態など）。

【６４３４】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されていない状態において刀装飾体５００１が操作状態で維持されていることに基づいて該刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１７６に示される第７Ｂ受付許容状態など）。

【６４３５】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特定態様（例えば、第１Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ１）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、不定の時間（予め定められていない時間）とされる場合がなく、必ず、一定の時間（予め定められた時間）とされるようにしてもよい（図１６４に示される第１Ｂ受付許容状態など）。

【６４３６】

また、当該第７２構成Ｂ７２や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が特別態様（例えば、第２Ｂ受付許容状態に対応するメッセージ表示ＭＢ２）で表示される期間にあるときに操作ボタン４１０が操作状態に維持された場合、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるときの間隔（オートで操作受付がなされる間隔）は、必ず、不定の時間（予め定められていない時間）とされるようにしてもよい（図１６６に示される第２Ｂ受付許容状態など）。

【６４３７】

また、例えば、第７３構成Ｂ７３として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、

図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６４（ｇ）や、図１６６（ｇ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示（例えば、非操作後表示ＨＢ２）が表示されうるようにした（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作促進音が出力されてから第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。

【６４３８】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときにこれに応じた非操作後表示が表示される場合はないようにしてもよい。

【６４３９】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）。

【６４４０】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、その操作状態が解除されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、その操作状態が解除されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６４４１】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタ

ン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合（例えば、図１６６（ｆ）や、図１６７などを参照）と、該非操作後表示が表示されない場合（例えば、図１６４（ｆ）や、図１６５などを参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）についても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【６４４２】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６４４３】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６４４４】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、該第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６４４５】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【６４４６】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、非操作後表示が表示される場合（図１６６を参照）、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったことを契機として、新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６４４７】

また、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として非操作後表示が表示されないことは言うまでもない。

【６４４８】

また、当該第７３構成Ｂ７３や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が

表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示される場合がないようにしてもよい。

【６４４９】

また、例えば、第７４構成Ｂ７４として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６４（ｇ）や、図１６６（ｇ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（図１６６（ｈ）に示される第２Ｂ受付後出力音Ｓα２など）を非可聴の状態にしうるようにした（例えば、図１６６などを参照）。すなわちこの場合、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す第２操作促進音が出力されてから第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態にした後、その操作状態が意図せずに解除されてしまったとしてもそれをいち早く遊技者が認識することができるようになるから、安心感を提供することが期待されうる。

【６４５０】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態に維持されており且つ該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数

回実行されているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。

【６４５１】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるようにしてもよい（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）。

【６４５２】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、その操作状態が解除されて該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段（操作ボタン４１０）については、その操作状態が解除されて該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを早期に認識し易くすることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６４５３】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）と、該演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしない場合（例えば、（図１６４（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２操作手段（操作ボタン４１０）についても、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）が機能しなくなった場合にこれを必ずしも早期に認識できるとは限らなくなるから、緊張感を好適に付与することができるようになる。

【６４５４】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。

【６４５５】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０

（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。

【６４５６】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、該第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。

【６４５７】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるが（例えば、図１６６（ｈ）などを参照）、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にすることがないようにしてもよい。

【６４５８】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときに、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合であっても、その際、非操作状態を契機とした新たな音を出力させることはないようにすることが望ましい（図１６６を参照）。

【６４５９】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が操作状態（受付後変化が生じている状態）から非操作状態になったときには、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。

【６４６０】

また、上述した各演出例にかかる構成を実現した場合、操作ボタン４１０を操作状態に維持しているにもかかわらず該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされない状況が現れた後に、操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないことは言うまでもない。

【６４６１】

また、当該第７４構成Ｂ７４や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されている状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にしうるが、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されていない状態において操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合がないようにしてもよい。

【６４６２】

また、例えば、第７５構成Ｂ７５として、遊技者によって操作可能な第１操作手段（刀装飾体５００１）及び第２操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前

記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第１受付後変化実行手段と、前記第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第１操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態に維持した場合、該第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回なされうる、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）を表示可能な第１操作関連表示手段と、前記第１操作関連表示が表示されるとき、該第１操作関連表示に対応する第１操作促進音（例えば、図１６８に示される第３Ｂ操作関連出力音ＯＢ３や、図１７０に示される第４Ｂ操作関連出力音ＯＢ４など）を出力可能な第１促進音出力手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされるとこれに応じた受付後変化を実行可能な第２受付後変化実行手段と、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示であり、且つ当該表示が表示状態にあるときに前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を操作状態に維持した場合、該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回なされうる、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）を表示可能な第２操作関連表示手段と、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるとき、該第２操作関連表示に対応する第２操作促進音（例えば、図１６４に示される第１Ｂ操作関連出力音ＯＢ１や、図１６６に示される第２Ｂ操作関連出力音ＯＢ２など）を出力可能な第２促進音出力手段とを備え、前記第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第１操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）、前記第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、前記第２操作促進音が出力可能であり（例えば、図１６４（ｇ）や、図１６６（ｇ）などを参照）、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた前記受付後変化が生じているなかで前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、前記第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び前記操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしたから、第２操作手段（操作ボタン４１０）が再び操作状態にされて操作受付がなされたことを示唆することが期待されうる（例えば、図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１などを参照）。

【６４６３】

そしてこの場合、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは、第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）との両方があるが、いずれの状況下にある場合であっても、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで第１操作手段（刀装飾体５００１）を非操作状態にした後、第１操作手段（刀装飾体５００１）を該非操作状態から再び操作状態にしたときには、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にする場合はないようにしてもよい。

【６４６４】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示され且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対して複数回の操作受付が許容されている状態では、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す操作促進発光が（第２操作関連表示が表示されてから非表示の状態になるまでの間の少なくとも一部で）必ず実行可能とされるが、該操作促進発光が実行されている状況下にあり且つ第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変

化が生じているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６４６５】

また、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるが、該第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態に維持されており且つ該第２操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されているなかで第２操作手段（操作ボタン４１０）を非操作状態にした後、第２操作手段（操作ボタン４１０）を該非操作状態から再び操作状態にした場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、図１６４（ｈ）に示される第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。

【６４６６】

このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）については、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第１操作手段（刀装飾体５００１）を再操作したときには受付けが適正になされたことを認識し難くすることに加えて、第１操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示）が表示されるときは第１操作促進音が必ずしも出力されないから、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作前と操作中とのいずれにおいても緊張感を好適に付与することが期待されうる。これに対し、第２操作手段については、第２操作手段（操作ボタン４１０）に対するオート連打機能（長押し機能）を中断してから該第２操作手段を再操作したときには受付けが適正になされたことが認識し易くされうることに加えて、第２操作関連表示（いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示）が表示されるときは、第２操作促進音が必ず出力されるから、第１操作手段（刀装飾体５００１）とは異なる演出性を通じて遊技興趣を好適に維持しつつ緊張感を提供することが期待されうる。

【６４６７】

また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行されている状況にあるなかで操作ボタン４１０を操作状態から非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にした場合、その時点で受付後変化の１つとしての受付後出力音（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１など）が可聴状態にあるときに限り、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つ（例えば、第１の受付後出力音Ｓα１など）を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。この際、受付後出力音ではなく、これとは異なる音を非可聴の状態にしうるようにしてもよい。このような構成によれば、第１操作手段（刀装飾体５００１）に対するオート連打機能（長押し機能）が中断されたときの遊技興趣の低下を抑制しつつ、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されうる。

【６４６８】

また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたとき、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合であっても、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする場合（図１６４のタイミングｔＢａ２－Ｃ１や、図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）と、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にしない場合（図１６６のタイミングｔＢｂ２－Ｃ１などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【６４６９】
　また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されておらず、且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が生じているなかで操作ボタン４１０を非操作状態にした後、操作ボタン４１０を該非操作状態から再び操作状態にしたときは、その時点で上記受付後変化の１つとしての受付後出力音が可聴状態にある場合、これを契機として、その時点で可聴状態にあった演出音を非可聴の状態にするようにしてもよい（図１７４のタイミングｔＢｆ２－Ｃ１などを参照）。
【６４７０】
　また、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「操作ボタン４１０が再操作されたときに、その時点で可聴状態にあった演出音の少なくとも１つを非可聴の状態にする」場合、該非可聴の対象とされる演出音については、受付後変化の１つとして現れている音でなくてもよく、例えば、ＢＧＭなどの他の演出音であってもよいし、その時点で可聴状態にされている全ての演出音が対象であってもよい。
【６４７１】
　また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、当該「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるようにすることが望ましい。
【６４７２】
　また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されるときに第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とでは、「いわゆるオート連打機能の有効化対象としての刀装飾体５００１に関する操作関連表示」としての態様が異なるが、操作受付がなされたときの受付後変化は同じであるようにしてもよい。
【６４７３】
　また、当該第７５構成Ｂ７５や上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、刀装飾体５００１に対する操作を促す第１操作促進音が出力される場合（例えば、図１６８（ｇ）や図１７０（ｇ）などを参照）と、該第１操作促進音が出力されない場合（例えば、図１７２（ｇ）などを参照）とで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるときの間隔は、同じ態様（時間）であるようにしてもよい。
【６４７４】
　次に、上記「構成１－Ａ」～「構成４０―Ａ」、上記「構成１－Ｂ」～「構成７５―Ｂ」、及び「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」のうち、パチンコ機１が上記「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」を備える場合について説明することとする。
【６４７５】
　まず、この実施例にかかるパチンコ機１は、刀装飾体５００１に対する操作を遊技者に対して促す「刀操作関連表示（例えば、摸画像表示やメッセージ表示など）」として、第１態様及び第２態様を含む複数態様を有しており、それら複数態様のいずれか１つとして「刀操作関連表示」を表示可能なものとなっている。
【６４７６】
　ここで、この実施例にかかるパチンコ機１を説明するにあたり、まず、図１９４及び図１９５を参照して、「刀操作関連表示」が第１態様や第２態様で表示されるときの基本的な演出性について説明しておくこととする。ただし、図１９４及び図１９５を参照して説明する下記構成は、この例にかかるパチンコ機によって提供される演出性の理解を容易化するために概念として示すものであり、必須の構成ではない。

【６４７７】
図１９４は、「刀操作関連表示」が第１態様や第２態様で表示されるときの表示例である。図１９５は、「刀操作関連表示」が第１態様や第２態様で表示されるときの「刀装飾体５００１に対する操作が複数回許容されるタイプ」である刀複種別許容状態の発生状況を示すタイムチャートである。
【６４７８】
すなわち、「刀操作関連表示」としての第１態様や第２態様とは、「刀装飾体５００１」に対して操作受付がなされるように遊技（操作）することを遊技者に対して促すものであるが、この実施例では、特に、図１９４（ａ），（ｂ）に示されるように、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付がなされるように遊技（操作）することを促す「摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）」及び「摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）」としてそれぞれ表示される場合を想定したものとなっている。なお、「刀操作関連表示」としての第１態様（摸画像表示ＫＭＧ１）や第２態様（摸画像表示ＫＭＧ２）については、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促すときだけでなく、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけなされるように遊技（操作）することを促すときにも表示されるものであってもよい（「刀装飾体５００１に対する操作が１回だけ許容されるタイプ」である刀単種別許容状態）。
【６４７９】
ただし、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２はいずれも、図１９４（ａ），（ｂ）に示されるように、刀装飾体５００１を半透明で摸した画像表示として表示されるものとなっており、これによって刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示されるものでありながらも、該表示された時点では、刀装飾体５００１に対する操作受付が必ずしも許容されている状況下にあるとは限らず、且つ間もなく許容される状況下にあるとも限らない（ここでは、刀複種別許容状態が既に発生していたり、間もなく発生する状況下にあるとは限らない）ことを示唆する「ガセ演出」として機能しうるものとなっている。なお、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２については、このようなガセ演出として機能させるにあたり、半透明の画像表示として必ずしも表示しなくてもよく、例えば、不透明の画像表示として表示するようにしてもよい。
【６４８０】
なお、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態（刀単種別許容状態、刀複種別許容状態）」とは、操作受付がなされると、遊技者が察知できる何らかの演出変化（表示変化や、音変化や、演出振動や、可動体動作など）を、該操作受付がなされたことを契機として生じさせる状態のことを言う。
【６４８１】
例えば、いま、図１９５（Ａ）に示されるように、タイミングＴ１ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促すべく、演出表示装置１６００において、図１９４（ａ）（または、図１９４（ｂ））に示される摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）を表示することとなる。
【６４８２】
ただし、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）とは、「刀複種別許容状態が秘かに（隠しボタンとして）発生している状況下にあるときや、間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する状況下にあるとき」に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示可能なものであることはもとより、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生しておらず且つ間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する予定もない状況下にあるとき」にも表示可能なものとなっており、これによって「刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）許容される」ことに関してのガセ演出として機能しうるものとなっていることは上述した通りである。

【６４８３】
この点、図１９５（Ａ）に示される例では、タイミングＴ１ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されたときには、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示期間内のうち、タイミングＴ１ａから少し遅れたタイミングＴ１ｂにおいて「刀複種別許容状態」が発生する場合（同図中、上段の例）がある一方で、該タイミングＴ１ｂを含めて、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示期間内で「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」にあることがない場合（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることなく、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が非表示にされる場合（同図中、下段の例））もあるガセ演出としての例を示すものになっている。
【６４８４】
また、別の実施例としては、例えば、図１９５（Ｂ）に示されるように、タイミングＴ２ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされたとすると、この場合も、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、刀装飾体５００１に対する操作を促すべく、演出表示装置１６００において、図１９４（ａ）（または、図１９４（ｂ））に示される摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）を表示することとなる。
【６４８５】
ただし、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）とは、「刀複種別許容状態が秘かに（隠しボタンとして）発生している状況下にあるときや、間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する状況下にあるとき」に、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示可能なものであることはもとより、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生しておらず且つ間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する予定もない状況下にあるとき」にも表示可能なものとなっており、これによって「刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）許容される」ことに関してのガセ演出として機能しうるものとなっていることは上述した通りである。
【６４８６】
この点、図１９５（Ｂ）に示される例では、タイミングＴ２ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されたときには、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されるよりも前から、「刀複種別許容状態」が既に発生（いわゆる隠しボタンとして発生）しており且つ継続している状況下にある場合（同図中、上段の例）がある一方で、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示開始された時点において「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が発生していない状況下にあることはもとより、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されている間も「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が発生しない場合（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることなく、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が非表示にされる場合（同図中、下段の例））もあるガセ演出としての例を示すものになっている。
【６４８７】
また、別の実施例としては、例えば、図１９５（Ｃ）に示されるように、タイミングＴ３ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされたとすると、この場合も、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、刀装飾体５００１に対する操作を促すべく、演出表示装置１６００において、図１９４（ａ）（または、図１９４（ｂ））に示される摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）を表示することとなる。
【６４８８】
ここで、図１９５（Ｃ）に示される例では、図１９５（Ａ）に示される例と同様、タイミングＴ３ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されたときには、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示期間内のうち、

タイミングＴ３ａから少し遅れたタイミングＴ３ｂにおいて「刀複種別許容状態」が発生する場合（同図中、上段の例）がある一方で、該タイミングＴ３ｂを含めて、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示期間内で「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」にあることがない場合（刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることなく、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が非表示にされる場合（同図中、下段の例））もあるガセ演出としての例を示すものになっている。

【６４８９】

しかも、図１９５（Ｃ）に示される例では、さらに、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示開始された以降、「刀複種別許容状態」が発生しているなかで、該「刀複種別許容状態」は終了しないにもかかわらず摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示状態が終了して非表示にされる条件が満たされる場合があるものとなっている（タイミングＴ３ｃ）。この点、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）とは、当然、「刀複種別許容状態」が継続している途中でその表示状態が終了する条件（非表示にされる条件）が満たされない場合もあるものとなっており（図１９５（Ａ），（Ｂ）などを参照）、すなわちこの場合、「刀複種別許容状態」が終了したかのように見せるガセ演出として機能しうることとなる。

【６４９０】

また、別の実施例としては、例えば、図１９５（Ｄ）に示されるように、タイミングＴ４ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされたとすると、この場合も、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、刀装飾体５００１に対する操作を促すべく、演出表示装置１６００において、図１９４（ａ）（または、図１９４（ｂ））に示される摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）を表示することとなる。

【６４９１】

ここで、図１９５（Ｄ）に示される例では、図１９５（Ａ）に示される例と同様、タイミングＴ４ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されたときには、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示期間内のうち、タイミングＴ４ａから少し遅れたタイミングＴ４ｂにおいて「刀複種別許容状態」が発生する場合（同図中、上段の例）がある一方で、該タイミングＴ４ｂに「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が発生しない場合（同図中、下段の例）もあるガセ演出としての例を示すものになっている。

【６４９２】

ただし、図１９５（Ｄ）に示される例では、さらに、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）については、「刀複種別許容状態」が発生するタイミングＴ４ｂよりも前にその表示状態が終了して非表示にされる条件が満たされる場合があるものとなっている（タイミングＴ４ｃ）。この点、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）とは、当然、該摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示状態にあるなかで「刀複種別許容状態」の発生条件が満たされる場合もあるものとなっており（図１９５（Ａ）などを参照）、すなわちこの場合、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）が表示されたにもかかわらず「刀複種別許容状態」が発生しなかった事象が現れたかのように見せるガセ演出として機能しうることとなる。

【６４９３】

このように、この例にかかる「刀操作関連表示」としての摸画像表示ＫＭＧ１や摸画像表示ＫＭＧ２は、当該「刀操作関連表示」が表示されたときに、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される（または、許容されている）とは限らないものの、その可能性があることを遊技者に対して意識付けさせることが可能であるし、当該「刀操作関連表示」が非表示にされたときにも、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態については未だ継続している可能性があることを遊技者に対して意識付けさせることが可能である（ガセ演出）。このような演出性によれば、刀装飾体５００１に関しての受付許容状態が発生する場合はもとより、該受付許容状態が発生しない場合も含めた、より広い期間に

わたって、操作に対する遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【６４９４】
なお、「刀操作関連表示」としての第１態様（摸画像表示ＫＭＧ１）や第２態様（摸画像表示ＫＭＧ２）については、第１態様（摸画像表示ＫＭＧ１）と、第２態様（摸画像表示ＫＭＧ２）とで、当該「刀操作関連表示」が表示されたときに「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が発生している確率や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が間もなく発生する確率などを異ならせるようにしてもよい。ただし後述するが、「刀操作関連表示」としての第１態様（摸画像表示ＫＭＧ１）や第２態様（摸画像表示ＫＭＧ２）については、他の演出との関係で大きく異なる性質（演出性）を有するものである。したがって、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が発生している確率や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」が間もなく発生する確率については、第１態様（摸画像表示ＫＭＧ１）と、第２態様（摸画像表示ＫＭＧ２）とで同じであってもよい。
【６４９５】
また、図１９５（Ａ）に示した例では、タイミングＴ１ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされた例を示しており、図１９５（Ｂ）に示した例では、タイミングＴ２ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされた例を示しており、図１９５（Ｃ）に示した例では、タイミングＴ３ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされた例を示しており、図１９５（Ｄ）に示した例では、タイミングＴ４ａにおいて摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件が満たされた例を示しているが、いずれのタイミングＴ１ａ～Ｔ４ａで摸画像表示ＫＭＧ１が表示される場合であっても、摸画像表示ＫＭＧ１の表示開始条件は同じであるし、いずれのタイミングＴ１ａ～Ｔ４ａで摸画像表示ＫＭＧ２が表示される場合であっても、摸画像表示ＫＭＧ２の表示開始条件は同じであるようにしてもよい。
【６４９６】
また、タイミングＴ１ａ～Ｔ４ａについても、それぞれ異なるタイミングでなくてもよく、それぞれ同じタイミングであってもよい。例えば、いずれのタイミングＴ１ａ～Ｔ１４ａも、特定の図柄変動パターンが開始されてから所定時間が経過したタイミングとして実現するようにしてもよい。なおこの場合、「刀複種別許容状態」の発生タイミングが、各例に応じて異なるタイミングで発生することとなる。
【６４９７】
また、これとは逆に、タイミングＴ１ｂ～Ｔ４ｂについても、それぞれ異なるタイミングでなくてもよく、それぞれ同じタイミングであってもよい。例えば、いずれのタイミングＴ１ｂ～Ｔ１４ｂも、特定の図柄変動パターンが開始されてから所定時間が経過したタイミングとして実現するようにしてもよい。なおこの場合、「刀操作関連表示」の表示開始タイミングが、各例に応じて異なるタイミングで発生することとなる。
【６４９８】
また、摸画像表示ＫＭＧ１（または、摸画像表示ＫＭＧ２）の表示開始条件や、「刀複種別許容状態」の発生条件は、予め定められた条件であればよく、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動や大当り遊技の実行期間内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用して特定タイミングの到来で条件成立するものであってもよい。
【６４９９】
このように、この例にかかる「刀操作関連表示」としての第１態様や第２態様とは、遊技者に対して刀装飾体５００１に対する操作を促すものでありながらも、「刀装飾体５０

０１に対する操作受付が許容される状態」が発生しない場合もあるガセ演出として機能しうるものになっている。したがって、このような第１態様や第２態様の表示期間内で「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」の発生条件が満たされるようなことがあると、「操作を促している対象である「刀装飾体５００１」に対しては操作受付が許容されないにもかかわらず（ガセだったにもかかわらず）、操作を促している対象とは異なる操作部（操作ボタン４１０など）に対して操作受付が許容される」といったような演出状況が現れうることとなる。

【６５００】

この点、この例にかかるパチンコ機は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」と「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」との両方が重複して発生している状況や、「刀操作関連表示」と「ボタン操作関連表示（遊技者に対して操作ボタン４１０に対する操作を促す表示）」との両方が重複して発生している状況などが現れうるものとなっており、特に、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」や「ボタン操作関連表示」に対して、このようなガセ演出として機能しうる当該「刀操作関連表示」にかかる表示や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」の発生がどのように関わってくるのかについての関係性に、技術的な特徴を有するものとなっている。

【６５０１】

以下、上記「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」等を備える当該パチンコ機１を、このような技術的特徴を有した場合における具体的な例として、図１９６～図２９０を参照して説明する。ただし、上記「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」にかかる各発明を実現する上では、以下に説明する各構成のうちの必要な構成だけを適宜に備えるだけでよく、それ以外の構成については、「刀操作関連表示」と「ボタン操作関連表示」との関係性に係る構成を含めて、必ずしも備えなくてもよい。すなわち、以下に説明する明細書中に記載される各構成については、上記「構成１－Ｃ」～「構成１２９―Ｃ」のいずれか１つに対してさらなる作用効果を得たいときにそれに対応する構成だけを任意に選別して採用可能である。例えば、解決する課題（目的とした作用効果）の種別（発明の種別）によっては、「刀操作関連表示」を表示しないものであってもよいし、「ボタン操作関連表示」を表示しないものであってもよいし、いくつか（複数）の操作部が操作受付可能な状態として許容されうる受付期間が必ずしも発生しないもの（１つの操作部だけが操作受付可能な状態として許容されうる受付期間）であってもよいし、複数回の操作受付が許容されうる操作部を備えないものであってもよいし、操作受付を契機として終了される種別の受付期間を発生させないものであってもよいし、操作受付を契機として終了される種別の受付期間と操作受付を契機として終了されない種別の受付期間とを混在して用意させるものであってもよいし、１回の操作受付だけが許容される操作部を備えないものであってもよいし、自動ボタン機能やオート連打機能が有効化されないものであってもよい。また、図１９３までを参照しつつ上述した各受付期間については、以下に説明する受付期間のいずれとも異なる受付期間として用意されているものであってもよいし、以下に説明する受付期間のいずれかとして実現されるものであってもよい。若しくは、図１９３までを参照しつつ上述した各受付期間についてはこれらを必ずしも備えないようにしてもよい。

【６５０２】

まず、この実施形態にかかるパチンコ機１では、「操作部に対する操作受付が許容される状態」として、「第１Ｃ刀受付状態」、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」、「第１Ｃボタン受付状態」、「第２Ｃボタン受付状態」、「第３Ｃボタン受付状態」、「第４Ｃボタン受付状態」、及び「第５Ｃボタン受付状態」を少なくとも発生可能なものとなっている。

【６５０３】

ここで、「第１Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がな

されると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０４】
　また、「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第２Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０５】
　また、「第３Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第３Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０６】
　これに対し、「第１Ｃボタン受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０７】
　また、「第２Ｃボタン受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第２Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０８】
　また、「第３Ｃボタン受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第３Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５０９】
　また、「第４Ｃボタン受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第４Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５１０】
　また、「第５Ｃボタン受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第５Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６５１１】
　なお、「操作部に対する操作受付が許容される状態」の種別としてこれらの全てを備えることを必須としていないことは言うまでもなく、例えば、「第３Ｃ刀受付状態」や「第５Ｃボタン受付状態」についてはこれらを必ずしも備えなくてもよい。また逆に、こうして列記した８つの種別のいずれとも異なる種別をさらに備えるようにしてもよく、例えば、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、刀装飾体５００１に対する操作

受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）として、「第２Ｃ刀受付状態」とは異なる種別をさらに用意するようにしてもよい。

【６５１２】

そして上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」と「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」とを、それらの両方が重複するかたちで発生可能なものとなっている。

【６５１３】

また、この実施例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回しか許容されないタイプの刀単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）と、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの刀複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）とを、それらの両方が重複するかたちで発生可能なものとなっている。また、この実施例にかかるパチンコ機１では、刀単種別許容状態のうちの異なる種別同士（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）についても、これらが重複するかたちで発生可能なものとなっている。

【６５１４】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回しか許容されないタイプのボタン単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態）と、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプのボタン複種別許容状態（第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態）とについては、それらの両方が重複するかたちで発生させることがないし、ボタン単種別許容状態のうちの異なる種別同士（第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態）や、ボタン複種別許容状態のうちの異なる種別同士（第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態）についても、これらが重複するかたちで発生させることがないものとなっている。

【６５１５】

なお、「重複するかたちで発生」とは、２つの異なる受付許容状態がいずれも有効な状態として発生することを意味している。例えば、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」と「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」とが重複するかたちで発生している状況下においては、刀装飾体５００１に対する操作が行われると、該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化が生じるし、操作ボタン４１０に対する操作が行われると、該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化が生じることとなる（各々の受付後変化が同時に生じるように刀装飾体５００１と操作ボタン４１０とに対してそれぞれ操作を行うことも可能である）。また、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回しか許容されないタイプの刀単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）と、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの刀複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）とが重複するかたちで発生している状況下においては、刀装飾体５００１に対する操作が行われると、該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化として、「刀単種別許容状態に対応する受付後変化」と、「刀複種別許容状態に対応する受付後変化」とがそれぞれ生じることとなる（ただしこの例では、後述するが、各々の受付後変化が同時に生じるように刀装飾体５００１を操作することは不可能とされている）。また、刀装飾体５００１に対する操作受付が１回しか許容されないタイプの刀単種別許容状態のうちの異なる種別同士（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）が重複するかたちで発生している状況下においては、刀装飾体５００１に対する操作が行われると、該刀装飾体５００１に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化として、刀単種別許容状態のうちの「一方の種別（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化」と、刀単種別許容状態のうちの「他方の種別（第３Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化」とがそれぞれ生じることとなる（後述するが、各々の受付後変化は、同じ操作受付を契機として生じるようにされている）。

【６５１６】

また、「重複するかたちで発生させることがない」とは、２つの異なる受付許容状態がいずれも有効な状態として発生することがないことを意味している。したがって、「一方の受付許容状態」が発生しているときには、「他方の受付許容状態」の発生条件がそもそも満たされないように設定することでこれを実現するようにしてもよいし、「一方の受付許容状態」が発生しているときにも「他方の受付許容状態」の発生条件は満たされるが、該発生条件が満たされたときには、これを契機として「一方の受付許容状態」が終了または中断されてこれと代わるかたちで「他方の受付許容状態」を発生させることでこれを実現するか、若しくは「他方の受付許容状態」の発生タイミングを、「一方の受付許容状態」が終了されるタイミング以降まで延期させることでこれを実現するようにしてもよい。

【６５１７】

ところで、上述の通り、この例にかかる「刀操作関連表示」としての第１態様や第２態様とは、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２としてそれぞれ表示されるものとなっており、すなわち刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけなされるように遊技（操作）することを促すものではない。

【６５１８】

ただし、この例にかかるパチンコ機１では、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態」と「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容される状態」との両方が発生している状況や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態」と「操作ボタン４１０に対する操作受付が（複数回または１回）許容される状態」との両方が発生している状況などが現れる場合があるようになっている。また、その一方で、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２とは、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示されるものでありながらも、該表示された時点では、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下にあるとは限らず、且つ間もなく許容される状況下にあるとも限らない（ここでは、刀複種別許容状態が既に発生していたり、間もなく発生する状況下にあるとは限らない）ことを示唆する「ガセ演出」として機能しうるものとなっていることも上述した。

【６５１９】

すなわちこの場合、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２が表示されたにもかかわらず、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態」が発生せず、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容される状態」や「操作ボタン４１０に対する操作受付が（複数回または１回）許容される状態」が発生する場合があることとなる。ただし、この例にかかる摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２は、特定の状況下において表示されたときには、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容される状態」が発生する可能性（または、既に発生している可能性）はあるが、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容される状態」が発生する可能性（または、既に発生している可能性）はなくなるように機能する場合もあるようにしており、これによって「ガセ演出」として本来は機能しうるものでありながらも、当該摸画像表示が現れたときの演出的な注目重要性を持つものとされている。

【６５２０】

次に、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」の種別（第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態）の別に、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」や「ボタン操作関連表示」に対して、上述したガセ演出として機能しうる「刀操作関連表示」の表示や、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態」の発生がどのように関わるのかについての構成にかかる具体例を説明する。

【６５２１】

図１９６～図２５３は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、受付後変化として「第１Ｃボタン

変化」を生じさせる種別の「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示す図である。

【６５２２】

図１９６～図２５３のうち、特に、図１９６～図２０７は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートであり、図２０８～図２１１は、上記「第１Ｃボタン受付状態」が、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかでこれと重複するかたちで発生するときの演出内容を示す図である。

【６５２３】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」については、予め定められた発生条件が満たされたときに発生したり終了したりするものであればよく、それらの条件としては、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【６５２４】

図１９６（図１９６～図１９９）は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出内容を示すタイムチャートである。また、図２０８及び図２０９は、「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示す図である。

【６５２５】

はじめに、このような条件下で「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【６５２６】

いま、特定遊技状態（例えば、非確変・非時短である通常遊技状態）において始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第１Ｃ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該第１Ｃ変動パターンに対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第１Ｃ変動パターンに応じた演出描写や、第１Ｃ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第１Ｃ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。

【６５２７】

この点、この例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【６５２８】

なおこの例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨを、第１Ｃボタン受付状態が発生するタイ

ミングで表示開始させることとしているが、必ずしも同じタイミングでなくてもよく、そのタイミングの前または後にズレるかたちで（異なるタイミングで）表示開始させるようにしてもよい。

【６５２９】

また、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される例では、敵キャラクタ画像ＴＣ１や、味方キャラクタ画像ＭＣ１，ＭＣ２が表示されており、これらの画像も、第１Ｃボタン受付状態が発生することを契機として表示されるものとなっている。ただし、これらの画像は、第１Ｃボタン受付状態が発生する前後に表示されるものであってもよいし、第１Ｃボタン受付状態の発生とは関係なく、定常的に表示されるものであってもよい。また、表示されないようにしてもよい。

【６５３０】

また上述の通り、第１Ｃボタン受付状態とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が（当該第１Ｃボタン受付状態が終了されるタイミングｔＣａ４までの間に）１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されるものである（図１９６（ｇ）を参照）。

【６５３１】

また、第１Ｃボタン受付状態は、上述の第１Ｃ刀受付状態や、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態などとの間で発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされるものとなっている。

【６５３２】

このうち、「第１Ｃ刀受付状態」は、図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などに示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたとき（例えば、タイミングｔＣａ１）から特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）、若しくはボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（例えば、タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）、若しくは第１Ｃボタン受付状態が発生してから特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、これを契機として（「条件１Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）発生するものとなっている（図２０９（Ｂ）を参照、図２０９（ｇ）に示される状況）。したがって、図１９６に示される例では、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされるタイミングｔＣａ３－１が到来すると、「第１Ｃ刀受付状態」は、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や「第２Ｃ刀受付状態」、さらには「第３Ｃ刀受付状態」などと重複するかたちで発生することとなる（図２０９（ｇ）に示される状況）。

【６５３３】

ここで、第１Ｃ刀受付状態とは、上述の通り、刀装飾体５００１に対する操作受付が（当該第１Ｃ刀受付状態が終了されるまでの間に）１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されるものである（図１９６（ｄ）を参照）。

【６５３４】

図２０８及び図２０９に示される例では、第１Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた「第１Ｃ刀変化」の１つとして、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃）が１回だけ表示される（図２０９（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展を参照）。ただし、「第１Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。またこの例では、「第１Ｃ刀変化」の１つとして、味方キャラクタ画像ＭＣ１これ自体の表示変化も行うこととしており、これによって味方キャラクタ画像ＭＣ１が敵キャラクタに対して雷攻撃を行った演出であることを認識できるようにして

いるが、この表示変化についても必ずしも行わなくてもよい。
【６５３５】
　またこの例では、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされた場合は、図１９６（ｊ）及び図２０９（ｇ）に示されるように、該発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされたことを契機として、演出表示装置１６００において特定動画ＴＤにかかる表示を開始させる（図２０８（ａ）に示される表示態様から、図２０９（ｇ）に示される表示態様への変化を生じさせる）ようになっている。なおこの例では、特定動画ＴＤは、第１Ｃ刀受付状態の終了条件が満たされるときまで継続表示されるものとなっており、すなわち第１Ｃ刀受付状態の発生から終了まで表示されることとなる。特定動画ＴＤについては、刀装飾体５００１に対する操作を促す表示や、操作ボタン４１０に対する操作を促す表示を含まないものであることが望ましい。
【６５３６】
　この演出例では、図２０９（ｇ）に示されるように、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされた場合は、特定動画ＴＤが表示されることに加えて、第１Ｃ刀受付状態は終了されず継続しているにもかかわらず、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨや、敵キャラクタ画像ＴＣ１、味方キャラクタ画像ＭＣ１，ＭＣ２などが非表示にされるようになっている。
【６５３７】
　なお、図１９６に示されるように、この例にかかる第１Ｃ刀受付状態では、その発生条件（条件１Ｃｋ）が、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、さらには「第３Ｃ刀受付状態」が発生しているなかで満たされうるものとして用意することとしている（図２０９（ｇ）に示される状況）。特に、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）については、「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているときに限り、満たされうるものとして設定するようにしてもよい（この場合、「第２Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」については、必ずしも発生していなくても満たされうることとなる）。また、その終了条件（タイミングｔＣａ３－２）についても、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、さらには「第３Ｃ刀受付状態」が発生しているなかで満たされうるものとして用意することとしている（図２０９（ｈ）に示される状況）。終了条件（タイミングｔＣａ３－２）については、予め定められている条件として設定されるものであればよい。例えば、第１Ｃ刀受付状態が発生したタイミングｔＣａ３－１から予め定められた時間が経過したことを契機として満たされるものとして設定可能である。
【６５３８】
　また、第２Ｃ刀受付状態とは、上述の通り、刀装飾体５００１に対する操作受付が（当該第２Ｃ刀受付状態が終了されるまでの間に）複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第２Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されるものである（図１９６（ｅ）を参照）。
【６５３９】
　図２０８及び図２０９に示される例では、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。またこの例でも、「第２Ｃ刀変化」の１つとして、味方キャラクタ画像ＭＣ１これ自体の表示変化も行うこととしており、これによって味方キャラクタ画像ＭＣ１が敵キャラクタに対して剣攻撃を行った演出であることを認識できるようにしているが、この表示変化についても必ずしも行わなくてもよい。
【６５４０】
　また、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状

態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６５４１】

特に、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６５４２】

したがって、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況が現れているときに、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うと、「第２Ｃ刀受付状態」では、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示されるように、オート連打機能が働いて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされることとなり、これによって第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が該操作受付がなされた回数分だけ実行されることとなる。

【６５４３】

これに対し、「第３Ｃ刀受付状態」は、図１９６（ｆ），（ｇ），（ｉ）などに示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたとき（例えば、タイミングｔＣａ１）から上記特定時間よりも短い所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣａ２が到来したとき）、若しくは第１Ｃボタン受付状態が発生してから上記特定時間よりも短い所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣａ２が到来したとき）に、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）発生するものとなっている（図２０８（Ａ）を参照）。したがって、図１９６に示される例では、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来すると、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる。

【６５４４】

ただし、図２０８（Ａ）に示されるように、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされた場合は、該発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされたことを契機として、遊技者が感知可能な演出変化（表示画面内の変化など）を何らも生じさせない。すなわちこの場合、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされた場合は、図２０８（Ａ）を、図２０９（Ｂ）と併せて示すように、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされた場合とは異なり、第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで、秘かに発生することとなる（図２０９（ｂ）に示される状況）。

【６５４５】

ここで、第３Ｃ刀受付状態とは、上述の通り、刀装飾体５００１に対する操作受付が（当該第３Ｃ刀受付状態が終了されるまでの間に）１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）であり、且つ当該状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第３Ｃ刀変化」を生じさせる種別として用意されるものである（図１９６（ｆ）を参照）。

【６５４６】

図２０８及び図２０９に示される例では、第３Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示される（図２０８（ｂ）→（ｅ）に示される演出進展や、図２０９（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展、図２０９（ｈ）→（ｉ）に示される演出進展などを参照）。ただし、「第３Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動

の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。またこの例でも、「第３Ｃ刀変化」の１つとして、味方キャラクタ画像ＭＣ１これ自体の表示変化も行うこととしており、これによって味方キャラクタ画像ＭＣ１が雷雲を出現させた演出であることを認識できるようにしているが、この表示変化についても必ずしも行わなくてもよい。

【６５４７】

また、この例にかかる第３Ｃ刀受付状態は、図１９６（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣａ２（図２０８（Ａ）に相当するタイミング）で発生した以降、タイミングｔＣａ３－１（図２０９（ｇ）に相当するタイミング）からタイミングｔＣａ３－２（図２０９（ｈ）に相当するタイミング）までの期間を含み、さらにタイミングｔＣａ４が到来するときまで継続してこれを契機として終了するものとなっている。

【６５４８】

すなわちこの場合、タイミングｔＣａ２からタイミングｔＣａ３－１までの期間では、図１９６（ｅ）～（ｇ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態」と、「第２Ｃ刀受付状態」と、「第３Ｃ刀受付状態」とが重複するかたちで発生していることとなる。また、タイミングｔＣａ３－１からタイミングｔＣａ３－２までの期間では、図１９６（ｄ）～（ｇ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態」と、「第１Ｃ刀受付状態」と、「第２Ｃ刀受付状態」と、「第３Ｃ刀受付状態」とが重複するかたちで発生していることとなる。また、タイミングｔＣａ３－２からタイミングｔＣａ４までの期間では、図１９６（ｅ）～（ｇ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態」と、「第２Ｃ刀受付状態」と、「第３Ｃ刀受付状態」とが重複するかたちで発生していることとなる。なおこの例では、第３Ｃ刀受付状態の終了条件を、第１Ｃボタン受付状態の終了条件と同じに設定したが、第１Ｃボタン受付状態の終了条件とは異なる条件として設定するようにしてもよい。

【６５４９】

なお、図１９６に示されるように、この例にかかる第３Ｃ刀受付状態では、その発生条件（条件３Ｃｋ）が、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」が発生しているなかで満たされうるものとして用意することとしている（図２０８（Ａ）を参照）。特に、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）については、「第１Ｃボタン受付状態」が発生しているときに限り、満たされうるものとして設定するようにしてもよい（この場合、「第２Ｃ刀受付状態」については、必ずしも発生していなくても満たされうることとなる）。

【６５５０】

このように、この例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、これに関連して、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性を有するものとなっている。

【６５５１】

より具体的には、まず、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れて、第１Ｃボタン受付状態が重複するかたちで発生する。次いで、図２０８（Ａ）に示されるように、「条件３Ｃｋ」が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況から変化しないままで、第３Ｃ刀受付状態がさらに重複するかたちで発生する。なお後述するが、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされたときに、図２０８（ａ）に示される演出状況が現れたとしても、「条件３Ｃｋ」が満たされるよりも前に、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）は必ず非表示の状態にされて図２０８（ａ）に示される演出状況が現れ

るようになっている。そして次に、図２０９（Ｂ）に示されるように、「条件１Ｃｋ」が満たされると、図２０９（ｇ）に示される演出状況が現れて、第１Ｃ刀受付状態がさらに重複するかたちで発生することとなる。

【６５５２】

このような構成によれば、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが操作を促す対象である「操作ボタン４１０」に対する操作受付の許容だけでなく、ボタン操作関連表示ＢＳＨが操作を促す対象である「操作ボタン４１０」とは異なる操作部（刀装飾体５００１）に対する操作受付の許容についても強く意識付けさせることができるから、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたときには、操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【６５５３】

なおこの例では、図２０９（ｇ）に示される演出状況が現れて第１Ｃ刀受付状態がさらに重複するかたちで発生した以降（タイミングｔＣａ３－１が到来した以降）は、まず、タイミングｔＣａ３－２が到来すると、図１９６（ｄ）及び図２０９（ｈ）に示されるように、これを契機として、第１Ｃ刀受付状態が終了するとともに、演出表示装置１６００において特定動画ＴＤにかかる表示を終了させる（図２０９（ｇ）に示される表示態様から、図２０９（ｈ）に示される表示態様への変化を生じさせる）。

【６５５４】

この演出例では、図２０９（ｈ）に示されるように、第１Ｃ刀受付状態の終了条件（条件１Ｃｋ）が満たされた場合は、これを契機として、特定動画ＴＤにかかる表示が終了されることに加えて、上記タイミングｔＣａ３－１が到来するときまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨや、敵キャラクタ画像ＴＣ１、味方キャラクタ画像ＭＣ１，ＭＣ２などが再び表示されるようになっている。

【６５５５】

そしてこの後、タイミングｔＣａ４が到来すると、図１９６及び図２０９（ｊ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態と第３Ｃ刀受付状態とがそれぞれ終了されるとともに、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることとなる。

【６５５６】

なお、図２０９（ｊ）に示される例では、タイミングｔＣａ４が到来すると、演出表示装置１６００において「ボタン演出終了」といった終了時表示が表示されるようにしているが、該終了時表示については、必ずしも表示しないようにしてもよい。また、敵キャラクタ画像ＴＣ１、味方キャラクタ画像ＭＣ１，ＭＣ２などについては、第１Ｃボタン受付状態内で現れた表示態様で表示されたままの状態としているが、これらの表示についても、必ずしも表示しなくてもよく、非表示にするようにしてもよい。

【６５５７】

なお、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、それぞれの区間（受付状態が重複する各区間）内で、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときや、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに生じる変化（受付後変化）については、後述することとする。

【６５５８】

また後述するが、この例にかかる第１Ｃボタン受付状態については、第２Ｃ刀受付状態との間では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで当該第１Ｃボタン受付状態が発生する場合があるだけでなく、当該第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで第２Ｃ刀受付状態が発生する場合もあるものとなっている。これに対し、上記第１Ｃ刀受付状態や上記第３Ｃ刀受付状態との間では、当該第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで上記第１Ｃ刀受付状態や上記第３Ｃ刀受付状態が発生する場合はあるものの、上記第１Ｃ刀受付状態や上記第３Ｃ刀受付状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで当該第１Ｃボタン受付状態が発生することがないものとして用意することとしている。

【６５５９】
特に、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態については、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみそれらの発生条件（条件１Ｃｋ、条件３Ｃｋ）が満たされて、且つ第１Ｃボタン受付状態と重複するかたちでのみ発生可能なものとして用意することとしている。なお、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態については、これとは異なる条件でそれぞれ発生可能とされるようにしてもよい。
【６５６０】
その他、この例にかかるパチンコ機１では、上述したが、図１９６（ｄ），（ｊ）や図２０９（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかで第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされると、これを契機として、当該第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかで特定動画ＴＤにかかる表示を開始させるものとなっている（タイミングｔＣａ３－１）。この特定動画ＴＤは、第１Ｃ刀受付状態の終了条件（条件３Ｃｋ）が満たされるときまで継続表示されるものとなっており、すなわち第１Ｃ刀受付状態の発生から終了まで表示されることとなる。この特定動画ＴＤは、刀装飾体５００１に対する操作を促す表示や、操作ボタン４１０に対する操作を促す表示を含まないものであることが望ましい。
【６５６１】
また、この例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｉ）及び図２０９（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで第１Ｃ刀受付状態が発生するときには（タイミングｔＣａ３－１）、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることは上述した通りである。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態が発生している途中の状況下にあるにもかかわらず、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることで、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）がこの時点（タイミングｔＣａ３－１）で終了したかのように見せることが可能であり、操作に関しての緊張感を好適に維持することが期待されうる。
【６５６２】
ただし、この例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｉ）及び図２０９（ｈ）に示されるように、第１Ｃ刀受付状態が終了すると（タイミングｔＣａ３－２）、これを契機として、ボタン操作関連表示ＢＳＨが再び表示されるようになっている。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態が発生している途中の状況下にあるにもかかわらず、ボタン操作関連表示ＢＳＨが一旦非表示にされた後、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが再び表示されることで、第１Ｃボタン受付状態が秘かに継続していたことを初心者でも気付き易くすることができるようになり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが一旦非表示にされることによる遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。
【６５６３】
また、この例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｋ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態などが発生しているなかでこれと重複するかたちで第１Ｃ刀受付状態が発生するときに（タイミングｔＣａ３－１）、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了してこれとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）に変更して発光演出を行うものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態が発生している途中の状況下にあるにもかかわらず（何らの操作受付もなされていないにもかかわらず）、特定発光部における発光演出の態様が変化することで、演出条件に何らかの変化が生じたことを遊技者に対して示唆することができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されうる。
【６５６４】
ただし、この例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｋ）に示されるように、第１Ｃ刀受付状態が終了すると（タイミングｔＣａ３－２）、これを契機として、特定発光部における発光態様が元の態様（第１Ａ発光）に戻されるようになっている。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態などが発生している途中の状況下にある

にもかかわらず、特定発光部における発光態様が変化した後、再び元の態様に戻されることで、演出条件に何らかの変化が生じた区間が終了した可能性を示唆することができるから、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態などが発生している間における緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６５６５】

なおこの例では、特定発光部における発光態様については、タイミングｔＣａ４が到来したときにこれを変化させることがないようにしたが、これに代えて、第１Ａ発光及び第１Ｂ発光のいずれとも異なる発光態様に変化させる発光演出を行うようにしてもよい。

【６５６６】

このように、この例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態などが発生しているなかで第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされるときには、遊技者が感知可能な様々な演出変化が現れるようになっている。ただし、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態などが発生しているなかで第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされるときには、該第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけで、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることがないようになっている（図２０８（Ａ）を参照）。

【６５６７】

すなわちこの場合、遊技者は、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでは、第１Ｃ刀受付状態がこれと重複して発生している状況下にあるか否かについては認識し易くされるが、第３Ｃ刀受付状態がこれと重複して発生している状況下にあるか否かについては認識し難くされることとなる。

【６５６８】

ただしこの例では、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）については、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）よりも早いタイミングで成立しうるようにした。したがって、遊技者は、第１Ｃ刀受付状態が発生したときには、第３Ｃ刀受付状態もさらに発生している状況下にある可能性を認識することが可能であるし、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた結果として、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化だけでなく、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化も現れたときには、もう少し時間が経過していたら第１Ｃ刀受付状態が発生していた可能性があったことを認識することが可能とされるようになる。

【６５６９】

ところで、この例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作を促す「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」については、該「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」が表示された時点において、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるとは限らないし、間もなく許容される状況下にあるとも限らないようになっており、すなわち「ガセ演出」として機能しうることは上述した。また、これも上述した通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングでは、第２Ｃ刀受付状態が既に発生している場合があるようになっている。

【６５７０】

この点、図１９６～図２１１に示される演出例とは、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【６５７１】

したがって、図１９６～図２１１に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングにおいては、図１９６（ｈ）や図２０８（ａ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が既に表示されている状況下にある場合があるようになっており、これによって刀装飾体５００１に対

する操作受付が複数回許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にある可能性（若しくは、間もなく許容される可能性）を遊技者に対して意識付けさせるようにしている。

【６５７２】

ただし上述の通り、「ガセ演出」として機能しうる刀操作関連表示ＫＳＨは、「第２Ｃ刀受付状態」において表示される場合と表示されない場合との両方があるものとなっている。したがって、図１９６～図２１１に示される第２Ｃ刀受付状態においても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングを含めて、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されている間、図１９６（ｈ）や図２０８（ｂ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨが全く表示されない場合もあるようになっており、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されることによる演出的価値（ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されると、その後、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性、すなわち刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることを示唆する演出性）を好適に提供するようにしている。

【６５７３】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｈ）や、図２０８（ａ），（ｂ）及び図２０９（ｇ）に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第１Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない場合（図２０８（ｂ）を参照）と、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合（図２０８（ａ）を参照）とのいずれの場合であっても、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したタイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」をそれぞれ発生可能としている。

【６５７４】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、図１９７（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第１Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されていた場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したとしても、該タイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」を発生させることがないものとなっている（図１９９に示される演出状況と同様の演出制限が現れる）。

【６５７５】

このような構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始（第１Ｃボタン受付状態が発生）されるときには、刀操作関連表示ＫＳＨの表示の有無や、その表示態様の種別に応じて、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」が発生する可能性があるか否かが示唆されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。特に、この実施例では、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかで、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」がさらに重複発生する可能性を示唆することができるから、操作に関しての遊技興趣をより一層向上させることが期待されるようになる。

【６５７６】

また、この例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第１Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合であっても、図１９８（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来する時点においても表示状態にあったときには「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。また、これと同様、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第１Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合であっても、図１

９８（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来する時点においても表示状態にあったときには「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【６５７７】

すなわちこの場合、図２０８及び図２０９に示される例では、図２０８（ａ）に示される演出状況が現れた後は、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来するよりも前に刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされた場合に限り、該タイミングｔＣａ２が到来したときに図２０８（Ａ）に示される条件３Ｃｋが成立することとなり、これによって「第３Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。また、これと同様、図２０８（ａ）に示される演出状況が現れた後は、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされた場合に限り、該タイミングｔＣａ３－１が到来したときに図２０９（Ｂ）に示される条件１Ｃｋが成立することとなり、これによって「第１Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。

【６５７８】

このような構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始（第１Ｃボタン受付状態の発生）に際して、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されていた場合はもとより、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合であっても、その表示状態が、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が本来発生すべきタイミング（タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１）が到来する時点においても維持されていたときは、該タイミングが到来したことを契機として「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがなくなるようになるから、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）で表示された場合も緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６５７９】

なお、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来する時点においても上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態にあったときには、該タイミングｔＣａ２において、「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないことはもとより、その後、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に該刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされたとしても、該タイミングｔＣａ３－１において、「第１Ｃ刀受付状態」が発生することもないようにしてもよい。

【６５８０】

また、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第１Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、図１９９（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間内で、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始されたときには、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１で、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【６５８１】

すなわちこの場合、図２０８及び図２０９に示される例では、図２０８（ｂ）に示される演出状況が現れた後は、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来するまでの間に刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始されなかった場合に限り、該タイミングｔＣａ２が到来したときに図２０８（Ａ）に示される条件３Ｃｋが成立することとなり、これによって「第３Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。また、これと同様、図２０８（ｂ）に示される演出状況が現れた後は、上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間に刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始されなかった場合に限り、該タイミングｔＣａ３－１が到来したときに図２０９（Ｂ）に示される条件１Ｃｋが成立することとなり、これによって「第１Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。

【６５８２】

このような構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始（第１Ｃボタン受付状

態の発生）に際して、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が本来発生すべきタイミング（タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１）が到来するよりも前に、刀操作関連表示ＫＳＨが新たに表示開始されてしまうと、その時点で、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」の発生可能性が消失するようになるから、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始（第１Ｃボタン受付状態の発生）に際して、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されなかったときも緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６５８３】

なお、図１９９に示される演出進展が現れたときには、刀操作関連表示ＫＳＨの表示状態が、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が本来発生すべきタイミング（タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１）まで継続したか否かにかかわらず、これらのタイミング（タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１）において「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないことは言うまでもない。

【６５８４】

また、この実施例では、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングｔＣａ１においては、刀操作関連表示ＫＳＨが、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として既に表示されている場合があるようにしたが、これに代えて、該タイミングｔＣａ１においては、刀操作関連表示ＫＳＨが、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されていることがないようにしてもよい。例えば、第１Ｃボタン受付状態とは異なる、後述する種別のボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングにおいては、刀操作関連表示ＫＳＨが、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として既に表示されている場合はあるようにする。これに対し、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングにおいては、刀操作関連表示ＫＳＨが、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として既に表示されていることがないようにしてもよい。

【６５８５】

また後述するが、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして複数の表示態様（ここでは、複数の配色）を用意しており、該ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、それら表示態様のいずれか１つとして表示するものとなっている。ただし、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、複数の表示態様のうち「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされるようにしている。

【６５８６】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）には、「第１Ｃ刀受付状態」が発生するのに合わせて上記特定動画ＴＤにかかる表示が開始されるようになっている。ただし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に「第１Ｃ刀受付状態」が発生しない場合は、図１９７～図１９９などに示されるように、該タイミングｔＣａ３－１において特定動画ＴＤにかかる表示も開始されない（開始条件が成立しない）ようにしている。

【６５８７】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）には、「第１Ｃ刀受付状態」が発生するのに合わせて該ボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にするようになっている。ただし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に「第１Ｃ刀受付状態」が発生しない場合は、図１９７～図１９９などに示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続するようになっている。

【６５８８】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示

開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）には、「第１Ｃ刀受付状態」が発生するのに合わせて特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させて、これとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）を開始させるようになっている。ただし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に「第１Ｃ刀受付状態」が発生しない場合は、図１９７～図１９９などに示されるように、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。

【６５８９】

このように、当該パチンコ機１にあって、まず、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた条件（予め定められた時間が経過することや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされること）が成立したときに「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が成立する可能性がある場合（演出パターン）とは、図２０８（ａ），（ｂ）に示されるように、当該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であり、該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２で表示されている状況下にある場合ではない。

【６５９０】

したがって、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときに、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況が現れているときには、遊技者は、ボタン操作関連表示ＢＳＨによって操作が促されない操作部（刀装飾体５００１）に関しても操作受付が許容される（第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態がさらに発生する）ことを期待することができるようになる。

【６５９１】

特に、この実施例にかかるパチンコ機１では、まず、図２０８（Ａ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したときには、該タイミングｔＣａ２が到来したこと（条件３Ｃｋが成立したこと）を契機として、第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで発生することに加えて、図２０９（Ｂ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したときには、該タイミングｔＣａ３－１が到来したこと（条件１Ｃｋが成立したこと）を契機として、第１Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態と重複するかたちでさらに発生するようになっているから、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたときには、該ボタン操作関連表示ＢＳＨによって操作が促されない操作部（刀装飾体５００１）に関しての遊技興趣をより好適に向上させることが期待されるようになる。

【６５９２】

ただし上述の通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過するまでの間に、刀操作関連表示ＫＳＨが新たに表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過する時点において刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態にあったりしたときは、上記タイミングｔＣａ２が到来したとしても上記条件３Ｃｋが成立することはない（第３Ｃ刀受付状態が発生することはない）。また、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、刀操作関連表示ＫＳＨが新たに表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過する時点において刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態にあったりしたときには、タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても上記条件１Ｃｋが成立することがない（第１Ｃ刀受付状態が発生することがない）。

【６５９３】

したがって、遊技者は、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況が現れたときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが新たに表示されるか否かや、刀操作関連表示ＫＳＨが早い段階で非表示にされるか否かを注視す

るようになるから、何ら操作を行わずとも、操作に関しての遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【６５９４】

この点、この例にかかるパチンコ機１では、上記条件３Ｃｋが成立したときには、第３Ｃ刀受付状態を発生させることを除けば、何らの演出変化も生じさせないのに対し（図２０８（Ａ），（ａ），（ｂ）を参照）、上記条件１Ｃｋが成立したときには、第１Ｃ刀受付状態が発生することのほか、これを契機として、演出表示装置１６００において特定動画ＴＤを表示開始させたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨを表示状態から非表示状態にしたりするなどの演出変化を生じさせるものとなっている（図２０９（Ｂ），（ｇ）を参照）。

【６５９５】

特に、この例にかかるパチンコ機１では、特定動画ＴＤが表示されている期間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）内では、第１Ｃ刀受付状態と第１Ｃボタン受付状態とが重複するかたちで発生している状況が現れるようにしている。すなわちこの場合、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況が現れたときには、遊技者は、特定動画ＴＤが表示されるか否かを注視するようになるから、何ら操作を行わずとも遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。

【６５９６】

また後述するが、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された以降、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化を生じさせた場合（この例では、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化も生じることとなる）には、その後、タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても上記条件１Ｃｋが成立することがない（第１Ｃ刀受付状態が発生することがない）ようにしており、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが操作を促す対象とは異なる操作部を操作することに関しての緊張感を好適に維持することができるようになる。なおこの場合、タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても特定動画ＴＤが開始されることがないことは言うまでもない。

【６５９７】

ただし、この例にかかるパチンコ機１において、「ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された以降、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて上記第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化が生じた場合（この例では、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化も生じることとなる）」とは、仮に、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に刀装飾体５００１に対する操作受付がなされていなかったとしたら（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化を生じさせていなかったとしたら）、タイミングｔＣａ３－１が到来したときに上記条件１Ｃｋが成立していたことを意味することとなる。換言すると、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に、刀装飾体５００１に対する操作受付が仮になされていなかったとしたら、「タイミングｔＣａ３－１が到来したときには、第１Ｃ刀受付状態が発生するとともに、特定動画ＴＤが開始されていた」ことを意味することとなる。

【６５９８】

このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生している可能性を意識して、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから早い段階で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるようにしてしまうと、第１Ｃ刀受付状態が発生する機会や、特定動画ＴＤが表示される機会を喪失する可能性があることを遊技者に対して認識させることができるから、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６５９９】

なおこの例では、特定動画ＴＤが表示されている期間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）内では、第１Ｃ刀受付状態及び第１Ｃボタン受付状態だけでなく、上記

第３Ｃ刀受付状態についても、これらの受付状態と重複するかたちで発生するようにしているが、該第３Ｃ刀受付状態については、当該期間内で発生している状況下にある場合と発生していない状況下にある場合との両方があるようにしてもよい。特定動画ＴＤが表示されている期間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）内で第３Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にある場合とは、「タイミングｔＣａ２が到来したときに上記条件３Ｃｋが成立しなかったが、タイミングｔＣａ３－１が到来したときには上記条件１Ｃｋが成立した場合」などとして実現することが可能である。また、第３Ｃ刀受付状態については、必ずしも備えなくてもよい。

【６６００】

そしてこの例では、図２０８（ｄ）に示されるように、第１Ｃ刀受付状態は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間が経過したタイミングｔＣａ３－２が到来すると、その終了条件が満たされて終了するようになっている。特定動画ＴＤについても、該タイミングｔＣａ３－２が到来したときにその終了条件が満たされて非表示にされるようになっており、これによって演出表示装置１６００においては当該特定動画ＴＤが開始される前の演出画面に戻されるようになっている（図２０９（ｈ）に示される演出状況）。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨは再び表示されることとなる。これにより、遊技者は、第１Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態と重複するかたちで発生していた状況が終了したことを認識することができるようになる。

【６６０１】

なお、第２Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態、第１Ｃボタン受付状態については、図２０８（ｅ），（ｆ），（ｇ）に示されるように、タイミングｔＣａ３－２が到来しても、それらの終了条件が満たされず、継続するようになっている。

【６６０２】

そしてこの例では、タイミングｔＣａ４が到来すると、図１９６（ｆ），（ｇ）に示されるように、第３Ｃ刀受付状態及び第１Ｃボタン受付状態が、それらの終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよい。

【６６０３】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【６６０４】

図２００は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６６０５】

すなわち、図２００に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２０８（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２０８（ｇ１）へと演出進展する場合）を想定している。

【６６０６】

図２００に示される例を説明するにあたり、まず、この実施例にかかるパチンコ機１に

おいて、刀装飾体５００１に対して操作が行われたときに得られる検出情報についての説明を行っておくこととする。

【６６０７】

すなわち、この実施例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、該刀装飾体５００１は、「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するが、この際、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（図２００（ａ）に示される第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位している状態にあることを示す検出情報（図２００（ｂ）に示される第２Ｃ刀操作検出情報）と、をそれぞれ取得するものとなっている。

【６６０８】

なお、第１Ｃ刀操作検出情報については、例えば、静電容量式など、周知のタッチ（非接触）センサを用いて取得することが可能であり、第２Ｃ刀操作検出情報については、例えば、圧力式や光検出式など、押ボタンタイプに用いられる周知のセンサを用いて取得することが可能である。

【６６０９】

したがって、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、図２００に示されるように、まず、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される。そして次に、該タイミングｔＣａ１Ａａから少し遅れたタイミングｔＣａ１Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ１Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる。

【６６１０】

この点、図２００（ｄ）～（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂにおいては、上記刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態としては「第２Ｃ刀受付状態」のみが発生している状況下にあるが、該「第２Ｃ刀受付状態」とは、上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとなっている。

【６６１１】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【６６１２】

したがって、図２００に示される例では、タイミングｔＣａ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【６６１３】

この点、図２００に示される例においても、図１９６に示した例の場合と同様、図２００（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作

ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【６６１４】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあるが、当該「図２００に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２００に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６６１５】

すなわちこの例とは、図２００（ｅ），（ｈ）に示されるように、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、若しくはタイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている（図２０８（ａ）または（ｂ）→図２０８（ｇ１）に示される演出進展）。

【６６１６】

なお上述の通り、図２０８及び図２０９に示される例では、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【６６１７】

また、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。

【６６１８】

また、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。

【６６１９】

すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。なお、図１９７に示した例において、第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている

なかで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされる場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることがないし、上記第２Ｃ刀受付状態についても、該操作受付を契機として終了されることがないようにすることが望ましい。

【６６２０】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６６２１】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６６２２】

この点、図２００（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【６６２３】

したがって、この例では、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ１ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣａ１Ａｂからタイミングｔ Ｃａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。

【６６２４】

すなわちこの場合、図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況が現れているときに、上述のオート連打機能が働き出してこれがタイミングｔＣａ１Ａｂからタイミングｔ Ｃａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって機能することとなる。なお、この例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、こうしてオート連打機能が機能している間は、刀装飾体５００１に対する操作受付が一定の間隔毎になされることとなる。そして、該操作受付がなされる都度、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示されるように、第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が順次に表示されることとなる。例えば、図２０８（ｇ１）が、刀装飾体５００１に対して１度目の操作受付がなされたときに現れる態様Ｃ２ａを示しており、図２０８（ｇ２）が、刀装飾体５００１に対して２度目の操作受付がなされたときに現れる態様Ｃ２ｂを示しており、図２０８（ｇ３）が、刀装飾体５００１に対して３度目の操作受付がなされたときに現れる態様Ｃ２ｃを示している。

【６６２５】

ここで、こうしてオート連打機能が働いているときに順次に現れる「敵キャラクタに対する剣攻撃」については、例えば、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される「３回分の操作受付に応じた剣攻撃」を「１セット分の剣攻撃」とするとき、オート連打機能によって刀装飾体５００１に対する操作受付が順次になされていくなかで「１セット分の剣攻撃」が全て（ここでは、３回分）終了する都度、「１セット分の剣攻撃」のうちの最初の剣攻撃（１回目の攻撃）からやり直すかたちで、剣攻撃をセット単位で繰り返し実行させるようにすることで（繰り返しの態様）、これを実現するようにしてもよい。

【６６２６】

なお仮に、こうして「１セット分の剣攻撃」が実行されているなかで、「刀装飾体５０

０１に対する操作」が終了されたときは、オート連打機能が働かず、新たな操作受付がなされないこととなる。したがって、「刀装飾体５００１に対する操作」が終了された時点で実行途中の状態にあった態様（Ｃ２ａ～Ｃ２ｃのいずれか）については、その実行時間分だけこれを表示するが、その後は、図２０８（ｈ）に示されるように、こうして「繰り返しの態様」が現れる前の表示画面（演出態様）に戻されることとなる。

【６６２７】

ちなみに、この例では、「図２０８（ｈ）に示される表示画面」を、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされるよりも前の「図２０８（ｂ）に示される表示画面」と同じ表示画面として設定することとしたが、これに代えて、例えば、敵キャラクタＴＣ１として複数の態様を用意しておき、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるなかで、演出進展する都度（演出期待度が高くなる都度）、敵キャラクタＴＣ１として別の態様が現れるようにして、該現れた別の態様が、上記「図２０８（ｈ）に示される表示画面」内に現れるようにしてもよい。

【６６２８】

そして上述の通り、この例では、タイミングｔＣａ１ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われる場合を想定したものとなっている。

【６６２９】

ただしこの例では、図２００（ａ）、（ｂ），（ｄ）に、図１９６（ａ）、（ｂ），（ｄ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にあるときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。

【６６３０】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、いわゆるオート連打機能によって「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６６３１】

またこの例では、図２００（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図１９６（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にあるときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）ようにしている。

【６６３２】

また上述の通り、図２００（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図１９６（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にあるときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その

表示状態を継続するようになっている。
【６６３３】
　また上述の通り、図２００（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図１９６（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にあるときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。
【６６３４】
　したがって、図２００に示される例では、タイミングｔＣａ１Ａｂから働いているオート連打機能によって現れている、第２Ｃ刀変化としての「繰り返しの態様（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される態様）」は、図２０８に示される「Ａ３」から図２０９に示される「Ａ３」を経て、「刀装飾体５００１に対する操作」が、例えば、図２０９（Ｃ）で操作終了されるときまで、特定動画ＴＤにかかる表示などが開始されることがないままで実行されることとなる（図２００（ｉ）～（ｋ），（ｍ）を参照）。そして、こうして「刀装飾体５００１に対する操作」が終了されると、該終了された時点で実行途中の状態にあった態様（Ｃ２ａ～Ｃ２ｃのいずれか）については、その実行時間分だけこれを表示するが、その後は、図２０８（ｈ）などに示される表示画面が現れることとなる。
【６６３５】
　そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２００（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。
【６６３６】
　またこの例では、図２００（ａ）、（ｂ），（ｆ）に、図１９６（ａ）、（ｂ），（ｆ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にあるときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。
【６６３７】
　このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ２」までの時間よりも長い時間にわたって、いわゆるオート連打機能によって「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【６６３８】
　したがって、図２００に示される例では、まず、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」が継続されている間は、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する第２Ｃ刀変化としての「繰り返しの態様（図２

０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される態様）が表示されるだけであり、「第３Ｃ刀受付状態」に対応する「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されることはない。また、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」が終了した以降、上記タイミングｔＣａ４が到来するよりも前の、例えば、図２０９（Ｄ）に示されるタイミングで、刀装飾体５００１に対する押下操作を再び行ったとしても、これを契機として、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する第２Ｃ刀変化（としての「繰り返しの態様（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される態様）」が再び現れるだけであり、「第３Ｃ刀受付状態」に対応する「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が表示されることはない。

【６６３９】

この例は、図２００（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する接触操作（第１Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣａＸｂで終了し、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣａＸａで終了した場合を想定したものとなっている。

【６６４０】

ここで、第１Ｃボタン受付状態においては、図２００（ｍ）などに示されるように、タイミングｔＣａＸａにおいて刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、タイミングｔＣａＸｂ以降も（刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第２Ｃ刀変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【６６４１】

このような構成によれば、刀装飾体５００１の操作状態を終了してオート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第２Ｃ刀変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該第１Ｃボタン受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【６６４２】

図２０１は、このような図１９６や図２００に示した演出例を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から開始させたオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）を、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するよりも前のタイミングで終了させた場合（刀装飾体５００１に対する操作を終了した場合）を想定した演出内容を示すタイムチャートである。

【６６４３】

図２０１に示される例も、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２０８（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（ｈ）へと演出進展する場合）を想定したものになっている。

【６６４４】

ここで、図２０１を、図２００と併せて見ると明らかであるように、「図２０１に示される例」は、上述した「図２００に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２００に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６６４５】

すなわち、図２０１に示される例とは、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から開始させたオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）を、上記「タイミングｔＣａ

２」が到来するよりも前のタイミングで終了させた場合（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況から、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）へと演出進展した後、図２０８［Ｅ］に示される操作終了を経て、図２０８（ｈ）へと演出進展する場合）を想定したものとなっている。なおこの場合、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においては、図２０１（ａ），（ｂ）に示されるように、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることや、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは明らかである。

【６６４６】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２０１（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されて、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況」が一度でも現れたときには（図２０８（ｇ１～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れたときには）、その後、（上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点において上記「第１Ｃ刀操作検出情報」と上記「第２Ｃ刀操作検出情報」とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況」にあったとしても、）「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件（図２０９（ｇ）に示される演出状況が現れる条件）が満たされることがないようになっている。

【６６４７】

すなわちこの場合、図２０１に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来したとしても、図２０９（ｇ）に示される演出状況（特定動画ＴＤが表示される状況）が現れることがなく、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に操作終了したときに現れていた「図２０８（ｈ）に示される演出状況」のままで継続されていることとなる（図２０９（ｋ）を参照）。

【６６４８】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合（図２０８（ｂ）を参照）か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合（図２０８（ａ）を参照）であったとしても、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能を１度でも有効化させるようなことがあると（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れると）、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態（図２０９（ｇ）に示される演出状況）」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６６４９】

なおこの例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況が現れたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにした。ただしこれに代えて、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を１回でも生じさせたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにし

てもよい。若しくは、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせたか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【６６５０】

これらの構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なる操作対象（刀装飾体５００１）に対して操作を行うときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。特に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られるだけでも、「第１Ｃ刀受付状態」が発生しないようにしたときには、遊技者が、刀装飾体５００１を操作すべきかの葛藤に悩んだ結果として、刀装飾体５００１を接触することはしたものの、該刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させる操作を行わなかった場合であっても、これを葛藤したことに対してのペナルティが付与されることとなるから、遊技者に対して演出的な戦略性をよりシビアに求めることができるようになり、これまでになかったリアルな演出感を提供することができるようになる。

【６６５１】

また上述の通り、この例では、図２０１（ｉ），（ｊ），（ｋ）や、図２０９（ｋ）などに示されるように、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されないが、この際、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）についてもこれを終了せずに継続することについては、図２００を参照しつつ上述した例の場合と同様である。

【６６５２】

また、図２０１（ｍ）などに示されるように、刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもないこと、すなわち実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されるようになっていることについても、図２００を参照しつつ上述した例と同様である。

【６６５３】

またこの例では、図２０１（ａ），（ｂ）などに示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点においては、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることや、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは明らかである。

【６６５４】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２０１（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報とがいずれも取得されて、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況」が一度でも現れたときには（図２０８（ｇ１～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れたときには）、その後、（上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点において上記「第１Ｃ刀操作検出情報」と上記「第２Ｃ刀操作検出情報」とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況」にあったとしても、「タイミングｔＣａ２」が

到来したときに）「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件（図２０８（Ａ）に示される条件３Ｃｋ）が満たされることがないようになっている。

【６６５５】

すなわちこの場合、図２０１及び図２０８に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来したとしても、「図２０８（Ａ）に示される条件３Ｃｋ」が成立することがなく、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に操作終了した（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況から、図２０８（ｈ）に示される演出状況へと演出進展した）ときに現れていた「図２０８（ｈ）に示される演出状況」のままで継続されていることとなる。

【６６５６】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能を１度でも有効化させるようなことがあると（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れると）、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６６５７】

なおこの例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況が現れたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにした。ただしこれに代えて、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を１回でも生じさせたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。若しくは、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせたか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【６６５８】

これらの構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なる操作対象（刀装飾体５００１）に対して操作を行うときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。特に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られるだけでも、「第３Ｃ刀受付状態」が発生しないようにしたときには、遊技者が、刀装飾体５００１を操作すべきかの葛藤に悩んだ結果として、刀装飾体５００１を接触することはしたものの、該刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させる操作を行わなかった場合であっても、これを葛藤したことに対してのペナルティが付与されることとなるから、遊技者に対して演出的な戦略性をよりシビアに求めることができるようになり、これまでになかったリアルな演出感を提供することができるようになる。

【６６５９】

ただし、上記第１Ｃ刀操作検出情報が得られたことによって、「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」が発生しなくなったとしても、「第３Ｃ刀受付状態」が発生する場合と比較して、遊技者が感知可能な演出的な違いは何も生じないから、

緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【６６６０】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２０１（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６６６１】

図２０２は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６６６２】

図２０２に示される例においても、図１９６や、図２００、図２０１に示した例の場合と同様、図２０２（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【６６６３】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあるが、当該「図２０２に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２０２に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６６６４】

すなわち、図２０２に示される演出例とは、「第３Ｃ刀受付状態」が、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作を維持させる操作が行われてオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）が開始された場合（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況において図２０８（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立した後、図２０８（ｅ）へと演出進展してから、図２０８（ｆ１）～（ｆ３）に示される演出状況へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。

【６６６５】

まず、この場合は、図２０２（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点（図２０８（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立した時点）においては、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ

刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されていない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ２」が到来した時点において、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。

【６６６６】

特に、この例では、図２０２（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ２」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。

【６６６７】

したがって、図２０２に示される例では、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過した「タイミングｔＣａ２」が到来したときに、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２０８（Ａ）に示される状況）。なおこの際は、上述したが、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることはなく、第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけである。

【６６６８】

ところで、この実施例にかかるパチンコ機１にあって、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合、該刀装飾体５００１は、「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位することとなるが、この際、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（図２００（ａ）に示される第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（図２００（ｂ）に示される第２Ｃ刀操作検出情報）と、がそれぞれ取得されるようになっていることは上述した通りである。

【６６６９】

したがって、図２０２に示される例では、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間で上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、まず、タイミングｔＣａ２Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される（図２０２（ａ）を参照）。そして次に、該タイミングｔＣａ２Ａａから少し遅れたタイミングｔＣａ２Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ２Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる（図２０２（ｂ）を参照）。

【６６７０】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第２Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプであり、且つオート連打機能の対象とされる受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものである。これに対し、「第３Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第３Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第３Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）」として発生するものである。

【６６７１】
なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるようにしてもよい。
【６６７２】
また、図２０２に示される例において、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間では、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生していることも上述した（図２０８（Ａ）に示される状況）。
【６６７３】
そうすると、図２０２に示される例では、まず、タイミングｔＣａ２Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」が生じる（図２０２（ｎ）を参照）。またこの際、「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機として終了されることとなる（図２０２（ｆ）を参照）。
【６６７４】
より具体的には、図２０８に示されるように、図２０８（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立した以降、図２０８（Ｆ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、図２０８（ｅ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる（図２０８（ｂ）→（ｅ）に示される演出進展に相当）。ただし上述の通り、「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【６６７５】
そして次に、図２０２に示される例では、タイミングｔＣａ２Ａａから少し遅れたタイミングｔＣａ２Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ２Ａａから遅れたタイミング）において上記第２Ｃ刀操作検出情報が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対する押下げ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。
【６６７６】
より具体的には、図２０８（ｅ）→（ｆ１）への演出進展として示されるように、図２０８（Ｆ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機とした「第３Ｃ刀受付状態に対応する第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が表示されているなかで、図２０８（Ｇ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）が行われたときには、これを契機として、図２０８（ｆ１）に示されるように、「「第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（ここでは、第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が実行されることとなる。この演出例にかかる第２Ｃ刀変化では、その１つとして第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されるが、該「第２Ｃ刀変化」についても、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【６６７７】
なおこの際、上記「第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、図２０８（Ｇ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を契機として非実行の状態にされることはなく、該操作の有無にかかわらず、予め定められた実行時間分だけ実行されるようになっている。
【６６７８】

またこの際、図２０８（Ｇ）で開始した押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を継続することで、当該「第２Ｃ刀受付状態」では、図２０８（ｆ１）～（ｆ３）に示されるように、オート連打機能が働いて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされることとなり、これによって「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が実行されているなかで、第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が該操作受付がなされた回数分だけ実行されることとなる。なお上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じることとなる。

【６６７９】

また、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、その実行時間が比較的短い時間となっている。したがって、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、図２０８（ｆ１）～（ｆ３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が複数回実行されているなかで、非実行の状態にされることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」は、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）を参照しつつ上述した態様（第３Ｃ刀変化が非実行の態様）で継続して実行されることとなる。なおこの際、図２０８（Ｄ２）で押下げ操作を終了すると、図２０８（ｈ）に示されるように、このような「繰り返しの態様」が現れる前の表示画面（演出態様）に戻されることとなる。

【６６８０】

ただし上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を、上記「タイミングｔＣａ３－１」を跨るかたちで継続させて、且つこれに応じた「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下（オート連打機能が働いている状況下）にあるときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている（図２０２（ａ）、（ｂ），（ｄ）を参照）。

【６６８１】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、「タイミングｔＣａ２Ａｂ」で開始させたオート連打機能によって上記「タイミングｔＣａ３－１」を跨るかたちで「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６６８２】

特に、この実施例では、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）とがいずれも取得されて、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況」が現れたときには、その後、「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに（上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況にあったとしても）、「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないことは上述した通りである。

【６６８３】

したがって、図２０２に示される例においては、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの間に終了させ、これによって上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点において「刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報と、刀装飾体５００１が「図１２４

（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況」が現れるようにしたとしても、該「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」が発生することはない。

【６６８４】

ただしその一方で、「上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたときに、これを契機として、上記第１Ｃ刀変化は生じなかったが、上記第３Ｃ刀変化は生じた場合」とは、上述した「第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性」が現れていたことを遊技者に対して示唆させるものとなっている。すなわちこの場合、もし仮に、刀装飾体５００１に対する操作受付を行わないままで、もう少し時間が経過するのを待っていたとしたら、第１Ｃ刀受付状態の発生条件が満たされて、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態がそれぞれ重複するかたちで発生していたことを、遊技者は認識することとなる。

【６６８５】

このような構成では、遊技者が、上述した「連続的な演出関係性」を実際に楽しむことはできなかったものの、そうした演出条件は満たされていたことを認識することができるから、（刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていないときに）刀装飾体５００１に対して操作を行うことに対する緊張感を好適に維持するようにしつつも、遊技興趣の低下を好適に抑制することが期待されるようになる。

【６６８６】

上述の通り、図２０２に示される例では、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が、図２０８（ｆ１）～（ｆ３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で実行されるから、それ以降、図２０９（Ｃ），（Ｄ），（Ｅ），（Ｆ）などに示されるように、刀装飾体５００１をどれだけ操作したり、非操作にしたりしたとしても、第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化が実行されることはない。

【６６８７】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２０２（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６６８８】

なおこの例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況が現れたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにした。ただしこれに代えて、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を１回でも生じさせたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。若しくは、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせたか否かにか

かわらず、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【６６８９】

これらの構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なる操作対象（刀装飾体５００１）に対して操作を行うときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。特に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られるだけでも、「第１Ｃ刀受付状態」が発生しないようにしたときには、遊技者が、刀装飾体５００１を操作すべきかの葛藤に悩んだ結果として、刀装飾体５００１を接触することはしたものの、該刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させる操作を行わなかった場合であっても、これを葛藤したことに対してのペナルティが付与されることとなるから、遊技者に対して演出的な戦略性をよりシビアに求めることができるようになり、これまでになかったリアルな演出感を提供することができるようになる。

【６６９０】

そしてこの場合、図２０２（ｉ），（ｊ），（ｋ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されず（開始条件が成立せず）、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了しないことについては、図２００や図２０１を参照しつつ上述した例の場合と同様である。

【６６９１】

また、図２０２（ｍ）などに示されるように、刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもないこと、すなわち実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されるようになっていることについても、図２００や図２０１を参照しつつ上述した例の場合と同様である。

【６６９２】

図２０３は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６６９３】

図２０３に示される例においても、図１９６や、図２００～図２０２に示した例の場合と同様、図２０３（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【６６９４】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあるが、当該「図２０３に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２０３に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」、「図２０２

に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」、「図２０２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６６９５】

すなわち、図２０３に示される演出例とは、「第３Ｃ刀受付状態」が、上記「タイミングｔＣａ２」において「第１Ｃボタン受付状態」や「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生した後の期間のうち、「第１Ｃ刀受付状態が、上記「タイミングｔＣａ３－１」において、これらの受付状態と重複するかたちでさらに発生してから、上記「タイミングｔＣａ３－２」が到来するまでの間」で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作を維持させる操作が行われてオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）が開始された場合（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況において、図２０８（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立して、さらに、図２０９（Ｂ）に示される「条件１Ｃｋ」が成立した後、図２０９（ｄ）へと演出進展してから、図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示される演出状況へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。

【６６９６】

まず、この場合は、図２０３（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点においては、図２０２に示した例の場合と同様、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されていない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ２」が到来した時点において、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。

【６６９７】

特に、この例では、図２０３（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ２」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。

【６６９８】

したがって、図２０３に示される例でも、図２０２に示される例の場合と同様、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過した「タイミングｔＣａ２」が到来したときには、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２０８（Ａ）に示される状況）。またこの際、該第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけで、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることがないことも上述した通りである。

【６６９９】

ただし、図２０３に示される例では、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においても、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においても、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。

【６７００】

特に、この例では、図２０３（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。

【６７０１】
したがって、図２０３に示される例では、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときには、該タイミングが到来したことを契機として（「条件１Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２０９（Ｂ）に示される状況）。
【６７０２】
ただし上述の通り、こうして第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされたときには、図２０３（ｉ）～（ｋ）に示されるように、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされたときとは異なり、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されたり、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了してこれとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）に変更される発光演出が実行されたりするなど、遊技者が感知可能な演出変化が多種多様に実行されるようになっている。
【６７０３】
そして上述の通り、図２０３に示される例とは、「第１Ｃ刀受付状態」が、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちでこうして発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作を維持させる操作が行われてオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）が開始された場合を想定したものとなっている。
【６７０４】
ところで、この実施例にかかるパチンコ機１にあって、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合、該刀装飾体５００１は、「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位することとなるが、この際、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（図２００（ａ）に示される第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（図２００（ｂ）に示される第２Ｃ刀操作検出情報）と、がそれぞれ取得されるようになっていることは上述した通りである。
【６７０５】
したがって、図２０３に示される例では、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間で上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、まず、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される（図２０３（ａ）を参照）。そして次に、該タイミングｔＣａ３Ａａから少し遅れたタイミングｔＣａ３Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ３Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる（図２０３（ｂ）を参照）。
【６７０６】
この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第２Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプであり、且つオート連打機能の対象とされる受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものである。これに対し、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られた

ことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第１Ｃ刀変化、第３Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）」として発生するものである。

【６７０７】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるようにしてもよい。

【６７０８】

また、図２０３に示される例において、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間では、「第１Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生していることも上述した（図２０９（Ｂ）に示される状況）。

【６７０９】

そうすると、図２０３に示される例では、まず、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第１Ｃ刀変化」と上記「第３Ｃ刀変化」とがそれぞれ生じる（図２０３（ｌ），（ｎ）を参照）。またこの際、「第１Ｃ刀受付状態」及び「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機としてそれぞれ終了されることとなる（図２０３（ｄ），（ｆ）を参照）。

【６７１０】

より具体的には、図２０９に示されるように、図２０９（Ｂ）に示される「条件１Ｃｋ」が成立した以降、図２０９（Ｇ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、図２０９（ｄ）に示されるように、上記「第１Ｃ刀変化」の１つとして、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（雷が落ちている画像表示）が１回だけ表示されるとともに、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる（図２０９（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展に相当）。ただし上述の通り、「第１Ｃ刀変化」や「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【６７１１】

またさらに、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたときには、図２０３（ｉ）～（ｋ）や、図２０９（ｇ）→（ｄ）に示されるように、これを契機として、特定動画ＴＤにかかる表示を終了させるとともに、特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる。また、特定動画ＴＤの表示区間内において特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出を実行させることとなる。

【６７１２】

なお、この演出例では、「第１Ｃ刀変化」の１つとして、「雷が落ちている画像表示（図２０９（ｄ）を参照）」を表示させており、該「雷が落ちている画像表示（図２０９（ｄ）を参照）」については、当該「第１Ｃ刀受付状態」が終了した以降もその表示状態を継続可能なものとするようにしている。ただし、該「第１Ｃ刀変化」の１つとして、このような新たな表示は必ずしも表示しなくてもよい。例えば、「特定動画ＴＤにかかる表示を終了させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において特

定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出」なども、「第１Ｃ刀変化」の１つとして実行されている変化と言える。

【６７１３】

そして次に、図２０３に示される例では、タイミングｔＣａ３Ａａから少し遅れたタイミングｔＣａ３Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ３Ａａから遅れたタイミング）において上記第２Ｃ刀操作検出情報が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対する押下げ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【６７１４】

より具体的には、図２０９（ｄ）→（ｅ１）への演出進展として示されるように、図２０９（Ｇ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機とした「第１Ｃ刀受付状態に対応する第１Ｃ刀変化（ここでは、第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」と「第３Ｃ刀受付状態に対応する第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」とがそれぞれ表示されているなかで、図２０９（Ｈ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）が行われたときには、これを契機として、図２０９（ｅ１）に示されるように、「第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（ここでは、第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が実行されることとなる。この演出例にかかる第２Ｃ刀変化では、その１つとして第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されるが、該「第２Ｃ刀変化」についても、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【６７１５】

なおこの際、上記「第１Ｃ刀変化（ここでは、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（雷が落ちている画像表示））」や、上記「第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、図２０９（Ｈ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を契機として非実行の状態にされることはなく、該操作の有無にかかわらず、予め定められた実行時間分だけ実行されるようになっている。

【６７１６】

またこの際、図２０９（Ｈ）で開始した押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を継続することで、当該「第２Ｃ刀受付状態」では、図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示されるように、オート連打機能が働いて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされることとなり、これによって「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」や「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が実行されているなかで、第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が該操作受付がなされた回数分だけ実行されることとなる。なお上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、図２０３（ａ），（ｅ），（ｍ）に示されるように、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じることとなる（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６７１７】

ただし、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、その実行時間が比較的短い時間となっている。したがって、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が複数回実行されているなかで、非実行の状態にされることとなる。

【６７１８】

これに対し、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は、その実行時間が比較的長い時間となっており、「第１Ｃボタン受付状態」において、図２０９（ｅ１）～（ｅ

３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が複数回実行されているなかでは、非実行の状態にされることがないようになっている。

【６７１９】

したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」がオート連打機能によって複数回生じているなかでは、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」及び「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のうち、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のみが非実行の状態にされることとなる。そしてそれ以降は、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」及び「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のうち、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」のみが表示されているなかで「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」がオート連打機能によって複数回生じるようになる。

【６７２０】

また、「第１Ｃボタン受付状態」において、このような状況下で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」がオート連打機能によって複数回生じているなかで、図２０９（Ｉ）で押下げ操作を終了（操作終了）すると、図２０９（ｃ）に示されるように、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が新たに実行されることはなくなり、非実行の状態にされることとなる。なお、この時点においても、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は実行状態を維持するようになっている（図２０９（ｃ）を参照）。

【６７２１】

ただしこの際、図２０３（ｍ）などに示されるように、刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らかの変化を生じさせることもない。すなわち、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されるようになっていることについては、図２００～図２０２を参照しつつ上述した例と同様である。

【６７２２】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２０３（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｆ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｆ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６７２３】

図２０４は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６７２４】

図２０４に示される例においても、図１９６や、図２００～図２０３に示した例の場合と同様、図２０４（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【６７２５】
なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあるが、当該「図２０４に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２０４に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」、「図２０２に示した例」、「図２０３に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」や、「図２００に示した例」、「図２０１に示した例」、「図２０２に示した例」、「図２０３に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【６７２６】
すなわち、図２０４に示される演出例とは、「第３Ｃ刀受付状態」が、上記「タイミングｔＣａ２」において「第１Ｃボタン受付状態」や「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生し、且つ第１Ｃ刀受付状態が、上記「タイミングｔＣａ３－１」において、「第１Ｃボタン受付状態」や「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちでさらに発生した後の期間のうち、「第１Ｃ刀受付状態が、上記「タイミングｔＣａ３－２」において終了してから、上記「タイミングｔＣａ４」が到来するまでの間」で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作を維持させる操作が行われてオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）が開始された場合（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況において、図２０８（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立するとともに、図２０９（Ｂ）に示される「条件１Ｃｋ」が成立してから、さらに、図２０９（ｈ）へと演出進展してから、図２０９（ｉ１）～（ｉ３）に示される演出状況へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。
【６７２７】
まず、この場合は、図２０４（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点においては、図２０２及び図２０３に示した例の場合と同様、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されていない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ２」が到来した時点において、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。
【６７２８】
特に、この例では、図２０４（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ２」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。
【６７２９】
したがって、図２０４に示される例でも、図２０２及び図２０３に示される例の場合と同様、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過した「タイミングｔＣａ２」が到来したときには、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２０８（Ａ）に示される状況）。またこの際、該第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃ刀受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけで、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることがないことも上述した通りである。
【６７３０】
また、図２０４に示される例でも、図２０３に示される例の場合と同様、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点において、刀

装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においても、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。

【６７３１】

特に、この例では、図２０４（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。

【６７３２】

したがって、図２０４に示される例でも、図２０３に示される例の場合と同様、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときには、該タイミングが到来したことを契機として（「条件１Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２０９（Ｂ）に示される状況）。

【６７３３】

また上述の通り、こうして第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされたときには、図２０４（ｉ）～（ｋ）に示されるように、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされたときとは異なり、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されたり、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了してこれとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）に変更される発光演出が実行されたりするなど、遊技者が感知可能な演出変化が多種多様に実行されるようになっている。

【６７３４】

また、図２０４に示される例では、タイミングｔＣａ３－１からの時間経過によって「第１Ｃ刀受付状態」が終了されるタイミングである「タイミングｔＣａ３－２」が到来した時点においても、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることが明らかである。またこの際、「タイミングｔＣａ３－２」が到来した時点においても、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは言うまでもない。

【６７３５】

また、この例では、図２０４（ａ），（ｂ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの期間にわたって、上記第１Ｃ刀操作検出情報と、上記第２Ｃ刀操作検出情報とのいずれもが一度も取得されていないことが明らかである。

【６７３６】

図２０４に示される例では、こうして上記「タイミングｔＣａ３－２」が到来したときには、該タイミングが到来したことを契機として、「第１Ｃボタン受付状態」、「第１Ｃ刀受付状態」、「第２Ｃ刀受付状態」、及び「第３Ｃ刀受付状態」のうち、「第１Ｃ刀受付状態」のみが終了されることとなる（図２０９（ｈ）に示される状況）。

【６７３７】

こうして第１Ｃ刀受付状態が上記「タイミングｔＣａ３－２」で終了されるときには、図２０４（ｉ）～（ｋ）や、図２０９（ｇ）→（ｈ）に示されるように、特定動画ＴＤにかかる表示が終了されたり、それまで非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが再び表示されたり、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第２Ａ発光）が終了してこれとは異なる発光態様（ここでは、第１Ａ発光が再び現れる）に変更される発光演出が実

行されたりするなどの処理が実行されるようになっている。
【６７３８】
そして上述の通り、図２０４に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態のうち、こうして「第１Ｃ刀受付状態」が終了される上記「タイミングｔＣａ３－２」から当該第１Ｃボタン受付状態が終了される上記「タイミングｔＣａ４」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作を維持させる操作が行われてオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）が開始された場合を想定したものとなっている。
【６７３９】
ところで、この実施例にかかるパチンコ機１にあって、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合、該刀装飾体５００１は、「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位することとなるが、この際、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（図２００（ａ）に示される第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（図２００（ｂ）に示される第２Ｃ刀操作検出情報）と、がそれぞれ取得されるようになっていることは上述した通りである。
【６７４０】
したがって、図２０４に示される例では、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間で上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、まず、タイミングｔＣａ３Ｂａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される（図２０４（ａ）を参照）。そして次に、該タイミングｔＣａ３Ｂａから少し遅れたタイミングｔＣａ３Ｂｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ３Ｂａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる（図２０４（ｂ）を参照）。
【６７４１】
この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第２Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプであり、且つオート連打機能の対象とされる受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものである。これに対し、「第３Ｃ刀受付状態」については、「上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第３Ｃ刀変化）を生じさせるもの」として用意することとしている。また、「第３Ｃ刀受付状態」は、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（刀単種別許容状態）」として発生するものである。
【６７４２】
なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）して、受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせるようにしてもよい。
【６７４３】
また、図２０４に示される例において、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間では、「第１Ｃ刀受付状態」は既に終了しているが、「第３Ｃ刀受付状態」は、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生していることも上述した（図２０９（ｈ）に示される状況）。

【６７４４】
そうすると、図２０４に示される例では、まず、タイミングｔＣａ３Ｂａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」が生じる（図２０４（ｎ）を参照）。またこの際、「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機として終了されることとなる（図２０４（ｆ）を参照）。
【６７４５】
より具体的には、図２０９（ｈ）に示される演出状況が現れた以降、図２０９（Ｊ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、図２０９（ｌ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる（図２０９（ｈ）→（ｌ）に示される演出進展に相当）。ただし上述の通り、「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【６７４６】
そして次に、図２０４に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｂａから少し遅れたタイミングｔＣａ３Ｂｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣａ３Ｂａから遅れたタイミング）において上記第２Ｃ刀操作検出情報が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対する押下げ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。
【６７４７】
より具体的には、図２０９（ｌ）→（ｉ１）への演出進展として示されるように、図２０９（Ｊ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機とした「第３Ｃ刀受付状態に対応する第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が表示されているなかで、図２０９（Ｋ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）が行われたときには、これを契機として、図２０９（ｉ１）に示されるように、「第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（ここでは、第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が実行されることとなる。この演出例にかかる第２Ｃ刀変化では、その１つとして第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されるが、該「第２Ｃ刀変化」についても、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【６７４８】
なおこの際、上記「第３Ｃ刀変化（ここでは、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、図２０９（Ｋ）に示される押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を契機として非実行の状態にされることはなく、該操作の有無にかかわらず、予め定められた実行時間分だけ実行されるようになっている。
【６７４９】
またこの際、図２０９（Ｋ）で開始した押下げ操作（第２Ｃ刀操作検出情報）を継続することで、当該「第２Ｃ刀受付状態」では、図２０９（ｉ１）～（ｉ３）に示されるように、オート連打機能が働いて刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされることとなり、これによって「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が実行されているなかで、第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が該操作受付がなされた回数分だけ実行されることとなる。なお上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、図２０４（ａ），（ｅ），（ｍ）に示されるように、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じることとなる（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【６７５０】
　また、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、その実行時間が比較的短い時間となっている。したがって、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、図２０９（ｉ１）～（ｉ３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が複数回実行されているなかで、非実行の状態にされることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」は、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）を参照しつつ上述した態様（第３Ｃ刀変化が非実行の態様）で継続して実行されることとなる。なおこの際、図２０８（Ｆ）で押下げ操作を終了すると、図２０８（ｈ）や図２０９（ｋ）に示される表示画面へと移行することとなる。
【６７５１】
　ただし、図２０４（ｍ）などに示されるように、刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもないこと、すなわち実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されるようになっていることについても、図２００～図２０３を参照しつつ上述した例の場合と同様である。
【６７５２】
　そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２０４（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。
【６７５３】
　次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。
【６７５４】
　図２０５は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。
【６７５５】
　すなわち、図２０５に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合（図２１０（ａ）に示される演出状況から、図２１０（ｂ１）へと演出進展する場合）を想定している。
【６７５６】
　なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、操作ボタン４１０に対して操作が行われる場合は、その検出情報として、操作ボタン４１０が「非押下の状態」から「押下された状態」へと変位している状態にあることを示す検出情報を取得するものとなっている。したがって、刀装飾体５００１に対して操作が行われる場合とは異なり、その検出情報が取得されるタイミングが複数回生じることはない。
【６７５７】

すなわち、図２０５に示される例においても、図１９６に示した例の場合と同様、図２０５（ｅ），（ｇ）や、図２１０（ａ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２１０（ａ）に示される状況）。

【６７５８】

ただし、図示は割愛するが、こうして「第２Ｃ刀受付状態」が発生する時点においては、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあることは上述した通りである。すなわち、当該「図２０５に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものであり、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２０５に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。したがって、図１９６を参照しつつ上述した構成と同じものについては説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６７５９】

すなわちこの例とは、図２０５（ｇ），（ｈ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかでのタイミングｔＣａ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合（図２１０（ａ）→図２１０（ｂ）に示される演出進展）、若しくは第１Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかでのタイミングｔＣａ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【６７６０】

図２０５に示される例では、第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた「第１Ｃボタン変化」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示される（図２１０（ａ）→（ｂ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第１Ｃボタン変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。またこの例でも、「第１Ｃボタン変化」の１つとして、味方キャラクタ画像ＭＣ２これ自体の表示変化も行うこととしており、これによって味方キャラクタ画像ＭＣ２が敵キャラクタに対して魔法攻撃を行った演出であることを認識できるようにしているが、この表示変化についても必ずしも行わなくてもよい。

【６７６１】

そして上述の通り、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【６７６２】

したがって、図２０５に示される例では、タイミングｔＣａ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに（図２０５（ｇ）を参照）、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに（図２０５（ｏ）や図２１０（ｂ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ａ発光」の態様から「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０５（ｋ）などを参照）。

【６７６３】

なおこの例では、図２１０（ｂ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合も、当該第１Ｃボタン受付状態が終了したことを示唆する表示画像（ボタン演出終了）を表示させるようにしているが、該表示画像については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるだけの表示変化のみが現れるだけにしてもよい。ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、該操作受付を契機として、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるようにすることが、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてからの経過時間等に関連した演出を実現する上で重要である。この意味では、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるのであれば、これと入れ替わるかたちで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが新たに表示されるようにしてもよい。また、これと同様、第１Ｃボタン受付状態についても、該操作受付を契機として、終了されることが重要であり、これと入れ替わるかたちで、操作ボタン４１０に関しての別のボタン受付状態を発生させるようにしてもよい。

【６７６４】

ただし、第１Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合、該刀操作関連表示ＫＳＨについては、ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なり、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続することとなる（図２０５（ｈ）を参照）。これと同様、第１Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている」なかで上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続することとなる。また、第２Ｃ刀受付状態についても、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として終了されることはない。

【６７６５】

ちなみに、図２１０及び図２１１などに示される例では、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときに、該操作受付を契機として、敵キャラクタＴＣ１としての態様を変化させることがないようにしているが、これに代えて、例えば、敵キャラクタＴＣ１として複数の態様を用意しておき、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として、演出期待度に応じて、敵キャラクタＴＣ１としての態様を、上記複数の態様のいずれかで表示させるようにしてもよい。

【６７６６】

そして上述の通り、この例では、図２０５（ｅ），（ｇ）などに示されるように、タイミングｔＣａ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、上記第２Ｃ刀受付状態が終了されることはないものの、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、上記第１Ｃボタン受付状態が終了されることとなる。

【６７６７】

そうすると、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてからの経過時間や、第１Ｃボタン

受付状態が発生してからの経過時間等に関連した上述の各演出が進展することがなくなることは言うまでもない。すなわちこの場合、図２０５（ｄ）、（ｆ）に示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはないし、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることもなくなるようになる。

【６７６８】

なおこの例では、タイミングｔＣａ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０を「押下された状態」にしてから、該「押下された状態」を、タイミングｔＣａ２が到来するまでの時間よりも長い時間にわたって維持させることとしている。ただし上述の通り、「第１Ｃボタン受付状態」とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であるから、こうして「押下された状態」を長く維持させたところで、技術的な意味は何ら生じない。例えば、タイミングｔＣａ１Ｂで上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、タイミングｔＣａ２や、タイミングｔＣａ３－１において、上記操作ボタン４１０が「押下された状態」に維持されているか否かにかかわらず、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」の各発生条件が満たされることはない。

【６７６９】

またこの例では、図２０５（ｃ），（ｊ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内において、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、その後、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることがない（開始条件が成立しない）し、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｃ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。

【６７７０】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨの指示の通りに従って、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機としてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるようになっており、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてからの時間経過を発生条件としている「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」がいずれも発生しない状態へと移行することとなる。若しくは、第１Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨの指示の通りに従って、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として第１Ｃボタン受付状態が終了されるようになっており、これによって第１Ｃボタン受付状態が発生している状況下にあるなかでのみ発生条件が満たされうる「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」がいずれも発生しない状態へと移行することとなる。

【６７７１】

すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたり、第１Ｃボタン受付状態が発生したときに期待できる演出要素としては、操作ボタン４１０に対する操作に限られるような、従来からあった単純な演出性などではなく、それ以外の操作部（ここでは、刀装飾体５００１）に対する操作も含めた、より複雑な演出性が提供されるようになるから、遊技者としては、演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６７７２】

図２０６は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、第１Ｃボタン受付状態のうち、タイミングｔＣａ３－１が到来してからタイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６７７３】

すなわち、図２０６に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記

特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においても、操作ボタン４１０に対する押下操作は行われておらず、該タイミングｔＣａ３－１が到来してから上記タイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間にあるタイミングであるタイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合（図２１０（ａ）に示される演出状況から、図２１１（ｃ）に示される演出状況へと移行して、該演出状況が現れているなかで操作ボタン４１０に対して押下操作が行われて、図２１１（ｂ）へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。

【６７７４】

まず、図２０６に示される例においても、図１９６や、図２０５に示した例の場合と同様、図２０６（ｅ），（ｇ）や、図２１０（ａ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２１０（ａ）に示される状況）。

【６７７５】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあるが、当該「図２０６に示される例」とは、上述した「図１９６に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２０６に示される例」は、上述した「図１９６に示した例」や、「図２０５に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」や、「図２０５に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６７７６】

すなわち、図２０６に示される演出例とは、上記「タイミングｔＣａ２」において「第１Ｃボタン受付状態」や「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで「第３Ｃ刀受付状態」が発生した後の期間のうち、「第１Ｃ刀受付状態が、上記「タイミングｔＣａ３－１」において、これらの受付状態と重複するかたちでさらに発生してから、当該第１Ｃ刀受付状態が終了するまでの間（タイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間）で、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合（図２１０（ａ）に示される演出状況において、図２１０（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立して、さらに、図２１１（Ｂ）に示される「条件１Ｃｋ」が成立した後、図２１１（ｃ）に示される演出状況から、図２１１（ｂ）に示される演出状況へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。

【６７７７】

この点、図２０６に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｃにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、図２０５に示した例の場合と同様、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに（図２０６（ｇ）を参照）、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに（図２０６（ｏ）や図２１１（ｂ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０６（ｋ）などを参照）。

【６７７８】

なおこの例においても、図２１１（ｂ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、当該第１Ｃボタン受付状態が終了したことを示唆する表示画像（ボタン演出終了）を表示させるようにしているが、該

表示画像については必ずしも生じさせないようにしてもよい。
【６７７９】
ただし、図２０６に示される例において上記操作ボタン４１０に対して操作受付がなされるタイミングｔＣａ３Ｃとは、図２０５に示した例において上記操作ボタン４１０に対して操作受付がなされるタイミングｔＣａ１Ｂとは異なり、第１Ｃ刀受付状態が発生していたり、第３Ｃ刀受付状態が発生していたり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われていたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示の状態にされていたり、特定発光部に「第１Ｂ発光」の態様が現れていたりする状況下にあるなかで到来したものとなっている。
【６７８０】
この点、図２０６に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀受付状態を終了させることはないものの、該操作ボタン４１０に関連した第１Ｃボタン受付状態を終了させるだけではなく、上記刀装飾体５００１に関連した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ終了させるようになっている（図２０６（ｄ）～（ｇ）を参照）。また、同タイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、特定動画ＴＤにかかる表示を終了したり、特定発光部の態様を、「第１Ｂ発光」の態様から「第１Ｃ発光」の態様に変更させたりするようになっている（図２０６（ｉ），（ｊ）を参照）。
【６７８１】
このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、上記操作ボタン４１０に対する操作をしないように我慢した結果として、ようやく、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われる特殊な状況が現れたとしても、当該状況下において刀装飾体５００１に対する操作を行わずに、操作ボタン４１０に対する操作を行ってしまうと、これらの演出性は全て消滅するようになるから、遊技者としては、演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【６７８２】
なお上述の通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、タイミングｔＣａ１で表示開始された以降、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにこれを契機として非表示に状態にされるようになっている。したがって、図２０６に示される例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示の状態にされているなかで上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることとなるが（図２１１（ｃ）を参照）、この際、ボタン操作関連表示ＢＳＨを新たに表示させるようにしたり、操作ボタン４１０に関しての別のボタン受付状態を発生させたりするようにしてもよいことも上述した通りである。
【６７８３】
ただし、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、上記操作ボタン４１０に対する操作をしないように我慢した結果として、ようやく、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われる特殊な状況が現れたにもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作を行ったときのインセンティブが何もなければ、結局は、第１Ｃボタン受付状態が発生して間もない頃に操作ボタン４１０に対する操作を行ったり、操作ボタン４１０に対する操作を行わず、刀装飾体５００１に対する操作のみを行ったりするようになりかねず、これでは演出的な戦略性が求められているとは言い難いこととなる。
【６７８４】
この点、図２０６に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２０５（ｏ）や図２１０（ｂ）に示した例の場合とは異なり、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）を表示させるだけでなく、当該期間（タイミングｔＣａ３－１～タイミングｔＣａ３－２の期間）内で上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表

示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）としての第２Ｃ特別表示ＢＣ２を表示させることとしている（図２０６（ｏ）や図２１１（ｂ）などを参照）。

【６７８５】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、上記操作ボタン４１０に対する操作をしないように我慢した結果として、ようやく、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われる特殊な状況が現れたときには、操作ボタン４１０に対する操作を行うと、当該特殊な状況が現れていないときに操作ボタン４１０に対する操作を行ったときよりも多彩な演出性が現れるようになるから、第１Ｃボタン受付状態が発生してから終了するまでの間における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【６７８６】

特に、第１Ｃボタン受付状態内の上記特殊な状況下においては、操作ボタン４１０に対する操作を行うと、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）としての「第２Ｃ特別表示ＢＣ２（図２１１（ｂ）を参照）」を表示させることができることに加えて、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには現れない第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）をさらに表示させることができるし、刀装飾体５００１に対する操作（納刀状態への操作）を行うと、上記「第１Ｃ刀変化」の１つとして、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときに現れる上記「第２Ｃ特別表示ＢＣ２（図２１１（ｂ）を参照）」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）としての「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」を表示させることができることに加えて、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）を表示させるとともに（図２０９（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展に相当）、上記「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）をさらに表示させることができるから、第１Ｃボタン受付状態が発生してから終了するまでの間における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【６７８７】

なお、「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」と、「第２Ｃ特別表示ＢＣ２（図２１１（ｂ）を参照）」とについては、互いに同じ画像表示（同じ静止画像や、同じ動画像など）として表示するようにしてもよいが、この例では、互いに同じ画像表示ではあるものの、明暗の度合いを異ならせるかたちで表示することとしている。例えば、読出し元として記憶されている表示データが同じであればよい。

【６７８８】

ちなみに、図示は割愛するが、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されている間のうち、タイミングｔＣａ２が到来してからタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間（第１Ｃ刀受付状態は発生しておらず、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときには、該操作受付を契機として第３Ｃ刀受付状態が終了されることとなるが、それ以外は、「タイミングｔＣａ２が到来するまでの間に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたとき（図２０５を参照）」と同じ演出進展が現れることとなる（図１９６及び図２０５を参照）。

【６７８９】

また、これも図示は割愛するが、タイミングｔＣａ３－１が到来してからタイミングｔＣａ４が到来するまでの間に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときにも、該操作受付を契機として第３Ｃ刀受付状態が終了されることとなるが、それ以外は、「タイミングｔＣａ２が到来するまでの間に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたとき（図２０５を参照）」と同じ演出進展（図２１１（ｄ）に示される演出状況から図２１１（ｆ）に示される演出状況への演出進展）が現れることとなる（図１９６及び図２０５を参照）。

【６７９０】

図２０７は、図１９６などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングｔＣａ１（第１Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣａ１）よりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われ、且つ該タイミングｔＣａ１を跨るかたちで該押下した状態を維持させたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６７９１】

すなわち、図２０７に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるよりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われて、且つ該タイミングｔＣａ１や上記タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで該押下した状態を維持させた場合（操作ボタン４１０が押下操作された状態にあるなかで第１Ｃボタン受付状態が発生し、図２１０（ａ）に示される演出状況が現れた場合）を想定したものとなっている。

【６７９２】

まず、図２０７に示される例においても、図１９６や、図２０５、図２０６に示した例の場合と同様、図２０７（ｅ），（ｇ）や、図２１０（ａ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第１Ｃ時間が経過したタイミングｔＣａ１が到来すると、該タイミングｔＣａ１が到来したことに基づいて（「条件１Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第１Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２１０（ａ）に示される状況）。

【６７９３】

またこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合と、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合とがあることも、図１９６や、図２０５、図２０６に示した例の場合と同様である。

【６７９４】

ただし、第１Ｃボタン受付状態においては、当該状態内で操作ボタン４１０（の操作受け部）を非操作状態から操作状態へと（操作受け部を）変位させる操作が行われたことを条件として、上記操作ボタン４１０に対する操作受付（受付有効判定）がなされるようになっている。すなわちこの場合、図２０７に示される例では、当該第１Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作受付（受付有効判定）がなされることはなく、この結果として、第１Ｃボタン受付状態において何らの操作も行われないときと同じ演出進展（図１９６などを参照しつつ上述した演出進展）が現れることとなる。

【６７９５】

したがって、図２０７に示される例では、図１９６に示した例の場合と同様、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来すると、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生し、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来すると、「第１Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる。

【６７９６】

なお、タイミングｔＣａ１やタイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで操作ボタン４１０を押下させた状態に維持させた場合であっても、第１Ｃボタン受付状態内で、該操作ボタン４１０に対する操作を一旦終了してこれを非操作状態にしてから該操作ボタン４１０を再び操作状態にするようにしたときには、該再び操作状態にされたことに基づいて、該操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることは言うまでもない。すなわちこの場合、操作受付がなされたタイミングに応じて、図２０５や図２０６などに示した演出進展が現

れることとなる。
【６７９７】
　また、操作ボタン４１０を押下させた状態に維持させたままの場合と、操作ボタン４１０に対する操作を一旦終了してこれを非操作状態にした場合とのいずれの場合であっても、図２０７に示される状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、そのタイミングなどに応じて、図２００～図２０４などに示した演出進展が現れることとなる。
【６７９８】
　ちなみに、第１Ｃボタン受付状態において、操作ボタン４１０（の操作受け部）を非操作状態から操作状態へと変位させる操作が行われたか否かの判断については、例えば、「操作ボタン４１０が押下されていないことを示すオフ情報」から「操作ボタン４１０が押下されていることを示すオン情報」への立ち上がり信号（若しくは、立ち下がり信号として設定してもよい）が得られたか否かを判断することによって実現することが可能である。
【６７９９】
　次に、図２０８及び図２０９を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、まず、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、その後、操作ボタン４１０に対する操作受付がさらになされたときの演出進展について補足的に説明する。
【６８００】
　上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、刀装飾体５００１に対して該操作受付がなされたことの代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもなくなることとなる。
【６８０１】
　より具体的には、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付（操作受付が複数回許容される第２Ｃ刀受付状態での操作受付）がなされたときには、「図２０８（ｂ）→（ｇ１）に示される演出進展（第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示される。またこの際、刀装飾体５００１に対する操作を繰り返し行うようにしたときには、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示されるように、第２Ｃ受付後表示Ｃ２が態様Ｃ２ａ～Ｃ２ｃのいずれか１つとして順次に表示される。特に、この例では、刀装飾体５００１を納刀状態に維持する操作を行うだけでも上述したオート連打機能が機能するから、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様（第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」が一定の間隔毎に複数回表示される態様）が実行されることとなる。
【６８０２】

また、こうして刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた後に、該刀装飾体５００１に対する操作を中断（終了）したときには、「図２０８（ｇ１）～（ｇ３）→（ｈ）に示される演出進展（第２Ｃ受付後表示Ｃ２が予め定められた時間分だけ表示されてから、非表示の状態にされる演出進展）」が現れる。すなわちこの場合、図２０８（ｈ）に示されるように、このような演出態様（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）が現れる前の表示画面（演出態様）に戻されるだけの演出進展しか生じないこととなる（図２０９（Ｅ）などを参照）。

【６８０３】

この点、第１Ｃボタン受付状態や、第２Ｃ刀受付状態は、こうして刀装飾体５００１に対する操作が行われたり、該操作が中断（終了）されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして刀装飾体５００１に対する操作が行われたり、該操作が中断（終了）された以降も、第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃ刀受付状態とが継続されている限りは、操作ボタン４１０に対する操作受付と、刀装飾体５００１に対する操作受付とはいずれも許容されている状況下にある。例えば、刀装飾体５００１に対する操作受付が再びなされたときには、該操作受付がなされた回数等に応じて、図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様が再び現れることとなる。

【６８０４】

ただし上述の通り、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、その代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもない（図１９７～図１９９などに示した演出状況と同様の演出制限が現れる）。

【６８０５】

したがって、第１Ｃボタン受付状態では、図２０８（Ｅ），（Ｂ），（Ｄ２）や、図２０９（Ｅ），（Ｃ），（Ｄ），（Ｆ）などの演出進展に示されるように、図２０８（ｇ１）に示される演出態様が一旦現れた以降は、「図２０８（ｈ）に示されるように、図２０８（ｇ１）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる。

【６８０６】

ただし、当該第１Ｃボタン受付状態では、このような演出状況（当該第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１などで第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生しなくなった演出状況）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図示は割愛するが、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０５に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８０７】

この点、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとし

ても、これを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、操作ボタン４１０に対する操作受付があった時点で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」が実行途中の状況下にあったとしても、該「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」の実行状態が、これを契機として終了されることはないし、上記第１Ｃボタン受付状態が終了した以降も、第２Ｃ刀受付状態が継続している限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は新たになされうる。

【６８０８】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）は満たされていないが、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）は満たされた状況下にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２０８（ｅ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８０９】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることに加えて、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。ただしこの場合、刀装飾体５００１に対して該操作受付がなされたことの代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【６８１０】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、まず、図２０８（Ｆ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２０８（ｂ）→（ｅ）に示される演出進展（第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。

【６８１１】

またこの際、刀装飾体５００１に対する操作を、タッチ操作を行うことまでに留めて（刀装飾体５００１を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）まで操作せず、刀装飾体５００１に対して接触するだけに留めて）、これを納刀状態まで押し込む操作を行わないようにしたときには、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされるだけの演出進展（このような演出態様（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）が現れる前の表示画面（演出態様）に戻されるだけの演出進展）しか生じないこととなる。ただしこの場合であっても、「図２０８（ｅ）に示される演出状況」から、上述した「図２０８（ｈ）に示される演出状況」へと進展することとなり、すなわちタイミングｔＣａ３－１が到来したとしても第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【６８１２】

これに対し、刀装飾体５００１に対する操作を「タッチ操作から納刀状態まで押し込む操作」として実行したときには、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が現れたタイミングから、その操作に要する時間分だけ遅れるかたちで（第２Ｃ刀操作検出情報を契機として）、「図２０８（ｅ）→（ｆ１）に示される演出進展（第２Ｃ刀変化

（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）が現れることとなる。第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化については、上述した通りであるから、ここでの説明は割愛することとする。

【６８１３】

ただし上述の通り、このような「図２０８（ｅ）に示される演出進展を経る場合は、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」が予め定められた時間だけ実行されることとなる。したがって、図２０８（ｆ１）～（ｆ３）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」は、上述したオート連打機能に基づく演出態様（若しくは、繰り返しの操作に基づく演出態様）が現れている間（第２Ｃ受付後表示Ｃ２が態様Ｃ２ａ～Ｃ２ｃのいずれかで実行されている間）も、これと重複するかたちで、予め定められた時間分だけ実行されることとなる。そして、該「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」が非実行の状態にされた以降は、上述の「図２０８（ｇ１）へと演出進展した以降」と同様、「図２０８（ｈ）に示されるように、「操作受付に応じた態様が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる。

【６８１４】

この点、当該第１Ｃボタン受付状態では、このような演出状況（当該第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１で第１Ｃ刀受付状態が発生しなくなった演出状況）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることは上述した通りである

【６８１５】

したがって、例えば、図２０８（ｅ）に示される演出状況が現れた時点で、刀装飾体５００１に対する操作を、タッチ操作を行うことまでに留めて（刀装飾体５００１を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）まで操作せず、刀装飾体５００１に対して接触するだけに留めて）、その代わりに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるようにしたときには、「図２０８（ｅ）→（ｃ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、図２０８（ｃ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されて、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０５に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８１６】

この点、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、その実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、図２０８（ｃ）に示されるように、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。

【６８１７】

また上述の通り、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、これを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって

、操作ボタン４１０に対する操作受付があった時点で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」が実行途中の状況下にあったとしても、該「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」の実行状態が、これを契機として終了されることはないし、図２０８（ｄ１）～（ｄ３）に示されるように、上記第１Ｃボタン受付状態が終了した以降も（第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されているなかでも）、第２Ｃ刀受付状態が継続している限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は新たになされうるようになっている。なお、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）についても、刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として終了されることがないものとなっている（図２０８（ｄ１）～（ｄ３）を参照）。

【６８１８】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされた状況下にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２０９（ｄ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８１９】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることに加えて、第１Ｃ刀変化（第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）と第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）とがそれぞれ実行可能とされることとなる。

【６８２０】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、まず、図２０９（Ｇ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２０９（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展（第１Ｃ刀変化（第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）と、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）とがいずれも実行開始される演出進展）」が現れる。なおここでは、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃）が表示され、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。なおこの例では、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化としては、他にも、「特定動画ＴＤにかかる表示を終了させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出」なども行われる。

【６８２１】

またこの際、刀装飾体５００１に対する操作を、タッチ操作を行うことまでに留めて（刀装飾体５００１を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）まで操作せず、刀装飾体５００１に対して接触するだけに留めて）、これを納刀状態まで押し込む操作を行わないようにしたときには、上記第１Ｃ刀変化が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされるとともに、第３Ｃ刀変化が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされるだけの演出進展しか生じないこととなる。そしてこれ以降は、第１Ｃボタン受付状態が終了するときまで、「図２０８（ｈ）に示されるように、図２０８（ｇ１）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「図２０８（ｇ

１）～（ｇ３）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる。

【６８２２】

これに対し、刀装飾体５００１に対する操作を「タッチ操作から納刀状態まで押し込む操作」として実行したときには、第１Ｃ刀変化や第３Ｃ刀変化が現れたタイミングから、その操作に要する時間分だけ遅れるかたちで（第２Ｃ刀操作検出情報を契機として）、「図２０９（ｄ）→（ｅ１）に示される演出進展（第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）が現れることとなる。第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化については、上述した通りであるから、ここでの説明は割愛することとする。

【６８２３】

ただし上述の通り、このような「図２０９（ｄ）に示される演出進展を経る場合は、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」や上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」はぞれぞれ予め定められた時間だけ実行されることとなる。この点、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、その実行時間が比較的短い時間となっており、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は、その実行時間が比較的長い時間となっていることは上述した通りである。したがって、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示される態様（例えば、上述した「繰り返しの態様」）で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」が複数回実行されているなかで、非実行の状態にされうる。

【６８２４】

これに対し、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は、第１Ｃボタン受付状態が継続されている限りは、非実行の状態にされることがない。すなわちこの場合、図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示される態様が現れた以降は、刀装飾体５００１に対する操作を終了している間は、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」、及び「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のうち、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」と「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」とがそれぞれ非実行の状態にされ、この結果として、図２０９（ｃ）に示される態様が現れることとなる。一方、刀装飾体５００１に対する操作を行っている間は、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」、「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２）」、及び「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のうち、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」のみが非実行の状態にされるかたちで図２０９（ｅ１）～（ｅ３）に示される態様が現れることとなる。

【６８２５】

また、当該第１Ｃボタン受付状態では、第１Ｃ刀変化や第３Ｃ刀変化が現れている状況下（図２０９（ｄ），（ｅ１）～（ｅ３）に示される演出状況下）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。

【６８２６】

したがって、例えば、図２０９（ｄ）に示される演出状況が現れた時点で、刀装飾体５００１に対する操作を、タッチ操作を行うことまでに留めて（刀装飾体５００１を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）まで操作せず、刀装飾体５００１に対して接触するだけに留めて）、その代わりに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるようにしたときには、「図２０９（ｄ）→（ａ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化が実行さ

れる演出進展）」が現れる。なおここでは、図２０９（ａ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されて、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。すなわち、第１Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには「図２０６に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化」が実行されることとなるが、この例では、図２０９（ｄ）に示される演出状況が現れた時点で上記第１Ｃ刀受付状態は既に終了している状況下にあることから、「図２０５に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化」が実行されることとなる。

【６８２７】

この点、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」や「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、それらの実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、図２０９（ａ）に示されるように、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃））」や「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。

【６８２８】

また上述の通り、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、これを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、操作ボタン４１０に対する操作受付があった時点で「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」が実行途中の状況下にあったとしても、該「第２Ｃ刀変化（第２Ｃ受付後表示Ｃ２など）」の実行状態が、これを契機として終了されることはないし、図２０９（ｂ１）～（ｂ３）に示されるように、上記第１Ｃボタン受付状態が終了した以降も（第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されているなかでも）、第２Ｃ刀受付状態が継続している限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は新たになされうるようになっている。なお、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）についても、刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として終了されることがないものとなっている（図２０９（ｂ１）～（ｂ３）を参照）。

【６８２９】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２０９（ｌ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８３０】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１において、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）」にあるときは、特定動画ＴＤにかかる表示は既に終了しており、ボタン操作関連表示ＢＳＨは再び表示状態にされていることとなる。このような状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることに加えて、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。

【６８３１】

したがって、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣ

ａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときは、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０９（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２０８（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときと同じ演出進展が現れることとなる。

【６８３２】

より具体的には、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、まず、図２０８（Ｊ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２０９（ｈ）→（ｌ）に示される演出進展（第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。

【６８３３】

またこの際、刀装飾体５００１に対する操作を、タッチ操作を行うことまでに留めて（刀装飾体５００１を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）まで操作せず、刀装飾体５００１に対して接触するだけに留めて）、これを納刀状態まで押し込む操作を行わないようにしたときには、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされるだけの演出進展（このような演出態様（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）が現れる前の表示画面（演出態様）に戻されるだけの演出進展）しか生じないこととなる。そしてこれ以降は、第１Ｃボタン受付状態が終了するときまで、「図２０８（ｈ）に示されるように、図２０８（ｇ１）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる。

【６８３４】

これに対し、刀装飾体５００１に対する操作を「タッチ操作から納刀状態まで押し込む操作」として実行したときには、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が現れたタイミングから、その操作に要する時間分だけ遅れるかたちで（第２Ｃ刀操作検出情報を契機として）、「図２０９（ｌ）→（ｉ１）に示される演出進展（第２Ｃ刀変化（第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）が現れることとなる。第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化については、上述した通りであるから、ここでの説明は割愛することとする。

【６８３５】

ただし上述の通り、このような「図２０９（ｌ）に示される演出進展を経る場合は、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」が予め定められた時間だけ実行されることとなる。したがって、図２０９（ｉ１）～（ｉ３）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」は、上述したオート連打機能に基づく演出態様（若しくは、繰り返しの操作に基づく演出態様）が現れている間（第２Ｃ受付後表示Ｃ２が態様Ｃ２ａ～Ｃ２ｃのいずれかで実行されている間）も、これと重複するかたちで、予め定められた時間分だけ実行されることとなる。そして、該「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）」が非実行の状態にされた以降は、上述の「図２０８（ｇ１）へと演出進展した以降」と同様、「図２０８（ｈ）に示されるように、「操作受付に応じた態様が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「図２０８（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる。

【６８３６】
この点、当該第１Ｃボタン受付状態では、こうして第３Ｃ刀変化が現れている状況下（図２０９（ｌ），（ｉ１）～（ｉ３）に示される演出状況下）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図示は割愛するが、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。すなわち、当該操作受付がなされた以降の演出例については、図２０８（ｃ），（ｄ１）～（ｄ３）などを参照しつつ上述した例と同様であるから、ここでの説明は割愛することとする。
【６８３７】
次に、図２１０及び図２１１を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、まず、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされて、その後、刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときの演出進展について補足的に説明する。
【６８３８】
上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもなくなることとなる。
【６８３９】
より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、「図２１０（ａ）→（ｂ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。
【６８４０】
この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【６８４１】
したがって、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ

刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、図２１０（ｂ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０５に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８４２】

ただし上述の通り、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、その代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもない。すなわちこの場合、図２１０（ｂ）に示される演出状況が現れているなかで、実行状態にある図柄変動としての残りの演出が実行されることとなる。

【６８４３】

この点、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降も、第２Ｃ刀受付状態が継続されている限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は許容されている状況下にある。

【６８４４】

したがって、図２１０（ｂ）に示される演出状況が現れているなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときには、該操作受付がなされた回数等に応じて、図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様が現れることとなる。なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときのより詳細な演出態様については、上述した通りであるから、ここでは割愛することとする。また、図示は割愛するが、こうして刀装飾体５００１に対する操作に応じた演出態様（図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様）が一旦現れた以降は、第２Ｃ刀受付状態が継続している間は、該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる点についても、上述した通りである。

【６８４５】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）は満たされていないが、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）は満たされた状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２１０（ｃ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８４６】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期

間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態が終了されるとともに、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【６８４７】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、「図２１０（ａ）→（ｃ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【６８４８】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【６８４９】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、図２１０（ｃ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０５に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８５０】

この点、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとしての、これらの各変化については、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときと同じ態様として現れるようになっている。すなわちこの場合、遊技者としては、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたのか否かを認識することが困難とされることとなり、これによって刀装飾体５００１に対する操作を行うことなく「第３Ｃ刀受付状態」が終了されてしまった状況下にあることや、間もなく「第１Ｃ刀受付状態」が発生する状況下にあったことを認識することによる遊技興趣の低下を好適に抑制することが期待されうるようになる。

【６８５１】

また上述の通り、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行わ

れたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降も、第２Ｃ刀受付状態が継続されている限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は許容されている状況下にある。

【６８５２】

したがって、図２１０（ｃ）に示される演出状況が現れているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときは、図２１０（ｂ）に示される演出状況が現れているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされた場合と同様、該操作受付がなされた回数等に応じて、図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様が現れることとなる。なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときのより詳細な演出態様については、上述した通りであるから、ここでは割愛することとする。また、図示は割愛するが、こうして刀装飾体５００１に対する操作に応じた演出態様（図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様）が一旦現れた以降は、第２Ｃ刀受付状態が継続している間は、該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる点についても、上述した通りである。

【６８５３】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされた状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２１１（ｂ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８５４】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態は終了されることとなる。

【６８５５】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、「図２１１（ｃ）→（ｂ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【６８５６】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【６８５７】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときにも、図２１１（ｂ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに

、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０６に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８５８】

ただし、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」とは、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が発生していることはもとより、特定動画ＴＤにかかる表示が行われていたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示の状態にされていたり、特定発光部に「第１Ｂ発光」の態様が現れていたりする特別な演出が実行されている状況下にあることを意味する。

【６８５９】

この点、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀受付状態を終了させることはないものの、該操作ボタン４１０に関連した第１Ｃボタン受付状態を終了させるだけではなく、上記刀装飾体５００１に関連した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ終了させる（図２０６（ｄ）～（ｇ）を参照）。また、該操作受付を契機とした上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）を表示させるだけでなく、当該期間（タイミングｔＣａ３－１～タイミングｔＣａ３－２の期間）内で上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）としての第２Ｃ特別表示ＢＣ２を表示させたり、実行状態にあった特定動画ＴＤにかかる表示を終了したり、特定発光部の態様を、「第１Ｂ発光」の態様から「第１Ｃ発光」の態様に変更させたりすることとなる（図２０６（ｉ），（ｊ），（ｏ）や、図２１１（ｃ）→（ｂ）などを参照）。

【６８６０】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、上記操作ボタン４１０に対する操作をしないように我慢した結果として、ようやく、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われる特殊な状況が現れたときには、操作ボタン４１０に対する操作を行うと、当該特殊な状況が現れていないときに操作ボタン４１０に対する操作を行ったときよりも多彩な演出性が現れるようになるから、第１Ｃボタン受付状態が発生してから終了するまでの間における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【６８６１】

また上述の通り、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降も、第２Ｃ刀受付状態が継続されている限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は許容されている状況下にある。

【６８６２】

したがって、図２１１（ｂ）に示される演出状況が現れているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときは、該操作受付がなされた回数等に応じて、図２１１（ａ１）～（ａ３）に示される演出態様が現れることとなる。なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときのより詳細な演出態様については、上述した通りであるから、ここでは割愛することとする。また、図示は割愛するが、こうして刀装飾体５００１に対する操作に応じた演出態様（図２１１（ａ１）～（ａ３）に示される演出態様）が一旦現れた以降は、第２Ｃ刀受付状態が継続している間は、該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面（演出態様）が現れてい

る状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる点についても、上述した通りである。

【６８６３】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２１１（ｆ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６８６４】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１において、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）」にあるときは、特定動画ＴＤにかかる表示は既に終了しており、ボタン操作関連表示ＢＳＨは再び表示状態にされていることとなる。このような状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態は終了されることとなる。

【６８６５】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、「図２１１（ｄ）→（ｆ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【６８６６】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【６８６７】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときにも、図２１１（ｄ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２０６に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６８６８】

この点、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとしての、これらの各変化については、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときや、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１０（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときと同じ態様として現れるようになっている。

【６８６９】

また上述の通り、第２Ｃ刀受付状態は、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降も、第２Ｃ刀受付状態が継続されている限りは、刀装飾体５００１に対する操作受付は許容されている状況下にある。

【６８７０】

したがって、図２１１（ｄ）に示される演出状況が現れているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときは、図２１０（ｂ）に示される演出状況が現れているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされた場合と同様、該操作受付がなされた回数等に応じて、図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様が現れることとなる。なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときのより詳細な演出態様については、上述した通りであるから、ここでは割愛することとする。また、図示は割愛するが、こうして刀装飾体５００１に対する操作に応じた演出態様（図２１０（ｄ１）～（ｄ３）に示される演出態様）が一旦現れた以降は、第２Ｃ刀受付状態が継続している間は、該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される前の表示画面（演出態様）が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を終了している間）、「該演出態様（操作受付に応じた態様）が実行される表示画面が現れている状況」にあるか（刀装飾体５００１に対する操作を行っている間）のいずれかが現れることとなる点についても、上述した通りである。

【６８７１】

図１９６～図２５３のうち、図２１２～図２２３は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートであり、図２２４～図２２７は、「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときの演出内容を示す図である。

【６８７２】

なお上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」については、予め定められた発生条件が満たされたときに発生したり終了したりするものであればよく、それらの条件としては、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【６８７３】

図２１２（図２１２～図２１５）は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による

操作が何ら行われなかったときに演出内容を示すタイムチャートである。また、図２２４及び図２２５は、「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示す図である。

【６８７４】

ここで、図２１２～図２１５を、図１９６～図１９９と併せて見ると明らかであるように、「図２１２～図２１５に示される例」は、上述した「図１９６～図１９９に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６８７５】

すなわち、「図２１２に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図１９６に示した例」と異なっている。

【６８７６】

ただし、「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており（図２１２、図２２４、及び図２２５などを参照）、この点については、上述した「図１９６に示した例」と同じである。

【６８７７】

また、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が、「刀複種別許容状態が秘かに（隠しボタンとして）発生している状況下にあるときや、間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する状況下」にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示可能なものであることはもとより、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生しておらず且つ間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する予定もない状況下」にあるときにも表示可能なものとなっており、これによって「刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）許容される」ことに関してのガセ演出として機能しうるものとなっていることは上述した通りである。

【６８７８】

したがって、図２１２～図２１５に示される各例においても、図１９６～図１９９に示した各例と同様、「第１Ｃボタン受付状態」が発生する時点において摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２として表示されていたり、表示されていなかったりするし（図２１２（ｈ）、図２１３（ｈ）、図２１４（ｈ）、及び図２２４（ａ），（ｂ）などを参照）、該時点において表示されていなかった場合であってもタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するまでの間に摸画像表示ＫＭＧ１として表示されたり、表示されなかったりすることとなる（図２１５（ｈ）などを参照）。

【６８７９】

また、図２１２～図２１５を、図１９６～図１９９と併せて見ると明らかであるように、刀操作関連表示ＫＳＨの表示態様や、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されるタイミングなどによって、当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり（または、発生しなくなったり）、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件についても、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており、上述した「図１９６～図１９９に示した例」と同じである。

【６８８０】

このように、「図２１２～図２１５に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないという点においてのみ、「図１９６～図１９９に示される例」と異なっている

だけであり、それ以外の構成は同じであるから、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出進展については、図１９６～図１９９などを参照しつつ上述した通りであり、ここでの詳細な説明やその別例については割愛することとする。

【６８８１】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【６８８２】

図２１６は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６８８３】

図２１６に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（ｈ）へと演出進展する場合）を想定している。

【６８８４】

ここで、図２１６を、図２００と併せて見ると明らかであるように、「図２１６に示される例」は、上述した「図２００に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２００に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６８８５】

すなわち、「図２１６に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２００に示した例」と異なっている。

【６８８６】

したがって、「図２１６に示される例」では、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２００に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２１６（ｍ）や、図２２４（ｈ）などを参照）。

【６８８７】

ただし、図２１６（ａ）、（ｂ）、（ｄ）に、図２１２（ａ）、（ｂ）、（ｄ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合であっても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。

【６８８８】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態内において第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にある場合であっても、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイ

ミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６８８９】

またこの例では、図２１６（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）ようにしている。

【６８９０】

また上述の通り、図２１６（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続するようになっている。

【６８９１】

また上述の通り、図２１６（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。

【６８９２】

すなわち、図２１６に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われたとしても、見た目上の変化は何ら生じず、何らの操作も行われなかった場合と同じ演出進展が現れているようにしか見えないこととなる（図２２４（ｈ）を参照）。ただしこの場合、「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりすることがなくなることとなる。

【６８９３】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２１６（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２２５（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２２５（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６８９４】

またこの例では、図２１６（ａ）、（ｂ），（ｆ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｆ

）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合であっても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。

【６８９５】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態内において第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にある場合であっても、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６８９６】

すなわち、図２１６に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われたとしても、見た目上の変化は何ら生じず、何らの操作も行われなかった場合と同じ演出進展が現れているようにしか見えないこととなる（図２２４（ｈ）を参照）。ただしこの場合、「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、第３Ｃ刀受付状態が発生することはなくなることとなる。

【６８９７】

なお、図２００に示される例や、図２１６に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合に、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたが、これに代えて、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態にせず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけでも（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないようにしたとしても）、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしてもよい。またこの際、タッチ操作として維持される時間（第１Ｃ刀操作検出情報としてオン状態になっている経過時間）にかかわらず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作が一度だけ短時間で行われた場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしてもよい。

【６８９８】

図２１７は、このような図２１２や図２１６に示した演出例を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から開始させた刀装飾体５００１に対する操作を、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するよりも前のタイミングで終了させた場合（刀装飾体５００１に対する操作を終了した場合）を想定した演出内容を示すタイムチャートである。

【６８９９】

図２１７に示される例も、上述した「図２１６に示した例」の場合と同様、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状

態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（ｈ）へと演出進展する場合）を想定したものになっている。

【６９００】

ここで、図２１７を、図２０１と併せて見ると明らかであるように、「図２１７に示される例」は、上述した「図２０１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６９０１】

すなわち、「図２１７に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０１に示した例」と異なっている。

【６９０２】

したがって、「図２１７に示される例」では、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２０１に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２１７（ｍ）や、図２２４（ｈ）などを参照）。

【６９０３】

ただし、図２１７（ａ）、（ｂ）、（ｄ）に、図２１２（ａ）、（ｂ）、（ｄ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかであっても、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得されたときには、その後、（上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点において上記「第１Ｃ刀操作検出情報」と上記「第２Ｃ刀操作検出情報」とがいずれも取得されていない状況下」にあったとしても、）「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件（図２２５（ｇ）に示される演出状況が現れる条件）が満たされることがないようになっている（図２２４の（Ａ２）から図２２５の（Ａ２）へと至るルートを参照）。

【６９０４】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態内において第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にある場合であっても、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得されると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【６９０５】

またこの例では、図２１７（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも

取得された場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）ようにしている。

【６９０６】

また上述の通り、図２１７（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得された場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続するようになっている。

【６９０７】

また上述の通り、図２１７（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得された場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。

【６９０８】

すなわち、図２１７に示される例では、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが取得されたとしても、見た目上の変化は何ら生じず、何らの操作も行われなかった場合と同じ演出進展が現れているようにしか見えないこととなる（図２２４（ｈ）を参照）。ただしこの場合、「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりすることがなくなることとなる。

【６９０９】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２１７（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２２５（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２２５（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６９１０】

またこの例では、図２１７（ａ）、（ｂ），（ｆ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｆ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかであっても、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得された場合は、上述した「図２０１に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。

【６９１１】
このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態内において第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にある場合であっても、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得されると、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【６９１２】
すなわち、図２１７に示される例では、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが取得されたとしても、見た目上の変化は何ら生じず、何らの操作も行われなかった場合と同じ演出進展が現れているようにしか見えないこととなる（図２２４（ｈ）を参照）。ただしこの場合、「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても、上述した「図２０１に示した例」の場合と同様、第３Ｃ刀受付状態が発生することはなくなることとなる。
【６９１３】
なお、図２０１に示される例や、図２１７に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかであっても、タイミングｔＣａ２やタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とが一度でも取得されたときには、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたが、これに代えて、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、タイミングｔＣａ２やタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間に、刀装飾体５００１を押下操作した状態にせず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を短い時間だけ行うに留めただけでも（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないようにしたとしても）、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしてもよい。またこの際、タッチ操作として維持される時間（第１Ｃ刀操作検出情報としてオン状態になっている経過時間）にかかわらず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作が一度だけ短時間で行われた場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしてもよい。
【６９１４】
図２１８は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。
【６９１５】
図２１８に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから「上記所定時間が経過したタイミングｔＣａ２よりも後であり、且つ上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１よりも前」の期間内（第３Ｃ刀受付状態内）にあるタイミングｔＣａ２Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（Ａ）に示される条件

３Ｃｋの条件成立を経て、図２２４（ｅ）へと演出進展する場合）を想定している。
【６９１６】
ここで、図２１８を、図２０２と併せて見ると明らかであるように、「図２１８に示される例」は、上述した「図２０２に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【６９１７】
すなわち、「図２１８に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０２に示した例」と異なっている。
【６９１８】
したがって、「図２１８に示される例」では、タイミングｔＣａ２Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ２Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２０２に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ２Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２１８（ｍ）や、図２２４（ｅ），（ｈ）などを参照）。
【６９１９】
ただし、図２１８に示される例では、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過した「タイミングｔＣａ２」が到来したときに、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２２４（Ａ）に示される状況）。なおこの際は、上述したが、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることはなく、第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけである。
【６９２０】
したがって、図２１８に示される例では、タイミングｔＣａ２Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」が生じる（図２１８（ｎ）を参照）。またこの際、「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機として終了されることとなる（図２１８（ｆ）を参照）。
【６９２１】
より具体的には、図２２４に示されるように、図２２４（Ａ）に示される「条件３Ｃｋ」が成立した以降、図２２４（Ｆ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、図２２４（ｅ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる（図２２４（ｂ）→（ｅ）に示される演出進展に相当）。ただし上述の通り、「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【６９２２】
すなわちこの場合、図２１８に示される例では、タイミングｔＣａ２Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」は生じるが、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない。したがって、図２２４（ｅ）→（ｈ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が予め定められた時間分だけ実行されてからこれが非実行にされると、該「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が実行される前と同じ演出態様が現れている状況下に戻されることとな

る。
【６９２３】
この点、図２１８（ａ）、（ｂ）、（ｄ）に、図２１２（ａ）、（ｂ）、（ｄ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合であっても、上述した「図２０２に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることがないようになっている。
【６９２４】
このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態内において第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にある場合であっても、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【６９２５】
またこの例でも、図２１８（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）ようにしている。
【６９２６】
また上述の通り、図２１８（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続するようになっている。
【６９２７】
また上述の通り、図２１８（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２１２（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続するようになっている。
【６９２８】
すなわち、図２１８に示される例では、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われたとしても、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が予め定められた時間分だけ実行されてからこれが非実行にされただけのようにしか見えないこととなる（図２２４（ｅ）→（ｈ）を参照）。ただしこの場合、「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても、上述した「図２０２に示した例」の場合と同様、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了

されたりすることがなくなることとなる。
【６９２９】
そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２１８（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２２５（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２２５（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。
【６９３０】
なお、図２０２に示される例や、図２１８に示される例では、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合に、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしたが、これに代えて、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態にせず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけでも（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないようにしたとしても）、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしてもよい。またこの際、タッチ操作として維持される時間（第１Ｃ刀操作検出情報としてオン状態になっている経過時間）にかかわらず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作が一度だけ短時間で行われた場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしてもよい。
【６９３１】
図２１９は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。
【６９３２】
図２１９に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから「上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１よりも後であり、且つタイミングｔＣａ３－２よりも前」の期間内（第１Ｃ刀受付状態且つ第３Ｃ刀受付状態内）にあるタイミングｔＣａ３Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２２５（Ｂ）に示される条件１Ｃｋが条件成立した後、図２２５（ｇ）に示される演出状況から、図２２５（ｄ）へと演出進展する場合）を想定している。
【６９３３】
ここで、図２１９を、図２０３と併せて見ると明らかであるように、「図２１９に示される例」は、上述した「図２０３に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０３に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【６９３４】
すなわち、「図２１９に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０３に示した例」と異なっている。

【６９３５】
したがって、「図２１９に示される例」では、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ３Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２０３に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ３Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２１９（ｍ）や、図２２５（ｄ）、（ｅ）などを参照）。
【６９３６】
ただし、図２１９に示される例では、タイミングｔＣａ１から所定時間が経過した「タイミングｔＣａ２」が到来したときに、該タイミングが到来したことを契機として（「条件３Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第３Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２２４（Ａ）に示される状況）。なおこの際は、上述したが、遊技者が感知可能な演出変化が何ら生じることはなく、第３Ｃ刀受付状態が、第１Ｃボタン受付状態と重複するかたちで秘かに発生するだけである。
【６９３７】
また、図２１９に示される例では、タイミングｔＣａ１から特定時間が経過した「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに、該タイミングが到来したことを契機として（「条件１Ｃｋ」が満たされたことに基づいて）、「第１Ｃ刀受付状態」が、既に発生している「第１Ｃボタン受付状態」及び「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生することとなる（図２２５（ｇ）に示される状況）。
【６９３８】
ただし上述の通り、こうして第１Ｃ刀受付状態の発生条件（条件１Ｃｋ）が満たされたときには、図２１９（ｉ）～（ｋ）に示されるように、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（条件３Ｃｋ）が満たされたときとは異なり、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されたり、それまで表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了してこれとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）に変更される発光演出が実行されたりするなど、遊技者が感知可能な演出変化が多種多様に実行されるようになっている。
【６９３９】
そして上述の通り、図２１９に示される例とは、「第１Ｃ刀受付状態」が、「第１Ｃボタン受付状態」や、「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちでこうして発生しているなかで、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間にあるタイミングｔＣａ３Ａａ，Ａｂで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定したものとなっている。
【６９４０】
したがって、図２１９に示される例では、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第１Ｃ刀変化」と上記「第３Ｃ刀変化」とがそれぞれ生じる（図２１９（ｌ），（ｎ）を参照）。またこの際、「第１Ｃ刀受付状態」及び「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機としてそれぞれ終了されることとなる（図２１９（ｄ），（ｆ）を参照）。
【６９４１】
より具体的には、図２２５に示されるように、図２２５（Ｂ）に示される「条件１Ｃｋ」が成立した以降、図２２５（Ｇ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、図２２５（ｄ）に示されるように、上記「第１Ｃ刀変化」の１つとして、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（雷が落ちている画像表示）が１回だけ表示されるとともに、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる（図２２５（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展に相当）。ただし上述の通り、

「第１Ｃ刀変化」や「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【６９４２】

またさらに、タイミングｔＣａ３Ａａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたときには、図２１９（ｉ）～（ｋ）や、図２２５（ｇ）→（ｄ）に示されるように、これを契機として、特定動画ＴＤにかかる表示を終了させるとともに、特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる。また、特定動画ＴＤの表示区間内において特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出を実行させることとなる。

【６９４３】

なお、この演出例では、「第１Ｃ刀変化」の１つとして、「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（雷が落ちている画像表示（図２２５（ｄ）を参照）」を表示させており、該「雷が落ちている画像表示（図２２５（ｄ）を参照）」については、当該「第１Ｃ刀受付状態」が終了した以降もその表示状態を継続可能なものとするようにしている。ただし、該「第１Ｃ刀変化」の１つとして、このような新たな表示は必ずしも表示しなくてもよい。例えば、「特定動画ＴＤにかかる表示を終了させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出」なども、「第１Ｃ刀変化」の１つとして実行されている変化と言える。

【６９４４】

すなわちこの場合、図２１９に示される例では、タイミングｔＣａ３Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第１Ｃ刀変化」及び「第３Ｃ刀変化」は生じるが、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない。したがって、図２２５（ｄ）→（ｅ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が予め定められた時間（比較的短い時間）分だけ実行されてからこれが非実行にされると、該「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」だけが実行状態として継続されることとなる。なお、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は、その実行時間が比較的長い時間となっており、「第１Ｃボタン受付状態」が継続している間は非実行の状態にされることがないものであることは上述した通りである。

【６９４５】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２１９（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２２５（ｆ）に示される演出状況）。なおこの際、図２２５（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６９４６】

図２２０は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６９４７】

図２２０に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態内において第１Ｃ刀受付状態が発生し且つ時間経過によって終了する場合に、「該第１Ｃ刀受付状態が終了するタイミングｔＣａ３－２よりも後であり、且つ当該第１Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣａ４よりも前」の期間内（第３Ｃ刀受付状態内）にあるタイミングｔＣａ３Ｂａ，Ｂｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２２５（ｈ）に示される演出状況から、図２２５（ｌ）へと演出進展する場合）を想定している。

【６９４８】

ここで、図２２０を、図２０４と併せて見ると明らかであるように、「図２２０に示される例」は、上述した「図２０４に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０４に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６９４９】

すなわち、「図２２０に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０４に示した例」と異なっている。

【６９５０】

したがって、「図２２０に示される例」では、「第３Ｃ刀受付状態」が、上記「タイミングｔＣａ２」において「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで発生し、且つ「第１Ｃ刀受付状態」が、上記「タイミングｔＣａ３－１」において、第１Ｃボタン受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」と重複するかたちでさらに発生した後の期間のうち、「第１Ｃ刀受付状態が、上記「タイミングｔＣａ３－２」において終了してから、上記「タイミングｔＣａ４」が到来するまでの間」で、タイミングｔＣａ３Ｂａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ３Ｂｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２０４に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ３Ｂｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２２０（ｍ）や、図２２５（ｌ）、図２２４（ｈ）などを参照）。

【６９５１】

ただし、図２２０に示される例では、上記「タイミングｔＣａ３－２」において「第１Ｃ刀受付状態」は終了されるが、「第３Ｃ刀受付状態」は終了されず継続するものとなっている。

【６９５２】

したがって、図２２０に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｂａにおいて上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が得られたことに基づいて（上記刀装飾体５００１に対するタッチ操作を契機として）、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」が生じる（図２２０（ｎ）を参照）。またこの際、「第３Ｃ刀受付状態」は、該操作受付を契機として終了されることとなる（図２２０（ｆ）を参照）。

【６９５３】

より具体的には、図２２５（ｈ）→（ｌ）に示されるように、図２２５（Ｊ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、上記「第３Ｃ刀変化」の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が１回だけ表示されることとなる。ただし上述の通り、「第３Ｃ刀変化」については、その１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【６９５４】

すなわちこの場合、図２２０に示される例では、タイミングｔＣａ３Ｂａ，Ｂｂにおい

て、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第３Ｃ刀変化」は生じるが、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない。したがって、図２２５（ｈ）→（ｌ）に示されるように、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が予め定められた時間分だけ実行されてからこれが非実行にされると、該「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が実行される前と同じ演出態様が現れている状況下に戻されることとなる（図２２５（ｌ）→図２２４（ｈ）に示される演出進展などを参照）。

【６９５５】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２２０（ｆ），（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２２５（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２２５（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【６９５６】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【６９５７】

図２２１は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６９５８】

図２２１に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間や上記特定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合（図２２６（ａ）→（ｂ）に示される演出進展）を想定したものである。

【６９５９】

ここで、図２２１を、図２０５と併せて見ると明らかであるように、「図２２１に示される例」は、上述した「図２０５に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０５に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６９６０】

すなわち、「図２２１に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０５に示した例」と異なっている。

【６９６１】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０５に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２１に示される例）である

かにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１０（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２６（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【６９６２】

このように、図２２１に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるという点でのみ、上述した「図２０５に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【６９６３】

図２２２は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されている間のうち、タイミングｔＣａ３－１が到来してからタイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６９６４】

図２２２に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来した以降であり、且つ上記タイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合（図２２６（ａ）に示される演出状況から、図２２７（ｃ）に示される演出状況へと移行して、該演出状況が現れているなかで操作ボタン４１０に対して押下操作が行われて、図２２７（ｂ）へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。

【６９６５】

ここで、図２２２を、図２０６と併せて見ると明らかであるように、「図２２２に示される例」は、上述した「図２０６に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６９６６】

すなわち、「図２２２に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０６に示した例」と異なっている。

【６９６７】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０６に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２２に示される例）であるかにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１１（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２７（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【６９６８】

このように、図２２２に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるという点でのみ、上述した「図２０６に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【６９６９】

図２２３は、図２１２などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングｔＣａ１（第１Ｃボタン受付状態が発生するタイ

ミングｔＣａ１）よりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われ、且つ該タイミングｔＣａ１を跨るかたちで該押下した状態を維持させたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【６９７０】

図２２３に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるよりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われて、且つ該タイミングｔＣａ１や上記タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで該押下した状態を維持させた場合（操作ボタン４１０が押下操作された状態にあるなかで第１Ｃボタン受付状態が発生し、図２２６（ａ）に示される演出状況が現れた場合）を想定したものである。

【６９７１】

ここで、図２２３を、図２０７と併せて見ると明らかであるように、「図２２３に示される例」は、上述した「図２０７に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０７に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【６９７２】

すなわち、「図２２３に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了する点で、上述した「図２０７に示した例」と異なっている。

【６９７３】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるための条件は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか（図２０７に示した例）、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるか（図２２３に示される例）によって異なることはない。

【６９７４】

このように、図２２３に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるという点でのみ、上述した「図２０７に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【６９７５】

次に、図２２４及び図２２５を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされたときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、まず、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、その後、操作ボタン４１０に対する操作受付がさらになされたときの演出進展について補足的に説明する。

【６９７６】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたとしても、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（表示変化や、音変化、振動など）が生じることはない。ただしこの場合、第１Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作受付これ自体はなされるようになっており、該操作受付がなされたことの代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が

満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもなくなることとなる。

【６９７７】

より具体的には、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるなかで、第１Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、「図２２４（ａ）または（ｂ）→（ｈ）に示される演出進展」が現れる。そして、図２２４及び図２２５から明らかであるように、このようなルートを経た場合は、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）や、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）がいずれも満たされることなく、当該第１Ｃボタン受付状態が終了することとなる（図２１３～図２１５に示した演出状況と同様の演出制限が現れる）。

【６９７８】

この点、第１Ｃボタン受付状態は、こうして刀装飾体５００１に対する操作が行われたり、該操作が中断（終了）されたとしても、それらを契機として、終了されることがないものとなっている。したがって、こうして刀装飾体５００１に対する操作が行われたり、該操作が中断（終了）された以降も、第１Ｃボタン受付状態が継続されている限りは、操作ボタン４１０に対する操作受付は許容されている状況下にある。

【６９７９】

このような演出状況（当該第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１などで第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生しなくなった演出状況）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図示は割愛するが、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２１に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６９８０】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）は満たされていないが、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）は満たされた状況下にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２２４（ｅ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６９８１】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。ただしこの場合、刀装飾体５００１に対して該操作受付がなされたことの代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【６９８２】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する

操作受付がなされたときには、まず、図２２４（Ｆ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２２４（ｂ）→（ｅ）に示される演出進展（第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。

【６９８３】

ただしこの際、「第２Ｃ刀受付状態」は発生していない状況下にあることから、刀装飾体５００１に対する操作として、これを納刀状態まで押し込む操作をさらに行ったとしても、これを契機として、遊技者が感知可能な何らかの変化が生じることはない。したがって、この例では、当該状況下において、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけの場合と、刀装飾体５００１をさらに押下操作した状態にした場合とでは、いずれの場合であっても、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされる演出進展（図２２４（ｅ）→（ｈ）に示される演出進展）だけが現れることとなる。ただし、このような図２２４（ｅ）→（ｈ）に示される演出進展が現れることによって、タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【６９８４】

この点、当該第１Ｃボタン受付状態では、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されている状況下（図２２４（ｅ）を参照）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付は許容されており、該操作受付がなされたときにはこれを契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。

【６９８５】

したがって、例えば、図２２４（ｅ）に示される演出状況が現れているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるようにしたときには、「図２２４（ｅ）→（ｃ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、図２２４（ｃ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されて、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２１に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【６９８６】

この点、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、その実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、図２２４（ｃ）に示されるように、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。

【６９８７】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされた状況下にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２２５（ｄ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【６９８８】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ

３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃ刀変化（第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）と第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）とがそれぞれ実行可能とされることとなる。

【６９８９】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、まず、図２２５（Ｇ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２２５（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展（第１Ｃ刀変化（第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）と、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）とがいずれも実行開始される演出進展）」が現れる。なおここでは、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃）が表示され、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。なおこの例では、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化としては、他にも、「特定動画ＴＤにかかる表示を終了させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において非表示状態にあったボタン操作関連表示ＢＳＨを再び表示させる変化」や、「特定動画ＴＤの表示区間内において特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）を終了させてこれとは異なる発光態様（ここでは、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される前の発光態様である第１Ａ発光）に変更される発光演出」なども行われる。

【６９９０】

ただしこの際、「第２Ｃ刀受付状態」は発生していない状況下にあることから、刀装飾体５００１に対する操作として、これを納刀状態まで押し込む操作をさらに行ったとしても、これを契機として、遊技者が感知可能な何らかの変化が生じることはない。したがって、この例では、当該状況下において、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけの場合と、刀装飾体５００１をさらに押下操作した状態にした場合とでは、いずれの場合であっても、第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされる演出進展と、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされる演出進展とが現れることとなる。

【６９９１】

この点、上記「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」は、その実行時間が比較的短い時間となっており、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」は、第１Ｃボタン受付状態が継続しているなかでその実行状態が終了されることがないようになっていることは上述した通りである。したがって、「図２２５（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展」が現れた後は、まず、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３）」が、予め定められた時間分だけ実行された時点で、上記「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」が継続して実行されているなかで、終了されることとなる。そして、こうして「図２２５（ｄ）→（ｅ）に示される演出進展」が現れた後は、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２２５（ｆ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了することとなる。

【６９９２】

この点、当該第１Ｃボタン受付状態では、第１Ｃ刀変化や第３Ｃ刀変化が現れている状況下（図２２５（ｄ），（ｅ）に示される演出状況下）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させる

こととなる。
【６９９３】
したがって、例えば、図２２５（ｄ）に示される演出状況が現れているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるようにしたときには、「図２２５（ｄ）→（ａ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、図２２５（ａ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されて、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。
【６９９４】
この点、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、その実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、図２２４（ｃ）に示されるように、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。すなわち、第１Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには「図２２２に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化」が実行されることとなるが、この例では、図２２５（ｄ）に示される演出状況が現れた時点で上記第１Ｃ刀受付状態は既に終了している状況下にあることから、「図２２１に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化」が実行されることとなる。
【６９９５】
この点、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１）」や「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、それらの実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、図２２５（ａ）に示されるように、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（敵キャラクタに対する雷攻撃））」や「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。
【６９９６】
また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、図２２５（ｌ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。
【６９９７】
上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１において、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）」にあるときは、特定動画ＴＤにかかる表示は既に終了しており、ボタン操作関連表示ＢＳＨは再び表示状態にされていることとなる。このような状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。
【６９９８】
したがって、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受

付がなされたときは、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２５（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２４（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときと同じ演出進展が現れることとなる。

【６９９９】

より具体的には、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、まず、図２２５（Ｊ）に示されるタッチ操作（第１Ｃ刀操作検出情報）を契機として、第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、「図２２５（ｈ）→（ｌ）に示される演出進展（第３Ｃ刀変化（第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。なおここでは、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化の１つとして、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現）が表示される。

【７０００】

ただしこの際、「第２Ｃ刀受付状態」は発生していない状況下にあることから、刀装飾体５００１に対する操作として、これを納刀状態まで押し込む操作をさらに行ったとしても、これを契機として、遊技者が感知可能な何らかの変化が生じることはない。したがって、この例では、当該状況下において、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけの場合と、刀装飾体５００１をさらに押下操作した状態にした場合とでは、いずれの場合であっても、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されてから非実行の状態にされる演出進展（図２２５（ｈ）→（ｌ）に示される演出進展）だけが現れることとなる。

【７００１】

この点、図示は割愛するが、当該第１Ｃボタン受付状態では、第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））が予め定められた時間分だけ実行されている状況下（図２２５（ｌ）を参照）にあるなかであっても、操作ボタン４１０に対する操作受付は許容されており、該操作受付がなされたときにはこれを契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、それまで現れていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。

【７００２】

なお、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」は、その実行途中の状況下にあるなかで、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたとしても、これを契機として、終了されることがないものとなっている。すなわちこの場合、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）は、「第３Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））」が実行されているなかで、その実行を開始することとなる。

【７００３】

次に、図２２６及び図２２７を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされたときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときの演出進展について補足的に説明する。

【７００４】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変

化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもなくなることとなる。

【７００５】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、「図２２６（ａ）→（ｂ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【７００６】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７００７】

したがって、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされていない状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、図２２７（ｂ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２１に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【７００８】

ただし上述の通り、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、その代償として、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２１１（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ２が到来したとしても）、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされることもない。

【７００９】

なおこの例では、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合を想定したものであるから、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降に、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることはない。

【７０１０】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）は満たさ

れていないが、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）は満たされた状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２２６（ｃ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【７０１１】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態が終了されるとともに、その後、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされることはなくなることとなる。

【７０１２】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、「図２２６（ａ）→（ｃ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【７０１３】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７０１４】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で、操作ボタン４１０に対する操作受付（操作受付が１回だけ許容される第１Ｃボタン受付状態での操作受付）がなされたときには、図２２６（ｃ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２１に示したタイミングｔＣａ１Ｂで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【７０１５】

この点、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとしての、これらの各変化については、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときと同じ態様として現れるようになってい

る。すなわちこの場合、遊技者としては、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたのか否かを認識することが困難とされることとなり、これによって刀装飾体５００１に対する操作を行うことなく「第３Ｃ刀受付状態」が終了されてしまった状況下にあることや、間もなく「第１Ｃ刀受付状態」が発生する状況下にあったことを認識することによる遊技興趣の低下を好適に抑制することが期待されうるようになる。

【７０１６】

なおこの例では、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合を想定したものであるから、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降に、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることはない。

【７０１７】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）と、第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）とがいずれも満たされた状況下にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２２７（ｂ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【７０１８】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされることとなる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態は終了されることとなる。

【７０１９】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、「図２２７（ｃ）→（ｂ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【７０２０】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７０２１】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときにも、図２１１（ｂ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２２に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【７０２２】

ただし、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」とは、第

１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が発生していることはもとより、特定動画ＴＤにかかる表示が行われていたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示の状態にされていたり、特定発光部に「第１Ｂ発光」の態様が現れていたりする特別な演出が実行されている状況下にあることを意味する。

【７０２３】

この点、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、該操作ボタン４１０に関連した第１Ｃボタン受付状態を終了させるだけではなく、上記刀装飾体５００１に関連した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ終了させる（図２２２（ｄ）～（ｇ）を参照）。また、該操作受付を契機とした上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）を表示させるだけでなく、当該期間（タイミングｔＣａ３－１～タイミングｔＣａ３－２の期間）内で上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表示Ｃ１（図２０９（ｄ）を参照）」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）としての第２Ｃ特別表示ＢＣ２を表示させたり、実行状態にあった特定動画ＴＤにかかる表示を終了したり、特定発光部の態様を、「第１Ｂ発光」の態様から「第１Ｃ発光」の態様に変更させたりすることとなる（図２２２（ｉ），（ｊ），（ｏ）や、図２２７（ｃ）→（ｂ）などを参照）。

【７０２４】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態が発生した以降、上記操作ボタン４１０に対する操作をしないように我慢した結果として、ようやく、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われる特殊な状況が現れたときには、操作ボタン４１０に対する操作を行うと、当該特殊な状況が現れていないときに操作ボタン４１０に対する操作を行ったときよりも多彩な演出性が現れるようになるから、第１Ｃボタン受付状態が発生してから終了するまでの間における遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【７０２５】

なおこの例では、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合を想定したものであるから、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降に、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることはない。

【７０２６】

また、例えば、第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）にあるときに、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、図２２７（ｆ）に示される演出状況へと演出進展することとなる。

【７０２７】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１において、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４に示される状況下）」にあるときは、特定動画ＴＤにかかる表示は既に終了しており、ボタン操作関連表示ＢＳＨは再び表示状態にされていることとなる。このような状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行可能とされる。ただしこの場合、第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）の１つとして、それまで表示されていたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることによって（若しくは、

第１Ｃボタン受付状態が終了されることによって）、発生している状況下にあった第３Ｃ刀受付状態は終了されることとなる。

【７０２８】

より具体的には、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、「図２２７（ｄ）→（ｆ）に示される演出進展（第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）が実行される演出進展）」が現れる。

【７０２９】

この点、この実施例にかかる「第１Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７０３０】

したがって、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が一旦満たされたものの、その終了条件が成立してしまい、その結果として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち、第３Ｃ刀受付状態のみが発生している状況下（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間内）」にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときにも、図２２７（ｄ）に示されるように、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させるとともに、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２２２に示したタイミングｔＣａ３Ｃで生じる受付後変化が実行されることとなる）。

【７０３１】

この点、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとしての、これらの各変化については、第１Ｃボタン受付状態のうち「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときや、「第１Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２７（Ｂ）：条件１Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前の期間」であり、且つ「第３Ｃ刀受付状態の発生条件（図２２６（Ａ）：条件３Ｃｋ）が満たされる上記タイミングｔＣａ２が到来した以降の期間」内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときと同じ態様として現れるようになっている。

【７０３２】

なおこの例では、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合を想定したものであるから、こうして操作ボタン４１０に対する操作が行われたり、該第１Ｃボタン受付状態が終了された以降に、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることはない。

【７０３３】

図１９６～図２５３のうち、図２２８～図２３９は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである

。
【７０３４】
なお上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」については、予め定められた発生条件が満たされたときに発生したり終了したりするものであればよく、それらの条件としては、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。
【７０３５】
図２２８（図２２８～図２３１）は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容を示すタイムチャートである。また、図２４０は、このような状況下で「第１Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容を示す図である。
【７０３６】
ここで、図２２８～図２３１を、図１９６～図１９９または図２１２～図２１５と併せて見ると明らかであるように、「図２２８～図２３１に示される例」は、上述した「図１９６～図１９９に示した例」や、上述した「図２１２～図２１５に示した例」などと基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」または「図２１２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【７０３７】
すなわち、「図２２８に示される例」とは、「図２１２に示した例」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生する点で、上述した「図１９６に示した例」と異なっている。ただし、「図２２８に示される例」とは、このような状況下で発生した「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生するようになっている点で、上述した「図２１２に示した例」とも異なるものとなっている。
【７０３８】
なお、第２Ｃ刀受付状態は、「条件２Ｃｂ」が満たされたときにこれを契機として発生する場合（タイミングｔＣａＹ１）、当該第２Ｃ刀受付状態が発生することに関連して何らの変化（演出変化）も生じさせないものとなっている。すなわちこの場合、遊技者が認識し難い状況とされているなかで、「第２Ｃ刀変化」に関する操作受付が許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生することとなる。
【７０３９】
ただし、「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており、この点については、上述した「図１９６に示した例」や「図２１２に示した例」と同じである。
【７０４０】

また、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が、「刀複種別許容状態が秘かに（隠しボタンとして）発生している状況下にあるときや、間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する状況下」にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示可能なものであることはもとより、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生しておらず且つ間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する予定もない状況下」にあるときにも表示可能なものとなっており、これによって「刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）許容される」ことに関してのガセ演出として機能しうるものとなっていることは上述した通りである。

【７０４１】

したがって、図２２８～図２３１に示される各例においても、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５に示した各例と同様、「第１Ｃボタン受付状態」が発生する時点において摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２として表示されていたり、表示されていなかったりするし（図２２８（ｈ）、図２２９（ｈ）、図２３０（ｈ）、及び図２４０（ａ），（ｂ）などを参照）、該時点において表示されていなかった場合であってもタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するまでの間に摸画像表示ＫＭＧ１として表示されたり、表示されなかったりすることとなる（図２３１（ｈ）などを参照）。

【７０４２】

また、図２２８～図２３１を、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５と併せて見ると明らかであるように、刀操作関連表示ＫＳＨの表示態様や、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されるタイミングなどによって、当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり（または、発生しなくなったり）、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件についても、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており、上述した「図１９６～図１９９に示した例」や「図２１２～図２１５に示した例」と同じである。

【７０４３】

なお、図２３１に示した例では、タイミングｔＣａ１が到来した以降、タイミングｔＣａＹ１を跨るかたちで上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始されて、且つタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するよりも前に該刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされる場合を想定したものとなっているが、該刀操作関連表示ＫＳＨについては、タイミングｔＣａＹ１が到来した以降に表示開始されて、且つタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するよりも前に該刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされうるものとして用意するようにしてもよく、この場合であっても、図２３１に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。またこの場合、該刀操作関連表示ＫＳＨについては、タイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内や、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内や、それ以降の期間内で非表示にされるようにしてもよく、この場合であっても、図２３１に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７０４４】

このように、「図２２８～図２３１に示される例」とは、「第１Ｃボタン受付状態」内で「第２Ｃ刀受付状態」がこれと重複するかたちで発生するという点においてのみ、「図１９６～図１９９に示される例」や「図２１２～図２１５に示される例」と異なっているだけであり、それ以外の構成は同じであるから、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出進展については、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５などを参照しつつ上述した通りであり、ここでの詳細な説明やその別例については割愛することとする。

【７０４５】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態

」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７０４６】

図２３２は、図２２８などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）のうち、「第２Ｃ刀受付状態」が発生するタイミングｔＣａＹ１よりも前に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７０４７】

図２３２に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたが（図２４０（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２４０（ｈ）へと演出進展したが）、その後、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合を想定したものである。

【７０４８】

ここで、図２３２を、図２００や図２１６と併せて見ると明らかであるように、「図２３２に示される例」は、上述した「図２００に示した例」や「図２１６に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２００に示した例」や「図２１６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７０４９】

すなわち、「図２３２に示される例」では、まず、「図２１６に示した例」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生することとなる。

【７０５０】

したがって、「図２３２に示される例」においても、「図２１６に示した例」の場合と同様、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２００に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２３２（ｍ）や、図２４０（ｈ）などを参照）。

【７０５１】

また、これも同様、「図２３２に示される例」では、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで開始された「刀装飾体５００１に対する押下操作」を、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって継続させた場合を想定したものとなっている。

【７０５２】

ただし、「図２３２に示される例」では、「図２１６に示した例」の場合とは異なり、こうして刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受

付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。そして、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるようになっている。

【７０５３】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７０５４】

したがって、図２３２に示される例では、タイミングｔＣａＹ１（第２Ｃ刀受付状態が発生して、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」を当該第２Ｃ刀受付状態内の有効操作として判定（操作受付）するタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７０５５】

より具体的には、図２４０（ａ），（ｂ）に示される演出状況にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた後（図２４０（ａ），（ｂ）→（ｈ）に示される演出進展を参照）、該押下操作が継続されているだけの状況下にあるにもかかわらず、図２４０（Ｃ）に示される「条件２Ｃｋ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで「第２Ｃ刀受付状態」が発生すると、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」が有効操作として判定（操作受付）され、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されることとなる（図２４０（ｈ）→（ｇ１）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７０５６】

なおこの際、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。

【７０５７】

また、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。

【７０５８】

すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。なお、第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されているなかで、上記刀装飾体５００１

に対する操作受付がなされる場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることがないし、上記第２Ｃ刀受付状態についても、該操作受付を契機として終了されることがないようにすることが望ましい。

【７０５９】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、図２４０（ｇ１）～（ｇ２）などに示されるように、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７０６０】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７０６１】

この点、図２３２（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７０６２】

したがって、この例では、図２３２（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ１ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）のうち、「条件２Ｃｋ」が満たされて「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降の期間内で上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣａＹ１からタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。

【７０６３】

なお、このようなオート連打機能については、図２００などを参照しつつ上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７０６４】

そして、タイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生して上述のオート連打機能が働くこととなった以降は、図２００や、図２０８、図２０９などを参照しつつ上述した通りの態様で演出進展が現れることとなる。例えば、図２４０に示される（Ａ１），（Ａ２），（Ａ３）からは、図２０９に示される（Ａ１），（Ａ２），（Ａ３）へとそれぞれ演出進展することとなる。

【７０６５】

したがって、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合であっても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはない。

【７０６６】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａＹ１」から上記「タイミングｔＣａ

３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、いわゆるオート連打機能によって「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７０６７】

また、図２３２（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２２８（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）。

【７０６８】

また、図２３２（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２２８（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続することとなる。

【７０６９】

また、図２３２（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２２８（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続することとなる。

【７０７０】

また、図２３２（ａ）、（ｂ），（ｆ）に、図２２８（ａ）、（ｂ），（ｆ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合であっても、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはない。

【７０７１】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａＹ１」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、いわゆるオート連打機能によって「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせるようなことがあると、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７０７２】

図２３３は、上述した「図２２８に示した演出例」や「図２３２に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａＹ１」から開始させたオート連打機能（第２

Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）を、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するよりも前のタイミングで終了させた場合（刀装飾体５００１に対する操作を終了した場合）を想定した演出内容を示すタイムチャートである。

【７０７３】

図２３３に示される例も、上述した「図２３２に示した例」の場合と同様、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたが（図２４０（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２４０（ｈ）へと演出進展したが）、その後、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合を想定したものになっている。

【７０７４】

ここで、図２３３を、図２０１や図２１７と併せて見ると明らかであるように、「図２３３に示される例」は、上述した「図２０１に示した例」や「図２１７に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。

【７０７５】

より具体的には、図２３３を、図２３２と併せて見ると明らかであるように、「図２３３に示される例」とは、上述した「図２３２に示した例」において、タイミングｔＣａ３－１よりも長い時間にわたって継続させていた「上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われている状態」を、「第２Ｃ刀受付状態が発生するタイミングｔＣａＹ１」が到来した以降の期間内のうち、タイミングｔＣａ２やタイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に終了させるようにしたものである。

【７０７６】

以下、「図２３３に示される例」について、上述した「図２０１に示した例」や、「図２１７に示した例」、「図２３２に示した例」などと同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、これらの例と異なる構成を中心に説明することとする。

【７０７７】

すなわち、「図２３３に示される例」では、上記「タイミングｔＣａＹ１」から開始させたオート連打機能（第２Ｃ刀変化を複数回生じさせる機能）を、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するよりも前のタイミングで終了させた場合（図２４０（ａ）または（ｂ）に示される演出状況から、図２４０（ｈ）を経て、図２４０（ｇ１）～（ｇ３）へと演出進展した後、図２４０［Ｅ］に示される操作終了を経て、図２４０（ｈ）へとさらに演出進展する場合）を想定したものとなっている。なおこの場合、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した時点においては、図２３３（ａ），（ｂ）に示されるように、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることや、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは明らかである。

【７０７８】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２３３（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されて、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況」が一度でも現れたときには（図２４０（ｇ１～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れたときには）、その後、（上記「タイミ

ングｔＣａ３－１」が到来した時点において上記「第１Ｃ刀操作検出情報」と上記「第２Ｃ刀操作検出情報」とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況」にあったとしても、）「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件（図２０９（ｇ）に示される演出状況が現れる条件）が満たされることがないようになっている。

【７０７９】

すなわちこの場合、図２３３に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来したとしても、図２０９（ｇ）に示される演出状況（特定動画ＴＤが表示される状況）が現れることがなく、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に操作終了したときに現れていた「図２３３（ｈ）に示される演出状況」のままで継続されていることとなる（図２０９（ｋ）を参照）。

【７０８０】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合（図２３３（ｂ）を参照）か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合（図２３３（ａ）を参照）であったとしても、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能を１度でも有効化させるようなことがあると（図２３３（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れると）、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態（図２０９（ｇ）に示される演出状況）」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７０８１】

なおこの例では、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況が現れたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにした。ただしこれに代えて、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を１回でも生じさせたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。若しくは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせたか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときには、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したとしても「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【７０８２】

これらの構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なる操作対象（刀装飾体５００１）に対して操作を行うときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。特に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られるだけでも、「第１Ｃ刀受付状態」が発生しないようにしたときには、遊技者が、刀装飾体５００１を操作すべきかの葛藤に悩んだ結果として、刀装飾体５００１を接触することはしたものの、該刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させる操作を行わなかった場合であっても、これを葛藤したことに対してのペナルティが付与されることとなるから、遊技者に対して演出的な戦略性をよりシビアに求めることができるようになり、これまでになかったリアルな演出感を提供することができるようになる。

【７０８３】

また上述の通り、この例では、図２３３（ｉ），（ｊ），（ｋ）や、図２０９（ｋ）な

どに示されるように、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されないが、この際、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）についてもこれを終了せずに継続することについては、図２３２を参照しつつ上述した例の場合と同様である。

【７０８４】

また、図２３３（ｍ）などに示されるように、刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもないこと、すなわち実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されるようになっていることについても、上述した例と同様である。

【７０８５】

またこの例では、図２３３（ａ），（ｂ）などに示されるように、上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点においては、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とがいずれも取得されない状況下にあることや、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況下にないことは明らかである。

【７０８６】

ただし、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２３３（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、「第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報と、刀装飾体５００１が「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位していることを示す検出情報とがいずれも取得されて、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況」が一度でも現れたときには（図２４０（ｇ１～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れたときには）、その後、（上記「タイミングｔＣａ２」が到来した時点において上記「第１Ｃ刀操作検出情報」と上記「第２Ｃ刀操作検出情報」とがいずれも取得されておらず、且つ「第２Ｃ刀変化」が複数回生じていない状況」にあったとしても、「タイミングｔＣａ２」が到来したときに）「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件（図２４０（Ａ）に示される条件３Ｃｋ）が満たされることがないようになっている。

【７０８７】

すなわちこの場合、図２３３及び図２４０に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ２が到来したとしても、「図２４０（Ａ）に示される条件３Ｃｋ」が成立することがなく、タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に操作終了した（図２４０（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況から、図２４０（ｈ）に示される演出状況へと演出進展した）ときに現れていた「図２４０（ｈ）に示される演出状況」のままで継続されていることとなる。

【７０８８】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合であったとしても、上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、刀装飾体５００１に対していわゆるオート連打機能を１度でも有効化させるようなことがあると（図２４０（ｇ１）～（ｇ３）に示される演出状況が一度でも現れると）、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようになるから、遊技者に対して演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７０８９】

なおこの例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、「第２Ｃ刀変化」が複数回生じている状況が現れたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにした。ただしこれに代えて、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を１回でも生じさせたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。若しくは、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記「タイミングｔＣａ２」が到来するまでの期間内で、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせたか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときには、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したとしても「第３Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【７０９０】

これらの構成によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、該ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なる操作対象（刀装飾体５００１）に対して操作を行うときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。特に、刀装飾体５００１に対して遊技者による接触があることを示す検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られるだけでも、「第３Ｃ刀受付状態」が発生しないようにしたときには、遊技者が、刀装飾体５００１を操作すべきかの葛藤に悩んだ結果として、刀装飾体５００１を接触することはしたものの、該刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させる操作を行わなかった場合であっても、これを葛藤したことに対してのペナルティが付与されることとなるから、遊技者に対して演出的な戦略性をよりシビアに求めることができるようになり、これまでになかったリアルな演出感を提供することができるようになる。

【７０９１】

ただし、上記第１Ｃ刀操作検出情報が得られたことによって、「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」が発生しなくなったとしても、「第３Ｃ刀受付状態」が発生する場合と比較して、遊技者が感知可能な演出的な違いは何も生じないから、緊張感を提供するようにしつつも遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【７０９２】

そしてこの例でも、タイミングｔＣａ４が到来すると、図２３３（ｇ）に示されるように、第１Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている（図２０９（ｊ）に示される演出状況）。なおこの際、図２０９（ｊ）に示される例では、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【７０９３】

図２３４は、上述した「図２２８に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７０９４】

図２３４に示される例とは、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当

該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合（図２４０（Ｆ），（Ｇ）に示される操作が行われた場合）を想定したものである。

【７０９５】

ここで、図２３４を、まず、図２２８と併せて見ると明らかであるように、「図２３４に示される例」とは、「図２２８に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、タイミングｔＣａＹ１（「タイミングｔＣａ２」から「タイミングｔＣａ３－１」までの間にあるタイミング）において、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するものとなっている。

【７０９６】

そうすると、図２３４に示される例では、タイミングｔＣａＹ１が到来するまで（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立する時期的ラインよりも上の範囲）の各演出内容（図２４０（ａ），（ｂ），（ｈ），（Ｃ）などを参照）については、「図２２８に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７０９７】

また、図２３４を、図２０２と併せて見ると明らかであるように、「図２３４に示される例」とは、「図２０２に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、タイミングｔＣａ２において「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」及び「第２Ｃ刀受付状態」とそれぞれ重複するかたちで上記「第３Ｃ刀受付状態」が発生するものとなっていることはもとより、該「第３Ｃ刀受付状態」が発生しているなかで（タイミングｔＣａ３－１が到来しておらず、「第１Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われてこれがタイミングｔＣａ３－２が到来するよりも長い時間にわたって継続される場合を想定したものとなっている。

【７０９８】

すなわちこの場合、図２３４に示される例では、タイミングｔＣａＹ１が到来して「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立した時期的ラインよりも下の範囲）の各演出内容（図２４０（ｃ），（ｄ），（ｅ），（ｆ），（ｇ），（ｈ），（Ａ）などを参照）については、「図２０２に示した演出例」の場合（図２０８では、図２０８（ｃ），（ｄ），（ｅ），（ｆ），（ｇ），（ｈ），（Ａ）などを参照）と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７０９９】

図２３５は、上述した「図２２８に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ３－１」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１００】

図２３５に示される例とは、上述した「図２３４に示した例の場合」と同様、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定したものである。

【７１０１】

また、これも同様、図２３５を、まず、図２２８と併せて見ると明らかであるように、「図２３５に示される例」とは、「図２２８に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなか

で、タイミングｔＣａＹ１（「タイミングｔＣａ２」から「タイミングｔＣａ３－１」までの間にあるタイミング）において、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するものとなっている。

【７１０２】

そうすると、図２３５に示される例でも、上述した「図２３４に示した例の場合」と同様、タイミングｔＣａＹ１が到来するまで（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立する時期的ラインよりも上の範囲）の各演出内容（図２４０（ａ），（ｂ），（Ｃ）などを参照）については、「図２２８に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１０３】

ただし、図２３５を、図２０３と併せて見ると明らかであるように、「図２３５に示される例」とは、「図２０３に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ（タイミングｔＣａ２）」と、「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ（タイミングｔＣａ３－１）」とがそれぞれ満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」及び「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで上記「第３Ｃ刀受付状態」と上記「第１Ｃ刀受付状態」とがそれぞれ発生するものとなっていることはもとより、該「第３Ｃ刀受付状態」及び「第１Ｃ刀受付状態」が発生しているなかで（タイミングｔＣａ３－１からタイミングｔＣａ３－２までの期間内で）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われてこれがタイミングｔＣａ３－２が到来するよりも長い時間にわたって継続される場合を想定したものとなっている。

【７１０４】

すなわちこの場合、図２３５に示される例では、タイミングｔＣａＹ１が到来して「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立した時期的ラインよりも下の範囲）の各演出内容（図２４０（Ａ）及び図２０９などを参照）については、「図２０３に示した演出例」の場合（図２０８（Ａ）及び図２０９などを参照）と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１０５】

図２３６は、上述した「図２２８に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１０６】

図２３６に示される例とは、上述した「図２３４に示した例の場合」や「図２３５に示した例の場合」と同様、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定したものである。

【７１０７】

また、これも同様、図２３６を、まず、図２２８と併せて見ると明らかであるように、「図２３６に示される例」とは、「図２２８に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、タイミングｔＣａＹ１（「タイミングｔＣａ２」から「タイミングｔＣａ３－１」までの間にあるタイミング）において、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するものとなっている。

【７１０８】

そうすると、図２３６に示される例でも、上述した「図２３４に示した例の場合」と同様、タイミングｔＣａＹ１が到来するまで（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋ

が成立する時期的ラインよりも上の範囲）の各演出内容（図２４０（ａ），（ｂ），（Ｃ）などを参照）については、「図２２８に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１０９】

ただし、図２３６を、図２０４と併せて見ると明らかであるように、「図２３６に示される例」とは、「図２０４に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ（タイミングｔＣａ２）」と、「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ（タイミングｔＣａ３－１）」とがそれぞれ満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」及び「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで上記「第３Ｃ刀受付状態」と上記「第１Ｃ刀受付状態」とがそれぞれ一旦発生したものの、その後、「第１Ｃ刀受付状態」だけが状態終了（タイミングｔＣａ３－２）することはもとより、該「第１Ｃ刀受付状態」だけが状態終了しているなかで（タイミングｔＣａ３－２からタイミングｔＣａ４までの期間内で）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７１１０】

すなわちこの場合、図２３６に示される例では、タイミングｔＣａＹ１が到来して「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降（図２４０では、図２４０（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立した時期的ラインよりも下の範囲）の各演出内容（図２４０（Ａ）及び図２０９などを参照）については、「図２０４に示した演出例」の場合（図２０８（Ａ）及び図２０９などを参照）と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１１１】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａＹ１で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７１１２】

図２３７は、図２２８などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１１３】

すなわち、図２３７に示される例とは、タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するまでの間のうち、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされるタイミングｔＣａＹ１よりも前のタイミングｔＣａ１Ｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定したものである。

【７１１４】

ここで、図２３７を、図２０５や図２２１と併せて見ると明らかであるように、「図２３７に示される例」は、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７１１５】

すなわち、「図２３７に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なっている。

【７１１６】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０５に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２１に示される例）であるかにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１０（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２６（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【７１１７】

そうすると、図２３７に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかる構成という点でのみ、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１１８】

図２３８は、図２２８などを参照しつつ説明した上記演出例において、第１Ｃボタン受付状態のうち、タイミングｔＣａ３－１が到来してからタイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１１９】

すなわち、図２３８に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来した以降であり、且つ上記タイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７１２０】

ここで、図２３８を、図２０６や図２２２と併せて見ると明らかであるように、「図２３８に示される例」は、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７１２１】

すなわち、「図２３８に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なっている。

【７１２２】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変

化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０６に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２２に示される例）であるかにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１１（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２７（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【７１２３】

そうすると、図２３７に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかる構成という点でのみ、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１２４】

図２３９は、図２２８などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングｔＣａ１（第１Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣａ１）よりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われ、且つ該タイミングｔＣａ１を跨るかたちで該押下した状態を維持させたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１２５】

図２３９に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるよりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われて、且つ該タイミングｔＣａ１や上記タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで該押下した状態を維持させた場合（操作ボタン４１０が押下操作された状態にあるなかで第１Ｃボタン受付状態が発生した場合）を想定したものである。

【７１２６】

ここで、図２３９を、図２０７や図２２３と併せて見ると明らかであるように、「図２３９に示される例」は、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７１２７】

すなわち、「図２３９に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異なっている。

【７１２８】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるための条件は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか（図２０７に示した例）、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるか（図２２３に示される例）によって異なることはない。

【７１２９】

そうすると、図２３７に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるという点でのみ、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異な

っているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１３０】

次に、図２４０及び図２０９を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされたときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、まず、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、その後、操作ボタン４１０に対する操作受付がさらになされたときの演出進展について補足的に説明する。

【７１３１】

上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうちタイミングｔＣａＹ１において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【７１３２】

したがって、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち、上記タイミングｔＣａＹ１が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（表示変化や、音変化、振動など）が生じることはないのに対し（例えば、図２４０（ａ），（ｂ）→（ｈ）に示される演出進展などを参照）、上記タイミングｔＣａＹ１が到来した以降の期間（「第２Ｃ刀受付状態」）内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる（例えば、図２４０（ａ），（ｂ）→（Ｃ）→（ｇ１）に示される演出進展などを参照）。

【７１３３】

この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記タイミングｔＣａＹ１が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合であっても、該押下操作した状態を、上記タイミングｔＣａＹ１（第２Ｃ刀受付状態の発生タイミング）を跨るかたちで継続させたときには、該第２Ｃ刀受付状態が発生した時点で上記継続した押下操作に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、「第２Ｃ刀変化」が生じるようになっている（例えば、図２４０（ａ），（ｂ）→（ｈ）→（ｇ１）に示される演出進展などを参照）。

【７１３４】

このような構成によれば、「第２Ｃ刀変化」については、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対する押下操作を継続するだけで該第２Ｃ刀受付状態が発生した時点で実行されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することができるようになる。

【７１３５】

なお、このような構成以外の構成のうち、タイミングｔＣａＹ１が到来するよりも前に（第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるときに）刀装飾体５００１に対する操作が行われたときの演出進展の内容や、その後、操作ボタン４１０に対する操作がさらに行われたときの演出進展の内容については、図２２４を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１３６】

また、このような構成以外の構成のうち、タイミングｔＣａＹ１が到来した後の（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるときに）刀装飾体５００１に対する操作が行われたときの演出進展の内容や、その後、操作ボタン４１０に対する操作がさらに行われたときの演出進展の内容についても、図２０８及び図２０９を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１３７】

なおこの場合、「第２Ｃ刀変化」については、第２Ｃ刀受付状態が発生するよりも前から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を行うだけで生じさせることが

できるものの、「第１Ｃ刀変化」や「第３Ｃ刀変化」については、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生するよりも前から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を行うだけでは生じさせることができないことが明らかである（図２０８（ｈ）、（ｇ１）、または（ｅ）などを経て、図２０８（Ａ３）または（Ａ２）から、図２０９（Ａ３）または（Ａ２）へと至るルートなどを参照）。

【７１３８】

また、図２２８などを参照しつつ説明した上記演出例において、「第１Ｃボタン受付状態」内で、まず、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされて、その後、刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときの演出進展についても、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にないときの演出進展は、図２２６を参照しつつ説明した内容と同じであるし、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるときの演出進展は、図２１０及び図２１１を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１３９】

図１９６～図２５３のうち、図２４１～図２５２は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときの演出内容を示すタイムチャートである。図２５３は、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときの演出内容を示す図である。

【７１４０】

なおこの場合、タイミングｔＣａＹ２が到来するまでの間は、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでの演出進展が現れることとなるから、図２１２～図２２７を参照しつつ上述した通りの態様での演出進展が現れることとなる。そして、タイミングｔＣａＹ２が到来した以降は、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるなかでの演出進展となるから、基本的には、図１９６～図２１１を参照しつつ上述した通りの態様での演出進展が現れることとなる。すなわちこの場合、図２４１～図２５２に示される当該例では、「図２２４に示される演出内容」から「図２５３に示される演出内容」へと進展する態様での演出進展が現れることとなる。

【７１４１】

また上述の通り、「第２Ｃ刀受付状態」については、予め定められた発生条件が満たされたときに発生したり終了したりするものであればよく、それらの条件としては、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【７１４２】

図２４１（図２４１～図２４４）は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容を示すタイムチャートである。

【７１４３】

ここで、図２４１～図２４４を、図１９６～図１９９または図２１２～図２１５と併せ

て見ると明らかであるように、「図２４１～図２４４に示される例」は、上述した「図１９６～図１９９に示した例」や、上述した「図２１２～図２１５に示した例」などと基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図１９６に示した例」または「図２１２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７１４４】

すなわち、「図２４１に示される例」とは、「図２１２に示した例」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生する点で、上述した「図１９６に示した例」と異なっている。ただし、「図２４１に示される例」とは、このような状況下で発生した「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生するようになっている点で、上述した「図２１２に示した例」とも異なるものとなっている。

【７１４５】

なお、第２Ｃ刀受付状態は、「条件２Ｃｂ」が満たされたときにこれを契機として発生する場合（タイミングｔＣａＹ２）、当該第２Ｃ刀受付状態が発生することに関連して何らの変化（演出変化）も生じさせないものとなっている。すなわちこの場合、遊技者が認識し難い状況とされているなかで、「第２Ｃ刀変化」に関する操作受付が許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生することとなる。

【７１４６】

ただし、「第１Ｃボタン受付状態」が発生したときに当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており、この点については、上述した「図１９６に示した例」や「図２１２に示した例」と同じである。

【７１４７】

また、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が、「刀複種別許容状態が秘かに（隠しボタンとして）発生している状況下にあるときや、間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する状況下」にあるときに、刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回なされるように遊技（操作）することを促す画像表示として表示可能なものであることはもとより、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態が発生しておらず且つ間もなく（若しくは同じタイミングで）発生する予定もない状況下」にあるときにも表示可能なものとなっており、これによって「刀装飾体５００１に対する操作受付が（複数回）許容される」ことに関してのガセ演出として機能しうるものとなっていることは上述した通りである。

【７１４８】

したがって、図２４１～図２４４に示される各例においても、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５に示した各例と同様、「第１Ｃボタン受付状態」が発生する時点において摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２として表示されていたり、表示されていなかったりするし（図２４１（ｈ）、図２４２（ｈ）、及び図２４３（ｈ）などを参照）、該時点において表示されていなかった場合であってもタイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するまでの間に摸画像表示ＫＭＧ１として表示されたり、表示されなかったりすることとなる（図２４４（ｈ）などを参照）。

【７１４９】

また、図２４１～図２４４を、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５と併せて見ると明らかであるように、刀操作関連表示ＫＳＨの表示態様や、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されるタイミングなどによって、当該「第１Ｃボタン受付状態」内で「第１Ｃ刀受付状

態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生したり（または、発生しなくなったり）、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示、非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化したりする各構成や各条件についても、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか否かによっては変化することがないものとなっており、上述した「図１９６～図１９９に示した例」や「図２１２～図２１５に示した例」と同じである。

【７１５０】

このように、「図２４１～図２４４に示される例」とは、「第１Ｃボタン受付状態」内で「第２Ｃ刀受付状態」がこれと重複するかたちで発生するという点においてのみ、「図１９６～図１９９に示される例」や「図２１２～図２１５に示される例」と異なっているだけであり、それ以外の構成は同じであるから、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出進展については、図１９６～図１９９や図２１２～図２１５などを参照しつつ上述した通りであり、ここでの詳細な説明やその別例については割愛することとする。

【７１５１】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７１５２】

図２４５は、図２４１などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１５３】

図２４５に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたが（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（ｈ）へと演出進展したが）、その後、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合を想定したものである（図２５３（Ｃ）を参照）。

【７１５４】

ここで、図２４５を、図２００や図２１６と併せて見ると明らかであるように、「図２４５に示される例」は、上述した「図２００に示した例」や「図２１６に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２００に示した例」や「図２１６に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７１５５】

すなわち、「図２４５に示される例」では、まず、「図２１６に示した例」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生することとなる。

【７１５６】

したがって、「図２４５に示される例」においても、「図２１６に示した例」の場合と同様、タイミングｔＣａ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得され、タイミングｔＣａ１Ａｂにおいて、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されたとしても、上述した「図２００に示した例」の場合とは異なり、タイミングｔＣａ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化として上記「第２Ｃ刀変化」が生じることはない（図２４５（ｍ）や、図２２４（ｈ）などを参照）。

【７１５７】

また、これも同様、「図２４５に示される例」では、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで開始された「刀装飾体５００１に対する押下操作」を、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって継続させた場合を想定したものとなっている。

【７１５８】

ただし、「図２４５に示される例」では、「図２１６に示した例」の場合とは異なり、こうして刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。そして、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるようになっている。

【７１５９】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７１６０】

したがって、図２４５に示される例では、タイミングｔＣａＹ２（第２Ｃ刀受付状態が発生して、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」を当該第２Ｃ刀受付状態内の有効操作として判定（操作受付）するタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７１６１】

より具体的には、図２２４（ａ），（ｈ）に示される演出状況にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた後（図２２４（ａ），（ｂ）→（ｈ）に示される演出進展を参照）、該押下操作が継続されているだけの状況下にあるにもかかわらず、図２５３（Ｃ）に示される「条件２Ｃｋ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで「第２Ｃ刀受付状態」が発生すると、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」が有効操作として判定（操作受付）され、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されることとなる（図２４０（ｈ）→図２５３（ｇ１）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７１６２】

なおこの際、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に

対する操作受付を契機として非表示にされることはない。
【７１６３】
　また、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。
【７１６４】
　すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。なお、第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されているなかで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされる場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることがないし、上記第２Ｃ刀受付状態についても、該操作受付を契機として終了されることがないようにすることが望ましい。
【７１６５】
　また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、図２５３（ｇ１）～（ｇ３）などに示されるように、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７１６６】
　特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７１６７】
　この点、図２４５（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。
【７１６８】
　したがって、この例では、図２４５（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ１ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）のうち、「条件２Ｃｋ」が満たされて「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降の期間内で上述のオート連打機能が働くこととなり、これによって「タイミングｔＣａＹ２から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を終了するまでの期間」にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。
【７１６９】
　なお、このようなオート連打機能については、図２００などを参照しつつ上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７１７０】
　そして、タイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」が発生して上述のオート連打機能が働くこととなった以降は、図２００や、図２０９などを参照しつつ上述した通

りの態様で演出進展が現れることとなる。
【７１７１】
　また上述の通り、タイミングｔＣａＹ２が到来するまでの演出進展（第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでの演出進展）の内容については、図２１２～図２２７（特に、図２１６）を参照しつつ上述した通りの態様での演出進展が現れることとなる。
【７１７２】
　したがって、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上述した「図２１６に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはない。
【７１７３】
　また、図２４５（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）。
【７１７４】
　また、図２４５（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続することとなる。
【７１７５】
　また、図２４５（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続することとなる。
【７１７６】
　また、図２４５（ａ）、（ｂ），（ｆ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｆ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上述した「図２００に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ２」が到来したときに「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはない。
【７１７７】
　なお、図２３２に示される例や、図２４５に示される例では、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合に、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示に

されたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたが、これに代えて、上記「タイミングｔＣａ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態にせず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけでも（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないようにしたとしても）、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしてもよい。またこの際、タッチ操作として維持される時間（第１Ｃ刀操作検出情報としてオン状態になっている経過時間）にかかわらず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作が一度だけ短時間で行われた場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）が終了されたりしないようにしてもよい。

【７１７８】

図２４６は、上述した「図２４５に示した演出例」を実現するにあたって、タイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂから継続している上記刀装飾体５００１に対する押下操作を、上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に終了させた場合を想定した演出内容を示すタイムチャートである。

【７１７９】

図２４６に示される例も、上述した「図２４５に示した例」の場合と同様、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ１Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況から、図２２４（ｈ）へと演出進展した）場合を想定したものとなっている。ただしこの例では、その後、第２Ｃ刀受付状態が発生するよりも前に（タイミングｔＣａ２が到来するよりも前に）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が終了されており、この点で、上述した「図２４５に示した例」の場合と異なっている。

【７１８０】

すなわちこの場合、図２４６に示される例においては、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われる時点と、該押下操作が終了される時点とのいずれにおいても、上記タイミングｔＣａ２、ｔＣａ３－１はいずれも到来していない状況下にあり、且つ「第２Ｃ刀受付状態」は発生していない状況下にあることとなる。

【７１８１】

そうすると、図２４６に示される例とは、「上記刀装飾体５００１に対する操作が終了した以降に第２Ｃ刀受付状態が発生する」といった点でのみ、上述した「図２１７に示した例」と異なることが明らかであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１８２】

図２４７は、上述した「図２４１に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ２」から上記「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い期間にわたって、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７１８３】

図２４７に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記所定時間が経過しており且つ上記特定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の間にあるタイミングｔＣａ２Ａａ，Ａｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたが（図２２４（ａ），（ｂ）に示される演出状況か

ら、図２２４（ｅ）へと演出進展したが）、その後、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合を想定したものである（図２５３（Ｃ）を参照）。

【７１８４】

ここで、図２４７を、図２１８と併せて見ると明らかであるように、「図２４７に示される例」では、「図２１８に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、上記タイミングｔＣａ２が到来する。また、「図２１８に示した例」の場合と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、上記タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前のタイミングｔＣａ２Ａａ，ｔＣａ２Ａｂにおいて上記刀装飾体５００１に対する押下操作が開始されて、その操作状態（押下操作した状態）が上記タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで継続されるものとなっている。

【７１８５】

そうすると、図２４７に示される例では、タイミングｔＣａＹ２が到来するまで（図２５３では、図２５３（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立する時期的ラインよりも上の範囲）の各演出内容（図２２４に示した演出内容や、図２５３（ａ），（ｄ），（ｅ），（ｇ），（Ｂ）などを参照）については、「図２１８に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１８６】

また、これも同様、「図２４７に示される例」では、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで開始された「刀装飾体５００１に対する押下操作」を、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって継続させた場合を想定したものとなっている。

【７１８７】

ただし、「図２４７に示される例」では、「図２１８に示した例」の場合とは異なり、こうして刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。そして、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるようになっている。

【７１８８】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７１８９】

したがって、図２４７に示される例では、タイミングｔＣａＹ２（第２Ｃ刀受付状態が発生して、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」を当該第２Ｃ刀受付状態内の有効操作として判定（操作受付）するタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７１９０】

より具体的には、「図２２４（ａ），（ｈ）に示される演出状況」から「図２２４（Ａ）に示される演出状況」を経て、該条件３Ｃｋが成立している状況下（第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた後（図２２４（ａ），（ｂ）→（Ａ）→（ｅ）に示される演出進展を参照）、該押下操作が継続されているだけの状況下にあるにもかかわらず、図２５３（Ｃ）に示される「条件２Ｃｋ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで「第２Ｃ刀受付状態」が発生すると、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」が有効操作として判定（操作受付）され、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されることとなる（図２２４（ａ），（ｂ）→（Ａ）→（ｅ）→（ｈ）→図２５３（ｇ１）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７１９１】

なおこの際、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。

【７１９２】

また、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。

【７１９３】

すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。なお、第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されているなかで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされる場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることがないし、上記第２Ｃ刀受付状態についても、該操作受付を契機として終了されることがないようにすることが望ましい。

【７１９４】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、図２５３（ｇ１）～（ｇ３）などに示されるように、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７１９５】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７１９６】

この点、図２４７（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７１９７】

したがって、この例では、図２４７（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ２ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）のうち、「条件２Ｃｋ」が満たされて「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降の期間内で上述のオート連打機能が働くこととなり、これによって「タイミングｔＣａＹ２から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を終了するまでの期間」にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。

【７１９８】

なお、このようなオート連打機能については、図２００などを参照しつつ上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７１９９】

そして、タイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」が発生して上述のオート連打機能が働くこととなった以降は、図２０２や、図２０９などを参照しつつ上述した通りの態様で演出進展が現れることとなる。

【７２００】

また上述の通り、タイミングｔＣａＹ２が到来するまでの演出進展（第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでの演出進展）の内容については、図２１２～図２２７（特に、図２１８）を参照しつつ上述した通りの態様での演出進展が現れることとなる。

【７２０１】

したがって、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上述した「図２１８に示した例」の場合と同様、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件が満たされることはない。

【７２０２】

また、図２４７（ａ）、（ｂ），（ｊ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときに特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）。

【７２０３】

また、図２４７（ａ）、（ｂ），（ｉ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続することとなる。

【７２０４】

また、図２４７（ａ）、（ｂ），（ｋ）に、図２４１（ａ）、（ｂ），（ｊ）と併せて示されるように、上記「タイミングｔＣａ２Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する

操作が行われた場合（且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合）は、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来したときにそれまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続することとなる。

【７２０５】

図２４８は、上述した「図２４１に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ３－１」が到来した以降であり、且つ上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前のタイミングｔＣａ３Ａａ，ｔＣａ３Ａｂから、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７２０６】

図２４８に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから、上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来した以降であり、且つ上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前のタイミングｔＣａ３Ａａ，ｔＣａ３Ａｂから、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたが（図２５３（ｇ）に示される演出状況から、図２５３（ｄ）へと演出進展したが）、その後、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した場合を想定したものである（図２５３（Ｃ）を参照）。

【７２０７】

ここで、図２４８を、図２１９と併せて見ると明らかであるように、「図２４８に示される例」では、「図２１９に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、上記タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１がそれぞれ到来する。また、「図２１９に示した例」の場合と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、上記タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａ３Ａａ，ｔＣａ３Ａｂにおいて上記刀装飾体５００１に対する押下操作が開始されて、その操作状態（押下操作した状態）が上記タイミングｔＣａ３－２を跨るかたちで継続されるものとなっている。

【７２０８】

そうすると、図２４８に示される例では、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するまで（図２５３では、図２５３（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立する時期的ラインよりも上の範囲）の各演出内容（図２２４に示した演出内容や、図２５３（ａ），（ｄ），（ｅ），（ｇ），（Ｂ）などを参照）については、基本的には、「図２１９に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７２０９】

また、これも同様、「図２４８に示される例」では、第２Ｃ刀受付状態が発生しておらず「第２Ｃ刀変化」が生じない状況下にあるなかで開始された「刀装飾体５００１に対する押下操作」を、上記「タイミングｔＣａ３Ａｂ」から上記「タイミングｔＣａ３－２」までの時間よりも長い時間にわたって継続させた場合を想定したものとなっている。

【７２１０】

ただし、「図２４８に示される例」では、「図２１９に示した例」の場合とは異なり、こうして刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われているなかで、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生することとなる。そして、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態に

ある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるようになっている。

【７２１１】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７２１２】

したがって、図２４８に示される例では、タイミングｔＣａＹ２（第２Ｃ刀受付状態が発生して、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」を当該第２Ｃ刀受付状態内の有効操作として判定（操作受付）するタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７２１３】

より具体的には、まず、「図２５３（ｇ）に示される演出状況」が現れているなかで（第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるなかで）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作を開始すると、詳細は割愛するが、これを契機として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも状態終了して、上記「第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など）」及び上記「第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など）」がそれぞれ生じることとなる（図２５３（ｇ）→（ｄ）に示される演出進展を参照）。ただしこの後、「刀装飾体５００１に対する押下操作」が継続されているなかで、時間が経過すると、上記「第１Ｃ刀変化」及び上記「第３Ｃ刀変化」のうち、上記「第３Ｃ刀変化」の実行時間が消化し終わることとなり、その結果として、上記「第１Ｃ刀変化」のみがその実行状態を継続する状況が現れることとなる（図２５３（ｄ）→（ｅ）に示される演出進展を参照）。

【７２１４】

この点、図２４８に示される例では、こうして「刀装飾体５００１に対する押下操作」が継続しており、且つ上記「第１Ｃ刀変化」のみがその実行状態を継続する状況が現れているなかで、図２５３（Ｃ）に示される「条件２Ｃｋ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで「第２Ｃ刀受付状態」が発生するようになっている。すなわちこの場合、該「第２Ｃ刀受付状態」では、それまで継続していた「刀装飾体５００１に対する押下操作」が有効操作として判定（操作受付）され、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が表示されることとなる（図２５３（ｅ）→（ｅ１）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７２１５】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、図２５３（ｅ１）～（ｅ３）などに示されるように、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７２１６】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７２１７】
この点、図２４８（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣａ３Ａｂ」から「タイミングｔＣａ３－２」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。
【７２１８】
したがって、この例では、図２４８（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣａ３ＡｂからタイミングｔＣａ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）のうち、「条件２Ｃｋ」が満たされて「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降の期間内で上述のオート連打機能が働くこととなり、これによって「タイミングｔＣａＹ２から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を終了するまでの期間」にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。
【７２１９】
なお、このようなオート連打機能については、図２００などを参照しつつ上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７２２０】
そして、タイミングｔＣａＹ２において「第２Ｃ刀受付状態」が発生して上述のオート連打機能が働くこととなった以降は、図２０３や、図２０９や、図２３５などを参照しつつ上述した通りの態様で演出進展が現れることとなる。
【７２２１】
例えば、図２４１に示した例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合は、該受付けに応じた受付後変化として、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などと同様の態様で、演出進展が行われることとなる。
【７２２２】
また上述の通り、タイミングｔＣａＹ２が到来するまでの演出進展（第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでの演出進展）の内容については、図２１２～図２２７（特に、図２１９）を参照しつつ上述した通りの態様での演出進展が現れることとなる。
【７２２３】
図２４９は、上述した「図２４１に示した演出例」を実現するにあたって、上記「タイミングｔＣａ３－２」から上記「タイミングｔＣａ４」までの間で、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。
【７２２４】
図２４９に示される例とは、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定したものである。
【７２２５】
また、これも同様、図２４９を、まず、図２４１と併せて見ると明らかであるように、「図２４１に示される例」とは、「図２４１に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで、タイミングｔＣａＹ２（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミング）において、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するものとなっている。
【７２２６】
そうすると、図２４９に示される例では、タイミングｔＣａＹ２が到来するまで（図２２４や、図２５３のうち図２５３（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立する時期的ラインよりも上の

範囲）の各演出内容（図２５３（ａ），（ｄ），（ｇ），（Ｂ）などを参照）については、「図２４１に示した演出例」の場合と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７２２７】

ただし、図２４９を、図２０４と併せて見ると明らかであるように、「図２４９に示される例」とは、「図２０４に示した例」の場合と同様、遊技者による操作が何ら行われておらず、且つ「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで、「第３Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ（タイミングｔＣａ２）」と、「第１Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ（タイミングｔＣａ３－１）」とがそれぞれ満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」及び「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで上記「第３Ｃ刀受付状態」と上記「第１Ｃ刀受付状態」とがそれぞれ一旦発生したものの、その後、「第１Ｃ刀受付状態」だけが状態終了（タイミングｔＣａ３－２）することはもとより、該「第１Ｃ刀受付状態」だけが状態終了しているなかで（タイミングｔＣａ３－２からタイミングｔＣａ４までの期間内で）、上記刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７２２８】

すなわちこの場合、図２４９に示される例では、タイミングｔＣａＹ２が到来して「第２Ｃ刀受付状態」が発生した以降（図２５３では、図２５３（Ｃ）で条件２Ｃｋが成立した時期的ラインよりも下の範囲）の各演出内容（図２５３（ｇ）→（ｈ）→（ｌ）→（ｉ１）などの演出進展）については、「図２０４に示した演出例」の場合（図２０９（ｇ）→（ｈ）→（ｌ）→（ｉ１）などの演出進展）と同様であることとなり、別例等も含めて上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７２２９】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、該「第１Ｃボタン受付状態」のうち、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間にあるタイミングｔＣａＹ２で「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときの演出内容のうち、当該「第１Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７２３０】

図２５０は、図２４１などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣａ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７２３１】

すなわち、図２５０に示される例とは、タイミングｔＣａ２，ｔＣａ３－１が到来するまでの間のうち、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされるタイミングｔＣａＹ２よりも前のタイミングｔＣａ１Ｂにおいて、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定したものである。

【７２３２】

ここで、図２５０を、図２０５や図２２１と併せて見ると明らかであるように、「図２５０に示される例」は、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７２３３】

すなわち、「図２５０に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状

況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ２において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なっている。

【７２３４】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０５に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２１に示される例）であるかにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１０（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２６（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【７２３５】

そうすると、図２５０に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかる構成という点でのみ、上述した「図２０５に示した例」や「図２２１に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７２３６】

図２５１は、図２４１などを参照しつつ説明した上記演出例において、第１Ｃボタン受付状態のうち、タイミングｔＣａ３－１が到来してからタイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７２３７】

すなわち、図２５１に示される例とは、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１が到来した以降であり、且つ上記タイミングｔＣａ３－２が到来するまでの間にあるタイミングｔＣａ３Ｃにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７２３８】

ここで、図２５０を、図２０６や図２２２と併せて見ると明らかであるように、「図２５０に示される例」は、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７２３９】

すなわち、「図２５０に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ２において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なっている。

【７２４０】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生

するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付が、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるときになされたもの（図２０６に示した例）であるか、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるときになされたもの（図２２２に示される例）であるかにかかわらず、上記「第１Ｃボタン変化」として同じ態様が現れることとなる（図２１１（ａ）→（ｂ）に示される演出進展と、図２２７（ａ）→（ｂ）に示される演出進展とを参照）。

【７２４１】

そうすると、図２５１に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかる構成という点でのみ、上述した「図２０６に示した例」や「図２２２に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７２４２】

図２５２は、図２４１などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングｔＣａ１（第１Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣａ１）よりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われ、且つ該タイミングｔＣａ１を跨るかたちで該押下した状態を維持させたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７２４３】

図２５２に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかで、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるよりも前に上記操作ボタン４１０に対する押下操作が行われて、且つ該タイミングｔＣａ１や上記タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで該押下した状態を維持させた場合（操作ボタン４１０が押下操作された状態にあるなかで第１Ｃボタン受付状態が発生した場合）を想定したものである。

【７２４４】

ここで、図２５２を、図２０７や図２２３と併せて見ると明らかであるように、「図２５２に示される例」は、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７２４５】

すなわち、「図２５２に示される例」とは、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第１Ｃボタン受付状態」が発生した後、タイミングｔＣａＹ２において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する点で、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異なっている。

【７２４６】

この点、「第１Ｃボタン受付状態」とは、本来、受付後変化としての「第１Ｃボタン変化」に関連した「操作ボタン４１０に対する操作受付」を許容するための状態として発生するものである。したがって、「第１Ｃボタン受付状態」において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされるための条件は、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるか（図２０７に示した例）、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるか（図２２３に示される例）によって異なることはない。

【７２４７】

そうすると、図２５２に示される例とは、第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるという点でのみ、上述した「図２０７に示した例」や「図２２３に示した例」と異なっているだけであり、別例等にかかる構成も含めて、それ以外の構成は同じであるから、

ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７２４８】
次に、図２２４及び図２５３を参照して、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで上記「第１Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件１Ｃｂ」が満たされたときに、該「第１Ｃボタン受付状態」において、まず、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、その後、操作ボタン４１０に対する操作受付がさらになされたときの演出進展について補足的に説明する。
【７２４９】
上述の通り、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうちタイミングｔＣａＹ２において、「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて当該「第１Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで該「第２Ｃ刀受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。
【７２５０】
したがって、この実施例にかかるパチンコ機１では、第１Ｃボタン受付状態のうち、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、これを契機として、「第２Ｃ刀変化」が生じることはないのに対し、上記タイミングｔＣａＹ２が到来した以降の期間（「第２Ｃ刀受付状態」）内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。
【７２５１】
この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合であっても、該押下操作が行われた時点で「第３Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあったときには、該操作受付に応じた受付後変化として、「第３Ｃ刀変化」が生じることとなる（例えば、図２２４（ａ），（ｂ）→（Ａ）→（ｅ）などに示される演出進展などを参照）。
【７２５２】
また、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合であっても、該押下操作が行われた時点で「第１Ｃ刀受付状態」（及び「第３Ｃ刀受付状態」）が発生している状況下にあったときには、該操作受付に応じた受付後変化として、「第１Ｃ刀変化」（及び「第３Ｃ刀変化」）が生じることとなる（例えば、図２２４（ａ），（ｂ）→（Ａ）→図２５３（Ｂ），（ｇ）→（ｄ）などに示される演出進展などを参照）。
【７２５３】
ただし、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときの演出進展や、その後、操作ボタン４１０に対する操作がさらに行われたときの演出進展の内容については、図２２４を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７２５４】
この点、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記タイミングｔＣａＹ２が到来するよりも前の期間内で刀装飾体５００１に対する押下操作が行われた場合であっても、該押下操作した状態を、上記タイミングｔＣａＹ２（第２Ｃ刀受付状態の発生タイミング）を跨るかたちで継続させたときには、該第２Ｃ刀受付状態が発生した時点で上記継続した押下操作に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、「第２Ｃ刀変化」が生じるようになっている（例えば、図２４０（ａ），（ｂ）→（ｈ）→（ｇ１）に示される演出進展や、図２５３（ｇ）→（ｄ）→（ｅ）→（ｅ１）に示される演出進展などを参照。
【７２５５】
このような構成によれば、「第２Ｃ刀変化」については、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、刀装飾体５００１に対する押下操作を継続するだけで該第２Ｃ刀受付状態が発生した時点で実行されるようになるから、遊技興趣を好適に

維持することができるようになる。
【７２５６】
なお、タイミングｔＣａＹ２が到来した後の（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるときに）刀装飾体５００１に対する操作が行われたときの演出進展の内容や、その後、操作ボタン４１０に対する操作がさらに行われたときの演出進展の内容については、図２０９を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７２５７】
なおこの場合、「第２Ｃ刀変化」については、第２Ｃ刀受付状態が発生するよりも前から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を行うだけで生じさせることができるものの、「第１Ｃ刀変化」や「第３Ｃ刀変化」については、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生するよりも前から、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作を行うだけでは生じさせることができないことが明らかである（図２２４（ｈ）を経て、図２２４（Ａ３）または（Ａ２）から、図２５３（Ａ３）または（Ａ２）へと至るルートなどを参照）。
【７２５８】
また、図２４１などを参照しつつ説明した上記演出例において、「第１Ｃボタン受付状態」内で、まず、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされて、その後、刀装飾体５００１に対する操作受付がさらになされたときの演出進展についても、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にないときの演出進展は、図２２６及び図２２７を参照しつつ説明した内容と同じであるし、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるときの演出進展は、図２１１を参照しつつ説明した内容と同じであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７２５９】
ところで、図１９６～図２５３を参照しつつ上述した例では、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、第１Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ３－１）や第３Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ２）が発生するよりも前の区間内で、刀装飾体５００１に対する操作が行われると、該操作が行われた時点で第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、その後、タイミングｔＣａ３－１やタイミングｔＣａ２が到来したときに第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することがないようにした。またこの際、タイミングｔＣａ３－１が到来したときには、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されることもない（開始条件が成立しない）し、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、その表示状態を継続させるし、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）を終了させず、その発光態様を継続させるようにした。
【７２６０】
ただしこれに代えて、図１９６～図２５３を参照しつつ上述した例については、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、第１Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ３－１）や第３Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ２）が発生するよりも前の区間内で、刀装飾体５００１に対する操作が行われた場合であっても、タイミングｔＣａ３－１が到来したときには、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される（開始条件が成立する）し、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にするし、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）についてもこれを終了させるようにしてもよい。
【７２６１】
そしてこの際、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、第１Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ３－１）や第３Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ２）が発生するよりも前の区間内で、刀装飾体５００１に対する操作が行われた場合であっても、上記タイミングｔＣａ２が到来したときには第３Ｃ刀受付状態が発生するし、上記タイミングｔＣａ３－１が到来したときには第１Ｃ刀受付状態が発生するようにしてもよい。そしてこの場合、「第１Ｃボタン受付状態」内でこのような演出経過を経てから第３Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作が再び行われたとき（操作終了してからの再操作があった

とき）や、第１Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作が再び行われたとき（操作終了してからの再操作があったとき）は、上述した通りの内容（図１９６～図２５３を参照）で演出進展されるようにすることが望ましい。なおこの場合、刀装飾体５００１を操作状態に維持しているなかで第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生したとしても、第３Ｃ刀受付状態に対応する操作受付に応じた受付後変化（第３Ｃ刀変化）や、第１Ｃ刀受付状態に対応する操作受付に応じた受付後変化（第１Ｃ刀変化）は生じないようにし、操作を一旦終了してから、それらの受付状態内で該操作をやり直したときに生じるようにすることが望ましい。

【７２６２】

またこの場合、図１９８（ｈ）や図１９９（ｈ）などに示されるタイミングで、刀操作関連表示が第１態様（ＫＭＧ１）で表示されたとしても、上記タイミングｔＣａ２が到来したときには第３Ｃ刀受付状態が発生するし、上記タイミングｔＣａ３－１が到来したときには第１Ｃ刀受付状態が発生することはもとより、特定動画ＴＤにかかる表示が開始される（開始条件が成立する）し、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にするし、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）についてもこれを終了させるようにしてもよい。ただし、刀操作関連表示が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されたときには、このような演出進展が現れないようにすることが望ましい。

【７２６３】

またこの際、これとは逆に、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、第１Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ３－１）や第３Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ２）が発生するよりも前の区間内で、刀装飾体５００１に対する操作が行われた場合は、上記タイミングｔＣａ２が到来したときに第３Ｃ刀受付状態が発生しないし、上記タイミングｔＣａ３－１が到来したときに第１Ｃ刀受付状態が発生しないようにしてもよい（これらの点だけを見れば、図１９６～図２５３を参照しつつ上述した例の場合と同様）。すなわちこの場合、「第１Ｃボタン受付状態」のうち、第１Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ３－１）や第３Ｃ刀受付状態（タイミングｔＣａ２）が発生するよりも前の区間内で、刀装飾体５００１に対する操作が行われると、該操作が行われた時点で第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、その後、タイミングｔＣａ３－１やタイミングｔＣａ２が到来したときに第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することがなくなるものの、それ以外の事象（特定動画ＴＤ、ボタン操作関連表示ＢＳＨ、特定発光部で現れていた発光態様）については、上記刀装飾体５００１に対する操作が行われなかったときと同じ態様が現れるようになるから、タイミングｔＣａ３－１が到来したときに第１Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるのか否かを認識し難くすることができるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７２６４】

またこの場合、図１９８（ｈ）や図１９９（ｈ）などに示されるタイミングで、刀操作関連表示が第１態様（ＫＭＧ１）で表示されたときにも、上記タイミングｔＣａ２が到来したときに第３Ｃ刀受付状態が発生することがなくなるようにすることが望ましい。ただし、上記タイミングｔＣａ３－１が到来したときには、第１Ｃ刀受付状態が発生することはなくなるが、特定動画ＴＤにかかる表示は開始される（開始条件が成立する）し、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にするし、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ａ発光）についてもこれを終了させるようにしてもよい。ただし、刀操作関連表示が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されたときには、このような演出進展が現れないようにすることが望ましい。

【７２６５】

このような別例にかかる構成を採用した場合、例えば、図１９６に示した例において、上記タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ１Ａｂから「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５４に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。なおこの場合、

タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂから開始した「刀装飾体５００１に対する操作」を、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に終了させ、その後、タイミングｔＣＡから再び開始させたときには、「刀装飾体５００１に対する操作」が早期終了された分だけ第２Ｃ刀変化（図２５４（ｍ）を参照）が終了するタイミングが早くなるだけで、それ以外については、図２５４に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７２６６】

また、上述した別例にかかる構成を採用した場合、例えば、図２１２に示した例において、上記タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ１Ａｂから「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５５に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。なおこの場合、タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂから開始した「刀装飾体５００１に対する操作」を、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に終了させ、その後、タイミングｔＣＡから再び開始させたときにも、図２５５に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７２６７】

また、上述した別例にかかる構成を採用した場合、例えば、図２２８に示した例において、上記タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ１Ａｂから「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５６に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。なおこの場合、タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂから開始した「刀装飾体５００１に対する操作」を、タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間内で終了させ、その後、タイミングｔＣＡから再び開始させたときには、「刀装飾体５００１に対する操作」が早期終了された分だけ第２Ｃ刀変化（図２５４（ｍ）を参照）が終了するタイミングが早くなるだけで、それ以外については、図２５４に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７２６８】

またこの場合、タイミングｔＣａＹ１で第２Ｃ刀受付状態が発生してからタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間に、刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始されない場合とはもとより、刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始された場合であっても、図２３１の場合とは異なり、図２５６に示される態様での演出進展が現れる、すなわちタイミングｔＣａ３－１が到来したときの上記演出変化が現れるようにすることが望ましい。なお、図２５６に示した例では、刀操作関連表示ＫＳＨが、タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで表示される場合を想定したが、該タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に非表示にされる場合もあるようにしてもよく、この場合であっても、図２５６に示される態様での演出進展が現れる、すなわちタイミングｔＣａ３－１が到来したときの上記演出変化が現れるようにすることが望ましい。

【７２６９】

また、上述した別例にかかる構成を採用した場合、例えば、図２４１に示した例において、上記タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ１Ａｂから「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５７に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。なおこの場合、タイミングｔＣａ１Ａａ，ｔＣａ１Ａｂから開始した「刀装飾体５００１に対する操作」を、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に終了させ、その後、タイミングｔＣＡから再び開始させたときにも、図２５７に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７２７０】

また、これらの場合、図２５４～図２５７に示されるように、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間で刀装飾体５００１に対する操作を終了し、且つタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の間（タイミングｔＣＡ，ｔＣＢ）で刀装飾体５００１に対する操作を再び行ったとしても、これを契機として、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）や、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）が発生しないことはもとより、特定動画ＴＤにかかる表示が終了されることはないし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されることはないし、それまで特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｂ発光）が終了されることもないことは言うまでもない。

【７２７１】

また、図２５４～図２５７の例では、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に、「刀装飾体５００１を特定操作状態で維持させる操作」を仮に終了しており、且つ該刀装飾体５００１に対して何らの操作も行われていないなかでタイミングｔＣａ３－１が到来した場合であっても、図２５４～図２５７に示した通りの内容で演出進展されることとなることは上述した通りである。

【７２７２】

また、このような別例にかかる構成を採用した場合に、第３Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合についても、念のために説明しておくこととする。

【７２７３】

例えば、図２４１に示した例において、上記タイミングｔＣａ２Ａａ，ｔＣａ２Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ２Ａｂから「タイミングｔＣａ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５８に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。なおこの場合、タイミングｔＣａ２Ａａ，ｔＣａ２Ａｂから開始した「刀装飾体５００１に対する操作」を、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に終了させ、その後、タイミングｔＣＡから再び開始させたときにも、図２５８に示した例の場合と同様の演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【７２７４】

すなわち上述の通り、上記タイミングｔＣａ２Ａａ，ｔＣａ２Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、第３Ｃ刀受付状態での操作受付がなされることとなり、これを契機として、第３Ｃ刀受付状態が終了するとともに、該第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）が生じることとなる（図２５８（ａ），（ｆ），（ｎ）を参照）。

【７２７５】

そしてこの後、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が継続されているなかで、上記タイミングｔＣａＹ２が到来すると、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態での操作受付がなされることとなり、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることとなる（図２５８（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）。

【７２７６】

すなわちこの場合、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作（１回分の操作）を通じて、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）と、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）とを、異なる時期でそれぞれ生じさせることができるようになる（図２４７に示される例においても、同様のことが言える）。

【７２７７】

なお、図２５８に示した例において、「刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作」の開始時期を、「タイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間」から「タイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の区間」に変更した場合は、タイミングｔＣａ２が到来したときに第３Ｃ刀受付状態が発生しなくなるから、第３Ｃ刀変化が生じなくなることは言うまでもない。

【７２７８】
　また、このような別例にかかる構成を採用した場合に、第１Ｃ刀受付状態（及び第３Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合についても、念のために説明しておくこととする。
【７２７９】
　例えば、図２４１に示した例において、上記タイミングｔＣａ３Ａａ，ｔＣａ３Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われて、該タイミングｔＣａ３Ａｂから「タイミングｔＣａ３－２」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したとすると、図２５９に示される態様での演出進展が現れることが明らかである。
【７２８０】
　すなわち上述の通り、上記タイミングｔＣａ３Ａａ，ｔＣａ３Ａｂで刀装飾体５００１に対する操作が行われたときには、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、第１Ｃ刀受付状態（及び第３Ｃ刀受付状態）での操作受付がなされることとなり、これを契機として、第１Ｃ刀受付状態（及び第３Ｃ刀受付状態）が終了するとともに、該第１Ｃ刀受付状態（及び第３Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化（及び第３Ｃ刀変化））が生じることとなる（図２５８（ａ），（ｄ），（ｌ）を参照）。
【７２８１】
　そしてこの後、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が継続されているなかで、上記タイミングｔＣａＹ２が到来すると、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態での操作受付がなされることとなり、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることとなる（図２５８（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）。
【７２８２】
　すなわちこの場合、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作（１回分の操作）を通じて、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）とを、異なる時期でそれぞれ生じさせることができるようになる。
【７２８３】
　また、第１Ｃボタン受付状態にかかる構成として、図２５４～図２５９に示した当該別例にかかる構成を採用することとした場合、タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示される場合もあり得る。そしてこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされることとなるが、該タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」は条件成立することとなる。
【７２８４】
　また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで表示される場合のほか、図１９９に示した態様（タイミングｔＣａ１よりも後のタイミングで表示開始される態様）で表示される場合もあり得るが、これらの場合における演出進展にかかる内容（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態や、ボタン操作関連表示ＢＳＨや、発光態様など）については、図２５４～図２５９に示した例において「タイミングｔＣａ１が到来した以降に刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとき」と同じ態様が現れるようにすることが望ましい。
【７２８５】
　図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態にかかる構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を大きく増やすべく、操作手段として、特別操作手段（刀装飾体５００１）と所定操作手段（操作ボタン４１０）とを用意することとした上で、それらの受付状態にかかる発生条件を、互いに競合しないように設定したことを

技術的な特徴としている。例えば、特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態内においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）の受付状態が発生する。

【７２８６】

そしてこの上で、特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生しなくても、刀操作関連表示ＫＳＨ（ガセ演出）を表示可能とし、受付状態の発生状況にかかわらず操作機会を意識させるようにしている。また、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている途中で特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生することもあるし、特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生せずに該刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされることもある。所定操作手段（操作ボタン４１０）の所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている途中で特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生することもある。また、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生することもあるようにすることで、どのような演出状況にあるなかでも特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態を意識させることを可能としている。また、特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態を、ボタン操作関連表示ＢＳＨの終了タイミングと関連付けることで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されたり、所定操作手段（操作ボタン４１０）の受付状態が発生したときにも、特別操作手段（刀装飾体５００１）の受付状態が発生する可能性を意識させることができるようになる。

【７２８７】

なお、図２５４～図２５９に示される例では、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合に、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたり、第１Ｃ刀受付状態を終了させたり、第３Ｃ刀受付状態を終了させたりするようにしたが、これに代えて、刀装飾体５００１を押下操作した状態にせず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作を行うに留めただけでも（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないようにしたとしても）、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたり、第１Ｃ刀受付状態を終了させたり、第３Ｃ刀受付状態を終了させたりするようにしてもよい。またこの際、タッチ操作として維持される時間（第１Ｃ刀操作検出情報としてオン状態になっている経過時間）にかかわらず、刀装飾体５００１に対してタッチ操作が一度だけ短時間で行われた場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生したり、第３Ｃ刀受付状態が発生したりしないようにしたり、第１Ｃ刀受付状態を終了させたり、第３Ｃ刀受付状態を終了させたりするようにしてもよい。

【７２８８】

図２６０～図２６６は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、受付後変化として「第２Ｃボタン変化」を生じさせる種別の「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示す図である。

【７２８９】

図２６０～図２６６のうち、特に、図２６０～図２６４は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートである。

【７２９０】

図２６０（図２６０～図２６２）は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第２Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７２９１】

はじめに、このような条件下で「第２Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第２Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容がど

のように進展するかについて説明する。
【７２９２】
いま、特定遊技状態（例えば、非確変・非時短である通常遊技状態）において始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第２Ｃ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該第２Ｃ変動パターンに対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第２Ｃ変動パターンに応じた演出描写や、第２Ｃ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第２Ｃ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。なお、第２Ｃ変動パターンについては、上記第１Ｃ変動パターンとは異なる変動パターンとして設定されるようにしてもよいし、同じ変動パターンとして設定されるものであってもよい。
【７２９３】
この点、この例にかかるパチンコ機１では、図２６０（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第２Ｃ時間（第１Ｃ時間とは異なる時間）が経過したタイミングｔＣｂ１が到来したとすると、該タイミングｔＣｂ１が到来したことに基づいて（「条件２Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第２Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第２Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。
【７２９４】
なおこの例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨを、第２Ｃボタン受付状態が発生するタイミングで表示開始させることとしているが、必ずしも同じタイミングでなくてもよく、そのタイミングの前または後にズレるかたちで（異なるタイミングで）表示開始させるようにしてもよい。
【７２９５】
また、図示は割愛するが、第２Ｃボタン受付状態の発生に際しても、第１Ｃボタン受付状態の場合と同様、敵キャラクタ画像や、味方キャラクタ画像などを表示するようにしてもよい。ただしこれも同様、これらの画像は、第２Ｃボタン受付状態が発生する前後に表示されるものであってもよいし、第２Ｃボタン受付状態の発生とは関係なく、定常的に表示されるものであってもよい。また、表示されないようにしてもよい。
【７２９６】
また上述の通り、第２Ｃボタン受付状態とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が（当該第２Ｃボタン受付状態が終了されるタイミングｔＣｂ４までの間に）１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第２Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されるものである。
【７２９７】
この点、第２Ｃボタン受付状態は、図２６０～図２６２に示されるように、「上述の第２Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされるもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」と同じである。ただし、第２Ｃボタン受付状態は、図２６０～図２６２に示されるように、「上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされないもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」とは異なるものとなっている。
【７２９８】
このような構成によれば、第２Ｃボタン受付状態が発生した場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態が発生した場合（図１９６～図２１１を参照）とは異なり、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている間（タイミングｔＣｂ４が到来するまでの間）に上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することはないから、本来であれば、第１

Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮することなく、当該第２Ｃボタン受付状態としての遊技性や演出性だけに集中して遊技を進行させることが可能とされることとなる。

【７２９９】

ただし、ボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化としていずれの種別が発生するのかを確認するまでの間は、当該ボタン受付状態としていずれの種別（例えば、第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているのかを認識することが困難であることも多い。

【７３００】

すなわちこの場合、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから特定時間が経過したとき、若しくはボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき、若しくはボタン受付状態が発生してから特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｂ３－１が到来したとき）に、上記「条件１Ｃｋ」が満たされるのか（第１Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによって上記ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｄ）や図２６０（ｄ）などを参照）。

【７３０１】

またこれと同様、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから所定時間が経過したとき、若しくはボタン受付状態が発生してから所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｂ２が到来したとき）に、上記「条件３Ｃｋ」が満たされるのか（第３Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｆ）や図２６０（ｆ）などを参照）。

【７３０２】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）では、上記所定時間や上記特定時間が経過するよりも前に、当該第１Ｃボタン受付状態内で操作が促される対象（操作ボタン４１０）とは異なる操作部（刀装飾体５００１）に対して操作受付がなされた場合や、該操作が促される対象（操作ボタン４１０）に対して操作受付がなされた場合は、上記所定時間や上記特定時間が経過したときに第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることは上述した通りである。そうすると、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生した場合であっても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点においては、上記第１Ｃボタン受付状態及び上記第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのかを認識し難くされる状況下にあるから、当該第２Ｃボタン受付状態内で操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７３０３】

しかも、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）内で第１Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記特定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が現れるものの、第１Ｃボタン受付状態内で第３Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記所定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化が何ら現れないようになっていることも上述した通りである。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記所定時間が経過した時点においても、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否か（第１Ｃボタン受付状態及び上記第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのか）を認識し難くすることができるようになり、操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７３０４】

この点、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生したときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過したときに、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が生じることはない。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過して第１Ｃ刀受付状態が発生したときには遊技者はこれを感知して第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）が発生している状況下にあること（さらには、第２Ｃボタン受付状態は発生していない状況下にあること）を認識できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７３０５】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃボタン受付状態を、上記所定時間や上記特定時間よりも長い時間にわたって継続させるようにしたが、上記所定時間や上記特定時間よりも短い時間で終了されるものとして設定するようにしてもよい。すなわちこの場合、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮して、上記所定時間や上記特定時間が経過するまで操作を行わないようにすると、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生しないばかりか、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態（第２Ｃボタン受付状態）」が終了するリスク（操作機会が消失するリスク）が生じるようになるから、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」が発生したとき（ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたとき）に、遊技をどう進めるかについての戦略性をより好適に提供することが期待されるようになる。

【７３０６】

また、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態などにかかる構成（発生条件や、終了条件、発生時及び終了時の演出内容、操作受付がなされたときの演出内容など）については、上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７３０７】

このように、この例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、これに関連して、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性が現れる場合（図１９６～図２１１）と、該連続的な演出関係性が現れない場合（ここでは、図２６０～図２６６に示されるように、第２Ｃボタン受付状態のみが発生する場合）との両方があるものとなっている。

【７３０８】

より具体的には、まず、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れる。この点、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れたときには、その後、第１Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合があり、この場合における演出進展の詳細については、図２０８～図２１１を参照しつつ説明した通りである。

【７３０９】

ただし上述の通り、このような演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）が現れたときには、図示は割愛するが、第１Ｃボタン受付状態ではなく、第２Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合もあるようになっている。なおこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされたときに現れる演出状況としては、第１Ｃボタン受付状態が発生するときの演出

状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）と全く同じ態様として用意されるものでなくてもよく、これとは異なる態様（例えば、似ている態様など）として用意されるようにしてもよい。

【７３１０】

そして、これも上述したが、こうして第２Ｃボタン受付状態が発生した場合は、該第２Ｃボタン受付状態が発生しているなかで、上記第１Ｃ刀受付状態が発生することはないし、上記第３Ｃ刀受付状態が発生することもない。すなわちこの場合、第２Ｃボタン受付状態が、予め定められた時間（ここでは、タイミングｔＣｂ１～ｔＣｂ４の期間）が経過するのを待ってから終了するだけである。したがって、当該第２Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態内の場合とは異なり、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化することもない。

【７３１１】

なおこの例では、特定発光部における発光態様については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングｔＣｂ１（若しくは、第２Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｂ１）で、当該第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」が現れる発光演出を行うようにし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングｔＣｂ４（若しくは、第２Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｂ４）で、当該第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」が終了される発光演出を行うようにしたが、必ずしもこれに限られない。例えば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示、非表示や、第２Ｃボタン受付状態の発生、終了などに関連して発光演出が行われないようにしてもよい。また、当該第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」については、上記第１Ｃボタン受付状態に対応する「第１Ａ発光」と同じ態様であってもよいし、「第１Ａ発光」とは異なる態様（例えば、見分けの付きやすい態様のほか、「第１Ａ発光」と似ているような態様であってもよい）であってもよい。

【７３１２】

また後述するが、当該第２Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これを契機として、当該第２Ｃボタン受付状態が終了するとともに、上記受付後変化として「第２Ｃボタン変化」を生じさせることとなる。

【７３１３】

ところで、この例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作を促す「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」については、該「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」が表示された時点において、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるとは限らないし、間もなく許容される状況下にあるとも限らないようになっており、すなわち「ガセ演出」として機能しうることは上述した。また、これも上述した通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングでは、第２Ｃ刀受付状態が既に発生している場合があるようになっている。

【７３１４】

この点、図２６０～図２６４に示される演出例とは、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【７３１５】

したがって、図２６０～図２６４に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングにおいては、図２６０（ｈ）や図２０８（ａ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が既に表示されている状況下にある場合があるようになっており、これによって刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にある可能性（若しくは、間もなく許容される可能性）を遊技者に対して意識付けさせる

ようにしている。
【７３１６】
ただし上述の通り、「ガセ演出」として機能しうる刀操作関連表示ＫＳＨは、「第２Ｃ刀受付状態」において表示される場合と表示されない場合との両方があるものとなっている。したがって、図２６０～図２６４に示される第２Ｃボタン受付状態内においても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングを含めて、図２６０（ｈ）や図２０８（ｂ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨが全く表示されない場合もあるようになっている。
【７３１７】
なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２６０（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第２Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない場合（図２０８（ｂ）を参照）と、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合（図２０８（ａ）を参照）とのいずれの場合であっても、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したタイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」を発生させることはない。
【７３１８】
この点、刀操作関連表示ＫＳＨについては、図２６０（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第２Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合がないようにしてもよいし、該摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合があるようにしてもよい。
【７３１９】
摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかで第２Ｃボタン受付状態が発生することがないようにした場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの刀操作関連表示ＫＳＨの表示有無や態様を通じて、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態が発生する可能性の高さを遊技者に対して意識付けさせることができるようになる。
【７３２０】
摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかでも第２Ｃボタン受付状態が発生しうるようにした場合は、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生していたとしても、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性はないから、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。
【７３２１】
また、この例にかかるパチンコ機１では、図２６１に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第２Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよいし、当該第２Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｂ４が到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよい。いずれの構成であっても、第２Ｃボタン受付状態内では、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはない。ただし上述の通り、刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にあった場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態内であったとしても（図１９６～図２１１）、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはないから、上記所定時間や上記特定時間が経過した以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができる

ようになる。
【７３２２】
　また、この例にかかる第２Ｃボタン受付状態では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第２Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、図２６２（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、上記所定時間が経過したタイミングｔＣｂ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣｂ３－１が到来するまでの期間内で、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始される場合があるようにしてもよい。このような構成であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始された以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第２Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。
【７３２３】
　また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして複数の表示態様（ここでは、複数の配色）を用意しており、該ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、それら表示態様のいずれか１つとして表示するものとなっている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第２Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第２配色（ＢＭＧ２）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、上記第１Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされることは上述した通りである。すなわちこの場合、「第２配色（ＢＭＧ２）」が現れたときには、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したとしても、これを契機として、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ないことを認識することができるようになる。
【７３２４】
　そしてこの例では、タイミングｔＣｂ４が到来すると、第２Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしてもよいし、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよい。
【７３２５】
　次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第２Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。
【７３２６】
　図２６３は、図２６０などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣｂ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。
【７３２７】
　すなわち、図２６３に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第２Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前の上記タイミングｔＣｂ１Ａａ，Ａｂにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定している。
【７３２８】
　より具体的には、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、図２６３に示されるように、まず、タイミングｔＣｂ１Ａａに

おいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される。そして次に、該タイミングｔＣｂ１Ａａから少し遅れたタイミングｔＣｂ１Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣｂ１Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる。

【７３２９】

この点、図２６３（ｄ）～（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣｂ１Ａａ，ｔＣｂ１Ａｂにおいては、上記刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態としては「第２Ｃ刀受付状態」のみが発生している状況下にあるが、該「第２Ｃ刀受付状態」とは、上述の通り、上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとなっている。

【７３３０】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７３３１】

したがって、図２６３に示される例では、タイミングｔＣｂ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７３３２】

この点、図２６３に示される例においても、図２６０に示した例の場合と同様、図２６３（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第２Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｂ１が到来すると、該タイミングｔＣｂ１が到来したことに基づいて（「条件２Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第２Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第２Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【７３３３】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあるが、当該「図２６３に示される例」とは、上述した「図２６０に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２６３に示される例」は、上述した「図２６０に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２６０に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７３３４】

すなわちこの例とは、図２６３（ｅ），（ｈ）に示されるように、タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、若しくはタイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合を想定した

ものとなっている。
【７３３５】
なお上述の通り、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付が、上述の第１Ｃボタン受付状態内でなされたものであるか、当該第２Ｃボタン受付状態内でなされたものであるかにかかわらず、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が同じ態様で表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【７３３６】
また、タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。
【７３３７】
また、タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。
【７３３８】
すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。
【７３３９】
また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７３４０】
特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７３４１】
この点、図２６３（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣｂ１Ａｂ」から「タイミングｔＣｂ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。
【７３４２】
したがって、この例では、図２６３（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｂ１ＡｂからタイミングｔＣｂ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣｂ１ＡｂからタイミングｔＣｂ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわ

たって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。

【７３４３】

なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対して上述のオート連打機能が働くときの演出変化については、上述の第１Ｃボタン受付状態内であるか、当該第２Ｃボタン受付状態内であるかにかかわらず、その別例等も含めて、同じ態様で実行可能とされるものであるから（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）などを参照）、ここでの詳細な説明については、割愛することとする。

【７３４４】

またこの例では、第２Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣｂ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣｂ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したが、当該第２Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。

【７３４５】

すなわちこの場合、第２Ｃボタン受付状態内では、「刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作」を、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、いずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作が行われている間にわたって、上述のオート連打機能が働いてそれに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回現れるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第２Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れる演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第２Ｃボタン受付状態において上記刀装飾体５００１に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記刀装飾体５００１に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。

【７３４６】

そしてこの例でも、タイミングｔＣｂ４が到来すると、第２Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【７３４７】

またこの例では、図２６３（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｂ１Ａａにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する接触操作（第１Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｂＸｂで終了し、タイミングｔＣｂ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｂＸａで終了した場合を想定したものとなっている。

【７３４８】

ここで、第２Ｃボタン受付状態においては、図２６３（ｍ）などに示されるように、タイミングｔＣｂＸａにおいて刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、タイミングｔＣｂＸｂ以降も（刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第２Ｃ刀変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【７３４９】

このような構成によれば、刀装飾体５００１の操作状態を終了してオート連打機能を無

効化させたとしても、それまで実行状態にあった第２Ｃ刀変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該第２Ｃボタン受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【７３５０】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第２Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７３５１】

図２６４は、図２６０などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣｂ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７３５２】

すなわち、図２６４に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第２Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣｂ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７３５３】

同図２６４に示される例においても、図２６０に示した例の場合と同様、図２６４（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第２Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｂ１が到来すると、該タイミングｔＣｂ１が到来したことに基づいて（「条件２Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第２Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第２Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７３５４】

なおこの例では、同図２６４（ｃ）に示されるように、該タイミングｔＣｂ１を跨るかたちで「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を行った場合を想定したものとなっている。ただし、受付後変化としての「第２Ｃボタン変化」に関しての受付けが許容される「第２Ｃボタン受付状態（有効期間）」は、このような状況下にあるなかでも、タイミングｔＣｂ１が到来したときにはこれを契機として発生するようになっている。ただし、「第２Ｃボタン受付状態」が発生する時点で「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」が行われていたとしても、当該第２Ｃボタン受付状態内では、上述の「第２Ｃ刀受付状態」の場合とは異なり、該操作が有効操作として受付け（操作受付）されることはない。すなわちこの場合、遊技者は、「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、第２Ｃボタン受付状態内で一旦終了させてから、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直すことが求められることとなる。

【７３５５】

この点、図２６４に示される例では、タイミングｔＣｂ１が到来した時点で実行状態にあった「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、タイミングｔＣｂ１が到来してからすぐに終了させた場合を想定している。そして、タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前のタイミングｔＣｂ１Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直した場合を想定したものとなっているから、該タイミングｔＣｂ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることとなる。

【７３５６】

なお、図示は割愛するが、こうして「第２Ｃ刀受付状態」が発生する時点においては、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１

態様）として表示されている場合とが少なくともあることは上述した通りである。すなわち、当該「図２６４に示される例」とは、上述した「図２６０に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものであり、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２６４に示される例」は、上述した「図２６０に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。したがって、図２６０を参照しつつ上述した構成と同じものについては説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２６０に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７３５７】

すなわちこの例とは、図２６４（ｇ），（ｈ）に示されるように、第２Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかでのタイミングｔＣｂ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合、若しくは第２Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｂ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかでのタイミングｔＣｂ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【７３５８】

そして上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第２Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７３５９】

したがって、図２６４に示される例では、タイミングｔＣｂ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、当該第２Ｃボタン受付状態を終了させるとともに（図２６４（ｇ）を参照）、上記「第２Ｃボタン変化（第２Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第２ボタン受付後表示（第１Ｃボタン変化としては出現し得ない表示）が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるとともに（図２６４（ｉ），（ｏ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第２Ａ発光」の態様から「第２Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２６４（ｋ）などを参照）。「第２Ｃ発光」については、「第２Ａ発光」と異なる態様であることはもとより、上述の「第１Ａ発光」～「第１Ｃ発光」のいずれとも異なる態様であることが望ましい。ただし、「第２Ｃボタン変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７３６０】

ただしこの際、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた時点で上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていたとしても、該刀操作関連表示ＫＳＨについては、ボタン操作関連表示ＢＳＨとは異なり、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続するようになっている（図２６４（ｈ）を参照）。また、上記第２Ｃ刀受付状態についても、上記第２Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として終了されることはない。

【７３６１】

またこの例では、第２Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合も、当該第２Ｃボタン受付状態が終了したことを示唆する表示画像（ボタン演出終了）を表示させるようにしているが、該表示画像については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、第２Ｃ受付後表示が表示されてボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるだけの表示変化のみが現れるだけにしてもよい。

【７３６２】
　またこの例では、第２Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記タイミングｔＣｂ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したが、当該第２Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。
【７３６３】
　すなわちこの場合、第２Ｃボタン受付状態では、「操作ボタン４１０に対する操作」をいずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作を行ったタイミングで受付後変化（第２Ｃボタン変化）を１回出現させるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第２Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第２Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記操作ボタン４１０に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。
【７３６４】
　また、この実施例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃ刀受付状態が発生するときに、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態が発生したことを遊技者に対して確定的に報知する演出は何ら行われないことは上述した通りである。
【７３６５】
　なお、このような「第２Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生可能であることはもとより、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかでも発生可能なものである。ただし、「第２Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生した場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで発生した場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。
【７３６６】
　すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２６０～図２６２に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２６０（ｅ）に示した演出内容、図２６１（ｅ）に示した演出内容、及び図２６２（ｅ）に示した演出内容が異なる（第２Ｃ刀受付状態が発生しているか否かの演出内容が異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。
【７３６７】
　ただし、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第２Ｃボタン受付状態の発生条件である条件２Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第２Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」のうち、該「第２Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２６３に示した例の場合とは異なり、図２６５に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはないから、図２６３（ｍ）に示した例の場合とは異なり、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることはなくなることとなる（図２６５（ｍ）を参照）。
【７３６８】
　また、このような「第２Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状

態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで発生した後、該「第２Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生することもあり得るものである。ただし、「第２Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にある場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７３６９】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２６０～図２６２に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２６０（ｅ）に示した演出内容、図２６１（ｅ）に示した演出内容、及び図２６２（ｅ）に示した演出内容が異なる（第２Ｃボタン受付状態よりも前に第２Ｃ刀受付状態が発生しているか、第２Ｃボタン受付状態内で第２Ｃ刀受付状態が発生するかで異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第２Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７３７０】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第２Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第２Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第２Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生する例のうち、該「第２Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２６３に示した例の場合とは異なり、図２６６に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する押下操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはない。ただし、刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて（タイミングｔＣｂＹ１）、「第２Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときには、該発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせることとなる（図２６６（ｍ）を参照）。なおこの場合、上述のオート連打機能が働くことは言うまでもない。

【７３７１】

ちなみに、第２Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときの演出内容については、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかわらず、同じ演出内容が現れることとなる。すなわち、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第２Ｃボタン受付状態の発生条件である条件２Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第２Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」や、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第２Ｃボタン受付状態の発生条件である条件２Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第２Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第２Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」などで、第２Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、図２６４を参照しつつ上述した通りの演出内容が現れるだけであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７３７２】

なお、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第２Ｃボタン受付状態の発生条件である条件２Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第２Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第２Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」において、第２Ｃボタン受付状態が発生するよりも前か

ら、「操作ボタン４１０」と「刀装飾体５００１」との両方をそれぞれ押下操作した状態に維持する操作を行ったとすると、第２Ｃボタン受付状態が発生した以降も操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることはないが、第２Ｃ刀受付状態が発生した以降は刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることとなることは言うまでもない。

【７３７３】

このように、第２Ｃボタン受付状態では、第１Ｃボタン受付状態とは異なり、当該第２Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作（接触操作、押下操作）が行われたとしても、これを契機として、当該第２Ｃボタン受付状態内での演出性に影響（第２Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が消失されるなどの影響）が生じないものとなっている。

【７３７４】

また、第２Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃボタン変化」が実行されるが、該「第２Ｃボタン変化」が実行されている状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃボタン変化」に対して何らかの影響が生じることもない。

【７３７５】

また、第２Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」が実行されるが、該「第２Ｃ刀変化」が実行されている状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃ刀変化」に対して何らかの影響が生じることもない。

【７３７６】

なお、この例にかかる第２Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が必ず表示されないようにし、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されることが認識し難くされる演出性として実現するようにしてもよい。若しくは、このような秘匿性があり且つ１回だけ受付許容されるボタン受付状態を、上述した第２Ｃボタン受付状態とは異なる種別の受付状態（発生条件が異なるとともに、受付後変化が異なる受付状態）としてさらに用意するようにしてもよい。当該異なる種別の受付状態については、操作受付がなされたときの受付後変化としての態様と、発生条件とが、上述した第２Ｃボタン受付状態の場合とは異なることとなるが、それ以外の構成については、上述した第２Ｃボタン受付状態の場合と同様として構成するようにしてもよい。

【７３７７】

図２６７～図２７３は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、受付後変化として「第３Ｃボタン変化」を生じさせる種別の「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示す図である。

【７３７８】

図２６７～図２７３のうち、特に、図２６７～図２７１は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件２Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートである。

【７３７９】

図２６７（図２６７～図２６９）は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第３Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７３８０】

はじめに、このような条件下で「第３Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第３

Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７３８１】

いま、特定遊技状態（例えば、非確変・非時短である通常遊技状態）において始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第３Ｃ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該第３Ｃ変動パターンに対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第３Ｃ変動パターンに応じた演出描写や、第３Ｃ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第３Ｃ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。なお、第３Ｃ変動パターンについては、上記第１Ｃ変動パターンや上記第２Ｃ変動パターンとは異なる変動パターンとして設定されるようにしてもよいし、同じ変動パターンとして設定されるものであってもよい。

【７３８２】

この点、この例にかかるパチンコ機１では、図２６７（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第３Ｃ時間（第１Ｃ時間や第２Ｃ時間とは異なる時間）が経過したタイミングｔＣｃ１が到来したとすると、該タイミングｔＣｃ１が到来したことに基づいて（「条件３Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第３Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第３Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７３８３】

なおこの例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨを、第３Ｃボタン受付状態が発生するタイミングで表示開始させることとしているが、必ずしも同じタイミングでなくてもよく、そのタイミングの前または後にズレるかたちで（異なるタイミングで）表示開始させるようにしてもよい。

【７３８４】

また、図示は割愛するが、第３Ｃボタン受付状態の発生に際しても、第１Ｃボタン受付状態の場合と同様、敵キャラクタ画像や、味方キャラクタ画像などを表示するようにしてもよい。ただしこれも同様、これらの画像は、第３Ｃボタン受付状態が発生する前後に表示されるものであってもよいし、第３Ｃボタン受付状態の発生とは関係なく、定常的に表示されるものであってもよい。また、表示されないようにしてもよい。

【７３８５】

また上述の通り、第３Ｃボタン受付状態とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が（当該第３Ｃボタン受付状態が終了されるタイミングｔＣｃ４までの間に）複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第３Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されるものである。

【７３８６】

この点、第３Ｃボタン受付状態は、図２６７～図２６９に示されるように、「上述の第２Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされるもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」と同じである。ただし、第３Ｃボタン受付状態は、図２６７～図２６９に示されるように、「上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされないもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」とは異なるものとなっている。

【７３８７】

このような構成によれば、第３Ｃボタン受付状態が発生した場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態が発生した場合（図１９６～図２１１を参照）とは異なり、操作ボタン４１０

に対する操作受付が許容されている間（タイミングｔＣｃ４が到来するまでの間）に上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することはないから、本来であれば、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮することなく、当該第３Ｃボタン受付状態としての遊技性や演出性だけに集中して遊技を進行させることが可能とされることとなる。

【７３８８】

ただし、ボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化としていずれの種別が発生するのかを確認するまでの間は、当該ボタン受付状態としていずれの種別（例えば、第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているのかを認識することが困難であることも多い。

【７３８９】

すなわちこの場合、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから特定時間が経過したとき、若しくはボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき、若しくはボタン受付状態が発生してから特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｃ３－１が到来したとき）に、上記「条件１Ｃｋ」が満たされるのか（第１Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによって上記ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｄ）や図２６７（ｄ）などを参照）。

【７３９０】

またこれと同様、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから所定時間が経過したとき、若しくはボタン受付状態が発生してから所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｃ２が到来したとき）に、上記「条件３Ｃｋ」が満たされるのか（第３Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｆ）や図２６７（ｆ）などを参照）。

【７３９１】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）では、上記所定時間や上記特定時間が経過するよりも前に、当該第１Ｃボタン受付状態内で操作が促される対象（操作ボタン４１０）とは異なる操作部（刀装飾体５００１）に対して操作受付がなされた場合や、該操作が促される対象（操作ボタン４１０）に対して操作受付がなされた場合は、上記所定時間や上記特定時間が経過したときに第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることは上述した通りである。そうすると、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生した場合であっても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点においては、上記第１Ｃボタン受付状態及び上記第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのかを認識し難くされる状況下にあるから、当該第３Ｃボタン受付状態内で操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７３９２】

しかも、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）内で第１Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記特定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が現れるものの、第１Ｃボタン受付状態内で第３Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記所定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化が何ら現れないようになっていることも上述した通りである。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記所定時間が経過した時点においても、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否か（第１Ｃボタン受付状態及び上記第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのか）を認識し難くすることができるようになり、

操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【７３９３】
この点、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生したときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過したときに、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が生じることはない。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過して第１Ｃ刀受付状態が発生したときには遊技者はこれを感知して第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）が発生している状況下にあること（さらには、第３Ｃボタン受付状態は発生していない状況下にあること）を認識できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【７３９４】
なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、第３Ｃボタン受付状態を、上記所定時間や上記特定時間よりも長い時間にわたって継続させるようにしたが、上記所定時間や上記特定時間よりも短い時間で終了されるものとして設定するようにしてもよい。すなわちこの場合、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮して、上記所定時間や上記特定時間が経過するまで操作を行わないようにすると、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生しないばかりか、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態（第３Ｃボタン受付状態）」が終了するリスク（操作機会が消失するリスク）が生じるようになるから、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」が発生したとき（ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたとき）に、遊技をどう進めるかについての戦略性をより好適に提供することが期待されるようになる。
【７３９５】
また、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態などにかかる構成（発生条件や、終了条件、発生時及び終了時の演出内容、操作受付がなされたときの演出内容など）については、上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。
【７３９６】
このように、この例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、これに関連して、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性が現れる場合（図１９６～図２１１）と、該連続的な演出関係性が現れない場合（ここでは、図２６７～図２７３に示されるように、第３Ｃボタン受付状態のみが発生する場合）との両方があるものとなっている。
【７３９７】
より具体的には、まず、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れる。この点、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れたときには、その後、第１Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合があり、この場合における演出進展の詳細については、図２０８～図２１１を参照しつつ説明した通りである。
【７３９８】
ただし上述の通り、このような演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）が現れたときには、図示は割愛するが、第１Ｃボタン受付状態ではなく、第３Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場

合もあるようになっている。なおこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされたときに現れる演出状況としては、第１Ｃボタン受付状態が発生するときの演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）と全く同じ態様として用意されるものでなくてもよく、これとは異なる態様（例えば、似ている態様など）として用意されるようにしてもよい。

【７３９９】

そして、これも上述したが、こうして第３Ｃボタン受付状態が発生した場合は、該第３Ｃボタン受付状態が発生しているなかで、上記第１Ｃ刀受付状態が発生することはないし、上記第３Ｃ刀受付状態が発生することもない。すなわちこの場合、第３Ｃボタン受付状態が、予め定められた時間（ここでは、タイミングｔＣｃ１～ｔＣｃ４の期間）が経過するのを待ってから終了するだけである。したがって、当該第３Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態内の場合とは異なり、操作が何ら行われていないにもかかわらず、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化することもない。

【７４００】

なおこの例では、特定発光部における発光態様については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングｔＣｃ１（若しくは、第３Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｃ１）で、当該第３Ｃボタン受付状態に対応する「第３Ａ発光」が現れる発光演出を行うようにし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングｔＣｃ４（若しくは、第３Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｃ４）で、当該第３Ｃボタン受付状態に対応する「第３Ａ発光」が終了される発光演出を行うようにしたが、必ずしもこれに限られない。例えば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示、非表示や、第３Ｃボタン受付状態の発生、終了などに関連して発光演出が行われないようにしてもよい。また、当該第３Ｃボタン受付状態に対応する「第３Ａ発光」については、上記第１Ｃボタン受付状態に対応する「第１Ａ発光」、または上記第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」と同じ態様であってもよいし、「第１Ａ発光」や「第２Ａ発光」とは異なる態様（例えば、見分けの付きやすい態様のほか、「第１Ａ発光」と似ているような態様であってもよい）であってもよい。

【７４０１】

また後述するが、当該第３Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これを契機として、当該第３Ｃボタン受付状態を終了させることなく上記受付後変化として「第３Ｃボタン変化」を生じさせることが可能である。

【７４０２】

ところで、この例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作を促す「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」については、該「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」が表示された時点において、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるとは限らないし、間もなく許容される状況下にあるとも限らないようになっており、すなわち「ガセ演出」として機能しうることは上述した。また、これも上述した通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングでは、第２Ｃ刀受付状態が既に発生している場合があるようになっている。

【７４０３】

この点、図２６７～図２７１に示される演出例とは、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【７４０４】

したがって、図２６７～図２７１に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングにおいては、図２６７（ｈ）や図２０８（ａ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が既に表示さ

れている状況下にある場合があるようになっており、これによって刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にある可能性（若しくは、間もなく許容される可能性）を遊技者に対して意識付けさせるようにしている。

【７４０５】

ただし上述の通り、「ガセ演出」として機能しうる刀操作関連表示ＫＳＨは、「第２Ｃ刀受付状態」において表示される場合と表示されない場合との両方があるものとなっている。したがって、図２６７～図２７１に示される第３Ｃボタン受付状態内においても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングを含めて、図２６７（ｈ）や図２０８（ｂ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨが全く表示されない場合もあるようになっている。

【７４０６】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２６７（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第３Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない場合（図２０８（ｂ）を参照）と、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合（図２０８（ａ）を参照）とのいずれの場合であっても、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したタイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」を発生させることはない。

【７４０７】

この点、刀操作関連表示ＫＳＨについては、図２６７（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第３Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合がないようにしてもよいし、該摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合があるようにしてもよい。

【７４０８】

摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかで第３Ｃボタン受付状態が発生することがないようにした場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの刀操作関連表示ＫＳＨの表示有無や態様を通じて、第１Ｃボタン受付状態や第３Ｃボタン受付状態が発生する可能性の高さを遊技者に対して意識付けさせることができるようになる。

【７４０９】

摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかでも第３Ｃボタン受付状態が発生しうるようにした場合は、第１Ｃボタン受付状態及び第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生していたとしても、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性はないから、第１Ｃボタン受付状態及び第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７４１０】

また、この例にかかるパチンコ機１では、図２６８に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第３Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよいし、当該第３Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｃ４が到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよい。いずれの構成であっても、第３Ｃボタン受付状態内では、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはない。ただし上述の通り、刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にあった場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態内であったとしても、「第１

Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはないから（図１９６～図２１１）、上記所定時間や上記特定時間が経過した以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７４１１】

また、この例にかかる第３Ｃボタン受付状態では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第３Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、図２６９（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、上記所定時間が経過したタイミングｔＣｃ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣｃ３－１が到来するまでの期間内で、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始される場合があるようにしてもよい。このような構成であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始された以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第３Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７４１２】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして複数の表示態様（ここでは、複数の配色）を用意しており、該ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、それら表示態様のいずれか１つとして表示するものとなっている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第３Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第２配色（ＢＭＧ２）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、上記第１Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされることは上述した通りである。すなわちこの場合、「第２配色（ＢＭＧ２）」が現れたときには、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したとしても、これを契機として、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ないことを認識することができるようになる。なお、第３Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして「第２配色（ＢＭＧ２）」が表示されず、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第３配色（ＢＭＧ３）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしてもよい。

【７４１３】

そしてこの例では、タイミングｔＣｃ４が到来すると、第３Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしてもよいし、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよい。

【７４１４】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第３Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７４１５】

図２７０は、図２６７などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣｃ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７４１６】

すなわち、図２７０に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第３

Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前の上記タイミングｔＣｃ１Ａａ，Ａｂにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７４１７】

より具体的には、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、図２７０に示されるように、まず、タイミングｔＣｃ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される。そして次に、該タイミングｔＣｃ１Ａａから少し遅れたタイミングｔＣｃ１Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣｃ１Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる。

【７４１８】

この点、図２７０（ｄ）～（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣｃ１Ａａ，ｔＣｃ１Ａｂにおいては、上記刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態としては「第２Ｃ刀受付状態」のみが発生している状況下にあるが、該「第２Ｃ刀受付状態」とは、上述の通り、上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとなっている。

【７４１９】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７４２０】

したがって、図２７０に示される例では、タイミングｔＣｃ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７４２１】

この点、図２７０に示される例においても、図２６７に示した例の場合と同様、図２７０（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第３Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｃ１が到来すると、該タイミングｔＣｃ１が到来したことに基づいて（「条件３Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第３Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第３Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【７４２２】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあるが、当該「図２７０に示される例」とは、上述した「図２６７に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２７０に示される例」は、上述した「図２６７に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２６７に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７４２３】

すなわちこの例とは、図２７０（ｅ），（ｈ）に示されるように、タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、若しくはタイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【７４２４】

なお上述の通り、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付が、上述の第１Ｃボタン受付状態内でなされたものであるか、当該第３Ｃボタン受付状態内でなされたものであるかにかかわらず、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が同じ態様で表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７４２５】

また、タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。

【７４２６】

また、タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。

【７４２７】

すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。

【７４２８】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７４２９】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７４３０】

この点、図２７０（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣｃ１Ａｂ」から「タイミングｔＣｃ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７４３１】
したがって、この例では、図２７０（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｃ１Ａｂからタイミングｔ Ｃｃ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣｃ１Ａｂからタイミングｔ Ｃｃ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。
【７４３２】
なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対して上述のオート連打機能が働くときの演出変化については、上述の第１Ｃボタン受付状態内であるか、当該第３Ｃボタン受付状態内であるかにかかわらず、その別例等も含めて、同じ態様で実行可能とされるものであるから（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）などを参照）、ここでの詳細な説明については、割愛することとする。
【７４３３】
またこの例では、第３Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣｃ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣｃ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したが、当該第３Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。
【７４３４】
すなわちこの場合、第３Ｃボタン受付状態内では、「刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作」を、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、いずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作が行われている間にわたって、上述のオート連打機能が働いてそれに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回現れるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第３Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れる演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第３Ｃボタン受付状態において上記刀装飾体５００１に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記刀装飾体５００１に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。
【７４３５】
そしてこの例でも、タイミングｔＣｃ４が到来すると、第３Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。
【７４３６】
またこの例では、図２７０（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｃ１Ａａにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する接触操作（第１Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｃＸｂで終了し、タイミングｔＣｃ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｃＸａで終了した場合を想定したものとなっている。
【７４３７】
ここで、第３Ｃボタン受付状態においては、図２７０（ｍ）などに示されるように、タイミングｔＣｃＸａにおいて刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせる

こともない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、タイミングｔＣｃＸｂ以降も（刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第２Ｃ刀変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【７４３８】

このような構成によれば、刀装飾体５００１の操作状態を終了してオート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第２Ｃ刀変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該第３Ｃボタン受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【７４３９】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第３Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７４４０】

図２７１は、図２６７などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣｃ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７４４１】

すなわち、図２７１に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第３Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣｃ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７４４２】

同図２７１に示される例においても、図２６７に示した例の場合と同様、図２７１（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第３Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｃ１が到来すると、該タイミングｔＣｃ１が到来したことに基づいて（「条件３Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第３Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第３Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７４４３】

なおこの例では、同図２７１（ｃ）に示されるように、該タイミングｔＣｃ１を跨るかたちで「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を行った場合を想定したものとなっている。当該操作については、例えば、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態において「所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持される操作」が行われた結果として該第１Ｃボタン受付状態や２Ｃボタン受付状態が終了されたときから継続しているものとして想定することも可能である。ただし、受付後変化としての「第３Ｃボタン変化」に関しての受付けが許容される「第３Ｃボタン受付状態（有効期間）」は、このような状況下にあるなかでも、タイミングｔＣｃ１が到来したときにはこれを契機として発生するようになっている。ただし、「第３Ｃボタン受付状態」が発生する時点で「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」が行われていたとしても、当該第３Ｃボタン受付状態内では、上述の「第２Ｃ刀受付状態」の場合とは異なり、該操作が有効操作として受付け（操作受付）されることはない。すなわちこの場合、遊技者は、「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、第３Ｃボタン受付状態内で一旦終了させてから、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直すことが求められることとなる。

【７４４４】
この点、図２７１に示される例では、タイミングｔＣｃ１が到来した時点で実行状態にあった「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、タイミングｔＣｃ１が到来してからすぐに終了させた場合を想定している。そして、タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前のタイミングｔＣｃ１Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直した場合を想定したものとなっているから、該タイミングｔＣｃ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることとなる。
【７４４５】
なお、図示は割愛するが、こうして「第２Ｃ刀受付状態」が発生する時点においては、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあることは上述した通りである。すなわち、当該「図２７１に示される例」とは、上述した「図２６７に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものであり、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２７１に示される例」は、上述した「図２６７に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。したがって、図２６７を参照しつつ上述した構成と同じものについては説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２６７に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【７４４６】
すなわちこの例とは、図２７１（ｇ），（ｈ）に示されるように、第３Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかでのタイミングｔＣｃ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合、若しくは第３Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｃ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかでのタイミングｔＣｃ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。
【７４４７】
そして上述の通り、この実施例にかかる「第３Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第３Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。
【７４４８】
したがって、図２７１に示される例では、タイミングｔＣｃ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、当該第３Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることなく（図２７１（ｇ），（ｉ）を参照）、上記「第３Ｃボタン変化（第３Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第３ボタン受付後表示（第１Ｃボタン変化、第２Ｃボタン変化としては出現し得ない表示）が表示されるとともに（図２７１（ｉ），（ｏ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第３Ａ発光」の態様から「第３Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２７１（ｋ）などを参照）。「第３Ｃ発光」については、「第３Ａ発光」と異なる態様であることはもとより、上述の「第１Ａ発光」～「第１Ｃ発光」のいずれとも異なる態様であることが望ましい。ただし、「第３Ｃボタン変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【７４４９】
またこの際、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた時点で上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていたとしても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、ボタン操作関連表示ＢＳ

Ｈと同様、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続する（図２７１（ｈ）を参照）。また、上記第２Ｃ刀受付状態についても、上記第３Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として終了されることはない。

【７４５０】

また、この実施例にかかる「第３Ｃボタン受付状態」では、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第３Ｃボタン変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能）。

【７４５１】

特に、「第３Ｃボタン受付状態」において操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合、当該「第３Ｃボタン受付状態」に対応する受付後変化としての「第３Ｃボタン変化」は、上述した「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」の場合と同様、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能）。

【７４５２】

この点、「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」では、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」の場合よりも、一定の間隔毎に受付後変化が生じている状況下において、前回の受付後変化が生じてから次回の受付後変化が生じるまでの間隔が短くされるようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第３Ｃボタン受付状態では、「前回の受付後変化」から「次回の受付後変化」が生じるまでの時間が短くされるようになるから、当該操作状態を維持するだけで次回の受付後変化が生じるか否かについての不安感が好適に抑制された遊技性を提供することができるようになる。

【７４５３】

ところで、この実施例にかかるパチンコ機１では、上述した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態の発生条件等との兼ね合いから、上記刀装飾体５００１に対する操作に関しては、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方を取得可能な構成とされている。したがって、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」については、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られていることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件に働くように設定することが、適正な遊技が行われるようにする上で望ましい。

【７４５４】

この点、上記操作ボタン４１０に対する操作に関しては、そのタッチ情報を取得するセンサが設けられていないから、その変位情報（押下位置へ変位した情報）のみによって操作受付がなされうるようになっており、すなわち「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」では、操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位さえしていれば、当該操作ボタン４１０に対する接触操作が行われているか否かにかかわらず、「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」が働くこととなる。ただしこの場合、操作ボタン４１０に対して不適正な遊技方法（例えば、操作ボタン４１０の隙間に紙切れを差し込むなどの物理的手段を用いて、操作ボタン４１０を押下させた状態で固定させるなど）を用いて操作を行おうとする者が現れることが懸念される。

【７４５５】

そこで、この実施例にかかるパチンコ機１では、上述の通り、第３Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｃ１を跨るかたちで、操作ボタン４１０が押下されている状況下にあったときは、該第３Ｃボタン受付状態内で、その検出情報に基づいて操作受付がなされないようにすることで、このような不適正な遊技方法を用いて操作が行われることを抑制するようにしている。

【７４５６】

これに対し、このような不適正な遊技方法が用いられ難い第２Ｃ刀受付状態では、その発生タイミングを跨るかたちで刀装飾体５００１に対する操作が維持されていたとしても、該第２Ｃ刀受付状態内で、その検出情報に基づいて操作受付がなされうるようにしたから、第２Ｃ刀受付状態と第３Ｃボタン受付状態とで求められる操作に関して異なる遊技性を提供することができるようになり、上述した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態の発生条件等とも相まって、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７４５７】

また、第３Ｃボタン受付状態においては、図２７１（ｏ）などに示されるように、操作ボタン４１０の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第３Ｃボタン変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第３Ｃボタン変化は、操作ボタン４１０の操作状態が終了した以降も（操作ボタン４１０が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第３Ｃボタン変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【７４５８】

このような構成によれば、「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」も、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」と同様、操作状態を終了してオート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった受付後変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【７４５９】

また、第３Ｃボタン受付状態においては、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として、当該第３Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることがないようにしたが、例えば、上記操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるなかで予め定められた終了条件が満たされたときには、該操作受付を契機として、当該第３Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせたりするようにしてもよい。このような終了条件は、例えば、「操作ボタン４１０に対する操作受付が予め定められた回数分だけなされること」として設定したり、「操作ボタン４１０に対する操作受付がなされる都度で演出判定を行うこととし、該演出判定で所定の結果が得られたこと」として設定したりすることが可能である。

【７４６０】

これに対し、第２Ｃ刀受付状態では、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がどれだけなされたとしても、該操作受付を契機としては、当該第２Ｃ刀受付状態を終了させたり上記刀操作関連表示ＫＳＨを非表示にさせたりすることがないようにすることが望ましい。このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態と第３Ｃボタン受付状態とで求められる操作に関して異なる遊技性や演出性を提供することができるようになり、遊技興趣の向上をさらに図ることが期待されるようになる。

【７４６１】

なお上述の通り、第３Ｃボタン受付状態では、上記操作ボタン４１０に対する操作が行われて操作受付がなされると、特定発光部に現れる発光態様を「第３Ａ発光」の態様から「第３Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２７１（ｋ）などを参照）。この点、第３Ｃボタン受付状態が継続しているなかで上記操作ボタン４１０に対する操作が終了されたときには、これを契機として、「第３Ｃ発光」が終了することはないが、該「第３Ｃ発光」は、予め定められた実行時間分だけ実行されると終了することとなり、これに代わるかたちで「第３Ａ発光」が再び現れるようになっている。この「第３Ａ発光」は、第３Ｃボタン受付状態の発生に際して実行されるものであり、第３Ｃボタン受付状態が終了すると非実行にされるものである。

【７４６２】

またこの例では、第３Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記タイミングｔＣｃ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したが、当該第３Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。

【７４６３】

すなわちこの場合、第３Ｃボタン受付状態では、「操作ボタン４１０に対する操作」をいずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作を行ったタイミングで受付後変化（第３Ｃボタン変化）を出現させるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第３Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第３Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記操作ボタン４１０に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。

【７４６４】

また、この実施例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃ刀受付状態が発生するときに、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態が発生したことを遊技者に対して確定的に報知する演出は何ら行われないことは上述した通りである。

【７４６５】

なお、このような「第３Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生可能であることはもとより、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかでも発生可能なものである。ただし、「第３Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生した場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで発生した場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７４６６】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２６７～図２６９に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２６７（ｅ）に示した演出内容、図２６８（ｅ）に示した演出内容、及び図２６９（ｅ）に示した演出内容が異なる（第２Ｃ刀受付状態が発生しているか否かの演出内容が異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７４６７】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第３Ｃボタン受付状態の発生条件である条件３Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第３Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」のうち、該「第３Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２７０に示した例の場合とは異なり、図２７２に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはないから、図２７０（ｍ）に示した例の場合とは異なり、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることはなくなることとなる（図２７２（ｍ）を参照）。

【７４６８】

また、このような「第３Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで発生した後、該「第３Ｃボタ

ン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生することもあり得るものである。ただし、「第３Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にある場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７４６９】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２６７～図２６９に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２６７（ｅ）に示した演出内容、図２６８（ｅ）に示した演出内容、及び図２６９（ｅ）に示した演出内容が異なる（第３Ｃボタン受付状態よりも前に第２Ｃ刀受付状態が発生しているか、第３Ｃボタン受付状態内で第２Ｃ刀受付状態が発生するかで異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第３Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７４７０】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第３Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第３Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第３Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生する例のうち、該「第３Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２７０に示した例の場合とは異なり、図２７３に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する押下操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはない。ただし、刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件３Ｃｂ」が満たされて（タイミングｔＣｃＹ１）、「第３Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときには、該発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせることとなる（図２７３（ｍ）を参照）。なおこの場合、上述のオート連打機能が働くことは言うまでもない。

【７４７１】

ちなみに、第３Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときの演出内容については、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかわらず、同じ演出内容が現れることとなる。すなわち、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第３Ｃボタン受付状態の発生条件である条件３Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第３Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」や、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第３Ｃボタン受付状態の発生条件である条件３Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第３Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第３Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」などで、第３Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、図２７１を参照しつつ上述した通りの演出内容が現れるだけであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７４７２】

なお、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第３Ｃボタン受付状態の発生条件である条件３Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第３Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第３Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」において、第３Ｃボタン受付状態が発生するよりも前から、「操作ボタン４１０」と「刀装飾体５００１」との両方をそれぞれ押下操作した状態

に維持する操作を行ったとすると、第３Ｃボタン受付状態が発生した以降も操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることはないが、第２Ｃ刀受付状態が発生した以降は刀装飾体５００１に対する操作受付がなされることとなることは言うまでもない。

【７４７３】

このように、第３Ｃボタン受付状態では、第１Ｃボタン受付状態とは異なり、当該第３Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作（接触操作、押下操作）が行われたとしても、これを契機として、当該第３Ｃボタン受付状態内での演出性に影響（第３Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が消失されるなどの影響）が生じないものとなっている。

【７４７４】

また、第３Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第３Ｃボタン変化」が実行されるが、該「第３Ｃボタン変化」が実行されている状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第３Ｃボタン変化」に対して何らかの影響が生じることもない。

【７４７５】

また、第３Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」が実行されるが、該「第２Ｃ刀変化」が実行されている状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃ刀変化」に対して何らかの影響が生じることもない。

【７４７６】

また、第２Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」が実行されるが、該「第２Ｃ刀変化」が実行されている状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃ刀変化」に対して何らかの影響が生じることもない。

【７４７７】

なお、この例にかかる第３Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が必ず表示されないようにし、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されることが認識し難くされる演出性として実現するようにしてもよい。若しくは、このような秘匿性があり且つ複数回受付許容されるボタン受付状態を、上述した第３Ｃボタン受付状態とは異なる種別の受付状態（発生条件が異なるとともに、受付後変化が異なる受付状態）としてさらに用意するようにしてもよい。当該異なる種別の受付状態については、操作受付がなされたときの受付後変化としての態様と、発生条件とが、上述した第３Ｃボタン受付状態の場合とは異なることとなるが、それ以外の構成については、上述した第３Ｃボタン受付状態の場合と同様として構成するようにしてもよい。

【７４７８】

図２７４～図２８０は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、受付後変化として「第４Ｃボタン変化」を生じさせる種別の「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示す図である。

【７４７９】

図２７４～図２８０のうち、特に、図２７４～図２７８は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートである。

【７４８０】

図２７４（図２７４～図２７６）は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされ

て、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第４Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７４８１】

はじめに、このような条件下で「第４Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第４Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７４８２】

いま、特定遊技状態（例えば、非確変・非時短である通常遊技状態）において始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第４Ｃ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該第４Ｃ変動パターンに対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第４Ｃ変動パターンに応じた演出描写や、第４Ｃ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第４Ｃ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。なお、第４Ｃ変動パターンについては、上記第１Ｃ変動パターンや、上記第２Ｃ変動パターン、上記第３Ｃ変動パターンとは異なる変動パターンとして設定されるようにしてもよいし、同じ変動パターンとして設定されるものであってもよい。

【７４８３】

この点、この例にかかるパチンコ機１では、図２７４（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第４Ｃ時間（第１Ｃ時間や、第２Ｃ時間、第３Ｃ時間とは異なる時間）が経過したタイミングｔＣｄ１が到来したとすると、該タイミングｔＣｄ１が到来したことに基づいて（「条件４Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第４Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第４Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７４８４】

なおこの例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨを、第４Ｃボタン受付状態が発生するタイミングで表示開始させることとしているが、必ずしも同じタイミングでなくてもよく、そのタイミングの前または後にズレるかたちで（異なるタイミングで）表示開始させるようにしてもよい。

【７４８５】

また、図示は割愛するが、第４Ｃボタン受付状態の発生に際しても、第１Ｃボタン受付状態の場合と同様、敵キャラクタ画像や、味方キャラクタ画像などを表示するようにしてもよい。ただしこれも同様、これらの画像は、第４Ｃボタン受付状態が発生する前後に表示されるものであってもよいし、第４Ｃボタン受付状態の発生とは関係なく、定常的に表示されるものであってもよい。また、表示されないようにしてもよい。

【７４８６】

また上述の通り、第４Ｃボタン受付状態とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が（当該第４Ｃボタン受付状態が終了されるタイミングｔＣｄ４までの間に）複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第４Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されるものである。

【７４８７】

この点、第４Ｃボタン受付状態は、図２７４～図２７６に示されるように、「上述の第２Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされるもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」と同じである。ただし、第４Ｃボタン受付状態は、図２７４～図２７６に示されるように、「上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付

状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされないもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」とは異なるものとなっている。

【７４８８】

このような構成によれば、第４Ｃボタン受付状態が発生した場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態が発生した場合（図１９６～図２１１を参照）とは異なり、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている間（タイミングｔＣｄ４が到来するまでの間）に上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することはないから、本来であれば、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮することなく、当該第４Ｃボタン受付状態としての遊技性や演出性だけに集中して遊技を進行させることが可能とされることとなる。

【７４８９】

ただし、ボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化としていずれの種別が発生するのかを確認するまでの間は、当該ボタン受付状態としていずれの種別（例えば、第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているのかを認識することが困難であることも多い。

【７４９０】

すなわちこの場合、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから特定時間が経過したとき、若しくはボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき、若しくはボタン受付状態が発生してから特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｄ３－１が到来したとき）に、上記「条件１Ｃｋ」が満たされるのか（第１Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによって上記ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｄ）や図２７４（ｄ）などを参照）。

【７４９１】

またこれと同様、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから所定時間が経過したとき、若しくはボタン受付状態が発生してから所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｄ２が到来したとき）に、上記「条件３Ｃｋ」が満たされるのか（第３Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｆ）や図２７４（ｆ）などを参照）。

【７４９２】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）では、上記所定時間や上記特定時間が経過するよりも前に、当該第１Ｃボタン受付状態内で操作が促される対象（操作ボタン４１０）とは異なる操作部（刀装飾体５００１）に対して操作受付がなされた場合や、該操作が促される対象（操作ボタン４１０）に対して操作受付がなされた場合は、上記所定時間や上記特定時間が経過したときに第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることは上述した通りである。そうすると、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生した場合であっても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点においては、上記第１Ｃボタン受付状態及び上記第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのかを認識し難くされる状況下にあるから、当該第４Ｃボタン受付状態内で操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７４９３】

しかも、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）内で第１Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記特定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が現れるものの、第１Ｃボタン受付状態内で第３Ｃ刀受付状態が

発生したときには（上記所定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化が何ら現れないようになっていることも上述した通りである。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記所定時間が経過した時点においても、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否か（第１Ｃボタン受付状態及び上記第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのか）を認識し難くすることができるようになり、操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７４９４】

この点、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生したときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過したときに、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が生じることはない。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過して第１Ｃ刀受付状態が発生したときには遊技者はこれを感知して第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）が発生している状況下にあること（さらには、第４Ｃボタン受付状態は発生していない状況下にあること）を認識できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７４９５】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、第４Ｃボタン受付状態を、上記所定時間や上記特定時間よりも長い時間にわたって継続させるようにしたが、上記所定時間や上記特定時間よりも短い時間で終了されるものとして設定するようにしてもよい。すなわちこの場合、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮して、上記所定時間や上記特定時間が経過するまで操作を行わないようにすると、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生しないばかりか、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態（第４Ｃボタン受付状態）」が終了するリスク（操作機会が消失するリスク）が生じるようになるから、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」が発生したとき（ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたとき）に、遊技をどう進めるかについての戦略性をより好適に提供することが期待されるようになる。

【７４９６】

また、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態などにかかる構成（発生条件や、終了条件、発生時及び終了時の演出内容、操作受付がなされたときの演出内容など）については、上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７４９７】

このように、この例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、これに関連して、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性が現れる場合（図１９６～図２１１）と、該連続的な演出関係性が現れない場合（ここでは、図２７４～図２８０に示されるように、第４Ｃボタン受付状態のみが発生する場合）との両方があるものとなっている。

【７４９８】

より具体的には、まず、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れる。この点、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れたときには、その後、第１Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合があり、この場合における演出進展の詳細については、図２０８～図２１１を参

照しつつ説明した通りである。

【７４９９】

ただし上述の通り、このような演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）が現れたときには、図示は割愛するが、第１Ｃボタン受付状態ではなく、第４Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合もあるようになっている。なおこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされたときに現れる演出状況としては、第１Ｃボタン受付状態が発生するときの演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）と全く同じ態様として用意されるものでなくてもよく、これとは異なる態様（例えば、似ている態様など）として用意されるようにしてもよい。

【７５００】

そして、これも上述したが、こうして第４Ｃボタン受付状態が発生した場合は、該第４Ｃボタン受付状態が発生しているなかで、上記第１Ｃ刀受付状態が発生することはないし、上記第３Ｃ刀受付状態が発生することもない。すなわちこの場合、第４Ｃボタン受付状態が、予め定められた時間（ここでは、タイミングｔＣｄ１～ｔＣｄ４の期間）が経過するのを待ってから終了するだけである。したがって、当該第４Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態内の場合とは異なり、操作が何ら行われていないにもかかわらず、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化することもない。

【７５０１】

なおこの例では、特定発光部における発光態様については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングｔＣｄ１（若しくは、第４Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｄ１）で、当該第４Ｃボタン受付状態に対応する「第４Ａ発光」が現れる発光演出を行うようにし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングｔＣｄ４（若しくは、第４Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｄ４）で、当該第４Ｃボタン受付状態に対応する「第４Ａ発光」が終了される発光演出を行うようにしたが、必ずしもこれに限られない。例えば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示、非表示や、第４Ｃボタン受付状態の発生、終了などに関連して発光演出が行われないようにしてもよい。また、当該第４Ｃボタン受付状態に対応する「第４Ａ発光」については、上記第１Ｃボタン受付状態に対応する「第１Ａ発光」、上記第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」、または上記第３Ｃボタン受付状態に対応する「第３Ａ発光」と同じ態様であってもよいし、「第１Ａ発光」や「第２Ａ発光」や「第３Ａ発光」とは異なる態様（例えば、見分けの付きやすい態様のほか、「第１Ａ発光」と似ているような態様であってもよい）であってもよい。

【７５０２】

また後述するが、当該第４Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これを契機として、当該第４Ｃボタン受付状態を終了させることなく上記受付後変化として「第４Ｃボタン変化」を生じさせることが可能である。

【７５０３】

ところで、この例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作を促す「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」については、該「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」が表示された時点において、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるとは限らないし、間もなく許容される状況下にあるとも限らないようになっており、すなわち「ガセ演出」として機能しうることは上述した。また、これも上述した通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングでは、第２Ｃ刀受付状態が既に発生している場合があるようになっている。

【７５０４】

この点、図２７４～図２７８に示される演出例とは、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃ

ｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【７５０５】

したがって、図２７４～図２７８に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングにおいては、図２７４（ｈ）や図２０８（ａ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が既に表示されている状況下にある場合があるようになっており、これによって刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にある可能性（若しくは、間もなく許容される可能性）を遊技者に対して意識付けさせるようにしている。

【７５０６】

ただし上述の通り、「ガセ演出」として機能しうる刀操作関連表示ＫＳＨは、「第２Ｃ刀受付状態」において表示される場合と表示されない場合との両方があるものとなっている。したがって、図２７４～図２７８に示される第４Ｃボタン受付状態内においても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングを含めて、図２７４（ｈ）や図２０８（ｂ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨが全く表示されない場合もあるようになっている。

【７５０７】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２７４（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第４Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない場合（図２０８（ｂ）を参照）と、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合（図２０８（ａ）を参照）とのいずれの場合であっても、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したタイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」を発生させることはない。

【７５０８】

この点、刀操作関連表示ＫＳＨについては、図２７４（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第４Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合がないようにしてもよいし、該摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合があるようにしてもよい。

【７５０９】

摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかで第４Ｃボタン受付状態が発生することがないようにした場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの刀操作関連表示ＫＳＨの表示有無や態様を通じて、第１Ｃボタン受付状態や第４Ｃボタン受付状態が発生する可能性の高さを遊技者に対して意識付けさせることができるようになる。

【７５１０】

摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかでも第４Ｃボタン受付状態が発生しうるようにした場合は、第１Ｃボタン受付状態及び第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生していたとしても、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性はないから、第１Ｃボタン受付状態及び第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７５１１】

また、この例にかかるパチンコ機１では、図２７５に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第４Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する

時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよいし、当該第４Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｄ４が到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよい。いずれの構成であっても、第４Ｃボタン受付状態内では、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはない。ただし上述の通り、刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にあった場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態内であったとしても、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはないから（図１９６～図２１１）、上記所定時間や上記特定時間が経過した以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７５１２】

また、この例にかかる第４Ｃボタン受付状態では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第４Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、図２７６（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、上記所定時間が経過したタイミングｔＣｄ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣｄ３－１が到来するまでの期間内で、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始される場合があるようにしてもよい。このような構成であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始された以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第４Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７５１３】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして複数の表示態様（ここでは、複数の配色）を用意しており、該ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、それら表示態様のいずれか１つとして表示するものとなっている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第４Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第２配色（ＢＭＧ２）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、上記第１Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされることは上述した通りである。すなわちこの場合、「第２配色（ＢＭＧ２）」が現れたときには、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したとしても、これを契機として、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ないことを認識することができるようになる。なお、第４Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして「第２配色（ＢＭＧ２）」が表示されず、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第３配色（ＢＭＧ３）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしてもよい。若しくは、なお、第４Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして「第２配色（ＢＭＧ２）」及び「第３配色（ＢＭＧ２）」が表示されず、「第１配色（ＢＭＧ１）」及び「第４配色（ＢＭＧ４）」を含む複数の表示態様（ここでは、複数の配色）のいずれかで表示可能とされるようにしてもよい。

【７５１４】

そしてこの例では、タイミングｔＣｄ４が到来すると、第４Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしてもよいし、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよい。

【７５１５】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該

「第４Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７５１６】

図２７７は、図２７４などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣｄ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７５１７】

すなわち、図２７７に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第４Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前の上記タイミングｔＣｄ１Ａａ，Ａｂにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７５１８】

より具体的には、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、図２７７に示されるように、まず、タイミングｔＣｄ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される。そして次に、該タイミングｔＣｄ１Ａａから少し遅れたタイミングｔＣｄ１Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣｄ１Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる。

【７５１９】

この点、図２７７（ｄ）～（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣｄ１Ａａ，ｔＣｄ１Ａｂにおいては、上記刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態としては「第２Ｃ刀受付状態」のみが発生している状況下にあるが、該「第２Ｃ刀受付状態」とは、上述の通り、上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとなっている。

【７５２０】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７５２１】

したがって、図２７７に示される例では、タイミングｔＣｄ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７５２２】

この点、図２７７に示される例においても、図２７４に示した例の場合と同様、図２７７（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第４Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｄ１が到来すると、該タイミングｔＣｄ１が到来したことに基づいて（「条件４Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第４Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第４Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。

【７５２３】

なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあるが、当該「図２７７に示される例」とは、上述した「図２７４に示した例」のあるタイミングにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２７７に示される例」は、上述した「図２７４に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２７４に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７５２４】

すなわちこの例とは、図２７７（ｅ），（ｈ）に示されるように、タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、若しくはタイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【７５２５】

なお上述の通り、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付が、上述の第１Ｃボタン受付状態内でなされたものであるか、当該第４Ｃボタン受付状態内でなされたものであるかにかかわらず、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が同じ態様で表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７５２６】

また、タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。

【７５２７】

また、タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。

【７５２８】

すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。

【７５２９】

また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７５３０】
特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７５３１】
この点、図２７７（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣｄ１Ａｂ」から「タイミングｔＣｄ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。
【７５３２】
したがって、この例では、図２７７（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｄ１ＡｂからタイミングｔＣｄ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣｄ１ＡｂからタイミングｔＣｄ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。
【７５３３】
なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対して上述のオート連打機能が働くときの演出変化については、上述の第１Ｃボタン受付状態内であるか、当該第４Ｃボタン受付状態内であるかにかかわらず、その別例等も含めて、同じ態様で実行可能とされるものであるから（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）などを参照）、ここでの詳細な説明については、割愛することとする。
【７５３４】
またこの例では、第４Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣｄ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣｄ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したが、当該第４Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。
【７５３５】
すなわちこの場合、第４Ｃボタン受付状態内では、「刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作」を、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、いずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作が行われている間にわたって、上述のオート連打機能が働いてそれに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回現れるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第４Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れる演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第４Ｃボタン受付状態において上記刀装飾体５００１に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記刀装飾体５００１に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。
【７５３６】
そしてこの例でも、タイミングｔＣｄ４が到来すると、第４Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。
【７５３７】
またこの例では、図２７７（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｄ１Ａａにおいて

開始された「刀装飾体５００１に対する接触操作（第１Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｄＸｂで終了し、タイミングｔＣｄ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｄＸａで終了した場合を想定したものとなっている。

【７５３８】

ここで、第４Ｃボタン受付状態においては、図２７７（ｍ）などに示されるように、タイミングｔＣｄＸａにおいて刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、タイミングｔＣｄＸｂ以降も（刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第２Ｃ刀変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【７５３９】

このような構成によれば、刀装飾体５００１の操作状態を終了してオート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第２Ｃ刀変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該第４Ｃボタン受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【７５４０】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第４Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７５４１】

図２７８は、図２７４などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣｄ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７５４２】

すなわち、図２７８に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第４Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣｄ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７５４３】

同図２７８に示される例においても、図２７４に示した例の場合と同様、図２７８（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第４Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｄ１が到来すると、該タイミングｔＣｄ１が到来したことに基づいて（「条件４Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第４Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第４Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７５４４】

なおこの例では、同図２７８（ｃ）に示されるように、該タイミングｔＣｄ１を跨るかたちで「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を行った場合を想定したものとなっている。当該操作については、例えば、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態において「所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持される操作」が行われた結果として該第１Ｃボタン受付状態や２Ｃボタン受付状態が終了されたときから継続しているものとして想定することも可能である。ただし、受付後変化としての

「第４Ｃボタン変化」に関しての受付けが許容される「第４Ｃボタン受付状態（有効期間）」は、このような状況下にあるなかでも、タイミングｔＣｄ１が到来したときにはこれを契機として発生するようになっている。ただし、「第４Ｃボタン受付状態」が発生する時点で「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」が行われていたとしても、当該第４Ｃボタン受付状態内では、上述の「第２Ｃ刀受付状態」の場合とは異なり、該操作が有効操作として受付け（操作受付）されることはない。すなわちこの場合、遊技者は、「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、第４Ｃボタン受付状態内で一旦終了させてから、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直すことが求められることとなる。

【７５４５】

この点、図２７８に示される例では、タイミングｔＣｄ１が到来した時点で実行状態にあった「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、タイミングｔＣｄ１が到来してからすぐに終了させた場合を想定している。そして、タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前のタイミングｔＣｄ１Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直した場合を想定したものとなっているから、該タイミングｔＣｄ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることとなる。

【７５４６】

なお、図示は割愛するが、こうして「第２Ｃ刀受付状態」が発生する時点においては、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあることは上述した通りである。すなわち、当該「図２７８に示される例」とは、上述した「図２７４に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものであり、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２７８に示される例」は、上述した「図２７４に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。したがって、図２７４を参照しつつ上述した構成と同じものについては説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２７４に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７５４７】

すなわちこの例とは、図２７８（ｇ），（ｈ）に示されるように、第４Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかでのタイミングｔＣｄ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合、若しくは第４Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｄ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかでのタイミングｔＣｄ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【７５４８】

そして上述の通り、この実施例にかかる「第４Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第４Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７５４９】

したがって、図２７８に示される例では、タイミングｔＣｄ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、当該第４Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることなく（図２７８（ｇ），（ｉ）を参照）、上記「第４Ｃボタン変化（第４Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第４ボタン受付後表示（第１Ｃボタン変化、第２Ｃボタン変化、第３Ｃボタン変化としては出現し得ない表示）が表示されるとともに（図２７８（ｉ），（ｏ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第４Ａ発光」の態様から「第４

Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２７８（ｋ）などを参照）。「第４Ｃ発光」については、「第４Ａ発光」と異なる態様であることはもとより、上述の「第１Ａ発光」～「第１Ｃ発光」のいずれとも異なる態様であることが望ましい。ただし、「第４Ｃボタン変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７５５０】

またこの際、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた時点で上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていたとしても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、ボタン操作関連表示ＢＳＨと同様、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続する（図２７８（ｈ）を参照）。また、上記第２Ｃ刀受付状態についても、上記第４Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として終了されることはない。

【７５５１】

また、この実施例にかかる「第４Ｃボタン受付状態」では、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第４Ｃボタン変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能）。

【７５５２】

ただし、「第４Ｃボタン受付状態」において操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合、当該「第４Ｃボタン受付状態」に対応する受付後変化としての「第４Ｃボタン変化」は、上述した「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」や、上述した「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」の場合とは異なり、操作受付に応じた受付後変化が実行開始されてから新たな受付後変化が実行開始されるまでの時間（操作ボタン４１０を操作状態に維持したときに受付後変化が複数回実行されるときの間隔）が一定ではなく不定であるようになっている（第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能）。

【７５５３】

なお、このようなオート連打機能によって、「一定」の間隔で受付後変化を複数回生じさせる態様や、「不定」の間隔で受付後変化を複数回生じさせる態様の具体的な実現手法や、その演出内容の例については、当該［構成１Ａ～構成４０Ａ、構成１Ｂ～構成７５Ｂ、及び構成１Ｃ～構成１３０Ｃの少なくとも１つを有する受付許容期間］にかかる構成のなかで既に上述しているし、これと同様の手法で実現可能であるから、ここでの詳細な説明は割愛することとする。

【７５５４】

そしてこの場合、「第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」では、前回の受付後変化が生じてから次回の受付後変化が生じるまでの時間として、様々な長さの時間が現れることとなるが、それらの時間についてはいずれも、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」として用いられる時間（一定の時間）や、「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」として用いられる時間（一定の時間）のいずれよりも、短い時間として現れることはなく、長い時間として必ず現れるようにすることが望ましい。このような構成の実現手法としては、例えば、「第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」内で操作受付が一度なされると、次回の操作受付がなされるまでのインターバル時間を、上述した各時間（一定の時間）よりも長い時間として設定することや、該操作受付これ自体はなされるものの、該操作受付に応じた演出判定の結果として「受付後変化を新たに生じさせる」旨の結果が、上述した各時間（一定の時間）が経過するまでの間には得られないように設定する、等々といった手法をあげることができる。

【７５５５】

このような構成によれば、第４Ｃボタン受付状態では、第２Ｃ刀受付状態や第３Ｃボタ

ン受付状態の場合とは異なり、操作手段を操作した状態に維持する操作を行ったとしても、次回の受付後変化が生じるまでの時間が不明であるから、当該第４Ｃボタン受付状態が既に終了している可能性を遊技者に対して意識させたり、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態などの「１回分の受付後変化しか生じないタイプの受付状態」が発生しているのではないか（２回目の受付後変化が生じないのではないか）、等々といった緊張感を好適に提供することができるようになる。

【７５５６】

特に、この実施例にかかる第４Ｃボタン受付状態では、前回の受付後変化が生じてから次回の受付後変化が生じるまでの時間として、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」として用いられる時間（一定の時間）や、「第３Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」として用いられる時間（一定の時間）のいずれよりも必ず長くなるように設定したから、上述の「当該第４Ｃボタン受付状態が既に終了している可能性を遊技者に対して意識させたり、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態などの「１回分の受付後変化しか生じないタイプの受付状態」が発生しているのではないか（２回目の受付後変化が生じないのではないか）、等々といった緊張感を好適に提供する」といった作用効果がより好適に奏されることを期待できるようになる。

【７５５７】

ところで、この実施例にかかるパチンコ機１では、上述した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態の発生条件等との兼ね合いから、上記刀装飾体５００１に対する操作に関しては、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方を取得可能な構成とされている。したがって、「第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能」については、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られていることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られていることを条件に働くように設定することが、適正な遊技が行われるようにする上で望ましい。

【７５５８】

この点、上記操作ボタン４１０に対する操作に関しては、そのタッチ情報を取得するセンサが設けられていないから、その変位情報（押下位置へ変位した情報）のみによって操作受付がなされうるようになっており、すなわち「第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」では、操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位さえしていれば、当該操作ボタン４１０に対する接触操作が行われているか否かにかかわらず、「第４Ｃボタン受付状態に対応するオート連打機能」が働くこととなる。ただしこの場合、操作ボタン４１０に対して不適正な遊技方法（例えば、操作ボタン４１０の隙間に紙切れを差し込むなどの物理的手段を用いて、操作ボタン４１０を押下させた状態で固定させるなど）を用いて操作を行おうとする者が現れることが懸念される。

【７５５９】

そこで、この実施例にかかるパチンコ機１では、上述の通り、第４Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｄ１を跨るかたちで、操作ボタン４１０が押下されている状況下にあったときは、該第４Ｃボタン受付状態内で、その検出情報に基づいて操作受付がなされないようにすることで、このような不適正な遊技方法を用いて操作が行われることを抑制するようにしている。

【７５６０】

これに対し、このような不適正な遊技方法が用いられ難い第２Ｃ刀受付状態では、その発生タイミングを跨るかたちで刀装飾体５００１に対する操作が維持されていたとしても、該第２Ｃ刀受付状態内で、その検出情報に基づいて操作受付がなされうるようにしたから、第２Ｃ刀受付状態と第４Ｃボタン受付状態とで求められる操作に関して異なる遊技性を提供することができるようになり、上述した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態の発生条件等とも相まって、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７５６１】

また、第４Ｃボタン受付状態においては、図２７８（ｏ）などに示されるように、操作

ボタン４１０の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたときには、第２Ｃ刀受付状態や第３Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、該非操作の状態にされたことを契機として「実行状態にあった第４Ｃボタン変化」を終了させるとともに、該非操作の状態にされたことを契機とした演出（非操作後演出）を新たに発生させることとしている。なお、このような非操作後演出としては、非操作後表示として新たな表示を開始させるようにすることが望ましい。また、第２Ｃ刀受付状態や第３Ｃボタン受付状態の場合だけでなく、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態においても、操作ボタン４１０を操作してからこれを非操作にするときにこれを契機とした非操作後演出が何ら行われないことは言うまでもない。

【７５６２】

このような構成によれば、上述の「当該第４Ｃボタン受付状態が既に終了している可能性を遊技者に対して意識させたり、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態などの「１回分の受付後変化しか生じないタイプの受付状態」が発生しているのではないか（２回目の受付後変化が生じないのではないか）、等々といった緊張感を好適に提供する」といった演出性が現れているなかで、遊技者が、操作ボタン４１０に対する操作を終了したときには、これを契機として非操作後演出が現れるようになるから、これによって当該第４Ｃボタン受付状態は未だ終了していないし、「１回分の受付後変化しか生じないタイプの受付状態」も発生していない状況下にあることを示唆することができるようになり、当該第４Ｃボタン受付状態内での操作を遊技者が中断してしまったときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【７５６３】

また、第４Ｃボタン受付状態においては、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として、当該第４Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることがないようにしたが、例えば、上記操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるなかで予め定められた終了条件が満たされたときには、該操作受付を契機として、当該第４Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせたりするようにしてもよい。このような終了条件は、例えば、「操作ボタン４１０に対する操作受付が予め定められた回数分だけなされること」として設定したり、「操作ボタン４１０に対する操作受付がなされる都度で演出判定を行うこととし、該演出判定で所定の結果が得られたこと」として設定したりすることが可能である。

【７５６４】

これに対し、第２Ｃ刀受付状態では、上記刀装飾体５００１に対する操作受付がどれだけなされたとしても、該操作受付を契機としては、当該第２Ｃ刀受付状態を終了させたり上記刀操作関連表示ＫＳＨを非表示にさせたりすることがないようにすることが望ましい。このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態と第４Ｃボタン受付状態とで求められる操作に関して異なる遊技性や演出性を提供することができるようになり、遊技興趣の向上をさらに図ることが期待されるようになる。

【７５６５】

なお上述の通り、第４Ｃボタン受付状態では、上記操作ボタン４１０に対する操作が行われて操作受付がなされると、特定発光部に現れる発光態様を「第４Ａ発光」の態様から「第４Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２７８（ｋ）などを参照）。この点、第４Ｃボタン受付状態が継続しているなかで上記操作ボタン４１０に対する操作が終了されたときには、これを契機として、「第４Ｃ発光」を終了させて、これに代わるかたちで「第４Ａ発光」が再び現れるようになっている。この「第４Ａ発光」は、第４Ｃボタン受付状態の発生に際して実行されるものであり、第４Ｃボタン受付状態が終了すると非実行にされるものである。

【７５６６】

またこの例では、第４Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記タイミングｔＣｄ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされ

た場合を想定したが、当該第４Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。

【７５６７】

すなわちこの場合、第４Ｃボタン受付状態では、「操作ボタン４１０に対する操作」をいずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作を行ったタイミングで受付後変化（第４Ｃボタン変化）を出現させるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第４Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第４Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記操作ボタン４１０に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。

【７５６８】

また、この実施例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃ刀受付状態が発生するときに、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態が発生したことを遊技者に対して確定的に報知する演出は何ら行われないことは上述した通りである。

【７５６９】

なお、このような「第４Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生可能であることはもとより、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかでも発生可能なものである。ただし、「第４Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生した場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで発生した場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７５７０】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２７４～図２７６に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２７４（ｅ）に示した演出内容、図２７５（ｅ）に示した演出内容、及び図２７６（ｅ）に示した演出内容が異なる（第２Ｃ刀受付状態が発生しているか否かの演出内容が異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７５７１】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第４Ｃボタン受付状態の発生条件である条件４Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第４Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」のうち、該「第４Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２７７に示した例の場合とは異なり、図２７９に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはないから、図２７７（ｍ）に示した例の場合とは異なり、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることはなくなることとなる（図２７９（ｍ）を参照）。

【７５７２】

また、このような「第４Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで発生した後、該「第４Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生することもあり得るものである。ただし、「第４Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生

している状況下にある場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７５７３】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２７４～図２７６に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２７４（ｅ）に示した演出内容、図２７５（ｅ）に示した演出内容、及び図２７６（ｅ）に示した演出内容が異なる（第４Ｃボタン受付状態よりも前に第２Ｃ刀受付状態が発生しているか、第４Ｃボタン受付状態内で第２Ｃ刀受付状態が発生するかで異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第４Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７５７４】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第４Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第４Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第４Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生する例のうち、該「第４Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２７７に示した例の場合とは異なり、図２８０に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する押下操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはない。ただし、刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件４Ｃｂ」が満たされて（タイミングｔＣｄＹ１）、「第４Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときには、該発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせることとなる（図２８０（ｍ）を参照）。なおこの場合、上述のオート連打機能が働くことは言うまでもない。

【７５７５】

ちなみに、第４Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときの演出内容については、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかわらず、同じ演出内容が現れることとなる。すなわち、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第４Ｃボタン受付状態の発生条件である条件４Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第４Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」や、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第４Ｃボタン受付状態の発生条件である条件４Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第４Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第４Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」などで、第４Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、図２７８を参照しつつ上述した通りの演出内容が現れるだけであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７５７６】

なお、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第４Ｃボタン受付状態の発生条件である条件４Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第４Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第４Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」において、第４Ｃボタン受付状態が発生するよりも前から、「操作ボタン４１０」と「刀装飾体５００１」との両方をそれぞれ押下操作した状態に維持する操作を行ったとすると、第４Ｃボタン受付状態が発生した以降も操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることはないが、第２Ｃ刀受付状態が発生した以降は刀装

飾体５００１に対する操作受付がなされることとなることは言うまでもない。
【７５７７】
このように、第４Ｃボタン受付状態では、第１Ｃボタン受付状態とは異なり、当該第４Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作（接触操作、押下操作）が行われたとしても、これを契機として、当該第４Ｃボタン受付状態内での演出性に影響（第４Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が消失されるなどの影響）が生じないものとなっている。
【７５７８】
また、第４Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第４Ｃボタン変化」が実行されるが、該「第４Ｃボタン変化」が実行されている状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第４Ｃボタン変化」に対して何らかの影響が生じることもない。
【７５７９】
また、第４Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」が実行されるが、該「第２Ｃ刀変化」が実行されている状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃ刀変化」に対して何らかの影響が生じることもない。
【７５８０】
図２８１～図２８７は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、受付後変化として「第５Ｃボタン変化」を生じさせる種別の「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示す図である。
【７５８１】
図２８１～図２８７のうち、特に、図２８１～図２８５は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容についての各例を示すタイムチャートである。
【７５８２】
図２８１（図２８１～図２８３）は、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第５Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときの演出内容を示すタイムチャートである。
【７５８３】
はじめに、このような条件下で「第５Ｃボタン受付状態」が発生したときに、該「第５Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が何ら行われなかったときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。
【７５８４】
いま、特定遊技状態（例えば、非確変・非時短である通常遊技状態）において始動条件が成立（保留消化）されて、変動パターン判定が行われた結果として「第５Ｃ変動パターン」が選択されたとすると、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａでは、まず、該第５Ｃ変動パターンに対応する演出判定（予告演出判定など）を行う。そしてこの後、装飾図柄ＳＺの変動演出（第５Ｃ変動パターンに応じた演出描写や、第５Ｃ変動パターンに応じたＢＧＭ再生（非リーチ時の通常ＢＧＭ再生など）の音出力など）を開始させ、該変動演出の実行期間内で、予告演出判定の結果に応じた演出（予告演出）を、上記選択した「第５Ｃ変動パターン」これ自体の演出に対して付加的に実行させることとなる。なお、第５Ｃ変動パターンについては、上記第１Ｃ変動パターンや、上記第２Ｃ変動パターン、上記第３Ｃ変動パターン、上記第４Ｃ変動パターンとは異なる変動パターンとして設定されるようにし

てもよいし、同じ変動パターンとして設定されるものであってもよい。
【７５８５】
この点、この例にかかるパチンコ機１では、図２８１（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第５Ｃ時間（第１Ｃ時間や、第２Ｃ時間、第３Ｃ時間、第４Ｃ時間とは異なる時間）が経過したタイミングｔＣｅ１が到来したとすると、該タイミングｔＣｅ１が到来したことに基づいて（「条件５Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第５Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第５Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。
【７５８６】
なおこの例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨを、第５Ｃボタン受付状態が発生するタイミングで表示開始させることとしているが、必ずしも同じタイミングでなくてもよく、そのタイミングの前または後にズレるかたちで（異なるタイミングで）表示開始させるようにしてもよい。
【７５８７】
また、図示は割愛するが、第５Ｃボタン受付状態の発生に際しても、第１Ｃボタン受付状態の場合と同様、敵キャラクタ画像や、味方キャラクタ画像などを表示するようにしてもよい。ただしこれも同様、これらの画像は、第５Ｃボタン受付状態が発生する前後に表示されるものであってもよいし、第５Ｃボタン受付状態の発生とは関係なく、定常的に表示されるものであってもよい。また、表示されないようにしてもよい。
【７５８８】
また上述の通り、第５Ｃボタン受付状態とは、操作ボタン４１０に対する操作受付が（当該第５Ｃボタン受付状態が終了されるタイミングｔＣｅ４までの間に）複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第５Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されるものである。
【７５８９】
この点、第５Ｃボタン受付状態は、図２８１～図２８３に示されるように、「上述の第２Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされるもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」と同じである。ただし、第５Ｃボタン受付状態は、図２８１～図２８３に示されるように、「上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態との間では発生状態が互いに重なるかたちで発生可能とされないもの」である点で、上述した「第１Ｃボタン受付状態」とは異なるものとなっている。
【７５９０】
このような構成によれば、第５Ｃボタン受付状態が発生した場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態が発生した場合（図１９６～図２１１を参照）とは異なり、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている間（タイミングｔＣｅ４が到来するまでの間）に上述の第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生することはないから、本来であれば、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮することなく、当該第５Ｃボタン受付状態としての遊技性や演出性だけに集中して遊技を進行させることが可能とされることとなる。
【７５９１】
ただし、ボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされてこれに応じた受付後変化としていずれの種別が発生するのかを確認するまでの間は、当該ボタン受付状態としていずれの種別（例えば、第１Ｃボタン受付状態、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているのかを認識することが困難であることも多い。
【７５９２】

すなわちこの場合、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから特定時間が経過したとき、若しくはボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき、若しくはボタン受付状態が発生してから特定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｅ３－１が到来したとき）に、上記「条件１Ｃｋ」が満たされるのか（第１Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによって上記ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｄ）や図２８１（ｄ）などを参照）。

【７５９３】

またこれと同様、この実施例にかかるパチンコ機１において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから所定時間が経過したとき、若しくはボタン受付状態が発生してから所定時間が経過したとき（例えば、タイミングｔＣｅ２が到来したとき）に、上記「条件３Ｃｋ」が満たされるのか（第３Ｃ刀受付状態が発生するのか）が認識し難くされることとなり、これによってボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる（図１９６（ｆ）や図２８１（ｆ）などを参照）。

【７５９４】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）では、上記所定時間や上記特定時間が経過するよりも前に、当該第１Ｃボタン受付状態内で操作が促される対象（操作ボタン４１０）とは異なる操作部（刀装飾体５００１）に対して操作受付がなされた場合や、該操作が促される対象（操作ボタン４１０）に対して操作受付がなされた場合は、上記所定時間や上記特定時間が経過したときに第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることは上述した通りである。そうすると、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生した場合であっても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点においては、上記第１Ｃボタン受付状態及び上記第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのかを認識し難くされる状況下にあるから、当該第５Ｃボタン受付状態内で操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７５９５】

しかも、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）内で第１Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記特定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が現れるものの、第１Ｃボタン受付状態内で第３Ｃ刀受付状態が発生したときには（上記所定時間が経過したときには）、遊技者が感知可能な変化が何ら現れないようになっていることも上述した通りである。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記所定時間が経過した時点においても、第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるか否か（第１Ｃボタン受付状態及び上記第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているのか）を認識し難くすることができるようになり、操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７５９６】

この点、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生し得ない当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生したときには、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過したときに、これを契機として、遊技者が感知可能な変化（特定動画ＴＤや、ボタン操作関連表示ＢＳＨの非表示や、発光変化など）が生じることはない。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときから上記特定時間が経過して第１Ｃ刀受付状態が発生したときには遊技者はこれを感知して第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２１１を参照）が発生している状況下にあること（さらには、第５Ｃボタン受付状態は発生していない状況下にあること）を認識できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７５９７】

なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、第５Ｃボタン受付状態を、上記所定時間や上記特定時間よりも長い時間にわたって継続させるようにしたが、上記所定時間や上記特定時間よりも短い時間で終了されるものとして設定するようにしてもよい。すなわちこの場合、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性を考慮して、上記所定時間や上記特定時間が経過するまで操作を行わないようにすると、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生しないばかりか、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態（第５Ｃボタン受付状態）」が終了するリスク（操作機会が消失するリスク）が生じるようになるから、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」が発生したとき（ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたとき）に、遊技をどう進めるかについての戦略性をより好適に提供することが期待されるようになる。

【７５９８】

また、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態などにかかる構成（発生条件や、終了条件、発生時及び終了時の演出内容、操作受付がなされたときの演出内容など）については、上述した通りであるから、ここでの詳細な説明については割愛することとする。

【７５９９】

このように、この例にかかるパチンコ機１では、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、これに関連して、第１Ｃボタン受付状態、第１Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が、それぞれ異なるタイミング（ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされるタイミングｔＣａ１、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから所定時間が経過したタイミングｔＣａ２、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされてから特定時間が経過したタイミングｔＣａ３－１）で順次に且つ重複するかたちで発生しうる連続的な演出関係性が現れる場合（図１９６～図２１１）と、該連続的な演出関係性が現れない場合（ここでは、図２８１～図２８７に示されるように、第５Ｃボタン受付状態のみが発生する場合）との両方があるものとなっている。

【７６００】

より具体的には、まず、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされると、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れる。この点、図２０８（ｂ）に示される演出状況（または、図２０８（ａ）に示される演出状況）が現れたときには、その後、第１Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合があり、この場合における演出進展の詳細については、図２０８～図２１１を参照しつつ説明した通りである。

【７６０１】

ただし上述の通り、このような演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）が現れたときには、図示は割愛するが、第１Ｃボタン受付状態ではなく、第５Ｃボタン受付状態が、既に発生している「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生する場合もあるようになっている。なおこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示開始条件が満たされたときに現れる演出状況としては、第１Ｃボタン受付状態が発生するときの演出状況（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される演出状況）と全く同じ態様として用意されるものでなくてもよく、これとは異なる態様（例えば、似ている態様など）として用意されるようにしてもよい。

【７６０２】

そして、これも上述したが、こうして第５Ｃボタン受付状態が発生した場合は、該第５Ｃボタン受付状態が発生しているなかで、上記第１Ｃ刀受付状態が発生することはないし、上記第３Ｃ刀受付状態が発生することもない。すなわちこの場合、第５Ｃボタン受付状態が、予め定められた時間（ここでは、タイミングｔＣｅ１～ｔＣｅ４の期間）が経過するのを待ってから終了するだけである。したがって、当該第５Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態内の場合とは異なり、操作が何ら行われていないにもかかわら

ず、特定動画ＴＤが表示開始されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたり、特定発光部で現れていた発光態様が変化することもない。

【７６０３】

なおこの例では、特定発光部における発光態様については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングｔＣｅ１（若しくは、第５Ｃボタン受付状態が発生するタイミングｔＣｅ１）で、当該第５Ｃボタン受付状態に対応する「第５Ａ発光」が現れる発光演出を行うようにし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングｔＣｅ４（若しくは、第５Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｅ４）で、当該第５Ｃボタン受付状態に対応する「第５Ａ発光」が終了される発光演出を行うようにしたが、必ずしもこれに限られない。例えば、ボタン操作関連表示ＢＳＨの表示、非表示や、第５Ｃボタン受付状態の発生、終了などに関連して発光演出が行われないようにしてもよい。また、当該第５Ｃボタン受付状態に対応する「第５Ａ発光」については、上記第１Ｃボタン受付状態に対応する「第１Ａ発光」、上記第２Ｃボタン受付状態に対応する「第２Ａ発光」、上記第３Ｃボタン受付状態に対応する「第３Ａ発光」、または上記第４Ｃボタン受付状態に対応する「第４Ａ発光」と同じ態様であってもよいし、「第１Ａ発光」や「第２Ａ発光」や「第３Ａ発光」や「第４Ａ発光」とは異なる態様（例えば、見分けの付きやすい態様のほか、「第１Ａ発光」と似ているような態様であってもよい）であってもよい。

【７６０４】

また後述するが、当該第５Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これを契機として、当該第５Ｃボタン受付状態を終了させることなく上記受付後変化として「第５Ｃボタン変化」を生じさせることが可能である。

【７６０５】

ところで、この例にかかるパチンコ機１では、刀装飾体５００１に対する操作を促す「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」については、該「刀操作関連表示（摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２）」が表示された時点において、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にあるとは限らないし、間もなく許容される状況下にあるとも限らないようになっており、すなわち「ガセ演出」として機能しうることは上述した。また、これも上述した通り、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングでは、第２Ｃ刀受付状態が既に発生している場合があるようになっている。

【７６０６】

この点、図２７４～図２７８に示される演出例とは、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生する場合を想定したものとなっている。

【７６０７】

したがって、図２８１～図２８５に示される演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングにおいては、図２８１（ｈ）や図２０８（ａ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨ（例えば、摸画像表示ＫＭＧ１，ＫＭＧ２など）が既に表示されている状況下にある場合があるようになっており、これによって刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されている状況下（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）にある可能性（若しくは、間もなく許容される可能性）を遊技者に対して意識付けさせるようにしている。

【７６０８】

ただし上述の通り、「ガセ演出」として機能しうる刀操作関連表示ＫＳＨは、「第２Ｃ刀受付状態」において表示される場合と表示されない場合との両方があるものとなっている。したがって、図２８１～図２８５に示される第５Ｃボタン受付状態内においても、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるタイミングを含めて、図２８１（ｈ）や図２０８（ｂ）などに示されるように、刀操作関連表示ＫＳＨが全く表示されない場合もあるようになっている。

【７６０９】
なお、この実施例にかかるパチンコ機１では、図２８１（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第５Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない場合（図２０８（ｂ）を参照）と、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合（図２０８（ａ）を参照）とのいずれの場合であっても、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた時間（所定時間、特定時間）が経過したタイミングで「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」を発生させることはない。
【７６１０】
この点、刀操作関連表示ＫＳＨについては、図２８１（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第５Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合がないようにしてもよいし、該摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）として表示されている場合があるようにしてもよい。
【７６１１】
摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかで第５Ｃボタン受付状態が発生することがないようにした場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときの刀操作関連表示ＫＳＨの表示有無や態様を通じて、第１Ｃボタン受付状態や第５Ｃボタン受付状態が発生する可能性の高さを遊技者に対して意識付けさせることができるようになる。
【７６１２】
摸画像表示ＫＭＧ２（第２態様）が表示されているなかでも第５Ｃボタン受付状態が発生しうるようにした場合は、第１Ｃボタン受付状態及び第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生していたとしても、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する可能性はないから、第１Ｃボタン受付状態及び第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。
【７６１３】
また、この例にかかるパチンコ機１では、図２８２に示されるように、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されるときは、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第５Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されていた場合、該刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよいし、当該第５Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｅ４が到来する時点においても表示状態にある場合があるようにしてもよい。いずれの構成であっても、第５Ｃボタン受付状態内では、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはない。ただし上述の通り、刀操作関連表示ＫＳＨが、上記所定時間や上記特定時間が経過したタイミングが到来する時点においても表示状態にあった場合は、上述の第１Ｃボタン受付状態内であったとしても、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生することはないから（図１９６～図２１１）、上記所定時間や上記特定時間が経過した以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。
【７６１４】
また、この例にかかる第５Ｃボタン受付状態では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始される時点で（第５Ｃボタン受付状態が発生する時点で）、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にあった場合であっても、図２８３（ｄ），（ｆ），（ｈ）に示されるように、上記所定時間が経過したタイミングｔＣｅ２や上記特定時間が経過したタイミングｔＣｅ３－１が到来するまでの期間内で、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始される場合があるようにしてもよい。このような構成

であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示開始された以降は、第１Ｃボタン受付状態及び第５Ｃボタン受付状態のいずれが発生しているかについての遊技性だけに集中させることができるようになる。

【７６１５】

若しくは、当該「第５Ｃボタン受付状態」については、刀操作関連表示ＫＳＨが上記摸画像表示ＫＭＧ２（若しくは、他の受付状態では表示され得ない摸画像表示ＫＭＧ３（第３態様）であってもよい）として表示されているなかでのみ発生可能なものとして用意するようにしてもよい。ただしこの場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、発生している状況下にある場合と、発生していない状況下にある場合との両方があるようにすることが望ましい。

【７６１６】

このような構成によれば、刀操作関連表示ＫＳＨが上記摸画像表示ＫＭＧ２（若しくは、他の受付状態では表示され得ない摸画像表示ＫＭＧ３（第３態様）であってもよい）として表示されているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されたときには、第５Ｃボタン受付状態が発生している可能性を意識付けさせることができるようになるから、刀操作関連表示ＫＳＨが上記摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示された場合よりも、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで刀装飾体５００１に対して操作を行うことをより積極的に促すことが期待されるようになる。

【７６１７】

また、刀装飾体５００１に対して操作を行うことをより積極的に促すようにする上では、刀操作関連表示ＫＳＨが上記摸画像表示ＫＭＧ２（若しくは、他の受付状態では表示され得ない摸画像表示ＫＭＧ３（第３態様）であってもよい）として表示されているなかで上記第５Ｃボタン受付状態が発生したときには、該第５Ｃボタン受付状態が終了するタイミングが到来するまで該刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされることがないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第５Ｃボタン受付状態が表示されてから終了されるまでの全期間にわたって、刀操作関連表示ＫＳＨが上記摸画像表示ＫＭＧ２（若しくは、他の受付状態では表示され得ない摸画像表示ＫＭＧ３（第３態様）であってもよい）として必ず表示されていることとなる。

【７６１８】

また上述の通り、この例にかかるパチンコ機１では、ボタン操作関連表示ＢＳＨとして複数の表示態様（ここでは、複数の配色）を用意しており、該ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、それら表示態様のいずれか１つとして表示するものとなっている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第５Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときには、「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされるようにしている。この点、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、上記第１Ｃボタン受付状態の発生に関連して表示されるときも、「第１配色（ＢＭＧ１）」としてのみ表示可能とされることは上述した通りである。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨとしての態様を確認しても、第１Ｃボタン受付状態及び第５Ｃボタン受付状態の何れが発生しているのかを認識し難くされるから、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したときに、第３Ｃ刀受付状態や第１Ｃ刀受付状態が発生するのか否かについても認識し難くされることとなり、集中を促すことが期待されるようになる。

【７６１９】

そしてこの例では、タイミングｔＣｅ４が到来すると、第５Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしてもよいし、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよい。

【７６２０】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第５Ｃボタ

ン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第５Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記刀装飾体５００１に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７６２１】

図２８４は、図２８１などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣｅ２が到来するまでの間）に、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７６２２】

すなわち、図２８４に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第５Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前の上記タイミングｔＣｅ１Ａａ，Ａｂにおいて、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７６２３】

より具体的には、この実施例にかかるパチンコ機１では、上記刀装飾体５００１に対して押下操作が行われると、図２８４に示されるように、まず、タイミングｔＣｅ１Ａａにおいて、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）が取得される。そして次に、該タイミングｔＣｅ１Ａａから少し遅れたタイミングｔＣｅ１Ａｂ（「図１２４（Ｃ）に示される抜刀状態」から、「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位するのに要する時間分だけ、タイミングｔＣｅ１Ａａから遅れたタイミング）において、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が取得されることとなる。

【７６２４】

この点、図２８４（ｄ）～（ｆ）に示されるように、タイミングｔＣｅ１Ａａ，ｔＣｅ１Ａｂにおいては、上記刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態としては「第２Ｃ刀受付状態」のみが発生している状況下にあるが、該「第２Ｃ刀受付状態」とは、上述の通り、上記刀装飾体５００１に対する操作によって、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）及び上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のうち、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られたことに基づいて上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとなっている。

【７６２５】

なお、「第２Ｃ刀受付状態」においては、上記第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）が得られることはもとより、上記第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）も併せて得られたことを条件として、上記刀装飾体５００１に対する操作を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化を生じさせるものとして用意するようにしてもよい。

【７６２６】

したがって、図２８４に示される例では、タイミングｔＣｅ１Ａｂ（第２Ｃ刀操作検出情報が得られるタイミング）において上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされて、該操作受付に応じた受付後変化として、上記「第２Ｃ刀変化」が生じることとなる。

【７６２７】

この点、図２８４に示される例においても、図２８１に示した例の場合と同様、図２８４（ｅ），（ｇ）や、図２０８（ａ）または（ｂ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第５Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｅ１が到来すると、該タイミングｔＣｅ１が到来したことに基づいて（「条件５Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第５Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第５Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる

（図２０８（ａ）または（ｂ）に示される状況）。
【７６２８】
なおこの際、刀操作関連表示ＫＳＨにかかる構成については、上述した「図２８１に示した例」と基本的には同じである。すなわち、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２８４に示される例」は、上述した「図２８１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものであるから、同じ構成については説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２８１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。
【７６２９】
すなわちこの例とは、図２８４（ｅ），（ｈ）に示されるように、タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合、若しくはタイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。
【７６３０】
なお上述の通り、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、該操作受付が、上述の第１Ｃボタン受付状態内でなされたものであるか、当該第５Ｃボタン受付状態内でなされたものであるかにかかわらず、これに応じた「第２Ｃ刀変化」の１つとして、第２Ｃ受付後表示Ｃ２（敵キャラクタに対する剣攻撃）が同じ態様で表示される（図２０８（ａ）または（ｂ）→（ｇ）などに示される演出進展を参照）。ただし、「第２Ｃ刀変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。
【７６３１】
また、タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、上記刀装飾体５００１に対する操作受付を契機として非表示にされることはない。
【７６３２】
また、タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合と、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかで上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされた場合とのいずれの場合で操作受付がなされた場合であっても、第２Ｃ刀受付状態は、該操作受付を契機として終了されることはない。
【７６３３】
すなわち上述の通り、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」は、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、「刀装飾体５００１に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（刀複種別許容状態）」として発生するものとなっている。したがって、当該第２Ｃ刀受付状態では、刀装飾体５００１に対する操作受付が何度なされたとしても（第２Ｃ刀変化を何度生じさせたとしても）、これを契機として当該状態が終了することはない。
【７６３４】
また、これも上述したが、この実施例にかかる「第２Ｃ刀受付状態」では、刀装飾体５００１を特定操作状態（刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけで、上記刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」を複数回生じさせることが可能とされている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。
【７６３５】

特に、これも上述したが、「第２Ｃ刀受付状態」において刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合は、当該「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」は、予め定められた時間毎（一定の間隔毎に）に、複数回生じるようになっている（第２Ｃ刀受付状態に対応するオート連打機能）。

【７６３６】

この点、図２８４（ａ），（ｂ）に示される例では、上記「タイミングｔＣｅ１Ａｂ」から「タイミングｔＣｅ３－１」よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したものとなっている。

【７６３７】

したがって、この例では、図２８４（ａ），（ｂ），（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｅ１ＡｂからタイミングｔＣｅ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、上述のオート連打機能が働くこととなり、これによってタイミングｔＣｅ１ＡｂからタイミングｔＣｅ３－１よりも長い期間（刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われている間）にわたって、「第２Ｃ刀受付状態」に対応する受付後変化としての「第２Ｃ刀変化」が複数回生じることとなる。

【７６３８】

なお、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１に対して上述のオート連打機能が働くときの演出変化については、上述の第１Ｃボタン受付状態内であるか、当該第５Ｃボタン受付状態内であるかにかかわらず、その別例等も含めて、同じ態様で実行可能とされるものであるから（図２０８（ｇ１）～（ｇ３）などを参照）、ここでの詳細な説明については、割愛することとする。

【７６３９】

またこの例では、第５Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、上記「タイミングｔＣｅ１Ａｂ」から上記「タイミングｔＣｅ３－１」までの時間よりも長い時間にわたって、刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作が行われた場合を想定したが、当該第５Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。

【７６４０】

すなわちこの場合、第５Ｃボタン受付状態内では、「刀装飾体５００１を押下操作した状態に維持する操作」を、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、いずれのタイミングからいずれのタイミングまで行ったとしても、該操作が行われている間にわたって、上述のオート連打機能が働いてそれに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回現れるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第５Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れる演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第５Ｃボタン受付状態において上記刀装飾体５００１に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記刀装飾体５００１に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。

【７６４１】

そしてこの例でも、タイミングｔＣｅ４が到来すると、第５Ｃボタン受付状態が、その終了条件が満たされて終了するようになっている。なおこの際、時間切れになったことを示唆する表示変化（ボタン演出終了）を新たに生じさせるようにしているが、こうした新たな画像表示を追加する表示変化については必ずしも生じさせないようにしてもよく、例えば、それまで表示されていた画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨなど）を非表示にするなどの表示変化のみが実行されるだけにしてもよいことは上述した通りである。

【７６４２】

またこの例では、図２８４（ｍ）に示されるように、タイミングｔＣｅ１Ａａにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する接触操作（第１Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミ

ングｔＣｅＸｂで終了し、タイミングｔＣｅ１Ａｂにおいて開始された「刀装飾体５００１に対する押圧操作（第２Ｃ刀操作検出情報）」は、タイミングｔＣｅＸａで終了した場合を想定したものとなっている。

【７６４３】

ここで、第５Ｃボタン受付状態においては、図２８４（ｍ）などに示されるように、タイミングｔＣｅＸａにおいて刀装飾体５００１の操作状態を終了して（非操作の状態にして）オート連打機能を無効化させたとしても、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化がこれを契機として途中終了されることはないし、これを契機として何らの変化を生じさせることもない。すなわちこの場合、実行途中の状態にあった第２Ｃ刀変化は、タイミングｔＣｅＸｂ以降も（刀装飾体５００１が非操作状態になった以降も）、例えば、実行状態にあった上記「第２Ｃ刀変化」が予め定められた分だけ実行し終わるまでの間は、その実行状態が継続されることとなる。

【７６４４】

このような構成によれば、刀装飾体５００１の操作状態を終了してオート連打機能を無効化させたとしても、それまで実行状態にあった第２Ｃ刀変化がすぐには非実行の状態にされないから、当該第５Ｃボタン受付状態における操作の状況が認識し易くなるまでに時間を要することとなる。

【７６４５】

次に、「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するときの演出内容のうち、当該「第５Ｃボタン受付状態」において遊技者による操作が上記操作ボタン４１０に対して行われたときに演出内容がどのように進展するかについて説明する。

【７６４６】

図２８５は、図２８１などを参照しつつ説明した上記演出例において、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間（または、上記特定時間）が経過するまでの間（タイミングｔＣｅ２が到来するまでの間）に、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われたときの演出内容を示すタイムチャートである。

【７６４７】

すなわち、図２８５に示される例では、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、第５Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから上記所定時間が経過するよりも前のタイミングｔＣｅ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われた場合を想定している。

【７６４８】

同図２８５に示される例においても、図２８１に示した例の場合と同様、図２８５（ｅ），（ｇ）に示されるように、上記「第２Ｃ刀受付状態」が既に発生している状況下にあるなかで、装飾図柄ＳＺの変動演出が開始されてから第５Ｃ時間が経過したタイミングｔＣｅ１が到来すると、該タイミングｔＣｅ１が到来したことに基づいて（「条件５Ｃｂ」が満たされたことに基づいて）、「受付後変化としての「第５Ｃボタン変化」に関しての受付け」が許容される上記第５Ｃボタン受付状態（有効期間）が、上記「第２Ｃ刀受付状態」と重複するかたちで発生するとともに、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されることとなる。

【７６４９】

なおこの例では、同図２８５（ｃ）に示されるように、該タイミングｔＣｅ１を跨るかたちで「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を行った場合を想定したものとなっている。当該操作については、例えば、第１Ｃボタン受付状態や第２Ｃボタン受付状態において「所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持される操作」が行われた結果として該第１Ｃボタン受付状態や２Ｃボタン受付状態が終了されたときから継続しているものとして想定することも可能である。ただし、受付後変化としての「第５Ｃボタン変化」に関しての受付けが許容される「第５Ｃボタン受付状態（有効期間

）」は、このような状況下にあるなかでも、タイミングｔＣｅ１が到来したときにはこれを契機として発生するようになっている。ただし、「第５Ｃボタン受付状態」が発生する時点で「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」が行われていたとしても、当該第５Ｃボタン受付状態内では、上述の「第２Ｃ刀受付状態」の場合とは異なり、該操作が有効操作として受付け（操作受付）されることはない。すなわちこの場合、遊技者は、「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、第５Ｃボタン受付状態内で一旦終了させてから、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直すことが求められることとなる。

【７６５０】

この点、図２８５に示される例では、タイミングｔＣｅ１が到来した時点で実行状態にあった「操作ボタン４１０を押下操作した状態に維持させる操作」を、タイミングｔＣｅ１が到来してからすぐに終了させた場合を想定している。そして、タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前のタイミングｔＣｅ１Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直した場合を想定したものとなっているから、該タイミングｔＣｅ１Ｂにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることとなる。

【７６５１】

なお、図示は割愛するが、こうして「第２Ｃ刀受付状態」が発生する時点においては、刀操作関連表示ＫＳＨについては、表示されていない場合と、摸画像表示ＫＭＧ１（第１態様）として表示されている場合とが少なくともあることは上述した通りである。すなわち、当該「図２８５に示される例」とは、上述した「図２８１に示した例」のあるタイミングにおいて、上記操作ボタン４１０に対して押下操作が行われるようにしたときに現れる演出進展を示したものであり、刀操作関連表示ＫＳＨに関連する当該構成を含めて、該「図２８５に示される例」は、上述した「図２８１に示した例」と基本的には同じ構成を有するものである。したがって、図２８１を参照しつつ上述した構成と同じものについては説明を割愛する（特に言及しない）こととし、上述した「図２８１に示した例」と異なる構成を中心に説明することとする。

【７６５２】

すなわちこの例とは、図２８５（ｇ），（ｈ）に示されるように、第５Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない」なかでのタイミングｔＣｅ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合、若しくは第５Ｃボタン受付状態の「タイミングｔＣｅ２が到来するよりも前の期間」のうち、「第２Ｃ刀受付状態が発生しており且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示されている」なかでのタイミングｔＣｅ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したものとなっている。

【７６５３】

そして上述の通り、この実施例にかかる「第５Ｃボタン受付状態」とは、「操作部に対する操作受付が許容される状態」のうち、操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第５Ｃボタン変化」を生じさせる種別として用意されている。

【７６５４】

したがって、図２８５に示される例では、タイミングｔＣｅ１Ｂにおいて上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付を契機として、当該第５Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることなく（図２８５（ｇ），（ｉ）を参照）、上記「第５Ｃボタン変化（第５Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第５ボタン受付後表示（第１Ｃボタン変化、第２Ｃボタン変化、第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化としては出現し得ない表示）が表示されるとともに（図２８５（ｉ），（ｏ）などを参照）、特定発光部に現れる発光態様を「第５Ａ発光」の態様から「第５Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２８５（ｋ）などを参

照）。「第５Ｃ発光」については、「第５Ａ発光」と異なる態様であることはもとより、上述の「第１Ａ発光」～「第１Ｃ発光」のいずれとも異なる態様であることが望ましい。ただし、「第５Ｃボタン変化」の１つとして受付後表示を必ずしも表示しなくてもよく、例えば、演出音の出力開始や、ランプ発光の開始、可動体駆動の開始など、他の演出態様として出現させたり、それらの組み合わせによって実行するようにしてもよい。

【７６５５】

またこの際、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた時点で上記刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていたとしても、該刀操作関連表示ＫＳＨは、ボタン操作関連表示ＢＳＨと同様、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として非表示にされることはなく、その表示状態を継続する（図２８５（ｈ）を参照）。また、上記第２Ｃ刀受付状態についても、上記第５Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたことを契機として終了されることはない。

【７６５６】

また、この実施例にかかる「第５Ｃボタン受付状態」は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）」として発生するものではあるものの、「第３Ｃボタン受付状態」や「第４Ｃボタン受付状態」の場合とは異なり、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけでは、上記操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第５Ｃボタン変化」を複数回生じさせることができないものとされている（第５Ｃボタン受付状態ではオート連打機能が有効化されない）。

【７６５７】

すなわちこの場合、「第５Ｃボタン受付状態」では、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）が行われたときには、該操作をどれだけ維持したとしても、該操作受付は１回しかなされないから、該操作受付に応じた受付後変化（第５Ｃボタン変化）が１回分だけ実行されるに留まることとなる。

【７６５８】

ここで、第５Ｃボタン変化については、第５Ｃボタン受付状態が終了するタイミングｔＣｅ４が到来するよりも前にその実行が終了されることはないようになっており、該タイミングｔＣｅ４が到来するよりも長い時間にわたって実行されるものとなっている。これにより、複数回許容されるタイプの受付許容状態であること、若しくはオート連打機能が有効化されないタイプの受付許容状態であることに遊技者が気付かず、操作ボタン４１０に対する操作受付が１回しかなされなかったときの遊技興趣の低下を好適に抑制することが期待されうるようになる。

【７６５９】

この点、図２８５に示される例では、第５Ｃボタン受付状態内で、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作を一旦終了するとともに、その後、タイミングｔＣｅ２Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をやり直した場合を想定したものとなっている。なお、第５Ｃボタン受付状態では、第１Ｃボタン受付状態や、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態などと同様、操作ボタン４１０に対する操作を終了したときにこれを契機として何らかの変化を生じさせることはない（第５Ｃボタン変化の実行状態が継続される）。

【７６６０】

すなわち、タイミングｔＣｅ２Ｂにおいては、タイミングｔＣｅ１Ｂでの操作受付に応じた第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）が表示されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付が新たになされる。そしてこの場合、該操作受付が新たになされた時点で実行状態にあった第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）については、これを非実行にし、これに代わるかたちで、該操作受付がなされたことに応じた第５ボタン受付

後表示（第５Ｃボタン変化）を新たに実行開始させることとなる。
【７６６１】
このような構成によれば、第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）が新たに実行されたこと、ひいては当該「第５Ｃボタン受付状態」が「複数回許容されるタイプの受付許容状態」であり、且つ「オート連打機能が有効化されないタイプの受付許容状態」でもあることを好適に示唆することができるようになる。
【７６６２】
また、図２８５に示される例では、タイミングｔＣｅ２Ｂで行われた操作ボタン４１０に対する操作については、早い段階で終了させて、その後、タイミングｔＣｅ３Ｂにおいて、操作ボタン４１０に対する押下操作をさらにやり直した場合を想定したものとなっている。
【７６６３】
したがって、タイミングｔＣｅ３Ｂにおいては、タイミングｔＣｅ２Ｂでの操作受付に応じた第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）が表示されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付が新たになされる。そしてこの場合、該操作受付が新たになされた時点で実行状態にあった第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）については、これを非実行にし、これに代わるかたちで、該操作受付がなされたことに応じた第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）を新たに実行開始させることとなる。
【７６６４】
なお、「第５Ｃボタン受付状態」においては、操作ボタン４１０に対する操作受付が新たになされる都度、該操作受付がなされる時点で現れていた「第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）」の態様とは必ず異なる態様で、「第５ボタン受付後表示（第５Ｃボタン変化）」が新たに実行開始されるようにすることが、オート連打機能が有効化されない当該第５Ｃボタン受付状態としての遊技興趣を好適に維持する上で望ましい。
【７６６５】
また、図２８５に示した例では、「第５Ｃボタン受付状態」内で最初に操作受付がなされたときに限り、特定発光部に現れている発光態様を変化させることとしたが、該発光態様についても、「第５ボタン受付後表示」と同様、操作ボタン４１０に対する操作受付が新たになされる都度、該操作受付がなされる時点で現れていた発光態様からこれとは必ず異なる態様に変化させるようにしてもよい。
【７６６６】
また、第５Ｃボタン受付状態においては、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として、当該第５Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることがなく、この点は、第２Ｃ刀受付状態と同様の構成であると言える。これに対し、第３Ｃボタン受付状態や第４Ｃボタン受付状態については、上記操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回なされるなかで予め定められた終了条件が満たされたときには、該操作受付を契機として当該状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせたりするようにしてもよいことは上述した通りである。
【７６６７】
なお上述の通り、第５Ｃボタン受付状態では、上記操作ボタン４１０に対する操作が行われて操作受付がなされると、特定発光部に現れる発光態様を「第５Ａ発光」の態様から「第５Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる（図２８５（ｋ）などを参照）。この点、第５Ｃボタン受付状態では、こうして「第５Ａ発光」から「第５Ｃ発光」の態様へと変化した状態で、上記操作ボタン４１０に対する操作終了されたり、当該第５Ｃボタン受付状態これ自体が終了したとしても、これらを契機として、「第５Ｃ発光」を終了させることはなく、該「第５Ｃ発光」は継続して実行されるようになっている。
【７６６８】
またこの例では、第５Ｃボタン受付状態内で、第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで、タイミングｔＣｅ１Ｂや、タイミングｔＣｅ２Ｂ、タイミングｔＣｅ３Ｂにおいて、上

記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合を想定したが、当該第５Ｃボタン受付状態内では、上記第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、そもそも、「第１Ｃ刀受付状態」や「第３Ｃ刀受付状態」が発生し得ないようになっていることは上述した通りである。

【７６６９】

すなわちこの場合、第５Ｃボタン受付状態では、「操作ボタン４１０に対する操作」をいずれのタイミングでどれだけ行ったとしても、該操作を行ったタイミングで受付後変化（第５Ｃボタン変化）を新たに出現させるだけである。そしてこの際、上述の第１Ｃボタン受付状態の場合とは異なり、当該第５Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が現れなくなるなどの影響が及ぼされることがないことは明らかである。したがって、当該第５Ｃボタン受付状態において上記操作ボタン４１０に対する操作が行われる例に関して、当該例の場合とは異なるタイミングで、上記操作ボタン４１０に対する操作が開始されたり終了されたりする例については、その説明を割愛することとする。

【７６７０】

また、この実施例にかかるパチンコ機１では、第２Ｃ刀受付状態が発生するときに、これを契機として、第２Ｃ刀受付状態が発生したことを遊技者に対して確定的に報知する演出は何ら行われないことは上述した通りである。

【７６７１】

なお、このような「第５Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生可能であることはもとより、該「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかでも発生可能なものである。ただし、「第５Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況下にあるなかで発生した場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にあるなかで発生した場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７６７２】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２８１～図２８３に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２８１（ｅ）に示した演出内容、図２８２（ｅ）に示した演出内容、及び図２８３（ｅ）に示した演出内容が異なる（第２Ｃ刀受付状態が発生しているか否かの演出内容が異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生し且つ終了するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７６７３】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第５Ｃボタン受付状態の発生条件である条件５Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第５Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」のうち、該「第５Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２８４に示した例の場合とは異なり、図２８６に示される演出内容が現れることとなる。すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはないから、図２８４（ｍ）に示した例の場合とは異なり、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じることはなくなることとなる（図２８６（ｍ）を参照）。

【７６７４】

また、このような「第５Ｃボタン受付状態」については、上述の「第１Ｃボタン受付状態」と同様、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで発生した後、該「第５Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生することもあり得るものである。ただし、「第５Ｃボタン受付状態」では、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生

している状況下にある場合と、上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生していない状況下にある場合とで、操作受付が何らなされないときには同じ演出内容が現れるものである。

【７６７５】

すなわちこの場合、図示は割愛するが、基本的には、図２８１～図２８３に示した例の場合と同様の演出内容が現れることとなる。なお、それらの各例との違いについては、図２８１（ｅ）に示した演出内容、図２８２（ｅ）に示した演出内容、及び図２８３（ｅ）に示した演出内容が異なる（第５Ｃボタン受付状態よりも前に第２Ｃ刀受付状態が発生しているか、第５Ｃボタン受付状態内で第２Ｃ刀受付状態が発生するかで異なる）だけである。それ以外の演出内容については、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第５Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生するときにも同様に現れるものであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７６７６】

ただし、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで上記「第５Ｃボタン受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて、該「第２Ｃ刀受付状態」と重複することなく当該「第５Ｃボタン受付状態」が発生するが、その後、該「第５Ｃボタン受付状態」が発生しているなかで上記「第２Ｃ刀受付状態」が発生する例のうち、該「第５Ｃボタン受付状態」内で刀装飾体５００１に対する操作が行われたときは、図２８４に示した例の場合とは異なり、図２８７に示される演出内容が現れることとなる。

すなわちこの場合、「第２Ｃ刀受付状態」が発生していないなかで刀装飾体５００１に対する押下操作が行われたとしても、その操作受付がなされることはない。ただし、刀装飾体５００１に対する押下操作が行われている状態が継続されているなかで「第２Ｃ刀受付状態」の発生条件である「条件５Ｃｂ」が満たされて（タイミングｔＣｅＹ１）、「第５Ｃボタン受付状態」と重複するかたちで当該「第２Ｃ刀受付状態」が発生したときには、該発生した時点で得られる第２Ｃ刀操作検出情報（さらには、第１Ｃ刀操作検出情報も条件とするようにしてもよい）に基づいて、それまで継続されている状態にある「刀装飾体５００１に対する押下操作」を有効操作として判定（操作受付）し、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせることとなる（図２８７（ｍ）を参照）。なおこの場合、上述のオート連打機能が働くことは言うまでもない。

【７６７７】

ちなみに、第５Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときの演出内容については、第２Ｃ刀受付状態の発生状況にかかわらず、同じ演出内容が現れることとなる。すなわち、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第５Ｃボタン受付状態の発生条件である条件５Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第５Ｃボタン受付状態が発生し且つ終了する例」や、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第５Ｃボタン受付状態の発生条件である条件５Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第５Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第５Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」などで、第５Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、図２８５を参照しつつ上述した通りの演出内容が現れるだけであるから、その詳細な説明については割愛することとする。

【７６７８】

なお、「第２Ｃ刀受付状態が発生していないなかで上記第５Ｃボタン受付状態の発生条件である条件５Ｃｂが満たされて、該第２Ｃ刀受付状態と重複することなく当該第５Ｃボタン受付状態が発生するが、その後、該第５Ｃボタン受付状態が発生しているなかで上記第２Ｃ刀受付状態が発生する例」において、第５Ｃボタン受付状態が発生するよりも前から、「操作ボタン４１０」と「刀装飾体５００１」との両方をそれぞれ押下操作した状態に維持する操作を行ったとすると、第５Ｃボタン受付状態が発生した以降も操作ボタン４１０に対する操作受付がなされることはないが、第２Ｃ刀受付状態が発生した以降は刀装

飾体５００１に対する操作受付がなされることとなることは言うまでもない。
【７６７９】
このように、第５Ｃボタン受付状態では、第１Ｃボタン受付状態とは異なり、当該第５Ｃボタン受付状態内で刀装飾体５００１に対する操作（接触操作、押下操作）が行われたとしても、これを契機として、当該第５Ｃボタン受付状態内での演出性に影響（第５Ｃボタン受付状態内で操作がないときに現れるはずだった演出性が消失されるなどの影響）が生じないものとなっている。
【７６８０】
また、第５Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第５Ｃボタン変化」が実行されるが、該「第５Ｃボタン変化」が実行されている状況下にあるなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第５Ｃボタン変化」に対して何らかの影響が生じることもない。
【７６８１】
また、第５Ｃボタン受付状態が発生しており且つ第２Ｃ刀受付状態が発生しているなかで刀装飾体５００１に対する操作受付がなされると、該操作受付に応じた「第２Ｃ刀変化」が実行されるが、該「第２Ｃ刀変化」が実行されている状況下にあるなかで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、実行状態にある「第２Ｃ刀変化」に対して何らかの影響が生じることもない。
【７６８２】
図１９６～図２８７を参照しつつ上述した演出例によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されて且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される「ボタン演出」が発生すると、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されない場合（第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態）との両方があることとなる。そして、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態）では、該「ボタン演出（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態）」これ自体は継続されていることはもとより、当該「ボタン演出」の操作対象（所定操作手段（操作ボタン４１０））とは異なる特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して特別な操作機会が新たに付与されうるようになるから、「ボタン演出」が発生したときには、当該「ボタン演出」の操作対象（所定操作手段（操作ボタン４１０））だけに限られない操作に関する演出性（複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される）を提供することができるようになり、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【７６８３】
図１９６～図２８７を参照しつつ上述した各例では、第１Ｃボタン受付状態を、「操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容されるタイプの受付許容状態（ボタン単種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別」として用意したが、これに代えて、「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別」として用意するようにしてもよい。
【７６８４】
このような別例にかかる構成を採用した場合であっても、例えば、第１Ｃボタン受付状態内で遊技者による操作が何ら行われないときの演出進展にかかる内容や、刀装飾体５００１に対する操作のみが行われたときの演出進展にかかる内容については、基本的には、「１回だけ許容されるタイプ」として実現した上述の例の場合と同様である。また、その変形例や別例についても同様である。したがって、当該別例にかかる構成については、「

１回だけ許容されるタイプ」として上述した例の場合とは異なる部分を中心として以下に説明することとし、同じ構成についてはこれを割愛することとする（特に言及しないこととする）。

【７６８５】

すなわち、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合は、上述した例（１回だけ許容されるタイプ）の場合とは異なり、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態が終了されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたりすることがない（第１Ｃボタン受付状態が継続し、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示継続される）。

【７６８６】

この点、当該別例にかかる構成を「図１９６～図２５３に示した例にかかる第１Ｃボタン受付状態」に対して適用した場合に、該第１Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われたときは、例えば、図２８８や図２８９に示される態様で演出進展されることとなる。

【７６８７】

より具体的には、図２８８に示されるように、第１Ｃボタン受付状態内のうち上記タイミングｔＣａ２が到来するよりも前のタイミングｔＣａ１Ｂａにおいて、操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合は、図１９６～図２５３に示した例の場合と同様、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。そしてこの後、タイミングｔＣａ２が到来したときにこれを契機として第３Ｃ刀受付状態が発生することがなくなるとともに、タイミングｔＣａ３－１が到来したときにこれを契機として第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることとなる。またこの場合、これも上述したが、該タイミングｔＣａ３－１が到来したときに、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されず、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｃ発光）についてもこれを終了せずに継続することとなる。

【７６８８】

また、図示は割愛するが、タイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内のタイミングにおいて、操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合も、図１９６～図２５３に示した例の場合と同様、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。またこの際、該操作受付を契機として第３Ｃ刀受付状態が終了されるとともに、この後、タイミングｔＣａ３－１が到来したときにこれを契機として第１Ｃ刀受付状態が発生することがなくなることとなる。またこの場合、これも上述したが、該タイミングｔＣａ３－１が到来したときに、特定動画ＴＤにかかる表示が開始されず、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にせず、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｃ発光）についてもこれを終了せずに継続することとなる。

【７６８９】

また、図２８９に示されるように、第１Ｃボタン受付状態内のうち上記タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内のタイミングｔＣａ３Ｃａにおいて、操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合も、図１９６～図２５３に示した例の場合と同様、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。ただしこの際、これも上述したが、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」として、上記第１Ｃ特別表

示Ｘ１を表示させるだけでなく、上記第２Ｃ特別表示ＢＣ２（タイミングｔＣａ３－１～タイミングｔＣａ３－２の期間内で上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表示Ｃ１」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示））も表示させることとなる。

【７６９０】

また、この例においても、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間とは、第１Ｃ刀受付状態が発生していたり、第３Ｃ刀受付状態が発生していたり、特定動画ＴＤにかかる表示が行われていたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示の状態にされていたり、特定発光部に「第１Ｂ発光」の態様が現れていたりする状況下にあるものとなっている。

【７６９１】

したがって、この例でも、上記タイミングｔＣａ３Ｃａにおいて、上記操作ボタン４１０に対する１回目の操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、第２Ｃ刀受付状態を終了させることはないものの、該操作ボタン４１０に関連した第１Ｃボタン受付状態を終了させるだけではなく、上記刀装飾体５００１に関連した第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ終了させるようになっている。また、これも同様、同タイミングｔＣａ３Ｃａにおいて、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該操作受付を契機として、特定動画ＴＤにかかる表示を終了したり、特定発光部の態様を、「第１Ｂ発光」の態様から「第１Ｃ発光」の態様に変更させたりするようになっている。

【７６９２】

また、図示は割愛するが、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間内のタイミングにおいて、操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合も、図１９６～図２５３に示した例の場合と同様、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示されるとともに、特定発光部に現れる発光態様を「第１Ｃ発光」の態様へと変化させることとなる。またこの際、該操作受付を契機として第３Ｃ刀受付状態が終了されることとなる。

【７６９３】

そして、当該別例にかかる構成を適用した第１Ｃボタン受付状態においても、当該状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときは、該操作受付がなされた時点で上記第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にある場合と該状況下にない場合とで同じ態様で、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」が実行されるようになっている。また、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」が実行されているなかで、第２Ｃ刀受付状態が発生または終了したり、第２Ｃ刀受付状態に対応する操作受付がなされたり、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が実行されたりしたとしても、これらを契機として、「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」に何らかの変化が生じることはないようにしてもよい。

【７６９４】

また、第１Ｃボタン受付状態内で、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）が実行されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として上記第３Ｃ刀変化に何らかの変化を生じさせないようにすることが望ましい。第１Ｃボタン受付状態内で、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）が実行されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として上記第１Ｃ刀変化に何らかの変化を生じさせないようにすることが望ましい。

【７６９５】

この点、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態は、上述の「第５Ｃボタン受付状態」と同様、「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）」として発生するものではあるも

ｎの、「第３Ｃボタン受付状態」や「第４Ｃボタン受付状態」の場合とは異なり、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）を行うだけでは、上記操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた「第１Ｃボタン変化」を複数回生じさせることができないものとされている（当該別例にかかる第１Ｃボタン受付状態ではオート連打機能が有効化されない）。

【７６９６】

すなわちこの場合、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０を特別操作状態（操作ボタン４１０が押し込まれた位置へと変位した状態）に維持する操作（押下操作した状態を維持する操作）が行われたときには、該操作をどれだけ維持したとしても、該操作受付は１回しかなされないから、該操作受付に応じた受付後変化（第１Ｃボタン変化）が１回分だけ実行されるに留まることとなる。

【７６９７】

ここで、第１Ｃボタン変化のうちの表示変化（１回分）については、第５Ｃボタン変化とは異なり、操作受付がなされてから予め定められた時間だけ実行されるものとなっており、すなわち第１Ｃボタン受付状態の終了条件が満たされるまでの残り時間との関係では、該第１Ｃボタン受付状態が終了するよりも前（終了条件が満たされるよりも前に）にその実行が終了される場合があるものとなっている。

【７６９８】

例えば、図２８８に示した例では、タイミングｔＣａ１Ｂａから操作ボタン４１０に対する操作状態が維持されているが、当該第１Ｃボタン受付状態内の該操作ボタン４１０に対する操作状態が維持されているなかで、上記第１Ｃボタン変化の１つとしての第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が非表示にされる場合を想定したものとなっている。

【７６９９】

この点、図２８８に示した例では、こうして第１Ｃ特別表示Ｘ１が非表示にされた以降のタイミングｔＣａ１Ｂｂにおいて、操作ボタン４１０に対する２回目の操作が行われた場合を想定したものとなっている。当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態において、こうした２回目の操作によって操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」とは異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ２」で表示されるようになっている。ただし、２回目の操作によって操作受付がなされた場合は、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」とは異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ２」で表示される場合と、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」で表示される場合との両方があるようにしてもよい。

【７７００】

そして、図２８８に示した例では、こうして現れた第１Ｃ特別表示Ｘ２が非表示にされるよりも前の「表示状態」にあるなかでのタイミングｔＣａ１Ｂｃにおいて、操作ボタン４１０に対する３回目の操作が行われた場合を想定したものとなっている。当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態において、こうした３回目の操作によって操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、それまで表示状態にあった「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」が非表示にされて、これに代わるかたちで、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」及び上記「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のいずれとも異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ３」で表示されるようになっている。ただし、３回目の操作によって操作受付がなされた場合は、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）

」及び上記「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のいずれとも異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ３」で表示される場合と、２回目の操作時の態様で表示される場合との両方があるようにしてもよい。

【７７０１】

また、例えば、図２８９に示した例では、タイミングｔＣａ３Ｃａから操作ボタン４１０に対する操作状態が維持されているが、当該第１Ｃボタン受付状態内の該操作ボタン４１０に対する操作状態が維持されているなかで、上記第１Ｃボタン変化の１つとしての第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）及び上記第２Ｃ特別表示ＢＣ２（タイミングｔＣａ３－１～タイミングｔＣａ３－２の期間内で上記刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときに現れる「第１Ｃ受付後表示Ｃ１」と同じ画像表示（雷が落ちている画像表示））のうち、第１Ｃ特別表示Ｘ１のみが非表示にされる場合を想定したものとなっている。

【７７０２】

すなわち、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態では、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、上記第１Ｃボタン変化の１つとして「第１Ｃ特別表示ＢＣ１（第１Ｃ特別表示Ｘ１～Ｘ３など）」と「第２Ｃ特別表示ＢＣ２」とがそれぞれ表示開始されるが、第１Ｃ特別表示ＢＣ１は、第２Ｃ特別表示ＢＣ２が表示されているなかで非表示の状態にされうるものとなっている。

【７７０３】

この点、図２８９に示した例では、こうして第１Ｃ特別表示Ｘ１が非表示にされたが第２Ｃ特別表示ＢＣ２は表示状態を継続しているなかでの当該第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３Ｃｂにおいて、操作ボタン４１０に対する２回目の操作が行われた場合を想定したものとなっている。当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態において、こうした２回目の操作によって操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」とは異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ２」で表示されるようになっている。ただしこの際、該操作受付がなされた時点で表示状態にあった上記第２Ｃ特別表示ＢＣ２については、該操作受付を契機として何らの変化も生じず、その表示状態を継続するだけである。なお、２回目の操作によって操作受付がなされた場合は、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」とは異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ２」で表示される場合と、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」で表示される場合との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【７７０４】

そして、図２８９に示した例では、こうして現れた第１Ｃ特別表示Ｘ２と、表示状態を継続していた第２Ｃ特別表示ＢＣ２とがいずれも非表示にされておらず「表示状態」にあるなかでのタイミングｔＣａ３Ｃｃにおいて、操作ボタン４１０に対する３回目の操作が行われた場合を想定したものとなっている。当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態において、こうした３回目の操作によって操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、それまで表示状態にあった「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」と「第２Ｃ特別表示ＢＣ２」とのうちの「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のみが非表示にされて、これに代わるかたちで、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」及び上記「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のいずれとも異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ３」で表示されるようになっている。そしてこの際も、上記第２Ｃ特別表示ＢＣ２については、該操作受付を契機として何らの変化も生じず、その表示状態を継続するだけである。なお、３回目の操作によって操作受付がなされた場合は、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対

応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」及び上記「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のいずれとも異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ３」で表示される場合と、２回目の操作時の態様で表示される場合との両方があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【７７０５】

なお、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態においては、上記操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態を終了させたりボタン操作関連表示ＢＳＨを非表示にさせることがなく、この点は、第２Ｃ刀受付状態や第５Ｃボタン受付状態と同様の構成であると言える。

【７７０６】

また、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態を実現する手法としては、図２８８及び図２８９に示した構成に限られず、これに代えて、例えば、図２９０に示される構成を採用することも可能である。なお、図２９０に示される例においても、第１Ｃボタン受付状態内で遊技者による操作が何ら行われないときの演出進展にかかる内容や、刀装飾体５００１に対する操作のみが行われたときの演出進展にかかる内容については、基本的には、「１回だけ許容されるタイプ」として実現した上述の例の場合と同様である。また、その変形例や別例についても同様である。したがって、当該別例にかかる構成については、「１回だけ許容されるタイプ」として上述した例の場合とは異なる部分を中心として以下に説明することとし、同じ構成についてはこれを割愛することとする（特に言及しないこととする）。

【７７０７】

すなわち、図２９０に示される例においても、当該別例（複数回許容されるタイプ）にかかる第１Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する１回目の操作が行われた場合は、図２８８及び図２８９に示した例の場合と同様、該操作受付を契機として、当該第１Ｃボタン受付状態が終了されたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたりすることがない（第１Ｃボタン受付状態が継続し、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示継続される）。

【７７０８】

ただし、図２９０に示される例では、第１Ｃボタン受付状態内のいずれのタイミングで操作ボタン４１０に対する操作受付がどれだけなされたとしても、該操作受付に応じた受付後変化（第１Ｃボタン変化）を生じさせるだけであり、第１Ｃボタン受付状態内で操作受付がなされなかったときに現れる演出性に影響を及ぼすことがないようにされている。

【７７０９】

より具体的には、図２９０に示される例では、図２８８に示した上記タイミングｔＣａ１Ｂａにおいて操作ボタン４１０に対する１回目の操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、第１Ｃ特別表示Ｘ１（上述の第１Ｃ特別表示ＢＣ１と同様であり、例えば、敵キャラクタに対する魔法攻撃）が表示される。ただしこの例では、このような操作受付によって、「第１Ｃボタン受付状態内で操作受付がなされなかったときに現れる演出性」に影響が及ぼされることがないから、こうして上記タイミングｔＣａ１Ｂａにおいて操作受付がなされた場合であっても、この後、タイミングｔＣａ２が到来したときにはこれを契機として第３Ｃ刀受付状態が発生するし、タイミングｔＣａ３－１が到来したときにはこれを契機として第１Ｃ刀受付状態が発生することとなる。また、タイミングｔＣａ３－１が到来したときには、特定動画ＴＤにかかる表示が開始され、ボタン操作関連表示ＢＳＨについてもこれを非表示にし、特定発光部で現れていた発光態様（第１Ｃ発光）についてもこれを終了させてこれとは異なる発光態様（第１Ｂ発光）に変更する発光演出が行われることとなる。

【７７１０】

なお、図２９０に示される例では、第１Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対す

る操作が行われたときの構成（第１Ｃボタン変化や、オート連打の有無など）については、その別例も含めて、図２８８や図２８９に示した例の場合と同様であり、上述した通りである。したがって、該構成については、図２８８や図２８９に示した例の場合とは異なる部分を中心として以下に説明することとし、同じ構成についてはこれを割愛することとする（特に言及しないこととする）。

【７７１１】

また、図２９０に示される例でも、図２８８に示した上記タイミングｔＣａ１Ｂｂにおいて操作ボタン４１０に対する２回目の操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」とは異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ２」で表示されることとなる。

【７７１２】

ただしこの際、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生している状況下にあるものの、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、該操作ボタン４１０に対する操作受付を契機として終了されることがない。またこの際、特定動画ＴＤにかかる表示が行われており、特定発光部では第１Ｂ発光が現れているが、これらの演出態様についても、該操作受付を契機として終了されたり変更されたりすることがない。なお、こうして操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた後（若しくは、操作受付がなされているときに）、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたときには、これを契機として、図２０３に示される態様（タイミングｔＣａ３Ａａ）での演出進展が現れることとなることは言うまでもない。

【７７１３】

そして、図２９０に示した例では、図２８８に示した上記タイミングｔＣａ１Ｂｃ（第１Ｃ特別表示Ｘ２が非表示にされるよりも前の「表示状態」にあるなかでのタイミングｔＣａ１Ｂｃ）において操作ボタン４１０に対する３回目の操作受付がなされると、上記「第１Ｃボタン変化（第１Ｃボタン受付状態に対応する受付後変化）」の１つとして、それまで表示状態にあった「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」が非表示にされて、これに代わるかたちで、上記第１Ｃ特別表示ＢＣ１が、上記「第１Ｃ特別表示Ｘ１（１回目の操作時の態様）」及び上記「第１Ｃ特別表示Ｘ２（２回目の操作時の態様）」のいずれとも異なる態様である「第１Ｃ特別表示Ｘ３」で表示されることとなる。なお、タイミングｔＣａ１Ｂｃにおいては、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態がいずれも発生しており、特定動画ＴＤにかかる表示が行われており、特定発光部では第１Ｂ発光が現れている状況下にあるが、これらの態様が、該操作受付を契機として終了されたり変更されたりすることがないことは言うまでもない。

【７７１４】

このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態では、いずれのタイミングで操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付がなされた回数（若しくは、演出判定の結果）などに応じて同じ演出態様が現れるだけである。例えば、タイミングｔＣａ３－１～３－２の期間内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたとしても、上記第１Ｃボタン変化の１つとして、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（第１Ｃ特別表示Ｘ１～Ｘ３）が表示されるだけであり、第２Ｃ特別表示ＢＣ２が表示されることはない。

【７７１５】

なお、図２９０に示した例では、第１Ｃボタン受付状態内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときに、これを契機として、特定発光部で現れている発光態様を変化させることがないようにしたが、当該構成（発光態様を変化させない構成）については、図２８８や図２８９に示した例においても適用するようにしてもよい。

【７７１６】

また、図２９０に示した例では、第１Ｃボタン受付状態内のうち、操作ボタン４１０を摸した摸画像表示が表示されていない状況下にあるときに、該操作ボタン４１０に対する

操作受付がなされたときには、これを契機として、ボタン操作関連表示ＢＳＨを予め定められた時間だけ表示させるようにしてもよい。

【７７１７】

また、図２８８及び図２８９や、図２９０では、第１Ｃボタン受付状態を「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容されるタイプの受付許容状態（ボタン複種別許容状態）であり、且つ当該状態において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化として「第１Ｃボタン変化」を生じさせる種別」として用意する場合の実施例を示したが、当該第１Ｃボタン受付状態内で複数回の操作受付が許容される操作手段については、「操作ボタン４１０」ではなく、これに代えて、「操作ボタン４１０」及び「刀装飾体５００１」のいずれとも異なる第３操作手段（例えば、図１４４に示される柄ボタン５０１４であってもよいし、レバー操作部などの全く別の操作部をさらに用意するようにしてもよい）を用いることによって実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、図２８８（ｃ），（ｉ），（ｏ）に示される演出内容については、「操作ボタン４１０」ではなく、「第３操作手段」に関連した演出内容として実現されることとなる。そしてこの場合、第１Ｃボタン受付状態で複数回操作が許容される操作手段（第３操作手段）は、第３Ｃボタン受付状態や、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態で複数回操作が許容される操作手段（操作ボタン４１０）とはその種別が異なることとなることは言うまでもない。

【７７１８】

また、図２８８及び図２８９や、図２９０に示される例において、「第１Ｃボタン受付状態内で複数回の操作受付が許容される操作手段」を、上記「操作ボタン４１０」に代えて、「操作ボタン４１０」及び「刀装飾体５００１」のいずれとも異なる第３操作手段として実現するようにした場合は、図２８８及び図２８９を参照しつつ上述した「第３操作手段に関する構成」、または図２９０を参照しつつ上述した「第３操作手段に関する構成」を、「図１９６～図２５９に示した例にかかる第１Ｃボタン受付状態」にかかる構成に対して追加させるかたちで適用するようにしてもよい。

【７７１９】

すなわちこの場合、「図１９６～図２５９に示した例にかかる第１Ｃボタン受付状態」においては、上記「操作ボタン４１０」に対する操作受付が１回許容されることはもとより、上記「第３操作手段」に対する操作受付も複数回許容されることとなる。なお、「刀装飾体５００１」については、当該第１Ｃボタン受付状態内における「第１Ｃ刀受付状態」や、「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃ刀受付状態」の発生状況によって、操作受付が許容されない状態にある場合や、操作受付が１回しか許容されない状態にある場合や、操作受付が複数回許容される状態にある場合などがあることとなることは言うまでもない。

【７７２０】

そしてこの場合、第１Ｃボタン受付状態内で上記「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされたときには、第１Ｃ特別表示ＢＣ１（敵キャラクタに対する魔法攻撃）や第２Ｃ特別表示ＢＣ２（雷が落ちている画像表示）が表示されるのに対し（図２０５や図２０６などを参照）、第１Ｃボタン受付状態内で上記「第３操作手段」に対する操作受付がなされたときには、第１Ｃ特別表示ＢＣ１及び第２Ｃ特別表示ＢＣ２のいずれとも異なる第１Ｃ特別表示Ｘ（第１Ｃ特別表示Ｘ１～Ｘ３）が表示されることとなる（図２８８～図２９０などを参照）。ただし、図２８８及び図２８９に示した例を適用する場合は、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で上記「第３操作手段」に対する操作受付がなされると、上記第１Ｃ特別表示Ｘ（第１Ｃ特別表示Ｘ１～Ｘ３）が表示されることに加えて、当該期間内で上記「操作ボタン４１０」に対する操作受付がなされたときにも現れる上記第２Ｃ特別表示ＢＣ２も表示することとなる。

【７７２１】

またこの場合、第１Ｃボタン受付状態の発生に際しては、「操作ボタン４１０」を摸した摸画像表示であるボタン操作関連表示ＢＳＨと、「第３操作手段」を摸した摸画像表示とがそれぞれ表示されることとなり、タイミングｔＣａ３－１が到来すると、「ボタン操

作関連表示ＢＳＨ」と「第３操作手段を摸した摸画像表示」とがそれぞれ非表示の状態にされ、タイミングｔＣａ３－２が到来すると、「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」と「第３操作手段を摸した摸画像表示」とが再び表示されることとなる。なおこの場合、第１Ｃボタン受付状態内で「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示される条件と、「第３操作手段を摸した摸画像表示」が表示される条件とは同じとして設定されるとともに、で「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が非表示にされる条件と、「第３操作手段を摸した摸画像表示」が非表示にされる条件とは同じとして設定されることとなる。この場合、「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」及び「第３操作手段を摸した摸画像表示」が表示されていないなかで「第３操作手段」に対する操作受付があったときには、これを契機として、第１Ｃボタン受付状態が継続されているなかで「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」及び「第３操作手段を摸した摸画像表示」をいずれも表示させるようにすることが望ましい。

【７７２２】

ただし、「第３操作手段を摸した摸画像表示」の表示条件や、非表示条件については、「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」の場合（図１９６～図２５９）とは異なる条件として設定するようにしてもよい。例えば、「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」及び「第３操作手段を摸した摸画像表示」が表示されていないなかで「第３操作手段」に対する操作受付があったときには、これを契機として、第１Ｃボタン受付状態が継続されているなかで「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」及び「第３操作手段を摸した摸画像表示」のうち「第３操作手段を摸した摸画像表示」のみを表示させるようにしてもよい。

【７７２３】

また、第１Ｃボタン受付状態の発生に際しては、「操作ボタン４１０」を摸した摸画像表示であるボタン操作関連表示ＢＳＨは表示されるが、「第３操作手段を摸した摸画像表示」は表示されないようにしてもよい。ただしこの場合、「第３操作手段を摸した摸画像表示」が表示されていないなかで「第３操作手段」に対する操作受付があったときには、これを契機として、第１Ｃボタン受付状態が継続されているなかで「第３操作手段を摸した摸画像表示」を表示させるようにしてもよい。なおこの際、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されている状況下にあったときは、該第３操作手段に対する操作受付を契機として、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで、「第３操作手段を摸した摸画像表示」がさらに表示されることとなるのに対し、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていない状況下にあったときは、該第３操作手段に対する操作受付を契機として、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていないなかで、「第３操作手段を摸した摸画像表示」が表示されることとなる。

【７７２４】

また、第１Ｃボタン受付状態内で上記「第３操作手段」に対する操作受付がなされたことに応じた上記第１Ｃ特別表示Ｘ（第１Ｃ特別表示Ｘ１～Ｘ３）については、これが表示されているなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、何らかの変化が生じたり、終了したりすることがないようにすることが望ましい。またこれと同様、第１Ｃボタン受付状態内で、上記第１Ｃ刀変化や、上記第２Ｃ刀変化や、上記第３Ｃ刀変化が実行されているなかで、「第３操作手段」に対する操作受付がなされたとしても、これを契機として、何らかの変化が生じたり、終了したりすることがないようにすることが望ましい。ただし、上記第１Ｃ刀変化（または、上記第１Ｃ刀変化ではなく上記第３Ｃ刀変化）については、これが実行されているなかで、「第３操作手段」に対する操作受付がなされたときに、これを契機として、終了することはないものの、その実行態様に何らかの変化（演出変化）を生じさせるようにしてもよい。

【７７２５】

上述した各演出例によれば、特定動画ＴＤが表示されたときから特定時間や所定時間が経過すると、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生する場合（図１９６などを参照）があるが、上記特定時間や上記所定時間が経過した場合であっても、第１Ｃ刀受付状態または第３Ｃ刀受付状態が発生しない場合（図１９７～図２０２や、図２５４～図２５８や、図２６０～図２８７などを参照）もあることは言うまでもない。

【７７２６】
　また、上述した各演出例によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされるときに、第１Ｃ刀受付状態が発生する場合（図１９６などを参照）があるが、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる場合であっても、第１Ｃ刀受付状態が発生しない場合（図１９７～図２０２や、図２５４～図２５８や、図２６０～図２８７などを参照）もあることは言うまでもない。
【７７２７】
　また、上述した各演出例によれば、第２Ｃ刀受付状態は、操作ボタン４１０に対する操作受付の許容状況とは何ら関連付けられないかたちで予め設定された発生条件が満たされたときにこれを契機として発生可能なものであるが、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態は、操作ボタン４１０に対する操作受付の許容状況と関連付けされるかたちで予め設定された発生条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とされるものとなっていることが明らかである。例えば、上述した各演出例において、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態は、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている状態内においてのみ、それらの発生条件が満たされうるようになっている。より具体的には、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている状態として、第１Ｃボタン受付状態が発生しているときにのみ、それらの発生条件が満たされうるようになっており、第１Ｃボタン受付状態が発生していない状況下にあるときには、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されている状況下にあるか否かにかかわらず、それらの発生条件は満たされ得ないように設定されていることが明らかである。
【７７２８】
　また、上述した各演出例によれば、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第１配色（ＢＭＧ１）と、これとは異なる配色（第２配色（ＢＭＧ２））を含む複数配色のいずれかで表示可能とされている（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態など）。ただし、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第１配色（ＢＭＧ１）と、これとは異なる配色（第２配色（ＢＭＧ２））を含む複数配色のいずれか１つとして表示されるのに対し、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態では、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、第１配色（ＢＭＧ１）とは異なる配色で表示されることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）としてのみ表示可能とされていることは明らかである。なお、「第１配色（ＢＭＧ１）とは異なる配色」については、「図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態」の場合と、「図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態」の場合と、「図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態」の場合とで、同じ配色であってもよいし、異なる配色であってもよい。
【７７２９】
　なお、上述した各演出例にかかる構成については、以下のように変更するようにしてもよい。
【７７３０】
　また、第１Ｃボタン受付状態については、タイミングｔＣａ４が到来したときに終了することとしたが、タイミングｔＣａ４については、タイミングｔＣａ１からの経過時間によって到来するものであってもよいし、例えば、単位時間毎の演出判定で特別の結果が得られたことに基づいて到来するものなど、他の手法によって到来（実現）されるものであってもよい。この別例にかかる構成については、該第１Ｃボタン受付状態とは異なる受付状態、例えば、上述した第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態などに対しても同様に適用するようにしてもよい。
【７７３１】

また、上述した各演出例では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていない状況下にある場合か、または該刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合には、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた条件（予め定められた時間が経過することや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされること）が成立すると、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」が発生する可能性があるようにした。ただし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された時点で、刀操作関連表示ＫＳＨが摸画像表示ＫＭＧ１で表示されている状況下にある場合には、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから予め定められた条件（予め定められた時間が経過することや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされること）が成立しても、「第３Ｃ刀受付状態」や「第１Ｃ刀受付状態」が発生することがないようにしてもよい。

【７７３２】

また、上述した各演出例において、第１Ｃ刀変化としては、例えば、背景変化を生じさせる演出や、特定の演出画像を出現させる演出として実現することが可能である。また、第２Ｃ刀変化としては、例えば、可動体を動作させる演出として実現することが可能である。また、第３Ｃ刀変化としては、例えば、特定の演出音を出力させる演出として実現することが可能である。

【７７３３】

また、上述した例にかかるパチンコ機１において、上記「第３Ｃ刀受付状態」については必ずしも用意しなくてもよい。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態が発生すると、該第１Ｃボタン受付状態内では、「第１Ｃ刀受付状態」が発生している状況や、「第２Ｃ刀受付状態」が発生している状況などがあり得ることとなる。

【７７３４】

また、上述した例にかかるパチンコ機１において、第１Ｃボタン受付状態では、その発生に際して、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるようにしたが、該第１Ｃボタン受付状態内では、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されないようにしてもよい。この別例にかかる構成については、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態などに対して適用するようにしてもよい。

【７７３５】

ただし、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態の発生に際して、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されないようにするときには、第１Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、及び第５Ｃボタン受付状態では、その発生に際して、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるようにすることが望ましい。

【７７３６】

また、上述した例にかかるパチンコ機１において、上記操作ボタン４１０に対する操作に関しても、上記刀装飾体５００１の場合と同様、そのタッチ情報を取得するセンサが設けられるようにしてもよい。ただし、この場合であっても、各受付状態内において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたか否かの判断手法については、上述した構成のままで実現することが可能である。

【７７３７】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」については、いずれも同じ変動パターン内で発生可能とされるようにしてもよい。この場合、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」と、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」との全てが１つの変動パターン内で生じることとなる。若しくは、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」と、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」とのうち、適宜のいくつかの受付許容状態が同じ変動パターン内で発生可能とされるようにしてもよい。

【７７３８】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」については、必ずしも、図柄変動

の実行期間内で発生したり終了したりするものでなくてもよいし、複数の図柄変動に跨るかたちで発生するものであってもよい。

【７７３９】

また、上述した各演出例やそれらの変形例にかかる受付状態で操作受付がなされたことに応じた「受付後変化（受付後表示）」についても、必ずしも大当たりが得られる期待度を示唆するものでなくてもよい。例えば、大当り遊技の実行期間内で確率変動機能が有効化されるか否かについての受付状態として発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよいし、遊技に関する期待度示唆とは何ら関係のない単なるミニゲーム内の受付状態として発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよい。若しくは、各種のインターバル期間などにおいて予め定められた条件が成立したことに基づいて発生してその受付後変化として実行されるようにしてもよい。したがって、上述した各演出例やそれらの変形例にかかる受付状態は、必ずしも図柄変動が実行されている期間内で発生するものでなくてもよい。また、このような期待度を示唆しない受付後変化として実行される場合であっても、該受付後変化が実行されるときの態様として複数を用意し、それら複数の態様のいずれかで表示されるようにしてもよい。

【７７４０】

また、上述した各演出例にあって、操作ボタン４１０に対して操作機会を付与するときには、表示によって操作を促す操作関連表示と、音によって操作を促す操作関連出力音と、光によって操作を促す操作促進発光とのいずれもが実行されないことがなく、それらの少なくとも１つは必ず実行されるようにしてもよい。これに対し、刀装飾体５００１に対して操作機会を付与するときには、表示によって操作を促す操作関連表示と、音によって操作を促す操作関連出力音と、光によって操作を促す操作促進発光とのいずれもが実行されない場合が少なくともあるようにしてもよい（必ず、いずれも実行されないようにしてもよい）。

【７７４１】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」に関して、それらの発生条件や、終了条件については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、操作ボタン４１０や刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、操作ボタン４１０や刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、操作ボタン４１０や刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、それらの条件については特に限られない。

【７７４２】

また、パチンコ機１にあって、刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容される受付状態が発生しているときは、オート連打機能（長押し機能）が必ず有効化されている状況下にあるのに対し（第２Ｃ刀受付状態）、操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付が許容される受付状態が発生しているときは、オート連打機能（長押し機能）が有効化されている状況下にある場合（第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態）と、該状況下にない場合（第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。

【７７４３】

また、上述した各演出例にあって、オート連打機能が有効化される「第２Ｃ刀受付状態」、「第３Ｃボタン受付状態」、及び「第４Ｃボタン受付状態」のうち「第４Ｃボタン受付状態」に限っては、操作ボタン４１０が操作状態に維持される期間だけ、受付後変化の１つとしての音出力が出力維持されるようにしてもよい。

【７７４４】

また、上述した各演出例にあっては、操作対象を操作状態に維持したときにオート連打機能によって「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」とされる場合（第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃボタン受付状態）があるが、当該構成については、操作対象が操作状態にされていることを契機として、新たな受付後変化が予め定められた時間間隔で生じるもの

であればよく、必ずしも常に同じ時間間隔で受付後変化が生じないものであってもよい。例えば、操作手段を操作状態にして１回目の受付後変化が実行されてから２回目の受付後変化（オート連打機能）が実行されるまでの時間は０．５秒として設定されるが、それ以降は、受付後変化（オート連打機能）が０．２秒間隔で実行されるようにする場合など、「予め定められた時間」が複数含まれるかたちで、上述の「新たな受付後変化が現れるまでの間隔が一定」にかかる構成を実現するようにしてもよい。ただし、「第２Ｃ刀受付状態」及び「第３Ｃボタン受付状態」のうち、「第２Ｃ刀受付状態」に限っては、常に同じ時間間隔でのみ受付後変化が生じるようにしてもよい。

【７７４５】

また、上述した各演出例にあって、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」は、図柄変動が開始されてからの時間経過によって満たされるものでなくてもよい。予め定められている条件であればよい。

【７７４６】

また、上述した各演出例にかかる各構成は、特に断り書きがない限り、適正に遊技が行われているときの構成であり、すなわち不正行為に基づくエラー処理などが実行されていないときの構成に相当するものである。

【７７４７】

また、上述した各演出例にかかる各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持させる操作」とは、例えば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作位置（例えば、特定量押し込んだ位置や、特定量引っ張った位置や、特定量変位させた位置や、特定量回動させた位置など）に留めるように接触状態でこれを維持させることを意味している。

【７７４８】

また、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」のうち、「第４Ｃボタン受付状態」では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが摸画像表示として表示され且つ該摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示可能とされるが、「第１Ｃボタン受付状態」～「第３Ｃボタン受付状態」、及び「第５Ｃボタン受付状態」では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが摸画像表示として表示され且つ摸画像表示の周期的変化が「所定時間」単位で現れるように表示可能とされず「所定時間よりも長い時間」単位で現れるように表示されるようにしてもよい。

【７７４９】

また、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが「操作ボタン４１０を摸した摸画像表示」として表示されるが、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」では、刀操作関連表示ＫＳＨが表示される場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが「刀装飾体５００１を摸した摸画像表示」として表示されることがないようにしてもよい。

【７７５０】

また、これとは逆に、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」では、刀操作関連表示ＫＳＨが表示される場合、該刀操作関連表示ＫＳＨが「刀装飾体５００１を摸した摸画像表示」として表示されるのに対し、「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」では、ボタン操作関連表示ＢＳＨが「操作ボタン４１０を摸した摸画像表示」として表示されることがないようにしてもよい。

【７７５１】

ちなみに、摸画像表示の周期的変化は、配色や、発光などとは異なり、時間の経過によって生じる現象であるから、その長短を見分けるためにはそもそも比較的長い時間を要するものであるし、さらに言えば、現在現れている摸画像表示の周期的変化が長短のいずれであるのかを確実に見分けることは難しいものであると言える（長サイクルと、短サイクルとの両方が表示されるわけではないため）。ただしその一方で、それらの見分けを行うことができれば、遊技者は、新たな情報源としての価値を享受することができるようにな

るから、こうした見分けの困難性と、情報源としての価値とを通じて、新たな演出性を提供することが可能とされることとなる。

【７７５２】

また上述の通り、第３Ｃボタン受付状態や、第４Ｃボタン受付状態については、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付許容状態が早期終了されうる種別の受付許容状態」として用意されるようにしてもよい。ただし、第３Ｃボタン受付状態や、第４Ｃボタン受付状態では、例えば、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られていないときには、どれだけ操作受付がなされたとしても（最終の演出態様が現れず）当該受付許容状態が早期終了されないようにし、大当り判定や演出判定などの結果として所定の判定結果が得られているときに限り、操作受付がなされたことを契機として当該受付許容状態が早期終了されるようにしてもよい。このような構成であっても、「操作受付がなされたことに基づいて（最終の演出態様が現れて）当該受付状態が早期終了されうる種別の受付状態」として実現されていると言える。ただし、第３Ｃボタン受付状態や、第４Ｃボタン受付状態についても、「操作受付がなされたことに基づいて当該受付状態が早期終了されない種別の受付許容状態」として設けるようにしてもよい。

【７７５３】

また、第４Ｃボタン受付状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第４Ｃボタン受付状態内で受付後変化を複数回発生させることのできる回数は、第３Ｃボタン受付状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第３Ｃボタン受付状態内で受付後変化を複数回発生させることのできる回数よりも少なくするようにしてもよい。

【７７５４】

また、第３Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに当該第３Ｃボタン受付状態で受付後変化を複数回発生させるときの間隔は、第２Ｃ刀受付状態で刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときに当該第２Ｃ刀受付状態で受付後変化を複数回発生させるときの間隔よりも短くされる。ただし、第２Ｃ刀受付状態については、刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときに「第３Ｃボタン受付状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに該第３Ｃボタン受付状態内で受付後変化（第３Ｃボタン変化）を発生させることができる回数」よりも多い回数だけ受付後変化（第２Ｃ刀変化）を発生させることを可能とする時間にわたって継続しうるようにしてもよい。

【７７５５】

また、第２Ｃ刀受付状態では、第１Ｃボタン受付状態内のいずれのタイミングで、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされたとしても、該操作受付に応じた第２Ｃ刀変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。また、さらに言えば、第２Ｃ刀受付状態では、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかで操作受付がなされたときと、該第１Ｃボタン受付状態が発生していないなかで操作受付がなされたときとで、該操作受付に応じた第２Ｃ刀変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【７７５６】

また、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態が発生している状況下（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）においては、刀装飾体５００１を特定操作状態にする操作を行うと（第１Ｃ刀操作検出情報と、第２Ｃ刀操作検出情報との両方が取得される操作を行うと）、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）と、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じるが、刀装飾体５００１に対して接触操作を行うだけに留めた場合（第１Ｃ刀操作検出情報と、第２Ｃ刀操作検出情報とのうち、第１Ｃ刀操作検出情報のみが取得される操作を行った場合）は、第２Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、第１Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、第３Ｃ刀受付状態に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなることは上述した通りである。

【７７５７】

また、第２Ｃ刀受付状態については、刀装飾体５００１が操作状態に維持されたときに「第３Ｃボタン受付状態で操作ボタン４１０が操作状態に維持されたときに該第３Ｃボタン受付状態内で受付後変化（第３Ｃボタン変化）を発生させることができる回数」よりも多い回数だけ受付後変化（第２Ｃ刀変化）を発生させることを可能とする時間にわたって継続する場合と、該時間よりも短い時間が経過した時点で状態終了される場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態が発生したときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７７５８】

また、操作手段が操作状態に維持されており且つ操作手段に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで操作手段が操作状態から非操作状態になったときには、これに応じた非操作後表示が表示されうるようにした（第４Ｃボタン受付状態）。この点、上述した演出例では、操作ボタン４１０が操作状態に維持されており且つ操作ボタン４１０に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該操作ボタン４１０が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機とした非操作後表示が表示される場合（第４Ｃボタン受付状態）と該非操作後表示が表示されない場合（第３Ｃボタン受付状態）との両方があるのに対し、刀装飾体５００１が操作状態に維持されており且つ刀装飾体５００１に対する操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される状況にあるなかで該刀装飾体５００１が操作状態から非操作状態になったときには、これを契機とした非操作後表示が表示されることがないようにした（第２Ｃ刀受付状態）。このような構成によれば、操作ボタン４１０に対してオート連打機能が働くときと、刀装飾体５００１に対してオート連打機能が働くときとで異なる演出性を提供することができることはもとより、操作ボタン４１０に対してオート連打機能が働くときの緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【７７５９】

また、第２Ｃ刀受付状態は、予め定められた発生条件が満たされたときに発生し、予め定められた終了条件が満たされたときに終了するが、それらの条件については、例えば、大当り判定の結果などに基づいて予め満たされるものであってもよいし、若しくは変動パターンの種別に応じて予め満たされていたり、時間経過に基づいて満たされたり、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されるときの演出判定や、刀装飾体５００１に対する操作受付に基づく演出判定の結果、刀装飾体５００１とは異なる操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよく、その条件内容については特に限られない。

【７７６０】

また、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作が許容されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるが、第２Ｃ刀受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作が許容されている状況下にあるときと、該状況下にないときとのいずれにおいても、その発生条件が満たされるようにすることが、上述した「操作に関しての複雑な演出性」を高める上でより望ましい。

【７７６１】

また、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作が許容されている状況下にあるときに限り、その終了条件が満たされるが、第２Ｃ刀受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作が許容されている状況下にあるときと、該状況下にないときとのいずれにおいても、その終了条件が満たされるようにすることが、上述した「操作に関しての複雑な演出性」を高める上でより望ましい。

【７７６２】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示される場合があることは上述した通りである。また、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されたにもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作受付（特

定操作の受付け）が一度も許容されないままで、該「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が非表示の状態にされる場合（刀装飾体５００１に関する操作関連表示が表示されているなかで、刀装飾体５００１に対する操作受付（特定操作の受付け）が許容される条件が満たされない場合）があることも上述した通りである。このような構成によれば、「刀装飾体５００１に関する操作関連表示」が表示されたときの緊張感を好適に維持することが期待されうる。

【７７６３】

また、上述した各演出例では、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示される場合があるようにしてもよい。この点、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容されていない状態にあるときに「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されたにもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が一度も許容されないままで、該「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が非表示の状態にされる場合（操作ボタン４１０に関する操作関連表示が表示されているなかで、操作ボタン４１０に対する操作受付（所定操作の受付け）が許容される条件が満たされない場合）があるようにしてもよい。このような構成によれば、「操作ボタン４１０に関する操作関連表示」が表示されたときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されうる。

【７７６４】

また、第１Ｃボタン受付状態では、第１Ｃ刀受付状態が発生するタイミングと、特定動画ＴＤにかかる表示や、特定発光部での発光変化や、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングとが同じになるようにしたが、例えば、第１Ｃ刀受付状態が発生するタイミングを、特定動画ＴＤにかかる表示や、特定発光部での発光変化や、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングよりも前にするなど、それらのタイミングを異ならせるようにしてもよい。

【７７６５】

また、第１Ｃボタン受付状態内では、第１Ｃ刀受付状態は発生するが、第３Ｃ刀受付状態は発生しないようにしてもよい。また、これとは逆に、第３Ｃ刀受付状態は発生するが、第１Ｃ刀受付状態は発生しないようにしてもよい。第１Ｃ刀受付状態が発生しない場合であっても、特定動画ＴＤが表示されたり、特定発光部で発光変化が生じたり、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたりするようにしてもよい。

【７７６６】

また、第１Ｃボタン受付状態内では、何らの操作も行われていないなかで、特定動画ＴＤにかかる表示が行われないようにしてもよいし、特定発光部での発光態様に変化が生じないようにしてもよいし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされないようにしてもよい。

【７７６７】

また、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態」では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされなくても、該操作受付がなされたときと同じ受付後変化を生じさせる場合（例えば、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態など）があるが、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される受付状態」では、刀装飾体５００１に対する操作受付がなされないときに該操作受付がなされたときと同じ受付後変化を生じさせることがないようにしてもよい（第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）。このような構成によれば、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される受付状態」が発生したときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７７６８】

またこの場合、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態」では、操作ボタン４１０に対する操作受付がなされなくても、該操作受付がなされたときと同じ受付後変化を生じさせる場合（例えば、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第

４Ｃボタン受付状態など）と、同じ受付後変化を生じさせない場合（例えば、第１Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態」が発生したときの緊張感についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【７７６９】

また、上述した各演出例において、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態」では、当該受付状態が継続しているにもかかわらず、操作ボタン４１０に対する操作を促すボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる場合があり（図１９６（ｉ）などを参照）、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される受付状態」でも、当該受付状態が継続しているにもかかわらず、刀装飾体５００１に対する操作を促す刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされる場合（図１９６（ｈ）などを参照）があるようにした。

【７７７０】

この点、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態」に関しては、第１Ｃボタン受付状態では、当該受付状態が継続しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるが、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態では、当該受付状態が継続しているなかではボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされることがないようにしたから、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされたときの演出性を高めることができるようになる。

【７７７１】

これに対し、「刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される受付状態」に関しては、第２Ｃ刀受付状態では、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされるが、第１Ｃ刀受付状態内や第３Ｃ刀受付状態内では、そもそも、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されることがないようにしてもよい（秘匿）。若しくは、第１Ｃ刀受付状態に限り、そもそも、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されないようにし、第２Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態では、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされうるようにしてもよい。

【７７７２】

また、第２Ｃ刀受付状態では、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされる場合と、当該受付状態が継続しているなかでは刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされず、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで当該受付状態が終了する場合との両方があるようにしてもよい。刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで当該受付状態が終了すると、第２Ｃ刀受付状態は既に終了しているにもかかわらず、刀操作関連表示ＫＳＨは表示状態を維持することとなることは言うまでもない。

【７７７３】

この点、第２Ｃ刀受付状態では、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで当該受付状態が終了した場合であっても、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態を維持しているなかで、当該受付状態が再び発生しうる（発生条件が満たされうる）ようにしてもよい。このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態が終了した場合であっても、刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態を維持している限りは、第２Ｃ刀受付状態が再び発生する期待感が維持されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７７７４】

またさらに、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで第２Ｃ刀受付状態が終了したときは、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態を維持しているなかで、第２Ｃ刀受付状態が再び発生する場合（発生条件が満たされる場合）と、第２Ｃ刀受付状態が再び発生することなく（発生条件が満たされることなく）刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされる場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第２Ｃ刀受付状態が終了し且つ刀操作関連表示ＫＳＨが表示状態を維持しているときの遊技興趣と緊張感とをそれぞれ好適に維持することが期待されるようになる。

【７７７５】

また特に、図２５４～図２５９に示した例の場合は、第２Ｃ刀受付状態だけでなく、第

１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態も、刀装飾体５００１に対する操作を促す刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで発生する場合と、刀装飾体５００１に対する操作を促す刀操作関連表示ＫＳＨが表示されていないなかで発生する場合との両方があるようにしてもよい。そしてこの場合、第１Ｃ刀受付状態～第３Ｃ刀受付状態のいずれも、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされうるようにしてもよい。またこの場合、第１Ｃ刀受付状態～第３Ｃ刀受付状態のいずれも、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされる場合と、当該受付状態が継続しているなかで刀操作関連表示ＫＳＨが非表示にされず、該刀操作関連表示ＫＳＨが表示されているなかで当該受付状態が終了する場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、第１Ｃ刀受付状態～第３Ｃ刀受付状態が発生するときの演出性を好適に向上させることが期待されうるようになる。

【７７７６】

また、上述した各演出例にかかる構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していたとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間（または、所定時間であってもよい）が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１（または、タイミングｔＣａ２であってもよい）が到来するまでの間）に、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）の終了条件が満たされる場合があるようにしてもよい。ただし、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、こうして当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了しているなかで（発生していないなかで）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの上記特定時間が経過したとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい。

【７７７７】

また、上述した各演出例では、「刀装飾体５００１に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるタイミングを跨ぐかたちで当該状態を継続する場合（図１９６～図２１１に示した例）もあるし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで発生条件が満たされて発生する場合（図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例）もあるものであることは上述した通りである。これに対し、「刀装飾体５００１に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の終了条件については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで満たされて、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されているなかで当該状態が終了する場合もあるし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされ且つ操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されなくなった以降で満たされて当該状態が終了する場合もあるようにするようにしてもよい。

【７７７８】

そしてこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）にオート連打機能により刀装飾体５００１に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に「刀装飾体５００１に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）としても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【７７７９】

また、上述した各演出例にかかる構成にあって、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されることなく操作ボタン４１０に対して複数回の操作受付が許容されるとき（例えば、第３Ｃボタン受付状態を、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合など）には、表示演出とは異なる方法で、操作ボタン４１０に対する操作受付が許

容されることを示唆する演出（発光演出など）が実行されるが、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されることなく刀装飾体５００１に対して複数回の操作受付が許容されるとき（第２Ｃ刀受付状態）には、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることを示唆する演出が何ら実行されないようにすることが望ましい。

【７７８０】

また、上述した各演出例にかかる構成にあって、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されることなく操作ボタン４１０に対して１回だけ操作受付が許容されるとき（例えば、第３Ｃボタン受付状態を、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合など）には、表示演出とは異なる方法で、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されることを示唆する演出（発光演出など）が実行されるが、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されることなく刀装飾体５００１に対して１回だけの操作受付が許容されるとき（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）には、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることを示唆する演出が何ら実行されないようにすることが望ましい。ただし、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されることなく刀装飾体５００１に対して１回だけの操作受付が許容されるとき（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）には、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることを示唆する演出が何ら実行されない場合（第３Ｃ刀受付状態）と、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容されることを示唆する演出（発光演出など）が実行される場合（第１Ｃ刀受付状態）との両方があるようにしてもよい。

【７７８１】

そしてこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過するまでの間にオート連打機能により刀装飾体５００１に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に「刀装飾体５００１に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【７７８２】

また、上記第１Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対して操作受付がなされたときには、特定動画ＴＤが表示される区間内で該操作受付がなされたか否かにかかわらず、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして、同じ演出音（所定音）が出力されるようにすることが望ましい。

【７７８３】

また、上記第１Ｃボタン受付状態では、刀装飾体５００１に対して操作受付がなされたときには、特定動画ＴＤが表示される区間内で該操作受付がなされたか否かにかかわらず、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして、同じ演出音（特定音）が出力されるようにすることが望ましい。この受付後変化（特定音）については、例えば、上述した第３Ｃ刀変化として実現することが可能である。ただしこの場合、上記第１Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対して操作受付がなされたときには、該操作受付がいずれのタイミングでなされた場合であっても、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして所定音が出力されるのに対し、刀装飾体５００１に対して操作受付がなされたときには、該操作受付が「第１Ｃボタン受付状態のうちのタイミングｔＣａ２が到来した以降」でなされたものである場合に限り、該操作受付に応じた受付後変化の１つとして特定音が出力されることとなるから、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【７７８４】

また、上述した各演出例にかかる構成では、第１Ｃボタン受付状態のうちタイミングｔＣａ３－１～ｔＣ３－２の区間内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該受付けに応じた第１Ｃボタン変化の１つとして、敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１と、「雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２）」とをそれぞれ出現可能とした。ただし、第１Ｃボタン受付状態のうちタイミングｔＣａ３－１～ｔＣ３－２の区間内で操作ボタン４１０に対する操作受付がなされた場合であっても、該操作受付がなされた時点で第１Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあったときには、該受付けに応じた

第１Ｃボタン変化の１つとして、敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１を出現可能とするが、「雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２）」についてはこれを出現可能としないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、第１Ｃボタン受付状態と第１Ｃ刀受付状態との両方が発生している状況下において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該受付けに応じた第１Ｃボタン変化の１つとして、敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１と、「雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２）」とをそれぞれ出現可能とするが、第１Ｃボタン受付状態と第１Ｃ刀受付状態とのうち第１Ｃボタン受付状態のみが発生している状況下において操作ボタン４１０に対する操作受付がなされたときには、該受付けに応じた第１Ｃボタン変化の１つとして、「雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２）」は出現せず、敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１が出現可能とされることとなる。このような構成によれば、第１Ｃボタン受付状態では、操作ボタン４１０に対して操作受付がなされたときの受付後変化が、該操作ボタン４１０とは異なる操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の許容状況に応じて、追加的に変化したり、一部が割愛されたりするようになるから、複数の操作手段を備える遊技機としての遊技興趣の向上をより好適に図ることが期待されるようになる。

【７７８５】

また、上述した各演出例にかかる構成では、第１Ｃ刀受付状態の発生条件や、特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件については、「ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過し、且つボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされること」として設定することとしたが、これに代えて、「ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したこと」のみとして設定するようにしてもよいし、「第１Ｃボタン受付状態に関連して表示開始されたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされること」のみとして設定するようにしてもよい。なお、第１Ｃ刀受付状態の発生条件や、特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件を、「ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されてから（若しくは、第１Ｃボタン受付状態が発生してから）特定時間が経過したこと」として設定するようにした場合は、この際、ボタン操作関連表示ＢＳＨについては非表示にされるようにしてもよいし、非表示にされないようにしてもよいし、非表示にされる場合と非表示にされない場合との両方があるようにしてもよい。また、第１Ｃ刀受付状態の発生条件や、特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件を、「第１Ｃボタン受付状態に関連して表示開始されたボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされること」として設定した場合は、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件については、上記特定時間が経過したときに満たされるようにしてもよいし、上記特定時間とは異なる時間が経過したときや、時間経過とは異なる条件（演出判定や、ＲＴＣ機能に基づく条件成立や、何らかの操作受付など）の成立によって満たされるようにしてもよいし、それらのいずれか１つが成立することによって満たされるようにしてもよい。

【７７８６】

また、第１Ｃ刀受付状態の発生条件や、特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件については、第１Ｃボタン受付状態が必ずしも発生しているなかで成立するものでなくてもよいし、第１Ｃボタン受付状態とは異なる受付状態（第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでも、演出判定や、ＲＴＣ機能に基づく条件成立や、時間経過、または何らかの操作受付などによって成立する場合があるようにしてもよい。

【７７８７】

また、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態については、第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２５９）が発生している状況下にあるときに限り、それらの発生条件が満たされうるものとして用意するようにすることが望ましい。

【７７８８】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２５９）については、当該状態内で、特定動画ＴＤが表示されない非動画区間と、特定動画ＴＤが表示される動画区間とが現れ

る場合があるものであればよい。この意味では、「非動画区間から動画区間へと移行する演出態様」と、「動画区間から非動画区間へと移行する演出態様」との両方が現れうるものでなくてもよく、例えば、「非動画区間から動画区間へと移行する演出態様」のみが現れうるものとして用意するようにしてもよいし、「動画区間から非動画区間へと移行する演出態様」のみが現れうるものとして用意するようにしてもよい。

【７７８９】

また、上記第１Ｃボタン受付状態（図１９６～図２５９）については、当該状態内で、特定動画ＴＤが表示されないものとして用意するようにしてもよい。

【７７９０】

また、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態」としては、第２Ｃ刀受付状態を含む複数種別の受付状態を用意するようにしてもよい。ただしこの場合、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態」として、いずれの種別の受付状態が発生したとしても、刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作が行われたときにはオート連打機能が必ず有効化されるように遊技可能とすることが望ましい。

【７７９１】

また、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされる条件としては、例えば、「操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態」が終了されることを契機として満たされるものとして用意することが可能である。ただし、当該条件としては、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものとして用意することも可能であるし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【７７９２】

また、上述した各演出例では、「特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件」を、第１Ｃボタン受付状態内でのみ条件成立可能なものとして用意することとしたが、該第１Ｃボタン受付状態が発生していないなかでも条件成立可能なものとして用意するようにしてもよい。例えば、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したときであれば、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、及び第５Ｃボタン受付状態の少なくとも１つで条件成立可能とするようにしてもよいし、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、及び第５Ｃボタン受付状態の少なくとも１つに関連して表示開始されたボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされるときに条件成立可能とするようにしてもよい。またこの際、上記特定時間が経過したときや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示にされるときに、「特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件」が条件成立するか否かの判定を行うこととし、該判定で特定結果が得られたことに基づいて、特定動画ＴＤを表示開始するようにしてもよい。

【７７９３】

また、「特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件」については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したときや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされたときに成立するものとして必ずしも用意しなくてもよく、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものとして用意することも可能であるし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【７７９４】
　また、操作ボタン４１０や、刀装飾体５００１については、押しボタン式や、納刀式の操作対象に限られない。例えば、レバーなどの引くタイプの操作対象として実現した場合、オート連打機能については、「引いた状態を維持するだけで、操作受付が複数回なされ、これによって操作受付に応じた受付後変化が複数回実行される」こととなる。このような操作対象としては、他にも、近接タイプや接触タイプの操作対象（操作状態は、「近接した状態」に相当）や、回転操作や回動操作タイプの操作対象（操作状態は、「回転または回動した状態」に相当）や、引き抜くタイプの操作対象（操作状態は、「引き抜いた状態」に相当）など、様々なタイプの操作対象を用いることが可能であり、各々の場合におけるオート連打機能についても、各々の場合で適した「操作状態」に維持することで働くこととなる。
【７７９５】
　上述の通り、第２Ｃ刀受付状態については、その終了条件が適宜のタイミングで終了されうる（例えば、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされうる）ものとして用意するようにしてもよい。そしてこの場合、第２Ｃ刀受付状態は、第１Ｃボタン受付状態や、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態内で発生している状況下にあったとしても、それらの受付状態内の適宜のタイミングで終了する場合があるほか、それらの受付状態が終了されるタイミングまで継続した後、適宜のタイミングで終了する場合があることは言うまでもない。
【７７９６】
　また、上述した各演出例では、第２Ｃ刀受付状態において刀装飾体５００１を特定操作状態で維持させる操作を行うと、オート連打機能が機能するようにしたが、該オート連打機能については機能しないようにしてもよい。
【７７９７】
　また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態として、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ備えることとしたが、第３Ｃ刀受付状態を備えず、第１Ｃ刀受付状態及び第２Ｃ刀受付状態を備えるようにしてもよいし、第１Ｃ刀受付状態を備えず、第２Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態を備えるようにしてもよい。
【７７９８】
　また、上述した各演出例では、刀操作関連表示ＫＳＨが表示されるための条件（表示条件）や非表示にされるための条件（非表示条件）については、刀装飾体５００１に対する操作の受付けが「複数回または１回だけ」許容される状態の発生条件や終了条件とは関係なく成立するものとして用意するようにしてもよい。若しくは、刀装飾体５００１に対する操作の受付けが「複数回または１回だけ」許容される状態の発生条件や終了条件と関係しているとしても、それらのタイミングは、必ずしも同期するものでなくてもよく、互いに、前後にズレて生じるものであってもよい。
【７７９９】
　また、上述した各演出例にあって、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されるための条件（表示条件）や非表示にされるための条件（非表示条件）については、操作ボタン４１０に対する操作の受付けが「複数回または１回だけ」許容される状態の発生条件や終了条件とは関係なく成立するものとして用意するようにしてもよい。若しくは、操作ボタン４１０に対する操作の受付けが「複数回または１回だけ」許容される状態の発生条件や終了条件と関係しているとしても、それらのタイミングは、必ずしも同期するものでなくてもよく、互いに、前後にズレて生じるものであってもよい。
【７８００】
　また、上述した各演出例にあって、第２Ｃボタン受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されないようにし、操作ボタ

ン４１０に対する操作受付が許容されることが認識し難くされる演出性として実現するようにしてもよい。若しくは、このような秘匿性があり且つ１回だけ受付許容されるボタン受付状態を、上述した第２Ｃボタン受付状態とは別の種別の受付状態（発生条件が異なるとともに、受付後変化が異なる受付状態）としてさらに用意するようにしてもよい。当該別の種別の受付状態をさらに備えることとした場合、当該別の種別の受付状態では、操作受付がなされたときの受付後変化としての態様と、発生条件とが、上述した第２Ｃボタン受付状態の場合とは異なることとなるが、それ以外の構成については、上述した第２Ｃボタン受付状態の場合と同様として構成することが望ましい。

【７８０１】

また、上述した各演出例にあって、第３Ｃボタン受付状態については、操作ボタン４１０に対する操作を促す「ボタン操作関連表示ＢＳＨ」が表示されないようにし、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容されることが認識し難くされる演出性として実現するようにしてもよい。若しくは、このような秘匿性があり且つ複数回受付許容されるボタン受付状態を、上述した第３Ｃボタン受付状態とは別の種別の受付状態（発生条件が異なるとともに、受付後変化が異なる受付状態）としてさらに用意するようにしてもよい。当該別の種別の受付状態をさらに備えることとした場合、当該別の種別の受付状態では、操作受付がなされたときの受付後変化としての態様と、発生条件とが、上述した第３Ｃボタン受付状態の場合とは異なることとなるが、それ以外の構成については、上述した第３Ｃボタン受付状態の場合と同様として構成することが望ましい。

【７８０２】

また、上述した各演出例では、操作ボタン４１０に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１Ｃ刀受付状態の発生条件が満たされた場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１Ｃ刀受付状態の発生に際して）、操作ボタン４１０に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするようにしたが、当該構成については、必ずしも備えなくてもよい。すなわちこの場合、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されている状況下にあるなかで、上記第１Ｃ刀受付状態の発生条件が満たされた場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１Ｃ刀受付状態の発生に際して）、ボタン操作関連表示ＢＳＨを表示状態から非表示にせずその表示状態を継続しているなかで、上記第１Ｃ刀受付状態が発生することとなる。

【７８０３】

また、操作ボタン４１０に関連したボタン操作関連表示ＢＳＨや、刀装飾体５００１に関連した刀操作関連表示ＫＳＨにかかる構成については、必ずしも備えなくてもよい。

【７８０４】

また、ボタン操作関連表示ＢＳＨは、「操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容される所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）」が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容される特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、上記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【７８０５】

また、「刀装飾体５００１に対する操作受付が１回だけ許容される特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、「操作ボタン４１０に対する操作受付が１回だけ許容される所定単種

別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）」が継続しているなかでボタン操作関連表示ＢＳＨが表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【７８０６】

また、上述した各演出例では、第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したり、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされたときに、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示の開始条件が成立したり、それ以外の演出変化が生じるようにした。ただし、操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される受付状態として、第１Ｃボタン受付状態に限られず、該第１Ｃボタン受付状態とは異なる受付状態（第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから所定時間や特定時間が経過したり、該ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされたときにも、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生したり、特定動画ＴＤにかかる表示の開始条件が成立したり、それ以外の演出変化が生じる場合があるようにしてもよい。この際、第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態が発生しなかったり、特定動画ＴＤにかかる表示の開始条件が成立しなかったりする諸条件にかかる構成については、上述した場合（第１Ｃボタン受付状態の発生に関連してボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始された場合）と同じ構成を適用することが可能であることは言うまでもない。

【７８０７】

また、ボタン操作関連表示ＢＳＨについては、「操作ボタン４１０に対する操作受付が複数回許容される所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）」が継続しているなかでは、表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【７８０８】

また、上述した各演出例では、刀装飾体５００１に対する操作受付が許容される状態として、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態をそれぞれ別個に備えることとしたが、「第１Ｃ刀受付状態としての機能のみを有する状態」と、「第２Ｃ刀受付状態としての機能のみを有する状態」と、「第３Ｃ刀受付状態としての機能のみを有する状態」と、「第１Ｃ刀受付状態及び第２Ｃ刀受付状態としての機能を併せ持った状態」と、「第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態としての機能を併せ持った状態」と、「第２Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態としての機能を併せ持った状態」と、「第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態としての機能を併せ持った状態」との７つの種別の全て（若しくは、それらの種別のうちのいくつか）として用意し、それぞれの種別毎に発生条件と終了条件を設定することによっても、上述した各演出例と同様の構成を実現可能である。すなわち、上述した各演出例の実現手法としては、上述した演出内容に限られず、同様の構成を実現可能であれば、第１Ｃ刀受付状態、第２Ｃ刀受付状態、及び第３Ｃ刀受付状態といった３つの種別を備えることにこだわらなくてもよい。

【７８０９】

また、パチンコ機１は、上述した「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態」とは異なる受付状態をさらに備えるようにしてもよい。

【７８１０】

また、このパチンコ機１では、上述した「第１Ｃボタン受付状態」～「第５Ｃボタン受付状態」や、「第１Ｃ刀受付状態」～「第３Ｃ刀受付状態の全てを備えることとしたが、これら受付許容状態の全てを必ずしも備えなくてもよい。むしろ所望する作用効果との兼

ね合いで、これら受付許容状態のうちいくつかの受付許容状態のみを適宜の組み合わせで備えるようにすることが望ましい。下記構成の別に記した「適宜の組み合わせ」で備えるようにすることで優れた作用効果がそれぞれ奏されるようになる。なお、下記各構成では、上述した演出例で示した構成のうち、作用効果が奏されるようにするために備えるべき受付許容状態についての組み合わせを例示しているが、その組み合わせについては例示したものだけに限られず、所望の作用効果が奏されるものであれば、例示していない組み合わせであってもよい。また、所望の作用効果が奏されることに悪影響を及ぼすものでなければ、該所望の作用効果とは関係のない、他の受付許容状態が採用する構成を適宜に備えるようにしてもよい。

【７８１１】

なお、以下の各例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の発生条件が満たされるタイミング（タイミングｔＣａ３－１）」を、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき」として特定付けることがある。ただし上述の通り、該構成については、これに代えて、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されてから特定時間が経過したとき」として特定するようにしてもよい。

【７８１２】

例えば、第１構成Ｃ１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作（特別操作手段を特定操作状態にする操作）の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合（例えば、図２０８（ａ）などに示される演出状況に相当）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合（例えば、図２０８（ｂ）などに示される演出状況に相当）との両方がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのうち、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり（図１９６、図１９８などを参照）、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））が１回だけ生じうるようにした（図２０３（ｌ）などを参照）。

【７８１３】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかでは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下（いわゆる秘匿性の有効期間が発生している状態）にあるときに限り、特定動画（特定動画ＴＤ）に関連した一連の特別演出（第１Ｃ刀受付状態など）が生じるようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の

向上を図ることが期待されるようになる。
【７８１４】
そしてこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合（図２０８（ｂ）、図２２８、図２２９などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の区間や、タイミングｔＣａ３－２からの区間など）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の区間など）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の区間や、タイミングｔＣａ３－２からの区間など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態（例えば、刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じうるが（図２０１（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態（例えば、刀装飾体５００１を「図１２４（Ａ）に示される納刀状態」へと変位させた状態）にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【７８１５】
このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合には、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段を特定操作状態にするだけで第２特別変化が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化）に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合」における遊技興趣の向上を図ることができるようになる。
【７８１６】
なお、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））とは、特定動

画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい（例えば、第１Ｃボタン受付状態内の非動画区間（図１９６（ｊ）などを参照）のほか、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態（図２６０（ｊ）、図２６７（ｊ）、図２７４（ｊ）、図２８１（ｊ）などを参照）や、ボタン受付状態が発生していない状況下にある場合など）。

【７８１７】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｊ），（ｌ）～（ｎ）を参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））が１回だけ生じる場合（例えば、図２０２（ｊ），（ｌ）～（ｎ）を参照）」とがあるようにしてもよい。

【７８１８】

またさらに、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））がそれぞれ１回だけ生じるようにすることが望ましい（例えば、図１９６及び図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）を参照）。

【７８１９】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【７８２０】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）」については、「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１構成Ｃ１やその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【７８２１】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるようにすることが望ましい（図１９

６（ｅ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｊ）などを参照）。
【７８２２】
すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けを契機として第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生することとなる（図２１２（ｄ），（ｅ），（ｊ）などを参照）。
【７８２３】
また、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けを契機として第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｄ），（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【７８２４】
また、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けを契機として第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｄ），（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【７８２５】
また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作手段に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。
【７８２６】
そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに条件成立可能であるようにすることが望ましい。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときの演出要素としては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に限られるような、従来からあった単純な演出性などではなく、それ以外の操作部（ここでは、特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作も含めた、より複雑な演出性が提供されるようになるから、遊技者としては、演出的な戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【７８２７】
また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）

の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにしてもよい（図２０２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１８（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【７８２８】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図２０２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１８（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【７８２９】

ただしこの場合、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している場合であっても、該維持しているなかで、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が新たに発生しうるようにすることが望ましい（図２４７（ａ），（ｂ），（ｅ）などを参照）。

【７８３０】

また逆に、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にあっては、別の構成として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて特定動画（特定動画ＴＤ）が現れるようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している限りは、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））は複数回生じうるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））や第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））が生じることはないようにしてもよい。

【７８３１】

例えば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下において、特定動画（特定動画ＴＤ）が現れるのと同時に（これを契機とはしないが、偶然に）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されるなかで受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））が複数回生じうるものの、特定動画（特定動画ＴＤ）が終了されるタイミングが到来するまでの間に、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））や第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））が生じることはないこととなる。

【７８３２】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」を一旦終了して、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））についてはこれが再び複数回生じうるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））や第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））についてはこれらが生じることはないようにすることが望ましい。

【７８３３】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれ

を維持している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされた場合は、これを契機として特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することはないようにすることが望ましい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）

【７８３４】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、例えば、「特定パターンの図柄変動が開始されてから予め定められた時間が経過したタイミングが到来すること」や、「図柄変動内で指定された所定の演出ミッションに成功すること」や、「大当り遊技の実行期間内など、図柄停止中の所定タイミングが到来すること」や、「大当り遊技の実行期間内など、図柄停止中のミニゲーム内で指定された所定の演出ミッションに成功すること」や、「ＲＴＣ機能（リアルタイムクロック機能）によって予め定められたタイミングが到来すること」や、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされること」などのいずれか１つ、またはそれら条件の組み合わせとして設定可能であるが、これらに限られず、予め定められている条件であればよい。例えば、ＲＴＣ機能を用いた場合には、有効期間（第１Ｃボタン受付状態）内の途中でタイミングが到来すると、これを契機として、操作受付が許容される状態は継続させつつも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にして特定動画（特定動画ＴＤ）を開始させるようにしてもよい。また、ＲＴＣ機能（リアルタイムクロック機能）によって予め定められたタイミングが到来したとしても、そのタイミングが、予め定められた条件下（例えば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状態にあること、など）を満たさないものであるときには、そのタイミングを放棄して、次のタイミングが到来するのを待つようにしてもよい。

【７８３５】

ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときに成立しうる条件として設定することが望ましい（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）。すなわちこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、所定操作（ボタン操作）に応じた受付後変化が生じることへの期待感に加えて、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始され且つ「第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生する（若しくは、「第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生している）ことへの期待感をも持たせることができるようになる（図１９６（ｄ），（ｆ），（ｊ）などを参照）。

【７８３６】

一方、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持していると、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されなかったり、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されたとしても、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（若しくは、第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態）が発生しなかったりするリスクがあるようになるから（図２０１（ａ）～（ｆ），図２０２（ａ）～（ｆ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作が許容されて所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が現れているときの「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する無駄な接触頻度」を好適に減少させることが期待されるようになる。

【７８３７】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件や、「第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第３Ｃ刀受付状態）」の発生条件だけでなく、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の発生条件についても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかでも条件成立可能であり、これらのいずれの場合であっても、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに特別操作手段に対する操作の受付けが許容される状態が発生しうるようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。

【７８３８】

なお、「第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）」や、「第３特別変化（第３Ｃ刀変化（例えば、第３Ｃ受付後表示Ｃ３など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第３Ｃ刀受付状態）」では、刀装飾体５００１に対する操作受付は１回しか許容されないが、当該状態内で刀装飾体５００１を特定操作状態で維持する操作が仮に行われたとした場合、該操作受付に応じた受付後変化は、該操作が行われた時間が短いときと長いときとで同じ態様であることは言うまでもない。

【７８３９】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、第２特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行される自動操作受付が機能するようにすることが望ましい（図２０１～図２０４などを参照）。

【７８４０】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい。

【７８４１】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）がいずれも発生していない状況下（図２１２などを参照）にあるか、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）だけが発生している状況下（図１９６などを参照）にあるときに条件成立可能とすることが望ましい。

【７８４２】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）がいずれも発生し

ていない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにするとともに（図２１２などを参照）、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）だけ発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態がさらに発生するようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。

【７８４３】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））に関しての特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生するとき、当該パチンコ機１として、遊技者が感知可能な演出変化を何ら生じさせないようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でより望ましい（例えば、図２２８などを参照）。

【７８４４】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせるために必要な第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と、第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせるために必要な第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とを異ならせるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての「２つの異なる種別の受付状態」が発生している状況下にあることを好適に示唆できるから、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でより望ましい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７８４５】

この点、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にした場合は、まず、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られて第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））が生じ、その後、第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）が得られて第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせるようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７８４６】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）と第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報）とのうち第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）のみが検出されるように操作可能であるようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７８４７】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して特定の操作（ここでは、納刀状態にする操作）を１回行うだけで、第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ

１など））と、第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ１など））とを段階的に発生させることができるようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７８４８】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない「非動画区間」にあるとき、該「非動画区間」から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される「動画区間」へと移行させるか否かを遊技者が選択的に遊技可能とするようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。例えば、「非動画区間」において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行うことによって第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られると、該第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られたときから予め定められた時間が経過するまでの間は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される「動画区間」へと移行されることがないようにしたり、該第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報）が得られた当該図柄変動の実行期間内では特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される「動画区間」へと移行されることがないようにしたりするようにすれば、遊技者の遊技次第で、「動画区間」へと移行される可能性を排除するか否かを選択することができるようになる。

【７８４９】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたとき、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報からこれを第１有効操作（タッチ操作）として判定する第１受付有効判定手段と、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたとき、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報からこれを上記第１有効操作（タッチ操作）とは異なる第２有効操作（押下げ操作）として判定する第２受付有効判定手段とを備え、第１受付有効判定手段による判定が許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が継続されているなかでは、第２受付有効判定手段による判定が許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）をさらに発生可能とするようにすることが望ましい（図２４１などを参照）。

【７８５０】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成では、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が継続されているなかでは、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）をさらに発生させるように遊技可能（遊技者の遊技次第で、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生する可能性を排除するか否かを選択可能）とされるようにすることが望ましい（図２４１や、図２４６、図２４７などを参照）。

【７８５１】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成では、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が継続されるなかでは、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のみが終了することがないようにしてもよい。すなわちこの場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が継続されるなかでは、必ず、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）よりも先に終了されることとなる。

【７８５２】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しさえすれば、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が先に終了されることはないから、安心感のあるなかで、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行うことができるようにな

る。また、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する操作受付がなされるように遊技するメリットが少なくなるから、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する無駄な接触頻度」を好適に減少させることが期待されるようになる。

【７８５３】

またこの場合、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成では、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が継続されているなかで、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）がさらに発生可能とされ、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が継続されているなかでは、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）のみが終了することはなく、操作受付がなされたときと、該操作受付がなされないときとのいずれの場合であっても、必ず、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）のみが終了するように設定することがより望ましい。

【７８５４】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされて特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されるようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でより望ましい（例えば、図１９６（ｇ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【７８５５】

またこの場合、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として終了されず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされて特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始された以降も継続されるようにすることが、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい（例えば、図１９６（ｇ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【７８５６】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときの受付後変化（第１Ｃ刀変化）では、その１つとして、特定動画（特定動画ＴＤ）とは異なる特別動画（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））が表示されるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときの受付後変化（第１Ｃボタン変化）でも、その１つとして、上記特別動画（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２）が表示されるようにすることが望ましい（図２０９（ｄ）や、図２１１（ｂ）などを参照）。

【７８５７】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性」を提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれを操作したとしても、特定の演出性（雷が落ちている画像表示としての「第１Ｃ受付後表示Ｃ１」や、「第２Ｃ特別表示ＢＣ２」）が保障されるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【７８５８】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれを操作したとしても、上記特定の演出性が現れることが保証されることに加えて、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作されたときには、第２Ｃ刀変化（敵キャラクタに対する剣攻撃）や第３

Ｃ刀変化（第３Ｃ受付後表示Ｃ３（雷雲の出現））などの他の変化（所定操作手段（操作ボタン４１０）を操作したときにこれを契機として生じ得ない変化）がさらに生じるのに対し（図２０９（ｄ），（ｅ１）～（ｅ３）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されたときには、敵キャラクタに対する魔法攻撃としての「第１Ｃ特別表示ＢＣ１」などの他の変化（所定操作手段（操作ボタン４１０）を操作したときにこれを契機として生じ得ない変化）がさらに生じるようにすることが（図２０９（ｂ）などを参照）、上述した「複数種の操作を含めたより複雑な演出性が提供される」といった作用効果を得る上でさらに望ましい。

【７８５９】

なおこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれも操作されなかったときにも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が終了するときに、これを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）とは異なる特別動画（雷が落ちている画像表示）が表示されるようにしてもよい。例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれも操作されなかったときにも、特定動画（特定動画ＴＤ）とは異なる特別動画として、「雷が落ちている画像表示」を「第１Ｃ受付後表示Ｃ１」として表示させるようにしてもよい。ただしこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作されたときにしか現れない変化や、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作されたときにしか現れない変化がさらに生じることはないようにすることが望ましい。

【７８６０】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「雷が落ちている画像表示」が、「第１Ｃ受付後表示Ｃ１」として表示される場合と、「第２Ｃ特別表示ＢＣ２」として表示される場合とでは、その態様が同じであってもよいが、異なる態様（例えば、色違いなど）として表示されるようにすれば、同様の演出性を提供するようにしつつも、いずれの操作に対する演出性が現れているのかを好適に示唆することができるようになる。

【７８６１】

なお、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１Ｃ受付後表示Ｃ１（第１Ｃ刀変化）や、敵キャラクタに対する剣攻撃（第２Ｃ刀変化）、第３Ｃ受付後表示Ｃ３（第３Ｃ刀変化）、第１Ｃ特別表示ＢＣ１，ＢＣ２（第１Ｃボタン変化）などの受付後変化については、演出表示装置１６００における表示変化として必ずしも実現しなくてもよく、例えば、音変化や、発光変化、演出振動、可動体動作などとして実現するようにしてもよい。

【７８６２】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（第１Ｃ刀変化））と、第２特別変化（敵キャラクタに対する剣攻撃（第２Ｃ受付後表示Ｃ２として実現される第２Ｃ刀変化））とについては、互いに異なる操作検出（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報）に基づいて実行されるものとして実現するようにすることが望ましい（図２０３（ｌ），（ｍ）や、図２０９（ｄ），（ｅ１）などを参照）。ただしこの場合、第２特別変化（敵キャラクタに対する剣攻撃（第２Ｃ受付後表示Ｃ２として実現される第２Ｃ刀変化））が、刀装飾体５００１に対する「特定操作（例えば、押す操作や、引く操作など）」の検出に基づいて実行されるものであるとしたとすると、第１特別変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（第１Ｃ刀変化））については、刀装飾体５００１に対して特定操作を行う上で必須とされる操作（例えば、刀装飾体５００１に対する近接操作や、刀装飾体５００１に対するタッチ操作など）の検出に基づいて実行されるものとして実現されることとなる。このような構成であっても、刀装飾体５００１に対して特定操作に基づく操作の受付けがなされると、受付後変化として、第１特別変化と第２特別変化とがそれぞれ実行されることとなる。

【７８６３】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）との両方が発生している状況が出現可能とされるようにし、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）においてはオート連打機能が有効とされるようにすることが望ましい。そして、オート連打機能が機能するように特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持させる操作を行ったときには、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する操作受付が１回だけなされてこれに応じた受付後変化が１回だけ生じるとともに、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する操作受付が複数回なされてこれに応じた受付後変化が複数回生じるが、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）とは、それぞれ発生条件も終了条件も異なっており、互いに別個に発生するものとするようにすることが望ましい（図２０３（ｄ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。すなわち、動画区間内では、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）とのうちの一方のみしか発生していない状況も現れうることとなり、この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化とのうちの一方のみが生じることとなることは言うまでもない。またさらに言えば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化とでは、その契機となる操作検出の情報としても互いに異なるものであるから、例えば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の態様（タッチ操作など）によっては、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化とのうち、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化しか生じないようにすることも可能である。

【７８６４】

この点、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対してもオート連打機能が有効化される状態（第３Ｃボタン受付状態、第４ボタン受付状態）を発生可能することが望ましい。

【７８６５】

そしてこの場合、第３Ｃボタン受付状態や第４ボタン受付状態において、オート連打機能が機能するように所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態で維持させる操作を行ったときには、操作受付が複数回なされることによって複数回発生可能な通常変化と、操作受付が複数回なされるなかで１回しか発生し得ない特殊変化とをそれぞれ生じさせうるようにしてもよい。ただし、これらの受付後変化（複数回の通常変化、１回だけの特殊変化）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての上述した「第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化との関係性」とは異なり、１つの種別の所定許容状態（第３Ｃボタン受付状態または第４ボタン受付状態）内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることに基づいて、それぞれ出現するものであり、分離不可能であり、一体不可分とも言えるものである。例えば、操作受付がなされたときに、所定の条件が満たされたときには、通常変化と特殊変化とが同じ操作受付を契機としてそれぞれ生じることとなる。

【７８６６】

なお、これまで当該第１構成Ｃ１として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【７８６７】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５０

０１）に対する操作の受付けが許容されない状態と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態とのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、当該状態が、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生している場合に限り条件成立可能であるようにしてもよい（上述した例において、第３Ｃ刀受付状態を発生可能としない場合）。

【７８６８】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態の発生条件としては、例えば、「特定パターンの図柄変動が開始されてから第２所定時間（第１所定時間とは異なる時間）が経過したタイミングが到来すること」や、「図柄変動内で指定された第２所定の演出ミッション（第１所定の演出ミッションとは異なる演出ミッション）に成功すること」や、「大当り遊技の実行期間内など、図柄停止中の第２所定タイミング（第１所定タイミングとは異なるタイミング）が到来すること」や、「大当り遊技の実行期間内など、図柄停止中のミニゲーム内で指定された第２所定の演出ミッション（第１所定の演出ミッションとは異なる演出ミッション）に成功すること」や、「ＲＴＣ機能（リアルタイムクロック機能）によって予め定められた第２タイミング（第１タイミングとは異なるタイミング）が到来すること」などのいずれか１つ、またはそれら条件の組み合わせとして設定可能であるが、これらに限られず、予め定められている条件であればよい。

【７８６９】

なお、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持させる操作とは、例えば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作位置で遊技者による接触状態にて維持させることとして実現することが可能である。

【７８７０】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「条件成立すること（条件成立する場合）がある」とは、所定確率での抽選、演出判定、大当り判定に基づいて定められるものであってもよいし、操作受付に基づく判定結果などに基づいて定められることを意味するものであってもよい。若しくは、必ず条件成立するようにしてもよいし、要は、条件成立する場合が少なくともあればよく、これによって所望の作用効果を得ることができればよい。

【７８７１】

また、当該第１構成Ｃ１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）や、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）とは、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した表示のことであり、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を促す表示のことであり、例えば、摸画像表示として実現されるほか、文字情報として実現されるものであってもよい。

【７８７２】

当該第１構成Ｃ１に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第２構成Ｃ２～第５構成Ｃ５にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【７８７３】

また、例えば、第２構成Ｃ２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手

段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合（図１９８（ｈ），（ｊ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）とのうち、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｄ）～（ｆ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、前記受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（図２０３（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）があるようにした。

【７８７４】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【７８７５】

そしてこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（例えば、図２０１（ｅ），（ｍ）や図２３３（ｅ），（ｍ）に示される第２Ｃ刀変化）が生じるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（例えば、図２０３（ｅ），（ｍ）や図２３５（ｅ），（ｍ）に示される第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（

例えば、図２０３（ｄ），（ｌ）や図２３５（ｄ），（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい。このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣をさらに向上させることが期待されるようになる。

【７８７６】

また、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れることがなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間しかないようにしてもよい。当該構成については、例えば、第３Ｃボタン受付状態（図２６７～図２７３などを参照）を、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されない受付状態として、該第３Ｃボタン受付状態に代えて用意したり、第３Ｃボタン受付状態とは別の受付状態として新たに用意することによって実現することが可能である。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態よりも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生したときのほうが遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７８７７】

また、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）に示される第１Ｃ刀受付状態や第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合（例えば、図１９６（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態など）とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（図２０２（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態として発生する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【７８７８】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【７８７９】

また、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい。なお、上述した演出例では、特定動画（特定動画ＴＤ）については、第１Ｃボタン受付状態が発生している状況下にあるときにしか表示され得ないものとして用意することとしている。

【７８８０】

また、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生している場合（例えば、図１９６～図２１１などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態として発生している場合（例えば、図２１２～図２２７などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【７８８１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【７８８２】

なお、特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内の非動画区間のほか、第１Ｃボタン受付状が発生していない区間（例えば、第２Ｃボタン受付状態、第３Ｃボタン受付状態、第４Ｃボタン受付状態、第５Ｃボタン受付状態など）も含む）にあるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには生じ得ない変化であってもよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｌ）～（ｎ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（例えば、図２０２（ｌ）～（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【７８８３】

また、特別変化とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【７８８４】
また、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて（第１Ｃ刀操作検出情報など）、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【７８８５】
また、当該第２構成Ｃ２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方がある。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにしてもよい。
【７８８６】
また、当該第２構成Ｃ２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として第１Ｃ刀変化の１つとして、特定動画（特定動画ＴＤ）とは異なる特別動画（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））が表示されうるが、該特別動画（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））については、その画像表示として複数種別を用意しておき、それら種別のいずれか１つとして表示されるようにすることが望ましい。
【７８８７】
なお、これまで当該第２構成Ｃ２として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。
【７８８８】
また、例えば、第３構成Ｃ３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合（図１９８（ｈ），（ｊ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）とのうち、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示（刀

操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｄ）～（ｆ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１よりも前の期間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ４よりも後の期間など）とがあるようにした。

【７８８９】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が秘匿性のあるなかで発生した状況下にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【７８９０】

そしてこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり（例えば、図２２８などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（例えば、図２３３（ｌ），（ｍ）や、図２３４（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（例えば、図２３５（ｌ），（ｍ）などを参照）。このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣をさらに向上させることが期待されるようになる。

【７８９１】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れることがなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間しかないようにしてもよい（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態を、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合など）。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態よりも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生したときのほうが遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７８９２】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態のうち、特定動画（特定

動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【７８９３】

このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【７８９４】

なお、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【７８９５】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【７８９６】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にあるときに限り、条件成立可能であるようにしてもよい。

【７８９７】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態にあるときに限り、条件成立可能であるようにしてもよい。

【７８９８】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動

画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内で該受付けがなされたときとで、受付後変化としての態様が異なるようにすることが望ましい（例えば、図２０５（ｊ），（ｏ）や、図２０６（ｊ），（ｏ）などを参照）。

【７８９９】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。

【７９００】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。

【７９０１】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（第１Ｃ受付後表示Ｃ１（雷が落ちている画像表示））を表示開始しうるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（第２Ｃ特別表示ＢＣ２（雷が落ちている画像表示））を表示開始しうるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）。

【７９０２】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（例えば、雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【７９０３】

また、当該第３構成Ｃ３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（例えば、雷が落ちている画像表示）としての態様が異なるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）。

【７９０４】

なお、これまで当該第３構成Ｃ３として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【７９０５】

また、例えば、第４構成Ｃ４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容され

る状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合との両方がある遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ），（ｈ）などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合（図１９８（ｈ），（ｊ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）とのうち、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８などを参照）、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－２などを参照）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化など）が生じうるようにした。

【７９０６】

すなわちこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したときの遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７９０７】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２０１（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９０８】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【７９０９】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特

別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（図２０２（ｌ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｌ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【７９１０】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２０４（ｌ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【７９１１】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【７９１２】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にした場合は、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にした場合は、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい。

【７９１３】

また、当該第４構成Ｃ４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されてから予め定められた時間が経過したときに終了して上記非動画区間へと移行するようにすることが望ましい。

【７９１４】

なお、これまで当該第４構成Ｃ４として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【７９１５】

また、例えば、第５構成Ｃ５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判

定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態では、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合との両方があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合（図１９８（ｈ），（ｊ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）とのうち、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り条件成立しうるものであり、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあり且つ前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて（例えば、図２０３（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化など）が生じうるようにした。

【７９１６】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【７９１７】

そして、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であるが（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、当該状況下にある場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ上記自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（図１９６～図２５３に示される例に相当するものであり、特に、図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【７９１８】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させ

るのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７９１９】

また、この場合は、特に、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下にあるときには、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態」が発生しているなかでも（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下にあるなかでも）条件成立可能であるが（図１９６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【７９２０】

ただし、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成については、上述した演出内容とは異なるが、『オート連打機能を一旦機能させて、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了してオート連打機能が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（例えば、図１９６に示される第１Ｃボタン受付状態のうち、第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下」にあるなかで条件成立可能である』ようにしてもよい。

【７９２１】

また、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成（図１９６～図２５３に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状態においては、その動画にかかる表示を開始することがない（開始条件が成立することがない）ようにしてもよい。

【７９２２】

また、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで、特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に特定操作状態にしてこれを維持したとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２０１（ｌ），（ｍ）や図２０２（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９２３】

また、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立可能であるようにすることが望ましい（図１９６や図２１２などを参照）。

【７９２４】
　また、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成（図１９６～図２５３に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対してオート連打機能が機能しない状態（第２Ｃ刀受付状態が発生していない状況下）にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにすることが望ましい（図２１６（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。
【７９２５】
　なおこの場合、オート連打機能が機能しない状態とは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが一切許容されない状態のことを意味するものであってもよいし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（例えば、１回だけの操作受付が許容、または複数回の操作受付が許容）されるがオート連打機能が機能しない状態のことを意味するものであってもよい。
【７９２６】
　若しくは、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【７９２７】
　例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、少なくとも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ上記オート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるようにしてもよい（図２５４～図２５９に示される例を参照）。
【７９２８】
　またこの場合、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、少なくとも、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに条件成立可能であり、当該状況下にあるときには、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態が発生している状況下）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行ってオート連打機能を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるようにしてもよい（図２５４～図２５９に示される例を参照）。そして、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず且つオート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行ってオート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを

参照）。
【７９２９】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【７９３０】
なおこの場合、上述した「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が継続表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにすることが望ましい（図２５４（ｌ），（ｍ）に示されるタイミングｔＣＡなどを参照）。
【７９３１】
またこの場合、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状態においても、その動画にかかる表示を開始可能である（開始条件が成立しうる）ようにすることが望ましい。
【７９３２】
また、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第５構成Ｃ５や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【７９３３】
なお、これまで当該第５構成Ｃ５として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。
【７９３４】
また、例えば、第６構成Ｃ６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされる

と、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても（例えば、図２２８（ｅ）に示されるタイミングｔＣａＹ１などを参照）、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり（例えば、図２２８（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し（例えば、図２３５（ｅ）に示されるタイミングｔＣａＹ１などを参照）、該状態が継続しているなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始された場合（例えば、図２３５（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（例えば、図２３５（ｌ）に示されるタイミングｔＣａ３Ａａなどを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【７９３５】

この点、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、この際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが（図２２８（ｈ），（ｊ）などを参照）、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには特定時間が経過したときに条件成立することがない（図２２９（ｈ），（ｊ）や、図２３０（ｈ），（ｊ）、図２３１（ｈ），（ｊ）などを参照）などを参照）ものとして用意するようにしてもよい。

【７９３６】

なお、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において所定操作関連表示（ボタン操作関

連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過したときに条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【７９３７】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立したときに非表示にされないようにしてもよい。

【７９３８】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合（例えば、図１９９（ｈ）などを参照）は、特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に非表示にされる場合と、特定時間が経過する時点においても表示状態にある場合との両方があるようにしてもよい。ただしこの場合、いずれの場合であっても、特定時間が経過するときに特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されないようにすることが望ましい。

【７９３９】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないとき（例えば、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例のうち、第２Ｃボタン受付状態や第３Ｃボタン受付状態などの受付状態内や、いずれの種別のボタン受付状態も発生していない状況下にあるときなど）とのいずれにおいても表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【７９４０】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないとき（例えば、第２Ｃボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例のうち、第２Ｃボタン受付状態や第３Ｃボタン受付状態などの受付状態内や、いずれの種別のボタン受付状態も発生していない状況下にあるときなど）とのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【７９４１】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態」が発生してから特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能なものとすることが望ましい（図１９６（ｊ）などを参照）。

【７９４２】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態」が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）などを参照）。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受

付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【７９４３】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態」が発生してから特定時間が経過したとしても、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはなく、該受付けが許容される状態は継続されるようにすることが望ましい（図１９６（ｇ）などを参照）。

【７９４４】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（図２２８～図２４０などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合（例えば、図２２８（ｊ）などを参照）があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｍ）や図２３６（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報、第２Ｃ刀操作検出情報など）に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９４５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化されるようになる（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるようになる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２Ｃ刀変化）に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合」における遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【７９４６】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【７９４７】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【７９４８】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にないときに条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生するようにすることが望ましい（例えば、図２１２に示される例のうち、第３Ｃ刀受付状態を備えないこととした場合など）。

【７９４９】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にないときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、前記受付後変化の１つとしての前記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい。

【７９５０】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。

【７９５１】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、前記特別操作手段（刀装飾体

５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがない（例えば、図２１２及び図２１６に示される例のうち、第３Ｃ刀受付状態を備えないこととした場合など）

【７９５２】

若しくは、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【７９５３】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（例えば、図２５４（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９５４】

またこの場合、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされた場合は、これを契機として特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することはないようにすることが望ましい（例えば、図２５５（ｄ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【７９５５】

またこの場合、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、上述した構成に代えて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても（図２５６（ｅ）に示されるタイミングｔＣａＹ１などを参照）、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり（図２５６（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、上記特定時間が経過するまでの間（図２５６に示されるタイミングｔＣａＹ１～タイミングｔＣａ３－１の間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときにも、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。

【７９５６】

そしてこの場合、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合がある遊技機」において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記オート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特

定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記オート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにすることが望ましい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９５７】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７９５８】

なおこの場合、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化についてはこれが生じることがないようにすることが望ましい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ、ｔＣＢなどを参照）。

【７９５９】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【７９６０】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる第１特別許容状態と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）

なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせる第２特別許容状態とが用意されており、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立すると、これを契機として、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生可能であるが（例えば、図２１２（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したか否かにかかわらず、該特定時間が経過したときにはこれを契機として条件成立可能であるが（例えば、図２１２（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようになっており（例えば、図２１５（ｈ），（ｊ）や、図２３１（ｈ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生せず、該第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようになっており（図２１２（ｄ），（ｅ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生し、該第２特別許容状態が発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するようにすることが望ましい（図２２８（ｄ），（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【７９６１】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が継続しているなかで表示開始可能とすることが望ましい（図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【７９６２】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示開始されたタイミングが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）のうち少なくとも半分の時間が経過した以降であったときには、上記特定時間が経過するときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が継続しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されることがないが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するまでの間のうち半分の時間よりも前であったときには、上記特定時間が経過するときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が継続しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始される場合があるようにしてもよい。またこの場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されない場合もあるようにしてもよい。

【７９６３】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっ

て、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合であっても、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで（さらには、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされた後に）、発生可能であるようにすることが望ましい（図２３１（ｅ），（ｈ）や、図２４４（ｅ），（ｈ）などを参照）。

【７９６４】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたタイミングが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）のうち少なくとも半分の時間が経過した以降であったときには、特定時間が経過するときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されることがないが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間のうち半分の時間よりも前であったときには、特定時間が経過するときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始される場合があるようにしてもよい。またこの場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されない場合もあるようにしてもよい。

【７９６５】

また、当該第６構成Ｃ６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときには、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立することがない」といった構成を実現する場合、該表示開始された特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に非表示にされる場合があるようにしてもよい。ただしこの場合であっても、特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立することはないこととなる（例えば、図２３１（ｈ）などを参照）。

【７９６６】

なお、「特定時間が経過するときに条件成立しない」とは、もともと条件成立しないことが決定されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されるようにすることで実現するようにしてもよいし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたことを契機として条件成立のタイミングを遅延等させることによって実現するようにしてもよい。

【７９６７】

また、これまで当該第６構成Ｃ６として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【７９６８】

当該第６構成Ｃ６に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第７構成Ｃ７～第１０構成Ｃ１０にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【７９６９】

また、例えば、第７構成Ｃ７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特

典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり（図２１２（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し、該状態が継続しているなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｏ）や、図２７８（ｏ）などを参照）があるようにしてもよい。

【７９７０】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【７９７１】

この点、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、前記

特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｊ）、及び図２３１（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【７９７２】

また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２３６（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【７９７３】

また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図２３５（ｄ）に示される第１Ｃ刀受付状態や、図２３５（ｆ）に示される第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２３５（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）として発生する場合とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合（第２Ｃ刀受付状態）は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）として発生する場合とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【７９７４】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したと

きには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【７９７５】

また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【７９７６】

また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生している場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合（例えば、図２１２（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【７９７７】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【７９７８】

なお、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化（例えば、図１９６（ｄ）に示される第１Ｃ刀変化など）であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【７９７９】
　また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
【７９８０】
　また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【７９８１】
　また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【７９８２】
　また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態）にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい。
【７９８３】
　若しくは、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【７９８４】
　例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときにも（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。
【７９８５】
　そしてこの場合、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図

２５９に示される例）にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記オート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（この場合は、図２０３に示した例の場合と同じ態様が現れるが、図２５９などに示される例なども併せて参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記オート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【７９８６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでタイミングｔＣａ３－１が到来した場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【７９８７】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【７９８８】

また、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第７構成Ｃ７や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実

現されることとなる。

【７９８９】

また、これまで当該第７構成Ｃ７として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【７９９０】

また、例えば、第８構成Ｃ８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり（図２１２（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し、該状態が継続しているなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【７９９１】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【７９９２】
この点、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても（図２２８～図２４０に示した例などを参照）、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが（図２２８（ｈ），（ｊ）などを参照）、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがない（図２３１（ｈ），（ｊ）などを参照）ものとして用意するようにしてもよい。
【７９９３】
そして、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間や、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【７９９４】
また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）があるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい。
【７９９５】
このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特

別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【７９９６】

なお、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【７９９７】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【７９９８】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【７９９９】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８０００】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。

【８００１】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。

【８００２】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４

１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。

【８００３】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【８００４】

またこの場合、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８００５】

またこの場合、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８００６】

若しくは、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８００７】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときにも（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。

【８００８】

そしてこの場合、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図

２５９に示される例）にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記オート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（この場合は、図２０３に示した例の場合と同じ態様が現れるが、図２５９などに示される例なども併せて参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記オート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８００９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでタイミングｔＣａ３－１が到来した場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８０１０】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８０１１】

また、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第８構成Ｃ８や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実

現されることとなる。
【８０１２】
　また、これまで当該第８構成Ｃ８として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。
【８０１３】
　また、例えば、第９構成Ｃ９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり（図２１２（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。
【８０１４】
　この点、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイ

ミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが（図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図２３１（ｅ），（ｈ），（ｊ））。

【８０１５】

また、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８０１６】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８０１７】

また、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８０１８】

ただしこの場合、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８０１９】

また、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっ

て、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定することが望ましい。

【８０２０】

また、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８０２１】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８０２２】

若しくは、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８０２３】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときにも（図２５６（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能である」ようにしてもよい。

【８０２４】

そしてこの場合、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記オート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特

定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（この場合は、図２０３に示した例の場合と同じ態様が現れるが、図２５９などに示される例なども併せて参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記オート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８０２５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでタイミングｔＣａ３－１が到来した場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８０２６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８０２７】

また、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第９構成Ｃ９や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８０２８】

また、これまで当該第９構成Ｃ９として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【８０２９】
また、例えば、第１０構成Ｃ１０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、該特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり（図２１２（ｅ），（ｊ）や、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生して、該状態において前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｎ）を参照）が生じうるようにした。

【８０３０】
すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８０３１】
この点、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が

到来するまでの間）に、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しても（図２２８～図２４０に示した例などを参照）、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときには前記特定時間が経過したときに条件成立しうるが（図２２８（ｈ），（ｊ）などを参照）、当該状態内で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには前記特定時間が経過したときに条件成立することがない（図２３１（ｈ），（ｊ）などを参照）ものとして用意するようにしてもよい。

【８０３２】

そして、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０３３】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した状況が現れたとしても、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能であるが（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、該発生した状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされ、これに応じた受付後変化が実行開始されると、その後、上記特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）条件成立することがないようにすることが望ましい（図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｈ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。この場合、特定時間が経過するまでの間に、上記受付後変化が実行し終わっていたとしても、上記特定時間が経過するときに（タイミングｔＣａ３－１が到来するときに）条件成立することがないようにすることが望ましい（図２３３（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｈ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８０３４】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させ

るのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８０３５】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れたとしても（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｈ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８０３６】

なおこの場合、自動操作受付（オート連打機能）を一旦機能させたとしても、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了して自動操作受付（オート連打機能）が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【８０３７】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにすることが望ましい。

【８０３８】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に特定操作状態にしてこれを維持したとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態）」が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた前記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、前記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうる（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）ようにするこ

とが望ましい。

【８０３９】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（図２１６（ａ）．（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【８０４０】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付け自体が許容されない状態」のことを意味するものであってもよいし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（複数回許容、または１回だけ許容）されるが上記自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」のことを意味するものであってもよい。

【８０４１】

若しくは、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８０４２】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生してから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがあったときにも、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。

【８０４３】

そしてこの場合、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合がある遊技機」にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記オート連打機能が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（この場合は、図２０３に示した例の場合と同じ態様が現れるが、図２５９などに示される例なども併せて参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記オート連打機能を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾

体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８０４４】

またこの場合、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態にあるときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した場合、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れたとしても、特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であり（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であるが（図２５６（ｅ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２３５に示した例と同様の演出進展が現れるが、図２５９に示した例についても参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（刀装飾体５００１）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにすることが望ましい（図２５６（ｄ），（ｅ），（ｈ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０４５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８０４６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）

に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８０４７】

また、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１０構成Ｃ１０や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８０４８】

また、これまで当該第１０構成Ｃ１０として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【８０４９】

また、例えば、第１１構成Ｃ１１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）や、図２１２（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたとき

は、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８０５０】

この点、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８０５１】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８０５２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８０５３】

また、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－

１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０５４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８０５５】

なお、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８０５６】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８０５７】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかで発生可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかでも発生可能であるようにすることが望ましい。

【８０５８】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生するタイミングで、その表示条件が満たされることもあり得るものとして用意するようにしてもよい。

【８０５９】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立可能であるようにしてもよい。またこの場合、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現するようにしてもよいし、第３Ｃ刀受付状態を備えないこととした上でこれを実現するようにしてもよい。なお、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現する場合、第１Ｃ刀受付状態については、第１Ｃボタン受付状態内で、第３Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでもその発生条件が満たされうるものとして用意することが望ましい。また、第３Ｃ刀受付状態については、例えば、演出判定などの結果や、遊技者の操作状況などに基づいて、タイミングｔＣａ２において発生する場合と発生しない場合との両方があるように用意することとなる。

【８０６０】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【８０６１】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【８０６２】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８０６３】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時

間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされるようにすることが望ましい。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【８０６４】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生した以降、当該状態が継続されているなかで上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。ただしこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として、非表示にする場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【８０６５】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に非表示にされないようにしてもよい。

【８０６６】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）として第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）が少なくとも表示されるが、第１態様及び第２態様のいずれとも異なる態様をさらに備えるようにしてもよい。

【８０６７】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）のいずれかで表示されている場合、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、上記特定時間が経過するときにその表示状態を維持しているようにしてもよいし、該特定時間が経過するまでの間に非表示にされるようにしてもよいし、その両方があってもよい。

【８０６８】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定時間が経過するときに条件成立しない」とは、もともと条件成立しないことが決定されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されるようにすることで実現するようにしてもよいし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたことを契機として条件成立のタイミングを遅延等させることによって実現するようにしてもよい。

【８０６９】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときの受付後変化としての演出内容が可変される（第２Ｃ刀変化が生じることに加えて、第

１Ｃ刀変化がさらに生じる演出内容へと可変される）ようにすることが望ましい。
【８０７０】
なお、このような構成を実現する手法としては、上述した各演出例にかかる構成のように、演出内容と発生条件とがそれぞれ異なる「第１Ｃ刀受付状態」と「第２Ｃ刀受付状態」とを備えるようにする手法のほか、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として一の種別のみを用意するが、当該一の種別の状態内のいずれの区間内で操作受付がなされたかに応じて、受付後変化を異ならせる」ようにする手法を採用することも可能である。
【８０７１】
また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させるようにすることが望ましい。
【８０７２】
なおこの場合、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じることとなることは言うまでもない。
【８０７３】
また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。
【８０７４】
また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｅ）及び図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ）などを参照）。
【８０７５】
また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀

装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい。

【８０７６】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立すると、これを契機として、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生可能であり、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６や、図２１２などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合は、上記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようになっており（図１９７や、図２１３などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようになっており（図２１２などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。

【８０７７】

若しくは、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８０７８】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０７９】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０８０】

また、当該第１１構成Ｃ１１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８０８１】

また、これまで当該第１１構成Ｃ１１として記載した第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）にかかる構成については、これに代えて、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）として実現するようにしてもよい。この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については備えるようにしてもよいし、備えないようにしてもよい。

【８０８２】

当該第１１構成Ｃ１１に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１２構成Ｃ１２～第１５構成Ｃ１５にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８０８３】

また、例えば、第１２構成Ｃ１２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになってお

り、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があり（図２０３（ｍ）などを参照）、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があるようにした（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８０８４】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８０８５】

この点、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８０８６】

またさらに、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８０８７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８０８８】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２３６（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８０８９】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図２３５（ｄ）に示される第１Ｃ刀受付状態や、図２３５（ｆ）に示される第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２３５（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）として発生する場合とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合（第２Ｃ刀受付状態）は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）として発生する場合とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【８０９０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に

対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８０９１】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８０９２】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生している場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合（例えば、図２１２（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【８０９３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８０９４】

なお、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化（例えば、図１９６（ｄ）に示される第１Ｃ刀変化など）であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８０９５】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８０９６】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【８０９７】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【８０９８】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態）にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい。

【８０９９】

若しくは、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８１００】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１０１】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１０２】

また、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１２構成Ｃ１２や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８１０３】

また、例えば、第１３構成Ｃ１３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【８１０４】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段

（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８１０５】

この点、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８１０６】

またさらに、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８１０７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８１０８】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第

２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２３６（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１０９】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８１１０】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８１１１】

なお、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８１１２】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【８１１３】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【８１１４】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体

５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８１１５】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８１１６】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。

【８１１７】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。

【８１１８】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。

【８１１９】

また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【８１２０】

またこの場合、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８１２１】
　またこの場合、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。
【８１２２】
　若しくは、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８１２３】
　例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８１２４】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８１２５】
　また、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１３構成Ｃ１３や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８１２６】
　また、例えば、第１４構成Ｃ１４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に

関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８１２７】

この点、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８１２８】

また、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能である

が（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８１２９】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８１３０】

また、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８１３１】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８１３２】

また、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８１３３】

ただしこの場合、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化

（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８１３４】

また、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８１３５】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８１３６】

若しくは、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８１３７】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１３８】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図

２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８１３９】
また、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１４構成Ｃ１４や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８１４０】
また、例えば、第１５構成Ｃ１５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）を参照）が生じうるようにした。
【８１４１】
すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打

機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８１４２】

この点、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、前記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として条件成立することがあるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、前記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８１４３】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８１４４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８１４５】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１４６】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合であっても（さらには、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていなかった場合であっても）、上記特定時間が経過する時点で、オート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには条件成立することがないようにしてもよい（図１９６（ｈ），（ｊ）や、図２００（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８１４７】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８１４８】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過する時点で「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れていたとしても、該特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行ってオート連打機能を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図１９６（ｊ），（ｍ）や、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８１４９】

なおこの場合、オート連打機能を一旦機能させて、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了してオート連打機能が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【８１５０】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、オート連打機能が機能しない状態にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２１２～図２２７に示される例において、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８１５１】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付け自体が許容されない状態」のことを意味するものであってもよいし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（複数回許容、または１回だけ許容）されるが上記自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」のことを意味するものであってもよい。

【８１５２】

若しくは、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８１５３】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点で、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つオート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立することがあるようにしてもよい（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８１５４】

ただし、このような場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあったか、若しくは特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８１５５】

またこの場合、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が

複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないこととなる（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１５６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８１５７】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８１５８】

また、当該第１５構成Ｃ１５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８１５９】

また、例えば、第１６構成Ｃ１６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段

と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（図１９６（ｌ）や、図２１２（ｌ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８１６０】

この点、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっているなかで、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｈ）～（ｊ）や、図２１２（ｈ）～（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（図１９７に示される例や、図２６０に示される例や、図２６７に示される例や、図２７４に示される例や、図２８１に示される例など）は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（図１９７に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などが到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【８１６１】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表

示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｈ）～（ｊ）や、図２１２（ｈ）～（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（図１９７に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などが到来したとき）に条件成立することがないようにしてもよい。

【８１６２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８１６３】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１６４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持

する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８１６５】

なお、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８１６６】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８１６７】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかで発生可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかでも発生可能であるようにすることが望ましい。

【８１６８】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生するタイミングで、その表示条件が満たされることもあり得るものとして用意するようにしてもよい。

【８１６９】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに条件成立可能であるようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）～（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｈ）～（ｊ）などを参照）。

【８１７０】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【８１７１】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【８１７２】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８１７３】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされるようにすることが望ましい。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【８１７４】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生した以降、当該状態が継続されているなかで上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。ただしこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として、非表示にする場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【８１７５】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に非表示にされるものでなくてもよい。例えば、遊技者による操作受付や、演出判定や、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）の表示とは関係のない予め定められたタイミング（例えば、ＲＴＣ機能を用いた特定タイミングや、図柄の変動パターンの種別に応じて予め定められているタイミングなど）が到来したことを契機として非表示にされるものであってもよい。

【８１７６】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）として第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）が少なくとも表示されるが、第１態様及び第２態様のいずれとも異なる態様をさらに備えるようにしてもよい。

【８１７７】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操

作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）のいずれかで表示されている場合、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、上記特定時間が経過するときにその表示状態を維持しているようにしてもよいし、該特定時間が経過するまでの間に非表示にされるようにしてもよいし、その両方があってもよい。

【８１７８】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立しない」とは、もともと条件成立しないことが決定されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示開始されるようにすることで実現してもよいし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示開始されたことを契機として条件成立タイミングを遅延等させることによって実現させるようにしてもよい

【８１７９】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときの受付後変化としての演出内容が可変される（第２Ｃ刀変化が生じることに加えて、第１Ｃ刀変化がさらに生じる演出内容へと可変される）ようにすることが望ましい。

【８１８０】

なお、このような構成を実現する手法としては、上述した各演出例にかかる構成のように、演出内容と発生条件とがそれぞれ異なる「第１Ｃ刀受付状態」と「第２Ｃ刀受付状態」とを備えるようにする手法のほか、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として一の種別のみを用意するが、当該一の種別の状態内のいずれの区間内で操作受付がなされたかに応じて、受付後変化を異ならせる」ようにする手法を採用することも可能である。

【８１８１】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させるようにすることが望ましい。

【８１８２】

なおこの場合、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じることとなることは言うまでもない。

【８１８３】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。

【８１８４】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｅ）及び図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ）などを参照）。

【８１８５】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい。

【８１８６】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立すると、これを契機として、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生可能であり、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに、これを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６や、図２１２などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに、これを契機として条件成立することがないようになっており（図１９７や、図２１３などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようになっており（図２１２などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。

【８１８７】

若しくは、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成

として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８１８８】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１８９】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８１９０】

また、当該第１６構成Ｃ１６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成１６－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８１９１】

当該第１６構成Ｃ１６に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１７構成Ｃ１７～第２０構成Ｃ２０にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８１９２】

また、例えば、第１７構成Ｃ１７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表

示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があり（図２０３（ｍ）などを参照）、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があるようにした（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８１９３】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８１９４】

この点、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっているなかで、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（図１９７に示される例や、図２６０に示される例や、図２６７に示される例や、図２７４に示される例や、図２８１に示される例など）は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（図１９７に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などが到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【８１９５】
　また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｈ）～（ｊ）や、図２１２（ｈ）～（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（図１９７に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などが到来したとき）に条件成立することがないようにしてもよい。
【８１９６】
　このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【８１９７】
　また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２３６（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８１９８】
　また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図２３５（ｄ）に示される第１Ｃ刀受付状態や、図２３５（ｆ）に示される第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２３５（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）として発生する場合とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合（第２Ｃ刀受付状態）は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）

を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）として発生する場合とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【８１９９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８２００】

また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８２０１】

また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生している場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合（例えば、図２１２（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【８２０２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供する

ことができるようになる。
【８２０３】
なお、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化（例えば、図１９６（ｄ）に示される第１Ｃ刀変化など）であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８２０４】
また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
【８２０５】
また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【８２０６】
また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【８２０７】
また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態）にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい。
【８２０８】
若しくは、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成

として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８２０９】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２１０】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２１１】

また、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１７構成Ｃ１７や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８２１２】

また、例えば、第１８構成Ｃ１８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される

第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【８２１３】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８２１４】

この点、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに、これを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに、これを契機として条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８２１５】

またさらに、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該非表示にされるときにこれを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示Ｂ

ＳＨ）が非表示にされるときに、これを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに、これを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８２１６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８２１７】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２３６（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｅ），（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２１８】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８２１９】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８２２０】

なお、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８２２１】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【８２２２】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【８２２３】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８２２４】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８２２５】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。

【８２２６】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。

【８２２７】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示さ

れる動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。

【８２２８】

また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【８２２９】

またこの場合、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８２３０】

またこの場合、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８２３１】

若しくは、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８２３２】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２３３】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２３４】
　また、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１８構成Ｃ１８や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８２３５】
　また、例えば、第１９構成Ｃ１９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。
【８２３６】
　この点、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成

にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときにこれを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときにこれを契機として条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８２３７】

また、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされることを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該非表示にされることを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該非表示にされることを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８２３８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８２３９】

また、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８２４０】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８２４１】

また、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８２４２】

ただしこの場合、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８２４３】

また、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８２４４】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８２４５】

若しくは、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成

として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８２４６】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２４７】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２４８】

また、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第１９構成Ｃ１９や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８２４９】

また、例えば、第２０構成Ｃ２０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される

第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）を参照）が生じうるようにした。

【８２５０】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８２５１】

この点、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものであるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときにこれを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときにこれを契機として条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８２５２】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるが、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、該非表示にされることを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操

作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、該非表示にされることを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９７（ｈ），（ｊ）や、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）や、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８２５３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８２５４】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２５５】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合であっても（さらには、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていなかった場合であっても）、該所定操作関連表示が非表示にされる時点で、オート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには条件成立することがないようにしてもよい（図１９６（ｈ），（ｊ）や、図２００（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８２５６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８２５７】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる時点で「特別操作手段（刀装飾体５００１）を

特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れていたとしても、該非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として（所定操作関連表示が非表示にされる所定条件が満たされたことを契機として）条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行ってオート連打機能を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図１９６（ｊ），（ｍ）や、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８２５８】

なおこの場合、オート連打機能を一旦機能させて、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了してオート連打機能が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【８２５９】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、オート連打機能が機能しない状態にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２１２～図２２７に示される例において、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８２６０】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付け自体が許容されない状態」のことを意味するものであってもよいし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（複数回許容、または１回だけ許容）されるが上記自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」のことを意味するものであってもよい。

【８２６１】

若しくは、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８２６２】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる時点で、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つオート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立することがあるようにしてもよい（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８２６３】

ただし、このような場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあったか、若しくは特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８２６４】

またこの場合、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないこととなる（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２６５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８２６６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８２６７】

また、当該第２０構成Ｃ２０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第２０構成Ｃ２０やその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の

発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８２６８】

また、例えば、第２１構成Ｃ２１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（図２０３（ｅ），（ｉ），（ｊ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８２６９】

この点、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来した

とき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８２７０】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８２７１】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８２７２】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２７３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変

化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８２７４】

なお、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８２７５】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８２７６】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８２７７】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかで発生可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかでも発生可能であるようにすることが望ましい。

【８２７８】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生するタイミングで、その表示条件が満たされることもあり得るものとして用意するようにしてもよい。

【８２７９】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立可能であるようにしてもよい。またこの場合、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現するようにしてもよいし、第３Ｃ刀受付状態を備えないこととした上でこれを実現するようにしてもよい。なお、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現する場合、第１Ｃ刀受付状態については、第１Ｃボタン受付状態内で、第３Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでもその発生条件が満たされうるものとして用意することが望ましい。また、第３Ｃ刀受付状態については、例えば、演出判定などの結果や、遊技者の操作状況などに基づいて、タイミングｔＣａ２において発生する場合と発生しない場合との両方があるように用意することとなる。
【８２８０】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても表示開始可能であるようにすることが望ましい。
【８２８１】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。
【８２８２】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。
【８２８３】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされるようにすることが望ましい。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。
【８２８４】
　また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生した以降、当該状態が継続されているなかで上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として、所定操作手段（操作ボ

タン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。ただしこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として、非表示にする場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【８２８５】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に非表示にされないようにしてもよいし、それよりも前に非表示にされるようにしてもよい。

【８２８６】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）として第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）が少なくとも表示されるが、第１態様及び第２態様のいずれとも異なる態様をさらに備えるようにしてもよい。所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）として第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）が少なくとも表示されるものであればよいが、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）とは異なる配色をさらに備えるようにしてもよい。また、ここでは、配色を異ならせることとしたが、これに限られず、形態などが異なるようにしてもよい。要は、態様が異なるものであればよい。

【８２８７】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定時間が経過するときに条件成立しない」とは、もともと条件成立しないことが決定されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されるようにすることで実現するようにしてもよいし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたことを契機として条件成立のタイミングを遅延等させることによって実現するようにしてもよい。

【８２８８】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときの受付後変化としての演出内容が可変される（第２Ｃ刀変化が生じることに加えて、第１Ｃ刀変化がさらに生じる演出内容へと可変される）ようにすることが望ましい。

【８２８９】

なお、このような構成を実現する手法としては、上述した各演出例にかかる構成のように、演出内容と発生条件とがそれぞれ異なる「第１Ｃ刀受付状態」と「第２Ｃ刀受付状態」とを備えるようにする手法のほか、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として一の種別のみを用意するが、当該一の種別の状態内のいずれの区間内で操作受付がなされたかに応じて、受付後変化を異ならせる」ようにする手法を採用することも可能である。

【８２９０】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させるようにす

ることが望ましい。
【８２９１】
なおこの場合、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じることとなることは言うまでもない（図２１９などを参照）。
【８２９２】
また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。
【８２９３】
また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｅ）及び図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ）などを参照）。
【８２９４】
また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい。
【８２９５】
また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立すると、これを契機として、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生可能であり、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として条件成立可能であるが、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されているなかで前記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）には、これを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６や、図２１２などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されているなかで前記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として条件成立することがないようになっており（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３

などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようになっており（図２１２などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。

【８２９６】

若しくは、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８２９７】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２９８】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８２９９】

ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８３００】

また、当該第２１構成Ｃ２１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８３０１】
当該第２１構成Ｃ２１に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第２２構成Ｃ２２～第２５構成Ｃ２５にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。
【８３０２】
また、例えば、第２２構成Ｃ２２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があり（図２０３（ｍ）などを参照）、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があるようにした（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。
【８３０３】
すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化

させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８３０４】

この点、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８３０５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８３０６】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８３０７】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間におい

て特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３０８】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図２３５（ｄ）に示される第１Ｃ刀受付状態や、図２３５（ｆ）に示される第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２３５（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）として発生する場合とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合（第２Ｃ刀受付状態）は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）として発生する場合とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【８３０９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８３１０】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８３１１】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生して

いる場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合（例えば、図２１２（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【８３１２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８３１３】

なお、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化（例えば、図１９６（ｄ）に示される第１Ｃ刀変化など）であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８３１４】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８３１５】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【８３１６】

また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しう

るものとして設定するようにしてもよい。
【８３１７】
　また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態）にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい。
【８３１８】
　若しくは、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８３１９】
　例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３２０】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３２１】
　ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【８３２２】
　また、当該第２２構成Ｃ２２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２２－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８３２３】

また、例えば、第２３構成Ｃ２３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【８３２４】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８３２５】

この点、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば

、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８３２６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８３２７】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８３２８】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３２９】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）

に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８３３０】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８３３１】

なお、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８３３２】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【８３３３】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【８３３４】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８３３５】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８３３６】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該

所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。

【８３３７】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。

【８３３８】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。

【８３３９】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【８３４０】

またこの場合、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８３４１】

またこの場合、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８３４２】

若しくは、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８３４３】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３４４】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３４５】

ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８３４６】

また、当該第２３構成Ｃ２３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２３－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８３４７】

また、例えば、第２４構成Ｃ２４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図

２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８３４８】

この点、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８３４９】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待

されるようになる。
【８３５０】
　また、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。
【８３５１】
　また、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。
【８３５２】
　このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【８３５３】
　また、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。
【８３５４】
　ただしこの場合、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３

５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８３５５】
　また、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８３５６】
　またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８３５７】
　若しくは、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８３５８】
　例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３５９】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３６０】
　ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【８３６１】
　また、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動

画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第２４構成Ｃ２４や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８３６２】

また、例えば、第２５構成Ｃ２５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）を参照）が生じうるようにした。

【８３６３】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑

化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８３６４】

この点、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８３６５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８３６６】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８３６７】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀

変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３６８】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）で「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れていたとしても、該特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図１９６（ｊ），（ｍ）や、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８３６９】

なおこの場合、オート連打機能を一旦機能させて、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了してオート連打機能が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【８３７０】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、オート連打機能が機能しない状態にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２１２～図２２７に示される例において、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８３７１】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付け自体が許容されない状態」のことを意味するものであってもよいし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（複数回許容、または１回だけ許容）されるが上記自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」のことを意味するものであってもよい。

【８３７２】

若しくは、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８３７３】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点で、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つオート連打機能が機能することにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立することがあるようにしてもよい（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８３７４】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３７５】
　ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【８３７６】
　またこの場合、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないこととなる（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８３７７】
　このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【８３７８】
　なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）

に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８３７９】

また、当該第２５構成Ｃ２５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第２５構成Ｃ２５やその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８３８０】

また、例えば、第２６構成Ｃ２６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対す

る操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（図２０３（ｅ），（ｉ），（ｊ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８３８１】

この点、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意することが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）。

【８３８２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８３８３】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８３８４】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持

する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８３８５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８３８６】

なお、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８３８７】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８３８８】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい

。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８３８９】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生しているなかで発生可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかでも発生可能であるようにすることが望ましい。

【８３９０】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生するタイミングで、その表示条件が満たされることもあり得るものとして用意するようにしてもよい。

【８３９１】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立可能であるようにすることが望ましい。またこの場合、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現するようにしてもよいし、第３Ｃ刀受付状態を備えないこととした上でこれを実現するようにしてもよい。なお、第３Ｃ刀受付状態を備えることとした上でこれを実現する場合、第１Ｃ刀受付状態については、第１Ｃボタン受付状態内で、第３Ｃ刀受付状態が発生していない状況下にあるなかでもその発生条件が満たされうるものとして用意することが望ましい。また、第３Ｃ刀受付状態については、例えば、演出判定などの結果や、遊技者の操作状況などに基づいて、タイミングｔＣａ２において発生する場合と発生しない場合との両方があるように用意することとなる。

【８３９２】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【８３９３】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【８３９４】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに該タイミング（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）が到来したことを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８３９５】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は

非表示にされるようにすることが望ましい。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【８３９６】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生してから、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされたとしても、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。

【８３９７】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に非表示にされないようにしてもよい。例えば、遊技者による操作受付や、演出判定や、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）の表示とは関係のない予め定められたタイミング（例えば、ＲＴＣ機能を用いた特定タイミングや、図柄の変動パターンの種別に応じて予め定められているタイミングなど）が到来したことを契機として非表示にされるものであってもよい。

【８３９８】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）として第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）が少なくとも表示されるが、第１態様及び第２態様のいずれとも異なる態様をさらに備えるようにしてもよい。所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）として第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）が少なくとも表示されるものであればよいが、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）とは異なる配色をさらに備えるようにしてもよい。また、ここでは、配色を異ならせることとしたが、これに限られず、形態などが異なるようにしてもよい。要は、態様が異なるものであればよい。

【８３９９】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立しない」とは、もともと条件成立しないことが決定されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示開始されるようにすることで実現してもよいし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示開始されたことを契機として条件成立タイミングを遅延等させることによって実現させるようにしてもよい

【８４００】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときの受付後変化としての演出内容が可変される（第２Ｃ刀変化が生じることに加えて、第１Ｃ刀変化がさらに生じる演出内容へと可変される）ようにすることが望ましい。

【８４０１】

なお、このような構成を実現する手法としては、上述した各演出例にかかる構成のように、演出内容と発生条件とがそれぞれ異なる「第１Ｃ刀受付状態」と「第２Ｃ刀受付状態」とを備えるようにする手法のほか、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として一の種別のみを用意するが、当該一の種別の状態内のいずれの区間内で操作受付がなされたかに応じて、受付後変化を異ならせる」ようにする手法を採用することも可能である。

【８４０２】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させるようにすることが望ましい。

【８４０３】

なおこの場合、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じることとなることは言うまでもない（図２１９などを参照）。

【８４０４】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。

【８４０５】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｅ）及び図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ）などを参照）。

【８４０６】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特

別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい。
【８４０７】
　また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立すると、これを契機として、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生可能であり、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないようになっており（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようになっており（図２１２などを参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときにはこれを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するようにすることが望ましい（図１９６などを参照）。
【８４０８】
　若しくは、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８４０９】
　例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４１０】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４１１】
　ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作

関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８４１２】

また、当該第２６構成Ｃ２６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２６－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８４１３】

当該第２６構成Ｃ２６に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第２７構成Ｃ２７～第３０構成Ｃ３０にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８４１４】

また、例えば、第２７構成Ｃ２７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される場合があり（例えば、図１９６や、図２２８などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３

（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があり（図２０３（ｍ）などを参照）、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合があるようにした（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８４１５】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対しても、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８４１６】

この点、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意することが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）。

【８４１７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８４１８】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよ

い。

【８４１９】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４２０】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図２３５（ｄ）に示される第１Ｃ刀受付状態や、図２３５（ｆ）に示される第３Ｃ刀受付状態など）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２３５（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）として発生する場合とがあり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合（第２Ｃ刀受付状態）は、当該状態において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われると、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されるオート連打機能が必ず機能するのに対し（例えば、図２３５（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生する場合（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）と、該操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）として発生する場合とがあり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態として発生した場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。

【８４２１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８４２２】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、必ず、オート連打機能が機能しない状態として発生している（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態として発生しているか、または所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されるがオート連打機能が機能しない状態として発生している）ようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８４２３】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されてオート連打機能が機能しうる状態として発生している場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｊ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されておらずオート連打機能が機能し得ない状態（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回しか許容されない状態）として発生している場合（例えば、図２１２（ｄ）～（ｆ），（ｊ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【８４２４】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能が搭載される遊技機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、緊張感を好適に提供するようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生したときには、安心感のあるもとでの遊技を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている間に限っては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を除くことが可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関してはオート連打機能が有効化されるか否かの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８４２５】

なお、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化（例えば、図１９６（ｄ）に示される第１Ｃ刀変化など）であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８４２６】

また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「特別変化」とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８４２７】
　また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【８４２８】
　また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【８４２９】
　また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間のうち上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態では、オート連打機能が機能する場合（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態）と機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）との両方があるようにしてもよい。特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が必ず許容されている状態（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態）にあるが、当該状態でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい。
【８４３０】
　若しくは、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８４３１】
　例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４３２】
　またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４３３】
　ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成

立することがないようにすることは言うまでもない。
【８４３４】
　また、当該第２７構成Ｃ２７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２７－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８４３５】
　また、例えば、第２８構成Ｃ２８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。
【８４３６】
　すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容さ

れる状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８４３７】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８４３８】

この点、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意することが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）。

【８４３９】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８４４０】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８４４１】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動

画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４４２】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８４４３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８４４４】

なお、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８４４５】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【８４４６】

また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。

【８４４７】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８４４８】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８４４９】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。
【８４５０】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。
【８４５１】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。
【８４５２】
　また、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。
【８４５３】
　またこの場合、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の

受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８４５４】

またこの場合、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８４５５】

若しくは、当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８４５６】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４５７】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４５８】

ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８４５９】

また、当当該第２８構成Ｃ２８や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成２８－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８４６０】

また、例えば、第２９構成Ｃ２９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前

記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８４６１】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８４６２】

この点、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示

される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意することが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）。

【８４６３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８４６４】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８４６５】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８４６６】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８４６７】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８４６８】

ただしこの場合、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他

の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８４６９】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８４７０】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８４７１】

若しくは、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８４７２】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４７３】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に

してこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４７４】

ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。

【８４７５】

また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８４７６】

また、例えば、第３０構成Ｃ３０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数配色のいずれかで表示可能とされ（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタ

ン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にある場合があるようになっており（図１９６（ｅ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）を参照）が生じうるようにした。

【８４７７】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して、いわゆるオート連打機能が有効化されうることとなり、これによって操作関連の遊技の難易度を低下させることができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関連した演出を複雑化させて演出を高めようとするにあたり、その複雑性によって遊技者の一部に遊技興趣が低下する事態が生じてしまうことを好適に抑制することが期待されるようになる。

【８４７８】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８４７９】

この点、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないものとして用意することが望ましい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）。

【８４８０】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから非表示にされるまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８４８１】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や

、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【８４８２】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４８３】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるか否かにかかわらず所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立しうるものであるが、第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがあるのに対し（図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときには条件成立することがないようになっており（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などで、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされるタイミングを参照）、且つ第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる時点で、自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化が複数回実行されているときには、これが特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対応するものであるかにかかわらず、条件成立することがないようにしてもよい。

【８４８４】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８４８５】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタ

ン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる時点で「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が現れていたとしても、該非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として（所定操作関連表示が非表示にされる所定条件が満たされたことを契機として）条件成立可能であるが、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行ってオート連打機能を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでは条件成立することがないようにすることがより望ましい（図１９６（ｊ），（ｍ）や、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８４８６】

なおこの場合、オート連打機能を一旦機能させて、その後、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了してオート連打機能が機能しないようにした場合は、該操作を終了した以降の「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとするとオート連打機能が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかで条件成立可能であるようにしてもよい。

【８４８７】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、オート連打機能が機能しない状態にあるなかでも条件成立可能であるが、当該状態であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持しているなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２１２～図２２７に示される例において、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８４８８】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付け自体が許容されない状態」のことを意味するものであってもよいし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容（複数回許容、または１回だけ許容）されるが上記自動操作受付（オート連打機能）が機能しない状態」のことを意味するものであってもよい。

【８４８９】

若しくは、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８４９０】

例えば、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８４９１】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないようにすることが望ましい（図

２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４９２】
ただし、これらの場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときに条件成立することとなり、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにすることは言うまでもない。
【８４９３】
また、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該第２９構成Ｃ２９や、上述した各演出例にかかる構成では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【８４９４】
またこの場合、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成（図２５４～図２５９に示される例）にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（例えば、図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化）が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないこととなる（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８４９５】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、

についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８４９６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８４９７】

また、当該第３０構成Ｃ３０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３０－Ｃやその別例では、「特定動画の表示にかかる開始条件」、「特定動画の表示が開始」、「特定動画が表示されている」、「特定動画が表示されない非動画区間」、及び「特定動画が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８４９８】

また、例えば、第３１構成Ｃ３１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画Ｔ

Ｄ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（図２０３（ｅ），（ｉ），（ｊ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８４９９】

この点、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）があるが、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付（オート連打機能）の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に条件成立することがないものとして用意することが望ましい（例えば、図２００（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５００】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５０１】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８５０２】

ただし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などにおいて、それらの有効期間が、特定時間よりも短く設定された場合の例など）。

【８５０３】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と

、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるが（図２３３（ｂ），（ｍ）や、図２３６（ｂ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が上記自動操作受付（オート連打機能）の機能の対象とされることなく１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５０４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり（例えば、図２２８～図２４０に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８５０５】

なお、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ

刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８５０６】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８５０７】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８５０８】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」として生じさせることも可能である。

【８５０９】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【８５１０】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８５１１】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態」が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）などを参照）。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【８５１２】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生した以降、当該状態が継続されているなかで上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。ただしこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として、非表示にする場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【８５１３】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８５１４】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５１５】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８５１６】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８５１７】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１

など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい（例えば、図１９６などを参照）。

【８５１８】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）においては、上記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合があり、当該状態にある場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過する（タイミングｔＣａ３－１が到来する）ことを契機として条件成立することがあるが（例えば、図１９６などを参照）、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が上記自動操作受付（オート連打機能）の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過する（タイミングｔＣａ３－１が到来する）ことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。

【８５１９】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状態が継続しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようにするのに対し（例えば、図２１２などを参照）、第２特別許容状態態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状態が継続しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生しうるようにすることがより望ましい（例えば、図１９６などを参照）。

【８５２０】

若しくは、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８５２１】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５２２】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作

を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５２３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５２４】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５２５】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５２６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとし

て第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８５２７】

また、当該第３１構成Ｃ３１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８５２８】

当該第３１構成Ｃ３１に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第３２構成Ｃ３２及び第３３構成Ｃ３３にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８５２９】

また、例えば、第３２構成Ｃ３２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にお

いては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【８５３０】

すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８５３１】

この点、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）があるが、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付（オート連打機能）の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に条件成立することがないものとして用意することが望ましい（例えば、図２００（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５３２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５３３】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８５３４】

ただし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などにおいて、それらの有効期間が、上記特定時間よりも短く設定された場合の例など）。

【８５３５】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５３６】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８５３７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８５３８】

なお、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８５３９】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。

【８５４０】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【８５４１】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８５４２】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８５４３】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。
【８５４４】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。
【８５４５】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。
【８５４６】
　また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。
【８５４７】
　またこの場合、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の

各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８５４８】

またこの場合、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８５４９】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８５５０】

若しくは、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８５５１】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５５２】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（

第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５５３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５５４】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５５５】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５５６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８５５７】

また、当該第３２構成Ｃ３２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３２－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特

定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８５５８】

また、例えば、第３３構成Ｃ３３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８５５９】

この点、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるもの

であり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）があるが、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた前記受付後変化が前記自動操作受付（オート連打機能）の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１）に条件成立することがないものとして用意することが望ましい（例えば、図２００（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５６０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５６１】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８５６２】

ただし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあったときには、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することはないようにしてもよい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などにおいて、それらの有効期間が、上記特定時間よりも短く設定された場合の例など）。

【８５６３】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８５６４】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８５６５】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイ

ミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８５６６】

ただしこの場合、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８５６７】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８５６８】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８５６９】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８５７０】

若しくは、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８５７１】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５７２】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８５７３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５７４】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化

（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５７５】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５７６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８５７７】

また、当該第３３構成Ｃ３３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３２－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８５７８】

また、例えば、第３４構成Ｃ３４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生

させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり（図２２８～図２４０などに示した例を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（図２０３（ｅ），（ｉ），（ｊ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８５７９】

この点、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが（図２２８～図２４０に示した例を参照）、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（例えば、図２３２（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５８０】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８５８１】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時

点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２３３（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５８２】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８５８３】

ただしこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、（該操作の受付けに応じた受付後変化（遊技者が感知可能な変化）が何ら生じないにもかかわらず）条件成立することがないようにすることが望ましい（図２１６や図２１７などを参照）。

【８５８４】

またこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了していたとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２１７（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８５８５】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるが（図２３３（ｂ），（ｍ）や、図２３６（ｂ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（

第１Ｃ刀変化）が上記自動操作受付（オート連打機能）の機能の対象とされることなく１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５８６】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり（例えば、図２２８～図２４０に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８５８７】

なお、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８５８８】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８５８９】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下に

おいても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８５９０】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」として生じさせることも可能である。

【８５９１】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状態にあるときと、該状態にないときとのいずれにおいても発生可能であるようにすることが望ましい。

【８５９２】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態が発生してから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８５９３】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態」が発生してから特定時間が経過すると、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）などを参照）。また、さらに言えば、上記特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、これを契機として、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は非表示にされうる場合（図１９６～図２６０に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）と、非表示にされない場合（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８６などに示される第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにすることより望ましい。

【８５９４】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されており且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生した以降、当該状態が継続されているなかで上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、これを契機として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されなくなることはないようにすることが望ましい。ただしこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、上記特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ことを契機として、非表示にする場合があるようにしてもよいことは上述した通りである。

【８５９５】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ

刀受付状態）」が発生していたとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）の終了条件が満たされる場合があるようにしてもよい。ただしこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、こうして当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了しているなかで（発生していないなかで）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの上記特定時間が経過したとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８５９６】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８５９７】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８５９８】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８５９９】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８６００】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（１回だけ許容されて該受付けが）なされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化（例えば、第１Ｃ受付後表示Ｃ１

など））を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回許容されて該受付けが）なされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化（例えば、第２Ｃ受付後表示Ｃ２など））を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」とが用意されるようにすることが望ましい（例えば、図１９６などを参照）。

【８６０１】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）においては、上記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合があり、当該状態にある場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過する（タイミングｔＣａ３－１が到来する）ことを契機として条件成立することがあるが（例えば、図１９６などを参照）、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が上記自動操作受付（オート連打機能）の機能により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過する（タイミングｔＣａ３－１が到来する）ことを契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００などを参照）。

【８６０２】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状態が継続しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しうるようにするのに対し（例えば、図２１２などを参照）、第２特別許容状態態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立したときには、これを契機として、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状態が継続しているなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生しうるようにすることがより望ましい（例えば、図１９６などを参照）。

【８６０３】

若しくは、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８６０４】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８６０５】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させる

ことにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８６０６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８６０７】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６０８】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８６０９】

また、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３４－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動

画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８６１０】

当該第３４構成Ｃ３４に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第３５構成Ｃ３５及び第３６構成Ｃ３６にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８６１１】

また、例えば、第３５構成Ｃ３５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり（図２２８～図２４０などに示した例を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されて、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときは、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間や、図２３５に示されるタイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６や図２３５に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。

【８６１２】
すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合との両方があるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【８６１３】
この点、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが（図２２８～図２４０に示した例を参照）、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（例えば、図２３２（ｉ），（ｊ），（ｍ））。
【８６１４】
このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【８６１５】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２３３（ｉ），（ｊ），（ｍ））。
【８６１６】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８６１７】
ただしこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、（該操作の受付けに応じた受付後変化（遊技者が感知可能な変化）が何ら生じないにもかかわらず）条件成立することがないようにすることが望ましい（図２１６や図２１７などを参照）。

【８６１８】
またこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了していたとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２１７（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８６１９】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０に示した例の場合）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図２２８に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるが（図２３３（ｂ），（ｍ）や、図２３６（ｂ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が上記自動操作受付（オート連打機能）の機能の対象とされることなく１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６２０】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり（例えば、図２２８～図２４０に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」によ

る演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８６２１】

また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６２２】

また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合（例えば、図２２８～図２４０などを参照）、当該状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（タイミングｔＣａＹ１～ｔＣａ３－１の期間や、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（タイミングｔＣａ４以降の期間）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにしてもよい。

【８６２３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８６２４】

なお、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、当該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生することなく、当該状態（第２Ｃ刀受付状態）が終了する場合もあり得ることは言うまでもない。

【８６２５】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内（図２２８に示した例では、タイミングｔＣａ１）において事前発生するものとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ（例えば、第１Ｃボタン受付状態が発生しているなかでのみ）特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することとしてもよい。
【８６２６】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにしてもよい。
【８６２７】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８６２８】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるときに限り、条件成立可能であるようにすることが望ましい。
【８６２９】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態で該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０６（ｏ）を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない前記非動画区間内で該受付けがなされたとき（例えば、図２０５（ｏ）を参照）とで、前記受付後変化としての態様が異なるようにしてもよい。
【８６３０】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間、及び特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間のいずれで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合であっても、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはなく、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる変化のみが生じるようにしてもよい。
【８６３１】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで、受付後変化として同じ態様が現れうるようにしてもよい。
【８６３２】
また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【８６３３】

またこの場合、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【８６３４】

またこの場合、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【８６３５】

また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８６３６】

若しくは、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８６３７】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８６３８】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるな

かでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８６３９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８６４０】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６４１】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８６４２】

また、当該第３５構成Ｃ３５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動

画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８６４３】

また、例えば、第３６構成Ｃ３６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ｂ），（ｍ）などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、前記特定時間が経過したときに条件成立可能であり（図２２８～図２４０などに示した例を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８６４４】

この点、当該第３４構成Ｃ３４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成

にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、特定時間が経過したときに条件成立可能であるが（図２２８～図２４０に示した例を参照）、特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（例えば、図２３２（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８６４５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８６４６】

また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化が複数回実行される状況が現れていなかったとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２３３（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８６４７】

また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８６４８】

ただしこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、（該操作の受付けに応じた受付後変化（遊技者が感知可能な変化）が何ら生じないにもかかわらず）条件成立することがないようにすることが望ましい（図２１６や図２１７などを参照）。

【８６４９】
　またこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していないなかで（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていないなかで）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作が行われたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了していたとしても条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図２１７（ｉ），（ｊ），（ｍ））。
【８６５０】
　また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。
【８６５１】
　このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。
【８６５２】
　また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２３６（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。
【８６５３】
　ただしこの場合、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８６５４】
　また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第３特別変化（第３Ｃ刀変化）とが実行されるが（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した上記非動画区間（タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３６（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８６５５】
　またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図２２８に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化として、第３特別変化（第３Ｃ刀変化）は実行されるが、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が実行されることがないようにすることが望ましい（例えば、図２３４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
【８６５６】
　また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【８６５７】
　若しくは、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８６５８】
　例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化が複数回実行される状況が現れたとしても、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。
【８６５９】
　すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（

特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８６６０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８６６１】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６６２】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８６６３】

また、当該第３６構成Ｃ３６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３６－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成

を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８６６４】

また、例えば、第３７構成Ｃ３７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるとき（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）と、該状態にないとき（例えば、図２１２～図２２７に示した例を参照）とのいずれにおいても条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態は発生可能とされ（例えば、図２４１～図２５３に示した例を参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして第１特別変化（例えば、第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（例えば、図２４８（ａ），（ｊ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８６６５】

この点、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８６６６】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン

受付状態を備えることとした場合の例）。

【８６６７】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６６８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８６６９】

なお、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２３５（ｌ）～（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）において特別操作

手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい。

【８６７０】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

【８６７１】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８６７２】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。

【８６７３】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り、条件成立しうるものとして設定するようにすることが望ましい。

【８６７４】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の発生条件については、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されていない状況下にあるとき（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されている状況下にあるとき（例えば、図２４１～図２５３に示した例を参照）とのいずれの状況下にあるなかでも満たされうるように設定することが望ましい。

【８６７５】

この点、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生して、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示した例にお

いて、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【８６７６】

なお、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」については、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでその発生条件が満たされて発生する場合（図２４１～図２５３に示した例を参照）と、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されてから非表示にされるまでの間にその発生条件が満たされずに発生しない場合（図２１２～図２２７に示した例を参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【８６７７】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２３３（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８６７８】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８６７９】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の発生条件については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるなかでも満たされうるように設定することが望ましい（例えば、図２７３や、図２８０や、図２８７に示した例などを参照）。

【８６８０】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の終了条件については、当該「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しており、且つ「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示した第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示した第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示した第５Ｃボタン受付状態など）」が発生しているなかでも、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示した第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示した第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示した第５Ｃボタン受付状態など）」を継続したままで、満たされうるように設定することが望ましい。

【８６８１】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、第１Ｃボタン受付状態にかかる構成として、図２８８～図２９０に示した例を採用したとすると、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態とがいずれも発生している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示は開始されうることとなる（図２８９や図２９０などを参照）。ただしこの場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第１Ｃボタン変化）が生じているなかでも、その動画にかかる表示を開始可能であるのに対し（例えば、図２９０に示した例において、第１Ｃボタン変化にかかる実行時間が、タイミングｔＣａ３－１を仮に跨いでいたとしても、タイミングｔＣａ３－１で特定動画（特定動画ＴＤ）は表示開始されるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じているなかでは、その動画にかかる表示を開始することがないようにすることが望ましい（例えば、図２００に示した例と同様）。

【８６８２】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の開始条件が成立するときには、これを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生することはないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）については、これが必ず発生するように設定してもよい（例えば、図１９６～図２５３に示した例を参照）。

【８６８３】

また、当該第３７構成Ｃ３７にかかる構成においても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８６８４】

また、当該第３７構成Ｃ３７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成３７－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８６８５】

当該第３７構成Ｃ３７に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第４０構成Ｃ４０及び第４７構成Ｃ４７にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８６８６】

また、例えば、第４０構成Ｃ４０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化

を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生するか否かにかかわらず、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８６８７】

この点、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８６８８】

また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状態にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されており且つ特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるなかで、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生可能であり（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、受付後変化の１つとして特別表示（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにすることがより望ましい。

【８６８９】

この点、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例

や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８６９０】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８６９１】

この点、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生するか否かにかかわらず、条件成立可能であるものとして用意することが望ましい（図２１２～図２２７に示した例や、図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）。

【８６９２】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８６９３】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８６９４】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成を採用することとした場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀

受付状態）にあり且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるなかで、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合（例えば、図２８９や図２９０などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで終了されうるが、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）は、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで終了されることがないようにしてもよい。

【８６９５】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したとしても（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示される状況が現れないときには上記タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立する場合（例えば、図２２８に示した例を参照）があるが、当該状態内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示される状況が現れたときには上記タイミングが到来したことを契機として条件成立することがないものとして設定するようにすることが望ましい（例えば、図２３１に示した例などを参照）。

【８６９６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生したとしても、該特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される場合があるが、この場合とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」が秘かに発生したとき（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示される状況が現れずに発生したとき）に限られるようになっているから、遊技者は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないときの遊技興趣の低下を抑制することはもとより、逆に、遊技興趣の向上を図ることすらも期待できるようになる。

【８６９７】

なお、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立しうるが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、該タイミングが到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８６９８】

ただしこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）がいずれも表示状態にあるなかで、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）

の表示にかかる開始条件」が条件成立することがないようにすることがより望ましい。例えば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、第２Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｄ４などを跨るかたちで表示可能とされており、この際は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされることとなるが、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することがないことは言うまでもない。また、第１Ｃボタン受付状態においても、図２０５に示した例では、タイミングｔＣａ１Ｂにおいて、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされる演出進展が現れているが、この際、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することがないことは言うまでもない。

【８６９９】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとした場合は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたとき、該タイミングが到来したことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されない場合との両方があるようにすることが望ましい。例えば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、第２Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣｄ４などを跨るかたちで表示可能とされており、この際は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされることとなるが、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することがないことは言うまでもない。これに対し、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとした場合は、タイミングｔＣａ３－１を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示可能とされており、この際は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされることとなるが、該タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することとなることは上述した通りである。なお、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとした場合であっても、図２０５に示した例で描写されている演出進展が現れうることは言うまでもない。すなわちこの場合、タイミングｔＣａ１Ｂにおいて、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされる演出進展が現れているが、この際、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立することはない。

【８７００】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなさ

れた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生して、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示した例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【８７０１】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成を採用することとした場合、特定動画（特定動画ＴＤ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にないときとのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるが、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生している状況下にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないようにしてもよい。

【８７０２】

また、以下に列記する各構成については、当該第４０構成Ｃ４０にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第４１構成Ｃ４１～第４７構成Ｃ４７にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」として生じさせることも可能である。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の発生条件については、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されていない状況下にあるとき（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されている状況下にあるとき（例えば、図２４１～図２５３に示した例を参照）とのいずれの状況下にあるなかでも満たされうるように設定することが望ましい。
・「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生して、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示した例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。
・「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」については、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでその発生条件が満たされて発生する場合（図２４１～図２５３に示した例を参照）と、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されてから非表示にされるまでの間にその発生条件が満たされずに発生しない場合（図２１２～図２２７に示した例を参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【８７０３】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８７０４】

また、当該第４０構成Ｃ４０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４０－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８７０５】

また、例えば、第４１構成Ｃ４１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化

を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときと、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときとのいずれにおいても表示開始されうる遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８７０６】

この点、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい。

【８７０７】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８７０８】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作

の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８７０９】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７１０】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８７１１】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８７１２】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに特別操作手段（

刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるか否かにかかわらず、該特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立可能であるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合であっても、特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１３（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８７１３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８７１４】

なお、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８７１５】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始され、該表示開始から特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい（図２２８～図２４０に示した例を参照）。

【８７１６】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状況下にある場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例などを参照）とのいずれであっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８７１７】

なお、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として、表示状態から非表示にされないようにしてもよい。

【８７１８】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８７１９】

また、当該第４１構成Ｃ４１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８７２０】

また、例えば、第４２構成Ｃ４２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときと、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときとのいずれにおいても表示開始されうる遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表

示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８７２１】

この点、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい。

【８７２２】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８７２３】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８７２４】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状

態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７２５】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８７２６】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。

【８７２７】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｉ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合と

では、いずれの場合であっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ４や、図２６０（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１（ｈ），（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。

【８７２８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８７２９】

なお、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８７３０】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始され、その後、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときにも、これを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示した例や、図２２８～図２４０に示した例を参照）。

【８７３１】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状況下にある場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００

１）に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例などを参照）とのいずれであっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に、これを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい。

【８７３２】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状況下にある場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例などを参照）とのいずれであっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能なものとして用意することが望ましい。

【８７３３】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるための条件としては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてからの時間経過を契機として成立するものでなくてもよい。例えば、ＲＴＣ機能などを用いた特定タイミングが到来したことを契機として成立するものであってもよいし、演出判定や、遊技者による操作受付を契機として成立するものとして用意するようにしてもよい。

【８７３４】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８７３５】

また、当該第４２構成Ｃ４２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４２－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８７３６】

また、例えば、第４３構成Ｃ４３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関

連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８７３７】

この点、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい。

【８７３８】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８７３９】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８７４０】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８７４１】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７４２】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８７４３】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６～図２１１に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配

色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（例えば、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８７４４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８７４５】

またさらに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【８７４６】

なお、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８７４７】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として、表示状態から非表示にされないようにしてもよい。

【８７４８】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８７４９】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７５０】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８７５１】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８７５２】

若しくは、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８７５３】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８７５４】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されてい

るなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８７５５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８７５６】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７５７】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７５８】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタ

イミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８７５９】

また、当該第４３構成Ｃ４３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４３－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８７６０】

また、例えば、第４４構成Ｃ４４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（図１９６（ｉ）～図２５９（ｉ）に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０（ｉ）～図２６６（ｉ）に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４（ｉ）～図２８０（ｉ）などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣

のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。
【８７６１】
この点、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい。
【８７６２】
また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【８７６３】
また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。
【８７６４】
また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。
【８７６５】
また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操

作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７６６】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８７６７】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたことを契機として条件成立しうるものであり（タイミングｔＣａ３－１）、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６～図２１１に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立することがあるのに対し（例えば、図１９６（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい（例えば、図２６０（ｉ）に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４（ｉ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣｄ４などを参照）。

【８７６８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【８７６９】

またさらに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【８７７０】

なお、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適

に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８７７１】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるための条件としては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてからの時間経過を契機として成立するものでなくてもよい。例えば、ＲＴＣ機能などを用いた特定タイミングが到来したことを契機として成立するものであってもよいし、演出判定や、遊技者による操作受付を契機として成立するものとして用意するようにしてもよい。

【８７７２】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８７７３】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７７４】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８７７５】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照

）。
【８７７６】
若しくは、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８７７７】
例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。
【８７７８】
すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。
【８７７９】
このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【８７８０】
すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れる

が、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７８１】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７８２】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８７８３】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【８７８４】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【８７８５】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２

８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【８７８６】

また、当該第４４構成Ｃ４４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４４－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８７８７】

また、例えば、第４５構成Ｃ４５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能しうる遊技機であって（図２０３（ｍ）などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示し

た例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８７８８】

この点、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にある場合（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にない場合（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれであっても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい。

【８７８９】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８７９０】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８７９１】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８７９２】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－

１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８７９３】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８７９４】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にある場合があるものであるが（例えば、図１９６～図２１１に示した例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が上記自動操作受付の機能（オート連打機能）により複数回実行されている状況下にあるときには、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）。

【８７９５】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでは、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８７９６】

またさらに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【８７９７】

なお、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示され

ている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８７９８】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として、表示状態から非表示にされないようにしてもよい。

【８７９９】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８８００】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８０１】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８８０２】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【８８０３】

若しくは、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８８０４】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８８０５】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８８０６】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８８０７】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化

（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８０８】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８０９】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８８１０】

また、当該第４５構成Ｃ４５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８１１】

また、例えば、第４６構成Ｃ４６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される場合（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）があり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）において前記特別操作手段（刀装飾体５０

０１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能しうる遊技機であって（図２０３（ｍ）などを参照）、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、条件成立可能であり（図２２８～図２４０に示した例を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされ（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ａ），（ｂ），（ｌ）～（ｎ）に示した例などを参照）が現れうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８８１２】

この点、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、条件成立可能であるものとして用意するようにすることが望ましい（図２２８～図２４０に示した例を参照）。

【８８１３】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８８１４】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８８１５】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作

の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８８１６】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合（例えば、図２２８（ｅ）などを参照）、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じうるが（図２３３（ｊ），（ｍ）や、図２３６（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、上記受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２３５（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８１７】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されることを待つことに演出的な意味が生じるようになるから、どのように演出を進展させるかについての戦略の幅が広がるようになり、ひいては操作に関連した遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８８１８】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立可能であるが（図２２８～図２４０に示した例を参照）、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れたときには、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき）に条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい（図２３２や図２３３などを参照）。

【８８１９】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させるようなことがあると、該特定時間が経過したときにこれを契機として特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることがなくなるから、「特別操作手段（刀装飾体５００１）

に対する操作の受付けが許容される状態」が発生したときには、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも特定動画（特定動画ＴＤ）が開始される機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８８２０】

また、こうして上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点においては上記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れていなかったとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立することがなくなるようにすることが望ましい（例えば、図２３３（ｉ），（ｊ），（ｍ））。

【８８２１】

この点、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されるタイミングを跨ぐかたちで当該状態を継続する場合（図１９６～図２１１に示した例などを参照）もあるし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで発生条件が満たされて発生する場合（図２２８～図２４０に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）もあるものであることは上述した通りである。これに対し、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」の終了条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで満たされて当該状態が終了する場合もあるし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされた以降で満たされて当該状態が終了する場合もあるようにするようにしてもよい。

【８８２２】

そしてこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けに応じた上記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される状況が現れたときには、その後、上記特定時間が経過するまでの間に「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が終了し且つ該状態が発生していないなかで上記特定時間が経過したとしても条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８８２３】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあったとしても、該特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）。

【８８２４】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容され

る状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。ただし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない場合であっても、特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作を行ったことが検出されたときには、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立することがなくなるようにすることが望ましい（例えば、図２１２～図２２７に

【８８２５】

またさらに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【８８２６】

なお、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。また、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下においても、その態様（第１態様（態様ＫＭＧ１）、第２態様（態様ＫＭＧ２））にかかわらず、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない場合との両方あるようにすることが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の意識を好適に維持する上で望ましい。

【８８２７】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として、表示状態から非表示にされないようにしてもよい。

【８８２８】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したときは、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい（図２１２～図２２７に示される第１Ｃボタン受付状態にかかる例などを参照）。

【８８２９】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、当該状態内で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしても、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じず、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとしての第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにすることが望ましい（図２１９

（ｌ），（ｍ）などを参照）。
【８８３０】
　また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特定時間が経過するまでの非動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持しているときには、どれだけ時間が経過したとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされることがないようにすることが望ましい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。
【８８３１】
　また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれにおいても条件成立可能であるが（例えば、図１９６～図２１１に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例と、図２１２～図２２７に示される「第１Ｃボタン受付状態」にかかる例などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生している状況下にあるときと該状況下にないときとのいずれであっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下にあるときは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ｂ），（ｊ）などを参照）。
【８８３２】
　若しくは、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８８３３】
　例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生し且つ上記特定時間が経過するまでの間に自動操作受付の機能（オート連打機能）により受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況が現れたとしても（例えば、図２５４に示した例において、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了した場合など）、上記特定時間が経過したとき（所定操作関連表示が表示開始されてから特定時間が経過したとき）にこれを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。
【８８３４】
　すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化を複数回実行させた場合であっても、上記特定時間が経過したときに条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるの

に対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））を複数回実行させたが、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し且つ該特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）においては上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を再び行ったとしても、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示した例のうち、タイミングｔＣａ３－１が到来するよりも前に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を終了し、該終了した状態でタイミングｔＣａ３－１が到来した場合に相当）。

【８８３５】

このような構成によれば、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）にオート連打機能を機能させた場合であっても、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８８３６】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８８３７】

また、当該第４６構成Ｃ４６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４６－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８３８】

また、例えば、第４７構成Ｃ４７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるときと、該状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときとのいずれにおいても条件成立可能であり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされており（図２４１～図２５３に示した例を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２４１（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２４１（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２４８（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８８３９】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。

【８８４０】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じ（図２０３（ｌ），（ｍ）や、図２４８（ｌ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は生じうるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにしてもよい（図２０１（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８４１】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８８４２】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（図２０２（ｌ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｌ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８８４３】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（図２０４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８８４４】

ただしこの場合、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図２３６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｌ）～（ｎ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２０２（ｌ）～（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２０３や図２４８（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８８４５】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８８４６】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付

状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

【８８４７】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生して、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示した例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【８８４８】

若しくは、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８８４９】

例えば、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあり且つ自動操作受付（オート連打機能）が機能することにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されている状況下にあるなかでも、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立することがあるようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８８５０】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２０３に示した例の場合と同様の演出進展や、図２５９に示した演出進展が現れうるのに対し）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上

記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４などを参照）。

【８８５１】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【８８５２】

すなわちこの場合、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は自動操作受付（オート連打機能）が（動画区間が現れる前後にわたって継続するかたちで）機能することにより複数回生じるものの、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないこととなる（図２５４（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８５３】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないなかで、非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持している状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされて動画区間が現れるが、この際、維持している特定操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとしての第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じないことはもとより、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）も生じることがないこととなる（図２５５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８５４】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【８８５５】

また、当該第４７構成Ｃ４７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４７－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動

画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８５６】

また、例えば、第４８構成Ｃ４８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）として発生可能であり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）として発生可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで条件成立可能であり（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）、該第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８８５７】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生する場合、該第１複数回受付状態は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」として必ず発生するようになっており、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生する場合、該第２複数回受付状態は、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」として発生する場合と、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）」として発生する場合との両方があるようにすることが望まし

い。

【８８５８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【８８５９】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間とが現れる場合があり（例えば、図２２８などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じうるが（例えば、図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８６０】

このような構成によれば、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合には、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化されることとなる（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じることとなる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８８６１】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）においては、その動画にかかる表示を開始することがないようにすることが望ましい（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）。

【８８６２】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第２単発受付状態）において、その動画にかかる表示を開始する場合がある（開始条件が成立可能である）ようにすることが望ましい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態）。

【８８６３】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態においては、その動画にかかる表示を開始することがない（開始条件が成立しない）ようにすることが望ましい。

【８８６４】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においては、その動画にかかる表示を開始することがある（開始条件が成立可能である）ようにすることが望ましい。

【８８６５】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」が発生しているなかで発生可能であるようにすることが望ましい。

【８８６６】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内で発生可能であるが、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では発生することがないようにすることが望ましい（図２６７や図２７４などを参照）。

【８８６７】

また、以下に列記する各構成については、当該第４８構成Ｃ４８にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第４９構成Ｃ４９～第５１構成Ｃ５１にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

【８８６８】

・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」においては当該状態内で条件成立可能であるのに対し、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」においては当該状態内で条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５０

０１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にある場合と該「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にある場合とのいずれにおいても条件成立可能であり、且つ「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」が発生している状況下にある場合には条件成立することがなく、該「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」が発生していない状況下にある場合に限り条件成立可能であるようにすることが望ましい。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも発生可能とされるが、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでは発生可能とされないようにすることが望ましい。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで発生する場合があり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで表示開始される場合があるが、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されたときには、該「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しており且つ特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されることがないようにしてもよい。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで発生する場合があり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで表示開始される場合があるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生したときには、該「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生する時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示

状態にあることがないようにしてもよい。
・「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」内で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合があり、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」内で所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されない場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態を、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合など）があるようにしてもよい。そしてこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されることなく「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態）」が発生するときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容されることを示唆する所定の発光演出が実行されるのに対し、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されることなく「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生するときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容されることを示唆する発光演出を含めて何らの演出も実行されないようにしてもよい。
・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて（第１Ｃ刀操作検出情報など）、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「特別変化」として生じさせることも可能である。
【８８６９】
　また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成とし

て、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８８７０】

また、当該第４８構成Ｃ４８や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４８－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８７１】

また、例えば、第４９構成Ｃ４９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）として発生可能であり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）として発生可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているとき（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）と、該第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、条件成立可能であり、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないときに前記特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされており（図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、前記受付後変化の１つとして特別変化（図２４８（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８８７２】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生する場合、該第１複数回受付状態は、「特別操作手段（

刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」として必ず発生するようになっており、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生する場合、該第２複数回受付状態は、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」として発生する場合と、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）」として発生する場合との両方があるようにすることが望ましい。

【８８７３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【８８７４】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（例えば、図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８７５】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していないときに特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始された場合であっても、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生可能であり（図２４１～図２５３に示した例を参照）、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生して、「第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示し

た例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【８８７６】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）においては、その動画にかかる表示を開始することがないようにすることが望ましい（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）。

【８８７７】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第２単発受付状態）において、その動画にかかる表示を開始する場合がある（開始条件が成立可能である）ようにすることが望ましい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態）。

【８８７８】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態においては、その動画にかかる表示を開始することがない（開始条件が成立しない）ようにすることが望ましい。

【８８７９】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態においては、その動画にかかる表示を開始することがある（開始条件が成立可能である）ようにすることが望ましい。

【８８８０】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８８８１】

また、当該第４９構成Ｃ４９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成４９－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８８２】

また、例えば、第５０構成Ｃ５０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化

を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）として発生可能であり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）として発生可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで条件成立可能であり（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）、該第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始された場合、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）などを参照）が生じうるようになっており、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ１までの期間や、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。すなわちこの場合、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８８８３】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生する場合、該第１複数回受付状態は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」として必ず発生するようになっており、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生する場合、該第２複数回受付状態は、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」として発生する場合と、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）」として発生する場合との両方があるようにすることが望ましい。

【８８８４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複

数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【８８８５】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（タイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（例えば、図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８８８６】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間や、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ１までの期間や、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ４以降の期間など）との両方があるが、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【８８８７】

このような構成によれば、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８８８８】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし（例えば、図１９６（ｇ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ１などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することが望ましい。

【８８８９】
　また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。
【８８９０】
　またこの場合、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。
【８８９１】
　またこの場合、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。
【８８９２】
　また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対して操作の受付けがなされた場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されることがないようにしてもよい。
【８８９３】
　ただし、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされた場合は、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されることがないのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作の受付けがなされた場合は、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始される場合と、該特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときには、特に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。
【８８９４】
　また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない区間にあり且つ所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にある場合は、当該状態において所定操作手段（操作ボタ

ン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持すると、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）と、該オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにしてもよい。これに対し、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される区間にあるときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持したとしても、受付後変化が複数回実行されるオート連打機能が機能することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９６～図２５９に示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）。

【８８９５】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生しており、且つ「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生している状況下にあるとき、当該動画区間が継続しているなかで、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態」についてはその終了条件が満たされることはないが、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」についてはその終了条件が満たされて状態終了する場合があるようにしてもよい。

【８８９６】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも必ず許容される状態にあるが、複数回許容されることはなく１回だけ許容されるようにしてもよい（例えば、図１９６～図２５９に示した例などを参照）。

【８８９７】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８８９８】

また、当該第５０構成Ｃ５０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５０－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８８９９】

また、例えば、第５１構成Ｃ５１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、これに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動

画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される第１複数回受付状態が発生する場合、該第１複数回受付状態は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）として発生可能であり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される第２複数回受付状態が発生する場合、該第２複数回受付状態は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたとしたら該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて前記受付後変化を複数回生じさせる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）として発生可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで条件成立可能であり（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）、前記第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－１）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間に移行する態様（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ３－２）とがそれぞれ現れる場合があり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときに前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記受付後変化の１つとして特別変化（例えば、図２３５（ｌ）～（ｍ）などを参照）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８９００】

また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生する場合、該第１複数回受付状態は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」として必ず発生するようになっており、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生する場合、該第２複数回受付状態は、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしたらその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じる第２自動複数回受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」として発生する場合と、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に操作状態にしてこれを維持したとしてもその操作状態の検出に基づいて受付後変化が複数回生じることがない第２非自動複数回受付状態（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態）」として発生する場合との両方があるようにすることが望ましい。

【８９０１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第１複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が有効化されることが保証されるから安心して遊技を行うことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２複数回受付状態）が発生するときには、いわゆるオート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感についてもこれを好適に付与することが期待されるようになる。

【８９０２】

また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）と、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔａ３－２）とが現れる場合があり、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（例えば、図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８９０３】

また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることはないようにすることが望ましい（図２０１（ｊ），（ｌ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）

【８９０４】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【８９０５】

また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（例えば、図２０４（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【８９０６】

ただしこの場合、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｌ）～（ｎ）を参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２０２（ｌ）～（ｎ）を参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【８９０７】
　また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持した場合は、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）を参照）。
【８９０８】
　またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持したときには、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じるようにしてもよい。
【８９０９】
　また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持した場合は、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じるようにしてもよい（例えば、図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。
【８９１０】
　また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１自動複数回受付状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を操作状態にしてこれを維持した場合は、その操作状態の検出に基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じるようにしてもよい（例えば、図２０４（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）。
【８９１１】
　また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【８９１２】
　また、当該第５１構成Ｃ５１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光

部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８９１３】

また、例えば、第５２構成Ｃ５２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるとき（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）と、該状況下にないとき（例えば、図１９６（ｃ），（ｊ）を参照）とのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【８９１４】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８９１５】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持されたままの状況下においても、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始可能であるが、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）にあるようにしてもよい（図２０７（ｇ）や、図２２３（ｇ）や、図２３９（ｇ）や、図２５２（ｇ）などを参照）。

【８９１６】

なお、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）を、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態内でのみ表示可能なもの」として用意することとした場合には、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）」が一旦発生してしまうと、該状態内で所定操作手段（操作ボタン４１０）を上記所定操作状態に維持する操作が行われた時点で、当該状態が終了することとなり、ひいては当該状態内で特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがなくなることとなる。したがって、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を上記所定操作状態に維持する操作が事前に行われている状況下にあるなかで、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）」が発生した場合に限り、「所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持されたままの状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される」といった演出状況が現れうるようにすることが望ましい。

【８９１７】

ただしこの場合、所定操作手段（操作ボタン４１０）を上記所定操作状態に維持する操作が事前に行われている状況下にあるなかで、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態」が発生したときには、該状態内で、所定操作手段（操作ボタン４１０）は上記所定操作状態に操作されている状況下にあることとなるが、該操作についてはこれを有効操作として判定（操作受付（受付有効判定））しないように設定しておくことが求められることは言うまでもない。

【８９１８】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとした場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときも、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始可能であるようにすることが可能であるとともに（図２５４（ａ），（ｂ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされて、該受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようにしてもよい（図２５８（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）。

【８９１９】

ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされて、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、該第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じることはないようにすることが望ましい。

【８９２０】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態

にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８９２１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【８９２２】

また、以下に列記する各構成については、当該第５２構成Ｃ５２にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第５３構成Ｃ５３～第５９構成Ｃ５９にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

【８９２３】

・特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したとき（タイミングｔＣａ３－１）は、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させうるようにすることが望ましい（図２１２や、図２４１などを参照）。

・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときに「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示開始にかかる条件」が成立したとき（タイミングｔＣａ３－１）は、該条件成立を契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第２Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるままで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させる場合（図２１２や、図２４１などを参照）と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」を発生させない場合（図２５５や、図２５７や、図２５８などを参照）との両方があるようにしてもよい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機（タイミン

ｇｔＣａ３－１）として「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生しなかった場合であっても（図２５５や、図２５７や、図２５８などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでその発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい（図２５７や、図２５８などを参照）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」として、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃ刀受付状態、第３Ｃ刀受付状態）」が発生することはなく、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」のみが発生可能とされるようにしてもよい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機（タイミングｔＣａ３－１）として「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされたときに第１Ｃ刀変化を生じさせる受付状態（第１Ｃ刀受付状態）」が発生しなかった場合（図２５５や、図２５７や、図２５８などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされてこれが発生しているなかで終了する場合（図２５７や、図２５８などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされずこれが発生していないなかで終了する場合（図２５５などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときに、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態が発生するよりも前から維持されている上記特定操作状態の検出に基づいて特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされるようにしてもよい（図２５８（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）。

・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）や、図２０４（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。

・所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示

ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）。

・前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合（図１９６（ｈ）などを参照）があるようにすることがより望ましい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」として生じさせることも可能である。

・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。

・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし（例えば、図１９６（ｇ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ１などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することが望ましい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化として、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときの態様（図２１０（ｂ）に示される態様を参照）とは異なる態様（図２１１（ｂ）に示される態様

を参照）が現れるようにすることが望ましい。
・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがないが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。
・ただし、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）と、開始されない場合（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで、第２Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｄ４や、第５Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｅ４が到来した場合など）との両方があるようにしてもよい。
【８９２４】
　また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが（図２０７（ｇ）や、図２２３（ｃ），（ｊ）や、図２３９（ｃ），（ｊ）や、図２５２（ｃ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。
【８９２５】
　また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【８９２６】
　また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合も、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【８９２７】
　また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８９２８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８９２９】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を行ったか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【８９３０】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８９３１】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８９３２】

また、当該第５２構成Ｃ５２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５２－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部に

おける特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８９３３】

当該第５２構成Ｃ５２に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第５３構成Ｃ５３～第５９構成Ｃ５９にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【８９３４】

また、例えば、第５３構成Ｃ５３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるとき（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）と、該状況下にないとき（例えば、図１９６（ｃ），（ｊ）を参照）とのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようになっており（例えば、図２０３（ｌ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態のうち前記特定動画が表示されない非動画区間においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間や、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）だけしか許容されない場合とがあるようになるから、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８９３５】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手

段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８９３６】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８９３７】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～Ｃａ３－１の期間と、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間と、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【８９３８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【８９３９】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが（図２０７（ｇ）や、図２２３（ｃ），（ｊ）や、図２３９（ｃ），（ｊ）や、図２５２（ｃ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ

）などを参照）。
【８９４０】
　また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。
【８９４１】
　また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【８９４２】
　また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるなかで、条件成立可能であるようにしてもよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合は、当該状態が発生するよりも前から維持されている上記特定操作状態の検出に基づいて特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされるようにしてもよい（図２５８（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）。
【８９４３】
　このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【８９４４】
　また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ

３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を行ったか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【８９４５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８９４６】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８９４７】

また、当該第５３構成Ｃ５３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５３－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８９４８】

また、例えば、第５４構成Ｃ５４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、該表示開始から前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現

れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８９４９】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８９５０】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８９５１】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【８９５２】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であり、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【８９５３】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連

表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したとしても（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）、条件成立可能であるものとして用意することが望ましい。

【８９５４】

そしてこの場合、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態（特定操作状態または所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には条件成立可能とされるようにしもよい。

【８９５５】

またこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合も、特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として条件成立可能とされるようにしてもよい。

【８９５６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生したり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたり、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態（特定操作状態または所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときには特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始可能とされるから、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されていないなかでの操作関連の遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【８９５７】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがないが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。

【８９５８】

ただしこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）と、開始されない場合（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで、第２Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｄ４や、第５Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｅ４が到来し

た場合など）との両方があるようにすることが望ましい。
【８９５９】
若しくは、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に上記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持されたままの状況下にあったときには条件成立可能とされるが（図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に上記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあったときには条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。
【８９６０】
またこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合も、特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９９（ｈ），（ｊ）などを参照）。
【８９６１】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあったり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示されるタイミングによっては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。
【８９６２】
また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を行ったか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。
【８９６３】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【８９６４】
また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～

図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８９６５】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）にあるなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが表示開始された後、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合は、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図１９９（ｈ）～（ｊ）などを参照）。

【８９６６】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても、上記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立するが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始された場合は、上記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）。

【８９６７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されなければ、上記特定時間が経過するときにこれを契機として特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関して、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【８９６８】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のうち所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが表示開始されたときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過すると（タイミングｔＣａ３－１が到来すると）、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるが、該所定操作関連表示（ボタ

ン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）がさらに表示開始された場合は、上記特定時間が経過するときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【８９６９】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【８９７０】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されて、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３に示した例や、図２３５に示した例などを参照）と、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生して、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態」にあり且つ特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２４１に示した例において、タイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合）とでは、該受付けに応じた受付後変化として同じ態様が現れるようにすることが望ましい。

【８９７１】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８９７２】

また、当該第５４構成Ｃ５４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５４－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８９７３】

また、例えば、第５５構成Ｃ５５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作される

と、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合（図１９６（ｈ），（ｉ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合（図１９６（ｈ），（ｉ）などを参照）とのいずれであったとしても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【８９７４】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【８９７５】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（

第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【８９７６】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）や、図２５４（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、上記特定時間が経過したことを契機として条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【８９７７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、上記特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立することがなくなるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【８９７８】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に操作されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）や、図２５４（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが

、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、上記特定時間が経過したこと（タイミングｔＣａ３－１が到来したこと）を契機として条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【８９７９】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【８９８０】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがないが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。

【８９８１】

ただしこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）と、開始されない場合（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで、第２Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｄ４や、第５Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｅ４が到来した場合など）との両方があるようにすることが望ましい。

【８９８２】

若しくは、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表

示されていた場合（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態（特定操作状態）に維持されたままの状況下にあった場合（例えば、図２００（ｈ），（ｉ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【８９８３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【８９８４】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を行ったか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【８９８５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【８９８６】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合（例えば、図１９７（ｈ）

，（ｉ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態（特定操作状態）に維持されたままの状況下にあった場合（例えば、図２００（ｈ），（ｉ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【８９８７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した（タイミングｔＣａ３－１が到来した）ときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【８９８８】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【８９８９】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合であっても、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が、上記特定時間が経過する時点においても表示されている状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（図１９８（ｈ），（ｊ）を参照）。

【８９９０】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合であっても、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が、上記特定時間が経過するまでの間に表示開始されたときは条件成立することがないようにすることが望ましい（図１９９（ｈ），（ｊ）を参照）。

【８９９１】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【８９９２】

このように、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、第１態様（態様

ＫＭＧ１）及び第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）を含む複数態様のいずれかで表示可能とされるものとして用意することが望ましい。

【８９９３】

そして、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、該タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立する場合があるようにすることが望ましい。

【８９９４】

またこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかで、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されて、該表示開始から上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合であっても（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立する場合があるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。

【８９９５】

またこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にある場合（例えば、図２１２～図２２７に示した例を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状況下にある場合（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）とのいずれであっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立する場合があるようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【８９９６】

なお、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されないが１回だけ許容される状態」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回も許容されない状態」との両方を含むものとして特定していることは言うまでもない。

【８９９７】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【８９９８】

また、当該第５５構成Ｃ５５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部に

おける特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【８９９９】

また、例えば、第５６構成Ｃ５６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合（図１９６（ｈ），（ｉ）などを参照）と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合（図１９６（ｈ），（ｉ）などを参照）とのいずれであったとしても条件成立可能とされるとともに、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０００】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第

２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【９００１】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９００２】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）や、図２５４（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【９００３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立可能とされるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときに条件成立することがなくなるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【９００４】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作

関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態（特定操作状態、所定操作状態）に操作されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）や、図２５４（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【９００５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【９００６】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがないが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。

【９００７】

ただしこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）と、開始されない場合（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで、第２Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｄ４や、第５Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｅ４が到来した場合など）との両方があるようにすることが望ましい。

【９００８】

若しくは、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタ

ン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態（特定操作状態）に維持されたままの状況下にあった場合（例えば、図２００（ｈ），（ｉ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立することがないようにしてもよい。

【９００９】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【９０１０】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても条件成立する場合（例えば、図２０７（ｈ），（ｉ）などを参照）があるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合（例えば、図１９７（ｈ），（ｉ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）が操作状態（特定操作状態）に維持されたままの状況下にあった場合（例えば、図２００（ｈ），（ｉ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに条件成立することがないようにしてもよい。

【９０１１】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示された時点においては、所定操作手段（操作ボタン４１０）だけでなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を含めた操作関連の遊技興趣の向上を好適に図ることが期待されるようになる。

【９０１２】
　また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。
【９０１３】
　また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合であっても、該特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる時点においても表示されている状況下にあるときは条件成立することがないようにすることが望ましい（図１９８（ｈ），（ｊ）を参照）。
【９０１４】
　また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【９０１５】
　このように、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）については、第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（「特定態様」である態様ＫＭＧ２）を含む複数態様のいずれかで表示可能とされるものとして用意することが望ましい。
【９０１６】
　そして、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに、該タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立する場合があるようにすることが望ましい。
【９０１７】
　またこの場合、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にあるなかで、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されて、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態にあるなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても（例えば、図２２８～図２４０に示した例を参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立する場合があるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ），（ｊ）などを参照）。
【９０１８】

またこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状況下にある場合（例えば、図２１２～図２２７に示した例を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状況下にある場合（例えば、図１９６～図２１１に示した例を参照）とのいずれであっても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立する場合があるようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ），（ｊ）や、図２１２（ｅ），（ｈ），（ｊ）などを参照）。

【９０１９】

なお、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されない状態」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されないが１回だけ許容される状態」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回も許容されない状態」との両方を含むものとして特定していることは言うまでもない。

【９０２０】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９０２１】

また、当該第５６構成Ｃ５６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９０２２】

また、例えば、第５７構成Ｃ５７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作手

段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０２３】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【９０２４】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０２５】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９０２６】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作

関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であり、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【９０２７】

この点、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立する場合があるが（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９０２８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９０２９】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【９０３０】

若しくは、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ）

，（ｊ）などを参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときには上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として条件成立する場合があるが（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったとき（例えば、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）と、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあったとき（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）にはこれを契機として条件成立することがないようにしてもよい。

【９０３１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９０３２】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が複数回許容される状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を行ったか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【９０３３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９０３４】

また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【９０３５】
　また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【９０３６】
　また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【９０３７】
　また、当該第５７構成Ｃ５７や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。
【９０３８】
　また、例えば、第５８構成Ｃ５８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあったとしても条件成立可能とされており（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間

（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に操作された場合（例えば、図２０１や、図２０２や、図２０４などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０３９】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【９０４０】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０４１】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９０４２】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であり、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで表示開始可能であるようにすることが望ましい。

【９０４３】

この点、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４

～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、この際、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときには条件成立する場合があるが（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったときには条件成立することがないようにしてもよい（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９０４４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）がが表示状態から非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって、特定動画（特定動画ＴＤ）に関しての緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９０４５】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい。この意味では、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態などの少なくとも１つ（全ての受付状態であってもよい）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されないようにしてもよい。

【９０４６】

若しくは、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、所定操作手段（操作ボタン４１０）が操作状態（所定操作状態）に維持されたままの状況下にあったとしても、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）などを参照）、この際、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであったときには条件成立する場合があるが（図１９６～図２５９などに示される第１Ｃボタン受付状態などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであったとき（例えば、図２６０（ｈ），（ｊ）や、図２６７（ｈ），（ｊ）、図２７４（ｈ），（ｊ）などを参照）と、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあったとき（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）には条件成立することがな

いようにしてもよい。
【９０４７】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）をむやみに操作するようなことがあると、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されないようになるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【９０４８】
また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。
【９０４９】
また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【９０５０】
また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。
【９０５１】
また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。
【９０５２】
また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示

ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【９０５３】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【９０５４】

また、当該第５８構成Ｃ５８や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５８－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９０５５】

また、例えば、第５９構成Ｃ５９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な特別受付後変化実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に操作されると、該操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化を実行可能な所定受付後変化実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態に操作されたままの状況下にあるとき（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）を参照）と、該状況下にないとき（例えば、図１９６（ｃ），（ｊ）を参照）とのいずれにおいても、条件成立しうるものであり、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間など）から前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）に移行する態様と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）から前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）に移行する態様とがそれぞれ現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行った場合は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行った場合

には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした（例えば、図２０３（ｌ）を参照）。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０５６】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。

【９０５７】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０５８】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間など）で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、該第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０２（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０５９】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【９０６０】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）から移行した非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにしてもよい（例えば、図２０４（ｍ），（ｎ）などを参照）。

【９０６１】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間など）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｌ）～（ｎ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２０２（ｌ）～（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される特定動画（特定動画ＴＤ）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【９０６２】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様」の発生条件（特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件）については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれが操作状態に維持されたままの状況下にあるか否かにかかわらず条件成立しうるものとして用意するようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ）や、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【９０６３】

このような構成によれば、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様」の発生条件などに影響が及ぼされることを懸念することなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）や特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を繰り返し行うことができるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９０６４】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様」の発生条件（特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件）については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとした場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときも、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始可能であるようにすることが可能であるとともに（図２５４（ａ），（ｂ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされて、該受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようにしてもよい（図２５８（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）。

【９０６５】

ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされて、該受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回

）生じるが、該第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じることはないようにすることが望ましい。

【９０６６】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９０６７】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態が発生した場合も、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９０６８】

若しくは、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様」の発生条件（特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件）については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが（図２０７（ｇ）や、図２２３（ｃ），（ｊ）や、図２３９（ｃ），（ｊ）や、図２５２（ｃ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい（図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【９０６９】

このような構成によれば、特別操作手段をむやみに操作するようなことがあると、特定動画が表示されないようになるから、特別操作手段に対する操作意識を高めることを促すようにしつつも、特別操作手段に対する操作に関しては、所定操作手段に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感を好適に提供することが期待されるようになる。

【９０７０】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間から、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する態様」の発生条件（特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件）については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）と該状態にない場合（図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）などを参照）とのいずれの場合であっても、条件成立することがないようにすることが望ましい。

【９０７１】

また、当該第５９構成Ｃ５９や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成５９－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動

画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９０７２】

また、例えば、第６０構成Ｃ６０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が１回だけ生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０７３】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状

態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに１回だけ生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０７４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合、当該状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときと、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間にあるときとの両方が含まれる場合があり、いずれの区間内においても「いわゆるオート連打機能」が有効化される（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にするだけで第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じる）。ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間で操作受付がなされたときに限り、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とするが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないようにした。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」にあるときには、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【９０７５】

また、以下に列記する各構成については、当該第６０構成Ｃ６０にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第６１構成Ｃ６１～第６６構成Ｃ６６にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

【９０７６】

・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作手段（操作ボタン４１０）を上記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われることによって上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは、条件成立することがないものとして用意するようにすることが望ましい。例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対してオート連打機能が機能可能とされる受付状態内では、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立し得ないように設定するようにしてもよい。

・「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に所定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関し

ての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下においても発生可能とされるようにしてもよい（例えば、図２６７（ｅ），（ｇ）や、図２７４（ｅ），（ｇ）などを参照）。
・ただし、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を仮に所定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）」は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内では発生可能とされるが（例えば、図２６７（ｅ），（ｇ），（ｊ）や、図２７４（ｅ），（ｇ），（ｊ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では発生することがない（所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関して上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態にあることがない）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２などの区間）。
・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）との関係では、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下（図１９６～図２１１に示した例や、図２２８～図２４０に示した例などを参照）にあるときと、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるとき（図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）とのいずれにおいても、その動画にかかる表示を開始可能であるようにしてもよい。
・特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされた場合（例えば、図２１２～図２２７に示した例や、図２４１～図２５３に示した例などを参照）、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（図２１２（ｄ）や、図２４１（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が発生するようにすることが望ましい。
・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されない状態において特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされた場合であっても（図２５５（ｅ），（ｊ）や、図２５７（ｅ），（ｊ）を参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるなかで当該開始条件が満たされた状況下にあるときは（図２５５（ａ），（ｂ）や、図２５５（ａ），（ｂ）を参照）、該開始条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）は表示開始されるが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態は発生しないようにしてもよい（図２５５（ｄ）～（ｆ）や、図２５７（ｄ）～（ｆ）を参照）。
・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示される例を採用することとし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」が発生しなかった場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでその発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい（図２５７（ｅ），（ｊ）を参照）。ただし、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでその発生条件が満たされたときには、「特別操作手段（刀装飾

体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態（第１Ｃ刀受付状態や、第３Ｃ刀受付状態など）」として発生することがなく、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」としてのみ発生可能とされるようにすることが望ましい（図２５７（ｄ）～（ｆ），（ｊ）を参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が満たされたことを契機として発生可能とされる種別を第１種別（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付を契機として第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を１回だけ発生可能な第１種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態））とするとき、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでは、該第１種別（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされることはなく、該第１種別（第１Ｃ刀受付状態）とは異なる第２種別（特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付を契機として第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を複数回発生可能な第２種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態））の発生条件だけが満たされうるように設定することとなる。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件については、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで条件成立可能であるように設定されることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されていないなかでも条件成立可能であるように設定するようにすることが望ましい。

・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示される例を採用することとした場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持されたままの状況下にあるときも、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始可能であるようにすることが可能であるとともに（図２５４（ａ），（ｂ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生したときには、それよりも前から維持されている特定操作状態（の検出）に基づいて上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされて、該受付けに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようにしてもよい（図２５８（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）。

・「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（第２Ｃ刀受付状態）は、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される期間内でその発生条件が満たされるとは限らないものであり、この場合、特定動画（特定動画ＴＤ）は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態」としての第２種別（第２Ｃ刀受付状態）が発生しないままで終了することとなる（例えば、図２１２～図２２７に示した例を参照）。

・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２を除く区間や、第１Ｃボタン受付状態が発生していない区間）にあるときに操作受付がなされたときには生じ得ない変化であればよい。そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるだけの場合（図２０１（ｊ），（ｍ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じる場合（図２０２（ｊ），（ｍ），（ｎ）や、図２０４（ｊ），（ｍ），（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。ただしこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が複数回生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変

化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）が１回だけ生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｊ），（ｌ）～（ｎ）などを参照）。
・第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは、例えば、図柄変動などが行われる表示画面内に画像を新たに出現させたりするなどの表示変化や、演出音を出力させること、所定の発光手段における発光態様を変化させること、等々のいずれかとして実現可能である。
・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされるようにしてもよい。この場合は、例えば、こうして特定動画（特定動画ＴＤ）が非表示にされて何かが表示される変化を「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」として生じさせることも可能である。
・「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に相当）。若しくは、これとは逆に、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）との関係では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態にあるときにしか、その動画にかかる表示を開始しないものとして用意するようにしてもよい（図１９６～図２５９に示した第１Ｃボタン受付状態に代えて、図２８８～図２９０に示した第１Ｃボタン受付状態を備えることとした場合の例）。
・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）、該状態については、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立したことを契機として発生するものではなく、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内において事前発生するものとし（例えば、図１９６（ｇ），（ｊ）に示されるタイミングｔＣａ１などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されているなかでのみ特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が成立しうるように設定することが望ましい。
・特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあり、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化として、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときの態様（図２１０（ｂ）に示される態様を参照）とは異なる態様（図２１１（ｂ）に示される態様を参照）が現れるようにすることが望ましい。
・特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されることがないが、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされたときは、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始されうるようにしてもよい。
・ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示され

ているときに所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされた場合であっても、該非表示にされる条件が満たされたことを契機として、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が開始される場合（第１Ｃボタン受付状態内のタイミングｔＣａ３－１が到来した場合）と、開始されない場合（特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで、第２Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｂ４や、第３Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｃ４や、第４Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｄ４や、第５Ｃボタン受付状態のタイミングｔＣｅ４が到来した場合など）との両方があるようにしてもよい。

【９０７７】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９０７８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９０７９】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該

特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０８０】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９０８１】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９０８２】

若しくは、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）が上記所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２７１（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｊ），（ｏ）などを参照）とのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９０８３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【９０８４】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状

況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。

【９０８５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９０８６】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にあるが、該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付は許容されている状況下（第１Ｃボタン受付状態）にある場合に限り条件成立しうるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）を参照）。

【９０８７】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９０８８】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、オート連打機能の対象とされる受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生した場合は、これまで維持している所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作の受付けがなされることはなく、該所定操作状態を維持している限り、該状態内でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｏ）などを参照）。これに対し、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、オート連打機能の対象とされる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、これまで維持している特定操作状態（の検出）に基づいて特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされて、当該発生した状態内でオート連打機能が機能するようにすることが望ましい（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【９０８９】

このような構成によれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作

ボタン４１０）に関しての受付状態が発生する場合はもとより、該受付状態が発生しない場合も含めた、より広い期間にわたって、操作に対する遊技興趣を好適に維持する」といった作用効果を、緊張感を好適に付与しつつ奏されるようにすることが期待されるようになる。

【９０９０】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持したままで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が発生したときには、これまで維持した操作状態に基づいて前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることがないようにすることが望ましい（図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９０９１】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９０９２】

また、当該第６０構成Ｃ６０や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６０－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９０９３】

当該第６０構成Ｃ６０に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第６１構成Ｃ６１～第６６構成Ｃ６６にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【９０９４】

また、例えば、第６１構成Ｃ６１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行わ

れたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようになっており、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）のうち、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間においては、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態にある場合（図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合（図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間や、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９０９５】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９０９６】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作

を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～Ｃａ３－１の期間と、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間と、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９０９７】

このような構成によれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容されているか否かを認識し難くして緊張感を提供するようにしつつも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関して安心感のあるもとでの遊技を提供することができるようになる。

【９０９８】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立可能であるが（例えば、図２０７（ｇ）や、図２２３（ｃ），（ｊ）や、図２３９（ｃ），（ｊ）や、図２５２（ｃ），（ｊ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２３２（ａ），（ｂ），（ｊ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）。

【９０９９】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１００】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむこ

とができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１０１】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１０２】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９１０３】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９１０４】

若しくは、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）が上記所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２７１（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｊ），（ｏ）などを参照）とのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１０５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【９１０６】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。

【９１０７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１０８】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１０９】

また、当該第６１構成Ｃ６１や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６１－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されてい

る」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９１１０】

また、例えば、第６２構成Ｃ６２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに条件成立しうるものであるが、この際、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９１１１】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにしてもよい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても

、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９１１２】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が現れた場合であっても、条件成立可能であるが（図２５４～図２５９に示した例）、上記特定時間が経過したときに所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあった場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）は、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１１３】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始され、且つ該特定時間が経過する時点において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特別操作状態に維持させる操作が行われていたとしても、該操作によって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず（例えば、図２５４、図２５５を参照）、条件成立可能であるが、上記特定時間が経過したときに所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態で維持されていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあった場合は、条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）。

【９１１４】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１１５】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～Ｃａ３－１の期間と、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間と、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９１１６】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１１７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１１８】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）

などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１１９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９１２０】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９１２１】

若しくは、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立可能であるが、この際、「特別操作手段（刀装飾体５００１）が上記特定操作状態で維持されていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況」にあった場合（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、「所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態で維持されていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況」にあった場合（例えば、図２７１（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｊ），（ｏ）などを参照）と、特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が現れた場合（図１９９（ｈ）などを参照）との少なくとも１つがあったときには、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１２２】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないし、特に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が現れるだけでも、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始され

る可能性が排除されることとなるから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する緊張感を高めるようにするにあたり、特に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【９１２３】

ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい（例えば、図２２８～図２４０に示した例のうち、特に、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【９１２４】

そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。

【９１２５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１２６】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１２７】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機とし

て）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させたか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【９１２８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１２９】

また、当該第６２構成Ｃ６２や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６０－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９１３０】

また、例えば、第６３構成Ｃ６３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記特別操作関連表示（刀操作

関連表示ＫＳＨ）は、第１態様（態様ＫＭＧ１）を含む複数態様のいずれかで表示可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに条件成立しうるものであり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示状態にあったとしても条件成立可能であるが（例えば、図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、前記特定時間が経過するまでの間に前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れたときには、条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９１３１】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示状態にあった場合（例えば、図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）と、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（図２５４などを参照）とでは、いずれの場合であっても条件成立可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）は、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１３２】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を、第１態様（態様ＫＭＧ１）及び第２態様（態様ＫＭＧ２）を含む複数態様のいずれかで表示可能なものとした上で、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連

表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示状態にあった場合（例えば、図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）と、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（図２５４などを参照）とでは、いずれの場合であっても条件成立可能であるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示状態にあった場合（図１９７（ｈ），（ｊ）などを参照）と、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１３３】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しても、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるようにしてもよい（図２２８～図２４０に示した例を参照）。

【９１３４】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１３５】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下

にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１３６】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１３７】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１３８】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９１３９】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）

に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９１４０】

若しくは、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるが、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示状態にあったとしても条件成立可能であるのに対し（例えば、図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１４１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。

【９１４２】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示状態にあった場合であっても条件成立しうるが（例えば、図１９６（ｈ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示状態にあった場合（例えば、図１９７（ｈ），（ｊ）などを参照）と、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特別操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れた場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）との少なくとも１つが現れたときは、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないようにしてもよい。

【９１４３】

ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しただけの場合（何らの操作も行われな

かった場合）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【９１４４】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）や、図２１６（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１４５】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１４６】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させていないときに限り、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過した時点において（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）において、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）」が発生しているときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点）が到来するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させたか否かにかかわらず、該特定時間が経過したことを契機として（タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）、条件成立することがないようにしてもよい。

【９１４７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１４８】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１４９】

また、当該第６３構成Ｃ６３や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６３－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９１５０】

また、例えば、第６４構成Ｃ６４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは、条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オー

ト連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９１５１】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにしてもよい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９１５２】

この点、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特定時間が経過したときに特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでも条件成立可能であるが（図２５４などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１５３】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であるようにした上で、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）のうち第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたときに限り（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立しうるものとするが、この際、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特別操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあったとしても条件成立可能であるのに対し（図２５４などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあったとき（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）には条件成立することがないようにしてもよい。

【９１５４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立するか否

かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされる一方で、所定操作関連表示が表示されているなかで、自動操作受付が機能している状況下にあるときには、その種別に応じて、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されなくなる懸念があるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかでの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１５５】

なお、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立するか否かについては、自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が現れているか否かを基準として定められるものであればよく、例えば、「自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が一度は現れたものの、その後、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで当該状況が現れなくなった場合」と、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が一度も現れていない場合」とで、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」が条件成立するか否かの結果が同じになるようにしてもよいし、その結果が異なるようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１５６】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）。

【９１５７】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しているなかでも（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）条件成立可能であるようにしてもよい。

【９１５８】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１５９】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～Ｃａ３－１の期間と、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間と、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９１６０】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持しているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されているなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態で維持しているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１６１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１６２】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と

第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１６３】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９１６４】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９１６５】

若しくは、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）のうち第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたときに限り（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立しうるものとするが、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、特定時間が経過したときに所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とでは、いずれの状況下においても、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１６６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示された場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに関しても特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作

手段（操作ボタン４１０）に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。
【９１６７】
ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるようにすることが望ましい（例えば、図２２８～図２４０に示した例のうち、特に、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）。
【９１６８】
そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。
【９１６９】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【９１７０】
また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており、且つ「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときには、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させていないときに限り、条件成立しうるのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されており、且つ「所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）」が発生している状況下にあるときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させているか否かにかかわらず、条件成立することがないようにしてもよい。
【９１７１】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては

、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１７２】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１７３】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画ＴＤの表示にかかる開始条件」については、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示開始されてから特定時間が経過したときや、ボタン操作関連表示ＢＳＨが非表示にされる条件が満たされたときに成立するものとして必ずしも用意しなくてもよく、例えば、大当り判定の結果などに基づいて満たされるものとして用意することも可能であるし、若しくは変動パターンの種別に応じて満たされたり、適宜の操作手段に対する操作や操作解除などに基づいて満たされたりするものであってもよいし、図柄変動の実行期間内や図柄変動の非実行期間（大当り遊技など）内で時間経過や演出判定に基づいて満たされるものや、ＲＴＣ機能を利用した特定タイミングの到来を契機として満たされるものであってもよい。

【９１７４】

また、当該第６４構成Ｃ６４や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６４－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９１７５】

また、例えば、第６５構成Ｃ６５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オー

ト連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に条件成立しうるものであるが、この際、前記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が現れたときには、（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点で自動操作受付（オート連打機能）が機能していなかったとしても）条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間や、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間など）と、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）とが現れる場合があり、前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９１７６】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにしてもよい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９１７７】

この点、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が現れたときには（タイミングｔＣａ３－１が到来した時点で自動操作受付（オート連打機能）が機能しているか否かにかかわらず）条件成立可能であるが（図２５４などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされていることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあったとき（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）には条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１７８】
　また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であるようにした上で、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）のうち第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたときに限り（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、該表示開始から特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として条件成立しうるものであり、この際は、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特別操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れたとしても条件成立可能であるが（図２５４などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能する状況が現れたときには（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）条件成立することがないようにしてもよい。
【９１７９】
　このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始されるか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされる一方で、所定操作関連表示が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの間に、自動操作受付が機能している状況が現れたときには、その種別に応じて、特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されなくなる懸念があるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【９１８０】
　また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで条件成立可能であるが（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていないなかでは条件成立することがないようにしてもよい（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されない受付状態として発生させた場合の例など）。
【９１８１】
　また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態が発生しても（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ），（ｊ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるようにしてもよい。
【９１８２】
　また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔ

Ｃａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に操作した場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１８３】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも許容される状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～Ｃａ３－１の期間と、タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間など）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは許容されない状態にある場合（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１までの期間と、タイミングｔＣａ４以降の期間など）とがあるのに対し、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９１８４】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、上記特定時間が経過する時点において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持しているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２５５（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、上記特定時間が経過する時点において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態で維持しているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９１８５】

このような構成によれば、特別操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段に関しては、特定動画が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９１８６】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとする

と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９１８７】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させたとしても、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９１８８】

なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。

【９１８９】

若しくは、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）のうち第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたときに限り（図１９６～図２５９に示した例などを参照）、該表示開始から特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立しうるものであるが、この際、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能

している状況下が現れた場合（例えば、図２０１（ａ），（ｂ），（ｊ），（ｍ）などを参照）と、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況が現れた場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とでは、いずれにおいても、条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。

【９１９０】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示された場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに関しても特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないから、いわゆるオート連打機能の提供に関して特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する緊張感を高めることが期待されるようになる。

【９１９１】

ただし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件については、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しただけの場合（何らの操作も行われなかった場合）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として条件成立可能であるようにすることが望ましい（例えば、図２２８～図２４０に示した例のうち、特に、図２２８（ｅ），（ｊ）などを参照）。

【９１９２】

これに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容される状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）の発生に関連して表示されたものであるときは、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかで、何らの操作も行われなかった場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件が条件成立することがないようにすることが望ましい。

【９１９３】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、上記特定時間が経過する時点において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、上記特定時間が経過する時点において、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。

【９１９４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（

刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行っただけでも（いわゆるオート連打機能が機能しなかった場合であっても）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されるようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１９５】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあったとしても、上記特定時間が経過するまでの間に、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させなかったときに限り、上記特定時間が経過したときに条件成立しうるのに対し、「所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）」が発生している状況下にあるときには、上記特定時間が経過するまでの間に、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しての自動操作受付（オート連打機能）を機能させたか否かにかかわらず、上記特定時間が経過したときに条件成立することがないようにしてもよい。

【９１９６】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められることとなり、緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９１９７】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９１９８】

なお、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）のいずれかで表示開始された以降、上記特定時間が経過する時点（タイミングｔＣａ３－１が到来する時点）において表示状態にあってもよいし、非表示状態にあってもよい。

【９１９９】

また、当該第６５構成Ｃ６５や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６５－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９２００】

また、例えば、第６６構成Ｃ６６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀

装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると、該受付けに応じた受付後変化を実行可能な所定許容状態実行手段と、特定動画（特定動画ＴＤ）を表示可能な特定動画表示手段とを備え、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｍ）などを参照）があり、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容される状態において前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態などを参照）がある遊技機であって、前記特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）が前記所定操作状態にされることによって前記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるなかでは条件成立することがないようになっており（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態として、「前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を仮に前記特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったとしたら前記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合、当該状態内では、「前記特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間）から前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）に移行する態様」と、「前記特定動画が表示される動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）から前記特定動画が表示されない非動画区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２以降の区間）に移行する態様」とがそれぞれ現れる場合があり、前記特定動画が表示される動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０３（ｌ）などを参照）は、前記受付後変化の１つとして、前記特定動画が表示されない非動画区間において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（例えば、図２０１（ｌ）や図２０４（ｌ）などを参照）には現れない特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じうるようにした。すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる表示が実行されているときの操作関連に対する遊技興趣のさらなる向上を図ることが期待されるようになる。

【９２０１】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの期間と、タイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが（図２０１（ｊ），（ｍ）や、図２０２（ｊ），（ｍ）や、図２０４（ｊ），（ｍ）などを参照）、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間（例え

ば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２など）において特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に操作された場合は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして上記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とは異なる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０３（ｊ），（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９２０２】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」のうち、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間に移行する前の非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１までの区間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるが、上記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）が生じることがないようにしてもよい（図２０１（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９２０３】

このような構成によれば、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れたときの遊技興趣の向上を図ることができることはもとより、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間にあるときの緊張感を好適に提供することができるようになる。

【９２０４】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間から移行した非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－２が到来した以降の期間）において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけでなく、これに加えて、受付後変化の１つとして、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにしてもよい（図２０４（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【９２０５】

ただしこの場合、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が現れるよりも前の「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ３－１の期間）」においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるだけの場合（例えば、図２０１（ｌ）～（ｎ）などを参照）」と、「受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、（第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第２特別変化（第２Ｃ刀変化）のいずれとも異なる変化である）第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じる場合（例えば、図２０２（ｌ）～（ｎ）などを参照）」とがあるようにしてもよい。またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が生じるとともに、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）及び第３特別変化（第３Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（図２０３（ｌ）～（ｎ）などを参照）。

【９２０６】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件などにかかる構成として、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用することとし、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能して

いる状況下にある場合（図２５４などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（図２５５などを参照）とのいずれであっても条件成立する場合があるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付に関しての上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合（例えば、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）と、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合（例えば、図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）などを参照）とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい。

【９２０７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除せずにいわゆるオート連打機能を楽しむことができるのに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２０８】

すなわちこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を仮に行ったとすると上記自動操作受付（オート連打機能）が機能する状態（第２Ｃ刀受付状態）」にあるなかでも条件成立可能であり、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２Ｃ刀変化）が複数回実行されているなかでも条件成立可能であることとなる（図２５４（ｊ），（ｍ）などを参照）。ただしこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行っておらず上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していないなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５９（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行うと、該操作の受付けがなされて、受付後変化の１つとして第１特別変化（第１Ｃ刀変化）と第２特別変化（第２Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じうるのに対し（図２５９（ｌ），（ｍ）などを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を実際に行って上記自動操作受付（オート連打機能）を機能させることにより受付後変化（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））が複数回実行されているなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されたときには（図２５４（ａ），（ｂ），（ｊ）などを参照）、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでも、それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９２０９】

このような構成によれば、いわゆるオート連打機能を利用して演出を進行させている状況下にあるなかでも、特定動画（特定動画ＴＤ）は開始されるものの、該特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかでのみ操作受付を契機として発生しうる第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれを発生させることができなくなるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容される状態にあるなかで、開始されるか否かが不明とされる特定動画（特定動画ＴＤ）が開始されることを待つのか、それとも第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる機会を捨ててでも演出を迅速に進展させるのか、についての戦略性の高い演出を提供して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２１０】
なお、「それまで特定操作状態に維持している上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされることに基づいて、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）が（複数回）生じるが、この際、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがない」といった状況が現れた場合には、その時点で上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を中断し、その後、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されているなかで（非表示になるより前に）上記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作をやり直したとしても、その操作受付を契機として、受付後変化の１つとして第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は（複数回）生じるが、この際も、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）についてはこれが生じることがないようにしてもよい（図２５４に示されるタイミングｔＣＡ，ｔＣＢなどを参照）。
【９２１１】
若しくは、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」については、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成を採用しないこととし、特別操作手段（刀装飾体５００１）が上記特定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２００（ｊ），（ｍ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）が上記所定操作状態にされることによって自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるとき（例えば、図２７１（ｊ），（ｏ）や、図２７８（ｊ），（ｏ）などを参照）とのいずれにおいても条件成立することがないものとして用意するようにしてもよい。
【９２１２】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないようになるから、いわゆるオート連打機能を提供するにあたり、緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。
【９２１３】
そしてこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にあるか否かにかかわらず条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ），（ｍ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該操作を契機として上記自動操作受付（オート連打機能）が機能している状況下にある場合と上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合とのうち、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にある場合に限り条件成立する場合があるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）と、図２７１（ｃ），（ｊ），（ｏ）とを参照）。
【９２１４】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）にいずれに関しても、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性を排除した上でしかいわゆるオート連打機能を楽しむことができないが、特別操作手段（刀装飾体５００１）に限っては、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行ったときにオート連打機能が機能しなかった場合には、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始される可能性が排除されることによる緊張感を好適に提供することができるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しては、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作とは異なり、高い戦略性が求められるようになる。
【９２１５】

またこの場合、特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、該特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付が許容される状態が発生している状況下にあるか否かにかかわらず、条件成立することがないのに対し（図２００（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）と、図２１６（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｊ）とを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているときには、上記自動操作受付（オート連打機能）が機能していない状況下にあるが、該所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付は許容されている状況下（第１Ｃボタン受付状態）にある場合に限り条件成立しうるようにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｊ），（ｏ）を参照）。

【９２１６】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示開始されるときには、その際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けは必ず許容される状態にあるにもかかわらず、これまで維持した所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることはないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９２１７】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、オート連打機能の対象とされる受付状態（図２６７～図２７３に示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０に示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生した場合は、これまで維持している所定操作状態（の検出）に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作の受付けがなされることはなく、該所定操作状態を維持している限り、該状態内でオート連打機能が機能することはないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｏ）などを参照）。これに対し、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われている状況下にあるなかで、オート連打機能の対象とされる受付状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、これまで維持している特定操作状態（の検出）に基づいて特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作の受付けがなされて、当該発生した状態内でオート連打機能が機能するようにすることが望ましい（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【９２１８】

このような構成によれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しての受付状態が発生する場合はもとより、該受付状態が発生しない場合も含めた、より広い期間にわたって、操作に対する遊技興趣を好適に維持する」といった作用効果を、緊張感を好適に付与しつつ奏されるようにすることが期待されるようになる。

【９２１９】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間内では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるが、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持したままで特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間が発生したときには、これまで維持した操作状態に基づいて前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされることがないようにすることが望ましい（図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９２２０】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」などにかかる構成とし

て、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９２２１】

また、当該第６６構成Ｃ６６や、上述した各演出例にかかる構成に関しては、「特定動画（特定動画ＴＤ）」を「特定発光部における特別の発光態様」に代えて実現するようにしてもよい。すなわちこの場合、当該構成６６－Ｃやその別例では、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示にかかる開始条件」、「特定動画（特定動画ＴＤ）の表示が開始」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されている」、「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示されない非動画区間」、及び「特定動画（特定動画ＴＤ）が表示される動画区間」といった構成を、「特定発光部における特別の発光態様での発光にかかる開始条件」、「特定発光部における特別の発光態様での発光が開始」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されている」、「特定発光部が特別の発光態様で発光されない非特別発光区間」、及び「特定発光部が特別の発光態様で発光される特別発光区間」にそれぞれ代えて実現されることとなる。

【９２２２】

また、例えば、第６７構成Ｃ６７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件は、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）などを参照）は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる前記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにした（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２２３】

この点、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し（図１９６～図２５３に示した例を参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状

態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２３０（ｅ），（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【９２２４】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態））と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態））とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった事象が発生する可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２２５】

なお、図２２８に示す例にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件（タイミングｔＣａＹ１）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで満たされる場合があるようにしてもよく、この場合であっても、図２２８に示した通りの演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【９２２６】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときと、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときとでは、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）として同じ態様が実行されることは言うまでもない。

【９２２７】

これに対し、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態（ボタン受付状態）」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（別例として、第２ボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていない状況下にあるときにのみ発生可能とした場合など）は用意されるが、一の発生条件（同じ種別の受付後変化を発生させる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【９２２８】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるとき（例えば、図２４１（ｅ），（ｉ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるとき（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）などを参照）とのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示

ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｉ）や、図２２８（ｄ），（ｉ）や、図２４１（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９２２９】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかでのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）との関係では該画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかでのみその発生条件が満たされることとなるから、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【９２３０】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするようにすることが望ましい。このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況が終了されることによって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作への興味を低下させることができるようになり、ひいては秘匿下にある特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作への興味を持たせることが期待されるようになる。

【９２３１】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするが、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）は、終了させず、継続させるようにすることが望ましい。

【９２３２】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）との両方が発生している状況下において（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間において）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行った場合、その操作状態の検出に基づいて、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は１回しか発生しないが、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回発生するようにしてもよい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９２３３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化される状態においては、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とする場合（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受

付状態）との両方が発生している状況下）があることとなるが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないこととなる。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れる場合があるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【９２３４】

これに対し、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関する許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）については、「いわゆるオート連打機能による複数回の受付後変化を発生可能な許容状態（図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」と「１回の操作受付だけで状態終了されて受付後変化を１回しか発生可能としない許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）」とがそれぞれ別々に発生可能とはされるものの、それらの許容状態が「いわゆるオート連打機能による複数回の受付後変化に加えて、これとは異なる受付後変化をさらに１回だけ発生可能とする」ことを可能ならしめる態様で重複するかたちで発生することがないように、それらの発生条件をそれぞれ設定することが望ましい。

【９２３５】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、上述した特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる構成については、必ずしも備えなくてもよい。

【９２３６】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９２３７】

そしてこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【９２３８】

またこの場合、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対す

る操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【９２３９】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【９２４０】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示Ｃ１）に加えて、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（第２Ｃ刀変化（敵キャラクタに対する剣攻撃Ｃ２）、第３Ｃ刀変化（雷雲の出現Ｃ３））をさらに発生可能とすることが望ましい（図２０９（ｄ），（ｅ）などを参照）。

【９２４１】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）に加えて、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）をさらに発生可能とすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【９２４２】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を行うようにしてもよい（図２０９（ｇ）などを参照）。そしてこの場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされると、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｄ）などを参照）。

【９２４３】

またこの際、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときにも、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｂ）などを参照）。

【９２４４】

また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（所定許容状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても発生可能とされるが、この際、発光演出（特定ランプの発光など）が実行されたりするなど、遊技者が感知可能な演出変化が実行されるのに対し、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかで第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）や、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）が発生するときには、これを契機とした発光演出（特定ランプの発光など）が実行されない（遊技者が感知可能な演出変化が実行されない）ようにすることが望ましい。

【９２４５】
　また、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９２４６】
　当該第６７構成Ｃ６７に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第６８構成Ｃ６８にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。
【９２４７】
　また、例えば、第６８構成Ｃ６８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件は、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）などを参照）は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況が現れて、当該状況下において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる前記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）がさらに生じうるようになっており（図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されているだけでなく、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも必ず許容されている状態にあるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【９２４８】
　この点、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し（図１９６～図２５３に示した例を参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ

）が表示されていない状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２３０（ｅ），（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【９２４９】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態））と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態））とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった事象が発生する可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２５０】

なお、図２２８に示す例にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件（タイミングｔＣａＹ１）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで満たされる場合があるようにしてもよく、この場合であっても、図２２８に示した通りの演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【９２５１】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときと、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときとでは、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）として同じ態様が実行されることは言うまでもない。

【９２５２】

これに対し、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態（ボタン受付状態）」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（別例として、第２ボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていない状況下にあるときにのみ発生可能とした場合など）は用意されるが、一の発生条件（同じ種別の受付後変化を発生させる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【９２５３】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるとき（例えば、図２４１（ｅ），（ｉ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるとき（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）などを参照）とのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段（操作ボタン４１０

）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｉ）や、図２２８（ｄ），（ｉ）や、図２４１（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９２５４】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかでのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）との関係では該画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかでのみその発生条件が満たされることとなるから、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【９２５５】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするようにすることが望ましい。このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況が終了されることによって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作への興味を低下させることができるようになり、ひいては秘匿下にある特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作への興味を持たせることが期待されるようになる。

【９２５６】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするが、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）は、終了させず、継続させるようにすることが望ましい。

【９２５７】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「所定許容状態実行手段」として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると第１所定変化を生じさせる第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な第１所定許容状態実行手段と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると第２所定変化（第１Ｃボタン受付変化）を生じさせる第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な第２所定許容状態実行手段とを備えることとした上で、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、

または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生していることはないが（図２６０（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２６７（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２７４（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２８１（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は必ず発生している状況下にあるように設定することが望ましい（図１９６（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）。

【９２５８】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は必ず発生している状況下にあるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しても、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２５９】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）については、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と同じタイミングで発生するものであってもよい。また、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）については、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するよりも前に発生しているものであってもよく、この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件は、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ満たされるものとして設定されることとなる。

【９２６０】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときとのいずれにおいても、その発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｅ），（ｇ）及び図２１２（ｅ），（ｇ）や、図２６０（ｅ），（ｇ）及び図２６５（ｅ），（ｇ）や、図２６７（ｅ），（ｇ）及び図２７２（ｅ），（ｇ）や、図２７４（ｅ），（ｇ）及び図２７９（ｅ），（ｇ）や、図２８１（ｅ），（ｇ）及び図２８６（ｅ），（ｇ）などを参照）。

【９２６１】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）のうち、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態など）が発生している状況（例えば、図２１２（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた受付後変化（第１特別変化（第１Ｃ刀変化Ｃ１）、第２所定変化（第１Ｃボタン変化ＢＣ２））の１つとして同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）が現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ），図２１１（ｂ）などを参照）。

【９２６２】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２所定許容状

態（第１Ｃボタン受付状態など）の両方が発生している状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対して操作が行われたとしても同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）が表示開始されることから、操作手段の種別にかかわらず操作に関して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２６３】

ただしこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像（雷が落ちている画像表示）が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【９２６４】

またこの場合、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【９２６５】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生している状況において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示Ｃ１）に加えて、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（第２Ｃ刀変化（敵キャラクタに対する剣攻撃Ｃ２）、第３Ｃ刀変化（雷雲の出現Ｃ３））をさらに発生可能とすることが望ましい（図２０９（ｄ），（ｅ）などを参照）。

【９２６６】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を行うようにしてもよい（図２０９（ｇ）などを参照）。そしてこの場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされると、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｄ）などを参照）。

【９２６７】

また、当該第６８構成Ｃ６８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９２６８】

また、例えば、第６９構成Ｃ６９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許

容状態（第１Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ）や、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる前記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）がさらに生じうるようにした（図２４１に示されるタイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、図２０３（ｌ），（ｍ）と同じ演出進展が現れるようにした）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２６９】

ここで、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合、該発生条件が満たされたことを契機として表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化は何ら生じないようにすることが望ましい。これに対し、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するときには表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化の少なくとも１つが生じるようにすることが望ましい（遊技者が感知可能な演出変化が実行されるようにすることが望ましい）。このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した以降、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が重複して発生しているかを認識し難くすることができるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２７０】

この点、当該第６７構成Ｃ６７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し（図１９６～図２５３に示した例を参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２３０（ｅ），（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【９２７１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態））と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第

２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態））とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった事象が発生する可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２７２】

なお、図２２８に示す例にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件（タイミングｔＣａＹ１）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで満たされる場合があるようにしてもよく、この場合であっても、図２２８に示した通りの演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【９２７３】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときと、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときとでは、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）として同じ態様が実行されることは言うまでもない。

【９２７４】

これに対し、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態（ボタン受付状態）」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（別例として、第２ボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていない状況下にあるときにのみ発生可能とした場合など）は用意されるが、一の発生条件（同じ種別の受付後変化を発生させる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【９２７５】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるとき（例えば、図２４１（ｅ），（ｉ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるとき（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）などを参照）とのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｉ）や、図２２８（ｄ），（ｉ）や、図２４１（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９２７６】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかでのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）との関係では該画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかでのみその発生条件が満たされることとなる

から、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【９２７７】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするようにすることが望ましい。このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況が終了されることによって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作への興味を低下させることができるようになり、ひいては秘匿下にある特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作への興味を持たせることが期待されるようになる。

【９２７８】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするが、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）は、終了させず、継続させるようにすることが望ましい。

【９２７９】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）との両方が発生している状況下において（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間において）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行った場合、その操作状態の検出に基づいて、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は１回しか発生しないが、第２特別変化（第２Ｃ刀変化）は複数回発生するようにしてもよい（例えば、図２０３（ｌ），（ｍ）などを参照）。

【９２８０】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対していわゆるオート連打機能が有効化される状態においては、「いわゆるオート連打機能」による演出（第２特別変化（第２Ｃ刀変化））に加えて「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」をさらに発生可能とする場合（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）との両方が発生している状況下）があることとなるが、この際、該「第１特別変化（第１Ｃ刀変化）」については、「第２特別変化（第２Ｃ刀変化）」とは異なり、「いわゆるオート連打機能」が有効化される条件下にあるにもかかわらず、これを１回しか生じさせないこととなる。すなわちこの場合、第１特別変化（第１Ｃ刀変化）は「希少性の高いレア演出」として機能するようになるから、１回の操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態で維持する操作）だけで「希少性の低い高頻度演出」と「希少性の高いレア演出」との複合的な演出が現れる場合があるようになり、これによって遊技興趣の向上を図ることができるようになる。

【９２８１】

これに対し、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関する許容状態（例えば、図１９６

～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）については、「いわゆるオート連打機能による複数回の受付後変化を発生可能な許容状態（図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」と「１回の操作受付だけで状態終了されて受付後変化を１回しか発生可能としない許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態や、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態や、図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）」とがそれぞれ別々に発生可能とはされるものの、それらの許容状態が「いわゆるオート連打機能による複数回の受付後変化に加えて、これとは異なる受付後変化をさらに１回だけ発生可能とする」ことを可能ならしめる態様で重複するかたちで発生することがないように、それらの発生条件をそれぞれ設定することが望ましい。

【９２８２】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、上述した特定動画（特定動画ＴＤ）にかかる構成については、必ずしも備えなくてもよい。

【９２８３】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）では、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されない状態にある場合がなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが必ず許容される状態にあるようにすることが望ましい（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間など）。

【９２８４】

そしてこの際、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合、該受付けに応じた第１特別変化（第１Ｃ刀変化）の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））を表示開始しうるが（図２０９（ｄ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合も、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別画像（雷が落ちている画像表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））を表示開始しうるようにすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【９２８５】

またこの場合、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。

【９２８６】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。

【９２８７】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示Ｃ１）に加えて、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（第２Ｃ刀変化（敵キャラクタに対する剣攻撃Ｃ２）、第３Ｃ刀変化（雷雲の出現Ｃ３））をさらに発生可能とすることが望ましい（図２０９（ｄ），（ｅ）などを参照）。

【９２８８】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）に加えて、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）をさらに発生可能とすることが望ましい（図２１１（ｂ）などを参照）。

【９２８９】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を行うようにしてもよい（図２０９（ｇ）などを参照）。そしてこの場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされると、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｄ）などを参照）。

【９２９０】

またこの際、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときにも、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｂ）などを参照）。

【９２９１】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（所定許容状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下においても発生可能とされるが、この際、発光演出（特定ランプの発光など）が実行されるのに対し、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかで第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）や、第３特別許容状態（第３Ｃ刀受付状態）が発生するときには、これを契機とした発光演出（特定ランプの発光など）が実行されない（遊技者が感知可能な演出変化が実行されない）ようにすることが望ましい。

【９２９２】

また、当該第６９構成Ｃ６９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９２９３】

当該第６９構成Ｃ６９に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第７０構成Ｃ７０にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【９２９４】

また、例えば、第７０構成Ｃ７０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しう

る特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせる第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）を発生可能な第１特別許容状態実行手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると第２特別変化（第２Ｃ刀変化）を生じさせる第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）を発生可能な第２特別許容状態実行手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると所定変化を生じさせる所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定許容状態実行手段とを備え、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下において少なくとも発生可能であるとともに（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるか否かにかかわらず満たされうるようになっており（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ）や、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）は、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況が現れて、当該状況下においては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、前記第１特別変化（第１Ｃ刀変化）を生じさせることが可能であることに加えて、該第１特別変化（第１Ｃ刀変化）とは異なる前記第２特別変化（第２Ｃ刀変化）がさらに生じうるようになっており（図２４１に示されるタイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされると、図２０３（ｌ），（ｍ）と同じ演出進展が現れるようになっており）、前記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び前記第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されているだけでなく、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けも必ず許容されている状態にあるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９２９５】

ここで、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合、該発生条件が満たされたことを契機として表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）は何ら生じないようにすることが望ましい（該発生条件が満たされたことを契機として演出変化を生じさせる制御手段を備えないようにすることが望ましい）。これに対し、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するときには表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化の少なくとも１つが生じるようにすることが望ましい（遊技者が感知可能な変化が実行されるようにすることが望ましい）。このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した以降、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が重複して発生しているかを認識し難くすることができるようになり、緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２９６】

この点、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）はいずれも、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表

示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに限り発生可能であるのに対し（図１９６～図２５３に示した例を参照）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ），（ｈ）や、図２４１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示が表示されている状況下にあるときに発生する場合（例えば、図２３０（ｅ），（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。

【９２９７】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「特別許容状態」の種別として、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態））と、一の発生条件でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別（第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態））とが用意されるようになるから、秘匿にされているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作受付が許容されうるようにしつつも、そういった事象が発生する可能性があることについても遊技者に対して好適に示唆することが可能とされるようになり、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９２９８】

なお、図２２８に示す例にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の発生条件（タイミングｔＣａＹ１）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで満たされる場合があるようにしてもよく、この場合であっても、図２２８に示した通りの演出進展が現れるようにすることが望ましい。

【９２９９】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときと、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生した第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）内で操作受付がなされたときとでは、該操作受付に応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）として同じ態様が実行されることは言うまでもない。

【９３００】

これに対し、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに発生可能とされる「所定許容状態（ボタン受付状態）」の種別としては、秘匿にされているなかでのみ発生可能とされる通常種別（別例として、第２ボタン受付状態や、第３Ｃボタン受付状態などを、ボタン操作関連表示ＢＳＨが表示されていない状況下にあるときにのみ発生可能とした場合など）は用意されるが、一の発生条件（同じ種別の受付後変化を発生させる許容状態）でありながらも秘匿にされているときに発生する場合と秘匿にされていないときに発生する場合との両方がある特殊種別は用意されないようにすることが望ましい。

【９３０１】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるとき（例えば、図２４１（ｅ），（ｉ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるとき（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）などを参照）とのいずれにおいてもその発生条件が成立可能であるが、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作手段（操作ボタン４

１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されていない状況下にあるときと、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときとのうち、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるときに限りその発生条件が成立可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｉ）や、図２２８（ｄ），（ｉ）や、図２４１（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９３０２】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した画像表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されないなかでのみ発生可能とされる通常種別でありながらも、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）との関係では該画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているなかでのみその発生条件が満たされることとなるから、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作機会が付与される都度（所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示が表示される都度）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しても操作受付が許容されている可能性を遊技者に対して意識付けさせることができるようになり、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作意識をより一層高めることが期待されるようになる。

【９３０３】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするようにすることが望ましい。このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況が終了されることによって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作への興味を低下させることができるようになり、ひいては秘匿下にある特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作への興味を持たせることが期待されるようになる。

【９３０４】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されている状況下にあるなかで、上記第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件が満たされた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来した場合）は、これを契機として（第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生に際して）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した画像表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示状態から非表示にするが、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付が許容される状態（第１Ｃボタン受付状態）は、終了させず、継続させるようにすることが望ましい。

【９３０５】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記「所定許容状態実行手段」として、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると第１所定変化を生じさせる第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な第１所定許容状態実行手段と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされると第２所定変化（第１Ｃボタン受付変化）を生じさせる第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な第２所定許容状態実行手段とを備えることとした上で、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許

容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生していることはないが（図２６０（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２６７（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２７４（ｄ），（ｅ），（ｇ）や、図２８１（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は必ず発生している状況下にあるように設定することが望ましい（図１９６（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）。

【９３０６】

このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）の両方が発生している状況では、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は必ず発生している状況下にあるから、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作だけでなく、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しても、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３０７】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）については、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）と同じタイミングで発生するものであってもよい。また、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）については、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するよりも前に発生しているものであってもよく、この場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）の発生条件は、第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ満たされるものとして設定されることとなる。

【９３０８】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１所定許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）は、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生している状況下にあるときと、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生していない状況下にあるときとのいずれにおいても、その発生条件が満たされうるものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｅ），（ｇ）及び図２１２（ｅ），（ｇ）や、図２６０（ｅ），（ｇ）及び図２６５（ｅ），（ｇ）や、図２６７（ｅ），（ｇ）及び図２７２（ｅ），（ｇ）や、図２７４（ｅ），（ｇ）及び図２７９（ｅ），（ｇ）や、図２８１（ｅ），（ｇ）及び図２８６（ｅ），（ｇ）などを参照）。

【９３０９】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）のうち、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態など）が発生している状況（例えば、図２１２（ｄ），（ｅ），（ｇ）などを参照）において、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とでは、該受付けに応じた受付後変化（第１特別変化（第１Ｃ刀変化Ｃ１）、第２所定変化（第１Ｃボタン変化ＢＣ２））の１つとして同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）が現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ），図２１１（ｂ）などを参照）

。
【９３１０】
このような構成によれば、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）及び第２所定許容状態（第１Ｃボタン受付状態など）の両方が発生している状況下においては、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対して操作が行われたとしても同じ画像表示（雷が落ちている画像表示）が表示開始されることから、操作手段の種別にかかわらず操作に関して遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【９３１１】
ただしこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とのいずれにおいても、受付けがなされたことを契機として特別画像（雷が落ちている画像表示）が表示開始されるが（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合よりも、特別画像（雷が落ちている画像表示）が視認し難くされるかたちで表示開始されるようにしてもよい。
【９３１２】
またこの場合、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合とで、特別画像（雷が落ちている画像表示）としての表示態様が異なるようにしてもよい（図２０９（ｄ）や図２１１（ｂ）などを参照）し、同じ表示態様であってもよい。
【９３１３】
また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）、及び第２所定許容状態（例えば、図１９６～図２５３に示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生している状況において特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合にも現れる特別画像（雷が落ちている画像表示Ｃ１）に加えて、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合には現れない変化（第２Ｃ刀変化（敵キャラクタに対する剣攻撃Ｃ２）、第３Ｃ刀変化（雷雲の出現Ｃ３））をさらに発生可能とすることが望ましい（図２０９（ｄ），（ｅ）などを参照）。
【９３１４】
また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生した場合は、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を行うようにしてもよい（図２０９（ｇ）などを参照）。そしてこの場合、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされると、これを契機として、装飾図柄ＳＺを視認し難くする表示（特定動画ＴＤなど）を終了させて装飾図柄ＳＺが認識し易くなるようにしてもよい（図２０９（ｄ）などを参照）。
【９３１５】
また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報））と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報））とは、互いに異なる情報であるようにすることが望ましい。またこの際、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）で操作の受付けがなされるためには、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報））と第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報））との両方が必要とされるようにしてもよい。
【９３１６】

またこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作を行った場合、まず、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報））が得られることによって、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）で操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化（第１Ｃ刀変化）が生じるようにし、その後、第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報））がさらに得られることによって、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）で操作の受付けがなされてこれに応じた受付後変化（第２Ｃ刀変化）がさらに生じるようにすることが望ましい（例えば、図２０３（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）を参照）。

【９３１７】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関しては、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報））と、第２操作検出情報（第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報））とのうち、第１操作検出情報（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報））のみが検出されるように操作可能とするように構成することが望ましい。

【９３１８】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して特定操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、第１特別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、第２特別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）とが時間差で順次に発生するように構成することが望ましい（例えば、図２０３（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）を参照）。

【９３１９】

また、当該第７０構成Ｃ７０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９３２０】

また、例えば、第９０構成Ｃ９０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（

ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合には、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する前記受付後変化と、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する前記受付後変化とをそれぞれ生じさせるように操作可能とされるようにした（例えば、「図２４１に示されるタイミングｔＣａＹ２～ｔＣａ３－２の期間内での特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作」に相当するが、これは、「図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内での特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作」と同様であり、この場合、図２０３（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）に示される演出進展と同様の演出進展が現れる）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３２１】

当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９３２２】

この点、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９３２３】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９３２４】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９３２５】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９３２６】

また、以下に列記する各構成については、当該第９０構成Ｃ９０にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第９１構成Ｃ９１～第９８構成Ｃ９８にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

【９３２７】

・特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。

・「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うと、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化と

のうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみが生じる状態」から、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。

・オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図２４１（ｅ），（ｇ）や、図２６６（ｅ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。

・「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、「所定単種別許容状態が発生しており且つ所定複種別許容状態が発生していない状態」から、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作（所定操作状態にする操作）を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合がないことを意味する。また、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、特別単種別許容状態が発生している状況下にあるときには、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては複数回の操作受付が許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては１回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合がないことを意味する。すなわちこの場合、「所定複種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定単種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定複種別許容状態」の発生条件については、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいず

れも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定複種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定複種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定複種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させる（若しくは、再び発生させることなく終了したままにする）ようにすることとなる。また、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定複種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないが、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定単種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。

・オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０８（ｇ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」と、図２０９（ｅ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」とを参照）。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、該特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

・「所定複種別許容状態」において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」とがあることに加えて、「受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）」がさらにあるようにしてもよい。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～

図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する場合しかない特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し（例えば、図２２８（ｄ）～（ｇ）や、図２４１（ｄ）～（ｇ）や、図２６６（ｄ）～（ｇ）などを参照）、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生すると、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況が現れることとなる。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）のうち、上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（例えば、図２４８（ｌ），（ｎ）や図２５３（ｄ）で現れる態様Ｃ１，Ｃ３）と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（例えば、図２０３（ｌ），（ｎ）や図２０９（ｄ）で現れる態様Ｃ１，Ｃ３）とで同じ態様として現れるようにしてもよい。

【９３２８】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がさらに発生したときには（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が取得されるように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操

作を行う遊技手法）と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）とのいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにすることが望ましい。

【９３２９】

またこの場合、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）との両方が発生している状況下においては、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技と

のいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるが、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化とのうち、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技

については、遊技者が選択可能とされないように構成することが望ましい。

【９３３０】

これらの構成を実現する手法としては、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のみが検出されるようには操作することができない構成を採用することが挙げられる。すなわち、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）を得るための操作は、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）を得るための操作を行うなかで必ず行われる操作として設定すればよい。

【９３３１】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報（タッチ情報）と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とは互いに異なっており、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる）が、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作（例えば、特別操作手段を接触するだけの操作）が特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち第１操作検出情報（タッ

チ情報）のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。

【９３３２】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）の発生条件が満たされるときには、これを契機とした表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化の少なくとも１つを生じさせるが（これを契機とした演出変化を生じさせる制御手段を備えるが）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が継続しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）の発生条件が満たされるときは、これを契機とした表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化をいずれも生じさせない（これを契機とした演出変化を生じさせる制御手段を備えない）ようにすることが望ましい。

【９３３３】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９３３４】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第１Ｃ刀受付状態と第３Ｃ刀受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第１Ｃ刀受付状態のみを有することによって実現するようにしてもよいし、第１Ｃ刀受付状態と第３Ｃ刀受付状態との両方の機能が奏されるように構成（例えば、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９３３５】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第１Ｃボタン受付状態を有することによって実現するようにしてもよいし、第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態との両方の機能が奏されるように構成（例えば、第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態とのいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９３３６】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定複種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態との少なくとも２つ、または少なくとも１つを有することによって実現するようにしてもよいし、それらの受付状態の全ての機能が奏されるように構成（例えば、第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態のいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９３３７】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「特別複種別許容状態」は、オート連打機能が機能するときには予め定められた時間間隔でのみ機能するように構成された状態として必ず発生するものであればよく、この際、オート連打機能については、機能させることができるように遊技可能な状態として発生する場合と、オート連打機能を機能させることができない状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【９３３８】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「所定複種別許容状態」は、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合との両方があるように発生するものであればよく、この際、オート連打機能については、必ず機能するものとして発生するようにしてもよい。

【９３３９】

また、当該第９０構成Ｃ９０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９３４０】

当該第９０構成Ｃ９０に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第９１構成Ｃ９１～第９８構成Ｃ９８にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【９３４１】

また、例えば、第９１構成Ｃ９１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに

得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））と、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）で前記所定操作手段（操作ボタン４１０）とに対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（例えば、図２０６に示される第１Ｃボタン変化（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現しうるようにした（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３４２】

当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９３４３】

この点、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９３４４】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているな

かで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９３４５】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９３４６】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９３４７】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生すると、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９３４８】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況下にあるときに（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間内に相当するが、「第３Ｃ刀受付状態」を備えないこととする場合は、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内に相当する）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０３を参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０６を参照）とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。ただし、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。

【９３４９】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２

Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」とが順次に現れるように設定することが望ましい。

【９３５０】

ちなみに、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０２を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０８（ｅ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１０（ｃ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９３５１】

これに対し、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０３を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０９（ｄ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには（図２０６を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１１（ｂ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９３５２】

このような構成によれば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、予め定められた時間が経過するだけで、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作に対しても演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３５３】

ただしこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ（図２１０（ｃ）を参照）、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の

受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）」が現れることがなくなる（図２１０（ｃ）へと演出進展した場合は、図２１１（ｃ）へと演出進展する可能性がなくなる）ようにすることが望ましい。

【９３５４】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【９３５５】

なお、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と同じ演出態様が現れるようになっている。

【９３５６】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されている区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１，タイミングｔＣａ３－２～ｔＣａ４の期間）と、表示されていない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）との両方があるようにしてもよい。

【９３５７】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１

）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに表示されることはないようにすることが望ましい。

【９３５８】

このような構成によれば、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９３５９】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、さらには予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい（図２０２を参照）。

【９３６０】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして少なくとも特別単種別許容状態を終了させるようにすることで（図２０２（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが（図２０２（ｆ），（ｇ）などを参照）、予め定められた時間が経過してから所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされても

、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＣＣ１，ＢＣ２）を新たに出現させることがないようにすることが望ましい（図２０２（ｄ）や、図２０８（ｅ）からの演出進展先などを参照）。

【９３６１】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２）にあるなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化（第１所定変化）として、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）を新たに出現させる場合（図２１１（ｂ）を参照）と、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）をを新たに出現させない場合（図２１０（ｃ）を参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、その変化の１つとして、該特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）とは異なる態様変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）が表示されるようにすることが望ましい。

【９３６２】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）としていずれの種別も発生していないなかでその発生条件が満たされるときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を何ら生じさせない（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備えない）が、特別単種別許容状態として、いずれかの種別（第３Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、これとは異なる種別（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を生じさせる（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備える）ようにすることが望ましい（図１９６（ｊ），（ｋ）などを参照）。

【９３６３】

また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９３６４】

若しくは、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生すようにすることで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして

特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れるようにしてもよい。
【９３６５】
　また、当該第９１構成Ｃ９１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９３６６】
　また、例えば、第９２構成Ｃ９２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定

操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能であるようにした（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３６７】

当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９３６８】

この点、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９３６９】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９３７０】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９３７１】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９３７２】

この点、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。

【９３７３】

またこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生するだけでなく特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）がさらに表示された場合（図２３１（ｄ），（ｈ）などを参照）は、上記特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）これを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９３７４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合（図２２８（ｅ），（ｈ）などを参照）であれば、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９３７５】

なおこの場合、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、該特定時間が経過するまでの間に発生した上記特別複種別許容状態（図２２８（ｅ）などを参照）がその発生状態を維持している場合のほか、その発生状態を終了している場合もあるようにした上で、それらのいずれの場合であっても発生可能とされるようにすることが望ましい。

【９３７６】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）には、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能

する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」が新たに発生することはないようにすることが望ましい。

【９３７７】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した以降、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合であっても（図１９６（ｅ），（ｈ），（ｉ）や、図２６０（ｅ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として発生する場合（図１９６（ｄ）を参照）と発生しない場合（図２００（ｄ）や図２６０（ｄ）を参照）との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９３７８】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である特別複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である所定複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。

【９３７９】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９３８０】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操

作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。

【９３８１】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生可能とされるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされるときには、特別単種別許容状態が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていた場合など）。

【９３８２】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、該特別複種別許容状態については、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前（前記特定時間が経過するまでの間）、若しくは上記特定時間が経過するタイミングで、状態終了する場合があるようにしてもよい。

【９３８３】

また、当該第９２構成Ｃ９２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９３８４】

また、例えば、第９３構成Ｃ９３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作

関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９３８５】

当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９３８６】

この点、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容

状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９３８７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９３８８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９３８９】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９３９０】

この点、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９３９１】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、該

所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにすることが望ましい。

【９３９２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９３９３】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９３９４】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９３９５】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生

しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９３９６】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９３９７】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９３９８】

また、当該第９３構成Ｃ９３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９３９９】

また、例えば、第９４構成Ｃ９４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容され

ており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９４００】

当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），

（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４０１】

この点、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４０２】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４０３】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４０４】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９４０５】

この点、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）などに示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭ

Ｇ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９４０６】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｅ），（ｉ）などを参照）、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあった場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１３（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９４０７】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４０８】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９４０９】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９４１０】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀

受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）発生する場合（図１９６や図２１２などに示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などに示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９４１１】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）発生する場合（図１９６や図２１２などに示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などに示されるタイミングｔＣａ４を参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９４１２】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９４１３】

また、当該第９４構成Ｃ９４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９４１４】
　また、例えば、第９５構成Ｃ９５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）。すなわちこの場合、操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【９４１５】

当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４１６】

この点、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４１７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４１８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４１９】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９４２０】

この点、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること

）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９４２１】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４２２】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９４２３】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９４２４】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は発生可能とされるようにしてもよい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９４２５】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９４２６】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９４２７】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９４２８】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９９（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【９４２９】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（図２０５（ｃ），（ｄ），（ｈ），（ｉ），（ｏ）などを参照）。

【９４３０】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【９４３１】

また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミング

ｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。
【９４３２】
　また、当該第９５構成Ｃ９５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９４３３】
　また、例えば、第９６構成Ｃ９６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が

表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）。すなわちこの場合、操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９４３４】

当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４３５】

この点、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４３６】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４３７】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４３８】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９４３９】

この点、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受

付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９４４０】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４４１】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９４４２】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９４４３】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は発生可能とされるようにしてもよい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９４４４】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるよ

うにすることが望ましい。
【９４４５】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。
【９４４６】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【９４４７】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生可能であるが（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）の発生に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。
【９４４８】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。
【９４４９】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにこれを契機として発生可能であるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている状態にある所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする条件が満たされたときにはこれを契機として発生することがないようにすることが望ましい（図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。
【９４５０】
　また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成に

あって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【９４５１】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【９４５２】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【９４５３】

また、当該第９６構成Ｃ９６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９４５４】

また、例えば、第９７構成Ｃ９７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段

（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ）を参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９４５５】

当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４５６】

この点、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４５７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ

刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４５８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４５９】

また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９４６０】

この点、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。

【９４６１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、こうした現象（操作状態を継続したままでオート連打機能が有効化される現象）が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４６２】

また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下に

おいても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９４６３】

この点、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【９４６４】

また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９４６５】

また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９４６６】
これに対し、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）や、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ）や、図２６４（ｃ），（ｇ）や、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。
【９４６７】
このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがあるものの、当該所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。
【９４６８】
また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化（第１Ｃボタン変化や、第２Ｃボタン変化など）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
【９４６９】
このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。
【９４７０】
また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とのいずれが発生した場合であっても、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
【９４７１】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４７２】

若しくは、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【９４７３】

また、当該第９７構成Ｃ９７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９４７４】

また、例えば、第９８構成Ｃ９８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われた

ときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９４７５】

当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４７６】

この点、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４７７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状

態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４７８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４７９】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９４８０】

この点、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９４８１】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、こうした現象（操作状態を継続したままでオート連打機能が有効化される現象）が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつ

つも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４８２】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。この点、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【９４８３】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９４８４】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作

手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９４８５】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９４８６】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９４８７】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９４８８】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９４８９】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【９４９０】

若しくは、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第

１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【９４９１】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生しないのに対し、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９４９２】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能するようになっており（例えば、図２０３（ｍ）などを参照）、且つ「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」において、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能するようになっているが（例えば、図２７１（ｏ）に示されるタイミングｔＣｃ１Ｂなどを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかで特別複種別許容状態が発生したときは、該維持した状態にある上記操作から得られる検出情報に基づいて上記オート連打機能が機能するのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）に示されるタイミングｔＣａＹ１などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかで所定複種別許容状態が発生したときは、該維持した状態にある上記操作から得られる検出情報に基づいて上記オート連打機能が機能することがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｏ）に示されるタイミングｔＣｃ１などを参照）。

【９４９３】

また、当該第９８構成Ｃ９８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９４９４】

また、例えば、第９９構成Ｃ９９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回

だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））と、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）で前記所定操作手段（操作ボタン４１０）とに対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（例えば、図２０６に示される第１Ｃボタン変化（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現しうるようにした（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９４９５】

当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで

発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９４９６】

この点、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９４９７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９４９８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９４９９】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９５００】

この点、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が有効化される側である特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である所定複種別許容状態は、

該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
【９５０１】
　また、以下に列記する各構成については、当該第９９構成Ｃ９９にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第１００構成Ｃ１００～第１０６構成Ｃ１０６にかかる構成に対して適用すると特に有効である。
【９５０２】
・特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。
・「オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うと、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみが生じる状態」から、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。
・オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図２４１（ｅ），（ｇ）や、図２６６（ｅ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など

）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。

・「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、「所定単種別許容状態が発生しており且つ所定複種別許容状態が発生していない状態」から、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作（所定操作状態にする操作）を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合がないことを意味する。また、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、特別単種別許容状態が発生している状況下にあるときには、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては複数回の操作受付が許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては１回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合がないことを意味する。すなわちこの場合、「所定複種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定単種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定複種別許容状態」の発生条件については、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定複種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定複種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定複種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定単種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させる（若しくは、再び発生させることなく終了したままにする）ようにすることとなる。また、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定複種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないが、「所定単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定複種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定単種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定複種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。

・オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または

第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０８（ｇ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」と、図２０９（ｅ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」とを参照）。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

・「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」とがあるのに対し、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）」において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」がなく、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」しかないようにしてもよい。

・・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）がさらに発生したときには（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、「特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が取得されるように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）」と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）」とのいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにすることが望ましい。

・例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報（タッチ情報）と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報

（納刀状態への変位情報）とは互いに異なっており、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる）が、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作（例えば、特別操作手段を接触するだけの操作）が特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち第１操作検出情報（タッチ情報）のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が必ず機能する側である特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。

【９５０３】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況下にあるときに（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間内に相当するが、「第３Ｃ刀受付状態」を備えないこととする場合は、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内に相当する）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０３を参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０６を参照）とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１

つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。ただし、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。

【９５０４】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」とが順次に現れるように設定することが望ましい。

【９５０５】

ちなみに、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０２を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０８（ｅ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１０（ｃ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９５０６】

これに対し、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０３を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０９（ｄ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには（図２０６を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１１（ｂ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９５０７】

このような構成によれば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、予め定められた時間が経過するだけで、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作に対しても演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５０８】

ただしこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図

１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ（図２１０（ｃ）を参照）、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）」が現れることがなくなる（図２１０（ｃ）へと演出進展した場合は、図２１１（ｃ）へと演出進展する可能性がなくなる）ようにすることが望ましい。

【９５０９】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【９５１０】

なお、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と同じ演出態様が現れるようになっている。

【９５１１】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段（操作ボタン４１０）

に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されている区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）と、表示されていない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）との両方があるようにしてもよい。

【９５１２】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに表示されることはないようにすることが望ましい。

【９５１３】

このような構成によれば、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９５１４】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、さらには予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい（図２０２を参照）。

【９５１５】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾

体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして少なくとも特別単種別許容状態を終了させるようにすることで（図２０２（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが（図２０２（ｆ），（ｇ）などを参照）、予め定められた時間が経過してから所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させることがないようにすることが望ましい（図２０２（ｄ）や、図２０８（ｅ）からの演出進展先などを参照）。

【９５１６】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２）にあるなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化（第１所定変化）として、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）を新たに出現させる場合（図２１１（ｂ）を参照）と、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）をを新たに出現させない場合（図２１０（ｃ）を参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、その変化の１つとして、該特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）とは異なる態様変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）が表示されるようにすることが望ましい。

【９５１７】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）としていずれの種別も発生していないなかでその発生条件が満たされるときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を何ら生じさせない（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備えない）が、特別単種別許容状態として、いずれかの種別（第３Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、これとは異なる種別（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を生じさせる（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備える）ようにすることが望ましい（図１９６（ｊ），（ｋ）などを参照）。

【９５１８】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９５１９】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）には、当該

所定単種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が重複するかたちで発生しうる種別の第１所定単許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態）と、当該所定単種別許容状態が継続しているなかでは特別単種別許容状態が重複するかたちで発生することのない種別の第２所定単許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）とが含まれているようにしてもよい。

【９５２０】

若しくは、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生するようにすることで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れるようにしてもよい。

【９５２１】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「特別複種別許容状態」は、オート連打機能を必ず機能させることができるように遊技可能な状態として用意されるものであればよく、この際、オート連打機能については、予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合との両方があるようにしてもよい。

【９５２２】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「所定複種別許容状態」は、オート連打機能を機能させることができるように遊技可能な状態として発生する場合と、オート連打機能を機能させることができない状態として発生する場合との両方があるものとして用意されるものであればよく、この際、オート連打機能については、予め定められた時間間隔でのみ機能するようにしてもよいし、不定の時間間隔でのみ機能するようにしてもよい。

【９５２３】

また、当該第９９構成Ｃ９９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９５２４】

当該第９９構成Ｃ９９に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１００構成Ｃ１００～第１０６構成Ｃ１０６にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【９５２５】

また、例えば、第１００構成Ｃ１００として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさ

せうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能であり（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５２６】

当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるもの

であることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９５２７】

この点、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９５２８】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９５２９】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９５３０】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９５３１】

この点、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい（図１９６などを参照）。

【９５３２】

またこの場合、特別単種別許容状態については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、上記特定時間が経過するまでの間に「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態」が発生するだけでなく特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（図２３１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）。

【９５３３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合（図２２８（ｅ），（ｈ）などを参照）であれば、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９５３４】

なおこの場合、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、該特定時間が経過するまでの間に発生した上記特別複種別許容状態（図２２８（ｅ）などを参照）がその発生状態を維持している場合のほか、その発生状態を終了している場合もあるようにした上で、それらのいずれの場合であっても発生可能とされるようにすることが望ましい。

【９５３５】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）には、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」が新たに発生することはないようにすることが望ましい。

【９５３６】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した以降、それよりも前に表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合であっても（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作

関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９５３７】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、「オート連打機能が必ず機能する側である特別複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、「オート連打機能が必ずしも発生するとは限らない側である所定複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。

【９５３８】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９５３９】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。

【９５４０】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生可能とされるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされるときには、特別単種別許容状態が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていた場合など）。

【９５４１】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、該特別複種別許容状態については、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前（前記特定時間が経過するまでの間）、若しくは上記特定時間が経過するタイミングで、状態終了する場合があるようにしてもよい。

【９５４２】

また、当該第１００構成Ｃ１００や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９５４３】

また、例えば、第１０１構成Ｃ１０１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、

前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５４４】

当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９５４５】

この点、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９５４６】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９５４７】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態

のみが状態終了されることがないようにしてもよい。
【９５４８】
　また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
【９５４９】
　この点、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。
【９５５０】
　例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにすることが望ましい。
【９５５１】
　このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表

示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９５５２】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９５５３】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９５５４】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９５５５】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき

にはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９５５６】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９５５７】

また、当該第１０１構成Ｃ１０１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９５５８】

また、例えば、第１０２構成Ｃ１０２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示され

るタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものであった場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものであった場合とのいずれであったとしても発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５５９】

当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９５６０】

この点、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９５６１】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ

刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９５６２】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９５６３】

また、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９５６４】

この点、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあった場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合とのいずれであったとしても発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９５６５】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合と、「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態

様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９５６６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９５６７】

また、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９５６８】

また、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９５６９】

また、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９５７０】

また、当該第１０２構成Ｃ１０２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容さ

れていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９５７１】

また、例えば、第１０３構成Ｃ１０３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、

該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５７２】

当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９５７３】

この点、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９５７４】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９５７５】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９５７６】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９５７７】
この点、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。
【９５７８】
このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【９５７９】
また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。
【９５８０】
ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。
【９５８１】
また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９５８２】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。
【９５８３】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。
【９５８４】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。
【９５８５】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【９５８６】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９９（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）。
【９５８７】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（図２０５（ｃ），（ｄ），（ｈ），（ｉ），（ｏ）などを参照）。
【９５８８】
　また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【９５８９】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【９５９０】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【９５９１】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【９５９２】

またこの際、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、その種別に応じて、その発生条件が満たされたことに応じて、それまで表示状態にあった所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする場合（図１９６（ｄ），（ｉ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）と、非表示にせずこれを継続する場合（図１９６（ｆ），（ｉ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）との両方があるようにしてもよい。

【９５９３】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画

像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【９５９４】

また、当該第１０３構成Ｃ１０３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９５９５】

また、例えば、第１０４構成Ｃ１０４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときに発生可能であり、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４

Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９５９６】

当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９５９７】

この点、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９５９８】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９５９９】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９６００】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６０１】

この点、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付

後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｄ４などを参照）。

【９６０２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９６０３】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９６０４】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９６０５】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９６０６】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９６０７】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９６０８】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９６０９】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９６１０】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された以降、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【９６１１】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連

表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【９６１２】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【９６１３】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【９６１４】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【９６１５】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【９６１６】

また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ）

，（ｉ）などを参照）。
【９６１７】
　また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。
【９６１８】
　また、当該第１０４構成Ｃ１０４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９６１９】
　また、例えば、第１０５構成Ｃ１０５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ

刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ）を参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９６２０】

当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９６２１】

この点、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９６２２】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９６２３】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９６２４】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６２５】
この点、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。
【９６２６】
このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【９６２７】
また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【９６２８】
この点、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。
【９６２９】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９６３０】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９６３１】

これに対し、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）や、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ）や、図２６４（ｃ），（ｇ）や、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。

【９６３２】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないものの、当該所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９６３３】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化（第１Ｃボタン変化や、第２Ｃボタン変化など）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９６３４】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【９６３５】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とのいずれが発生した場合であっても、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９６３６】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、オート連打機能が有効化されるか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９６３７】

若しくは、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する

受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【９６３８】

また、当該第１０５構成Ｃ１０５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９６３９】

また、例えば、第１０６構成Ｃ１０６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、

図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９６４０】

当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、これとは異なる操作への興味をも惹きつけることが期待されるようになる。

【９６４１】

この点、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９６４２】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図２４１に示した例に対して当該構成を適用した場合、、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい。

【９６４３】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９６４４】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６４５】

この点、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００

１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９６４６】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、所定複種別許容状態が発生したときには、オート連打機能が有効化されるのか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９６４７】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。この点、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるか

ら、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【９６４８】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９６４９】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９６５０】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９６５１】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているな

かで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９６５２】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９６５３】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９６５４】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【９６５５】

若しくは、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【９６５６】

また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち特別単種別許容状態のみが終了されて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【９６５７】
　また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。
【９６５８】
　またこの際、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、その種別に応じて、その発生条件が満たされたことに応じて、それまで表示状態にあった所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする場合（図１９６（ｄ），（ｉ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）と、非表示にせずこれを継続する場合（図１９６（ｆ），（ｉ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）との両方があるようにしてもよい。
【９６５９】
　また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。
【９６６０】
　また、当該第１０６構成Ｃ１０６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９６６１】
　また、例えば、第１０７構成Ｃ１０７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）で

は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であり（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生した場合には、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する前記受付後変化と、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する前記受付後変化とをそれぞれ生じさせるように操作可能とされるようにした（例えば、図２０３（ａ），（ｂ），（ｌ），（ｍ）を参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９６６２】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９６６３】

この点、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各

構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９６６４】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９６６５】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９６６６】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６６７】

この点、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態」が発生している状況下においては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）がいずれもこれと重複するかたちで発生可能とされるのに対し、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある所定複種別許容状態」が発生している状況下においては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）がいずれもこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６６８】

また、以下に列記する各構成については、当該第１０７構成Ｃ１０７にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第１０８構成Ｃ１０８～第１１５構成Ｃ１１５にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

【９６６９】

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）な

どに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

・所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。

・「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うと、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別複種別許容状態に対応する受付後変化のみが生じる状態」から、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。

・所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。

・所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがある側である所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボ

タン４１０）に対して操作（所定操作状態にする操作）を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合がないことを意味する。また、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。また、さらに言えば、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがあるのに対し、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。すなわちこの場合、「所定単種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定複種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定単種別許容状態」の発生条件については、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定単種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定単種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定単種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させるようにすることとなる。また、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定単種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件自体が新たに満たされることはないが、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい。なおこの場合、「所定複種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定単種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。

・「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０８（ｇ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」と、図２０９（ｅ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」とを参照）。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかで生じた場合と、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

・「所定複種別許容状態」において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に

してこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）」」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」とがあることに加えて、「受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）」がさらにあるようにしてもよい。

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する場合しかない特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し（例えば、図２２８（ｄ）～（ｇ）や、図２４１（ｄ）～（ｇ）や、図２６６（ｄ）～（ｇ）などを参照）、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６７０】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がさらに発生したときには（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が取得されるように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）とのいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにすることが望ましい。

【９６７１】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに発生したときに

は（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が取得されるように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）とのいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにすることが望ましい。

【９６７２】

またこの場合、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）との両方が発生している状況下においては、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技と、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技と

のいずれを行うかを、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるが、

・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化とのうち、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技

については、遊技者が選択可能とされないように構成することが望ましい。

【９６７３】

これらの構成を実現する手法としては、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）のみが検出されるようには操作することができない構成を採用することが挙げられる。すなわち、第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）を得るための操作は、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）を得るための操作を行うなかで必ず行われる操作として設定すればよい。

【９６７４】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報（タッチ情報）と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とは互いに異なっており、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が検出される（特別

単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる）が、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作（例えば、特別操作手段を接触するだけの操作）が特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち第１操作検出情報（タッチ情報）のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。

【９６７５】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）の発生条件が満たされるときには、これを契機とした表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化の少なくとも１つを生じさせるが（これを契機とした演出変化を生じさせる制御手段を備えるが）、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）の発生条件が満たされるときは、これを契機とした表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化をいずれも生じさせない（これを契機とした演出変化を生じさせる制御手段を備えない）ようにすることが望ましい。

【９６７６】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９６７７】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第１Ｃ刀受付状態と第３Ｃ刀受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第１Ｃ刀受付状態のみを有することによって実現するようにしてもよいし、第１Ｃ刀受付状態と第３Ｃ刀受付状態との両方の機能が奏されるように構成（例えば、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９６７８】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第１Ｃボタン受付状態を有することによって実現するようにしてもよいし、第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態との両方の機能が奏されるように構成（例えば、第１Ｃボタン受付状態と第２Ｃボタン受付状態とのいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９６７９】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定複種別許容状態にかかる構成については、上述した演出例にかかる第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態とを有することによって実現するようにしてもよいし、上述した演出例にかかる第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態との少なくとも２つ、または少なくとも１つを有することによって実現するようにしてもよいし、それらの受付状態の全ての機能が奏され

るように構成（例えば、第３Ｃボタン受付状態と第４Ｃボタン受付状態と第５Ｃボタン受付状態のいずれの機能を奏するかを、その都度、演出判定などによって決定したり、遊技者による操作によって決定したりするように構成）された１つの受付状態によって実現するようにしてもよい。

【９６８０】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「特別複種別許容状態」は、オート連打機能が機能するときには予め定められた時間間隔でのみ機能するように構成された状態として必ず発生するものであればよく、この際、オート連打機能については、機能させることができるように遊技可能な状態として発生する場合と、オート連打機能を機能させることができない状態として発生する場合との両方があるようにしてもよい。

【９６８１】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「所定複種別許容状態」は、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合との両方があるように発生するものであればよく、この際、オート連打機能については、必ず機能するものとして発生するようにしてもよい。

【９６８２】

また、当該第１０７構成Ｃ１０７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９６８３】

当該第１０７構成Ｃ１０７に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１０８構成Ｃ１０８～第１１５構成Ｃ１１５にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【９６８４】

また、例えば、第１０８構成Ｃ１０８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）

が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であり（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））と、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）で前記所定操作手段（操作ボタン４１０）とに対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（例えば、図２０６に示される第１Ｃボタン変化（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現しうるようにした（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９６８５】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９６８６】

この点、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第

１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９６８７】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９６８８】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９６８９】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６９０】

この点、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態」が発生している状況下においては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）がいずれもこれと重複するかたちで発生可能とされるのに対し、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある所定複種別許容状態」が発生している状況下においては、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）がいずれもこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９６９１】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボ

タン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生すると、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９６９２】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況下にあるときに（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間内に相当するが、「第３Ｃ刀受付状態」を備えないこととする場合は、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内に相当する）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０３を参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０６を参照）とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。ただし、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。

【９６９３】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」とが順次に現れるように設定することが望ましい。

【９６９４】

ちなみに、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０２を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０８（ｅ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１０（ｃ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９６９５】

これに対し、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔ

ＣａＳ－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０３を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０９（ｄ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａＳ－１～ｔＣａＳ－２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには（図２０６を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１１（ｂ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９６９６】

このような構成によれば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａＳ－２の期間）が現れたときには、予め定められた時間が経過するだけで、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作に対しても演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９６９７】

ただしこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａＳ－２の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａＳ－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ（図２１０（ｃ）を参照）、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａＳ－２の期間）」が現れることがなくなる（図２１０（ｃ）へと演出進展した場合は、図２１１（ｃ）へと演出進展する可能性がなくなる）ようにすることが望ましい。

【９６９８】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａＳ－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａＳ－１～ｔＣａＳ－２の期間）」が現れなくなることはもとより、操作していない側であ

る操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【９６９９】

なお、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と同じ演出態様が現れるようになっている。

【９７００】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されている区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）と、表示されていない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）との両方があるようにしてもよい。

【９７０１】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに表示されることはないようにすることが望ましい。

【９７０２】

このような構成によれば、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９７０３】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６

～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、さらには予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい（図２０２を参照）。

【９７０４】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして少なくとも特別単種別許容状態を終了させるようにすることで（図２０２（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが（図２０２（ｆ），（ｇ）などを参照）、予め定められた時間が経過してから所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させることがないようにすることが望ましい（図２０２（ｄ）や、図２０８（ｅ）からの演出進展先などを参照）。

【９７０５】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２）にあるなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化（第１所定変化）として、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）を新たに出現させる場合（図２１１（ｂ）を参照）と、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）ををを新たに出現させない場合（図２１０（ｃ）を参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、その変化の１つとして、該特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）とは異なる態様変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）が表示されるようにすることが望ましい。

【９７０６】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）としていずれの種別も発生していないなかでその発生条件が満たされるときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技

者が感知可能な変化）を何ら生じさせない（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備えない）が、特別単種別許容状態として、いずれかの種別（第３Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、これとは異なる種別（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を生じさせる（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備える）ようにすることが望ましい（図１９６（ｊ），（ｋ）などを参照）。

【９７０７】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９７０８】

若しくは、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生すようにすることで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れるようにしてもよい。

【９７０９】

また、当該第１０８構成Ｃ１０８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９７１０】

また、例えば、第１０９構成Ｃ１０９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許

容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能であるようにした（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９７１１】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態

（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９７１２】

この点、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９７１３】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９７１４】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９７１５】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９７１６】

この点、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい。

【９７１７】

またこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される

第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）にこれを契機として発生可能であるが、上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生するだけでなく特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）がさらに表示された場合（図２３１（ｄ），（ｈ）などを参照）は、上記特定時間が経過したとしても（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても）これを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９７１８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合（図２２８（ｅ），（ｈ）などを参照）であれば、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７１９】

なおこの場合、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、該特定時間が経過するまでの間に発生した上記特別複種別許容状態（図２２８（ｅ）などを参照）がその発生状態を維持している場合のほか、その発生状態を終了している場合もあるようにした上で、それらのいずれの場合であっても発生可能とされるようにすることが望ましい。

【９７２０】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）には、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」が新たに発生することはないようにすることが望ましい。

【９７２１】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した以降、それよりも前に表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合であっても（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）につ

いては、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７２２】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前（タイミングｔＣａ３－１よりも前の、図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２）に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。

【９７２３】

なお、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９７２４】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したとき

には、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７２５】

なお、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【９７２６】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくてもよい。

【９７２７】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である特別複種別許容状態（例えば、第２Ｃ刀受付状態）」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがある側である所定複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。

【９７２８】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９７２９】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特

別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。

【９７３０】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生可能とされるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされるときには、特別単種別許容状態が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていた場合など）。

【９７３１】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、該特別複種別許容状態については、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前（前記特定時間が経過するまでの間）、若しくは上記特定時間が経過するタイミングで、状態終了する場合があるようにしてもよい。

【９７３２】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する側である特別複種別許容状態（例えば、第２Ｃ刀受付状態）」は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が継続しているとき（例えば、図２４１などを参照）と、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が継続していないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているとき（例えば、図２３０などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であるようにすることが望ましい。

【９７３３】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているときには発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないときに限り発生可能とされるようにしてもよい。

【９７３４】

また、当該第１０９構成Ｃ１０９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９７３５】

また、例えば、第１１０構成Ｃ１１０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と

、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ

）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９７３６】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９７３７】

この点、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９７３８】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９７３９】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９７４０】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受

付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９７４１】

この点、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９７４２】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにすることが望ましい。

【９７４３】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７４４】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９７４５】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９７４６】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７４７】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７４８】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操

作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９７４９】

また、当該第１１０構成Ｃ１１０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９７５０】

また、例えば、第１１１構成Ｃ１１１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受

付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９７５１】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９７５２】

この点、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）

ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９７５３】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９７５４】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９７５５】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９７５６】

この点、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）などに示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）などに示されるタイミングｔＣａ４や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９７５７】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｅ），（ｉ）などを参照）、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（

刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあった場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１３（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９７５８】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７５９】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生したときには、その後、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）がさらに発生する可能性があることとなるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感をより好適に維持することが期待されるようになる。

【９７６０】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９７６１】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９７６２】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表

示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）発生する場合（図１９６や図２１２などに示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などに示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７６３】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）発生する場合（図１９６や図２１２などに示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などに示されるタイミングｔＣａ４を参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７６４】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに（該非表示の条件が満たされることを契機として、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９７６５】

また、当該第１１１構成Ｃ１１１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９７６６】
また、例えば、第１１２構成Ｃ１１２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）。すなわちこの場合、操作に関して

の遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【９７６７】
　また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。
【９７６８】
　この点、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。
【９７６９】
　例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。
【９７７０】
　なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。
【９７７１】
　また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかた

ちで発生することがないようにしてもよい。
【９７７２】
この点、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。
【９７７３】
このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【９７７４】
また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。
【９７７５】
ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。
【９７７６】
また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は発生可能とされるようにしてもよい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。
【９７７７】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７７８】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９７７９】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９７８０】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９９（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【９７８１】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（図２０５（ｃ），（ｄ），（ｈ），（ｉ），（ｏ）などを参照）。

【９７８２】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し

、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【９７８３】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【９７８４】

また、当該第１１２構成Ｃ１１２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９７８５】

また、例えば、第１１３構成Ｃ１１３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第

４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、第１配色（ＢＭＧ１）及び第２配色（ＢＭＧ２）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）。すなわちこの場合、操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９７８６】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９７８７】

この点、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９７８８】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状

態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９７８９】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９７９０】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９７９１】

この点、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９７９２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９７９３】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９７９４】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で

表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９７９５】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は発生可能とされるようにしてもよい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９７９６】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９７９７】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９７９８】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９７９９】

また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生可能であるが（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）の発生に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１

に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。
【９８００】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。
【９８０１】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにこれを契機として発生可能であるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている状態にある所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする条件が満たされたときにはこれを契機として発生することがないようにすることが望ましい（図２６７に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４に示されるタイミングｔＣｄ４や、図２８１に示されるタイミングｔＣｅ４などを参照）。
【９８０２】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。
【９８０３】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。
【９８０４】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。
【９８０５】
　また、当該第１１３構成Ｃ１１３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない

。
【９８０６】
　また、例えば、第１１４構成Ｃ１１４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であり（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ）を参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。
【９８０７】
　また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される

第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９８０８】

この点、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９８０９】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９８１０】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９８１１】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９８１２】

この点、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許

容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。

【９８１３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、こうした現象（操作状態を継続したままでオート連打機能が有効化される現象）が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８１４】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９８１５】

この点、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【９８１６】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ

刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９８１７】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９８１８】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該受付後変化が現れた以降、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生してこれに対応する受付後変化が現れた場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８１９】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９８２０】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９８２１】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９８２２】

これに対し、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）や、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ）や、図２６４（ｃ），（ｇ）や、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。

【９８２３】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合とがあるものの、当該所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９８２４】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化（第１Ｃボタン変化や、第２Ｃボタン変化など）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９８２５】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持するこ

とが期待されるようになる。
【９８２６】
　また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とのいずれが発生した場合であっても、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
【９８２７】
　このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【９８２８】
　若しくは、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。
【９８２９】
　また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した時点では、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が既に発生している可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。
【９８３０】

また、当該第１１４構成Ｃ１１４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９８３１】

また、例えば、第１１５構成Ｃ１１５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）とがあるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であり（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照

）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９８３２】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９８３３】

この点、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９８３４】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９８３５】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９８３６】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図

２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９８３７】

この点、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９８３８】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、こうした現象（操作状態を継続したままでオート連打機能が有効化される現象）が現れたときには、受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能することを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのか、それとも受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能するのかを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８３９】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。この点、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生し

たことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【９８４０】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９８４１】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９８４２】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかで発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っ

たとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【９８４３】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８４４】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９８４５】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【９８４６】

また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【９８４７】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【９８４８】
若しくは、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【９８４９】
また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生しないのに対し、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｏ）などを参照）。

【９８５０】
また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が予め定められた時間間隔でのみ機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能するようになっており（例えば、図２０３（ｍ）などを参照）、且つ「オート連打機能が予め定められた時間間隔で機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態）と、不定の時間間隔で機能する場合（例えば、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」において、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回実行される自動操作受付（オート連打機能）が機能するようになっているが（例えば、図２７１（ｏ）に示されるタイミングｔＣｃ１Ｂなどを参照）、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかで特別複種別許容状態が発生したときは、該維持した状態にある上記操作から得られる検出情報に基づいて上記オート連打機能が機能するのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）に示されるタイミングｔＣａＹ１などを参照）、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかで所定複種別許容状態が発生したときは、該維持した状態にある上記操作から得られる検出情報に基づいて上記オート連打機能が機能することがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｏ）に示されるタイミングｔＣｃ１などを参照）。

【９８５１】
また、当該第１１５構成Ｃ１１５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９８５２】

また、例えば、第１１６構成Ｃ１１６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、を備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であり（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化（第１Ｃ受付後表示Ｃ１））と、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）で前記所定操作手段（操作ボタン４１０）とに対する操作の受付けがなされたときの前記受付後変化（例えば、図２０６に示される第１Ｃボタン変化（第２Ｃ特別表示ＢＣ２））とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現しうるようにした（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが

期待されるようになる。
【９８５３】
　また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。
【９８５４】
　この点、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。
【９８５５】
　例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。
【９８５６】
　なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。
【９８５７】
　また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかた

ちで発生することがないようにしてもよい。
【９８５８】
この点、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が有効化される側である特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
【９８５９】
また、以下に列記する各構成については、当該第１１６構成Ｃ１１６にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第１１７構成Ｃ１１７～第１２３構成Ｃ１２３にかかる構成に対して適用すると特に有効である。
【９８６０】
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるが（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別複種別許容状態は、特別単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。
・所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないが、所定複種別許容状態は、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生する場合があるようにしてもよい。
・「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能である」とは、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うと、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別複種別許容状態に対応する受付後変化のみが生じる状態」から、「特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して操作（特定操作状態にする操作）を１回行うだけで、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合があることを意味している。したがって、特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態がさらに発生したときには、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなり、当該状況下において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる（１つ、または複数の）検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが終了されて該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにしてもよい。

・所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｅ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）及び特別操作手段（刀装飾体５００１）のいずれに対して操作を行ったとしても受付後変化が生じることはもとより、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対しては１回の操作受付だけが許容されており、且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対しては複数回の操作受付だけが許容されている状態」へと移行する場合があることとなる。

・「所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態など）とがある所定複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがない」とは、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生している状況下においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対して操作（所定操作状態にする操作）を１回行うだけで、所定単種別許容状態に対応する受付後変化と、所定複種別許容状態に対応する受付後変化とがそれぞれ生じる状態」へと移行する場合がないことを意味する。また、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。また、さらに言えば、特別単種別許容状態は、所定単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがあるのに対し、所定単種別許容状態は、特別単種別許容状態が既に発生しているなかでこれと重複するかたちで新たに発生することがないようにしてもよい。すなわちこの場合、「所定単種別許容状態」の発生条件については、例えば、所定複種別許容状態や特別単種別許容状態が発生しているなかでは満たされないものとして設定されることとなる。または、「所定単種別許容状態」の発生条件については、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときには、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が終了されるときまでその発生時期を遅延させ、「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」がいずれも発生していない状態になったこと（状態終了したこと）を契機として「所定単種別許容状態」を発生させるようにするか、若しくは「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」が発生しているなかでも満たされうるが、当該発生条件が満たされたときにはこれを契機として「所定単種別許容状態」を発生させる代わりにそれまで発生していた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」をいずれも一旦終了（無効状態）させ、該発生した「所定単種別許容状態」が終了されたことを契機として、一旦終了（無効状態）させていた「所定複種別許容状態」や「特別単種別許容状態」を再び発生させるようにすることとなる。また、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときと、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときとで、「所定単種別許容状態」の発生条件が異なるようにしてもよく、例えば、「特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件自体が新たに満たされることはないが、「所定複種別許容状態」が発生している状況下にあるときは「所定単種別許容状態」の発生条件は満たされるものの、上述の「その発生時期を遅延させる」手法か、上述の「一旦終了（無効状態）させる」手法のいずれかが用いられるようにしてもよい

。なおこの場合、「所定複種別許容状態」及び「特別単種別許容状態」がいずれも発生している状況下にあるときは、「所定単種別許容状態」の発生条件自体が満たされないこととなる。
・「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０８（ｇ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」と、図２０９（ｅ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」とを参照）。
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生しているなかで生じた場合と、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。
・「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」において所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態など）」と、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）」とがあるのに対し、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）」において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、「受付後変化を不定の時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」がなく、「受付後変化を予め定められた時間間隔で複数回生じさせる自動操作受付が機能する場合」しかないようにしてもよい。
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）に示される第２Ｃ刀受付状態）がさらに発生したときには（例えば、図２４１（ｄ）～（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなるが、当該状況下においては、「特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）と第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が取得されるように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）」と、特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化とのうち、特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる遊技（第１Ｃ刀操作検出情報（タッチ情報）は取得されるが、第２Ｃ刀操作検出情報（納刀状態への変位情報）は取得されないように、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を行う遊技手法）」とのいずれを行うかを、「特別

操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作のやり方（操作の態様）」によって遊技者が選択可能とされるようにすることが望ましい。
・例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第１操作検出情報（タッチ情報）と、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）で操作の受付けがなされるために必要な第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とは互いに異なっており、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）との両方が検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化と、特別複種別許容状態に対応する受付後変化との両方を生じさせる）が、「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」とは異なる特別操作（例えば、特別操作手段を接触するだけの操作）が特別操作手段（刀装飾体５００１）に対して行われたときには、第１操作検出情報（タッチ情報）と第２操作検出情報（納刀状態への変位情報）とのうち第１操作検出情報（タッチ情報）のみが検出される（特別単種別許容状態に対応する受付後変化のみを生じさせる）ようにしてもよい。また、これ以外の手法によって実現するようにしてもよい。
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、オート連打機能が必ず機能する側である特別複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らない側である所定複種別許容状態は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。
・特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。
【９８６１】
　また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される

第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況下にあるときに（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間内に相当するが、「第３Ｃ刀受付状態」を備えないこととする場合は、タイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内に相当する）、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０３を参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合（図２０６を参照）とのいずれの場合であっても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。ただし、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（例えば、図２０９（ｄ）と図２１１（ｂ）とを参照）。

【９８６２】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」とが順次に現れるように設定することが望ましい。

【９８６３】

ちなみに、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０２を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０８（ｅ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１０（ｃ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９８６４】

これに対し、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作受付がなされたときには（図２０３を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２０９（ｄ）に示される演出進展が現れることとなる。また、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされたときには（図２０６を参照）、該操作受付に応じた受付後変化として、図２１１（ｂ）に示される演出進展が現れることとなる。

【９８６５】

このような構成によれば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）が現れたときには、予め定め

られた時間が経過するだけで、特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作に対しても演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９８６６】

ただしこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ（図２１０（ｃ）を参照）、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２の期間）」が現れることがなくなる（図２１０（ｃ）へと演出進展した場合は、図２１１（ｃ）へと演出進展する可能性がなくなる）ようにすることが望ましい。

【９８６７】

例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単種別許容状態を終了させるようにすれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単種別許容状態が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【９８６８】

なお、上述した各演出例では、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合は、図１９６に示されるタイミングｔＣａ１～ｔＣａ２の期間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合と同じ演出態様が現れるようになっている。

【９８６９】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１

Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されている区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）と、表示されていない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の期間）との両方があるようにしてもよい。

【９８７０】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ），（ｇ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４の期間）のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）」を終了させて、これとは別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の「所定単種別許容状態」で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに表示されることはないようにすることが望ましい。

【９８７１】

このような構成によれば、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【９８７２】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態」を終了させ、さらには予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい（図２０

２を参照）。
【９８７３】
例えば、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われたときには、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして少なくとも特別単種別許容状態を終了させるようにすることで（図２０２（ｆ）などを参照）、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単種別許容状態については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが（図２０２（ｆ），（ｇ）などを参照）、予め定められた時間が経過してから所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させることがないようにすることが望ましい（図２０２（ｄ）や、図２０８（ｅ）からの演出進展先などを参照）。
【９８７４】
また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－２）にあるなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化（第１所定変化）として、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）を新たに出現させる場合（図２１１（ｂ）を参照）と、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）ををを新たに出現させない場合（図２１０（ｃ）を参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、その変化の１つとして、該特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）とは異なる態様変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）が表示されるようにすることが望ましい。
【９８７５】
また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）としていずれの種別も発生していないなかでその発生条件が満たされるときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を何ら生じさせない（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備えない）が、特別単種別許容状態として、いずれかの種別（第３Ｃ刀受付状態）が発生しているなかで、これとは異なる種別（第１Ｃ刀受付状態）がさらに発生するときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を生じさせる（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備える）ようにすることが望ましい（図１９６（ｊ），（ｋ）などを参照）。
【９８７６】
また、当該１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）のいずれが発生する場合であっても、特別

操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない場合があるようにすることが望ましい。

【９８７７】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）には、当該所定単種別許容状態が発生しているなかで特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が重複するかたちで発生しうる種別の第１所定単許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態）と、当該所定単種別許容状態が継続しているなかでは特別単種別許容状態が重複するかたちで発生することのない種別の第２所定単許容状態（例えば、図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）とが含まれているようにしてもよい。

【９８７８】

若しくは、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）と所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）を新たに出現させない区間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態とのうち特別単種別許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したときに、特別単種別許容状態が、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生すようにすることで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れるようにしてもよい。

【９８７９】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「特別複種別許容状態」は、オート連打機能を必ず機能させることができるように遊技可能な状態として用意されるものであればよく、この際、オート連打機能については、予め定められた時間間隔で機能する場合と、不定の時間間隔で機能する場合との両方があるようにしてもよい。

【９８８０】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成を実現する上では、「所定複種別許容状態」は、オート連打機能を機能させることができるように遊技可能な状態として発生する場合と、オート連打機能を機能させることができない状態として発生する場合との両方があるものとして用意されるものであればよく、この際、オート連打機能については、予め定められた時間間隔でのみ機能するようにしてもよいし、不定の時間間隔でのみ機能するようにしてもよい。

【９８８１】

また、当該第１１６構成Ｃ１１６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９８８２】

当該第１１６構成Ｃ１１６に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１１７構成Ｃ１１７～第１２３構成

Ｃ１２３にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。
【９８８３】
　また、例えば、第１１７構成Ｃ１１７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）な

どに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能であるようにした（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）。

【９８８４】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９８８５】

この点、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９８８６】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９８８７】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９８８８】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図

２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９８８９】

この点、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えることとした上で、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生可能であるようにしてもよい（図１９６などを参照）。

【９８９０】

またこの場合、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間に「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生した場合であっても、上記特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能であるが（例えば、図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、上記特定時間が経過するまでの間に「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態」が発生するだけでなく特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）がさらに表示された場合は、上記特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（図２３１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）。

【９８９１】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生する場合に関して、該特別複種別許容状態が秘かに発生した場合（図２２８（ｅ），（ｈ）などを参照）であれば、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８９２】

なおこの場合、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、該特定時間が経過するまでの間に発生した上記特別複種別許容状態（図２２８（ｅ）などを参照）がその発生状態を維持している場合のほか、その発生状態を終了している場合もあるようにした上で、それらのいずれの場合であっても発生可能とされるようにすることが望ましい。

【９８９３】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）には、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」が新たに発生することはないようにすることが望ましい。

【９８９４】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した以降、それよりも前に表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合であっても（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【９８９５】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前（タイミングｔＣａ３－１よりも前の、図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２）に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。

【９８９６】

なお、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９８９７】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９８９８】

なお、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【９８９９】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくてもよい。

【９９００】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）及び所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の少なくとも一方が発生している状況下においては、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）及び所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）のうち、「オート連打機能が必ず機能する側である特別複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生可能であるのに対し、「オート連打機能が必ずしも発生するとは限らない側である所定複種別許容状態」は、該発生している許容状態と重複するかたちで発生することがないようにすることが望ましい。

【９９０１】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでのみ、且つこれと重複するかたちでのみ発生可能であるようにしてもよい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ））。すなわちこの場合、所定単種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで特別単種別許容状態が発生すると、特別単種別許容状態と所定単種別許容状態との両方が発生している状況が現れることとなる。

【９９０２】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」がこれと重複するかたちで発生する場合（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別単種別許容状態に対応する受付後変化は、当該特別単種別許容状態のうち、上記特別複種別許容状態が発生していない区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２５３（ｄ）を参照）と、特別複種別許容状態が発生している区間内で特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として生じる場合（図２０９（ｄ）に示した演出内容と同じ）とで同じ態様（雷が落ちている画像表示Ｃ１）として現れるようにすることが望ましい。

【９９０３】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときには、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生可能とされるが（図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）及び所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されているときに、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）のみが非表示にされるときには、特別単種別許容状態が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図２６０に示されるタイミングｔＣｂ４を跨るかたちで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていた場合など）。

【９９０４】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、該特別複種別許容状態については、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前（前記特定時間が経過するまでの間）、若しくは上記特定時間が経過するタイミングで、状態終了する場合があるようにしてもよい。

【９９０５】

また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、第２Ｃ刀受付状態）」は、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が継続しているとき（例えば、図２４１などを参照）と、該特別単種別許容状態が継続していないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているとき（例えば、図２３０などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であるようにすることが望ましい。

【９９０６】
　また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているときには発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないときに限り発生可能とされるようにしてもよい。
【９９０７】
　また、当該第１１７構成Ｃ１１７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９９０８】
　また、例えば、第１１８構成Ｃ１１８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基

づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９９０９】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９９１０】

この点、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９９１１】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９

６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９９１２】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９９１３】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９９１４】

この点、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９９１５】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態

様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにすることが望ましい。

【９９１６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９１７】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前（タイミングｔＣａ３－１よりも前の、図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２）に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。

【９９１８】

なお、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９９１９】
　また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。
【９９２０】
　なお、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。
【９９２１】
　ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくてもよい。
【９９２２】
　また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。
【９９２３】
　また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。
【９９２４】
　また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手

段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９２５】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９２６】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われないとき、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われなかったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過したときに、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９９２７】

また、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９９２８】

また、例えば、第１１９構成Ｃ１１９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさ

せうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、該非表示にされる前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であるようにした（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）や所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９９２９】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９９３０】

この点、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９９３１】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９９３２】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９９３３】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９９３４】

この点、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各

構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに該条件が満たされたことを契機として発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあった場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合とのいずれであったとしても発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【９９３５】

例えば、特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが（複数回）許容される状態（特別複種別許容状態）にあるか否かにかかわらず、これを契機として発生しうるものであり（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合と、「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生する場合があるのに対し、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が「特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にあるときに表示開始されたもの」である場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記非表示にされる条件が満たされたことを契機として発生することがないようにしてもよい。

【９９３６】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９３７】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であり（図１９６（ｄ）に示される

タイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの間に表示される場合があるもの」として用意するとともに、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。

【９９３８】

なお、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされた時点において「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該条件が満たされたことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９９３９】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が必ず有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、該特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９４０】

なお、当該第１１８構成Ｃ１１８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【９９４１】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば

、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくてもよい。

【９９４２】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生している状況下においては、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている場合（例えば、図１９６（ｅ），（ｈ）を参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（態様ＫＭＧ２）で表示されている場合（例えば、図１９７（ｅ），（ｈ）を参照）との両方があるようにしてもよい。

【９９４３】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）にこれを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９９４４】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（例えば、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図１９７や図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９４５】

また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されていない（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない）状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）や、図２１３（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが許容されている（特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している）状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにはこれを契機として発生する場合（図１９６や図２１２などを参照）と発生しない場合（図２００や、図２１３などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９４６】
　また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われることなく、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされると、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生するのに対し、所定種別の所定単種別許容状態（第１Ｃボタン受付状態）が発生することに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にあった場合（図１９６（ｈ），（ｉ）を参照）は、その後、遊技者による操作が何ら行われることなく、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされると、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。
【９９４７】
　また、当該第１１９構成Ｃ１１９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【９９４８】
　また、例えば、第１２０構成Ｃ１２０として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）

などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９９４９】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９９５０】

この点、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）

ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９９５１】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９９５２】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９９５３】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９９５４】

この点、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【９９５５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９５６】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９９５７】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９９５８】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９５９】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９９６０】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９６１】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀

受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するよりも前（タイミングｔＣａ３－１よりも前の、図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２）に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記特定時間が経過した時点において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。

【９９６２】

なお、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、上記特定時間が経過した時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。

【９９６３】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９６４】

なお、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【９９６５】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくても

よい。
【９９６６】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。
【９９６７】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。
【９９６８】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９９（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）。
【９９６９】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（図２０５（ｃ），（ｄ），（ｈ），（ｉ），（ｏ）などを参照）。
【９９７０】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。
【９９７１】
　また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連

表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【９９７２】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【９９７３】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【９９７４】

またこの際、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、その種別に応じて、その発生条件が満たされたことに応じて、それまで表示状態にあった所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする場合（図１９６（ｄ），（ｉ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）と、非表示にせずこれを継続する場合（図１９６（ｆ），（ｉ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）との両方があるようにしてもよい。

【９９７５】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【９９７６】

また、当該第１２０構成Ｃ１２０や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【９９７７】

また、例えば、第１２１構成Ｃ１２１として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特

別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能である遊技機であって（図１９６（ｄ）～（ｆ）を参照）、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに発生可能であるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【９９７８】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態な

ど）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【９９７９】

この点、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【９９８０】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【９９８１】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【９９８２】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【９９８３】

この点、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態には、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、受付後変化として第１Ｃ刀変化を生じさせる種別である図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）が含まれており、該特定種別の特別単種別許容状態（第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示

状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、該所定操作関連表示が非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｂ４や、図２６７（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｃ４や、図２７４（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣｄ４などを参照）。

【９９８４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９８５】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合はあるが、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合はないようにしてもよい。

【９９８６】

ただしこの場合、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）においては、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示される場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示される場合との両方があることとなる（図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態）。

【９９８７】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【９９８８】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【９９８９】
　また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特定種別の特別単種別許容状態（例えば、第１Ｃ刀受付状態）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。
【９９９０】
　また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態として、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」とを少なくとも用意するようにしてもよい。そしてこのうち、「第１種別の特別単種別許容状態」が、上述の「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示する条件が満たされたときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるまでの間に特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していたとしても発生可能なもの」として構成されるものであってもよい。そしてこの場合、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるよりも前（タイミングｔＣａ３－１よりも前の、図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ２）に発生する場合があるもの」として用意するとともに、上記非表示にされる条件が満たされた時点（タイミングｔＣａ３－１）において当該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として「第１種別の特別単種別許容状態」が必ず発生するようにしてもよい。なおこの場合、「第１種別の特別単種別許容状態」は、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することとなり、当該状態において、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にする操作が行われると、該操作の受付けがなされたことに基づいて、「第１種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第１Ｃ刀変化）と、「第２種別の特別単種別許容状態」に対応する受付後変化（第３Ｃ刀変化）とがそれぞれ生じることとなる。
【９９９１】
　なお、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」の発生条件は、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生している状況下にあるときに満たされる場合と、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生していない状況下にあるときに満たされる場合との両方があるようにしてもよい。この場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされた時点において、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生している状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生するが、「第２種別の特別単種別許容状態」が発生していない状況下にあるときには「第１種別の特別単種別許容状態」が発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。
【９９９２】
　また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される

第１Ｃ刀受付状態）」及び「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」についてはいずれも、「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかで発生可能なものとして用意するようにすれば、特別複種別許容状態が発生したときには、該特別複種別許容状態が発生しているなかでこれと重複するかたちで「第２種別の特別単種別許容状態」が発生することをまずは期待できるようになり、該「第２種別の特別単種別許容状態」が発生したときには、該特別複種別許容状態と「第２種別の特別単種別許容状態」とがそれぞれ発生しているなかでこれらと重複するかたちで「第１種別の特別単種別許容状態」がさらに発生することを期待できるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【９９９３】

なお、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）」が発生しているなかでは、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」が発生することなく、「第１種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）」がこれと重複するかたちで発生する場合もあるようにしてもよい。

【９９９４】

ただし、特別単種別許容状態の種別として、「第２種別の特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）」については必ずしも備えなくてもよい。

【９９９５】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態とは、このような特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のほか、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがない種別の許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）をさらに含む（用意する）ものであってもよいし、特定種別の特別単種別許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）のみを含む（用意する）ものであってもよい。

【９９９６】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【９９９７】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された以降、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する

ことがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【９９９８】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【９９９９】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【１００００】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【１０００１】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【１０００２】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【１０００３】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。

【１０００４】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。

【１０００５】

また、当該第１２１構成Ｃ１２１や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１０００６】

また、例えば、第１２２構成Ｃ１２２として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場

合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であるようになっており、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ）を参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１０００７】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【１０００８】

この点、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【１０００９】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状

態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【１００１０】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【１００１１】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【１００１２】

この点、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が有効化される特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。

【１００１３】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。ただしその代わり、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかでは、特別単種別許容状態の発生自体がなくなってしまうようになっているから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うときの緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００１４】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【１００１５】

この点、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付

状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるから、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【１００１６】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【１００１７】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【１００１８】

これに対し、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３な

どに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）や、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」の発生自体はそれぞれ生じうるようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ）や、図２６４（ｃ），（ｇ）や、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。

【１００１９】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に関しては、所定複種別許容状態が発生したとしても、オート連打機能が必ずしも有効化されるとは限らないものの、当該所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも、所定単種別許容状態及び所定複種別許容状態はいずれもその発生自体は保証されるようになっているから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【１００２０】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態が発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００２１】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているなかで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【１００２２】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【１００２３】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）の発生自体は生じうるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化（第１Ｃボタン変化や、第２Ｃボタン変化など）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【１００２４】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別単種別許容状態の発生自体がなくなる）とは異なり、所定単種別許容状態これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１００２５】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とのいずれが発生した場合であっても、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【１００２６】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行った場合（特別複種別許容状態が発生することはもとより、受付後変化も操作をそのまま継続するだけで生じる）とは異なり、所定複種別許容状態は発生するものの、この際、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作についてはこれを一旦終了してからやり直すようにしなければ、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされることがない。したがって、所定複種別許容状態が発生したときには、オート連打機能が有効化されるか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００２７】

若しくは、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【１００２８】

また、当該第１２２構成Ｃ１２２や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１００２９】

また、例えば、第１２３構成Ｃ１２３として、遊技者によって操作可能な特別操作手段

（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単種別許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じた受付後変化を１回だけ生じさせうる所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単種別許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて受付後変化を複数回生じさせうる所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複種別許容状態手段とを備え、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）では、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、必ず、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能するが（例えば、図２００（ｅ），（ｍ）や、図２６３（ｅ），（ｍ）や、図２７０（ｅ），（ｍ）や、図２７７（ｅ），（ｍ）や、図２８４（ｅ），（ｍ）などを参照）、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）では、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能する場合（例えば、図２７１（ｇ），（ｏ）などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７８（ｇ），（ｏ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）と、前記受付後変化を複数回生じさせる自動操作受付（オート連打機能）が機能しない場合（例えば、図２８５（ｇ），（ｏ）などに示される第５Ｃボタン受付状態など）との両方があるようになっており、前記特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能であり（例えば、図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで終了可能であるようになっており、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）を前記所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにした（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ）や、図２７８（ｃ），（ｇ）や、図２８５（ｃ），（ｇ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００３０】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、特別複種別許容状態（例えば、図

１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図１９６（ｄ）～（ｇ）を参照）」として用意されるものであることに鑑みれば、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときには、その後、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生する可能性があることとなるから、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生したときの遊技興趣をより好適に維持することが期待されるようになる。しかも、特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）がさらに重複するかたちで発生したとしても、該特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、比較的早期で終了されるようになっているから、特別複種別許容状態が発生している状況下にありながらも、これとは異なる操作への興味を強く惹きつけることが期待されるようになる。

【１００３１】

この点、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が、既に発生している特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）と重複するかたちで発生した場合は（図１９６（ｄ）～（ｆ）などを参照）、その後、特別複種別許容状態が発生（継続）しているなかで特別単種別許容状態の終了条件が満たされうる（特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別単種別許容状態のみが状態終了されうる）ようにすることが望ましい（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ３－２を参照）。

【１００３２】

例えば、上述の演出例では、特別単種別許容状態として、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が用意されるが、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態はいずれも、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで終了されることとなる。図１９６に示した例に対して当該構成を適用した場合、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態のうち第１Ｃ刀受付状態がまずは終了されて、その後、第３Ｃ刀受付状態がこれとは異なるタイミングで終了されることとなる。ただし、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）が継続しているなかで、第１Ｃ刀受付状態及び第３Ｃ刀受付状態が同じタイミングで一括で終了される場合もあるようにしてもよい（例えば、図２０３などを参照）。

【１００３３】

なおこの際、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち、特別複種別許容状態のみが状態終了されることがないようにしてもよい。

【１００３４】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、前記所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、前記所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがないようにしてもよい。

【１００３５】

この点、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「オート連打機能が機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」については、特別操作手段（刀装飾体５００

１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化が生じるようにするのに対し（例えば、図２３２（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｅ），（ｍ）を参照）、「オート連打機能が機能する場合（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態や、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態）と、オート連打機能が機能しない場合（例えば、図２８１～図２８７などに示される第５Ｃボタン受付状態）とがある所定複種別許容状態」については、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持している操作にかかる検出に基づいて当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化（第３Ｃボタン変化、第４Ｃボタン変化）が生じることがないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【１００３６】

このような構成によれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）については、これを特定操作状態に維持する操作を行っているなかでも特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生可能であることはもとより、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけで、当該特別複種別許容状態に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が生じるようになっているから、１回目の操作受付に応じた受付後変化が現れたときには、２回目以降の操作受付に応じた受付後変化もこれに続いて生じることを好適に示唆することができるようになる。これに対し、所定操作手段（操作ボタン４１０）については、これを所定操作状態に維持する操作を行っているなかでも所定複種別許容状態（例えば、図２６７～図２７３などに示される第３Ｃボタン受付状態、図２７４～図２８０などに示される第４Ｃボタン受付状態、または図２８１～図２８７に示される第５Ｃボタン受付状態など）が発生可能ではあるものの、該発生した以降もそれまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定複種別許容状態に対応する受付後変化が生じることはない。すなわち、所定複種別許容状態が発生したときには、所定複種別許容状態が発生したときには、オート連打機能が有効化されるのか否かを認識し難くすることができるようになり、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めるようにしつつも、該やり直すときの遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００３７】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生自体が生じないようにしてもよい（例えば、図２００（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）や、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｆ）などを参照）。この点、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なもの（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）」として用意されていることに鑑みれば、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」に対応する受付後変化（第２Ｃ刀変化）が現れたときには「特別複種別許容状態」が発生したことの認識を容易化する代わりに、その時点で、本来発生していたはずの特別単種別許容状態の発生自体が喪失されてから当該「特別複種別許容状態」が発生した可能性があることとなる。そうかといって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作を行わなかったときは、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されずに「特別複種別許容状態」が秘かに発生した場合などには、当該「特別複種別許容状態」が発生したことを見抜けずにその操作機会を喪失してしまうリスクもあるか

ら、これらのリスクを見極めつついずれの遊技手法を採用すべきかについての戦略性の高い遊技を提供することができるようになる。

【１００３８】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでは発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（ＫＭＧ２）で表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【１００３９】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成では、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生することがないものとして用意するのに対し、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれで表示されているなかでも発生可能なものとして用意するようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（ＫＭＧ１）及び第２態様（ＫＭＧ２）のいずれかで表示されているときには、「特別単種別許容状態」が発生する可能性がないから、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行ったとしても、「特別単種別許容状態」の発生機会を喪失するリスクを負うことなく特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行うことが可能であるとともに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで特別複種別許容状態が発生する可能性がある遊技を提供することができるようになる。

【１００４０】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「オート連打機能が必ず機能する特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合は、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。このような構成によれば、特別操作手段を特定操作状態に維持する操作を行っているなかで「特別複種別許容状態」が発生した場合であっても、該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別単種別許容状態がさらに発生する場合があるようになるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００４１】

なおこの場合、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合であっても、当該「特別複種別許容状態」において特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているな

かで特別単種別許容状態がさらに発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないなかでのみ特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【１００４２】

また、「特別複種別許容状態」が発生しているなかで「特別操作手段（刀装飾体５００１を特定操作状態に維持する操作」を終了した場合、その時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていたとしても、その後、当該「特別複種別許容状態」が発生しているなかで特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされたときには、「特別複種別許容状態」内のそれ以降の期間内で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が非表示にされているなかで特別単種別許容状態がさらに発生可能とされるようにしてもよい。

【１００４３】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまでの操作をそのまま継続するだけでは、当該所定単種別許容状態に対応する受付後変化が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２６４（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

【１００４４】

このような構成によれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態に維持する操作を行った場合は、所定単種別許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態、または図２６０～図２６６に示される第２Ｃボタン受付状態など）これ自体は発生しうることとなる。したがって、所定単種別許容状態が発生したときには、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作を一旦終了してからやり直すようにすれば、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされて受付後変化が生じるから、緊張感を提供するにあたり、遊技興趣についてもこれを好適に維持することが期待されるようになる。

【１００４５】

若しくは、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）」については、「特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」と同様、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、特別複種別許容状態の場合とは異なり、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて当該特別単種別許容状態に対応する受付後変化が生じないようにすることが望ましい。すなわちこの場合、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作を一旦終了してからやり直すことを求めることとなる。

【１００４６】

また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単種別許容状態と特別複種別許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単種別許容状態及び特別複種別許容状態のうち特別単種別許容状態のみが終了されて、特別単種別許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複種別許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【１００４７】
　また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。
【１００４８】
　またこの際、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、その種別に応じて、その発生条件が満たされたことに応じて、それまで表示状態にあった所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を非表示にする場合（図１９６（ｄ），（ｉ）などに示される第１Ｃ刀受付状態）と、非表示にせずこれを継続する場合（図１９６（ｆ），（ｉ）などに示される第３Ｃ刀受付状態）との両方があるようにしてもよい。
【１００４９】
　また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単種別許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、オート連打機能が有効化される上記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。
【１００５０】
　また、当該第１２３構成Ｃ１２３や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【１００５１】
　また、例えば、第１２４構成Ｃ１２４として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段とを備え、前記特別複許容状態（図１

９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前記第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）及び前記所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）は発生条件が異なるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｇ）などを参照）、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）で前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときの前記第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）と、前記所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）で前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときの前記第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）とでは、いずれも変化の１つとして、特別種別動画表示（図２０９（ｄ）及び図２１１（ｂ）に示される雷が落ちている画像表示Ｃ１，ＢＣ２）が新たに出現しうるようにした。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００５２】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１００５３】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【１００５４】

また、以下に列記する各構成については、当該第１２４構成Ｃ１２４にかかる構成のほか、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、後述の第１２５構成Ｃ１２５～第１２９構成Ｃ１２９にかかる構成に対して適用すると特に有効である。

・特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）は、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで発生した場合（例えば、図２０３（ｌ）や図２０９（ｄ）などを参照）と、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで発生した場合（例えば、図２１９（ｌ）や図２２５（ｄ）などを参照）とで同じ態様（第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」）であるようにしてもよい。

・特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）に対応する第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）は、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで発生した場合と、該特別単許容状態が発生していないなかで発生した場合とで同じ態様として実行されるようにしてもよい（例えば、図２０８（ｇ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」と、図２０９（ｅ１）に示される第２Ｃ受付後表示Ｃ２としての「敵キャラクタに対する剣攻撃」とを参照。
・特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）及び特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、それらの一方が発生しているなかでもそれらの他方が発生しうる関係性を有するが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持される操作が行われており且つこれに応じた第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるときには特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにしてもよい（例えば、図２００（ｄ），（ｍ）などを参照）。
・特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していないなかで発生可能であるが（例えば、図２４１（ｄ），（ｅ）などを参照）、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない場合であっても、特別操作手段（刀装飾体５００１）が特定操作状態に維持される操作が行われているときには特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにしてもよい（例えば、図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ）などを参照）。
・所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）（所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）に対応する受付後変化）が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
・所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）（所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）に対応する受付後変化）が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
・第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）では、その変化の１つとして、特別種別動画表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）を新たに出現する場合（図２０６（ｏ）や、図２１１（ｂ）などを参照）と、特別種別動画表示が新たに出現しない場合（図２０５（ｏ）や、図２１０（ｂ），（ｃ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。
・第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）では、その変化の１つとして、特別種別動画表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」）が新たに必ず出現するようにしてもよい。
・特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される

第１Ｃ刀変化など）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を「第１特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）」とした上で、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）及び第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）のいずれとも異なる第３特別変化（例えば、図２０３（ｎ）などに示される第３Ｃ刀変化など）を１回だけ生じさせうる第２特別単許容状態（図１９６（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）を発生可能な手段をさらに備えるようにしてもよい。

・所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）において所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持される操作が行われた結果として所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が終了し且つ第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）が生じている状況下にあるなかで発生することがないようにしてもよい。

・所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）において所定操作手段（操作ボタン４１０）が所定操作状態に維持される操作が行われた結果として所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が終了した以降（第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）が終了し）、所定操作状態に維持される操作が所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）にあったときから継続して行われているなかでも発生可能であるようにしてもよい。ただしこの際、該操作が行われているときに得られる検出情報に基づいて所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされてこれに応じた第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）が生じることはないようにすることが望ましい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。

・特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるのに対し、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでは発生しないようにしてもよい（図２４５（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

・若しくは、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であり、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるのに対し、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じることがないようにしてもよい。

・所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）が生じることがないよ

うにしてもよい（図２０７（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
・所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われているなかでも発生可能であるが、この際、それまで維持した操作にかかる検出に基づいて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）が生じることがないようにしてもよい（例えば、図２７１（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２７８（ｃ），（ｇ），（ｏ）や、図２８５（ｃ），（ｇ），（ｏ）などを参照）。
【１００５５】
この点、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生可能なものとした上で（図１９６などを参照）、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）のうち、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前の区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには（図２０５（ｏ）や、図２１０（ｂ），（ｃ）などを参照）、これに応じた受付後変化（第１Ｃボタン変化）の１つとして特別種別動画表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）を新たに出現させることがないが、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生している区間内で所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには（図２０６（ｏ）や、図２１１（ｂ）などを参照）、これに応じた受付後変化（第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など））の１つとして特別種別動画表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）を新たに出現可能とするようにしてもよい。
【１００５６】
すなわちこの場合、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）とのうち所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）のみが発生しているなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合（図２０５（ｃ），（ｏ）や、図２１０（ｂ），（ｃ）などを参照）は、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）が新たに出現可能とされることがないが、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状況下にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合（図２０３（ａ），（ｂ），（ｌ）や、図２０９（ｄ）などを参照）と、所定操作手段（操作ボタン４１０）を所定操作状態にしてこれを維持する操作が行われた場合（図２０６（ｃ），（ｏ）や、図２１１（ｂ）などを参照）とでは、いずれの場合であっても、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１や、第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）が新たに出現可能とされることとなるから、遊技興趣を好適に維持することが期待されるようになる。なお、特別種別動画表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１や、第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）の態様（配色や、明暗など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされた場合と、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされた場合とで異なるようにしてもよい（同じであってもよい）。
【１００５７】
若しくは、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の

各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態が現れたときには（図１９６や図２１２（ｄ），（ｅ）に示されるタイミングｔＣａ２などを参照）、当該状態内で、時間経過（予め定められた時間の経過）によって「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示）を新たに出現させない区間（図１９６や図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」と、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示）を新たに出現させる区間（図１９６や図２１２に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の区間）」とが順次に現れるように設定することとしてもよい。このような構成によれば、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態が現れたときには、予め定められた時間が経過すれば、操作手段に対する操作の受付けがなされたときの演出性が高められるようになるから、遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。ただしこの場合、第２特別単許容状態と所定単許容状態との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間（図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間（図１９６や図２１２に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の区間）」が現れることがなくなるようにしてもよい。

【１００５８】

例えば、第２特別単許容状態（図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単許容状態（図２１２（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を終了させるようにすれば、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の区間）」が現れなくなることはもとより、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまうこととなるから、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生しているときの操作に対する緊張感をより一層提供することが期待されるようになる。

【１００５９】

なお、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受

付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態においては、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）」が表示されうるようにすることが望ましい。若しくは、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示」が表示されている区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）と、表示されていない区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ３－１～ｔＣａ３－２の区間）との両方があるようにしてもよい。

【１００６０】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、これを契機として、それまで発生していた「所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）」を終了させて、これとは別の種別の受付状態（操作ボタン４１０に対する操作受付が許容される状態）を発生させるようにしてもよい。ただし、別の種別（受付後変化が異なる種別）の受付状態で、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたとしても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示が表示されることはないようにすることが望ましい。

【１００６１】

このような構成によれば、「所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときに、操作していない側である操作手段（特別操作手段（刀装飾体５００１））に対する操作の受付けすらも非許容の状態にされてしまう」といった構成を仮に採用したとしても（必ずしも採用しなくてもよいが）、該構成が機能したときの遊技興趣の低下を抑制することが期待されるようになる。

【１００６２】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには（例えば、図２０２や図２１８などを参照）、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、「第２特別単許容状態（図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態」を終了させ、これによって予め定められた時間が経過しても「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れることがなくなるようにしてもよい。なおこの場合、受付後変化の１つとして、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示）が新たに出現させることはない。

【１００６３】

例えば、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応

じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させない区間（図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには（図２１８（ｆ）などを参照）、該操作の受付けに応じた受付後変化の１つとして特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を終了させるようにすることで、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態を終了させることが可能である。この際、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）については、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたことを契機として終了されず、継続されるようにしてもよいが（図２１８（ｇ）などを参照）、当該状況が現れた場合（タイミングｔＣａ３－１が到来したとしても第１Ｃ刀受付状態が発生しない条件へと移行した場合）は、上記予め定められた時間が経過してから（タイミングｔＣａ３－１が到来してから）所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示）を新たに出現させることがないようにすることが望ましい。

【１００６４】

若しくは、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）と所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）との両方が発生している状態のうち、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示（第１Ｃ受付後表示Ｃ１や、第２Ｃ特別表示ＢＣ２としての「雷が落ちている画像表示」）を新たに出現させない区間（図１９６や図２１２に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の区間）」にあるときに、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けがなされたときには（図２０３などを参照）、該受付けを契機とした受付後変化の１つとして、特別単許容状態と所定単許容状態とのうち特別単許容状態を終了させるが、この場合であっても、予め定められた時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生させるようにすることで、「特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）のいずれに対する操作の受付けがなされても、該受付けに応じた受付後変化の１つとして特別種別動画表示を新たに出現させる区間」が現れるようにしてもよい。

【１００６５】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下（例えば、図１９６に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ４）にあるなかで所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作受付がなされると、これに応じた受付後変化（第１所定変化）として、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）を新たに出現させる場合（図２１１（ｂ）を参照）と、特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）をを新たに出現させない場合（図２１０（ｃ）を参照）との両方があるが、いずれの場合であっても、その変化の１つとして、該特別種別動画表示（雷が落ちている画像表示ＢＣ２）とは異なる態様変化（敵キャラクタに対する魔法攻撃ＢＣ１）が表示されるようにすることが望ましい。

【１００６６】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）の発生条件が満たされるときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔ

Ｃａ２などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を何ら生じさせない（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備えない）が、第２特別単許容状態（図１９６や図２１２（ｆ）などに示される第３Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで、第１特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）がさらに発生するときには（図１９６（ｆ）に示されるタイミングｔＣａ３－１などを参照）、これを契機として、表示変化や、音変化や、発光変化などの演出変化（遊技者が感知可能な変化）を生じさせる（これを契機として、演出変化を生じさせる制御手段を備える）ようにすることが望ましい（図１９６（ｊ），（ｋ）などを参照）。

【１００６７】

また、当該第１２４構成Ｃ１２４や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１００６８】

当該第１２４構成Ｃ１２４に関して記載した上記各構成については、他の構成に対しても適用可能であることは言うまでもないが、以下の第１２５構成Ｃ１２５～第１２９構成Ｃ１２９にかかる各構成に対して適用すると特に有効である。

【１００６９】

また、例えば、第１２５構成Ｃ１２５として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態（例えば、図１９６（ｄ），（ｆ）などに示される第１Ｃ刀受付状態、または第３Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり（図１９６（ｄ）に示されるタイミングｔＣａ３－１を参照）、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから前記特定時間が経過するまでの間に前記特別複種別許容状態（例えば、図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合であっても発生可能であり（図２２８（ｄ），（ｅ）などを参照）、前記特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において

前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前記第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００７０】

また、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１００７１】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【１００７２】

この点、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段をさらに備えることとした上で、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態（図１９６や図２１２（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときに（タイミングｔＣ３－１が到来したことを契機として）発生可能であるようにしてもよい（図１９６などを参照）。

【１００７３】

またこの場合、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから上記特定時間が経過するまでの間に特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合であっても上記特定時間が経過するときに（該タイミングが到来したことを契機として）発生可能であるが、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生してから上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示された場合は、特定時間が経過するときに発生することがないようにしてもよい（図２３１（ｄ），（ｅ），（ｈ）などを参照）。

【１００７４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの

間）に「特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」が発生する場合に関して、該特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が秘かに発生した場合（図２２８（ｅ），（ｈ）などを参照）であれば、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能であるが、該特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されたときには（図２３１（ｅ），（ｈ）などを参照）、上記特定時間が経過するとき（タイミングｔＣａ３－１が到来するとき）に上記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生する可能性がなくなるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００７５】

また、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、上記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した以降、それよりも前に表示開始された所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてからの上記特定時間が経過するまでの間（タイミングｔＣａ３－１が到来するまでの間）に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されない場合であっても（図２２８（ｅ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記特定時間が経過するときには（該タイミングが到来したことを契機として）発生する場合と発生しない場合との両方があるようにしてもよい。このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することができるようになる。

【１００７６】

なお、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの間に特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合、該特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、上記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生するよりも前（特定時間が経過するまでの間）、若しくは特定時間が経過するタイミングで、状態終了する場合があるようにしてもよい。

【１００７７】

また、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、「特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）」は、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が継続しているとき（例えば、図２４１などを参照）と、該特別単許容状態が継続していないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であり、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているとき（例えば、図２３０などを参照）と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないとき（例えば、図２２８などを参照）とのいずれの状況下においても発生可能であるようにすることが望ましい。

【１００７８】

また、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されているときには発生することがなく、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていないときに限り発生可能とされるようにしてもよい。

【１００７９】

また、当該第１２５構成Ｃ１２５や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図

２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１００８０】

また、例えば、第１２６構成Ｃ１２６として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、この際、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり（図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、前記特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前記第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００８１】

また、当該第１２６構成Ｃ１２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生し

た時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１００８２】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【１００８３】

この点、当該第１２６構成Ｃ１２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミングが到来したことを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【１００８４】

例えば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているか否かにかかわらず、該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ）や、図２１２（ｄ），（ｅ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）や、図２１２（ｄ），（ｈ）などを参照）であっても、上記特定時間が経過したとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）に発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ）や、図２１３（ｄ），（ｈ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにすることが望ましい。

【１００８５】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第

１Ｃ刀受付状態など）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００８６】

また、当該第１２６構成Ｃ１２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに（該タイミングｔＣａ３－１が到来したことを契機として）発生する場合（図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）と発生しない場合（図２００（ｄ），（ｈ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、該特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【１００８７】

また、当該第１２６構成Ｃ１２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能である（発生する場合と発生しない場合との両方がある）ようにすることが望ましい。

【１００８８】

また、当該第１２６構成Ｃ１２６や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１００８９】

また、例えば、第１２７構成Ｃ１２７として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ

生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされるときに発生可能であり、この際、該非表示にされる所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にあるときに表示開始されたものである場合と、前記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にあるときに表示開始されたものである場合とのいずれであったとしても発生可能であり（図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、前記特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前記第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００９０】

また、当該第１２７構成Ｃ１２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１００９１】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【１００９２】

この点、当該第１２７構成Ｃ１２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連し

て所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されている状況下にある場合と、上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能であるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において上記特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が特定態様（態様ＫＭＧ２）で表示されていた場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとしてもこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ４や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）。

【１００９３】

例えば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたとき（タイミングｔＣａ３－１が到来したとき）には、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているか否かにかかわらずこれを契機として発生しうるものであるが（例えば、図１９６（ｄ），（ｅ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｅ），（ｉ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合とでは、いずれの場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１２（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）であっても、上記非表示にされる条件が満たされたときに発生する場合があるのに対し、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点で、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第２態様（特定態様としての態様ＫＭＧ２）で表示されている状況下にある場合（例えば、図１９７（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、図２１３（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）は、上記非表示にされる条件が満たされたときに発生することがないようにすることが望ましい。

【１００９４】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）の表示状況を確認しておくことが求められるようになるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１００９５】

また、当該第１２７構成Ｃ１２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が第１態様（態様ＫＭＧ１）で表示されている状況下にある場合と、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下にある場合とのいずれであったとしても（例えば、図１９６（ｄ），（ｈ）などを参照）、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに（該タイミングｔＣａ３－１が到来したときに）発生する場合（図１９６（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）と発生しない場合（図２００（ｄ），（ｈ），（ｉ）や、第２Ｃボタン受付状態～第５Ｃボタン受付状態などを参照）との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもと

より、非表示にされたときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【１００９６】
　また、当該第１２７構成Ｃ１２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点において、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されており且つ特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生していない状況下にある場合（図２１２（ｅ），（ｈ）などを参照）や、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されておらず且つ特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生している状況下にある場合（図１９６（ｅ），（ｈ）などを参照）も、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能である（発生する場合と発生しない場合との両方がある）ようにすることが望ましい。
【１００９７】
　また、当該第１２７構成Ｃ１２７や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【１００９８】
　また、例えば、第１２８構成Ｃ１２８として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに発生可能であり、前記特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前

記第１特別変化（図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１００９９】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１０１００】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。

【１０１０１】

この点、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されること（例えば、所定単許容状態（例えば、図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態）が発生すること）に関連して所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに該タイミング（タイミングｔＣ３－１）が到来したことを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記特定時間が経過したときに発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。

【１０１０２】

このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから特定時間が経過したときに特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過するまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。

【１０１０３】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（所定配色）で

表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから上記特定時間が経過するまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、該特定時間が経過したときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。

【１０１０４】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。

【１０１０５】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示されてから上記特定時間が経過するときに該タイミング（タイミングｔＣａ３－１）が到来したことを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。

【１０１０６】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがなく、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生していないときに限り発生可能とされるようにしてもよい。

【１０１０７】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【１０１０８】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、その後、上記特定時間が経過するまでの間に特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示開始されたときには、上記特定時間が経過したことを契機として特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（例えば、図１９９（ｄ），（ｈ），（ｉ）などを参照）。

【１０１０９】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、上記特定時間が経過するまでの間に所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けがなされたときには、上記特定時間が経過したこと

を契機として特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生することがないようにすることが望ましい（図２０５（ｃ），（ｄ），（ｈ），（ｉ），（ｏ）などを参照）。

【１０１１０】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにこれを契機として発生可能なものであるが（図１９６などを参照）、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されたときから特定時間が経過したときにはこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【１０１１１】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単許容状態と特別複許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【１０１１２】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【１０１１３】

またこの際、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、その発生条件が満たされたことに応じて、それまで表示状態にあった所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を必ずしも非表示にしなくてもよい。

【１０１１４】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、該特別複許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【１０１１５】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。

【１０１１６】

また、例えば、第１２９構成Ｃ１２９として、遊技者によって操作可能な特別操作手段（刀装飾体５００１）及び所定操作手段（操作ボタン４１０）と、判定を行う判定手段と、前記判定手段による判定にて所定の結果が得られたことに基づいて遊技者に特典を付与しうる特典付与手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが

１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）に示される第１Ｃ刀変化）を１回だけ生じさせうる特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別単許容状態手段と、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）を複数回生じさせうる特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）を発生可能な特別複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが１回だけ許容されており、該受付けがなされたことに応じて第１所定変化（図２０６（ｏ）などに示される第１Ｃボタン変化など）を１回だけ生じさせうる所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定単許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが複数回許容されており、該受付けがなされた回数に応じて第２所定変化（例えば、図２７１（ｏ）などに示される第３Ｃボタン変化、または図２７８（ｏ）などに示される第４Ｃボタン変化など）を複数回生じさせうる所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）を発生可能な所定複許容状態手段と、前記所定操作手段（操作ボタン４１０）に関連した所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）を表示可能な所定操作関連表示手段とを備え、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、特定配色（ＢＭＧ１）を含む複数の配色のいずれかで表示可能であり（例えば、図２６０（ｉ）や、図２６７（ｉ）や、図２７４（ｉ）などを参照）、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、前記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときに発生可能であり、前記特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）は、前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において前記特別操作手段（刀装飾体５００１）が前記特定操作状態に維持される操作が行われた結果として前記特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つ前記第１特別変化（図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であるようにした（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｌ）などを参照）。すなわちこの場合、操作手段に対する操作に関しての遊技興趣の向上を図ることが期待されるようになる。

【１０１１７】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）については、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）において「特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作」が行われた結果として当該特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が終了し且つこれに応じた第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など）が生じている状況下にあるなかでも発生可能であり、且つ該発生した時点においても「特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）内において開始された操作（特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作）」が継続して行われているときには、該操作が行われていることにより得られる検出情報に基づいて上記第２特別変化（例えば、図２０３（ｍ）などに示される第２Ｃ刀変化など）が生じるようにすることが望ましい（図２４８（ａ），（ｂ），（ｄ），（ｅ），（ｍ）などを参照）。

【１０１１８】

このような構成によれば、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化（第１特別変化（例えば、図２０３（ｌ）などに示される第１Ｃ刀変化など））が現れているなかでは、該受付後変化を発生させる契機となった操作を継続していると、これとは異なる受付後変化（特別複許容状態に対応する受付後変化）がさらに生じることを期待できるようになるから、操作手段に対する操作に関して

の遊技興趣の向上をより一層図ることが期待されるようになる。
【１０１１９】
この点、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作手段（操作ボタン４１０）に対する操作の受付けが許容されることに関連して表示開始された上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生しうるものであり、この際、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始されたものであるときには、上記非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合があるのに対し（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示開始されたものであるときには、上記非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないようにしてもよい（例えば、図２６０（ｄ），（ｉ）や、図２６７（ｄ），（ｉ）や、図２７４（ｄ），（ｉ）などを参照）。
【１０１２０】
このような構成によれば、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされるときに特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生するか否かについては、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始される時点における当該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）としての配色（態様）によって予測可能とされるから、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの時間にわたって緊張感を好適に維持することが期待されるようになる。
【１０１２１】
また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（所定配色）で表示開始された場合であっても、上記所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにしてもよい。すなわちこの場合、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始されてから非表示にされるまでの期間にわたって緊張感を好適に維持することはもとより、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされるときの緊張感をより好適に提供することが期待されるようになる。
【１０１２２】
また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている場合と、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第２配色（ＢＭＧ２）で表示されている場合とのいずれの状況下においても、特別複種別許容状態（第２Ｃ刀受付状態）は発生可能とされるようにすることが望ましい（例えば、図２２８（ｅ），（ｉ）や、図２６６（ｅ），（ｉ）などを参照）。
【１０１２３】
また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）については、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示開始された場合であっても、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生する場合（例えば、図１９６（ｄ），（ｉ）などを参照）と、発生しない場合（例えば、図２００（ｄ），（ｉ）などを参照）との両方があるようにすることが望ましい。
【１０１２４】
また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構

成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生しているなかでこれと重複するかたちで発生することがなく、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が発生していないときに限り発生可能とされるようにしてもよい。

【１０１２５】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっては、前記特別操作手段（刀装飾体５００１）に関連した特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）を表示可能な特別操作関連表示手段を備えるようにすることが望ましい。またこの際、特別操作関連表示（刀操作関連表示ＫＳＨ）が表示されていない状況下においても、特別操作手段（刀装飾体５００１）に対する操作の受付けは許容される場合があるようにすることがより望ましい。

【１０１２６】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６～図２５３などに示される第１Ｃボタン受付状態）が発生し、且つ所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示開始された場合は、該所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が非表示にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生することがないものとして用意することが望ましい（図２６７や、図２７４や、図２８１などを参照）。

【１０１２７】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）では、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は第２配色（ＢＭＧ２）で表示されていることがなく、第１配色（ＢＭＧ１）でのみ表示可能とされるようにすることが望ましい（図１９６（ｉ）に示されるタイミングｔＣａ２～ｔＣａ３－１の期間などを参照）。

【１０１２８】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生した場合は、特別単許容状態と特別複許容状態との両方が発生している状況が現れて、当該状況下において特別操作手段（刀装飾体５００１）を特定操作状態にしてこれを維持する操作が行われたときには、該操作が行われたときに得られる検出情報に基づいて、特別単許容状態に対応する受付後変化が１回だけ生じるとともに、特別複許容状態に対応する受付後変化が複数回生じるようにすることが望ましい。

【１０１２９】

また、当該第１２８構成Ｃ１２８や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が第１配色（ＢＭＧ１）で表示されている状況下にあるときに限り、その発生条件が満たされるようにしてもよい。

【１０１３０】

また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）に対応する受付後変化は、特別複許容状態（図１９６（ｅ）などに示される第２Ｃ刀受付状態など）が発生しているなかで生じた場合と、該特別複許容状態が発生していないなかで生じた場合とで同じ態様として現れるようにすることが望ましい（例えば、図２０９（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」と、図２２５（ｄ）に示される第１Ｃ受付後表示Ｃ１としての「雷が落ちている画像表示」とを参照）。

【１０１３１】
　また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）は、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされる場合（図１９６（ｇ），（ｉ）などを参照）があるものであり、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときにこれを契機として発生可能とすることが望ましい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。
【１０１３２】
　また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、特別単許容状態（図１９６（ｄ）などに示される第１Ｃ刀受付状態など）は、所定単許容状態（図１９６（ｇ）などに示される第１Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）が表示状態から非表示の状態にされる条件が満たされたときには、これを契機として、必ず発生するものとして用意するようにしてもよい（図１９６（ｄ），（ｇ），（ｉ）などを参照）。
【１０１３３】
　また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあって、所定操作関連表示（ボタン操作関連表示ＢＳＨ）については、所定複許容状態（図２６７（ｇ）などに示される第３Ｃボタン受付状態、または図２７４（ｇ）などに示される第４Ｃボタン受付状態など）が継続しているなかで表示状態から非表示にされる条件が満たされることがないものとして用意するようにすることが望ましい。
【１０１３４】
　また、当該第１２９構成Ｃ１２９や、上述した各演出例にかかる構成や、その他の各構成にあっても、図２５４～図２５９に示した別例にかかる構成や、若しくは図２８８～図２９０に示した別例にかかる構成などを採用するようにしてもよいことは言うまでもない。
【１０１３５】
　以上、本発明について、いくつかの実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。
【１０１３６】
　上述した演出例にかかる受付期間にあって、操作部に対する操作受付がなされない場合に該操作部に対する操作受付がなされたときと同じ受付後表示を表示しない（同じ受付後変化を生じさせない）ようにする手法とは、「当該受付期間に関連する演出自体を発生させない」ことのほか、「操作受付がなされたときと同じ受付後表示は表示しないが（同じ受付後変化は生じさせないが）、操作受付がなされたときとは異なる受付後表示は表示しうる（異なる受付後変化は生じさせうる）」ようにするものであってもよい。
【１０１３７】
　上述した演出例にかかる受付期間にあって、操作受付が許容可能とされる操作部を複数用意する場合は、それらの操作部は、互いに異なる操作ユニットとしてそれぞれ設けられるものであってもよいし、１つの操作ユニット内の異なる部位としてそれぞれ設けられるものであってもよい。
【１０１３８】
　また、上述した演出例において、操作部を摸した表示とは、当該部分が少なくとも画像として表現されている画像表示であればよく、当該操作部とは異なる部位も同じ画像表示内で表現されているものであってもよい。
【１０１３９】
　また、上述した演出例では、受付期間の種別によっては、当該受付期間の発生に際して

、期待度（大当りなどの特典付与にかかる期待度）が異なる複数態様のいずれかで受付許容音が出力される場合があるが、このような態様で受付許容音が出力される種別の受付期間では、該受付許容音が出力されている間に、特定の操作部に対して操作が行われるとこれを契機として受付許容音が必ず非可聴の状態にされるようにしてもよい（必須の構成ではない）。すなわちこの場合、受付期間が発生してから早い段階で操作を行うと、受付許容音によって提供されている期待度情報を早期に認識できなくなるリスクが生じるようになることから、受付期間が発生するよりも前から連打操作するなどの雑な遊技を行うことを抑制することが期待されうる。

【１０１４０】

また、上述した演出例では、受付期間の種別によっては、当該受付期間の発生に際して、常に同じ態様で受付許容音が出力される場合があるが、このような態様で受付許容音が出力される種別の受付期間では、該受付許容音が出力されている間に、特定の操作部に対して操作が行われるとこれを契機として受付許容音が非可聴の状態にされる場合と、該受付許容音が非可聴の状態にされない場合とがあるようにしてもよい（必須の構成ではない）。すなわちこの場合、受付許容音が非可聴の状態にされなかった場合は、誤って早期に操作してしまったときに期待度を示唆する種別の受付許容音ではなかったことを認識することができることから、遊技興趣の低下を抑制することが期待されうる。また、受付許容音が非可聴の状態にされた場合は、そもそも期待度を示唆する種別の受付許容音ではないから早期に操作することによるデメリットはないものの、遊技者側としては、期待度を示唆する種別の受付許容音であった可能性を意識することとなるから、このような種別の受付許容音であっても上述した雑な遊技を行うことを抑制させるようにすることが期待されうる。

【１０１４１】

例えば、自動演出機能に関する上述した各演出例において「オートボタン設定中」といった表示が行われるようにしている場合があるが、該表示については必ずしも行わなくてもよい。特に、自動演出モードに設定するパチンコ機１ではなく、常に自動演出機能が有効化されうる状態にあり「演出状態への設定」といった処理自体が搭載されないパチンコ機１として実現される場合には、「オートボタン設定中」といった表示は行われないようにすることが望ましい。「演出状態への設定」といった処理自体が搭載されないパチンコ機１では、遊技者による操作が許容される操作受付演出の種別に応じて、自動演出機能が奏される有効期間と、自動演出機能が奏されない有効期間とが発生するようにしてもよい。

【１０１４２】

また、上述した各演出例において、「操作関連表示（例えば、摸画像表示など）」とは、操作部に対する操作受付が許容される状態（受付許容期間）になるか、または該操作受付が許容されている状態（受付許容期間）にあるときにしか出現し得ないものであるから、少なくとも当該「操作関連表示」が表示されると、受付許容期間が必ず発生するか、該表示された時点で許容状態にあるものであればよい。したがって、「操作関連表示」が表示されているなかでこれが非表示になるよりも前に受付許容期間が終了される場合があるようにしてもよい。

【１０１４３】

また、上述した各演出例において、「摸画像」は、遊技者に対して操作を促す画像として実現されるものであればよく、例えば、下方向を指して上下動する矢印画像など、必ずしも操作対象になっている操作手段を摸した画像として表示されるものでなくてもよい。

【１０１４４】

また、上述した各演出例において、検出対象となる「遊技者による操作（動作）」とは、「操作ボタン４１０」や「刀装飾体５００１」などのような、遊技者によって直接操作（押下動作や抜刀動作）されるものに限られず、タッチセンサでの検出対象となる「特定部位に対する遊技者による接触動作」や、非接触センサでの検出対象となる「特定空間内における遊技者による動作」なども含む意味である。要は、遊技者による動作（押下動作

や、抜刀動作、タッチ動作、非接触動作など）を受付対象とする１または複数の受付手段（操作部）を備えるものであればよい。

【１０１４５】

また、上述した各演出例において自動演出機能を採用する場合、操作有効期間内で操作受付を自動発生（自動受付）させるタイミングについては、操作有効期間内であれば、いずれのタイミングに設定するものであってもよい。遊技者に対して操作機会を好適に付与するようにする上では、操作有効期間が発生してからその半分以上の時間が経過した以降に到来する所定タイミングまで操作が検出されなかったときに操作受付が自動発生（自動受付）し、該自動発生した操作受付に基づいて操作後演出が開始されるようにすることが望ましい。この意味では、操作有効期間内の残り時間が１フレームになるタイミングまで操作が検出されなかったときに操作受付が自動発生（自動受付）し、該自動発生した操作受付に基づいて操作後演出が開始されるようにすることが最も望ましいといえる。また、自動演出機能に関する上述した各演出例において、有効期間が終了した以降もバー表示を非表示とせずこれを維持する場合は、有効期間が終了されるタイミングに合わせて操作対象とされる操作手段の態様を変化させる演出（例えば、振動や、ＬＥＤを消灯させるなど）を実行することが望ましい。これにより、バー表示を非表示とせずこれを継続して表示するようにした場合であっても、「有効期間が継続しているのでは？」といった遊技者による誤認識を防ぐことが期待されるようになる。

【１０１４６】

上述した各演出例において、「期間」や「時間」、「状態」と記載されている場合、それらは制御上の最小単位の「期間」や「時間」、「状態」であってもよく、例えば、１フレーム分の期間や時間、状態なども含む意味である。

【１０１４７】

また、上述した演出例やその変形例にかかる各受付期間（操作許容状態）で操作受付がなされたことに応じた「受付後変化（受付後表示）」は、必ずしも大当たりが得られる期待度を示唆するものでなくてもよい。例えば、大当り遊技の実行期間内で確率変動機能が有効化されるか否かについての受付期間として発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよいし、遊技に関する期待度示唆とは何ら関係のない単なるミニゲーム内の受付期間として発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよい。若しくは、各種のインターバル期間などにおいて予め定められた条件が成立したことに基づいて発生してその受付後表示として実行されるようにしてもよい。したがって、上述した演出例やその変形例にかかる受付期間は、必ずしも図柄変動が実行されている期間内で発生するものでなくてもよい。また、このような期待度を示唆しない受付後表示として表示される場合であっても、該受付後表示が表示されるときの態様として複数を用意し、それら複数の態様のいずれかで表示されるようにしてもよい。また、上述した演出例やその変形例にかかる各受付期間（操作許容状態）には、所定の設定時間が設定される有限のものではなく、時間経過とは関係のない所定条件が成立しない限りは無限に継続される種別の受付期間（操作許容状態）が含まれていてもよい。

【１０１４８】

なお、上述した各演出例において、「ＢＧＭ演出音」や「ＢＭＧ再生の音」などの演出音とは、始動入賞に基づいてその可聴出力が開始されうるものであり、且つ複数の図柄変動に跨ってその可聴状態を維持しうるように出力可能とされる音のことである。

【１０１４９】

操作を受ける操作受け部を摸した摸画像とその周縁を装飾する周縁装飾画像とについては画像データとして個別に用意し、それらの各画像データを組み合わせた一体化摸画像として表示するようにしてもよい。

【１０１５０】

図１４４に示した例では、一の操作手段に対して操作機会を付与するときに、「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」が表示される場合（図１４４（ａ），（ｃ））と、これとは異なる形状を持った「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」が表示される場合（図１４４（ｂ），（ｄ）

）とがあるようにした。ただし、「通常ボタン摸画像ＢＭＧａ」が表示される場合（図１４４（ａ），（ｃ））には第１操作手段（第１操作受け部）に対して操作機会を付与し、「特別ボタン摸画像ＢＭＧｂ」が表示される場合（図１４４（ｂ），（ｄ））には第１操作手段（第１操作受け部）とは異なる第２操作手段（第２操作受け部）に対して操作機会を付与するようにしてもよい。

【１０１５１】

上述した各説明例において、操作対象として用意されている部材（操作手段）としては、押圧操作（押圧動作）が求められるもの（ボタンなど）や、抜き差し操作（抜き差し動作）が求められるもの（刀装飾など）のほか、非接触やタッチなどの遊技者動作が求められるもの（近接センサなど）として実現するようにしてもよい。

【１０１５２】

周縁装飾画像ＳＳＧは、「操作機会の付与される対象である操作受け部」の周縁に実際に設けられる周縁装飾部を摸していないものとしたが、少なくとも一部が周縁装飾部を摸していないものであればよく、周縁装飾部を摸している部分があってもよい。

【１０１５３】

有効期間内で特定画像ＴＧを表示する場合は、ゲージ画像ＧＧについては必ずしも表示しなくてもよい。

【１０１５４】

図１４４以降で記載されている「自動受付演出（自動ボタン機能が有効化される受付期間）」については、それよりも前で例示している「自動受付演出」にかかる実現手法のいずれを採用するようにしてもよい。自動受付演出されるときに、摸画像やゲージ画像がそれぞれどのように表示されるかについても、上述した実現手法のいずれを採用するようにしてもよい。すなわち、この実施の形態にかかるパチンコ機１では、受付演出が発生した場合、該発生したときの演出状態の種別や、若しくは該受付演出（操作後演出）これ自体の種別や、若しくは該受付演出が発生した条件などに応じて、有効期間内で遊技者による操作がなくても該操作があったときと同じ操作後演出が実行される（「自動演出機能」が有効化される）場合と、有効期間内で遊技者による操作がなければ操作後演出が実行されない（「自動演出機能」が有効化されない）場合とがあるようになっている。自動演出機能が有効化されるタイミングについては、有効期間内の所定タイミングであってもよいし、有効期間が終了するタイミングであってもよいし、有効期間が終了して少し時間が経過したタイミングであってもよい。

【１０１５５】

上述した各演出例で例示した受付期間（操作許容状態）は、必ずしも大当り判定（演出判定）の結果に応じた演出パターン内で発生するものでなくてもよい。例えば、図柄変動が実行されている期間中ではなく、図柄変動が実行されていない期間（例えば、大当り遊技が実行されている期間や、各種のインターバル期間など）中に（予め定められた条件が成立したことに基づいて）発生するものであってもよい。

【１０１５６】

また、上述した各演出例で例示した受付期間は、当該受付期間の終了条件を「予め定められた時間値が経過したこと」として必ずしも設定しなくてもよく、予め定められた終了条件が成立したとき（例えば、大入賞口に１０個の遊技球が受け入れられたとき）に当該受付期間を終了させるものであってもよい。

【１０１５７】

また、上述した各演出例にあって、消滅ＥＦ演出（消滅エフェクト画像、重複演出表示など）とは、受付後演出（いずれの会話が出現するかによって期待度が示唆される会話予告、可動体が動作するか否かによって期待度が示唆される可動演出、いずれの態様でカットイン表示が現れるかによって期待度が示唆されるカットイン予告など）の種別が異なる複数の受付期間に対して共通して用いられうる（同じ演出態様で実行されうる）ものであり、これによって動作受付（操作受付）が適正になされた状態（受付期間が終了した状態）にあることを認識可能とするものである。すなわち、受付後演出とは、受付期間の種別

に応じて異なるものであるから、その演出内容を見たときにこれが受付期間内で行われているものであるのか、それとも受付期間が終了したことに伴い行われているものであるのかを認識し難い。この点、受付期間の種別にかかわらず、該受付期間が終了すると共通した（同じ）演出態様が現れうる消滅ＥＦ演出を用意することで、動作受付（操作受付）が適正になされて受付後演出が実行されている状態にあることを好適に示唆することができるようになる。ただし、遊技機（パチンコ機１）として、複数種別の受付後演出で共通した消滅ＥＦ演出（消滅エフェクト画像、重複演出表示など）が実行される場合があればよく、例えば、特定種別の受付後演出が発生するときにだけ実行されうる専用の消滅ＥＦ演出（重複演出表示）を用意するようにしてもよい。

【１０１５８】

上述した各演出例にかかる構成は、特別な言及がされていない限り、正常状態で遊技が実行されている場合のことであり、何らかの異常状態が発生した状況下にあるときのものではない。

【１０１５９】

上述した各演出例にかかる受付許容状態は、例えば、時間経過によって発生するなど、判定に基づいて発生するものでなくてもよいし、受付後表示は、例えば、大当り中のミニゲームなど、判定の結果を示唆するものでなくてもよい。

【１０１６０】

上述した各演出例を説明するときに用いられている「摸（摸画像）」とは、「模（模画像）」と同義である。

【１０１６１】

上述した「複数回操作許容状態」とは、操作する都度、選択対象（例えば、キャラクタなど）が切り替わる状態であってもよい。

【１０１６２】

また、上述の「オート連打機能」については、操作状態を維持するだけで新たな受付後変化が一定間隔で生じる連打態様として実現させるほか、操作状態を維持すると操作受付に応じた１つの受付後変化が終了されずに継続される（実行時間を長くする）長押し態様として実現させることも可能である。

【１０１６３】

また、上述した各演出例や変形例、なお書きなどにおいて「望ましい」と記載している事項については、同構成を備えた場合におけるさらなる作用効果を記載しているだけであり、同構成については、必ずしも備えなくてもよいものであることは言うまでもない。

【１０１６４】

すなわち、実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

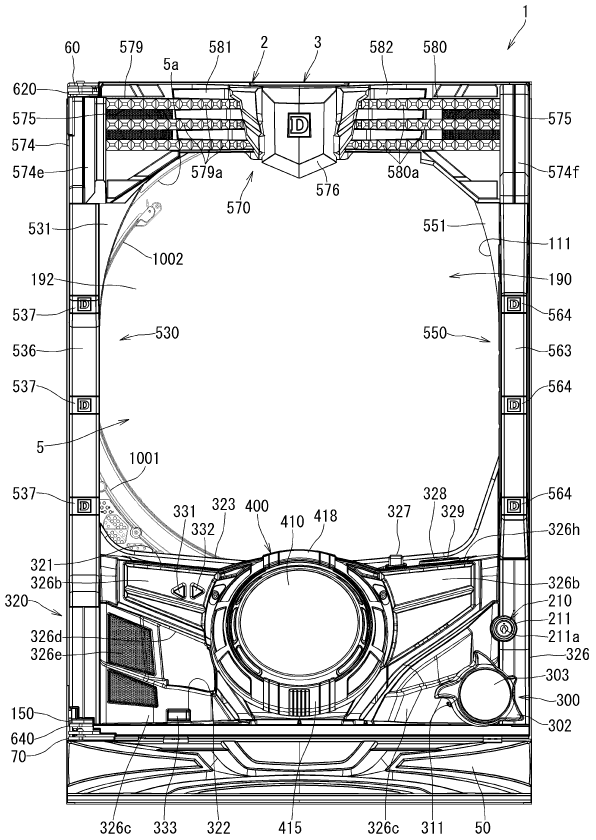
【１０１６５】

１　パチンコ機
２　外枠
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
１４０２　普通図柄表示器
１４０３　第一特別図柄表示器
１４０４　第一特別保留数表示器
１４０５　第二特別図柄表示器
１４０６　第二特別保留数表示器
１４０７　ラウンド表示器

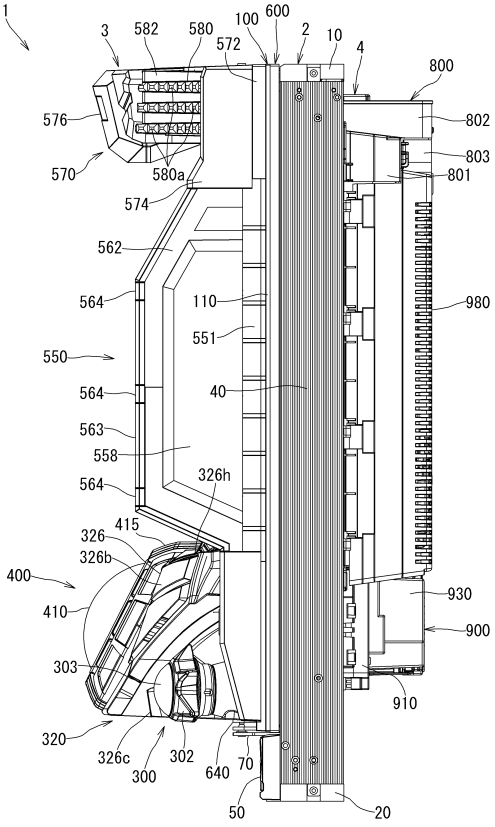
１５００　周辺制御ユニット
１５１０　周辺制御基板
２００１　一般入賞口
２００２　第一始動口
２００３　ゲート部
２００４　第二始動口
２００５　大入賞口

【図面】

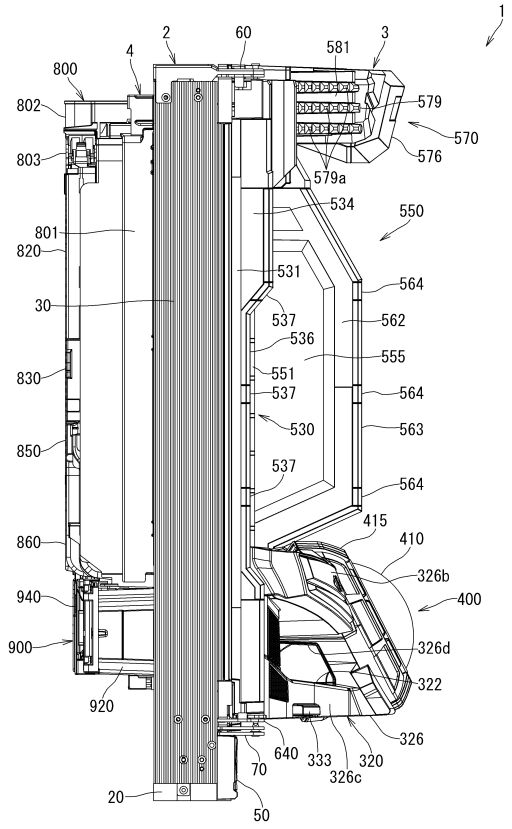
【図１】



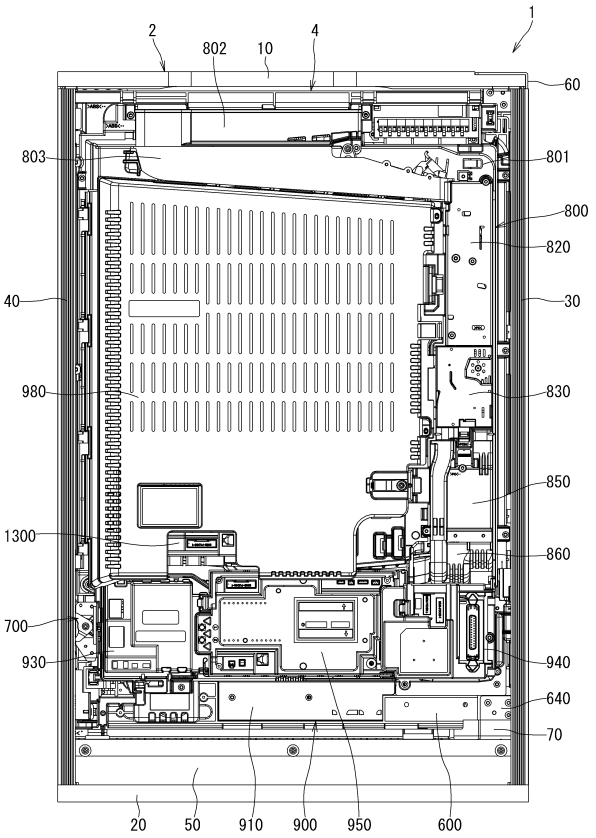
【図２】



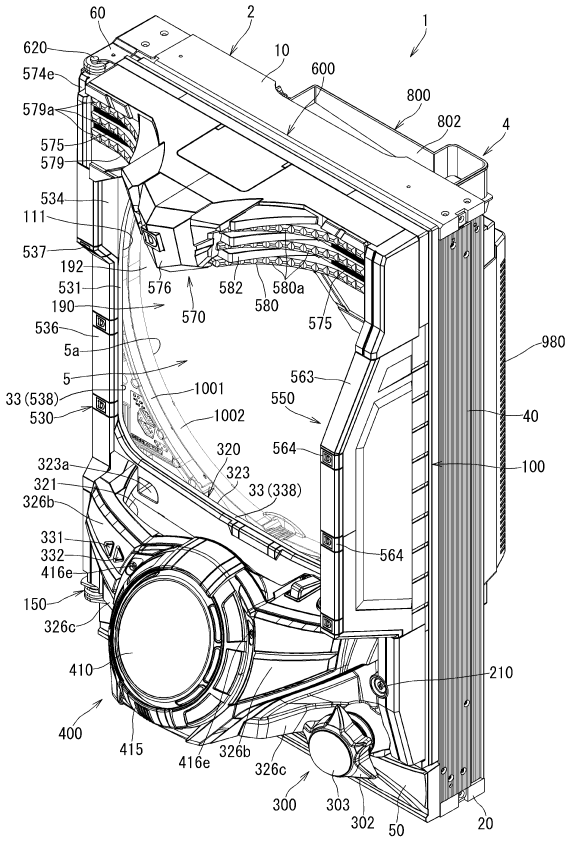
【図３】


1
2
60
581
3
4
800
802
803
579
570
576
579a
534
550
801
820
531
564
30
537
562
536
555
830
551
537
564
530
563
850
537
564
415
860
410
326b
940
400
900
326d
322
920
326
640
333
320
70
326c
20
50

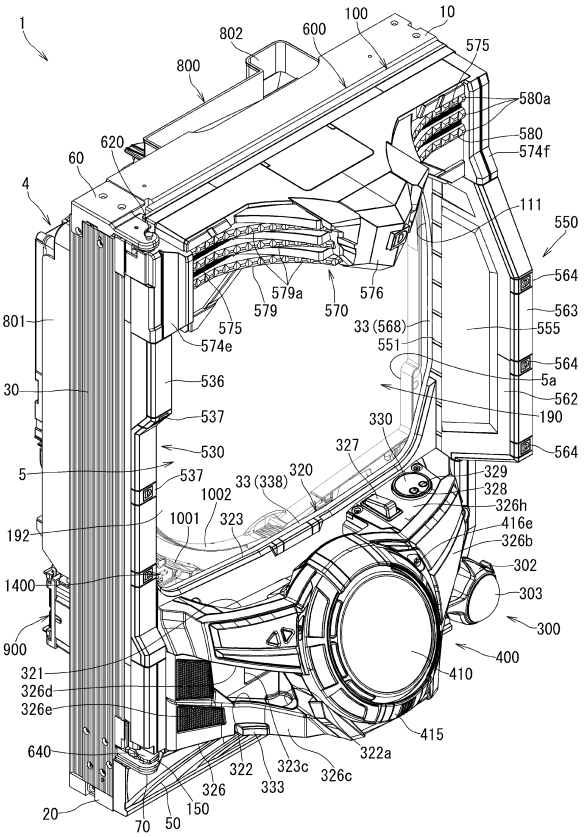
【図４】


1
2
802
10
4
60
803
801
800
820
40
30
980
830
850
1300
860
700
930
940
640
70
20
50
910
900
950
600

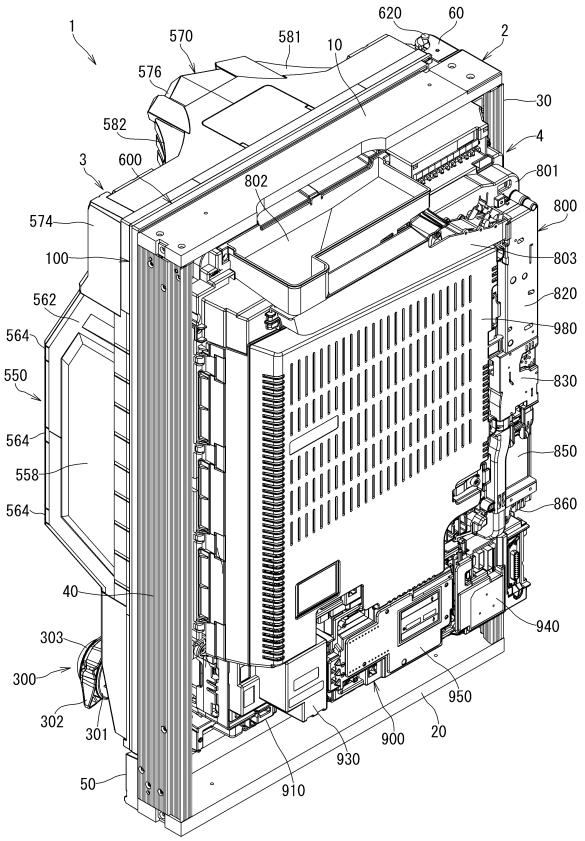
【図５】


60
2
1
620
10
600
574e
800
579a
802
4
575
579
534
111
537
192
531
576
582
580a
190
570
580
575
536
980
5a
5
563
1001
33 (538)
550
530
1002
40
320
564
323a
323
100
321
33 (338)
326b
331
564
332
416e
150
326c
410
210
400
415
416e
326b
326c
300
303
302
50
20

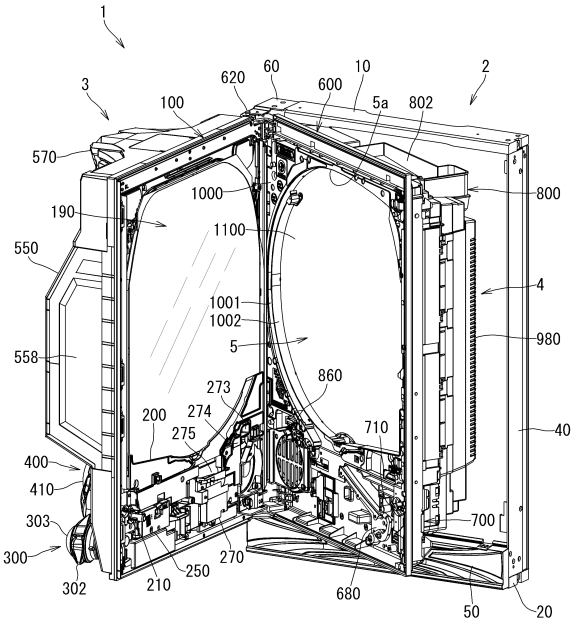
【図６】


1
802
600
100
10
575
800
580a
620
580
60
574f
4
111
550
564
579a
576
579
570
563
801
575
33 (568)
555
574e
551
564
536
5a
30
562
537
190
530
330
564
327
5
537
329
33 (338)
320
328
1002
326h
323
416e
192
1001
326b
302
1400
303
900
300
321
400
326d
410
326e
415
640
322a
322
323c
326c
333
326
150
20
70
50

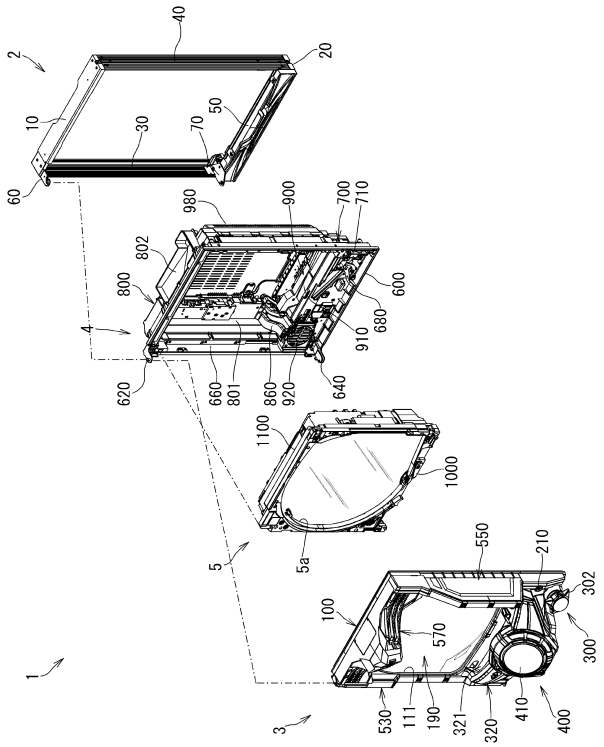
【図７】


1
620
60
570
581
10
2
576
30
582
4
3
600
801
802
800
574
803
100
820
562
980
564
830
550
850
564
558
860
564
40
940
303
300
950
302
301
900
930
20
910
50

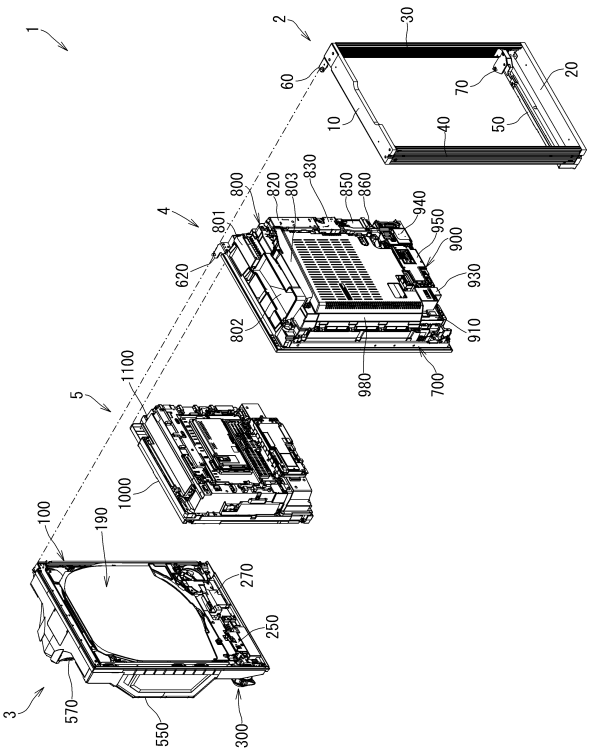
【図８】


1
3
620
60
10
600
2
100
5a
802
570
800
1000
190
1100
550
4
1001
1002
980
5
558
860
273
710
200
274
40
275
400
410
700
303
300
250
270
302
210
680
50
20

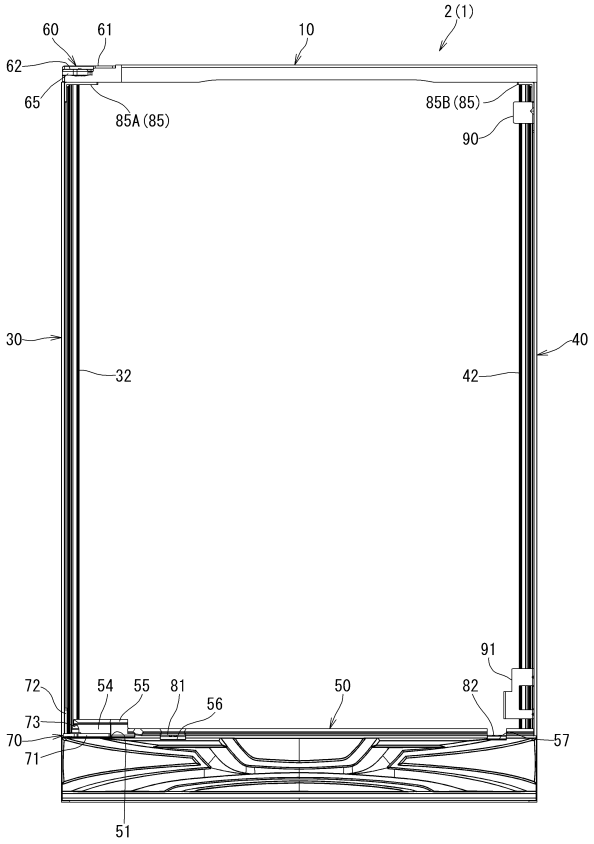
【図９】


40
2
20
10
30
70
50
60
980
900
700
710
802
800
600
4
680
910
620
660
801
860
920
640
1100
1000
5a
5
550
210
302
100
570
300
1
530
111
190
321
320
410
400
3

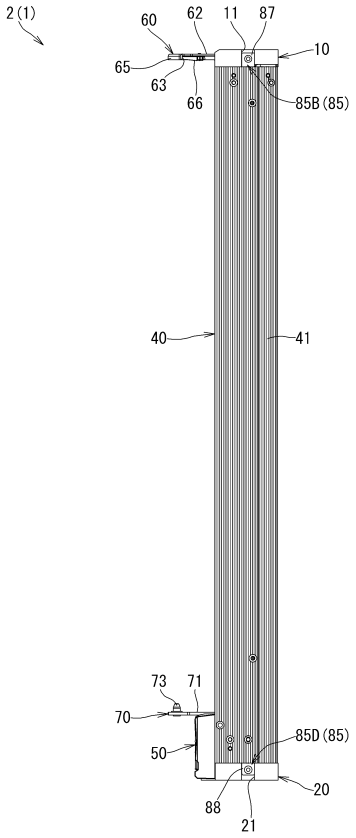
【図１０】


1
2
30
60
70
20
10
40
50
800
820
830
803
850
860
4
801
940
950
900
620
930
802
910
980
700
1100
5
1000
100
190
270
250
3
570
550
300

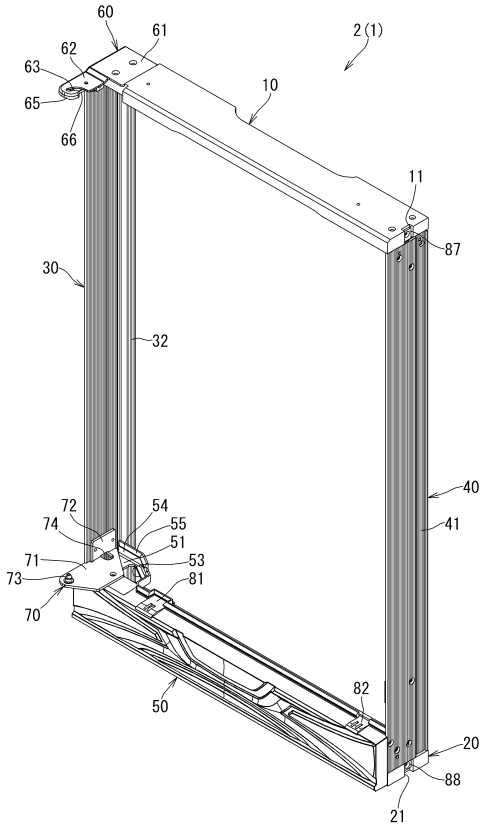
【図１１】



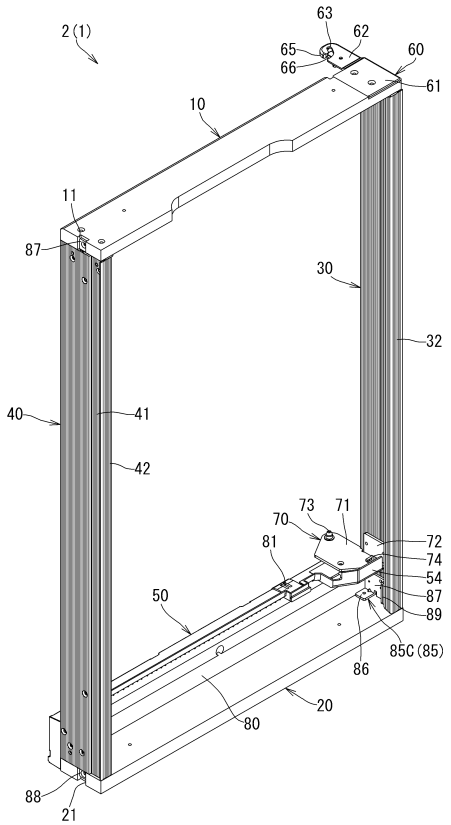
【図１２】



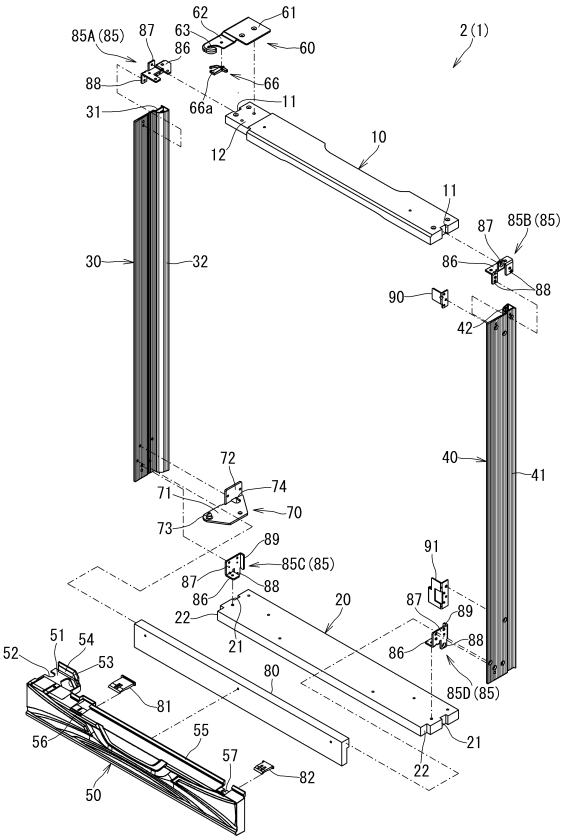
【図１３】



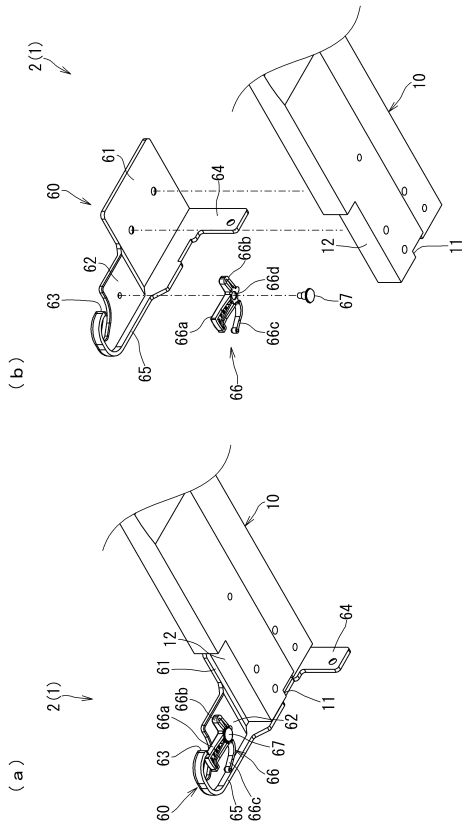
【図１４】



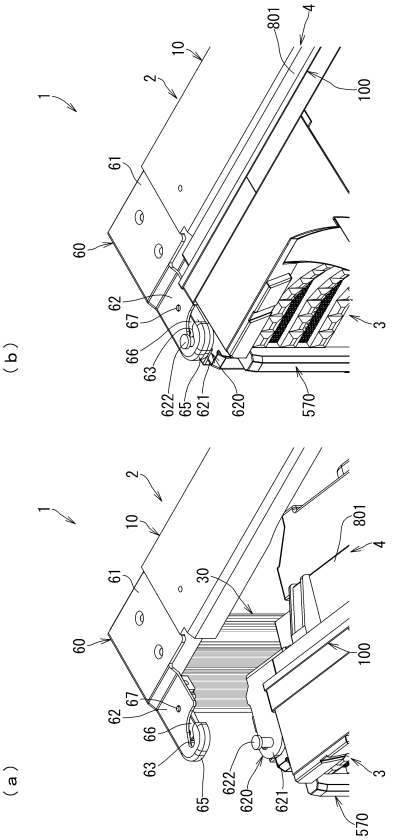
【図１５】



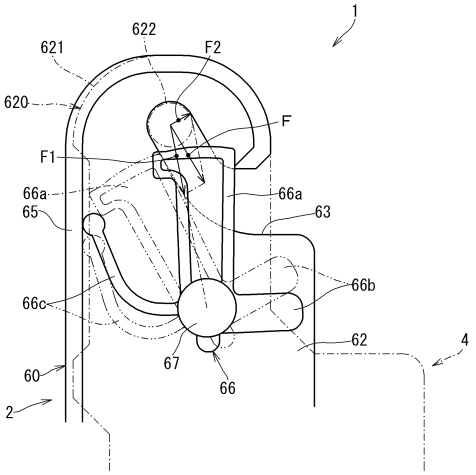
【図１６】



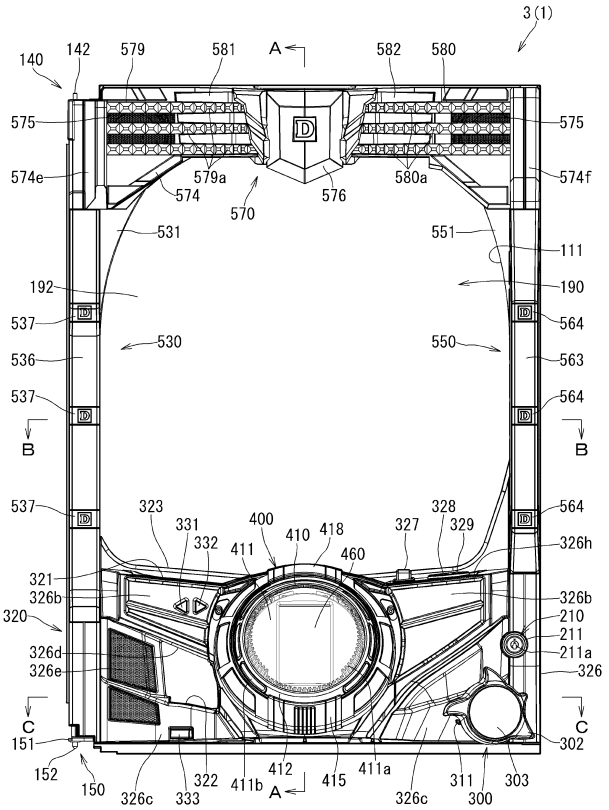
【図１７】



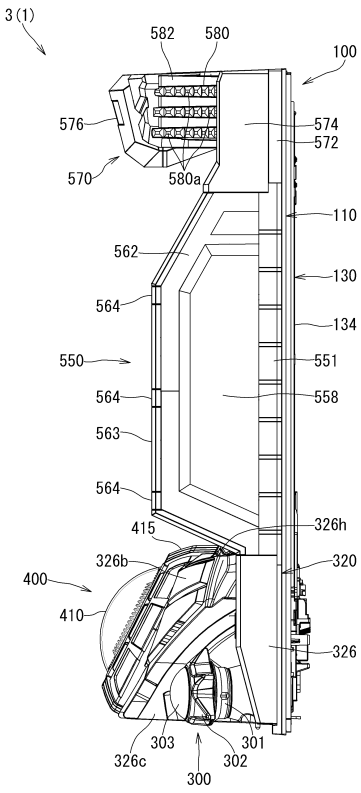
【図１８】



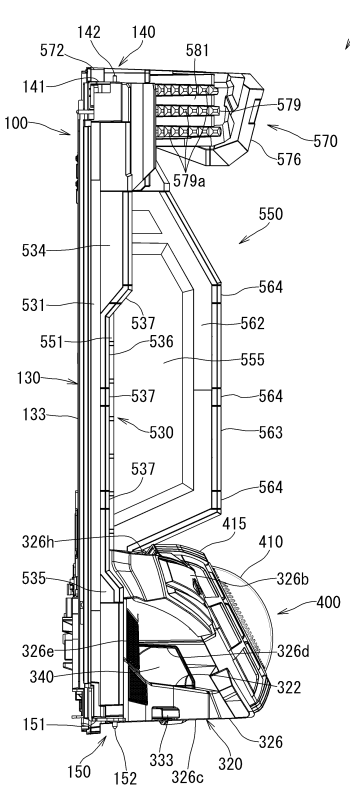
【図１９】



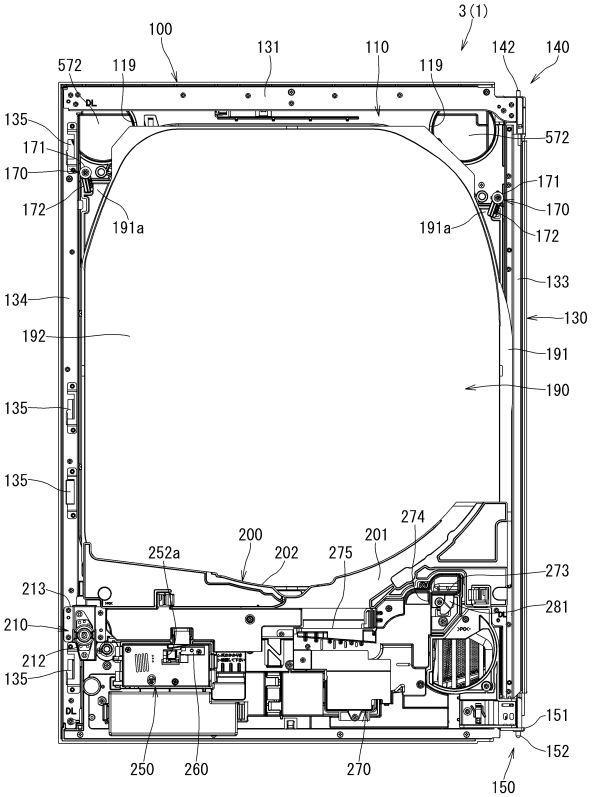
【図２０】



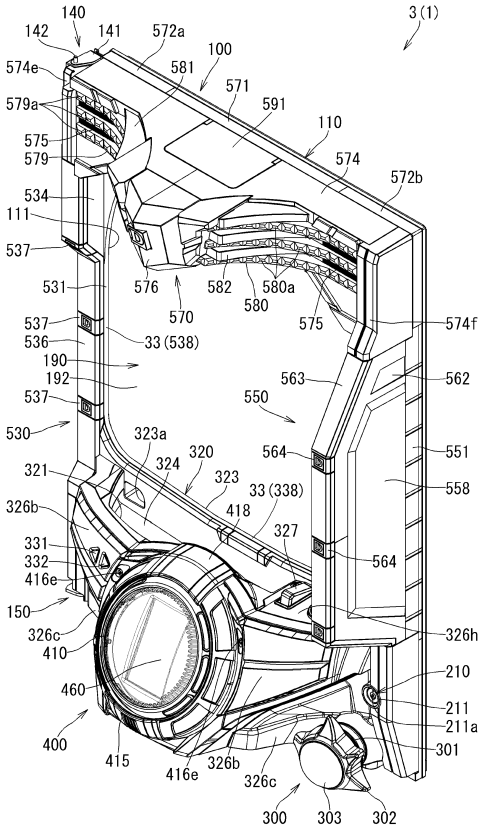
【図２１】



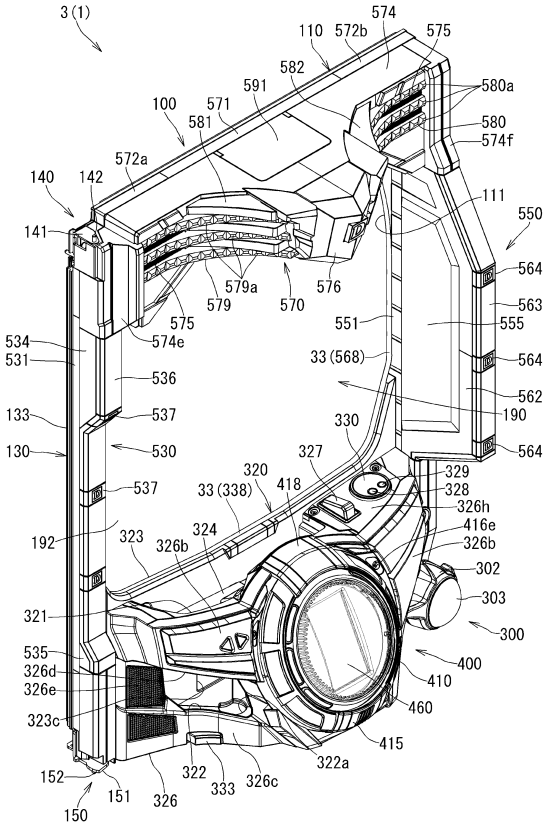
【図２２】



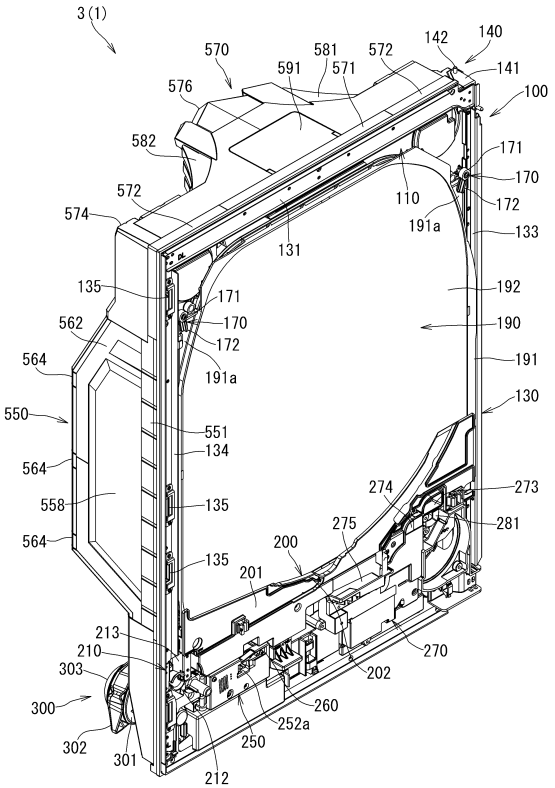
【図２３】



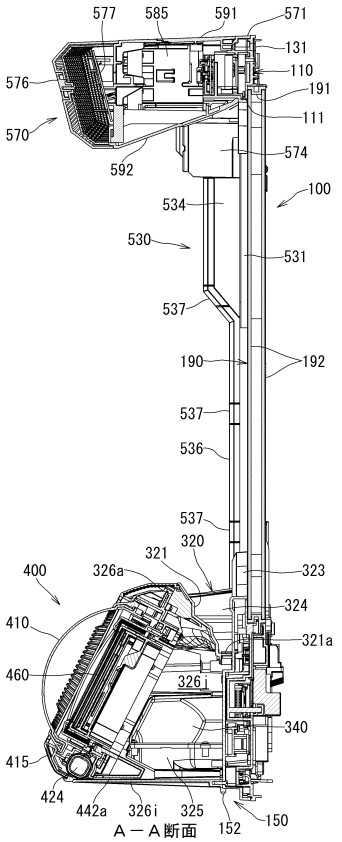
【図２４】



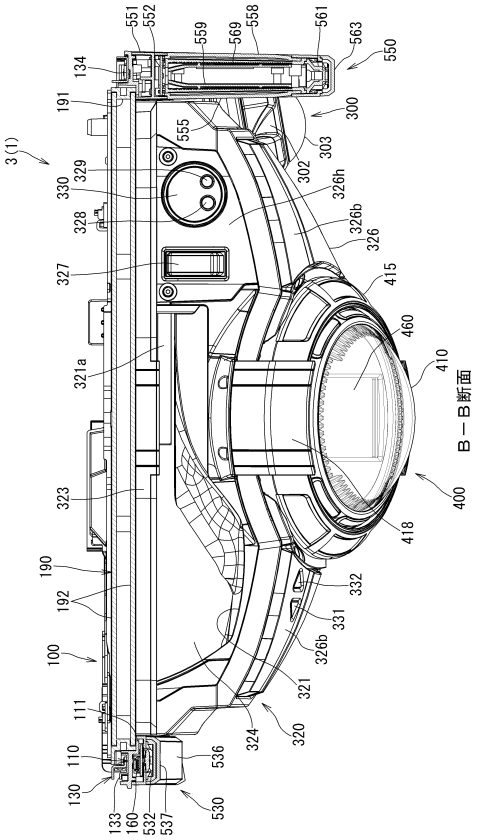
【図２５】



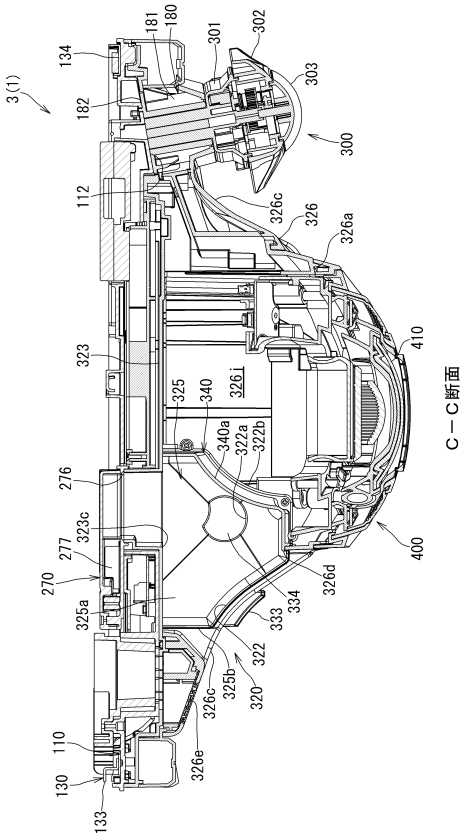
【図２６】



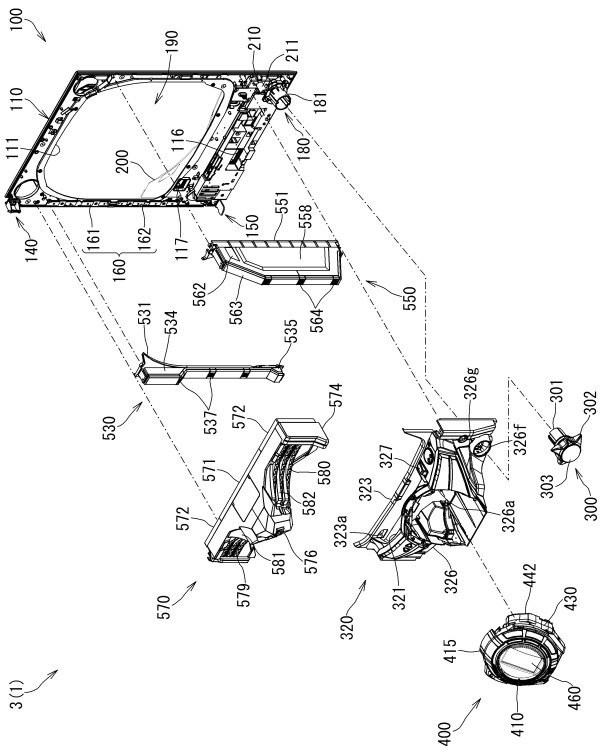
【図２７】



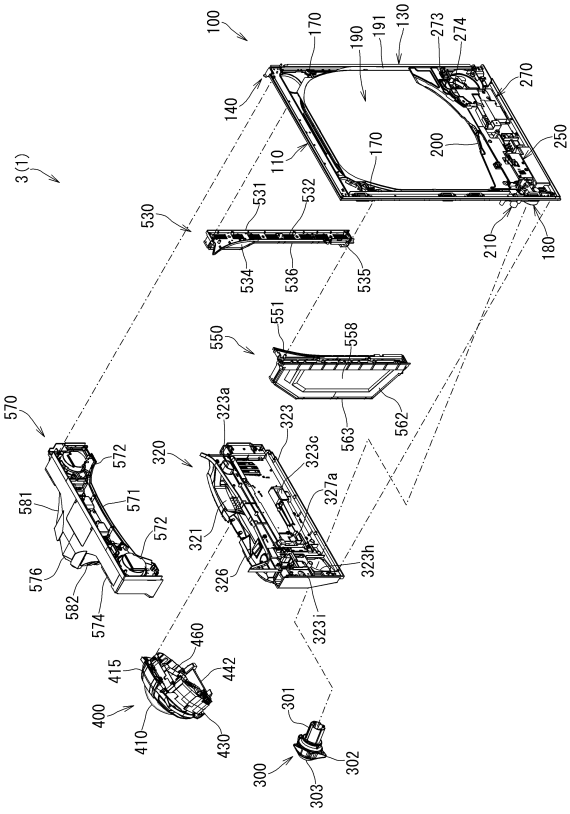
【図２８】



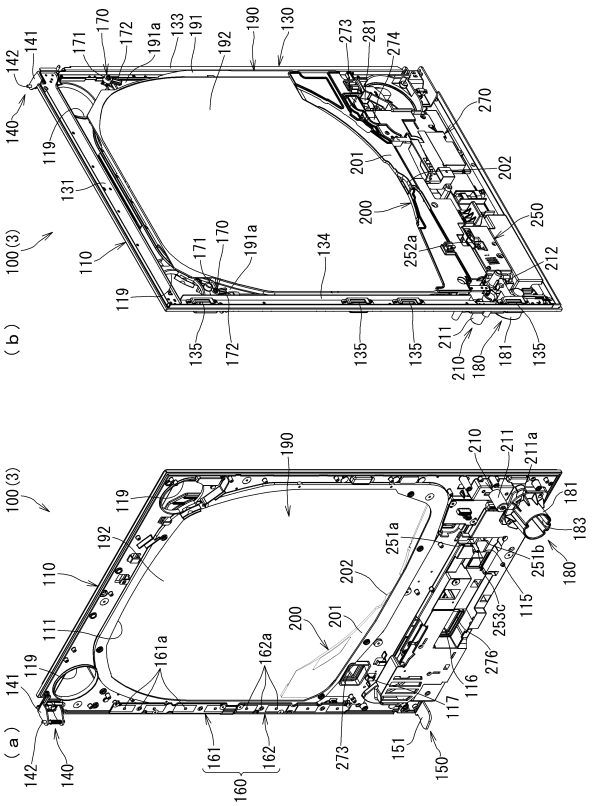
【図２９】



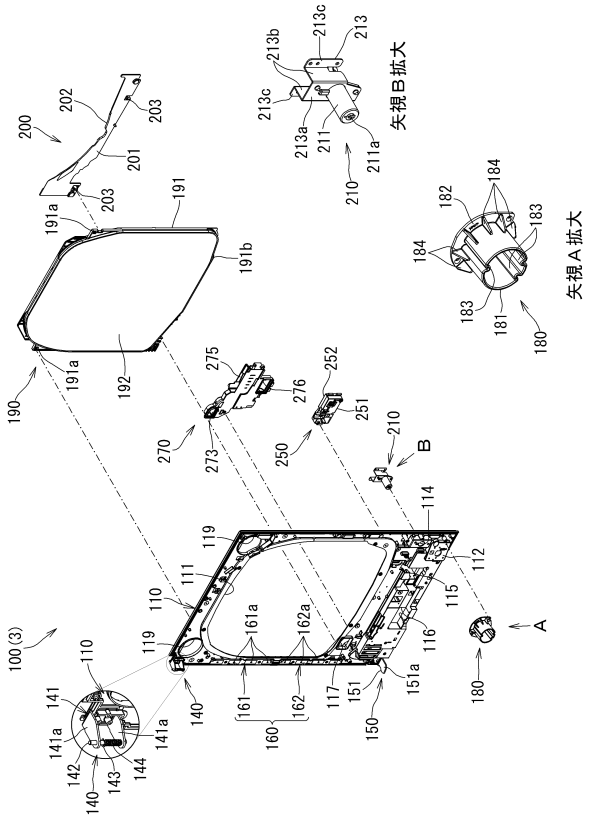
【図３０】



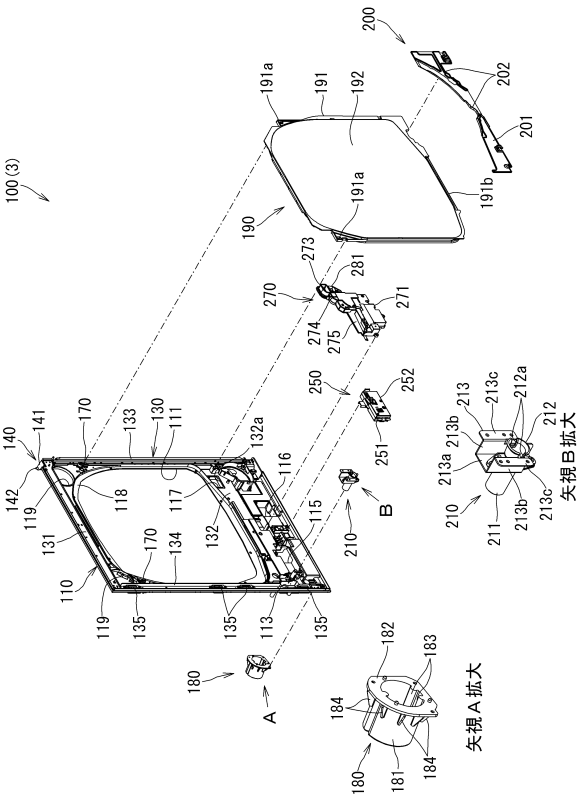
【図３１】



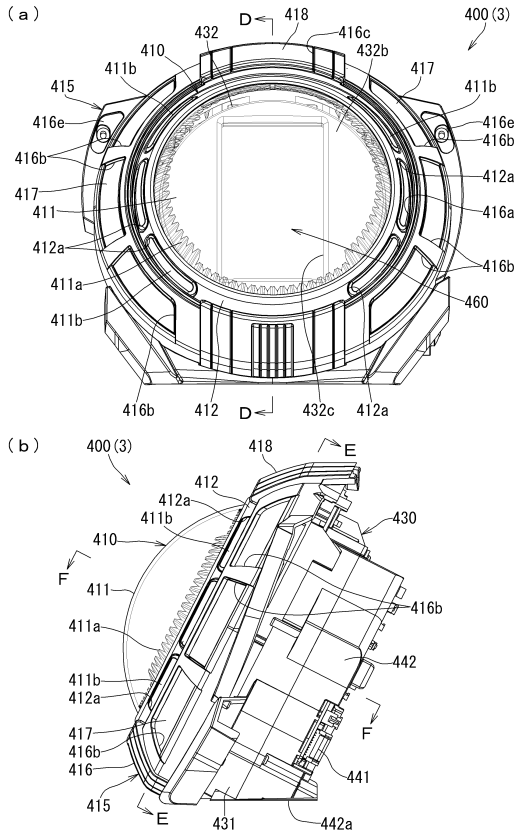
【図３２】



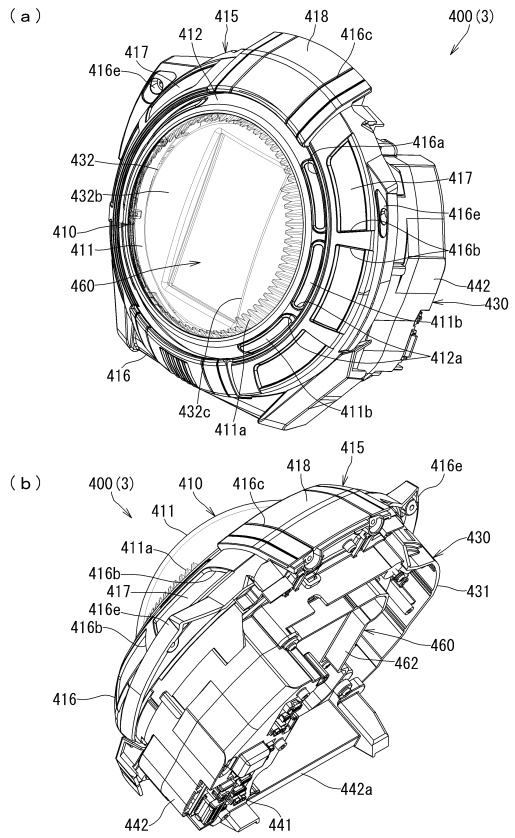
【図３３】



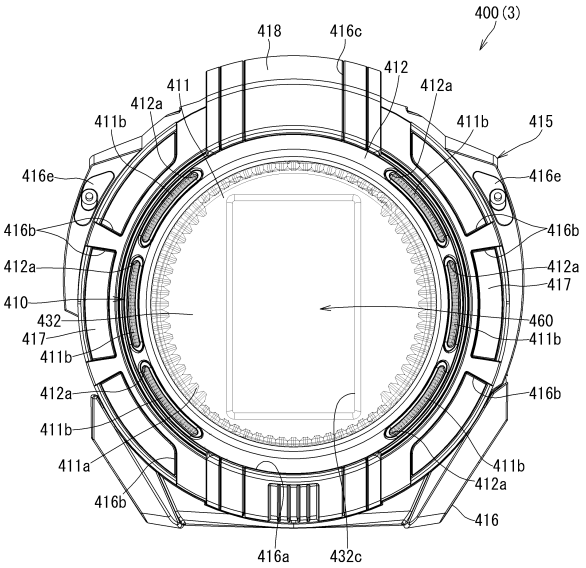
【図３４】



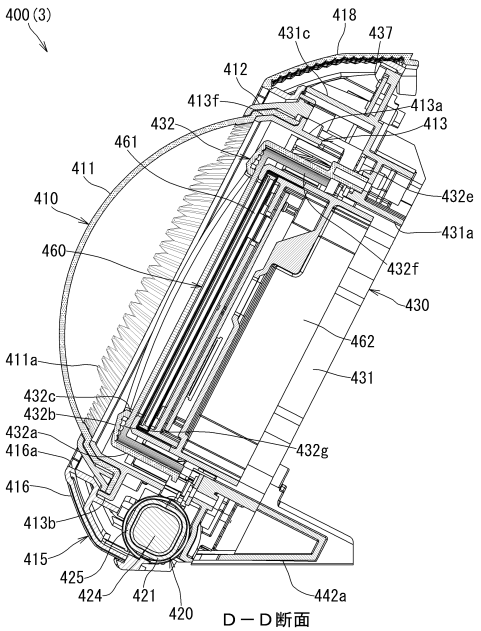
【図３５】



【図３６】

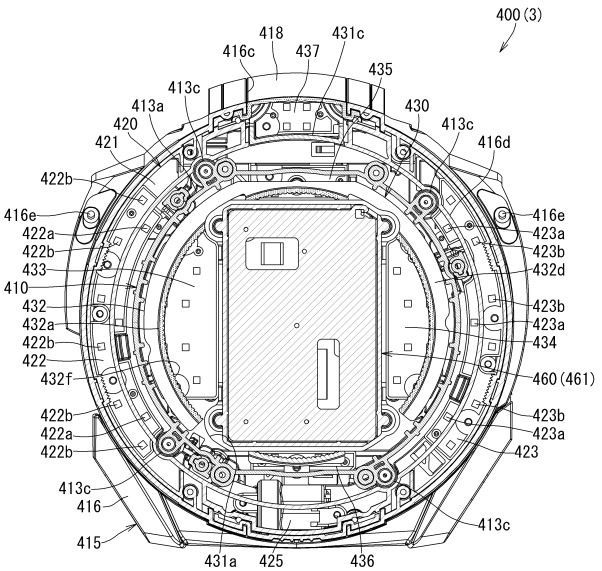


【図３７】



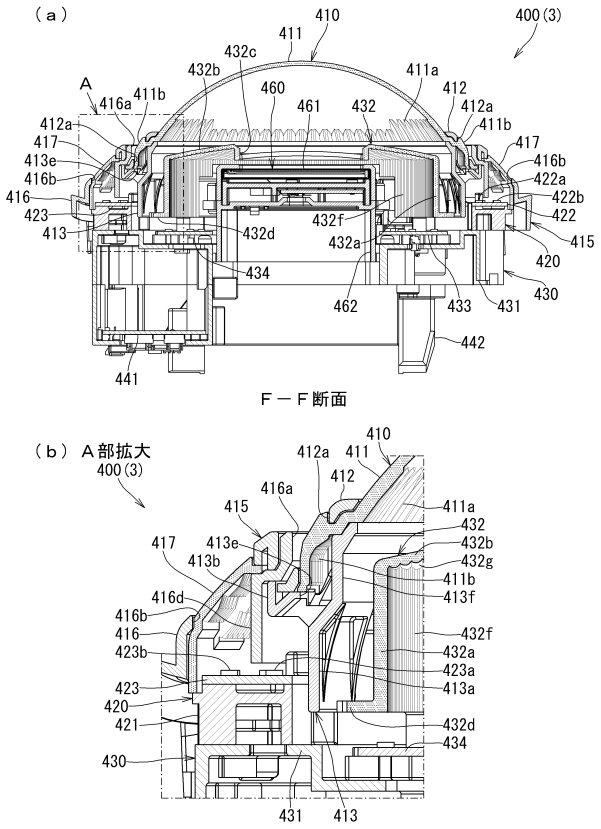
Ｄ－Ｄ断面

【図３８】

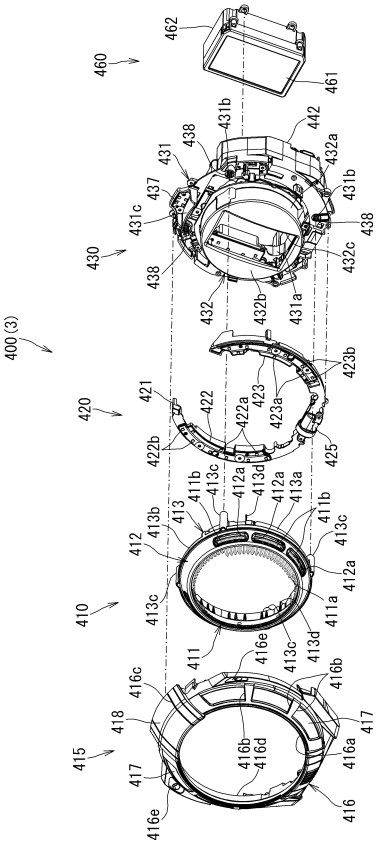


Ｅ－Ｅ断面

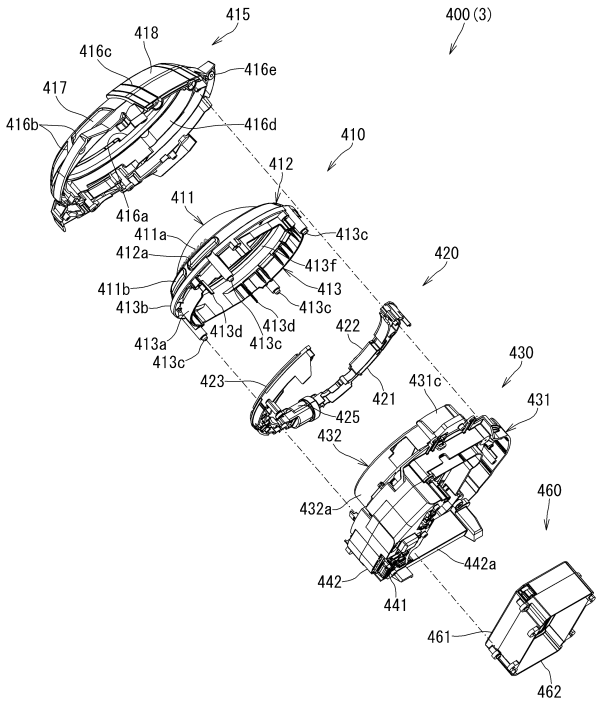
【図３９】



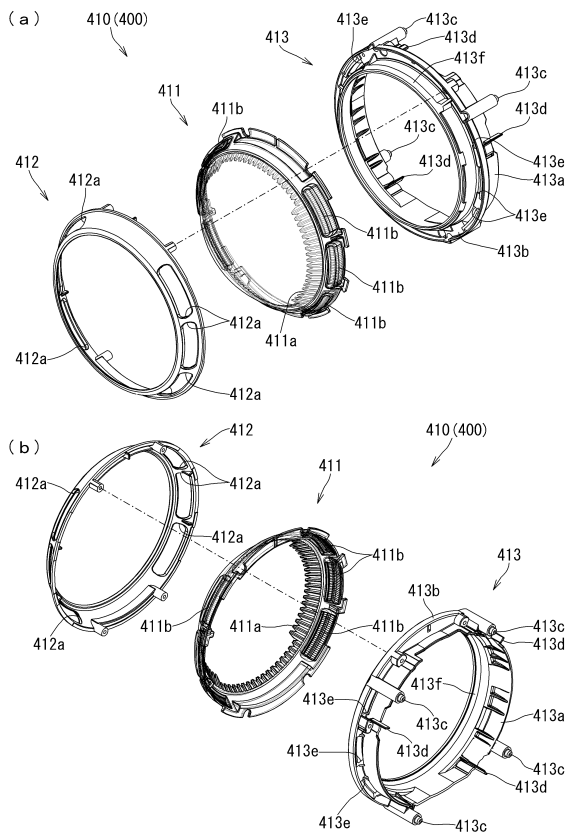
【図４０】



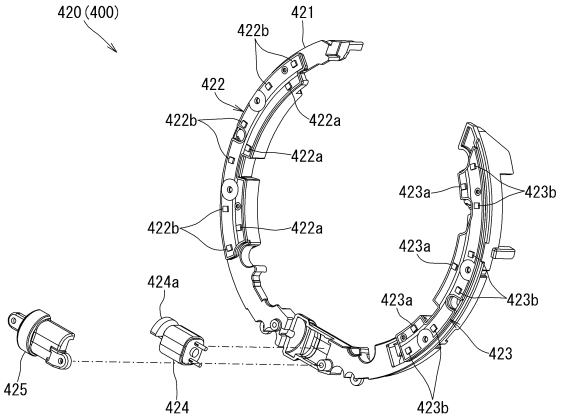
【図４１】



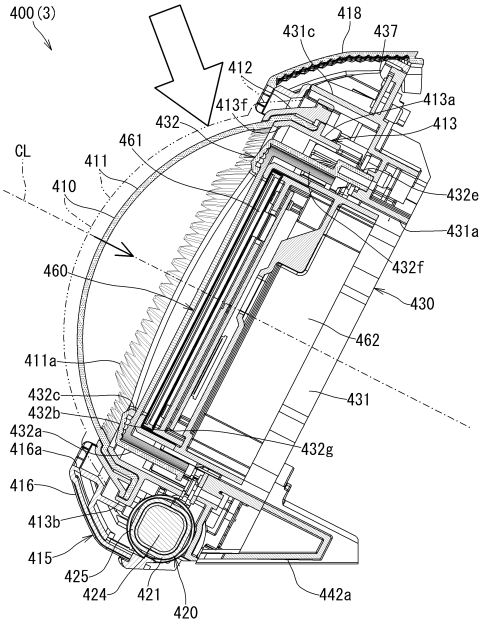
【図４２】



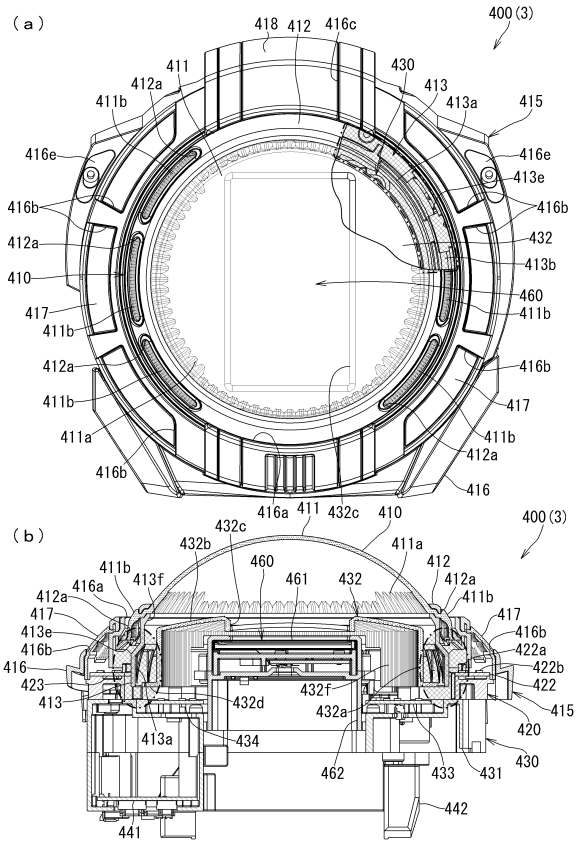
【図４３】



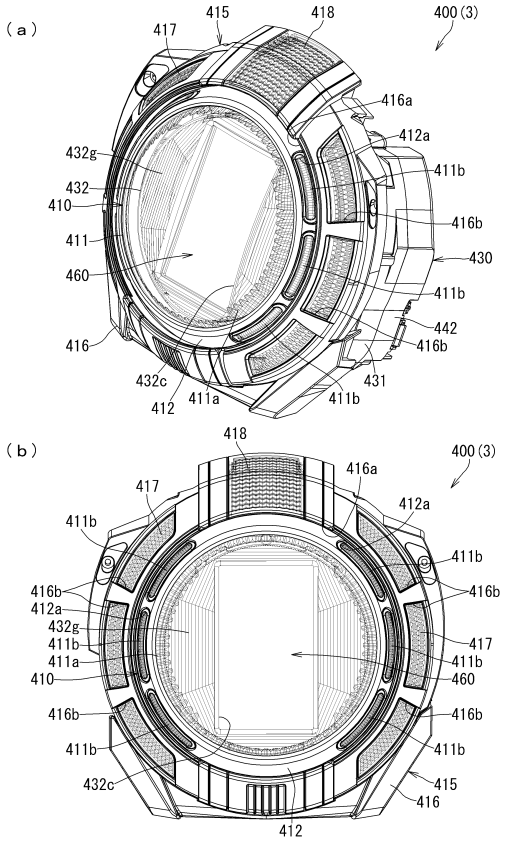
【図４４】



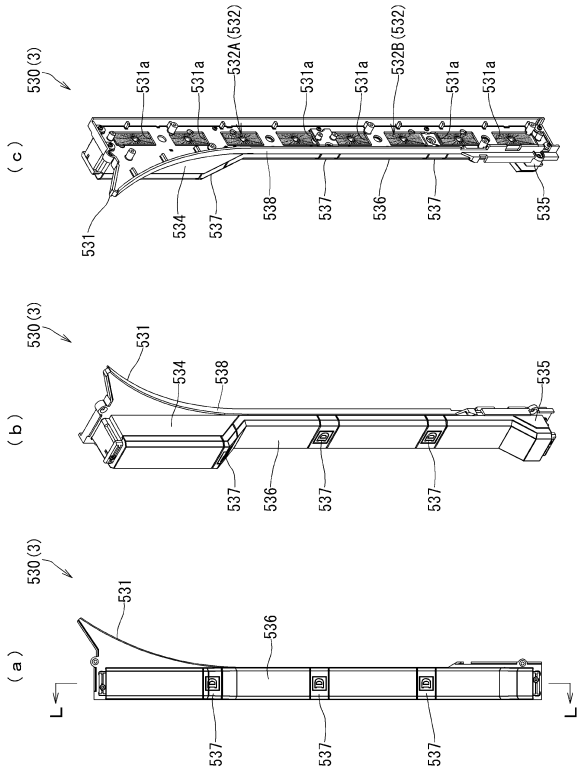
【図４５】



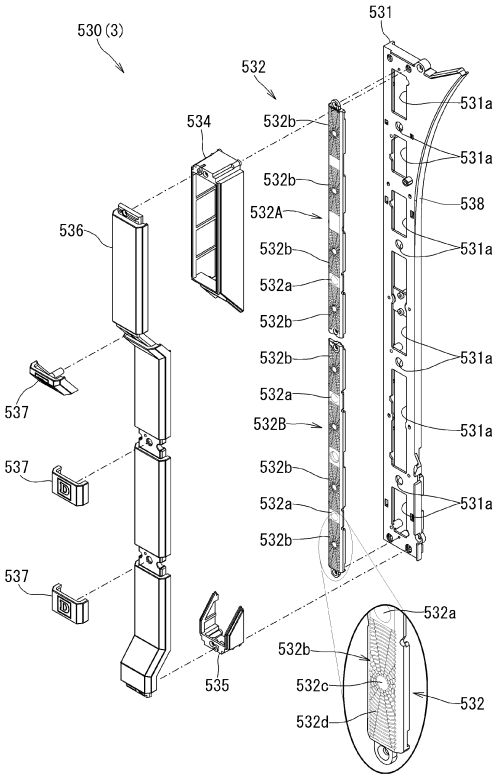
【図４６】



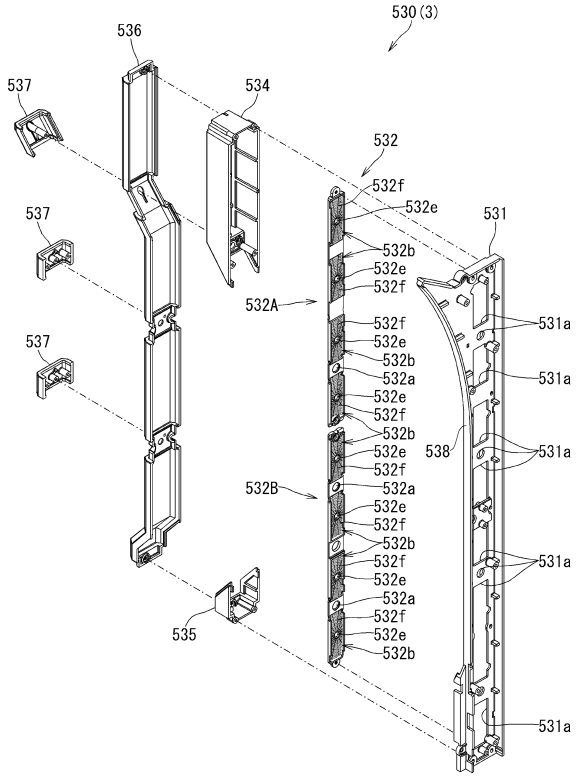
【図４７】



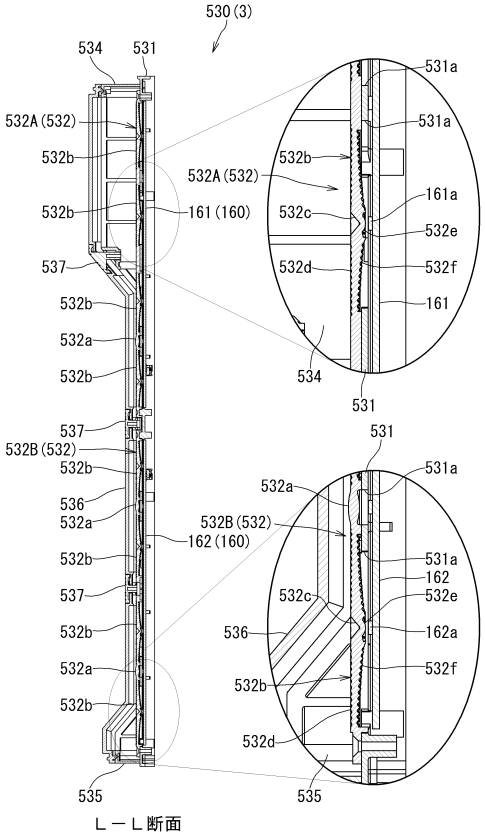
【図４８】



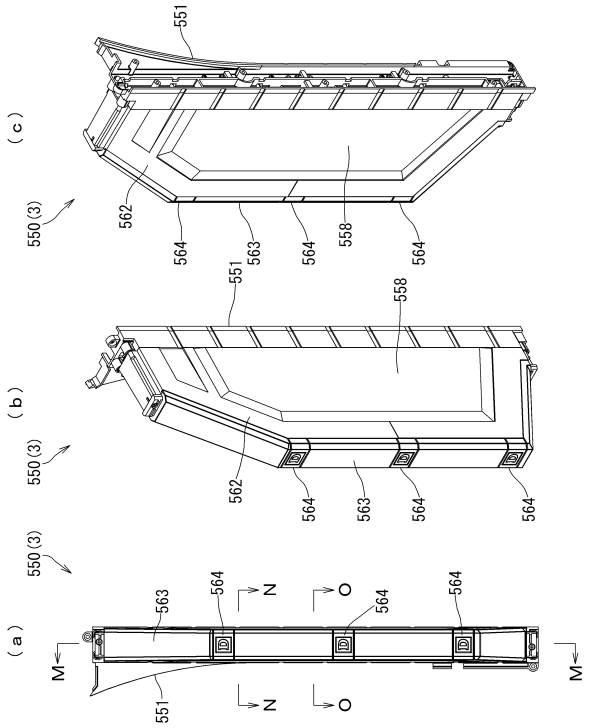
【図４９】



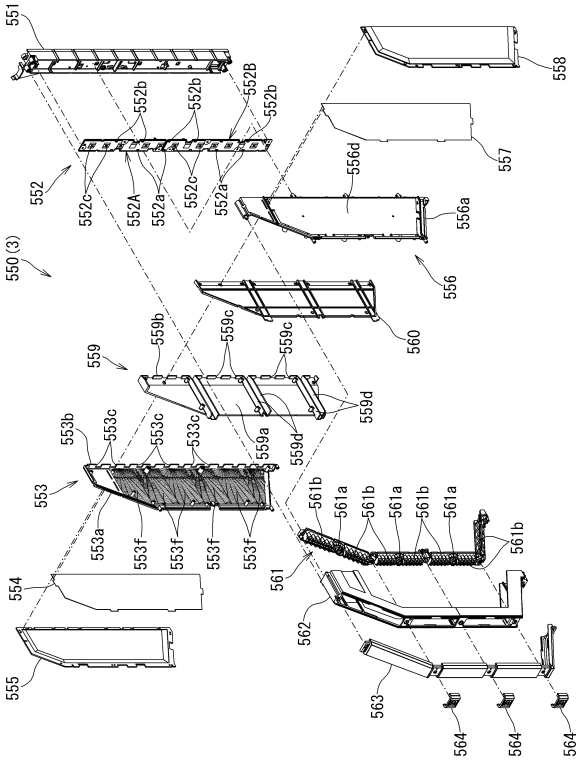
【図５０】



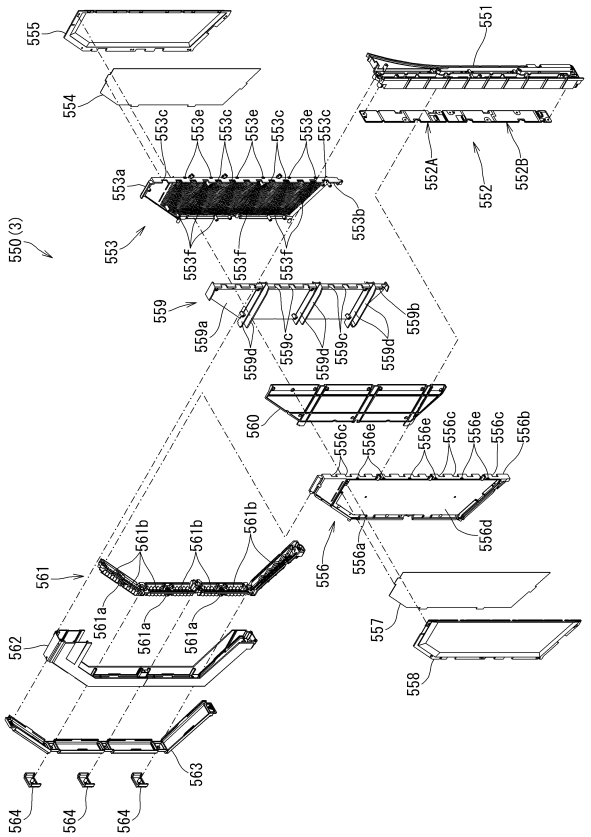
【図５１】



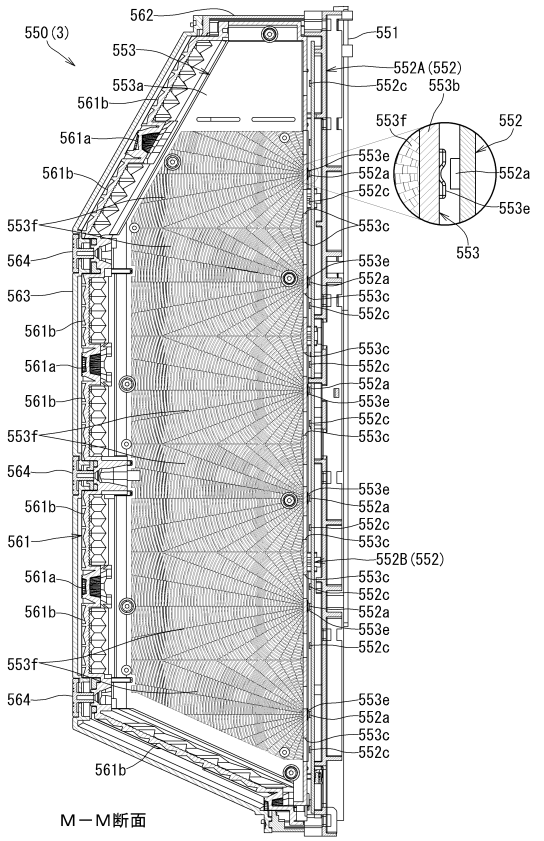
【図５２】



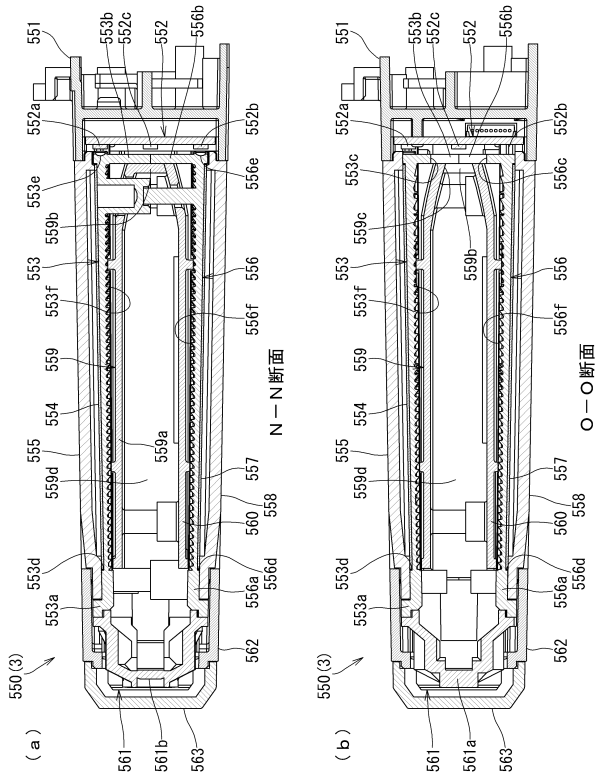
【図５３】



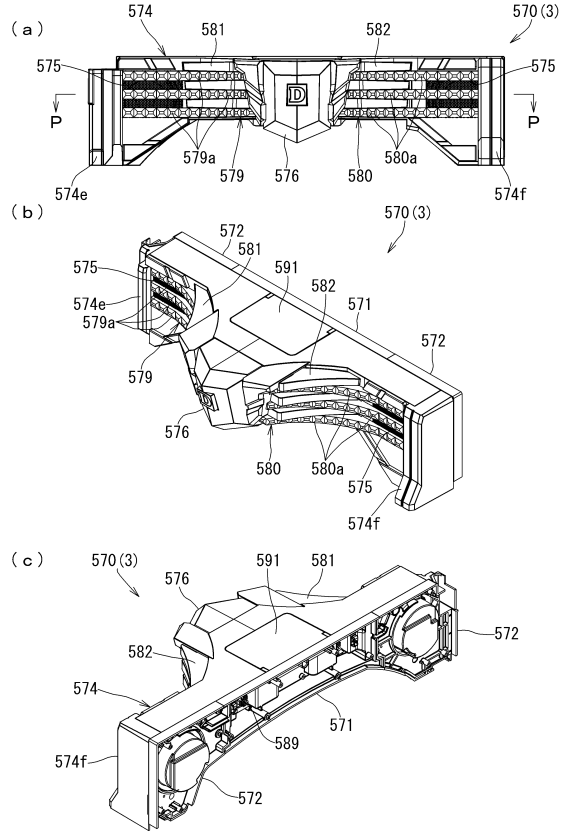
【図５４】



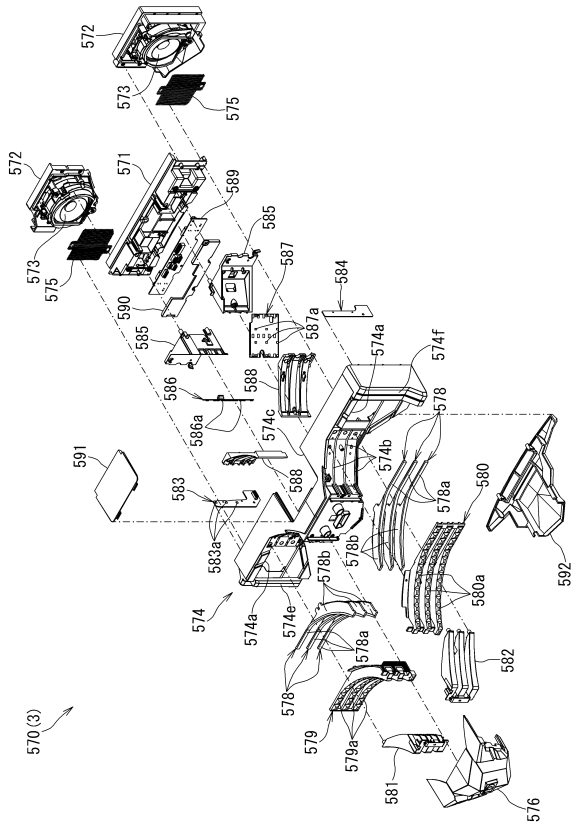
【図５５】



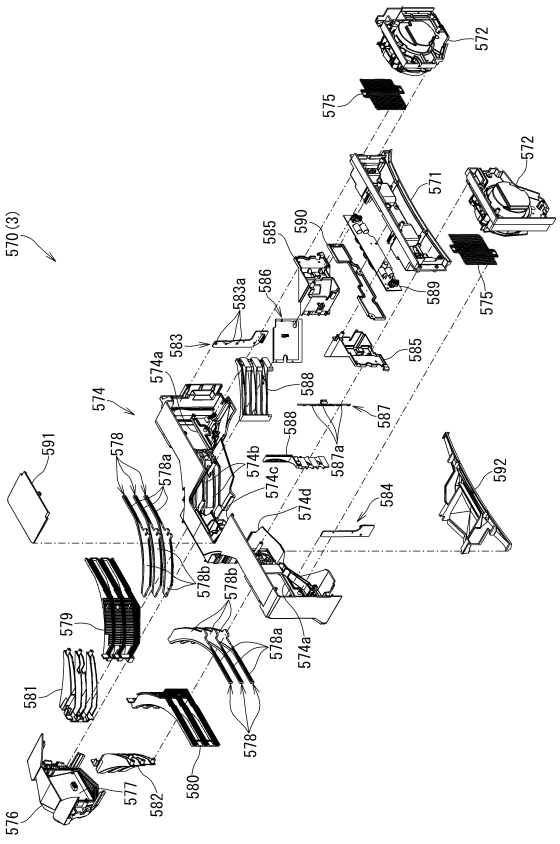
【図５６】



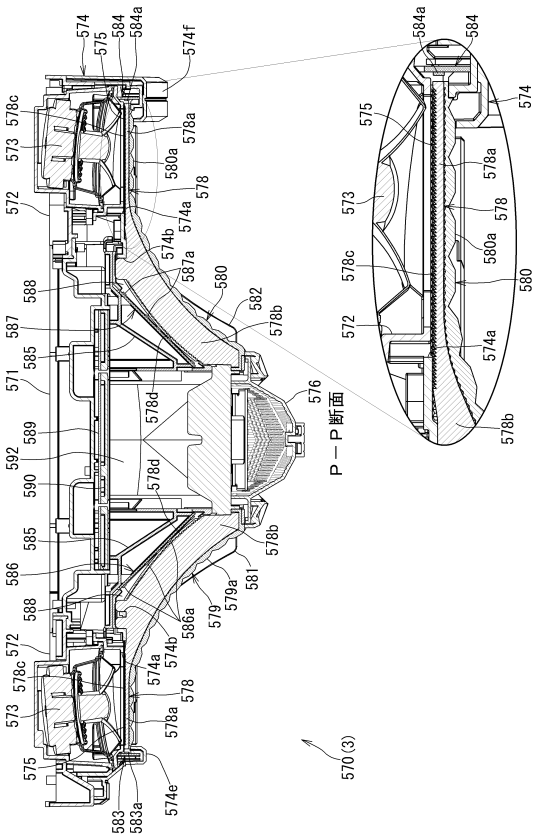
【図５７】



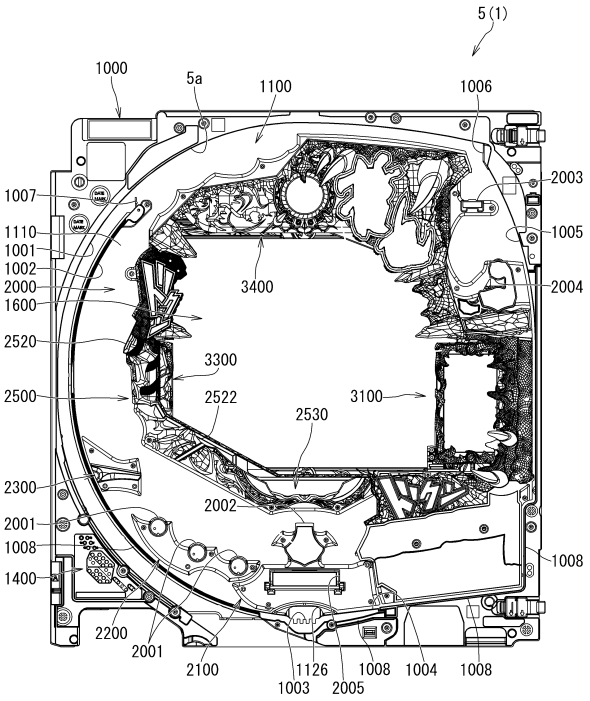
【図５８】



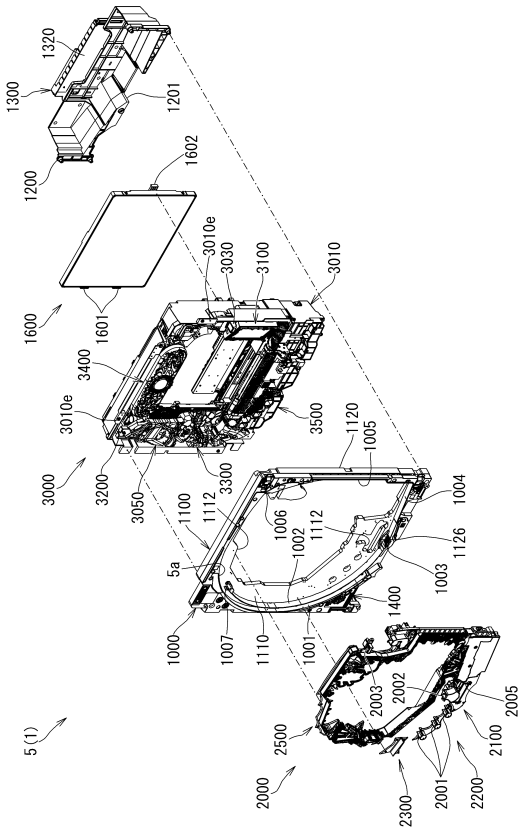
【図５９】



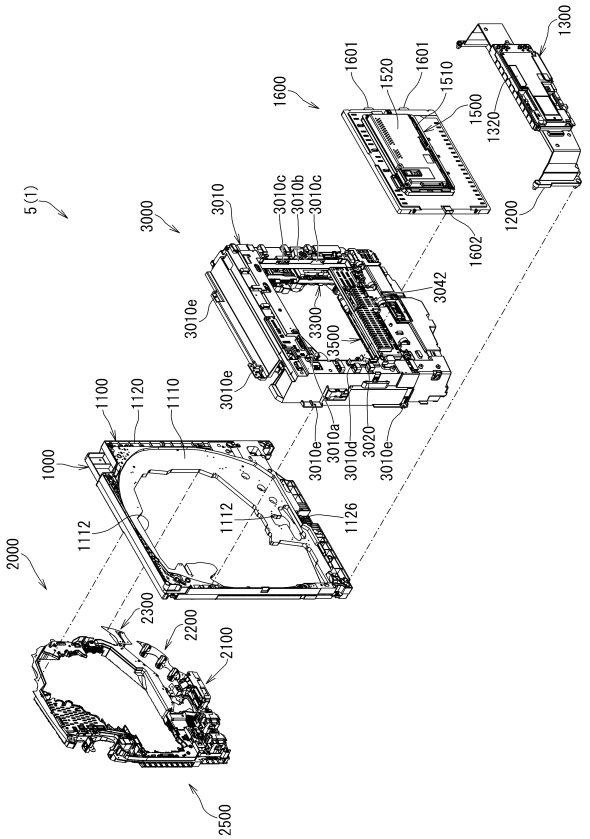
【図６０】



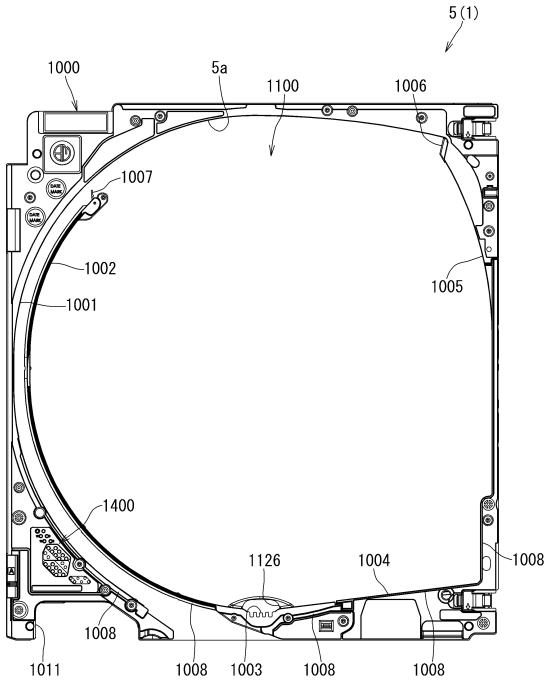
【図６１】



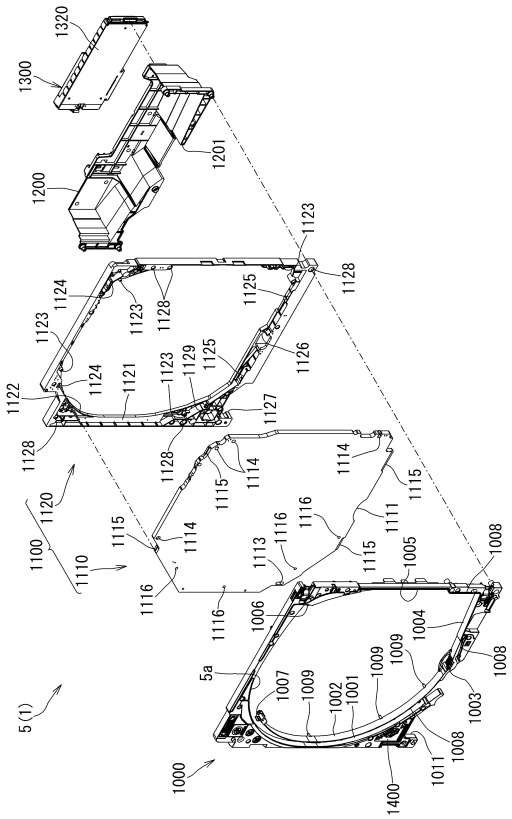
【図６２】



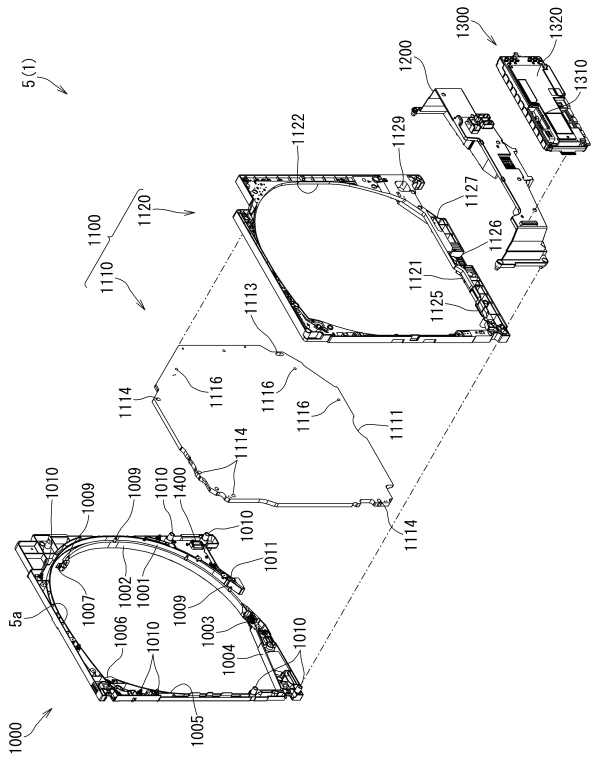
【図６３】



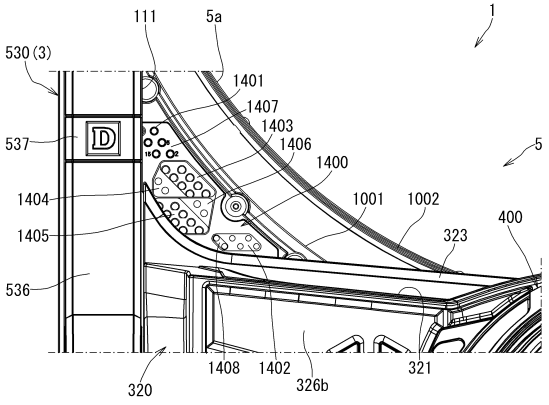
【図６４】



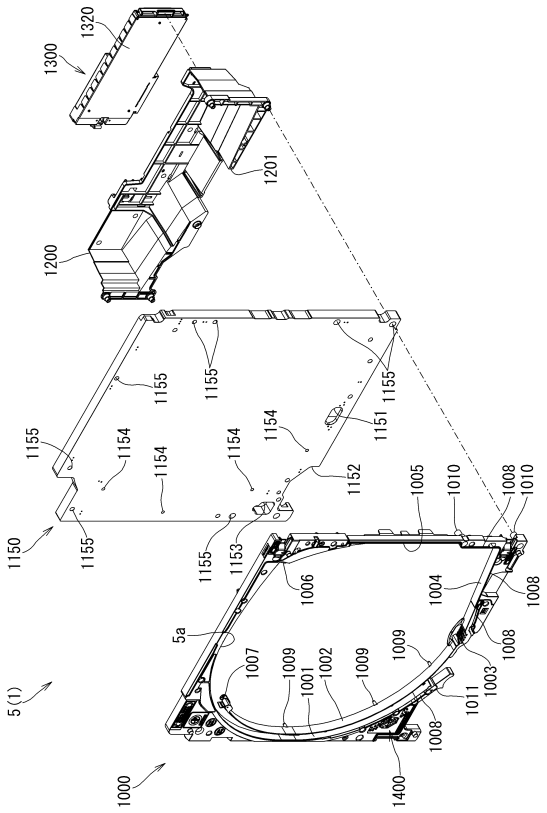
【図６５】



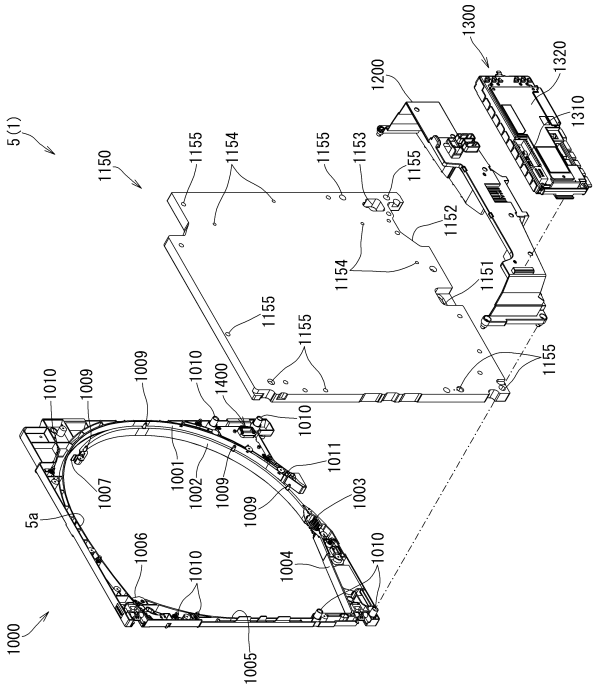
【図６６】



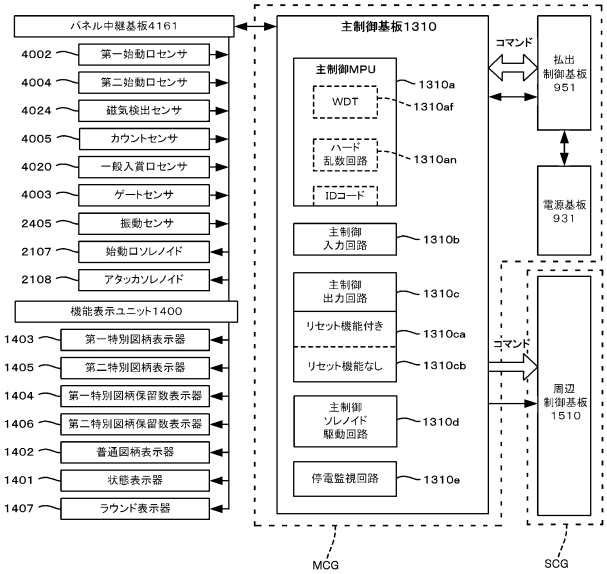
【図６７】



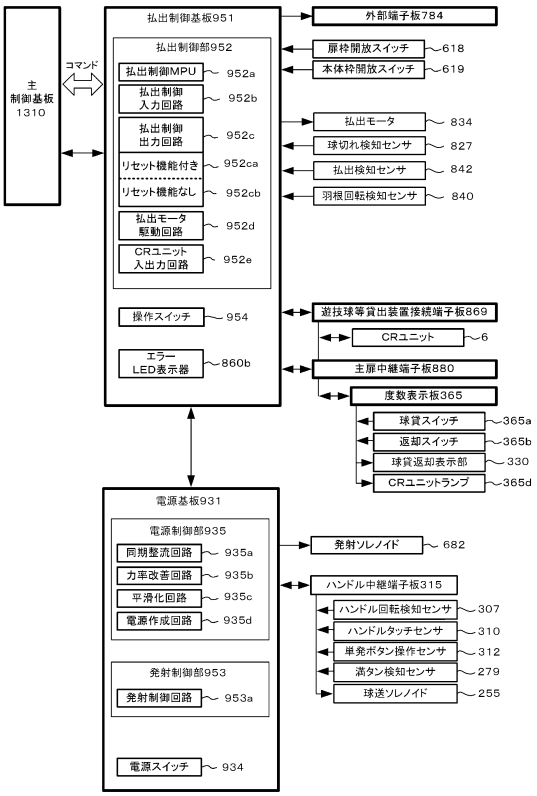
【図６８】



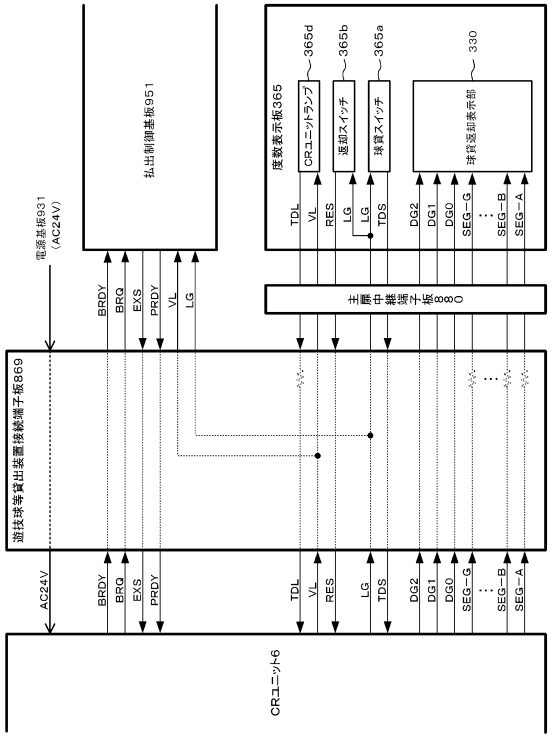
【図６９】



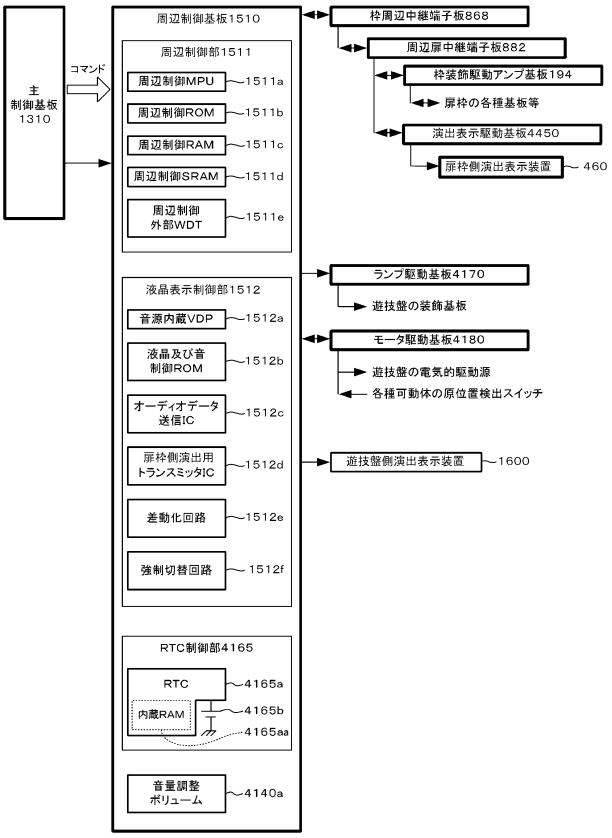
【図７０】



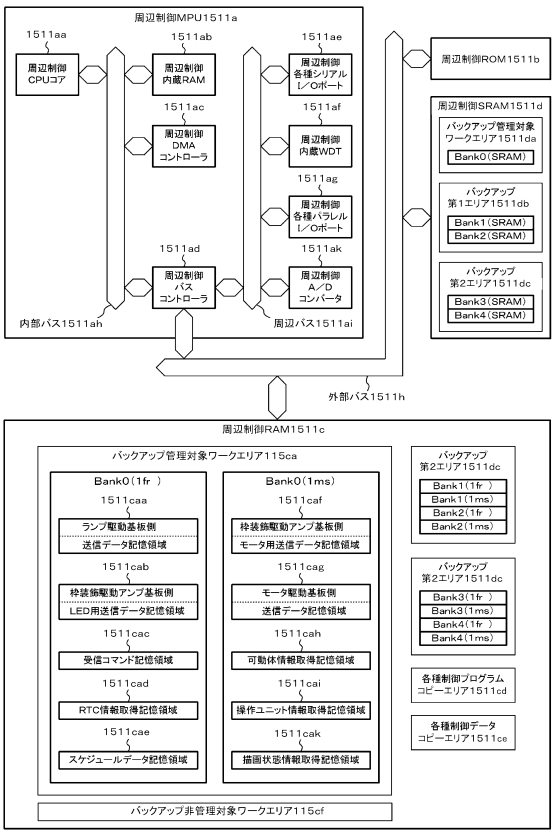
【図７１】



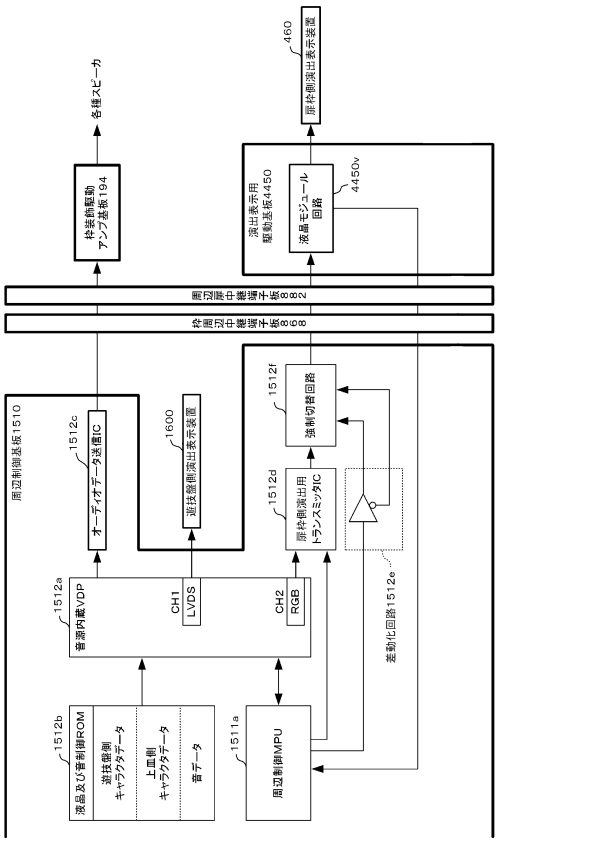
【図７２】



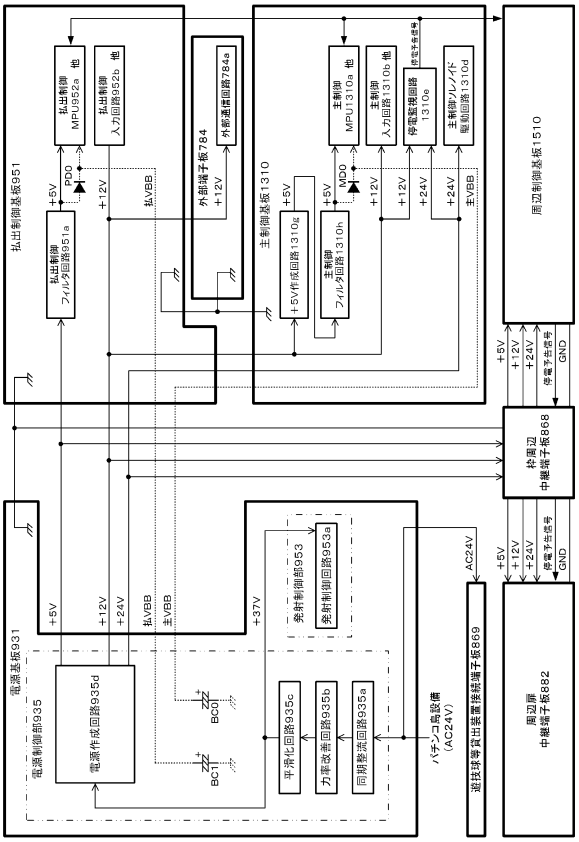
【図７３】



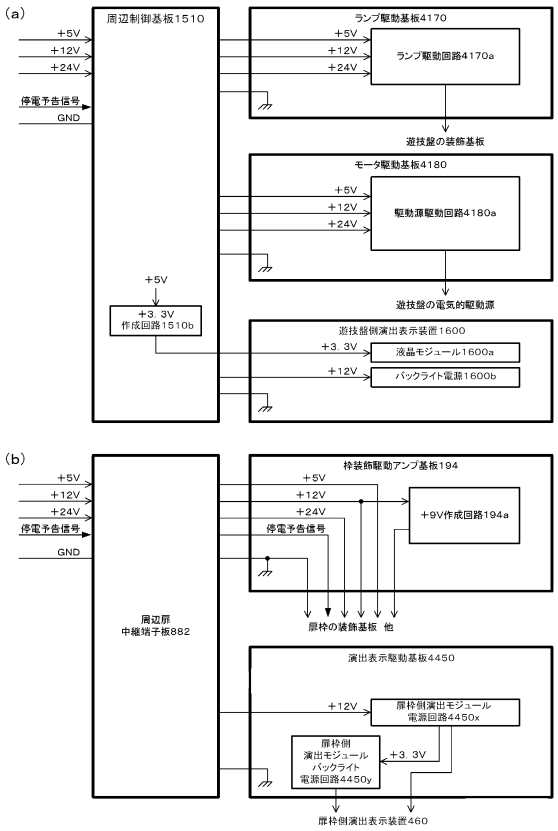
【図７４】



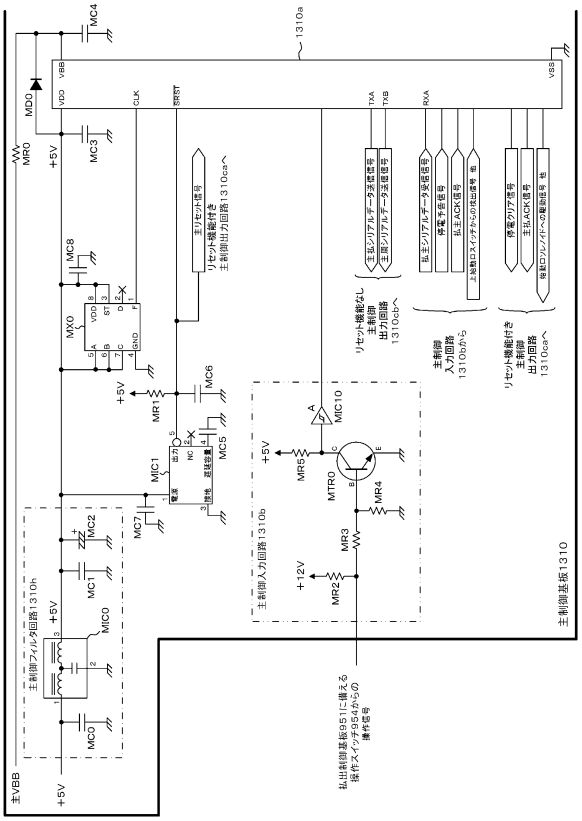
【図７５】



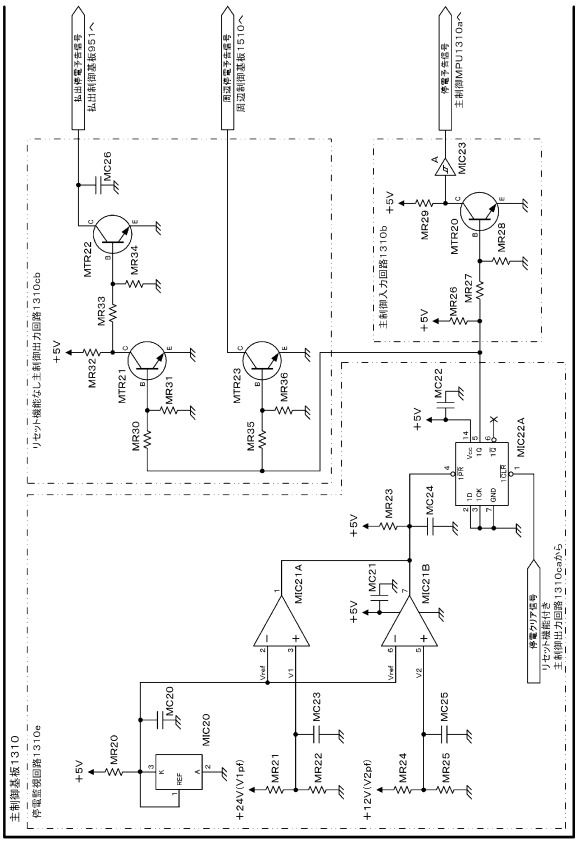
【図７６】



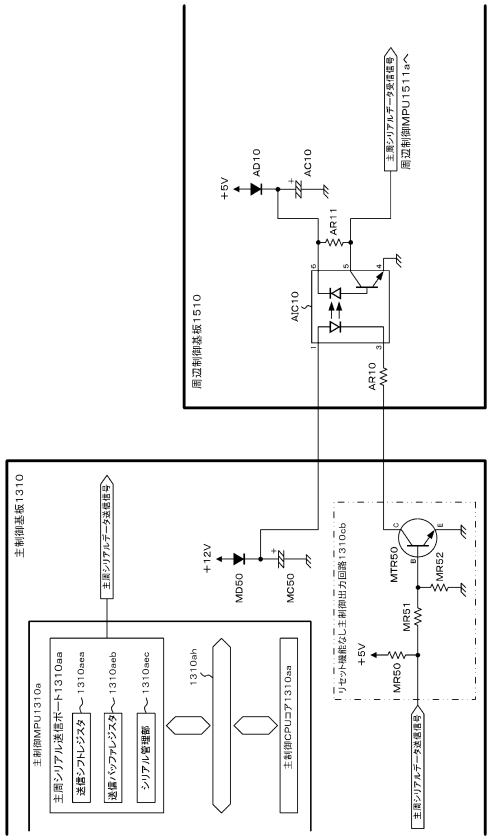
【図７７】



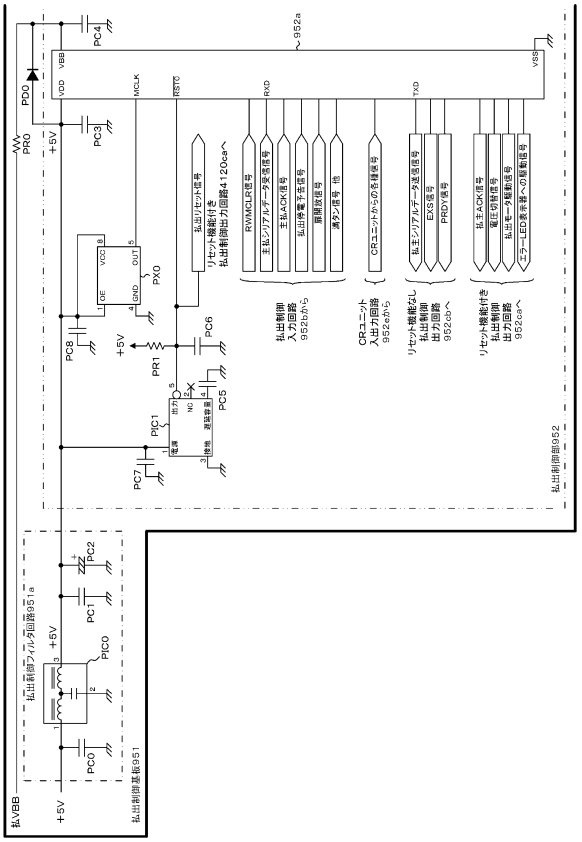
【図７８】



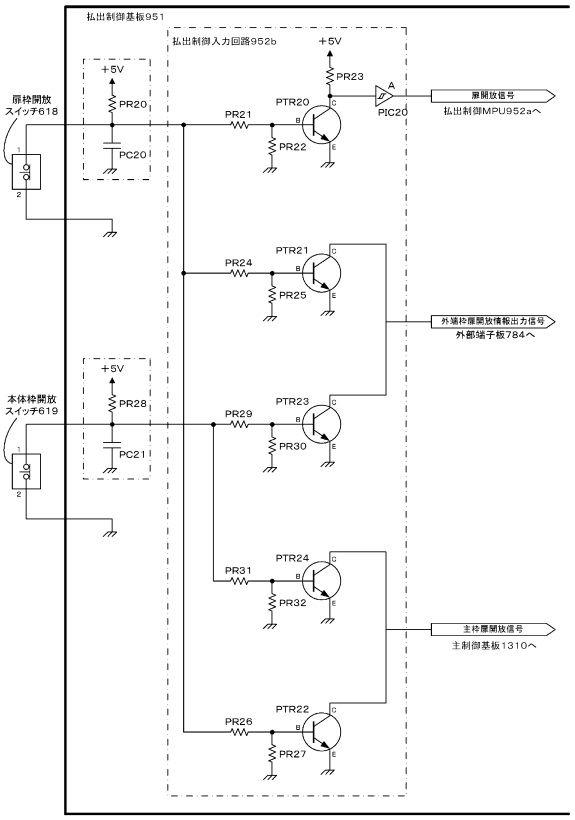
【図７９】



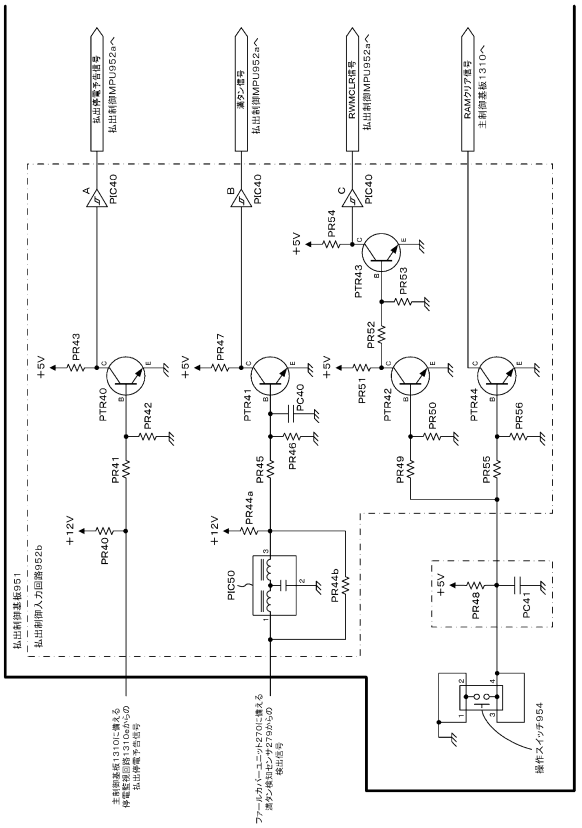
【図８０】



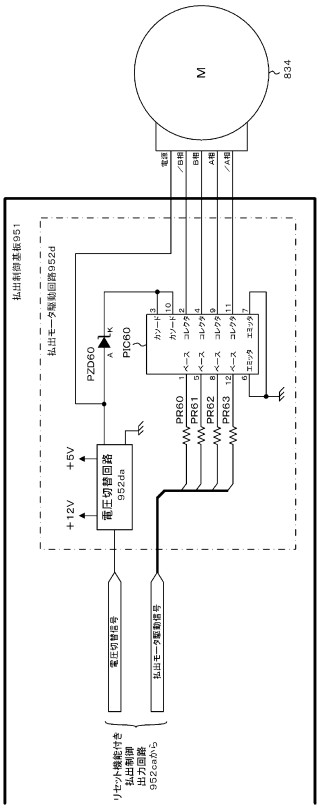
【図８１】



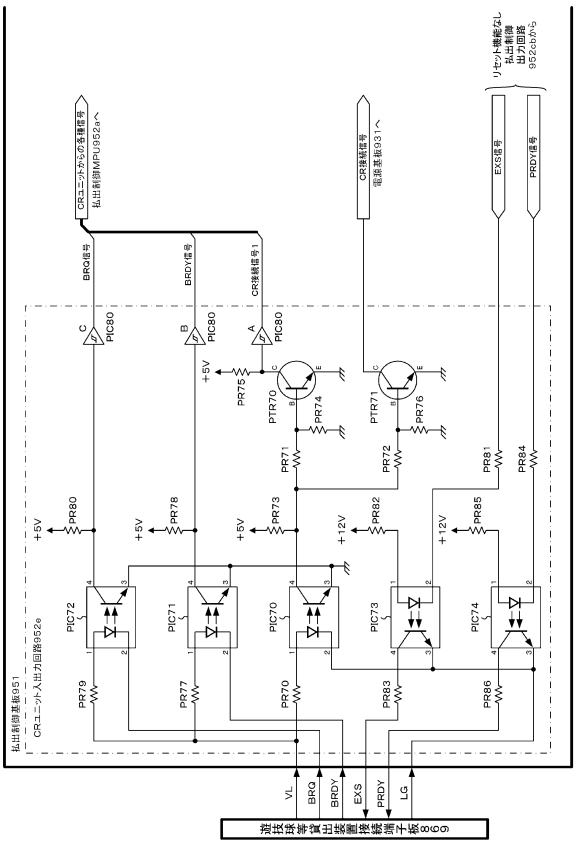
【図８２】



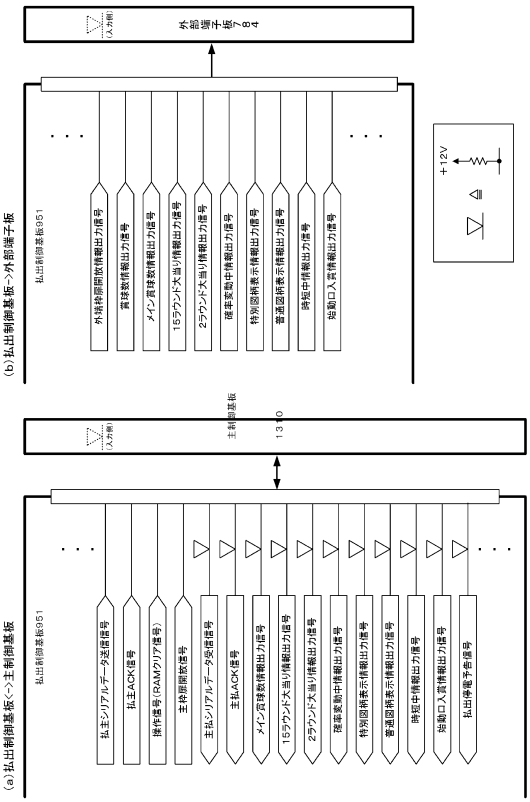
【図８３】



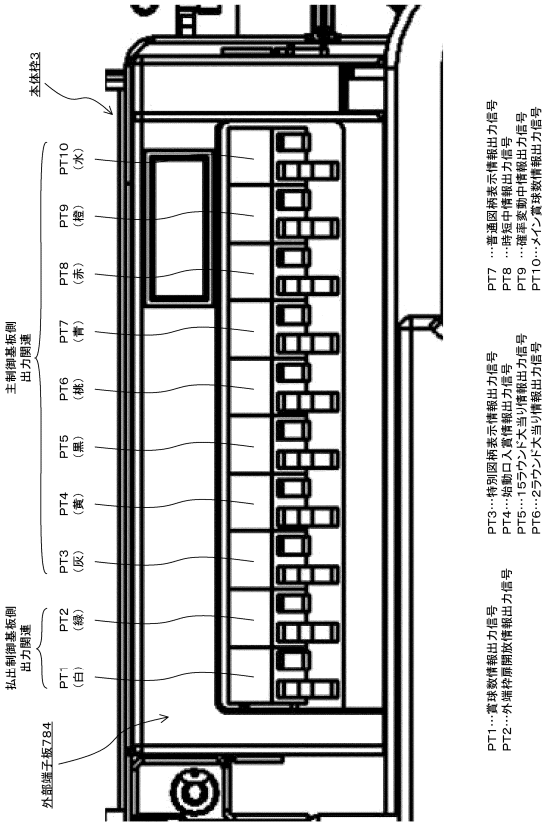
【図８４】



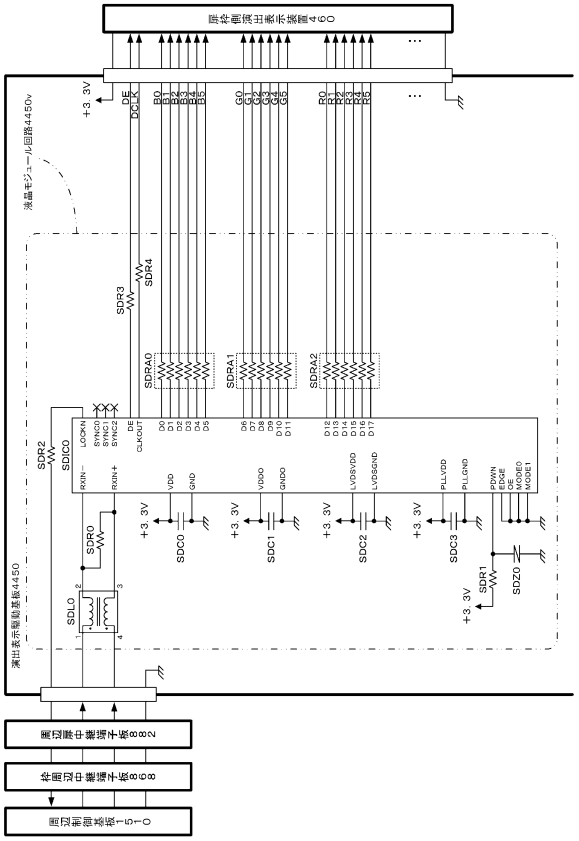
【図８５】



【図８６】



【図８７】



【図８８】

主制御基板から払出御基板へ送信される各種コマンド

（a） CR機のコマンド表

	名称	内容
10H	賞球1個指定	1個払い出す
11H	賞球2個指定	2個払い出す
12H	賞球3個指定	3個払い出す
13H	賞球4個指定	4個払い出す
14H	賞球5個指定	5個払い出す
15H	賞球6個指定	6個払い出す
16H	賞球7個指定	7個払い出す
17H	賞球8個指定	8個払い出す
18H	賞球9個指定	9個払い出す
19H	賞球10個指定	10個払い出す
1AH	賞球11個指定	11個払い出す
1BH	賞球12個指定	12個払い出す
1CH	賞球13個指定	13個払い出す
1DH	賞球14個指定	14個払い出す
1EH	賞球15個指定	15個払い出す

（b） 一般機のコマンド表

コマンド	名称	内容
20H	賞球1個指定	1個払い出す
21H	賞球2個指定	2個払い出す
22H	賞球3個指定	3個払い出す
23H	賞球4個指定	4個払い出す
24H	賞球5個指定	5個払い出す
25H	賞球6個指定	6個払い出す
26H	賞球7個指定	7個払い出す
27H	賞球8個指定	8個払い出す
28H	賞球9個指定	9個払い出す
29H	賞球10個指定	10個払い出す
2AH	賞球11個指定	11個払い出す
2BH	賞球12個指定	12個払い出す
2CH	賞球13個指定	13個払い出す
2DH	賞球14個指定	14個払い出す
2EH	賞球15個指定	15個払い出す

（c） 共通（CR機及び一般機）のコマンド表

コマンド	名称	内容
30H	セルフチェック	接続確認

【図８９】

主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンド

区分	コマンド		コマンド名	送信タイミング	内容
	ステータス	モード			
特図1 同調演出開始	A＊H	＊＊H	特図1 同調演出開始	特別図柄1変動開始時	モードで指定された演出パターンで特図同調演出開始を指示
特別図柄1指定			特図1 同調演出終了の直後	はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定	
特図1 同調演出終了			特別図柄1変動停止時（特別図柄1確定時）	特図1 同調演出終了を指示	
変動時間1指定指定			特図1当落情報指定の直後	確率及び停電状態を指示	
特図2 同調演出開始	B＊H	＊＊H	特別図柄2変動開始時	モードで指定された演出パターンで特図同調演出開始を指示	
特別図柄2指定			特図2同調演出開始の直後	はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定	
特図2 同調演出終了			特別図柄2変動停止時（特別図柄2確定時）	特図2同調演出終了を指示	
大当り開始1	C＊H	＊＊H	大当りオープニング	大当りオープニング開始時	大当りオープニング開始を指示
大当り開始2			大当り1ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り1ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始3			小当りオープニング	小当りオープニング開始時	小当り開始情報表示を指示
小当り開始表示			小当り1ラウンド表示	小当り開放中時	小当り開放中を指示
小当りカウンド表示			小当り入賞口入賞	小当り開放中に入賞発生時	小当りエンディング演出を指示
小当りエンディング			小当りエンディング	小当りエンディング開始時	小当りエンディング開始を指示
大入賞口1開放中			大入賞口1開放時	大入賞口1開放中時	大入賞口1開放中を指示
大入賞口1カウント表示			大入賞口1開放時及び大入賞口1へのカウント変化時	カウント0～10個	
大当り開始4	C＊H	＊＊H	大当りエンディング	大当りエンディング開始時	大当りエンディング開始を指示
大当り開始5			大当り1ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り1ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始6			大当り2ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り2ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始7			大当り3ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り3ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始8			大当り4ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り4ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始9			大当り5ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り5ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始10			大当り6ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り6ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始11			大当り7ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り7ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始12			大当り8ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り8ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始13			大当り9ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り9ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始14			大当り10ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り10ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始15			大当り11ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り11ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始16			大当り12ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り12ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始17			大当り13ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り13ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始18			大当り14ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り14ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始19			大当り15ラウンド表示	大入賞口開放時	大当り15ラウンド目の大入賞口開放中を指示
大当り開始20			大当りエンディング	大当りエンディング開始時	大当りエンディング開始を指示
電源投入	D＊H	＊＊H	電源投入停止制御復帰	主制御基板の復帰を検知	主制御基板の復帰を指示
普図同調	E＊H	＊＊H	普図同調演出開始	普通図柄1変動開始時	普通図柄1変動開始を指示
普図同調演出開始			普図同調演出終了	普通図柄変動停止時（普通図柄確定時）	はずれ、特定大当り、非特定大当りを指定
普図同調演出終了			普図当り情報指定	普通図柄確定の直後	普図当り情報指定を指示
普通電役演出開始	F＊H	＊＊H	普電開放指示	普電開放時	普電開放中時間を指示
普通電役演出開始			普図当りエンディング	普図当りエンディング開始時	普図当りエンディング開始を指示

【図９０】

主制御基板から周辺制御基板へ送信される各種コマンド（つづき）

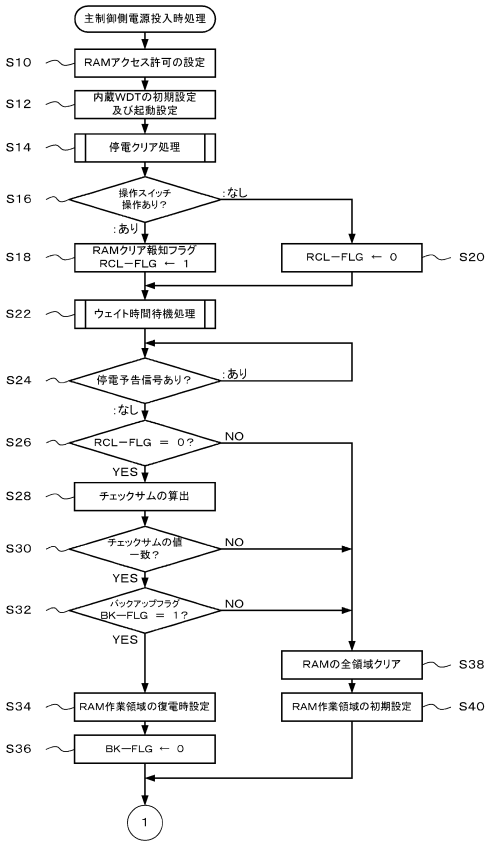
区分	コマンド		コマンド名	送信タイミング	内容
	ステータス	モード			
報知表示	6＊H	＊＊H	入賞異常表示	大当り中（条件装置作動中）以外に大入賞口に入賞した時	入賞異常報知の開始を指示
			主制御異常表示	主制御基板へ払出制御基板へのコマンド送信時に払出制御基板からのACK返信がなかった時	接続異常報知の開始を指示
			断線・接続異常表示	短絡口、カウントスイッチの何れかが断線または短絡状態のとき	断線・接続異常表示の開始を指示
			磁気検出スイッチ異常表示	磁気検出スイッチの異常を検知したとき	磁気検出スイッチ異常報知の開始を指示
			扉枠開放	扉枠開放を検知したとき	扉開放報知開始を指示
			扉枠閉鎖	扉枠開放を復旧したとき	扉開放報知終了を指示
			本体枠開放	本体枠開放を検知したとき	本体枠開放報知開始を指示
			本体枠閉鎖	本体枠閉鎖を検知したとき	本体枠閉鎖報知終了を指示
状態表示	7＊H	＊＊H	枠状態1	電源復旧時 枠状態の変化時 エラー解除ナビ待	球切れ 満タン スイッチ中 CR未接続
			エラー解除ナビ	エラー解除ナビ待	球かみ 払戻スイッチエラー ハブイエラー
			枠状態2	電源復旧時 枠状態の変化時	球抜き中
テスト開始	8＊H	＊＊H	テスト	主制御基板電源投入時RAMクリア及びRAMクリア以外の時	周辺制御基板の各種検査を指示
			接続口入賞	接続口入賞発生時（主に音声）	接続口入賞演出開始を指示
その他	9＊H	＊＊H	変動短縮作動終了指定	特定1回数の変動短縮が終了した時	変動短縮作動状態から変動短縮非作動状態へ状態移行を指示
			高確率終了指定	「高確率1回（1回or2回or3回）」の変動表示回数を消化した変動確定後の停止期間終了時（はずれ停止期間終点後）	高確率状態から低確率状態への状態移行を指示
			特別図柄1記憶	特別図柄1作動保留球変化時	特別図柄1保留0～4個
			特別図柄2記憶	特別図柄2作動保留球変化時	特別図柄2保留0～4個
			普通図柄記憶	普通図柄作動保留球変化時	普通図柄1保留0～4個
			特別図柄1記憶先読み演出	特別図柄1作動保留球数増加時	特別図柄1作動保留球の先読み演出開始を指示
			特別図柄2記憶先読み演出	特別図柄2作動保留球数増加時	特別図柄2作動保留球の先読み演出開始を指示

【図９１】

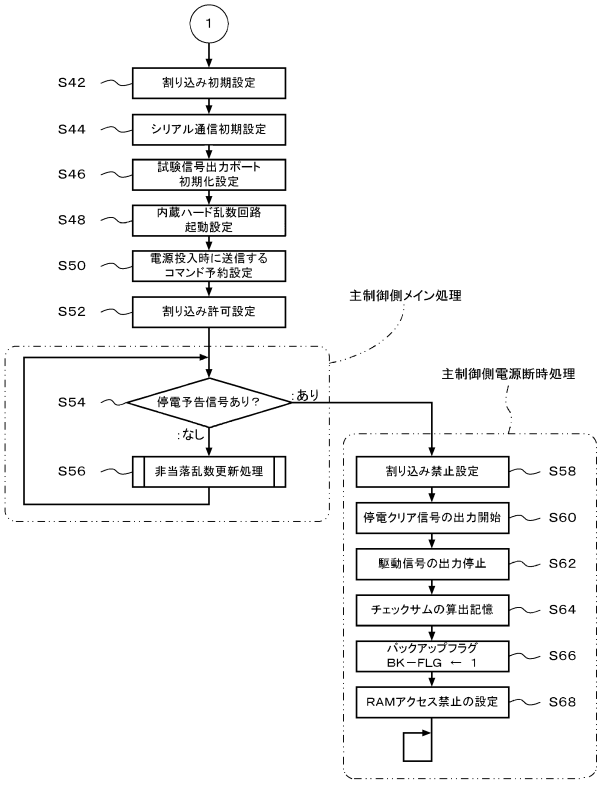
払出制御基板から主制御基板へ送信される各種コマンド

区分	コマンド	コマンド名	内容
状態表示	100＊＊＊＊＊B	扉枠開放	B0：扉枠が開放（B1～B7：固定値（値0））
	101＊＊＊＊＊B	扉枠閉鎖	B0：扉枠が閉鎖（B1～B7：固定値（値0））
	110＊＊＊＊＊B	本体枠開放	B0：本体枠が開放（B1～B7：固定値（値0））
	111＊＊＊＊＊B	本体枠閉鎖	B0：本体枠が閉鎖（B1～B7：固定値（値0））
	001＊＊＊＊＊B	枠状態１	B0：球切れ（値1で球切れ）
			B1：満タン（値1で満タン）
			B2：ストック中（値1で50個以上のストック中）
			B3：接続異常（値1で接続異常）
			B4：CR未接続（値1で未接続）
			B5：固定値（値1）
			B6：固定値（値0）
			B7：固定値（値0）
	010＊＊＊00B	エラー解除ナビ	B0：固定値（値0）
			B1：固定値（値0）
			B2：球かみ（値1で球かみ）
			B3：計数スイッチエラー（値1で計数スイッチエラー）
			B4：リトライエラー（値1でリトライエラー）
			B5：固定値（値0）
			B6：固定値（値1）
			B7：固定値（値0）
	0110000＊B	枠状態２	B0：球抜き中（値1で球抜き中）
			B1：固定値（値0）
			B2：固定値（値0）
			B3：固定値（値0）
			B4：固定値（値0）
			B5：固定値（値1）
			B6：固定値（値1）
			B7：固定値（値0）

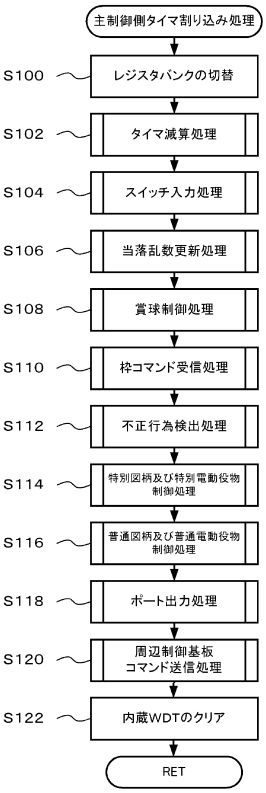
【図９２】



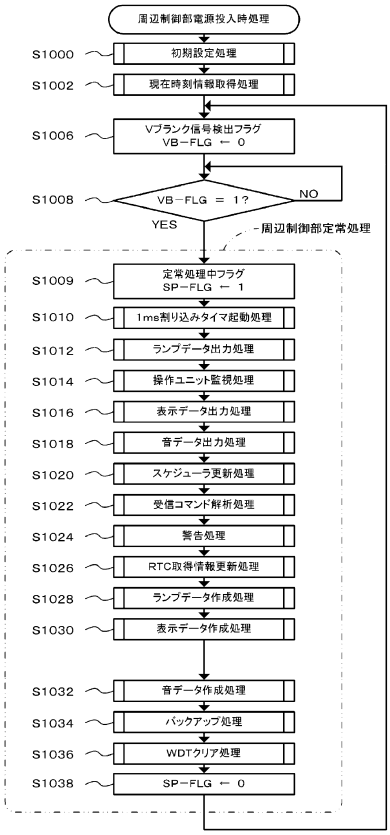
【図９３】



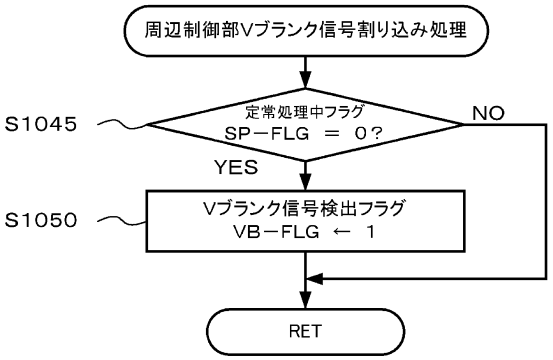
【図９４】



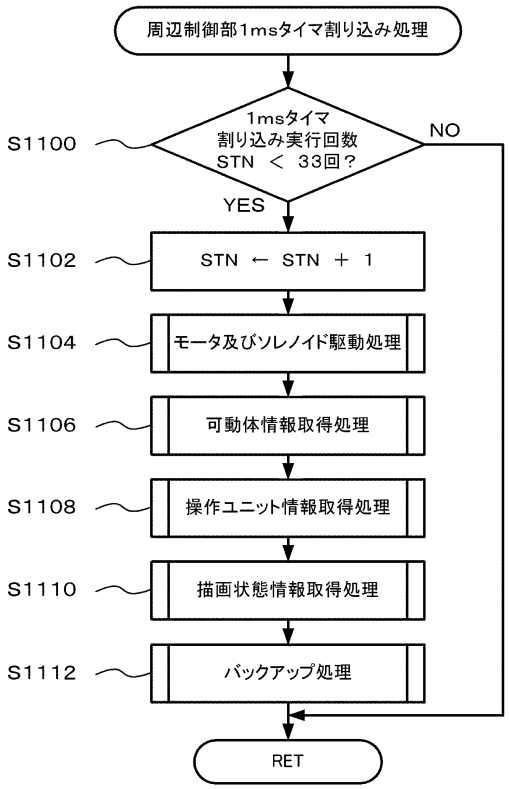
【図９５】



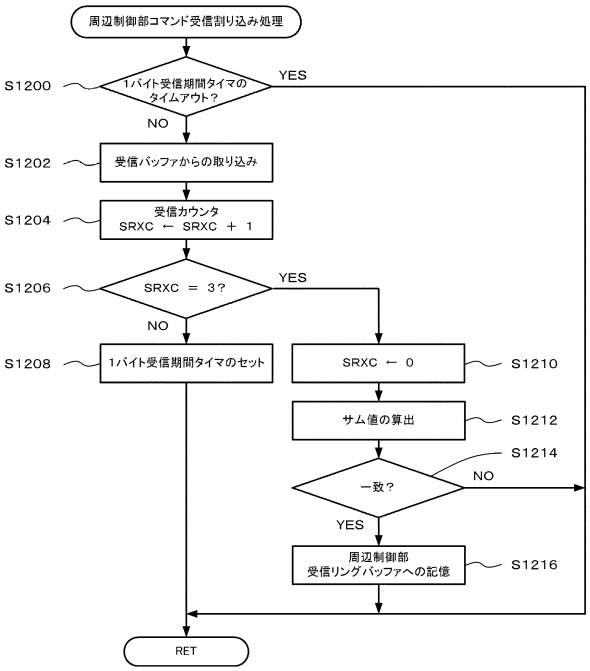
【図９６】



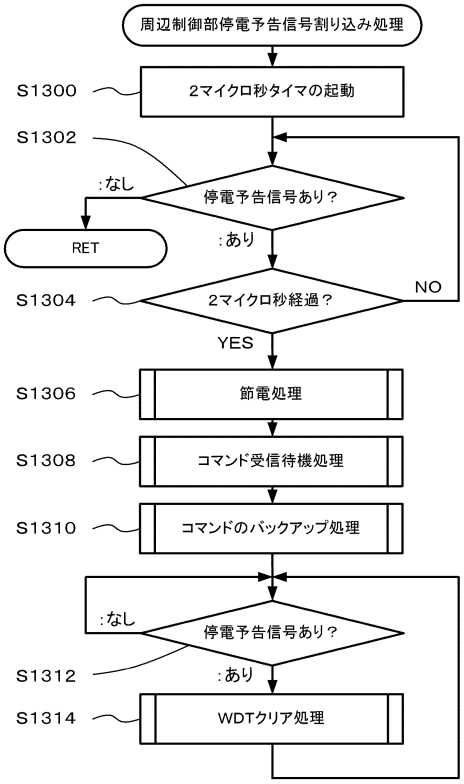
【図９７】



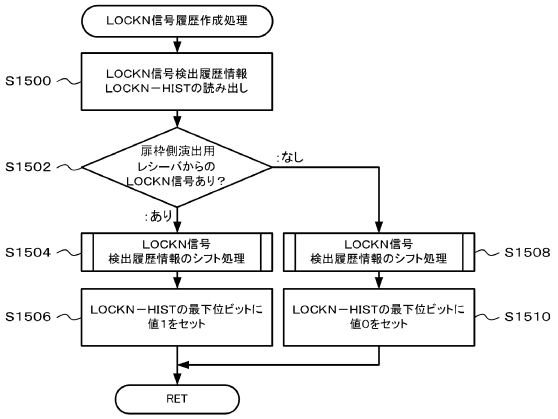
【図９８】



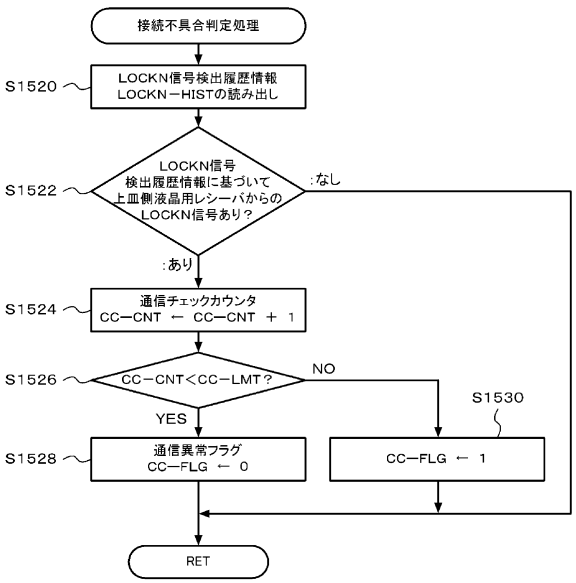
【図９９】



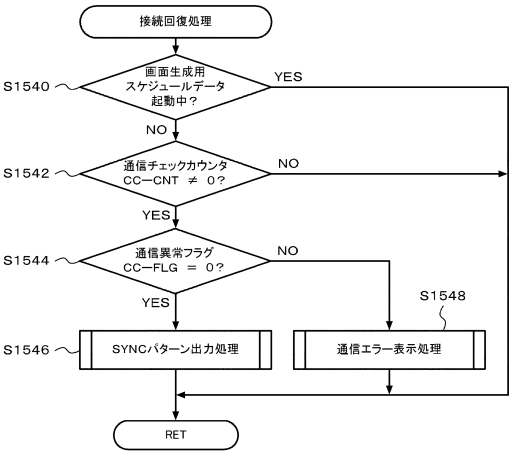
【図１００】



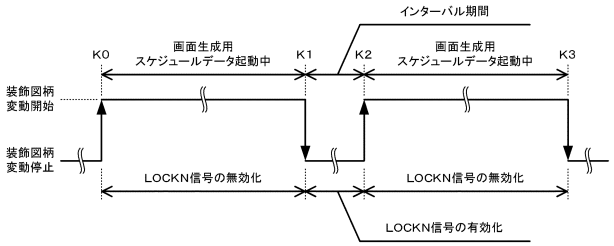
【図１０１】



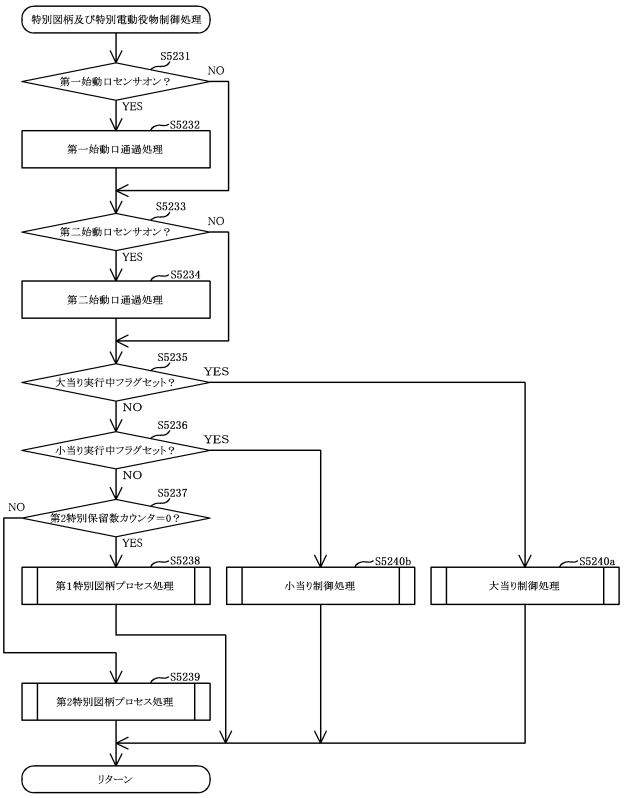
【図１０２】



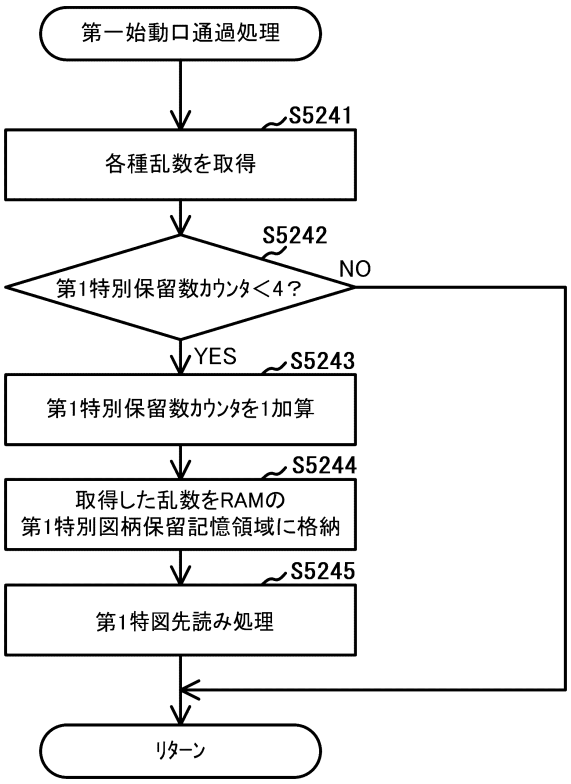
【図１０３】



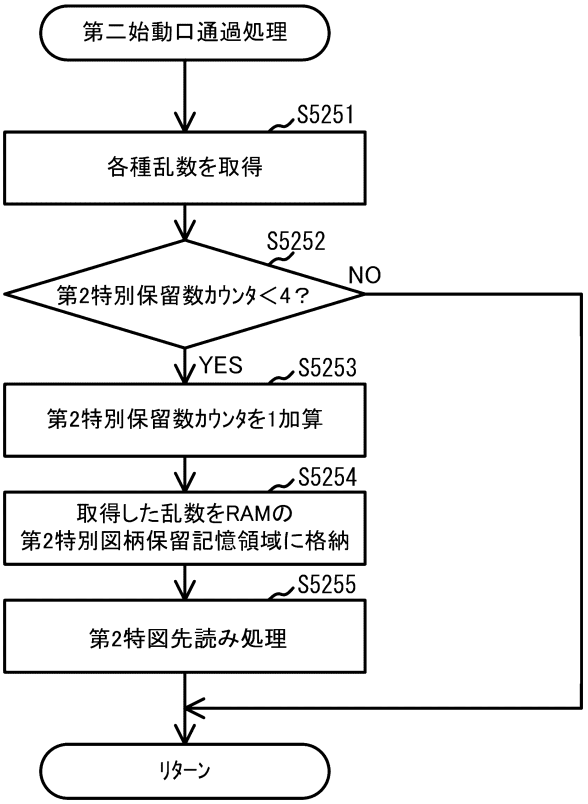
【図１０４】



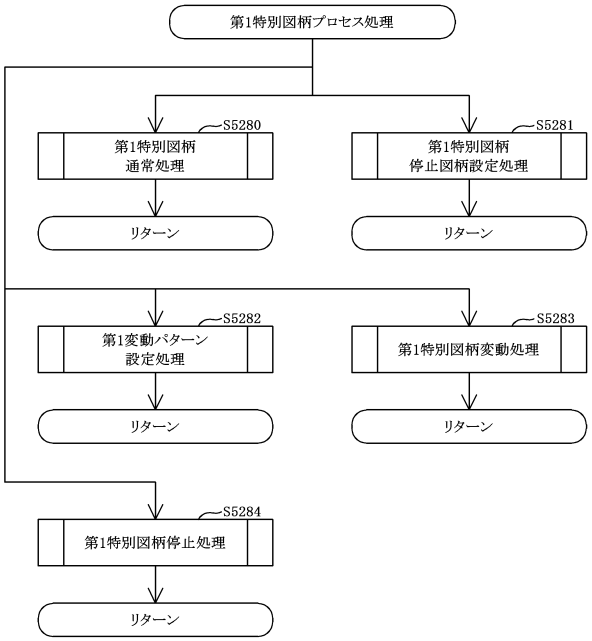
【図１０５】



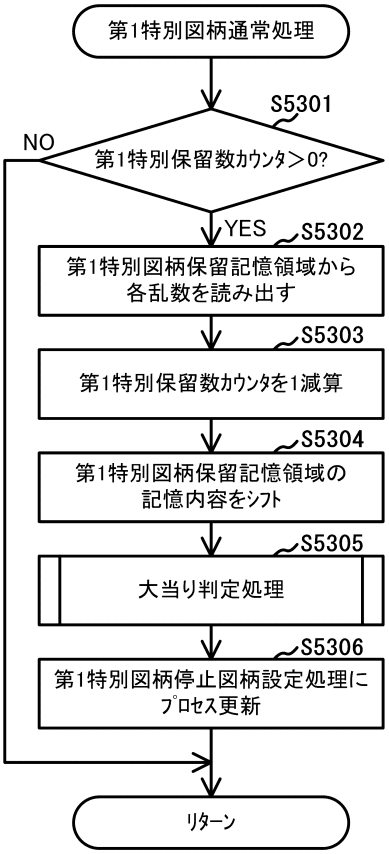
【図１０６】



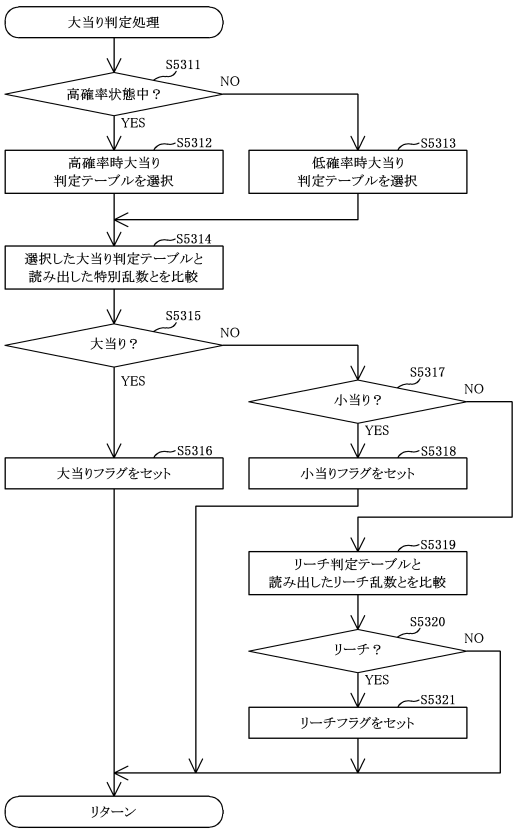
【図１０７】



【図１０８】



【図１０９】



【図１１０】

(A)大当り判定テーブル：第一特別乱数(0-65535)、第二特別乱数(0-65535)

		はずれ	大当り	小当り
第一特別乱数	低確率時	65332	204	0
	高確率時	63496	2040	0
第二特別乱数	低確率時	65332	204	0
	高確率時	63496	2040	0

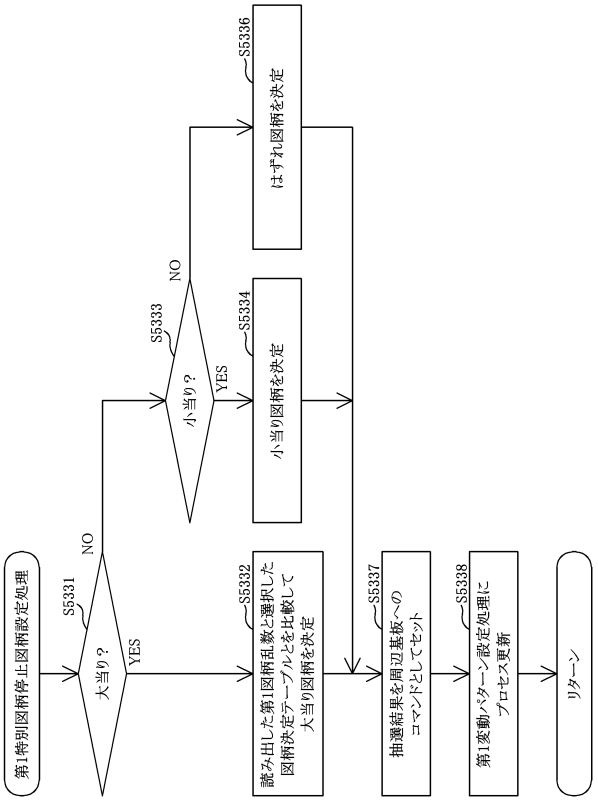
(B)図柄決定テーブル：第一大当り図柄用乱数(0-199)

	時短回数	大当り遊技中の演出	出球	割り振り
8R確変大当りA	次回大当りまで	バトル演出(勝利)	△	164
8R通常大当り	100回	バトル演出(敗北)	△	36

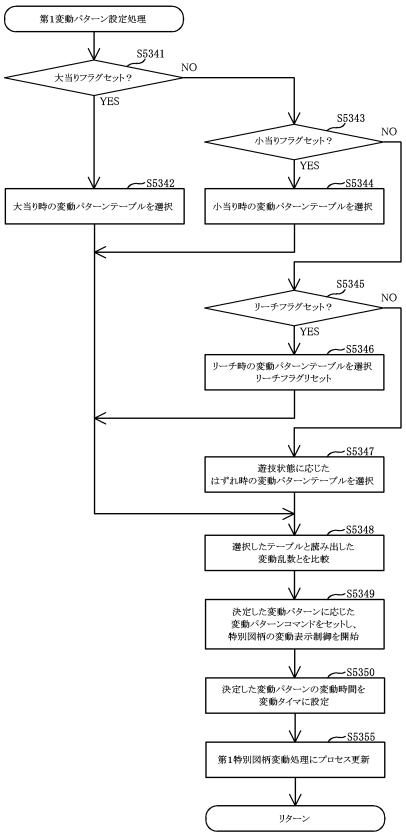
(C)図柄決定テーブル：第二大当り図柄用乱数(0-199)

	時短回数	大当り遊技中の演出	出球	割り振り
16R確変大当り	次回大当りまで	上乗せチャレンジ演出	○	100
8R確変大当りB	次回大当りまで	上乗せチャレンジ演出	△	64
2R通常大当り	100回	ボーナス終了演出	×	36

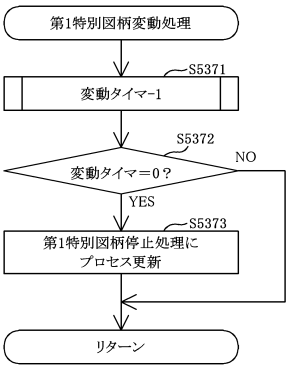
【図１１１】



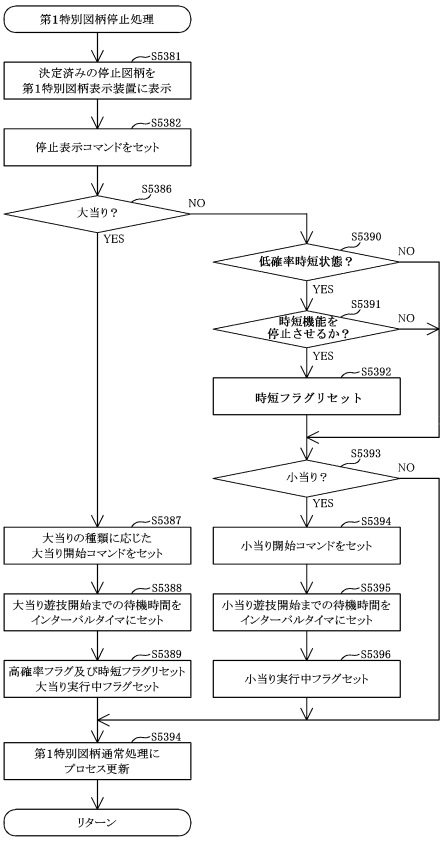
【図１１２】



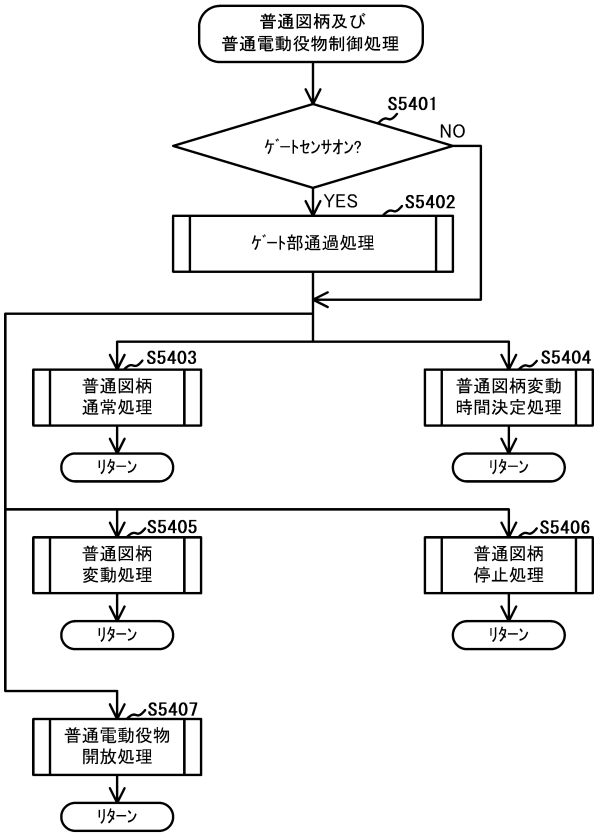
【図１１３】



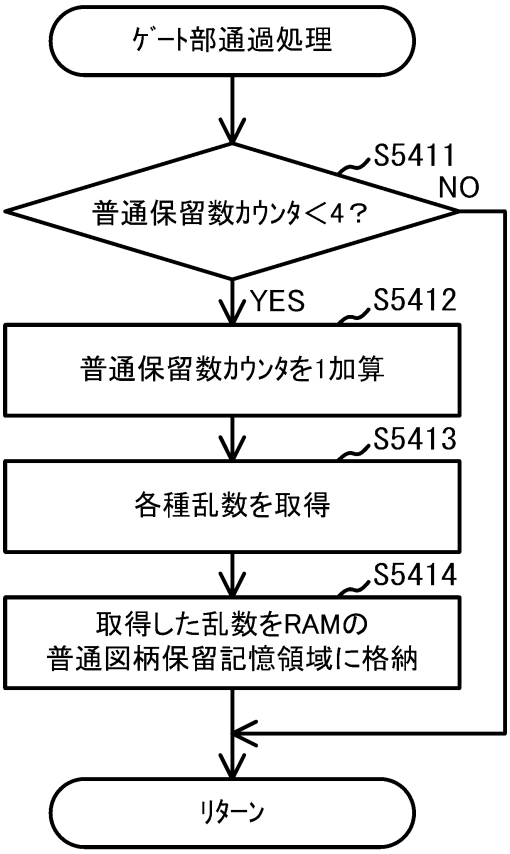
【図１１４】



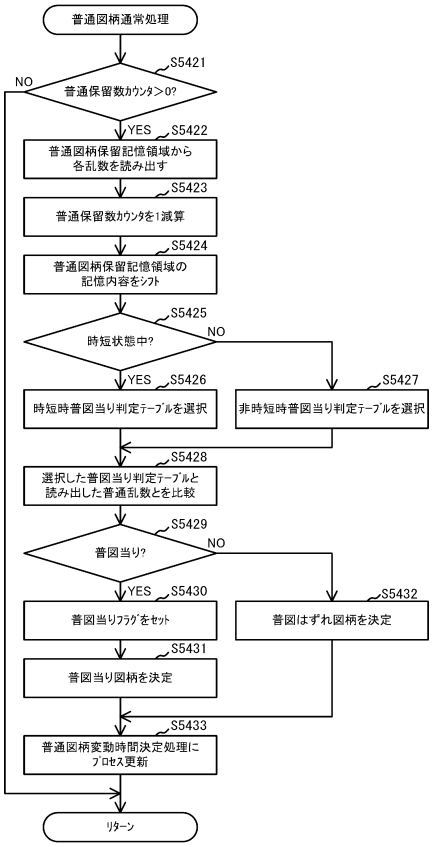
【図１１５】



【図１１６】



【図１１７】



【図１１８】

TI

変動番号	変動演出	当落	変動PTN タイマ演出	予告抽選 タイマ出現率
1	通常変動 ＆ 短縮変動	ハズレ	×	×
2	非リーチ	ハズレ	×	×
3	ノーマルリーチ	ハズレ	×	×
4	ノーマルリーチ	当り	×	×
5	タイマ1 ノーマルリーチ （会話予告）	ハズレ	○	×
6	タイマ1 ノーマルリーチ （会話予告）	当り	○	×
7	タイマなし キャラリーチ	ハズレ	×	△
8	タイマなし キャラリーチ	当り	×	△
9	タイマ1 キャラリーチ （会話予告）	ハズレ	○	○
10	タイマ1 キャラリーチ （会話予告）	当り	○	○
11	タイマ2 キャラリーチ （カットインA）	ハズレ	○	○
12	タイマ2 キャラリーチ （カットインA）	当り	○	○
13	タイマ3 キャラリーチ （会話予告＆カットインA）	ハズレ	○	○
14	タイマ3 キャラリーチ （会話予告＆カットインA）	当り	○	○
15	タイマなし SPリーチ	ハズレ	×	○
16	タイマなし SPリーチ	当り	×	○
17	タイマ1 SPリーチ （会話予告）	ハズレ	○	◎
18	タイマ1 SPリーチ （会話予告）	当り	○	◎
19	タイマ2 SPリーチ （カットインB）	ハズレ	○	◎
20	タイマ2 SPリーチ （カットインB）	当り	○	◎
21	タイマ3 SPタイマリーチ （会話予告＆カットインB）	ハズレ	○	◎
22	タイマ3 SPタイマリーチ （会話予告＆カットインB）	当り	○	◎

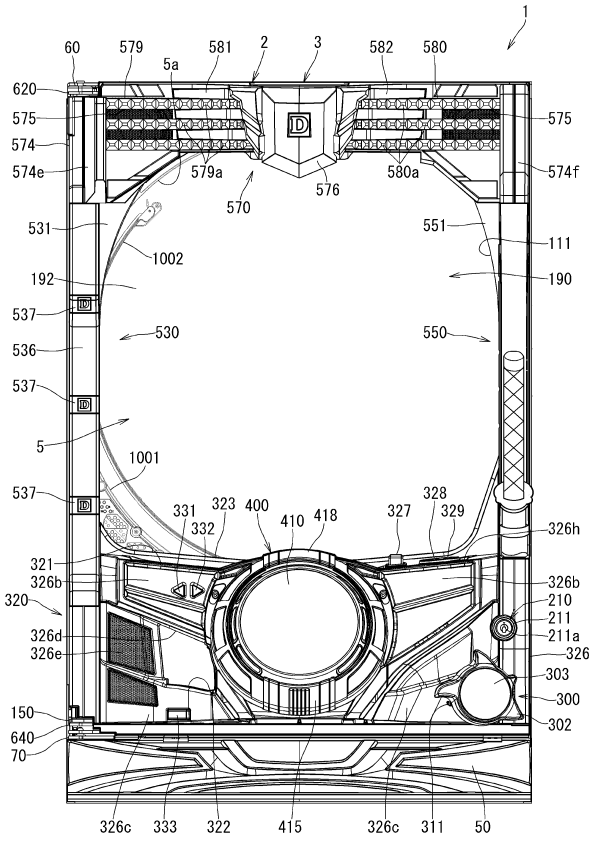
【図１１９】

音名称	優先順位	左右バン初期値	上下バン初期値	ボリューム初期値	音番号	シークポイント	再生タイプ設定	出力タイプ設定
報知音１（磁気異常）	25	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_JIKI	0	ループ	モノラル
報知音２（振動異常）	25	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_SHINDO	0	ループ	モノラル
報知音３（大人異異常）	25	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_DAINYUSHO	0	ループ	モノラル
報知音４（扉開放）	20	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_TOBIRAI	0	ループ	モノラル
報知音５（枠開放）	20	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_WAKU	0	ループ	モノラル
報知音６（左打ち案内）	10	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_HIDARI	0	ループ	モノラル
報知音７（球抜き案内）	10	0+80	0+00	0+1ff	X_SND_TAMANUKI	0	ループ	モノラル

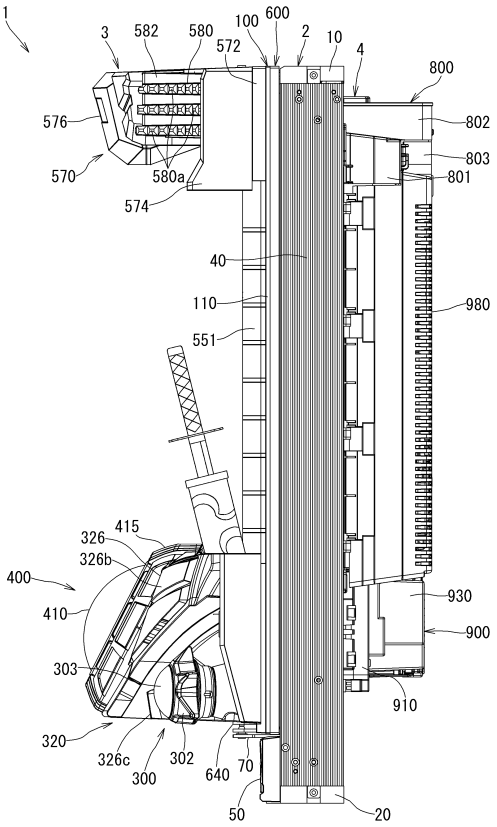
【図１２０】

エラー種類		検知内容	検知画像	検知時間	解除条件
高	磁気異常	磁気センサによる検出	「ドーター　磁気を検知しました」の報知音ループ、液晶内表示、ランプ点灯	報知音ループ終了から60s（回数リセット）、液晶内表示、ランプ点灯報知音終了後も継続	電源再投入
	振動異常	振動センサによる検出	「ドーター　振動を検知しました」の報知音ループ、液晶内表示、ランプ点灯	報知音ループ終了から60s（回数リセット）、液晶内表示、ランプ点灯報知音終了後も継続	電源再投入
	大入賞異常	所定以内に大入賞口センサによる検出	「ドーター　大入賞異常を検知しました」の報知音ループ、液晶内表示、ランプ点灯	報知音ループ終了から60s（回数リセット）、液晶内表示、ランプ点灯報知音終了後も継続	電源再投入
中	扉開放	扉枠開放スイッチによる検出	「扉が開いています　ピンポンピンポン」の報知音ループ、液晶内表示、ランプ点灯	報知音ループ終了から30s（回数リセット）、液晶内表示、ランプ点灯報知音終了後も継続	扉閉鎖検知
	枠開放	枠枠開放スイッチによる検出	「枠が開いています　ピンポンピンポン」の報知音ループ、液晶内表示、ランプ点灯	報知音ループ終了から30s（回数リセット）、液晶内表示、ランプ点灯報知音終了後も継続	枠閉鎖検知
低	左打ち案内	非時短状態でのガード上異常検出	「左打ちに戻してください」の報知音ループ、液晶内表示	検出から20s（回数リセット）	報知終了
	玉抜き案内	満タン検知スイッチによる検出	「球を抜いてください」の報知音ループ、液晶内表示	検出から20s（回数リセット）	報知終了

【図１２１】



【図１２２】



【図１２３】

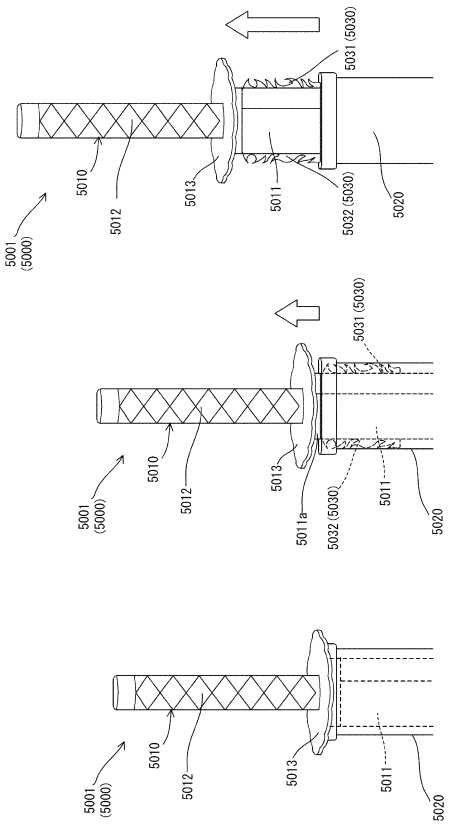
（Ａ）

変動パターン	抜刀準備移行あり	抜刀準備移行なし
はずれ	20%	80%
小当り	30%	70%
大当り	50%	50%

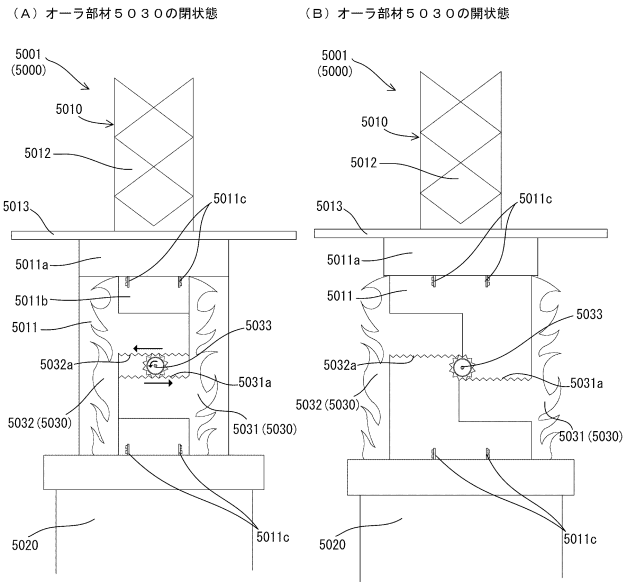
（Ｂ）

変動パターン＆抜刀準備移行の有無		抜刀本演出なし	抜刀本演出あり	
			オーラ部材なし	オーラ部材付き
はずれ	抜刀準備移行なし	85%	10%	5%
	抜刀準備移行あり	60%	30%	10%
小当り	抜刀準備移行なし	80%	20%	0%
	抜刀準備移行あり	50%	50%	0%
大当り	抜刀準備移行なし	0%	80%	20%
	抜刀準備移行あり	0%	50%	50%

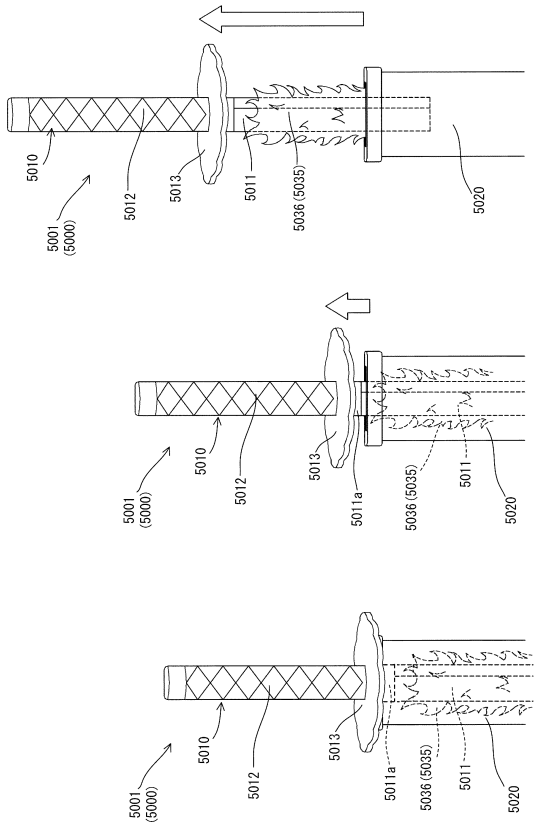
【図１２４】



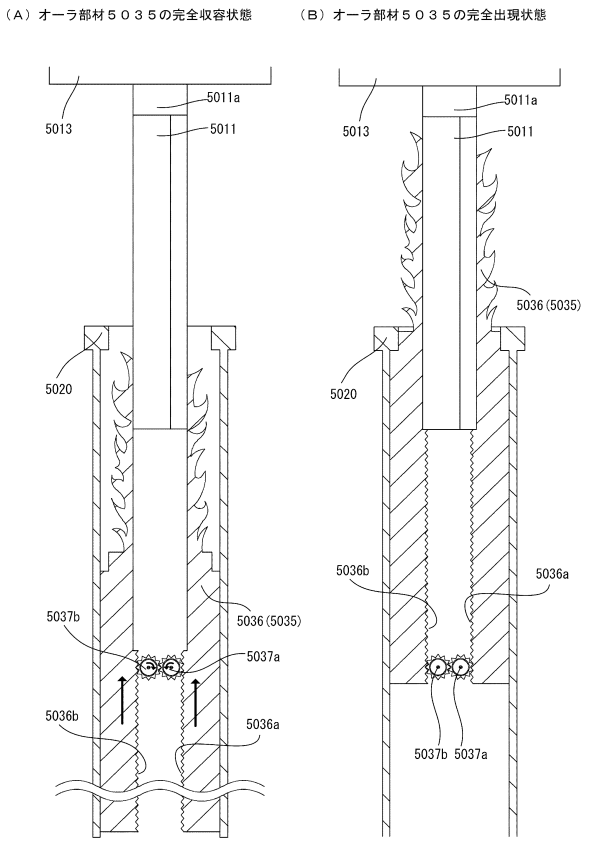
【図１２５】



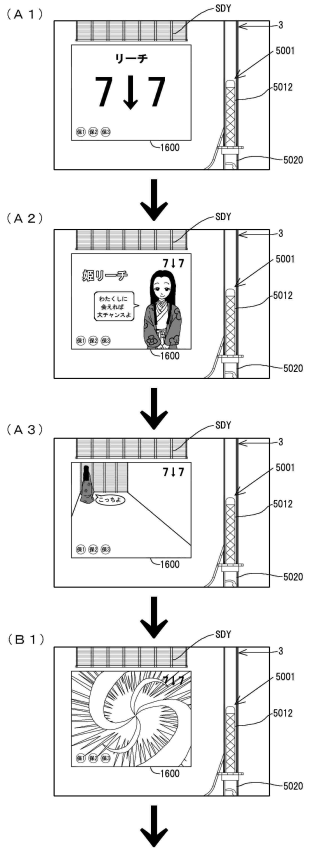
【図１２６】



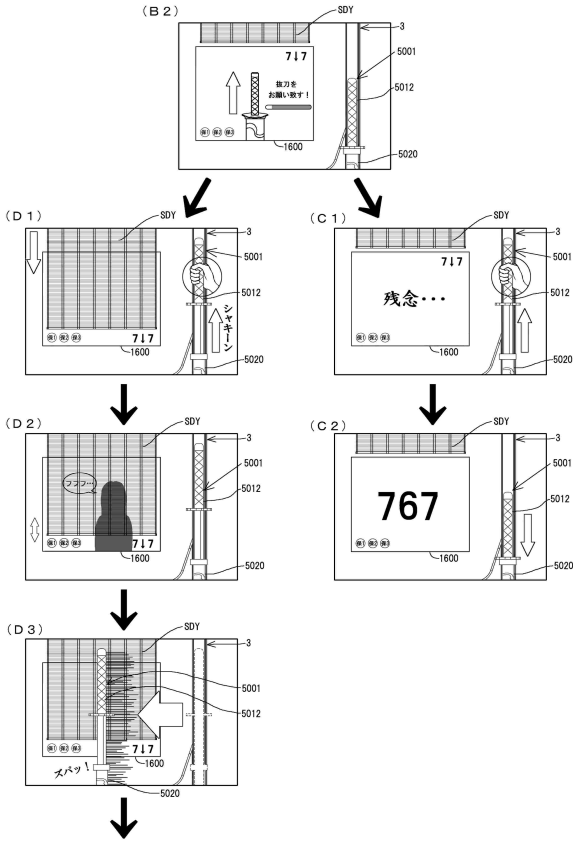
【図１２７】



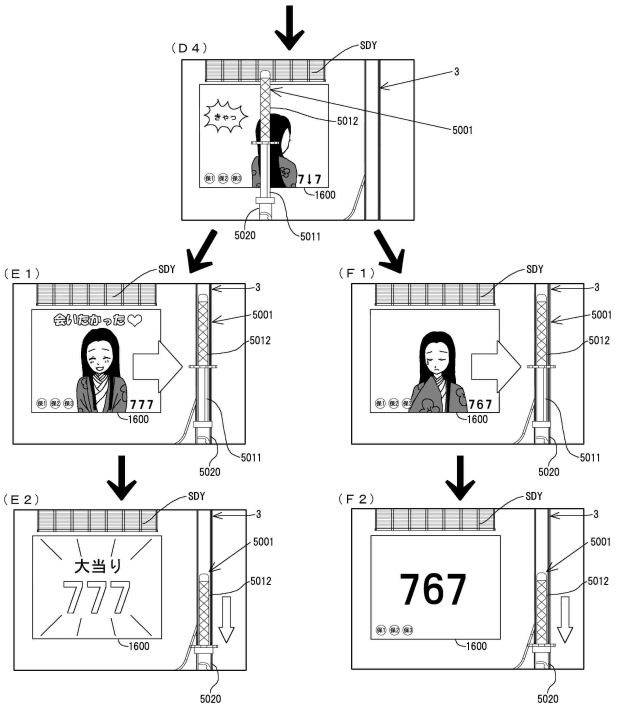
【図１２８】



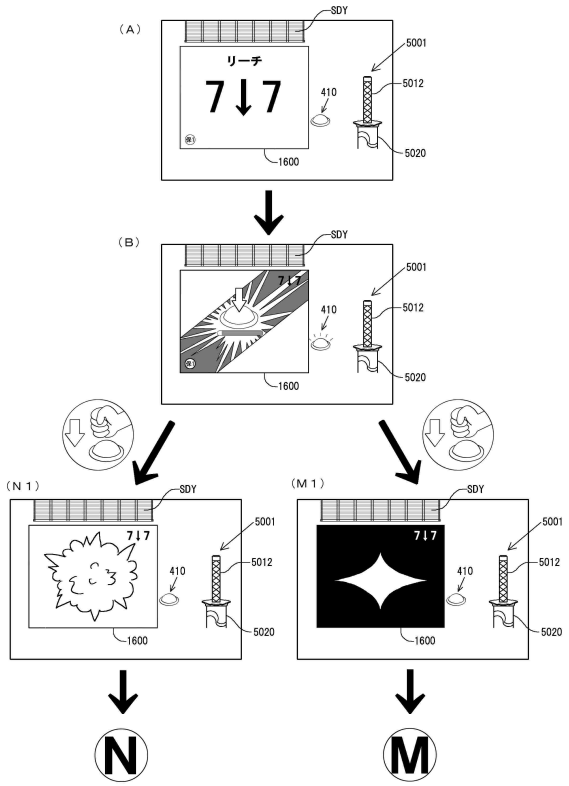
【図１２９】



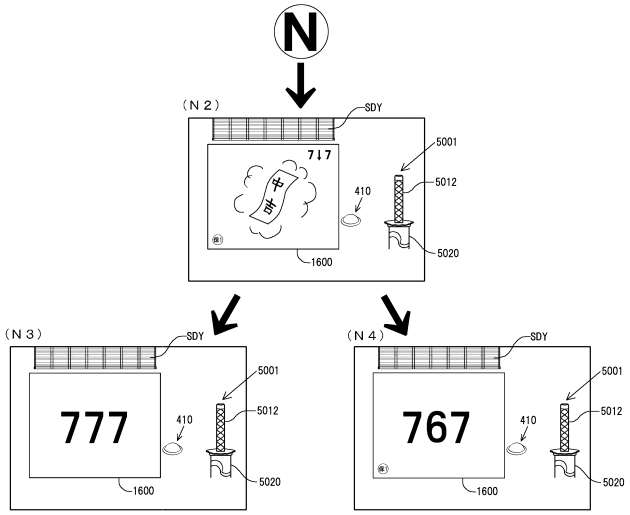
【図１３０】



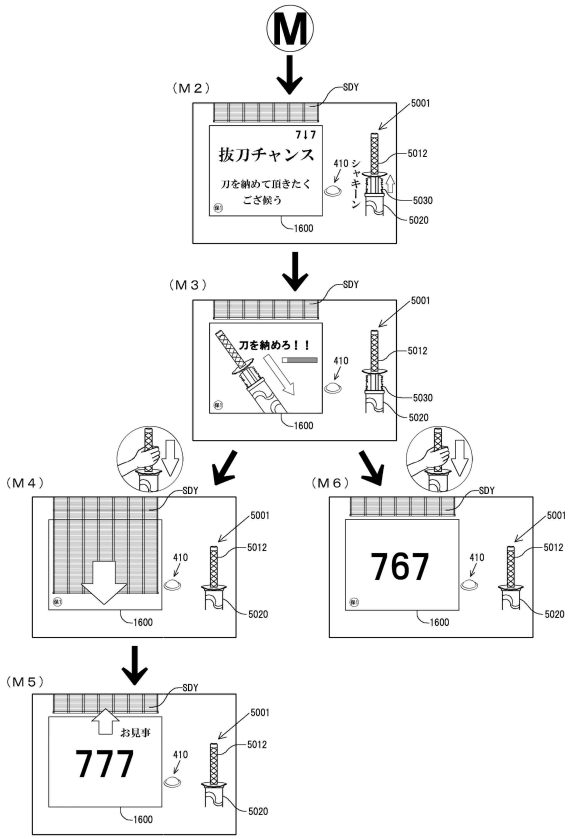
【図１３１】



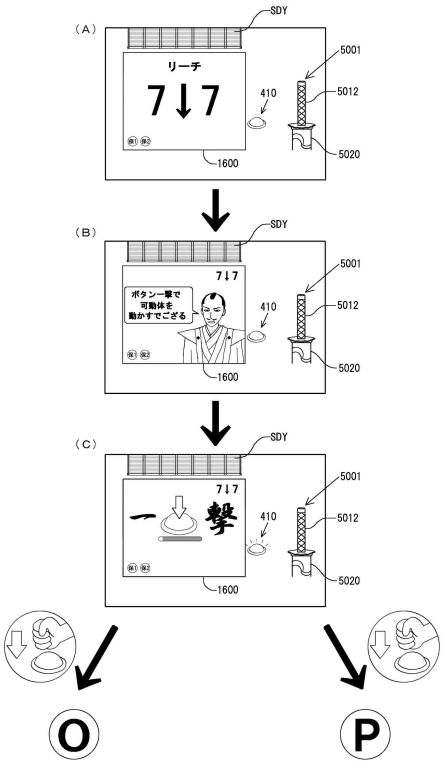
【図１３２】



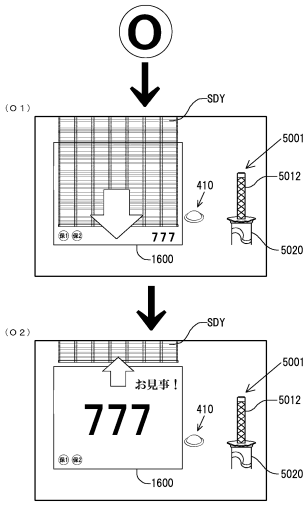
【図１３３】



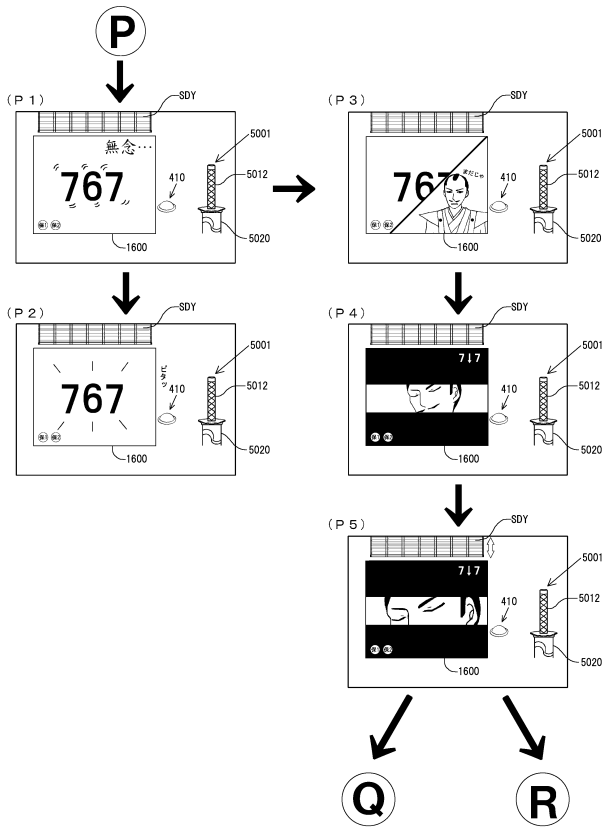
【図１３４】



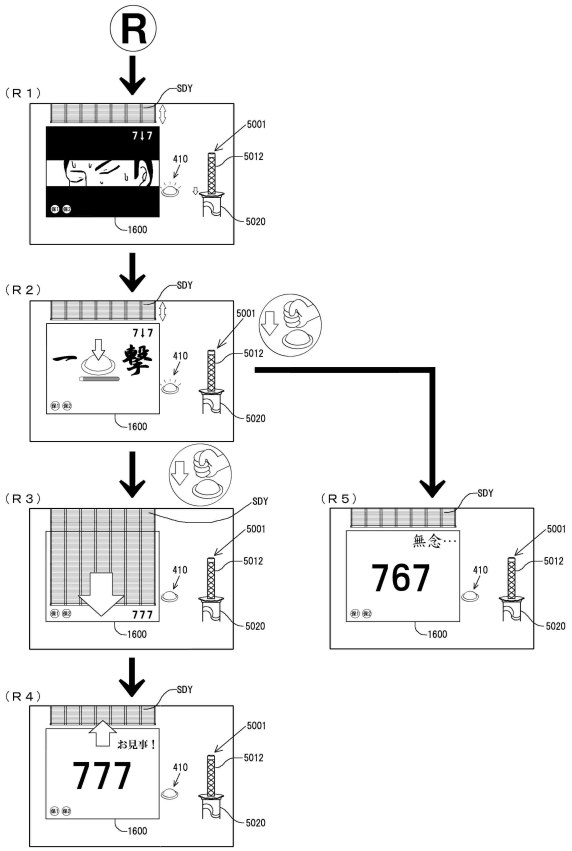
【図１３５】



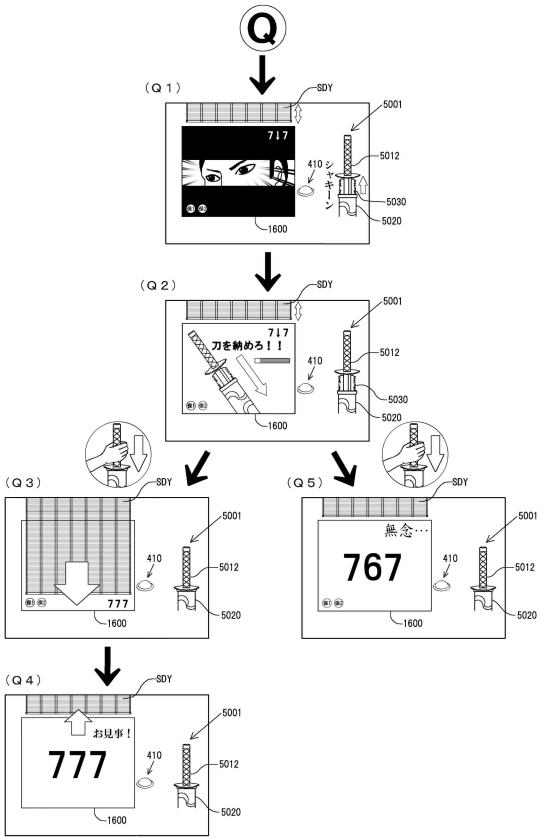
【図１３６】



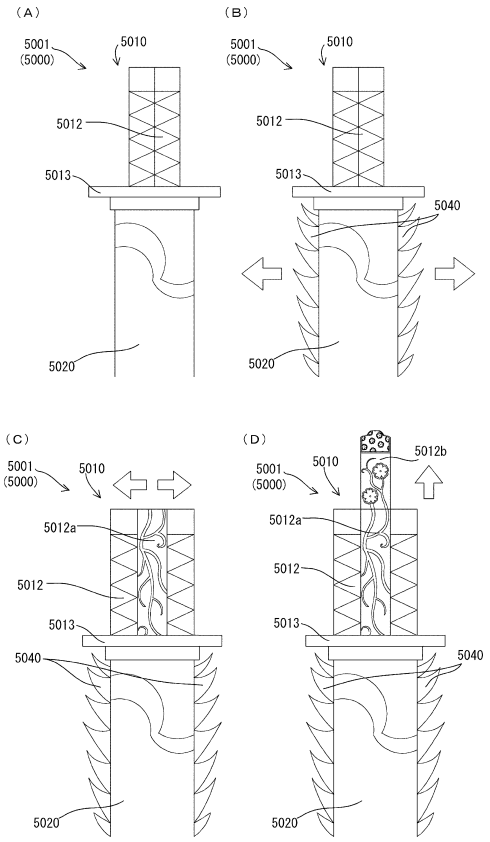
【図１３７】



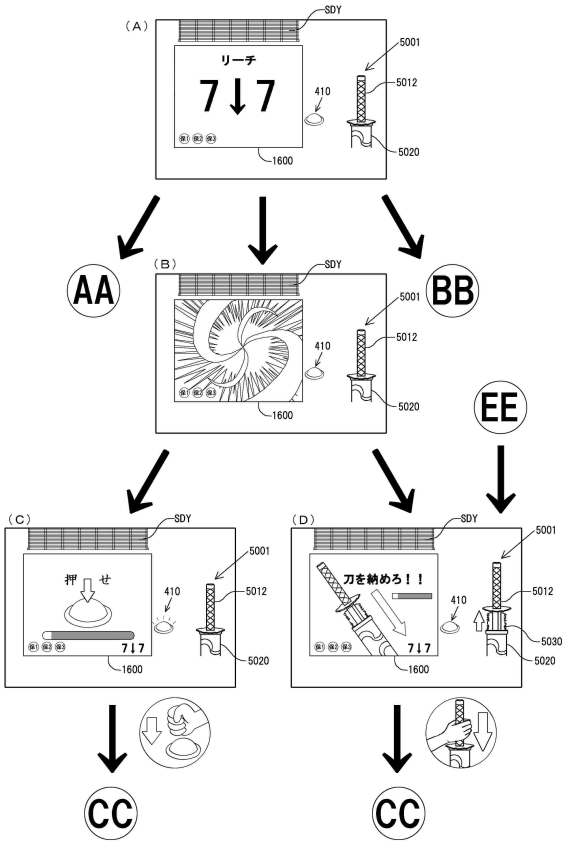
【図１３８】



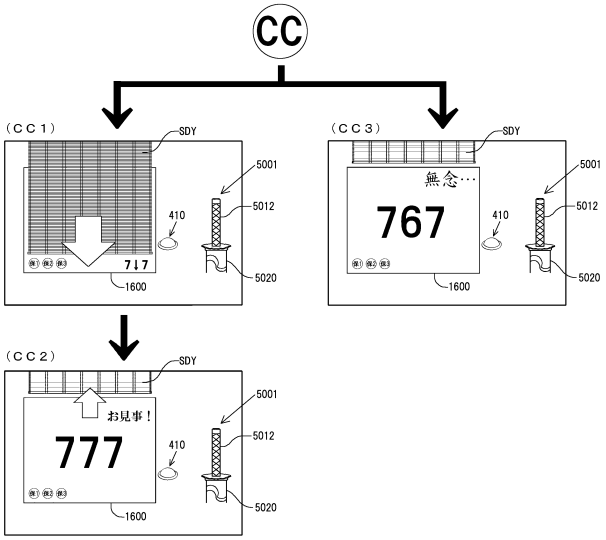
【図１３９】



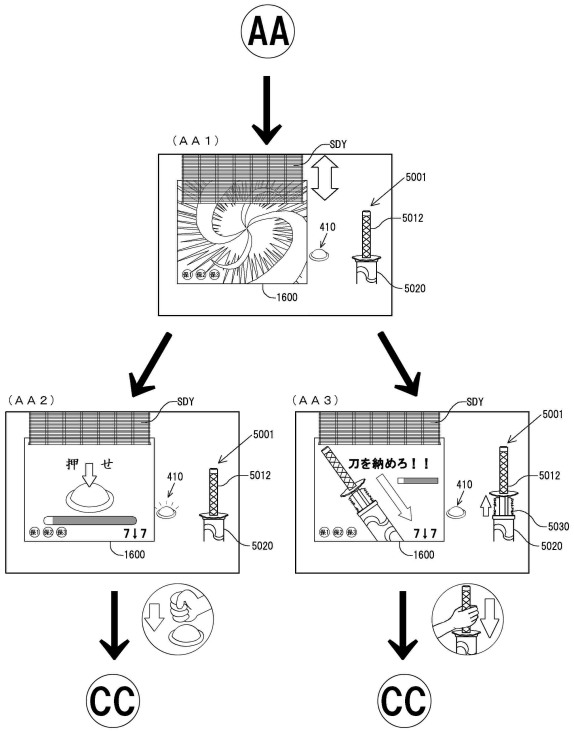
【図１４０】



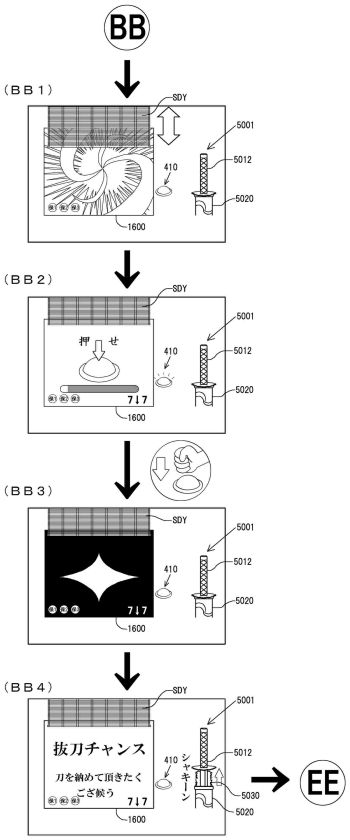
【図１４１】



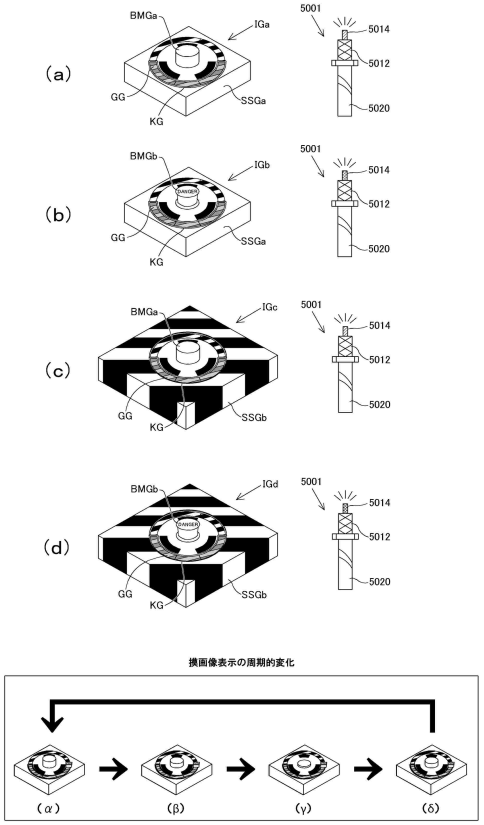
【図１４２】



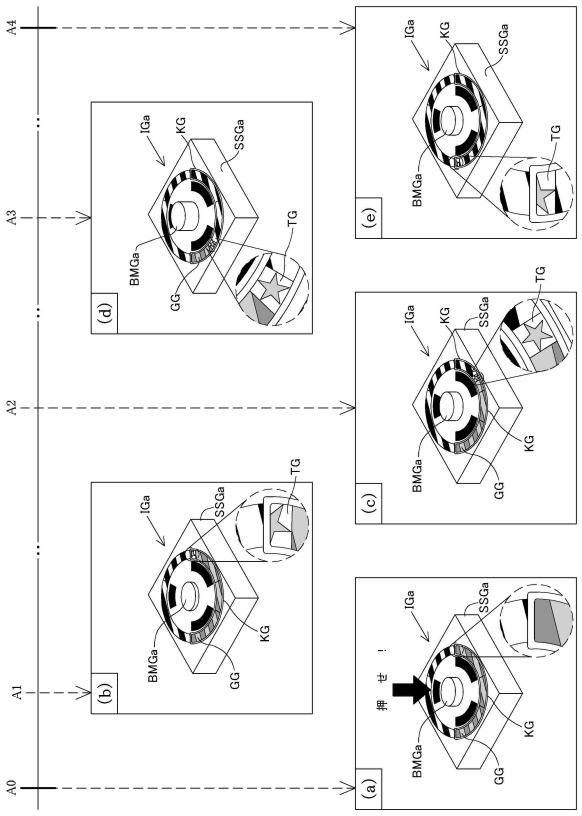
【図１４３】



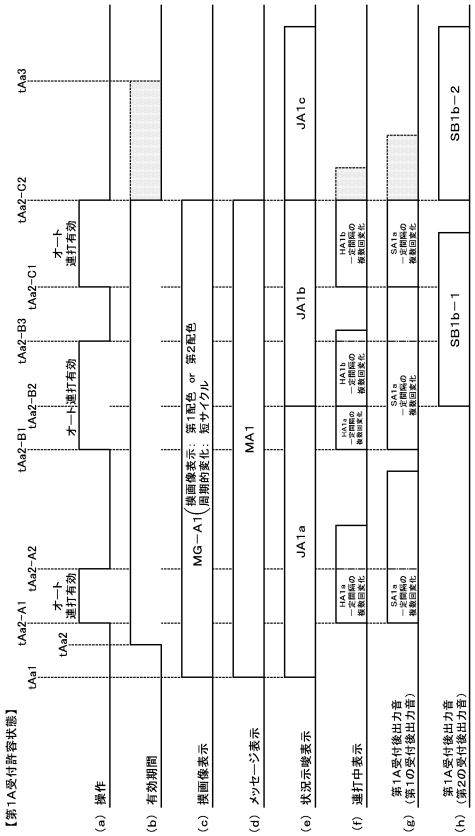
【図１４４】



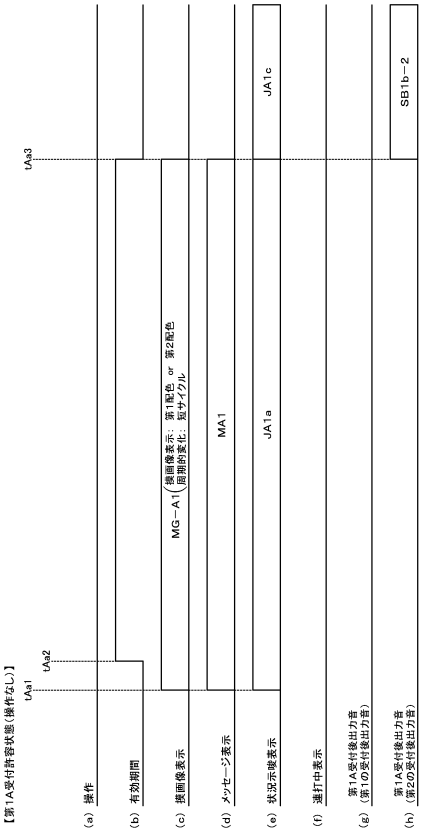
【図１４５】



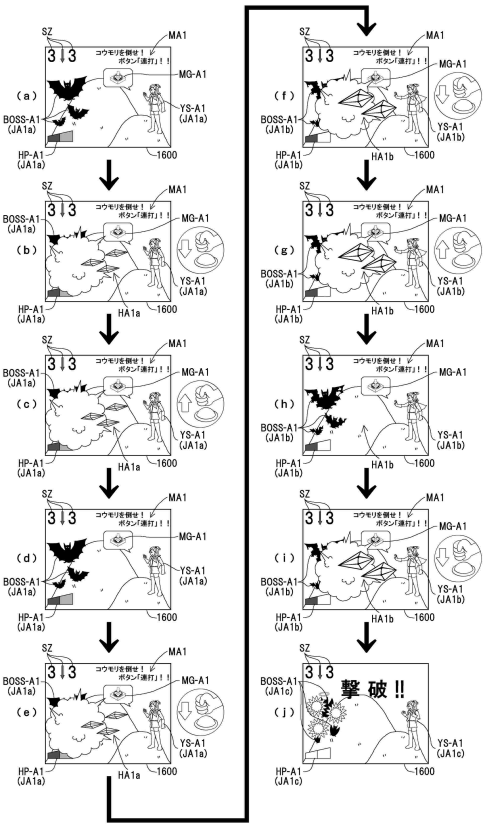
【図１４６】



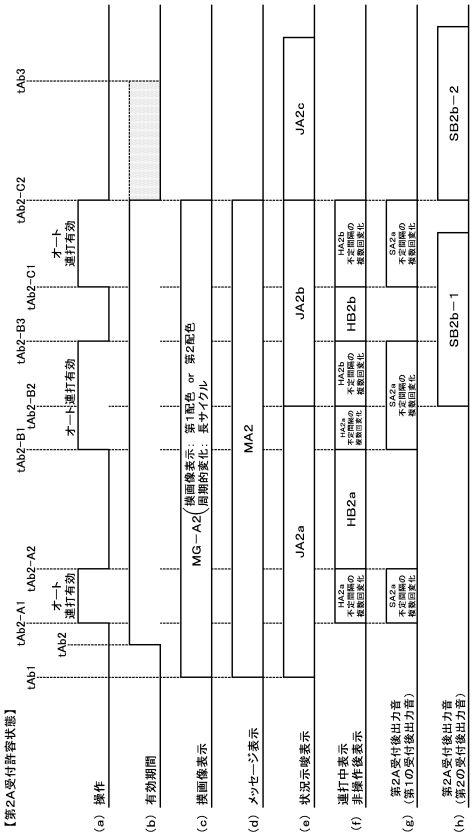
【図１４７】



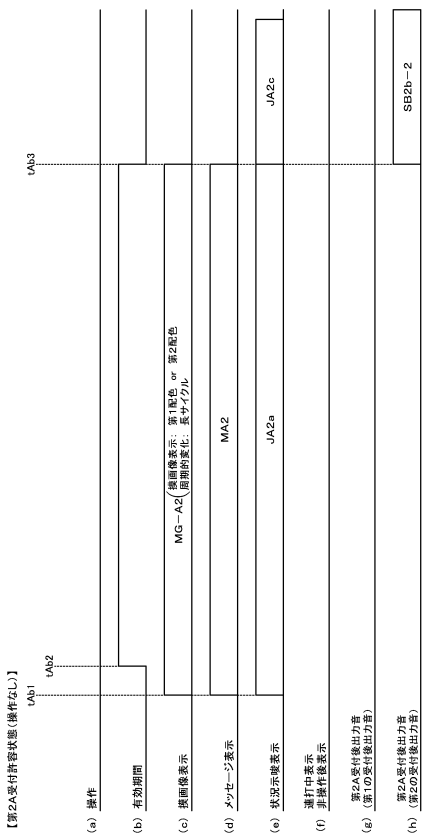
【図１４８】



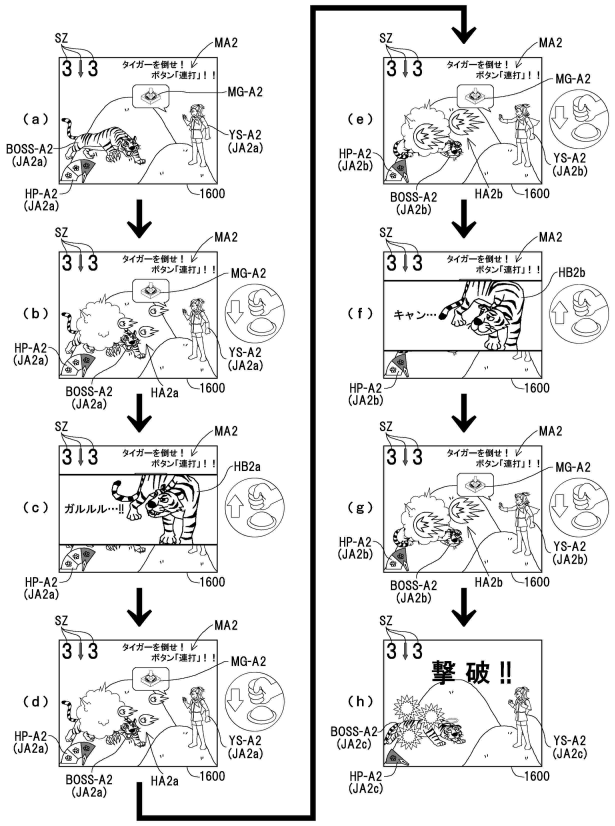
【図１４９】



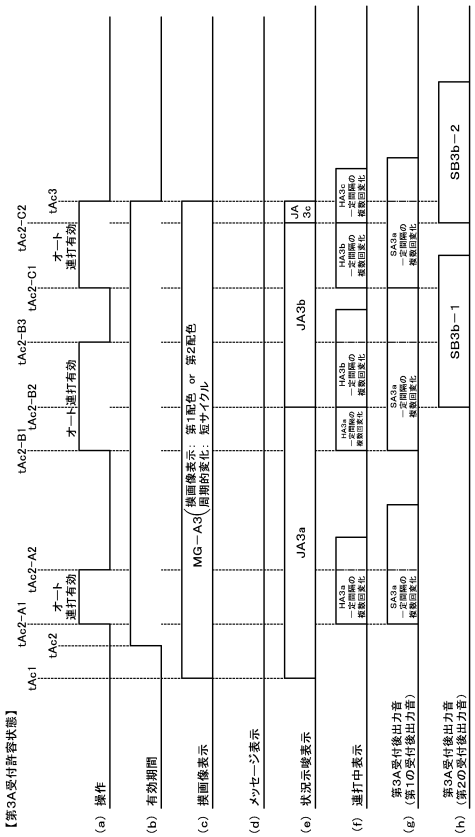
【図１５０】



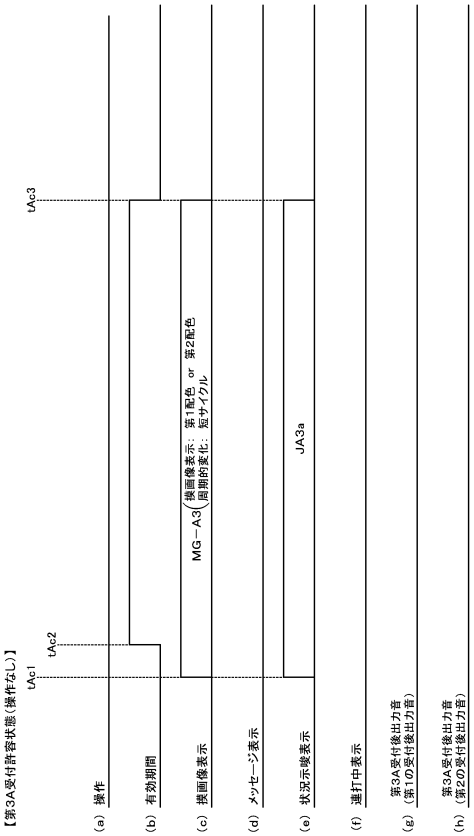
【図１５１】



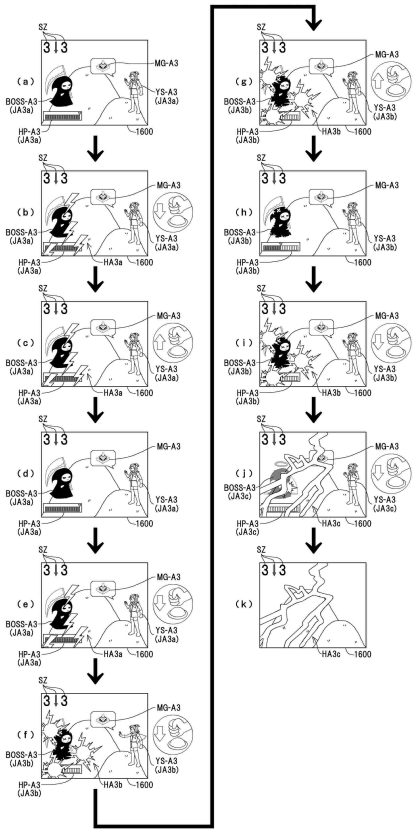
【図１５２】



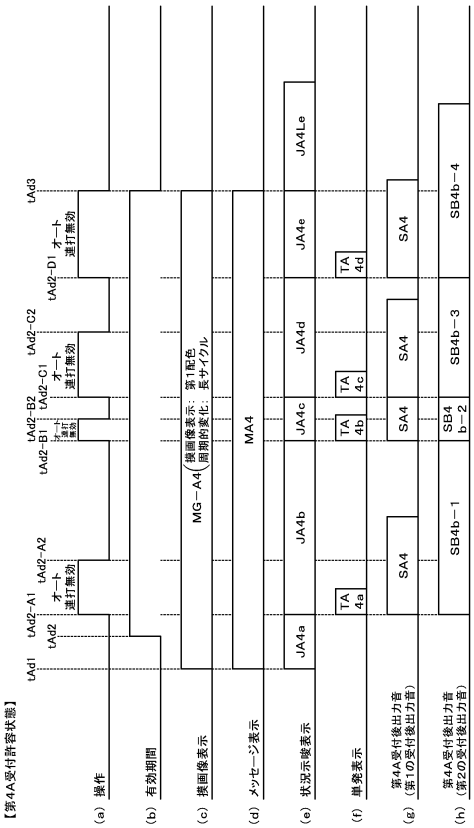
【図１５３】



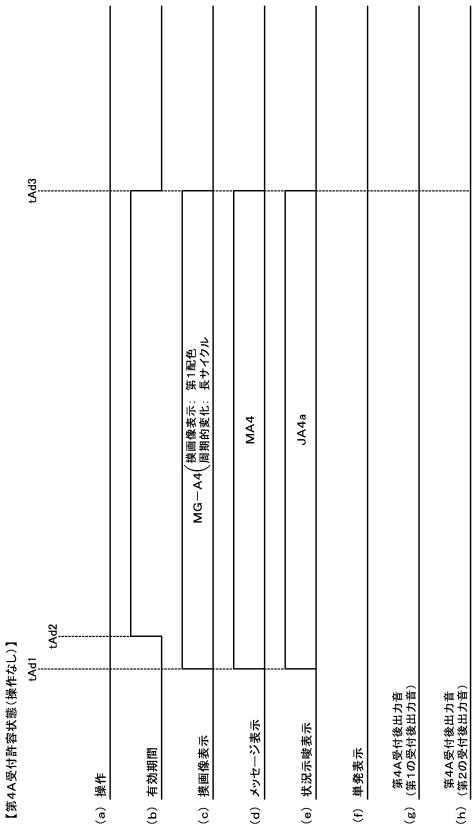
【図１５４】



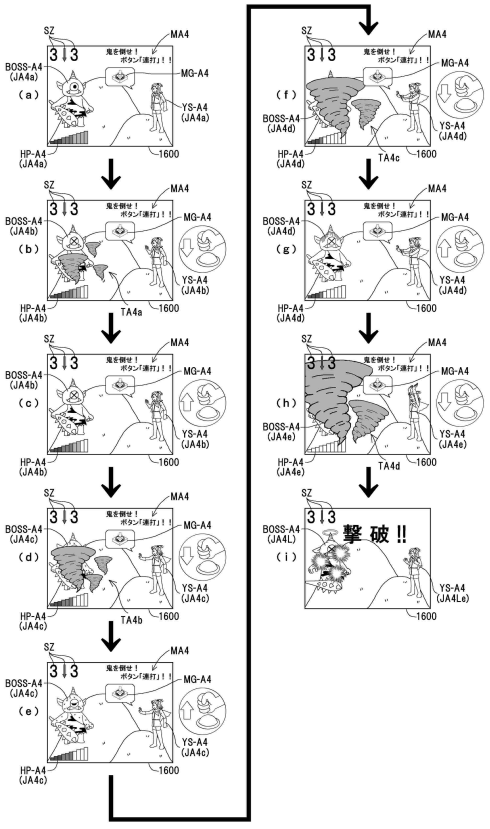
【図１５５】



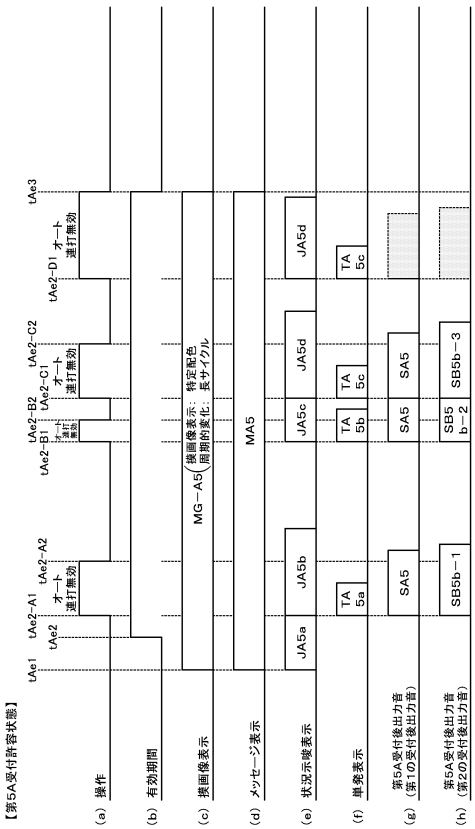
【図１５６】



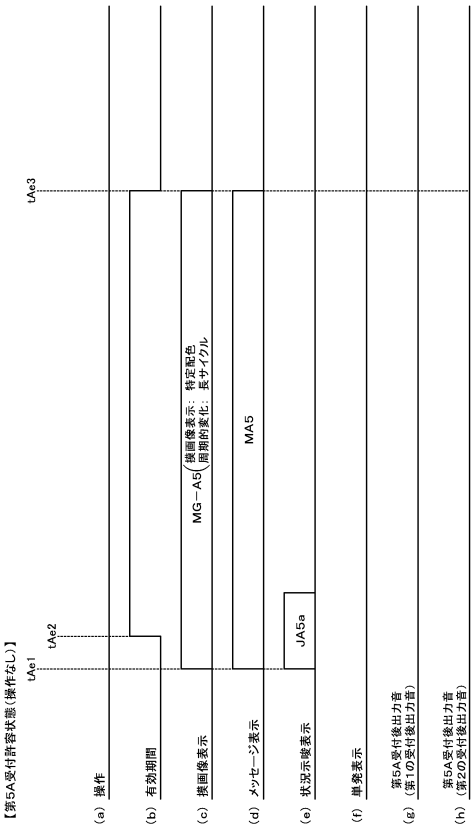
【図１５７】



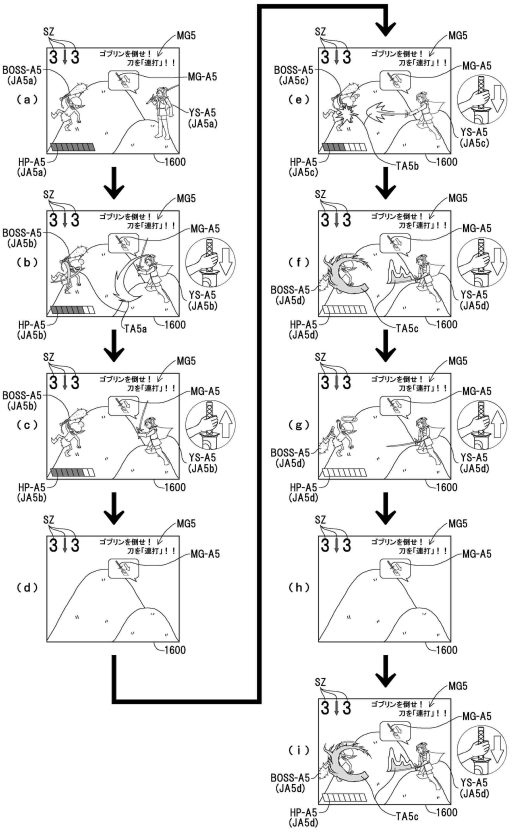
【図１５８】



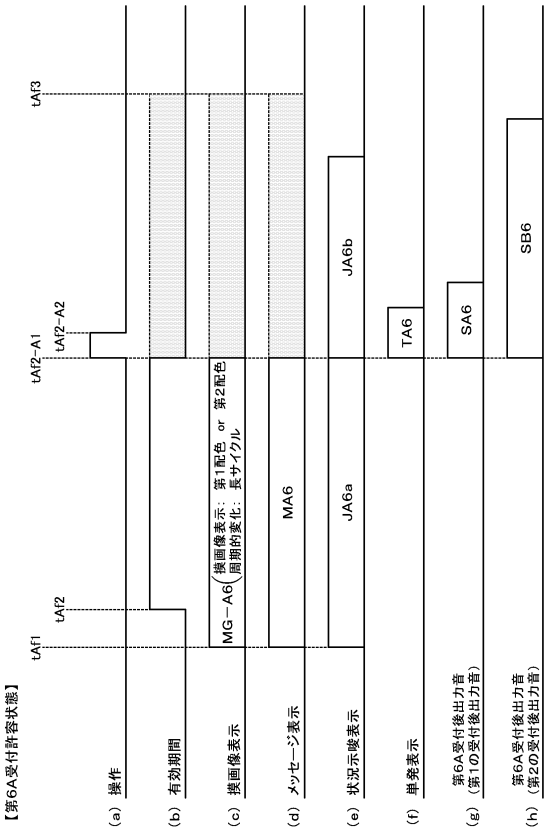
【図１５９】



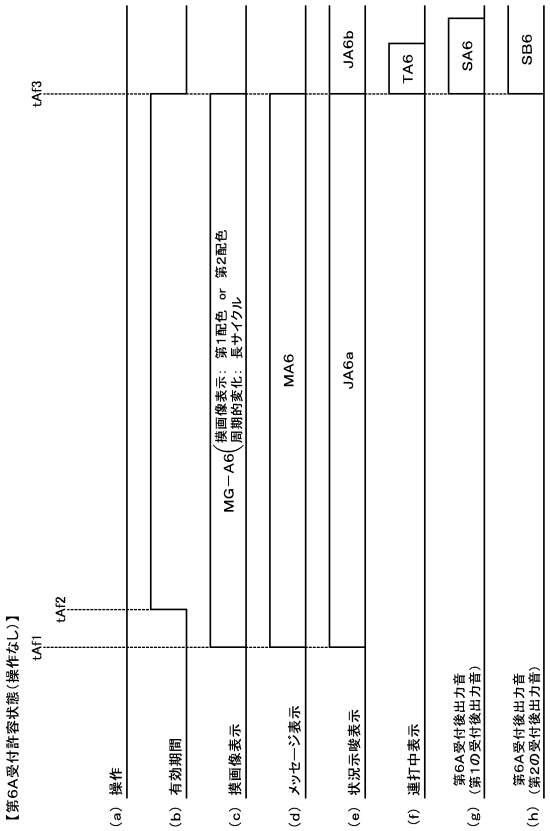
【図１６０】



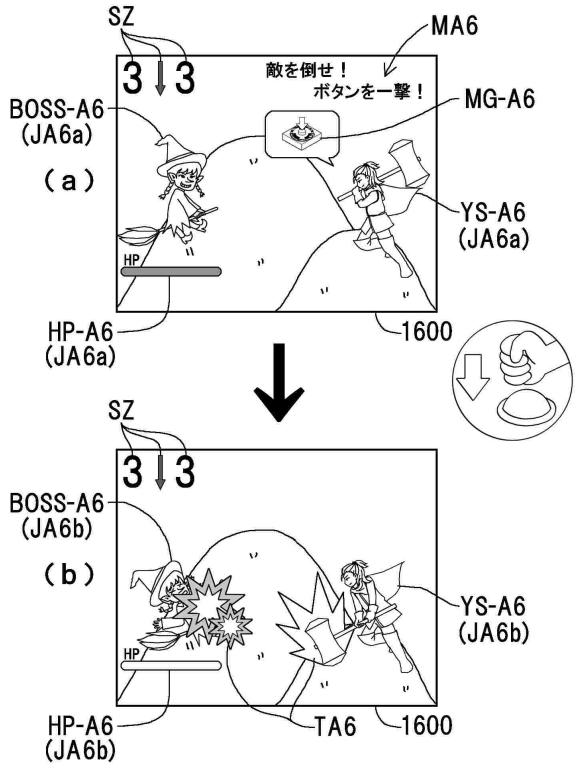
【図１６１】



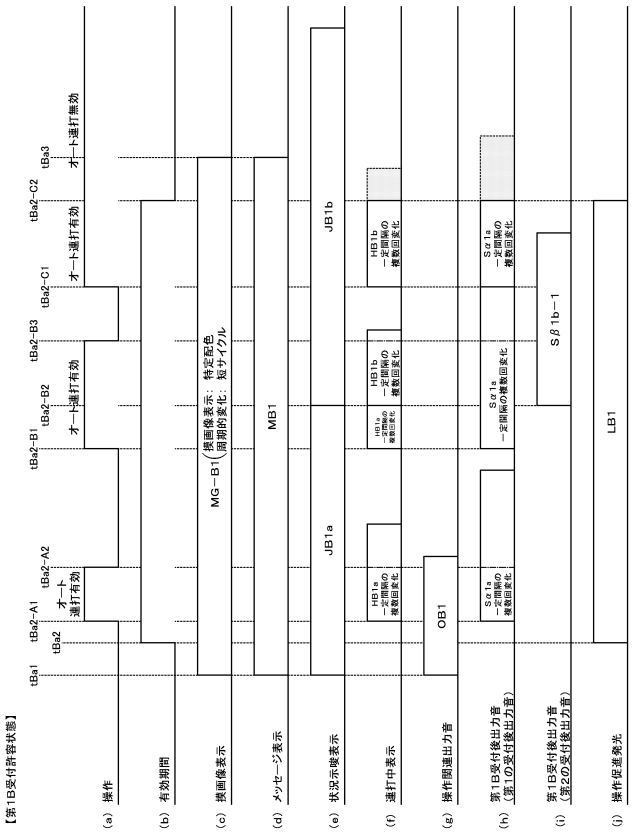
【図１６２】



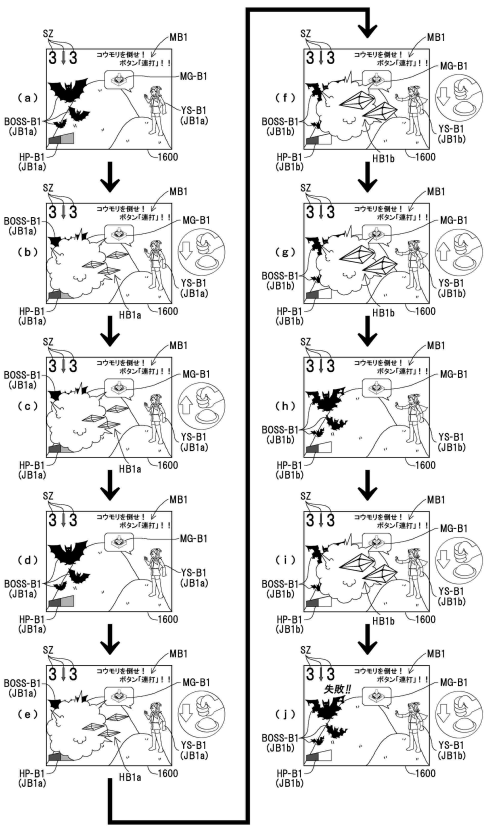
【図１６３】



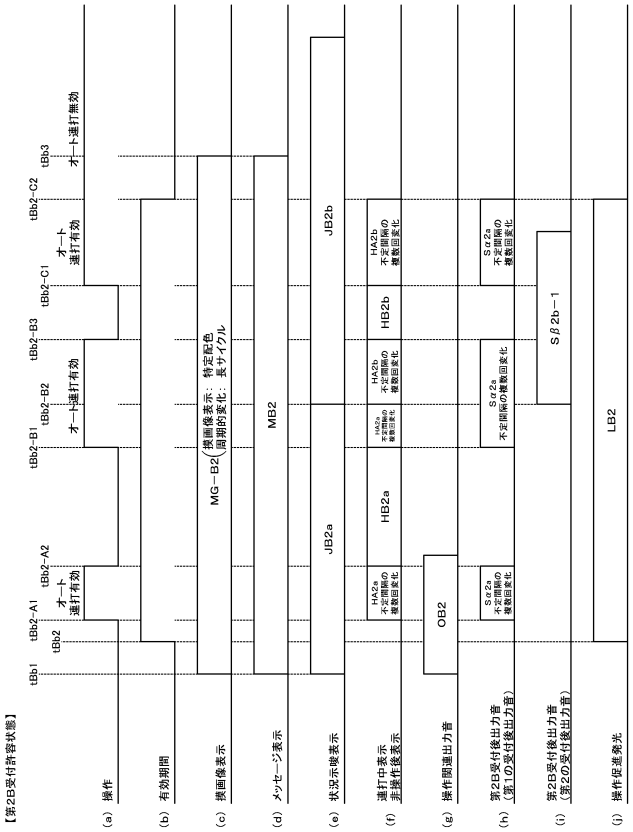
【図１６４】



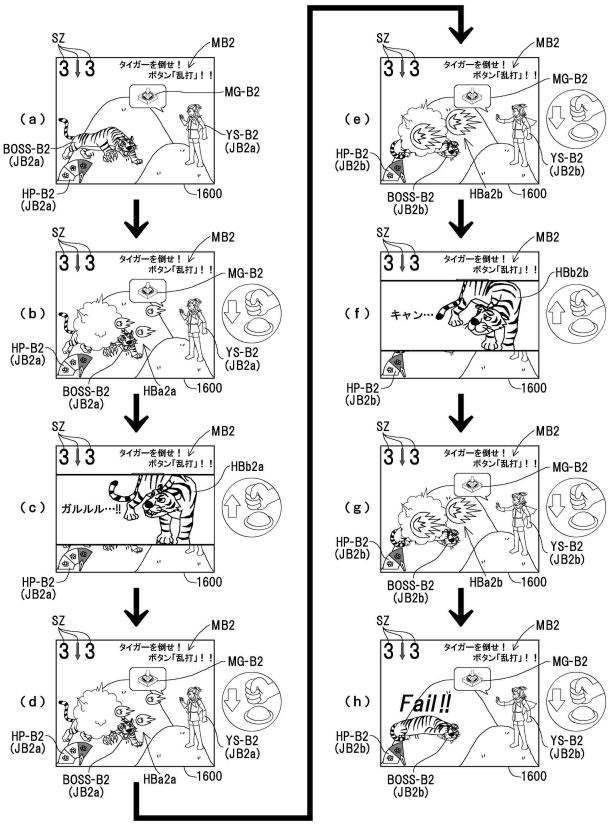
【図１６５】



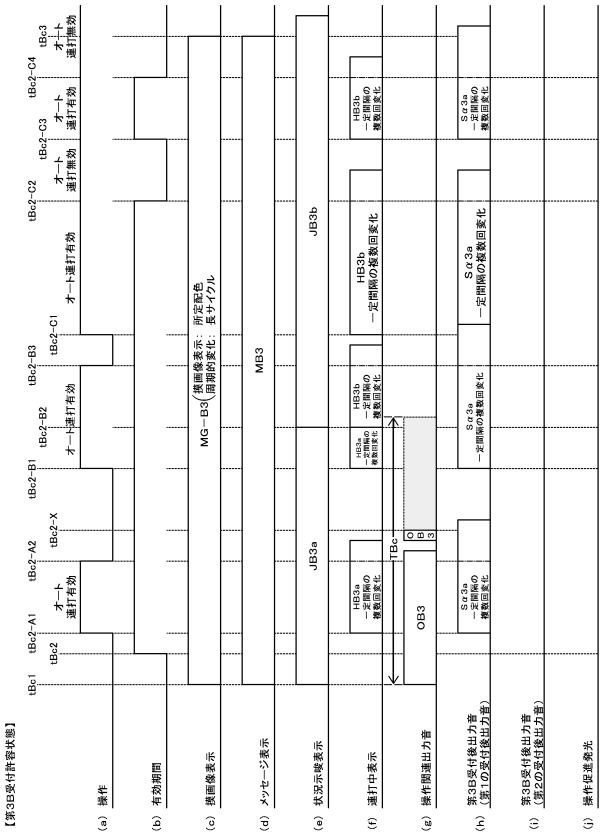
【図１６６】



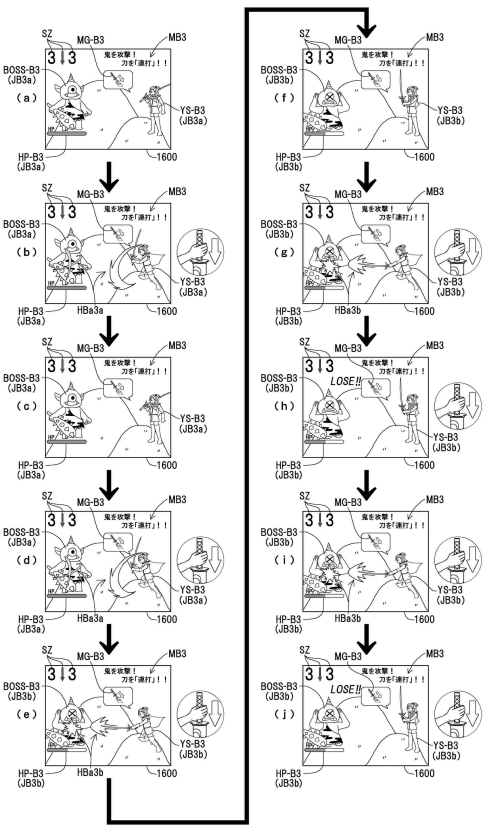
【図１６７】



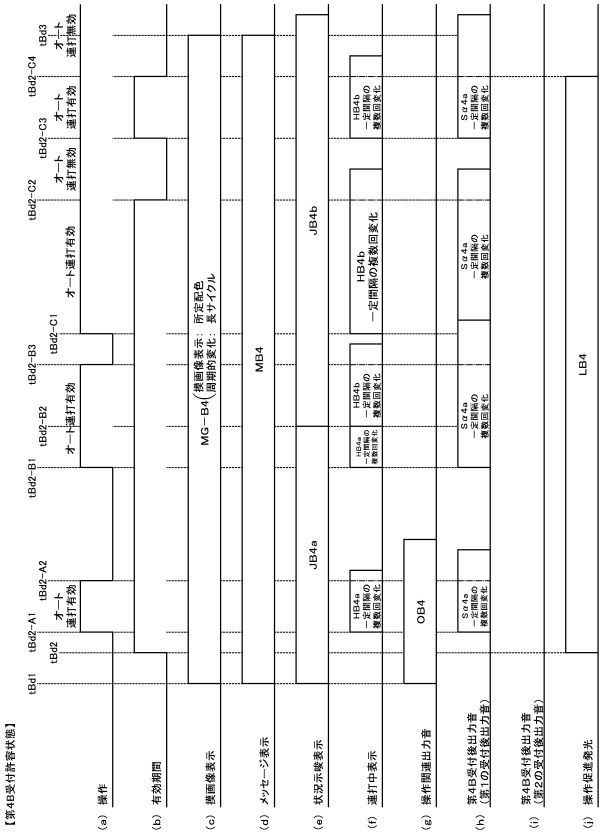
【図１６８】



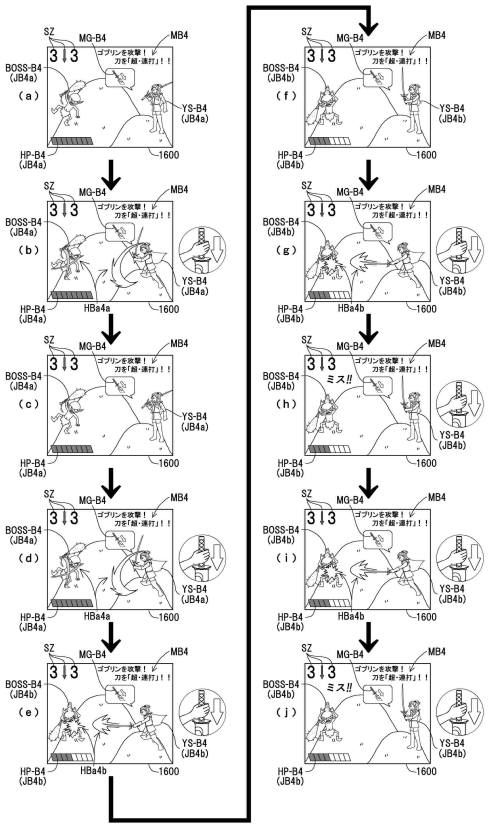
【図１６９】



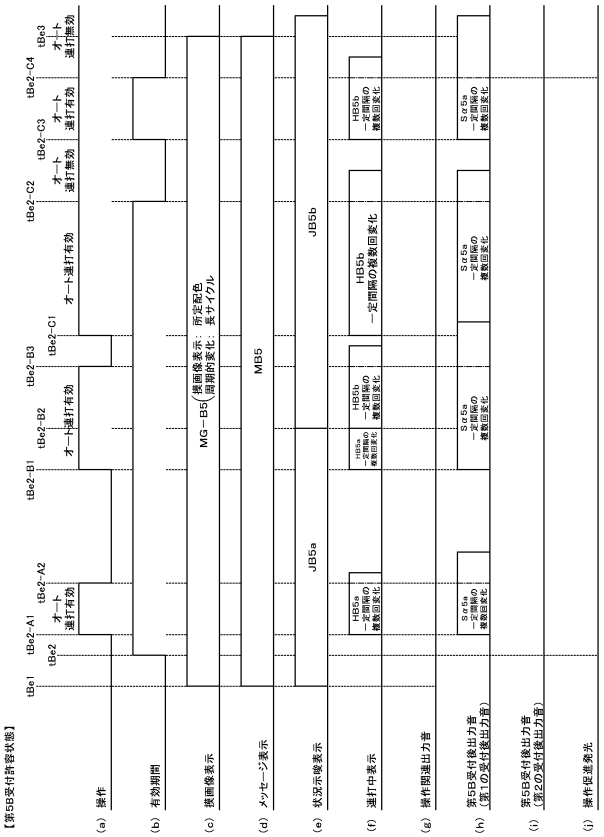
【図１７０】



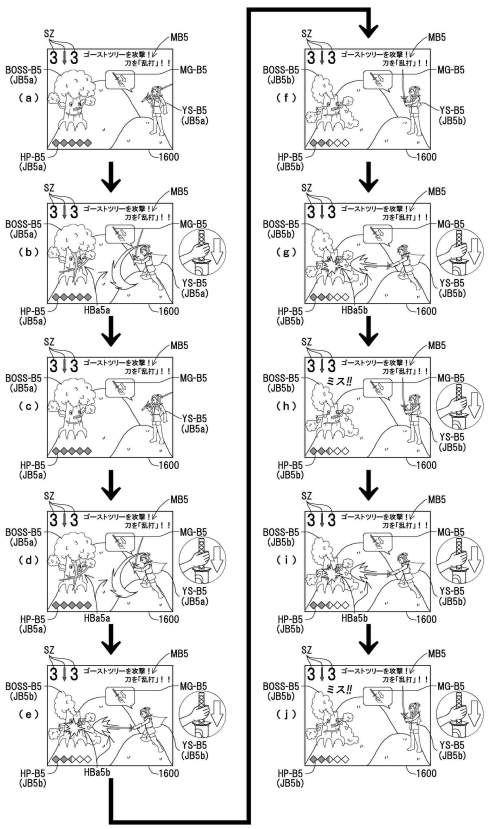
【図１７１】



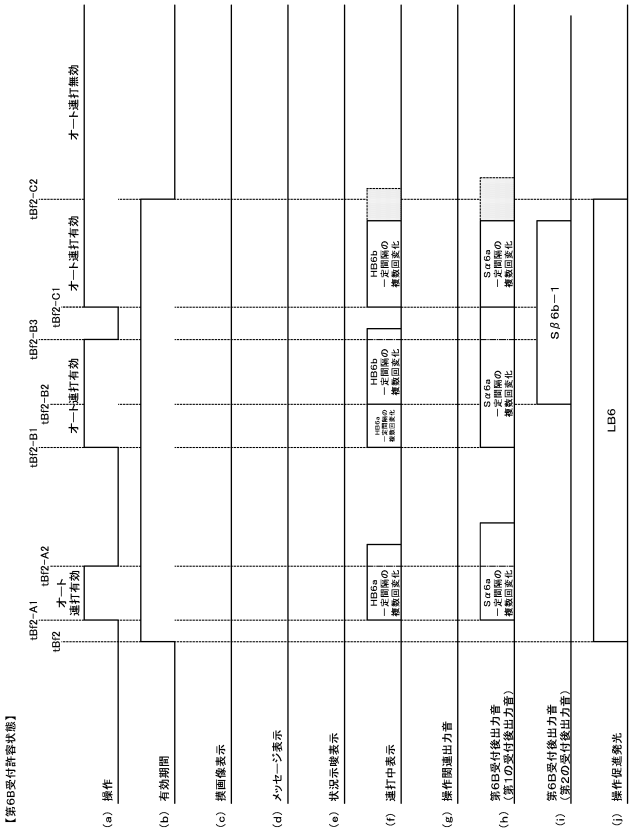
【図１７２】



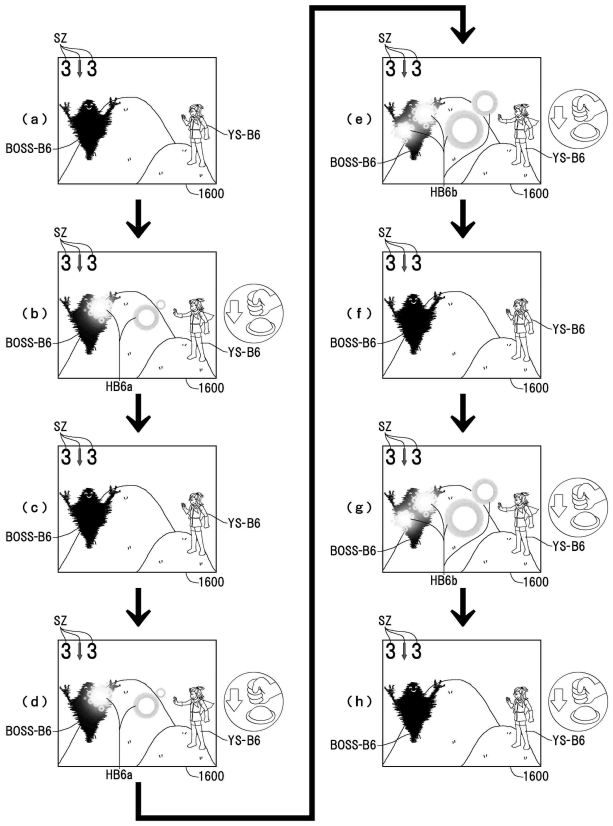
【図１７３】



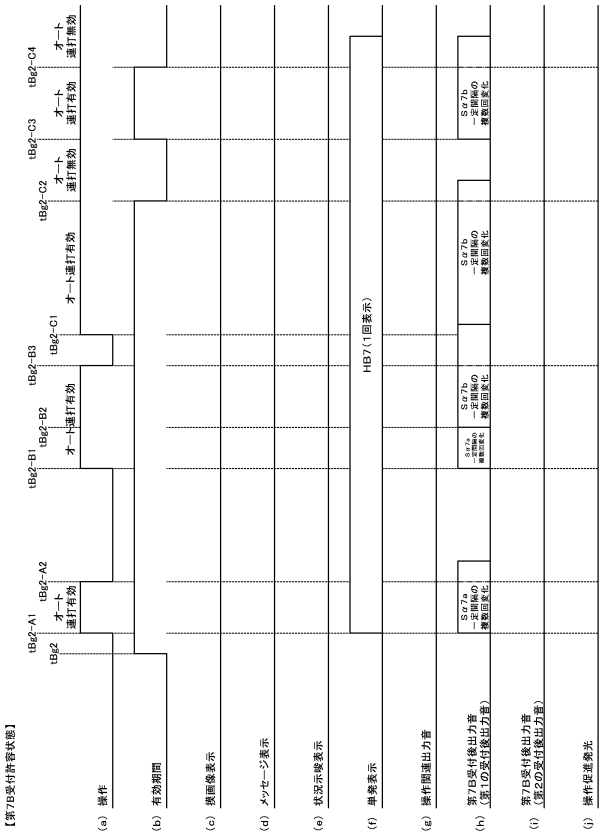
【図１７４】



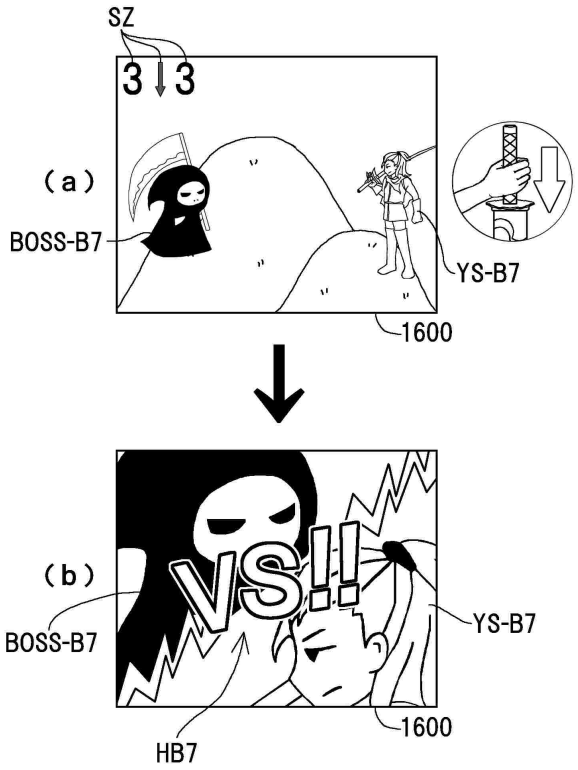
【図１７５】



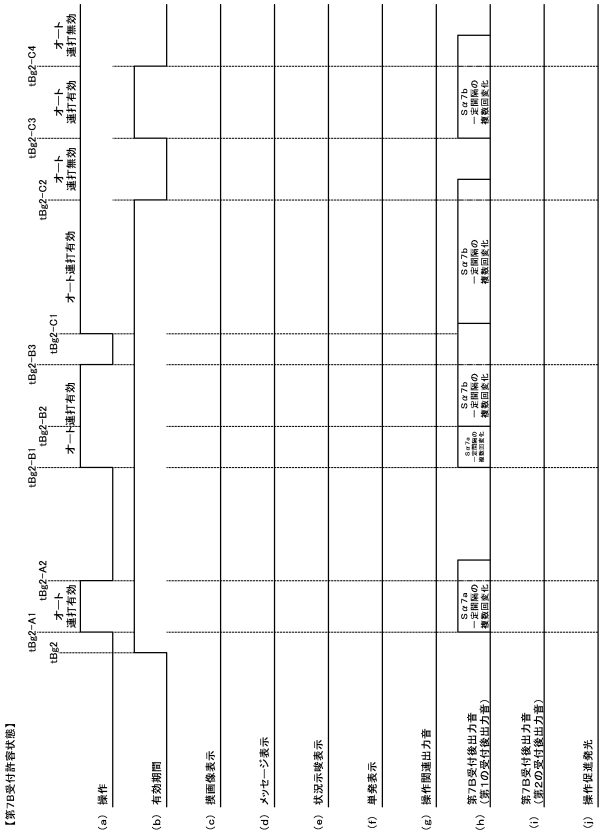
【図１７６】



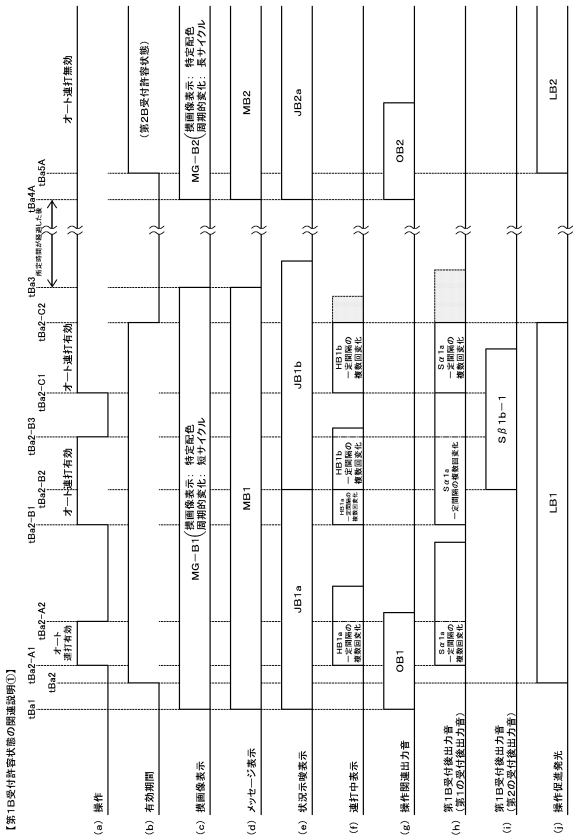
【図１７７】



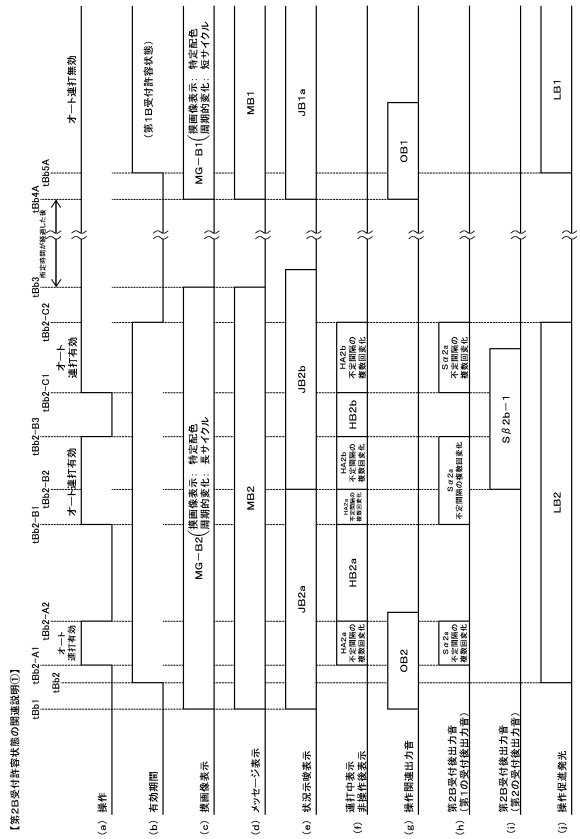
【図１７８】



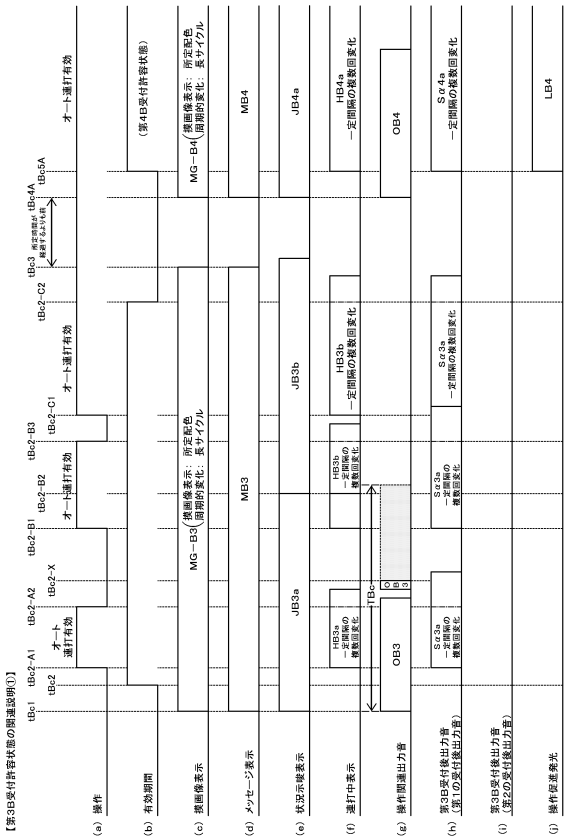
【図１７９】



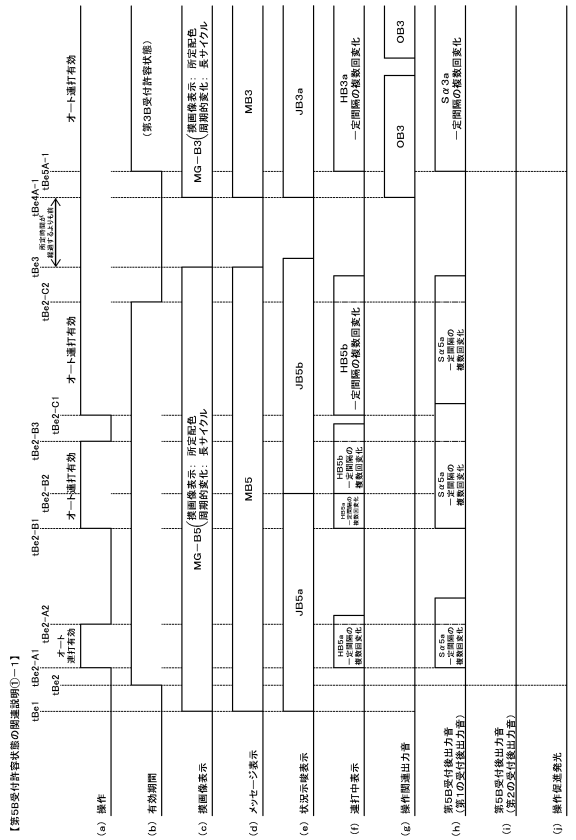
【図１８０】



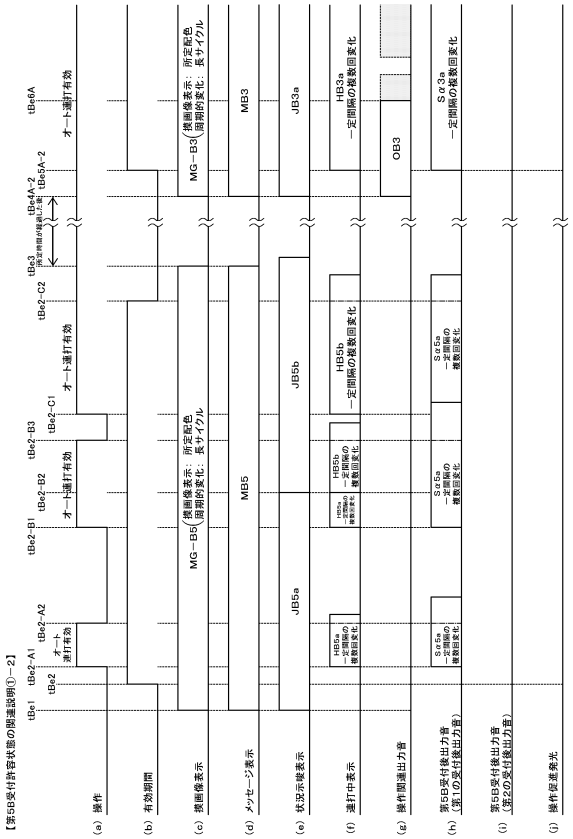
【図１８１】



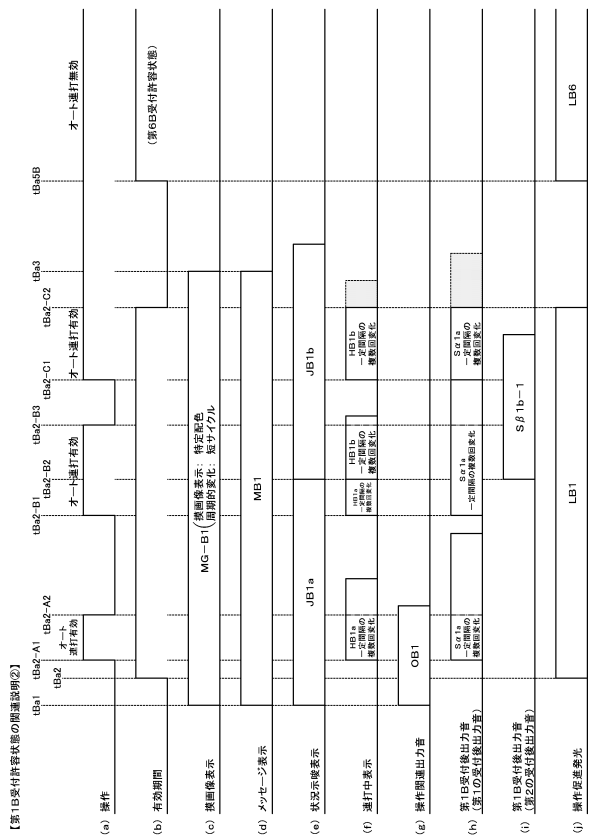
【図１８２】



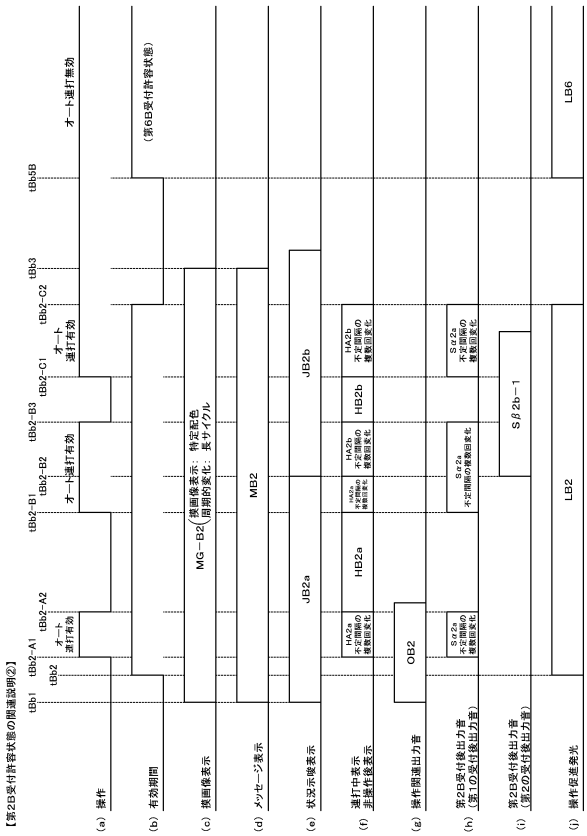
【図１８３】



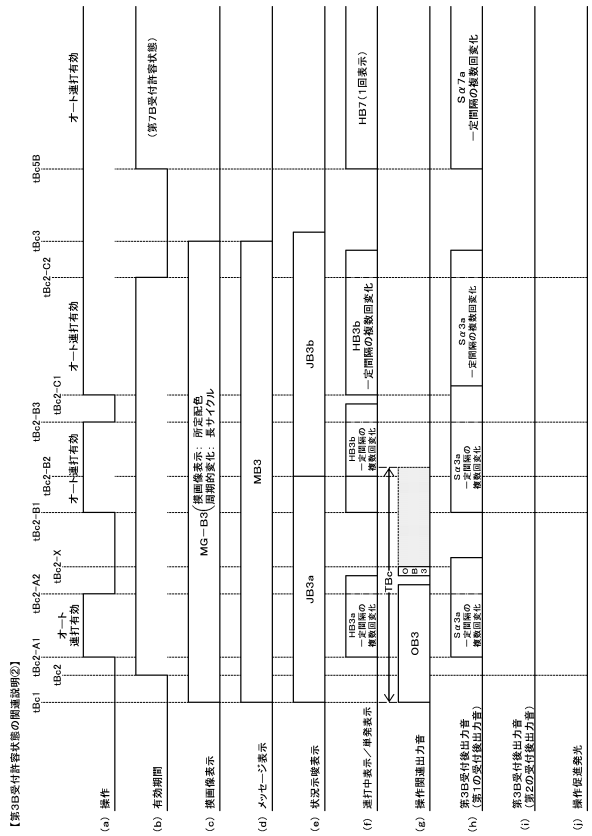
【図１８４】



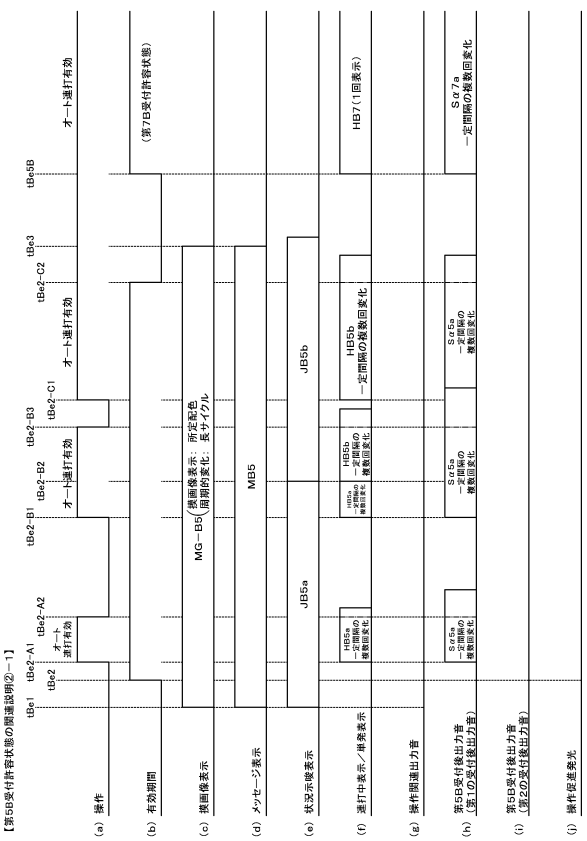
【図１８５】



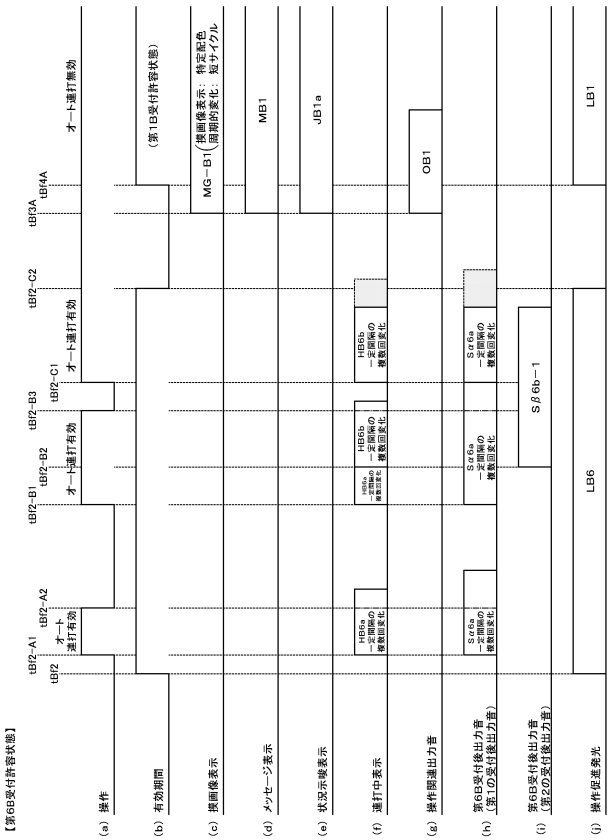
【図１８６】



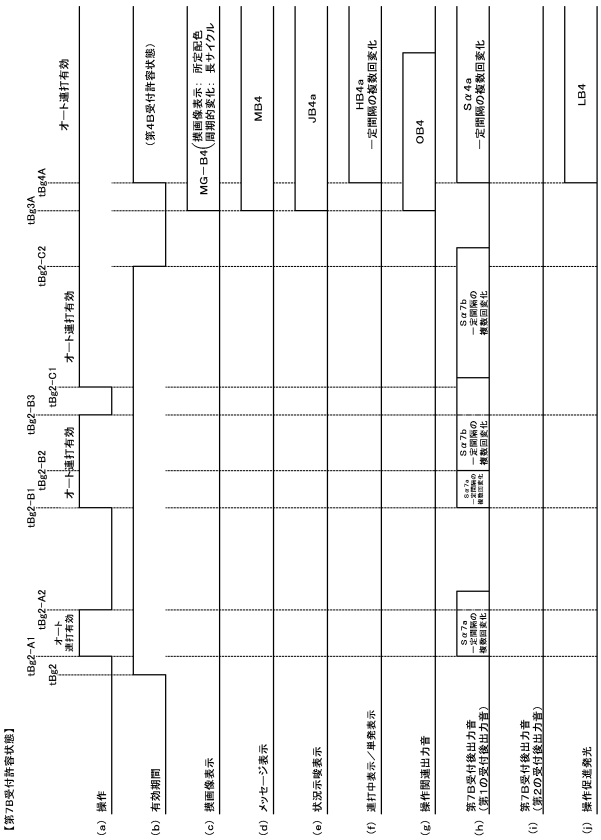
【図１８７】



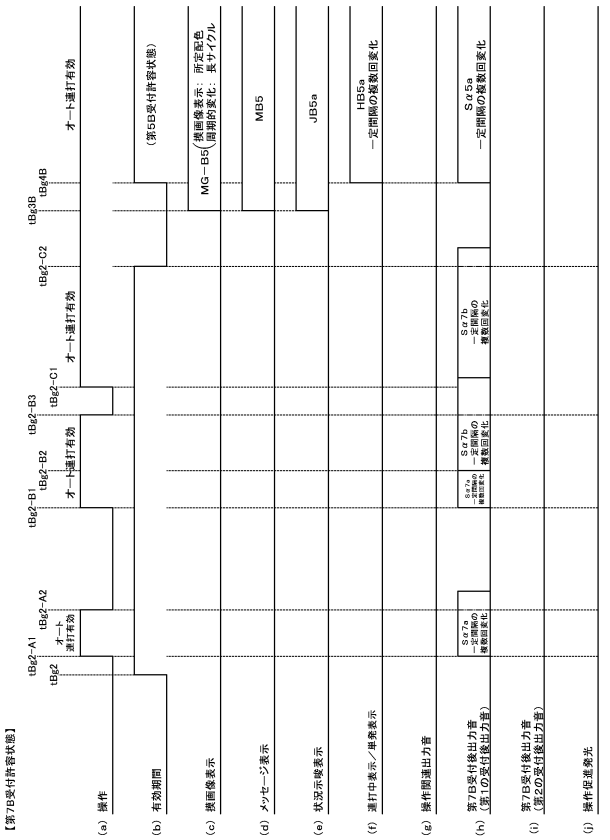
【図１８８】



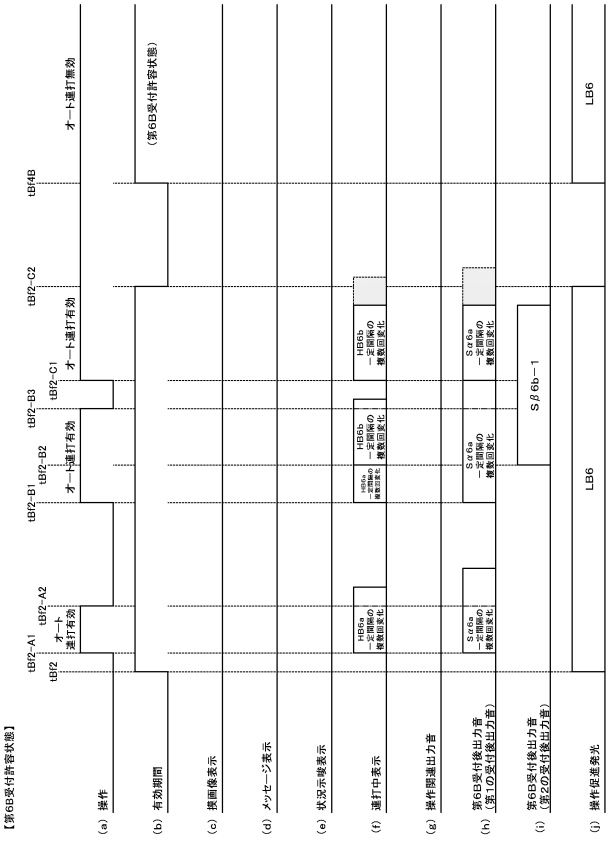
【図１８９】



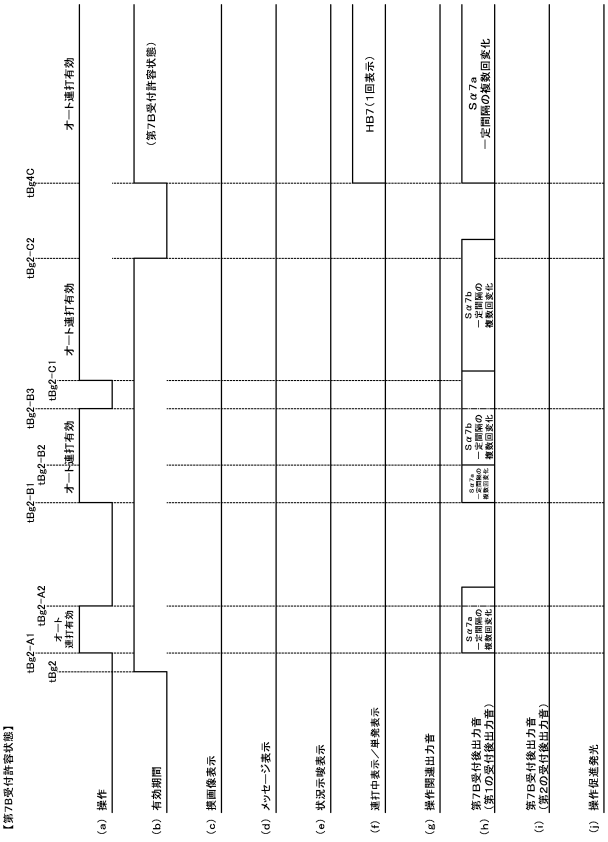
【図１９０】



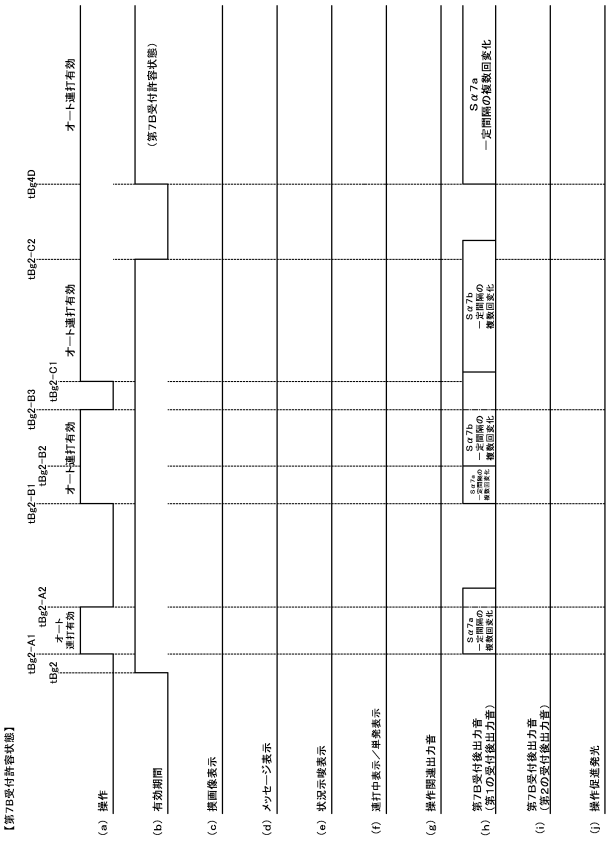
【図１９１】



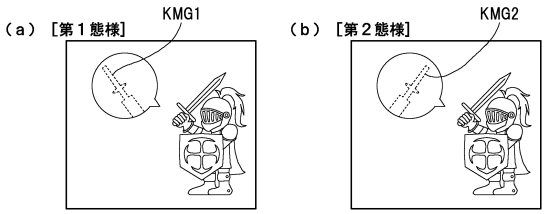
【図１９２】



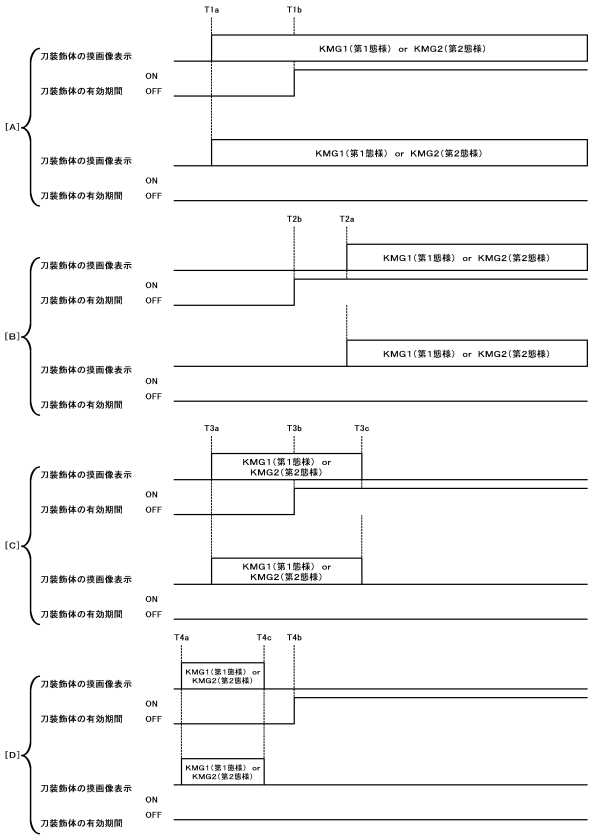
【図１９３】



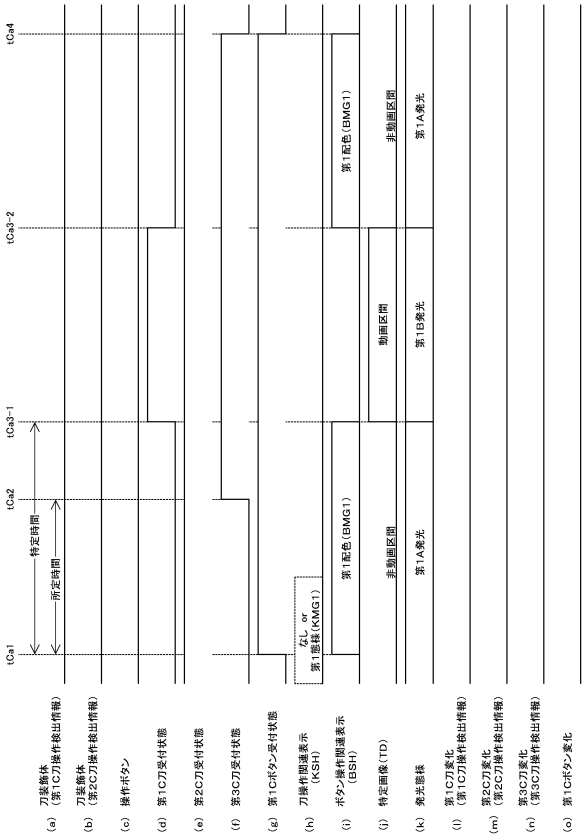
【図１９４】



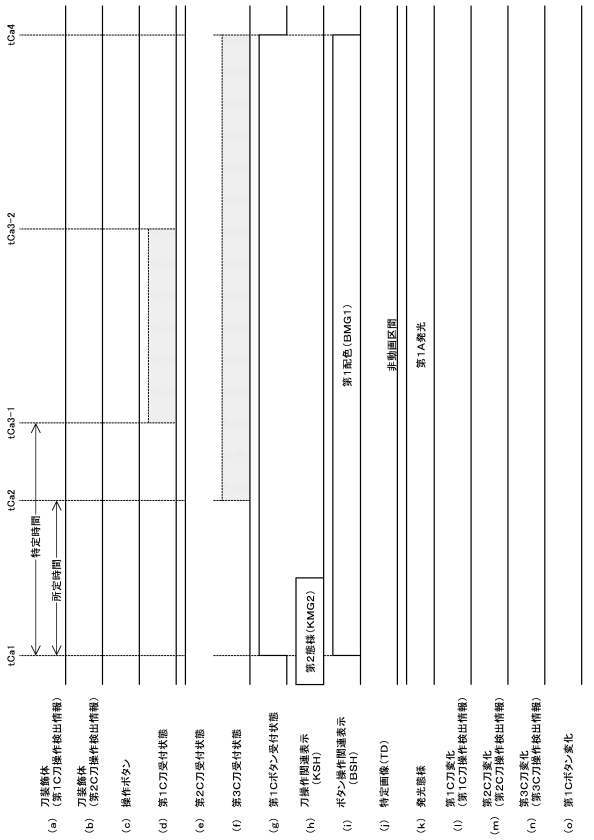
【図１９５】



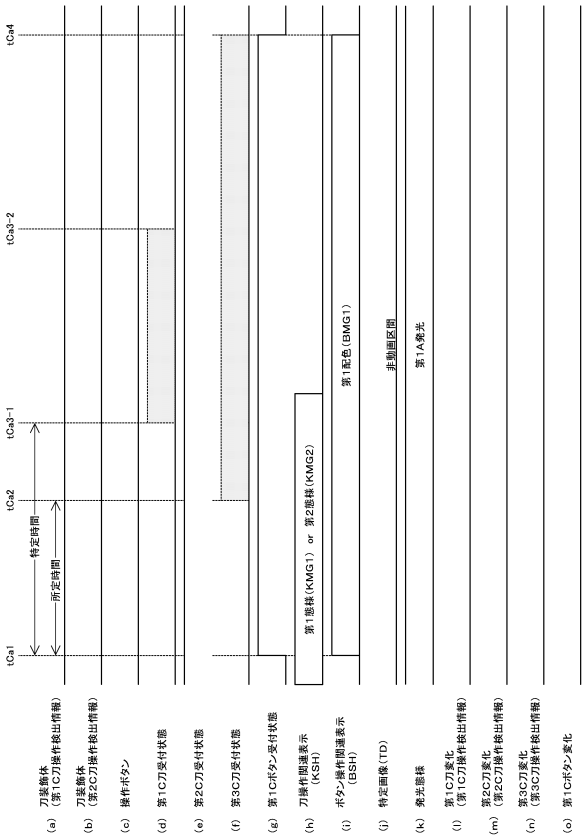
【図１９６】



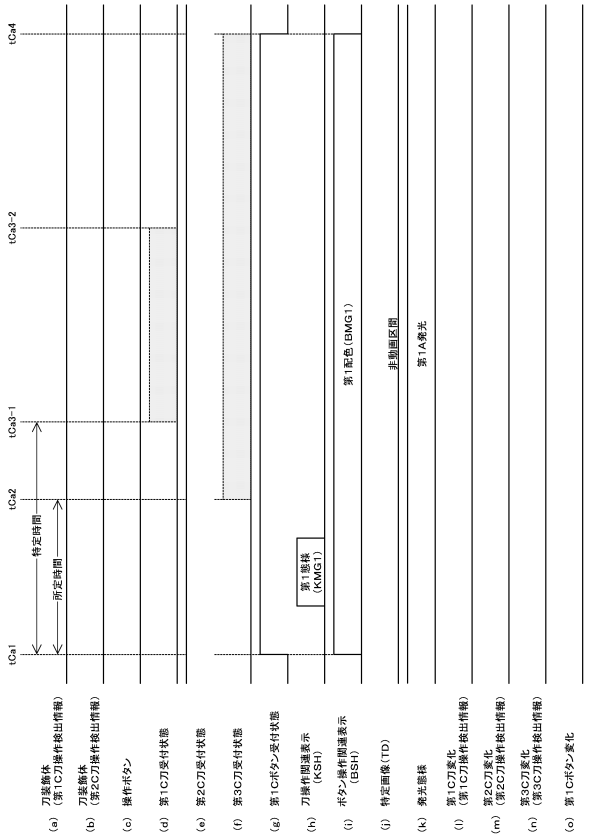
【図１９７】



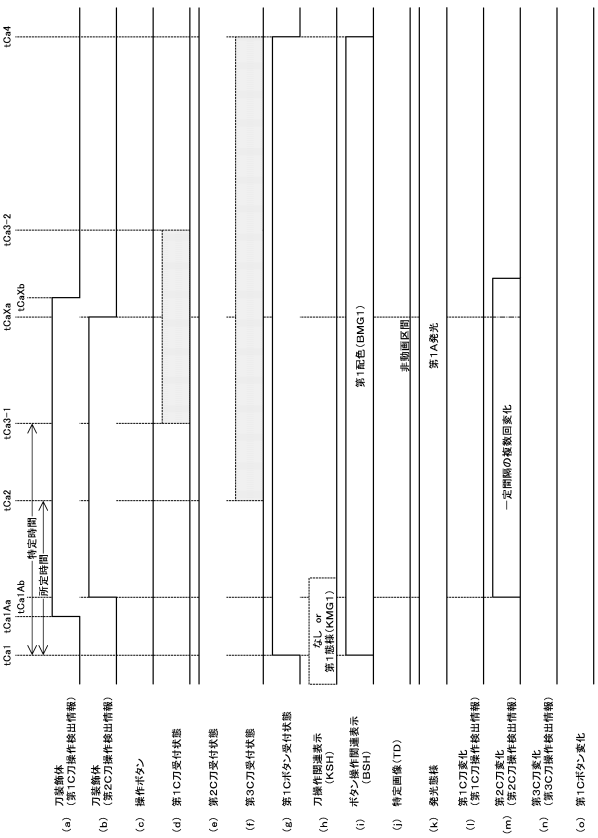
【図１９８】



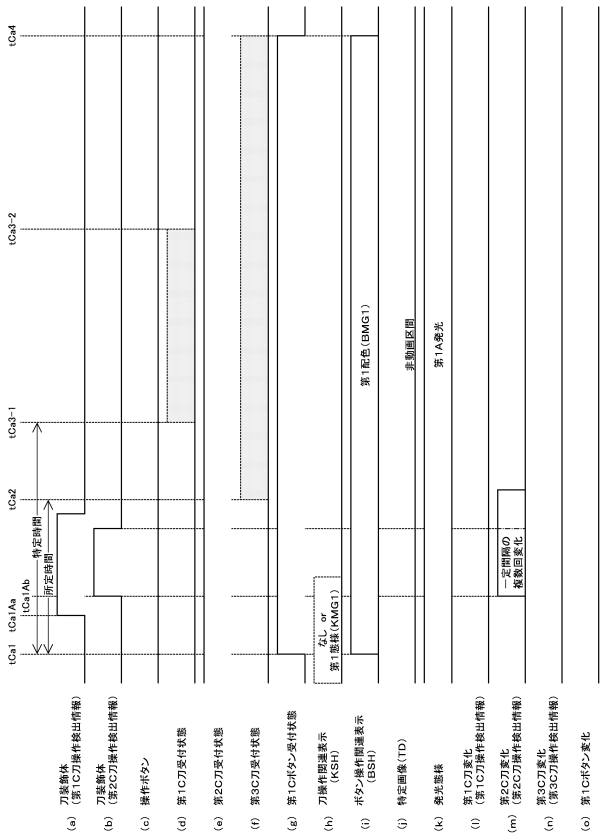
【図１９９】



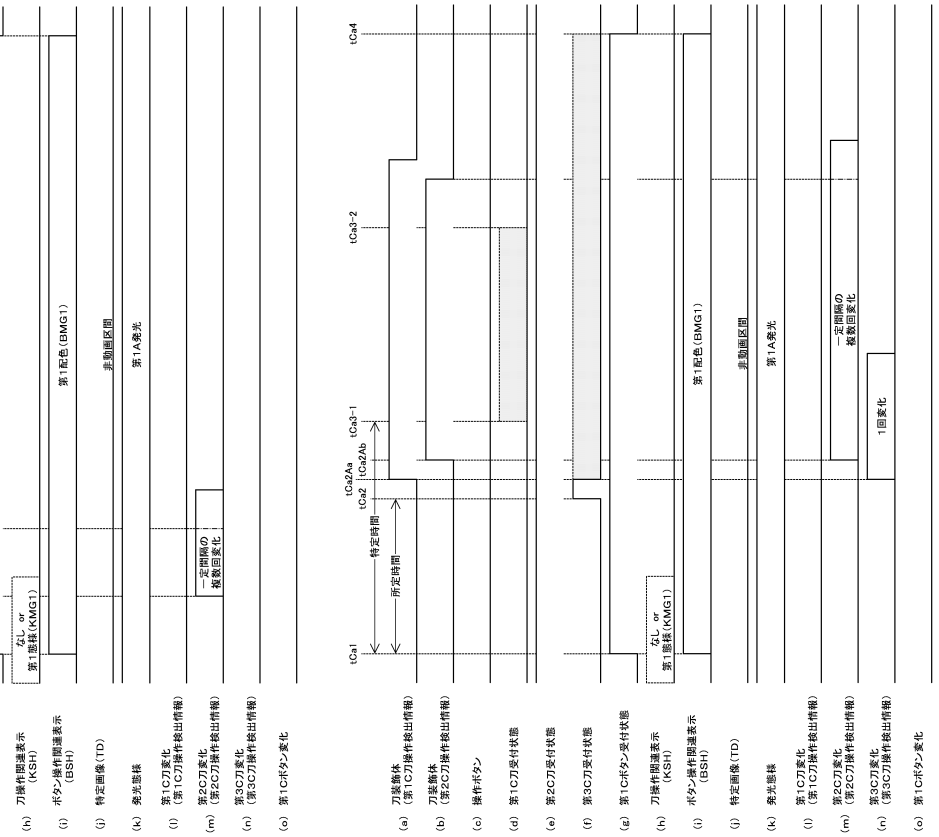
【図２００】



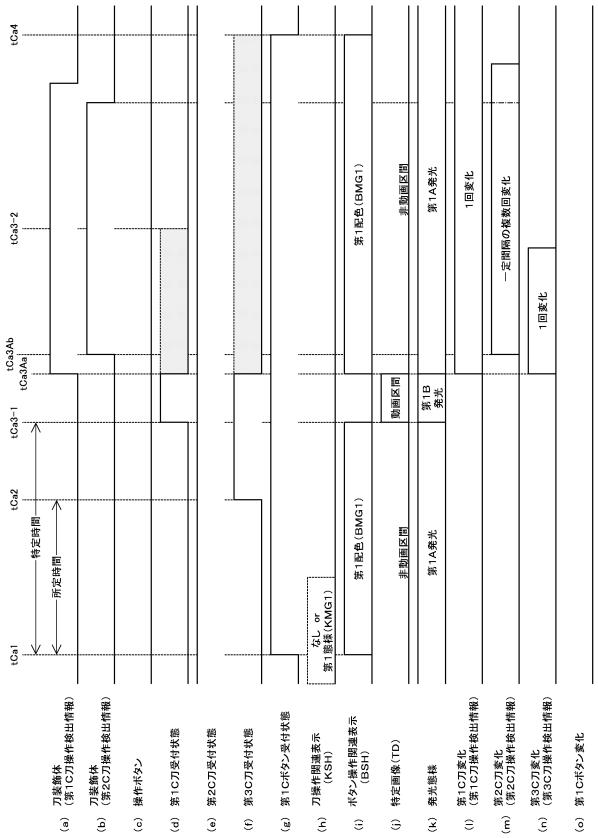
【図２０１】



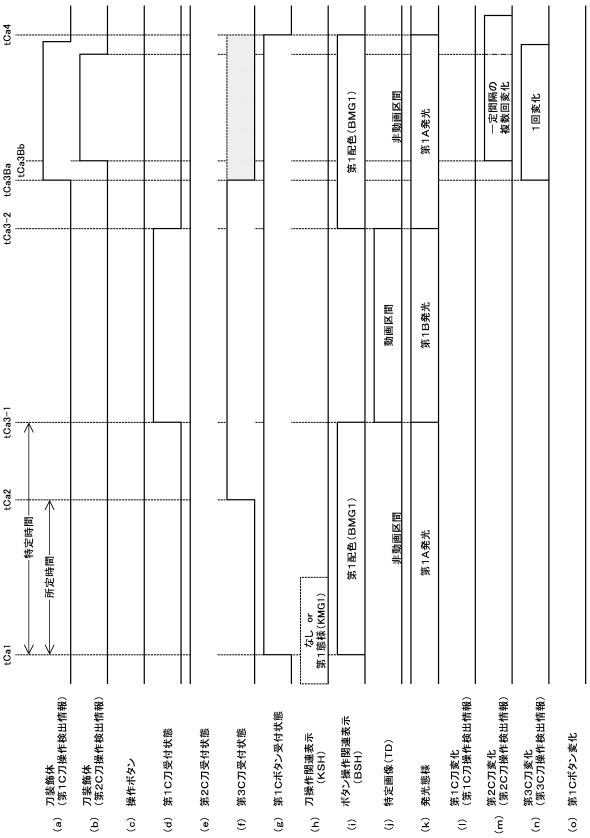
【図２０２】



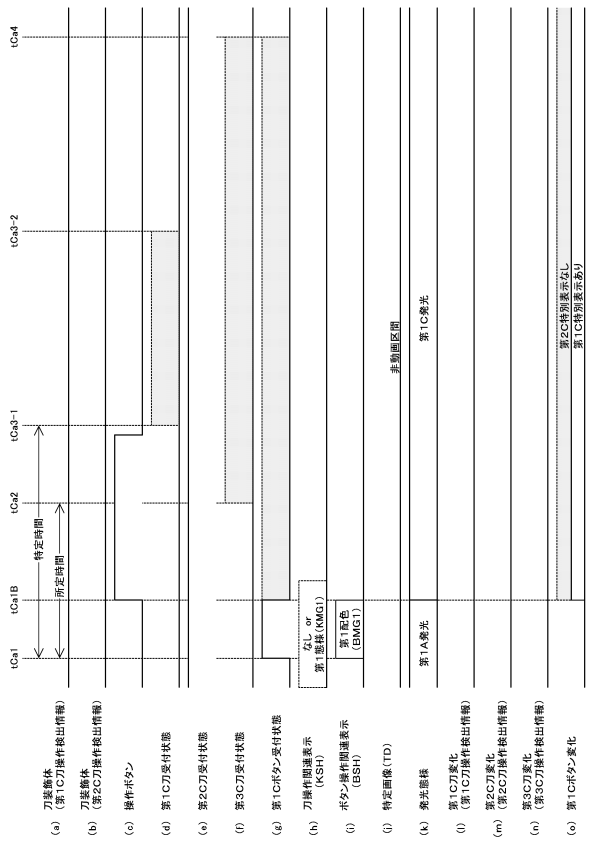
【図２０３】



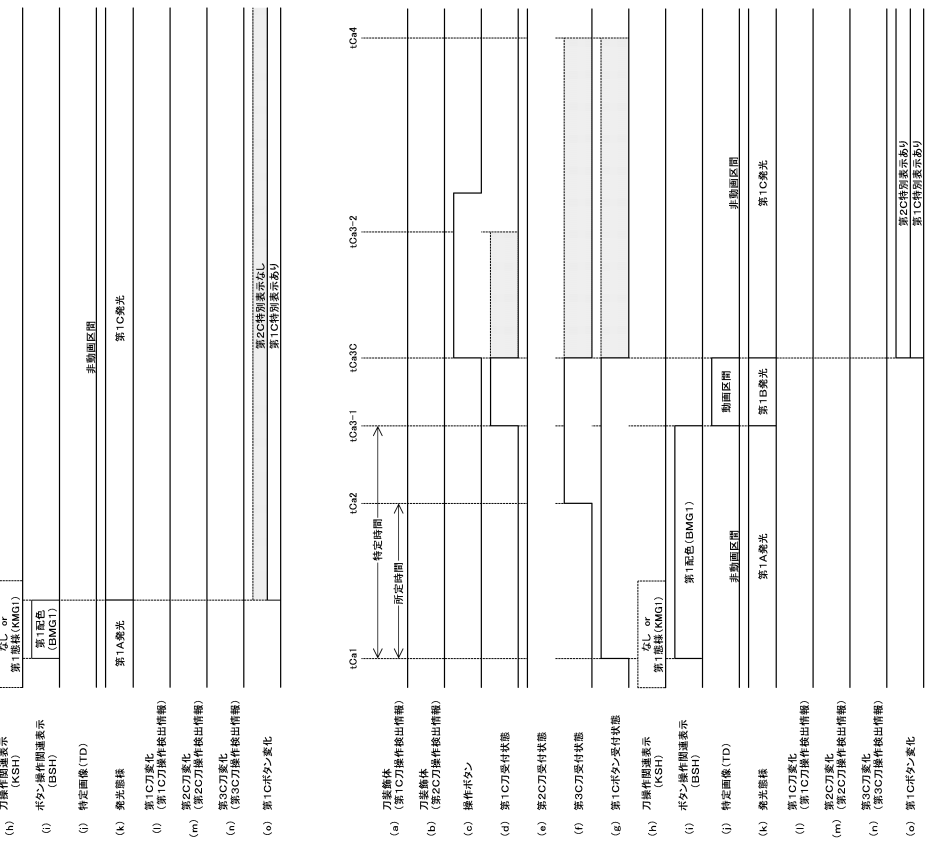
【図２０４】



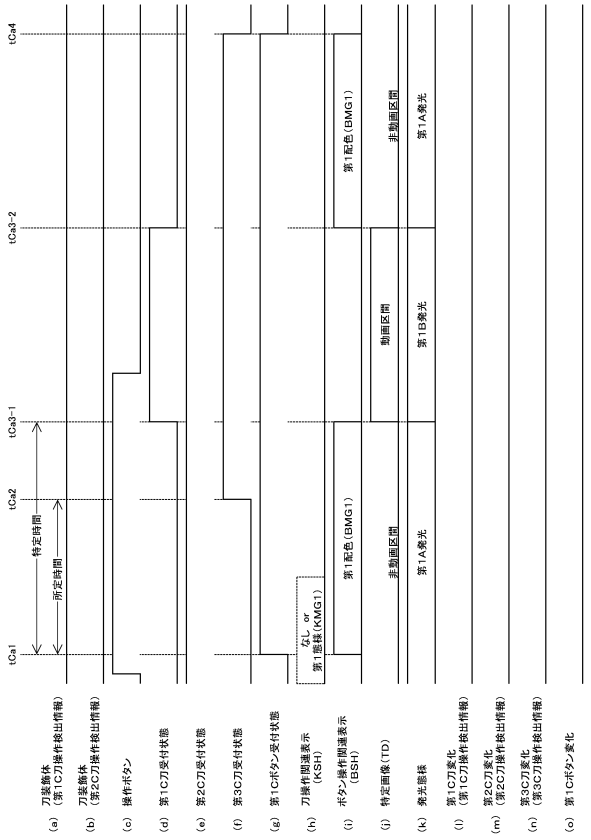
【図２０５】



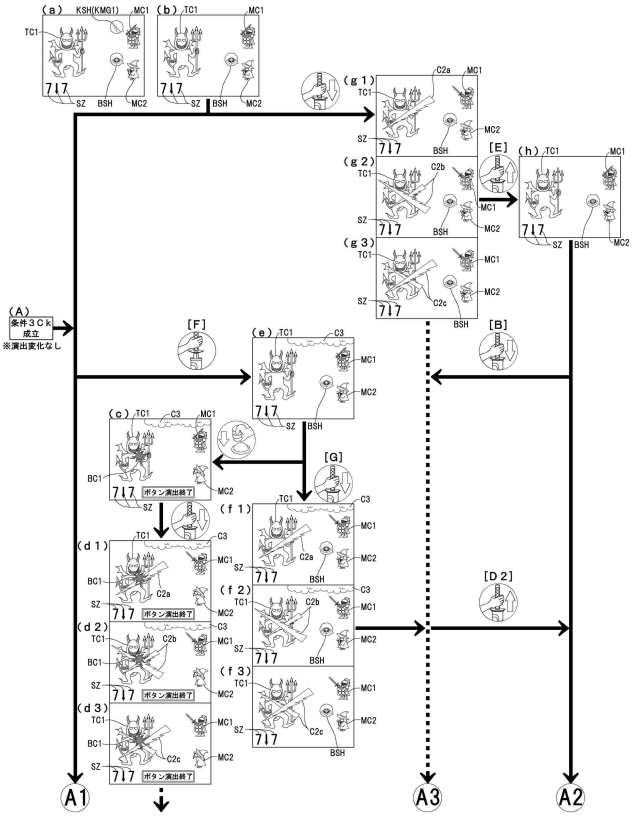
【図２０６】



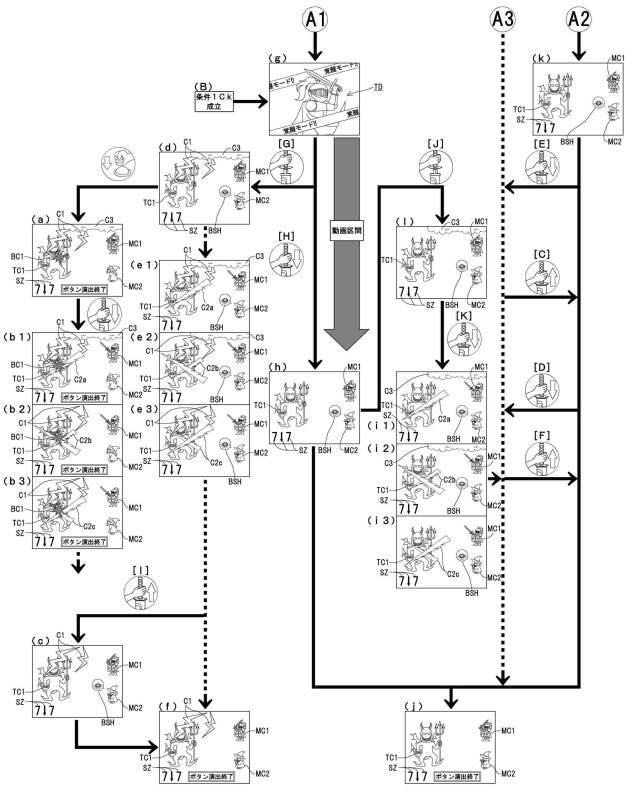
【図２０７】



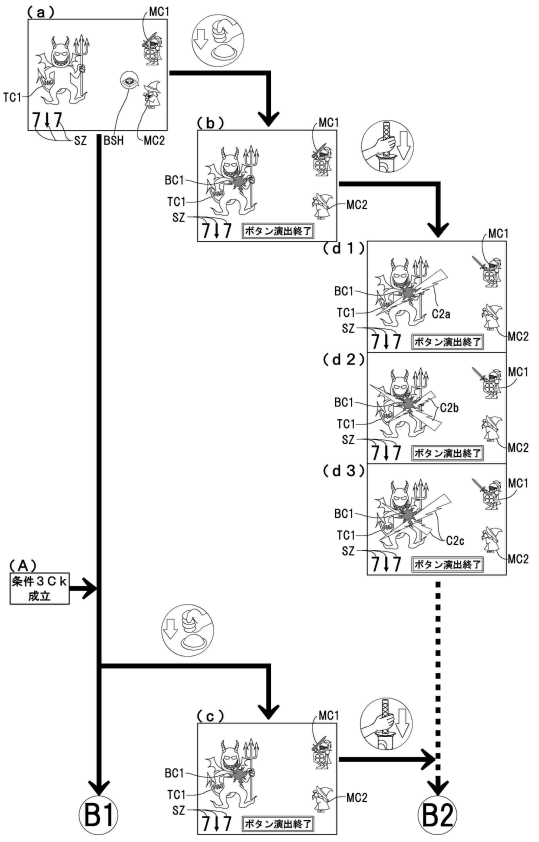
【図２０８】



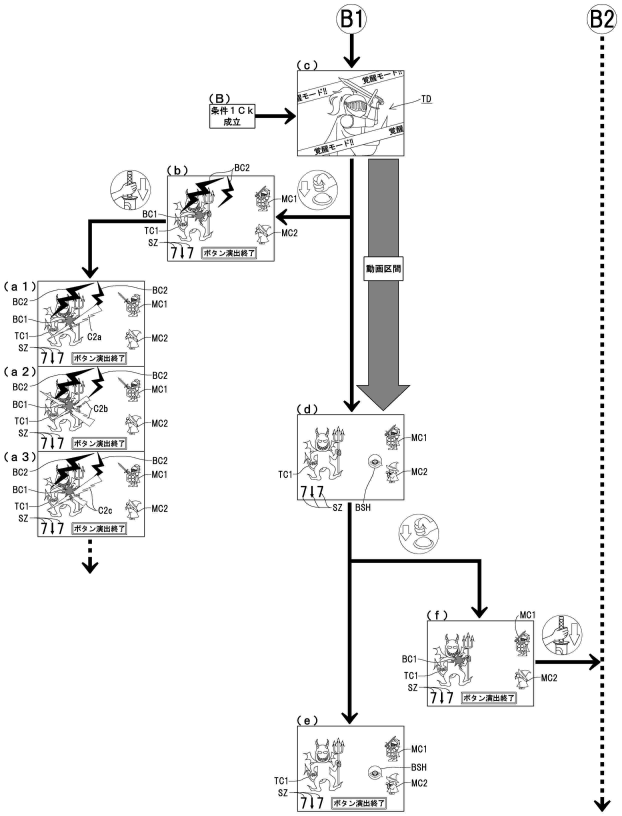
【図２０９】



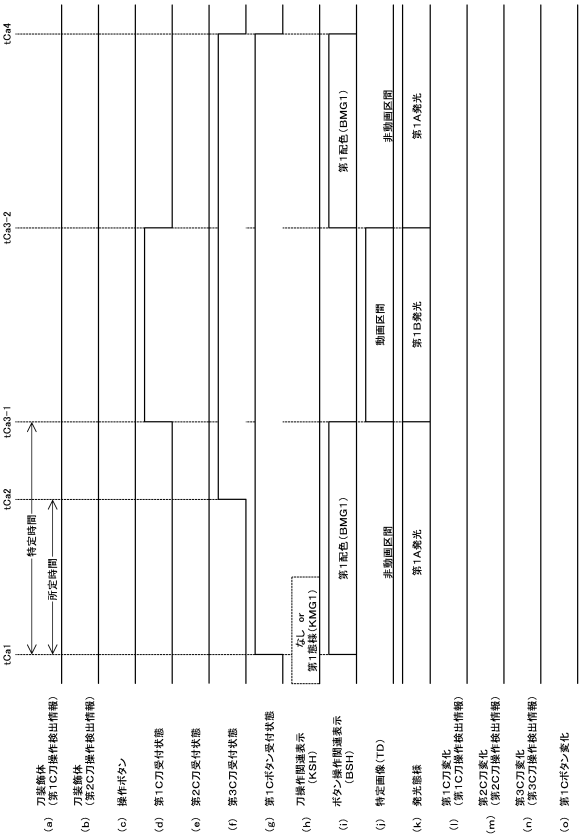
【図２１０】



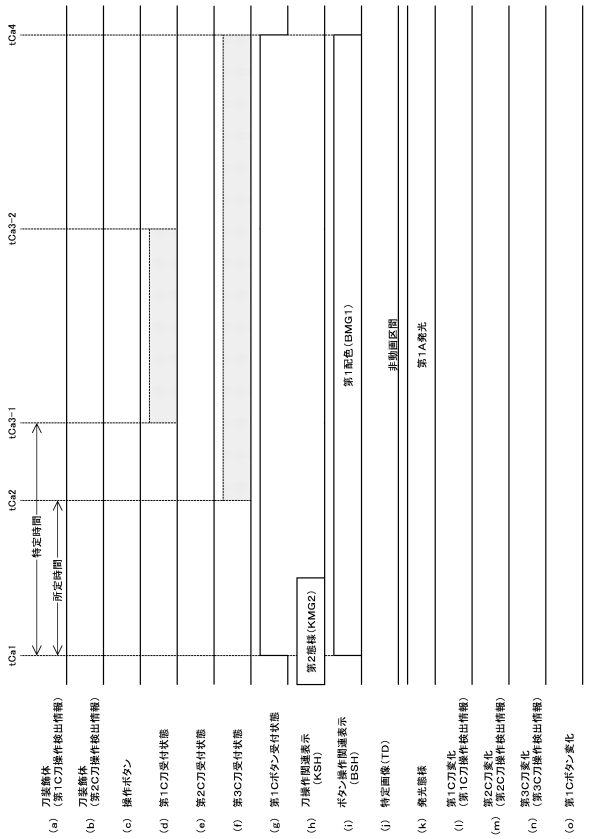
【図２１１】



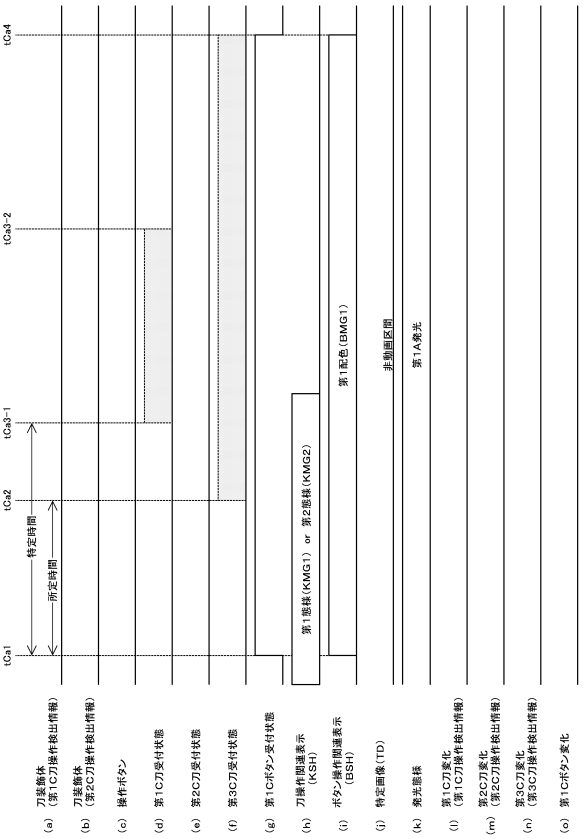
【図２１２】



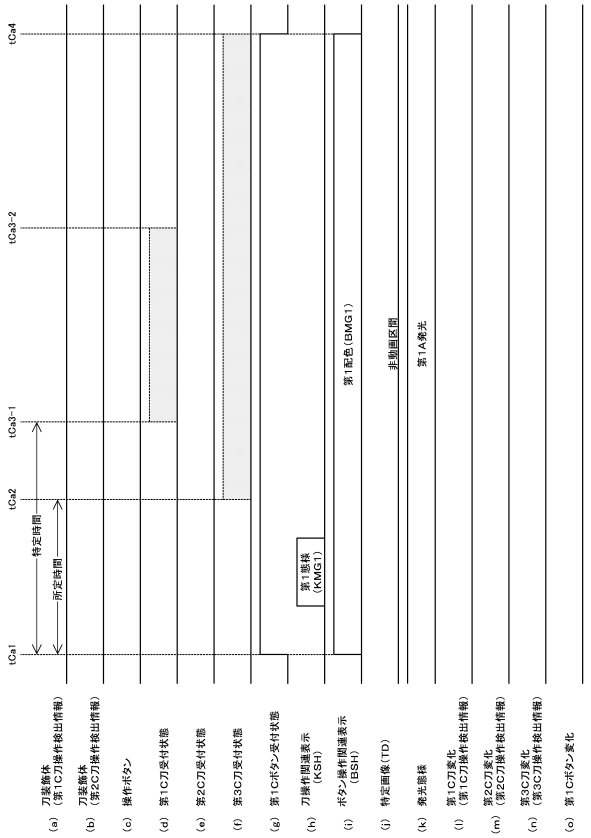
【図２１３】



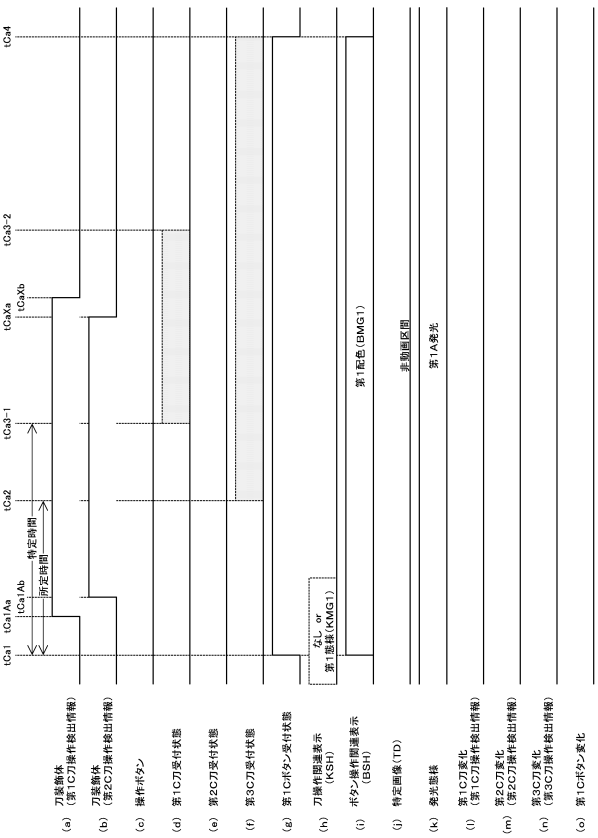
【図２１４】



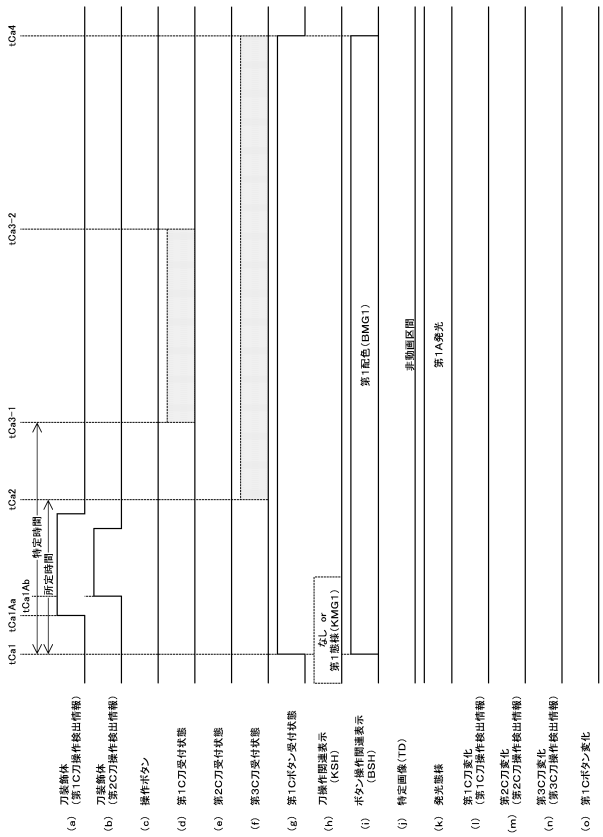
【図２１５】



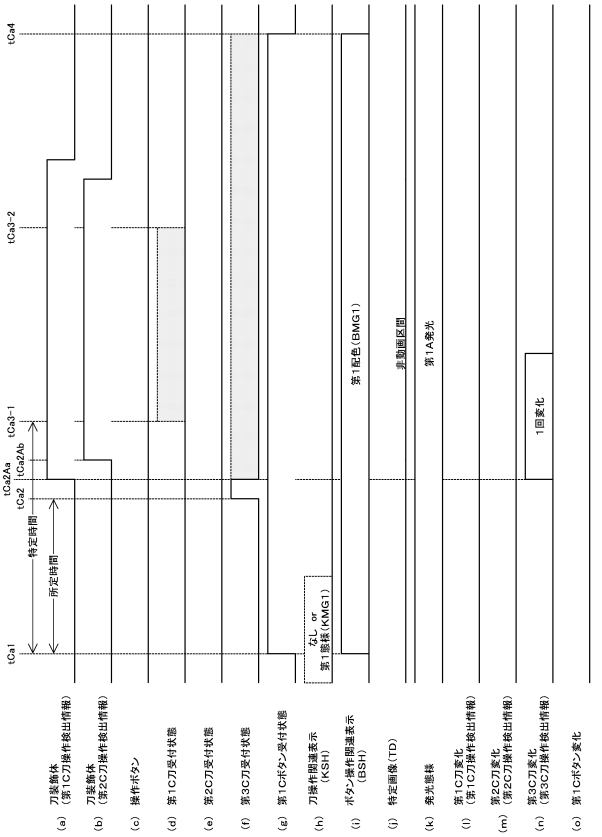
【図２１６】



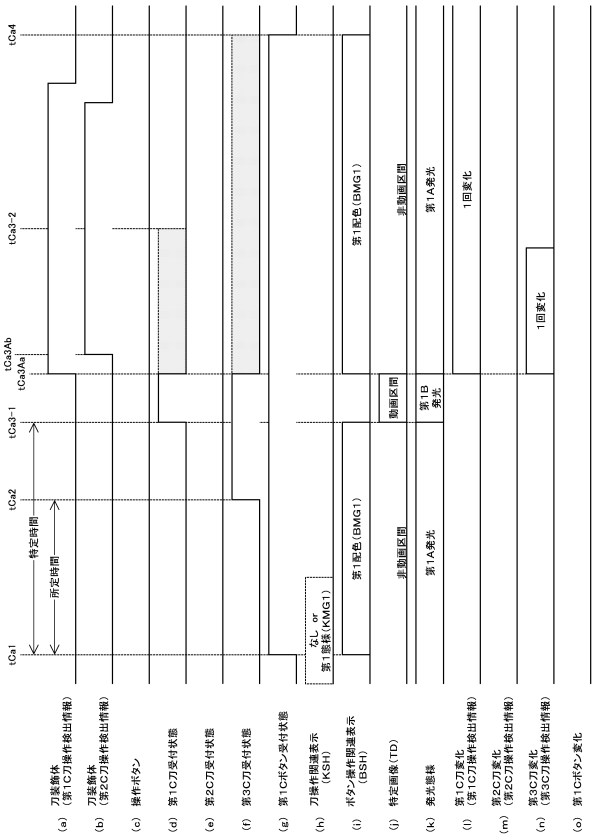
【図２１７】



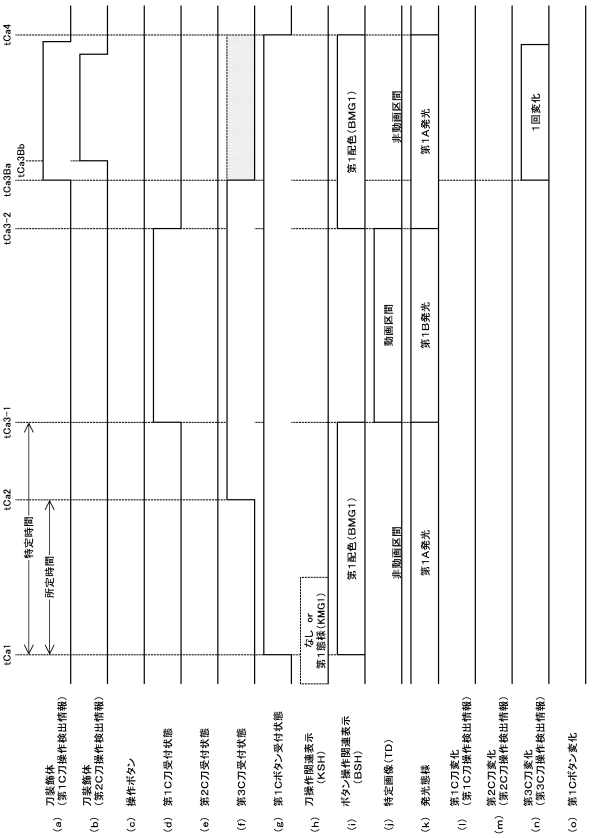
【図２１８】



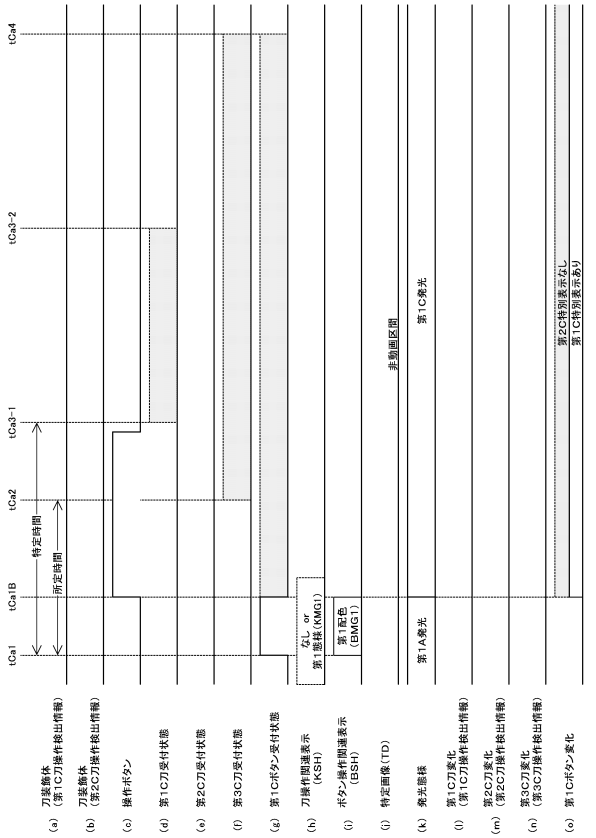
【図２１９】



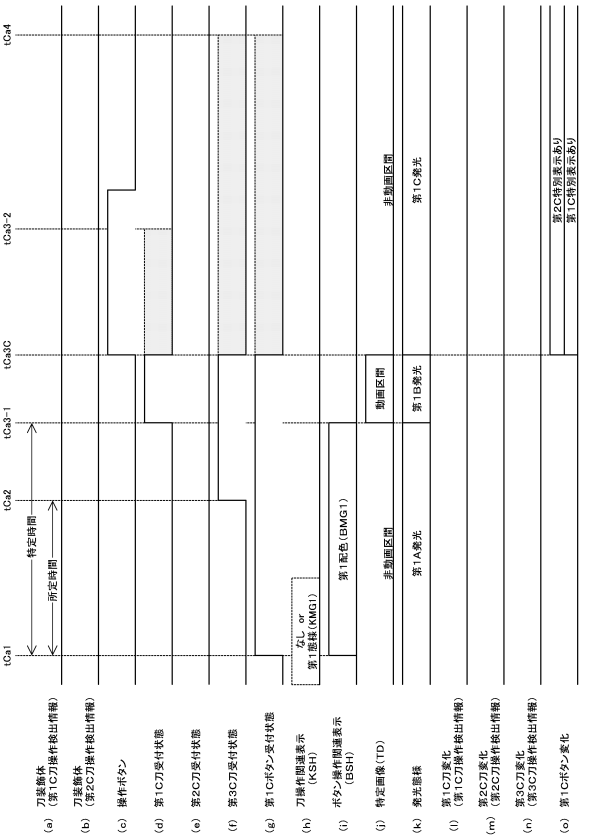
【図２２０】



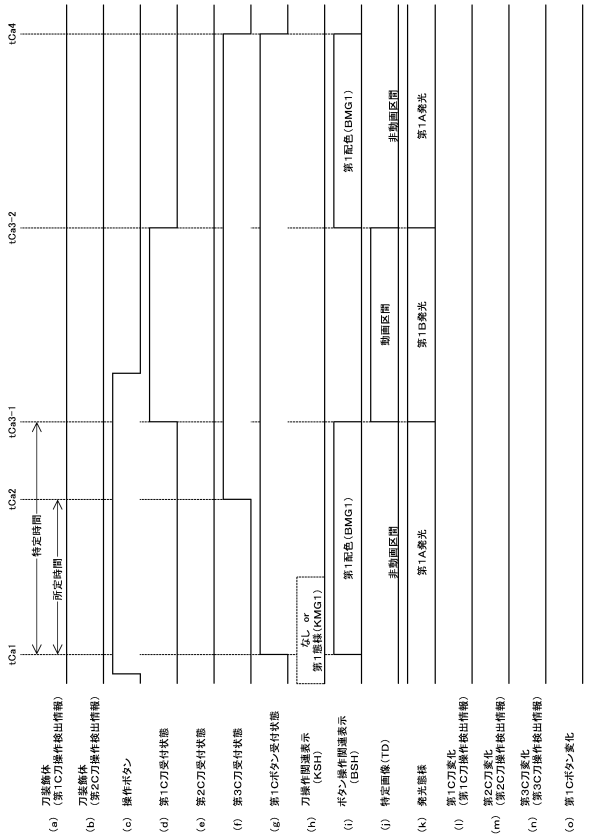
【図２２１】



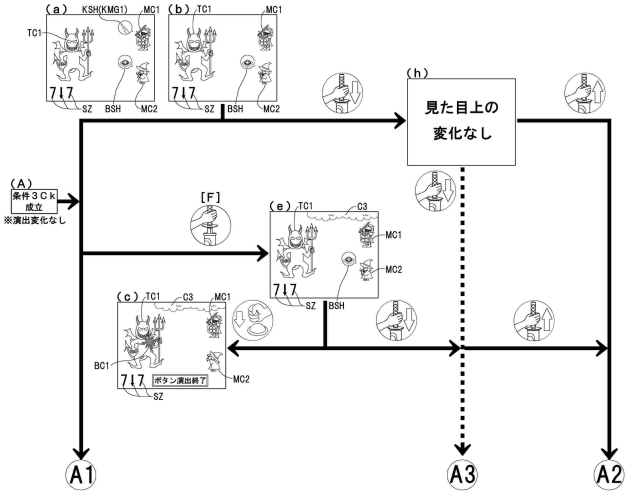
【図２２２】



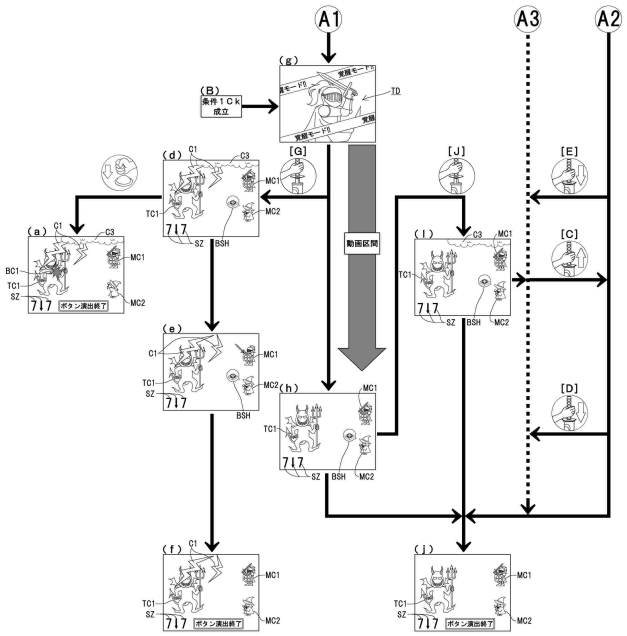
【図２２３】



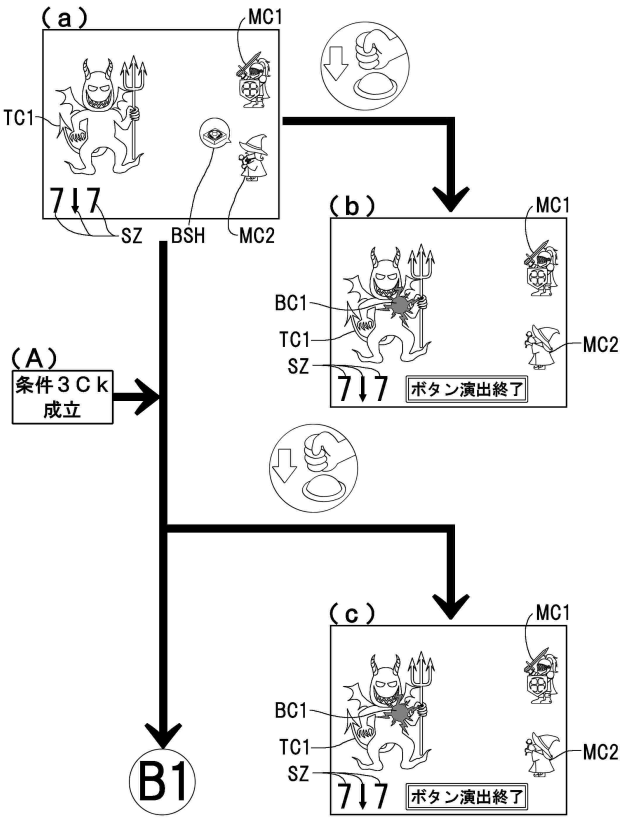
【図２２４】



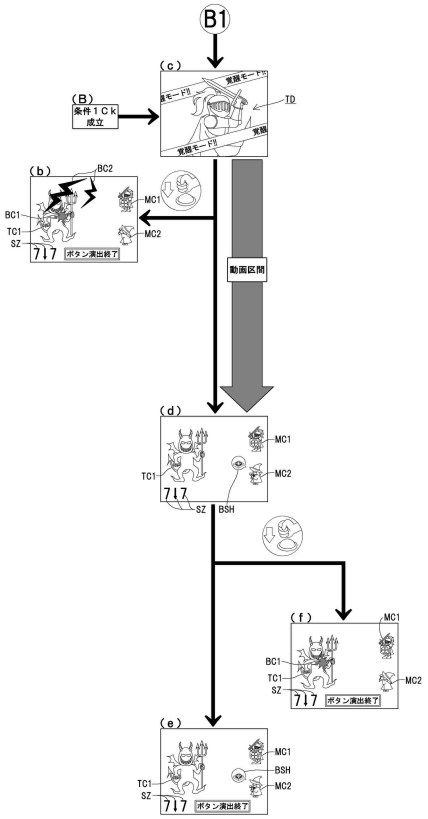
【図２２５】



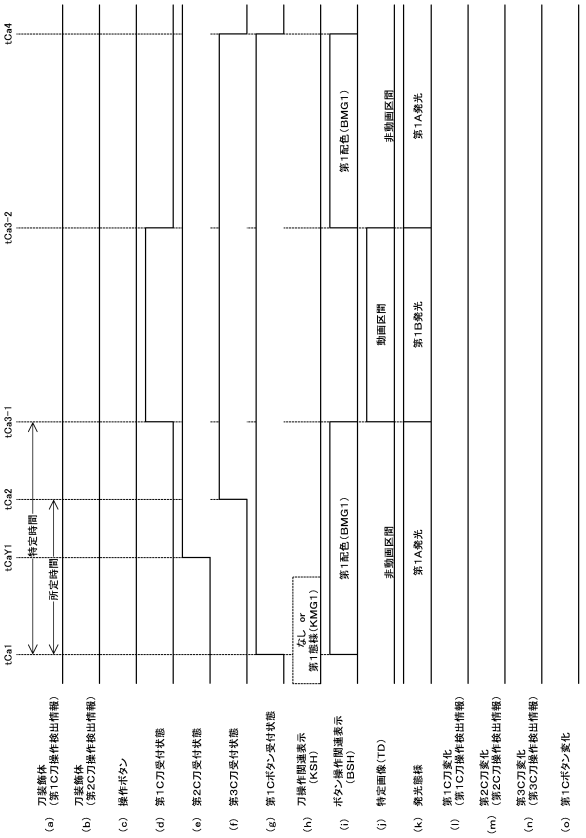
【図２２６】



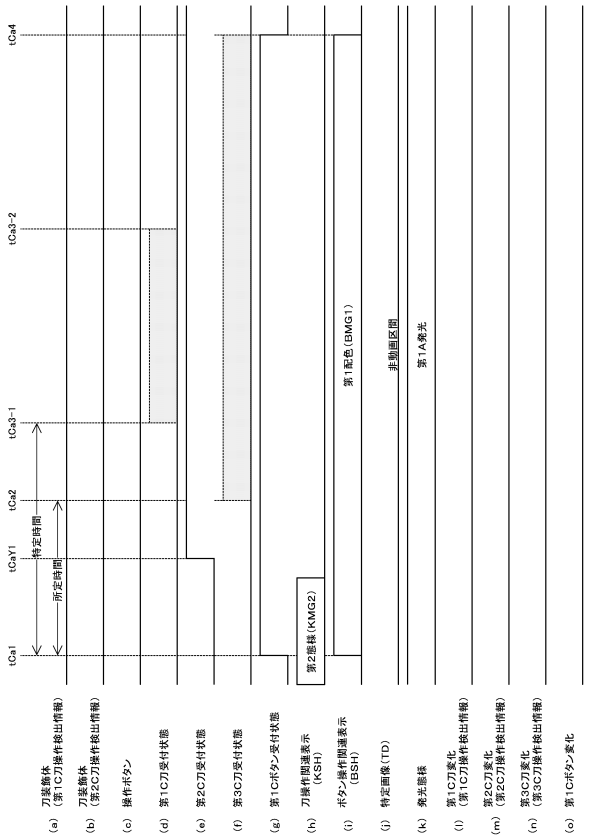
【図２２７】



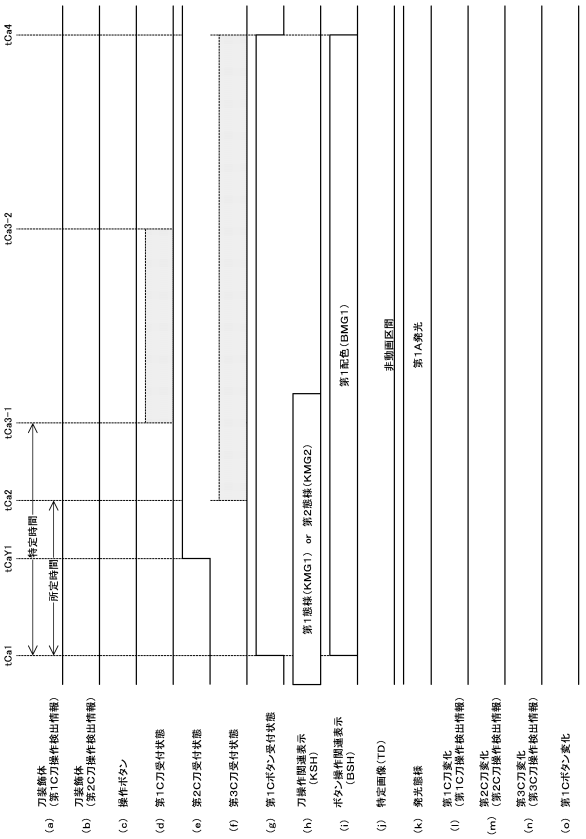
【図２２８】



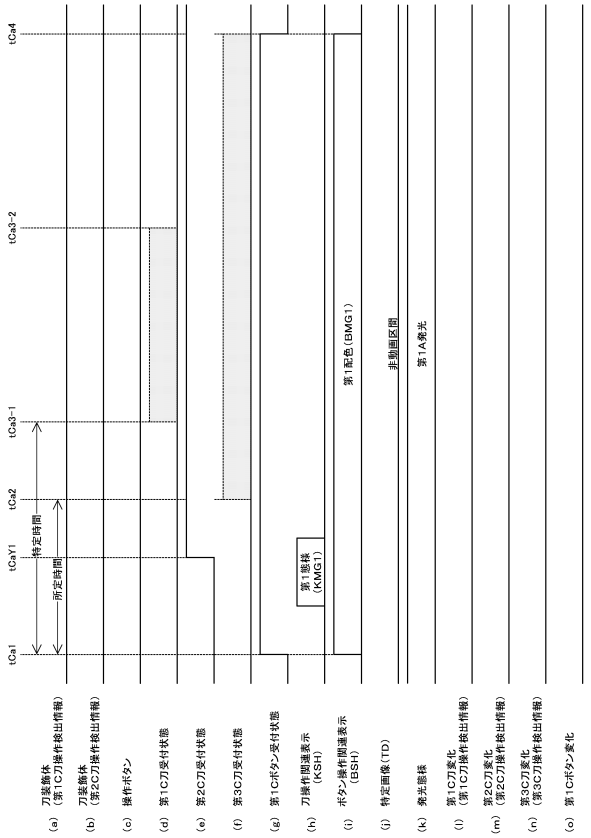
【図２２９】



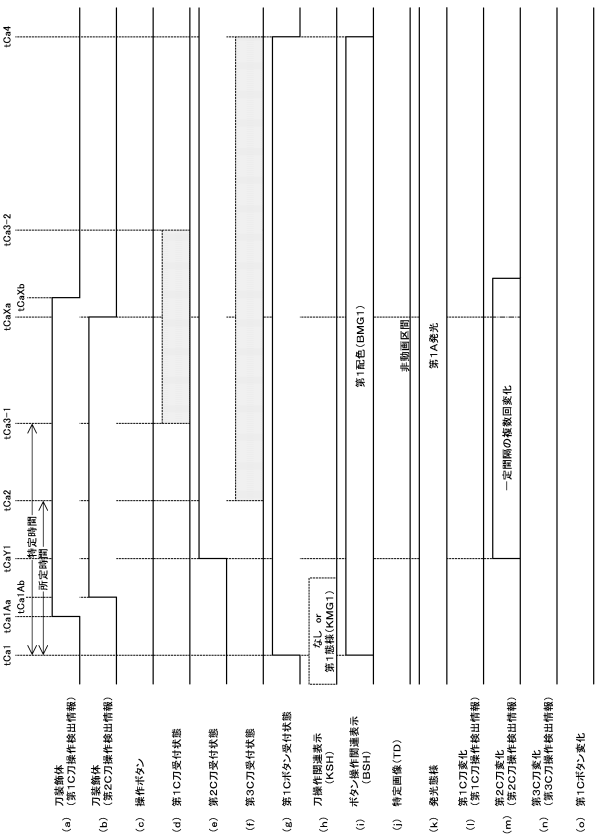
【図２３０】



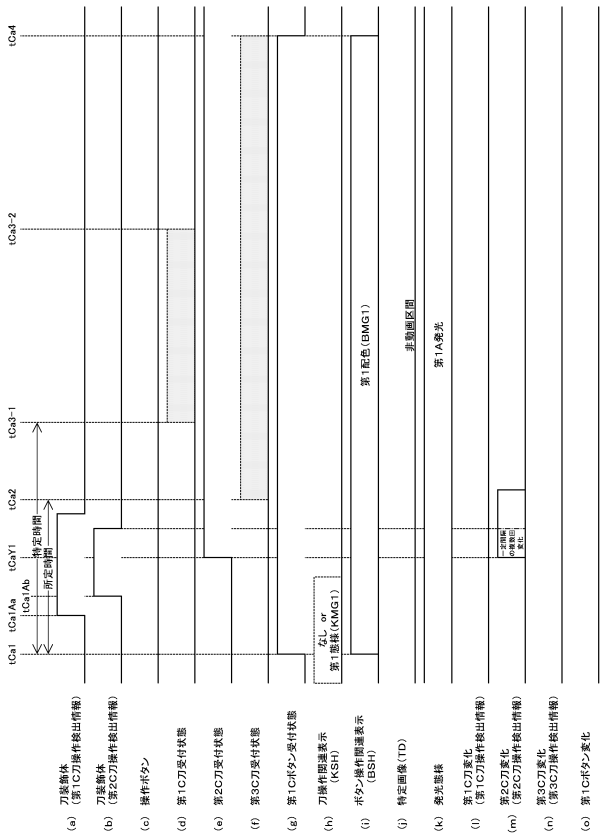
【図２３１】



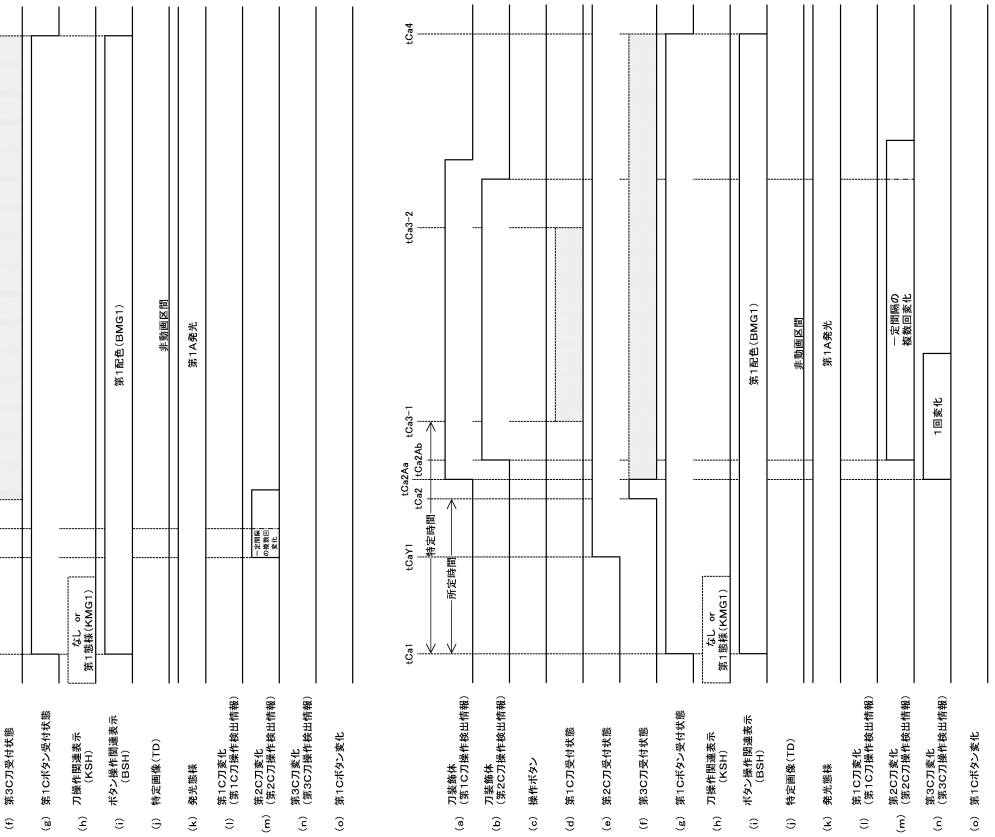
【図２３２】



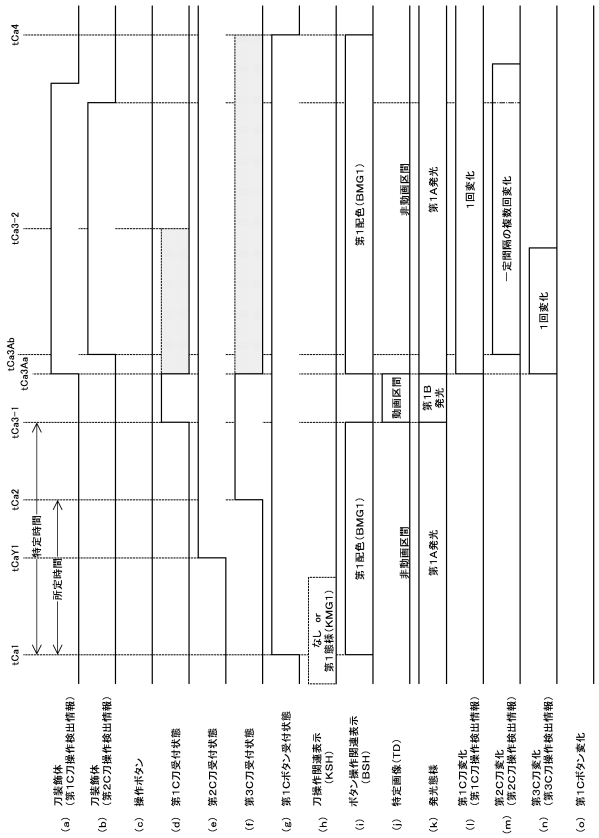
【図２３３】



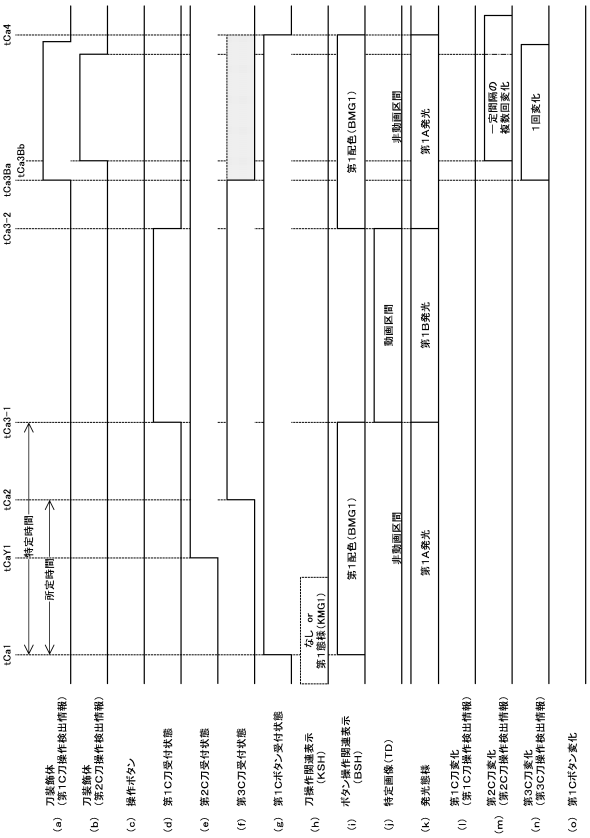
【図２３４】



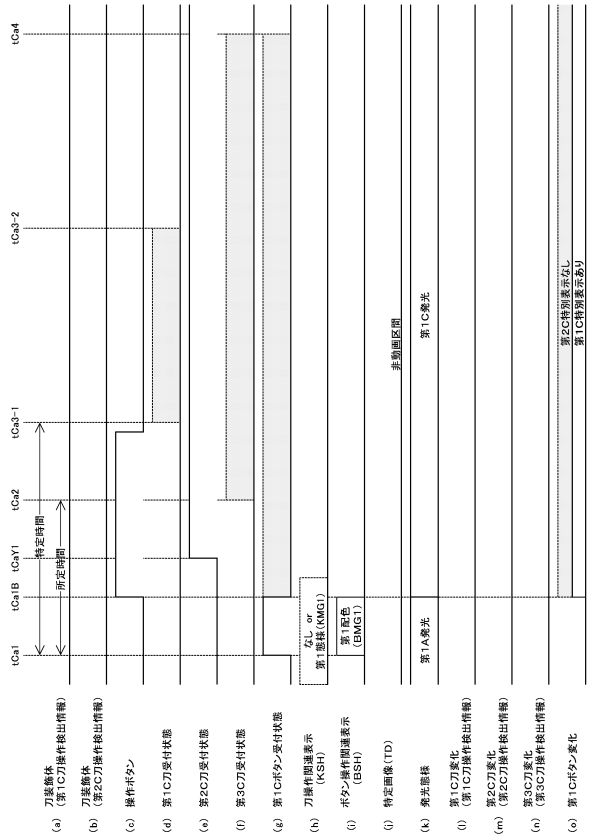
【図２３５】



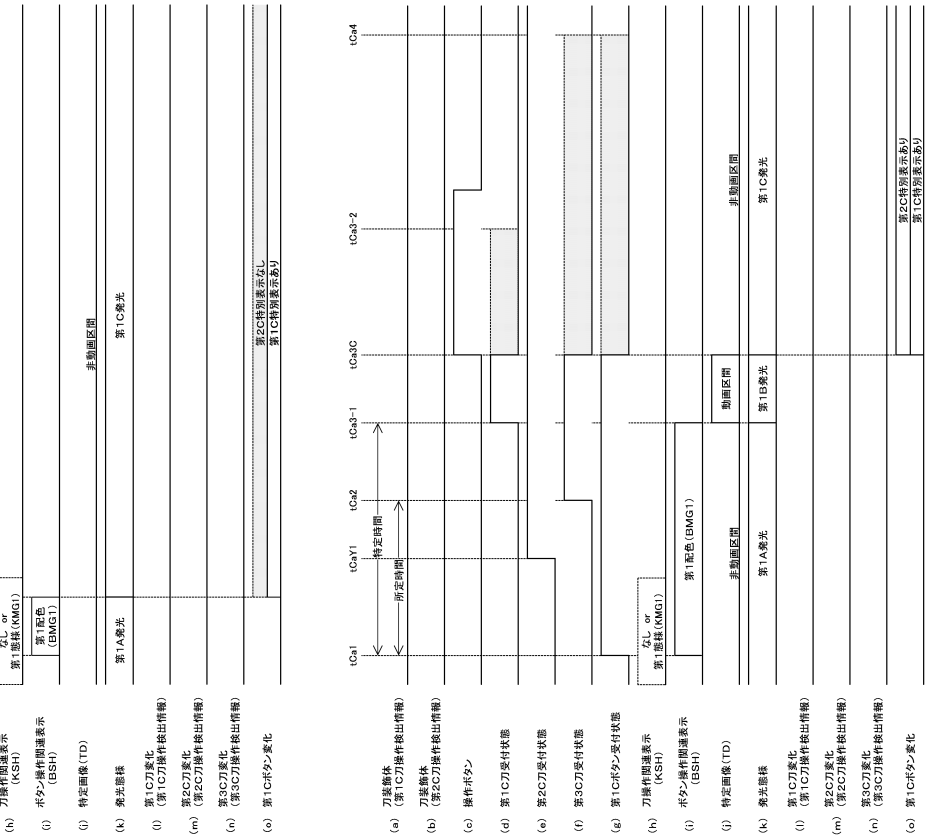
【図２３６】



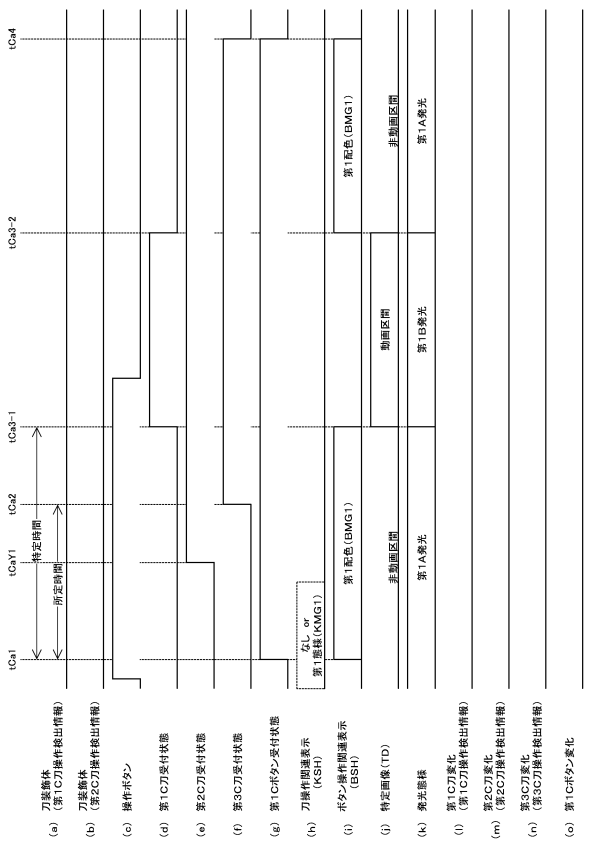
【図２３７】



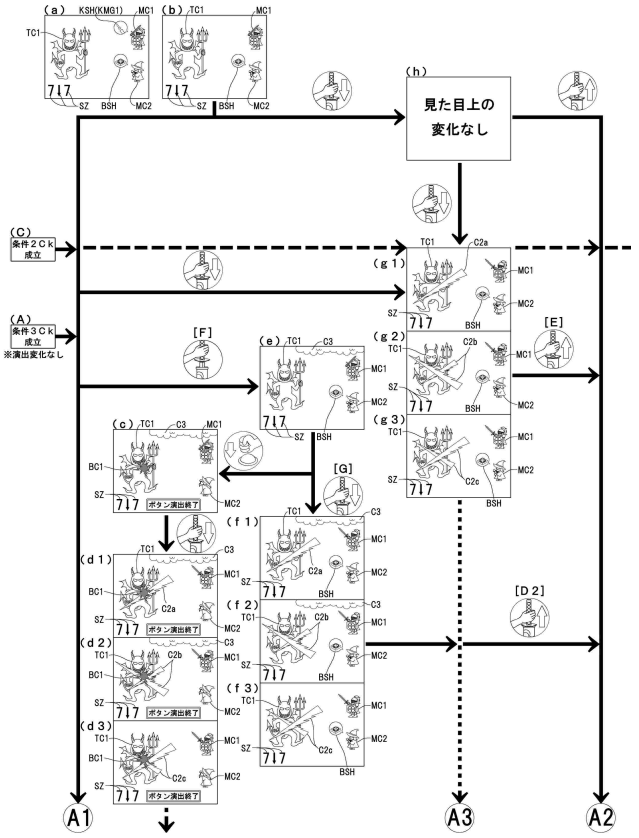
【図２３８】



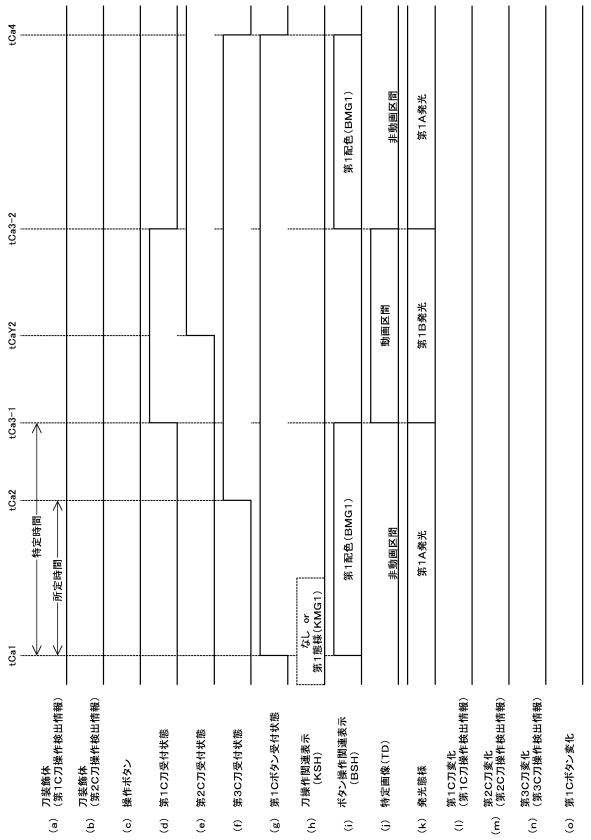
【図２３９】



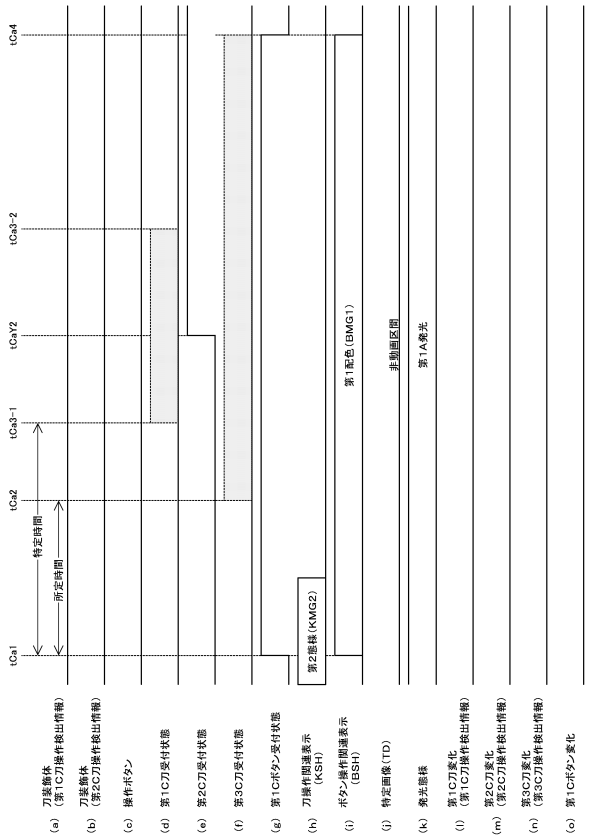
【図２４０】



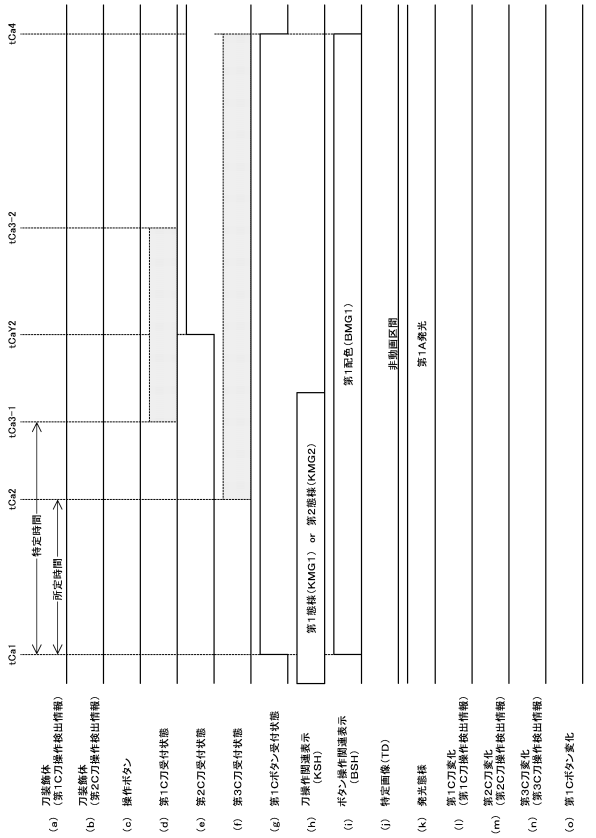
【図２４１】



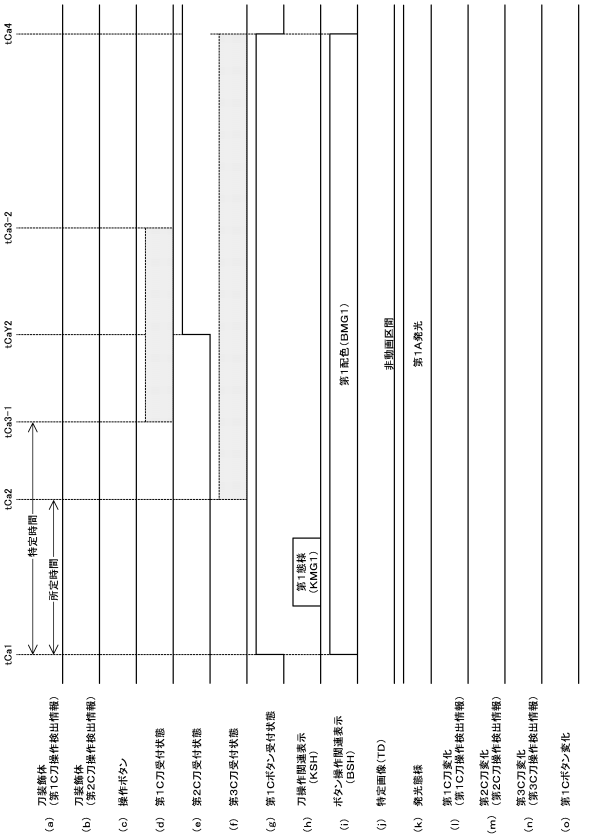
【図２４２】



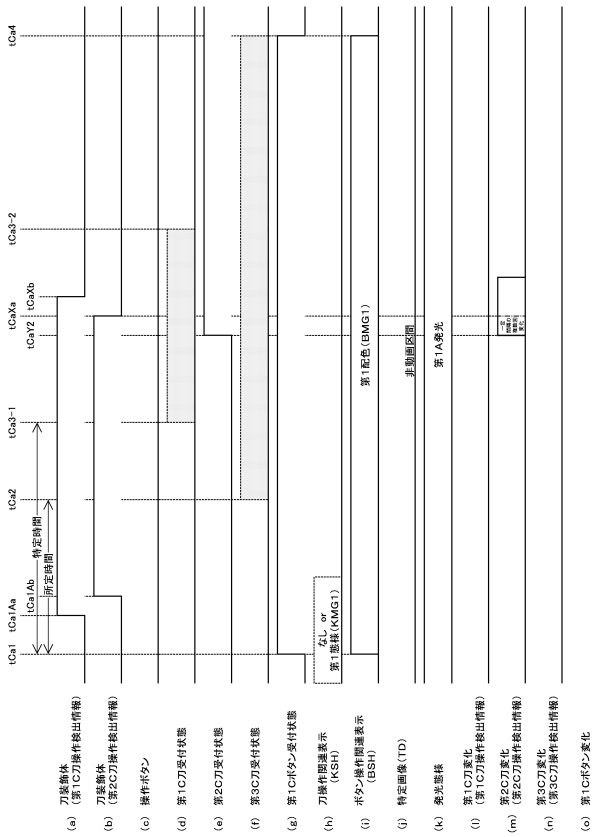
【図２４３】



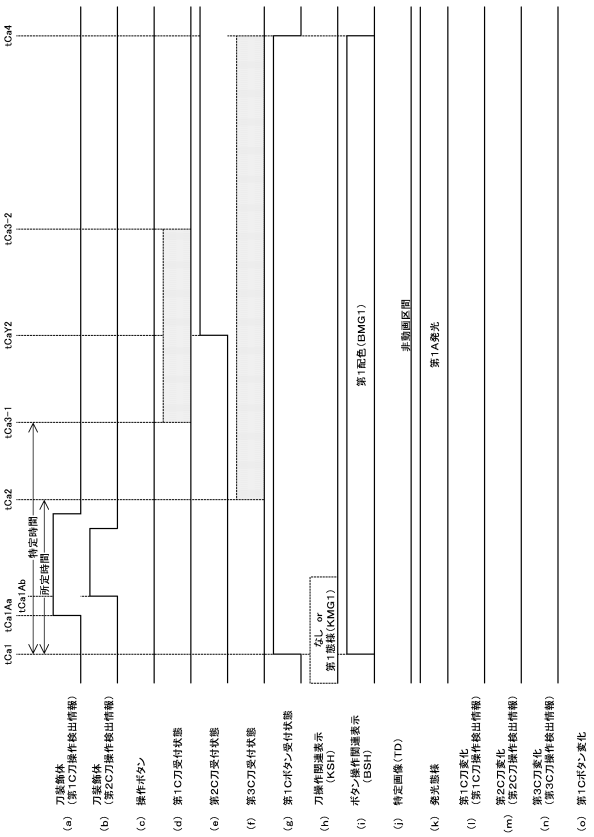
【図２４４】



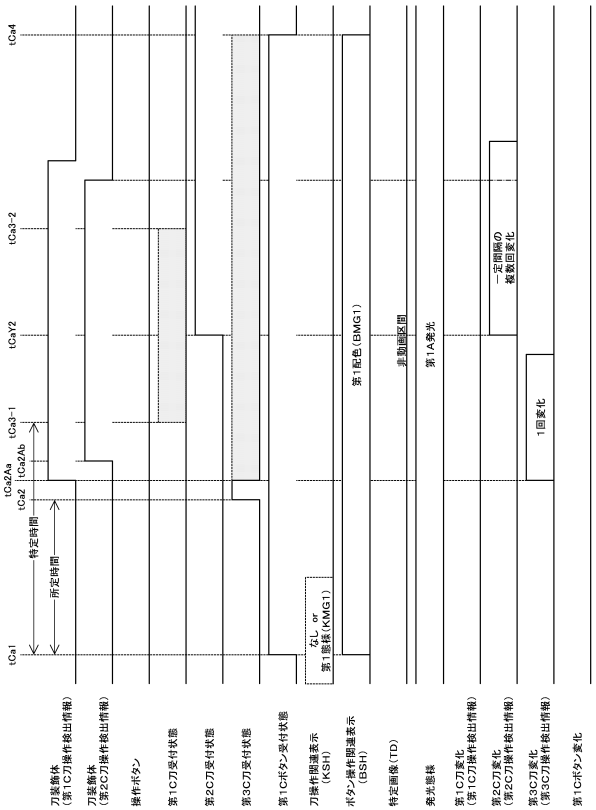
【図２４５】



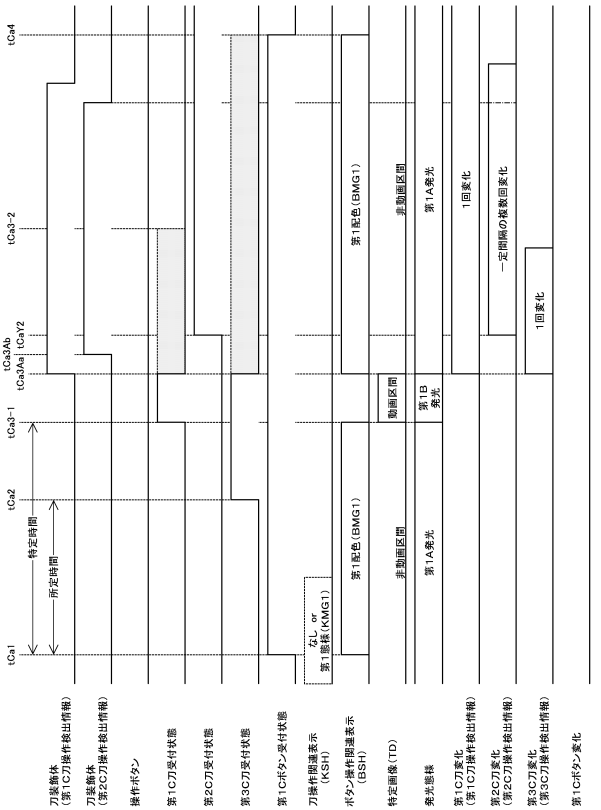
【図２４６】



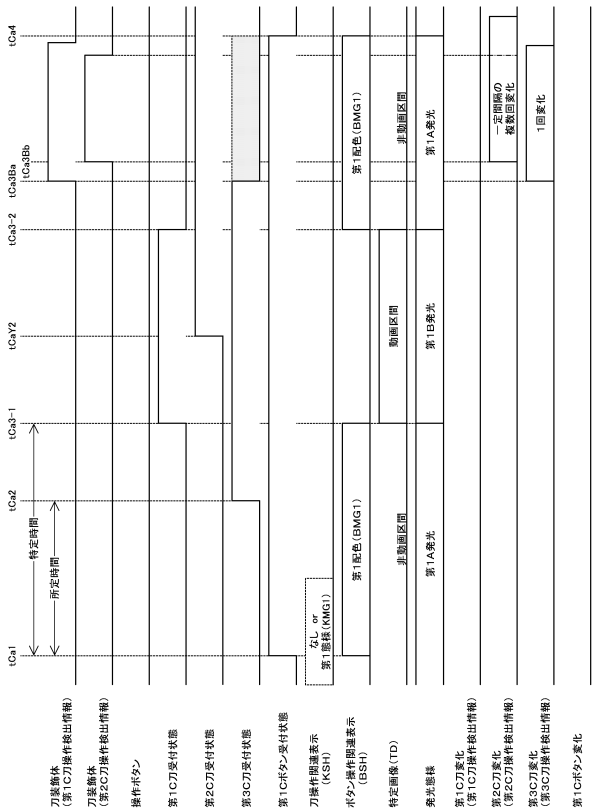
【図２４７】



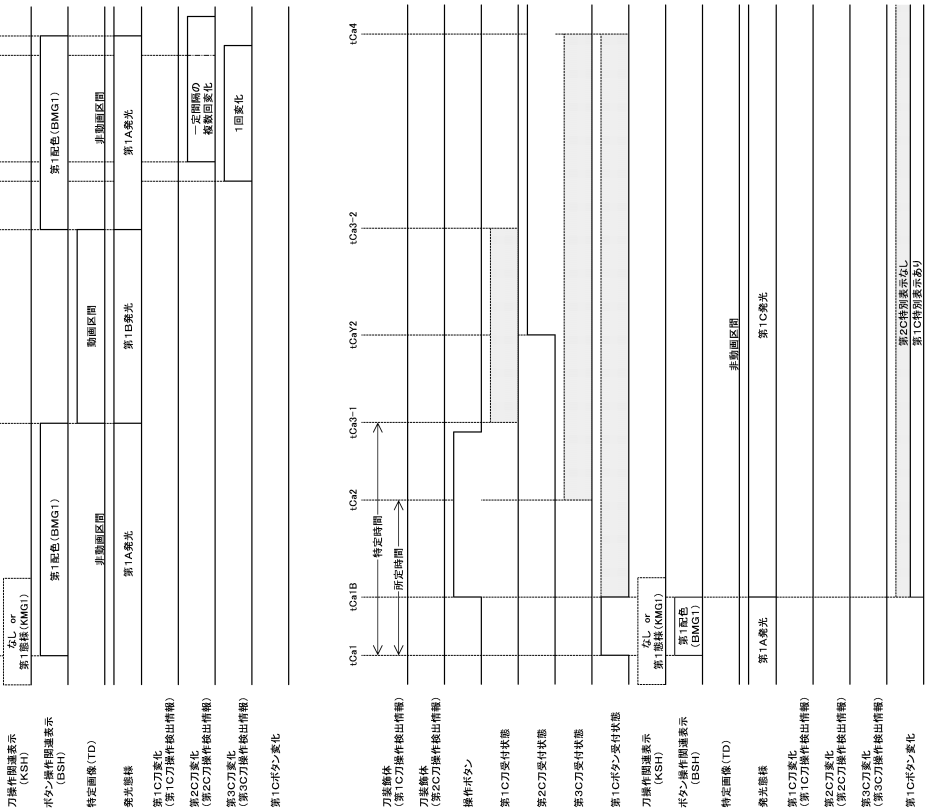
【図２４８】



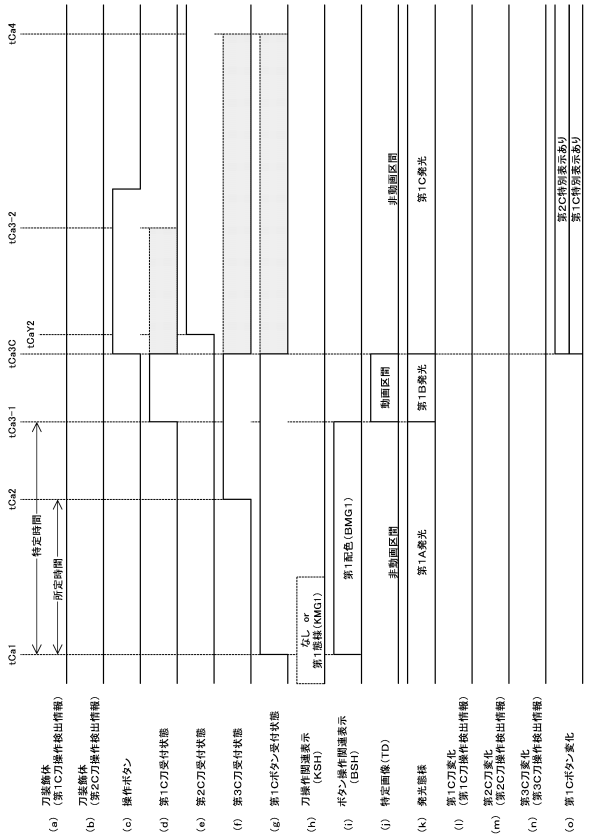
【図２４９】



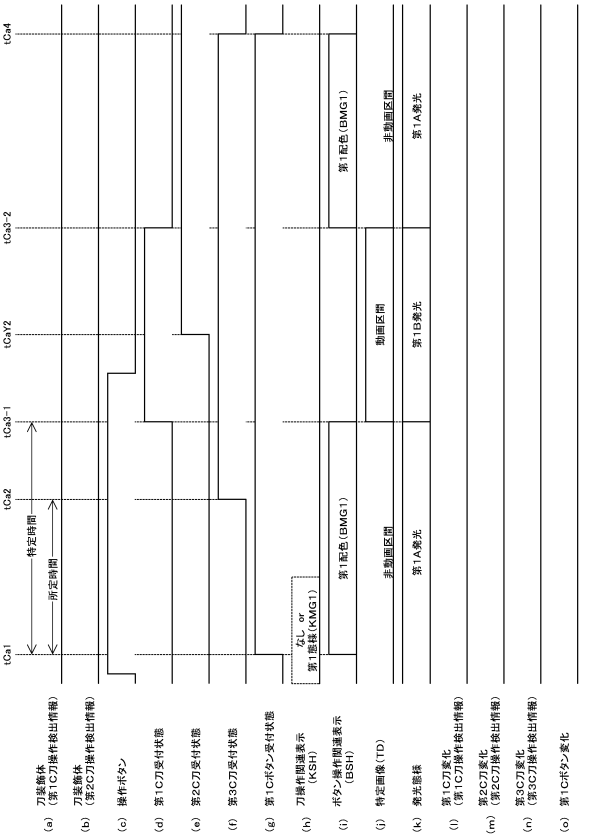
【図２５０】



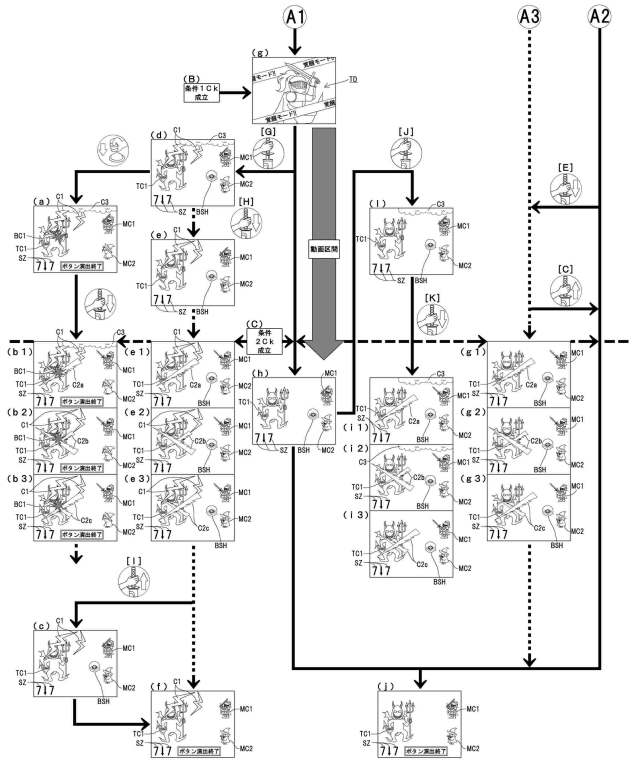
【図２５１】



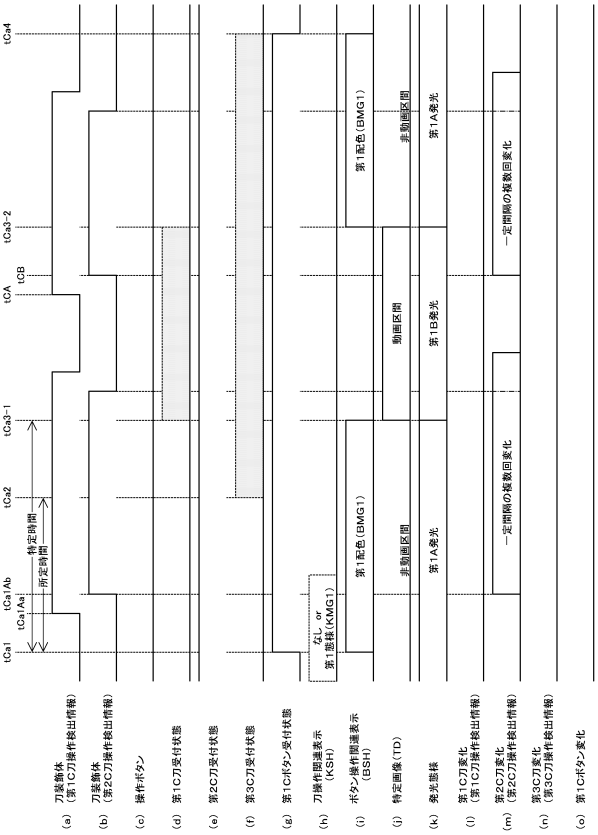
【図２５２】



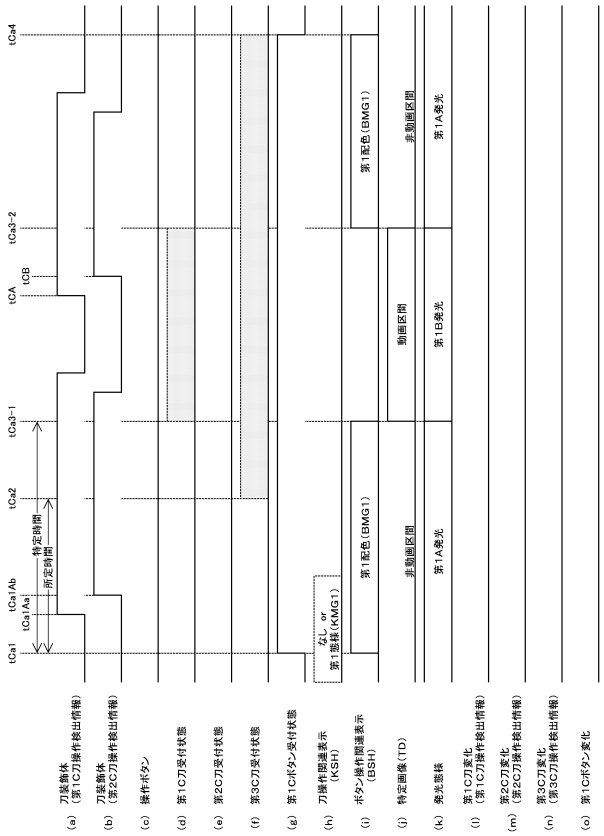
【図２５３】



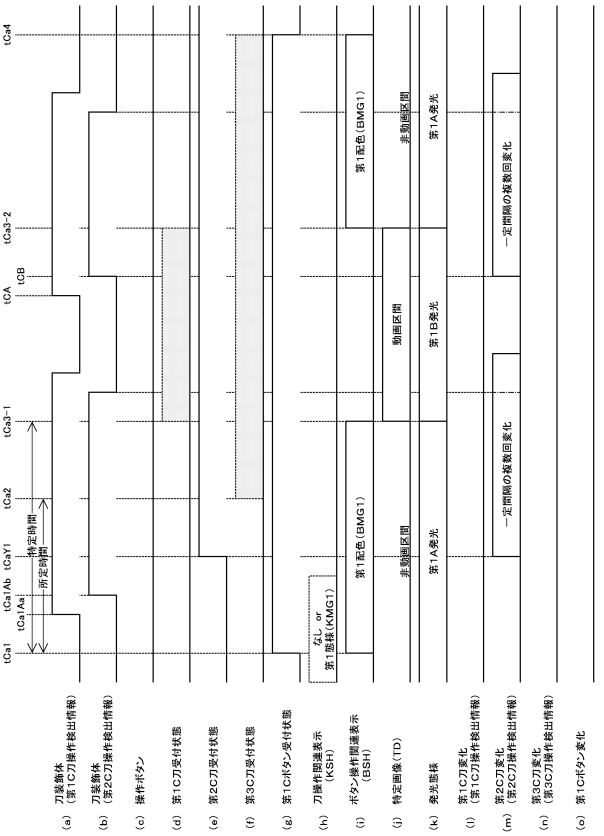
【図２５４】



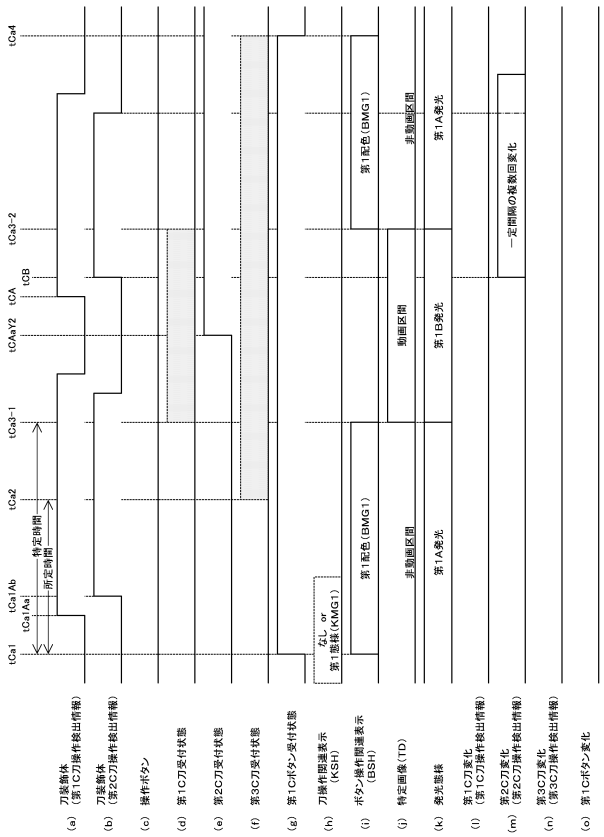
【図２５５】



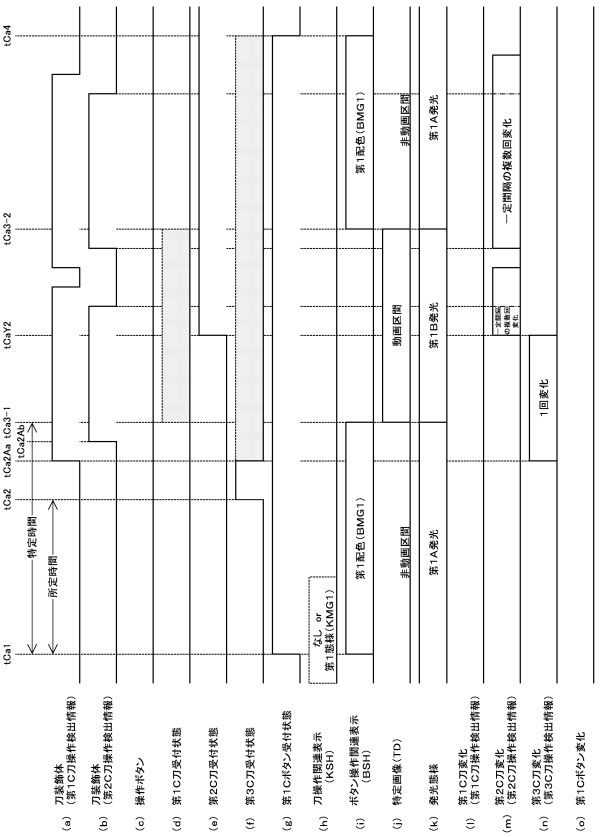
【図２５６】



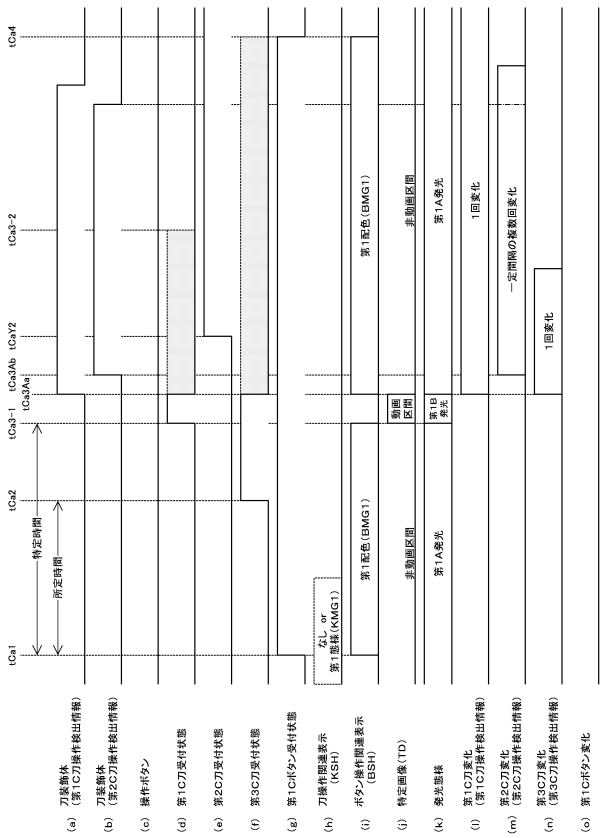
【図２５７】



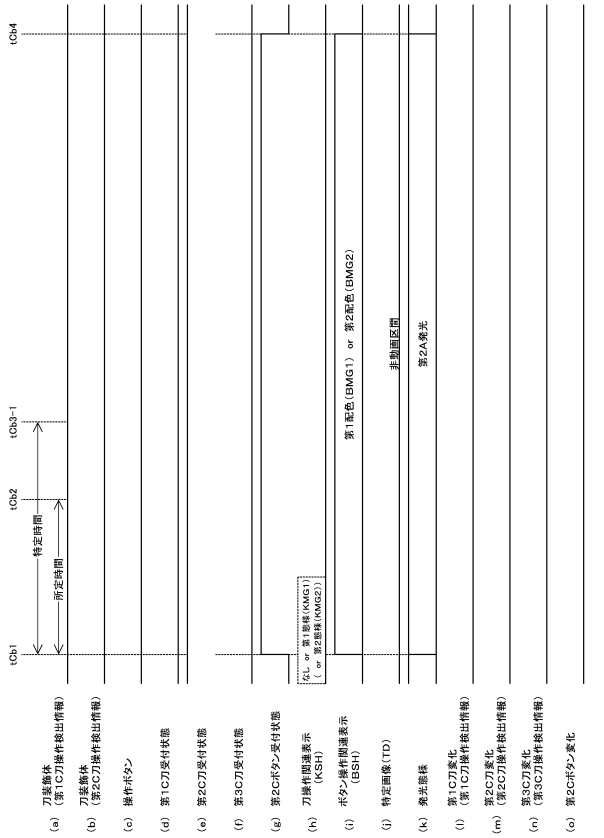
【図２５８】



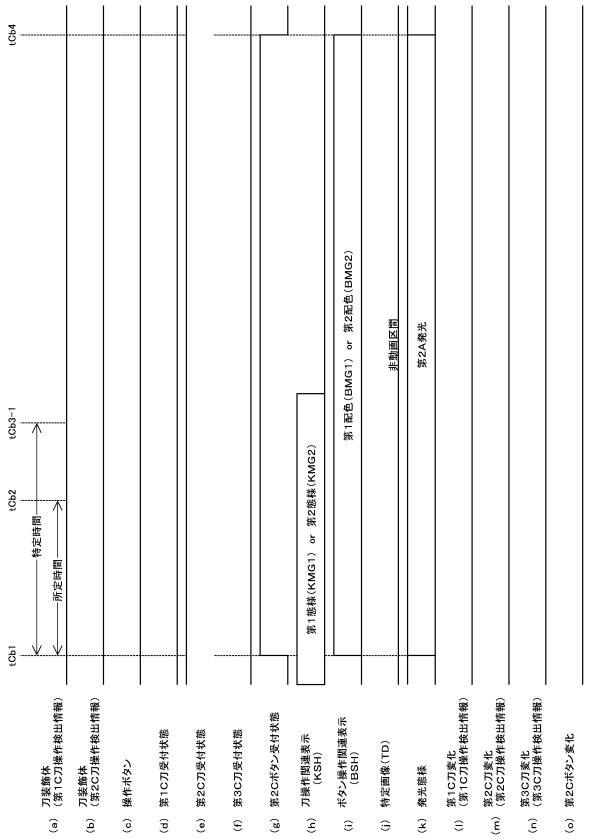
【図２５９】



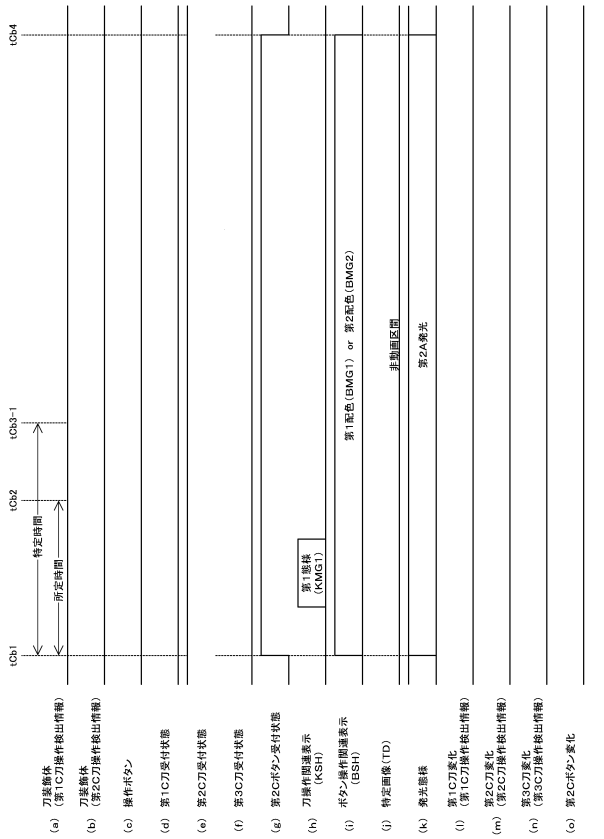
【図２６０】



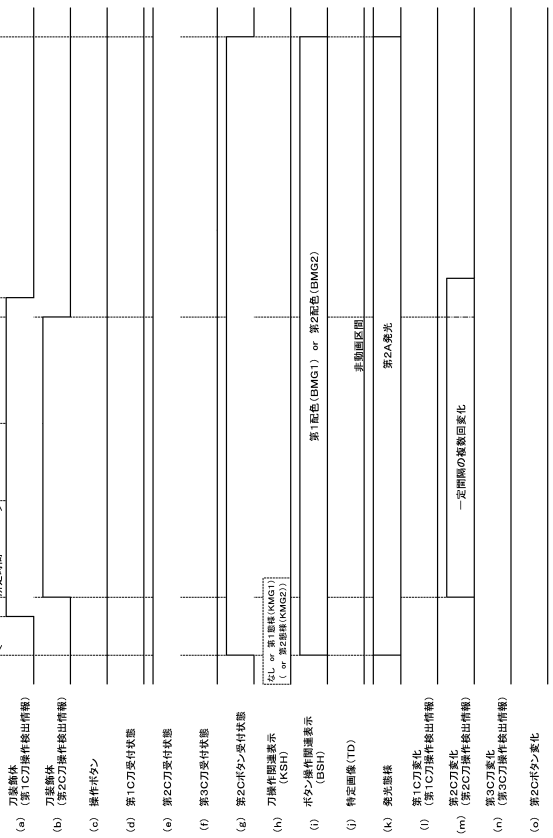
【図２６１】



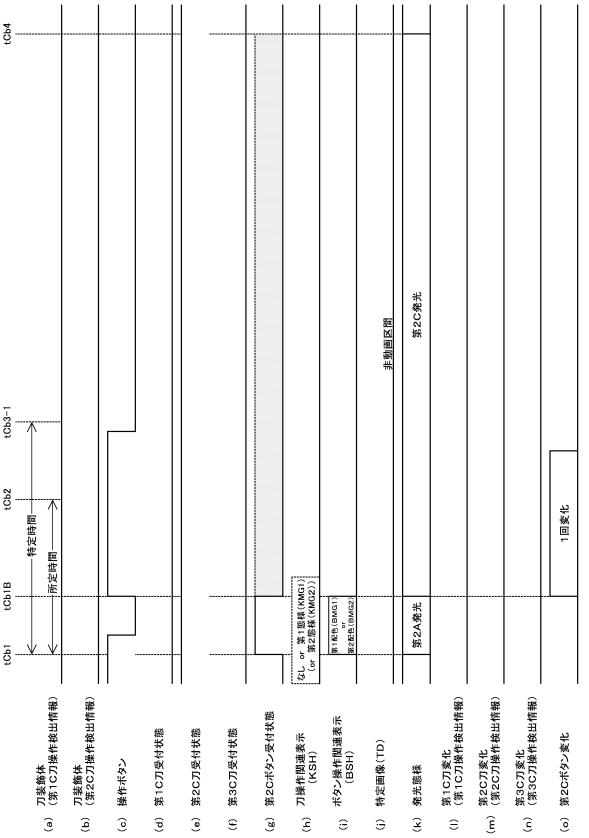
【図２６２】



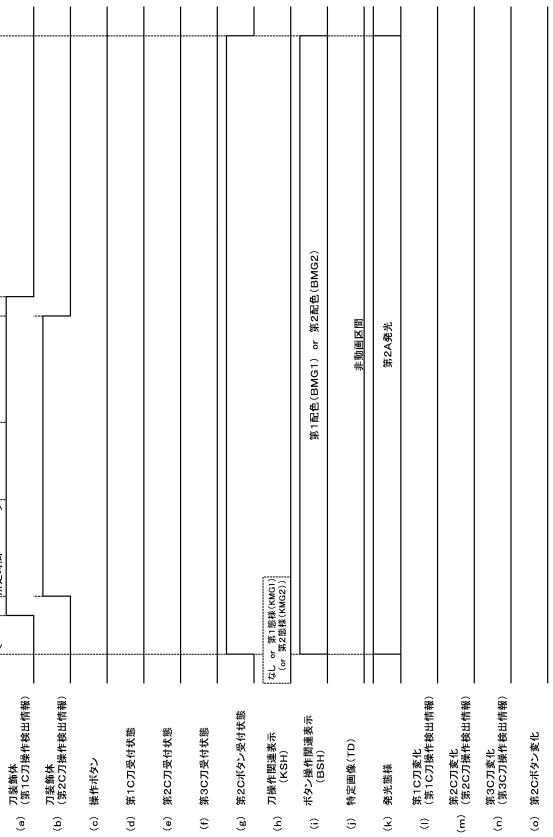
【図２６３】



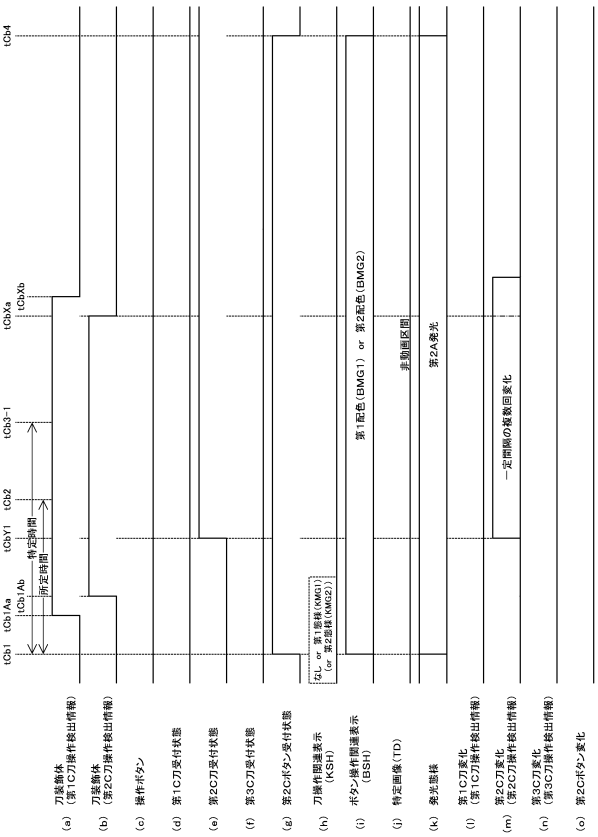
【図２６４】



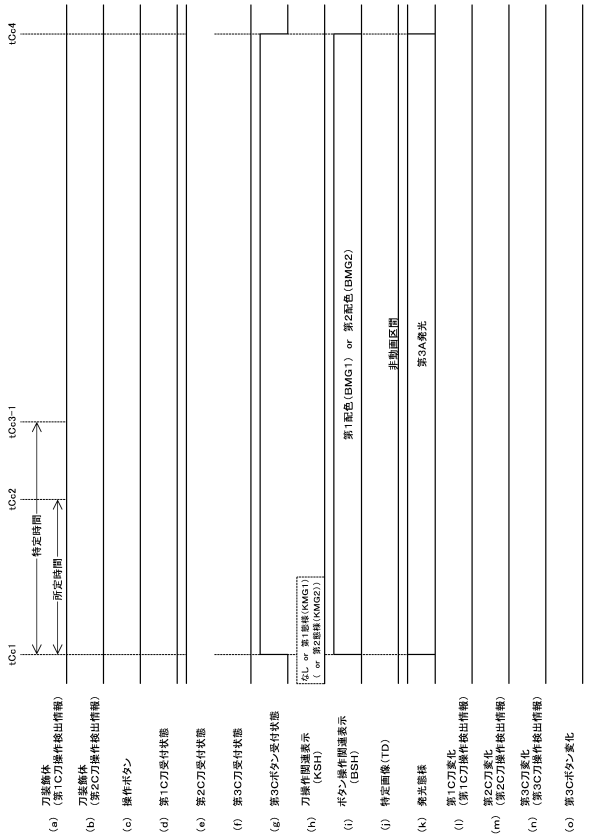
【図２６５】



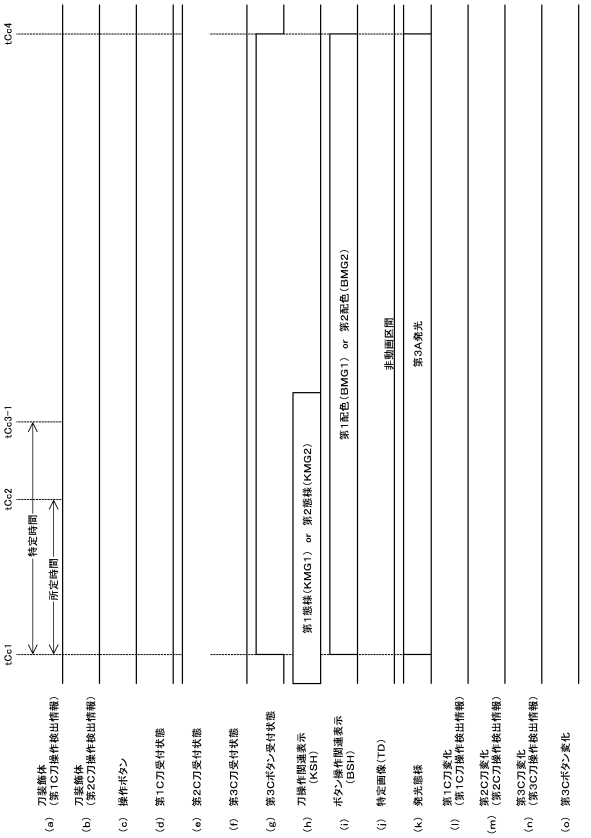
【図２６６】



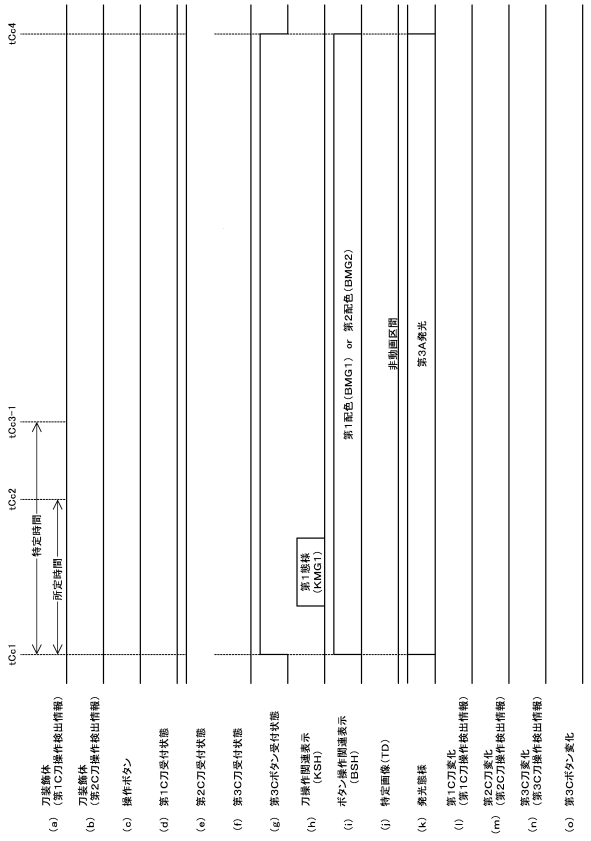
【図２６７】



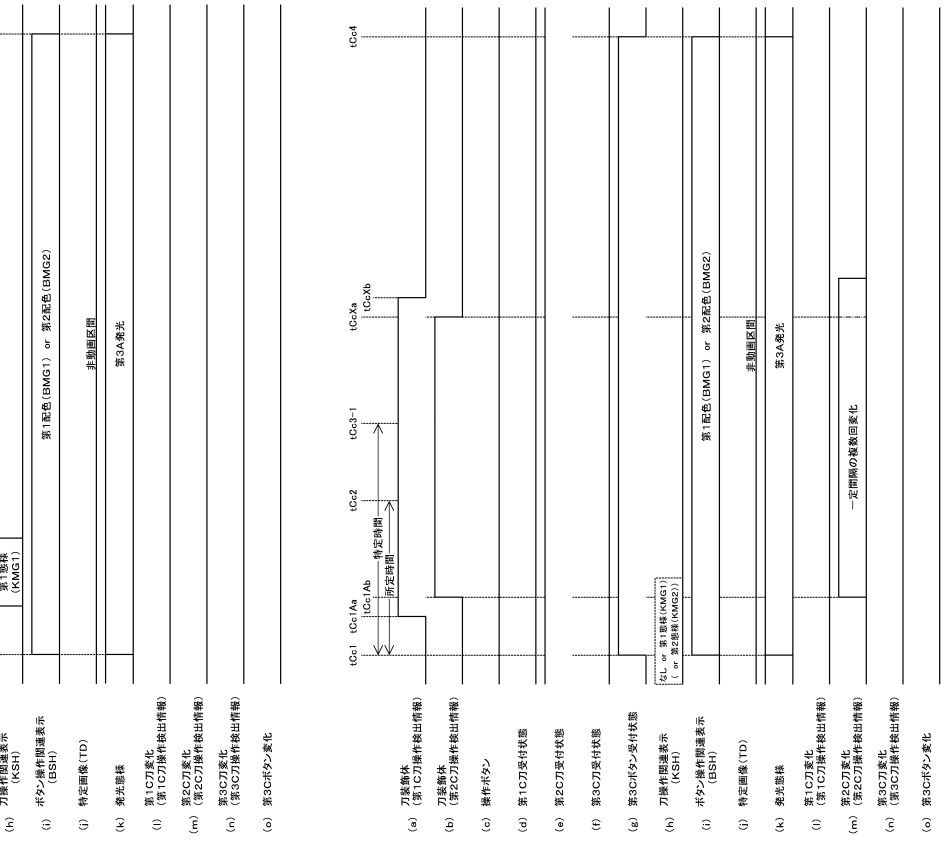
【図２６８】



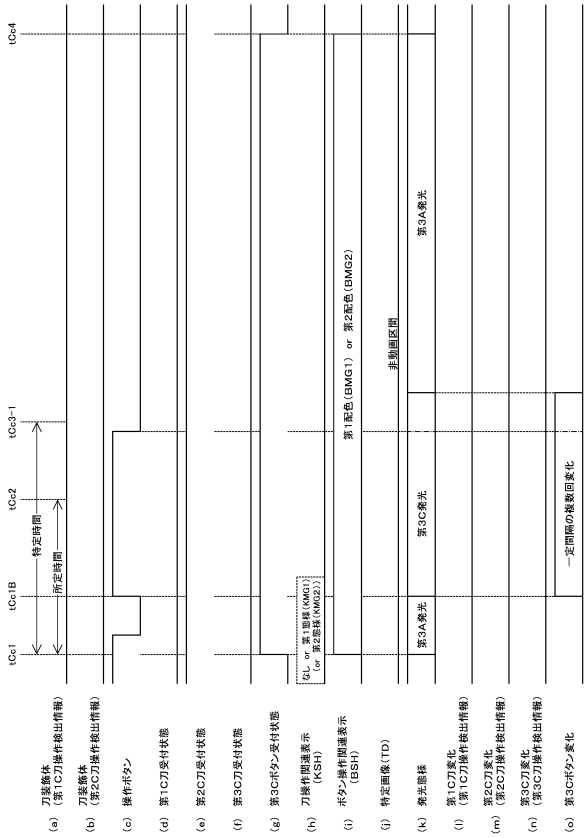
【図２６９】



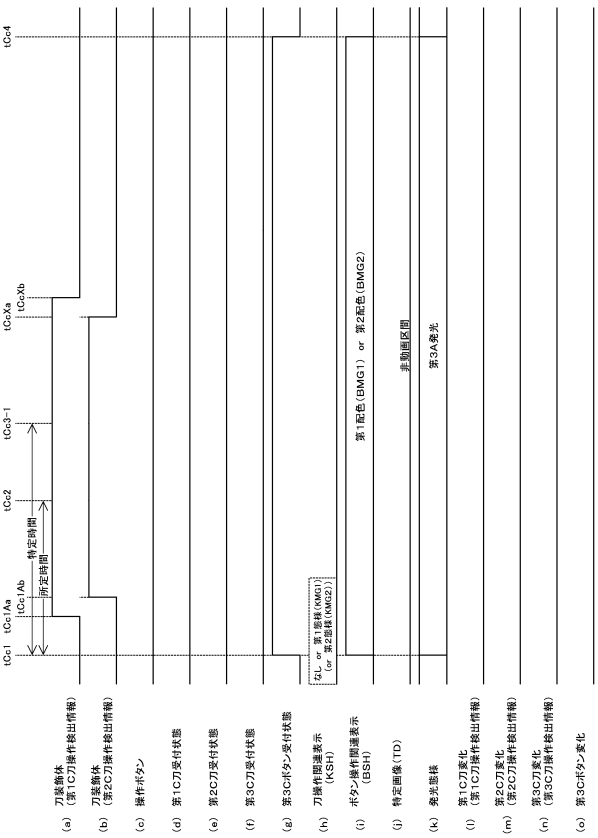
【図２７０】



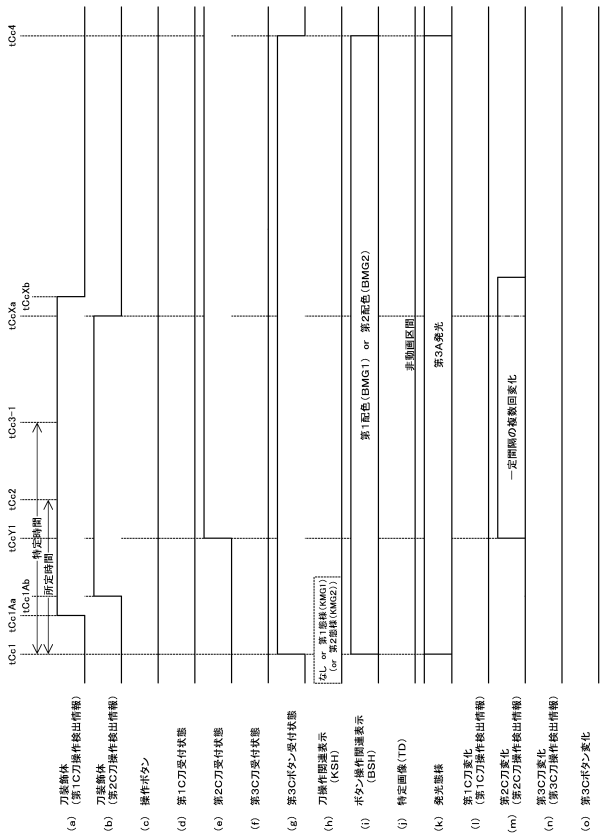
【図２７１】



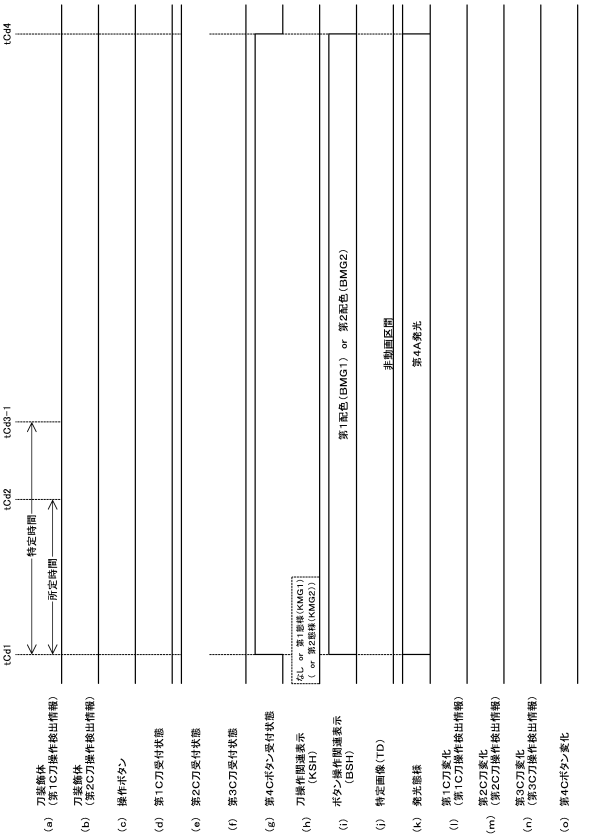
【図２７２】



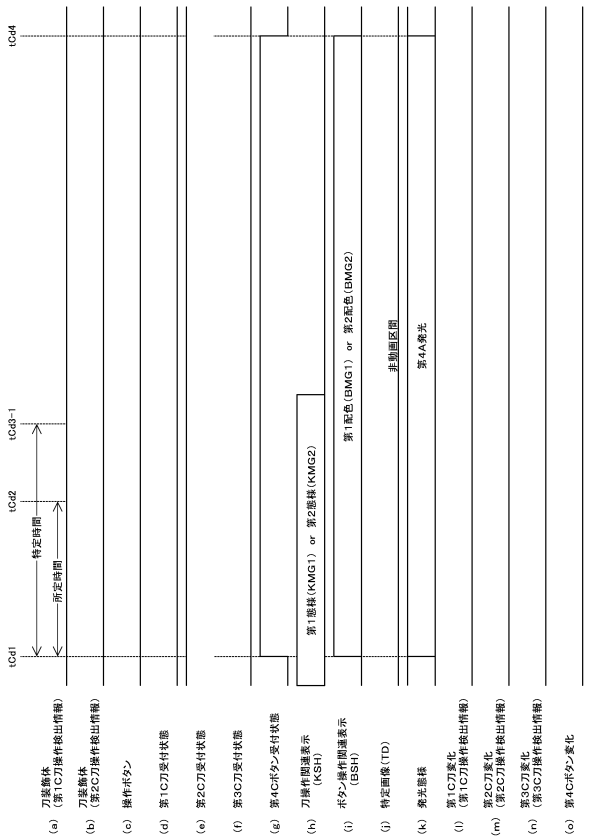
【図２７３】



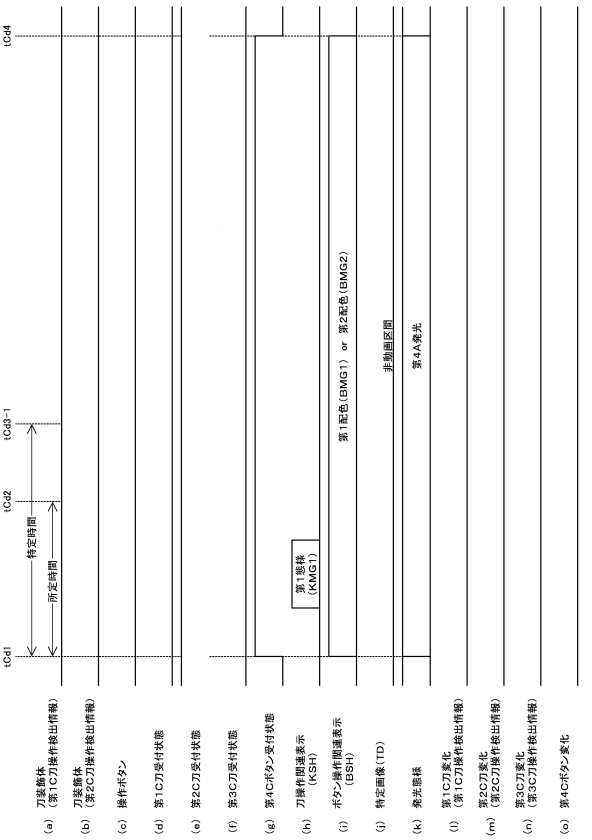
【図２７４】



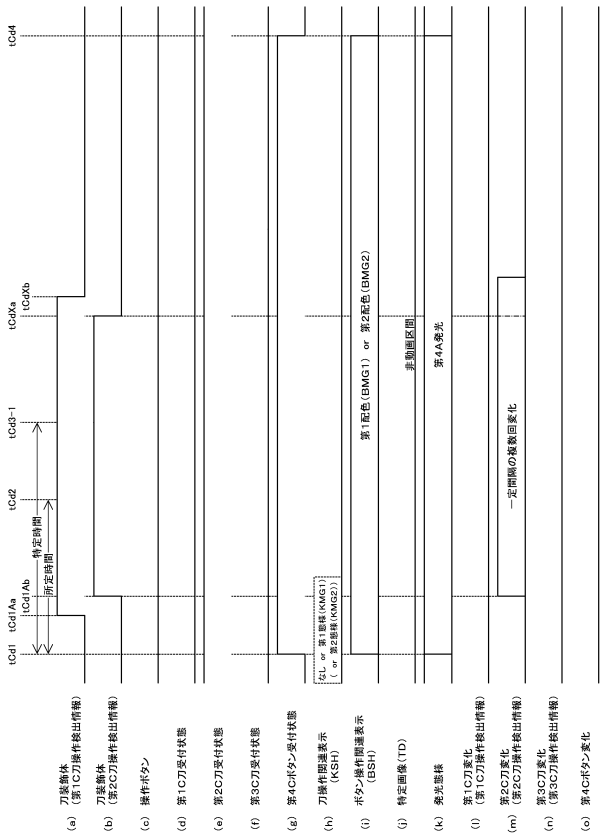
【図２７５】



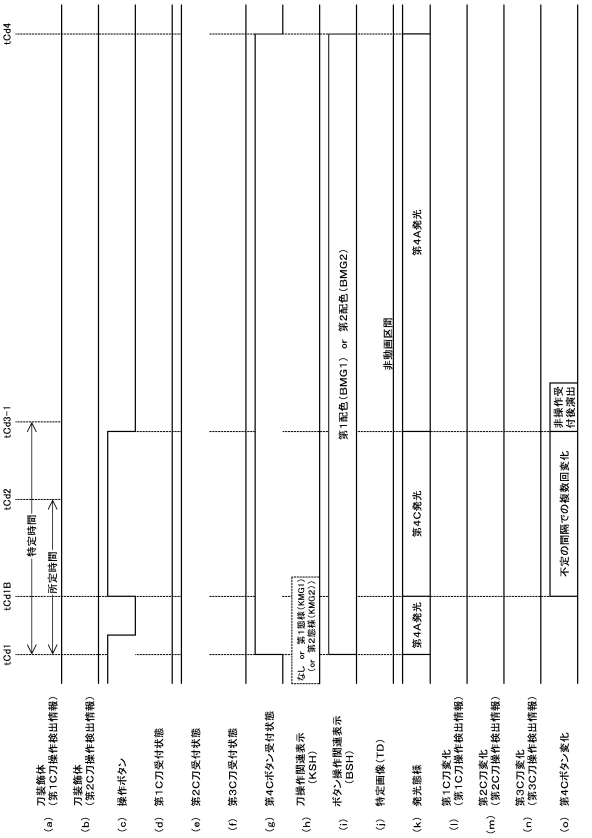
【図２７６】



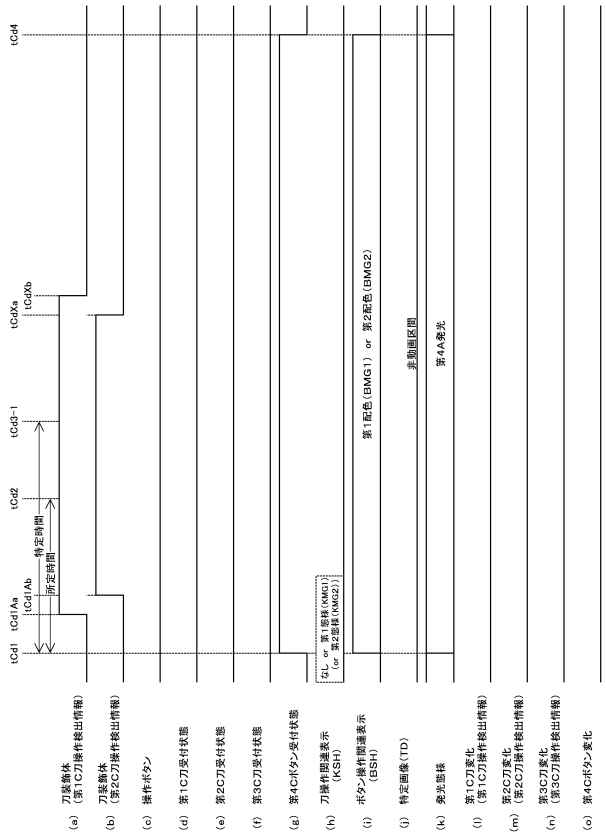
【図２７７】



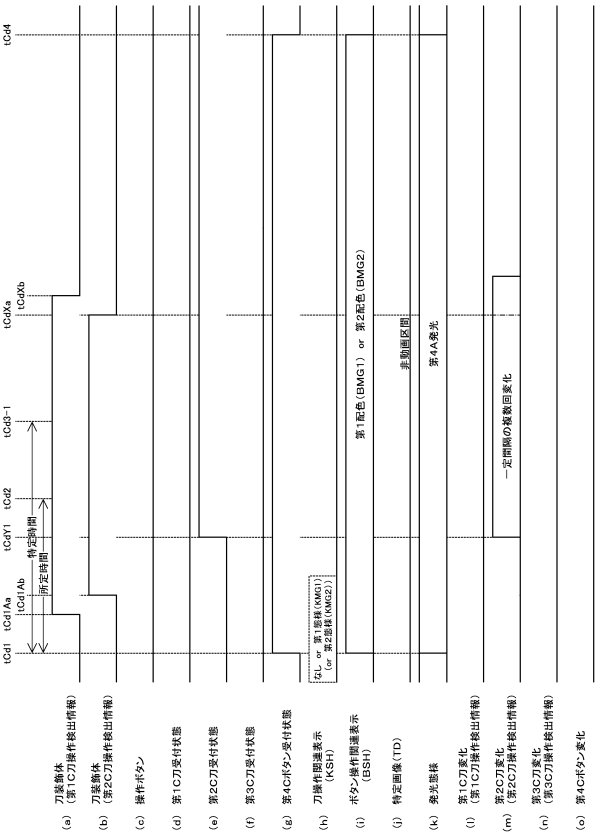
【図２７８】



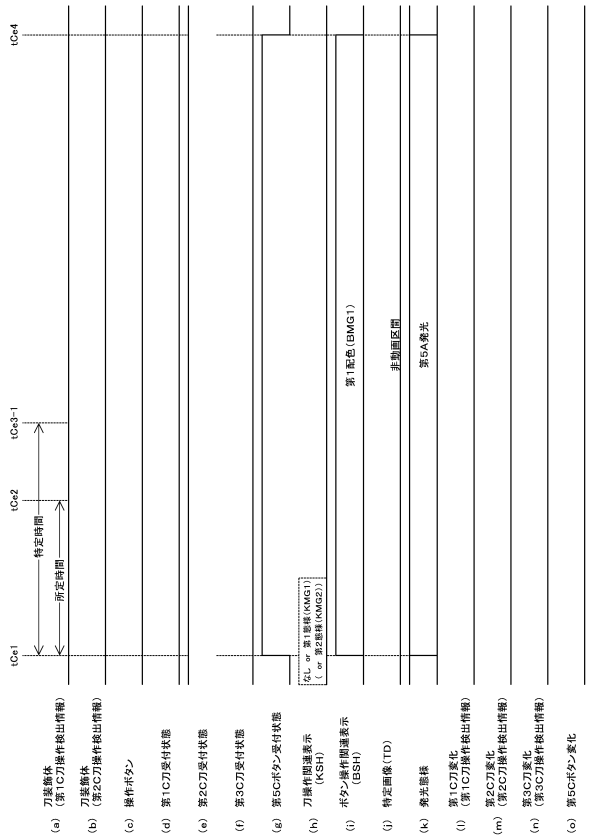
【図２７９】



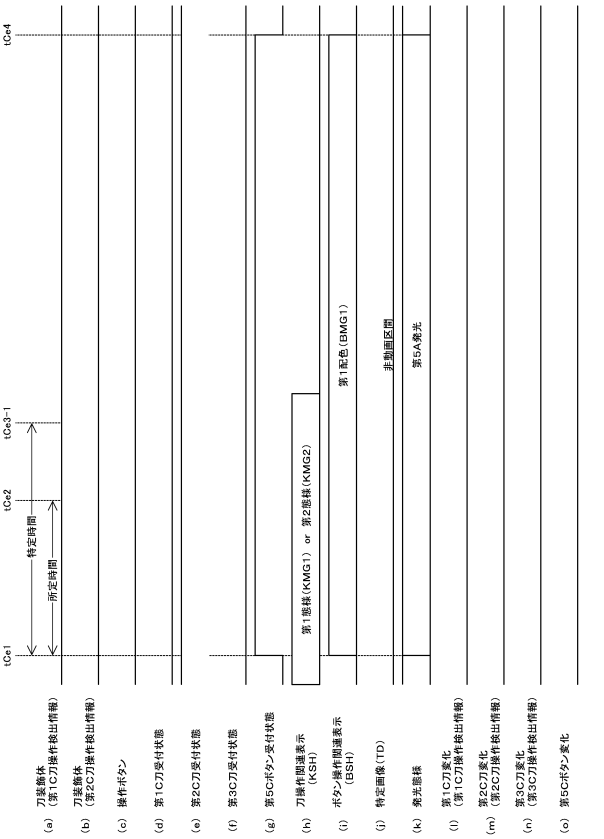
【図２８０】



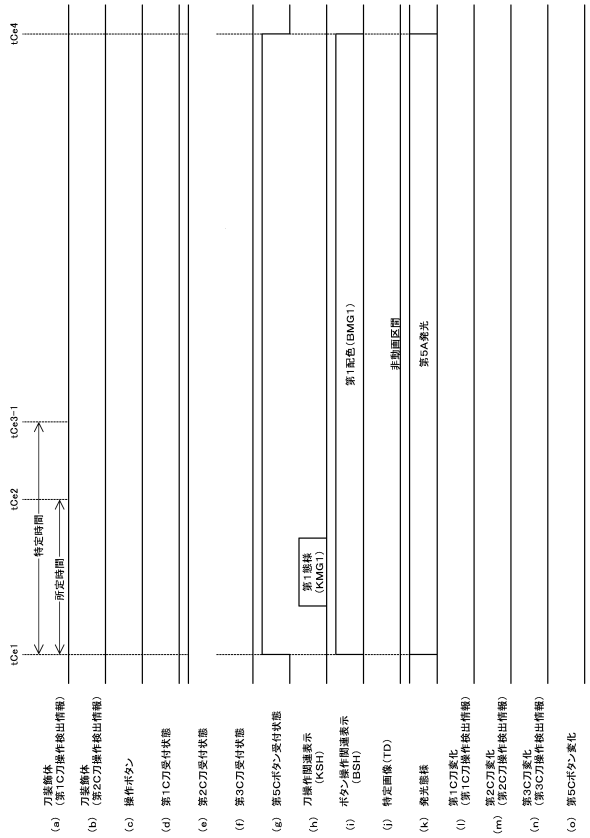
【図２８１】



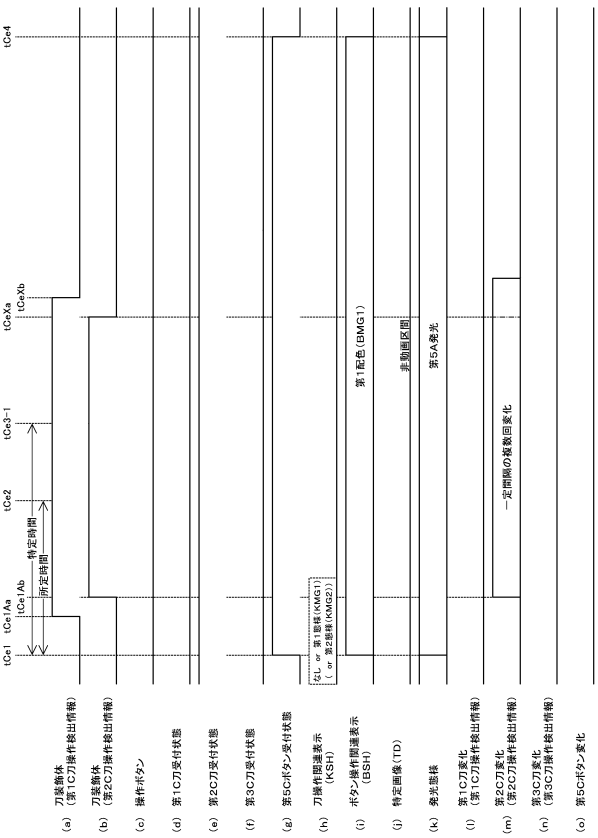
【図２８２】



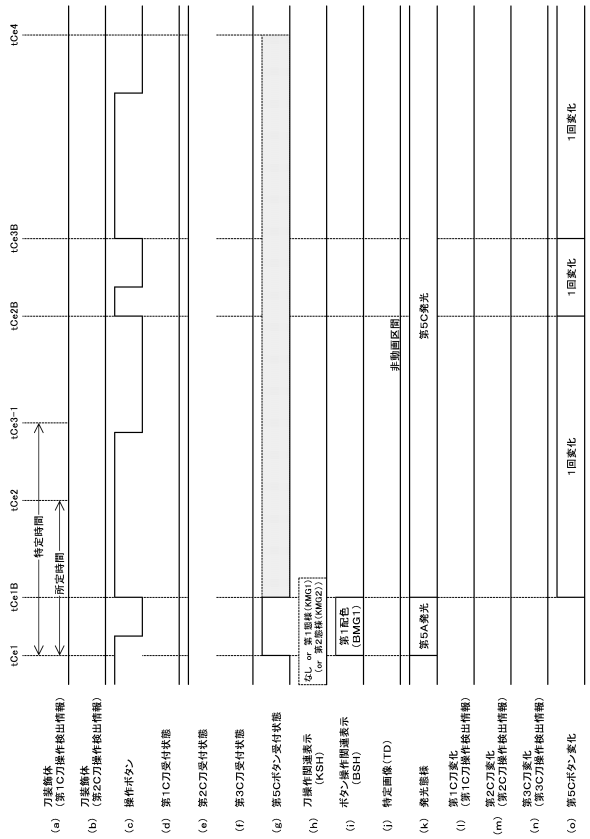
【図２８３】



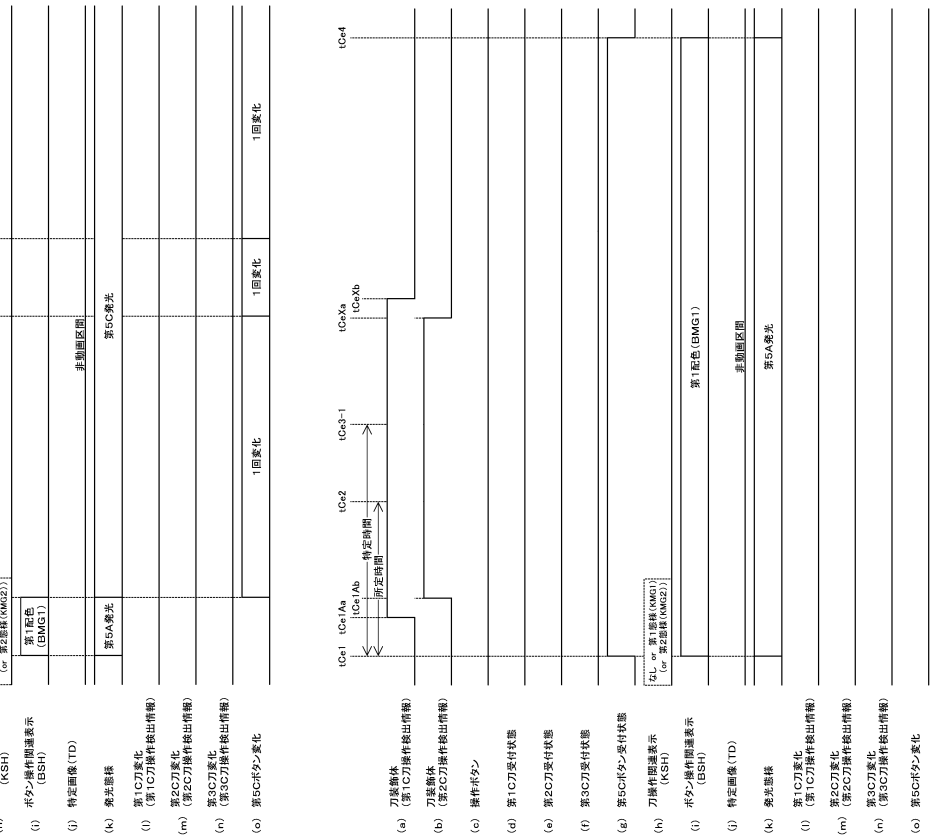
【図２８４】



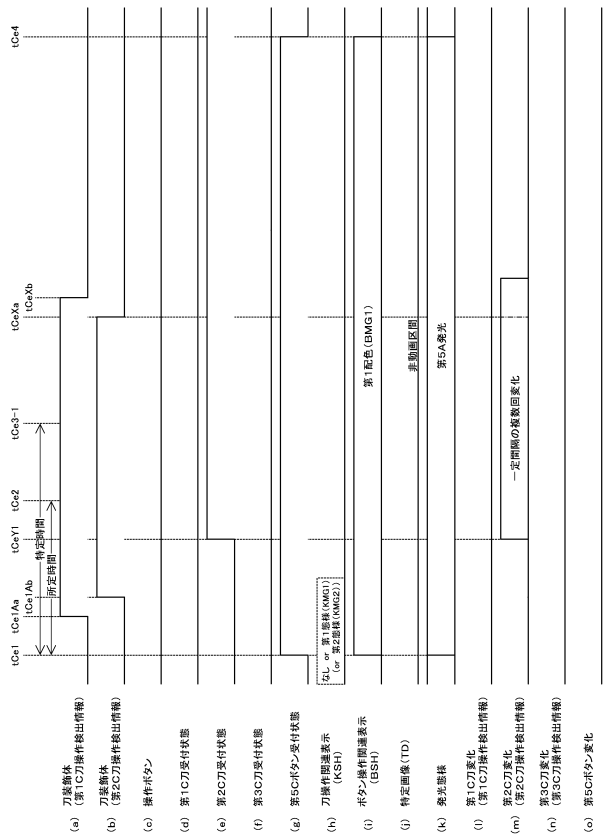
【図２８５】



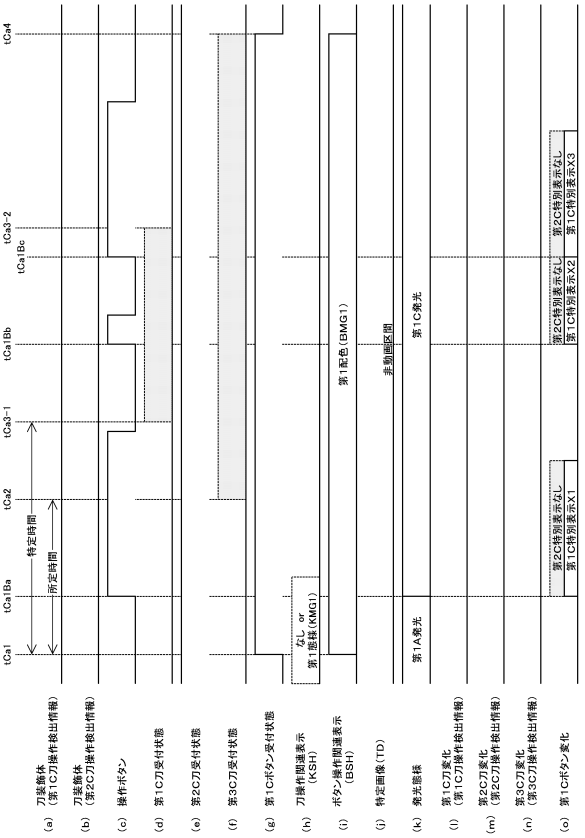
【図２８６】



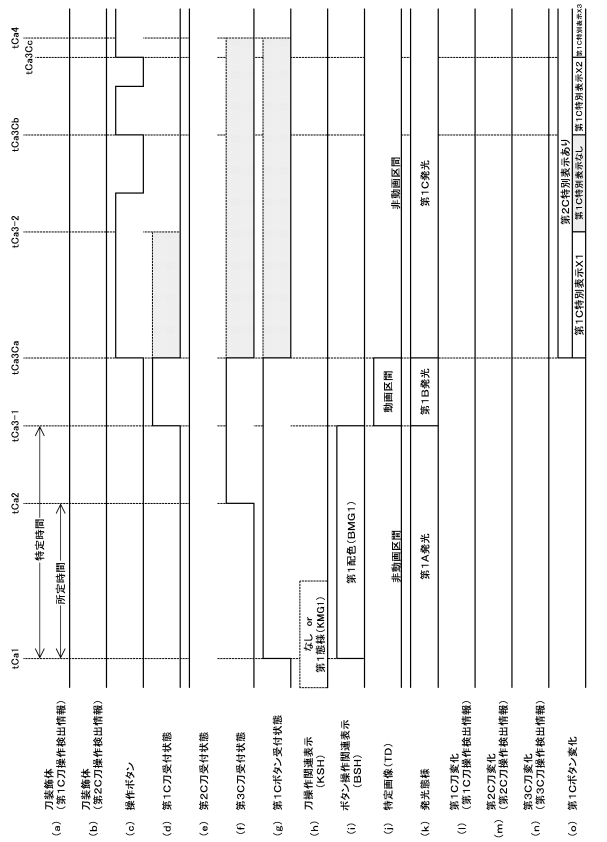
【図２８７】



【図２８８】



【図２８９】



【図２９０】

